

(助)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第143集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第15集

内匠上之宿遺跡

1 9 9 3

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日 本 道 路 公 団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第143集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第15集

内匠上之宿遺跡

1 9 9 3

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日 本 道 路 公 団



遺跡上空から南(国峯城方面)をのぞむ



遺跡遠景（北上空から）



4号住居跡遺物出土状況（南から）



内匠城遠景（北から）



4・5・6号掘立柱建物（東から）



228号土坑出土土偶



同左 (右)



6号住出土深鉢



11号溝出土注口土器



14号住出土須惠环



内区城外掘出土木製椀 (表)



同左 (裏)

序

上信越自動車道（藤岡市―佐久市間）も平成5年3月の開通が決定されました。それにともない沿線市町村はもとより一般の県民の高速道に対する期待も高まっております。

ここ内匠遺跡のあります富岡インターチェンジもほぼ完成致しました。ご承知のとおりインターチェンジは膨大な面積があり、昭和61年度当初より埋蔵文化財の発掘調査がはじまりましたが、終了するのに5年という長い歳月を要しました。

高瀬丘陵と呼ばれていますこの地はもともと古墳、内匠城といった多くの文化財の存在するところではありますが、この5年間の調査で旧石器時代から江戸時代にわたる多数の遺構が発見されました。

今回報告いたします「内匠上之宿遺跡」はインターチェンジの東部にあたります。本遺跡でも長い期間にわたる数々の遺構が調査されましたが、特に中世の城跡であります内匠城の調査、また、縄文時代の豊富な遺物の出土はこの地域の特色を知る上で貴重な調査でありました。

地形的にもたいへんな場所であり、担当者や作業員の方々の苦勞もさぞかしであったことと思います。その意味からも本報告書の刊行は感慨深いものがあります。

本報告書が県民各位・研究者・各教育機関等で広く活用され、この地域の歴史の解明の一助となることができれば幸いに存じます。

また、発掘調査・整理事業を行うにあたり、日本道路公団・群馬県教育委員会・富岡市教育委員会をはじめ多くの方々からいただきました御指導、御鞭撻に対しまして厚く御礼申しあげます。

平成4年11月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之

例 言

- 1 本書は関越道自動車道（上越線）建設工事に伴い事前調査された「^{たくみうえのしゆく}内匠上之宿 遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査地の所在地は以下のとおりである。
群馬県富岡市内匠1198番地他
- 3 本発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。
- 4 実際の発掘調査にあたっては、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団内に上越線地域埋蔵文化財調査を目的に設置された関越道上越線調査事務所（多野郡吉井町南陽台3-15-8所在）が担当した。
- 5 調査期間及び担当者

- | | | |
|----------|------------|---|
| (1) 発掘調査 | 調査期間 | 昭和62年2月16日～昭和63年3月5日 |
| | 調査担当者 | 津金澤吉茂 昭和61・62年度
(主任調査研究員、現県教育委員会文化財保護課専門員)
綿貫鋭次郎 昭和61年度(調査研究員、現高崎市立寺尾中学校教諭)
田口正美 昭和61・62年度(調査研究員、現高崎市立矢中小学校教諭)
新井 仁 昭和62年度(調査研究員) |
| (2) 整理 | 整理期間 | 平成3年4月1日～平成4年9月30日 |
| | 整理担当者 | 新井 仁 |
| (3) 事務 | 常務理事 | 白石保三郎(昭和61～63年度)、邊見長雄(平成元～4年度) |
| | 事務局長 | 井上唯雄(昭和61・62年度)、松本浩一(昭和63～平成3年度)
近藤 功(平成4年度) |
| | 管理部長 | 田口紀雄(昭和62～平成2年度)、佐藤 勉(平成3～4年度) |
| | 調査研究部長 | 上原啓巳(昭和61～63年度)、神保侑史(平成元～4年度) |
| | 関越道上越線事務所長 | 井上 信(昭和62・63年度)、高橋一夫(平成元・2年度)
阿部千明(平成3年4月～11月)
松本浩一(平成3年11月～4年3月 兼任)
吉田 肇(平成4年度) |
| | 総括次長 | 片桐光一(昭和62～平成元年度)、大澤友治(平成2・3年度) |
| | 次 長 | 原田恒弘(昭和62年度)、徳江 紀(昭和63～平成2年度) |
| | 調査課長 | 長谷部達雄(昭和61年度)、鬼形芳夫(昭和63～平成2年度)
依田治雄(平成3・4年度) |
| | 庶務課 | 係長代理 黒沢重樹(昭和62・63年度)、宮川初太郎(平成元・2年度) |
| | 主 任 | 国定 均(昭和63～平成元年度)
笠原秀樹(平成2～3年度)、吉田有光(平成4年度) |
| | 臨時職員 | 山崎郁夫、神戸市四郎、松井留男、町田康子、本城美樹、後閑玲子
田中智恵美、高田千恵、吉田登志子 |

6 報告書作成担当者

編集担当 新井 仁

本文執筆 依田治雄（I-1）、新井 仁（左記以外）

遺構写真 津金澤吉茂、田口正美、新井 仁

遺物写真 たつみ写真スタジオ（委託）

保存処理 関 邦一（（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団技師）

遺物観察 新井 仁

整理補助員 石井京子、高橋栄子、堤由美子、湯浅美枝子、山本ちえ子、横堀裕美子、渡部重子
温井久子、丸澤君枝

委託関係 航空写真は技研測量設計株式会社および国際航業株式会社に、遺構測量は技研測量設計株式会社に、遺物トレースは株式会社測研に、遺物写真はたつみ写真スタジオに委託し、石材鑑定は陣内圭一（元群馬県立自然科学資料館）に依頼した。

7 縄文土器の分類については、藤巻幸雄・山口逸弘・木村 収（（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団）に、石器については、桜井美枝（（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団）に、陶磁器については梶原 勝（たましん地域文化財団）の各位にそれぞれ御教示を得た。

8 出土遺物・図面は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターの収蔵庫に保管してある。

9 発掘調査および整理作業・報告書作成に当たり、以下の諸機関、諸氏から御教示、御指導いただいた。記して謝意を表する次第である。（敬称略）












富岡市教育委員会、柿沼恵介（尾島町立尾島小学校教頭）、村田修三（奈良女子大学）、山崎 一（元群馬県文化財保護審議会委員 故人）、若狭 徹（群馬町教育委員会）、鈴木徳雄（児玉町教育委員会）

10 発掘調査従事者

赤尾チエノ、赤尾由一、新井正子、飯塚喜与治、石井京子、石川千代、石川米吉、磯貝みさ江、市川はつみ、伊藤しちを、白田こう、大岡静枝、大岡弥生、岡野乙二、岡野てる、小川甲子、小川國雄、柿田順子、掛川 敦、柳沢義雄、桐渕サダ、黒沢きみ枝、古賀文江、小管弘子、小島良雄、小林和子、小林茂、小林たか、小林フミ江、斎藤昇三、斎藤隆男、斎藤つる、斎藤俊夫、斎藤リン、坂本豊吉、佐藤節子、佐藤信平、佐藤ふじ江、沢田八蔵、柴崎文八、柴山静弥、神保京子、須賀茂平治、白石かね子、高田秀介、高田房雄、高橋仁太郎、高橋敏子、高橋ツナ、高橋政雄、田島一布、田中喜代美、鶴田多恵子、中村明子、中村朝子、中村静子、中村とも子、中村ひで、中村福治、永峰うめ子、葦塚 峯、畑村きよ子、林 通清、原田 茂、広木正幸、細野やすの、本多サイ、真下伍男、松井松次、三田玉江、三田とめ、三田とり、三ッ木國雄、宮下君枝、宮下保次、茂木はるえ、森千代子、安河内恵子、柳沢一寿、柳沢昭一、山口 清、山田晋三郎、山田春一、山田福一、横山子之吉、吉田美津子、渡辺文江

上記の他、富岡市を中心として、多くの方々の協力を得た。

凡 例

- 1 本書の遺構番号は、基本的に発掘調査時に付したものをそのまま使用している。
また、調査時の遺構名称が適当でないものについては欠番とした。
- 2 本書の遺構・遺物挿図の縮尺率は原則として以下のとおりとしたが、統一できないものも多いためスケールを参照されたい。なお、遺物実測図中1/3以外は遺物番号横に縮尺率を示した。
遺構 竪穴住居・掘立柱建物・土坑・竪穴遺構・配石遺構・井戸 1/60
 竪穴住居炉・カマド・埋設土器 1/30
遺物 坏等の小型土器・縄文土器破片・小型石器 1/3 甕等の大型土器・大型石器 1/4
 鉄器 1/2 石鏃・銅銭 1/1
- 3 遺構図中の方位記号は国家座標の北を表す。
- 4 竪穴住居の面積は上端面積、床面積はカマドを除いた下端面積であり、他の遺構は上端面積である。
計測にはプランメーターを用い、3回計測してその平均を面積とした。
- 5 主軸方位は、カマド・炉を持つ住居の場合、カマドのある壁・炉の寄っている壁に直角の方向とし、他の遺構の場合は長軸の方向で北から東西90°以内を主軸とした。
- 6 土器実測図中、残存量が二分の一以下の遺物は180°展開して図上復元した。この場合、実測線を中心線から離している。また土器断面図中の実線は輪積痕を、点線はそれ以外の欠損を表す。
- 7 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。
 - ・出土位置は、住居内の平面位置若しくはグリッドを表し、数字は床面からの高さを表す。
 - ・計測値の()は推定値を、[]は現存値を示す。
 - ・土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色監修『新版標準土色帖 1988年版』に基づいている。
 - ・胎土表記中の砂粒と礫は、径2mm以上を礫、2mm未満を砂粒とした。
- 8 遺構図、遺物実測図、遺物観察表、写真図版の遺物番号は基本的に一致する。
- 9 遺構図中の断面基準線は標高で表し、単位はmを用いた。
- 10 遺構及び遺物図中のスクリーンパターンおよびシンボルマークは下記のことを表す。
遺構 遺構下  焼土  炭化物・灰  粘土 
遺物 須恵器断面  土師質土器断面  陶器釉部分  煤・油煙 
 黒色処理  石器使用面  石器敲打面 
 縄文土器 ● 弥生甕 ■ 弥生壺 ▲ 弥生高坏 ○ 土師器甕 ■ 土師器坏・高坏 ○
 須恵器 ▲ 軟質陶器 ■ 土師質土器 ▲ 陶磁器 ○ 石器 △ 金属製品 □
- 11 周辺遺跡図に使用した地図は、国土地理院発行50,000分の1地形図の「富岡」である。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	

第 I 章 発掘調査の実施と経過

第 1 節 調査に至る経緯と調査の経過	3
第 2 節 調査の方法	6
第 3 節 基本土層	7

第 II 章 遺跡をとりまく環境

第 1 節 地理的環境	8
第 2 節 歴史的環境	11

第 III 章 検出された遺構と出土遺物

第 1 節 縄文時代	18
(1) 遺構・遺物の概要	18
(2) 竪穴住居跡	30
(3) 土 坑	65
(4) 埋 設 土 器	163
(5) 配石遺構他	172
(6) 谷津状遺構	181
(7) 遺構外出土遺物他	261
第 2 節 弥生時代	338
(1) 遺構・遺物の概要	339
(2) 竪穴住居跡	340
(3) 遺構外出土遺物	351
第 3 節 古墳時代	355
(1) 遺構・遺物の概要	356
(2) 竪穴住居跡	358
(3) 土坑・ピット	415
(4) 遺構外出土遺物	417

第4節 中 世	419
(1) 遺構・遺物の概要	420
(2) 内 匠 城	422
(3) 中世整地面	439
(4) 溝 状 遺 構	462
(5) 掘立柱建物	462
(6) 井 戸	467
(7) 土坑・ピット	483
(8) 遺構外出土遺物	485
第5節 近世以降	493
(1) 溝 状 遺 構	493
(2) 土 坑	496
(3) 配石遺構	504
(4) 耕 作 溝	506
(5) 遺構外出土遺物	506

第IV章 調査の成果と問題点

第1節 縄文時代～中世の遺構・遺物について	511
第2節 内匠城について	523
報告書抄録	526

写真図版

挿 図 目 次

第 1 図	遺跡位置およびグリッド配置図	5	第 60 図	113～115・117～121号土坑	86
第 2 図	旧石器トレンチ位置図	6	第 61 図	122～126・131・132・153号土坑	87
第 3 図	基本土層図	7	第 62 図	133～139・141号土坑	88
第 4 図	遺跡周辺地形区分図	8	第 63 図	144・145・148～151号土坑	89
第 5 図	遺跡周辺の地形図	9	第 64 図	158・162～165・167号土坑	90
第 6 図	周辺の主要遺跡	13	第 65 図	168・169・173・177・178号土坑	91
第 7 図	縄文時代遺構位置図	17	第 66 図	179・181～184号土坑	92
第 8 図	縄文時代土坑分類図	19	第 67 図	185～187・189号土坑	93
第 9 図	土坑分類グラフ	20	第 68 図	191～193・195・197・199号土坑	94
第 10 図	縄文土器分類グラフ	22	第 69 図	198・200～202号土坑	95
第 11 図	石器器種別分類グラフ	26	第 70 図	203～205・207～210・232号土坑	96
第 12 図	石器石材別分類グラフ	28	第 71 図	211～218号土坑	97
第 13 図	6号住居跡	29	第 72 図	219・220・222～224・226・227・ 229・230号土坑	98
第 14 図	6号住居跡掘り方および炉	30	第 73 図	231・235・236・238号土坑	99
第 15 図	6号住居跡出土遺物(1)	31	第 74 図	239～244号土坑	100
第 16 図	6号住居跡出土遺物(2)	32	第 75 図	245～248・251～253号土坑	101
第 17 図	7号住居跡	33	第 76 図	254～256号土坑	102
第 18 図	7号住居跡出土遺物(1)	36	第 77 図	6・13・15・19・21・23号土坑出土遺物	103
第 19 図	7号住居跡出土遺物(2)	37	第 78 図	22～25号土坑出土遺物	104
第 20 図	7号住居跡出土遺物(3)	38	第 79 図	28・29・31・34号土坑出土遺物	105
第 21 図	15号住居跡	40	第 80 図	34・36号土坑出土遺物	106
第 22 図	15号住居跡炉	41	第 81 図	36・41・43・46・47・49・52・ 54～56号土坑出土遺物	107
第 23 図	15号住居跡出土遺物(1)	41	第 82 図	52・55・58・60・64号土坑出土遺物	108
第 24 図	15号住居跡出土遺物(2)	42	第 83 図	63～65・68・70号土坑出土遺物	109
第 25 図	20号住居跡	43	第 84 図	70・72・73号土坑出土遺物	110
第 26 図	20号住居跡埋設土器	44	第 85 図	73～75・78号土坑出土遺物	111
第 27 図	20号住居跡出土遺物	44	第 86 図	78・79号土坑出土遺物	112
第 28 図	22号住居跡	45	第 87 図	79・82～86号土坑出土遺物	113
第 29 図	22号住居跡遺物出土状況	46	第 88 図	86～88・90～92号土坑出土遺物	114
第 30 図	22号住居跡出土遺物(1)	47	第 89 図	92・94・95号土坑出土遺物	115
第 31 図	22号住居跡出土遺物(2)	48	第 90 図	93・95号土坑出土遺物	116
第 32 図	22号住居跡出土遺物(3)	49	第 91 図	98・101・110号土坑出土遺物	117
第 33 図	22号住居跡出土遺物(4)	50	第 92 図	110・111号土坑出土遺物	118
第 34 図	155号土坑埋設土器	52	第 93 図	111・112号土坑出土遺物	119
第 35 図	155号土坑	53	第 94 図	112号土坑出土遺物	120
第 36 図	155号土坑出土遺物(1)	53	第 95 図	112・115～118・120・122号土坑出土遺物	121
第 37 図	155号土坑出土遺物(2)	54	第 96 図	131号土坑出土遺物	122
第 38 図	155号土坑出土遺物(3)	55	第 97 図	132・133号土坑出土遺物	123
第 39 図	155号土坑出土遺物(4)	56	第 98 図	133・136・141・144・145号土坑出土遺物	124
第 40 図	155号土坑出土遺物(5)	57	第 99 図	141・149・150・153号土坑出土遺物	125
第 41 図	196号土坑	59	第100 図	153号土坑出土遺物	126
第 42 図	196号土坑出土遺物	60	第101 図	158・162・165・167・168号土坑出土遺物	127
第 43 図	228号土坑	61	第102 図	168号土坑出土遺物	128
第 44 図	228号土坑出土遺物(1)	62	第103 図	168・169・173・177・178号土坑出土遺物	129
第 45 図	228号土坑出土遺物(2)	63	第104 図	179号土坑出土遺物	130
第 46 図	11号埋壙および出土遺物	64	第105 図	179・182・183・185号土坑出土遺物	131
第 47 図	4・6～9・13～16号土坑	73	第106 図	186・189・191～193号土坑出土遺物	132
第 48 図	17・19・21～25・27・28号土坑	74	第107 図	193・195号土坑出土遺物	133
第 49 図	29・30・31・34・35号土坑	75	第108 図	197・198号土坑出土遺物	134
第 50 図	36・38・41・43・44号土坑	76	第109 図	198号土坑出土遺物	135
第 51 図	45～57号土坑	77	第110 図	198号土坑出土遺物	136
第 52 図	58・60・62・64・65・68号土坑	78	第111 図	199～201・208・209・211・ 215～217号土坑出土遺物	137
第 53 図	70・71・72・73・74号土坑	79	第112 図	217・219・222・224・226・227・ 229・230・231号土坑出土遺物	138
第 54 図	75・78号土坑	80	第113 図	231号土坑出土遺物	139
第 55 図	79・82・83・84・85・116	81	第114 図	235・236・238号土坑出土遺物	140
第 56 図	86～88・90～92号土坑	82			
第 57 図	93～95・98号土坑	83			
第 58 図	100～107・109・110号土坑	84			
第 59 図	111・112号土坑	85			

第115図	238・239号土坑出土遺物	141	第171図	2号谷津状遺構出土遺物(1)	227
第116図	240~242号土坑出土遺物	142	第172図	2号谷津状遺構出土遺物(2)	228
第117図	242~245・247・252号土坑出土遺物	143	第173図	2号谷津状遺構出土遺物(3)	229
第118図	254~256号土坑出土遺物	144	第174図	2号谷津状遺構出土遺物(4)	230
第119図	1~3号埋設土器	163	第175図	2号谷津状遺構出土遺物(5)	231
第120図	4号埋設土器および周辺配石	164	第176図	2号谷津状遺構出土遺物(6)	232
第121図	5・6号埋設土器	165	第177図	2号谷津状遺構出土遺物(7)	233
第122図	7・9・10号埋設土器	166	第178図	2号谷津状遺構出土遺物(8)	234
第123図	12号埋設土器	166	第179図	2号谷津状遺構出土遺物(9)	235
第124図	1・2・5・10号埋設土器出土遺物	167	第180図	2号谷津状遺構出土遺物(10)	236
第125図	6・9・12号埋設土器出土遺物	168	第181図	2号谷津状遺構出土遺物(11)	237
第126図	3・4号埋設土器出土遺物	169	第182図	3号谷津状遺構	245
第127図	7号埋設土器出土遺物	171	第183図	3号谷津状遺構出土遺物	246
第128図	1・18~20号配石遺構	173	第184図	4号谷津状遺構土器・石器分類グラフ	246
第129図	16・23号配石遺構	174	第185図	4号谷津状遺構	247
第130図	16・18・20号配石遺構出土遺物	174	第186図	4号谷津状遺構縄文土器	
第131図	10号溝	175		出土状況(I~V群)	248
第132図	11号溝	176	第187図	4号谷津状遺構縄文土器	
第133図	10号溝出土遺物	177		出土状況(IV~IX群)	249
第134図	11号溝出土遺物	178	第188図	4号谷津状遺構出土遺物(1)	250
第135図	18・20ピット	180	第189図	4号谷津状遺構出土遺物(2)	251
第136図	18ピット出土遺物	180	第190図	4号谷津状遺構出土遺物(3)	252
第137図	1号谷津状遺構土器・石器分類グラフ	181	第191図	4号谷津状遺構出土遺物(4)	253
第138図	1号谷津状遺構縄文土器		第192図	4号谷津状遺構出土遺物(5)	254
	出土状況(I~III群)	182	第193図	3号落ち込み	258
第139図	1号谷津状遺構縄文土器		第194図	3号落ち込み出土遺物(1)	259
	出土状況(IV~V群)	183	第195図	3号落ち込み出土遺物(2)	260
第140図	1号谷津状遺構縄文土器出土状況(VI群)	184	第196図	遺構外遺物出土分布図(I~III群)	262
第141図	1号谷津状遺構縄文土器出土状況(VII群)	185	第197図	遺構外遺物出土分布図(IV~V群)	263
第142図	1号谷津状遺構縄文土器出土状況(VIII群)	186	第198図	遺構外遺物出土分布図(VI群)	264
第143図	1号谷津状遺構縄文土器出土状況(IX群)	187	第199図	遺構外遺物出土分布図(VII群)	265
第144図	1号谷津状遺構出土遺物(1)	188	第200図	遺構外遺物出土分布図(VIII群)	266
第145図	1号谷津状遺構出土遺物(2)	189	第201図	遺構外遺物出土分布図(IX群)	267
第146図	1号谷津状遺構出土遺物(3)	190	第202図	遺構外出土遺物(1)	268
第147図	1号谷津状遺構出土遺物(4)	191	第203図	遺構外出土遺物(2)	269
第148図	1号谷津状遺構出土遺物(5)	192	第204図	遺構外出土遺物(3)	270
第149図	1号谷津状遺構出土遺物(6)	193	第205図	遺構外出土遺物(4)	271
第150図	1号谷津状遺構出土遺物(7)	194	第206図	遺構外出土遺物(5)	272
第151図	1号谷津状遺構出土遺物(8)	195	第207図	遺構外出土遺物(6)	273
第152図	1号谷津状遺構出土遺物(9)	196	第208図	遺構外出土遺物(7)	274
第153図	1号谷津状遺構出土遺物(10)	197	第209図	遺構外出土遺物(8)	275
第154図	1号谷津状遺構出土遺物(11)	198	第210図	遺構外出土遺物(9)	276
第155図	1号谷津状遺構出土遺物(12)	199	第211図	遺構外出土遺物(10)	277
第156図	1号谷津状遺構出土遺物(13)	200	第212図	遺構外出土遺物(11)	278
第157図	1号谷津状遺構出土遺物(14)	201	第213図	遺構外出土遺物(12)	279
第158図	1号谷津状遺構出土遺物(15)	202	第214図	遺構外出土遺物(13)	280
第159図	1号谷津状遺構出土遺物(16)	203	第215図	遺構外出土遺物(14)	281
第160図	1号谷津状遺構出土遺物(17)	204	第216図	遺構外出土遺物(15)	282
第161図	1号谷津状遺構出土遺物(18)	205	第217図	遺構外出土遺物(16)	283
第162図	1号谷津状遺構出土遺物(19)	206	第218図	遺構外出土遺物(17)	284
第163図	1号谷津状遺構出土遺物(20)	207	第219図	遺構外出土遺物(18)	285
第164図	1号谷津状遺構出土遺物(21)	208	第220図	遺構外出土遺物(19)	286
第165図	2号谷津状遺構土器・石器分類グラフ	220	第221図	遺構外出土遺物(20)	287
第166図	2号谷津状遺構	221	第222図	遺構外出土遺物(21)	288
第167図	2号谷津状遺構縄文土器		第223図	遺構外出土遺物(22)	289
	出土状況(I・II群)	223	第224図	遺構外出土遺物(23)	290
第168図	2号谷津状遺構縄文土器		第225図	他遺構混入遺物(1)	301
	出土状況(III・IV・V群)	224	第226図	他遺構混入遺物(2)	302
第169図	2号谷津状遺構縄文土器		第227図	他遺構混入遺物(3)	303
	出土状況(VI・VII群)	225	第228図	他遺構混入遺物(4)	304
第170図	2号谷津状遺構縄文土器		第229図	他遺構混入遺物(5)	305
	出土状況(VIII・IX群)	226	第230図	他遺構混入遺物(6)	306

第231図	他遺構混入遺物 (7)	307
第232図	他遺構混入遺物 (8)	308
第233図	他遺構混入遺物 (9)	309
第234図	他遺構混入遺物 (10)	310
第235図	他遺構混入遺物 (11)	311
第236図	他遺構混入遺物 (12)	312
第237図	他遺構混入遺物 (13)	313
第238図	他遺構混入遺物 (14)	314
第239図	他遺構混入遺物 (15)	315
第240図	他遺構混入遺物 (16)	316
第241図	他遺構混入遺物 (17)	317
第242図	他遺構混入遺物 (18)	318
第243図	他遺構混入遺物 (19)	319
第244図	他遺構混入遺物 (20)	320
第245図	他遺構混入遺物 (21)	321
第246図	他遺構混入遺物 (22)	322
第247図	他遺構混入遺物 (23)	323
第248図	他遺構混入遺物 (24)	324
第249図	他遺構混入遺物 (25)	325
第250図	他遺構混入遺物 (26)	326
第251図	他遺構混入遺物 (27)	327
第252図	他遺構混入遺物 (28)	328
第253図	他遺構混入遺物 (29)	329
第254図	他遺構混入遺物 (30)	330
第255図	弥生時代遺構位置図	338
第256図	弥生時代住居跡主軸および規模	339
第257図	5号住居跡	340
第258図	5号住居跡掘り方	341
第259図	5号住居跡炉	342
第260図	5号住居跡出土遺物	342
第261図	10号住居跡遺物出土状況	344
第262図	10号住居跡炉	345
第263図	10号住居跡出土遺物	345
第264図	16号住居跡	347
第265図	16号住居跡南東隅ピットおよび炉	348
第266図	16号住居跡出土遺物	348
第267図	21号住居跡	349
第268図	21号住居跡出土遺物	352
第269図	遺構外出土遺物 (1)	353
第270図	遺構外出土遺物 (2)	354
第271図	古墳時代遺構位置図	355
第272図	古墳時代住居跡主軸方位および規模	356
第273図	1号住居跡土器分類グラフ	358
第274図	1号住居跡	359
第275図	1号住居跡カマド	360
第276図	1号住居跡出土遺物 (1)	361
第277図	1号住居跡出土遺物 (2)	362
第278図	2号住居跡土器分類グラフ	363
第279図	2号住居跡	364
第280図	2号住居跡カマド	365
第281図	2号住居跡出土遺物 (1)	365
第282図	2号住居跡出土遺物 (2)	366
第283図	3号住居跡土器分類グラフ	367
第284図	3号住居跡	368
第285図	3号住居跡カマド	369
第286図	3号住居跡出土遺物 (1)	369
第287図	3号住居跡出土遺物 (2)	370
第288図	3号住居跡出土遺物 (3)	371
第289図	4号住居跡	373
第290図	4号住居跡土器分類グラフ	374
第291図	4号住居跡カマド	374
第292図	4号住居跡出土遺物 (1)	375

第293図	4号住居跡出土遺物 (2)	376
第294図	8号住居跡	377
第295図	8号住居跡掘り方	378
第296図	8号住居跡土器分類グラフ	378
第297図	8号住居跡カマド	379
第298図	8号住居跡出土遺物	380
第299図	9号住居跡	381
第300図	9号住居跡土器分類グラフ	382
第301図	9号住居跡掘り方	382
第302図	9号住居跡出土遺物	382
第303図	11号住居跡	383
第304図	11号住居跡掘り方	384
第305図	11号住居跡カマド	384
第306図	11号住居跡土器分類グラフ	385
第307図	11号住居跡出土遺物	385
第308図	12号住居跡土器分類グラフ	387
第309図	12号住居跡	388
第310図	12号住居跡カマド	389
第311図	12号住居跡出土遺物 (1)	390
第312図	12号住居跡出土遺物 (2)	391
第313図	13号住居跡カマド	393
第314図	13号住居跡土器分類グラフ	395
第315図	13号住居跡出土遺物	395
第316図	14号住居跡	396
第317図	14号住居跡掘り方	397
第318図	14号住居跡土器分類グラフ	397
第319図	14号住居跡カマド	398
第320図	14号住居跡出土遺物 (1)	398
第321図	14号住居跡出土遺物 (2)	399
第322図	17号住居跡	401
第323図	17号住居跡カマド	403
第324図	17号住居跡土器分類グラフ	404
第325図	17号住居跡出土遺物 (1)	404
第326図	17号住居跡出土遺物 (2)	405
第327図	17号住居跡出土遺物 (3)	406
第328図	18号住居跡土器分類グラフ	407
第329図	18号住居跡	408
第330図	18号住居跡カマドおよび出土遺物	409
第331図	19号住居跡土器分類グラフ	410
第332図	19号住居跡カマド	411
第333図	19号住居跡出土遺物	412
第334図	23号住居跡土器分類グラフ	413
第335図	23号住居跡	413
第336図	23号住居跡掘り方	414
第337図	23号住居跡カマド	414
第338図	23号住居跡出土遺物	415
第339図	20・207・233号土坑・1号ピット	416
第340図	20・207・233号土坑・1号ピット出土遺物	416
第341図	遺構外出土遺物 (1)	417
第342図	遺構外出土遺物 (2)	418
第343図	中世遺構位置図	419
第344図	内匠城外堀	423
第345図	内匠城外堀遺物出土状況	425
第346図	内匠城外堀東側板碑出土状況 および西側木製品出土状況	427
第347図	内匠城外堀出土遺物 (1)	428
第348図	内匠城外堀出土遺物 (2)	429
第349図	内匠城外堀出土遺物 (3)	430
第350図	4号溝	432
第351図	4号溝出土遺物	433
第352図	5号溝	434
第353図	内匠城土塁	435

第354図	内匠城土塁出土遺物	437
第355図	11号土坑および出土遺物	438
第356図	1号谷津状遺構中世整地面	439
第357図	1号谷津状遺構中世整地面遺物出土状況	442
第358図	1号谷津状遺構出土遺物(1)	443
第359図	1号谷津状遺構出土遺物(2)	444
第360図	1号谷津状遺構出土遺物(3)	445
第361図	4号掘立柱建物	448
第362図	5・6号柱掘立柱建物	449
第363図	5号掘立柱建物出土遺物	451
第364図	1号竪穴遺構	452
第365図	2号竪穴遺構	453
第366図	3号竪穴遺構	453
第367図	61号土坑	454
第368図	2号竪穴出土遺物	454
第369図	2・3・4号配石遺構	455
第370図	5号配石遺構	456
第371図	6・7・8号配石遺構	457
第372図	9号配石遺構	458
第373図	10号配石遺構	458
第374図	11号配石遺構	459
第375図	配石遺構出土遺物(1)	459
第376図	配石遺構出土遺物(2)	460
第377図	配石遺構出土遺物(3)	461
第378図	1号溝	462
第379図	1号掘立柱建物	463
第380図	2号掘立柱建物	464
第381図	3号掘立柱建物	465
第382図	5・6・7・11・13号ピット	466
第383図	1号井戸	467
第384図	1号井戸出土遺物	468
第385図	2号井戸	469
第386図	2号井戸出土遺物	470
第387図	3号井戸	471
第388図	3号井戸出土遺物(1)	471
第389図	3号井戸出土遺物(2)	472
第390図	4号井戸	472
第391図	5号井戸および出土遺物(1)	473
第392図	5号井戸出土遺物(2)	474

第393図	5号井戸出土遺物(3)	475
第394図	6号井戸および出土遺物(1)	476
第395図	6号井戸出土遺物(2)	477
第396図	7号井戸	479
第397図	7号井戸出土遺物	480
第398図	8号井戸	480
第399図	9・10号井戸	481
第400図	10号井戸出土遺物	482
第401図	11号井戸	482
第402図	1・26・130・146・237号土坑	483
第403図	26・130・146・237号土坑出土遺物	484
第404図	2号ピット	484
第405図	2号ピット出土遺物	485
第406図	遺構外出土遺物(1)	486
第407図	遺構外出土遺物(2)	487
第408図	遺構外出土遺物(3)	488
第409図	遺構外出土遺物(4)	489
第410図	遺構外出土遺物(5)	490
第411図	2・3・7号溝	494
第412図	6・8・9号・1号暗渠・地目境溝	495
第413図	2号溝出土遺物	496
第414図	2・3号土坑	497
第415図	5・10・12・18・32・39号土坑	498
第416図	37・40・57・59号土坑	499
第417図	42・66・67・69・80・81号土坑	500
第418図	89・96・97・99・127~129・ 140・143号土坑	501
第419図	147・152・156・157・159・160・ 161・170・172号土坑	502
第420図	174~176・180・188・190・ 194・206号土坑	503
第421図	221・225・234・249・250・257号土坑	504
第422図	12~15・17号配石遺構	505
第423図	21・22・24号配石遺構	506
第424図	耕作溝位置図(1)	507
第425図	耕作溝位置図(2)	508
第426図	遺構外出土遺物	509
第427図	古墳時代住居変遷図	520
第428図	内匠城縄張図	525

写真図版目次

図版 1	遺跡遠景
図版 2	遺跡遠景・A区全景
図版 3	A区東側全景
図版 4	6・7号住居跡
図版 5	7・15号住居跡
図版 6	15・20号住居跡
図版 7	20・22号住居跡
図版 8	155・196・197・228号土坑
図版 9	228号土坑・11号埋設土器
図版 10	11号埋設土器・4・8~9・14・15号土坑
図版 11	17・22・25・27・28・30・31・36・38号土坑
図版 12	41・43・44・49・52・54・58号土坑
図版 13	63~65・70~73号土坑
図版 14	78・79・85・87・90~93号土坑
図版 15	93~95・100・104・110・111・112号土坑
図版 16	112・115・119・121・122・125・126・131号土坑

図版 17	(132・153)・133・137・139・141・ 144・145・147号土坑
図版 18	148・149・158・162・165・167・168号土坑
図版 19	169・173・177~179・181~184号土坑
図版 20	185・191~193・199~201・204・205号土坑
図版 21	208・211・213~218号土坑
図版 22	219・222~224・229~231・235号土坑
図版 23	236・238~241・243・246・248号土坑
図版 24	252・254・256号土坑・1・3・4号埋設土器
図版 25	5~7号埋設土器
図版 26	9・10・12号埋設土器・ 1・18・19号配石・11号溝・2号谷津
図版 27	5・10号住居跡
図版 28	10号住居跡
図版 29	16号住居跡
図版 30	21号住居跡

- 図版 31 1号住居跡
 図版 32 2号住居跡
 図版 33 3号住居跡
 図版 34 4号住居跡
 図版 35 8・9号住居跡
 図版 36 11号住居跡
 図版 37 12号住居跡
 図版 38 12・13・14号住居跡
 図版 39 14・17号住居跡
 図版 40 17号住居跡
 図版 41 17・18号住居跡
 図版 42 18・19・23号住居跡
 図版 43 23号住居跡・207・232・233号土坑・
 1号ピット・作業風景
 図版 44 内匠城
 図版 45 外堀
 図版 46 外堀・東側石組・板碑出土状況・
 木製椀出土状況・陶器出土状況
 図版 47 4・5号溝
 図版 48 内匠城土塁
 図版 49 中世整地面・3～5号配石
 図版 50 3～5号配石
 図版 51 5～8号配石
 図版 52 8・11・(3～5・11)号配石
 図版 53 4～6号掘立柱建物・1～3号竪穴・61号土坑
 図版 54 1号溝・1・2号井戸
 図版 55 3～5号井戸
 図版 56 5～7号井戸
 図版 57 7～10号井戸
 図版 58 11号井戸・1・26・37・130・146号土坑
 図版 59 237号土坑・1～3号掘立柱建物・2号ピット
 図版 60 2・3・10・143・152・157・172・226号土坑
 図版 61 234号土坑・14・17・21号配石・1号暗渠・
 地目境溝
 図版 62 地籍図
 図版 63 6・7号住居跡出土遺物
 図版 64 7・15・20・22号住居跡出土遺物
 図版 65 22号住居跡・155号土坑出土遺物
 図版 66 155・228・196号土坑・遺構外出土遺物
 図版 67 228・13・15・19・21～25・31号土坑出土遺物
 図版 68 29・31・34・36・43・46・49・52・
 55・60・63・64号土坑出土遺物
 図版 69 65・68・70・72～75・78号土坑出土遺物
 図版 70 79・82・83・85～87・90～93号土坑出土遺物
 図版 71 94・95・98・101・110・111・112号土坑出土遺物
 図版 72 112・115・116・118・120・122・
 131号土坑出土遺物
 図版 73 132・133・136・141・149・150・
 153・165号土坑出土遺物
 図版 74 167～169・177～179・182・183・185号土坑出土遺物
 図版 75 186・189・191～193・195・198号土坑出土遺物
 図版 76 198・208・209・211・215・217・219・222・224・
 227・230・231・235・238・239号土坑出土遺物
 図版 77 240・242・244・245・247・252・254～
 256号土坑・1～4号埋設土器出土遺物
 図版 78 5～7・9・10・12号埋設土器・
 16・20号配石・10号溝出土遺物
 図版 79 10・11号溝・1号谷津出土遺物
 図版 80 1号谷津出土遺物
 図版 81 1号谷津出土遺物
 図版 82 1号谷津出土遺物
 図版 83 1・2号谷津出土遺物
 図版 84 2号谷津出土遺物
 図版 85 2号谷津出土遺物
 図版 86 2・4号谷津出土遺物
 図版 87 4号谷津出土遺物
 図版 88 3号落ち込み・遺構外出土遺物
 図版 89 遺構外出土遺物
 図版 90 遺構外出土遺物
 図版 91 遺構外出土遺物
 図版 92 他遺構混入遺物
 図版 93 他遺構混入遺物
 図版 94 他遺構混入遺物
 図版 95 他遺構混入遺物
 図版 96 他遺構混入遺物
 図版 97 5・10・16・21号住居跡・遺構外出土遺物
 図版 98 1～3号住居跡出土遺物
 図版 99 3・4号住居跡出土遺物
 図版 100 8・9・11・12号住居跡出土遺物
 図版 101 12・13号住居跡出土遺物
 図版 102 13・14・17号住居跡出土遺物
 図版 103 17～19・23号住居跡・207・233号土坑・
 1号ピット・遺構外出土遺物
 図版 104 外堀出土遺物
 図版 105 外堀・4号溝・土塁・遺構外・
 他遺構混入・1号谷津出土遺物
 図版 106 61号土坑・3～5・8号配石・2号竪穴・
 5号掘立柱建物・1号谷津・遺構外出土遺物
 図版 107 6・11号配石・1～3号井戸出土遺物
 図版 108 2・3・5・6号井戸出土遺物
 図版 109 26・146・237号土坑・6・10号井戸・
 2号ピット・遺構外出土遺物
 図版 110 2号溝・遺構外出土遺物

抄 録

1 遺跡の概略

内匠上之宿遺跡は、群馬県富岡市内匠の鐺川右岸に広がる丘陵上に所在する。この丘陵は通称「離れ山」と呼ばれ、標高220～260mで、幅約600m長さ約3.3kmの東西に細長い形状をなしている。この丘陵は北に向かう小支谷によって分断されており、遺跡は丘陵の東端部に位置している。

発掘調査により縄文時代・弥生時代・古墳時代・中世遺構の各時代に互る、竪穴住居・土坑・配石遺構・井戸・溝等の遺構や多くの遺物が検出された。

調査期間は昭和62年2月16日から昭和63年3月5日までの約12カ月半である。

2 遺構数量

時 代	種 別	数 量	備 考
縄文時代	住 居 跡	4	中期中葉～後期前半 竪穴住居2軒 敷石住居2軒
	土 坑	185	中期初頭～後期前半 他に住居の可能性のある土坑4基あり
	屋外埋設土器	10	中期初頭1基、後期前半6基、不明3基
	配石遺構	5	時期不明
	溝状遺構	2	後期前半
	ピ ッ ト	2	
	谷津状遺構	5	小さな落ち込みも含む
弥生時代	竪穴住居跡	4	弥生時代後期末 赤井戸系の土器出土
古墳時代	竪穴住居跡	14	古墳時代後期
	土 坑	3	古墳時代後期
中 世	城 郭	1	中世城郭内匠城の外堀・土塁等を調査
	整 地 面	1	掘立柱建物・竪穴遺構・配石遺構等が存在
	掘立柱建物	6	整地面上に3棟、他に3棟
	竪穴遺構	4	61号土坑を含む
	配石遺構	10	整地面上に検出された
	井 戸	11	
	土 坑	5	3基から人骨出土
	ピ ッ ト	6	1基は土師質土器皿を埋納
近世以降	溝状遺構	8	火山灰廃棄の溝、暗渠、地目境の溝等あり
	土 坑	50	
	配石遺構	8	

3 ま と め

内匠丘陵上には多くの遺跡が存在するが、本遺跡は丘陵の東端部に位置し、丘陵地形を利用した内匠城を始め、縄文時代～中世を中心とした各時代にわたる多くの遺構・遺物が出土している。特に縄文時代中期末から後期前半にかけての遺物はまとまった良好な資料となっている。

内匠上之宿遺跡

第I章 発掘調査の実施と経過

第1節 調査に至る経緯と調査の経過

(1) 調査に至る経緯

関越自動車道上越線は首都圏と上信越地方を結ぶ高速自動車国道として、日本道路公団によって建設される。群馬県藤岡市～長野県佐久市間の基本計画は昭和47年に策定され、同54年建設大臣により日本道路公団が施行命令を受けている。同56年群馬県藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市・下仁田町（東部）・松井田町（東部）、同57年松井田町（西部）・下仁田町（西部）・長野県佐久市までの路線が発表された。

関越自動車道上越線全体にかかる埋蔵文化財の取り扱い及び調査経過は次のとおりである。

昭和49年度 藤岡市～下仁田町間に存在する埋蔵文化財について、群馬県教育委員会は県企画部幹線交通課に対し文化財保護法の遵守、国・県・市町村の指定文化財をさけること、文化財に係る事項は県教委文化財保護課と協議すること等の考え方を示した。

昭和55年度 県教委文化財保護課は路線通過地周辺の埋蔵文化財包蔵地の調査を行い、その結果は同年3月藤岡～松井田間、同年11月松井田～下仁田間について、「関越自動車道上越線関連公共事業調査報告書」として群馬県（企画部交通対策課）より報告された。

昭和59年度 建設工事の具体化に伴い、路線内の埋蔵文化財についてより具体的な調査の依頼が道路公団より県教育委員会にあり、県教委文化財保護課は包蔵地の詳細分布調査を行った。

昭和60年度 県教育委員会は分布調査の結果、包蔵地を濃い分布地・淡い分布地・試掘調査を必要とする地域に区分し、発掘調査必要面積を約100万㎡と想定し、55遺跡を認定した。（後の試掘により52遺跡に変更）そして、埋蔵文化財発掘調査にかかる基本方針を次のように策定した。

- ① 発掘調査終了年度を昭和66年度末（平成2年度末）とする。
- ② 群馬県埋蔵文化財調査事業団を中核機関とし、対応できない部分に調査会方式を導入、関係市町村には進捗状況を考慮しながら協力を求める。
- ③ 事業団の出張所（上越線調査事務所）を開設し、整理作業も併せ行う。
- ④ 機関別対応面積は次のとおりとする。

埋文事業団 約76万㎡ 富岡市以東を受け持つ。面積は変動の可能性あり。

調査会 約22万㎡ 妙義町・下仁田町・松井田町。面積は変動の可能性あり。

なお、調査実施方法は次のとおりである。

日本道路公団東京第二建設局は群馬県教育委員会に調査の依頼を行い、年度毎に委託契約を締結する。県教育委員会はそれを受け、群馬県埋蔵文化財調査事業団及び、各遺跡調査会等に再委託のかたちで委託契約を締結し、調査を実施する。

昭和61年度 4月、埋文事業団上越線調査事務所を吉井町南陽台3-15-8に設置し、4班15人体制で発足。以後、6班22人体制（昭62）、9班36人体制（昭63）、12班45人体制（平元）、12班45人体制（平2）平成2年度までに一部を残し発掘調査は終了した。整理作業は昭和63年度より併行して実施していたが、平成3年度からはほとんど整理作業のみとなり、平成8年度終了予定である。

今回の発掘調査報告地区は内匠・下高瀬遺跡（事業名称）の一部で、富岡インターチェンジ（仮称）付近

第I章 発掘調査の実施と経過

に位置する。県教委文化財保護課の分布調査により、内匠・下高瀬遺跡全体の対象面積は約22万㎡と非常に広大な遺跡とされていた。そこでまず予備的調査として、遺構の有無および範囲の確認、遺構の種別・性格等を把握する目的で試掘調査を実施し、その後本調査を行う事で日本道路公団富岡工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課と合意した。試掘調査は昭和61年6月から8月末までの3ヶ月間行われ、試掘調査の結果、本調査実施面積は内匠・下高瀬遺跡全体で約11万㎡となった。今回報告する内匠上之宿遺跡は、内匠・下高瀬遺跡群の最東端に位置し、調査面積は16,500㎡である。

(2) 調査の経過

調査は昭和62年2月から開始されたが、北山茶臼山西古墳との並行調査であり、また年度末にかかるため、表土除去、遺構検出作業程度しかできず、本格的に開始されたのは昭和62年4月であった。調査区は東西に長いため、便宜的に中央部を通る道路を挟んで東側をA区、西側をB区とし、A区東側から始め、次第に西側に移っていった。

内匠城関係の遺構は、外堀を5月中旬から掘り下げ始めたが、深さが7m以上と深く、南の立ち上がりが調査区外になり、調査区の壁が覆土で崩れやすいため、調査は困難を極め、平面測量・地形測量を終え、写真撮影が終了したのは9月であった。また、堀の北側に、東西に長い性格不明の盛り土が検出されていたが、側面に貼り石があり、堀を掘削した土を盛ったものと考えられる事など、土塁の可能性が高くなったため、掘り下げる前に平面図・地形図を作成し、写真撮影を行った。

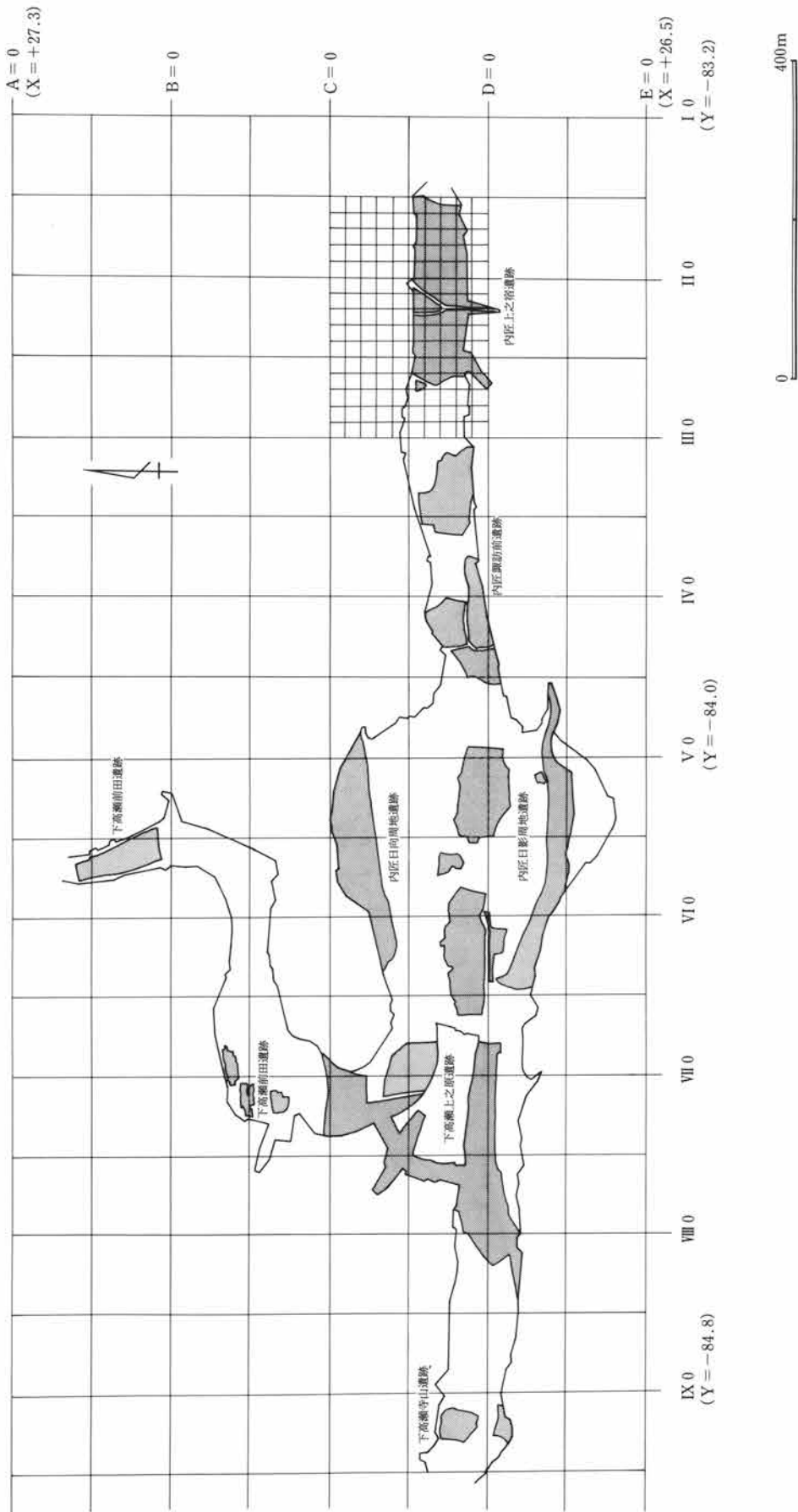
調査区北側には黒色土が広範囲に分布しており、多量の縄文土器が出土していたが、掘り下げると、石臼や板碑を含む配石遺構が平坦面上に検出され、内耳土器・土師質土器等も出土したため、中世のものである可能性が高くなり、また、黒色土は更にその面の下に続き縄文土器が出土するため、縄文の埋没谷上に作られた中世の整地面であることが判明し(1号谷津状遺構)、さらに、大型の掘立柱建物や竪穴状遺構も検出され、内匠城との関係も含めて興味深いものとなった。竪穴住居跡・土坑等の遺構も並行して調査を進め、9月下旬には気球によりA区の全景写真撮影を行った。

その後B区も調査を開始し、A区同様竪穴住居跡・土坑・井戸等の遺構や縄文の埋没谷を検出した。1月末にはヘリコプターによるB区全景写真撮影を行った。遺構調査後旧石器の試掘を行ったが、遺構・遺物は出土しなかったため、2月末には調査を終了した。

(3) 整理作業の経過

内匠上之宿遺跡の整理作業は、当初は平成3年4月1日から1年間の予定であったが、縄文時代の遺物量が非常に多いため、平成4年9月30日まで1年半かけて行った。作業に当たり、以下の点に特に留意した。

- ① 遺構については、できるだけその出土遺物の出土位置を図示し、接合関係も図化する。
- ② 遺物については、遺構単位で、時期・器種・器形別にその数量を把握する。
- ③ 縄文土器については、出土土器総量に占める割合が高く、また破片が多く図示できないものが多いので、時期分類に主眼を置き、時期別に数量を示すことに努めた。



第1図 遺跡位置およびグリッド配置図

第2節 調査の方法

(1) 遺跡名の選定

富岡インターチェンジ部分に位置する内匠・下高瀬遺跡は、調査面積だけでも11万㎡あり、地形的にも小支谷で何か所も分割されているため、調査時点で新たに遺跡名をつける必要が生じた。その後63年8月に上越線全線の遺跡名が検討され、埋文事業団担当遺跡については、原則として大字小字の連記を遺跡名とするように変更し、旧遺跡名は廃止せずに事業名称として存続させることとした。これにより今回報告する調査区は、内匠上之宿遺跡となり、内匠・下高瀬遺跡は、内匠上之宿・内匠諏訪前・内匠日影周地・内匠日向周地・下高瀬上之原・下高瀬前田・下高瀬寺山の各遺跡に分割された。

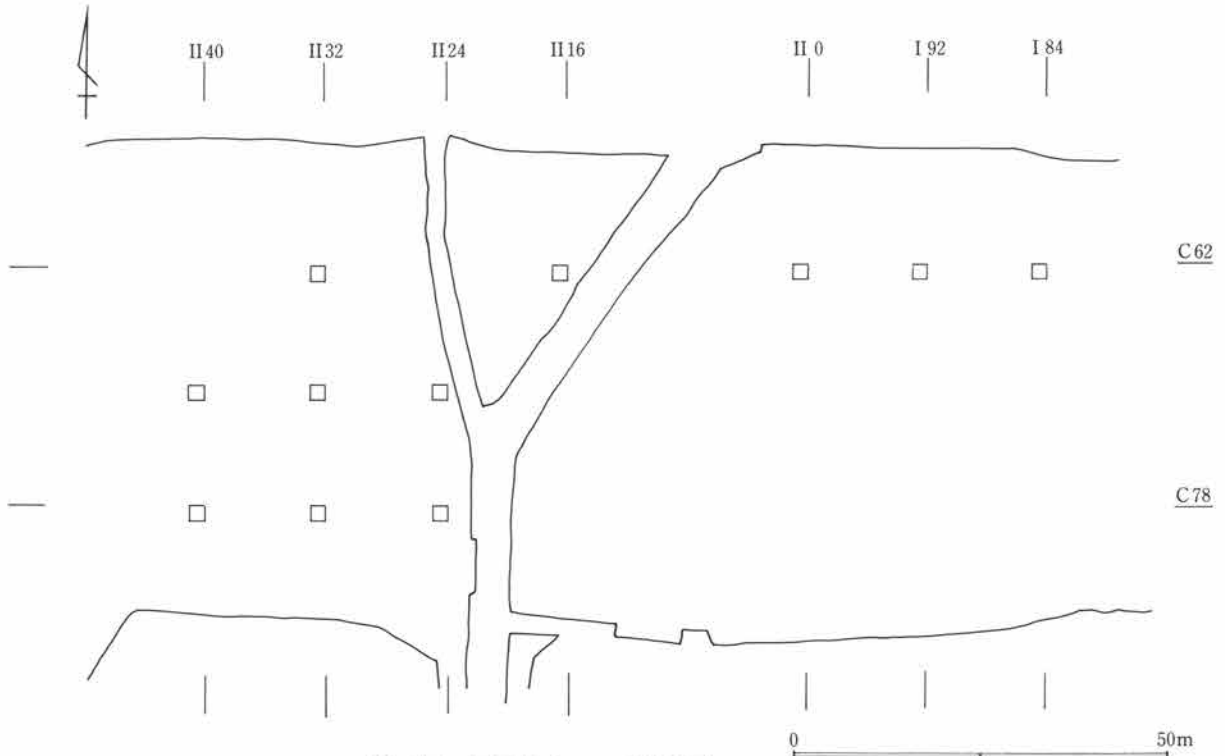
(2) グリッド設定法

調査区の区割りは、国家座標に乗る形で軸線を設定し、グリッドの呼称は内匠・下高瀬遺跡群の全遺跡を通してできるようにした。

調査原点は、内匠上之宿遺跡の北東部、国家座標のX=+27300.000、Y=-83200.000の地点とし、ここをA0-I0とした。ここを基準とし、1グリッド2mとして南・西に向かって設定していった。南北ラインは、A0、A1、A2、……A98、A99、B0、B1、……とアルファベットとアラビア数字の併記とし、200mでアルファベットが、2mでアラビア数字が変わるものとした。東西ラインは、I0、I1、I2、……I98、I99、II0、II1、……とローマ数字とアラビア数字の併記とし、200mでローマ数字が、2mでアラビア数字が変わるものとした。そしてA1-I2のように、南北、東西の順で併記してグリッドの呼称とし、各グリッドの呼称は北東隅のポイント名をもってそのグリッドを表すものとした。

(3) 遺構の調査

表土は重機により除去し、確認後遺構を掘り下げた。遺構平面図・地形図は20分の1で作成することを基



第2図 旧石器トレンチ位置図

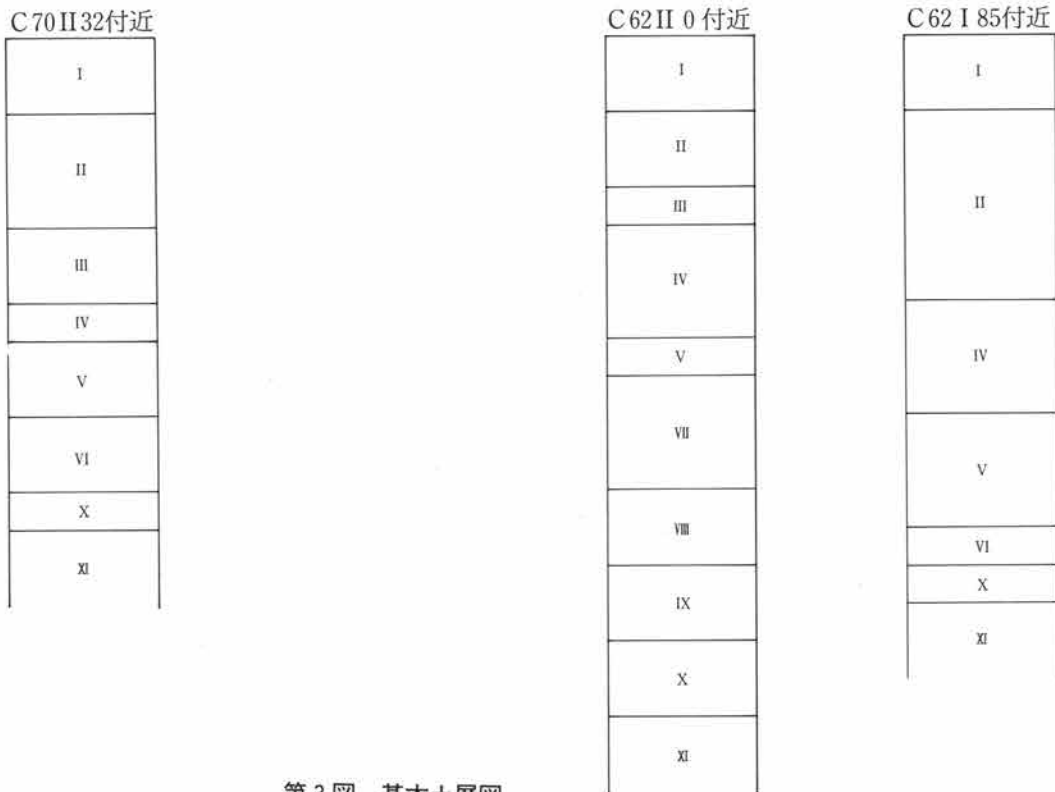
本とし、住居跡のカマド、炉、詳細な遺物出土状況は10分の1で作成した。遺物は原則として出土位置、高さを記録して取り上げることとしたが、出土位置が不明になったもの、耕作溝等の新しい遺構に伴うものは一括して取り上げた。遺構の調査終了後、ロームの残りの良い場所に旧石器の試掘を行った。

第3節 基本土層

内匠上之宿遺跡は鑛川の上位段丘面上にあるが、上部にはローム層が堆積しており、その上は浅間A軽石を混入する耕作土となっている。

ローム層の下は、新生代第三紀中新世の海成層である富岡層群の砂岩泥岩互層が存在している。

- 第I層 暗褐色土 浅間A軽石を含む耕作土
 - 第II層 褐色土 浅間板鼻黄色軽石層 (Y.P) を部分的に含む
 - 第III層 暗褐色土 褐色軽石を少量含む
 - 第IV層 明褐色土 径10mm程度の褐色軽石層
 - 第V層 灰褐色土 径5mm程度の褐色軽石層
 - 第VI層 灰褐色土 粒子の細かい褐色軽石層
 - 第VII層 暗褐色土 シルト質 黒褐色土を筋状に含む
 - 第VIII層 灰白色土 シルト質 褐色土を筋状に含む
 - 第IX層 灰白色土 シルト質 黒色土を少量含む
 - 第X層 暗褐色土 黒色土を部分的に含む 粘性強い
 - 第XI層 黒褐色土 泥岩層
- } 浅間板鼻褐色軽石層 (B.P)



第3図 基本土層図

第II章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境

本遺跡が所在する富岡市は群馬県南西部に位置し、ほぼ中央を鎭川が西から東へ流れている。鎭川は長野県境付近の矢川峠を源とし、下仁田町、富岡市、甘楽町、吉井町、藤岡市を流れ、高崎市倉賀野町で烏川と合流している。烏川はさらに利根川と合流し、太平洋に流れ込んでいる。鎭川の流れは東西方向であるが、所々で北へ曲がる箇所があり、少しずつ北へ移って行く。支流は、南側に野上川、下川、雄川、北側に丹生川、高田川、星川等がある。南側のものは、山地では北東方向に流れるが、丘陵・段丘では北向きになり、鎭川にほぼ直角に合流している。これに対し、北側のものは鎭川とほぼ平行に流れている。

鎭川の両岸は上下二段の河岸段丘を形成している。段丘面は鎭川の南側が広く北側が狭くなっており、特に上位段丘面でその傾向が強くなっている。上位段丘面は、鎭川の北側で標高210~240m、下位面との標高差30~40mで、段丘面の幅は100~800m程である。鎭川の南側の上位段丘面は、標高200~240m、下位面との標高は40~50m程である。下位段丘面は、標高が西部で230m東部で130m程であり、ゆるやかに東に傾斜した連続した平坦面になっている。幅は600~3,000m程であり、鎭川河床との標高差は13~15mである。

河岸段丘の両側には丘陵地になっているが、いずれも小さな谷が複雑に入り組んでいる。北部の丘陵地は標高240~300m程で、丘頂面が広く発達しており、南部の丘陵地は標高250~300mで北へ傾斜している。

市南部および西端部は山地となっている。南部の甘楽町・下仁田町の境界付近は関東山地の一部で、谷が



第4図 遺跡周辺地形区分図



第5図 遺跡周辺地形図

0 200m

深く尾根筋の狭い壮年期の山地地形を呈している。特に野上川上流から岩染川上流にかけては険しい崖となっている所が多い。西端部も南部に比べれば規模は小さいが、断崖や深い谷が各所に見られる。

遺跡は鑄川の右岸に広がる上位段丘面に所在する。この段丘面は、西と南を下川、東を野上川に侵食され、通称「離れ山」と呼ばれる東西に長い丘陵地形になっている。「離れ山」は、東側は上位段丘であるが、中央から西側は丘陵地となっている。東西約3.3km、南北約600mで、標高が220～250m、下位段丘面との標高差は40～50mである。「離れ山」丘陵内にも南北方向を主とした小支谷が入っており、丘陵上の遺跡を分断している。内匠上之宿遺跡と内匠諏訪前遺跡の間も小支谷が入っている。

地質的には、富岡市は関東山地の北縁に位置しているため、市の南部は関東山地の構成岩である三波川結晶片岩が分布している。市西部の大桁山南東麓には中世代白亜紀の層が分布している。黒色粘板岩を主とする南蛇井層、滑花崗岩、川井山石英閃緑岩などや跡倉層、神農原礫岩層などである。しかしながら、市内のほとんどの地域には、新生代第三紀中新世の海成層である富岡層群が広がっている。富岡層群は、牛伏層、小幡層、井戸沢層、福島層、吉井層、板鼻層に細分されるが、いずれも砂岩と泥岩が交互に積み重なる砂泥互層を基本としている。また鑄川の流域は二段の河岸段丘が発達しているが、上位段丘は第四紀洪積世末に、下位段丘は第四紀沖積世に形成されたものである。

本遺跡は第四紀洪積世に形成された上位段丘面に立地しているが、上位段丘は第三系の基盤岩の上に、砂礫層、粘土層、上部ローム層、表土の順に堆積している。

第2節 歴史的環境

ここでは、当遺跡の立地する「離れ山」丘陵を中心に、富岡市域周辺の遺跡の様相を時代別に概観したい。

先土器時代 富岡市域内では、10数年前にこの時代の最終末に属すると考えられる長さ15.6cmの尖頭器が採集されているが、出土地は不明である。関越道上越線地域の発掘調査により、内匠日影周地遺跡からナイフ型石器2点が、下高瀬寺山遺跡から細石核が出土しているが、遺構として確認できるものはなかった。

縄文時代 この時代の遺跡は、鑄川の上位段丘面および丘陵地に多くの遺跡の分布が見られる。

草創期の可能性のある遺物は、下高瀬寺山遺跡で出土した柳葉形尖頭器であるが、他にはこの時期の遺構・遺物は検出されていない。

早期の遺構はほとんど検出されておらず、下高瀬上之原遺跡で落とし穴状土坑が検出されただけである。遺物は、上丹生字和田で押型文系土器が採集されている他、内匠日向周地遺跡で押型文土器が出土している。

前期は、本宿郷土遺跡と野上塩之入遺跡で関山式期の住居跡が、内匠諏訪前遺跡で黒浜式期の住居跡・土坑が、南蛇井増光寺遺跡でも黒浜期の集落が検出されている。諸磯式期になると、内匠諏訪前・内匠日影周地・下高瀬上之原・下高瀬寺山・中高瀬観音山・中高瀬庚申山の各遺跡で住居跡が検出されており、内匠諏訪前遺跡では十三善堤式期の住居跡も検出されている。

中期以降は確実に集落を形成するようになると思われるが、遺構の調査例はそれほど多くない。五領ヶ台式期は、小塚遺跡で住居跡1軒と屋外埋設土器3基が、野上塩之入遺跡で住居跡2軒と土坑が、内匠諏訪前・日影周地遺跡でも土坑が検出されている。勝坂・阿玉台式期の遺構は少なく、住居跡は当遺跡で検出されているだけである。中期後半になると遺構の検出例は増加し、本宿・郷土遺跡で加曾利E4式期の敷石住居跡が、田篠中原遺跡で加曾利E式期の環状列石・敷石住居跡・配石遺構群が、南蛇井増光寺遺跡で加曾利E式期の竪穴住居跡15軒と敷石住居跡3軒が検出されている。

第II章 遺跡をとりまく環境

後期になると遺構の検出例は激減し、当遺跡を除くと、南蛇井増光寺遺跡で称名寺式期と堀之内式期の敷石住居跡が各1軒検出されているだけで、後期後半以降は、遺構・遺物はほとんど検出されていない。

弥生時代 この時代は、上位段丘面・丘陵地とともに下位段丘面にも遺跡が増加する。しかしながら、遺跡数は縄文時代に比べ少なく、発掘調査が行われている遺跡も少ない。

中期の遺構は、小塚遺跡で中期後半の住居跡7軒と環濠と思われる溝が検出されているが、他は内匠日影周地遺跡で住居跡1軒と、中高瀬観音山遺跡の隣接区域で住居が確認されている程度である。後期の遺構調査例は多く、住居跡が検出されているのは、内匠日影周地遺跡で13軒、下高瀬寺山遺跡で1軒、中高瀬観音山遺跡で103軒、南蛇井増光寺遺跡で154軒である。特に中高瀬観音山遺跡と南蛇井増光寺遺跡では100軒以上と多く、大規模な拠点集落であると言える。

古墳時代 この時代になると下位段丘面に古墳群・集落が大規模に展開するが、丘陵地にも多くの遺跡が存在している。

前期古墳と考えられるのは、北山茶臼山古墳と北山茶臼山西古墳である。両古墳は、鑄川右岸の丘陵上に存在するが、いずれも単独丘陵的な様相を呈す小丘陵上に立地する。北山茶臼山古墳は径40mの円墳と考えられ、三角縁神人車馬画像鏡や石釧が出土している。北山茶臼山西古墳は、全長28mの前方後方墳で、方格規矩鏡や鉄矛が出土している。出土土器や墳丘形態より、西古墳が茶臼山古墳に先行する可能性が高い。前期の住居跡は、内匠日影周地遺跡で1軒、下高瀬上之原遺跡で4軒、中高瀬観音山遺跡で3軒、中沢平賀界戸遺跡で3軒検出されており、内匠日影周地遺跡では方形周溝墓1基も検出されている。

富岡市域では中期の古墳はほとんど検出されていないかったが、関越道上越線の調査により内匠日影周地遺跡で1基、下高瀬上之原遺跡で5世紀後半～6世紀初頭の群集墳（7基）が検出された。また中期の住居跡は、中高瀬観音山遺跡で9軒検出されている。

後期には市域内の各所に多数の古墳が築かれるようになるが、これらは古墳群をなしているものが多い。主なものは、塚原古墳群、上田篠古墳群、善慶寺古墳群、長久保古墳群、桐淵古墳群、横瀬古墳群、芝宮古墳群、七日市古墳群、一ノ宮古墳群、神成古墳群、上小林古墳群、南蛇井古墳群、である。主要な古墳群は、すべて鑄川の両沿岸部の下位段丘面に集中している。古墳群周辺には、同時代の集落遺跡が存在している場合が多く、一ノ宮古墳群と本宿・郷土遺跡、長久保古墳群と内匠遺跡、上田篠古墳群と原田篠遺跡等があげられる。本宿・郷土遺跡から竪穴住居跡126軒、掘立柱建物跡3棟が、内匠遺跡から竪穴住居跡15軒が、原田篠遺跡から竪穴住居跡が8軒検出されている。この他住居跡は、内匠諏訪前遺跡で8軒、内匠日影周地遺跡で10軒、下高瀬上之原遺跡で39軒、中高瀬観音山遺跡で1軒、南蛇井増光寺・中沢平賀界戸遺跡では前期・後期合わせて300軒以上が検出されている。また、本宿・郷土遺跡で豪族の居館跡が、下高瀬上之原遺跡で谷頭を利用した水場に接して埴輪窯が検出された。

奈良・平安時代 奈良・平安時代の集落跡は、古墳時代後期の集落から継続して営まれている場合が多い。実際に発掘調査された例は少なく、本宿・郷土遺跡で竪穴住居跡99軒、内匠遺跡で竪穴住居跡10軒、原田篠遺跡で竪穴住居跡10軒、田篠上平遺跡で竪穴住居跡50軒、掘立柱建物跡23棟、内匠日向周地遺跡で竪穴住居跡5軒、下高瀬上之原遺跡で竪穴住居跡9軒、下高瀬寺山遺跡で竪穴住居跡2軒、中高瀬観音山遺跡で竪穴住居跡3軒、中高瀬庚申山遺跡で竪穴住居跡5軒、北山茶臼山古墳で竪穴住居跡1軒、野上塩之入遺跡で竪穴住居跡4軒、炭焼窯跡3基、南蛇井増光寺遺跡では竪穴住居跡100軒以上が検出されている。田篠上平遺跡と南蛇井増光寺遺跡以外は10軒以下の小規模なもので、古墳時代から継続しているもののほとんど規模が縮小している。古墳時代に下位段丘面に集落が営まれるようになるが、この時代には、奈良時代に始まる田篠



第6図 周辺の主要遺跡

第II章 遺跡をとりまく環境

上平遺跡の大規模集落に見られるように、丘陵上や上位段丘面の集落が減少して、下位段丘面にさらに多くの集落が新しく開始されるようになると思われる。また、浅間B軽石の降下以前の水田が内匠日向周地遺跡と南蛇井増光寺遺跡で検出されている。

中世 中世の遺跡の調査例は少ないが、本宿・郷土遺跡および隣接する稻荷森遺跡で、中世の溝、井戸、掘立柱建物、墓墳と考えられる土坑等が検出されている。内匠日向周地遺跡では中近世の水田2面が、南蛇井増光寺遺跡では中世の掘立柱建物、堀、井戸、土坑が、中沢平賀界戸遺跡では中世の竪穴状遺構、掘立柱建物、塚、墓墳が、検出されている。

鎭川の両岸には多くの城郭跡がある。地形の影響があるためか、立地は丘城と山城がほとんどで、平城はない。発掘調査が行われているものは少ないが、宮崎城で、二の丸の大部分と本丸東半部が行われ、本丸堀と柱穴6基が検出されている。宇田城では、西城が発掘され西面に犬走りが検出された。大島上城遺跡では、大島上城のテラス・柱穴列・土坑・虎口が検出され、塩之入城遺跡では、塩之入城の主郭部を中心に曲輪が数基調査されている。他に杣瀬城・下鎌田城が調査されている。

近世以降 近世以降の遺跡の調査例も少ないが、関越道上越線関係で調査例が増加した。内匠諏訪前遺跡で、近世の屋敷跡、掘立柱建物、井戸が検出されており、他に墓墳が田篠上平遺跡で1基、下高瀬上之原遺跡で13基、庚申塔基礎が中高瀬庚申山遺跡で、配石遺構が中沢平賀界戸遺跡で検出されている。農業生産関係の遺構では、浅間A軽石により埋没した畑が下高瀬前田遺跡で検出されている。

周辺主要遺跡一覧表

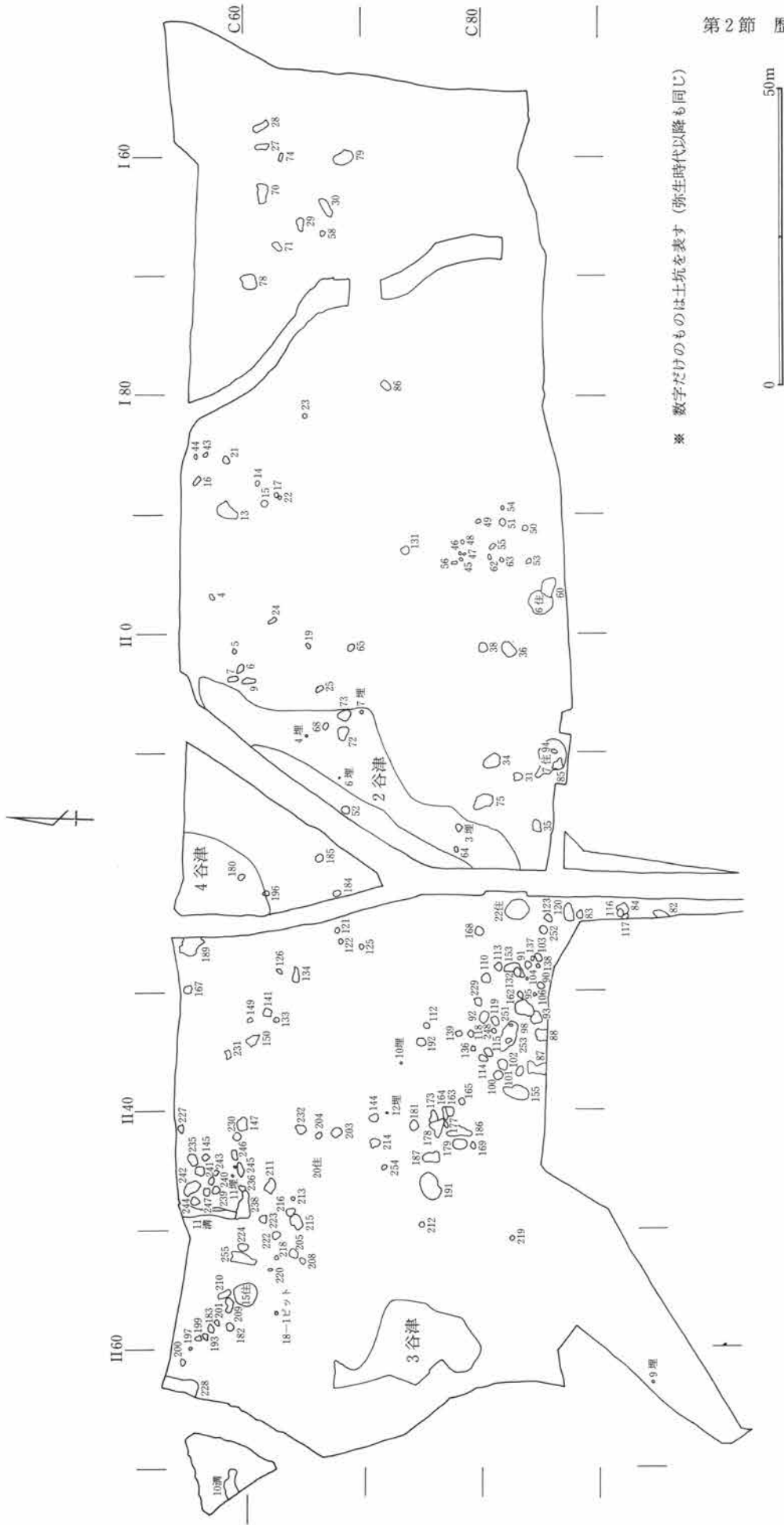
No	遺跡名	時代	種別	備考
1	葦城跡	中世	城館跡	
2	白岩遺跡	縄文時代、古墳時代	包蔵地	
3	後賀土橋	古墳時代	墳墓	
4	後賀遺跡	縄文時代	包蔵地	
5	庭谷城跡	中世	城館跡	
6	相野田	古墳時代	包蔵地	
7	諏訪谷古墳群	古墳時代	墳墓	
8	清水入古墳群	古墳時代	墳墓	8基存在。7世紀代の築造。
9	天王山城跡	中世	城館跡	
10	上の山遺跡	縄文時代	包蔵地	
11	桐谷古墳群	古墳時代	墳墓	
12	高林城跡	中世	城館跡	
13	背谷戸遺跡	縄文時代	包蔵地	
14	富岡城跡	中世	城館跡	
15	十王山烽火台	中世	城館跡	
16	妙部塚古墳	古墳時代	墳墓	
17	星田城跡	中世	城館跡	
18	塚原古墳群	古墳時代	墳墓	33基の円墳から成る。7世紀代の築造
19	天皇塚古墳	古墳時代	墳墓	前方後円墳。竪穴系の主体部と考えられる。5世紀前半の築造。
20	笹の森稻荷塚古墳	古墳時代	墳墓	周濠をもつ軸長100mの前方後円墳。両袖型横穴式石室をもつ。
21	二日市古墳群	古墳時代	墳墓	20基程の円墳が残る。5世紀後半からの築造。
22	久保遺跡	古墳時代	祭祀遺跡	滑石製模造品多数出土。
23	原田篠遺跡	古墳～平安時代	集落跡	『上田篠古墳群・原田篠遺跡』富岡市教委 1981
24	上田篠古墳群	古墳時代	墳墓	『上田篠古墳群・原田篠遺跡』富岡市教委 1981 30数基現存
25	善慶寺古墳群	古墳時代	墳墓	約20基現存。かつては50基以上存在。
26	下城跡	中世	城館跡	
27	中城跡	中世	城館跡	
28	上野城跡	中世	城館跡	
29	中村遺跡	縄文時代、弥生時代 古墳時代	包蔵地	
30	大類屋敷跡	中世	城館跡	
31	浅湯城跡	中世	城館跡	
32	仁井屋城跡	中世	城館跡	
33	倉内城跡	中世	城館跡	

第2節 歴史的環境

No	遺跡名	時代	種別	備考
34	熊井戸屋敷跡	中世	城館跡	
35	国峰城跡	中世	城館跡	
36	峰城跡	中世	城館跡	
37	岡本堀ノ内	中世	城館跡	
38	内匠城跡	中世	城館跡	
39	内匠遺跡	古墳～平安時代	集落跡	〔内匠遺跡〕富岡市教委 1982
40	向山遺跡	古墳時代	集落跡	
41	長久保遺跡	古墳時代	墳墓	
42	芝宮古墳群	古墳時代	墳墓	〔芝宮古墳群〕富岡市教委 1992 105基存在。
43	陣屋遺跡	古墳時代	集落跡	
44	桐湖古墳群	古墳時代	墳墓	45基程存在。
45	富岡陣屋跡	中・近世	城館跡	
46	一本木遺跡	古墳時代	包蔵地	
47	天皇塚古墳	古墳時代	墳墓	
48	北山茶白山山西古墳 茶白山の砦跡	古墳時代 中世	墳墓 城館跡	三角縁神人車馬画像鏡出土。径40mの円墳か。
49	菅原遺跡	縄文時代、古墳時代	包蔵地	
50	原遺跡	縄文時代	包蔵地	
51	浅香入遺跡	中世	城館跡	
52	岩染城跡	中世	城館跡	
53	藤田城跡	中世	城館跡	
54	二ツ山城跡	中世	城館跡	
55	大島上城跡	中世	城館跡	
56	大島下城跡	中世	城館跡	
57	横瀬古墳群	古墳時代	墳墓	〔横瀬古墳群〕富岡市教委 1989 27基分布。
58	七日市古墳群	古墳時代	墳墓	26基分布。御三社古墳（前方後円墳）含む。6～7世紀代の築造。
59	七日市陣屋跡	中世	城館跡	
60	観音前遺跡	縄文時代	包蔵地	
61	黒川遺跡	縄文時代	包蔵地	
62	御廟塚古墳	古墳時代	墳墓	終末期古墳。銅製帯金具出土。
63	黒川城跡	中世	城館跡	
64	小塚遺跡	縄文時代、弥生時代	集落跡	〔小塚・六反田・久保田遺跡〕富岡市教委 1987
65	生田遺跡	縄文時代	包蔵地	
66	本宿・郷土遺跡	縄文時代、古墳時代 奈良・平安時代、中世	集落跡 居館跡	縄文・古墳～平安の集落跡、古墳時代の豪族居館跡、中世の建物、堀等を検出。〔本宿・郷土遺跡〕富岡市教委 1981
67	一の宮古墳群	古墳時代	墳墓	17基存在。前方後円墳2基を含む。（太子堂塚・堂山稲荷）
68	貫前神社遺跡	縄文時代	包蔵地	
69	阿蘇岡遺跡	縄文時代、弥生時代	包蔵地	
70	不動塚古墳	古墳時代	墳墓	
71	金比羅山の砦	中世	城館跡	
72	山根遺跡	古墳時代	包蔵地	円筒埴輪、形象埴輪散布。
73	恵下原遺跡 宇田城跡	縄文時代、古墳時代 中世	集落跡 城館跡	滑石製模造品・未製品・剥片等多数発見。
74	前期高田館	中世	城館跡	
75	高田城跡	中世	城館跡	
76	高田西城跡	中世	城館跡	
77	押出遺跡	古墳時代	集落跡	
78	宮崎城跡	中世	城館跡	
79	神成城跡	中世	城館跡	
80	胴塚古墳	古墳時代	墳墓	
81	神農原古墳群	古墳時代	墳墓	
82	大山城跡	中世	城館跡	
83	中山古墳群	古墳時代	墳墓	
84	野上の砦	中世	城館跡	
85	杉瀬古墳群	古墳時代	墳墓	
86	下鎌田古墳群	古墳時代	墳墓	
87	上小林古墳群	古墳時代	墳墓	
88	鷹ノ巣城跡	中世	城館跡	
89	吉崎城跡	中世	城館跡	
90	馬山西城跡	中世	城館跡	
91	馬山東城跡	中世	城館跡	
92	竹ノ上古墳群	古墳時代	墳墓	

第II章 遺跡をとりまく環境

No	遺跡名	時代	種別	備考
93	大塚古墳	古墳時代	墳墓	
94	原城跡	中世	城館跡	
95	南蛇井古墳群	古墳時代	墳墓	52基存在。6世紀後半～7世紀代築造。
96	平賀城跡	中世	城館跡	
97	蚊沼の砦	中世	城館跡	
98	原の内出跡	中世	城館跡	
99	丹生5号墳	古墳時代	墳墓	
100	丹生3・4号墳	古墳時代	墳墓	
101	山口古墳群	古墳時代	墳墓	
102	丹生城跡	中世	城館跡	
103	丹生東城跡	中世	城館跡	
104	5分一遺跡	縄文時代	包蔵地	
105	金乗塚古墳	古墳時代	墳墓	
106	中山遺跡	縄文時代	包蔵地	
107	早道場遺跡	古墳時代	集落跡	
108	千足古墳群	古墳時代	墳墓	
109	千足遺跡	縄文～平安時代	集落跡	
110	和田遺跡	縄文時代	包蔵地	
111	和田古墳群	古墳時代	墳墓	
112	郷土ヶ谷津の砦	中世	城館跡	
113	筑前上の砦	中世	城館跡	
114	長根羽田倉遺跡	縄文～平安時代	集落跡	〔長根羽田倉遺跡〕(財)群埋文 1990
115	長根安坪遺跡	縄文～平安時代	集落・墳墓	縄文～平安の集落・墳墓が集中する。
116	天引口明塚遺跡	古墳時代	墳墓	〔神保下條遺跡〕(財)群埋文 1992
117	天引狐崎遺跡	弥生・古墳時代、中世	集落・墳墓	
118	天引向原遺跡	先土器～近世	集落跡	
119	白倉下原遺跡	先土器～近世	集落跡	古墳～平安の大集落。滑石製工房跡検出。
120	白倉東八幡遺跡	縄文・古墳時代	集落跡	
121	白倉南水塚遺跡	縄文・古墳時代	集落跡	
122	上野松葉遺跡	古墳～平安時代	集落跡	
123	上野寺場遺跡	弥生～平安時代	集落跡	
124	田篠上平遺跡	古墳、奈良・平安時代	墳墓・集落	〔田篠上平遺跡〕(財)群埋文 1989
125	田篠中原遺跡	縄文時代	集落跡	〔田篠中原遺跡〕(財)群埋文 1990
126	善慶寺早道場遺跡	古墳～平安時代	集落跡	古墳時代後期以降の集落。
127	内匠上之宿遺跡	縄文～古墳時代、中世	集落・城跡	当該遺跡
128	内匠諏訪前遺跡	縄文～古墳時代、近世	集落跡	〔内匠諏訪前遺跡・内匠日影周地遺跡〕(財)群埋文 1992
129	内匠日影周地遺跡	縄文・弥生・古墳時代	集落・墳墓	〔内匠諏訪前遺跡・内匠日影周地遺跡〕(財)群埋文 1992
130	下高瀬前田遺跡	近世	生産跡	江戸時代の畑跡。
131	内匠日向周地遺跡	古墳～平安時代、中世	生産跡	平安時代・中近世の水田。木製品多数出土。
132	下高瀬上之原遺跡	縄文～平安時代	集落・墳墓	古墳～平安時代の集落、中期古墳群、埴輪窯跡を検出。
133	下高瀬寺山遺跡	縄文・弥生・平安時代	集落跡	縄文前期の小規模集落。
134	中高瀬観音山遺跡	縄文・弥生～奈良時代	集落跡	弥生時代後期の拠点集落。
135	中高瀬庚申山遺跡	縄文・弥生～平安時代	集落跡	平安時代の住居跡から須恵器の水瓶出土。
136	北山茶白山古墳	古墳・平安時代	墳墓	〔大島上城遺跡・北山茶白山古墳〕(財)群埋文 1988
137	大島上城遺跡	中近世	城館跡	〔大島上城遺跡・北山茶白山古墳〕(財)群埋文 1988
138	野上塩之入遺跡	縄文・奈良・平安時代	集落跡	〔野上塩之入遺跡・塩之入城遺跡〕(財)群埋文 1991
139	塩之入城遺跡	古墳時代、中世	城館跡	〔野上塩之入遺跡・塩之入城遺跡〕(財)群埋文 1991
140	杣瀬遺跡	縄文・古墳時代、中世	墳墓・城跡	中世城郭杣瀬城の主郭部を調査。
141	下鎌田遺跡	縄文～平安時代、中世	集落・城跡	縄文時代中期の大集落。中世城郭下鎌田城を調査。
142	南蛇井増光寺遺跡	縄文～平安時代、中世	集落跡	縄文～中世の複合遺跡、各時代の住居跡が大規模に展開。
143	中沢平賀界戸遺跡	縄文～平安時代	集落跡	古墳時代後期の住居が主体。
144	前畑遺跡	縄文・古墳～平安時代	集落跡	
145	丹生城西遺跡	平安～近世	溝・土坑	
146	五分一遺跡	縄文・土師	散布地	
147	千足遺跡	縄文～平安時代	集落跡	
148	八木連荒畑遺跡	縄文～平安時代	集落跡	
149	八木連沢遺跡	弥生、奈良・平安時代	集落跡	〔古立東山遺跡・古立中村遺跡・八木連沢遺跡・八木連荒畑遺跡〕 妙義町遺跡調査会 1990
150	古立中村遺跡	縄文～平安時代	集落跡	
151	古立東山遺跡	縄文～平安時代	集落跡	



第7図 縄文時代遺構位置図

第Ⅲ章 検出された遺構と出土遺物

第1節 縄文時代

(1) 遺構・遺物の概要

住居跡

竪穴住居跡および敷石住居は、4軒（6・7・15・20住居跡 22号住居跡は形態・施設等から住居跡ではないと考えられる）検出されている。他に住居の可能性のある土坑（155・196・228土坑）埋設土器（11号埋設土器）も検出されている。これは、住居跡の一部の可能性のあるもので、155・228土坑は住居跡の約半分、196土坑・11号埋設土器は住居跡の炉だけが残ったものと考えられる。しかしながら、柱穴・炉の両方を備えているものはないため、確実に住居跡と呼べるものはない。

①分布 住居跡4軒は、丘陵上に散在している。7・8号住は調査区中央南側の、調査区内では最も高くなっている、丘陵上の比較的平坦な場所に位置し、15・20号住は調査区西側の、谷地に向かって低くなり始める緩斜面上に位置している。

②時期 時期は、出土遺物によると、6号住が中期阿玉台式期、20号住が中期加曽利E 4式期、15号住が後期称名寺II式期、7号住が後期堀之内II式期である。住居跡以外の4基の時期は、196土坑・11号埋設土器が称名寺II式期、155土坑が堀之内I式期、228土坑が堀之内II式期である。

③平面形態 平面形態は、円形のもの2、柄鏡形のもの1、不明1で、住居以外の4基は、削平等で当時の平面形態は不明である。

④主軸方向 主軸方向のはっきりするものは柄鏡形の7号住だけで、南東方向に向いている。

⑤床面・掘り方 床面のはっきりしない20号住以外は貼床が施されているが、強く踏み固められている住居はなく、比較的軟弱な床面である。

⑥炉 各住居間に時期差があるためか、炉の形態も、6号住が埋甕炉、7号住が石囲炉、15号住が地床炉と様々である。196号土坑・11号埋設土器は地床炉になると考えられる。

⑦柱穴 柱穴が確認された住居は7・15号住の2軒で、柄鏡形の7号住は主体部の壁際に多数、円形の15号住は壁からやや内側に入って5基検出された。

⑧入り口施設 柄鏡形の住居は張出部が入り口になると考えられる。

土坑

縄文時代の土坑は185基（住居の可能性のある3基は除く）検出されている。

①分布 谷地部を除いた台地上のほぼ全面に分布しているが、調査区北西部から南部にかけて特に集中している。しかし調査区南東部にはほとんど存在しない。

②時期 中期初頭から後期にかけてのものがほとんどで、特に後期のものが多い。完形やそれに近いかたちの土器を出土する土坑は少なく、破片しか出土しない土坑が多いため、時期を限定することは難しいが、ほぼ時期を確定できるものは、五領ヶ台式期1基、加曽利E 3式期1基、加曽利E 4式期4基、称名寺I式期2基、称名寺II式期5基、堀之内I式期1基、堀之内II式期11基、計25基ある。また、時期は確定できないが、出土遺物からその遺物の時期以降であるものが、五領ヶ台式期以降2基、加曽利E式期以降8基、称名寺I式期以降4基、称名寺II式期以降22基、堀之内I式期以降26基、堀之内II式期以降37基、計99基ある。

③形態 平面形態がA～Eの5形態に分類でき、断面形態がa～eの5形態に分類できる。

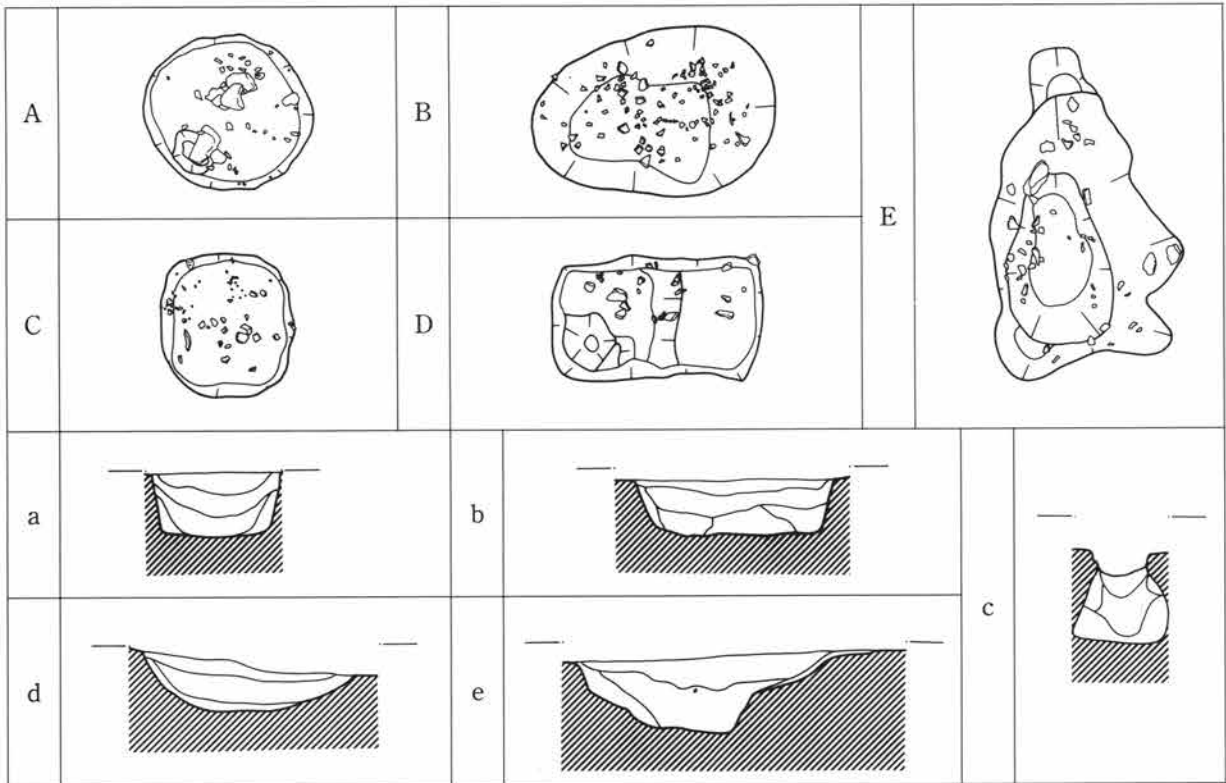
- 平面形態 A 円形のもの（短径：長径＝1：1.2以下）
 B 楕円形のもの（短径：長径＝1：1.2以上）
 C 隅丸方形のもの（短径：長径＝1：1.2以下）
 D 隅丸長方形のもの（短径：長径＝1：1.2以上）
 E 不正形のもの

- 断面形態 a 壁が垂直に近く立ち上がるもの b 壁が傾斜して立ち上がるもの
 c 壁が内傾して袋状を呈するもの d 壁、底部が丸みをもち、鍋底状を呈するもの
 e 不正形のもの

土坑形態別数量表

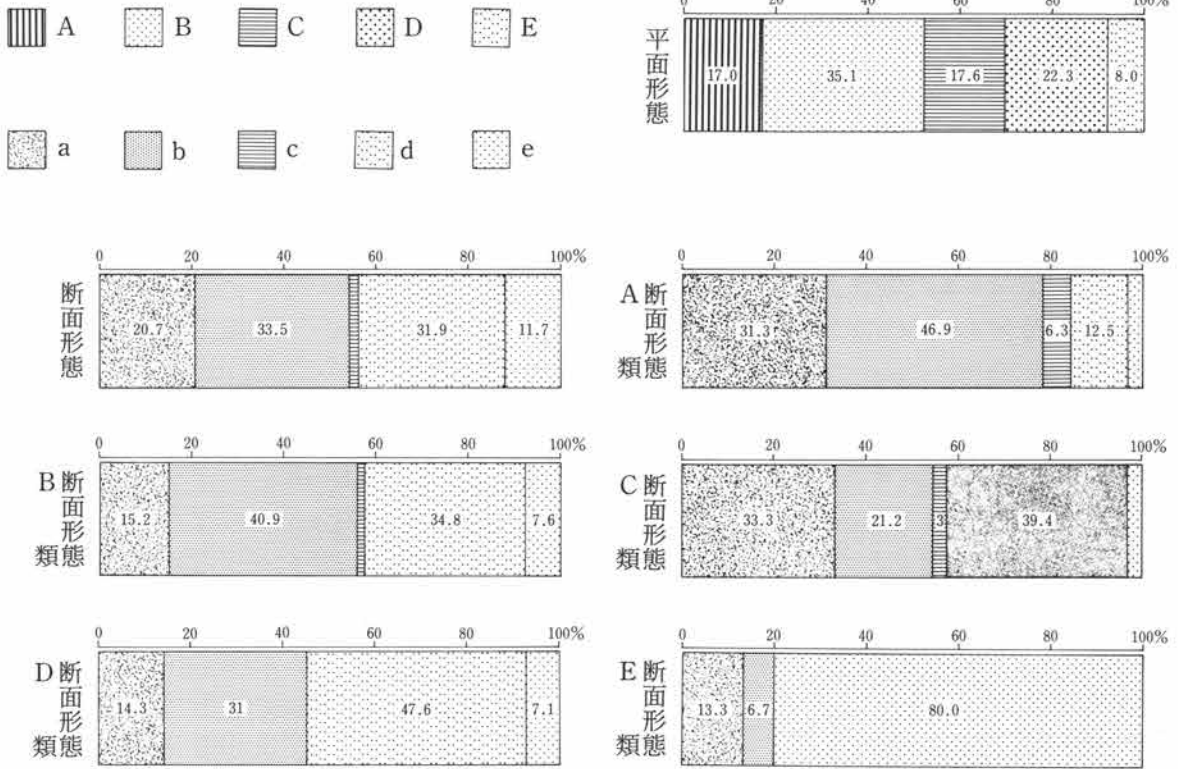
基数	断面形態						計
	a	b	c	d	e		
平面形態	A	10	15	2	4	1	32
	B	10	25	1	23	5	64
	C	11	7	1	13	1	33
	D	5	13	0	20	3	41
	E	2	1	0	0	12	15
計	38	61	4	60	22	185	

%	断面形態						計
	a	b	c	d	e		
平面形態	A	31.3	46.9	6.3	12.5	3.1	17.3
	B	15.6	39.1	1.6	35.9	7.8	34.6
	C	33.3	21.2	3.0	39.4	3.0	17.8
	D	12.2	31.7	0.0	48.8	7.3	22.2
	E	13.3	6.7	0.0	0.0	80.0	8.1
計	20.5	33.0	2.2	32.4	11.9	100.0	



第8図 縄文時代土坑分類図

第三章 検出された遺構と出土遺物



第9図 土坑分類グラフ

埋設土器

埋設土器は10基（住居の可能性のある11号は除く）検出されている。出土状況は、正位のものが9基、逆位が2基であり、時期は、五領ヶ台式期が1基、称名寺Ⅱ式期が4基、堀之内Ⅱ式期が2基、不明が3基である。

配石遺構

配石遺構は5基検出されている。土器の出土が少ないため、時期を確定できるものはない。

溝状遺構

溝状遺構は2条検出されている。時期はいずれも堀之内Ⅱ式期のものと考えられる。

ピット

縄文時代と考えられるピットが2基検出されているが、性格は不明である。

谷津状遺構・落ち込み

自然の埋没谷と考えられる谷津状の遺構が4、自然の小さな落ち込みが1検出されている。前期から後期にかけての遺物が多量に出土しているのに対し、弥生時代以降の遺物は出土していないため、縄文時代後期から弥生時代後期にかけての間に埋没したものと考えられるが、縄文時代の遺物しか出土していないため、ここでは縄文時代の遺構として扱う。

遺物

土器

縄文時代の土器は総数48,523点出土している。時期的には前期から後期に及ぶが、中期末から後期前半に

かけてのものが圧倒的に多く、他の時期のものは少量である。本書では便宜的に、時期によりⅠ～Ⅶ群に分類し、各群を更に2～7類に細分して、群・類で表すことにする。ただし、土器の形態が復元できるものは少なく破片が多いため、分類は胴部文様を主眼においている。

Ⅰ群 前期の土器を一括して本群とする。

- 1類 関山式土器 2類 黒浜式土器 3類 有尾式系の土器
- 4類 諸磯a式土器 5類 諸磯b式土器 6類 諸磯c式土器

Ⅱ群 前期末～中期初頭の土器を本群とする。

- 1類 半截竹管状工具による沈線・刺突文・結節沈線等で文様を描くもの
- 2類 半截竹管状工具による集合沈線を主とするもの
- 3類 縄文を地文とし沈線で文様を描くもの
- 4類 縄文・結節縄文を主とするもの

Ⅲ群 中期中葉の土器を本群とする。

- 1類 爪形文・キャタピラ文・ペン先状刺突文等を主とするもの
- 2類 沈線と隆帯文を主とするもの
- 3類 結節沈線を主とするもの
- 4類 縄文を地文とするもの
- 5類 その他

Ⅳ群 加曾利E3式土器を本群とする。

- 1類 隆帯文で文様を区画するもの
- 2類 隆帯文と沈線で文様を区画するもの
- 3類 沈線で文様を区画するもの

Ⅴ群 加曾利E4式土器を本群とする。

- 1類 隆帯文で文様を区画するもの
- 2類 隆帯文と沈線で文様を区画するもの
- 3類 沈線で文様を区画するもの
- 4類 縄文のみ施文され沈線・隆帯文等の区画をもたないもの
- 5類 沈線・隆帯文等の区画内に条線文を施すもの
- 6類 その他

Ⅵ群 後期称名寺Ⅰ式土器を本群とする。

- 1類 沈線区画内に縄文を施すもの
- 2類 口縁部下に隆帯文を巡らすもの
- 3類 隆帯文区画内に縄文を施すもの
- 4類 その他

Ⅶ群 後期称名寺Ⅱ式土器を本群とする。

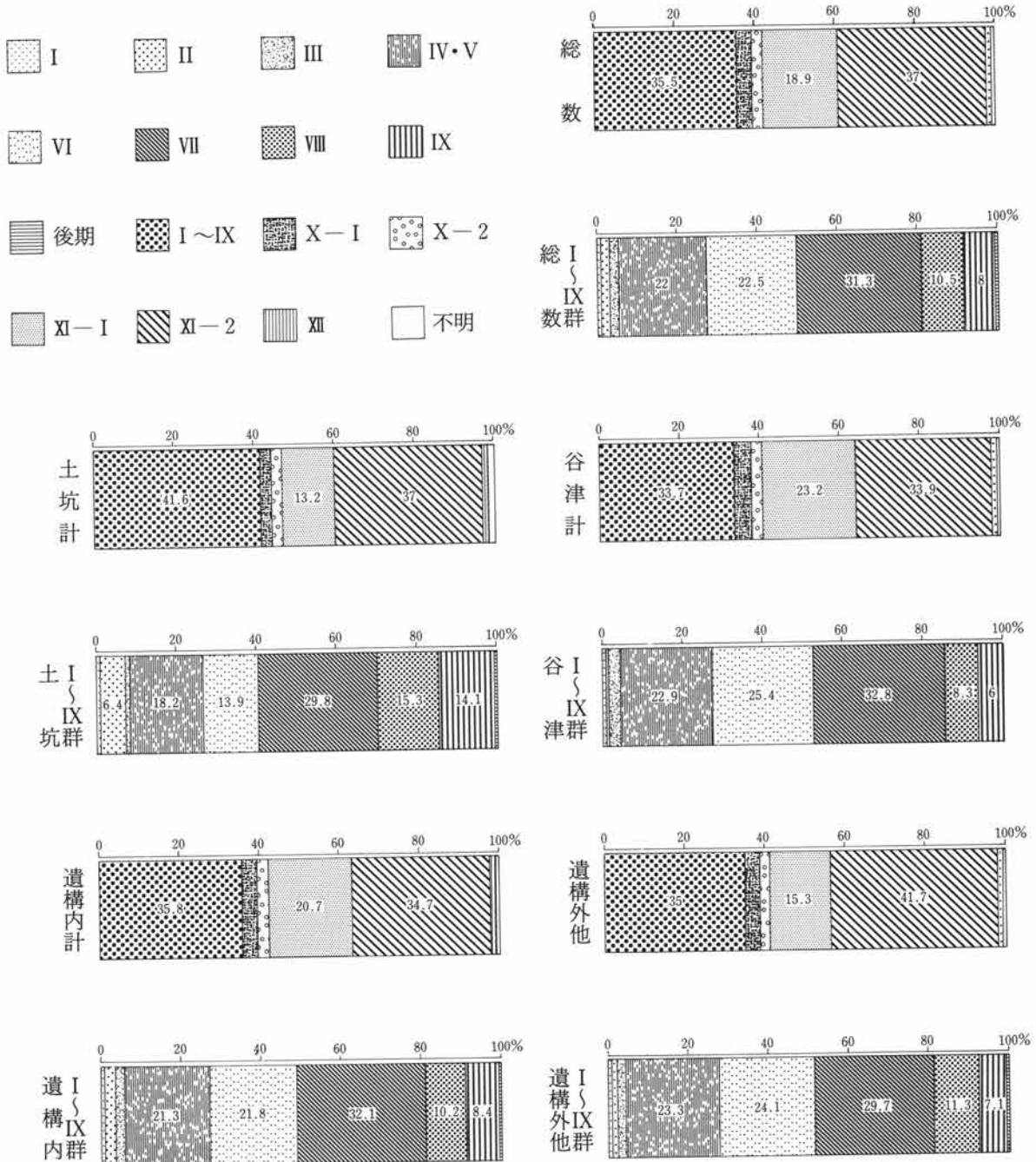
- 1類 沈線区画内に刺突文・短沈線・条線等を施すもの
- 2類 沈線だけで文様を描くもの
- 3類 沈線区画内に縄文を施すもの
- 4類 沈線と隆帯文・貼付文等で文様を描くもの

第三章 検出された遺構と出土遺物

群別出土土器数量表

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	I~IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	計
総数	178	386	407	3,788	3,885	5,405	1,818	1,378	3	17,248	1,848	1,343	9,179	17,931	637	337	48,523
%	1.0	2.2	2.4	22.0	22.5	31.3	10.5	8.0	0.0	35.5	3.8	2.8	18.9	37.0	1.3	0.7	
土坑計	32	201	38	575	438	938	483	445	2	3,152	215	207	999	2,803	104	92	7,572
%	1.0	6.1	1.2	18.2	13.9	29.8	15.3	14.1	0.1	41.6	2.8	2.7	13.2	37.0	1.8	1.2	
谷津計	84	47	248	1,880	2,084	2,691	679	490	0	8,203	1,043	717	5,663	8,267	342	139	24,374
%	1.0	0.6	3.2	22.9	25.4	32.8	8.3	6.0	0	33.7	4.3	2.9	23.2	33.9	1.4	0.6	
遺構計	120	316	287	2,499	2,548	3,757	1,190	987	0	11,706	1,269	935	6,749	11,325	449	234	32,667
%	1.0	2.7	2.5	21.3	21.8	32.1	10.2	7.1	0	35.8	3.9	2.9	20.7	34.7	1.4	0.7	
遺構外	58	70	120	1,289	1,337	1,648	628	391	0	5,542	579	408	2,430	6,606	188	103	15,856
%	1.0	1.3	2.4	22.0	22.5	31.3	10.5	8.0	0	35.0	3.7	2.6	15.3	41.7	1.2	0.6	

I群からIX群の百分率は、I~IX群の合計中の割合を示し、他は総数中の割合を示す。



第10図 縄文土器分類グラフ

5類 浅鉢形土器

6類 その他

VIII群 堀之内I式土器を本群とする。

1類 沈線区画内に縄文を施すもの

2類 縄文を地文とし沈線で文様を描くもの

3類 沈線区画内に刺突文・条線文等を施すもの

4類 沈線だけで文様を描くもの

5類 隆帯文・貼付文を主とするもの

6類 浅鉢形土器

7類 その他

IX群 堀之内II式土器（一部加曾利B式土器をふくむ）を本群とする。

1類 幾何学文・渦巻文等の沈線区画内に磨消縄文を施すもの

2類 沈線を主体として文様の描かれるもの

3類 口縁部外面に指頭によるナデを施すもの

4類 注口土器

5類 その他

6類 加曾利B式土器

X群 中期～後期にかけての縄文施文土器を一括して本群とする。

1類 縄文の太いもの 2類 縄文の細いもの

XI群 中期～後期にかけての無文土器を一括して本群とする。

1類 器厚の厚いもの 2類 器厚の薄いもの

XII群 中期～後期にかけての条線文土器を一括して本群とする。

石器

縄文時代の石器・剥片等は総数2,923点出土している。このうち2,056点が石器製作時の剥片・碎片・石核であり、石器(本来の意味の道具としての石器)は867点である。器種は、石鏃、石槍、石錐、ピエスエスキュー、石匙、打製石斧、磨製石斧、礫器、スクレイパー、ノッチ、微細剝離痕のある剥片、二次加工痕のある剥片、磨石、くぼみ石、石皿、多孔石、台石、敲打石、丸石、砥石、石棒、石錘の計22種類が出土している。石器については、時期を確定することは難しく、個々の石器の属する時期は不明であるが、土器と同様に中期後半から後期前半にかけてのものがほとんどであると考えられる。

石鏃 18点出土している。基部の判明するものは16点あり、基部の形態で分類すると、凹基無茎が11点、平基無茎が4点、凸基有茎が1点となっている。

石槍 2点(3点の可能性あり)出土している。基部形態の判明するものは1点で、無茎である。

石錐 1点出土している。棒状を呈し、先端部が摩耗している。

ピエスエスキュー 楔型石器とも呼ばれ、両極剝離痕をもつものである。3点出土している。

石匙 5点出土している。平面形態により分類可能なものは4点で、横型3点、縦型1点となっている。

打製石斧 217点出土している。平面形態により分類可能なものは158点あり、分銅型・撥I型(側縁が内湾する)・撥II型(側縁が直線状)・短冊型の4種類に分類できる。各型の点数は、分銅型31点(19.6%)、撥I型

第三章 検出された遺構と出土遺物

40点(25.3%)、撥II型45点(28.5%)、短冊型42点(26.6%)となり、撥II型が最も多く分銅型が少ないが、その差は10%以内で大きな差はなく、平均して出土しているとすることができる。

磨製石斧 48点出土している。完成品、完形品は少なく、平面形態による分類は不能である。未製品が多いため、粗割→敲打→研磨の製作工程に沿って分類すると、①粗割途中、②粗割段階、③敲打途中、④敲打段階、⑤研磨途中、⑥研磨段階の6段階に分けられる。各段階の点数は、①7(14.6%)、②3(6.2%)、③2(4.2%)、④3(6.2%)、⑤15(31.3%)、⑥18(37.5%)となっており、研磨段階(完成品)が最も多いが、未製品の合計は30点と完成品の倍近く出土している。未製品では、荒割途中と研磨途中が多くなっている。

礫器 1点出土している。自然礫を粗く加工したものである。

スクレイパー 65点出土している。刃部を側縁にもつもの(削器)と端部にもつもの(搔器)があるが端部にもつものは1点のみで、他はすべて側縁部にもつ。

ノッチ 剝片の中央に凹型の抉りを作り出したもの。1点出土している。

微細剝離痕のある剝片 意図的な刃部加工とは考えられない、微細な剝離痕を有する剝片を一括した。一般的に使用痕のある剝片とされるものであるが、必ずしも使用痕と断定できないものもあるためこの名称を用いた。計38点出土している。

二次加工痕のある剝片 剝片に二次的な加工を施したもの。3点出土している。

磨石・くぼみ石 磨石・くぼみ石については、磨面とくぼみを両方もつもののがかなりあり、明確な区別ができないため、分類は両者まとめて行った。計215点出土している。本文中では、磨面があってもくぼみがしっかりしているものをくぼみ石、くぼみのはっきりしないものを磨石としてある。磨面・くぼみの有無により分類可能なものは162点あり、1類一片面に磨面をもつもの、2類一両面に磨面をもつもの、3類一片面に磨面とくぼみをもつもの、4類一両面に磨面とくぼみをもつもの、5類一両面に磨面片面にくぼみをもつもの、6類一片面に磨面両面にくぼみをもつもの、7類一片面に磨面片面にくぼみをもつもの、8類一片面にくぼみをもつもの、9類一両面にくぼみをもつもの、に分類できる。各級の点数は、1類37点(22.8%)、2類32点(19.8%)、3類4点(2.5%)、4類13点(8.0%)、5類10点(6.2%)、6類3点(1.9%)、7類1点(0.6%)、8類25点(15.4%)、9類37点(22.8%)となっており、磨面だけを持つもの(69点 42.6%)、くぼみだけを持つもの(62点 38.3%)がほぼ同数で、磨面とくぼみを両方持つもの(31点 19.1%)はやや少なくなっている。

石皿 36点出土している。完形品は少なく平面形態による分類は不能であるが、磨面・くぼみの有無による分類が可能なものが24点ある。1類一磨面が片面だけのもの、2類一磨面を両面に持つもの、3類一裏面にくぼみを持つもの、4類一両面に磨面・くぼみを持つもの、5類一片面に磨面両面にくぼみを持つものに分けられる。各級の点数は、1類12点、2類4点、3類5点、4類2点、5類1点となっており、くぼみを持つもの(8点)がくぼみを持たないもの(16点)の半数出土している。

多孔石 69点出土している。石皿同様完形品は少なく、平面形態による分類は不可能である。くぼみが片面だけにあるものと両面にあるものがある。

台石 大型の偏平な石で敲打痕等があり、工作台・敲台の可能性のあるものを台石とした。弥生・古墳時代のものの可能性もあるため、縄文の遺構出土のものに限った。2点出土している。

敲打石 棒状の礫で、端部に敲打痕のあるものを敲打石とした。2点出土している。

丸石 球形もしくはつぶれた球形を呈する。14点出土している。

砥石 弥生時代以降のものとの判別が困難なものもあるため、縄文時代の遺構出土のものに限った。溝を持つものが1点出土しており、他は平坦な研ぎ面を持つ。

出土石器数量表

点 数

器 種	総 計		住 居 計		土 坑 計		谷 津 計		遺構出土計		遺 構 外 他	
	点 数	%	点 数	%	点 数	%	点 数	%	点 数	%	点 数	%
石 鍬	19	0.7	1	1.1	4	1.0	5	0.5	10	0.6	9	0.7
石 槍	2	0.1			1	0.2	1	0.1				
石 錐	1	0.03									1	0.1
ピエスエスキーユ	3	0.1					2	0.2	2	0.1	1	0.1
石 匙	4	0.1									4	0.3
打 製 石 斧	217	7.4	1	1.1	27	6.6	90	8.5	120	7.5	97	7.2
磨 製 石 斧	48	1.6	1	1.1	9	2.1	19	1.8	29	1.8	19	1.4
礫 器	1	0.03					1	0.1				
スクレイパー	65	2.2	3	2.3	11	2.7	18	1.7	32	2.0	33	2.5
ノ ッ チ	1	0.1			1	0.2			1	0.1		
微細剝離痕のある剥片	38	1.3			2	0.5	19	1.8	21	1.3	17	1.2
二次加工痕のある剥片	3	0.1					1	0.1	1	0.1	2	0.2
磨 石	106	3.6	6	6.5	23	5.6	15	1.4	45	2.8	61	4.6
く ぼ み 石	109	3.7	7	7.6	18	4.4	21	2.0	46	2.9	63	4.7
石 皿	36	1.2	4	4.3	9	2.2	6	0.6	20	1.3	16	1.2
多 孔 石	69	2.4	5	5.4	17	4.1	9	0.8	33	2.1	36	2.7
台 石	2	0.1			1	0.2			2	0.1		
敲 打 石	2	0.1			1	0.2	1	0.1				
丸 石	14	0.5			1	0.2	4	0.4	7	0.4	7	0.5
砥 石	11	0.4			2	0.5	9	0.8	11	0.7		
石 棒	35	1.2	1	1.1	4	1.0	8	0.7	13	0.8	22	1.7
石 錘	9	0.3	1	1.1	2	0.5	1	0.1	4	0.3	5	0.4
剥 片	1,922	65.8	51	55.4	250	60.8	747	70.9	1,074	67.4	848	63.8
碎 片	16	0.5	2	2.2			19	1.8	21	1.3	1	0.1
石 核	118	4.0	6	6.5	21	5.1	33	2.1	61	3.8	57	4.2
そ の 他	70	2.4	2	0.2	7	1.7	34	3.2	43	2.7	32	2.4
計	2,921		91		411		1,063		1,596		1,331	

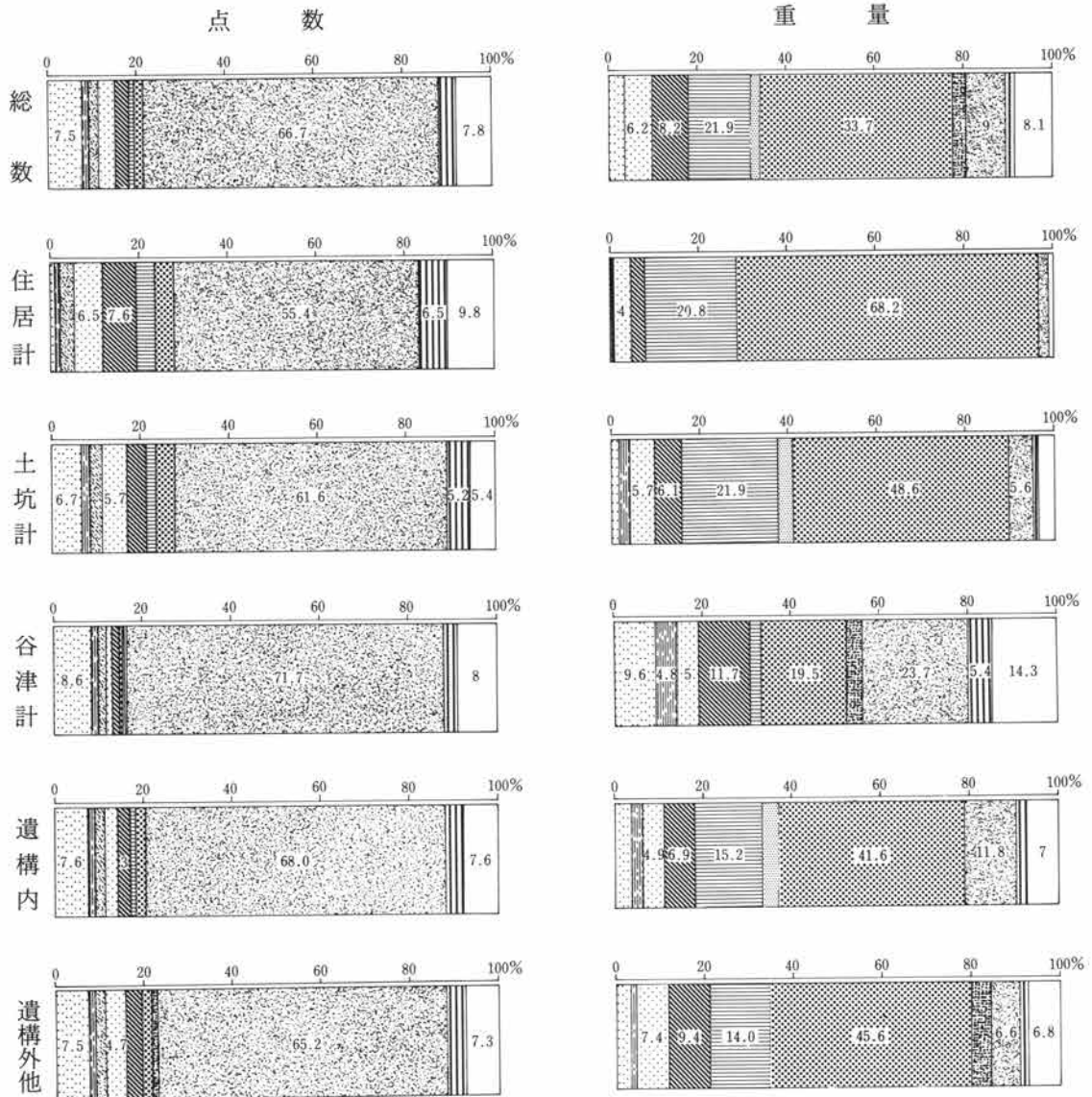
重 量

器 種	総 計		住 居 計		土 坑 計		谷 津 計		遺構出土計		遺 構 外 他	
	重量(g)	%	重量(g)	%	重量(g)	%	重量(g)	%	重量(g)	%	重量(g)	%
石 鍬	21.2	0.00	0.7	0.00	9	0.01	3.8	0.00	13.5	0.00	7.7	0.00
石 槍	65	0.01			5	0.00	60	0.06	65	0.02		
石 錐	1.7	0.00									1.7	0.00
ピエスエスキーユ	11.3	0.00					6.8	0.01	6.8	0.00	4.5	0.00
石 匙	83	0.02									83	0.02
打 製 石 斧	25,332	3.6	125	0.2	3,105	1.9	9,239	9.6	12,654	3.8	12,678	3.4
磨 製 石 斧	12,955	1.8	200	0.4	3,785	2.3	4,616	4.8	8,601	2.6	4,354	1.2
礫 器	215	0.03					215	0.06				
スクレイパー	5,991	0.8	190	0.4	888	0.5	2,007	2.1	3,085	0.9	2,906	0.8
ノ ッ チ	75	0.01			75	0.05			75	0.02		
微細剝離痕のある剥片	1,757	0.2					1,026	1.1	1,026	0.3	731	0.2
二次加工痕のある剥片	140	0.02					55	0.06	55	0.02	85	0.02
磨 石	44,187	6.2	2,045	4.0	9,496	5.7	4,805	5.0	16,526	4.9	27,661	7.4
く ぼ み 石	58,242	8.2	1,614	3.2	10,166	6.1	11,270	11.7	23,050	6.9	35,192	9.4
石 皿	105,534	14.5	10,630	20.8	36,395	21.9	2,459	2.5	50,984	15.2	54,550	14.0
多 孔 石	317,855	44.7	34,890	68.2	81,025	48.6	18,820	19.5	139,705	41.6	178,150	45.6
台 石	13,700	1.9			5,800	3.5			13,700	4.1		
敲 打 石	774	0.1			485	0.3	289	0.3	774	0.2		
丸 石	2,243	0.3			45	0.03	1,011	1.0	1,326	0.4	917	0.2
砥 石	840	0.1			65	0.04	775	0.8	840	0.3		
石 棒	21,251	3.0			647	0.4	3,585	3.7	4,232	1.3	17,019	4.5
石 錘	427	0.06	65	0.1	66	0.04	25	0.03	156	0.04	271	0.07
剥 片	64,008	9.0	1,193	2.3	9,301	5.6	22,871	23.7	39,443	11.8	24,565	6.6
碎 片	23	0.00	1	0.00			2	0.00	3	0.00	20	0.00
石 核	14,625	2.1	19	0.04	2,145	1.3	5,209	5.4	7,568	2.3	7,057	1.9
そ の 他	30,712	4.3	124	0.2	3,128	1.9	8,982	9.3	12,234	3.6	18,478	4.9
計	721,068		51,097		166,631		97,332		336,122		384,731	

第III章 検出された遺構と出土遺物

石棒 35点出土している。欠損品が多く形態分類は困難であるが、頭部にくびれのあるものが5点ある。未製品が多いため、磨製石斧同様製作段階により分類すると、①敲打段階、②研磨途中、③研磨段階の3段階のものがあり、①20点(60.6%)、②4点(12.1%)、③8点(24.3%)となり、敲打段階のものが圧倒的に多くなっている。

石錘 楕円形で偏平な礫の両端に刻みをいれたもので、網の錘にしたと考えられる。9点出土している。



第11図 石器器種別分類グラフ

石材

石器に使用された石材は35種類におよぶ。ここでは器種別の石材組成について見てみることにする。

石鏃 黒曜石が14点(73.7%)で圧倒的に多く、他にチャート3点(15.8%)、安山岩2点(10.5%)が出土している。

石槍 熱変成岩が1点、不明が1点である。

石錐 黒曜石製1点のみである。

ピエスエスキーユ 黒曜石製3点が出土している。

石匙 熱変成岩3点、黒曜石1点、不明1点である。

打製石斧 熱変成岩が126点(68.9%)で最も多く、続いて安山岩15点(8.2%)、結晶片岩15点(8.2%)、輝緑岩13点(7.1%)、流紋岩5点(2.7%)、角閃岩3点(1.6%)、閃緑岩・点紋系の結晶片岩が各2点(1.1%)、輝岩・放散虫板岩が各1点(0.5%)となっている。

磨製石斧 角閃岩20点(42.6%)、輝緑岩18点(38.3%)、結晶片岩5点(10.6%)、安山岩3点(6.4%)、ヒスイ1点(2.1%)となっている。打製石斧に比べ、角閃岩・輝緑岩など比重の高い石材を多く使用している。

礫器 熱変成岩製1点が出土している。

スクレイパー 熱変成岩58点(89.2%)、流紋岩5点(7.7%)、輝緑岩・安山岩各1点(1.5%)となっている。

ノッチ 熱変成岩製1点が出土している。

微細剝離痕のある剝片 熱変成岩27点(71.1%)、黒曜石4点(10.5%)、安山岩4点(10.5%)、赤鉄鉱珪岩2点(5.3%)、チャート1点(2.6%)となっている。

二次加工痕のある剝片 熱変成岩製3点が出土している。

磨石 安山岩60点(56.6%)、石英安山岩20点(18.9%)、輝緑岩9点(8.5%)、流紋岩8点(7.5%)、結晶片岩・閃緑岩・砂岩各2点(%)、角閃岩・熱変成岩・石英粗面岩各1点(%)となっている。

くぼみ石 点紋系の結晶片岩37点(33.9%)、結晶片岩34点(31.2%)、安山岩16点(14.7%)、輝緑岩10点(9.2%)、砂岩6点(5.5%)、流紋岩2点(%)、輝岩・石英安山岩・花崗斑岩・熔岩各1点となっている。

石皿 安山岩17点(47.2%)、点紋系の結晶片岩9点(25.0%)、砂岩5点(13.9%)、角閃岩2点(5.6%)、結晶片岩・輝緑岩・閃緑岩各1点(2.8%)となっている。

多孔石 点紋系の結晶片岩21点(30.4%)、結晶片岩19点(27.5%)、安山岩12点(17.4%)、砂岩10点(14.5%)、輝緑岩・石英安山岩各3点(4.4%)、閃緑岩1点(1.4%)となっている。

台石 安山岩製が2点出土している。

敲打石 輝緑岩・安山岩各1点である。

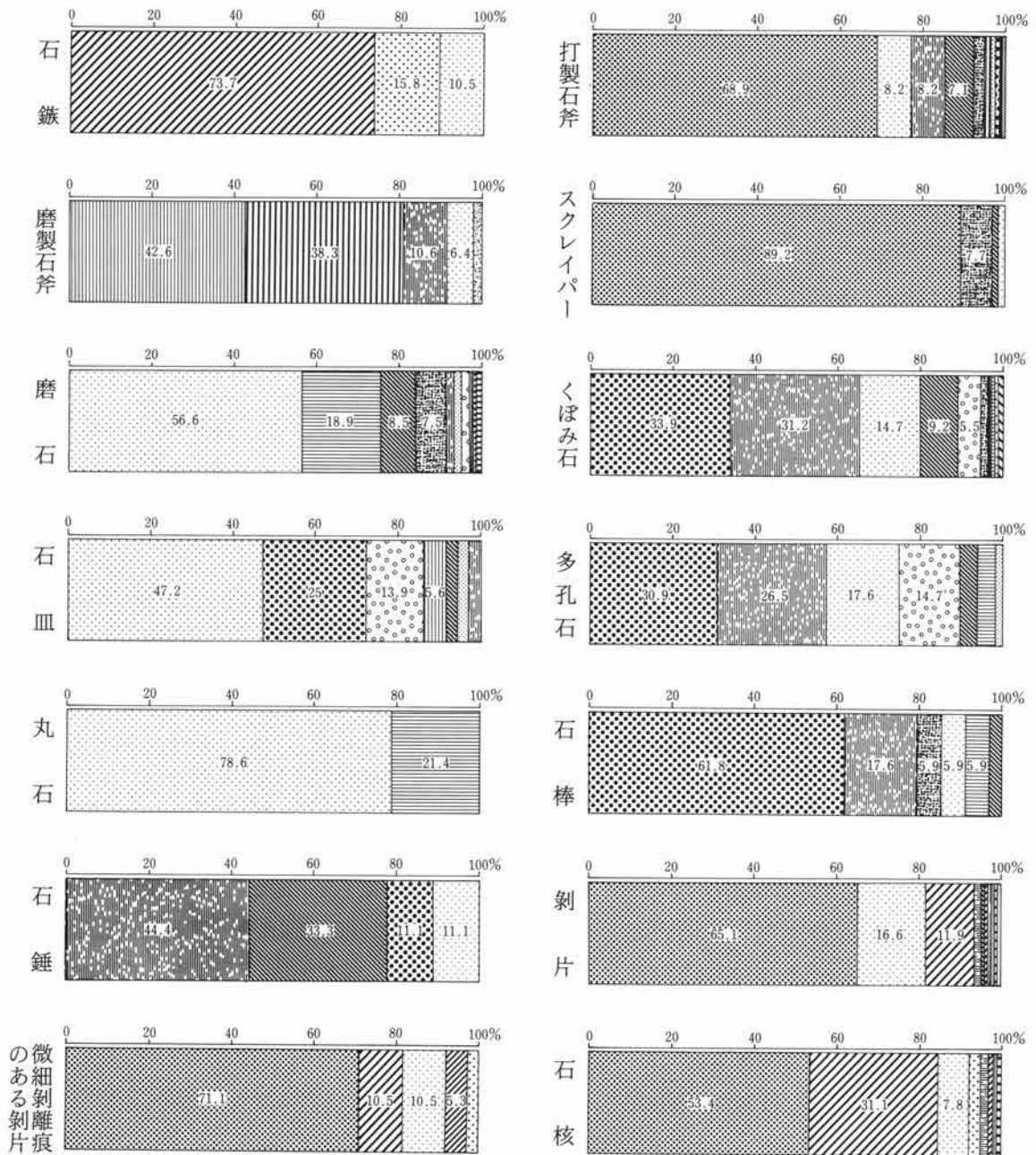
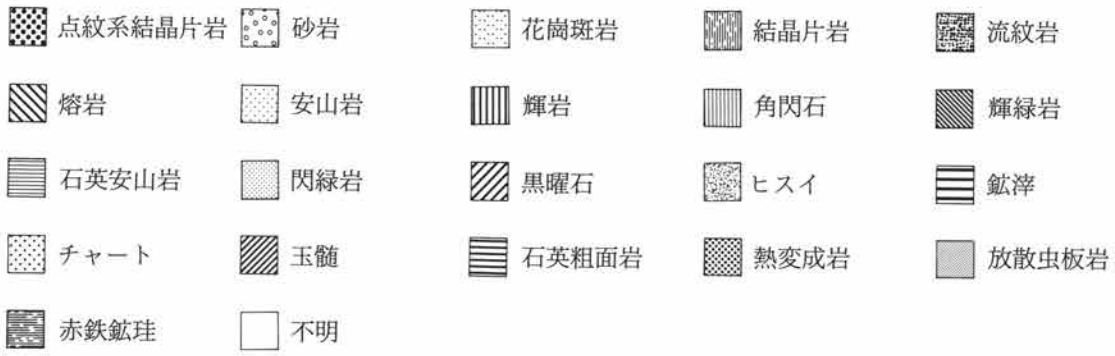
丸石 安山岩11点(78.6%)、石英安山岩3点(21.4%)となっており、すべて安山岩系石材を使用している。

砥石 砂岩が8点、流紋岩が1点である。

石棒 点紋系の結晶片岩21点(61.8%)、結晶片岩6点(17.6%)、流紋岩・安山岩・石英安山岩各2点(5.9%)、輝緑岩1点(2.9%)となっている。

石錘 結晶片岩4点、輝緑岩3点、点紋系の結晶片岩・安山岩各1点となっている。

第三章 検出された遺構と出土遺物



第12図 石器石材別分類グラフ

(2) 竪穴住居跡

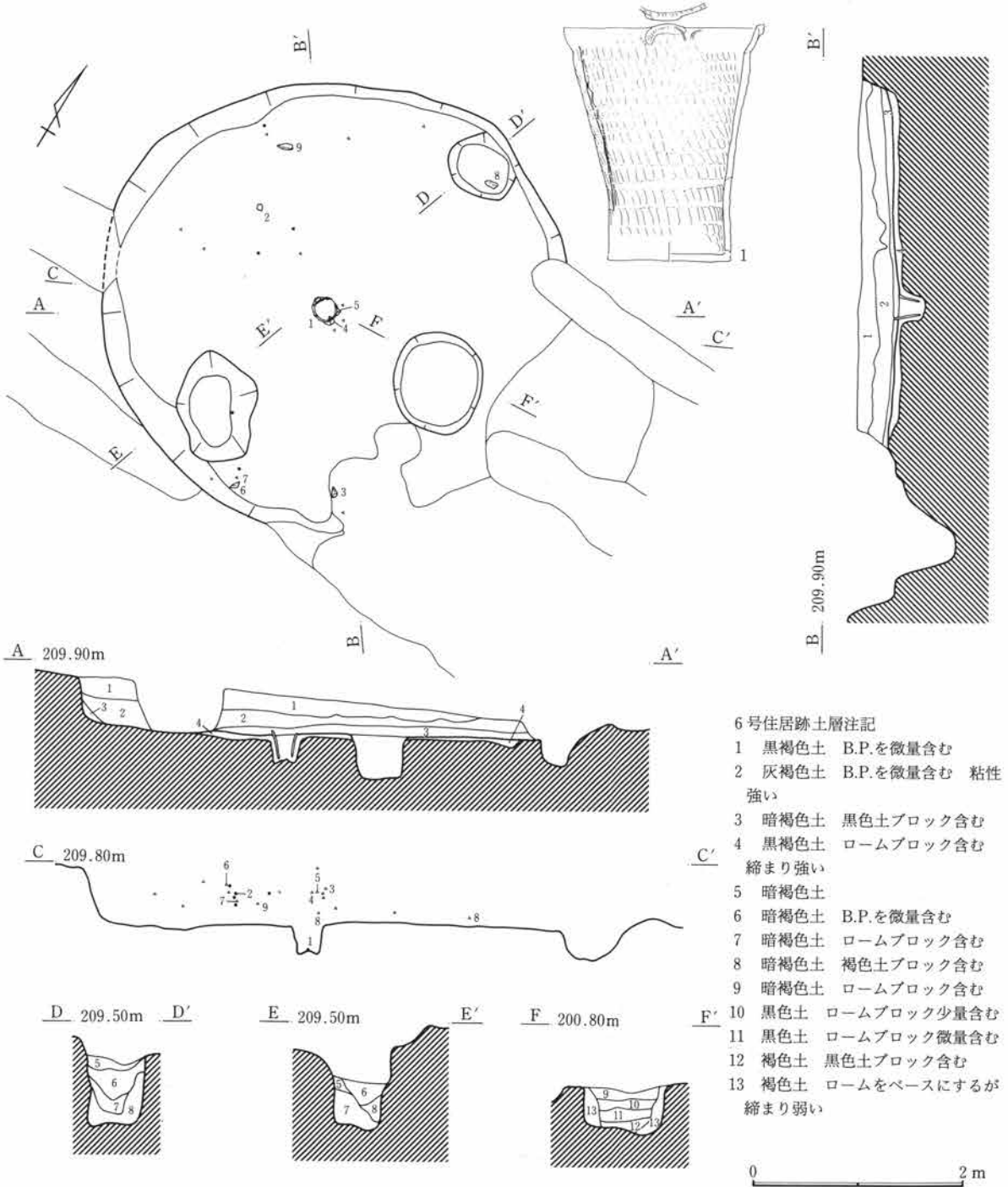
6号住居跡

位置 C84~85-I96~98Gr 重複 60号土坑より古 平面形態 円形 規模 4.5m×4.34m

壁高 40cm やや傾斜している 面積 14.0m² 床面積 12.1m² 壁溝 なし

柱穴 貼床除去後ピットが数基検出されたが、柱穴と断定できるものはない。 貯蔵穴 なし

床面 ロームブロックを含む黒褐色土を貼床としているが、比較的軟弱で硬く踏み固められた面は検出されていない。床面から土坑状の掘り込みが3基検出された。



第13図 6号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物

掘り方 掘り方面はほぼ平坦であるが、浅いピットが17基検出されている。

遺物出土状況 炉体土器以外は、覆土上～中層から土器・石器がまばらに出土しただけである。

炉 底の無い深鉢形土器を炉体とする埋壺炉。掘り方は42cm×33cmの楕円形で、深さ27cmである。

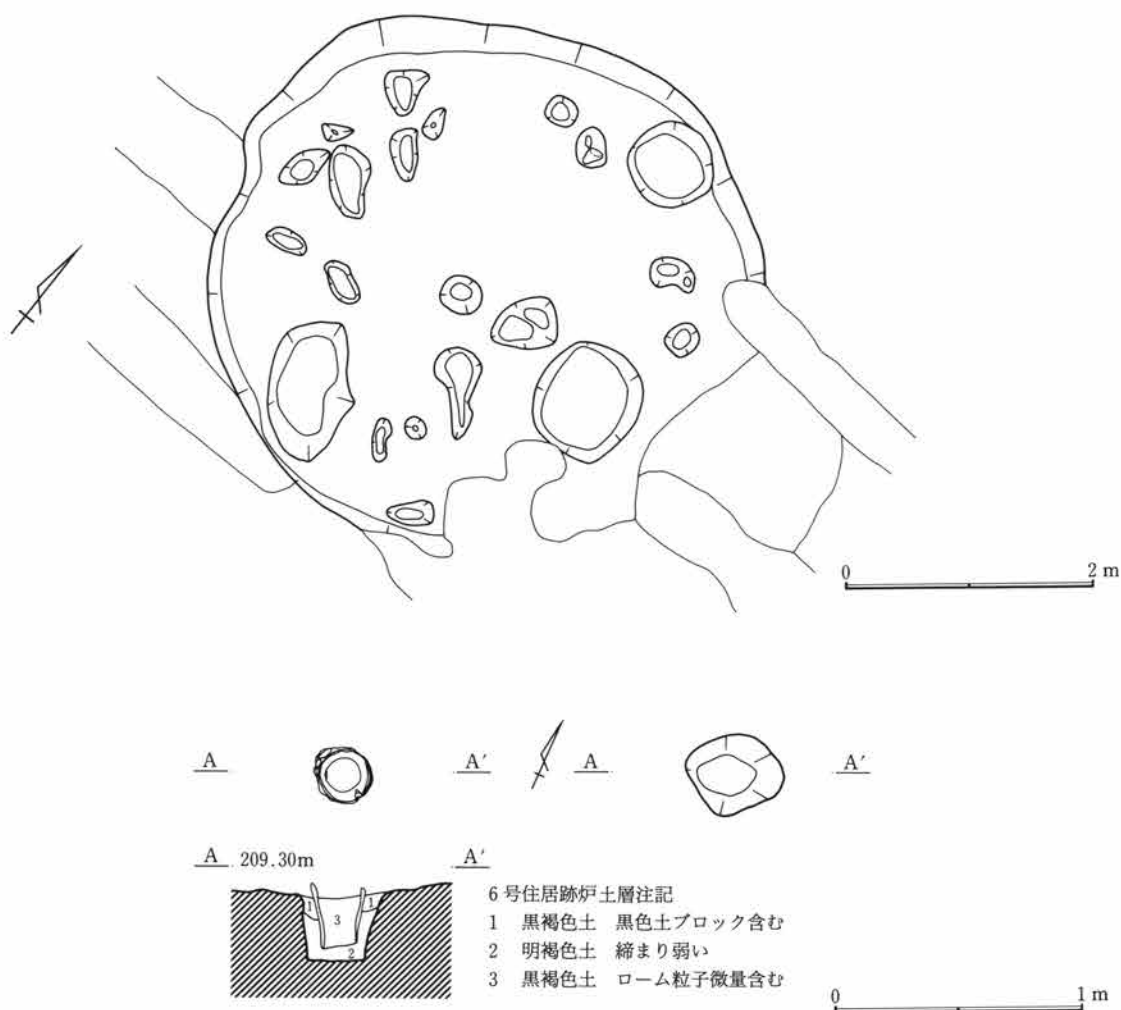
覆土中に焼土はほとんど検出されなかった。

出土遺物 土器は、1の深鉢（炉体土器）以外はすべて小破片で、出土量も少ない。石器は、スクレイパー1、磨石1、くぼみ石3、石皿1、石棒1、剝片5、石核1が出土している。

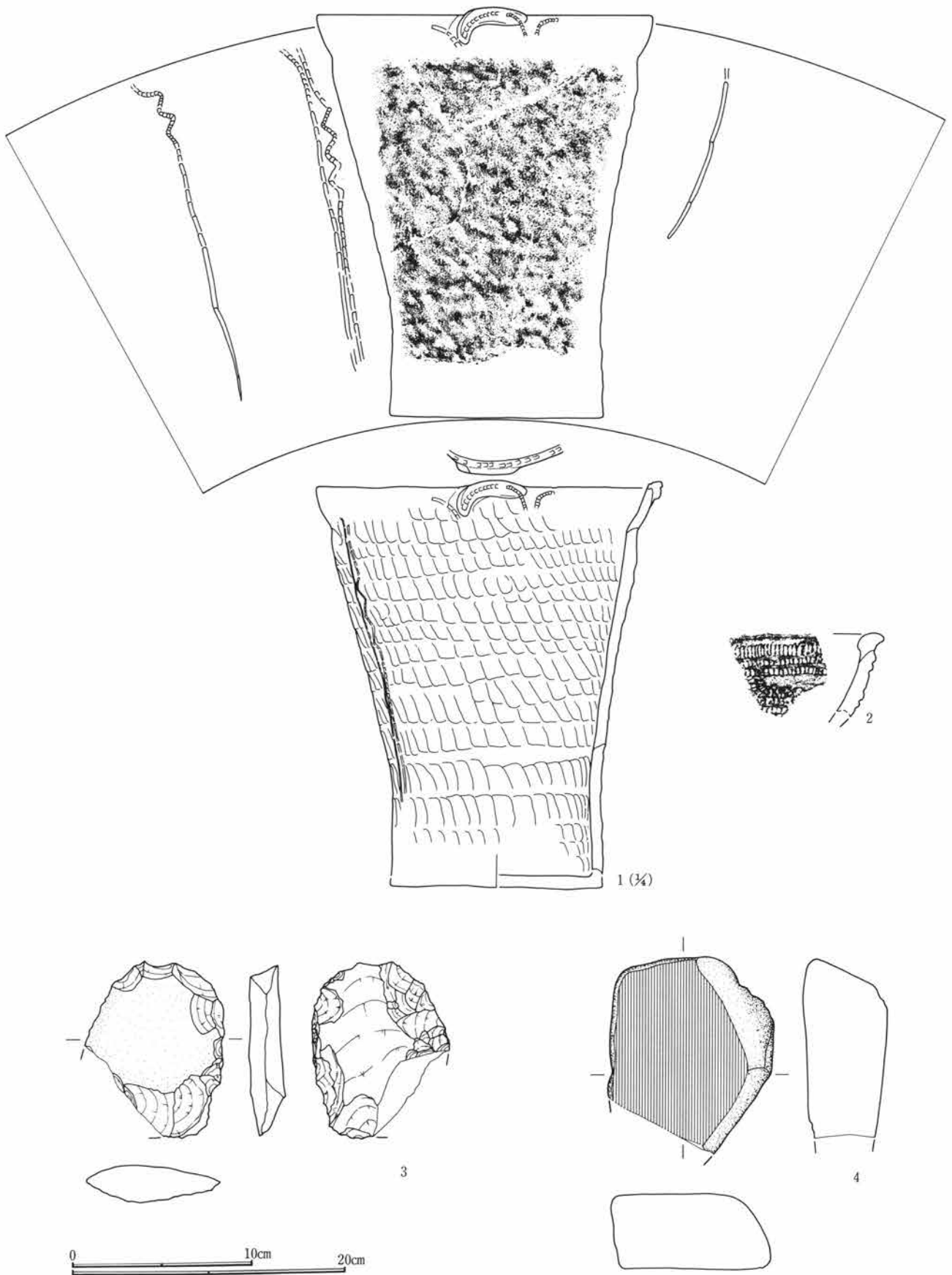
所見 炉体土器から、この住居の時期は阿玉台式期と考えられる。この時期の遺構は調査区内では他に検出されておらず、遺物も後期の土器に比べ非常に少ない。

出土土器数量表

	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	合計
点数	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	7	0	0	11
重量(g)	0	0	2,125	0	0	0	0	0	25	10	0	190	0	0	2,350

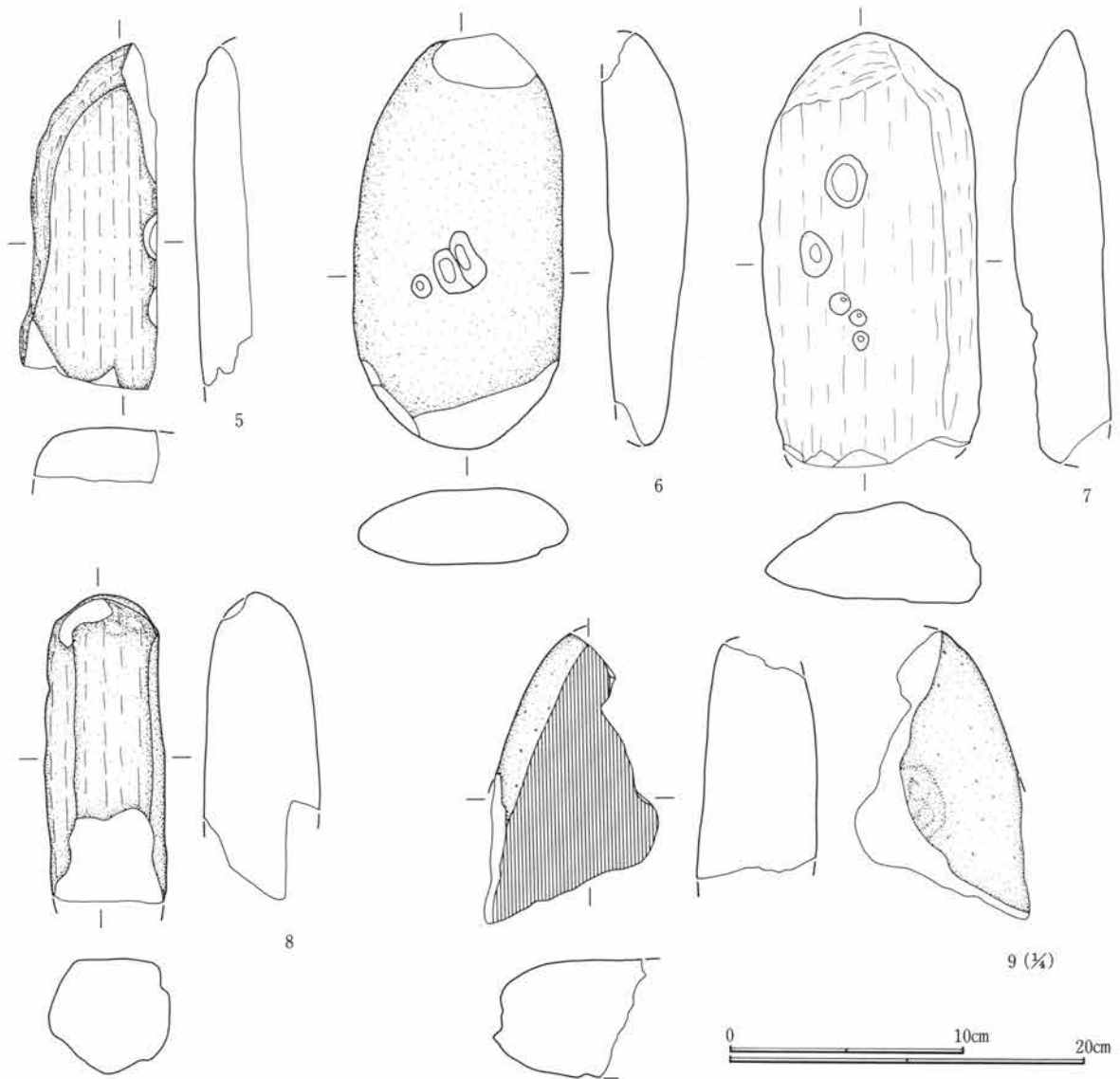


第14図 6号住居跡掘り方および炉



第15図 6号住居跡出土遺物(1)

第三章 検出された遺構と出土遺物



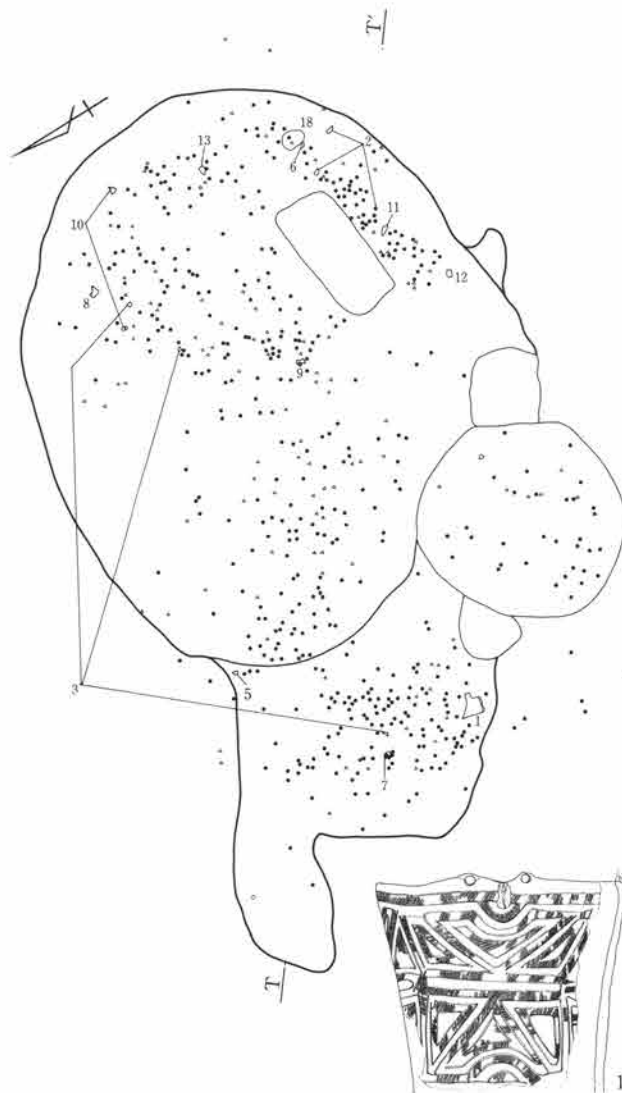
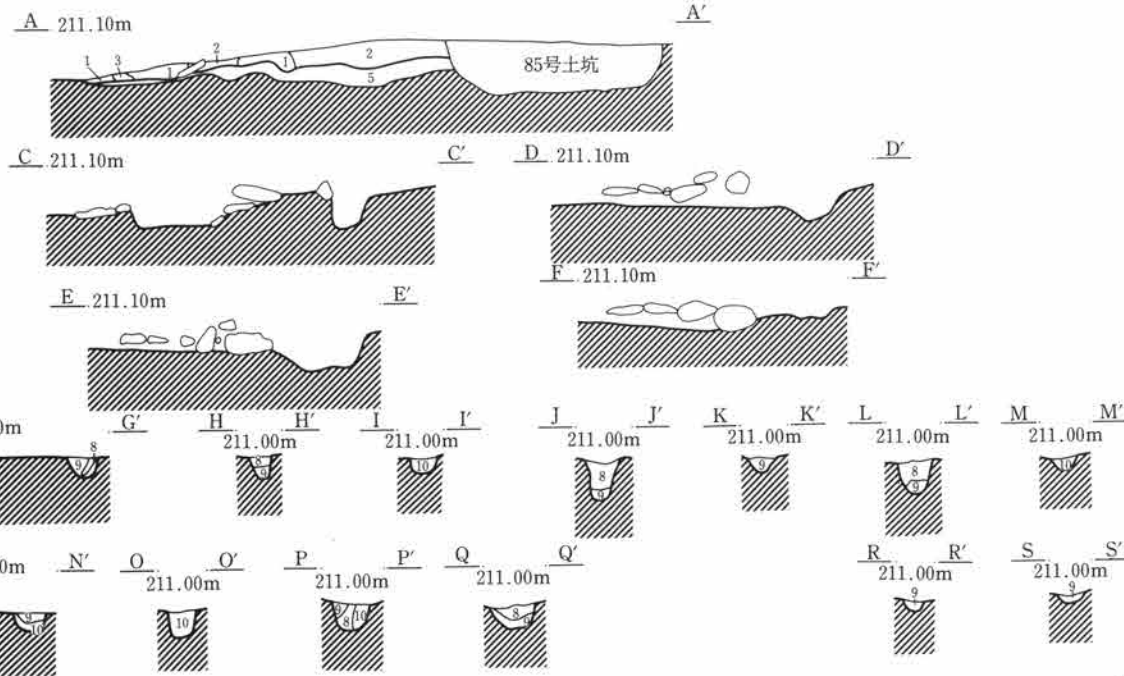
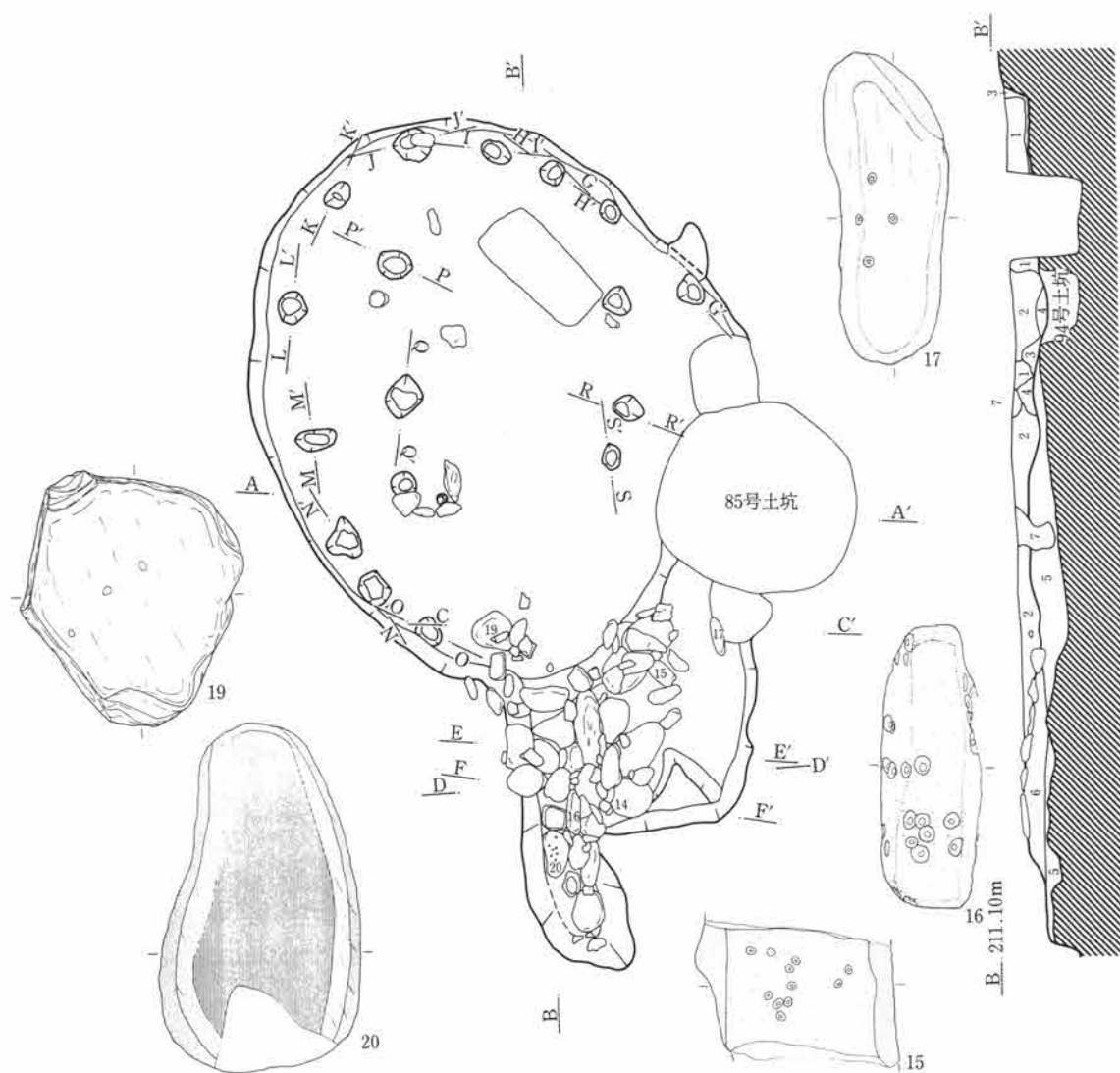
第16図 6号住居跡出土遺物(2)

6号住居跡出土土器観察表

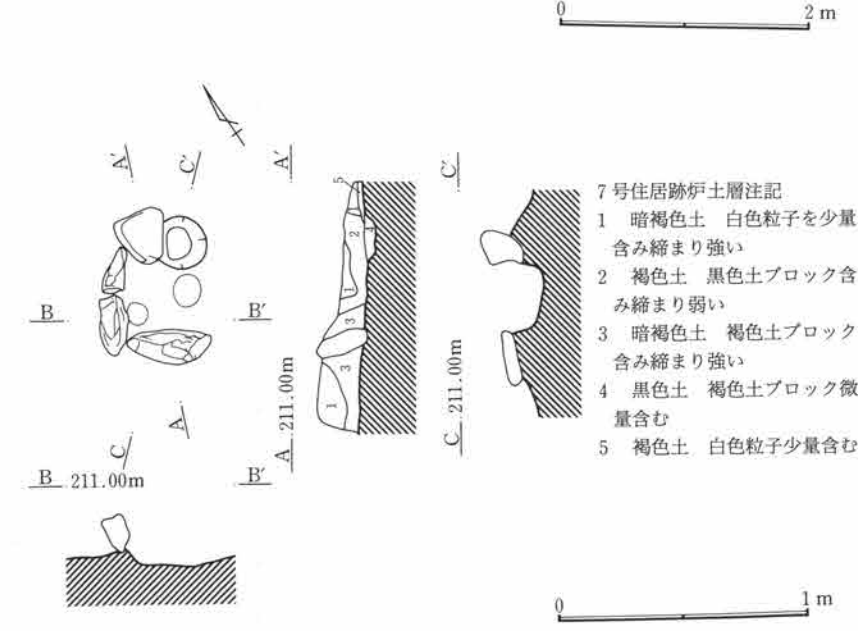
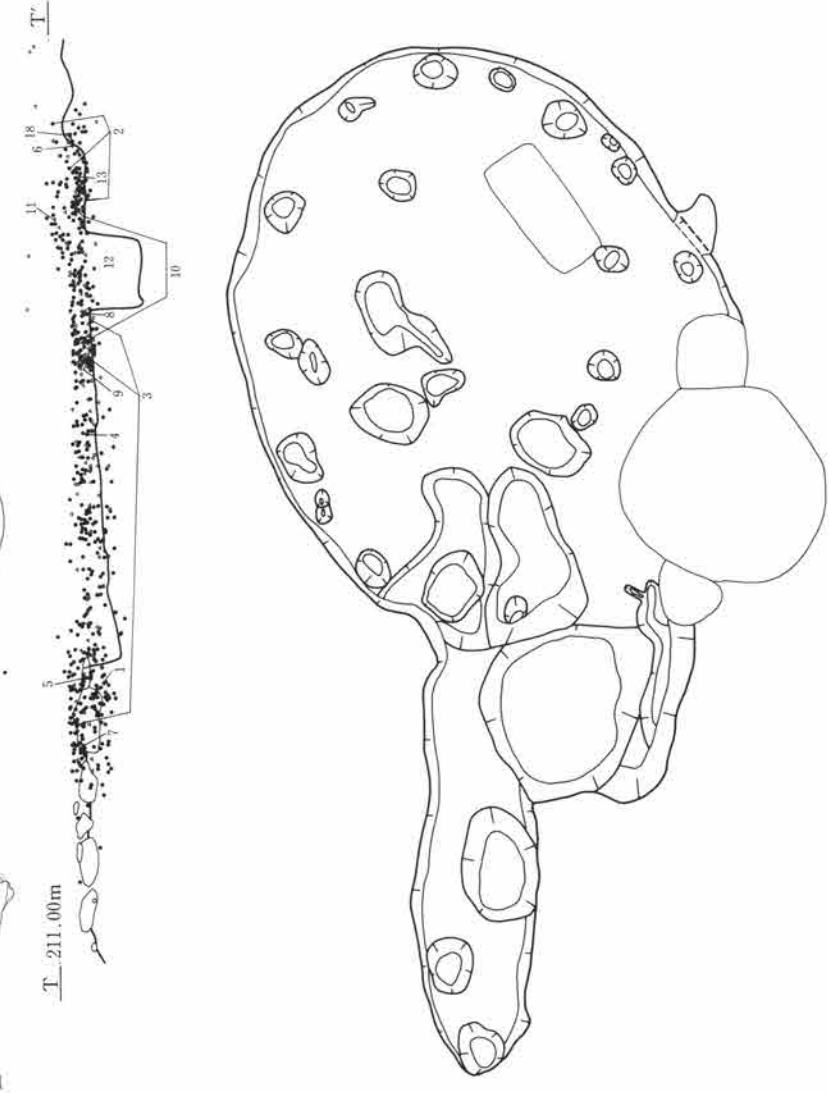
No.	器種	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調	量整	文様要素	分類	備考
1	深鉢 口~胴	炉体	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・雲母を多く含む	口23.0cm 底(12.0 cm) 内面研磨		半截竹管状工具による結節 沈線 指頭圧痕	III-2	
2	深鉢 口縁部	北西 27	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8mm 内面研磨		大小の半截竹管状工具によ る結節沈線・波状結節沈線	III-2	

6号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
3	スクレイパー	南東 33	[9.4]	[7.5]	2.0	172	一部欠損	熱変成岩	片面に自然面を残す
4	磨石	南東 32	[10.6]	9.0	4.5	745	3/4	輝緑岩	片面使用
5	くぼみ石	南東 32	[14.3]	[5.7]	2.3	300	3/4	点紋絹雲母石墨片岩	くぼみは2個 大部分欠損
6	くぼみ石	南東 38	[17.2]	8.9	3.5	820	ほぼ完形	輝緑岩	くぼみは1個 両面に敲打痕を残す
7	くぼみ石	南東 31	[17.8]	9.2	4.2	1000	ほぼ完形	石墨緑泥片岩	くぼみは2個あり
8	石棒	南東 9	[12.8]	5.1	[4.9]	465	3/4	点紋絹雲母石墨片岩	全面に敲打痕を残す
9	石皿	南東 20	[16.1]	[9.8]	[6.6]	1000	3/4	安山岩	裏面にくぼみあり



- 7号住居跡土層注記
- 1 黒色土 Y.P.を多量に含み締まり強い
 - 2 黒色土 Y.P.を少量含み白色粒子を微量含む
 - 3 黒褐色土 ロームブロックを含む
 - 4 黒褐色土 B.P.を含み締まり弱い
 - 5 暗褐色土 明褐色土を縞状に混入
 - 6 暗褐色土
 - 7 耕作土
 - 8 黒褐色土 褐色土ブロックを含む
 - 9 暗褐色土 黒色土ブロックを含む
 - 10 暗褐色土 黒色土ブロック・B.P.を含む



- 7号住居跡土層注記
- 1 暗褐色土 白色粒子を少量含み締まり強い
 - 2 褐色土 黒色土ブロック含み締まり弱い
 - 3 暗褐色土 褐色土ブロック含み締まり強い
 - 4 黒色土 褐色土ブロック微量含む
 - 5 褐色土 白色粒子少量含む

第17図 7号住居跡

7号住居跡 炉

7号住居跡

位置 C84～87—II8～12Gr 重複 85土坑より古・94土坑より新

平面形態 柄鏡形 主体部は南北方向にややつぶれた楕円形を呈し、張出部右側には方形の掘り込みがある。

規模 全長8.12m 主体部4.57m×3.84m 張出部3.40m×2.12m 敷石部2.80m×1.85m

壁高 16cm ほぼ垂直 面積 16.43m² 床面積 14.76m² 主軸方位 N-58°-E 壁溝 なし

柱穴 主体部の縁壁際に径20cm～34cm平均26cm深さ10cm～34cm平均18cmのピットが計16基検出されている。85号土坑に切られている部分にもあったと考えられるので、さらに数は増えると思われる。

貯蔵穴 なし

敷石 張出部にのみ石が敷かれており、主体部には敷かれない。敷石上面は、張出部側が高く主体部側に向かって低くなっている。敷石部に使用した石は計100個で、そのうち37個は結晶片岩系の石材を使用している。大きさは径20cm～60cmの大型のものが多くなっており、小型のものも使用されているが、大型のもの間を充填するような使用はされていない。

床面 主体部には石は敷かれず、明褐色土を含む暗褐色土で貼床としているが、凹凸が多い。また敷石部分も凹凸が多く、ほぼ水平な部分もあるが、主体部から次第に高くなっている部分もあり、全体的に見ても起伏の多い床面となっている。

掘り方 径60cm～120cmの浅い掘り込みが数カ所検出されているが、全体的には平坦な掘り方である。

遺物出土状況 土器の出土量は多く、平面分布をみると、敷石部や主体部の北西部がやや薄くなるが、住居のほぼ全面から平均して出土している。垂直分布も、上層から床面にかけて満遍なく出土している。破片が多く、埋設土器は出土していない。接合関係の判るものは3個体だけであるが、そのうち2個体はすべて床直のものが接合しており、1個体は覆土中のものと床直のものが接合している。石器は、敷石以外は主体部からまばらに出土している程度である。

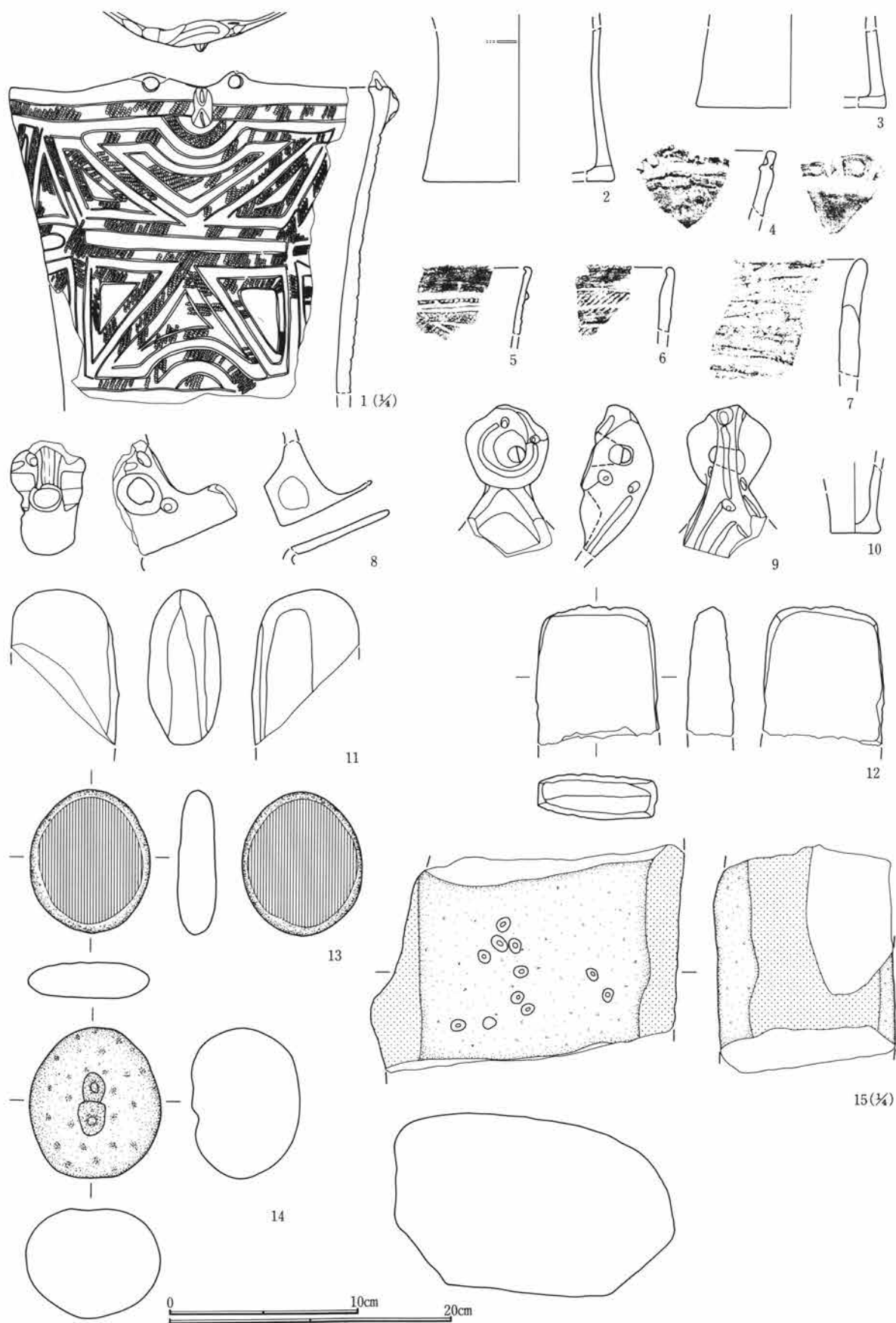
炉 主体部の中心より北西寄りに石囲い炉が検出されたが、住居の中軸線を外れており、位置的にはこの住居の炉とするには疑問が残る。しかしながら他に炉と考えられる遺構は検出されていない。長軸60cm短軸約45cmの長方形になると思われるが、北辺および西辺の石は取り去られ残っていない。火床面ははっきりしないが、2カ所で焼土が検出された面が火床面になると考えられる。

出土遺物 土器は550点出土しているが、小破片が多く器形の復元できるものは非常に少ない。時期の判別するものは167点で、中期中葉から後期堀之内II式まで出土している。住居の時期は堀之内II式になると考えられるが、点数は21点と少ない。石器は、磨製石斧1、スクレイパー1、磨石2、くぼみ石1、石皿1、台石1、多孔石4、剥片5、計16点出土している。石皿と4点の多孔石は敷石として使用されていたものがほとんどである。

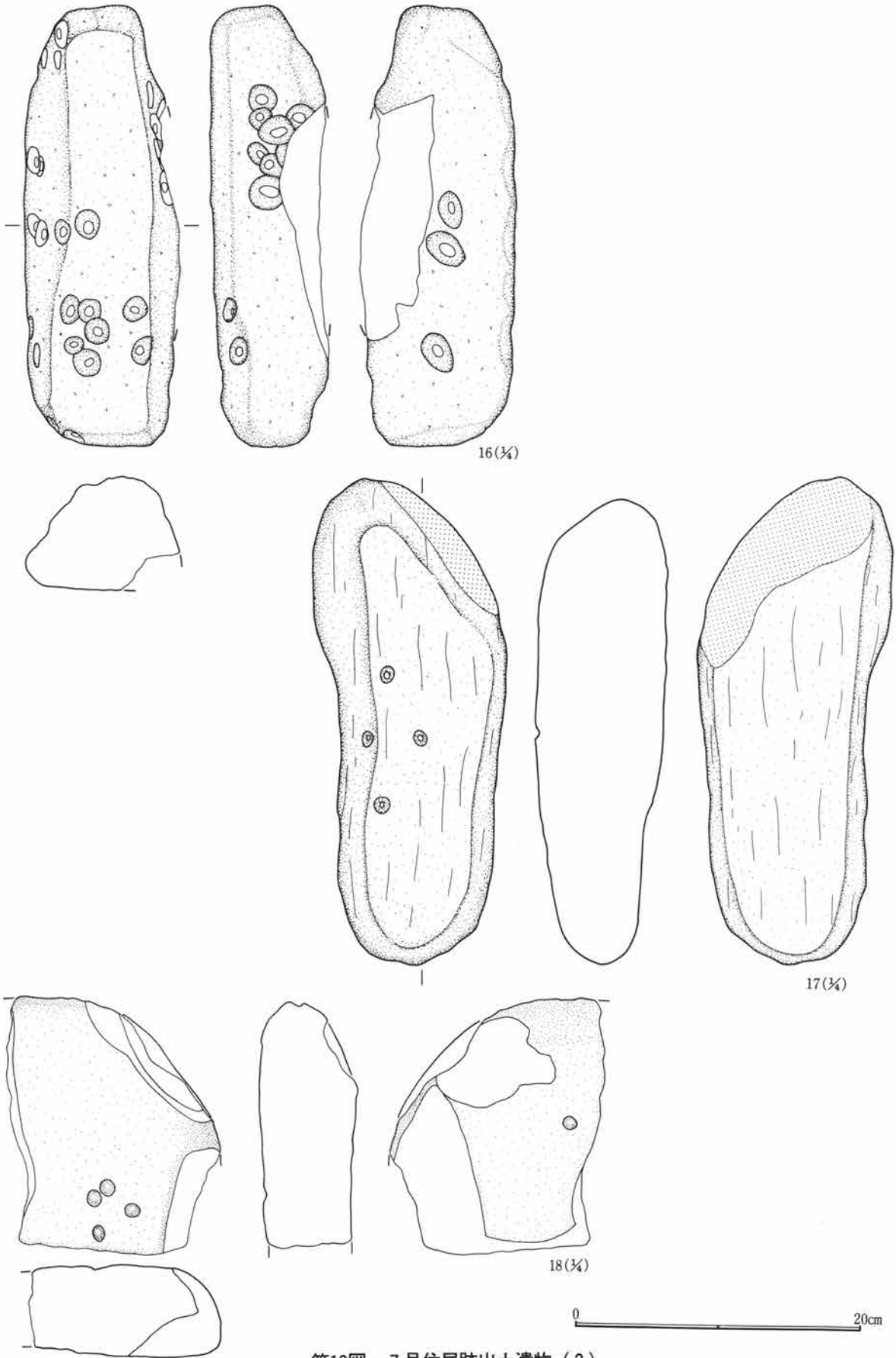
所見 出土遺物から後期堀之内II式期の敷石住居と考えられる。敷石が張出部のみ施され、埋設土器は出土していないため、典型的な後期の敷石住居とすることができる。

出土土器数量表

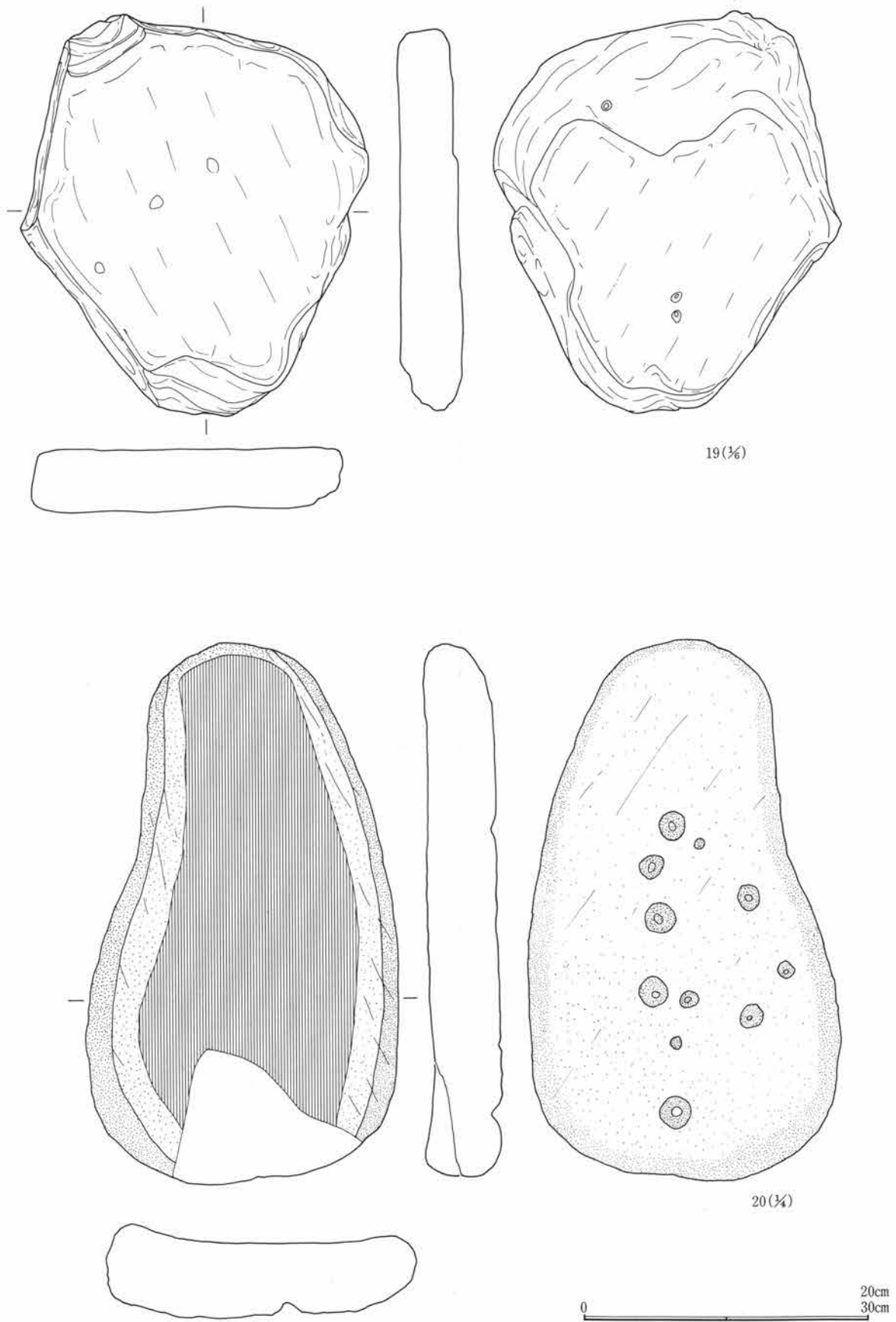
	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	合計
点数	0	0	10	21	30	61	24	21	17	18	86	252	7	3	550
重量(g)	0	0	180	480	625	1,343	470	772	340	220	2,400	4,000	210	90	11,130



第18図 7号住居跡出土遺物 (1)



第19図 7号住居跡出土遺物(2)



第20図 7号住居跡出土遺物 (3)

7号住居跡出土土器観察表

No	器種 部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
1	深鉢 口～胴	北東 -11	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒含む	口径(20.0cm) ½残存 内面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
2	深鉢 胴～底	北西 -2	①にぶい橙 ②橙(断面灰褐) ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	底径(10.0cm) 内外面研磨	沈線	IX-2	3と同一 個体か
3	深鉢 胴～底	南西 1	①にぶい橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	底径(10.0cm) 内外面研磨		IX-2	2と同一 個体か
4	深鉢 口縁部	北西 6	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6mm 内外面研磨	口縁部刻み 円孔 沈線	IX-2	
5	深鉢 口縁部	南東 2	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒を含む	器厚5mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み 沈線区画 内にLR磨消縄文	IX-1	
6	深鉢 口縁部	北西 7	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚7mm 内外面研磨	沈線区画内にRL磨消縄文	IX-1	
7	深鉢 口縁部	南東 4	①にぶい黄橙 ②明褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚10mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX-3	
8	注口 注口部	北西 4	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	内外面研磨	透孔 円形竹管による刺突 文	VII	
9	深鉢 把手部	北西 2	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚14mm 内面ナデか	把手に透孔 内外面に円形 竹管による刺突文・沈線	VII-2	
10	不明	北西 5	①暗褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径2.6cm 外面研磨内面ナデか	小型土器か		

7号住居跡出土石器

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
11	磨製石斧	南西 22	[8.0]	5.6	4.0	200	刃部欠損	輝緑岩	研磨段階 側面に敲打痕を一部残す
12	磨石(?)	北西 2	[7.7]	6.5	2.4	130	½	安山岩	片面使用 端部を面取り
13	磨石	北西 4	7.5	6.4	2.0	120	完形	石英安山岩	両面使用
14	くぼみ石	敷石	7.9	7.0	5.7	410	完形	安山岩	くぼみは片面に2個 敲打痕を残す
15	多孔石	敷石	22.1	15.9	12.6	7000	½	安山岩	両側面赤化
16	多孔石	敷石	33.0	10.9	7.9	3800	一部欠損	安山岩	4面にくぼみあり
17	多孔石	敷石	33.1	13.4	9.2	6500	完形	点紋緑泥片岩	くぼみは片面 端部が赤化
18	多孔石	北東10	[17.4]	14.8	6.9	1700	½	砂岩	両面に敲打痕を残す 一部赤化
19	多孔石	敷石	41.6	36.0	6.6	15890	完形	紅簾絹雲母片岩	くぼみは両面
20	石皿	敷石	37.9	21.8	6.1	7800	完形	点紋緑泥片岩	裏面にくぼみあり

15号住居跡

位置 C58～60-II54～56Gr 重複 16号住居跡より古

平面形態 円形 西壁と南壁は直線に近く、円形と隅丸方形を合わせた形となっている。

規模 4.50m×3.78m 壁高 10cm 傾斜している 面積 13.11㎡ 床面積 12.43㎡ 壁溝 なし
柱穴 床面から5基のピットが検出されている。径は32～46cmと比較的まとまっているが、深さは8～40cmとバラつきがある。またピット間の距離に差があり、さらに数基のピットがあった可能性もあるため、掘り方で検出されているピットにも柱穴の可能性が考えられる。

P1 径46cm深さ16cm P2 径32cm深さ40cm P3 径34cm深さ22cm P4 径36cm深さ24cm P5 径42cm深さ8cm
貯蔵穴 なし

床面 ほぼ平坦で、ロームブロックを含む黒褐色土を貼床としている。比較的良く踏み固められている。

掘り方 床面で検出された柱穴以外に7基のピットが検出されているが、他の部分は平坦で貼床も薄い。ピットは50～90cmと大きく、柱穴の可能性もある。

遺物出土状況 炉から深鉢の下半部が出土しているが、他の遺物は比較的少ない。平面分布で見ると全体にまばらに分布しているが東半部にやや多くなっている。垂直分布でも上層から床面まで満遍なく分布してい

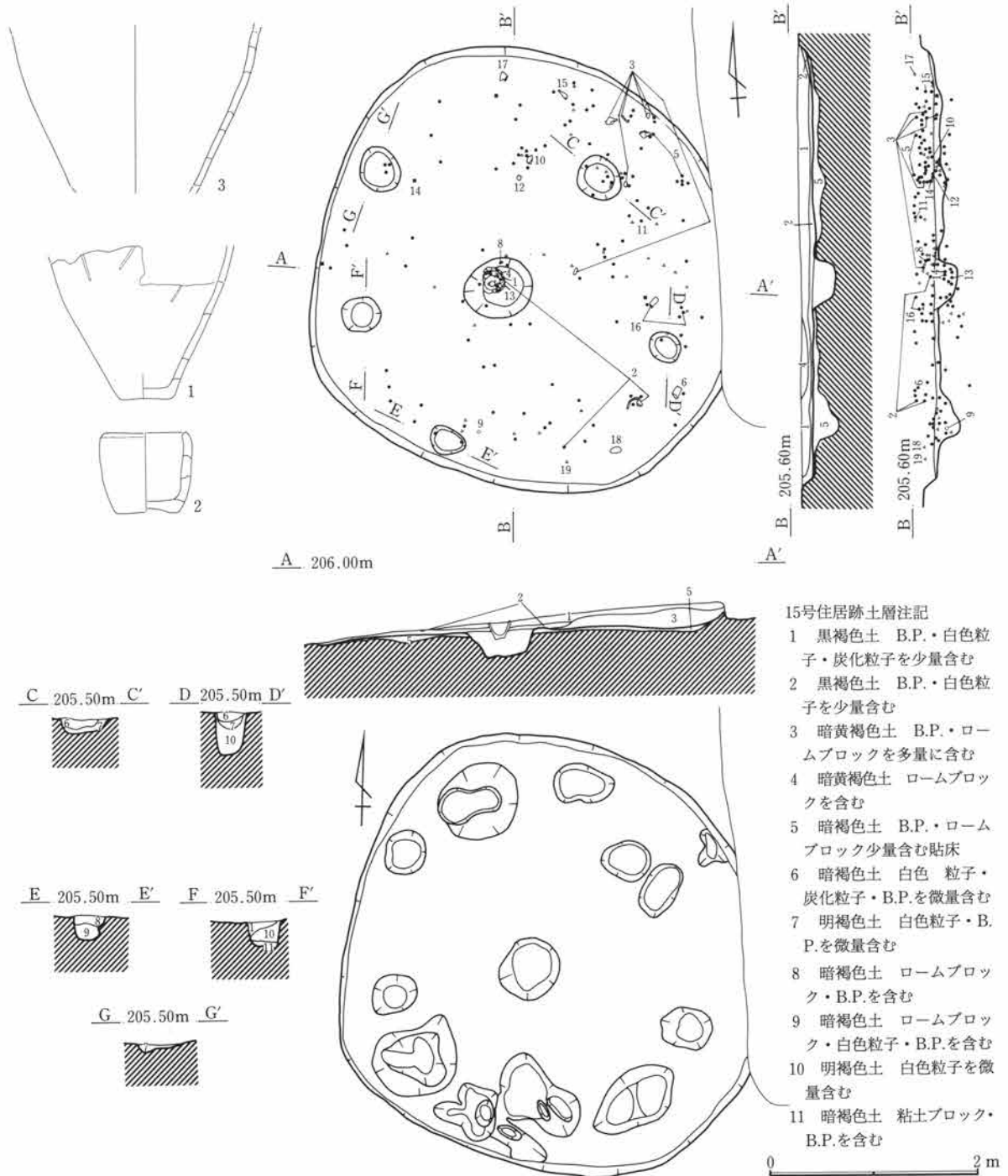
第三章 検出された遺構と出土遺物

る。5個体で接合関係があるが、すべて覆土中の破片が接合したものである。

炉 住居中央部にあり、地床炉で炉壁は強く焼けている。深鉢の下半部が上層から出土している。

出土土器数量表

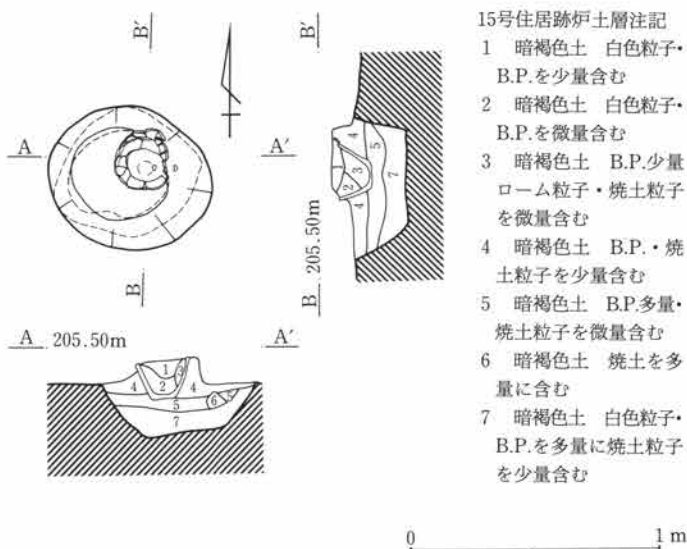
	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	Ⅻ	不明	合計
点数	3	6	4	21	11	45	2	0	19	9	41	45	5	1	212
重量(g)	59	130	225	914	207	2,281	36	0	417	110	829	374	220	25	5,827



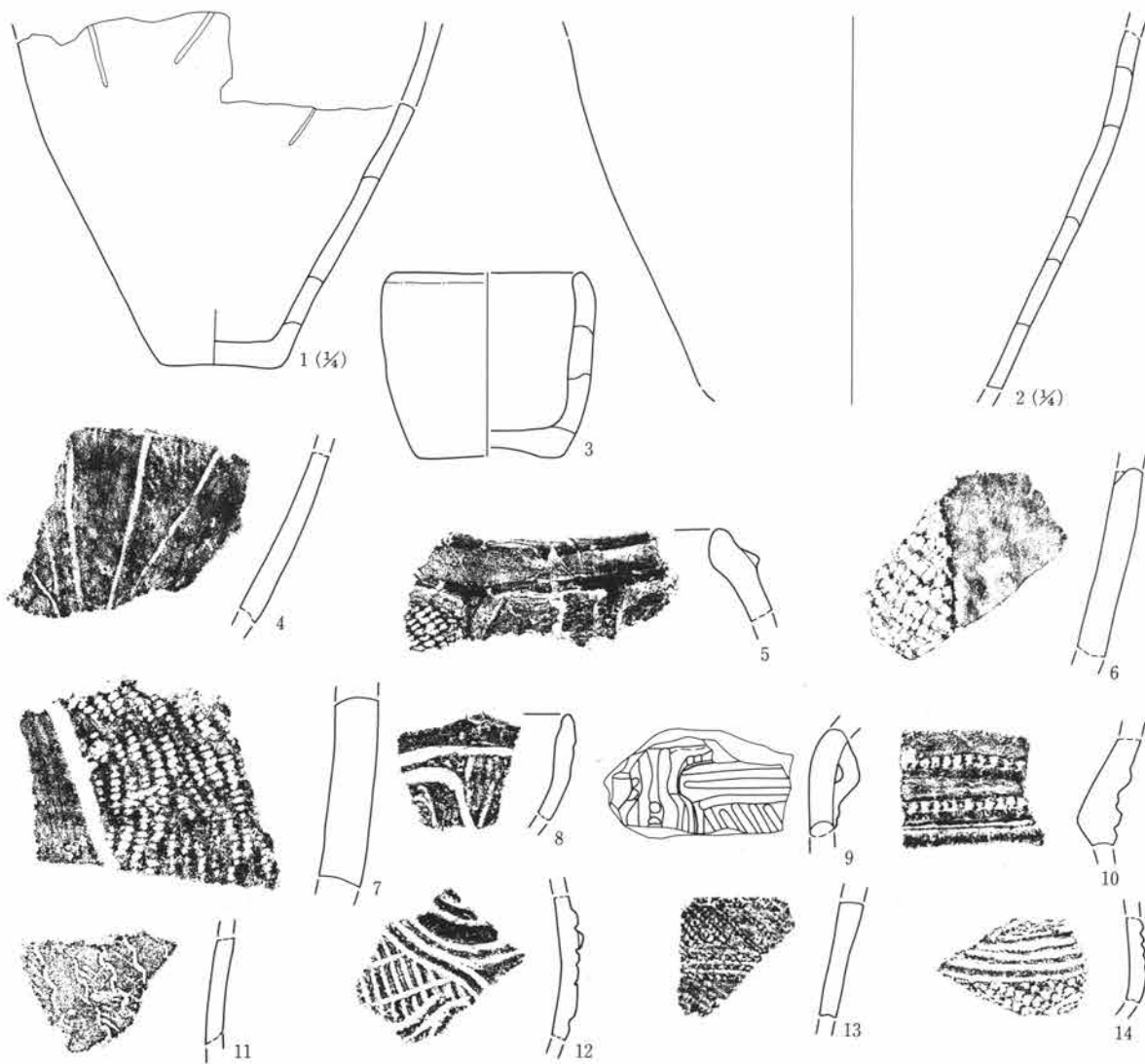
第21図 15号住居跡

出土遺物 土器は212点出土している。炉出土の深鉢を含め、称名寺II式の土器が45点と、時期の判明する土器の中では最も多く出土している。石器は、スクレイパー1、磨石1、くぼみ石1、剥片15、碎片2、石核5、計25点出土している。

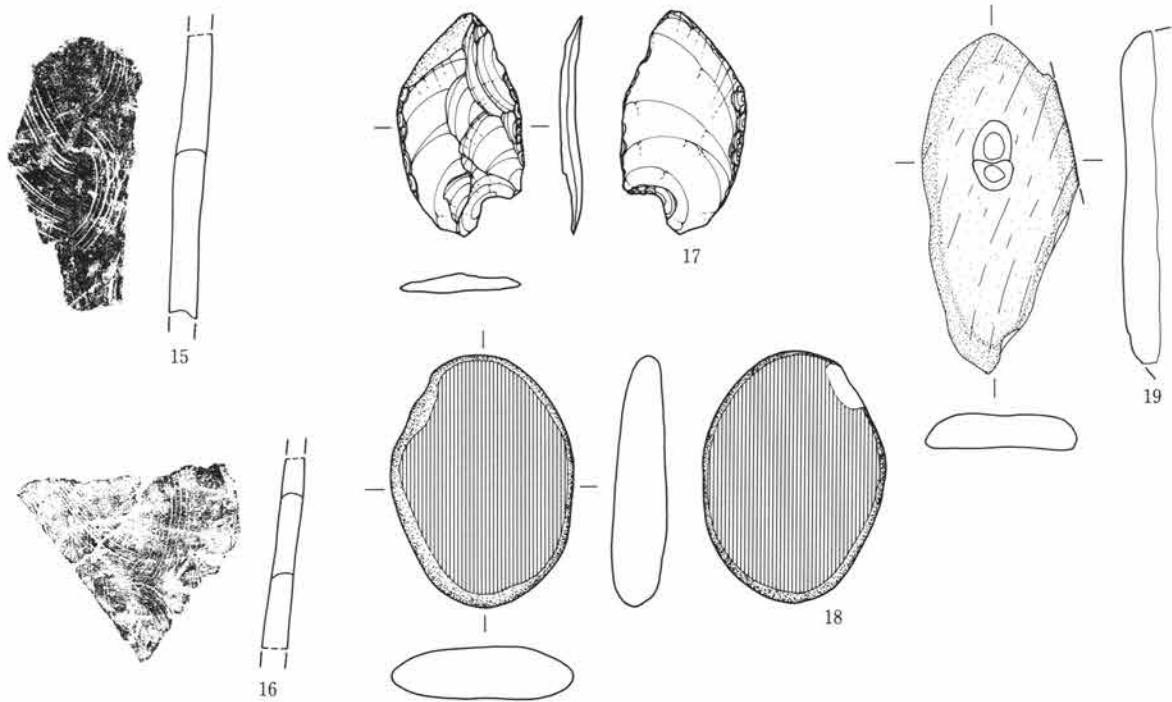
所見 出土遺物から、後期称名寺II式期の竪穴住居と考えられる。同じ遺跡で堀之内II式期の敷石住居（7号住）が検出されていることを考え合わせると、この時期の竪穴住居と敷石住居の関係を考えるうえで興味深い。



第22図 15号住居跡炉



第23図 15号住居跡出土遺物（1）



第24図 15号住居跡出土遺物(2)

15号住居跡出土土器観察表

No	器種部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調	量整	文様要素	分類	備考
1	深鉢 胴~底	炉	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂を多量に含む	底径6.5cm 内外面研磨		沈線	VII-2	
2	深鉢 胴部	北東 11	①橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂を多量に含む	現存最大径(31.2cm) 内外面研磨			VII	
3	小型鉢 口~底	北東 10	①淡黄 ②淡黄(断面黒) ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(7.8cm) 底径6cm 高さ7.5cm		内外面ともナデか	VII-6	
4	深鉢 胴部	北東 10	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を多く含む	器厚6.5~8.5mm 内外面研磨		沈線	VII-2	
5	深鉢 口縁部	北東 16	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚9~10mm 内面研磨		隆帯文区画内にLR縄文縦 回転	V-1	
6	深鉢 胴部	南東 18	①黒褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10.5~12mm 内面研磨		隆帯文区画内にLR縄文縦 回転	V-1	
7	深鉢 胴部	覆土	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚17.5~18mm 内面研磨		沈線区画内にRL縄文縦回 転	V-3	
8	深鉢 口縁部	北西 8	①にぶい橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~8mm 内面研磨		沈線区画内にLR縄文横回 転	V-3	
9	深鉢 胴部	南西 -12	①黒褐 ②暗赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫・金雲母を含む	器厚9~10mm 内面研磨		橋状把手沈線	III-2	
10	深鉢 胴部	北西 3	①にぶい褐 ②橙 ③不良 ④普通 長石・石英粒を含む	器厚9~10mm 内面研磨		半截竹管状工具による結節 沈線 隆帯文 沈線	III-2	
11	深鉢 胴部	南東 11	①灰褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 長石・石英粒を含む	器厚7mm 内面研磨		RL自縄自縛の結節縄文縦 回転	II-4	
12	深鉢 胴部	北西 1	①黒褐 ②暗褐 ③不良 ④粗 雲母・石英粒を多く含む	器厚6.5~7mm 内面ナデか		隆帯 半截竹管状工具によ る半隆起線文 沈線	II-1	
13	深鉢 胴部	北東 18	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚7~10mm 内面研磨		半截竹管状工具による連続 刺突文 RL縄文横回転	I-5	
14	深鉢 胴部	北西 1	①にぶい褐 ②黒褐 ③良好 ④粗 繊維・砂粒を含む	器厚6mm 内面ナデか		半截竹管状工具による沈線 RL縄文横回転	I-2	
15	深鉢 胴部	南東 7	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚9~11mm 内面ナデか		7本+α単位の櫛状工具に よる沈線	不明	16と同一 個体か
16	深鉢 胴部	南東 13	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚7~10mm 内面ナデか		7本+α単位の櫛状工具に よる沈線	不明	15と同一 個体か

15号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
17	スクレイパー	北西 15	8.7	5.0	0.7	35	完形	熱変成岩	側縁に刃部をもつ
18	磨石	南西 8	9.9	7.3	2.2	250	完形	輝緑岩	両面使用 側面に敲打痕を残す
19	くぼみ石	北東 19	[13.4]	[6.3]	[1.5]	190	ㄥ	点紋緑泥片岩	くぼみは2個残存

20号住居跡

位置 C64・65-II44・45Gr 付近 重複 19・23号住居跡より古

平面形態・規模・壁高・面積・壁溝・柱穴 掘り方がはっきりせず、19・23号住により壊されているため、すべて不明である。

床面 はっきりした床面は検出されず、2基の埋設土器が出土した面を床面とした。

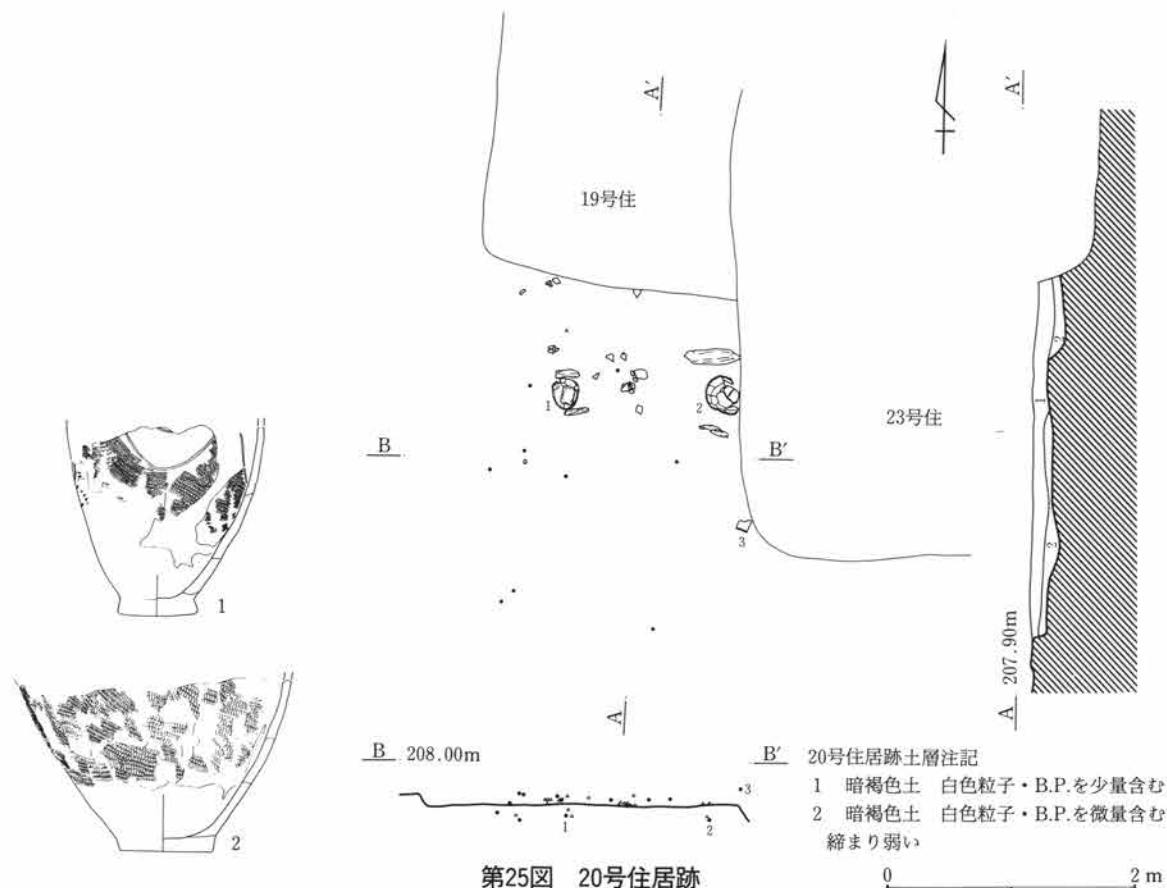
掘り方 黒色土中に構築されていたこともあって、掘り方は検出できなかった。

遺物出土状況 2基の埋設土器が出土した他は、小破片がまばらに出土しただけである。

埋設土器 2基の埋設土器が、1.2mの間をおいて東西に並んで検出された。1号埋設土器は、径21cmの深鉢の下半部を使用し、南北両側に偏平な石を支えるように立てている。内部からは蓋石と思われる偏平な方形の石が出土している。2号埋設土器は、径29cmと1号より大きい深鉢の下半部を使用しており、1号よりも若干離れた位置に、1号と同様南北に偏平な石を立てている。

出土土器数量表

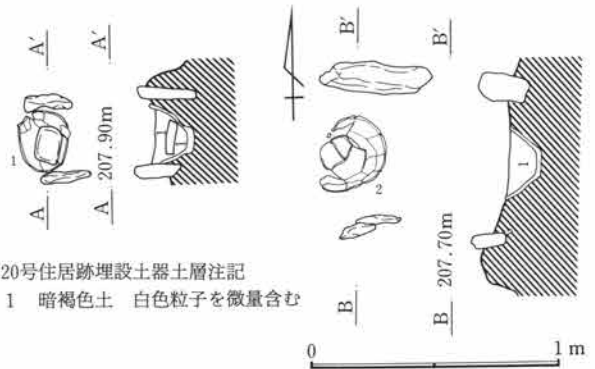
	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	合計
点数	3	2	0	4	0	0	0	0	6	3	6	0	1	1	26
重量(g)	50	33	0	2,487	0	0	0	0	97	33	208	0	26	76	3,010



第三章 検出された遺構と出土遺物

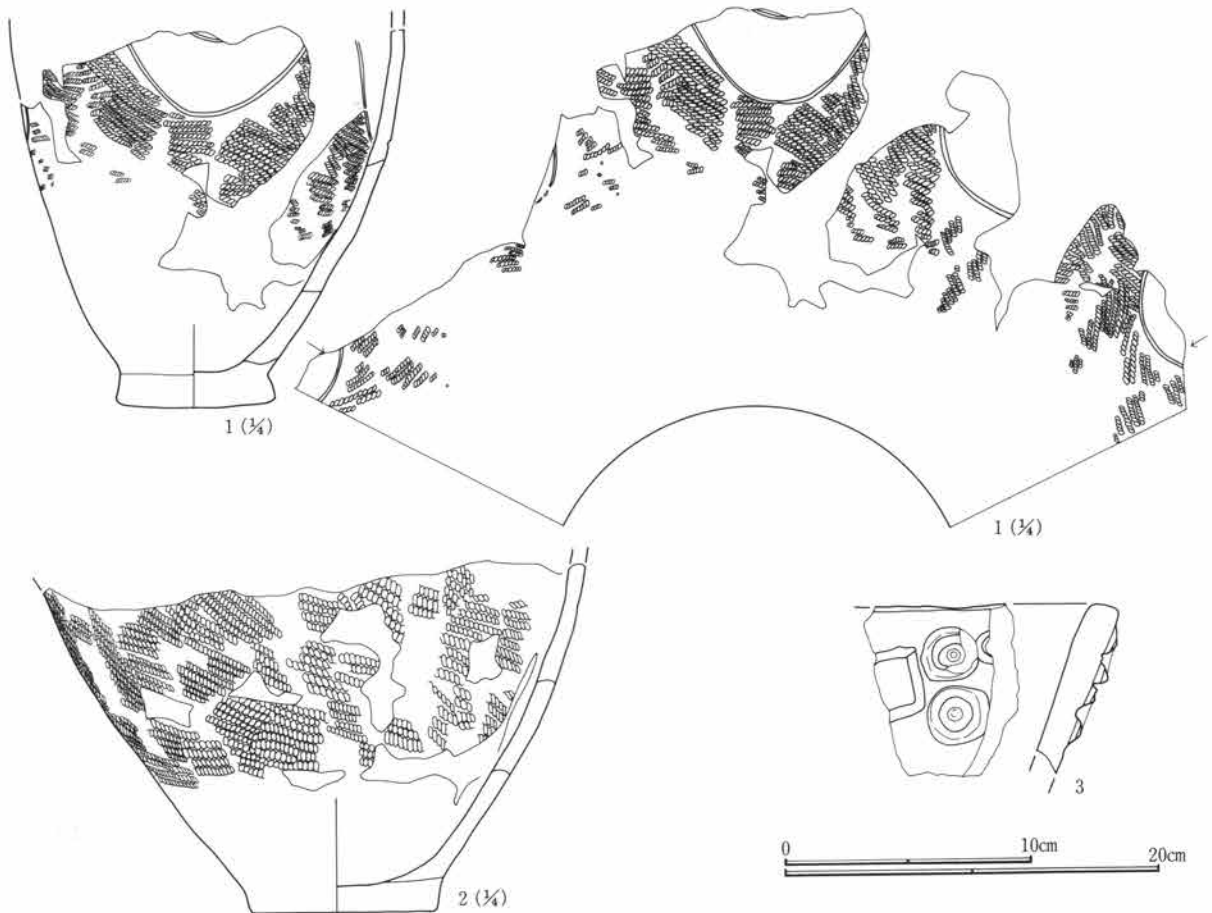
出土遺物 土器は計26点と少なく、埋設土器以外は小破片である。石器も剥片6、黒曜石の原石1、計7点出土しただけである。

所見 埋設土器はいずれもV群土器(加曾利E4式)と考えられるため、加曾利E4式期の遺構とすることができる。形態・規模等すべてははっきりしないため、住居でない可能性も考えられるが、埋設土器の出土状況や加曾利E4式期の遺構であることを考え合わせると、石の取り去られた敷石住居の可能性も高い。



20号住居跡埋設土器土層注記
1 暗褐色土 白色粒子を微量含む

第26図 20号住居跡埋設土器



第27図 20号住居跡出土遺物

20号住居跡出土土器観察表

No.	器種部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調 量整	文様要素	分類	備考
1	深鉢 胴~底	埋設土器	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径8.5cm 内外面研磨	沈線 LR縄文縦回転	V-2	
2	深鉢 胴~底	埋設土器	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径9.9cm 内外面研磨	LR縄文縦回転	V-2	

No	器種部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調 量整	文様要素	分類	備考
3	深鉢 口縁部	南東 13	①にふい黄橙 ②にふい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒・パミスを含む	器厚10~18mm 内面研磨	沈線 円形貼付文内に円形 竹管による刺突文	VII-2	

22号住居跡

位置 C81~84-II22~24Gr 重複 9号住居跡より古 平面形態 楕円形

規模 4.38m×3.58m 壁高 88cm 傾斜している 面積 12.2m² 壁溝・柱穴・貯蔵穴 なし

掘り方 底部は平坦で凹凸は少ない。北側はテラス状に1段高くなっている。

遺物出土状況 遺構中央部から南西部にかけて多量の土器・石器が出土している。垂直分布を見ると、上層

出土土器数量表

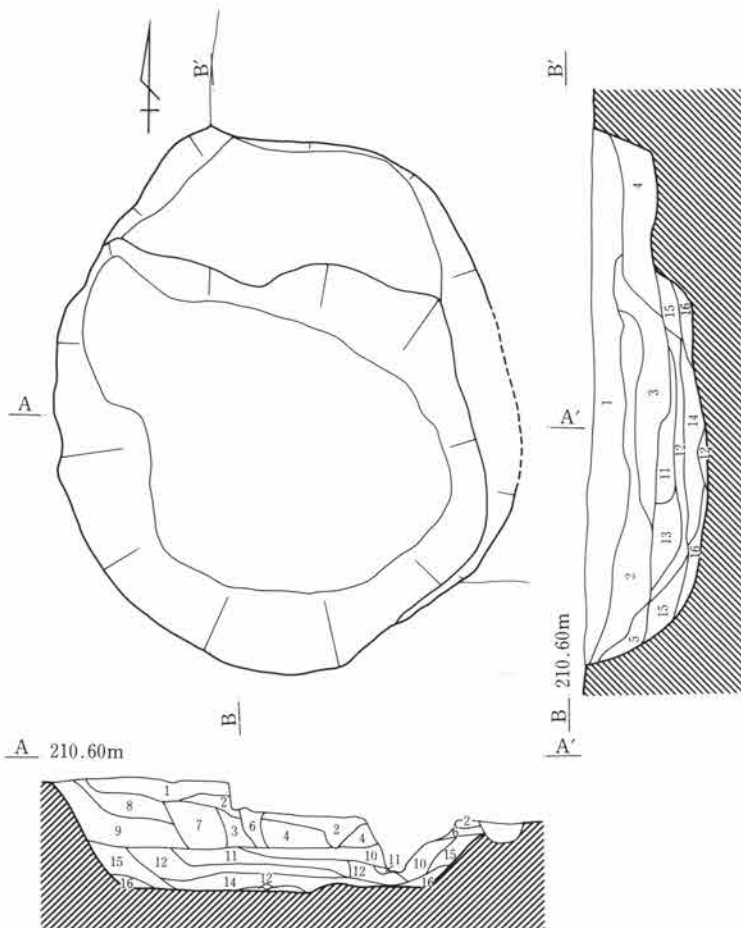
	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	合計
点数	0	0	1	21	17	37	28	121	10	3	39	93	5	1	376
重量(g)	0	0	40	715	350	850	575	10,862	120	30	1,200	5,200	95	15	20,052

から底部まで満遍なく出土しており、偏りがない。接合関係の判明する土器は10個体あるが、いずれも覆土中の接合で、上層と下層の破片が接合しているものもある。

炉 なし

出土遺物 出土土器は多く、376点が出土している。時期の判明するものは225点で、このうち半数以上の121点がIX群（堀之内II式）土器である。比較的大きな破片が多く、図示した土器も34点ありすべてIX群土器である。石器は、石鏃1、打製石斧1、スクレイパー1、磨石2、くぼみ石2、石皿2、石錘1、剝片19、不明2、計31点出土している。石器はすべて覆土中の出土である。

所見 炉・柱穴がなく壁も傾斜しているため竪穴住居とは考えられないが、調査当初は規模・形態から竪穴住居と考えて調査を行い、遺構名称を変えずにきたため、ここでもそのまま22号住居跡を使用した。土坑とするには規模が大きく、遺構の性格は不明である。覆土上層と下層の遺物が接合しているため、覆土は人為的に埋められた可能性がある。

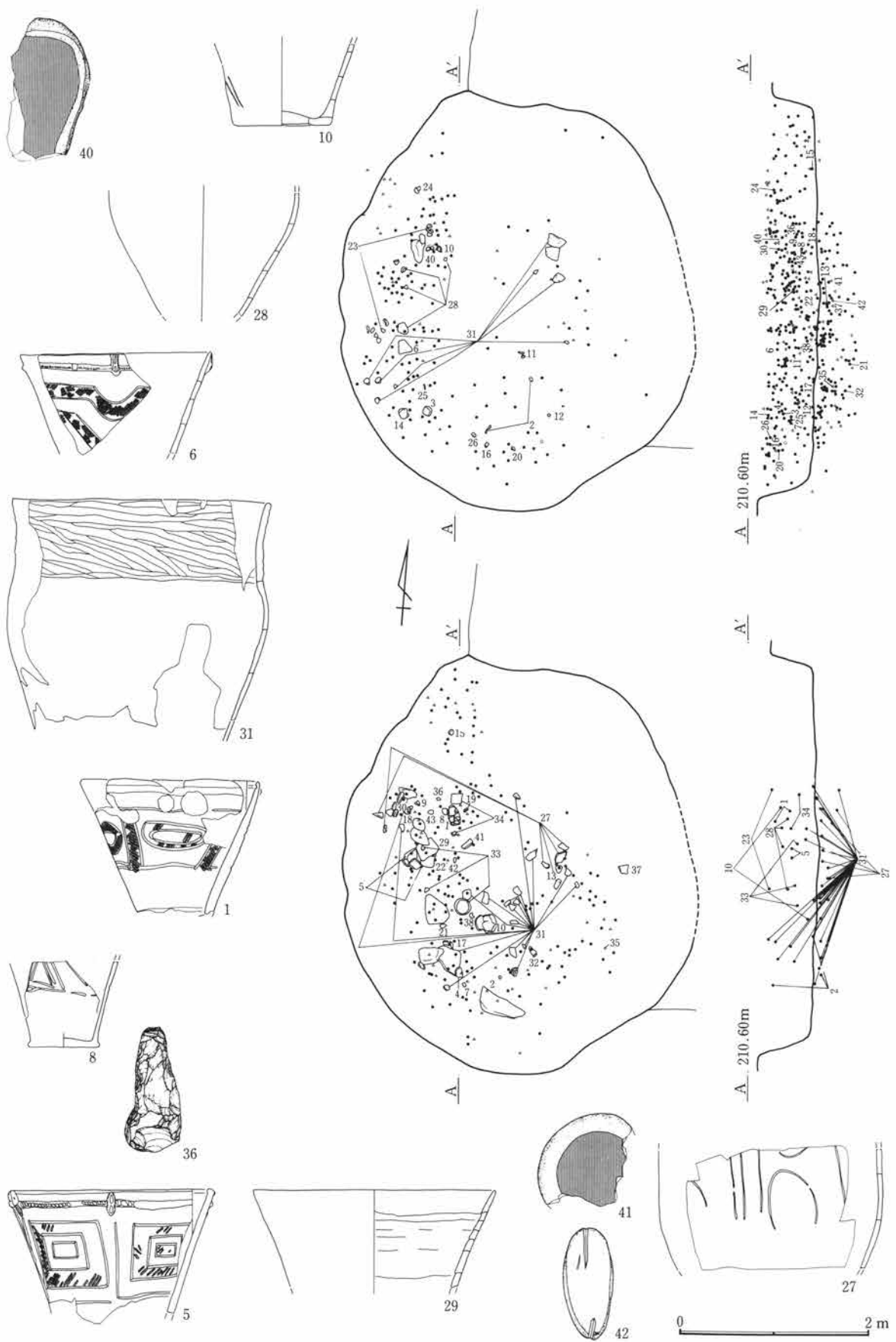


22号住居跡土層注記

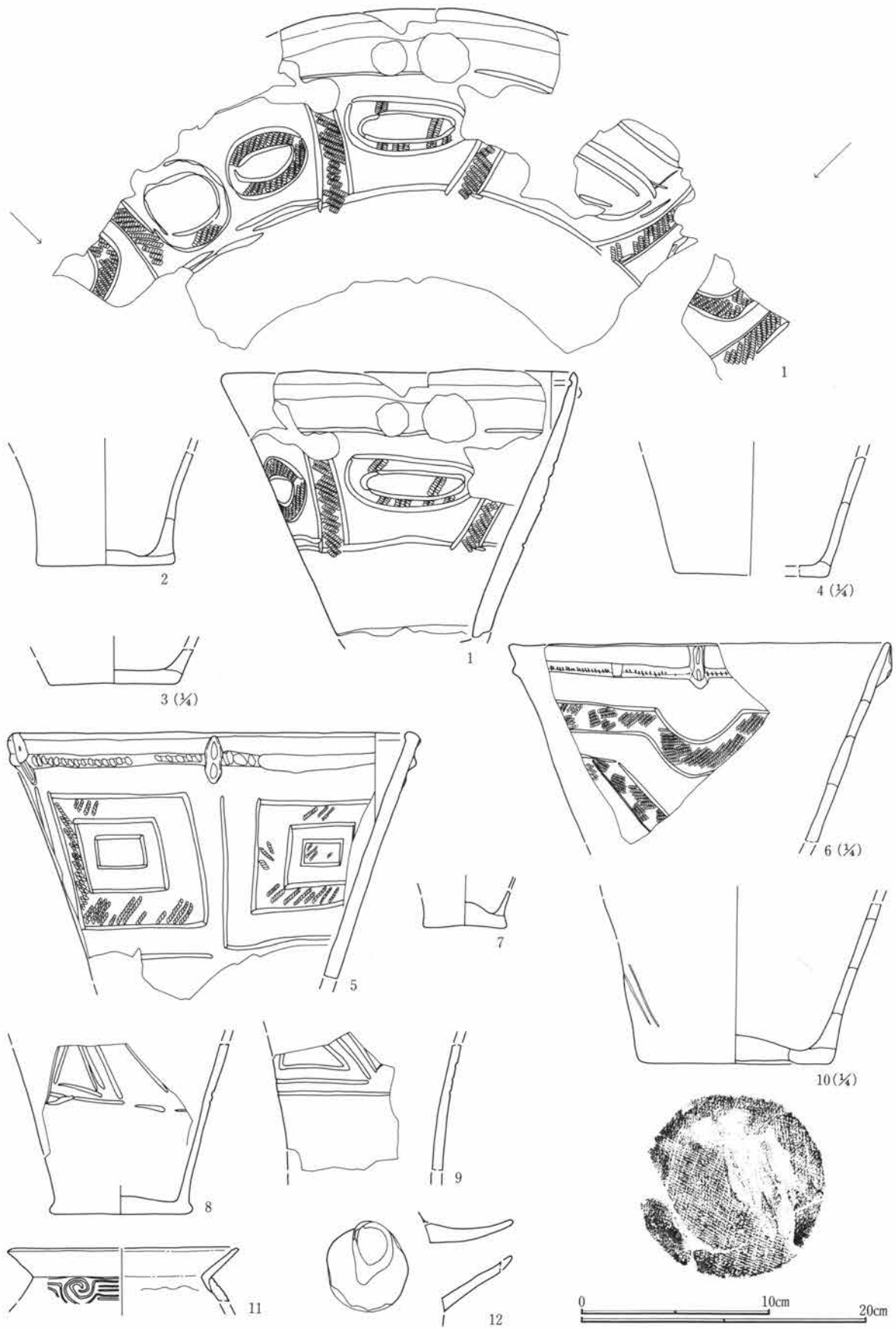
- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 暗褐色土 炭化粒子を含む 締まり強い | 2 暗褐色土 炭化粒子・ロームブロック含む |
| 3 暗褐色土 ローム粒子含む 締まり弱い | 4 暗褐色土 ロームブロック多量に含む |
| 5 暗黄褐色土 白色粒子・B.P.微量含む | 6 暗褐色土 締まり弱い |
| 7 黒褐色土 ロームブロック少量含む | 8 黒褐色土 B.P.・白色粒子を多量に含む |
| 9 黄褐色土 黒色土を縞状に混入 | 10 黒褐色土 B.P.を少量含む |
| 11 灰褐色土 白色粒子含む 粘性強い | 12 灰褐色土 白色粒子少量含む |
| 13 灰褐色土 白色粒子・ローム粒子含む | 14 黒色土 B.P.・白色粒子含む |
| 15 明褐色土 暗褐色土ブロックを含む | 16 暗褐色土 ロームブロック・B.P.含む |

0 2 m

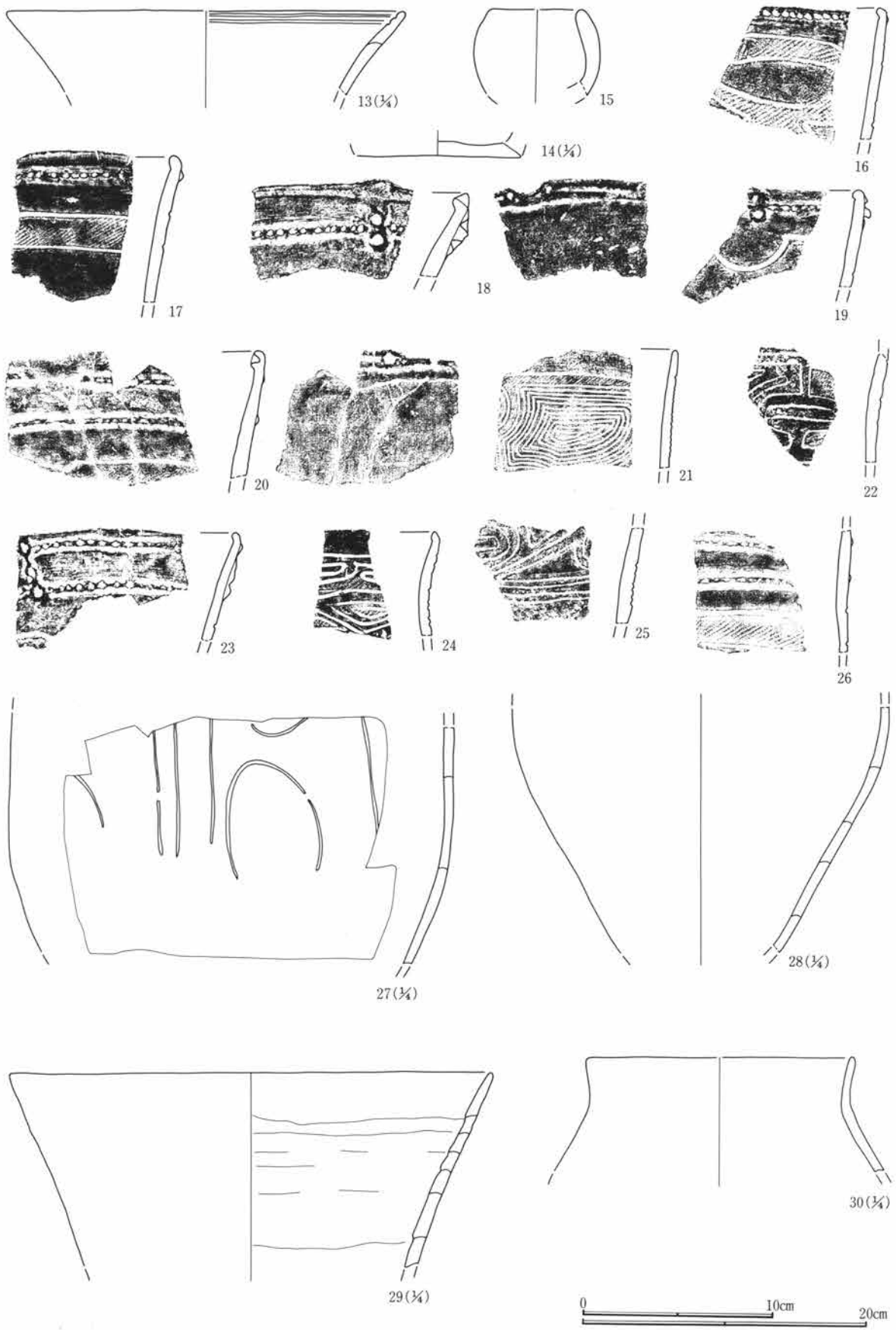
第28図 22号住居跡



第29図 22号住居跡遺物出土状況

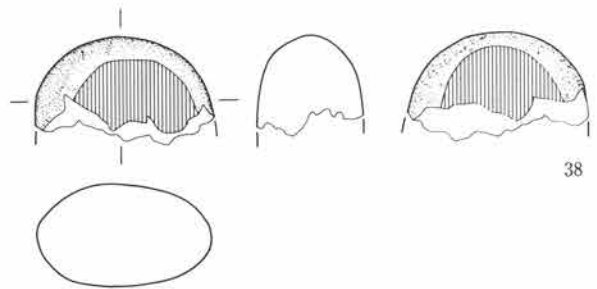
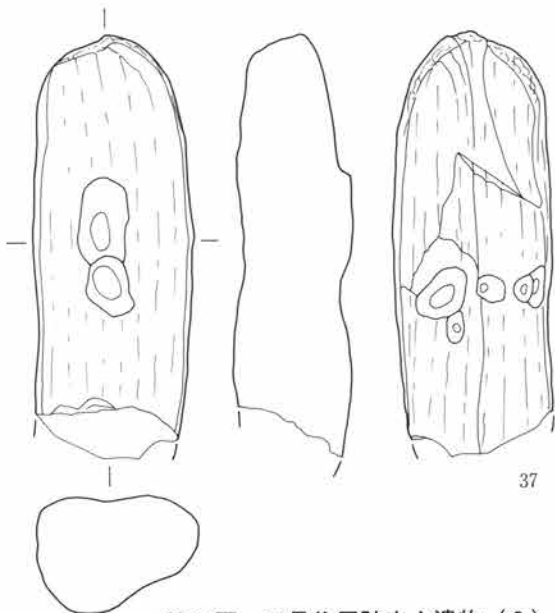
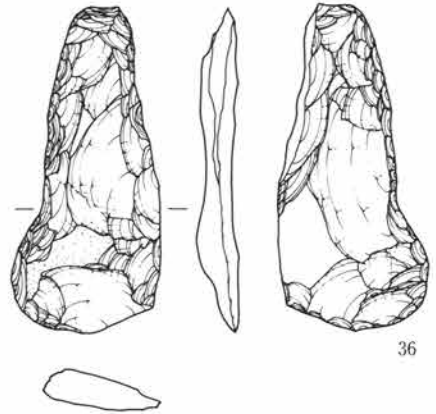
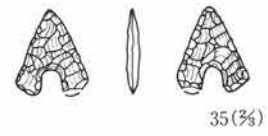
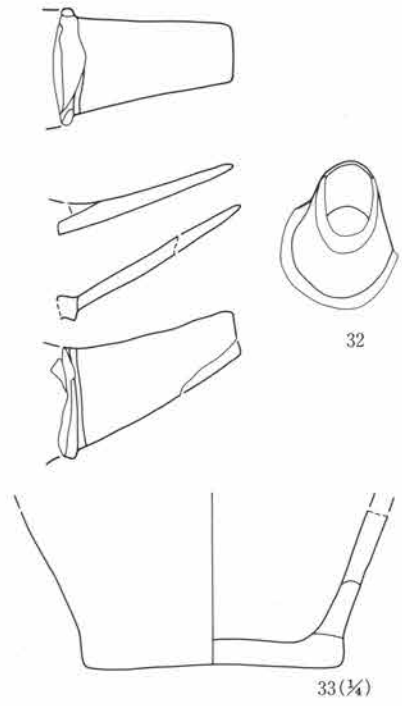
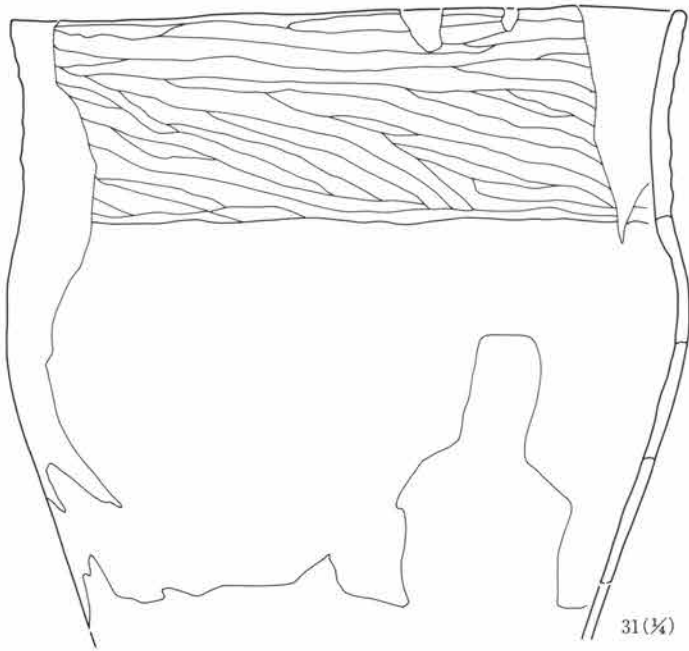


第30図 22号住居跡出土遺物(1)



第31図 22号住居跡出土遺物（2）

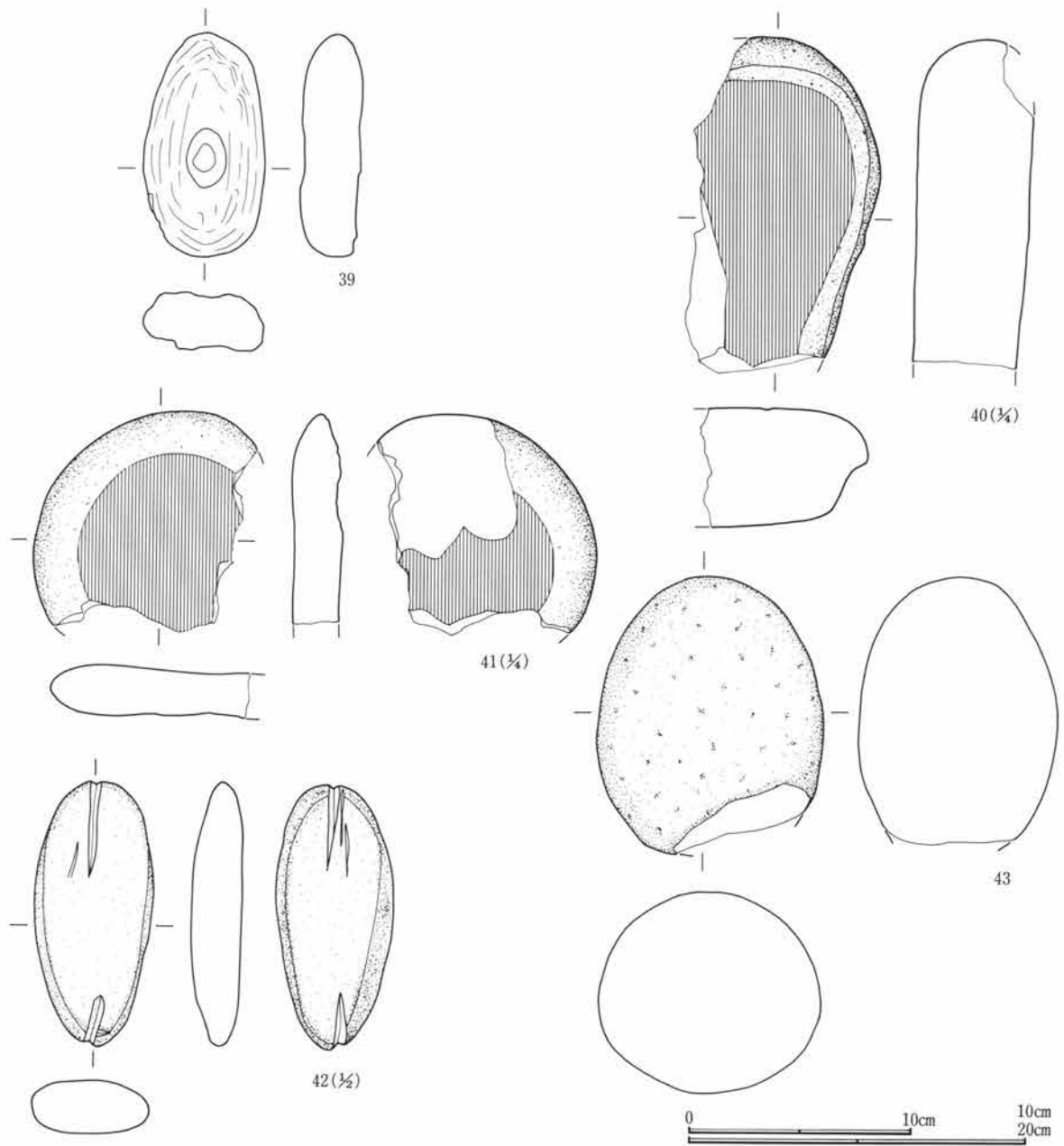
第1節 縄文時代



第32図 22号住居跡出土遺物 (3)



第三章 検出された遺構と出土遺物



第33図 22号住居跡出土遺物(4)

22号住居跡出土土器観察表

No.	器種 部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
1	深鉢 口~胴	北西 25	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(18.4cm) 内面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文 縦回転 口縁部下隆帯剥離	IX-1	
2	深鉢 胴~底	南西 1	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径7.2cm 内外面 研磨 底部ナデか		IX	
3	深鉢 底部	南西 32	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径8.9cm 内外面 研磨 底部網代痕		IX	
4	深鉢 口~底	南西 44	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(10.9cm) 外面研磨内面ナデか		IX	
5	深鉢 口~胴	北西 27	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	口径(20.7cm) 内面研磨	隆帯文上に刻み 8の字状貼 付文 沈線 L R磨消縄文	IX-1	
6	深鉢 口~胴	南西 41	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(26.6cm) 内面研磨	隆帯上に刻み 8の字状貼 付文 沈線 L R磨消縄文	IX-1	

第1節 縄文時代

No	器種 部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調	量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
7	深鉢 底部	南西 23	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径4.3cm	内面研 磨 底部ナデ		IX	
8	深鉢 胴～底	覆土	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を多く含む	底径7.5cm	内面ナデ 外面篋削り後ナデ	沈線	IX-2	
9	深鉢 胴部	北西 22	①暗褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを少量含む		内外面研磨	沈線 R L磨消縄文縦回転	IX-1	
10	深鉢 胴～底	北西 10	①橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	底径13.4cm	内外面 ナデ 底部網代痕	沈線	IX-2	
11	壺 口～頸	北西 29	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	口径(12.2cm)	内外面研磨	沈線	IX-2	
12	注口土 器注口	南西 2	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む		内面ナデ 外面研磨		IX-4	
13	深鉢 口縁部	南東 一4	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒・礫を含む	口径(28.0cm)	内外面研磨	内面口縁部下沈線	IX-5	
14	深鉢 底部	南東 一14	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(11.5cm)	内面 ナデ 外面篋削り		IX	
15	小型壺 口～胴	北西 4	①橙 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(5.0cm)	内外面ナデ		IX	
16	深鉢 口縁部	南東 44	①黒褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6mm	内外面研磨	隆帯文上に刻み 沈線区画 内にL R磨消縄文横回転	IX-1	
17	深鉢 口縁部	南西 2	①灰黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7mm	内外面研磨	隆帯文上に刻み 沈線区画 内にL R磨消縄文横回転	IX-1	
18	深鉢 口縁部	南東 6	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10mm	内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文上 に刻み	IX	
19	深鉢 口縁部	北西 31	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	器厚7mm	内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文上 に刻み 沈線	IX-2	
20	深鉢 口縁部	南東 36	①にぶい赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石を含む	器厚8mm	内外面研磨	隆帯文上に刻み 沈線	IX-2	
21	深鉢 口縁部	南西 35	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚5mm	内外面研磨	沈線による同心円文 R L磨消縄文縦回転	IX-2	
22	深鉢 胴部	北西 19	①黒褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7mm	内外面研磨	沈線	IX-2	
23	深鉢 口縁部	北西 一14	①黒褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	器厚6mm	内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文上 に刻み 沈線	IX-2	
24	深鉢 口縁部	北西 36	①黄灰 ②黄灰 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6mm	内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文 横回転	IX-1	
25	深鉢 胴部	南西 24	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚8mm	内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文 縦回転	IX-1	
26	深鉢 胴部	南西 44	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6mm	内外面研磨	隆帯文上に刻み 沈線区画 内にL R磨消縄文横回転	IX-1	
27	深鉢 胴部	北東 一21	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	胴径(31.0cm)	内外面研磨	沈線	IX-2	
28	深鉢 胴部	北西 28	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	胴径(26.4cm)	内外面研磨		IX	
29	深鉢 胴部	北西 28	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を多量に含む	口径(33.5cm)	内面研磨		IX	
30	深鉢 口縁部	北西 38	①にぶい黄褐 ②暗灰黄 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(20.4cm)	内外面研磨		IX	
31	深鉢 口～胴	南東 4	①橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径35.4cm	内外面研磨	指頭によるナデ	IX-3	
32	注口土 器注口	南東 42	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む		内外面研磨		IX-4	
33	深鉢 底部	北西 22	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	底径13.6cm	内外面ナデか		IX	
34	深鉢 口～胴	北東 15	①にぶい黄橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(29.4cm)	内外面研磨	指頭によるナデ	IX-3	

22号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
35	石鉄	南東一18	1.7	1.5	0.3	0.4	基部一部欠損	黒曜石	凹基 逆U字形のえぐりあり

第III章 検出された遺構と出土遺物

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
36	打製石斧	北西 32	12.8	6.0	1.5	125	完形	熱変成岩	撥I型 一方の側縁は直線的
37	くぼみ石	南東-14	[16.6]	6.5	4.8	800	一部欠損	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ 敲打痕を一部残す
38	磨石	南西 16	[7.2]	[4.2]	[4.2]	145	欠	安山岩	両面に磨面
39	くぼみ石	覆土	9.6	5.3	2.6	214	一部欠損	絹雲母石墨片岩	片面にくぼみ1個
40	石皿	北西 40	[19.5]	[11.4]	7.0	2100	欠	安山岩	磨面は平坦
41	石皿	北西-12	[12.8]	[13.2]	[2.9]	730	欠	安山岩	両面に磨面
42	石錘	北西-12	7.8	3.4	1.5	65	完形	輝緑岩	両端部に刻み
43	磨石	北西 4	[12.1]	10.1	8.8	1400	一部欠損	安山岩	全面に敲打痕を残す

155号土坑

位置 C81~84-II37~38Gr 重複 耕作ピットより古

平面形態 楕円形 掘り方は長軸が短軸の倍近くあるが、本来は西側に広がっていた可能性が高い。

規模 4.70m×2.41m 壁高 30cm やや傾斜している 面積 8.50㎡ 主軸方位 N-19°-E

掘り方 底面はほぼ平坦であるが、西に向かってやや下がっており、東壁際にピットが2基検出されている。遺構が西側に広がるとすると、掘り方の部分は掘り過ぎている可能性もある。

遺物出土状況 土器の出土量は多く、遺構掘り方内だけでなく、その西側からも多く出土している。垂直分布は、上層から底面まで満遍なく出土している。接合関係の判明する土器は4個体あるが、中層付近のものが多く、高低差も少ないものが多い。埋設土器が1基検出されている。

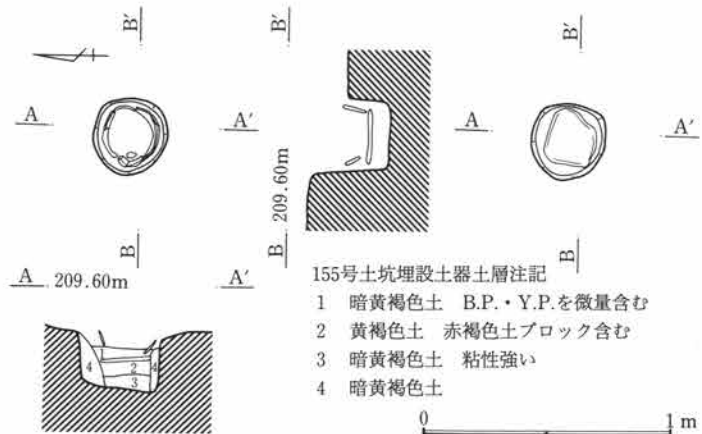
埋設土器 西壁際中央部に埋設土器が検出された。径30cm深さ21cmの掘り方内に、径23cm残存高6cmの土器が、偏平な石に乗った状態で出土した。石は径約25cm、厚さ約2cmの結晶片岩系の自然石で、掘り方底面より9cm上に水平に置かれていた。

出土遺物 土器は706点と多量に出土している。時期の判明するものは289点あり、VIII群(堀之内I式)土器が121点と最も多い。IX群土器も12点出土しているが、いずれも小破片で覆土上層出土であり、埋設土器もVIII群土器であるため、遺構の時期は堀之内I式期と考えられる。石器は比較的少なく、スクレイパー1、磨石1、剥片15、計17点出土している。

出土土器数量表

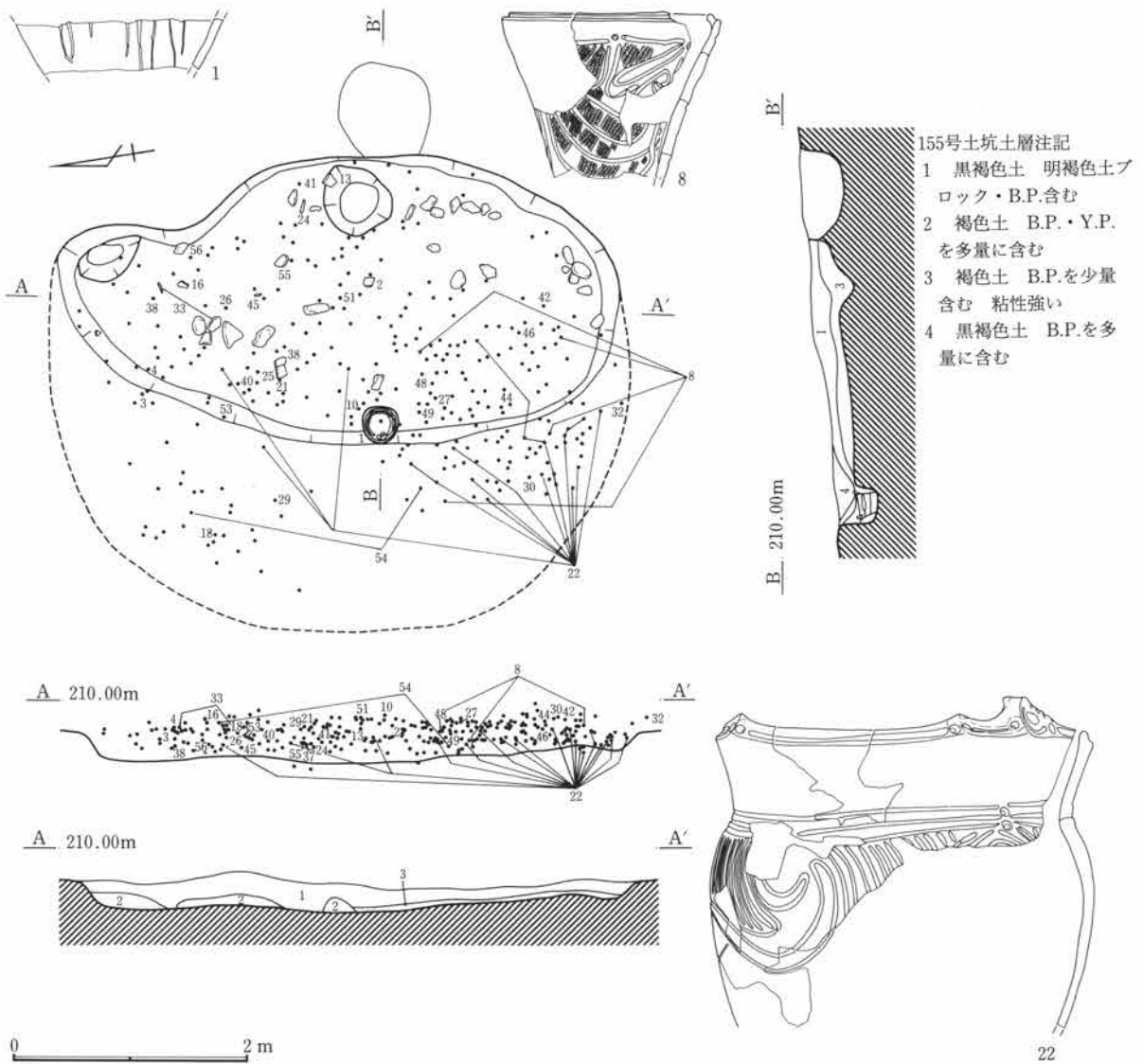
	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	合計
点 数	0	2	0	52	26	76	121	12	13	29	114	244	15	0	704
重 量(g)	0	40	0	2,391	645	2,857	10,383	390	410	1,000	5,010	5,330	430	215	29,101

所見 当初は大規模な楕円形の土坑と考えて調査を進めたが、確認面が黒色土で、西壁の外側からも遺物が出土しており、遺構が西側に広がる可能性が高いため、竪穴住居跡の可能性も考えられる。しかしながら、柱穴は検出されていないため、竪穴住居跡と断定することはできない。

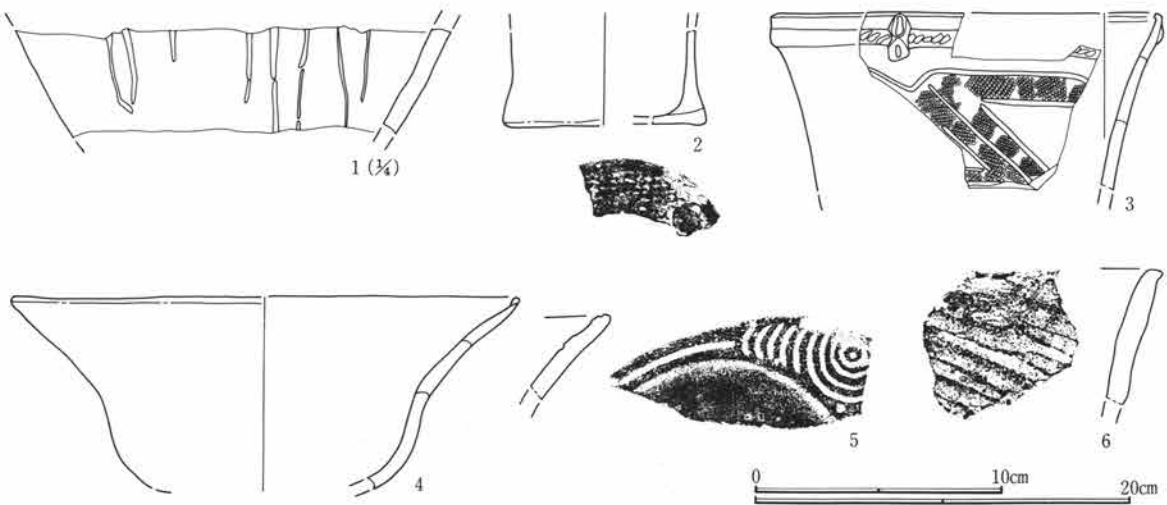


第34図 155号土坑埋設土器

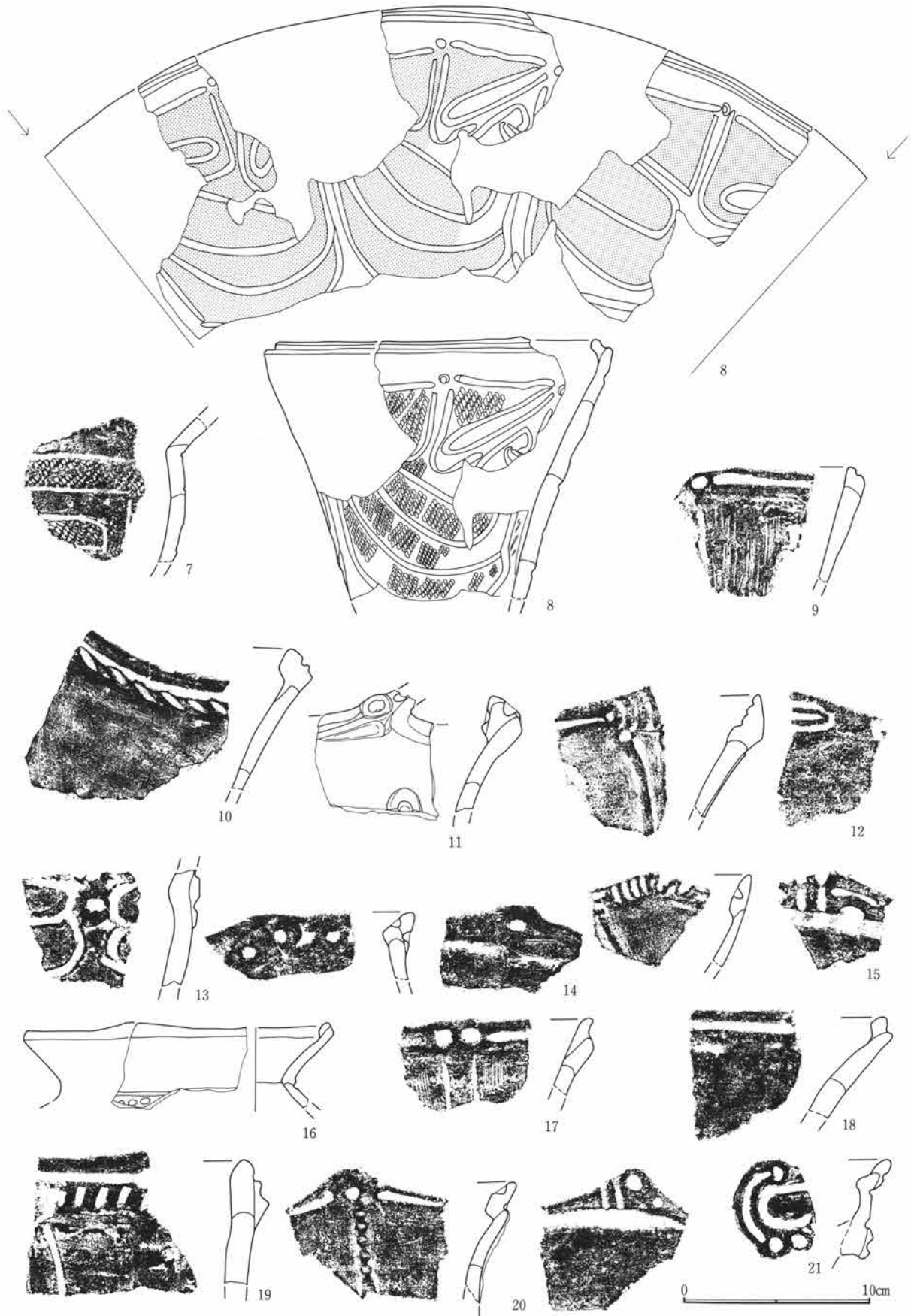
第1節 縄文時代



第35図 155号土坑



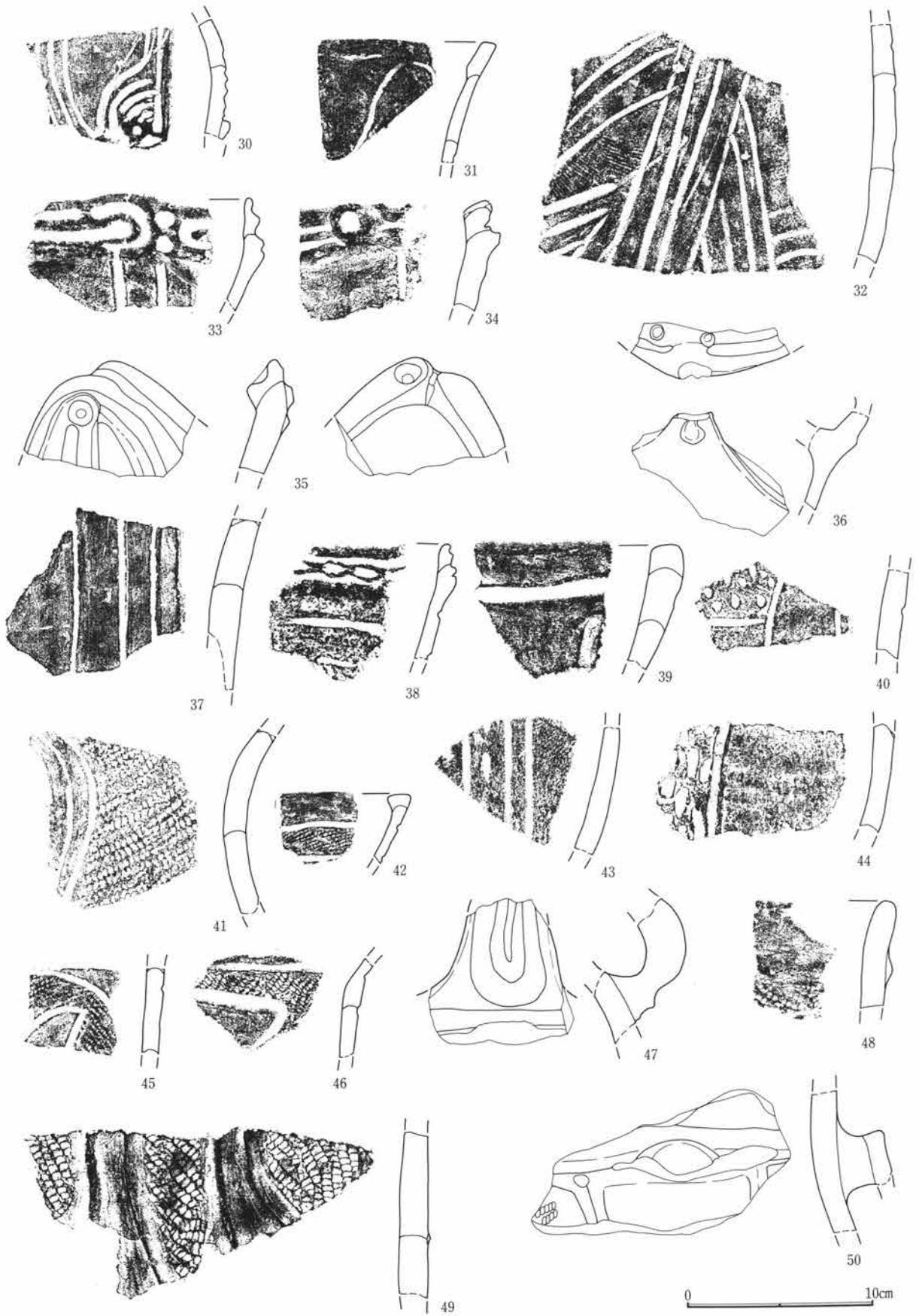
第36図 155号土坑出土遺物 (1)



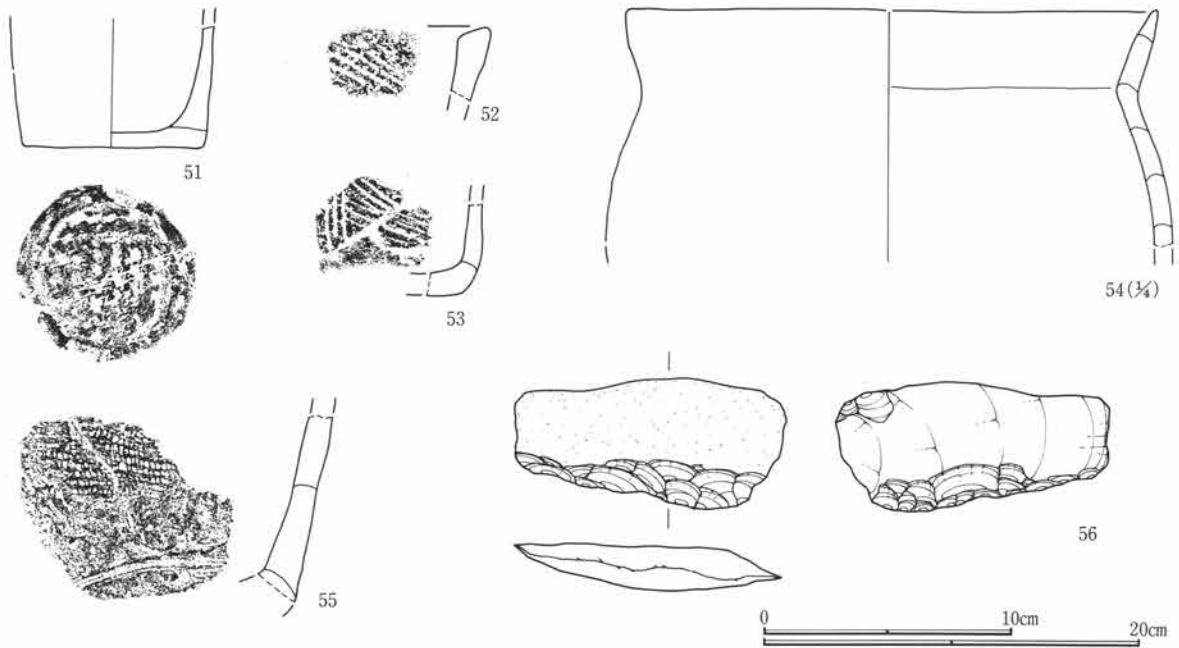
第37図 155号土坑出土遺物(2)



第38図 155号土坑出土遺物 (3)



第39図 155号土坑出土遺物（4）



第40図 155号土坑出土遺物(5)

155土坑出土土器観察表

No	器種部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
1	深鉢 胴部	南西 —17	①明褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	最大径23.2cm 内外面研磨	沈線	VIII-3	
2	深鉢 胴~底	南東 30	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	底径8cm 内外面研磨	底部網代痕あり	IX	
3	深鉢 口~胴	北西 26	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	口径15.5cm 内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文上 に刻み 沈線区画内にLR 磨消縄文	IX-1	
4	浅鉢 口~胴	北東 28	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径20.2cm 内外面研磨		IX-5	
5	深鉢 口縁部	覆土	①にぶい黄褐 ②赤褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚7mm 内面研磨	内面沈線 沈線による同心 円文	IX-2	
6	深鉢 口縁部	覆土	①明赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚10mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX-3	
7	深鉢 胴部	覆土	①灰褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~8mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文 横回転	IX-1	
8	深鉢 口~胴	南東 7	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径17.2cm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	VIII-1	
9	深鉢 口縁部	覆土	①淡黄 ②淡黄 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~10mm 内面研磨	沈線区画内に3+α本単位 の櫛状工具による条線文	VIII-5	
10	浅鉢 口縁部	南西 39	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~19mm 内外面研磨	口縁部外側に沈線および刻 み	VIII-6	
11	深鉢 口縁部	覆土	①褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚8~20mm 内外面ナデ	把手に透孔 口縁部内外に 貼付文後刺突文 沈線	VIII-5	
12	深鉢 口縁部	覆土	①浅黄橙 ②浅黄 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを多く含む	器厚4~17mm 摩擦により調整不明	口縁部に沈線および刺突文 隆帯文 口縁部内面に沈線	VIII-5	
13	深鉢 胴部	北東 —13	①暗褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~16mm 内面研磨	8の字状貼付文 沈線	VIII-5	内面に煤 付着
14	深鉢 口縁部	覆土	①明黄褐 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚6~13mm 摩擦により調整不明	口縁部内外円形貼付文に刺 突文	VIII	
15	深鉢 口縁部	覆土	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~8mm 内面研磨	口縁部に刻み 内外に沈線 内面楕円形文が潰れる	VIII-4	
16	壺 口縁部	北東 30	①黒褐 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	口径(15.6cm) 内面研磨	波状口縁 沈線 刺突文	VIII-3	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
17	深鉢 口縁部	覆土	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を多く含む	器厚5~12mm 内面研磨	口縁部に沈線 円孔 沈線 区画内に条線文	VIII-3	
18	深鉢 口縁部	北西 24	①褐 ②明褐 ③不良 ④粗 砂粒を多く含む	器厚10~14mm 摩滅により調整不明	口縁部に沈線	VIII-4	
19	深鉢 口縁部	覆土	①橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚12~20mm 内外面研磨	半截竹管状工具による沈 線・刺突文 沈線	VIII-3	
20	深鉢 口縁部	覆土	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③不良 ④粗 砂粒を多く含む	器厚4~12mm 内面ナデ	口縁部内外に沈線・刺突文 隆帯文に刻み	VIII-5	
21	深鉢 口縁部	北東 29	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚5~14mm 内外面研磨	横U字貼付文に円形竹管に よる沈線・刺突文	VIII-5	
22	深鉢 口~胴	南西 一8	①明赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口径(40.4cm) 内外面研磨	口縁部透孔 刻み 円形竹 管による沈線・刺突文	VIII-4	
23	深鉢 胴部	覆土	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒を多く含む	器厚6~8mm 内面研磨	隆帯文 沈線	VIII-5	
24	深鉢 胴部	北東 18	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚8~9mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VIII-1	
25	深鉢 胴部	北東 20	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒を多く含む	器厚10mm 内面ナデか	沈線区画内にLR縄文	VIII-1	
26	深鉢 胴部	北東 22	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VIII-1	
27	深鉢 胴部	南西 27	①浅黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~12mm 内外面研磨	半截竹管状工具による沈線 ・隆帯文上に刺突文	VIII-3	
28	深鉢 胴部	覆土	①黒褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~8mm 内外面ナデか	沈線	VIII-4	
29	深鉢 胴部	北西 26	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚5~9mm 内外面ナデ	沈線による平行線文と波状 文	VIII-4	
30	深鉢 胴部	南西 26	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~12mm 内面研磨	沈線 8の字状貼付文に円 形竹管による刺突文	VIII-4	
31	深鉢 口縁部	覆土	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~8mm 内外面研磨	沈線	VIII-4	
32	深鉢 胴部	南東 12	①明黄褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚10~11mm 摩滅により調整不明	平行沈線区画内にLR縄文	VIII-1	
33	深鉢 口縁部	北東 26	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~11mm 内面研磨	円形竹管による刺突文・沈 線	VIII-4	
34	深鉢 口縁部	覆土	①浅黄橙 ②橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚11~18mm 内外面ナデか	円形貼付文に二重の刺突文 沈線	VII-4	
35	深鉢 口縁部	覆土	①明黄褐 ②明黄褐 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚13~23mm 摩滅により調整不明	隆帯文 貼付文 沈線	VII-4	
36	浅鉢 口縁部	覆土	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚7~18mm 内外面研磨	内面に沈線・円形竹管によ る刺突文	VII-5	
37	深鉢 胴部	覆土	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを少量含む	器厚13~16mm 内外面研磨	沈線	VII-2	
38	深鉢 口縁部	北東 14	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚5~10mm 内外面ナデか	平行沈線間に半截竹管状工 具による刺突文 沈線	VII-1 ?	
39	深鉢 口縁部	覆土	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚10~18mm 内面研磨	沈線	VII-2	
40	深鉢 胴部	北東 20	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚11~12mm 内面ナデ	沈線区画内に刺突文	VII-1	
41	深鉢 胴部	北東 20	①にぶい褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文横回 転	VII-3	
42	深鉢 口縁部	南東 22	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚4~12mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文横回 転	VII-3	
43	深鉢 胴部	覆土	①橙 ②にぶい橙 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚8~10mm 摩滅により調整不明	沈線区画内に刺突文および LR縄文横回転	VII-3	
44	深鉢 胴部	南東 28	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚10~12mm 内外面研磨	沈線区画内に刺突文	VII-1	
45	深鉢 胴部	北東 7	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~10mm 内面ナデ	沈線区画内にLR縄文	VI-1	
46	深鉢 胴部	南東 18	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚5~9mm 内外面研磨	沈線区画内にRL縄文	VI-1	
47	深鉢 把手部	覆土	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚14~22mm 内外面ナデか	橋状把手外面に幅広の沈線	V	

No.	器種 部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
48	深鉢 口縁部	南東 24	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚12~16mm 摩滅により調整不明	隆帯文 LR縄文	V-1	
49	深鉢 胴部	南西 15	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12~15mm 内面研磨	隆帯文区画内にLR縄文	V-1	
50	深鉢 胴部	覆土	①黒褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚11~39mm 内外面研磨	橋状把手の上部残る 隆帯 文区画内にLR縄文	V-1	
51	深鉢 胴~底	北東 36	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	底径(7.2cm) 内外 面 研磨 底部網代痕		X-2	
52	深鉢 口縁部	覆土	①明赤褐 ②明赤褐 ③不良 ④粗 砂粒・雲母を含む	器厚8~13mm 内面研磨	半截竹管による沈線	II-1	
53	深鉢 胴~底	北西 14	①明赤褐 ②黒褐 ③不良 ④粗 砂粒・雲母を含む	器厚5~10mm 摩滅により調整不明	半截竹管による沈線	II-1	
54	深鉢 口~胴	南西 8	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを多量に含む	口径(34cm) 内面篋削り後ナデ		X-2	
55	深鉢 胴部	北東 14	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10~15mm 内面ナデか	RL縄文横回転 沈線	不明	

155号土坑出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
56	スクレイパー	北東 56	10.8	5.6	1.8	105	完形	熱変成岩	側縁に刃部 片面に自然面を残す

196号土坑

位置 C61-II21Gr 重複関係 なし 平面形態 楕円形 規模 1.02m×0.84m 壁高 40cm

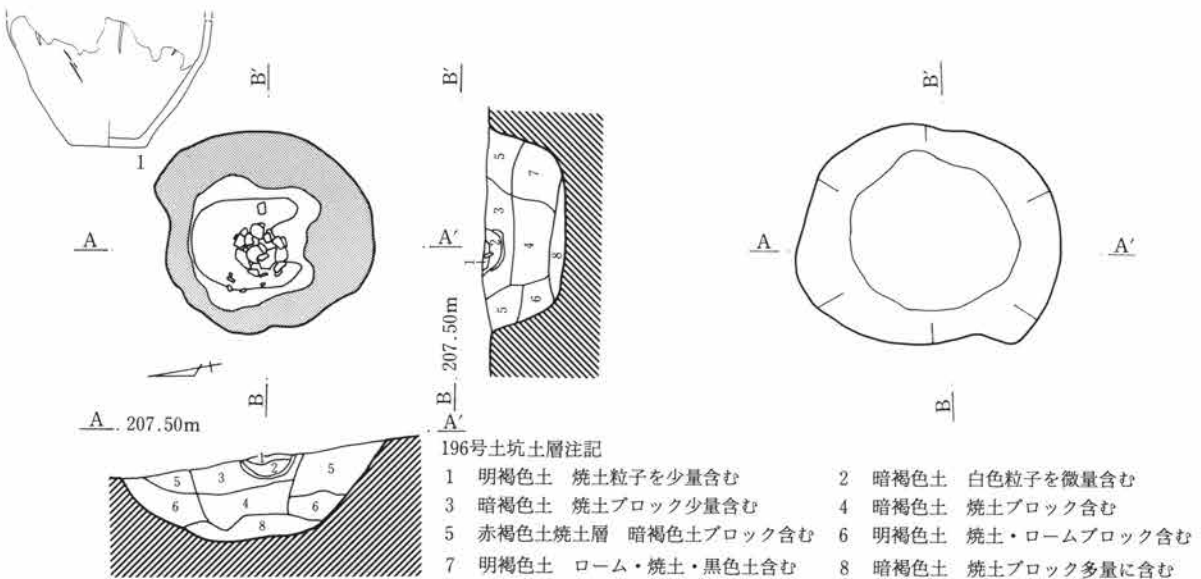
主軸方位 N-21°-E 掘り方 断面は底部がやや丸みを帯び、鍋底状を呈する。

特徴 覆土上層の周囲10cm~30cmの範囲で焼土層が存在し、内側は径約50cm深さ約25cmの範囲で暗褐色土となっている。その中央やや南寄り覆土上層から深鉢の下半部が出土している。

出土遺物 出土土器は10点と少なく、中央部から出土しているVII群の深鉢以外は小破片が9点出土しただけ

出土土器数量表

	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	合計
点数	0	0	0	1	1	3	0	0	0	0	1	4	0	0	10
重量(g)	0	0	0	60	14	743	0	0	0	0	10	53	0	0	880



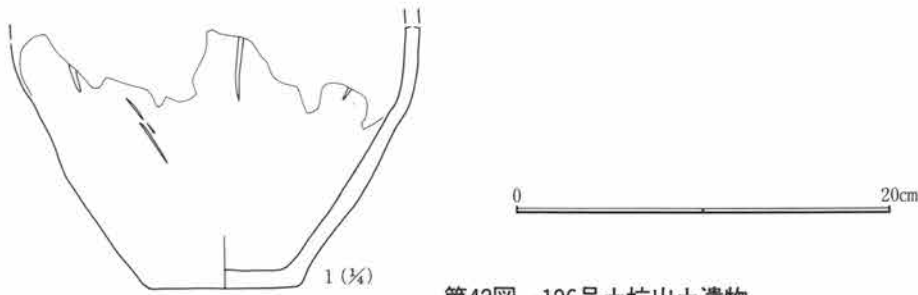
196号土坑土層注記

- 1 明褐色土 焼土粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 白色粒子を微量含む
- 3 暗褐色土 焼土ブロック少量含む
- 4 暗褐色土 焼土ブロック含む
- 5 赤褐色土焼土層 暗褐色土ブロック含む
- 6 明褐色土 焼土・ロームブロック含む
- 7 明褐色土 ローム・焼土・黒色土含む
- 8 暗褐色土 焼土ブロック多量に含む

第41図 196号土坑

0 1m

第三章 検出された遺構と出土遺物



第42図 196号土坑出土遺物

196号土坑出土土器観察表

No.	器種部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調 量整	文様要素	分類	備考
1	深鉢 胴~底		①赤褐 ②におい褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	底径8cm 内外面研磨	沈線	VII-2	

である。石器は出土していない。

所見 周囲に焼土が検出され、中央に掘り込みがあり深鉢が出土した状況から推察すると、竪穴住居跡の炉とも考えられるが、周囲から床面・柱穴等は検出されていないため、住居と断定することはできない。遺構の時期は出土した深鉢から、称名寺II式期と考えられる。

228号土坑

位置 C61-II21Gr **重複関係** なし

平面形態 隅丸長方形・柄鏡形 南東部しか調査できなかったため遺構の全体は不明であるが、外側の掘り方は隅丸長方形の可能性が高く、遺構内の石組を見ると柄鏡形の敷石住居の可能性も考えられる。

規模 5.90m×2.30m **壁高** 84cm **面積** 12.82m² **主軸方位** N-10°-E

掘り方 外側に隅丸長方形になると考えられる浅い掘り込みがあり、内側には上部の石組に沿う形で掘り込みが存在する。南東部には土坑状の掘り込みもある。

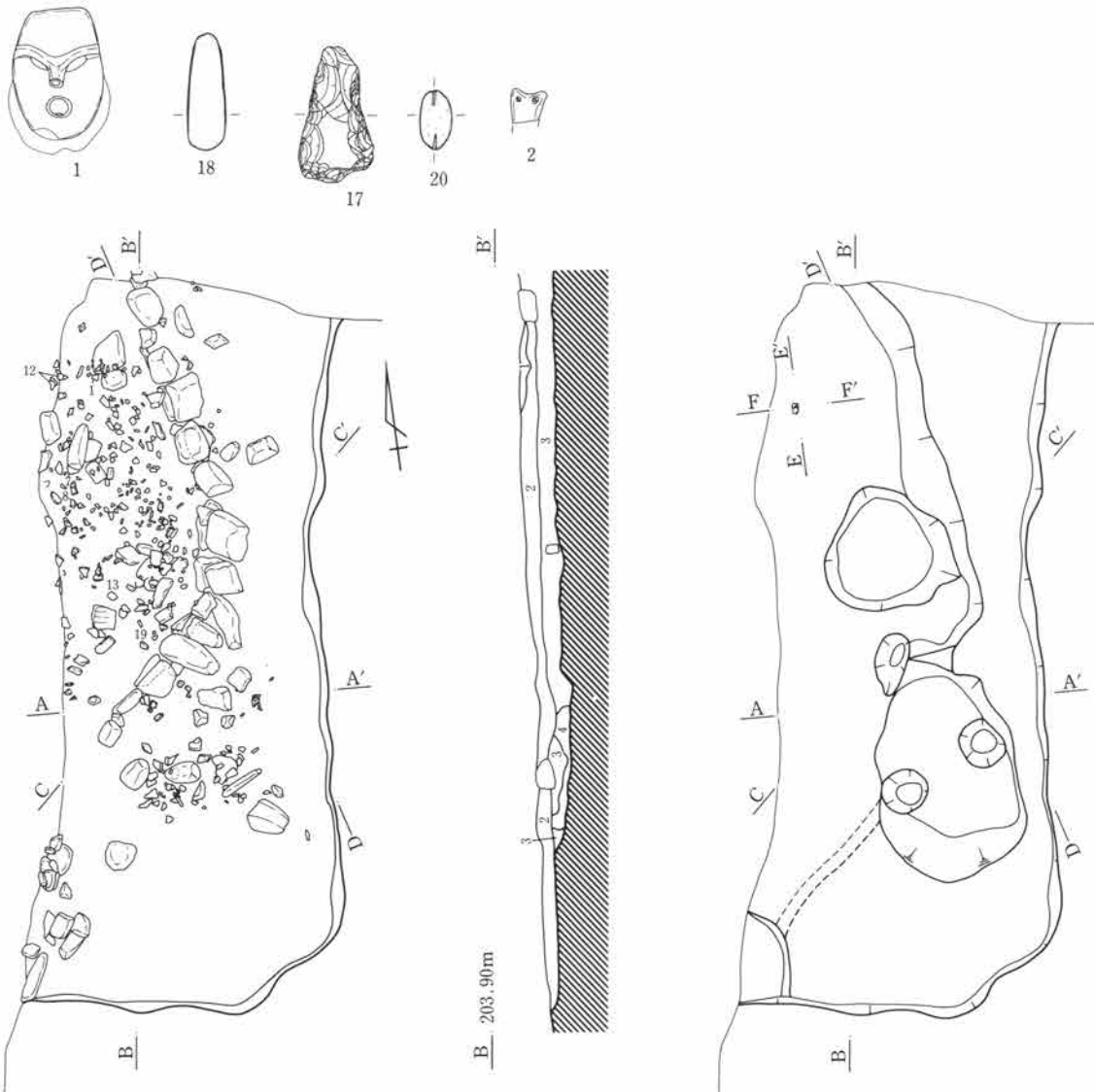
遺物出土状況 中央部から北側にかけて、半円形の石組が検出されており、さらに北西に続いている。また南部にも石組が検出されている。石組の内側から多量の土器が出土しており、北部から土偶の頭部が出土している。

出土遺物 土器は678点出土しているが、小破片が多く器形の復元できるものはない。時期の判明するものは182点と少なく、IV・V群からIX群までほぼ平均して出土している。1の土偶は、頭頂・側頭部・口に透孔があり、貼付面からきれいに剥がれていて、一見頭部だけの完形品に見える。石器は、打製石斧2、磨製石斧1、砥石1、石錘1、剥片18、計23点出土している。

所見 北側の半円形の石組が主体部、南側の石組が張出部に比定できるため、敷石住居の可能性が考えられるが、南東部しか調査できず全容が不明であるうえ、炉・埋設土器等が検出されていないため、断定はできない。遺構の時期は、出土遺物から堀之内II式期と考えられるが、この時期の敷石住居にしては主体部の石組がしっかりし過ぎていることも疑問である。

出土土器数量表

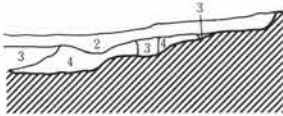
	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	合計
点数	4	11	0	38	37	41	39	27	14	10	105	338	14	0	678
重量(g)	65	218	0	1,713	650	810	751	454	230	120	2,100	4,300	340	0	11,751



228号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 耕作ピット 浅間A軽石を含む
- 2 暗褐色土 白色粒子・炭化粒子を含む 締まり強い
- 3 暗褐色土 B.P.・ロームブロック含む
- 4 黄褐色土 粘土をベースに暗褐色土ブロック含む

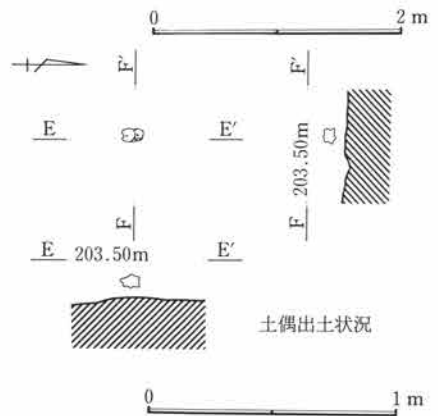
A. 203.90m A'



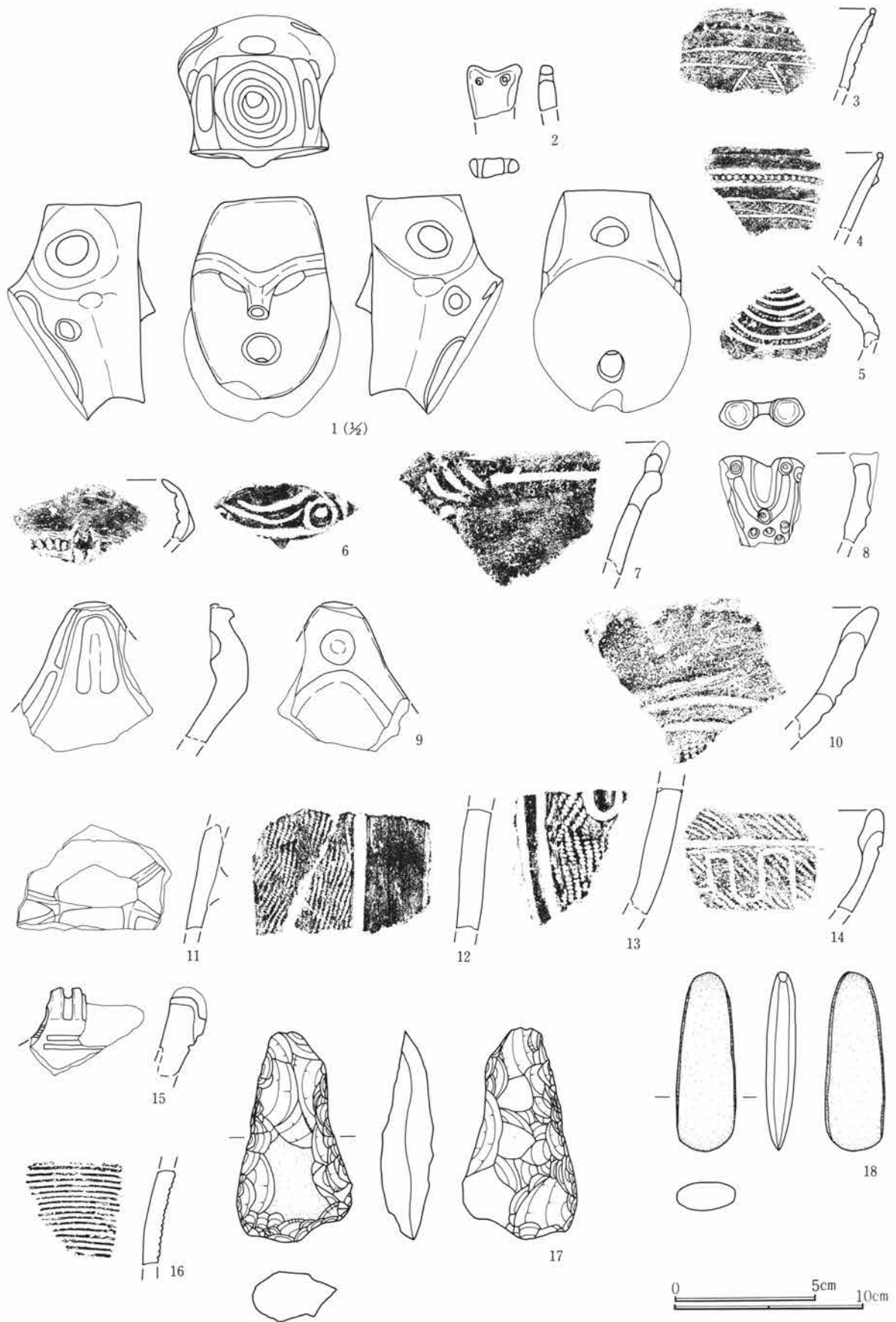
C. 203.90m C'



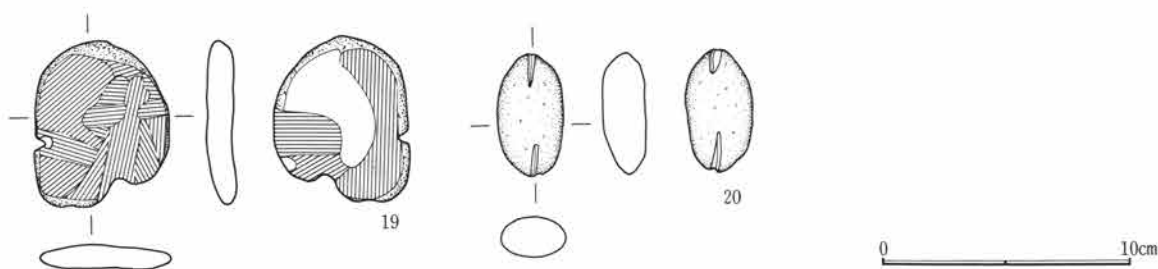
D. 203.90m D'



第43図 228号土坑



第44図 228号土坑出土遺物 (1)



第45図 228号土坑出土遺物(2)

228号土坑出土土器観察表

No.	器種部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調 量 整	文様要素	分類	備考
1	土偶頭部	北西	①②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	全長7.8cm 幅5.7cm 厚さ5.3cm 重量170g	沈線・透孔あり 頭部が貼付部からはがれる	IX	
2	土製品	覆土	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	厚さ6~10mm 重量6g	透孔		
3	深鉢口縁部	北西	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚2~5mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み 沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
4	深鉢口縁部	覆土	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚2~6mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み 沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
5	深鉢肩部	覆土	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~8mm 内外面研磨か	同心円状の沈線区画内に連続刺突文	IX-4	注口土器の肩部か
6	深鉢口縁部	覆土	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚2~9mm 内外面研磨か	8の字状貼付文 隆帯文上に刻み 内面沈線・刺突文	IX-2	波状口縁折り曲げ
7	深鉢口縁部	北西	①にぶい黄橙 ②暗灰黄 ③不良 ④粗 砂粒を多く含む	器厚7~11mm 摩滅により調整不明	沈線 刺突文	VIII-3	
8	深鉢口縁部	覆土	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚6~13mm 内面研磨	円形竹管による刺突文・沈線	VIII-7	
9	浅鉢口縁部	北西	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子・パミスを含む	器厚10~21mm 摩滅により調整不明	幅広の沈線 内面に円孔	VII-6	
10	深鉢口縁部	覆土	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚9~14mm 摩滅により調整不明	隆帯文 沈線区画内にRL縄文	V-2	
11	深鉢胴部	覆土	①褐灰 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を多く含む	器厚7~11mm 摩滅により調整不明	隆帯文 橋状把手剝離痕あり	V-1	
12	深鉢胴部	北西	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚11~13mm 内面ナデ	沈線区画内にRL縄文縦回転	IV-2	
13	深鉢胴部	北西	①黒褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚11~13mm 内面研磨	隆帯文 LR縄文横回転	IV-1	
14	深鉢口縁部	覆土	①橙 ②暗褐 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚6~13mm 内面研磨	RL縄文 半截竹管状工具による沈線および結節沈線	II-2	
15	深鉢口縁部	覆土	①明褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11~20mm 内面研磨	口縁部にU字状の貼付文 沈線	II-1	
16	深鉢胴部	覆土	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 普通 砂粒を少量含む	器厚8~9mm 内面研磨	半截竹管状工具による集合沈線	II-2	

228号土坑出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
17	打製石斧	覆土	11.0	6.1	2.3	140	完形	熱変成岩	撥I型 片面に自然面を残す
18	磨製石斧	覆土	9.3	3.1	1.6	85	完形	安山岩	研磨段階 全面に研磨が施される
19	砥石	北西	6.5	5.4	1.1	40	完形	流紋岩	両面に研ぎ面
20	石錘	覆土	4.8	2.7	1.8	26	完形	安山岩	両端部に刻み

11号埋設土器

位置 C58~59-II45Gr 重複 なし 平面形態 円形 規模 1.1m×1.02m

深さ 37cm 主軸方位 N-41°-E 掘り方 底面は平坦で、立ち上がりは直線的である。

特徴 196号土坑と同様覆土上層の周囲10~30cmの範囲で焼土層が存在し(一部切れている部分もある)、内

第三章 検出された遺構と出土遺物

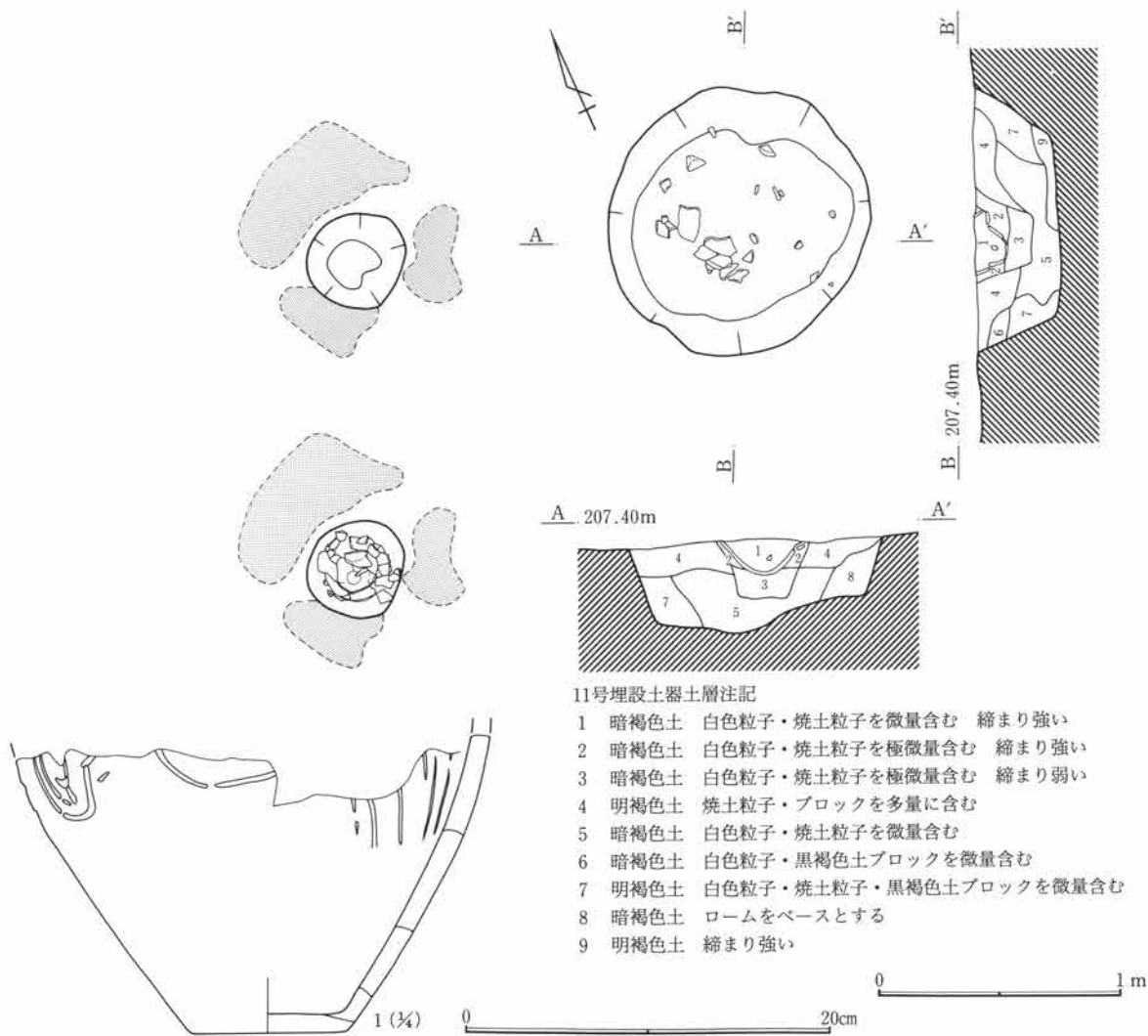
側は径約30cm深さ約25cmの範囲で暗褐色土となっていて、掘り込みの存在を示す。その上層から深鉢の下半部が出土している。

出土遺物 出土土器は25点と少なく、時期の判明する土器17点のうち、前述の深鉢の他VII群土器が16点とほとんどを占めている。石器は出土していない。

所見 焼土や深鉢の検出状況を見ると、掘り方が円形であることと中央部の掘り込みの径が小さいことの差はあるが、他は196号土坑と酷似しており、同性格の遺構とすることができる。196号土坑同様竪穴住居の炉の可能性はあるが、周囲から床面・柱穴等は検出されていない。遺構の時期は、196号土坑同様称名寺II式期と考えられる。

出土土器数量表

	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	合計
点数	0	0	0	0	1	16	0	0	0	0	1	6	0	0	24
重量(g)	0	0	0	0	10	1,815	0	0	0	0	30	45	0	0	1,900



11号埋設土器土層注記

- 1 暗褐色土 白色粒子・焼土粒子を微量含む 締まり強い
- 2 暗褐色土 白色粒子・焼土粒子を極微量含む 締まり強い
- 3 暗褐色土 白色粒子・焼土粒子を極微量含む 締まり弱い
- 4 明褐色土 焼土粒子・ブロックを多量に含む
- 5 暗褐色土 白色粒子・焼土粒子を微量含む
- 6 暗褐色土 白色粒子・黒褐色土ブロックを微量含む
- 7 明褐色土 白色粒子・焼土粒子・黒褐色土ブロックを微量含む
- 8 暗褐色土 ロームをベースとする
- 9 明褐色土 締まり強い

第46図 11号埋設土器および出土遺物

11号埋設土器出土土器観察表

No	器種部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量 調整	文様要素	分類	備考
1	深鉢 胴～底		①にぶい赤褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	底径7.4cm 内外面研磨	沈線	VII-2	

(3) 土 坑

縄文土坑一覧表

No	位置 (Gr)	重複関係	平面形態	断面形態	規模 (m)	深さ (cm)	面積 (㎡)	主軸方位	時期
4	C58-I96~97	なし	楕円形	d	0.95×0.65	18	0.59	N-26°-E	
6	C59-II2~3	なし	隅丸長方形	b	1.40×0.93	20	1.17	N-21°-W	堀之内II以降
耕作溝に切られる。南立ち上がり付近にピットあり。									
7	C58~59-II3	なし	隅丸長方形	b	2.07×0.80	18	1.34	N-35°-E	
8	C58~59-II1	なし	隅丸長方形	d	0.86×0.75	24	0.59	N-35°-E	
9	C59~60-II3~4	なし	隅丸長方形	d	2.32×0.94	34	1.80	N-79°-E	
立ち上がり部分にピット4基あり。									
13	C57~59-I88~90	なし	不正形	e	3.87×2.65	87	6.70	N-19°-E	堀之内II
不正形の土坑で風倒木痕等の可能性もあるが、出土遺物は多く完形に近い土器も出土している。									
14	C60~61-I87	なし	円形	b	0.84×0.80	24	0.57	N-60°-E	
15	C61-I88~89	なし	隅丸方形	b	1.18×1.05	34	1.07	N-15°-E	加曾利E以降
底面に径20~35cmのピット7基あり。									
16	C56~57-I87~88	なし	隅丸長方形	e	2.05×1.08	19	2.06	N-52°-W	称名寺II以降
底面に径15~65cmのピット9基あり。									
17	C62-I88	なし	楕円形	d	4.03×1.62	84	6.29	N-20°-E	中期初頭以降
19	C64~65-II0~1	11号土坑より古	楕円形	c	0.92×0.75	62	0.56	N-36°-E	称名寺I
北側の壁が一部内傾しトンネル状に40cm程掘り込まれている。									
21	C58-I85	なし	隅丸方形	a	1.23×0.97	67	1.06	N-25°-E	加曾利E4
1の深鉢は底部から30cm程上の位置で出土。									
22	C62~63-I88	なし	隅丸方形	a	0.69×0.68	38	0.40	N-83°-W	
23	C65-I81	なし	隅丸方形	d	0.93×0.79	34	0.62	N-84°-E	堀之内I以降
24	C61~63-I98~99	なし	不正形	a	1.85×0.66	29	1.20	N-41°-W	堀之内II以降
25	C66-II4	なし	楕円形	a	0.85×0.70	32	0.51	N-5°-E	堀之内II
北部からほぼ完形の深鉢が出土。									
27	C61~62-I58~59	なし	隅丸長方形	a	2.42×0.97	29	2.34	N-11°-W	
28	C60~62-I57	なし	隅丸長方形	b	2.85×1.22	42	3.07	N-26°-W	称名寺II以降
29	C64~65-I65~66	37号土坑より古	不正形	e	2.35×2.35	75	4.60	N-87°-E	堀之内II以降
30	C66~67-I63~64	なし	楕円形	e	3.55×0.98	30	3.33	N-55°-E	加曾利E以降
長径50cm程の礫がほぼ一直線に並ぶ。									
31	C82~83-II11~12	なし	円形	b	1.46×1.28	50	1.51	N-5°-E	称名寺II
出土土器が83点と多く、中央に集中して出土している。									
34	C80~81-II9~11	なし	不正形	e	3.30×1.94	62	5.43	N-33°-W	堀之内II以降
平面・断面とも不正形で、風倒木痕の可能性あり。									
35	C84~85-II15~16	なし	楕円形	e	1.95×1.57	32	2.75	N-90°-E	
36	C81~83-II0~2	なし	隅丸長方形	a	3.05×1.84	125	4.85	N-45°-E	堀之内II以降
覆土中から径10cm程度の礫が多数に出土。出土土器も160点と多い。									
38	C79~80-II0~2	なし	隅丸方形	a	1.60×1.57	48	2.95	N-17°-W	加曾利E以降
41	C84~85-II8~9	なし	円形	a	1.89×1.65	74	2.63	N-S	称名寺I以降
覆土下層から底面にかけて5~10cmの礫が多数出土。									
43	C56~57-I84~85	なし	楕円形	d	0.75×0.65	27	0.38	N-42°-W	
44	C55~56-I84~85	なし	円形	a	0.88×0.84	94	0.62	N-27°-E	称名寺I以降
深さが94cmと深く、断面長方形のしっかりした掘り方をもつ。									
45	C78-I94	なし	円形	a	0.62×0.60	54	0.31	N-58°-E	
46	C78-I93	なし	不正形	a	0.52×0.48	96	0.19	N-57°-E	堀之内I以降
深さ96cmと深く、径の2倍ある。									
47	C78-I93	なし	隅丸方形	a	0.42×0.34	27	0.13	N-13°-W	堀之内I以降
48	C78-I92	なし	円形	c	0.50×0.45	72	0.23	N-23°-W	
壁が内傾し袋状となる。									
49	C79~80-I90	なし	隅丸方形	b	0.85×0.75	40	0.50	N-8°-W	堀之内I以降
50	C83-I91	なし	隅丸長方形	e	0.90×0.75	32	0.58	N-20°-E	
51	C81~82-I90	なし	円形	b	1.03×0.92	69	0.74	N-88°-E	堀之内I以降
52	C68-II14~15	なし	隅丸方形	a	1.16×1.14	47	1.08	N-28°-E	称名寺II以降
径10~20cmの礫(多孔石を含む)が数点出土。									
53	C83~84-I95~96	なし	楕円形	b	0.95×0.74	16	0.53	N-61°-W	
54	C81-I89	なし	隅丸方形	a	0.78×0.74	54	0.43	N-87°-W	堀之内I以降
55	C80~81-I92	なし	隅丸方形	e	0.56×0.50	29	0.24	N-55°-W	称名寺II以降
56	C76~77-I93~94	なし	隅丸方形	a	0.96×0.90	60	0.70	N-55°-E	称名寺II以降

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	位置 (Gr)	重複関係	平面形態	断面形態	規模 (m)	深さ (cm)	面積 (m ²)	主軸方位	時期
58	C66-I66	なし	円形	e	0.84×0.80	60	0.56	N-45°-E	称名寺I以降
60	C85~86-I95~97	6住より新 59土坑より古	不正形	e	3.18×1.40	84	4.27	N-76°-W	堀之内II以降
平面・断面ともに不正形で、風倒木痕の可能性あり。									
62	C80-I94	なし	円形	a	0.52×0.50	29	0.21	N-62°-W	称名寺II以降
63	C81-I93	なし	隅丸方形	a	0.78×0.68	88	0.40	N-41°-E	堀之内I以降
深さ88cmと深く、南にやや傾いて掘り込まれている。									
64	C77~78-II17~18	なし	隅丸方形	a	1.12×1.04	33	1.11	N-36°-E	堀之内I以降
平面形は整った隅丸方形を呈し、断面形もきれいな台形を呈している。									
65	C68~69-II0~1	なし	隅丸長方形	b	1.20×0.90	70	0.88	N-68°-W	称名寺II以降
多量の小礫・土器片が出土。									
68	C66~67-II7~8	なし	楕円形	b	1.55×0.45	56	0.57	N-74°-W	堀之内II
北西部に礫・土器片が集中して出土。									
70	C61~62-I62~63	なし	隅丸長方形	d	3.58×1.64	48	5.18	N-88°-E	堀之内II以降
東部は一段低く掘り込まれている。									
71	C62~63-I66~67	2堅穴より古 4掘立と重複	楕円形	e	2.13×0.99	55	1.81	N-47°-E	加曾利E以降
72	C67~68-II7~9	なし	隅丸長方形	d	2.52×1.38	91	3.25	N-75°-W	堀之内II以降
底部の東側に溝状の2段の掘り込みあり。土器片が多数出土。									
73	C67~68-II6~7	なし	楕円形	b	2.24×1.62	119	2.96	N-21°-W	堀之内I以降
南東部にテラス状の段あり。									
74	C60~62-I64~65	なし	隅丸長方形	b	2.62×0.99	70	2.85	N-35°-W	堀之内II以降
75	C79~80-II13~14	8住より古	不正形	e	3.40×2.04	69	6.62	N-17°-W	称名寺II以降
平面・断面ともに不正形で、人為的な掘り込みでない可能性もある。									
78	C59~61-I69~71	3堅穴より古	隅丸方形	d	3.29×2.40	100	5.60	N-20°-E	堀之内II以降
底部中央にピット状の掘り込みあり。103点と多くの土器片が出土。									
79	C67~69-I59~60	なし	楕円形	e	3.47×1.90	95	5.49	N-15°-W	称名寺II以降
中央西側に平面三角形、断面台形の掘り込みあり。中央部の覆土上層から石皿・多孔石を含む20~50cmの礫が多数出土。									
82	C94~95-II23	なし	楕円形	b	2.52×1.30	24	2.45	N-26°-E	堀之内I以降
北部・南部に計1m程の掘り込みあり。									
83	C88-II23	なし	楕円形	b	1.34×1.08	37	1.12	N-29°-W	堀之内II以降
中央やや西寄り一段低く掘り込まれ、東立ち上がり部分にピットがある。									
84	C91~92-II22~23	116・117土坑より新	隅丸方形	d	1.86×1.48	37	2.25	N-44°-E	加曾利E以降
85	C86~87-II10~11	7住より新	円形	a	1.66×1.52	30	1.88	N-32°-E	堀之内II
径10~20cmの礫が数点出土。									
86	C71~72-I78~79	内匠城土塁より古	楕円形	b	1.96×1.22	80	2.05	N-35°-E	堀之内I以降
87	C83~85-II35~37	99土坑より古	不正形	b	3.06×2.25	69	5.19	N-S	中期初頭以降
底部に数カ所掘り込みがあり、遺物は中央東側の掘り込みに集中している。									
88	C84~85-II33~34	なし	隅丸長方形	a	1.86×1.60	28	2.86	N-13°-E	
底部に径20~50cmのピットが5基あり。									
90	C84~85-II29	156土坑より古	円形	a	1.05×1.03	51	0.83	N-41°-E	称名寺II以降
91	C83~84-II27~28	なし	円形	c	1.17×1.04	70	0.99	N-23°-W	堀之内I以降
覆土中から20~30cmの礫や土器片が多数出土。									
92	C79~80-II31~32	なし	隅丸長方形	a	1.82×1.35	50	2.34	N-58°-W	堀之内II以降
93	C84~85-II31~32	95土坑より古	隅丸方形	d	1.76×1.68	49	2.52	N-66°-E	加曾利E4
底面の南西部にほぼ完形の深鉢が埋設される。									
94	C86-II9~10	なし	楕円形	e	1.13×0.79	47	0.63	N-22°-E	堀之内II
南部に礫が集中して出土し、1の深鉢は北部から出土。									
95	C82~84-II30~32	93土坑より新	不正形	e	3.58×1.94	60	6.38	N-28°-E	堀之内II以降
南東部にテラス状の段あり。出土遺物多い。									
98	C81~83-II32~35	251・253土坑と重複	隅丸長方形	e	5.20×2.04	85	9.88	N-61°-W	堀之内II以降
底部中央北よりに溝状の掘り込み2カ所あり。									
100	C80~81-II36~37	なし	隅丸方形	b	1.42×1.36	42	1.64	N-57°-E	
底面に30~60cmのピット6基あり。									
101	C81~82-II35~36	なし	楕円形	a	2.00×1.62	52	2.31	N-52°-E	堀之内II
1の深鉢が覆土上層から置かれた状態で出土。									
102	C82~83-II36~37	なし	楕円形	d	1.37×1.03	44	1.07	N-65°-W	
103A	C84~85-II26~27	103B土坑と重複	隅丸方形	a	0.85×0.48	38	0.37	N-S	
103B	C84~85-II26~27	103A土坑と重複	楕円形	b	0.88×0.72	38	0.48	N-3°-E	
104	C85-II28~29	なし	円形	d	0.53×0.46	26	0.20	N-70°-W	
105A	C84-II28~29	105B土坑より新	隅丸長方形	d	0.59×0.46	33	0.25	N-48°-W	
105B	C84-II28~29	105A土坑より古	楕円形	e	1.00×0.64	17	0.44	N-48°-W	

第1節 縄文時代

No	位置 (Gr)	重複関係	平面形態	断面形態	規模 (m)	深さ (cm)	面積 (㎡)	主軸方位	時期
106	C84-II30	107土坑より古	隅丸長方形	d	0.61×0.42	25	0.26	N-45°-W	
109	C83~84-II30	なし	楕円形	e	0.79×0.56	21	0.38	N-36°-W	
110	C79~80-II28~29	8・9溝より古	円形	b	1.63×1.61	45	2.01	N-27°-W	堀之内II以降
		覆土中から10~30cmの礫や土器片が多数出土。							
111	C81~82-II29~30	8・9溝より古	円形	b	1.62×1.43	75	1.78	N-38°-E	称名寺II以降
		覆土中から20~50cmの礫が多数出土。							
112	C74~75-II32~33	なし	隅丸長方形	a	0.97×0.80	50	0.68	N-36°-W	称名寺II
		覆土中から多量のVII群土器が出土。一括して廃棄されたものと考えられる。							
113	C81-II27~28	なし	隅丸長方形	b	1.19×1.06	28	1.04	N-48°-E	
114	C79~80-II35	なし	楕円形	b	1.60×1.03	65	1.28	N-S	
115	C80-II34~35	なし	隅丸長方形	b	1.63×1.18	62	1.60	N-52°-E	堀之内I以降
		20~30cmの礫が中央北寄りの覆土中に集中して出土。							
116	C91-II23	84土坑より古117土坑より新	楕円形	a	1.43×1.09	35	1.22	N-79°-E	堀之内II以降
		覆土中から20~40cmの礫が多数出土。							
117	C91~92-II23~24	84・116土坑より古	不正形	e	1.20×1.12	36	0.79	N-90°-E	堀之内II以降
118	C78~79-II33	なし	隅丸長方形	d	1.06×0.84	29	0.77	N-55°-W	堀之内II以降
		底部に径10~20cmのビット3基あり。							
119	C80~81-II32	なし	隅丸長方形	d	1.42×1.28	40	1.55	N-73°-E	
		西部に径20~40cmの礫3点が1列に並んで出土。							
120	C87~86-II22~24	なし	隅丸長方形	b	2.90×1.30	76	4.14	N-97°-E	堀之内II以降
		中央南寄りに遺物が集中して出土。							
121	C68-II22~23	なし	円形	a	0.85×0.81	100	0.53	N-38°-W	
122	C67~68-II21~22	なし	楕円形	b	1.00×0.75	34	0.59	N-49°-E	
123	C85~86-II23~24	124土坑より古	円形	d	1.30×1.28	24	1.34	N-54°-E	
125	C69-II26	なし	円形	b	0.82×0.79	27	0.50	N-43°-E	
126	C62~63-II28	なし	隅丸長方形	d	1.06×0.78	48	0.69	N-6°-E	
131	C73-I82~83	なし	円形	b	1.34×1.21	40	1.25	N-S	堀之内II以降
		石皿・磨石を含む5~30cmの礫が数点出土。							
132	C82~83-II27~28	153土坑より古	隅丸長方形	d	2.18×1.33	45	2.29	N-67°-E	堀之内II
133	C62-II32	なし	楕円形	b	1.25×0.97	30	0.94	N-11°-W	加曾利E4
		全面から遺物が出土しているが、特に南部に礫が集中している。							
134	C63~64-II27~29	なし	隅丸長方形	b	2.47×1.18	53	1.99	N-83°-E	称名寺II以降
		中央東寄りに地山掘り残しの高まりがある。							
136	C79-II34~35	なし	円形	b	0.85×0.73	52	0.49	N-81°-W	称名寺II
		南部に径50cmの掘り込みあり。遺物は中央やや東寄りに集中して出土。							
137	C84-II27	なし	楕円形	d	0.84×0.54	43	0.35	N-83°-W	
138	C84-II27~28	なし	円形	b	0.64×0.60	56	0.30	N-20°-W	
139	C77~78-II33	なし	円形	d	0.96×0.97	29	0.67	N-52°-E	
141	C61~62-II31~32	なし	隅丸長方形	d	1.48×1.17	26	1.53	N-14°-E	加曾利E以降
		20~50cmの礫(多孔石を含む)が南西部に集中して出土。							
144	C70~71-II40	なし	円形	b	1.64×1.41	56	1.77	N-44°-W	堀之内II以降
145	C56-II43~44	なし	円形	b	1.28×1.12	22	1.09	N-2°-E	堀之内I以降
147	C59~60-II40~41	なし	隅丸長方形	b	2.24×1.64	72	3.27	N-85°-E	堀之内II以降
148	C60~61-II38	なし	隅丸長方形	b	1.18×0.80	12	0.76	N-21°-E	
149	C60-II32	なし	楕円形	b	1.08×0.84	23	0.73	N-30°-W	堀之内I以降
150	C59~61-II33~34	なし	不正形	e	2.43×1.50	62	2.59	N-47°-W	堀之内I以降
151	C73~74-I86~87	10住より古	楕円形	b	2.67×1.41	35	2.64	N-2°-W	
153	C81~82-II27~28	132土坑より新	隅丸長方形	d	2.56×1.48	70	3.02	N-12°-W	堀之内II
		南部から礫(径50cmで直立して出土した礫を含む)が集中して出土。							
158	C75~76-I85	なし	楕円形	d	1.52×1.28	27	1.53	N-48°-E	堀之内II以降
162	C82~83-II30	なし	楕円形	d	1.27×0.93	39	0.88	N-41°-E	堀之内I以降
		東部に径50cmの円形の掘り込みあり。							
163	C76~77-II39~40	164土坑より新	楕円形	d	1.34×1.09	38	1.11	N-71°-E	
164	C76~77-II39~40	163土坑より古	隅丸長方形	b	2.04×1.14	36	1.58	N-83°-E	
165	C77~78-II38~39	なし	隅丸長方形	c	1.08×1.06	54	0.91	N-39°-W	堀之内II
		壁が内傾し袋状となる。覆土中から土器片が多数出土。							
167	C54~55-II29~30	なし	楕円形	d	1.66×1.44	36	1.67	N-16°-E	加曾利E4
		1の土器下にビットあり。							
168	C79~80-II24~25	なし	隅丸長方形	d	1.60×1.48	70	1.71	N-27°-W	堀之内II
		底部東側が一段低くなる。土器片が140点と多量に出土。							

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	位置 (Gr)	重複関係	平面形態	断面形態	規模 (m)	深さ (cm)	面積 (㎡)	主軸方位	時期
169	C78~79-II42~43	なし	楕円形	b	1.26×0.76	20	0.77	N-70°-E	堀之内I以降
173	C75~76-II40	178土坑と重複	楕円形	b	2.08×1.56	48	2.14	N-66°-W	
大型の礫が3点出土。									
177	C76~77-II40~41	178土坑より古	楕円形	d	1.28×0.76	34	0.68	N-75°-E	堀之内I以降
178	C75~76-II41~42	177土坑より新・173土坑重複	隅丸長方形	d	2.80×1.64	56	3.96	N-81°-W	堀之内I以降
径40~50cmの礫数点が広範囲に出土。									
179	C77~78-II42~43	なし	楕円形	d	2.40×1.94	52	3.57	N-11°-E	堀之内I
土器片が96点と多数出土し、特に北側に集中する。									
181	C73~74-II40~41	なし	楕円形	b	1.50×1.42	38	1.68	N-55°-W	
182	C58-II57~58	なし	円形	d	1.54×1.52	28	1.61	N-43°-W	堀之内II以降
183	C56~57-II58	なし	隅丸方形	b	1.20×1.00	24	0.98	N-81°-W	
184	C67~68-II21	なし	円形	a	1.26×1.20	42	1.15	N-35°-W	
185	C65~66-II18~19	なし	楕円形	a	1.60×1.30	60	1.61	N-29°-W	称名寺I
底部に径30~50cmのビット3基あり。中央に南北に長く遺物が集中する。									
186A	C76~77-II41~42	186B土坑より新	隅丸長方形	d	2.08×0.88	28	1.47	N-6°-E	堀之内II以降
186B	C77~79-II41~42	186A土坑より古	隅丸長方形	b	2.76×1.56	28	3.02	N-26°-E	堀之内II以降
187	C74~76-II43~44	なし	楕円形	b	3.24×1.48	22	4.56	N-7°-W	
189	C54~56-II25~27	なし	不正形	e	3.62×2.94	58	8.52	N-1°-W	堀之内II以降
191	C74~76-II45~47	なし	楕円形	b	4.50×3.00	36	10.64	N-76°-E	堀之内II以降
東部に径30~40cmの礫が数点集中して出土。									
192	C74~75-II33~34	なし	楕円形	d	1.68×1.44	60	1.87	N-20°-W	堀之内II以降
底部から南上端にかけて30cm前後の礫が1列に並ぶ。									
193	C56-II58~59	199土坑と重複	楕円形	d	1.36×1.02	30	1.06	N-48°-E	加曾利E以降
195	C54~55-II58~59	なし	円形	b	1.18×1.04	28	0.92	N-15°-W	堀之内II以降
196	C61-II21	なし	楕円形	b	1.02×0.84	40	0.73	N-21°-E	
197	C54~55-II59~60	なし	楕円形	d	0.90×0.74	16	0.51	N-55°-W	
198	C77~79-II30~31	なし	楕円形	d	3.65×2.38	114	7.54	N-23°-E	堀之内II以降
土器片が470点と土坑の中で最も多く出土。									
199	C55~56-II58~59	193土坑と重複	隅丸長方形	d	1.20×0.86	20	0.84	N-2°-W	
200	C54-II61	なし	隅丸方形	d	1.04×0.94	34	0.78	N-71°-W	加曾利E以降
201	C57-II57~58	なし	楕円形	b	1.04×0.84	24	0.86	N-83°-E	
202	C64-II18~19	なし	楕円形	b	1.00×0.66	24	0.61	N-59°-E	
203	C67-II41~42	ビットより古	楕円形	a	1.90×1.64	52	2.33	N-21°-W	
204	C65~66-II41~42	なし	楕円形	b	1.18×1.04	30	0.95	N-56°-W	
205	C63~64-II51~52	なし	楕円形	d	1.64×1.42	18	1.70	N-61°-E	
208	C64~65-II50~51	なし	隅丸方形	d	1.08×1.00	14	0.87	N-85°-E	
209A	C58-II55~56	なし	楕円形	d	1.20×0.84	36	0.76	N-74°-E	堀之内II以降
209B	C58-II56~57	なし	隅丸方形	d	1.12×1.00	32	0.96	N-64°-E	
210	C57~58-II55	なし	楕円形	d	2.48×0.94	36	1.82	N-67°-E	
211	C62~63-II46~47	3号落ち込みと重複	隅丸方形	d	1.52×1.34	32	1.66	N-64°-E	堀之内II以降
底部にビット3基あり。									
212	C74-II50	なし	隅丸方形	d	0.88×0.76	18	0.53	N-51°-W	
214	C70~71-II42~43	なし	楕円形	d	1.88×1.60	28	2.24	N-43°-W	
213	C63-II47	なし	円形	b	0.62×0.6	28	0.26	N-18°-W	
上端の周囲が10~20cmの範囲で焼けている。									
215	C63~64-II48~50	なし	楕円形	d	2.72×1.86	60	3.77	N-71°-E	称名寺II以降
216	C63-II48	なし	楕円形	b	1.36×1.08	36	1.18	N-43°-W	
底部にビット3基あり。									
217	C59~60-II70	なし	楕円形	a	1.16×0.84	96	0.84	N-58°-W	堀之内I以降
深さが96cmと深く、遺物も多く出土している。									
218	C62-II52	なし	円形	b	0.82×0.66	18	0.42	N-61°-W	
219	C82-II50	なし	円形	a	0.82×0.88	24	0.56	N-54°-E	称名寺II以降
220A	C61-II53	220B土坑と重複	隅丸長方形	d	0.60×0.48	20	0.29	N-86°-E	
220B	C61~62-II53	220A土坑と重複	隅丸長方形	d	0.70×0.46	18	0.25	N-19°-W	
222	C61-II51	なし	隅丸方形	d	1.48×1.42	22	1.78	N-19°-E	堀之内I以降
底部にビット2基あり。									
223	C61-II48~49	なし	隅丸長方形	d	1.18×0.98	18	1.49	N-67°-W	
224	C59~60-II51	なし	楕円形	d	1.62×1.04	34	1.39	N-S	称名寺I以降

第1節 縄文時代

No	位置 (Gr)	重複関係	平面形態	断面形態	規模 (m)	深さ (cm)	面積 (m ²)	主軸方位	時期
226	C58~59-II63~64	なし	円形	b	0.90×0.82	42	0.56	N-73°-W	堀之内II以降
227	C54-II41	なし	楕円形	a	1.34×0.84	48	0.88	N-90°-E	称名寺II以降
西部に段あり。底部東に径40cmのビットあり。									
228	C52~55-II62~63	なし	長方形	a	5.90×2.30	84	12.82	N-10°-E	
229	C79-II30~31	なし	楕円形	b	1.46×1.06	20	1.17	N-43°-E	称名寺II以降
230	C58~59-II41~42	なし	円形	b	1.40×1.32	40	1.43	N-52°-W	堀之内I以降
231	C58-II34~35	6井戸より古	隅丸方形	b	1.34×0.92	24	0.96	N-75°-E	加曾利E3
2の土器は6号井戸に混入のものと接合。									
232	C64~65-II41~42	207土坑より古	楕円形	d	1.98×1.56	60	1.87	N-40°-E	
235	C54~55-II43~44	なし	隅丸長方形	d	1.98×1.42	32	2.48	N-50°-E	称名寺II以降
東立ち上がり部分に掘り込みあり。									
236	C59-II46	なし	隅丸長方形	d	1.28×0.82	22	0.94	N-35°-E	
238	C59~60-II46~49	11溝と重複	不正形	e	4.56×2.08	108	7.08	N-86°-W	堀之内II以降
上端も底面も西に向かって下がる。土器片が134点と多数出土。									
239	C57-II46~47	なし	隅丸長方形	d	1.40×1.08	48	1.22	N-72°-W	中期初頭
240	C56~57-II45~46	なし	楕円形	b	1.40×1.16	68	1.24	N-57°-W	堀之内II
241	C56~57-II46~47	なし	隅丸方形	d	1.68×1.42	30	1.95	N-67°-W	堀之内I以降
底面北東部と南西部に浅い掘り込みあり。									
242	C54~55-II45~47	なし	楕円形	d	3.10×1.68	84	4.32	N-38°-W	堀之内II以降
243	C57-II44~45	なし	楕円形	b	1.14×0.96	64	0.88	N-44°-E	称名寺II以降
244	C55-II47	なし	隅丸方形	b	1.22×1.20	46	1.11	N-35°-E	称名寺II以降
底面東部にテラス状の段あり。									
245	C59-II44~45	18住より古	不正形	e	1.76×1.20	68	1.50	N-67°-W	称名寺II以降
南部は1段深く掘り込まれる。									
246	C58~59-II44~45	なし	隅丸長方形	b	1.68×0.96	48	1.51	N-78°-E	称名寺II以降
底部中央に段、南西隅にビットあり。									
247	C56-II46~47	なし	隅丸方形	a	1.42×1.28	70	1.39	N-89°-E	堀之内II以降
底部中央に段、南部にビットあり。									
248	C80~81-II33	なし	楕円形	b	0.96×0.76	20	0.57	N-30°-E	
251	C82-II33	98土坑と重複	楕円形	d	0.64×0.50	24	0.25	N-25°-W	
252	C85-II24~25	なし	円形	a	1.40×1.22	34	1.41	N-78°-E	堀之内II以降
253	C82-II33~34	98土坑と重複	楕円形	a	0.96×0.76	84	0.63	N-48°-W	
254	C71-II44~45	なし	隅丸長方形	d	1.02×0.80	12	0.66	N-60°-E	称名寺II
底面東部にビットあり、その上から1の土器が逆位で出土。									
255	C58~60-II51~52	16住より古	不正形	e	3.86×1.86	36	5.75	N-12°-E	称名寺II以降
256	C71-I81~82	内匠城土塁より古	楕円形	a	0.78×0.48	64	0.27	N-18°-W	称名寺II
南部から土器片が集中して出土。									

第III章 検出された遺構と出土遺物

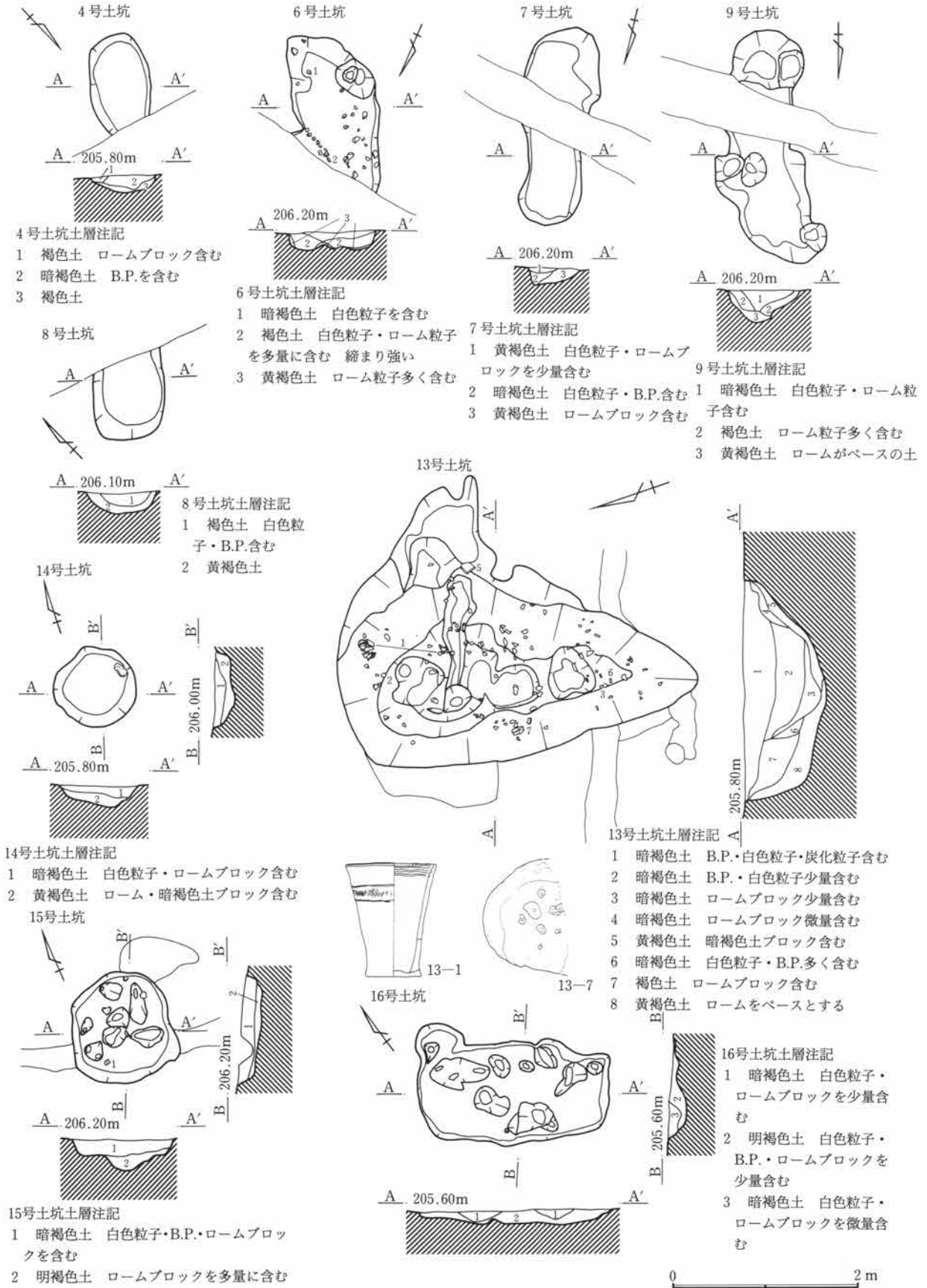
土坑出土遺物数量一覧表

No	土 器													石 器											
	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	計	打斧	磨斧	スク	磨石	凹石	石皿	多孔	剥片	石核	そ の 他
6				1			3	7				19			30										
13		3	1	3	4	11	5	13		2	6	43			91							1	10	1	
14															0								1		
15				1					1	1		1		1	5								1		
16						1						1			2										
17		5													5								1		
19				1											1								2		
20				1	1						1	1			4								1	1	
22															0				1						
23					4	1	3				2	9			19		1						1		
24				2	5	9	1	7			12	36		1	73				1				1		
25					1	2		1			1	4			9		1								
27												1			1										
28				5		3	1				4	4			17								1		
29				1		8		1	1		5	18			34				1						
30				1								2			3										
31	1	1		14	15	13					11	28			83				1						
34			1	4	5	11		2	3	2	7	17		1	53								1		
36		1	1	18	22	23	4	1	11	10	20	40	5	4	160	1			1	1			3	石棒1 不明1	
38				3							3	1			7										
43												5			5										石槍1
44					1							4			5										
46				1			2				1	3			7										
47							1								1										
49					2	1	1					10			14										不明1
51			1		2	2	1		1		3	11			21										
52				2	4	3		1	2	2	1	2			17							2			
54				2		2	6					2	3		15										
55	1	1	5					5		1	1		1		15				3						
56				1		3						2			6										
58					1						1	4	1		7				1						
60			1	7	4	14	7	3	6	1	7	16			66							1	5	1	不明1
62						2						1			3										
63				1	1	1	1							1	5										
64		1		4	4		1		1		3	3	1		18					1					
65					2	33	4		2		9	28			78										
68						1	3	6	1	1	17	9	1		39	1				1					
70					2	9	4	3				4	7		29				1						不明1
71				3											3										
72				9	4	20	5	9	2		28	50	1		128								2		
73		3	1	15	11	13	5		4	5	22	14	3		96		1		1				3	1	石鏃1
74				5	4	10	3	1	1	3		22	1	1	51										
75		5		10	7	6	1		3	6	3	11			52								1		
78				16	11	15	7	5	4	6	7	26	5	1	103	1	1					1	2	1	
79					7	4			2		3	18		54	88					1	1	1			
82	1		1				1				3	2			1	9									
83				1	1		2	2		1	2	3			12										
84				1								5			6										
85				5	2			1				9		2	19										
86				6	10	20	8		3	4	5	36		3	95								2		
87		12		1											13								2		
88						1						1			2										
90				3	7				1	2	3	10			26										
91				3	3	29	4		3	2	4	38			86	1		1				1	7		
92		1		15	14	7	7	2		6	8	24	2		86	1	1		1				6		
93				11		1					2	1			15										
94			1	2	4	2	2	2			5	22			40								1		
95	2			11	5	24	3	1	4	6	6	39	1		102				1			1			
98				19	6	11	2	3	3		5	27	1		77	3				1	1		1		

第III章 検出された遺構と出土遺物

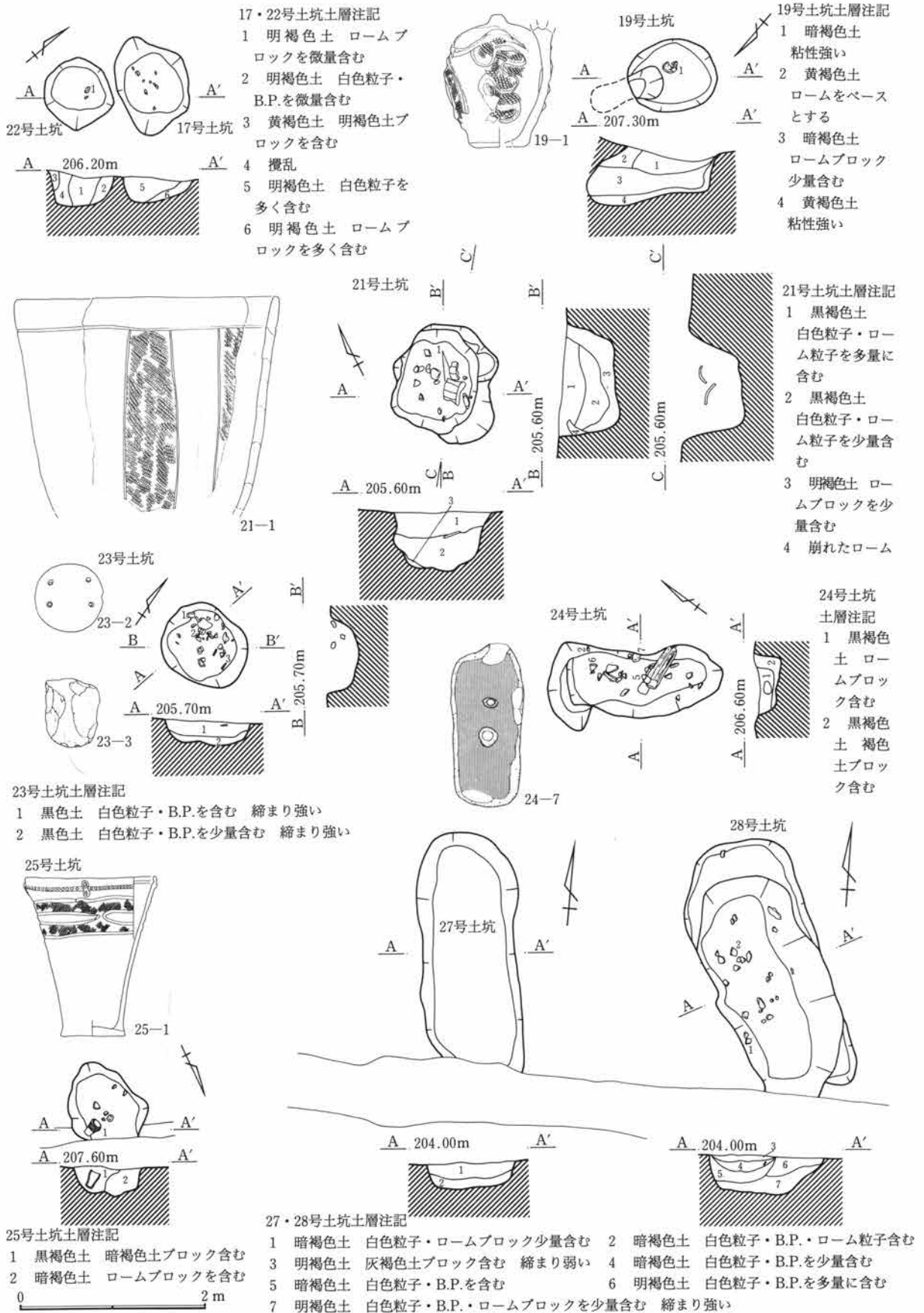
No.	土 器														石 器										
	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	計	打斧	磨斧	スク	磨石	凹石	石皿	多孔	剥片	石核	そ の 他
216	1												1	2	4										
217	1	5			9	3	2	1		1	7	6	35		70	1		1						1	
218													2		2										
219					1	1	3			1	1		1		8										
220							1					1			3										
222					4	1		3				2			19										
223					1										1										
224		4			2	1							3	8	19	1								2	
226					4		3	3	3			5	1	10	30	1									
227		1			1		3					1		3	9										
229							4						3	4	12	1									
230				2	2			2				1		9	16									2	石鏃1
231					7								3	1	12	1			1				1		
232					1			1						5	7										
235					2	3	1			1			14		21								1	8	不明1
236						1	1						1	1	4										
238	1	15			6	4	6	8	1	5	6	11	68	3	134	3		2					1	18	2 台石1
239			85											1	87	1								3	1
240		3			3	3	1	4	5	1	1	2	37	1	61					1			1	4	
241						2		3					1	36	42									4	
242		2			3	3	6	3	1	4	5	29	1	1	58			1						13	1 石棒1 不明1
243	2	2			1		3				2			3	13									3	
244					1	4	1				2		2	5	15										1
245		3				3	2				1		4		13	1							1		石鏃1 不明1
246	1					2	5				1			5	14									1	
247	1				1	1		2	1	1			3	5	15									3	
248							1							3	4										
252					1	1	8		6	1			3	16	36									2	
253								1						1	2										
254							6							1	7										
255				4	3	2	1			2	1	4	6		23									8	
256					3	6	16			1			38	4	69	1									

※ 土器のタイトル欄のローマ数字・アラビア数字は群・類を表し、石器のタイトル欄の、打斧は打製石斧、磨斧は磨製石斧、スクはスクレイパー、凹石はくぼみ石、多孔は多孔石をそれぞれ表している。

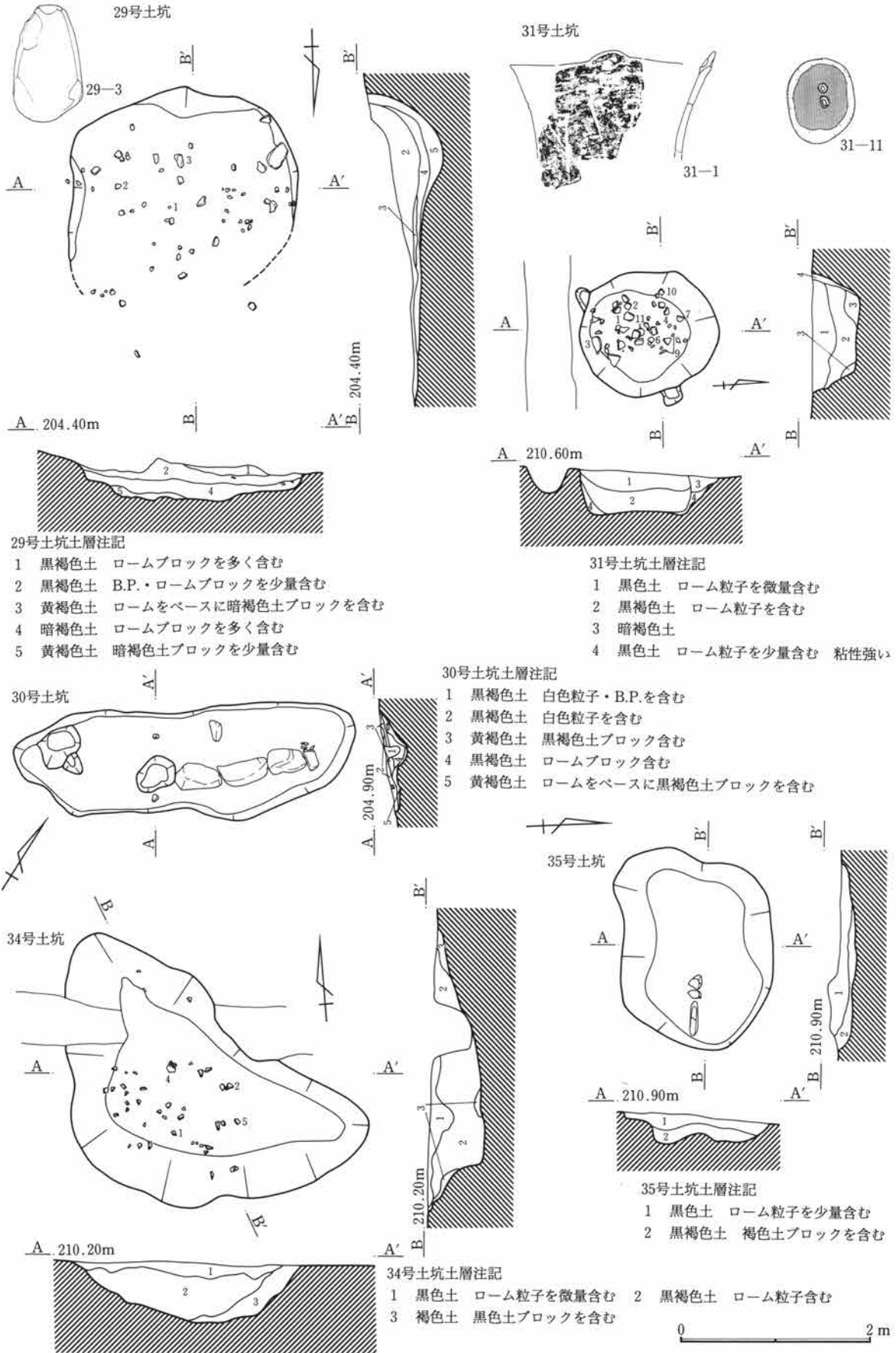


第47図 4・6～9・13～16号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物

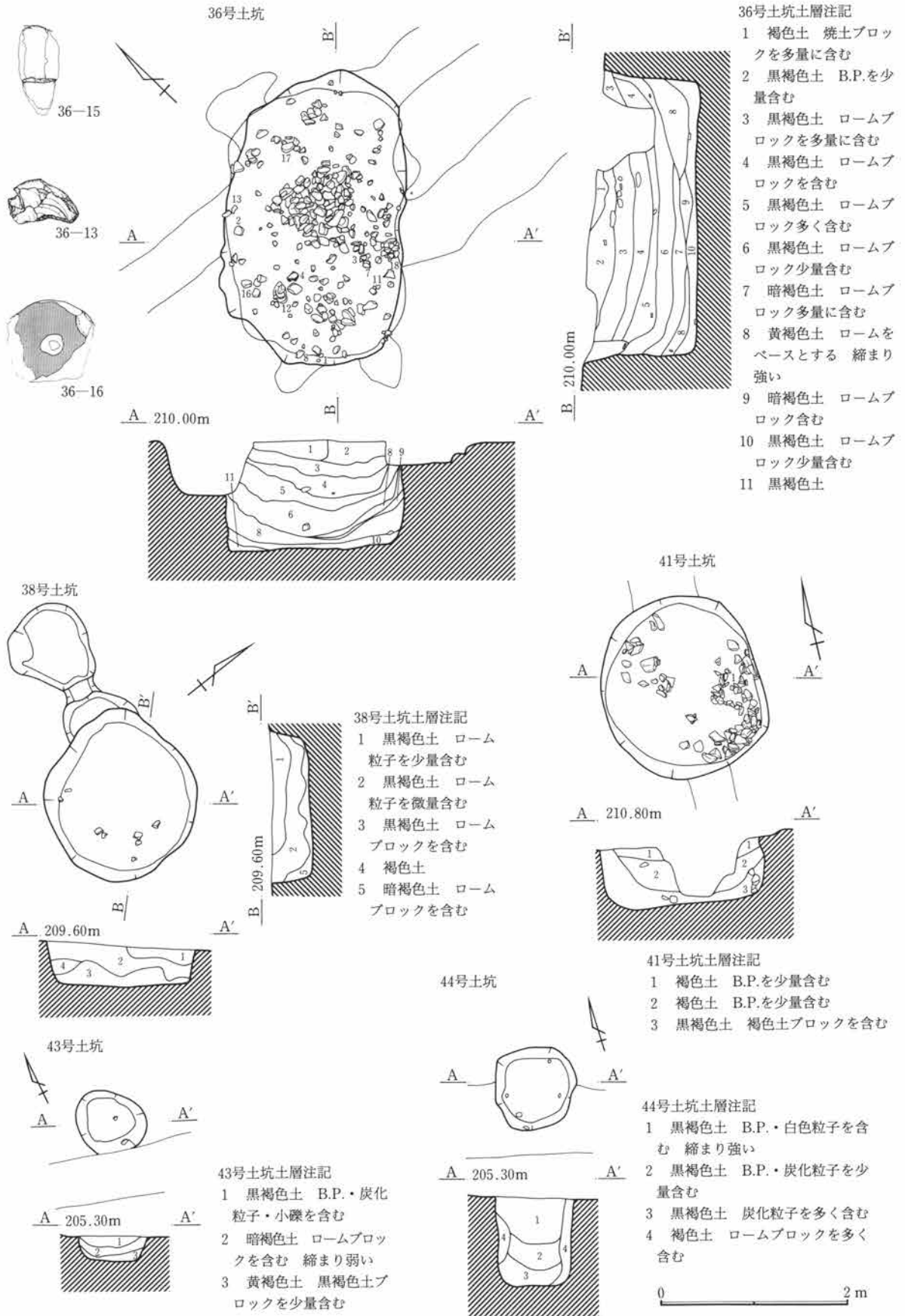


第48図 17・19・21～25・27・28号土坑



第49図 29・30・31・34・35号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物

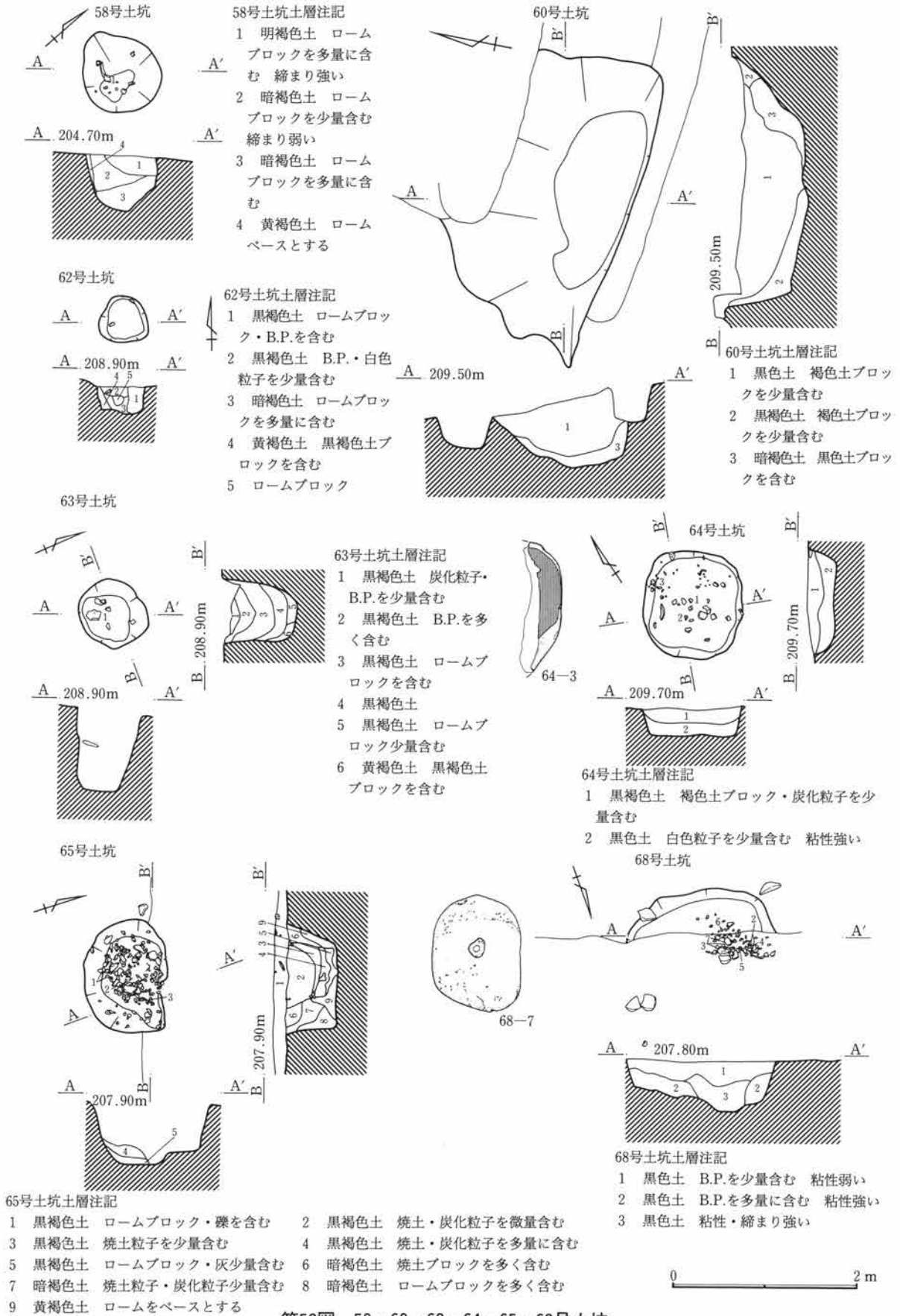


第50図 36・38・41・43・44号土坑



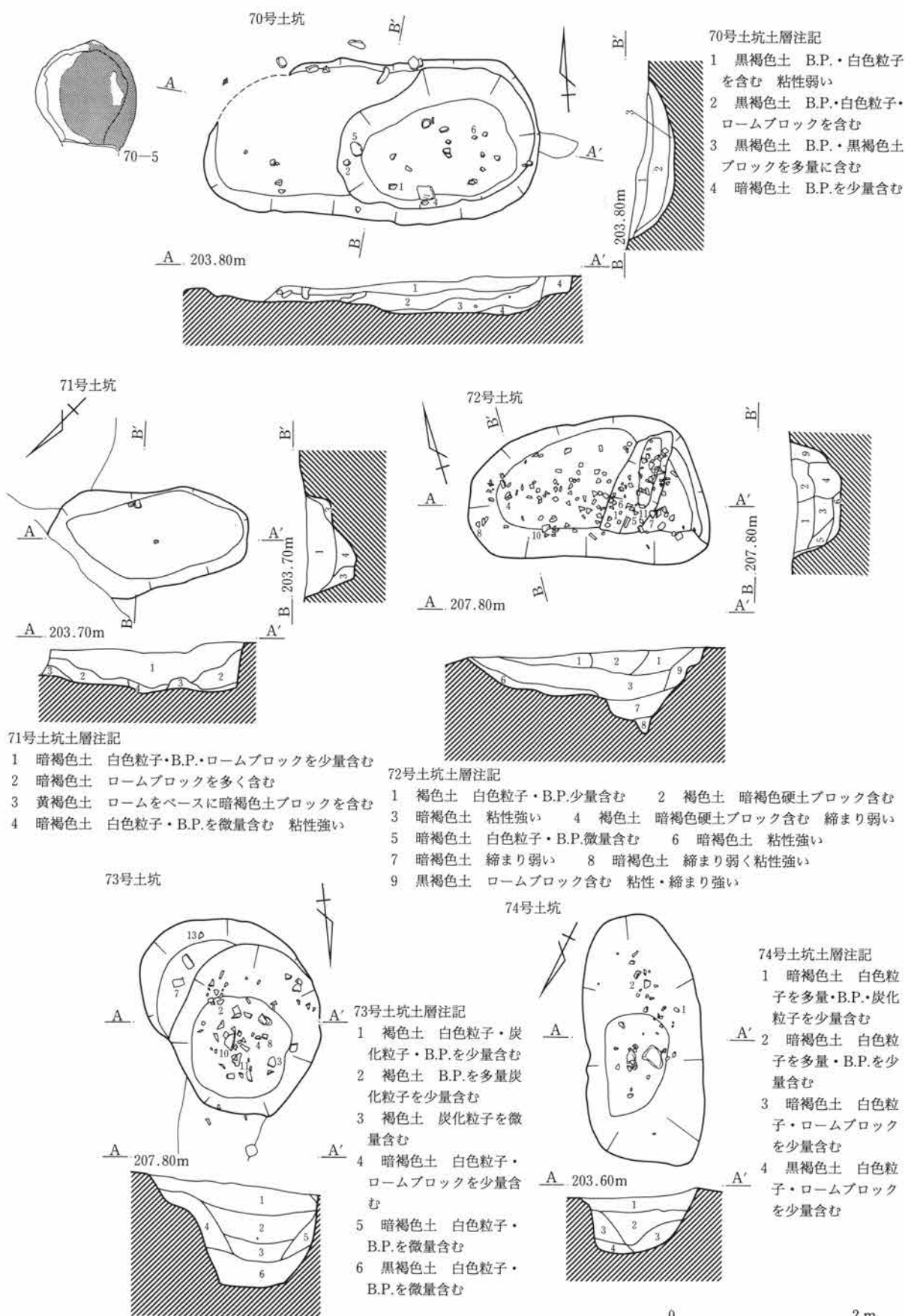
第51図 45～57号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物



第52図 58・60・62・64・65・68号土坑

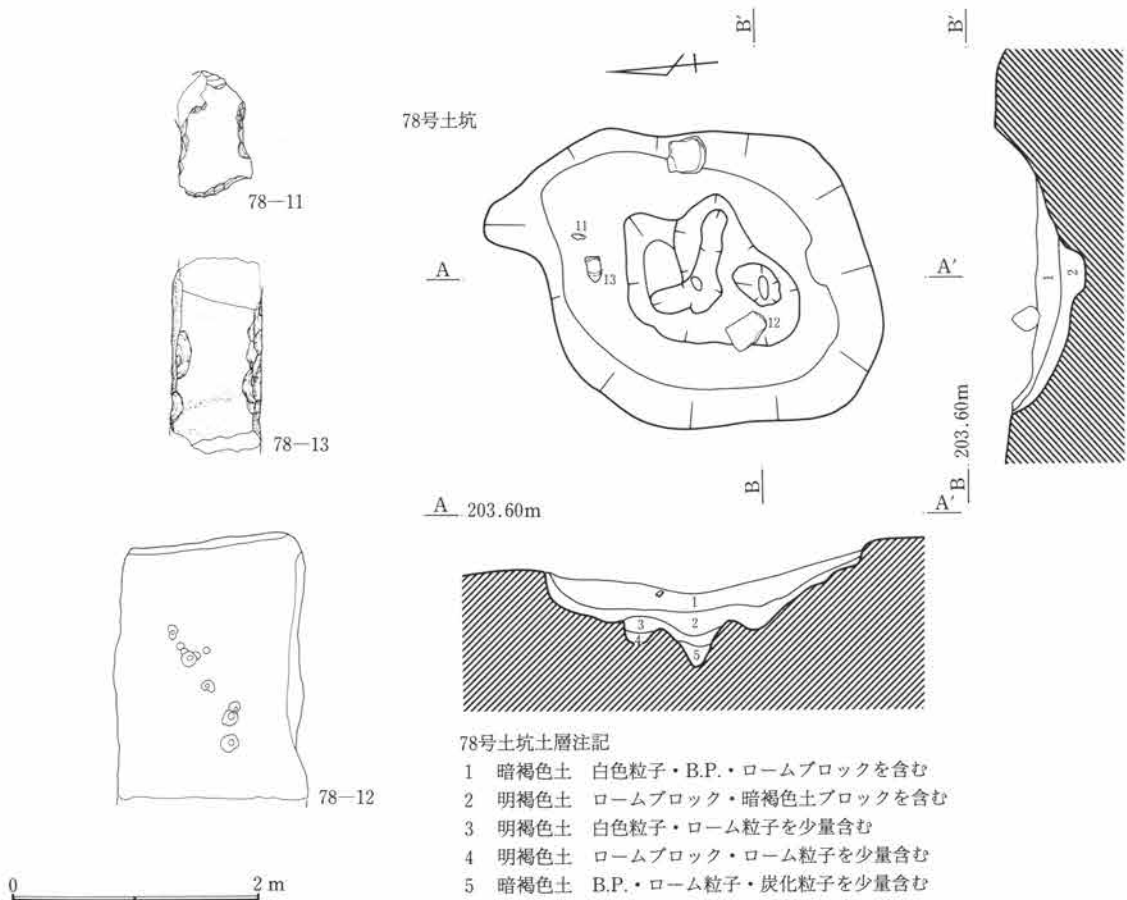
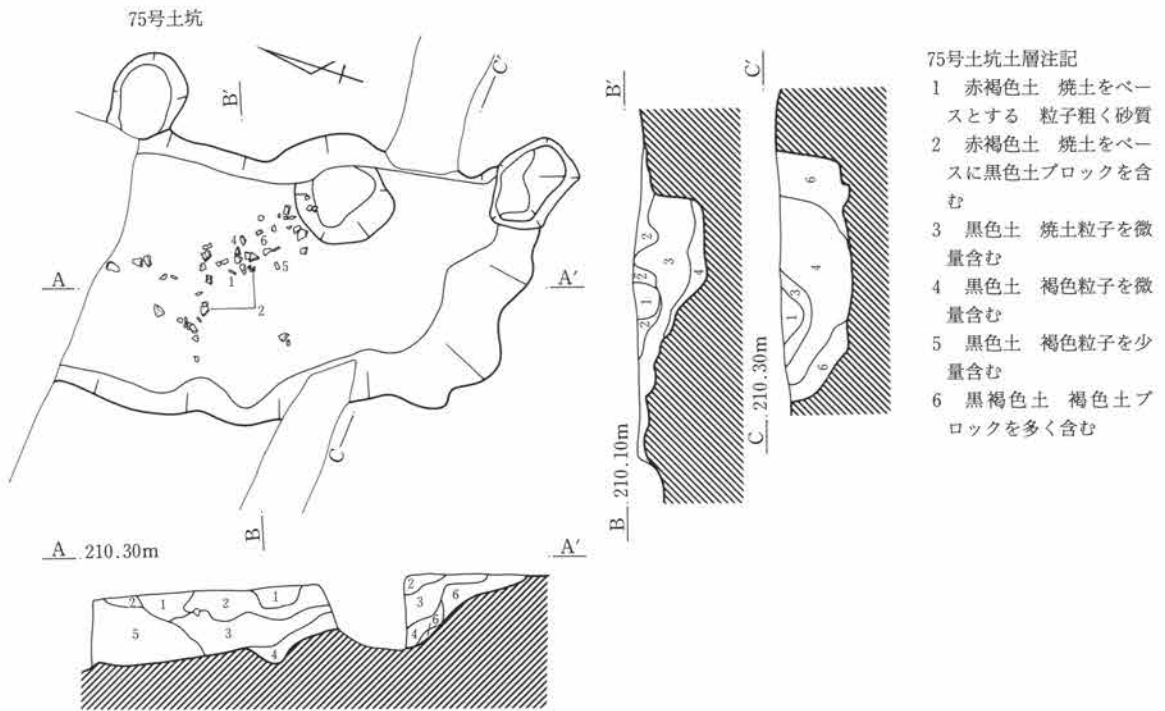
第1節 縄文時代



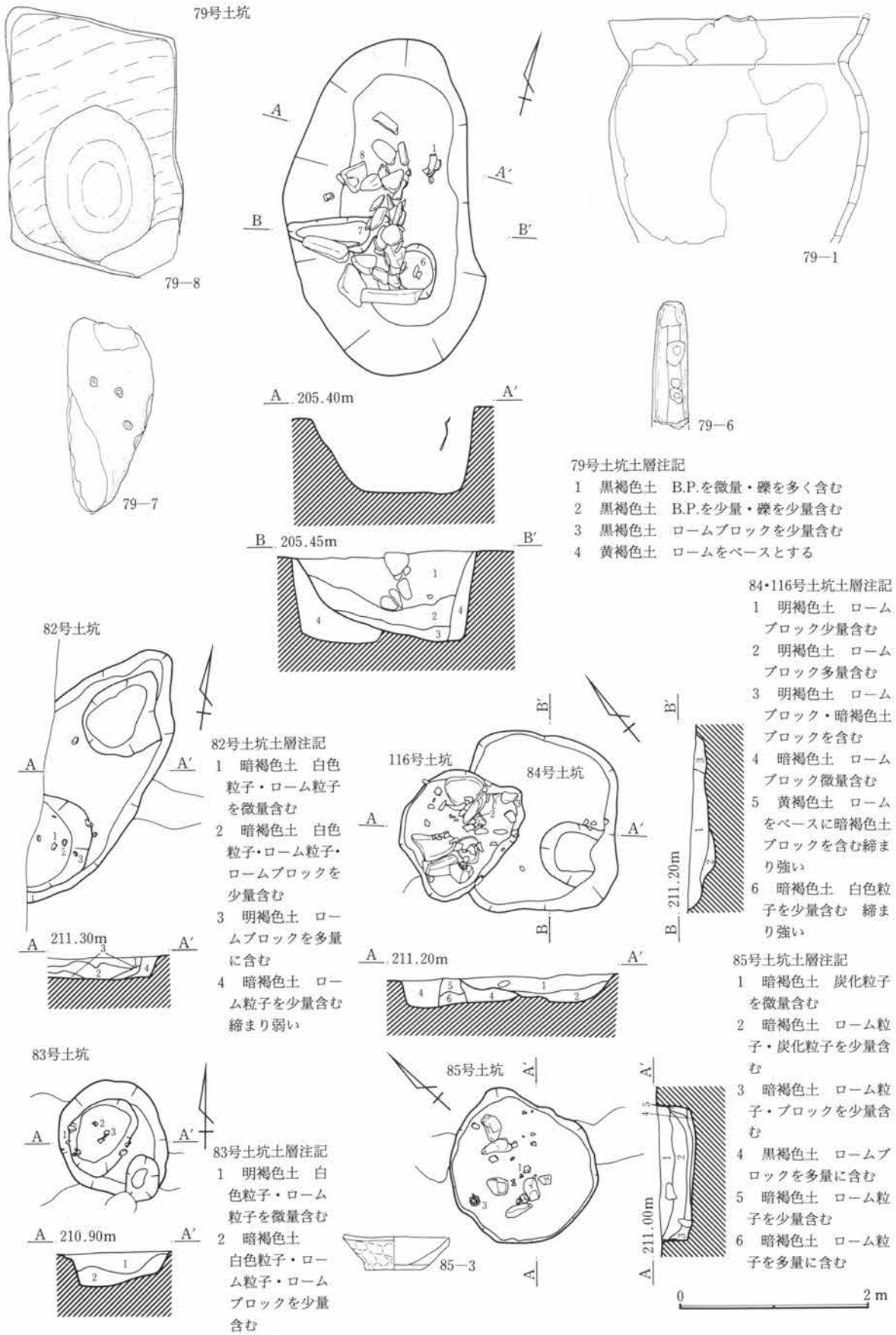
第53図 70・71・72・73・74号土坑

0 2 m

第III章 検出された遺構と出土遺物

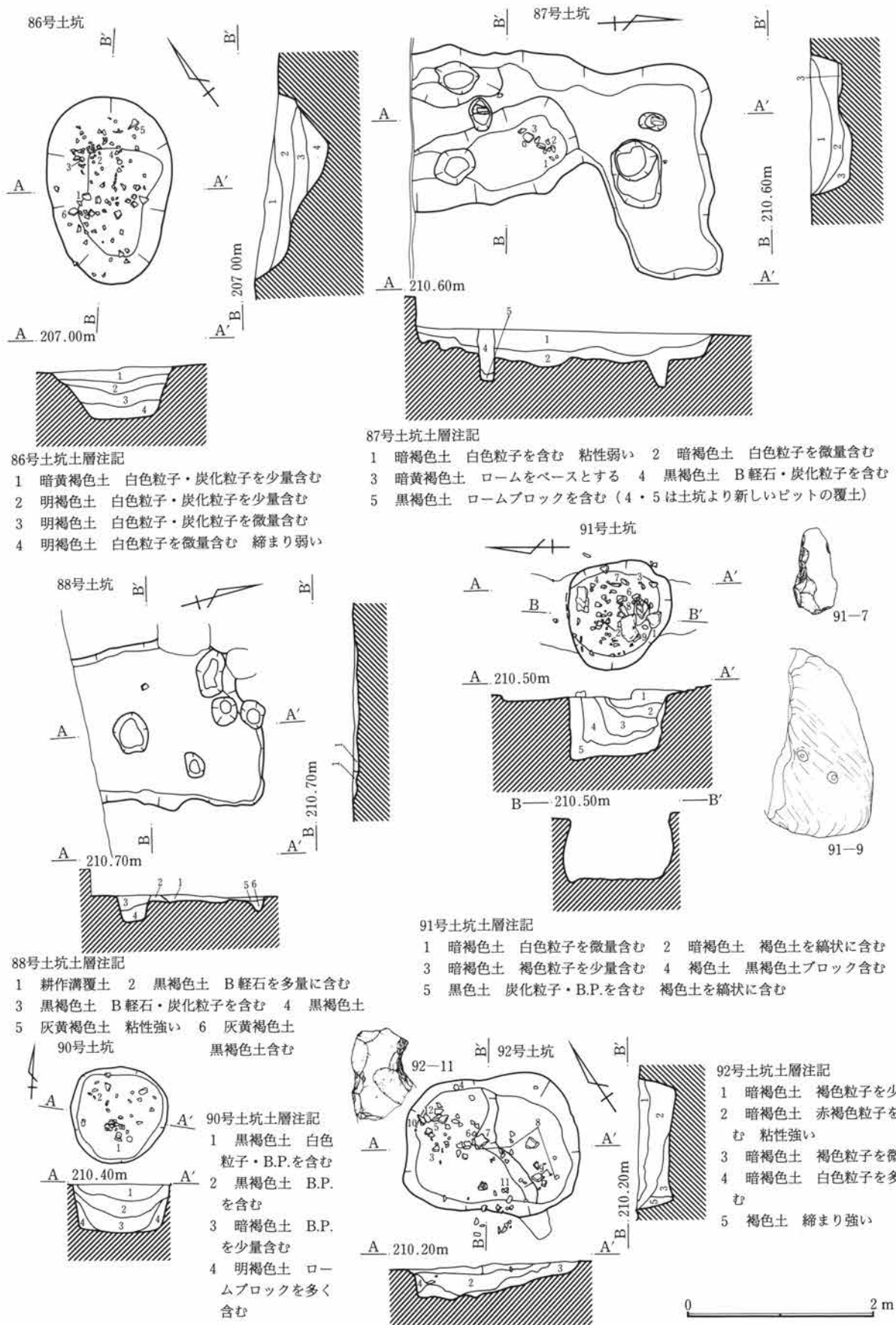


第54図 75・78号土坑

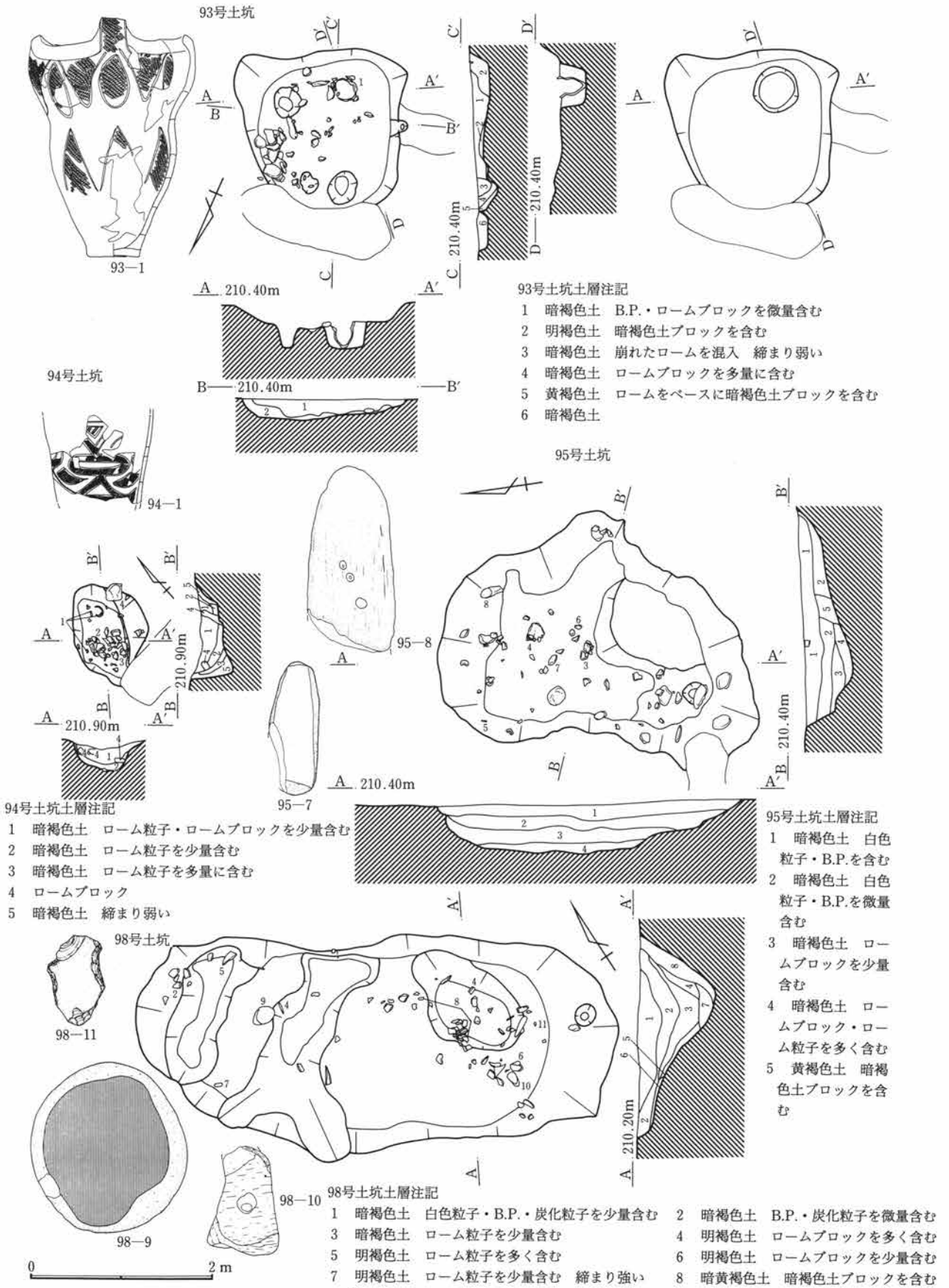


第55図 79・82・83・84・85・116号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物

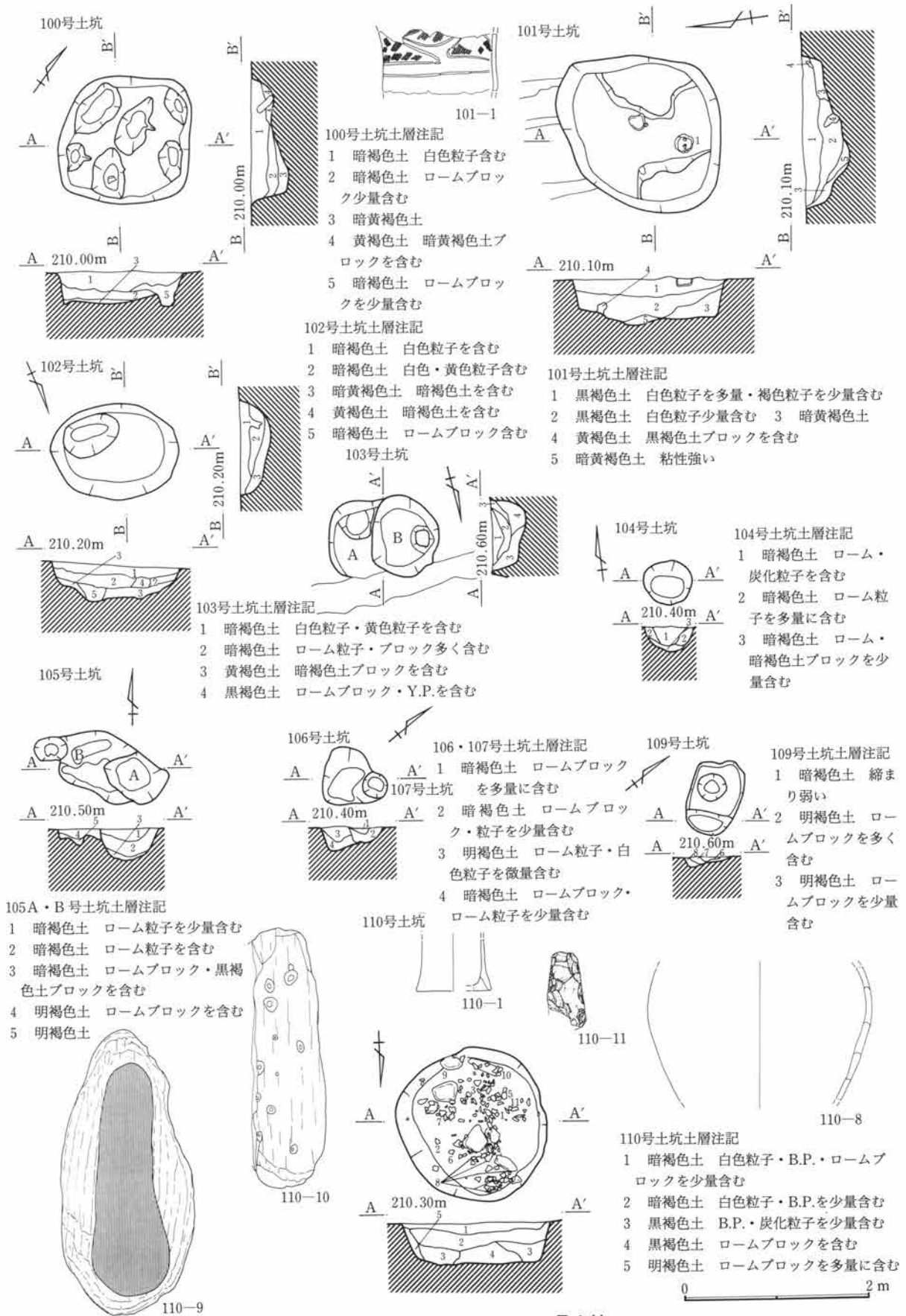


第56図 86~88・90~92号土坑

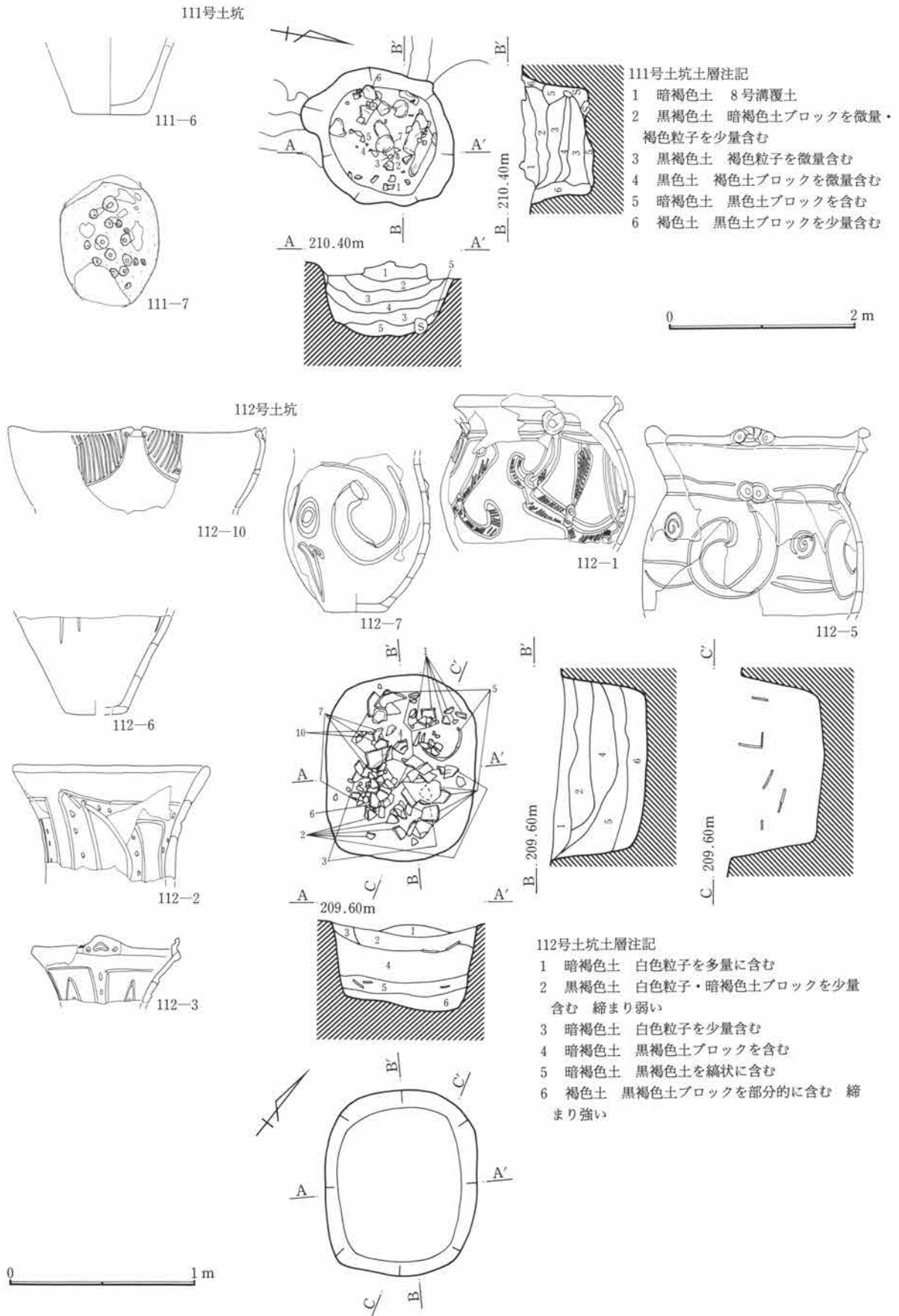


第57図 93~95・98号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物



第58図 100～107・109・110号土坑

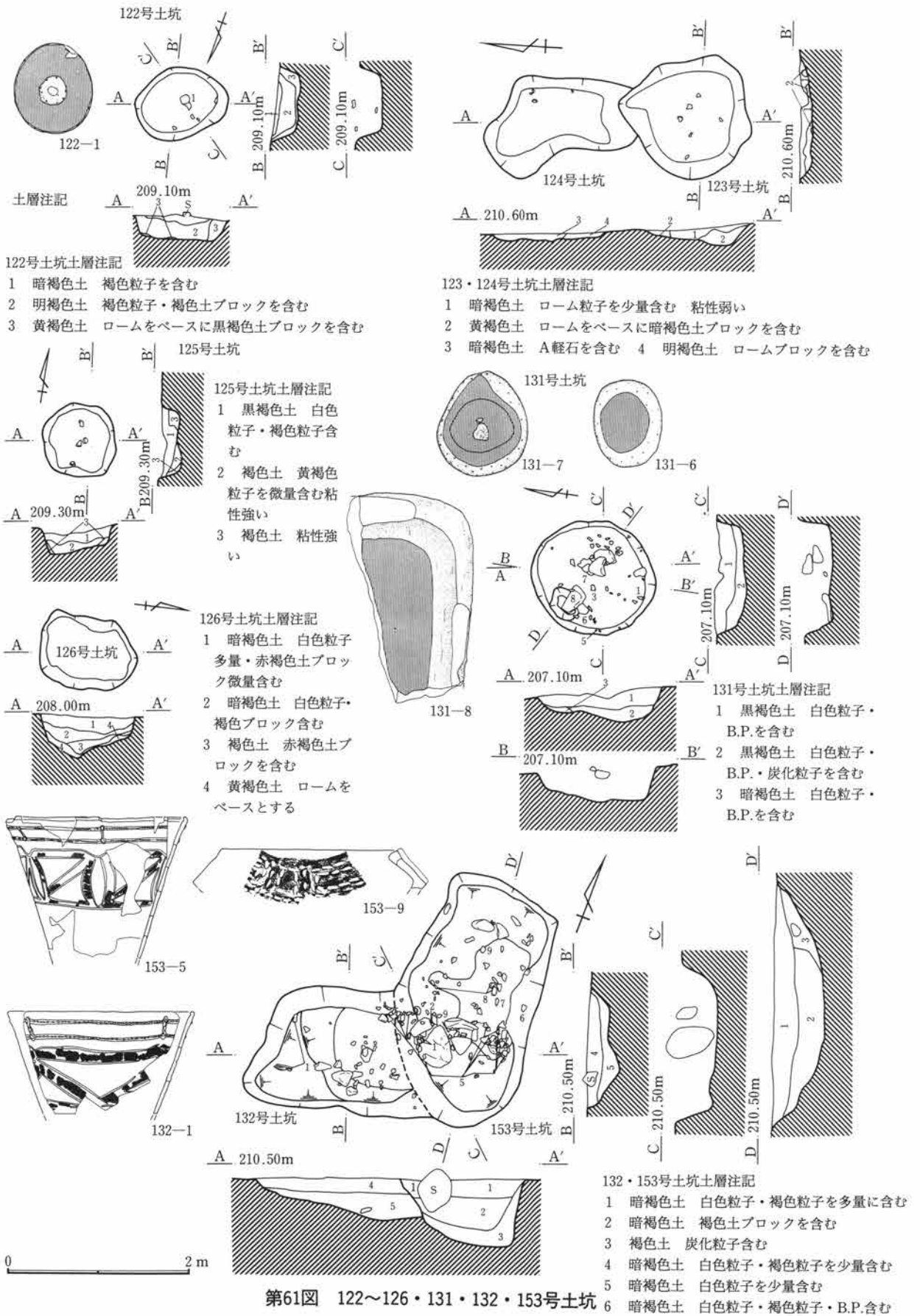


第59図 111・112号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物

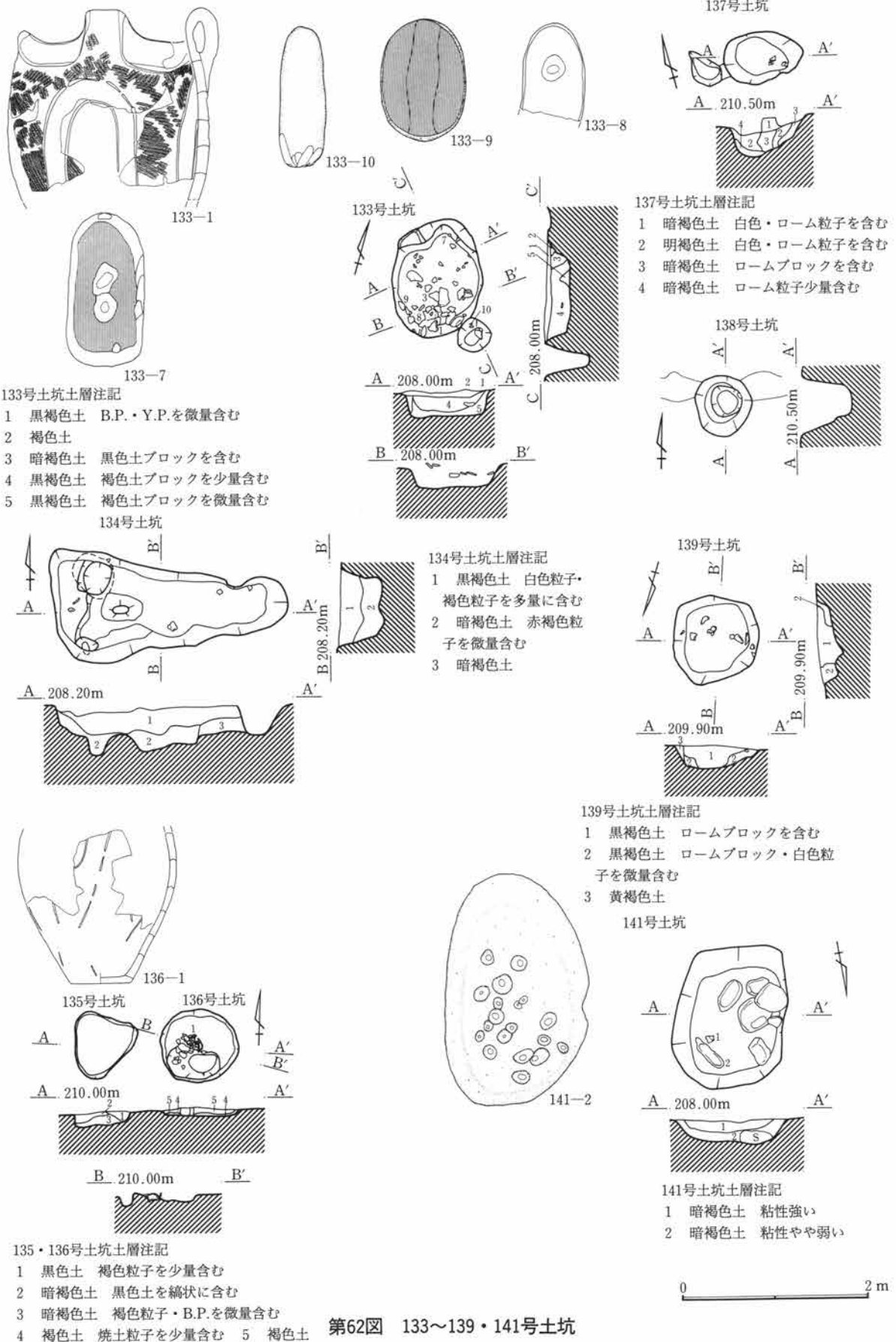


第60図 113~115・117~121号土坑



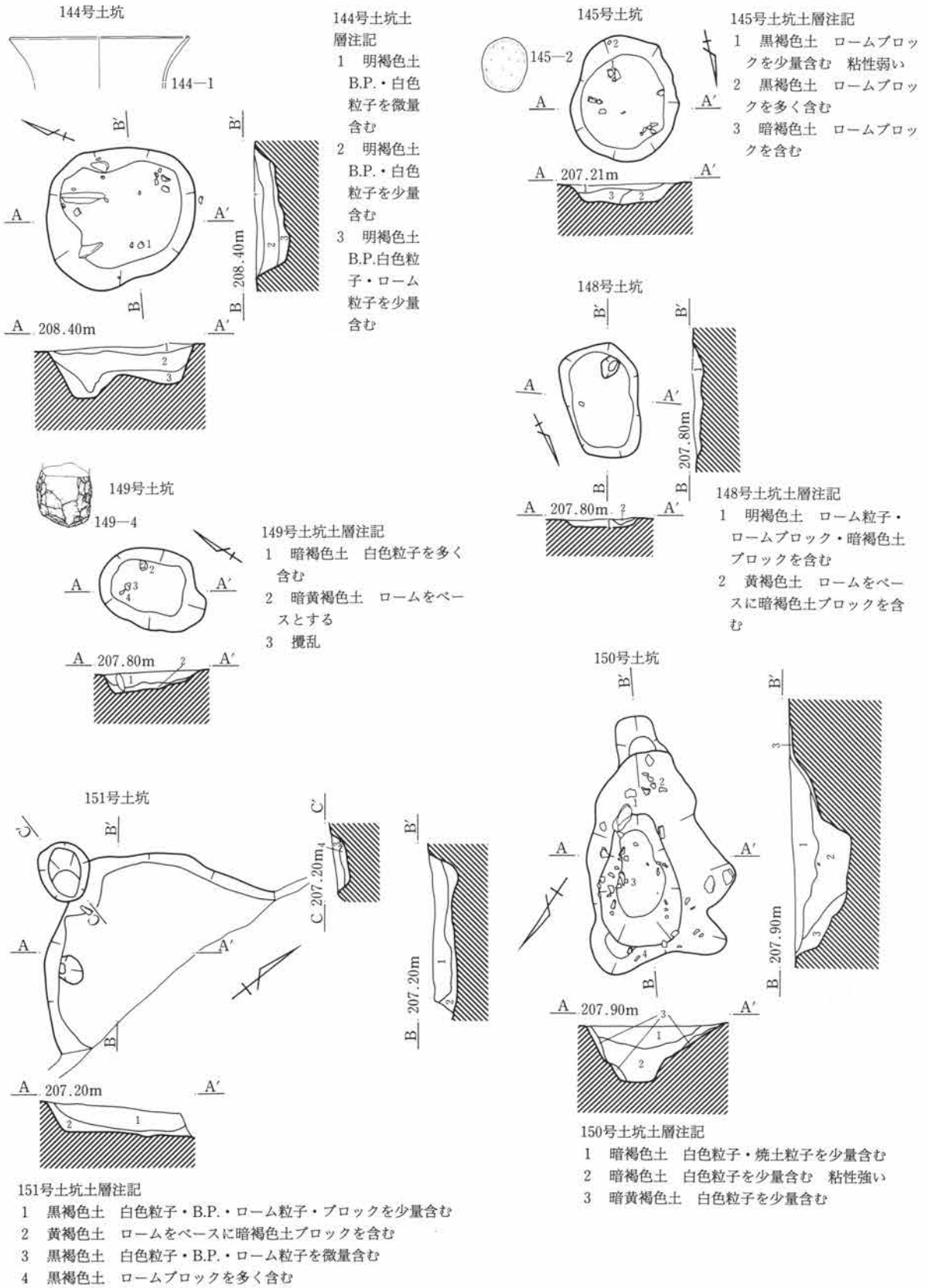
第61図 122~126・131・132・153号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物



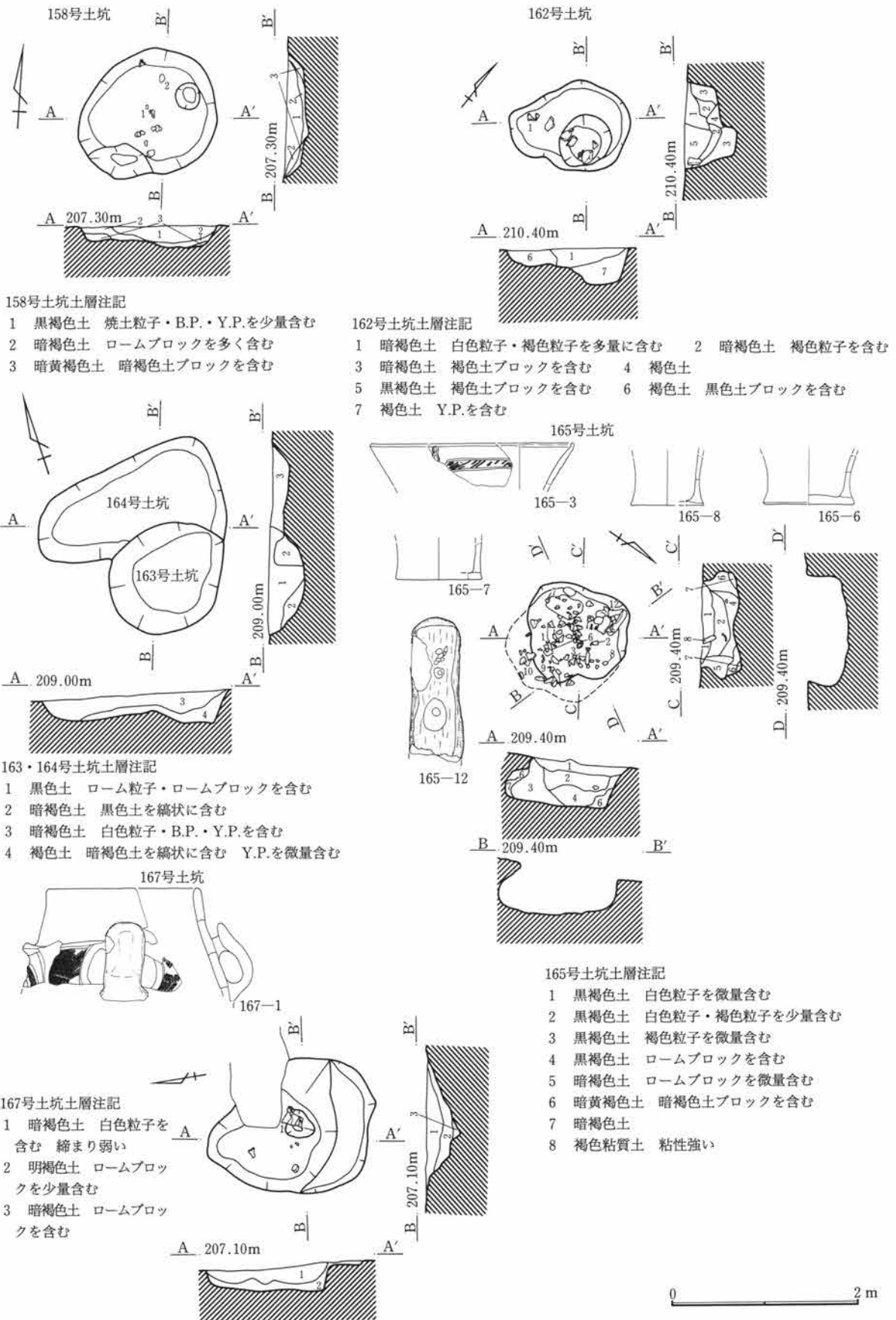
第62図 133~139・141号土坑

第1節 縄文時代

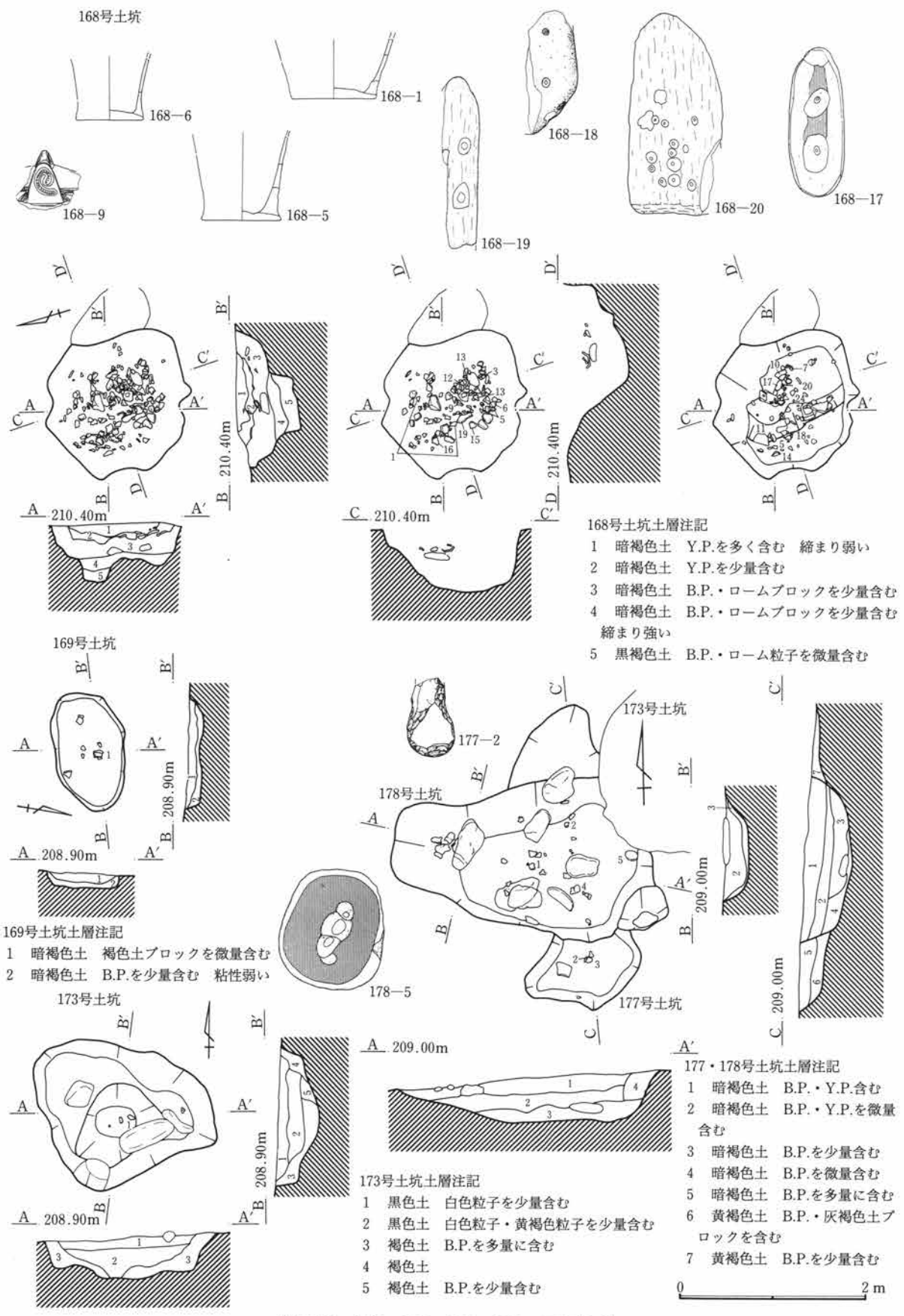


第63図 144・145・148～151号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物

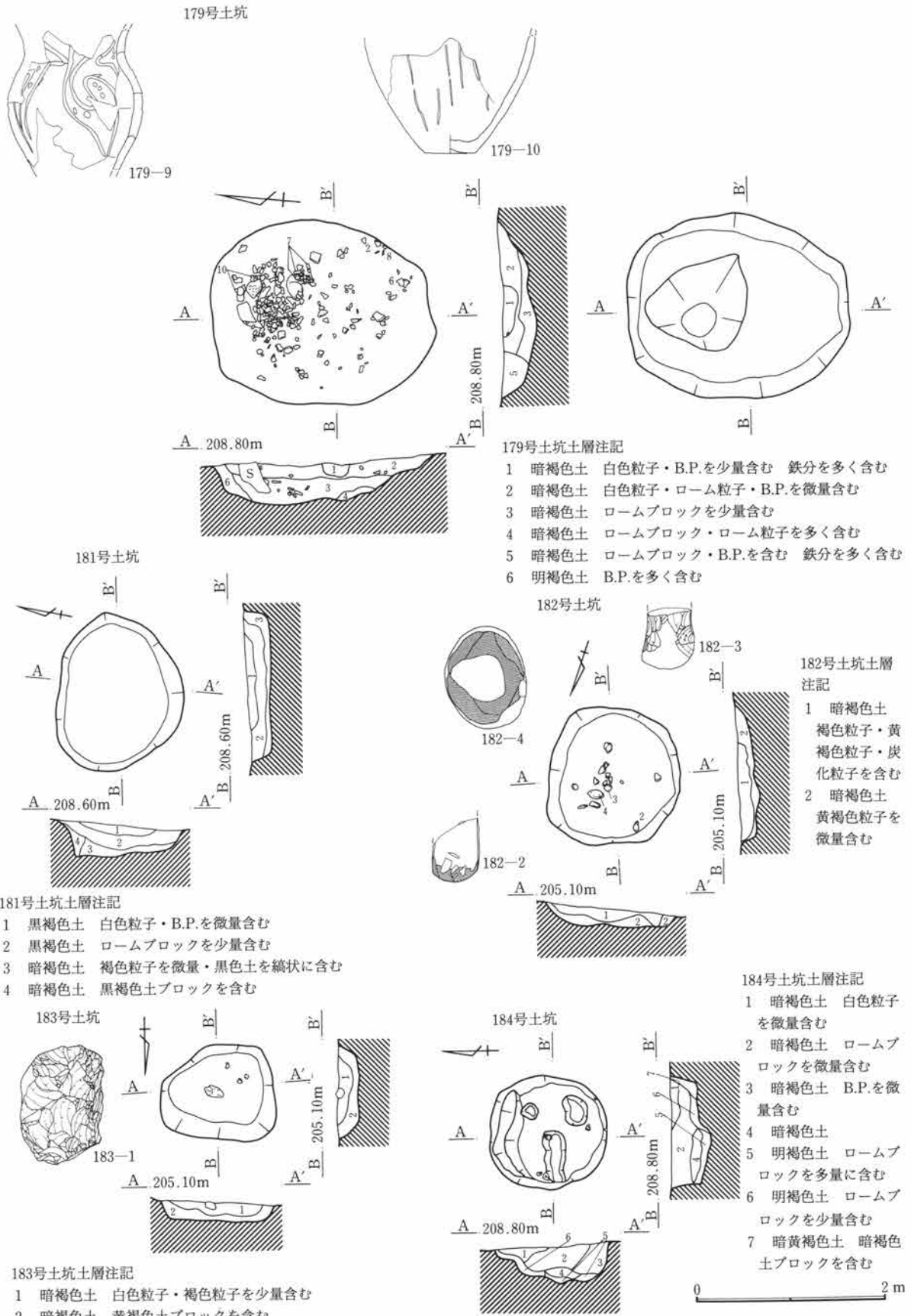


第64図 158・162～165・167号土坑

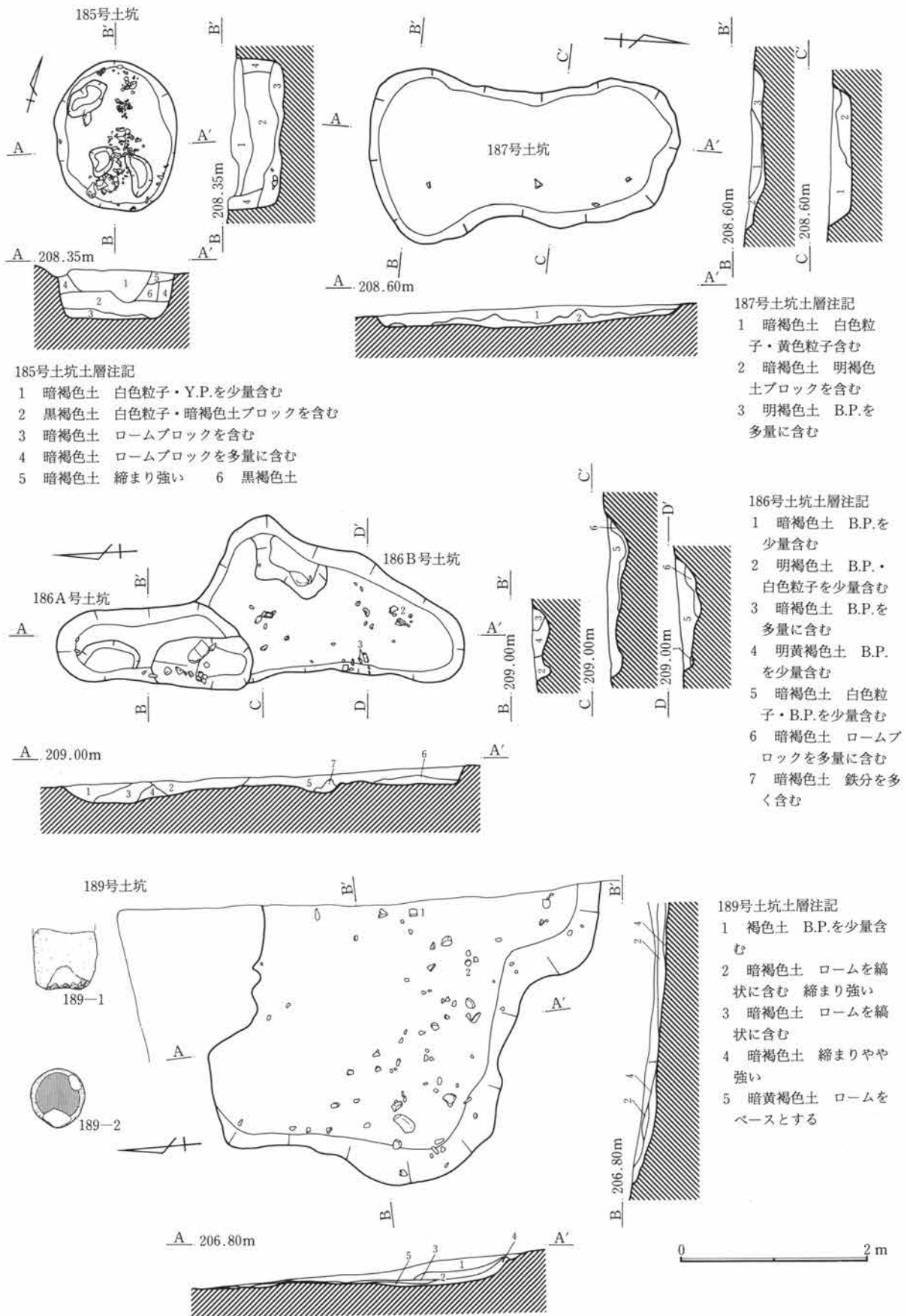


第65図 168・169・173・177・178号土坑

第III章 検出された遺構と出土遺物

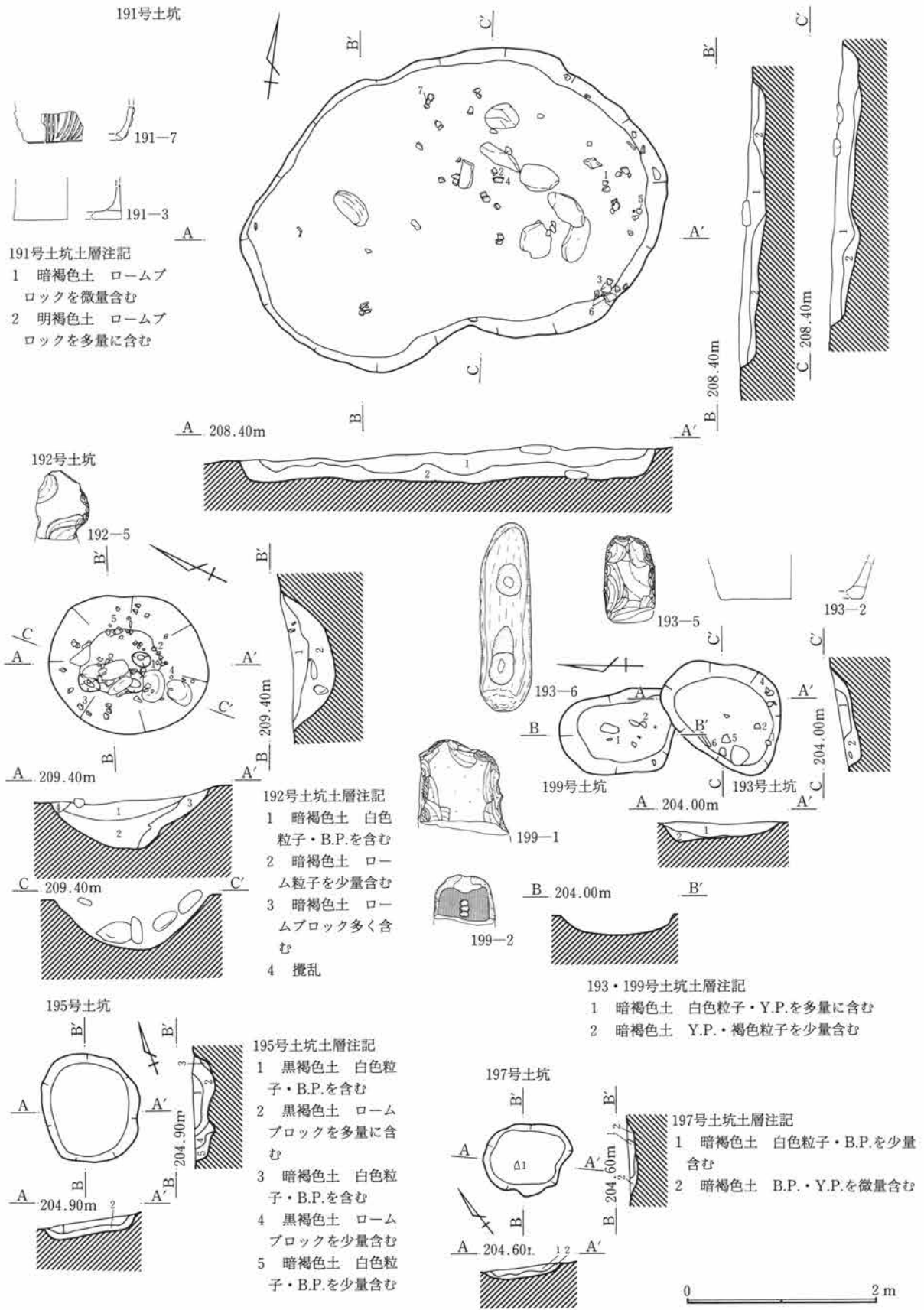


第66図 179・181～184号土坑

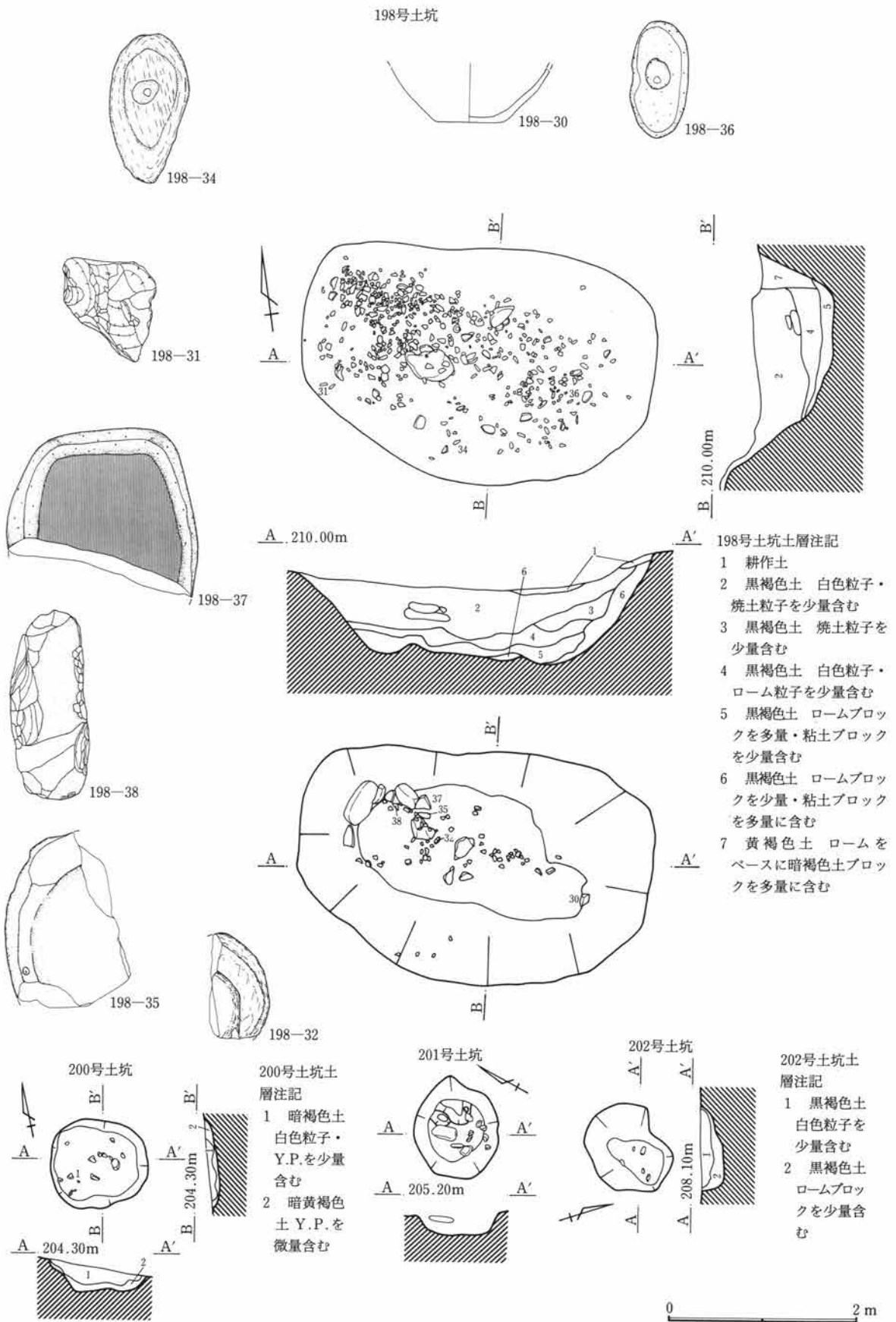


第67図 185~187・189号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物

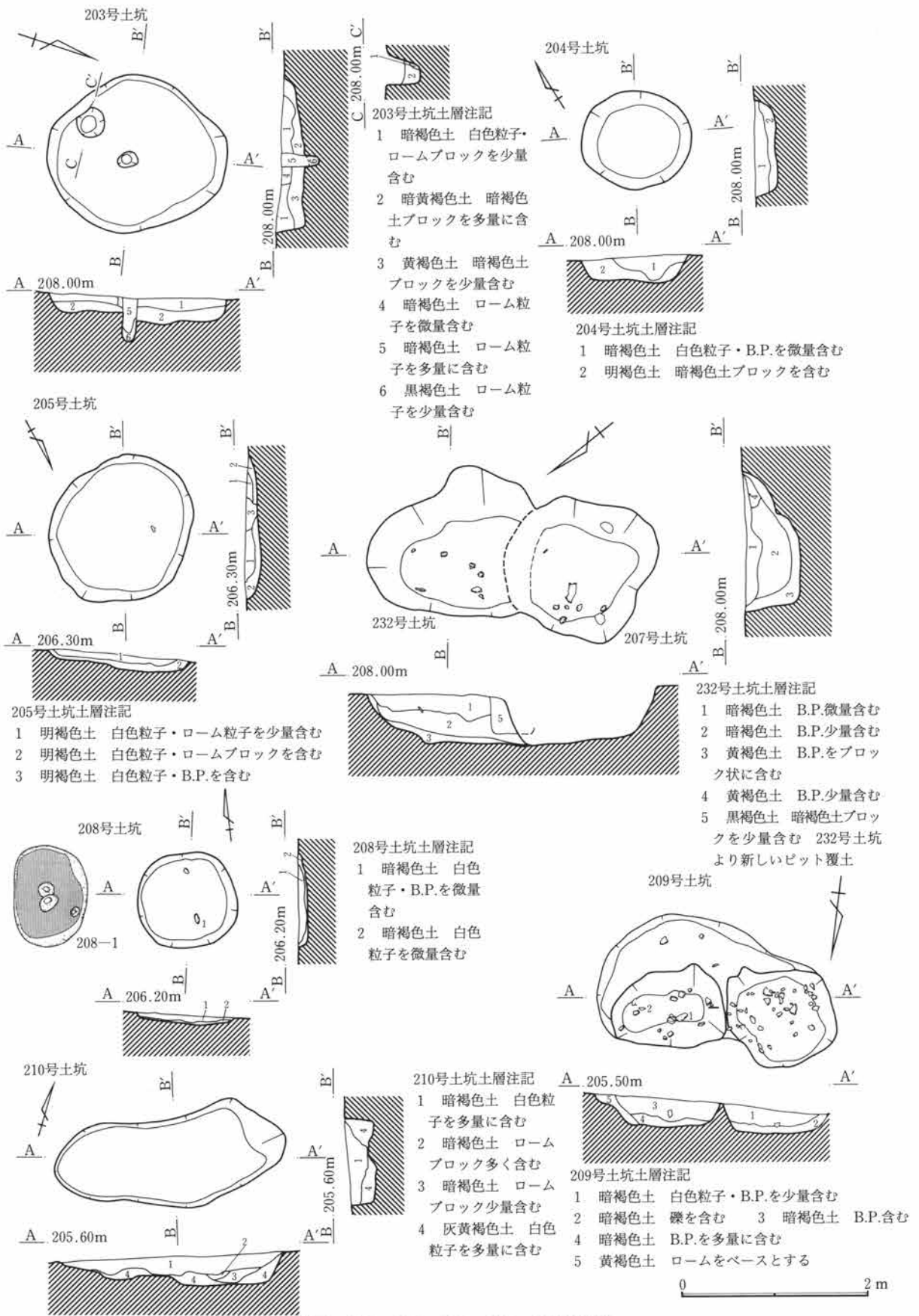


第68図 191～193・195・197・199号土坑

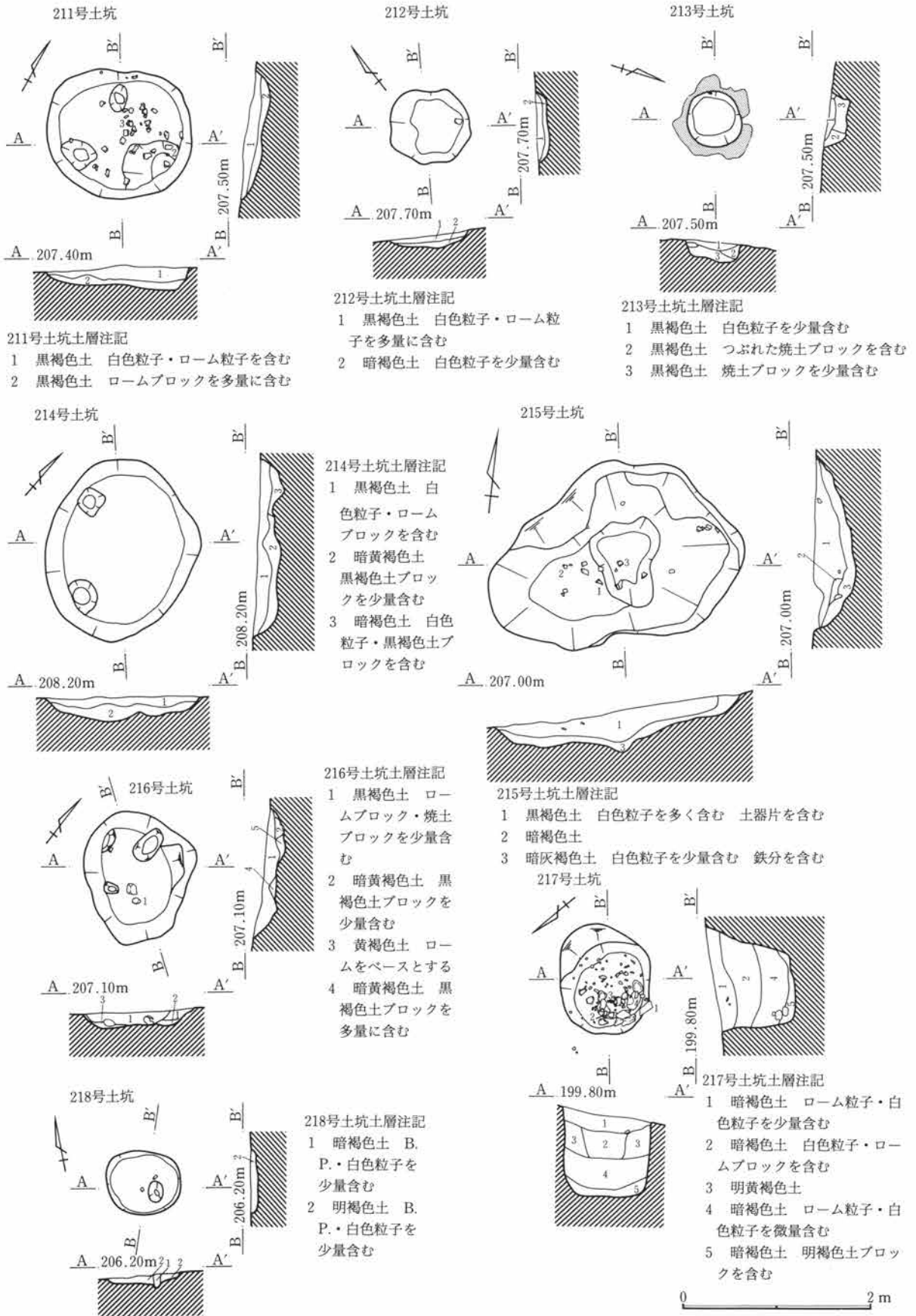


第69図 198・200~202号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物

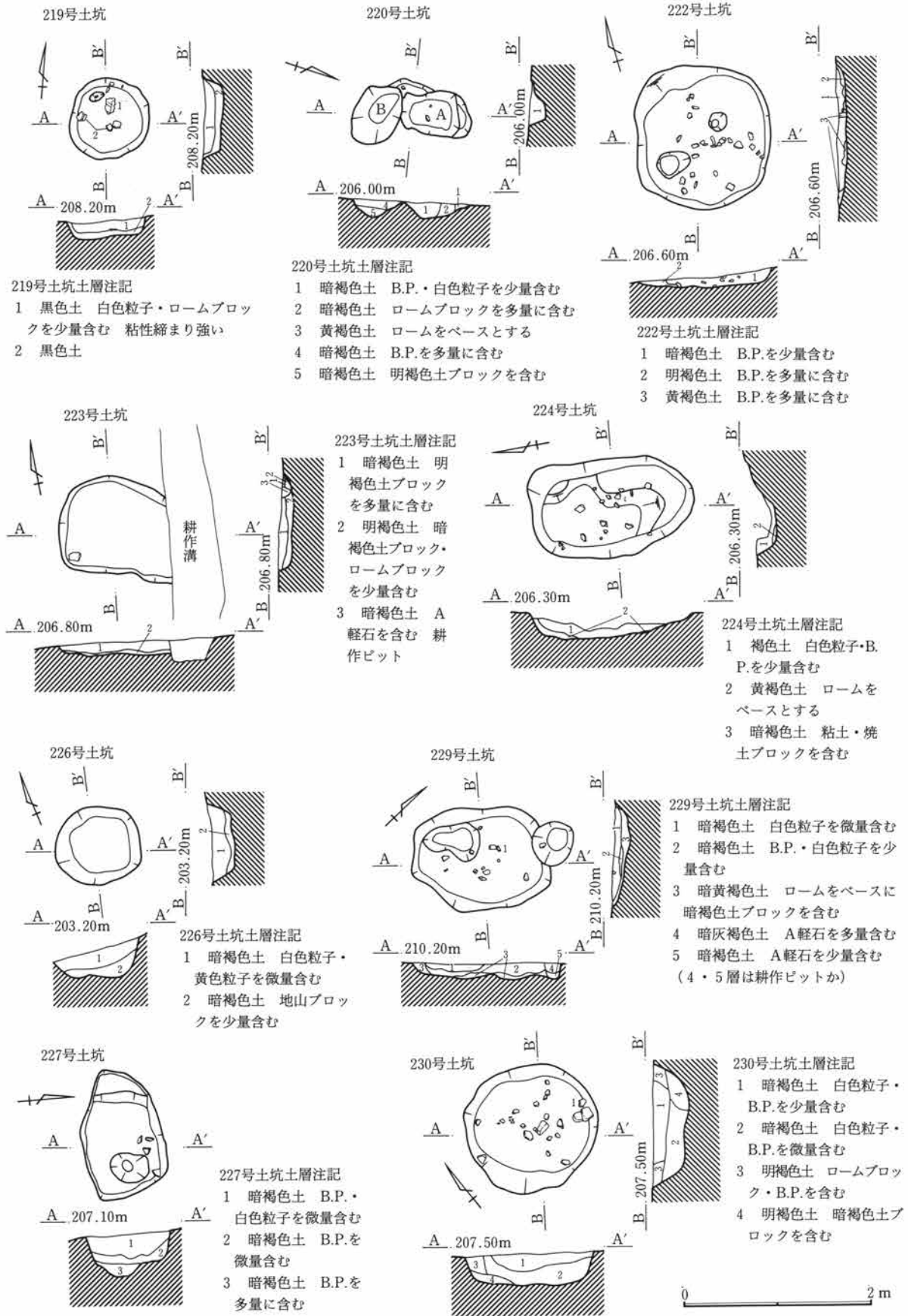


第70図 203~205・207~210・232号土坑

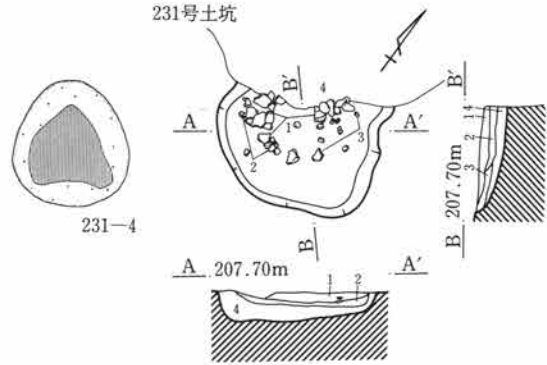
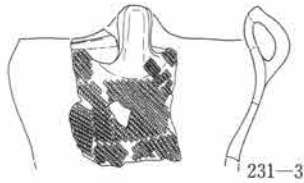


第71図 211~218号土坑

第III章 検出された遺構と出土遺物



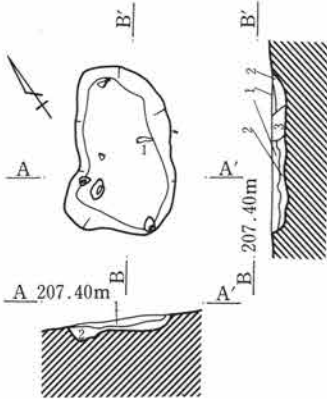
第72図 219・220・222～224・226・227・229・230号土坑



231号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 白色粒子・ロームブロックを少量含む
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む
- 3 暗黄褐色土 白色粒子を微量含む
- 4 暗黄褐色土 ロームをベースに暗褐色土ブロックを含む

236号土坑



236号土坑土層注記

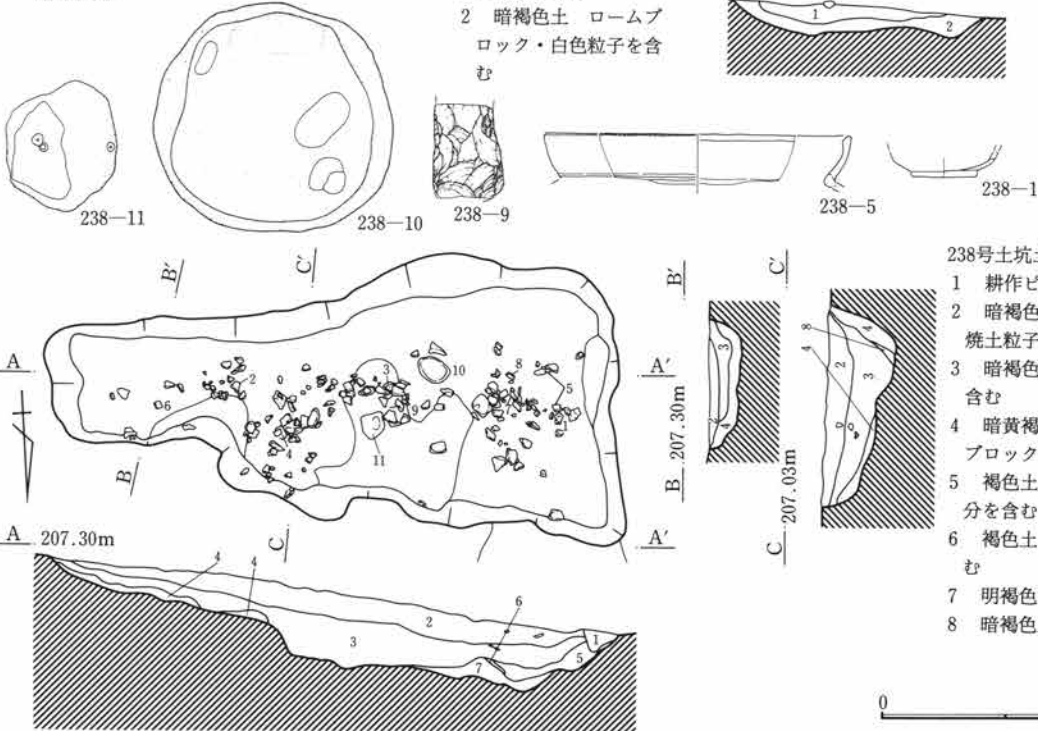
- 1 暗褐色土
- 2 暗黄褐色土 ロームをベースとする
- 3 暗褐色土 白色粒子を含む



235号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む
- 2 暗褐色土 ロームブロック・白色粒子を含む

238号土坑



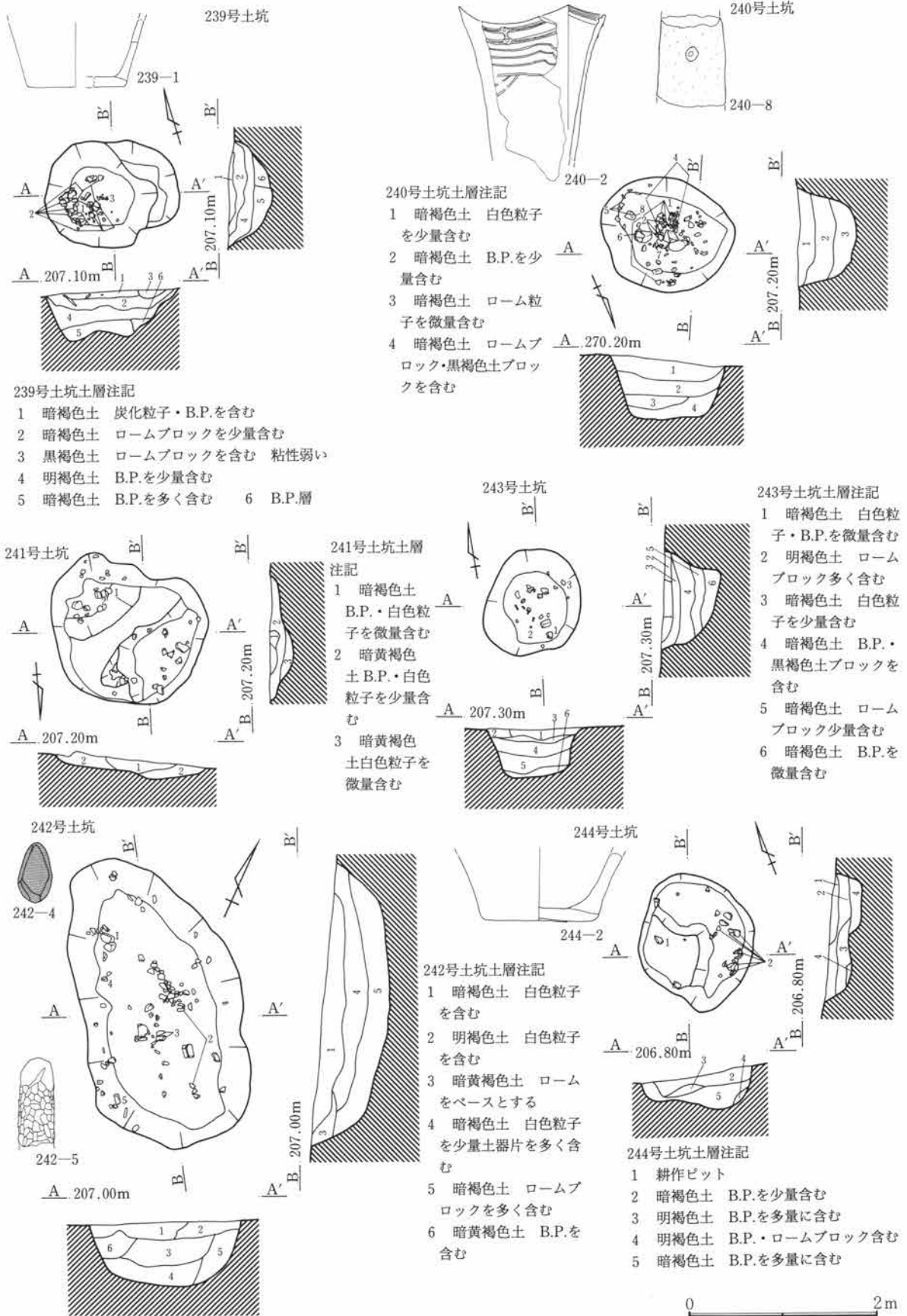
238号土坑土層注記

- 1 耕作ピット
- 2 暗褐色土 白色粒子・焼土粒子を少量含む
- 3 暗褐色土 白色粒子を含む
- 4 暗黄褐色土 暗褐色土ブロックを含む
- 5 褐色土 白色粒子・鉄分を含む
- 6 褐色土 鉄分を多く含む
- 7 明褐色土
- 8 暗褐色土

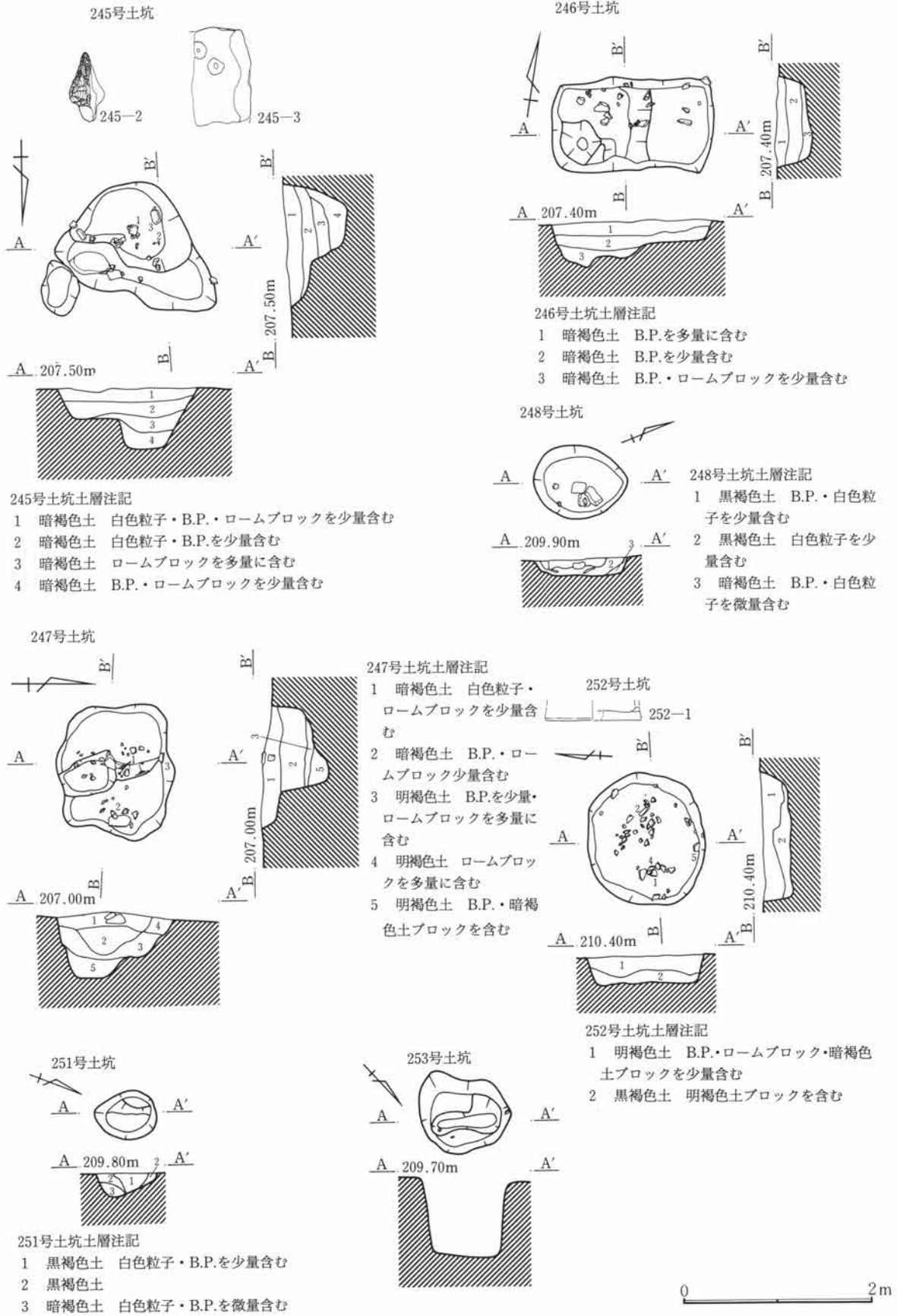
0 2 m

第73図 231・235・236・238号土坑

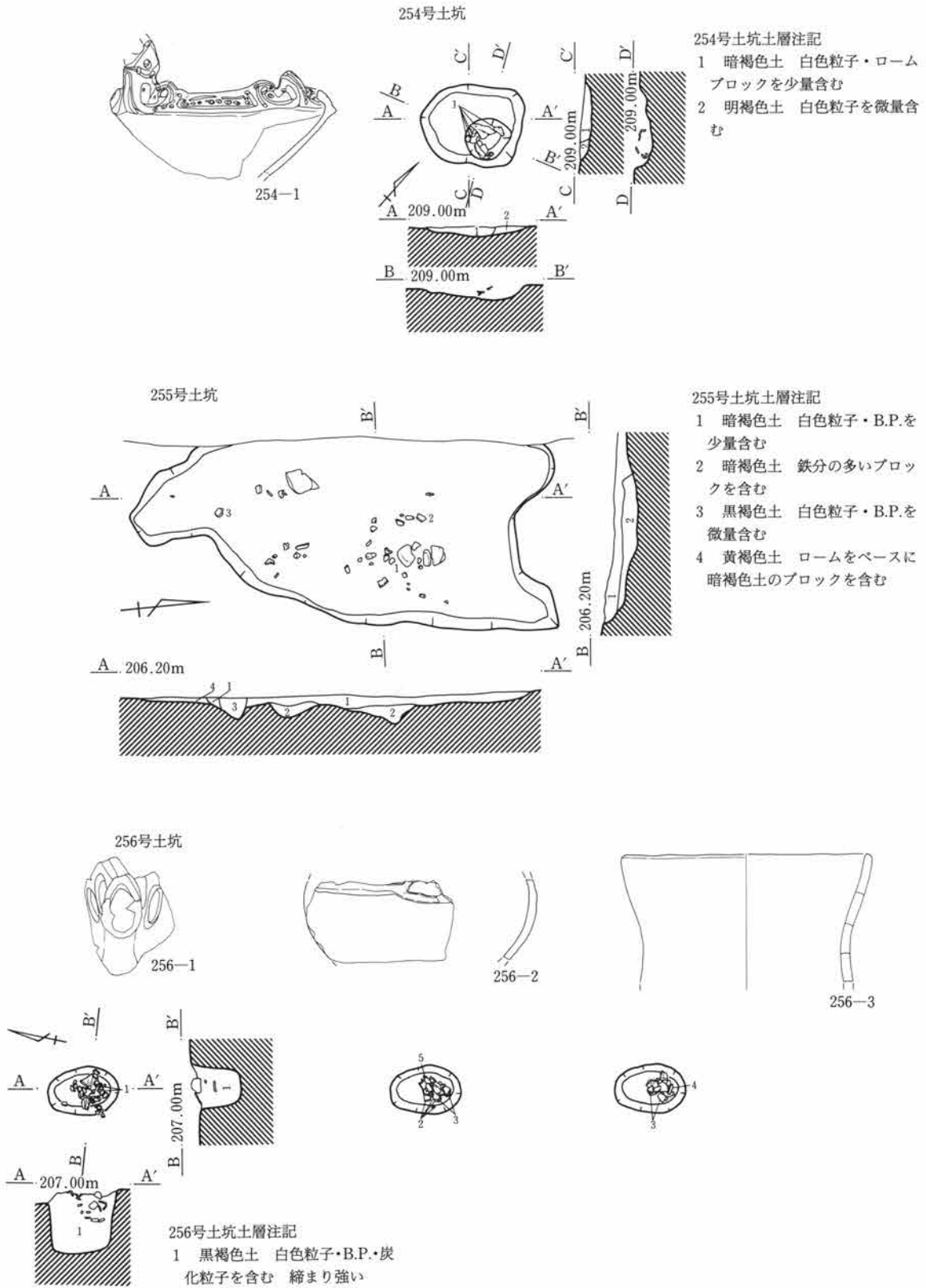
第三章 検出された遺構と出土遺物



第74図 239～244号土坑

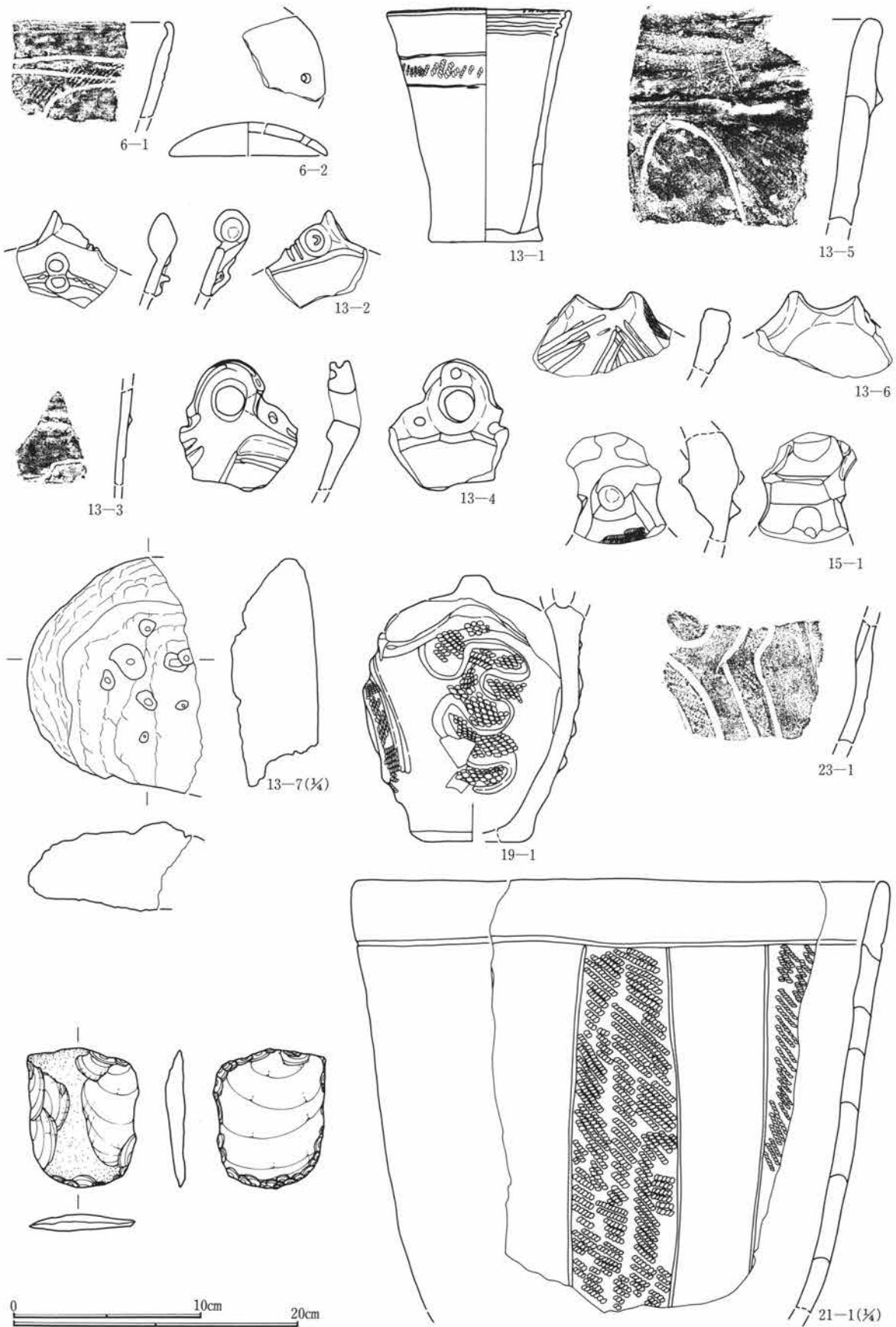


第75図 245～248・251～253号土坑



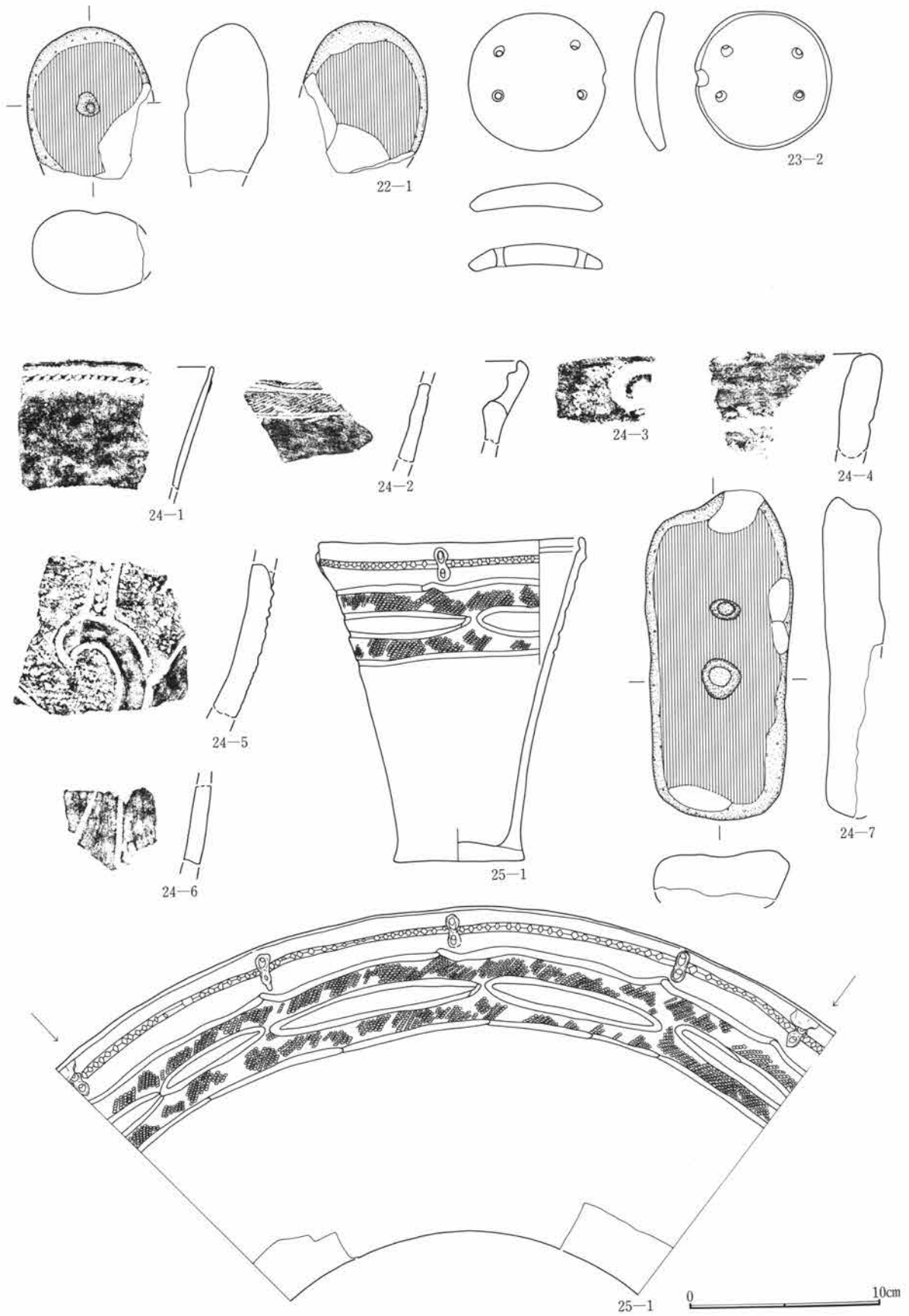
0 2 m

第76図 254～256号土坑



第77図 6・13・15・19・21・23号土坑出土遺物

第III章 検出された遺構と出土遺物

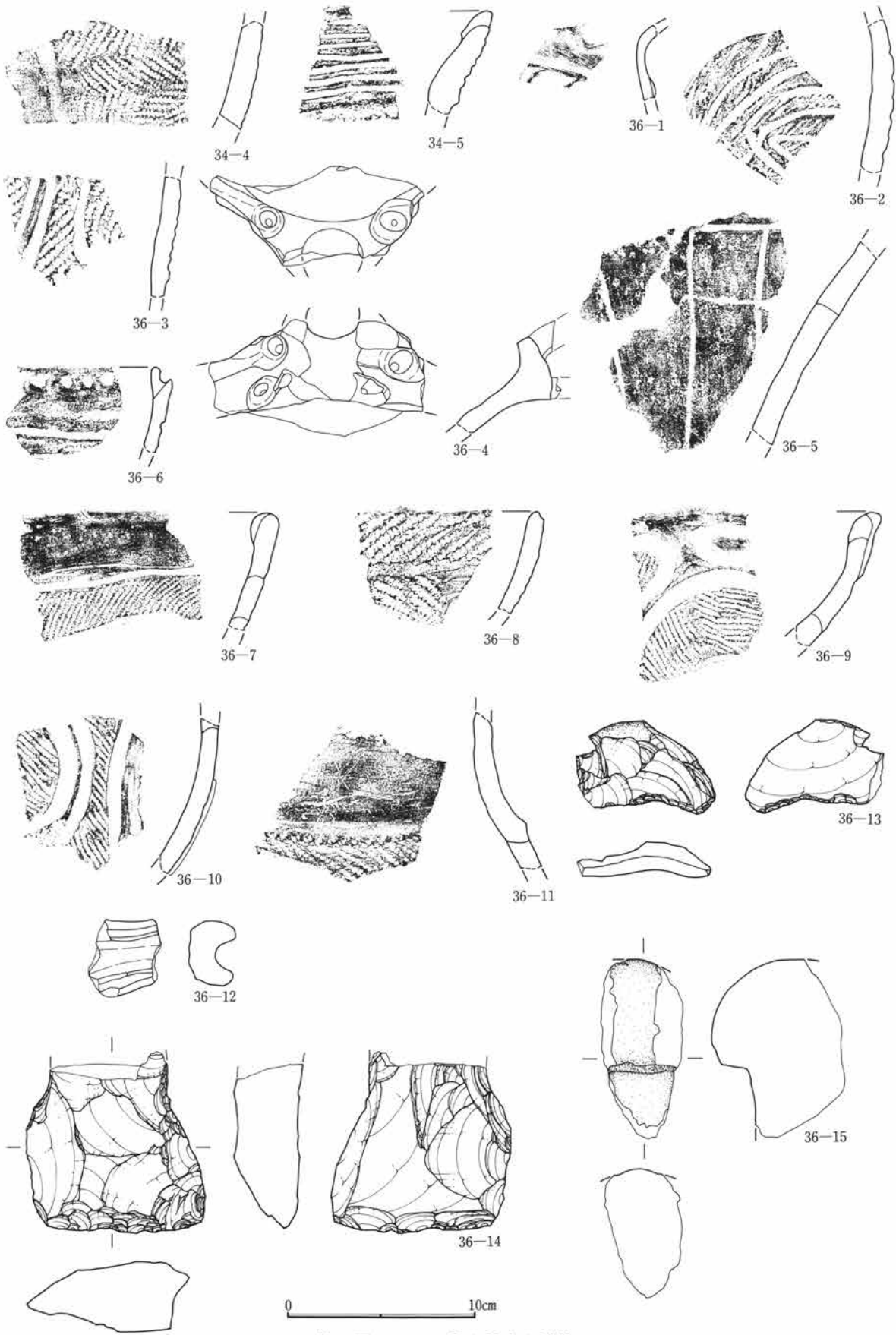


第78図 22~25号土坑出土遺物

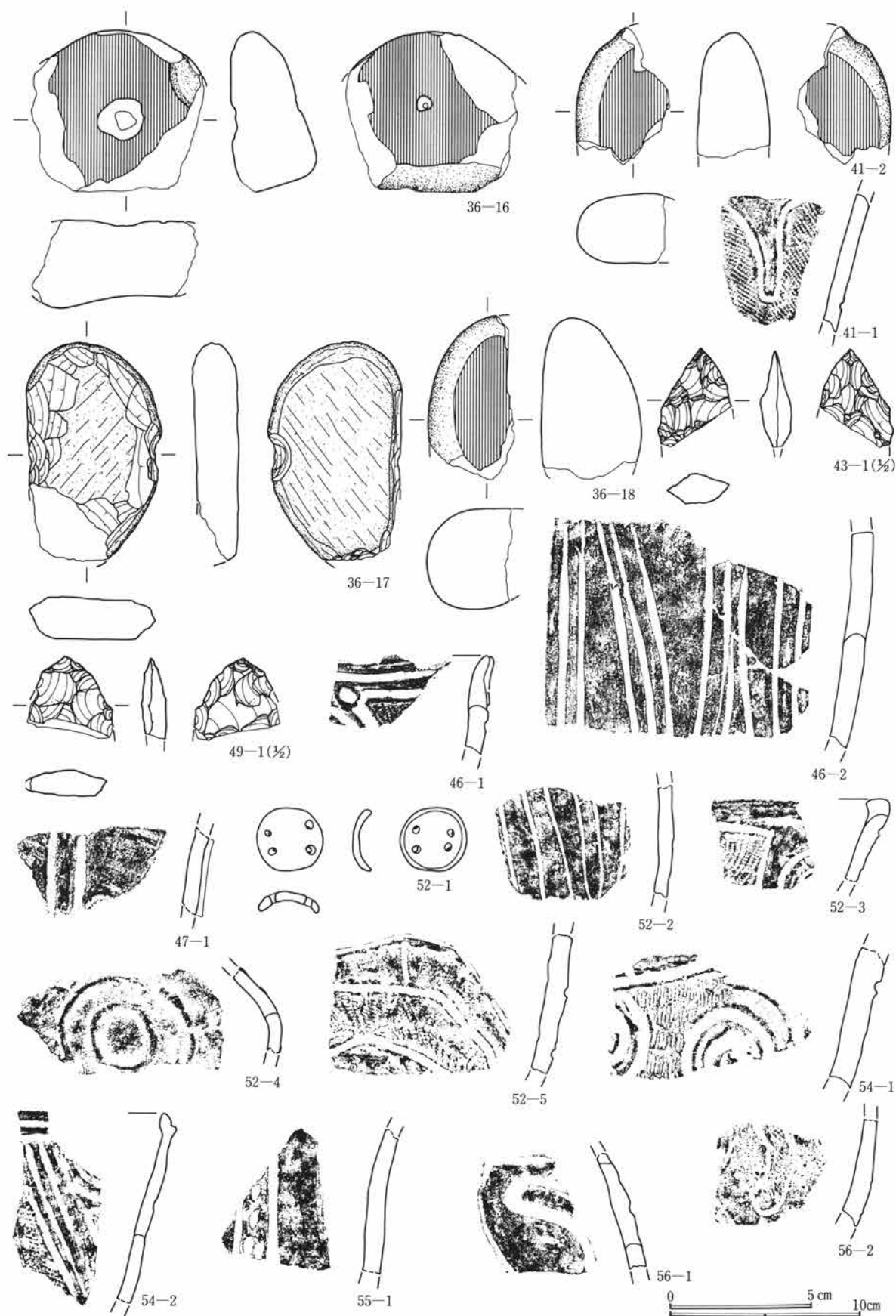


第79図 28・29・31・34号土坑出土遺物

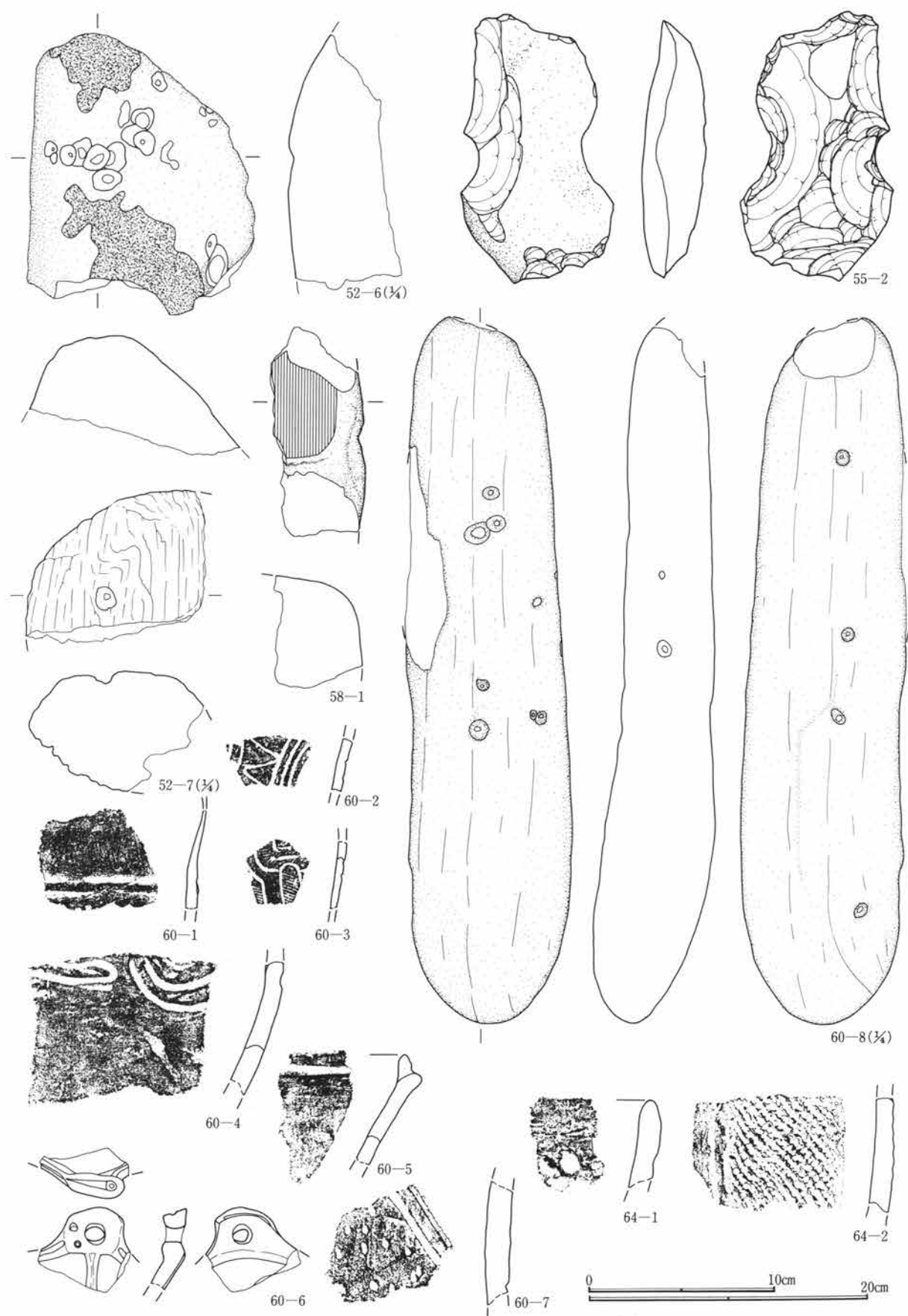
第三章 検出された遺構と出土遺物



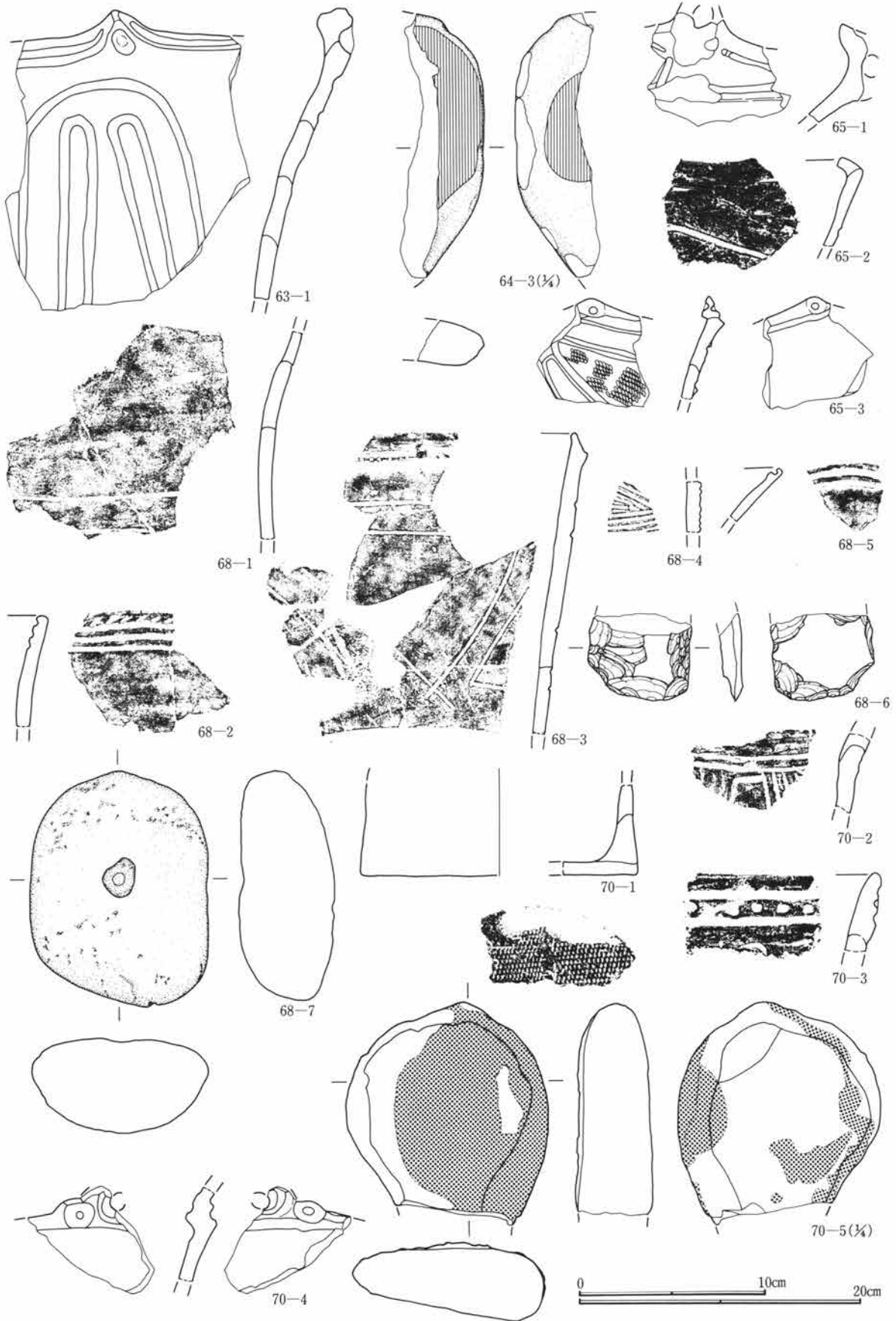
第80図 34・36号土坑出土遺物



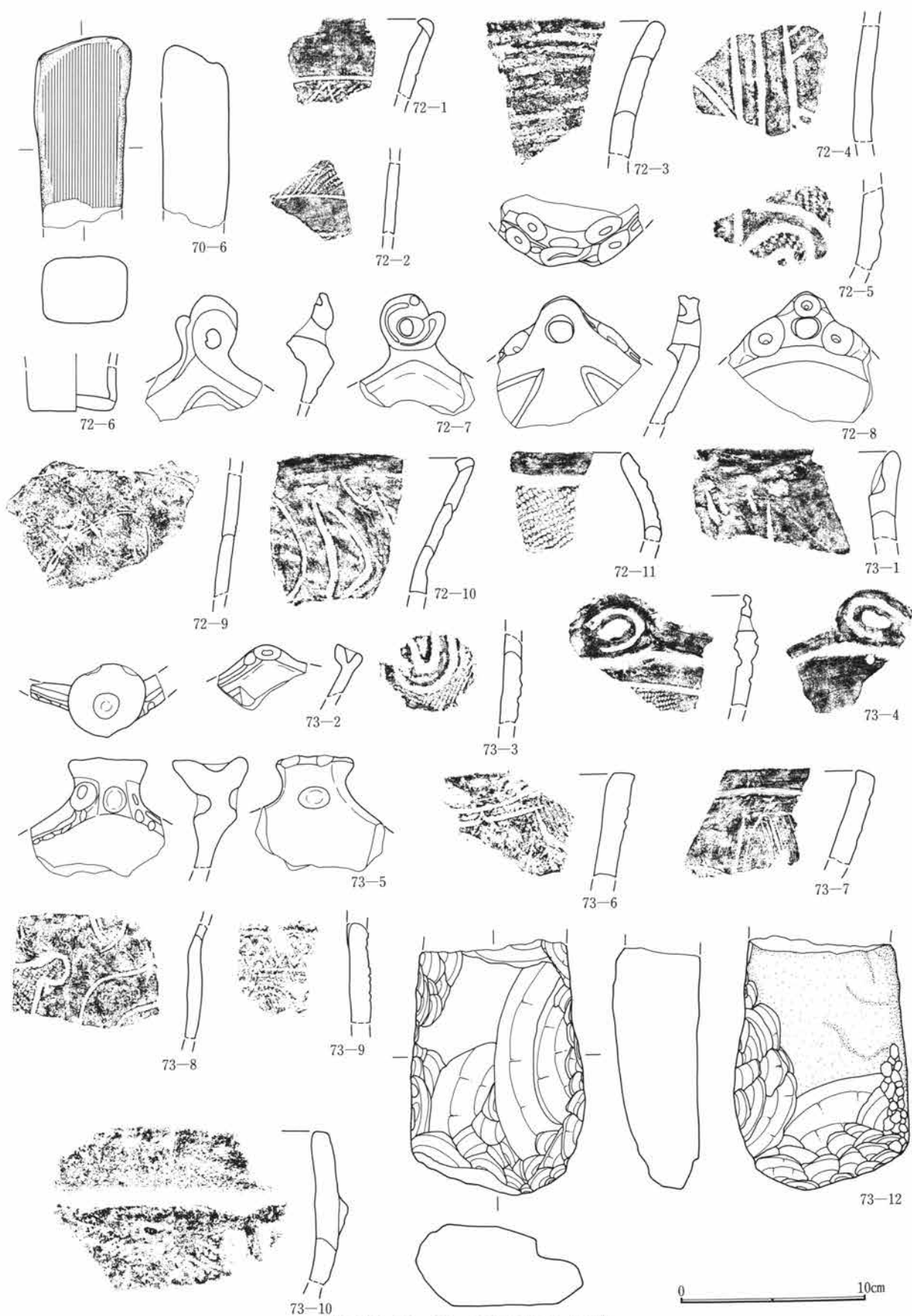
第81図 36・41・43・46・47・49・52・54~56号土坑出土遺物



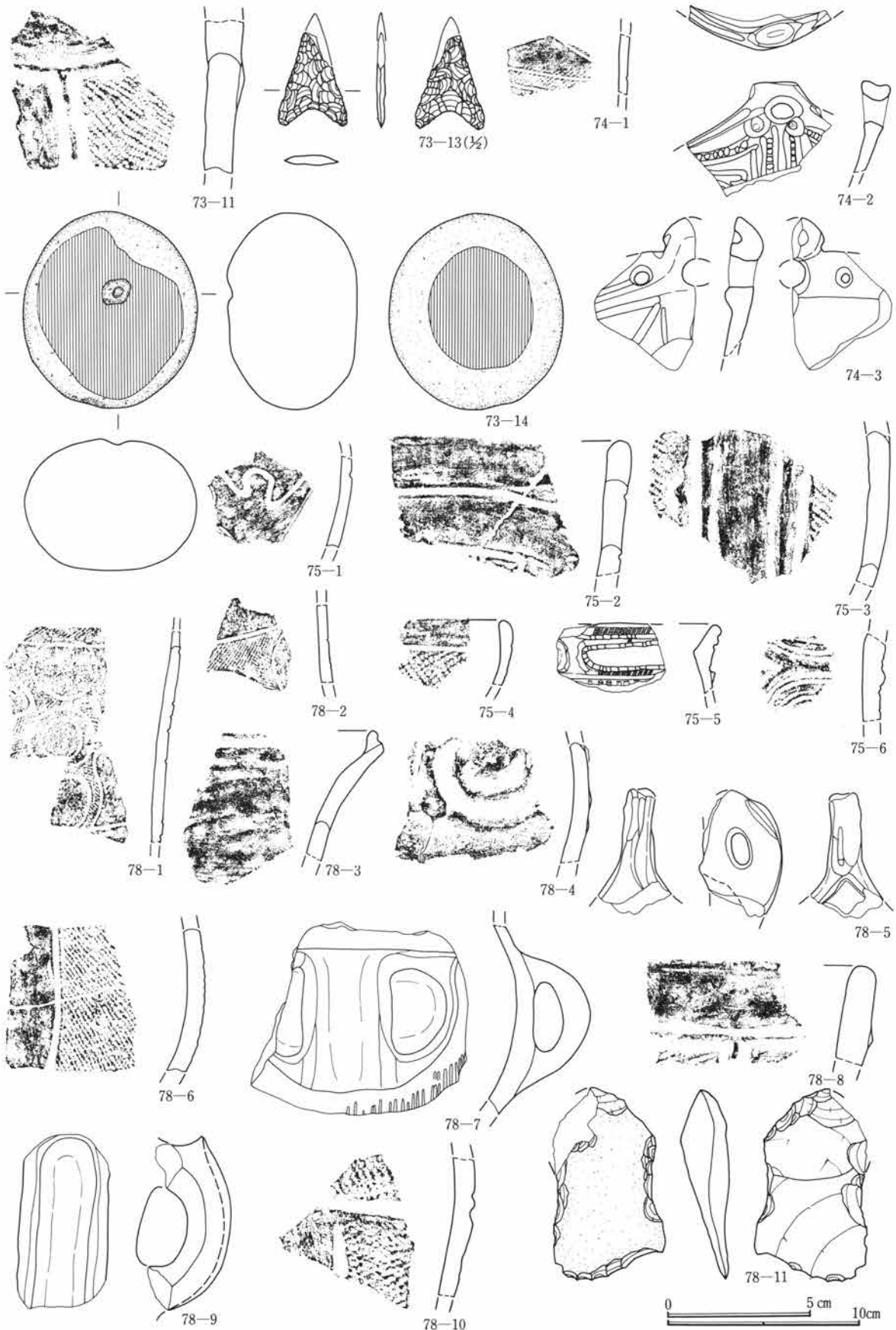
第82図 52・55・58・60・64号土坑出土遺物



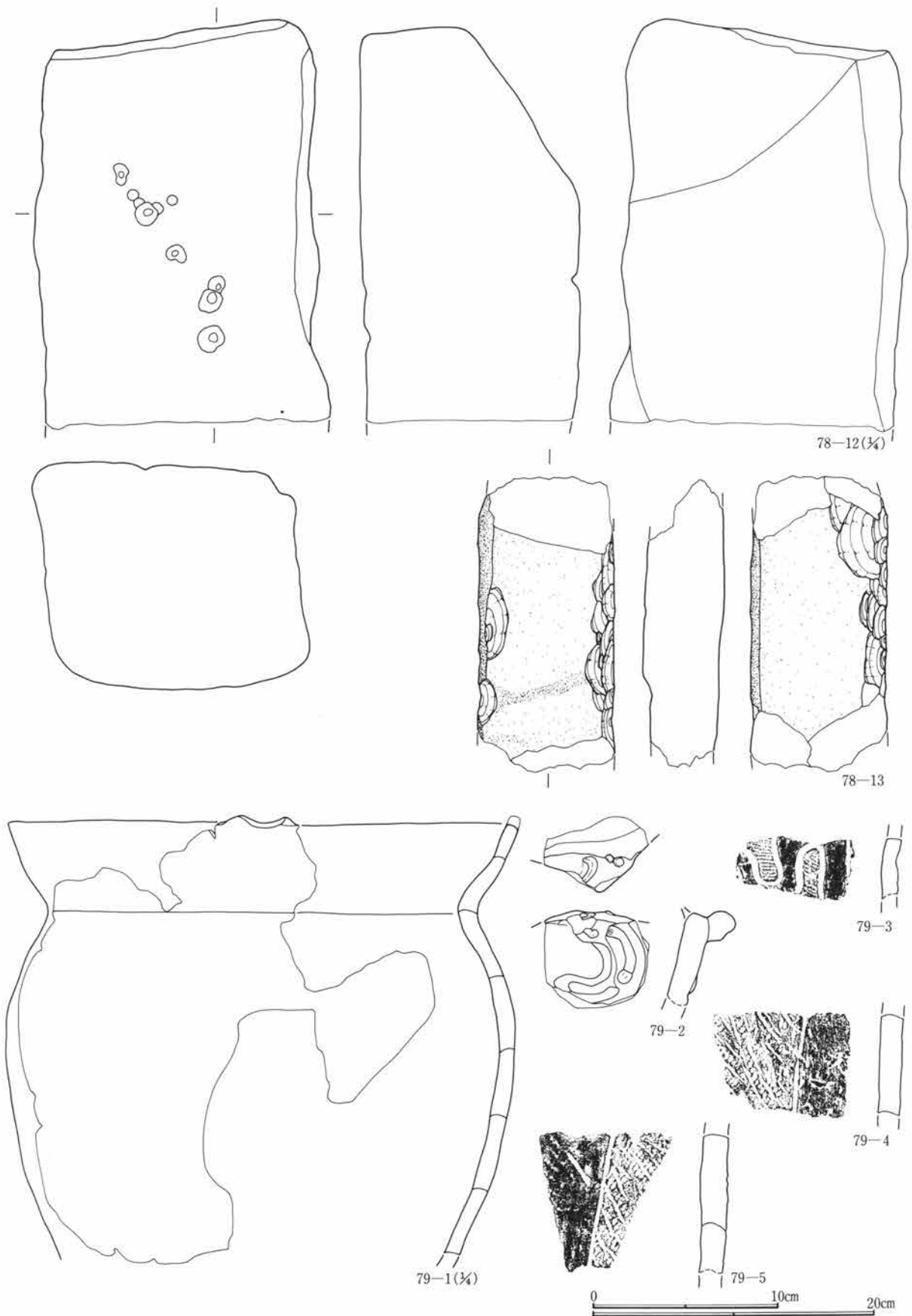
第83図 63~65・68・70号土坑出土遺物



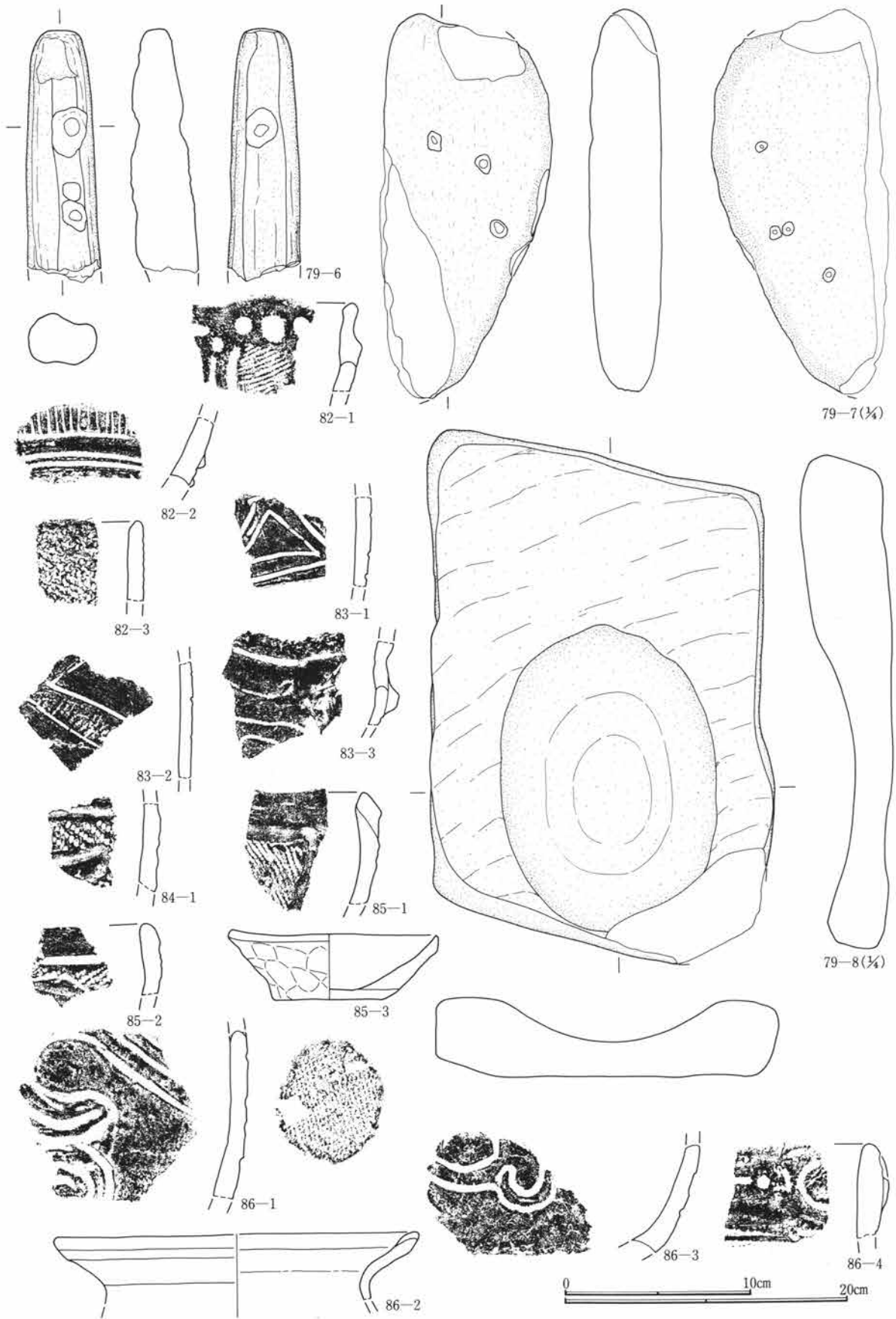
第84図 70・72・73号土坑出土遺物



第85図 73~75・78号土坑出土遺物

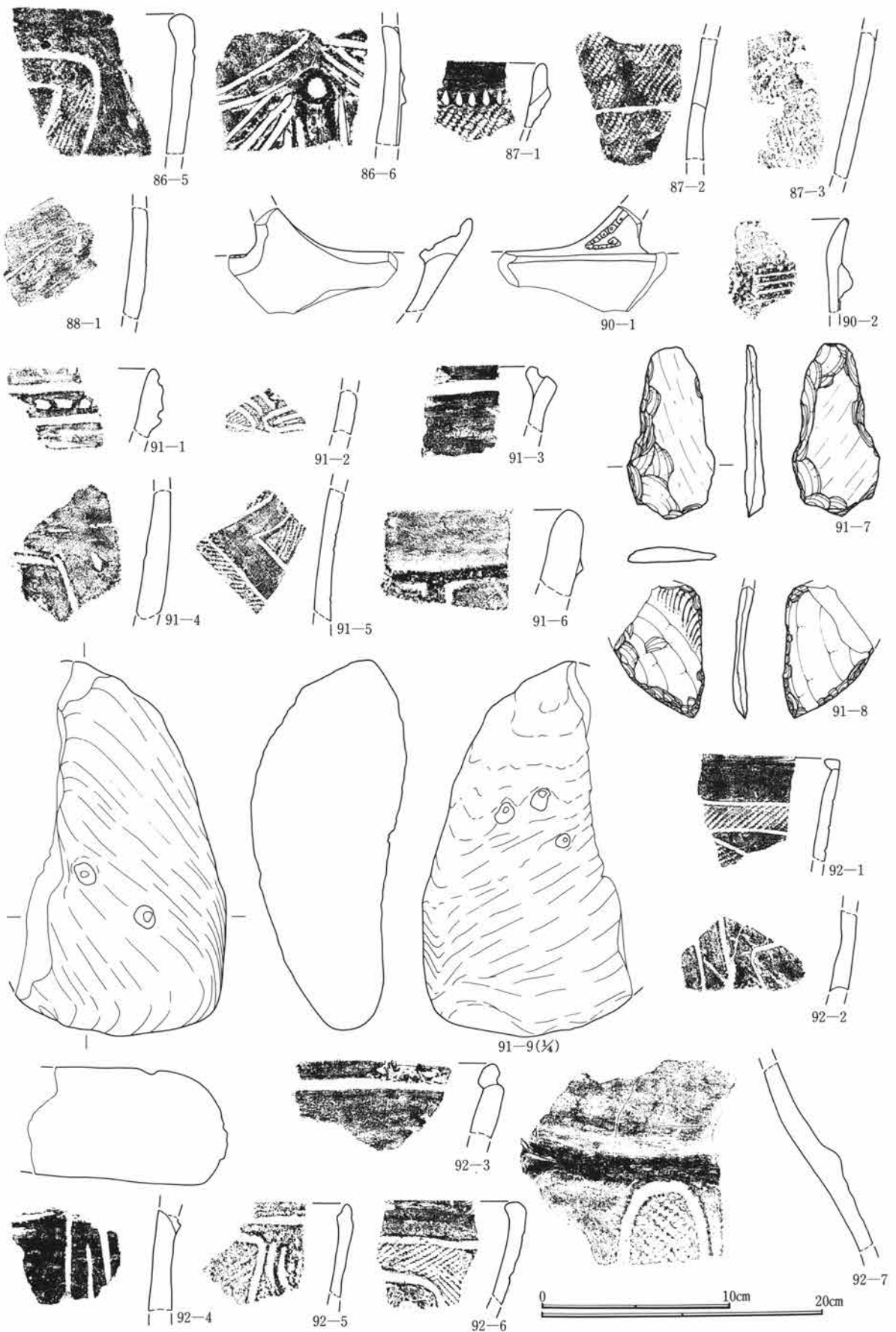


第86図 78・79号土坑出土遺物

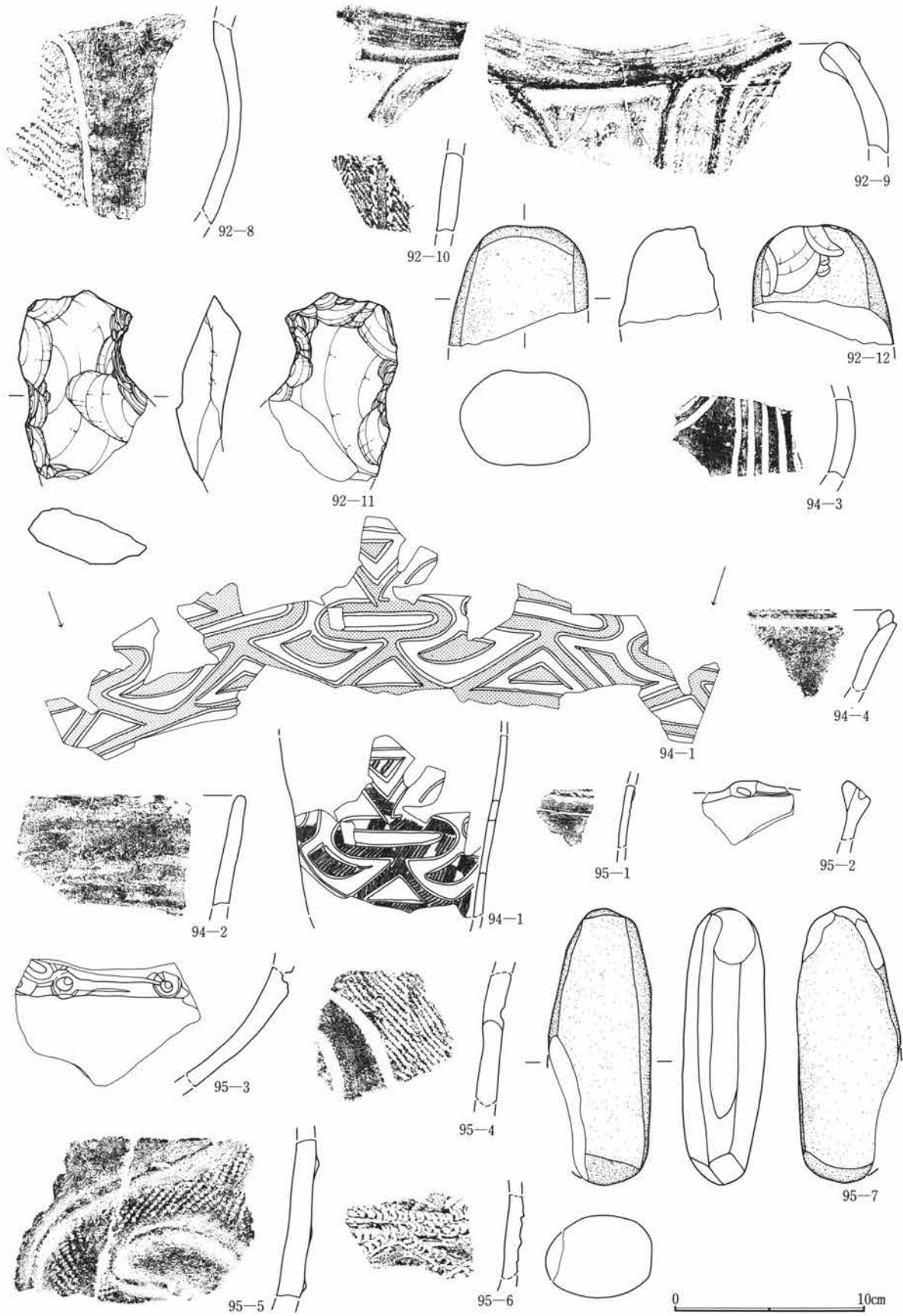


第87図 79・82~86号土坑出土遺物

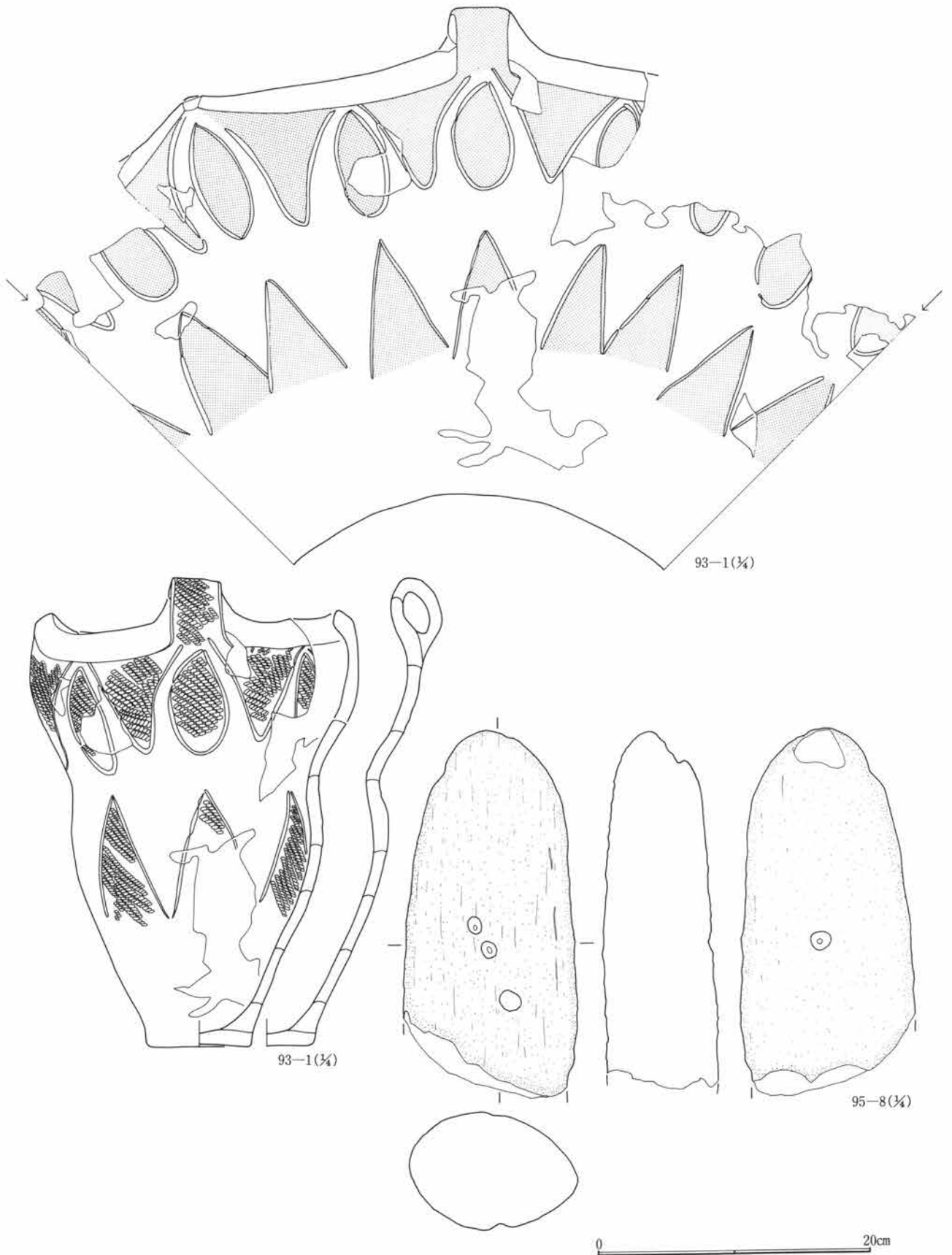
第三章 検出された遺構と出土遺物



第88図 86~88・90~92号土坑出土遺物

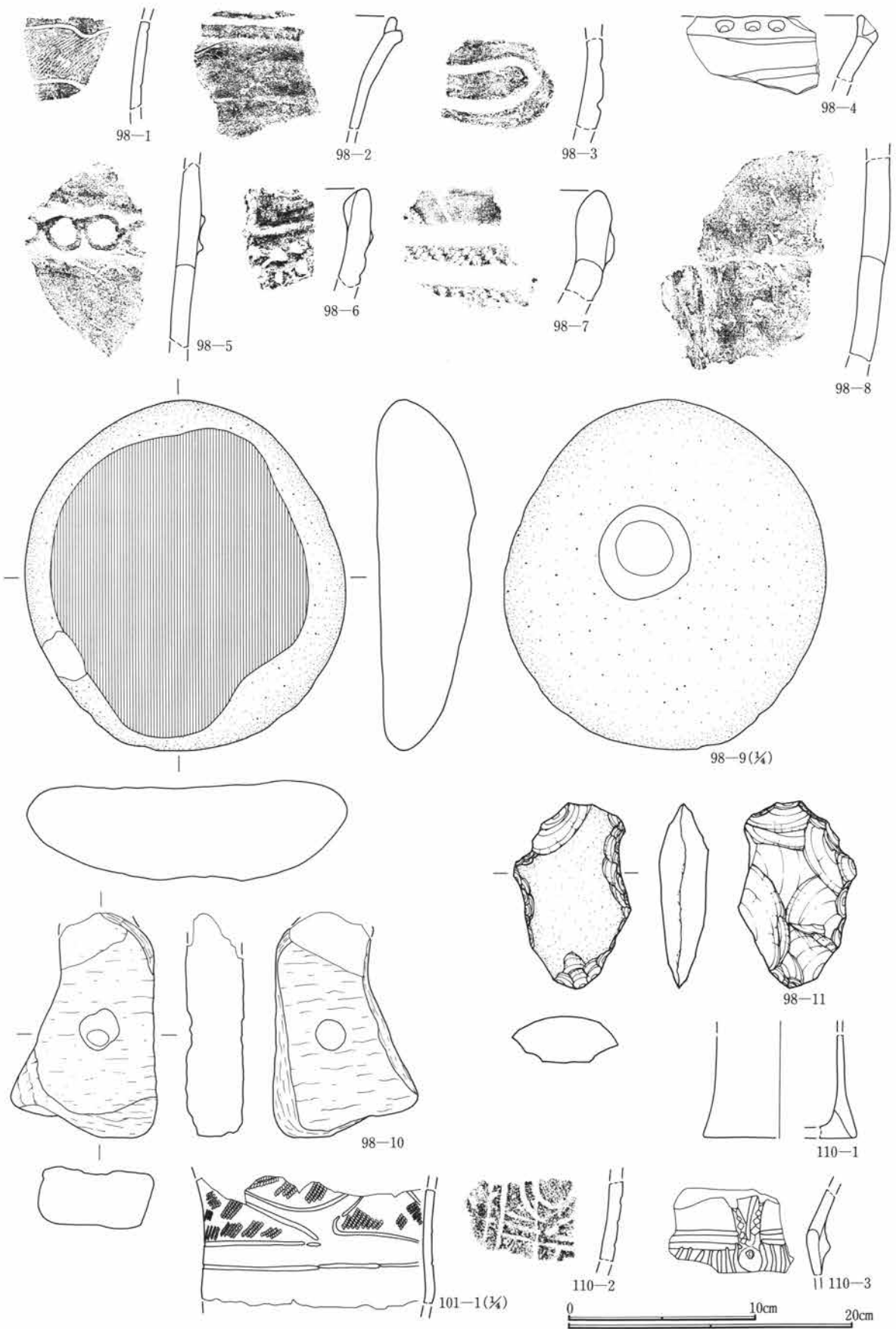


第89図 92・94・95号土坑出土遺物



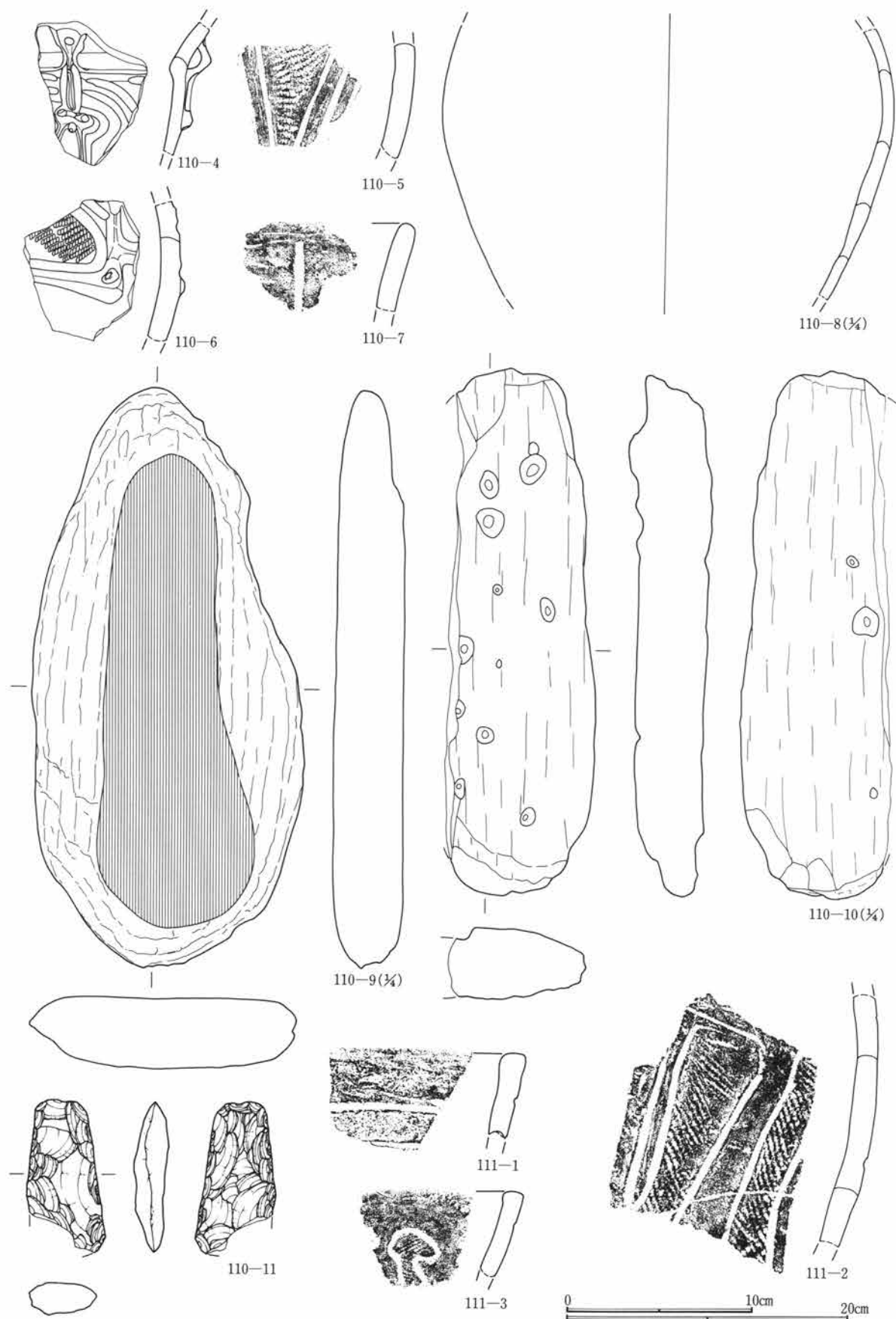
第90図 93・95号土坑出土遺物

第1節 縄文時代

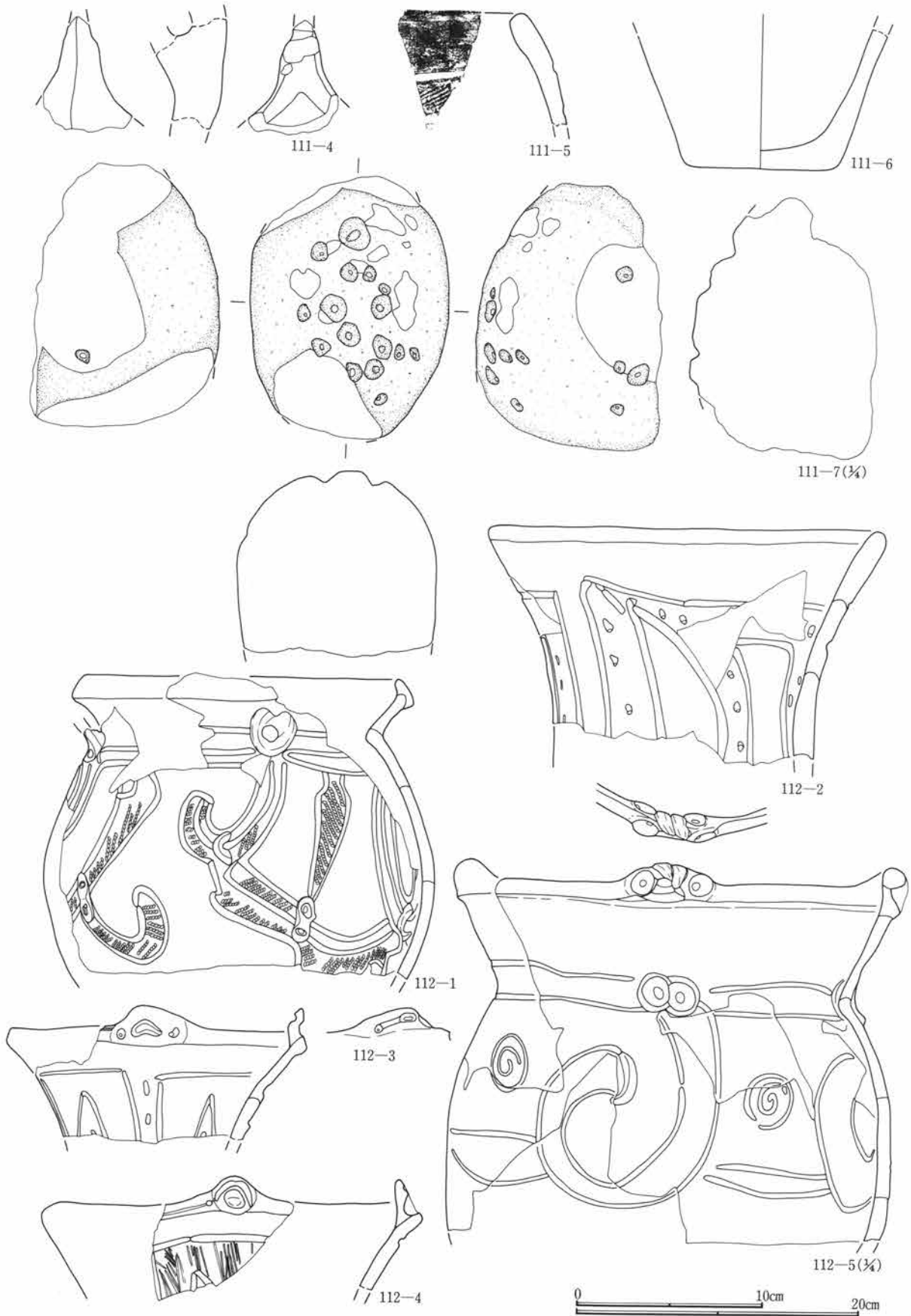


第91図 98・101・110号土坑出土遺物

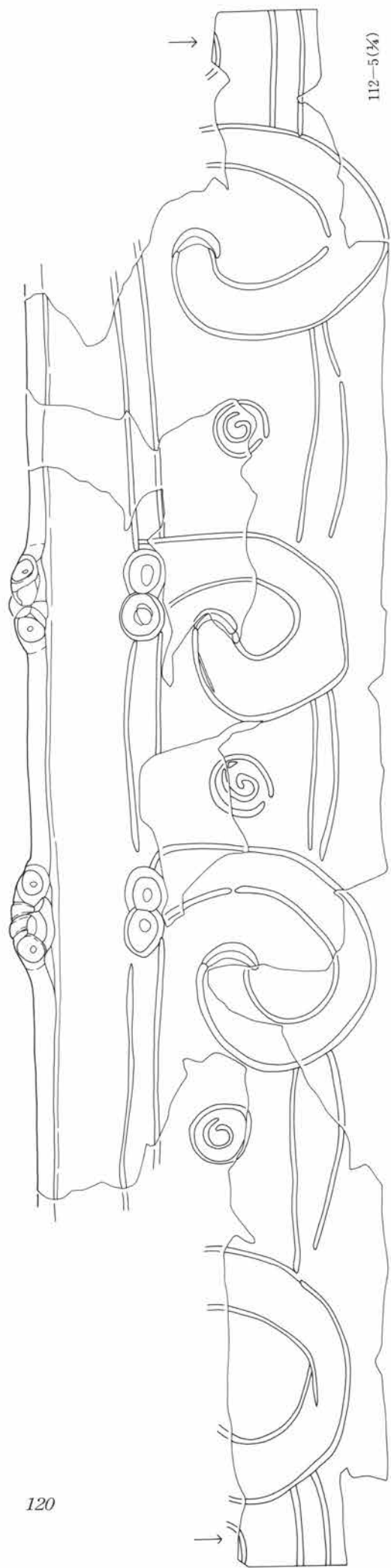
第三章 検出された遺構と出土遺物



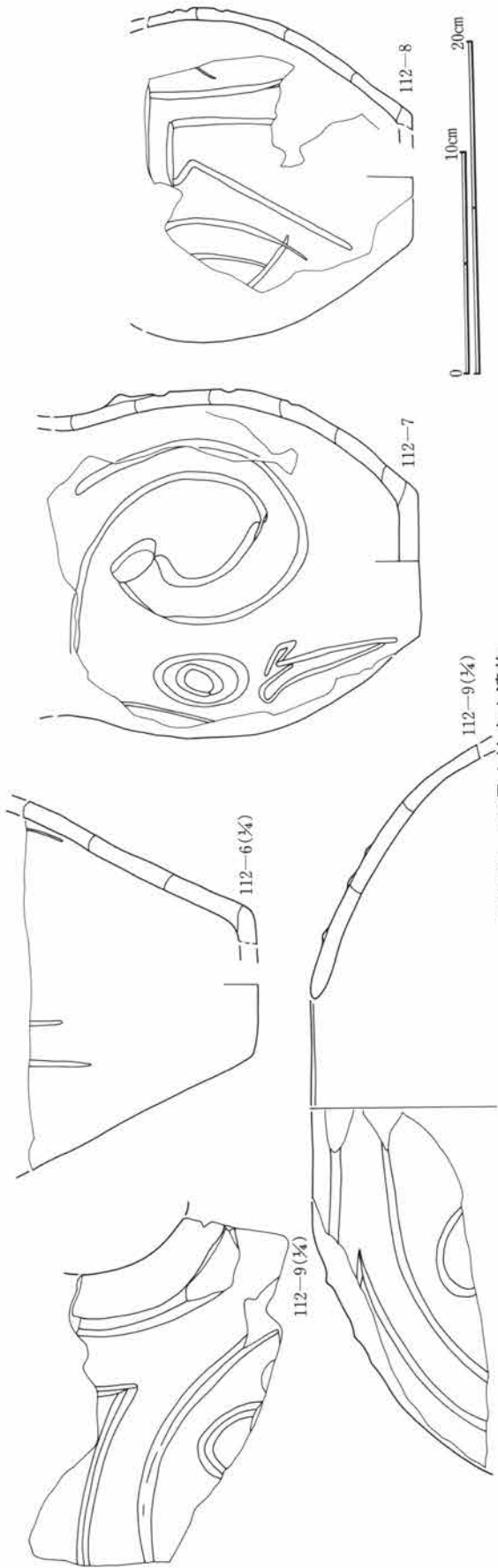
第92図 110・111号土坑出土遺物



第93図 111・112号土坑出土遺物



112-5(1/4)



112-8

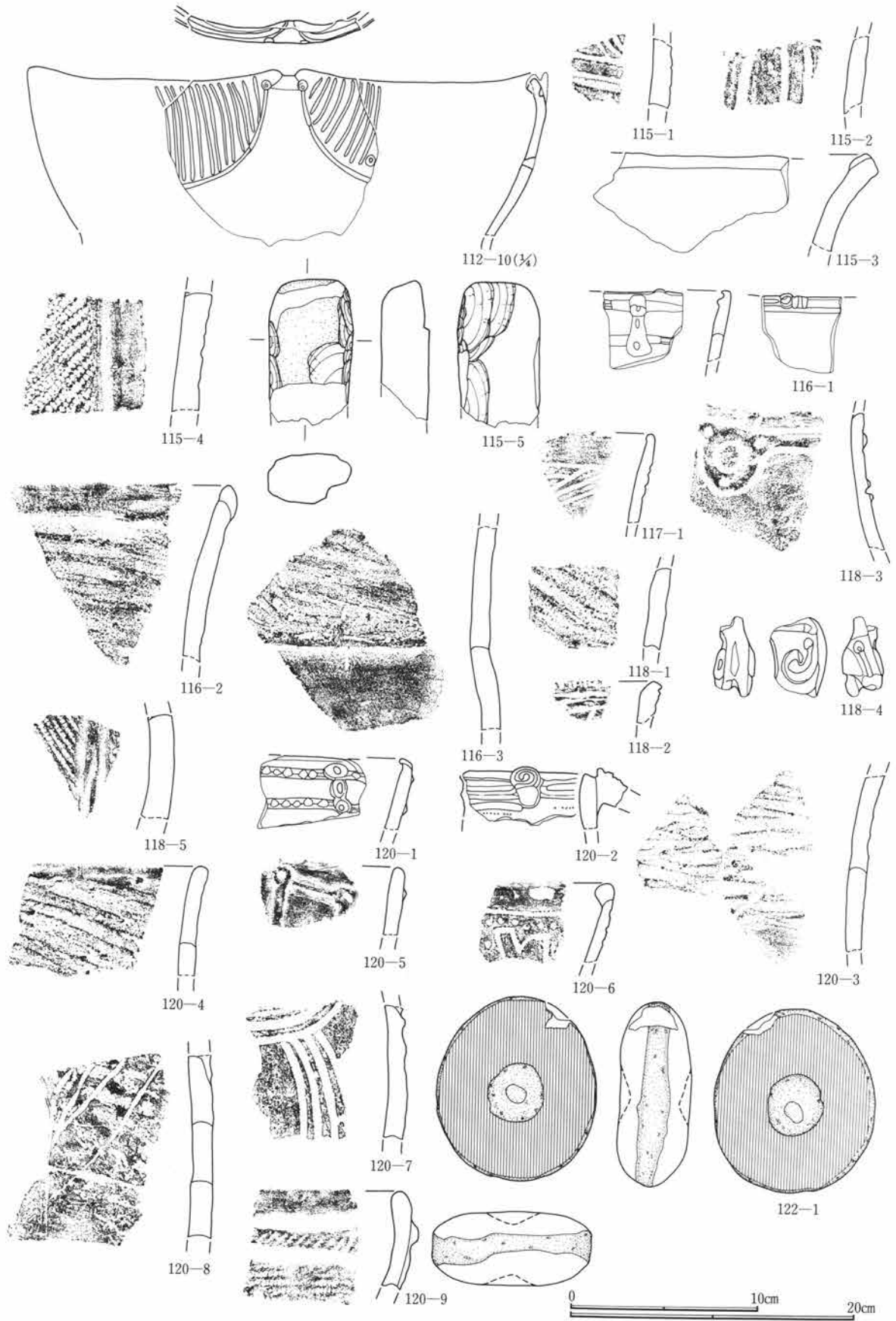
112-7

112-6(1/4)

112-9(1/4)

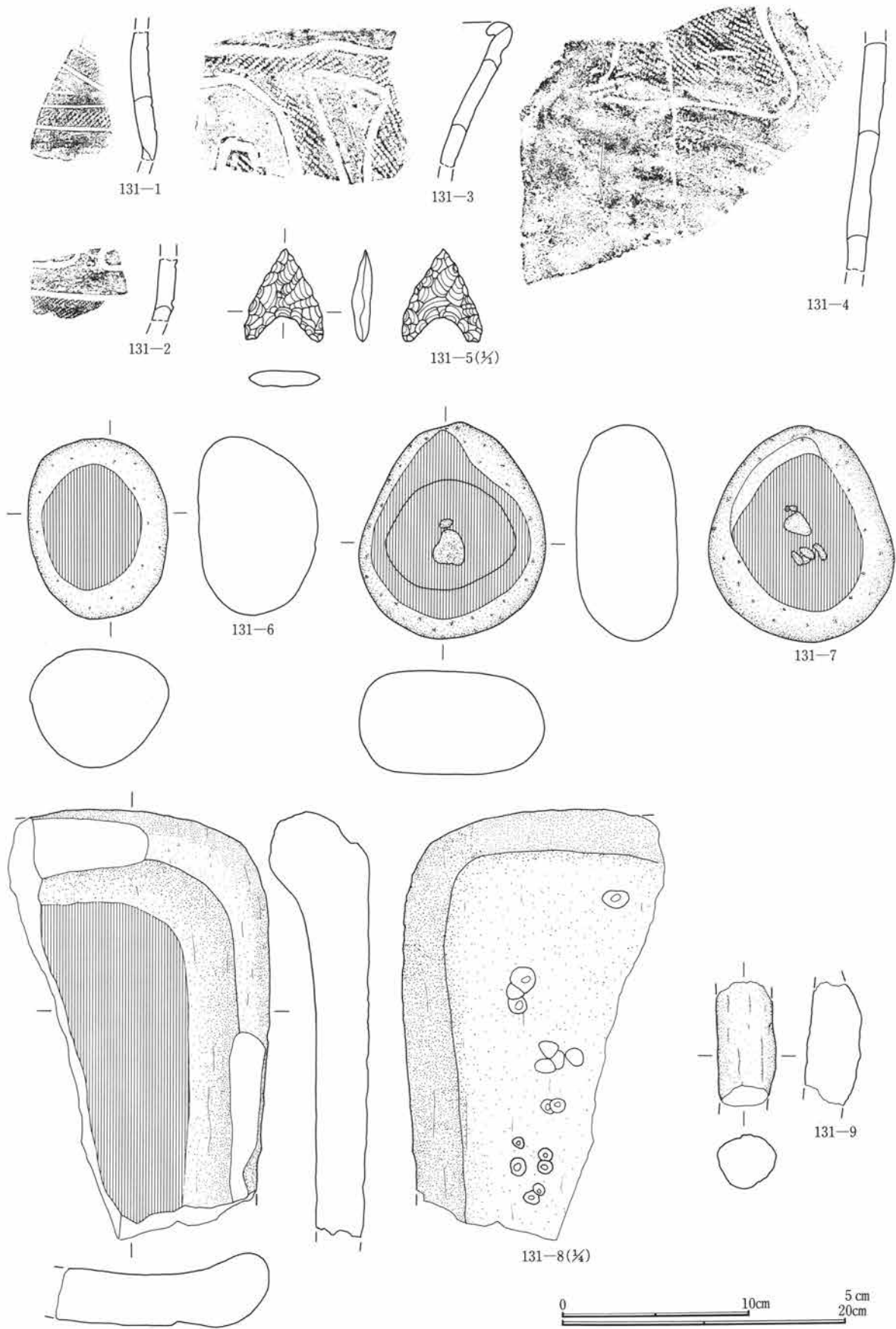
112-9(1/4)

第94图 112号土坑出土遗物

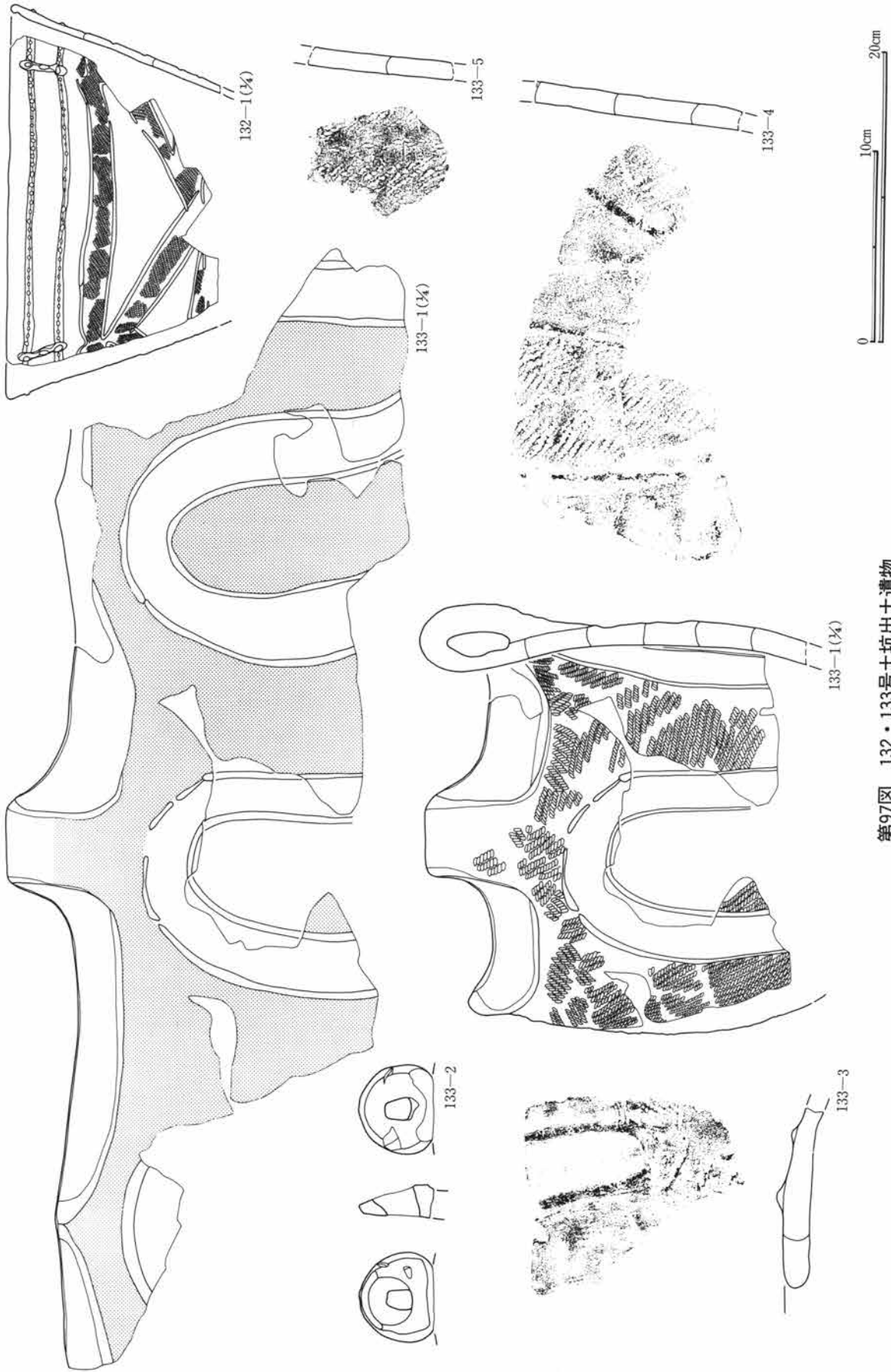


第95図 112・115～118・120・122号土坑出土遺物

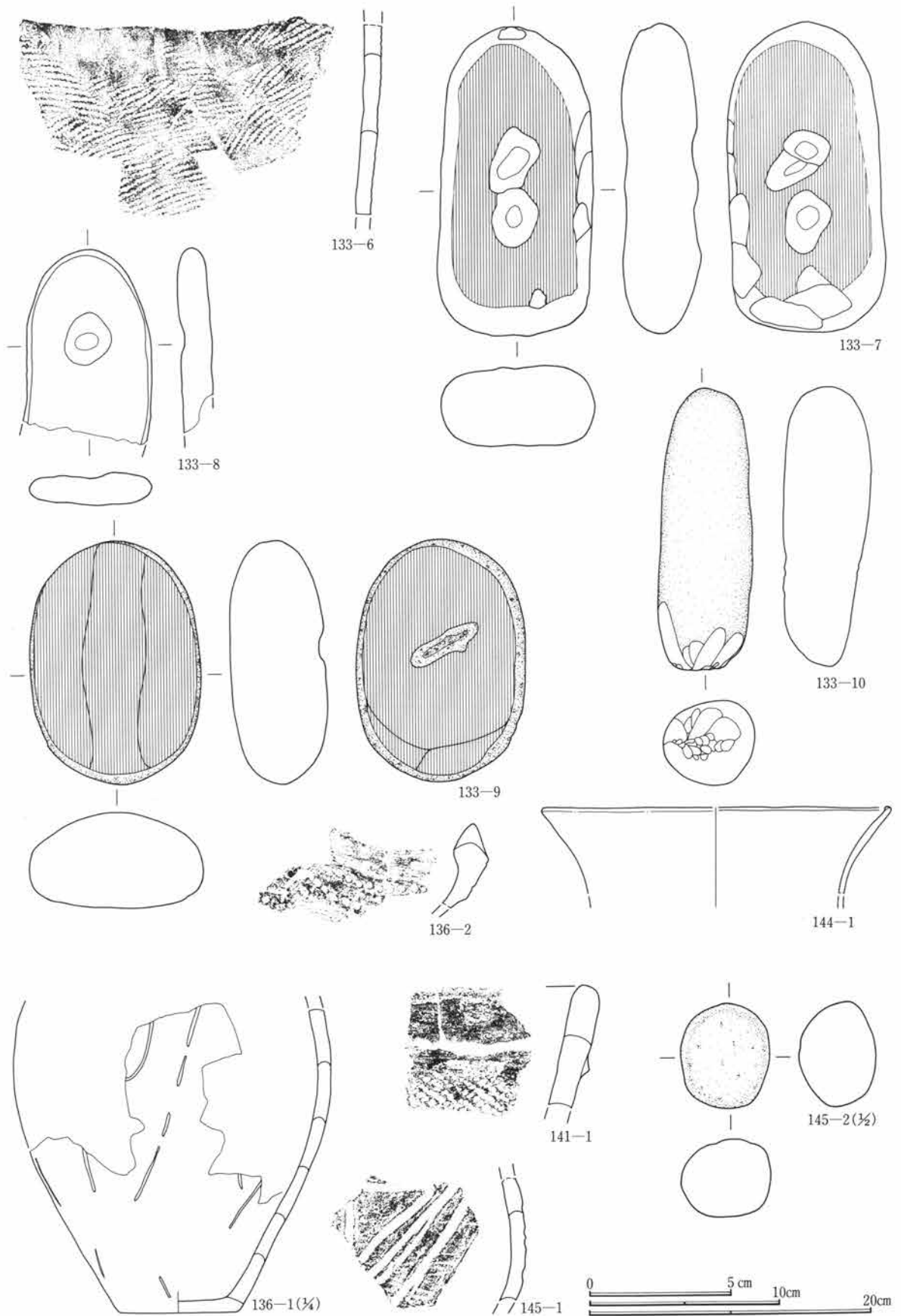
第三章 検出された遺構と出土遺物



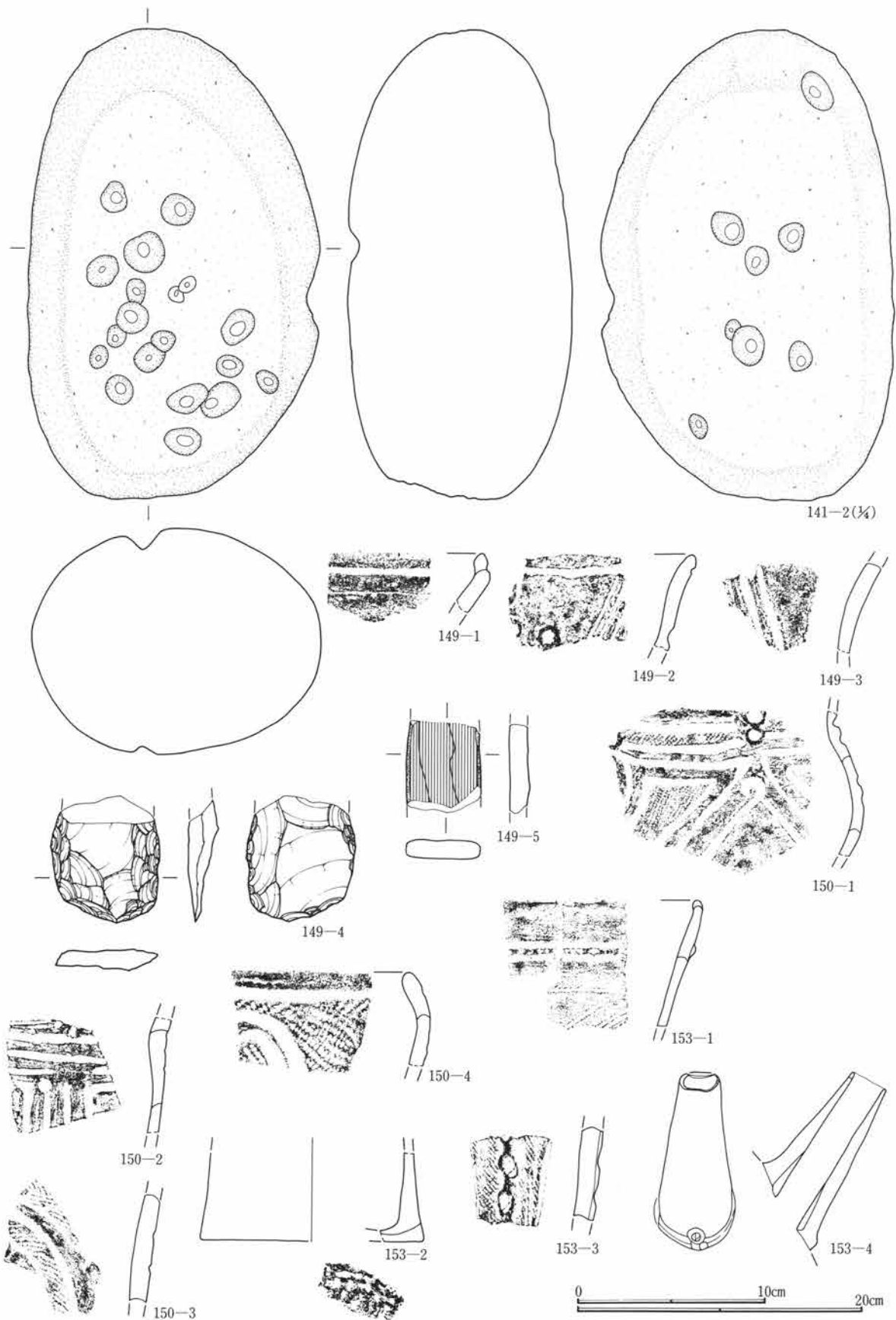
第96図 131号土坑出土遺物



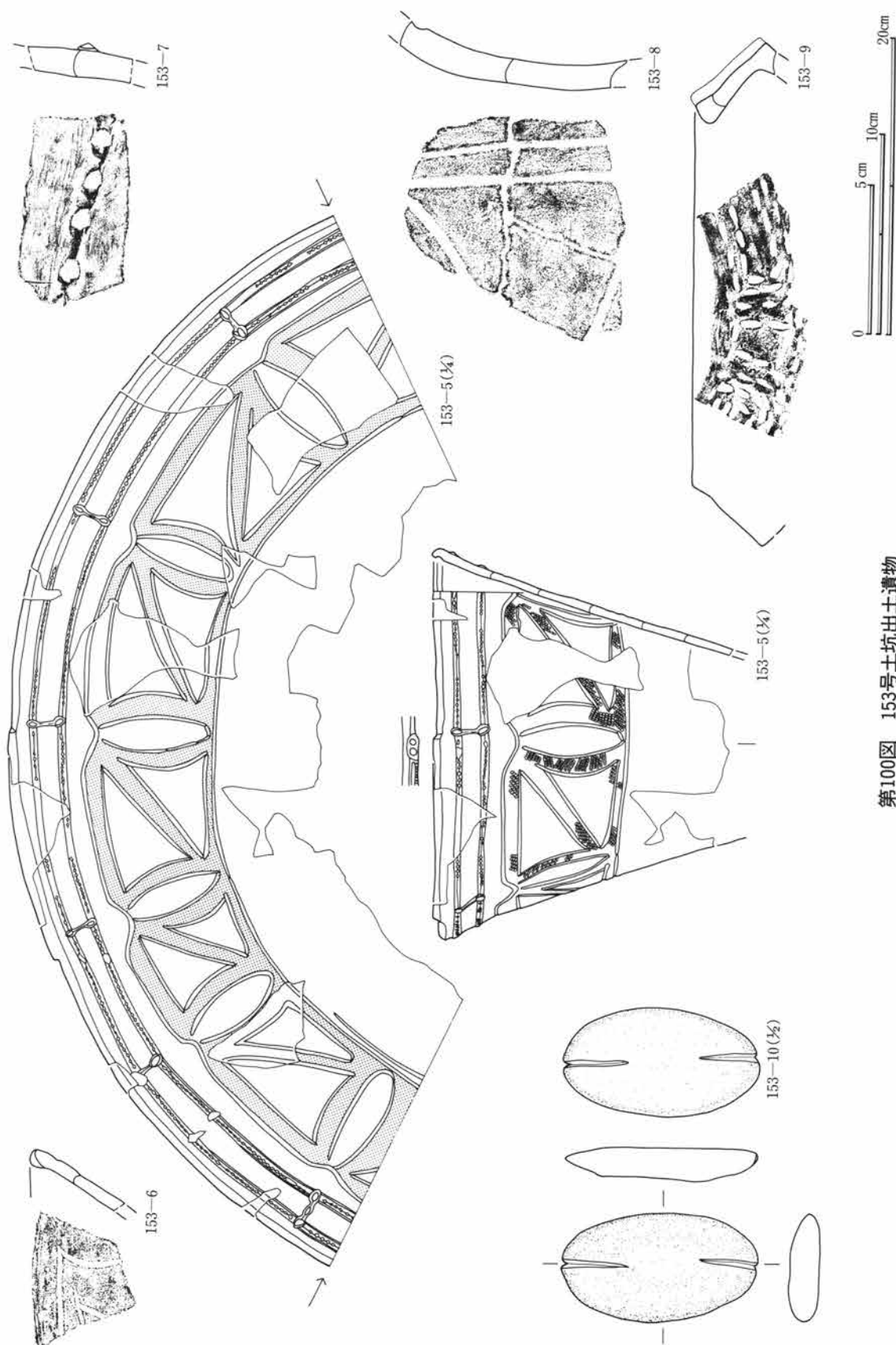
第97図 132・133号土坑出土遺物



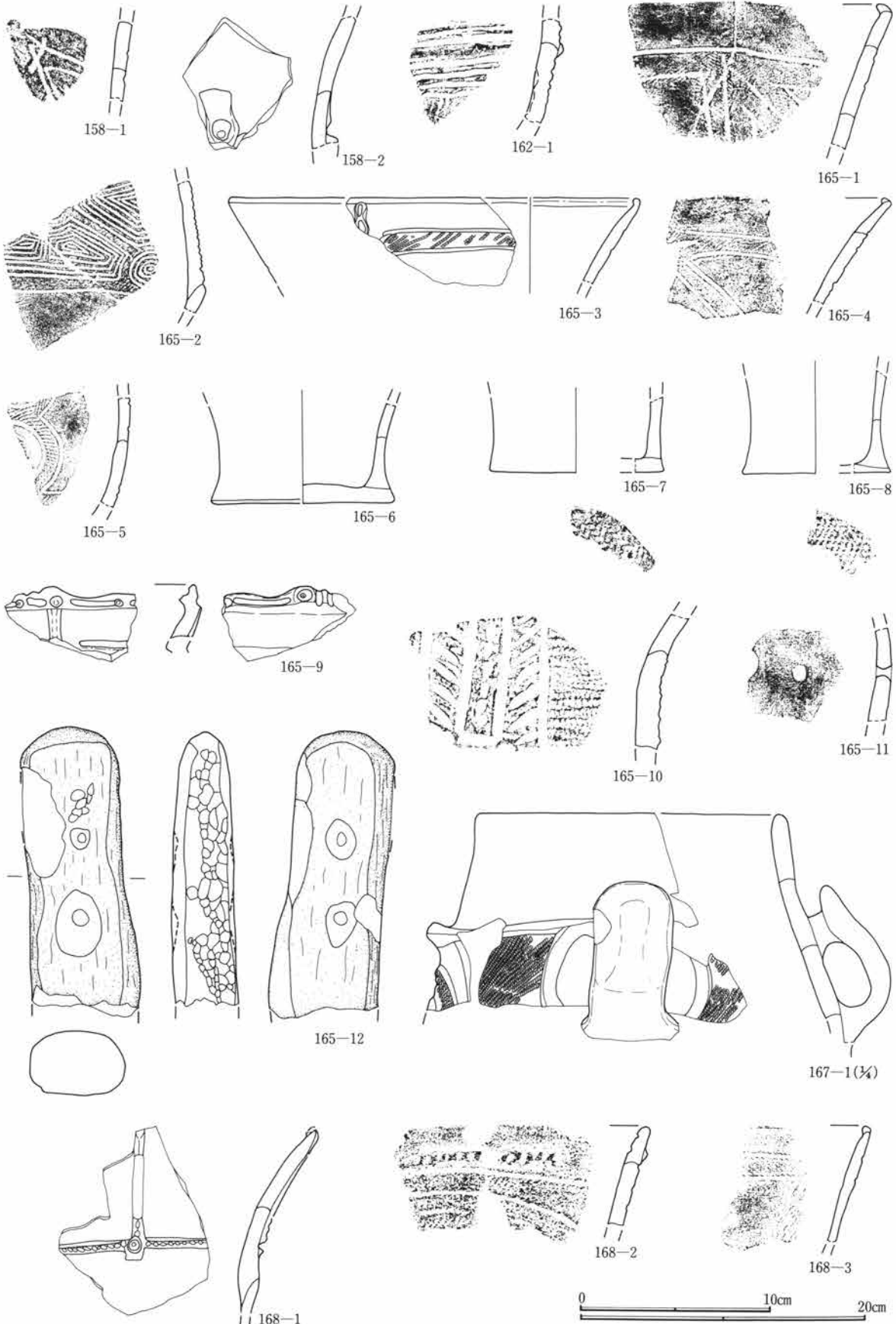
第98図 133・136・141・144・145号土坑出土遺物



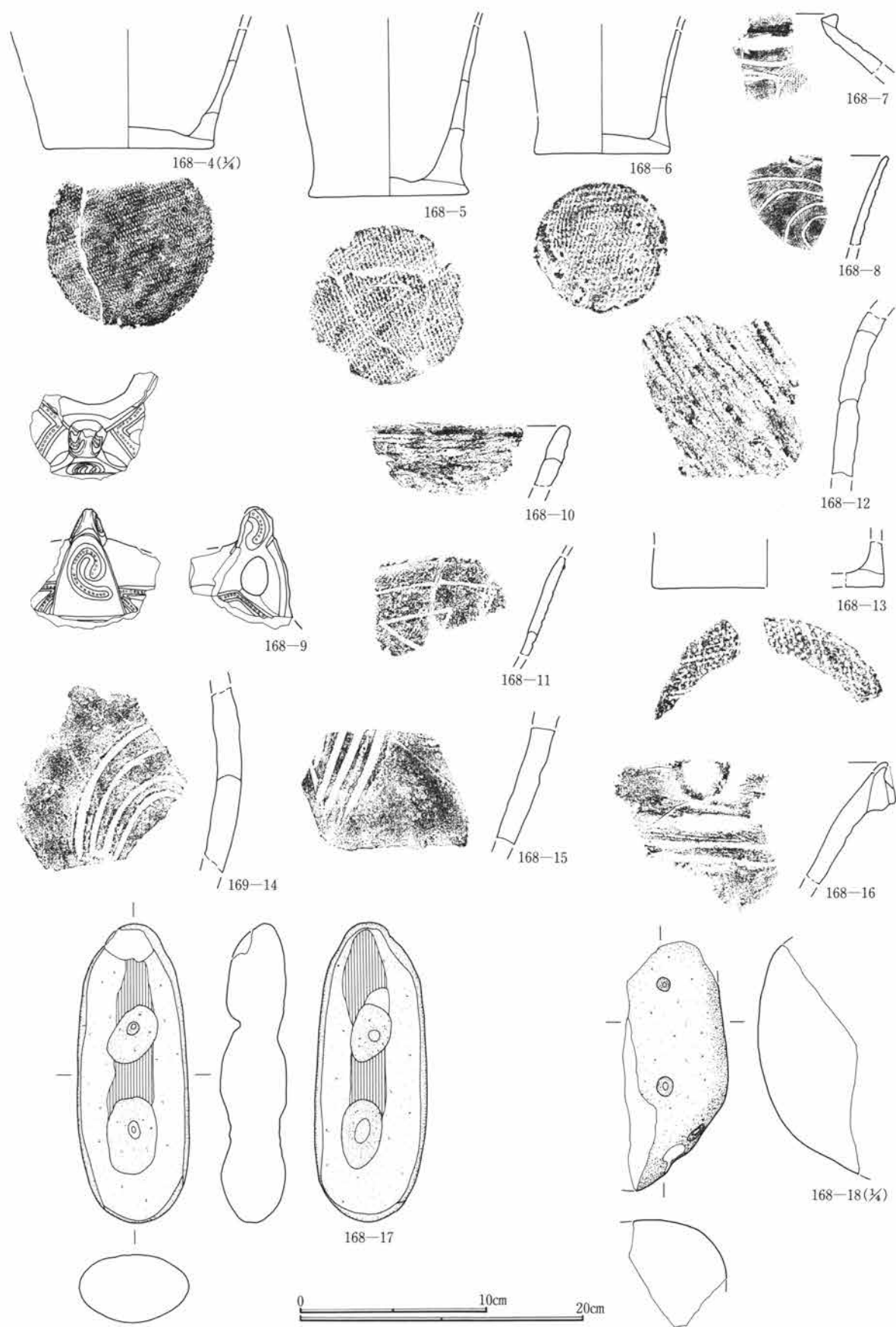
第99図 141・149・150・153号土坑出土遺物



第100図 153号土坑出土遺物



第101図 158・162・165・167・168号土坑出土遺物

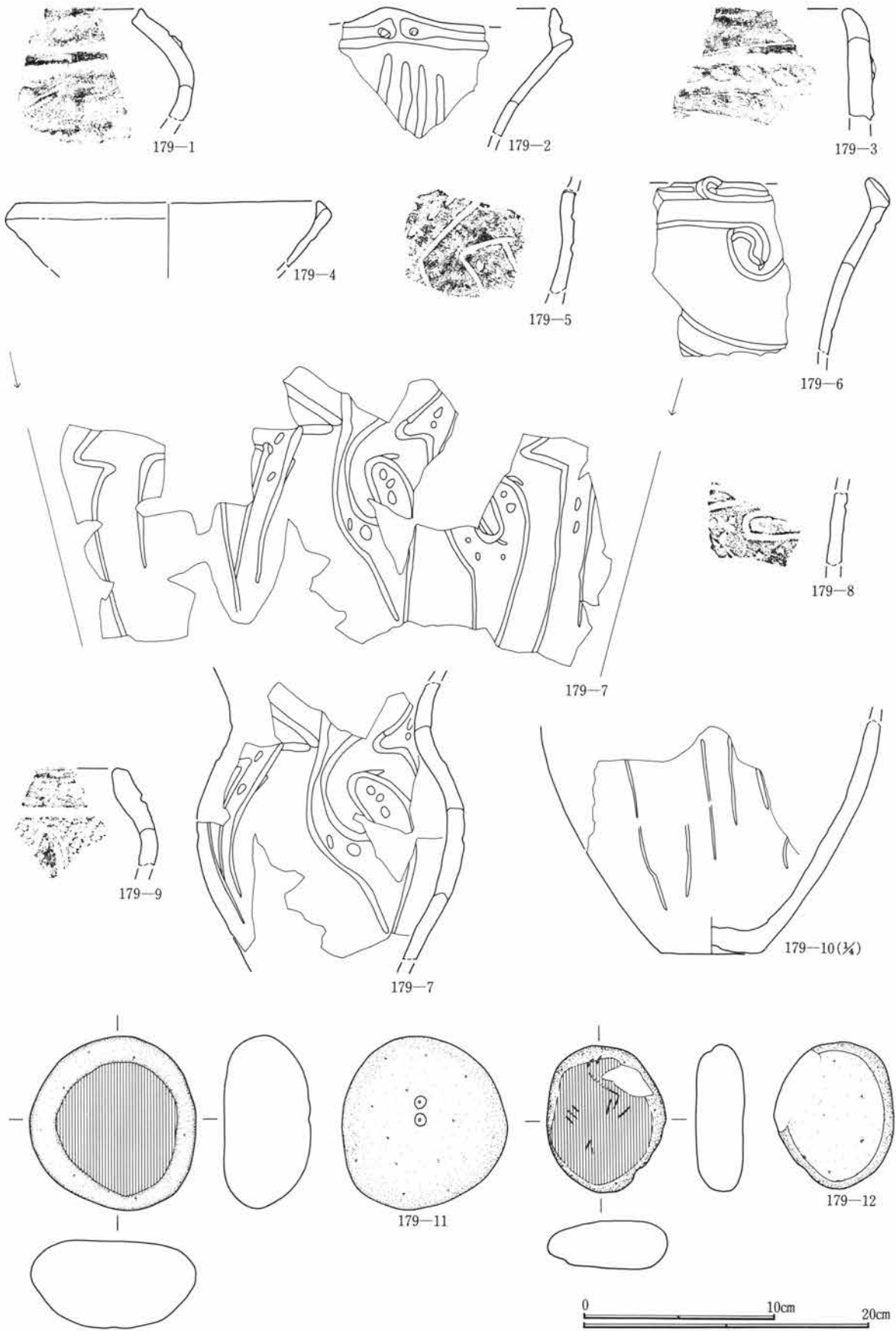


第102図 168号土坑出土遺物

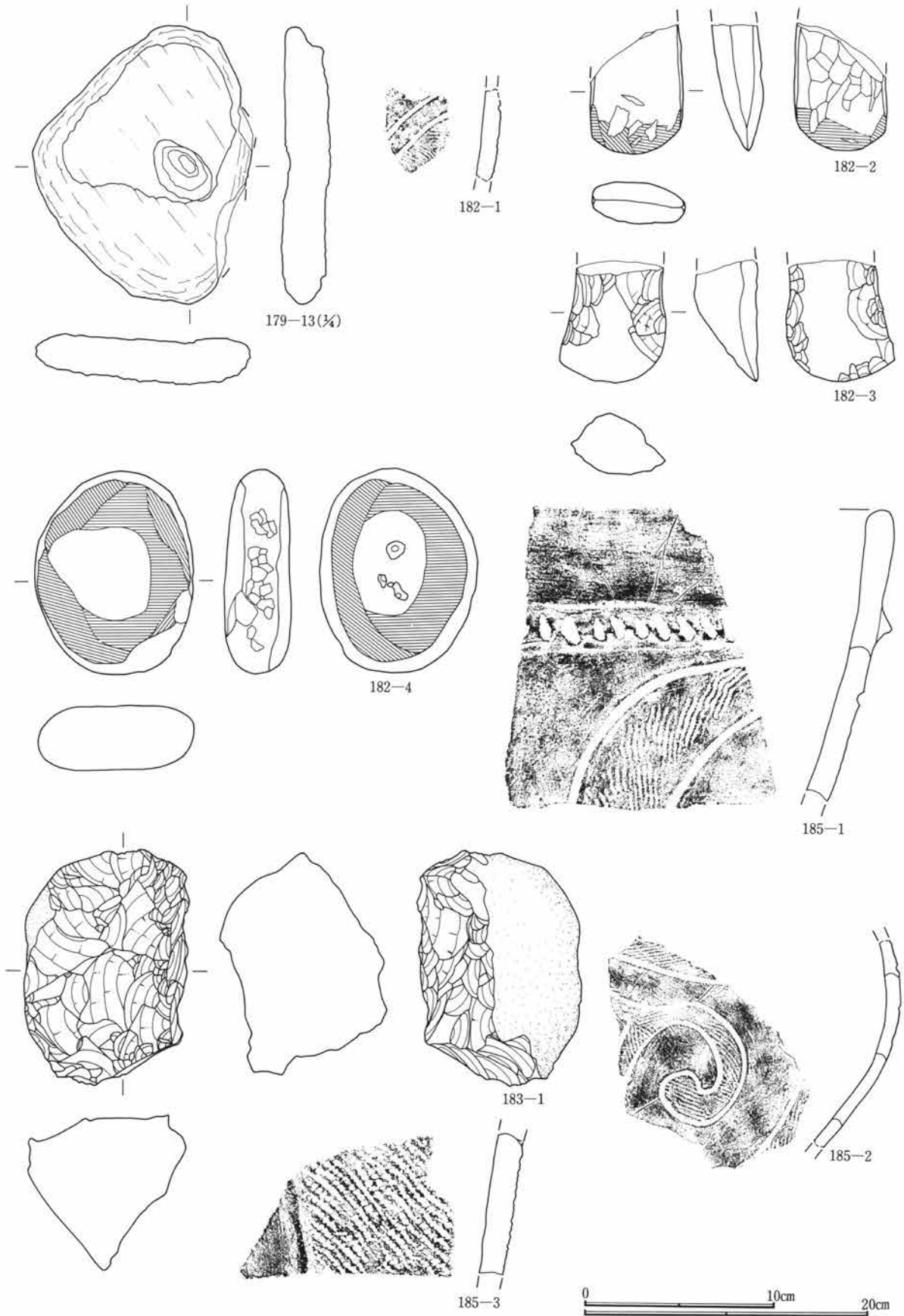


第103図 168・169・173・177・178号土坑出土遺物

第三章 検出された遺構と出土遺物



第104図 179号土坑出土遺物

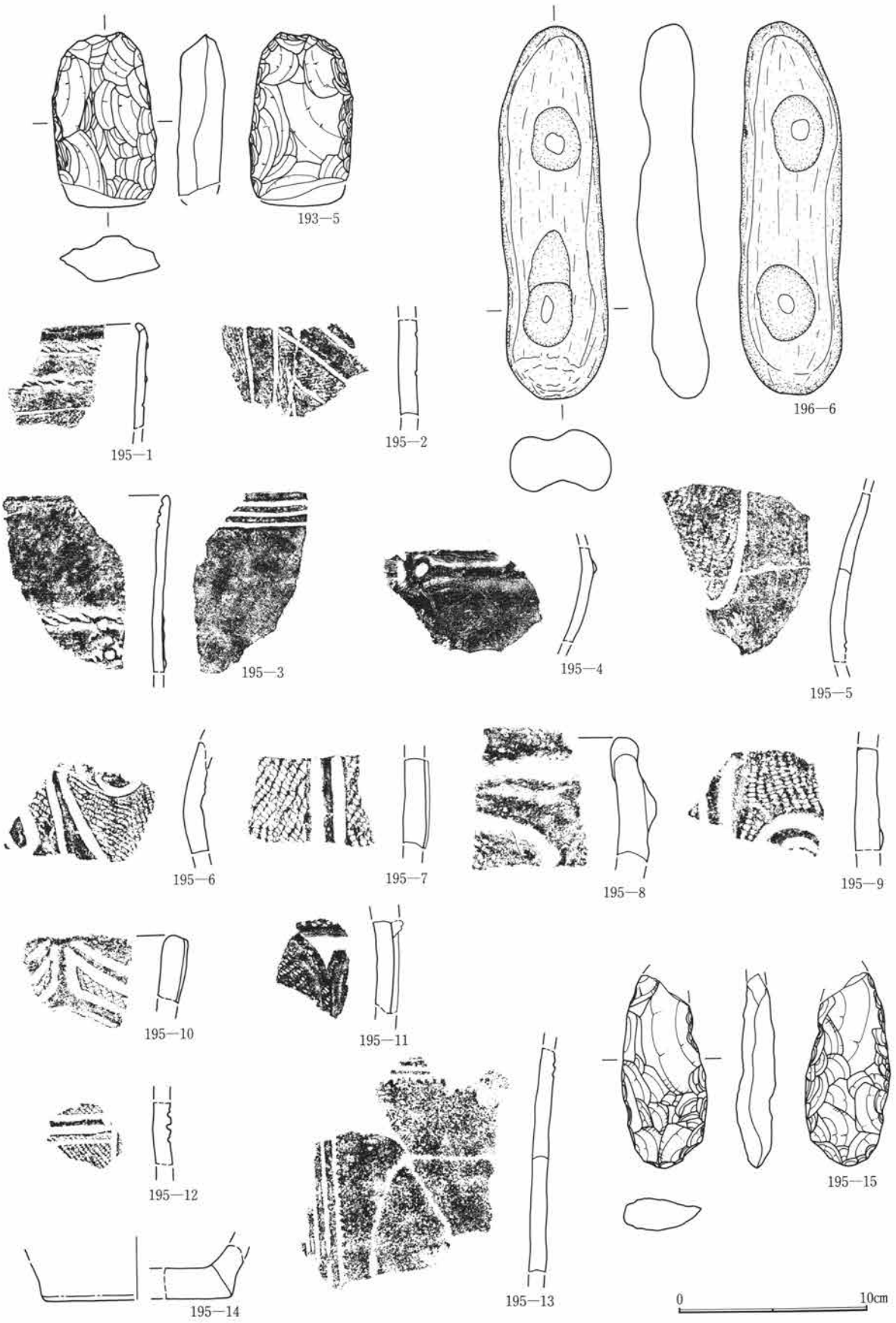


第105図 179・182・183・185号土坑出土遺物

第三章 検出された遺構と出土遺物

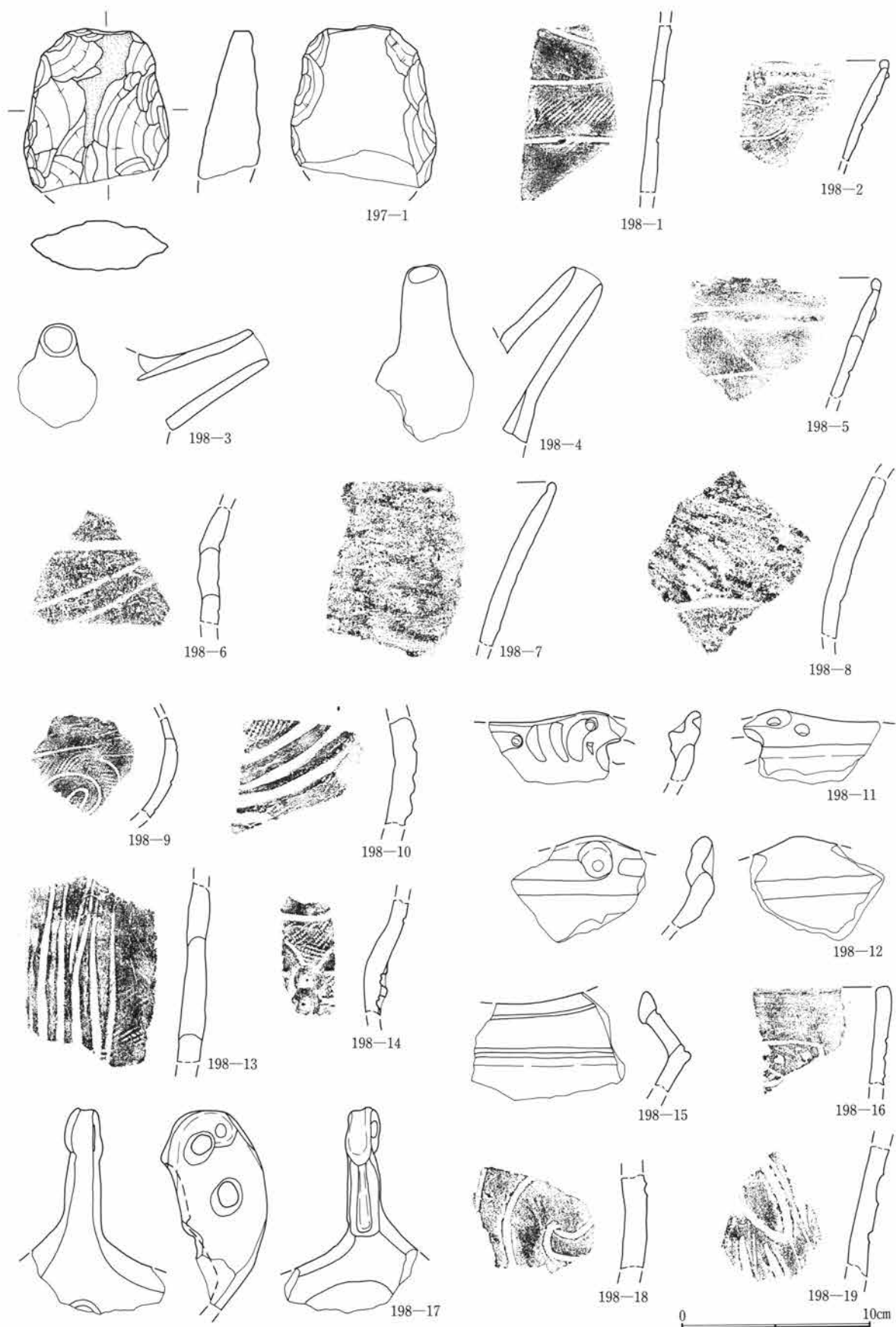


第106図 186・189・191～193号土坑出土遺物

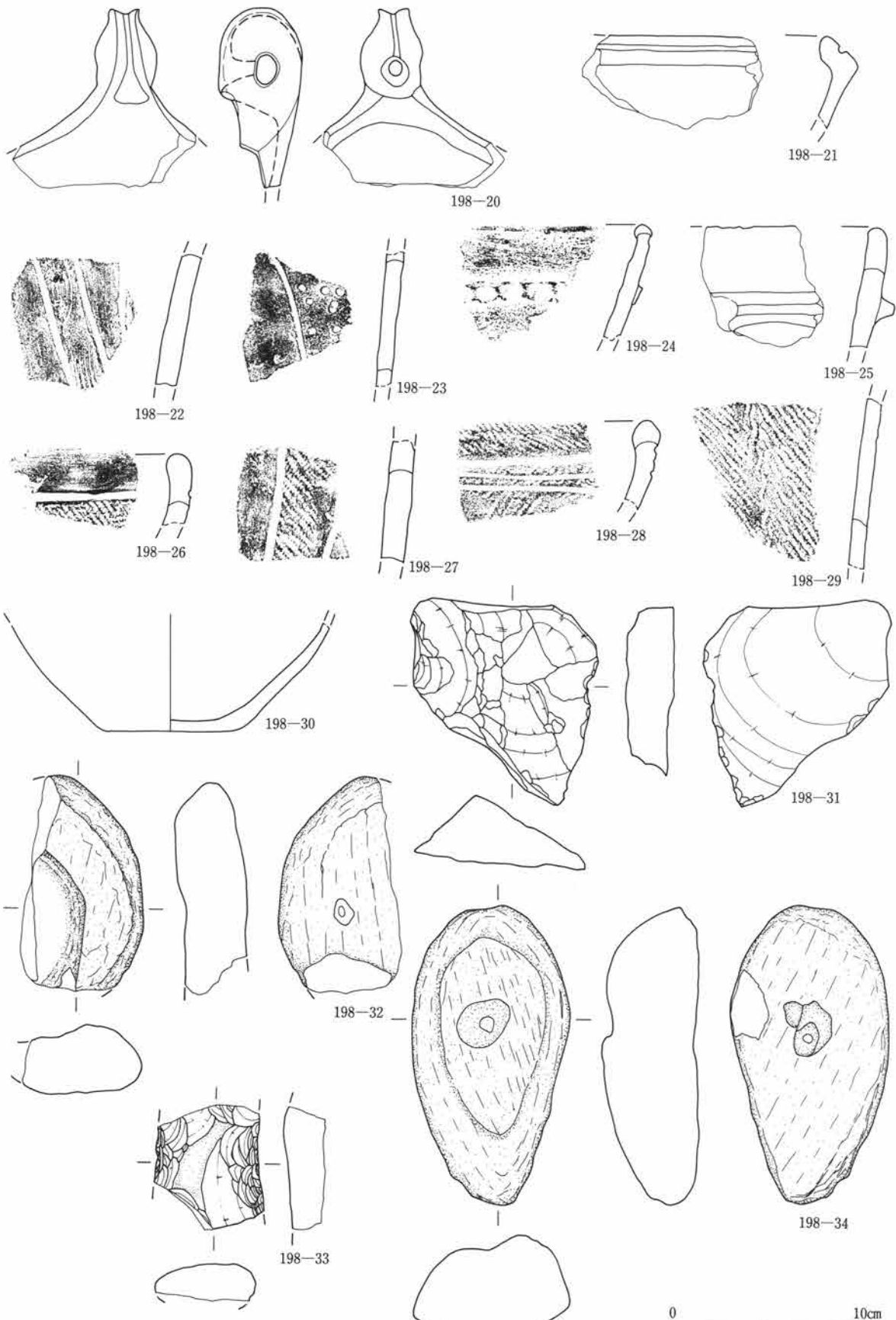


第107図 193・195号土坑出土遺物

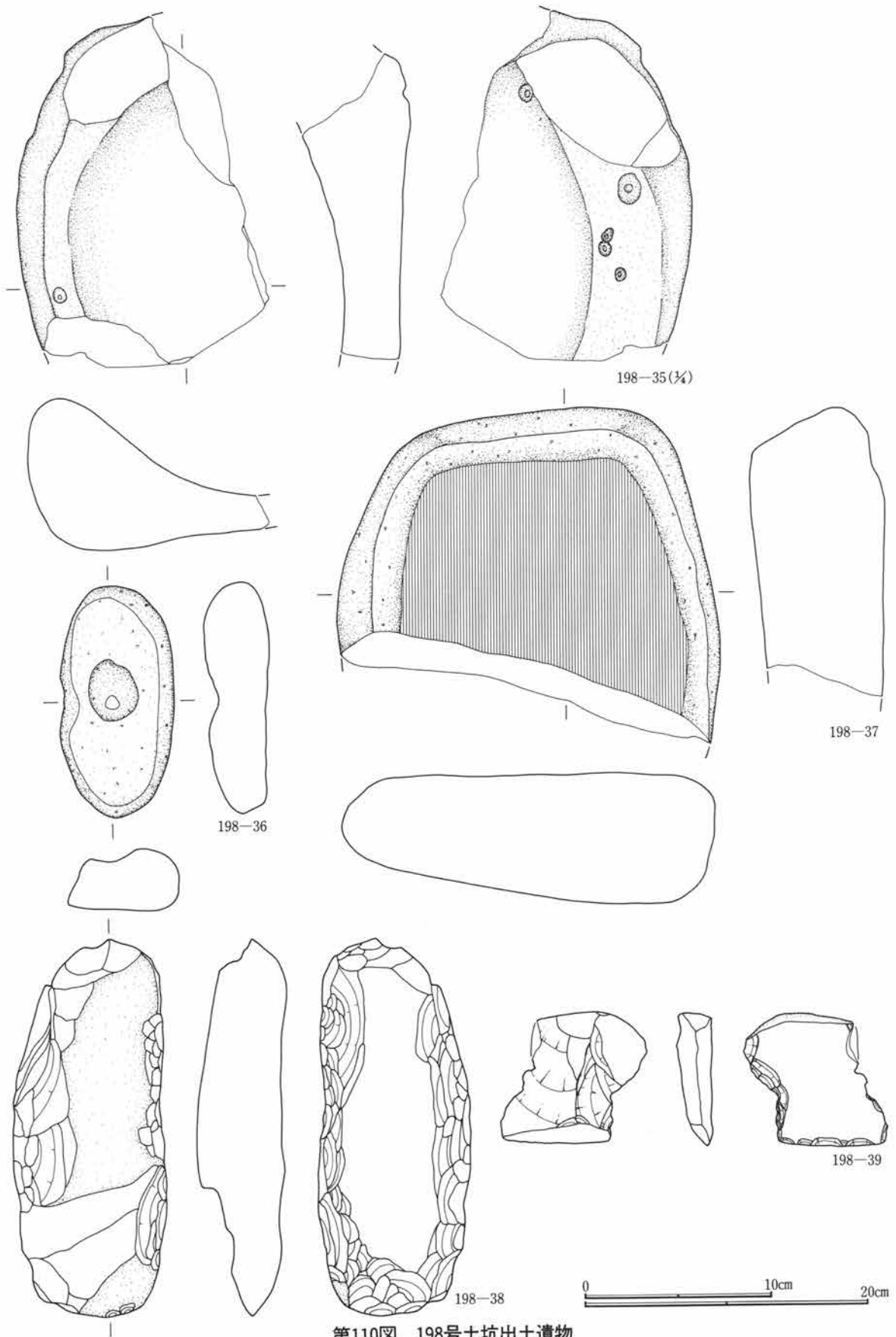
第三章 検出された遺構と出土遺物



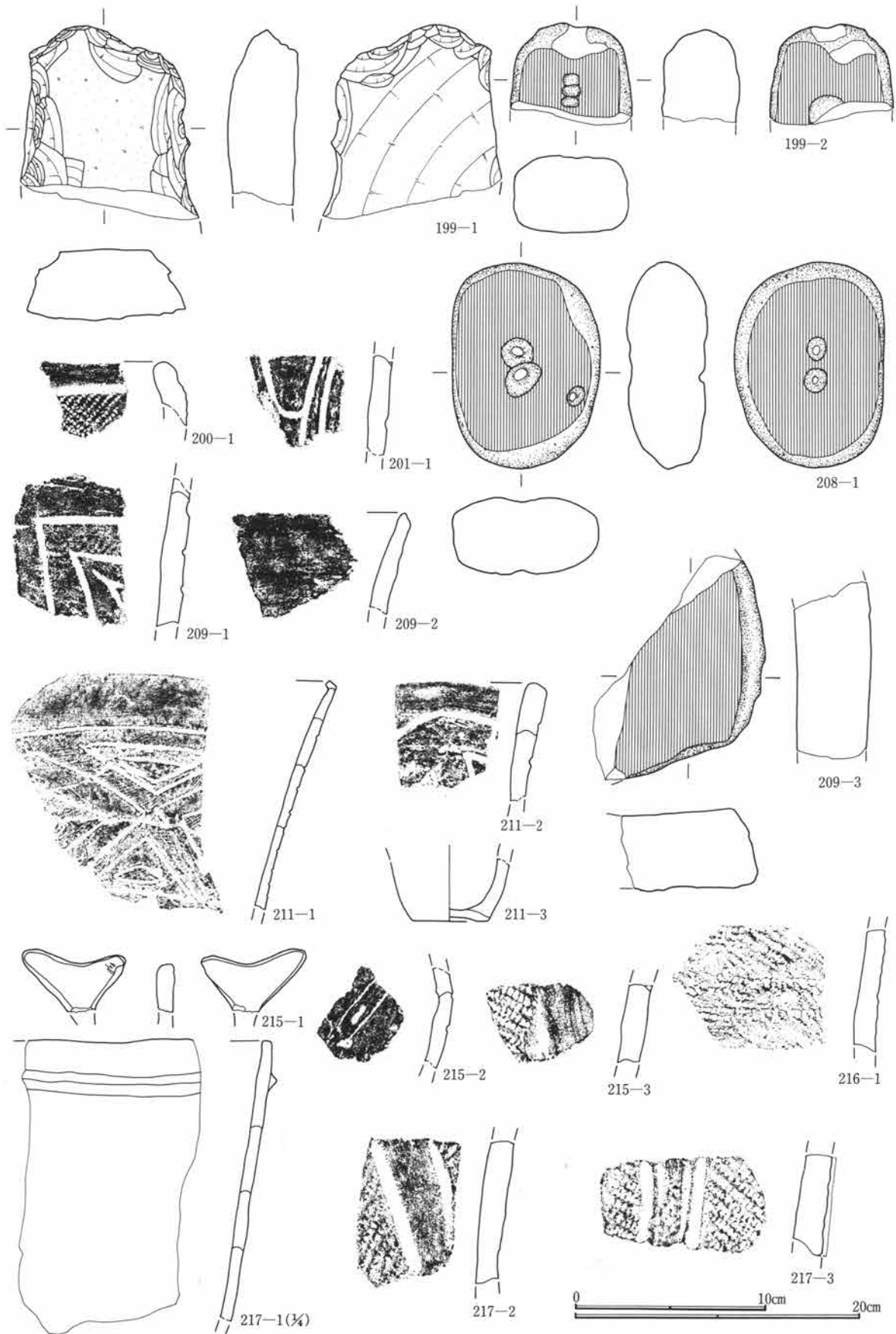
第108図 197・198号土坑出土遺物



第109図 198号土坑出土遺物

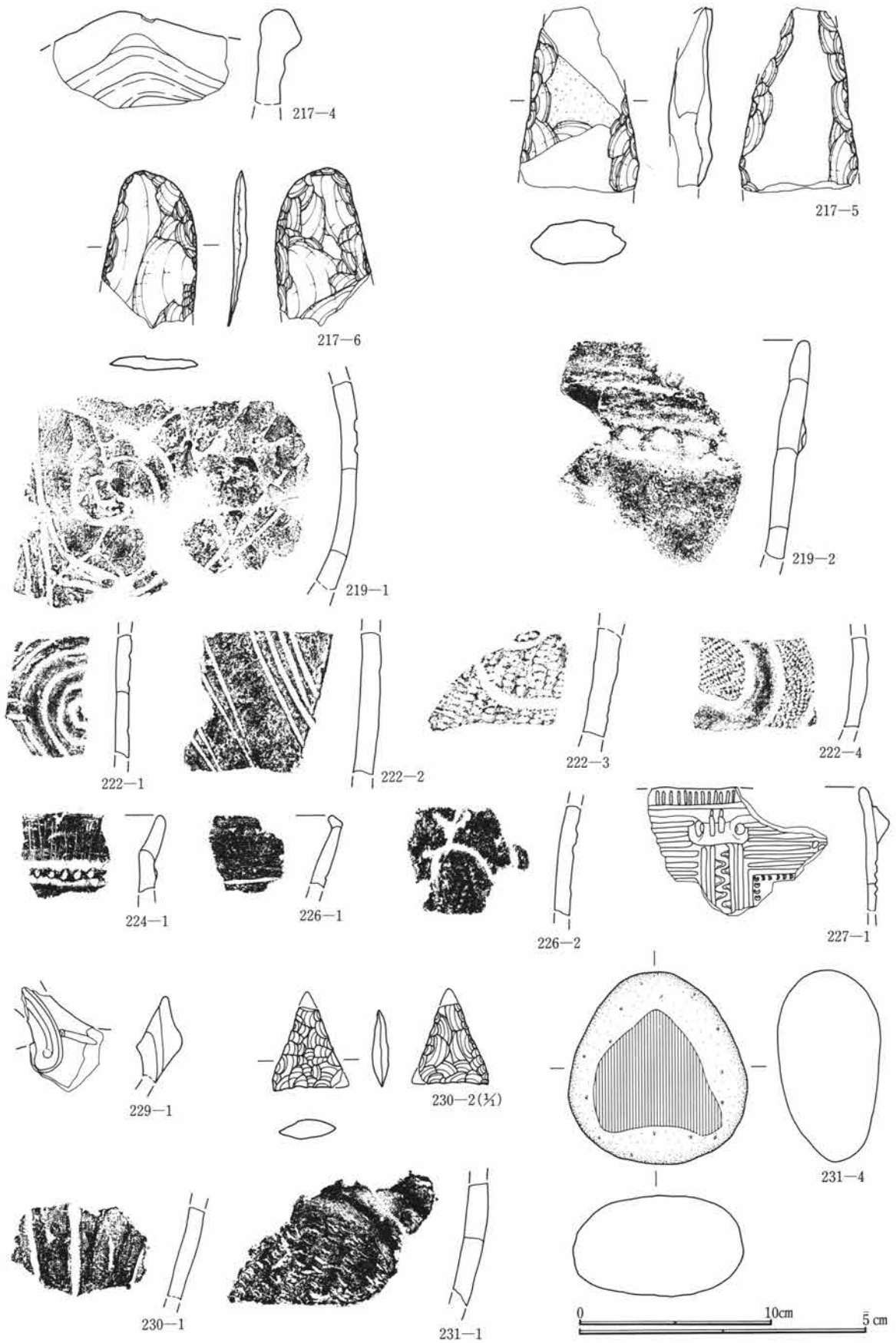


第110図 198号土坑出土遺物

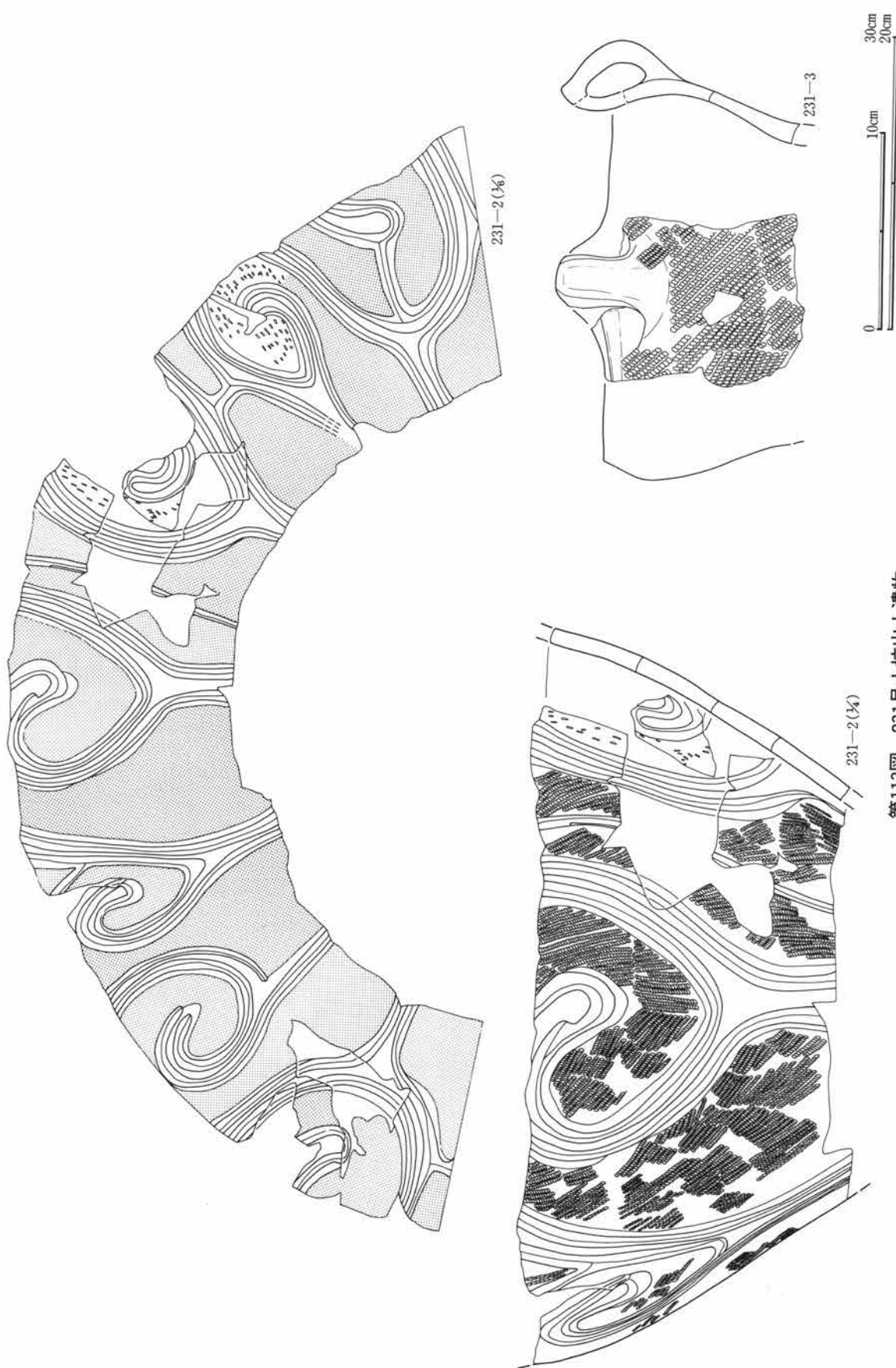


第111図 199~201・208・209・211・215~217号土坑出土遺物

第三章 検出された遺構と出土遺物

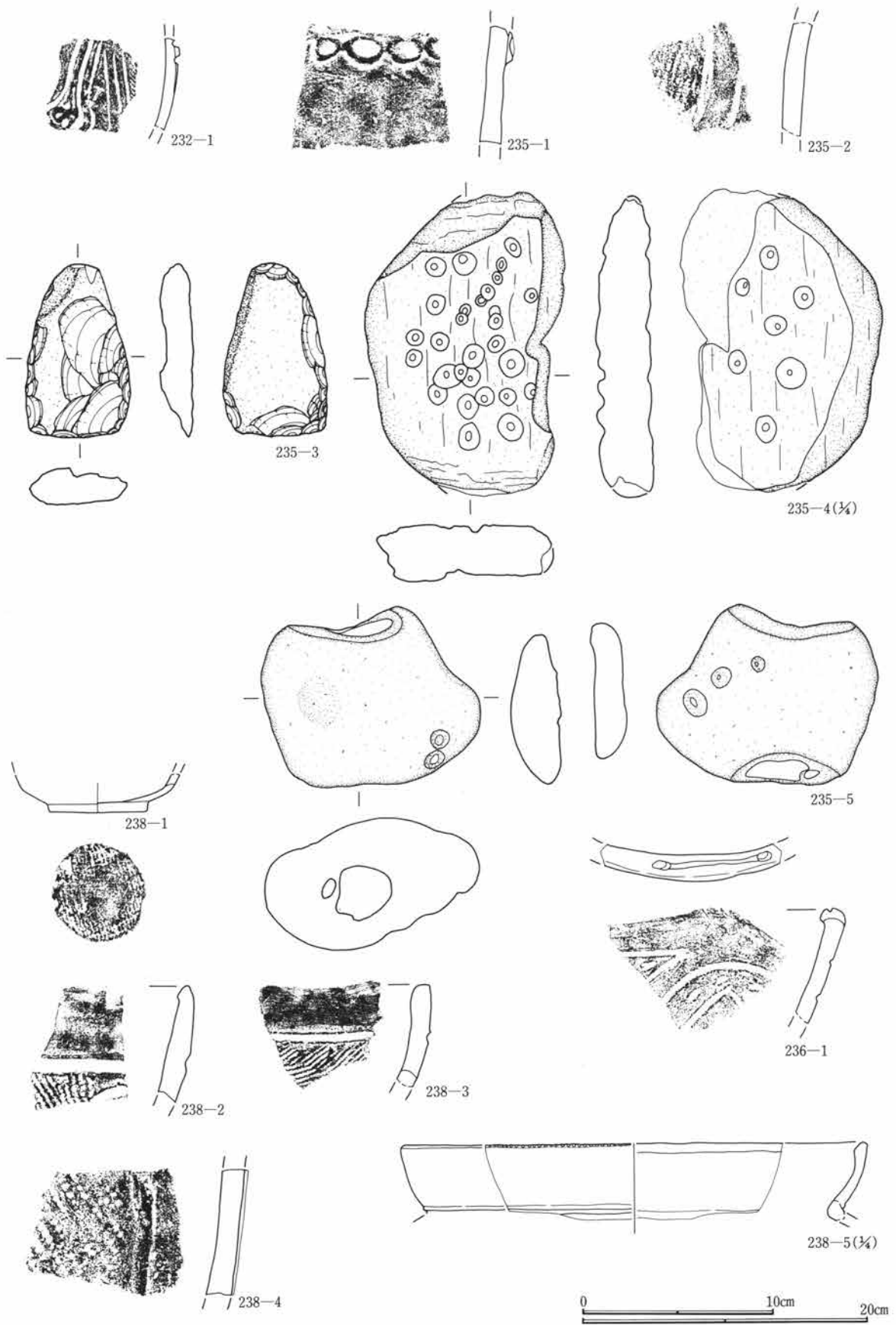


第112図 217・219・222・224・226・227・229・230・231号土坑出土遺物

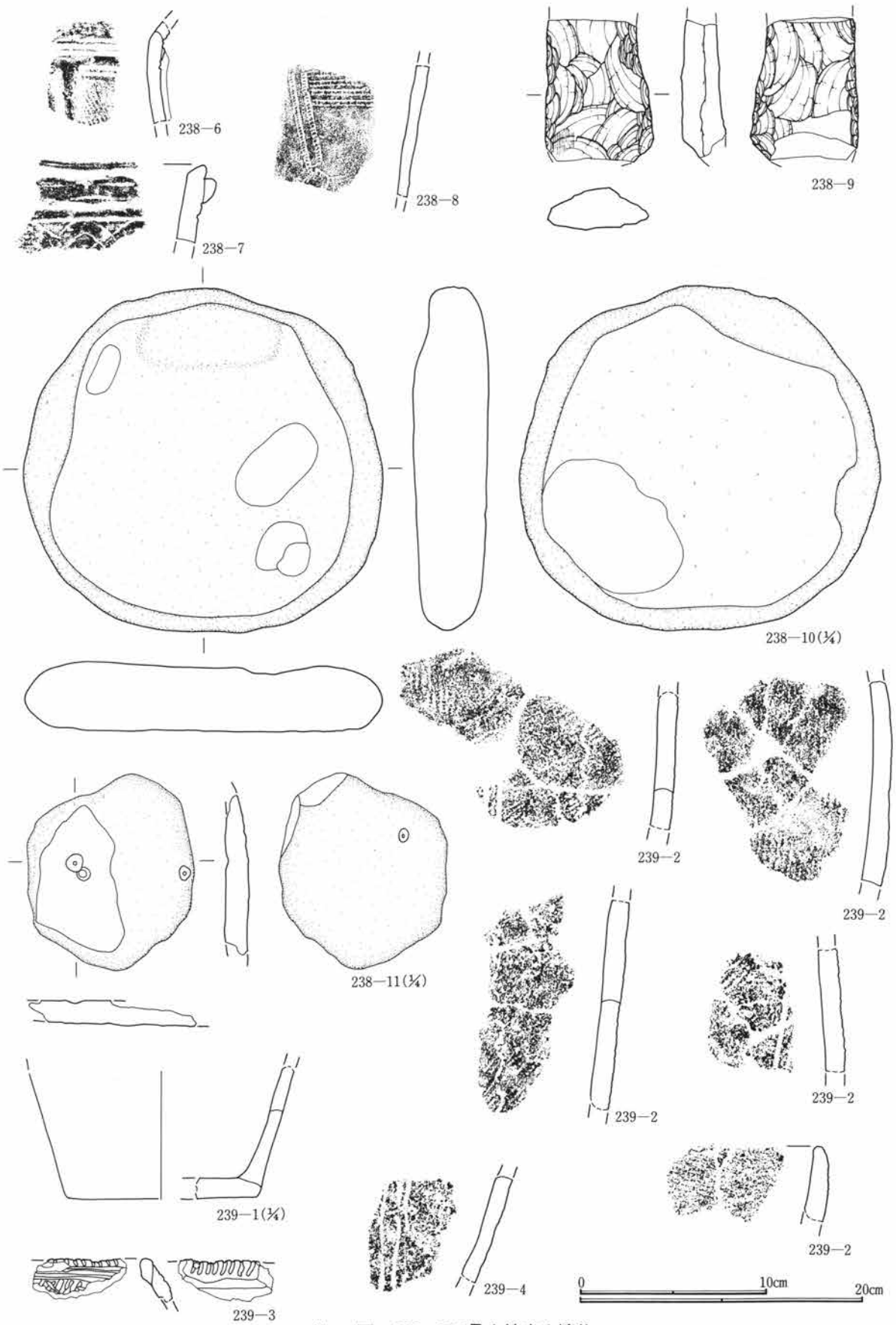


第113図 231号土坑出土遺物

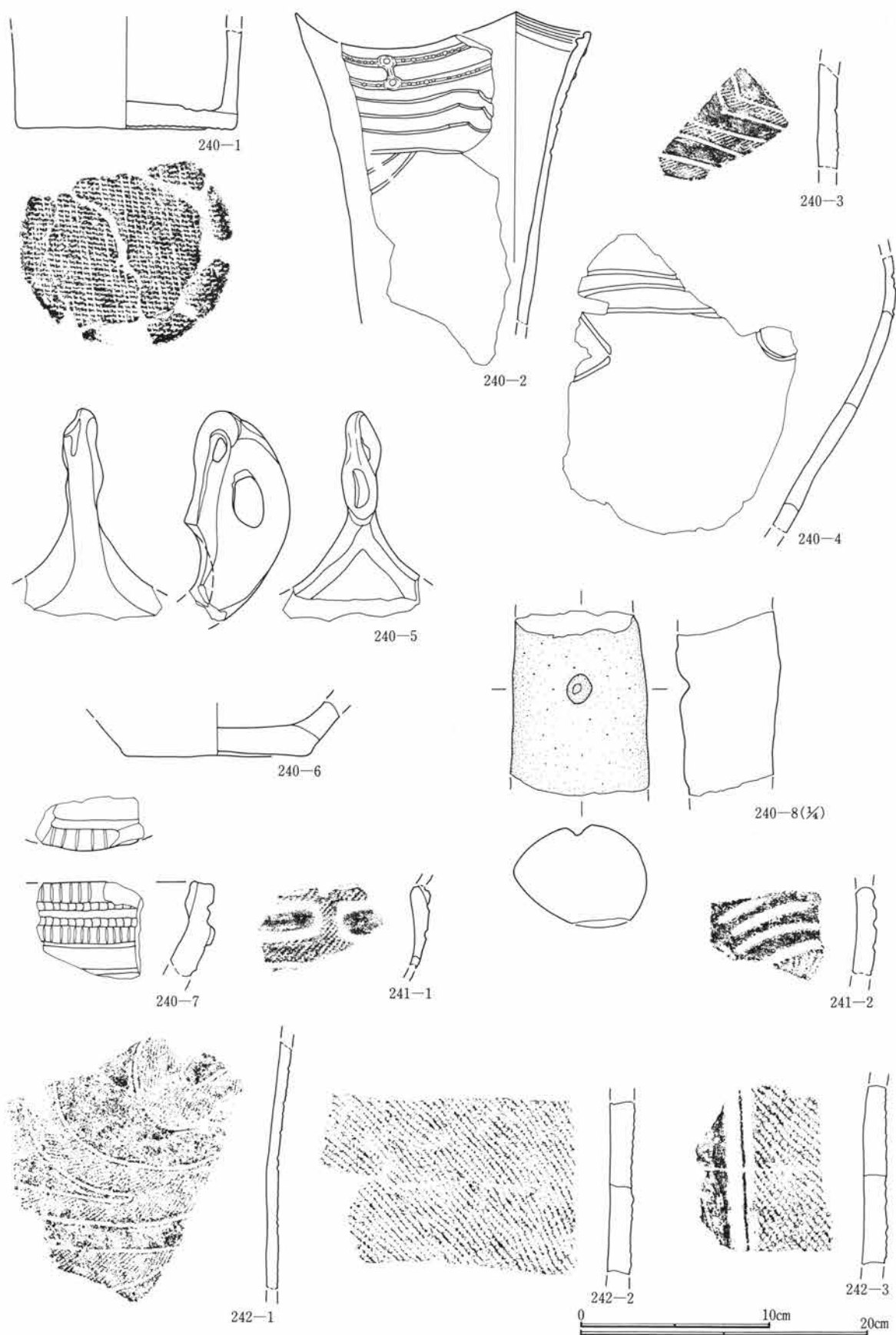
第三章 検出された遺構と出土遺物



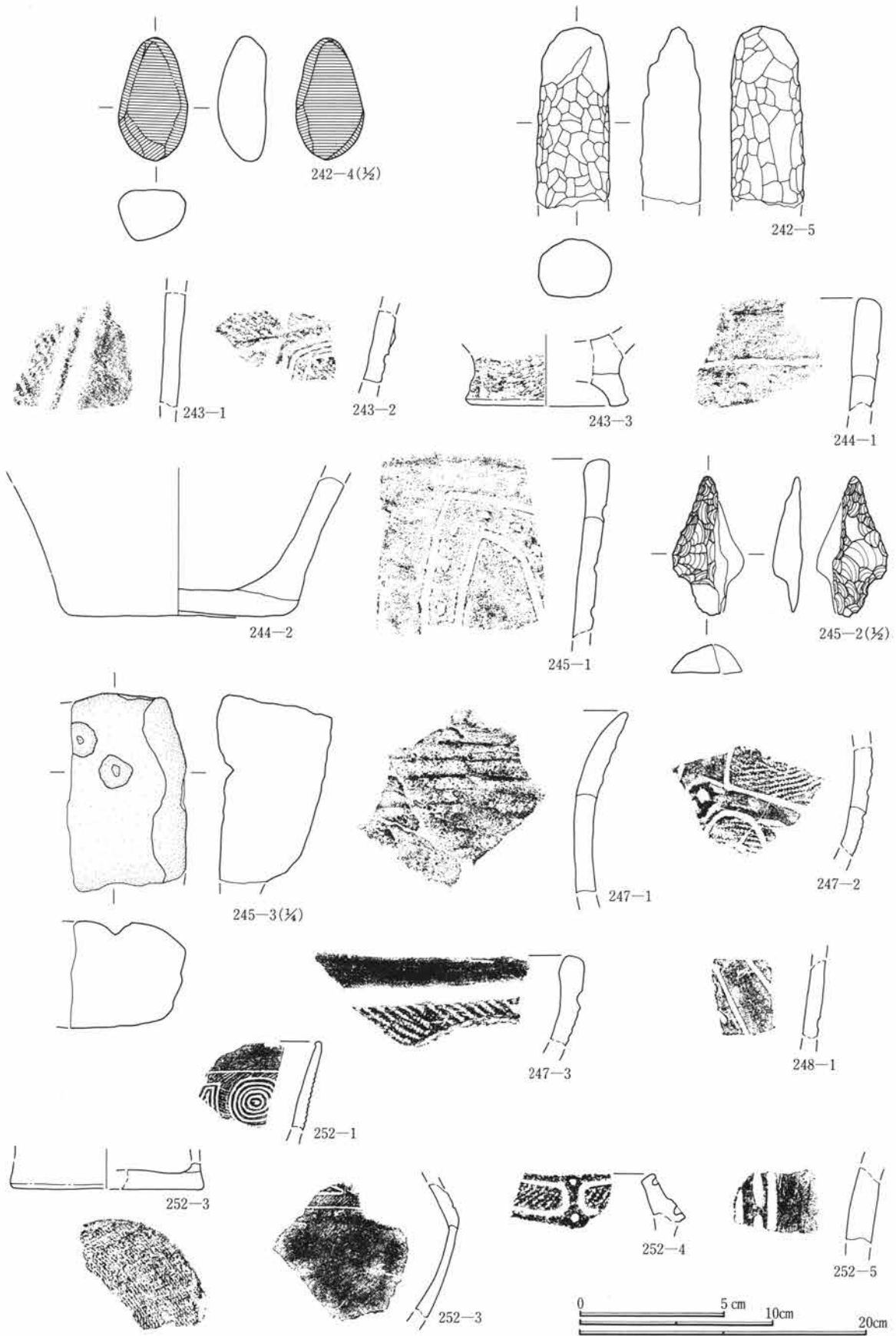
第114図 235・236・238号土坑出土遺物



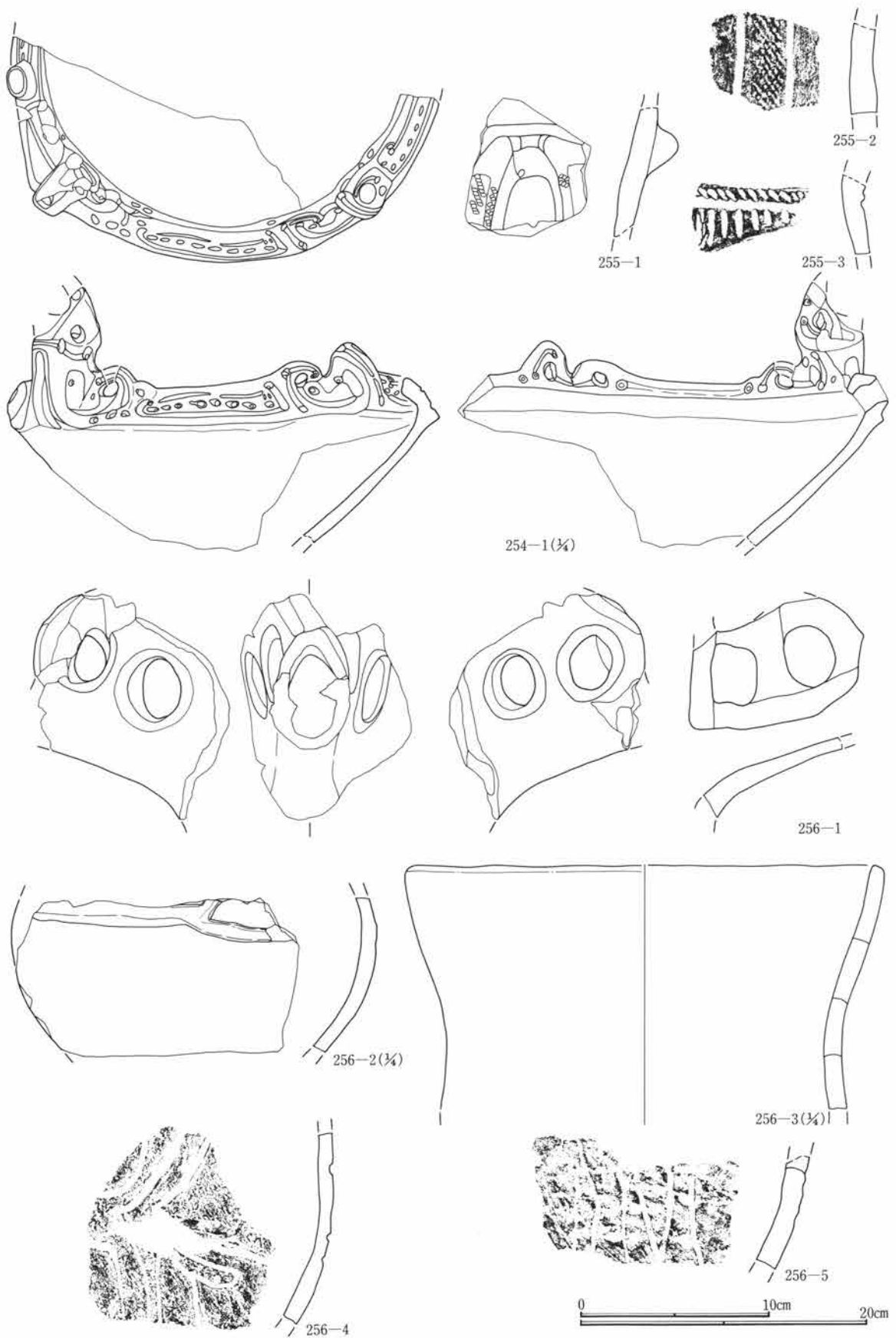
第115図 238・239号土坑出土遺物



第116図 240~242号土坑出土遺物



第117図 242~245・247・252号土坑出土遺物



第118図 254~256号土坑出土遺物

土坑出土土器観察表

No	器種 部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
6 1	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文横回転	VI-1	
6 2	蓋	①褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	径(8.2cm) 1/2残存 内外面研磨	透孔あり	不明	
13 1	深鉢 口～底	①灰黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口(9.4cm) 底(6.0cm) 高(11.9cm) 内面研磨	沈線区画内にL R縄文 口縁部刻 み 内面に平行沈線 底部網代痕	IX-1	
13 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚7～18mm 内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文上に刻み 波状口縁突起に円孔・刻み	IX	
13 3	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚4～7mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み 沈線	IX-2	
13 4	深鉢 把手部	①灰黄褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6～14mm 内外面研磨か	把手に透孔・横方向の透孔・刺突 文・沈線 沈線	VII-2	
13 5	深鉢 口縁部	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚19mm 内外面研磨	隆帯文 沈線	VI-2	
13 6	深鉢 口縁部	①灰褐 ②にぶい褐 ③良好 ④粗	器厚9～15mm 内面研磨	波状口縁に2つの小突起 R L縄 文 沈線	II-1	
15 1	深鉢 把手部	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚7～30mm 内外面研磨	外面隆帯文・円形貼付文に円孔・ L R縄文 内面隆帯文・円孔	不明	
19 1	深鉢 口～底	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口(10.0cm) 底(5.0cm) 内面研磨	橋状把手欠損 隆帯文区画内にL R縄文	VI-3	
21 1	深鉢 口～胴	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口径(36.3cm) 内面篋 削り・ナデ後研磨	沈線区画内にL R縄文縦回転	V-3	
23 1	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8～9mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文	VIII-1	
23 2	蓋	①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	完形 径(6.0cm) 内外面ナデ	4つの穿孔あり 内面外周に刻み 1カ所		
24 1	深鉢 口縁部	①暗褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚3～4mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み	IX	
24 2	深鉢 胴部	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚6～7mm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文横回転	IX-1	
24 3	深鉢 口縁部	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚7～13mm 摩擦により調整不明	内面に沈線による渦巻文	VII-2	
24 4	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚15～18mm 内外面研磨	沈線	VII-2	
24 5	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚13mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文・刺突文	VIII-1	
24 6	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8～9mm 内外面研磨	沈線区画内に刺突文	VII-1	
25 1	深鉢 口～底	①暗褐 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	口(13.8cm) 底(6.8cm) 高(16.7cm) 内外面研磨 底部3/4欠 網代痕あり	4単位の8字状貼付文 隆帯文上 に刻み 沈線区画内にL R磨消縄 文 内面口縁下に沈線	IX-1	
28 1	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚6mm 内面研磨 外面篋削り後研磨	沈線	V-3	
28 2	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚12～19mm 内面研磨	隆帯文 L r無節縄文	V-1	
29 1	鉢 口縁部	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④細 砂粒・雲母を少量含む	器厚4～6mm 内外面研磨	内面口縁部刻み 隆帯文 沈線	IX-2	
29 2	鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚8～15mm 内面研磨か	沈線 円形竹管による刺突文	VII-1	
31 1	深鉢 口～胴	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口(21.4cm) 内外面研磨	口縁部突起内面円孔・円形竹管に よる刺突文 外面円孔 沈線	VII-2	
31 2	深鉢 口縁部	1と同一個体				
31 3	深鉢 胴部	①褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9～10mm 内面研磨	円形または8の字状貼付文 沈線	VII-2	
31 4	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚10～12mm 内面研磨か	隆帯文上に刻み 沈線	VII-4	
31 5	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9～11mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文縦回転	VI-1	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調	量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
31 6	注口土器	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11mm 内面ナデカ		注口土器注口部	VII-6	
31 7	深鉢口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚12~17mm 内面研磨		沈線区画内にL R縄文横回転	VI-1	
31 8	深鉢胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ②不良 ④粗 砂粒を含む	器厚15~17mm 内面研磨か		隆帯文区画内にL R縄文縦回転	V-1	
31 9	深鉢胴部	①にぶい赤褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒(石英粒)・金雲母を含む	器厚8mm 内外面研磨		連続刺突文 沈線	II-1	
31 10	深鉢口縁部	①明褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚7mm 内面研磨		口縁頂部・胴部外面にR L縄文	II-4	
34 1	深鉢胴部	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7mm 内外面研磨		沈線区画内にL R磨消縄文	IX-1	
34 2	深鉢胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚8~9mm 内外面研磨		沈線区画内に刺突文	VII-1	
34 3	深鉢口縁部	①褐 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒・パミスを含む	器厚11mm 内外面研磨		沈線区画内にL R縄文	VI-1	
34 4	深鉢胴部	①橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~12mm 内外面研磨		沈線区画内にR L縄文	V-3	
34 5	深鉢口縁部	①暗赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚13mm 内面研磨		沈線 隆帯文 R L縄文 内面口縁部に段あり	不明	
36 1	深鉢胴部	①明黄褐 ②橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~8mm 内外面研磨		隆帯文	VIII-5	
36 2	深鉢胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~12mm 内面研磨か		沈線 L R縄文	VIII-1	
36 3	深鉢胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~10mm 内面研磨		沈線区画内にR L縄文	VIII-1	
36 4	浅鉢口縁部	①橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~17mm 内外面研磨		把手欠損 円形貼付文に円孔	VII-5	
36 5	深鉢胴部	①明褐 ②明赤褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚11~12mm 内外面研磨		沈線	VII-2	
36 6	深鉢口縁部	①橙 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚7~11mm 内外面研磨		口縁部に円形竹管による連続刺突文 沈線	VII-2	
36 7	深鉢口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚9~15mm 内外面研磨		沈線区画内にL R縄文横回転	VI-1	
36 8	深鉢口縁部	①黒褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨		L R縄文	VI-4	
36 9	深鉢口縁部	①褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚8~12mm 内面研磨		沈線区画内にL r無節縄文	V-3	10と同一個体か
36 10	深鉢胴部	①黄褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚9~12mm 内面研磨		隆帯文・沈線区画内にL r無節縄文	V-3	9と同一個体か
36 11	深鉢胴部	①暗褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚9~14mm 内外面研磨		隆帯文上にL R縄文 L R縄文	V-1	
36 12	不明	①明赤褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚13~23mm 外面研磨		上下に2本の隆帯	不明	
41 1	深鉢胴部	①暗褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚7~8mm 内面研磨		沈線区画内にL R縄文	VI-1	
46 1	深鉢胴部	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内面研磨		円形貼付文に円形竹管による刺突文 沈線区画内にL R縄文	VIII-1	
46 2	深鉢胴部	①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~11mm 内外面研磨		沈線	VIII-4	
47 1	深鉢胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚7~8mm 内外面研磨		隆帯文両側に沈線	V-2	
52 1	蓋	①褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	完形 径3.4cm 外面研磨		4つの穿孔あり		
52 2	深鉢胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚6~7mm 内外面研磨		沈線	VII-2	
52 3	深鉢口縁部	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~12mm 内外面研磨		沈線区画内にR L縄文	VI-1	
52 4	深鉢胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚6~7mm 内外面研磨		隆帯文による同心円に赤彩	V-1	

第1節 縄文時代

No.	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
52	深鉢 5 胴部	①黒褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内面削り後研磨	沈線区画内にLR縄文	VI-1	
54	深鉢 1 胴部	①橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚12~15mm 内面研磨	沈線区画内に7本1単位の条線文	VIII-3	
54	深鉢 2 口~胴	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~8mm 内外面研磨	口縁部に沈線 沈線区画内にLR 磨消縄文	VIII-1	内外面に 煤付着
55	深鉢 1 胴部	①暗赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線区画内に刺突文	VII-1	
56	深鉢 1 胴部	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線	VII-2	
56	深鉢 2 胴部	①明褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚7~10mm 内面研磨	沈線区画内にRL(?)縄文	VI-1	
60	深鉢 1 胴部	①暗褐 ②黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~7mm 内外面研磨	隆帯文	IX-5	
60	深鉢 2 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~6mm 内外面研磨	沈線	IX-2	
60	深鉢 3 胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚3~5mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
60	深鉢 4 胴部	①明褐 ②黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚7~10mm 内外面研磨	沈線	VIII-4	
60	深鉢 5 口縁部	①黒褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚8~12mm 内外面研磨	口縁部に沈線	VIII-4	
60	深鉢 6 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚9~13mm 内外面研磨	波状口縁 円形竹管による刺突文 沈線 透孔 隆帯文	VII-4	
60	深鉢 7 胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10~13mm 内面研磨	沈線区画内に刺突文	VII-1	
63	深鉢 1 口~胴	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~19mm 内面研磨	口縁部突起に円孔 沈線	VIII-4	
64	深鉢 1 胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を多く含む	器厚10~12mm 内面研磨	隆帯文 円孔	VI-4	
64	深鉢 2 胴部	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内外面研磨	隆帯文 LR縄文縦回転	V-1	
65	浅鉢 1 口縁部	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~13mm 内外面研磨	波状口縁 橋状把手欠損部に透孔 沈線	VII-6	
65	深鉢 2 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚4~9mm 内外面研磨	波状口縁 沈線区画内にLR縄文	VII-3	
65	深鉢 3 口縁部	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~9mm 内外面研磨	波状口縁突起内外に刺突文 隆帯 文および沈線区画内にRL縄文	VIII-1	
68	深鉢 1 胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~8mm 内外面研磨	沈線	IX-2	
68	深鉢 2 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚6~8mm 内外面研磨	口縁部内面に刻み 3条の平行沈 線	IX-2	
68	深鉢 3 口縁部	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚7~8mm 内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文上に刻み 沈線	IX-2	
68	深鉢 4 胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚6~8mm 内面研磨	平行沈線	IX-2	
68	深鉢 5 口縁部	①灰黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~5mm 内外面研磨	口縁部内面に沈線・隆帯文	IX-2	
70	深鉢 1 胴~底	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	底径(14.8cm) 内外面研磨	底部網代痕あり	IX	
70	深鉢 2 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~12mm 内外面研磨	沈線	VIII-4	
70	深鉢 3 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚10~12mm 内外面研磨	2条の平行沈線間に円形竹管によ る連続刺突文 沈線	VIII-3	
70	深鉢 4 口縁部	①暗褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~13mm 内外面研磨	口縁部突起に透孔・沈線 口縁部 内外に刺突文	VII	
72	深鉢 1 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~8mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
72	深鉢 2 胴部	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚5~6mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	

第III章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
72 3	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~12mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX-3	
72 4	深鉢 胴部	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚1~10mm 内面研磨	沈線	VIII-4	
72 5	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚8~11mm 内面研磨	沈線区内にLR縄文	VIII-1	
72 6	小型鉢 底部	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	底径4.2cm 内面ナデ 外面研磨		X-1	
72 7	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~15mm 内外面研磨	口縁部突起に透孔・内面円形竹管 による刺突文・沈線 外面沈線	VII-2	
72 8	深鉢 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚7~17mm 内外面研磨	波状口縁突起に透孔 円形貼付文 円形竹管による刺突文 沈線	VII-2	
72 9	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚6~7mm 内外面ナデか	沈線	VII-2	
72 10	深鉢 口縁部	①暗褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~9mm 内外面研磨	沈線	VII-2	
72 11	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~9mm 内面研磨	沈線 LR縄文横回転	VI-1	
73 1	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12~14mm 内外面研磨	沈線	VII-2	
73 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚6mm 内外面研磨	波状口縁頂部に刺突文 沈線 隆 帯文	VIII-5	
73 3	深鉢 胴部	①にぶい橙 ②灰褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚9~12mm 内面研磨	沈線区内にLR縄文	VIII-1	
73 4	深鉢 口縁部	①黒褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚8~13mm 内外面研磨	口縁部突起に透孔・沈線・刺突文 沈線区内にLR縄文	VIII-1	
73 5	深鉢 把手部	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④細 砂粒・パミスを含む	器厚8~13mm 内外面研磨	把手の頂部・内外面に円孔 円形 貼付文に刺突文 沈線 刻み	VII-4	
73 6	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11~14mm 内外面研磨か	沈線区内にLR無節縄文	VI-1	
73 7	深鉢 口縁部	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~12mm 内面研磨	沈線 5本単位の櫛状工具による 条線	VI-4	
73 8	深鉢 胴部	①暗褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~8mm 内外面研磨	沈線区内にLR磨消縄文	VI-1	
73 9	深鉢 胴部	①にぶい褐 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒・金雲母を含む	器厚8~11mm 内外面ナデか	半截竹管状工具による結節沈線 沈線による鋸歯状文	II-1	
73 10	深鉢 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚11~18mm 内面ナデか	隆帯文区内にLR縄文	V-1	
73 11	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚15~20mm 内外面研磨	隆帯文区内にLR縄文縦回転	V-1	
74 1	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚4~5mm 内外面研磨	沈線区内にLR縄文横回転	IX-1	
74 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚5~13mm 内外面研磨	波状口縁突起に透孔 円形貼付文 に刺突文 隆帯文上に刻み 沈線	VIII-5	
74 3	深鉢 口縁部	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~14mm 内外面研磨か	口縁部把手に透孔・刺突文 沈線	VII-2	
75 1	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~6mm 内外面研磨	沈線	VIII-4	
75 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~12mm 内外面研磨	沈線	VII-2	
75 3	深鉢 胴部	①明赤褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10~12mm 内外面研磨	隆帯文および沈線区内にLR縄 文縦回転	V-2	
75 4	深鉢 口縁部	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚5~7mm 内外面研磨	沈線区内にLR縄文縦回転	V-3	
75 5	深鉢 口縁部	①にぶい赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~10mm 内外面研磨	LR縄文 隆帯文 円形竹管によ る連続刺突文・結節沈線	III-2	
75 6	深鉢 胴部	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母・石英粒を含む	器厚9~12mm 内面研磨	隆帯文 沈線	III-4	
78 1	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④細 砂粒を多く含む	器厚4~6mm 内外面研磨	沈線区内にLR磨消縄文	IX-1	

第1節 縄文時代

No.	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量 調整	文様要素	分類	備考
78	深鉢 2 胴部	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚5~6mm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文	IX-1	
78	深鉢 3 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒(長石粒)を多く含む	器厚9mm 内面ナデ外面研磨か	口縁部に沈線	VIII-4	
78	深鉢 4 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~9mm 内外面研磨	隆帯文 円形貼付文に刺突文 沈線	VIII-5	
78	鉢 5 把手部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚21mm 内外面研磨か	把手中央に横方向の透孔 頂部に竹管による沈線	VII	
78	深鉢 6 胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~10mm 内外面研磨	沈線区画内にR L縄文横回転	V-3	
78	深鉢 7 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚5~10mm 内外面ナデか	橋状把手・隆帯文を施す 櫛状工具による条線文	V-5	
78	深鉢 8 口縁部	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	器厚15~18mm 内外面研磨	隆帯文区画内にL r無節縄文	V-1	
78	深鉢 9 把手部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚18mm 内面ナデ外面研磨か	橋状把手	V	
78	深鉢 10 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~11mm 内面研磨	沈線区画内にR L縄文	IV-2	
79	深鉢 1 口~胴	①暗褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径36.1cm 内外面ナデ後一部研磨	口縁部に突起あり	不明	
79	深鉢 2 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚26cm 内外面研磨	口縁部突起に沈線・刺突文 隆帯沈線 刺突文	VII-4	
79	深鉢 3 胴部	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~9mm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文	VI-1	
79	深鉢 4 胴部	①明赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~12mm 内面研磨	沈線区画内にL $\begin{cases} R \\ r \end{cases} \begin{cases} 1 \\ 1 \end{cases}$ 縄文	VI-1	5と同一個体か
79	深鉢 5 胴部	①明赤褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12~14mm 内面研磨		VI-1	4と同一個体か
82	深鉢 1 口縁部	①橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	器厚12mm 内面研磨	口縁部突起外面に円孔・刺突文 沈線区画内にL R縄文	VIII-1	
82	深鉢 2 胴部	①明赤褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・金雲母を含む	器厚8~13mm 内外面研磨	沈線 隆帯文	III-2	
82	深鉢 3 口縁部	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 繊維・砂粒を含む	器厚9mm 内面研磨	縄文(原体不明)	I-2	
83	深鉢 1 胴部	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~8mm 内外面研磨	沈線	IX-2	
83	深鉢 2 胴部	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚6mm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文	IX-1	
83	深鉢 3 胴部	①にぶい褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~12mm 内外面研磨か	沈線 把手状突起欠損	VIII-4	
84	深鉢 1 胴部	①暗褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8mm 内面研磨	沈線区画内にR L縄文	VI-1	
85	深鉢 1 口縁部	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚6~9mm 内面研磨	幅広の沈線区画内にL R縄文縦回転	IV-2	
85	深鉢 2 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚11mm 内面研磨	沈線区画内にL R縄文	IV-2	
85	埴 3 口~底	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径10.9cm 底径6.0cm 高さ3.7cm ㊦残存 内外面ナデ 底部網代痕あり		不明	
86	深鉢 1 胴部	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線	VIII-4	
86	深鉢 2 口縁部	①明黄褐 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径19.4mm 内外面研磨	口縁部貼付	VIII	
86	深鉢 3 胴部	①黒褐 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~14mm 内面ナデ外面研磨か	沈線	VIII-4	
86	深鉢 4 口縁部	①橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚17mm 内外面研磨	沈線 2段の刺突文	VII-2	
86	深鉢 5 口縁部	①橙 ②にぶい橙 ③不良 ④細 砂粒を含む	器厚13mm 摩滅により調整不明	沈線区画内にL R(?)縄文	VI-1	
86	深鉢 6 胴部	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚8~13mm 内外面ナデか	沈線 円形貼付文 隆帯文	II~III	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器 種 部 位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
87 1	深鉢 口縁部	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚10mm 内面ナデか	隆帯文上に刻み R L縄文縦回転	V-1	
87 2	深鉢 胴部	①にぶい赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚7~8mm 内面ナデか	R L縄文縦回転施文後一部研磨	II-4	
87 3	深鉢 胴部	①暗赤褐 ②にぶい赤褐 ③不良 ④粗 砂粒・礫を多く含む	器厚7~8mm 内面ナデか	R L縄文	II-4	
88 1	深鉢 胴部	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~10mm 内面研磨外面削り	沈線	VII-2	
90 1	浅鉢 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚17mm 内外面研磨か	把手内面に円形竹管による沈線+ 垂直刺突文	VII-5	
90 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚13mm 内外面研磨	口唇部刻み 長方形貼付文 半截 竹管状工具による平行沈線	II-1	
91 1	深鉢 口縁部	①橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚13mm 内外面研磨	平行沈線間に半截竹管状工具による 連続刺突文	VIII-3	
91 2	深鉢 胴部	①にぶい橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒(石英粒)を含む	器厚9mm 内面研磨	沈線区画内にL R縄文	VIII-1	
91 3	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線	VIII-4	
91 4	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚9~13mm 内外面研磨	沈線区画内に刺突文	VII-1	
91 5	深鉢 胴部	①灰褐 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚7~8mm 内外面研磨	沈線区画内にR L磨消縄文	VI-1	
91 6	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚20mm 内外面研磨	隆帯文	V-1	
92 1	深鉢 口縁部	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚8mm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文	IX-1	
92 2	深鉢 胴部	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚7~9mm 内外面研磨	沈線	VIII-4	
92 3	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚12mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線 内面に段有り	VIII-4	
92 4	深鉢 胴部	①橙 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~12mm 内外面研磨	沈線	VIII-4	
92 5	深鉢 口縁部	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚4~8mm 摩滅により調整不明	沈線区画内にL R(?)縄文	VIII-1	
92 6	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを少量含む	器厚8mm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文	VI-1	
92 7	深鉢 胴部	①褐灰 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~14mm 内外面研磨	隆帯文 沈線区画内にL R縄文	V-2	
92 8	深鉢 胴部	①黒褐 ②黒 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~9mm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文	V-3	
92 9	深鉢 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12mm 内外面研磨	隆帯文	V-1	
92 10	深鉢 胴部	①赤褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~10mm 内外面研磨	L R結節縄文縦回転	II-4	
93 1	深鉢 口~胴	①にぶい黄橙 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口23.4cm 底7.7cm 高34.0cm 内外面研磨	橋状把手 沈線区画内にL R縄文 縦回転	V-3	
94 1	深鉢 胴部	①明赤褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を含む	胴部全周する 最大径 12cm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文	IX-1	
94 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚8mm 内外面ナデ後一部研磨		IX-3	
94 3	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚9mm 内外面研磨	平行沈線	VIII-4	
94 4	深鉢 口縁部	①明褐 ②にぶい褐 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚8mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線	VIII-4	
95 1	深鉢 胴部	①褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~5mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み 沈線	IX-2	
95 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚13mm 内外面研磨	口縁部外面に刺突文・沈線	VIII	
95 3	浅鉢か 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~11mm 内外面研磨	円形貼付文に円形竹管による刺突 文 沈線 隆帯文上に沈線	VII-5	

第1節 縄文時代

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調	量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
95 4	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒を少量含む	器厚9~11mm 内外面研磨		沈線区画内にL R縄文縦回転	VI-1	
95 5	深鉢 胴部	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~13mm 内面研磨		隆帯文区画内にL R縄文	V-1	
95 6	深鉢 胴部	①にぶい橙 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚6~8mm 内面研磨		沈線 半截竹管状工具による内側 爪形文	I-2	
98 1	深鉢 胴部	①にぶい褐 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~6mm 内外面研磨		沈線区画内にL R磨消縄文横回転	IX-1	
98 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~7mm 内外面研磨		口縁部外面に沈線	VIII-4	
98 3	深鉢 胴部	①橙 ②明赤褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚6~11mm 内面研磨		沈線	VIII-4	
98 4	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②黒 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚11mm 内外面研磨		口縁部外面に刺突文 沈線	VII-4	
98 5	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	器厚9~13mm 内外面ナデか		隆帯文上に連続する円形指頭圧痕	VI-2	
98 6	深鉢 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚13mm 内外面研磨		隆帯文区画内に連続刺突文	VI-4	
98 7	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚20mm 内面研磨		幅広の沈線間の隆帯文上にR L縄 文横回転	VI-1	
98 8	深鉢 胴部	①明黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒・礫を多く含む	器厚11~14mm 内外面ナデか		隆帯文	V-1	
101 1	深鉢 胴部	①灰黄褐 ②灰 ③良好 ④普通 砂粒を含む	現存最大径16.2cm 内外面研磨		沈線区画内にL R磨消縄文回転	IX-1	
110 1	深鉢 底部	①明赤褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(8.0cm) 底部網代痕後ナデか		内外面研磨	IX	
110 2	深鉢 胴部	①灰黄褐 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚6~7mm 摩滅により調整不明		沈線	IX-2	
110 3	深鉢 胴部	①黒褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~12mm 内外面研磨		隆帯文上に刻み 円形貼付文に刺 突文 沈線	VIII-5	
110 4	深鉢 胴部	①黒褐 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚6~8mm 内外面研磨		橋状把手に続く隆帯文に沈線・刺 突文 沈線	VIII-5	
110 5	深鉢 胴部	①褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~11mm 内外面研磨		沈線区画内にL R磨消縄文	VIII-1	
110 6	深鉢 胴部	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9~14mm 内外面研磨		隆帯文および沈線区画内にL R磨 消縄文 円形竹管による刺突文	VIII-5	
110 7	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒・パミスを多く含む	器厚9~11mm 摩滅により調整不明		沈線	VII-2	
110 8	深鉢 胴部	①橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	胴部最大径(32.0cm) 内外面研磨			X-1	
111 1	深鉢 口縁部	①褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚9~13mm 内外面研磨		沈線	VII-1	
111 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~11mm 内外面研磨か		沈線区画内にR L縄文	VII-3	
111 3	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨		沈線区画内にR L縄文	VI-1	
111 4	深鉢 把手部	①灰黄褐 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚18~35mm 内外面研磨		把手部に横方向の透孔	VII	
111 5	深鉢 口縁部	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~13mm 内外面研磨		沈線区画内にR L無節縄文(?)	VI-1	
111 6	深鉢 胴~底	①褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を多く含む	底径10.0cm 内外面研磨		底部網代痕一部残す	XI-1	内面に煤 付着
112 1	深鉢 口~胴	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	口径(16.8cm) 1/2残存 内外面研磨		円形貼付文に刺突文 沈線区画内 にR L磨消縄文 8の字状貼付文	VII-4	
112 2	深鉢 口~胴	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(20.6cm) 1/2残存 内外面研磨		C字状貼付文 沈線区画内に連続刺突文	VII-1	
112 3	深鉢 口~胴	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を少量含む	口径(15.6cm) 1/2残存 内外面研磨		口縁部突起内外に沈線・刺突文 沈線区画内に連続刺突文	VII-1	
112 4	深鉢 口~胴	①橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(18.2cm) 1/2残存 内外面研磨		口縁部突起外面に沈線・刺突文・円孔 沈 線区画内に櫛状工具による細条線文	VII-1	

第III章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
112 5	深鉢 口～胴	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(29.5cm) 1/2残存 内外面研磨	粘土撚り合わせの貼付による突起 に刺突文 円をつなげた横8の字	VII-4	
112 6	深鉢 胴～底	①褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(8.0cm) 1/2残存 内外面研磨	状貼付文 C字状貼付文 沈線 沈線	VIII-2	
112 7	深鉢 胴～底	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	底径6.4cm 1/2残存 内外面研磨	沈線 C字状貼付文	VII-4	
112 8	深鉢 胴～底	①にぶい褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(7.2cm) 1/2残存 内外面研磨	沈線	VII-2	
112 9	深鉢 口～胴	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口径(13cm) 1/2残存 内外面研磨	隆帯文	V-1	
112 10	深鉢	①明褐 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(35.2cm) 1/2残存 内外面研磨	刺突文 沈線区画内に平行沈線 補修孔有り	不明	
115 1	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②浅黄 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9～15mm 内外面研磨	沈線	VIII-4	
115 2	深鉢 胴部	①暗褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8～9mm 内面研磨	沈線	VIII-4	
115 3	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを少量含む	器厚13mm 内外面研磨	口縁部外面に稜線	VIII	
115 4	深鉢 口縁部	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12～15mm 内外面研磨	隆帯文および沈線区画内にRL縄 文	V-2	
116 1	深鉢 口縁部	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚6mm 内外面研磨	隆帯文・8の字状貼付文剝離痕 内面に刺突文・沈線・刻みあり	IX	
116 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX-3	3と同一 個体か
116 3	深鉢 口縁部	2と同一	器厚9～11mm 内外面研磨	指頭によるナデ	IX-3	2と同一 個体か
117 1	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚6mm 内外面研磨か	沈線	IX-2	
118 1	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚8～10mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX-3	
118 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒・パミスを含む	器厚11mm 内面研磨か	口唇部に刻み 沈線	VIII-4	
118 3	深鉢 胴部	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚6～8mm 摩滅により調整不明	円形の隆帯文上に3点の刺突文 隆帯文両側に沈線	VIII-5	
118 4	深鉢 把手部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚24～29mm 内外面研磨か	把手の内面・両側面に沈線・刺突 文	VII	
118 5	深鉢 胴部	①明赤褐 ②褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚12～14mm 内面研磨	隆帯文区画内にLR縄文	V-1	
120 1	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚9mm 内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文上に刻み	IX	
120 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	口径(6.2cm) 1/2残存 内外面研磨	把手に沈線による渦巻文 隆帯文 両側に沈線 連続刺突文	IX	
120 3	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7～10mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX-3	
120 4	深鉢 口縁部	①灰黄 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8～9mm 内面研磨か	指頭によるナデ	IX-3	
120 5	深鉢 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10mm 内外面研磨	円形貼付文に刺突文 円形貼付文 間に隆帯文	IX	
120 6	深鉢 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11mm 内面研磨	沈線区画内に円形竹管による連続 刺突文	VII-1	
120 7	深鉢 胴部	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚8～10mm 内面ナデか	平行沈線	VIII-4	
120 8	深鉢 胴部	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚9～12mm 内面ナデ外面研磨か	沈線	VII-2	
120 9	深鉢 口縁部	①明黄褐 ②黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚13mm 内面研磨か	幅広の沈線間にLR縄文	IV-1 ?	
131 1	深鉢 胴部	①褐灰 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6～10mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
131 2	深鉢 胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒・雲母を含む	器厚8～10mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	

第1節 縄文時代

No.	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調	量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
131	深鉢 3 胴部	①にぶい赤褐 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚9~12mm 内外面研磨		沈線区画内にRL縄文	VI-1	
131	深鉢 4 口縁部	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚9mm 内外面研磨		沈線区画内にLR縄文	VI-1	
132	深鉢 1 口~胴	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口径(26.8cm) 1/4残存 内外面研磨		8の字状貼付文 隆帯文上に刻み 沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
133	深鉢 1 口~胴	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口径24.0cm 1/2残存 内外面研磨		橋状把手 沈線区画内にLR縄文	V-3	
133	不明 2 把手部	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚17mm 内外面ナデか		把手に透孔あり 貼付部からはがれる	不明	
133	深鉢 3 口縁部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚17mm 内外面研磨		隆帯文 沈線区画内にRL縄文	V-2	
133	深鉢 4 胴部	①明褐 ②灰褐 ③不良 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚9~11mm 内外面研磨		隆帯文区画内にRL縄文	V-1	
133	深鉢 5 胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚8~9mm 内外面研磨		自縄自縛のLR結節縄文縦回転	II-4	
133	深鉢 6 胴部	①明褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~9mm 内面研磨		RL縄文	V-4	
136	深鉢 1 胴~底	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を多く含む	底径8.4cm 内外面研磨		沈線	VII-2	
136	深鉢 2 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~19mm 内面研磨		2条の隆帯文間に連続刺突文 LR縄文	VI	
141	深鉢 1 口縁部	①明褐 ②褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚13~16mm 内外面研磨		隆帯文 LR縄文縦回転	V-1	
144	深鉢 1 口縁部	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	口径24.6cm 内外面研磨		口縁部内側に折り返しか	IX	外面に煤 付着
145	深鉢 1 胴部	①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚8~9mm 内外面研磨		沈線	VIII-4	
149	深鉢 1 口縁部	①橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚8mm 内面研磨		口縁部外面に沈線	VIII-4	
149	深鉢 2 口縁部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~8mm 内外面ナデか		沈線 円孔	VIII-4	
149	深鉢 3 胴部	①褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚6~8mm 内面研磨		沈線	VIII-4	
150	深鉢 1 胴部	①にぶい橙 ②赤褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚4~7mm 内面研磨		8の字状貼付文 沈線区画内にL R縄文	VIII-1	
150	深鉢 2 胴部	①黒 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚6~9mm 内外面研磨		沈線	VIII-4	
150	深鉢 3 胴部	①橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨		沈線区画内にLR磨消縄文	VIII-1	
150	深鉢 4 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚7~9mm 内面研磨		沈線区画内にRL縄文横回転	IV-2	
153	深鉢 1 口縁部	①褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~8mm 内外面研磨		隆帯文上に刻み 沈線区画内にL R(?)縄文	IX-1	
153	深鉢 2 胴~底	①黒褐 ②黒 ③不良 ④普通 砂粒・金雲母を含む	底径(12.0cm) 内外面研磨 底部網代痕あり			IX	
153	深鉢 3 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内面研磨		隆帯文上に連続する楕円形指頭圧 痕 沈線区画内にLR縄文	VIII-5	
153	注口土 4 器注口	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④細 砂粒・白色粒子を多く含む	器厚2~12mm 内外面研磨か		注口基部に8の字状貼付文 注口部のみ貼付部からはがれる	IX-4	
153	深鉢 5 口~胴	①褐 ②暗褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を含む	口径26.0cm 1/2残存 内外面研磨		8の字状貼付文 隆帯文上に刻み 沈線区画内にLR縄文	IX-1	
153	深鉢 6 口縁部	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚6~8mm 内外面研磨		沈線	VII-4	
153	深鉢 7 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚12~17mm 内外面研磨		隆帯文上に連続する楕円形指頭圧 痕	VI-2	
153	深鉢 8 胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを多く含む	器厚12~14mm 内外面研磨か		沈線	VIII-4	
153	浅鉢? 9 口縁部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(19.0cm) 1/4残存 内外面研磨		隆帯文上および区画内に半截竹管 状工具による連続刺突文	VII-5 ?	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No.	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調	量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
158	深鉢	①橙 ②赤褐 ③不良	器厚6~7mm		沈線	IX-2	
1	胴部	④普通 砂粒を含む	内面研磨				
158	深鉢	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好	器厚7~13.5mm		8の字状貼付文か	IX	
2	胴部	④普通 砂粒を含む	内外面研磨				
162	深鉢	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好	器厚9~14mm		隆帯文 平行沈線 LR縄文	VIII-1	
1	胴部	④普通 砂粒を含む	内面研磨か				
165	深鉢	①橙 ②明褐 ③良好	器厚6~8mm		沈線区画内にLR(?)磨消縄文	IX-1	外面に煤付着
1	口縁部	④普通 砂粒・礫を少量含む	内外面研磨				
165	深鉢	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好	器厚7~9mm		沈線による同心円文 沈線区画内にLR磨消縄文	IX-2	外面に煤付着
2	胴部	④細 砂粒を含む	内外面研磨				
165	深鉢	①黒褐 ②黒褐 ③良好	口径(21.4cm) 1/2残存		沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
3	口縁部	④細 白色粒子を少量含む	内外面研磨				
165	深鉢	①黒褐 ②黒褐 ③良好	器厚5~6mm		沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
4	口縁部	④細 砂粒を少量含む	内外面研磨				
165	深鉢	①極暗赤褐 ②黒褐 ③良好	器厚5~7mm		沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
5	胴部	④普通 砂粒ほとんど含まず	内外面研磨				
165	深鉢	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好	底径9.4cm 1/2残存		底部網代痕後ナデ	IX	
6	胴~底	④普通 砂粒を含む	内外面研磨				
165	深鉢	①褐灰 ②褐灰 ③良好	底径(9.2cm) 1/2残存		底部網代痕あり	IX	
7	胴~底	④普通 砂粒を含む	内外面研磨				
165	深鉢	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好	底径(7.6cm) 1/2残存		底部網代痕あり	IX	
8	胴~底	④普通 砂粒を含む	内外面研磨				
165	深鉢	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好	器厚10mm		波状口縁内外に円形竹管による刺突文・沈線 隆帯文	IX-5	内面に煤付着
9	口縁部	④細 砂粒を少量含む	内外面研磨				
165	深鉢	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好	器厚9~13mm		LR縄文を地文に沈線区画内に連続刺突文・沈線	VIII-2	
10	胴部	④普通 砂粒・礫を少量含む	内面研磨				
165	深鉢	①黒 ②明褐 ③良好	器厚7~9mm		補修孔あり	不明	
11	胴部	④細 砂粒・礫を含む	内外面研磨				
167	深鉢	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良	口径(21.0cm) 1/2残存		橋状把手 隆帯文区画内にLR縄文 把手が一對の双耳形になるか	V-1	
1	口~胴	④粗 砂粒・雲母を含む	内外面研磨				
168	深鉢	①にぶい黄橙 ②黒 ③良好	器厚5~11mm		円形貼付文に刺突文 隆帯文上に刻み	IX	
1	口縁部	④普通 砂粒を少量含む	内外面研磨				
168	深鉢	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③不良	器厚5~8mm		隆帯文上に刻み 沈線区画内にLR(?)縄文 口縁部内面に沈線	IX-1	
2	口縁部	④粗 砂粒・パミスを含む	内外面研磨か				
168	深鉢	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③良好	器厚4~6mm		沈線区画内にRL磨消縄文	IX-1	
3	口縁部	④普通 砂粒を含む	内外面研磨				
168	深鉢	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好	底径11.8cm 1/2残存		底部網代痕あり	IX	
4	胴~底	④普通 砂粒を含む	内外面研磨				
168	深鉢	①明褐 ②にぶい黄橙 ③良好	底径8.4cm 底部全周		底部網代痕あり	IX	
5	胴~底	④細 砂粒を含む	内外面研磨か				
168	深鉢	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好	底径7.0cm 底部全周		底部網代痕あり	IX	
6	胴~底	④細 砂粒を含む	内外面研磨				
168		①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好	器厚5~9mm		沈線区画内にLR磨消縄文	IX-4	注口土器 口縁部か
7	口縁部	④普通 砂粒を含む	内外面研磨				
168	深鉢	①暗褐 ②黒 ③良好	器厚5mm		口唇部に刻み 口縁部隆帯文に押さえ 沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
8	口縁部	④普通 砂粒を含む	内外面研磨				
168		①黒 ②黒 ③良好	器厚6mm		口縁部に橋状把手 沈線区画内に連続刺突文	IX-4	注口土器 口縁部か
9	口縁部	④普通 砂粒を含む	内外面研磨				
168	深鉢	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好	器厚9~10mm		指頭によるナデ	IX-3	
10	口縁部	④普通 砂粒を多く含む	内面研磨				
168	深鉢	①明黄褐 ②黒褐 ③普通	器厚4~5mm		隆帯文上に刻み 沈線区画内にLR(?)磨消縄文	IX-1	
11	胴部	④普通 砂粒・パミスを含む	内面研磨				
168	深鉢	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好	器厚9~11mm		指頭によるナデ	IX-3	
12	胴部	④普通 砂粒を多く含む	内面研磨				
168	深鉢	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好	底径(12.2cm) 1/2残存		底部網代痕あり	IX	
13	底部	④普通 砂粒を含む	内面ナデ外面研磨				
168	深鉢	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好	器厚11~13mm		沈線	VIII-4	
14	胴部	④粗 砂粒・雲母を含む	内面ナデ外面研磨か				
168	深鉢	①褐 ②明褐 ③良好	器厚9~12mm		沈線 LR縄文	VIII-1	
15	胴部	④普通 砂粒を多く含む	内外面研磨か				

第1節 縄文時代

№	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
168	深鉢 16 口縁部	①明黄褐 ②橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨か	口縁部円形貼付文に円孔 平行沈線	VIII-4	
169	深鉢 1 口縁部	①暗褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚12~24mm 内外面研磨	口縁部内外面に透孔・沈線・刺突文	VIII	
173	深鉢 1 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫・パミスを含む	器厚8~13mm 内外面研磨か	隆帯文 沈線	V-2	
177	深鉢 1 胴部	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~7mm 内面研磨	L R縄文を地文 沈線 円形竹管による刺突文	VIII-2	
178	深鉢 1 胴部	①浅黄 ②にぶい黄 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚12mm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文	VIII-1	
178	深鉢 2 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~7mm 内面研磨	口縁部突起欠損 口唇部に沈線・刻み 沈線	VII-2	
178	深鉢 3 胴部	①にぶい褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~10mm 内面ナデ外面研磨か	沈線	VII-2	
178	深鉢 4 胴部	①明赤褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~13mm 内外面研磨	隆帯文区画内にL r無節縄文	V-1	
179	深鉢 1 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線 刺突文(?)	VIII-3	
179	深鉢 2 口縁部	①灰褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚5~10mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線・刺突文 平行沈線	VIII-4	
179	深鉢 3 口縁部	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12~14mm 内外面研磨	隆帯文上に指頭圧痕 沈線	VIIIまたはIX	
179	浅鉢か 4 口縁部	①橙 ②黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	口径(15.8cm) 1/2残存 内外面研磨か	口縁部外面に稜線	VIII	
179	深鉢 5 胴部	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~7mm 内外面研磨	沈線区画内に刺突文	VII-1	
179	深鉢 6 口縁部	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚5~9mm 内外面研磨か	口縁部外面にC字状貼付文に刺突文・沈線 沈線	VII-2	
179	深鉢 7 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	胴部最大径13.9cm 1/2残存 内外面研磨か	沈線区画内に連続刺突文	VII-1	
179	深鉢 8 胴部	①黒褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚6~7mm 内外面研磨か	沈線区画内に連続刺突文	VII-1	
179	深鉢 9 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~12mm 内外面研磨	沈線区画内にR L縄文	V-3	
179	深鉢 10 胴~底	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	底径7.0cm 底部全周 内外面研磨か	沈線	VII-2	
182	深鉢 1 胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~9mm 内外面研磨か	沈線区画内にL R磨消縄文	IX-1	
185	深鉢 1 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚11~19mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み 沈線区画内にL R縄文	VI-2	
185	深鉢 2 胴部	①にぶい橙 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚6~7mm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文	VI-1	
185	深鉢 3 胴部	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚6~7mm 内外面研磨	隆帯文区画内にL R縄文縦回転	V-1	
186	深鉢 1 口縁部	①灰黄褐 ②褐灰 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~6mm 内外面研磨	2条の隆帯文上に刻み 沈線区画内にL R磨消縄文	IX-1	
186	深鉢 2 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚5mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み	IX	
186	深鉢 3 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~6mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文	IX-1	
191	深鉢 1 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚5~7mm 摩滅により調整不明	沈線区画内にL R磨消縄文(?)	IX-1	
191	深鉢 2 胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~9mm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文	IX-1	
191	深鉢 3 底部	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	底径(11.2cm) 1/2残存 内外面研磨	底部ケズリか	IX	
191	深鉢 4 口縁部	①黒褐 ②浅黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~15mm 内外面研磨	口縁部内外に透孔・円形竹管による刺突文	VII	
191	深鉢 5 胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚10mm 内面研磨	沈線 L R縄文	VIII-1	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量 調整	文様要素	分類	備考
191	深鉢 6 把手部	①灰黄褐 ②黄褐 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚13mm 外面研磨	把手部内外面に透孔・沈線・円形 貼付文・刺突文	VII	
191	深鉢 7 底部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を少量含む	底径(9.8cm) 1/4残存 内面ナデか	半截竹管による半隆起線文	II-1	
192	深鉢 1 口縁部	①明黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④細 砂粒を含む	器厚4~5mm 摩滅により調整不明	隆帯文上に刻み 沈線区画内にL R縄文(?)	IX-1	
192	深鉢 2 胴部	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚3~4mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
192	深鉢 3 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚7~9mm 内外面研磨か	沈線	VII-2	
192	深鉢 4 胴部	①灰黄褐 ②黒褐 ③良好 ④粗 砂粒・雲母を含む	器厚8~9mm 内面研磨か	RL結節縄文横回転	II-4	
193	深鉢 1 胴部	①明赤褐 ②褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚12~14mm 内面研磨	隆帯文区画内にLR縄文縦回転	V-1	
193	深鉢 2 底部	①赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 砂粒・雲母を含む	底径(14.6cm) 1/4残存 内外面研磨か		II	
193	深鉢 3 胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 繊維・砂粒を含む	器厚10~12mm 内面研磨か	前々段反然L { R { L R } 縄文	I-2	
193	鉢 4 口~胴	①褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 繊維・砂粒を少量含む	口径(12.8cm) 1/4残存 内面研磨	RL縄文 LR縄文	I-2 (?)	
195	深鉢 1 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~5mm 内面研磨	隆帯文上に刻み 沈線区画内にL R磨消縄文	IX-1	
195	深鉢 2 胴部	①にぶい黄褐 ②浅黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~10mm 内外面研磨か	沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
195	深鉢 3 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚5~6mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み 8の字状貼付文 口縁部内面に3条の沈線	IX	
195	深鉢 4 胴部	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~8mm 内外面研磨	隆帯文上に突起・円形竹管による 刺突文	IX-5	
195	深鉢 5 胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚4~8mm 内外面研磨	沈線区画内にRL縄文	VI-1	
195	深鉢 6 胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚9~10mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VIII-1	
195	深鉢 7 胴部	①褐灰 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚11~12mm 内面研磨	隆帯文(両側に沈線)区画内にLR 縄文	V-1	
195	深鉢 8 口縁部	①橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚15~20mm 内面研磨	隆帯文・沈線区画内にRL縄文	IV-2	
195	深鉢 9 胴部	①明褐 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒・パミスを含む	器厚10~15mm 内面研磨	隆帯文・沈線区画内にLR縄文	IV-2	
195	深鉢 10 口縁部	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12~13mm 内面研磨	隆帯文・沈線区画内にRL縄文	IV-2	
195	深鉢 11 胴部	①褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚12~15mm 内外面研磨か	隆帯文上に一部RL縄文 RL縄 文	II-4	
195	深鉢 12 胴部	①暗赤褐 ②暗赤褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚7~8mm 内面研磨	直交する平行沈線 LR縄文	II-3	
195	深鉢 13 胴部	①暗褐 ②明黄褐 ③不良 ④粗 砂粒・雲母を多く含む	器厚7~9mm 摩滅により調整不明	直交する平行沈線 沈線片側に連 続する刻み	II-1	
195	深鉢 14 底部	①にぶい橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	底径(9.8cm) 1/4残存 内外面研磨		X-1	
198	深鉢 1 胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚5~8mm 内外面研磨	沈線区画内にRL磨消縄文	IX-1	
198	深鉢 2 口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚3~6mm 内外面研磨か	8の字状貼付文 隆帯文上に刻み 沈線区画内にLR(?)縄文	IX-1	
198	注口土 3 器注口	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④細 砂粒を多く含む	器厚5~13mm 内面ナデ外面研磨		IX-4	貼付部よ り剝離
198	注口土 4 器注口	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~14mm 内面ナデ外面研磨		IX-4	貼付部よ り剝離
198	深鉢 5 口縁部	①橙 ②明赤褐 ③不良 ④細 砂粒を含む	器厚5~7mm 内外面研磨か	隆帯文 沈線	IX-2	
198	深鉢 6 胴部	①明黄褐 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚7~11mm 摩滅により調整不明	沈線	IX-2	

第1節 縄文時代

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
198 7	深鉢 口縁部	①黄橙 ②黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚4～8mm 内面研磨か	指頭によるナデ 口縁部内面に沈線	IX-3	8と同一 個体か
198 8	深鉢 胴部	①橙 ②橙 ③不良 ④粗 砂粒・礫・パミスを含む	器厚8～10mm 内面研磨か	指頭によるナデ	IX-3	7と同一 個体か
198 9	鉢 胴部	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4～7mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	
198 10	深鉢 胴部	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10～12mm 内面ナデか	沈線区画内にLR縄文	VIII-1	
198 11	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7～16mm 内外面研磨	口縁部内外に透孔・円形竹管による刺突文・沈線	VIII	
198 12	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚6～12mm 内外面研磨	口縁部外面に円孔・沈線	VIII	
198 13	深鉢 胴部	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9～13mm 内面ナデ外面研磨か	沈線 LR縄文	VIII-1	
198 14	深鉢 胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7～12mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文 8の字状貼付文	VIII-1	
198 15	浅鉢か 口縁部	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③不良 ④細 砂粒・パミスを含む	器厚8～12mm 内外面研磨	口縁部外面に2条の沈線	VII-5	
198 16	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚6～8mm 内外面研磨	沈線区画内に刺突文	VII-1	
198 17	深鉢 把手部	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8mm 内外面研磨	把手部に横方向の透孔 刺突文 沈線	VII-2	
198 18	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11～12mm 内外面研磨	沈線	VII-2	
198 19	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8～10mm 内外面研磨	沈線区画内に短い沈線	VII-1	
198 20	深鉢か 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5mm 内外面研磨	把手部に横方向の透孔とそれに直交する透孔	VII	
198 21	浅鉢か 口縁部	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7～15mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線	VII-2	
198 22	深鉢 胴部	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9～11mm 内外面研磨	沈線区画内に6+α本を単位とする櫛状工具による条線文	VII-1	
198 23	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7～9mm 内外面研磨	沈線区画内に刺突文	VII-1	
198 24	深鉢 口縁部	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚8～10mm 内外面研磨	隆帯文上に連続する楕円形の指頭 圧痕	VI-2	
198 25	深鉢 口縁部	①明赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を多く含む	器厚10～19mm 内外面研磨	隆帯文	VI-2	
198 26	深鉢 口縁部	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚11～13mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI-1	
198 27	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚9～13mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI-1	
198 28	深鉢 口縁部	①褐 ②赤褐 ③良好 ④粗 砂粒・金雲母を含む	器厚9～14mm 内面研磨	RL縄文が地文 平行沈線	II-3	
198 29	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7～8mm 内面研磨	LR結節縄文縦回転	II-4	
198 30	深鉢 底部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(7.0cm) 内外面研磨		XI-2	
200 1	深鉢 口縁部	①褐灰 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12mm 内面研磨か	沈線区画内にLR縄文	IV-3	
201 1	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚9～10mm 内外面研磨か	沈線	VIII-4	
209 1	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚9～12mm 内外面研磨か	沈線区画内にLR(?)縄文	IX-1	
209 2	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX-3	
211 1	深鉢 口～胴	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4～6mm 内面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	VIII-1	
211 2	深鉢 口縁部	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8～12mm 内外面研磨	沈線区画内に刺突文	VII-1	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量 調整	文様要素	分類	備考
211	小型鉢 胴～底	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径3.8cm 底部全周 内面ナデ外面研磨		XI-2	
215	土製品 1	①にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	長さ5.4cm 厚さ9cm 一部欠損 外面ナデか			
215	深鉢 2 胴部	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7～9mm 内面ナデ外面研磨か	沈線	VII-2	
215	深鉢 3 胴部	①暗褐 ②明褐 ③良好 ④粗 砂粒を少量含む	器厚11～13mm 内外面研磨	隆帯文区画内にL R縄文	V-1	
216	深鉢 1 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚10～12mm 内面ナデか	R L縄文のループか	I-2	
217	深鉢 1 口～胴	①明黄褐 ②明黄褐 ③不良 ④粗 砂粒・白色粒子を含む	器厚8～13mm 摩滅により調整不明	口縁部下に隆帯文	VI-2	
217	深鉢 2 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚11～14mm 摩滅により調整不明	沈線区画内にR L(?)縄文	IV-3	
217	深鉢 3 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚14～16mm 内面研磨	隆帯文・沈線区画内にR L縄文横 回転	V-2	
217	深鉢 4 口縁部	①明黄褐 ②明黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚12～21mm 摩滅により調整不明	隆帯文	V-1	
219	深鉢 1 胴部	①褐灰 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7～9mm 内外面ナデ	沈線	VII-2	
219	深鉢 2 口縁部	①黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒・礫を多く含む	器厚10～13mm 内面研磨	隆帯文上に連続する楕円形の指頭 圧痕	VI-2	
222	深鉢 1 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚6～7mm 外面研磨	沈線による同心円文	IX-2	
222	深鉢 2 胴部	①暗褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚9～10mm 内面ナデ	沈線	VIII-4	
222	深鉢 3 胴部	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚10～12mm 内面研磨	R L縄文 沈線	VIII-1	
222	深鉢 4 胴部	①明赤褐 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚7～9mm 内面研磨	沈線区画内にL R縄文	VI-1	
224	深鉢 1 口縁部	①赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8～10mm 内面ナデ	口縁部外面に微細な沈線 隆帯文 上に刻み	II-5	
226	深鉢 1 口縁部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7mm 内外面研磨	沈線	IX-2	
226	深鉢 2 胴部	①にぶい橙 ②褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚7～8mm 内面研磨	沈線区画内にR L縄文	IV-3	
227	深鉢 1 口縁部	①橙 ②明赤褐 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚4～13mm	隆帯文 貼付文 円形竹管による 連続刺突文 平行沈線	II-1	
229	深鉢 1 口縁部	①浅黄橙 ②浅黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9～24mm 内面研磨か	口縁部把手に円形竹管による刺突 文 沈線	VII	
230	深鉢 1 胴部	①明褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7～8mm 内外面研磨	沈線	V-3	
231	深鉢 1 胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚9～10mm 内面研磨	隆帯文区画内に刺突文	IV-1	2と同一 個体か
231	深鉢 2 胴部	①明黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	現存最大径(49.8cm) 内面研磨	隆帯文区画内にR L縄文・刺突文	IV-1	1と同一 個体か
231	深鉢 3 口縁部	①橙 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(17.8cm) 内面研磨	橋状把手 R L縄文	V-4	
232	深鉢 1 胴部	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5～7mm 内面研磨か	横8の字状貼付文両脇に円形竹管 による刺突文 沈線 L R縄文	VIII-1	
235	深鉢 1 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9～13mm 内外面研磨	隆帯文上に連続する楕円形の指頭 圧痕	VI-2	
235	深鉢 2 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を多く含む	器厚10mm 内外面研磨か	沈線区画内にL R縄文	V-3	
236	深鉢 1 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミス・白色粒子を含む	器厚8～13mm 内面研磨	口唇部に円形竹管による刺突文・ 沈線 沈線区画内に連続刺突文	VII-1	
238	1 胴～底	①暗褐 ②黒褐 ③良好 ④細 白色粒子・砂粒を微量含む	底径5.2cm 底部全周 内外面研磨	底部網代痕あり	IX-4	注口土器 底部か
238	深鉢 2 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚8～12mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文	V-3	

第1節 縄文時代

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
238	深鉢 3 口縁部	①にぶい褐色 ②にぶい黄褐色 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~10mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	V-3	
238	深鉢 4 胴部	①明黄褐色 ②にぶい黄褐色 ③不良 ④普通 砂粒・礫・パミスを含む	器厚11~13mm 内面研磨	隆帯文区画内にRL(?)縄文	V-1	
238	深鉢 5 口縁部	①黒褐色 ②暗褐色 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	口径(32.8cm) 1/2残存 内外面研磨	口唇部に刻み 頸部に沈線	II-1	
238	深鉢 6 胴部	①褐色 ②にぶい褐色 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚6~9mm 内面研磨	沈線・隆帯文区画内にLR縄文	II-5	
238	深鉢 7 口縁部	①明赤褐色 ②にぶい褐色 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚9~16mm 内面研磨	隆帯文 半截竹管状工具による沈線	II-1	
238	深鉢 8 胴部	①にぶい黄褐色 ②にぶい黄褐色 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~6mm 内面研磨	半截竹管状工具による結節沈線	II-1	
239	深鉢 1 胴~底	①にぶい褐色 ②にぶい黄褐色 ③不良 ④粗 砂粒を多く含む	底径(13.4cm) 1/2残存 内外面研磨		II	
239	深鉢 2 胴部	①暗褐色 ②にぶい黄褐色 ③不良 ④粗 砂粒・雲母を多く含む	器厚9~11mm 内面研磨か	RL結節縄文縦回転	II-4	5片同一 個体
239	深鉢 3 口縁部	①赤褐色 ②赤褐色 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚8mm 内面研磨	半截竹管状工具による2本1単位の平行沈線	II-1	
239	深鉢 4 胴部	①明褐色 ②にぶい褐色 ③不良 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚8~9mm 内面研磨か	沈線	II-1	
240	深鉢 1 胴~底	①灰黄褐色 ②灰黄褐色 ③良好 ④普通 砂粒・礫を多く含む	底径11cm 1/2残存 内外面研磨か	底部網代痕あり	IX	
240	深鉢 2 口~胴	①暗褐色 ②黒褐色 ③不良 ④普通 砂粒・雲母を含む	口径(15.0cm) 1/2残存 内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文上に刻み 沈線 口縁部内面に隆帯文・沈線	IX-2	
240	深鉢 3 胴部	①褐色 ②褐色 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚10mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	IX-1	
240	深鉢 4 胴部	①にぶい黄褐色 ②にぶい黄褐色 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚5~9mm 内面ナデ外面研磨か	沈線	VIII-4	
240	深鉢か 5 把手部	①淡黄褐色 ②淡黄褐色 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚13mm 内面研磨か	把手に横方向の透孔 沈線	VII	
240	深鉢 6 底部	①にぶい黄褐色 ②にぶい黄褐色 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	底径9.5cm 底部全周 内外面研磨か		XI-1	
240	深鉢 7 口縁部	①褐色 ②褐色 ③不良 ④粗 砂粒・雲母を多く含む	器厚14mm 摩滅により調整不明	口唇部・隆帯文上に刻み 半截竹管による2本平行する結節沈線	II-1	
241	深鉢 1 胴部	①にぶい黄褐色 ②明黄褐色 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~10mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VIII-1	
241	深鉢 2 胴部	①浅黄褐色 ②にぶい黄褐色 ③不良 ④細 砂粒を含む	器厚9~10mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VIII-1	
242	深鉢 1 胴部	①にぶい褐色 ②にぶい黄褐色 ③不良 ④粗 砂粒を多く含む	器厚5~6mm 内外面研磨か	沈線区画内にLR縄文	VI-1	
242	深鉢 2 胴部	①褐色 ②にぶい黄褐色 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11~12mm 内面研磨	LR縄文縦回転	V-4	
242	深鉢 3 胴部	①黒褐色 ②にぶい黄褐色 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~12mm 内外面研磨	隆帯文区画内にLR縄文縦回転	V-1	
243	深鉢 1 胴部	①褐色 ②にぶい褐色 ③不良 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚8~10mm 内外面研磨	隆帯文区画内にLR縄文縦回転	V-1	
243	深鉢 2 胴部	①にぶい褐色 ②にぶい褐色 ③良好 ④普通 砂粒・礫・雲母を含む	器厚8~10mm 内面研磨	低い隆帯文上にLR縄文 沈線 刺突文	II-1	
243	深鉢 3 底部	①にぶい褐色 ②にぶい褐色 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	底径(4.0cm) 1/2残存 内面研磨	前々段反転R $\left\{ \begin{matrix} L \\ L \\ L \\ L \end{matrix} \right.$ 縄文	I-2	
244	深鉢 1 口縁部	①褐色 ②褐色 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚12~14mm 内面研磨	沈線区画内に刺突文	VII-1	
244	深鉢 2 胴~底	①明褐色 ②暗褐色 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	底径11.6cm 1/2残存 内外面研磨		XI-1	
245	深鉢 1 口縁部	①褐色 ②にぶい褐色 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚8~13mm 内面研磨	沈線区画内に連続刺突文	VII-1	
247	深鉢 1 口縁部	①にぶい黄褐色 ②にぶい黄褐色 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~12mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX-3	
247	深鉢 2 胴部	①黒褐色 ②灰黄褐色 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚7~9mm 内外面研磨	8の字状貼付文 沈線区画内にLR縄文	VIII-1	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
247	深鉢 3 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~12mm 内外面研磨	沈線区画内にR L縄文横回転	IV-3	
248	深鉢 1 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~8mm 内面ナデ外面研磨か	沈線区画内に刺突文	VII-1	
252	深鉢 1 口縁部	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚6mm 内外面研磨	沈線による同心円文 沈線区画内にL R縄文	IX-2	
252	深鉢 2 底部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(10cm) 1/2残存 内外面研磨	底部網代痕あり	VI-2	
252	深鉢 3 胴部	①褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~7mm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文	VI-2	注口土器 胴部か
252	浅鉢か 4 口縁部	①明黄褐 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8~12mm 内面研磨か	刺突文 沈線区画内にL R縄文	V-2	
252	深鉢 5 胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚13mm 内外面研磨	沈線区画内に短い沈線	V-2	
254	浅鉢 1 口~胴	①にぶい黄橙 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(25cm) 1/2残存 内外面研磨	注口 橋状把手・口縁部内外面に 沈線・円形竹管による刺突文・透孔	VII-5	
255	深鉢 1 胴部	①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③良好 ④粗 砂粒・雲母を含む	器厚9~23mm 内面ナデか	貼付文・隆帯文区画内にL R縄文	IV-2~ V-1	
255	深鉢 2 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚11~14mm 内面研磨か	沈線区画内にL R縄文	IV-1	
255	深鉢 3 胴部	①にぶい橙 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~11mm 内面研磨か	半截竹管状工具による連続刺突 文・連続する短い沈線	II-2	
256	深鉢 1 注口部	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚13mm 内外面研磨か	注口上部に透孔 深鉢型の注口土器か	V-2~ VI-1	
256	深鉢 2 胴部	①浅黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10mm 内外面研磨	隆帯文	V-2~ VI-1	
256	深鉢 3 口~胴	①浅黄橙 ②浅黄橙 ③不良 ④粗 砂粒・パミスを含む	口径(31.8cm) 1/2残存 内外面研磨		VII-2	
256	深鉢 4 胴部	①にぶい黄橙 ②浅黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~8mm 内面研磨か	沈線区画内に刺突文	V-2	
256	深鉢 5 胴部	①橙 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚11mm 内面ナデ外面研磨か	沈線	V-2	

土坑出土石器観察表

No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
13-7	多孔石	[16.2]	[12.2]	6.0	1400	1/2	絹雲母石墨片岩	片面にくぼみ 一部赤化
23-3	スクレイパー	7.1	5.7	1.0	45	完形	熱変成岩	端部に刃部あり
22-1	磨石	[7.9]	[6.5]	4.4	255	3/4	安山岩	両面に磨面 片面にくぼみ 側面に敲打痕残る
24-7	磨石	17.1	[7.7]	[3.3]	595	3/4	安山岩	片面にくぼみ・磨面 磨面は平坦
29-3	磨石	11.8	7.2	3.7	510	一部欠損	輝緑岩	片面に敲打痕を残す 磨面は平坦
31-11	磨石	8.8	7.0	5.2	385	完形	安山岩	片面にくぼみ・磨面 磨面は平坦 断面半円形
36-13	スクレイパー	7.3	4.8	1.5	51	完形	安山岩	側縁に刃部
36-14	打製石斧	9.4	9.3	3.6	386	1/2	熱変成岩	撥I型 刃部は直線的
36-15	石棒	[9.4]	[4.3]	[6.8]	290	先端部破片	点紋緑泥片岩	
36-16	くぼみ石	[8.4]	[8.8]	[4.5]	433	一部欠損	砂岩	両面にくぼみ・磨面
36-17	不明	[11.4]	[7.1]	[2.4]	293	一部欠損	点紋絹雲母泥片岩	側縁にえぐりあり
36-18	磨石	[8.5]	[4.6]	[5.3]	226	3/4	安山岩	片面に磨面
41-2	磨石	[7.1]	[4.9]	[3.8]	148	破片	安山岩	両面に磨面
43-1	石槍	3.5	2.6	1.1	5.0	基部欠損	不明	
49-1	石槍(?)	[2.9]	[1.4]	0.9	6.0	基部欠損	安山岩	
52-6	多孔石	[20.0]	[16.1]	[7.5]	3350	1/2	輝緑岩	一部敲打痕を残す
52-7	多孔石	[10.8]	[12.5]	[8.5]	1400	1/2	絹雲母石墨片岩	片面にくぼみ1個
55-1	打製石斧	14.2	8.0	3.3	351	完形	熱変成岩	分銅型 片面に自然面を残す
58-1	磨石	[11.1]	[4.7]	[5.8]	414	1/2	安山岩	
60-8	多孔石	49.8	11.6	7.9	7000	完形	点紋緑泥片岩	3面にくぼみあり
64-3	石皿(?)	[18.5]	[5.3]	[3.1]	460	破片	角閃岩	両面に磨面あり
68-6	打製石斧	[4.5]	[5.4]	[1.2]	35	基部欠損	安山岩	撥I型か
68-7	くぼみ石	12.3	9.5	5.1	900	完形	輝緑岩	形態分類不能 刃部は円刃
70-5	不明	[15.5]	14.2	5.5	1700	一部欠損	安山岩	両面に黒色・褐色の付着物あり
70-6	磨石	[9.9]	[5.0]	3.5	288	1/2	流紋岩	断面方形 1面に磨面

第1節 縄文時代

No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
73-12	磨製石斧	[13.4]	9.3	4.6	900	基部欠損	角閃岩	粗割途中 片面に自然面を残す
73-13	石鏃	[3.2]	2.4	0.3	2.2	先端部欠損	チャート	凹基無茎鏃
73-14	磨石	10.1	9.1	6.3	820	完形	石英安山岩	両面に磨面 片面にくぼみ
78-11	打製石斧	9.9	5.9	2.4	130	基部一部欠損	熱変成岩	欠損した刃部を再加工か 片面に自然面を残す
78-12	多孔石	[28.8]	21.0	15.8	25000	ㄨ	閃緑岩	片面にくぼみ
78-13	磨製石斧	15.4	7.3	4.3	900	両端部欠損	輝緑岩	粗割途中 両面に自然面を残す
79-6	くぼみ石	[13.2]	3.8	3.5	251	一部欠損	点紋絹雲母石片岩	両面にくぼみ
79-7	多孔石	27.0	12.3	5.0	2650	完形	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ
79-8	石皿	37.5	24.5	6.3	10400	ほぼ完形	点紋緑泥片岩	
91-7	打製石斧	9.0	4.7	1.0	43	完形	絹雲母石片岩	撥I型
91-8	スクレイパー	6.9	4.8	1.0	45	一部欠損	流紋岩	側縁に刃部
91-9	多孔石	[26.5]	[15.0]	[11.1]	4630	一部欠損	絹雲母石片岩	両面にくぼみ
92-11	打製石斧	[9.7]	[6.7]	[3.3]	160	刃部欠損	熱変成岩	分銅型か
92-12	磨製石斧	[6.2]	7.3	5.9	315	刃部欠損	角閃岩	研磨途中 側面に一部敲打痕を残す
95-7	磨製石斧	14.4	[5.4]	4.2	515	刃部一部欠損	安山岩	研磨段階
95-8	多孔石	26.6	12.7	8.6	4300	ㄨ	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ
98-9	石皿	24.5	22.6	7.0	6200	完形	安山岩	裏面に大きなくぼみあり
98-10	くぼみ石	[11.6]	7.7	3.1	385	一部欠損	絹雲母片岩	両面にくぼみ
98-11	打製石斧	9.6	6.2	2.6	140	完形	熱変成岩	分銅型か 刃部凸刃
110-9	石皿	45.0	19.3	5.0	6400	完形	絹雲母石片岩	磨面は平坦
110-10	多孔石	37.0	[10.8]	5.8	3300	ㄨ	絹雲母石片岩	両面にくぼみ
110-11	打製石斧	[8.0]	[4.2]	1.8	65	ㄨ	熱変成岩	撥II型
111-7	多孔石	[18.4]	14.0	13.1	5200	ㄨ	安山岩	3面にくぼみ 2面磨面 一部敲打痕を残す
115-5	磨製石斧	[7.5]	4.4	2.5	160	ㄨ	緑泥片岩	粗割途中 片面に自然面を残す
122-1	くぼみ石	9.1	8.4	3.9	395	完形	石英安山岩	両面にくぼみ・磨面 側面に敲打痕を残す
131-5	石鏃	1.6	1.4	0.3	0.4	完形	黒曜石	凹基無茎鏃
131-6	磨石	9.4	7.3	6.2	6.2	完形	安山岩	片面に磨面
131-7	磨石	11.3	9.7	5.3	950	完形	安山岩	両面にくぼみ・磨面 側面に一部敲打痕を残す
131-8	石皿	[29.9]	[18.4]	7.1	5000	ㄨ	点紋緑泥片岩	裏面にくぼみ 側面に一部敲打痕を残す
131-9	石棒	[6.4]	[3.1]	2.9	72	破片	点紋絹雲母片岩	全面に敲打痕を残す
133-7	くぼみ石	16.0	8.0	4.1	1100	完形	緑簾緑泥片岩	両面にくぼみ・磨面 側面に敲打痕を残す
133-8	くぼみ石	[10.2]	6.6	1.6	192	ㄨ	輝緑岩	片面にくぼみ
133-9	磨石	12.6	9.0	5.0	825	完形	安山岩	片面にくぼみ 断面三角形 側面に敲打痕
133-10	敲石	14.6	4.9	4.5	485	完形	安山岩	一方の端部に敲打痕
141-2	多孔石	32.4	19.9	15.7	13500	完形	石英安山岩	両面にくぼみ 側面に一部敲打痕を残す
145-2	丸石	4.2	3.1	2.7	45	完形	安山岩	
149-4	打製石斧	[6.5]	5.6	1.6	55	基部欠損	熱変成岩	形態分類不能 刃部は凸刃
149-5	砥石	[4.7]	3.9	1.0	25	破片	砂岩	片面に研ぎ面
153-10	石錘	6.7	3.7	1.1	40	完形	緑泥片岩	両端部に刻み
165-12	くぼみ石	[14.9]	5.9	3.5	560	一部欠損	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ 側面に敲打痕を顕著に残す
168-17	くぼみ石	15.5	5.9	3.5	395	完形	安山岩	両面にくぼみ・磨面
168-18	多孔石	[17.8]	[7.5]	[7.5]	1100	破片	安山岩	
168-19	くぼみ石	[17.8]	[4.0]	5.1	670	ㄨ	点紋緑泥片岩	片面にくぼみ
168-20	多孔石	28.5	13.2	8.4	4000	ほぼ完形	紅簾絹雲母片岩	両面にくぼみ
177-2	打製石斧	[7.2]	5.0	2.1	120	基部欠損	熱変成岩	撥I型 刃部は凸刃 片面に自然面を残す
178-5	くぼみ石	12.6	11.0	4.0	570	完形	砂岩	両面にくぼみ 片面に磨面
179-11	磨石	8.9	8.7	4.6	480	完形	安山岩	片面にくぼみ 片面に磨面
179-12	磨石	7.6	6.2	2.6	160	完形	流紋岩	片面に磨面
179-13	くぼみ石	19.3	15.5	3.5	1500	完形	紅簾絹雲母片岩	片面にくぼみ
182-2	磨製石斧	[5.8]	4.9	2.6	105	基部欠損	輝緑岩	研磨段階 片面に敲打痕を残す
182-3	打製石斧	[6.3]	5.5	3.3	110	基部欠損	安山岩	撥I型 刃部凸刃
182-4	磨石	10.5	8.3	3.5	550	完形	輝緑岩	両面に磨面 片面にくぼみ 側面に敲打痕を残す
183-1	石核	12.2	8.9	8.8	1000	完形	鉾滓	自然面を残す
189-1	スクレイパー	[6.4]	6.8	2.7	190	ㄨ	流紋岩	端部に刃部 片面に自然面を残す
189-2	磨石	6.2	5.8	3.1	60	一部欠損	安山岩	両面に磨面
192-5	打製石斧	[7.1]	5.5	1.1	50	刃部欠損	熱変成岩	分銅型
193-5	打製石斧	[8.6]	5.4	2.3	130	基部欠損	熱変成岩	短冊型
193-6	くぼみ石	19.5	5.5	3.7	610	完形	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ
195-15	打製石斧	[10.0]	4.5	2.1	88	基部欠損	熱変成岩	撥II型 刃部は凸刃
197-1	打製石斧	[8.4]	7.6	3.2	260	刃部欠損	角閃岩	撥II型(?) 磨製石斧の可能性あり

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
198-31	磨製石斧の破片	10.6	9.7	3.5	285	完形	流紋岩	側縁に微細剝離痕あり
198-32	石皿	[11.1]	[6.5]	[3.8]	360	½	点紋絹雲母片岩	側面に敲打痕を残す
198-33	打製石斧	[6.5]	[5.7]	2.2	105	両端部欠損	安山岩	形態分類不能 自然面を一部残す
198-34	くぼみ石	15.5	8.3	5.1	900	完形	点紋緑泥片岩	両面にくぼみあり
198-35	石皿	[24.3]	[17.7]	[10.5]	3700	½	砂岩	両面に磨面・くぼみあり
198-36	くぼみ石	12.0	6.0	3.4	320	完形	安山岩	片面にくぼみあり
198-37	石皿	[17.5]	20.1	7.1	3400	½	安山岩	片面に磨面
198-38	磨製石斧	19.7	8.0	4.8	1200	ほぼ完形	輝緑岩	粗割途中 片面に自然面を残す
198-39	ノッチ	6.9	7.6	2.0	75	完形	角閃岩	側縁片側にくぼみあり
199-1	打製石斧	[9.9]	[9.5]	3.7	455	½	流紋岩	撥I型か 未製品の可能性あり
199-2	磨石	[5.3]	6.4	4.1	205	½	安山岩	両面にくぼみ・磨面 側面に一部敲打痕を残す
208-1	くぼみ石	16.0	7.8	4.2	480	完形	流紋岩	両面にくぼみ・磨面 側面に敲打痕を残す
209-3	石皿	[11.2]	[9.0]	4.3	475	破片	砂岩	片面に磨面
217-5	打製石斧	[9.5]	[6.2]	2.3	130	刃部欠損	熱変成岩	撥II型 片面に自然面を残す
217-6	スクレイパー	[8.1]	4.9	0.8	35	½	熱変成岩	側縁に刃部
230-2	石鏃	[1.4]	1.2	0.3	0.4	先端部欠損	チャート	平基無茎鏃
231-4	磨石	9.9	9.3	5.4	625	完形	流紋岩	片面に磨面
235-3	磨製石斧	8.9	5.4	1.9	120	一部欠損	緑簾緑泥片岩	粗割途中 両面に自然面を残す
235-4	多孔石	[21.0]	[14.1]	4.0	1500	½	点紋絹雲母片岩	両面にくぼみ
235-5	不明	9.2	11.5	6.9	780	完形	安山岩	中心に径27mm・7mmの2孔貫通 外面にくぼみ
238-9	打製石斧	7.5	5.7	2.3	115	完形	熱変成岩	撥II型
238-10	台石	24.2	25.4	5.5	5800	完形	安山岩	両面に一部敲打痕を残す
238-11	多孔石	[13.8]	[11.9]	[1.8]	345	破片	絹雲母片岩	両面にくぼみ
240-8	多孔石	[12.6]	9.6	[6.6]	1400	½	安山岩	片面にくぼみ・敲打痕を残す
242-4	不明	4.2	2.3	1.7	30	完形	ヒスイ	全面研磨
242-5	石棒	[9.2]	3.8	3.1	185	½	点紋絹雲母片岩	全面に敲打痕を残す
245-2	石鏃	[4.8]	[1.9]	1.0	6.0	½	チャート	凸基有茎鏃
245-3	多孔石	[13.6]	[8.2]	[8.1]	900	½	砂岩	片面にくぼみ

(4) 埋設土器

1号埋設土器

位置 C70-I 61 Gr 重複 なし
掘り方

平面形態 楕円形

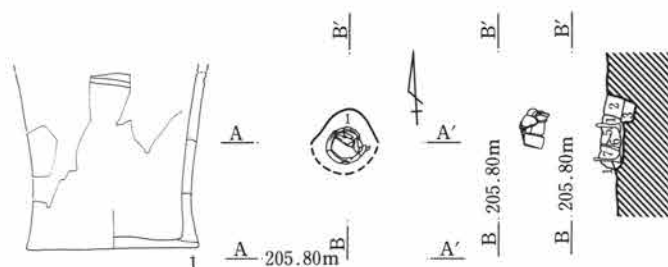
規模 0.27m×0.25m 深さ 13cm

主軸方位 N-81°-W

出土状況 正位であるが、やや北に傾いている。上部は削平等により壊され、破片が土器内部から出土している。

出土遺物 土器は埋設土器を含めてIX群が8点、XI群1類が1点、計9点出土している。

備考 埋設土器は後期堀之内II式と考えられる。



1号埋設土器土層注記

- 1 暗褐色土 粘性弱い
- 2 暗褐色土 黄色粒子を微量含む
- 3 暗褐色土 締まり弱い
- 4 暗褐色土 黄色粒子を微量含む 粘性・締まり強い
- 5 暗褐色土 粘性弱い
- 6 黒褐色土 締まり強い
- 7 黒褐色土 締まり弱い



1号埋設土器

2号埋設土器

位置 C72-I 57 Gr 重複 なし
掘り方

平面形態 円形

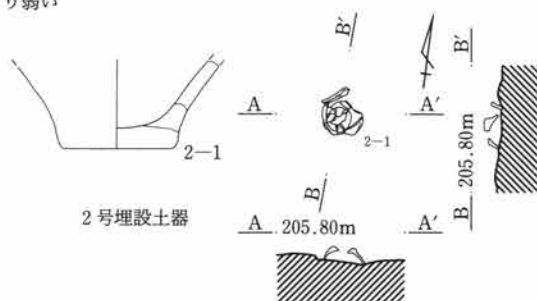
規模 0.18m×0.13m 深さ 7cm

主軸方位 N-55°-E

出土状況 逆位で出土した。

出土遺物 XI群1類の埋設土器の他にXII群の破片が1点出土している。

備考 埋設土器は無文の底部のため時期は不明である。



2号埋設土器

3号埋設土器

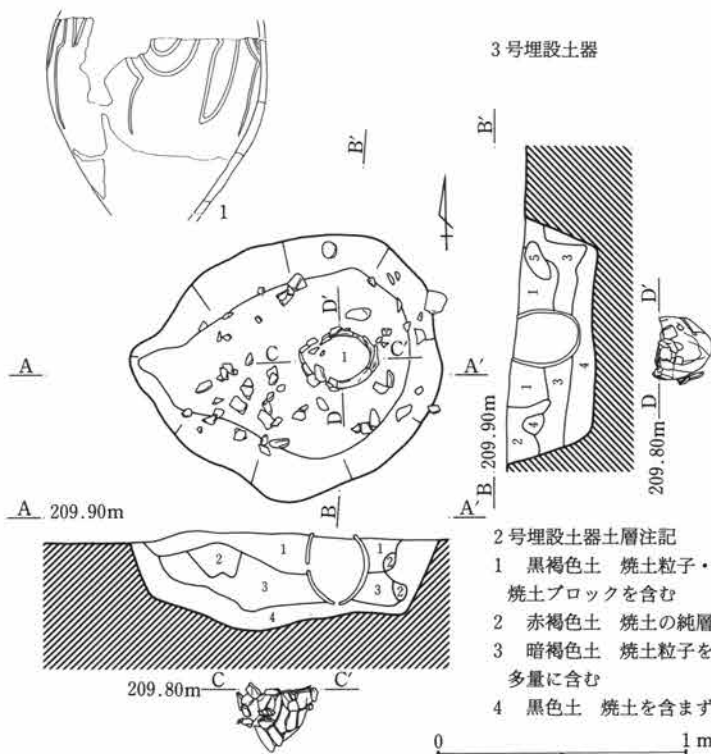
位置 C77~78-I 15~16 Gr 重複 なし
掘り方

平面形態 楕円形

規模 1.23m×0.99m 深さ 38cm

主軸方位 N-85°-E

出土状況 比較的規模の大きい掘り方の中央西寄り、底面より5cmほど上の位置に正位で出土した。



3号埋設土器

2号埋設土器土層注記

- 1 黒褐色土 焼土粒子・焼土ブロックを含む
- 2 赤褐色土 焼土の純層
- 3 暗褐色土 焼土粒子を多量に含む
- 4 黒色土 焼土を含まず

第119図 1~3号埋設土器

第三章 検出された遺構と出土遺物

出土遺物 埋設土器（VII群）以外にも、掘り方内からIV・V群3点、VI群1点、VII群41点、X群2類1点、XI群2類29点、XII群1点、計78点の土器が出土している。

備考 埋設土器は、後期称名寺II式と考えられる。

4号埋設土器

位置 C65-II8 Gr **重複** なし

掘り方

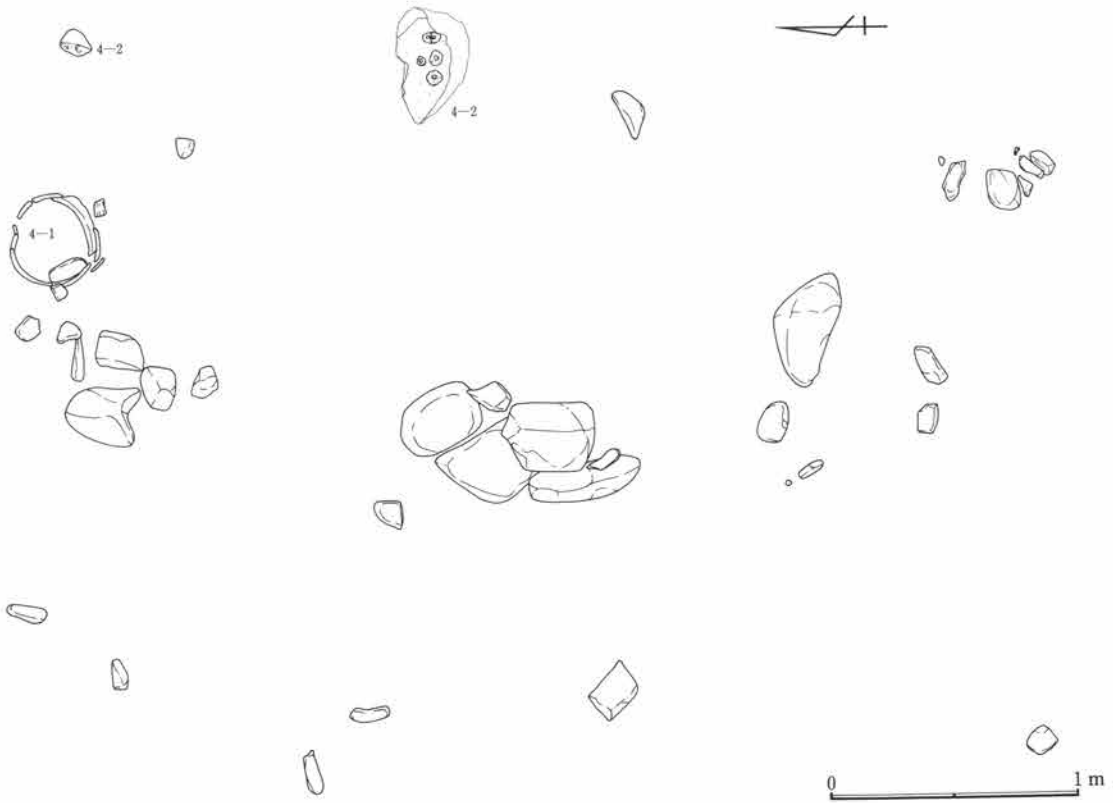
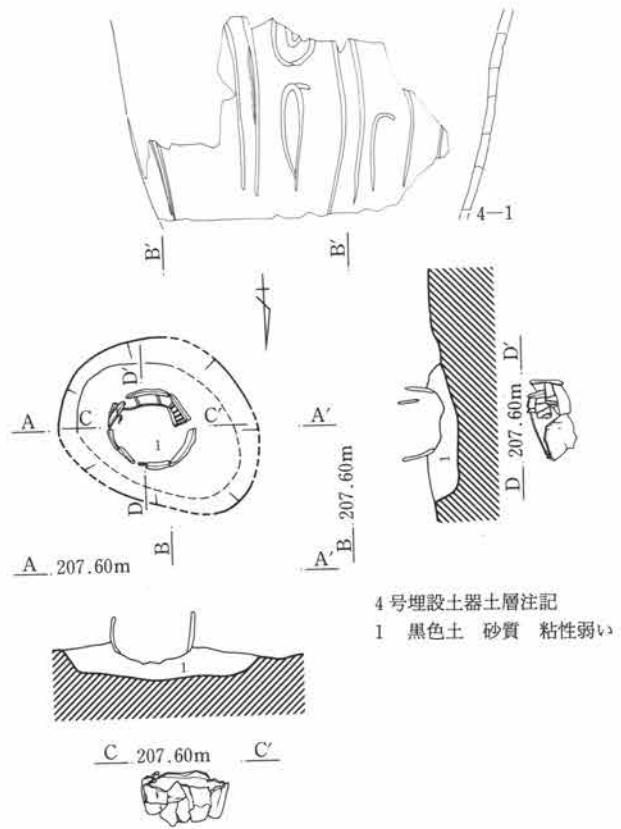
平面形態 楕円形 **規模** 0.83m×0.64m

深さ 25cm **主軸方位** N-58°-W

出土状況 大型の深鉢の胴部が正位で出土した。復元すると全周しないため破片を組み合わせる埋設した可能性がある。また、埋設土器の周辺に径10~40cmの礫が点々と不規則に並んだ配石が存在している。

出土遺物 埋設土器も含めてVII群の土器が3点出土し、多孔石が1点出土している。

備考 埋設土器は後期称名寺II式と考えられる。



第120図 4号埋設土器および周辺配石

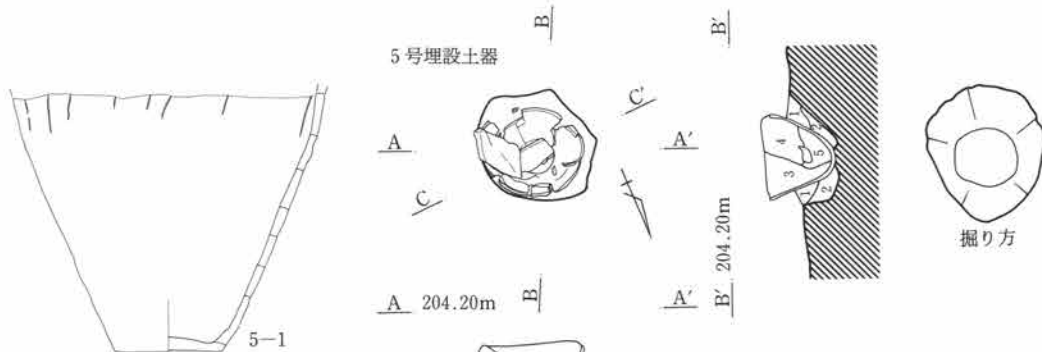
5号埋設土器

位置 C58~59-I77~78 Gr 重複 なし

掘り方 平面形態 円形 規模 0.53m×0.46m 深さ 22cm 主軸方位 N-22°-E

出土状況 土器よりもやや大きい掘り方中に、深鉢の下半部が正位で出土した。割れ口はきれいに水平になっているため、削平等で割れたものでなく、この状態で埋設されたものと考えられる。土器内の覆土中から蓋石と考えられる砂岩（石皿の破片）が出土している。

出土遺物 埋設土器（VII群）の他にXI群2類が1点出土しており、石皿の破片が1点出土している。



備考 埋設土器は称名寺II式と考えられる。

5号埋設土器土層注記

- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子を微量含む
- 3 暗褐色土 白色・黄色粒子を極微量含む
- 4 暗褐色土 黄色粒子を微量含む 粘性強い
- 5 黒褐色土 白色粒子・黄色粒子を微量含む

6号埋設土器

位置 C67~68-II11~12 Gr

重複 なし

掘り方

平面形態 円形

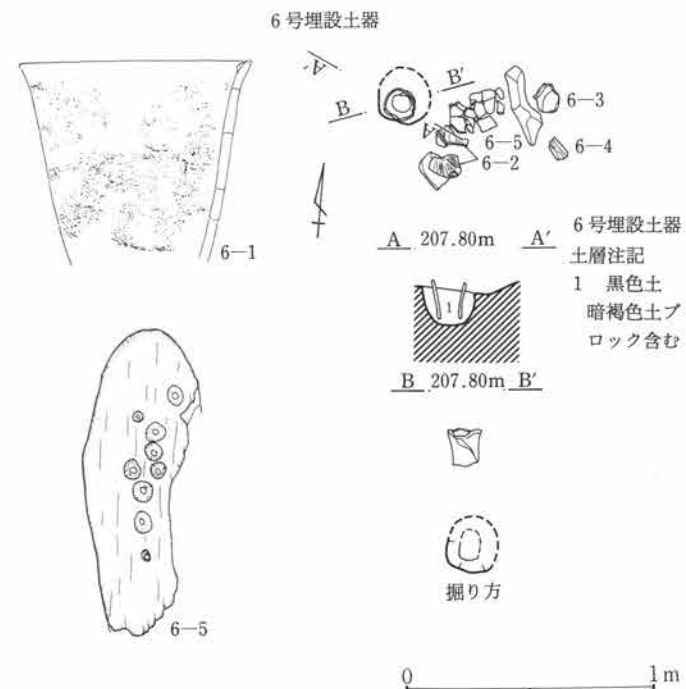
規模 0.23m×0.2m 深さ 18cm

主軸方位 N-30°-W

出土状況 底部のない深鉢が正位で出土している。また、南東部から、埋設土器と同時期の土器片を含む配石が検出されているが、埋設土器に伴うものかどうかははっきりしない。

出土遺物 埋設土器を含むII類の土器が54点、V群・VI群各1点、VII群2点、X群2類1点、XI群1類8点、XI群2類15点、不明1点、計83点出土している。また配石中から多孔石が1点出土している。

備考 埋設土器は中期初頭五領ヶ台式と考えられる。



6号埋設土器

6号埋設土器土層注記

- 1 黒色土
- 暗褐色土
- ブロック含む

0 1m

第121図 5・6号埋設土器

7号埋設土器

位置 C69~70-I 96 Gr

重複 なし

掘り方

平面形態 円形

規模 0.75m×0.67m

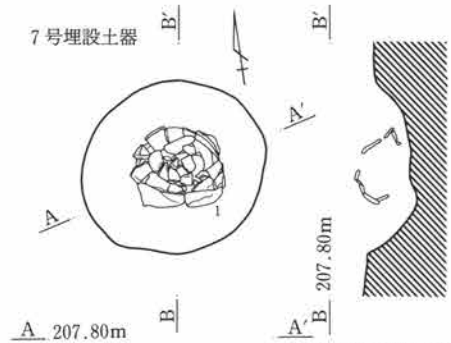
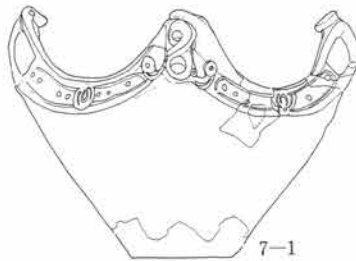
深さ 23cm

主軸方位 N-56°-E

出土状況 浅鉢が、底面から5cm程上の位置で逆位で出土した。底部はないが、削平により壊された可能性はある。

出土遺物 埋設土器も含めて、V群1点、VI群2点、VII群3点、XI群1類7点、XI群2類8点、計21点の土器が出土している。

備考 埋設土器は後期称名寺II式と考えられる。



7号埋設土器土層注記

- 1 明褐色土 ローム・黒褐色土ブロックを含む
- 2 明褐色土 黄褐色土ブロックを含む
- 3 黄褐色土 ロームに似る
- 4 明褐色土 ロームブロック含む

9号埋設土器

位置 C94-II 62~63 Gr 重複 なし

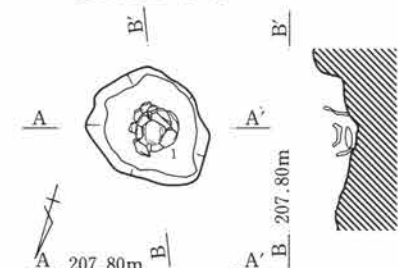
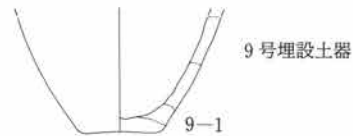
掘り方 平面形態 楕円形 規模 0.51m×0.42m

深さ 10cm 主軸方位 N-60°-W

出土状況 深鉢胴部下半部が正位で出土しているが、底部は掘り方底面よりもかなり上部にあり、下から磨石が出土している。おそらく底部を割って、埋設した胴部の中に磨石とともに入れたものであろう。

出土遺物 埋設土器を含めて、XI群1類が26点出土しており、他に磨石が1点出土している。

備考 埋設土器は無文であるため時期は不明である。



9号埋設土器土層注記

- 1 赤褐色土 焼土層
- 2 暗黄褐色土 焼土ブロックを少量含む
- 3 暗黄褐色土

10号埋設土器

位置 C73-II 36 Gr 重複 なし

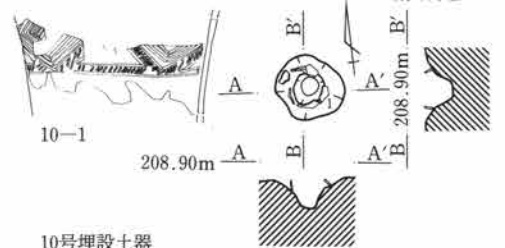
掘り方 平面形態 円形 規模 0.27m×0.24m

深さ 12cm 主軸方位 N-58°-W

出土状況 深鉢の胴部だけが埋設されている。4号埋設土器同様接合すると全周しないため、胴部破片を組み合わせる可能性が高い。

出土遺物 IX群の土器が5点、XI群1類が2点、計7点出土している。

備考 埋設土器は後期堀之内II式と考えられる。



10号埋設土器



第122図 7・9・10号埋設土器

12号埋設土器

位置 C71~72-II40 Gr 重複 なし

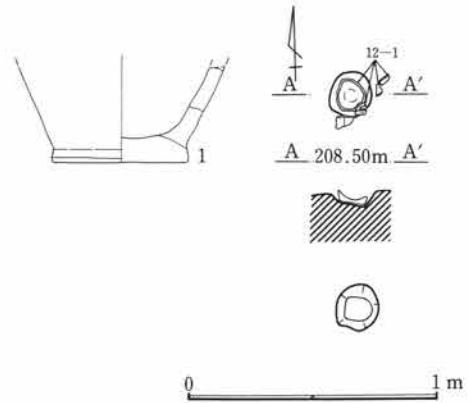
掘り方 平面形態 円形 規模 0.18m×0.17m

深さ 7cm 主軸方位 N-17°-E

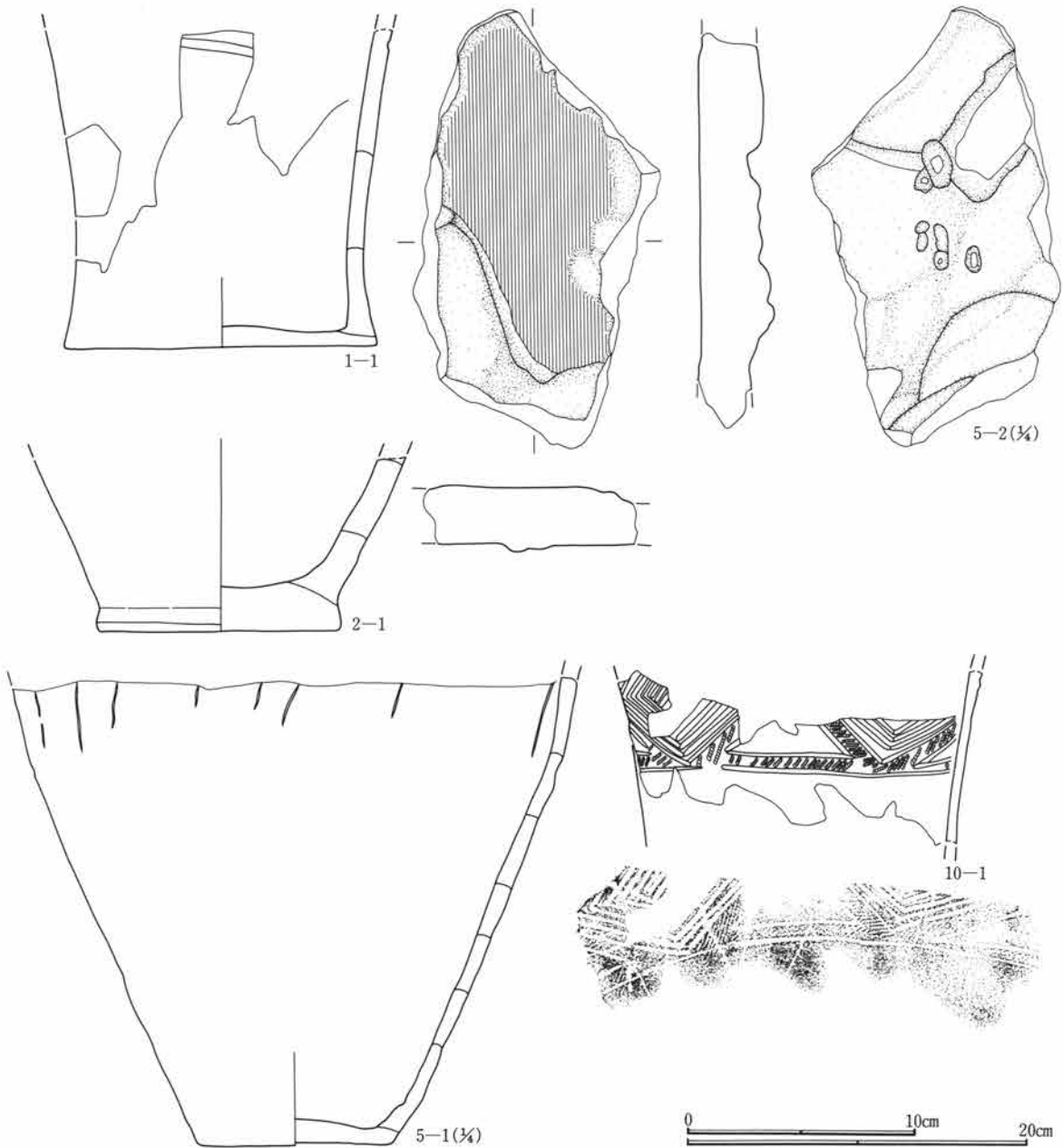
出土状況 深鉢の底部が正位で出土しているが、その胴部破片も周囲から数点出土しており、削平等により壊された可能性が高い。

出土遺物 埋設土器の他、IV・V群が3点出土している。

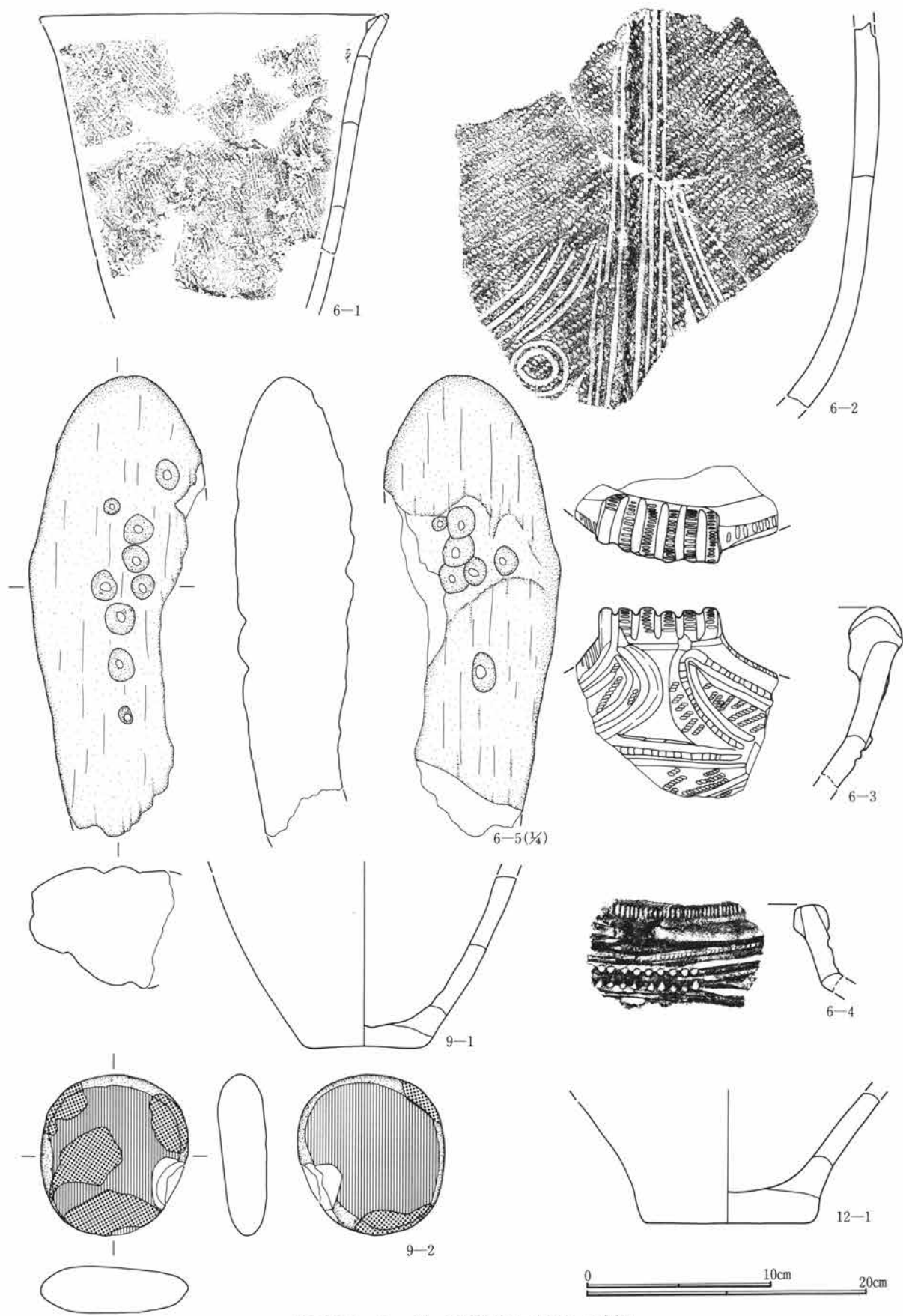
備考 埋設土器は無文のため、時期は不明である。



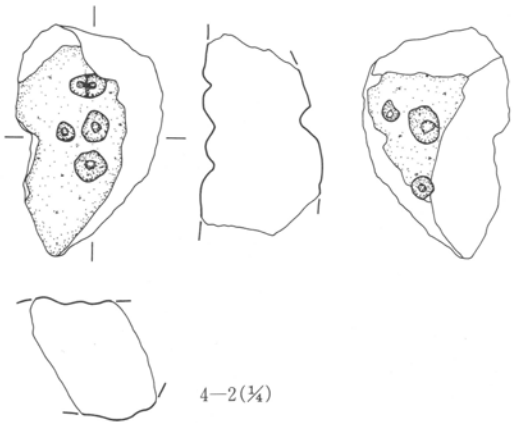
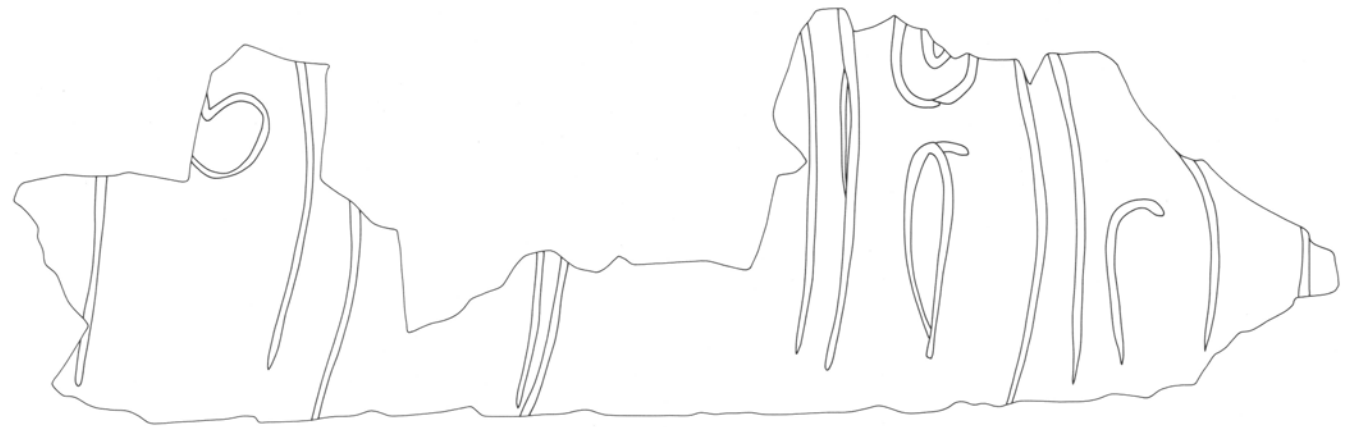
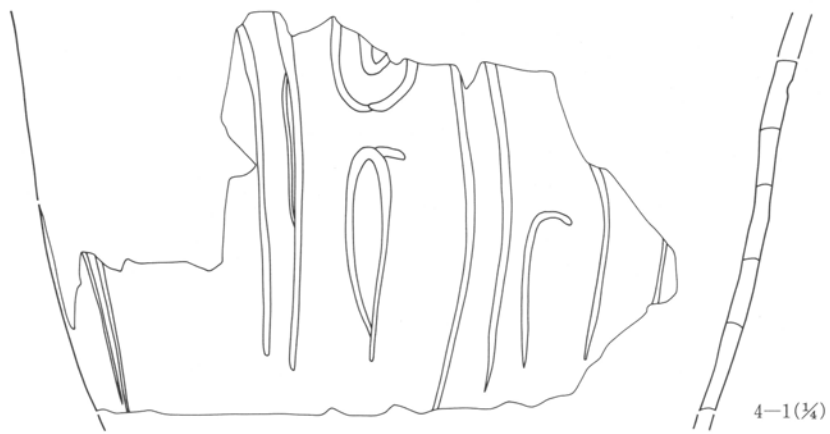
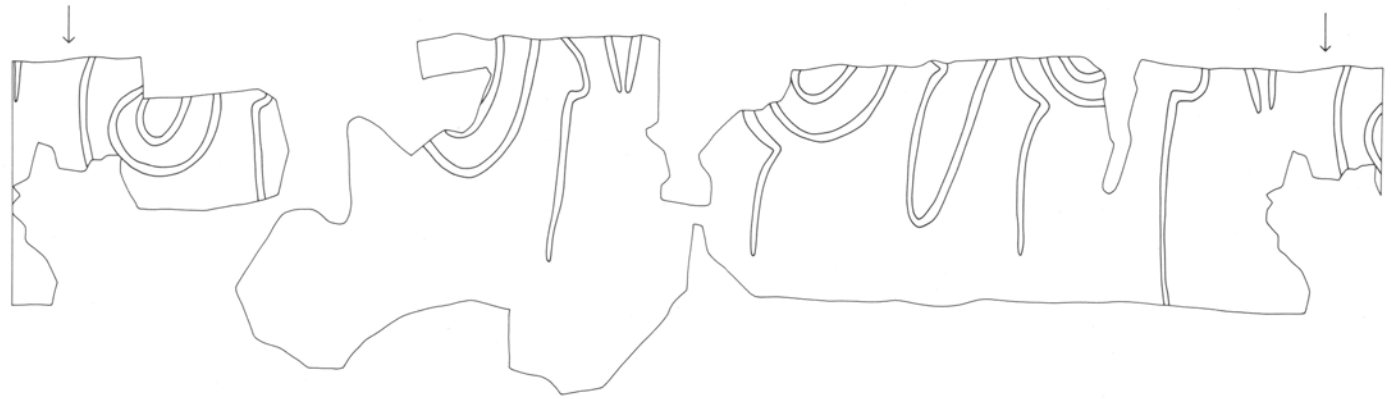
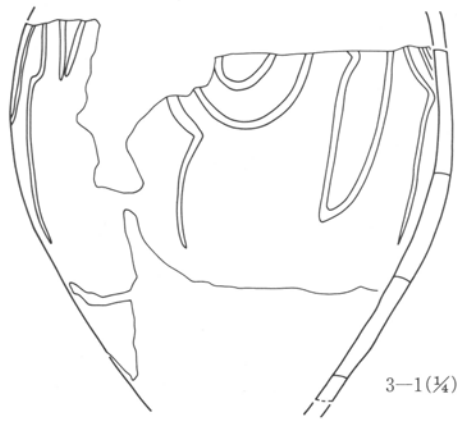
第123図 12号埋設土器



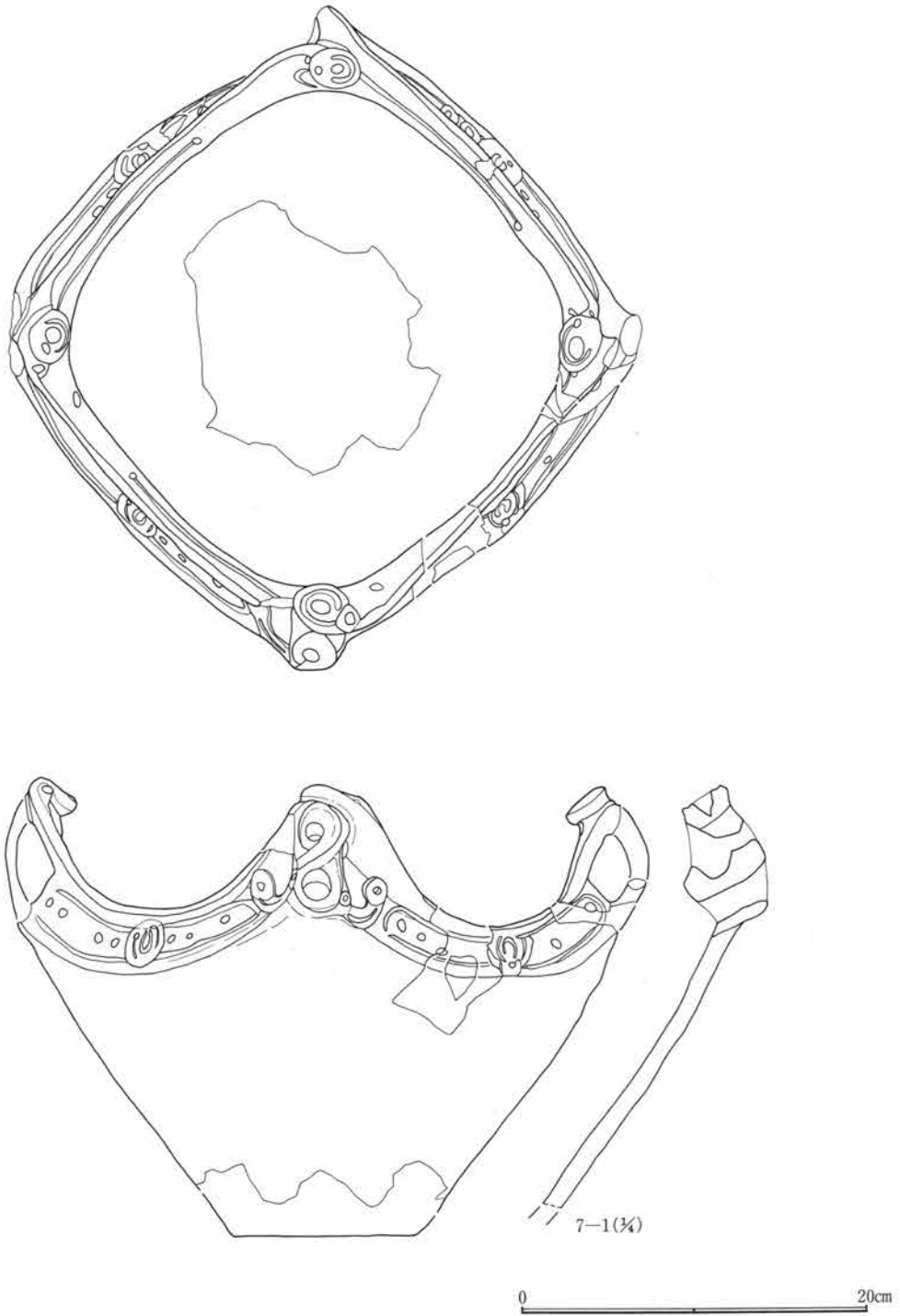
第124図 1・2・5・10号埋設土器出土遺物



第125図 6・9・12号埋設土器出土遺物



第126図 3・4号埋設土器出土遺物



第127図 7号埋設土器出土遺物

埋設土器出土土器観察表

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量 調整	文様要素	分類	備考
1	深鉢 胴~底	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径13.7cm 底部全周 内外面研磨	沈線	IX-2	
2	深鉢 胴~底	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径8.9cm 1/6残存 内外面研磨・ナデ		VII	
3	深鉢 胴部	①にぶい赤褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	胴部最大径23.6cm 内外面研磨	沈線	VII-2	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No.	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量 調整	文様要素	分類	備考
4	深鉢	①暗褐 ②にぶい黄褐 ③良好	胴径45.0cm ½残存	沈線	VII-2	
1	胴部	④普通 砂粒を含む	内面ナデ外面研磨			
5	深鉢	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好	底径11.6cm 底部全周	沈線	VII-2	
1	胴～底	④普通 砂粒・礫を含む	内外面研磨			
6	深鉢	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③不良	口径(18.6cm) 口縁部	L R結節縄文縦回転	II-4	
1	口～胴	④普通 砂粒・礫を含む	一部残存 内面研磨			
6	深鉢	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好	器厚11～13mm	隆帯文 R L縄文施文後沈線	II-3	
2	胴部	④粗 砂粒・雲母を含む	内面研磨			
6	深鉢	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好	器厚12～28mm	隆帯文 半截竹管状工具による沈線・結節沈線 R L縄文	II-1	
3	口縁部	④粗 砂粒・礫を含む	内面研磨			
6	深鉢	①にぶい褐 ②褐 ③良好	器厚10～19mm	貼付文・隆帯文 半截竹管状工具による結節沈線	II-1	
4	口縁部	④粗 砂粒を含む	内面研磨			
7	浅鉢	①灰黄褐 ②にぶい橙 ③良好	口径32.4cm	4単位の橋状把手の1カ所に注口	VII-5	
1	口～胴	④普通 砂粒を多く含む	内外面研磨	口縁部内外面に沈線・刺突文		
9	深鉢	①明褐 ②にぶい褐 ③不良	底径(6.5cm)		X-1	
1	胴～底	④粗 砂粒・礫を多く含む	内外面研磨か			
10	深鉢	①暗赤褐 ②黒褐 ③良好	胴径15.8cm ½残存	沈線区画内にL R磨消縄文	IX-2	
1	胴部	④普通 砂粒を多く含む	内外面研磨			
12	深鉢	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好	底径10.5cm 底部全周		X-2	
1	底部	④普通 砂粒・礫を含む	内外面研磨			

埋設土器出土石器観察表

No.	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
4-2	多孔石	[12.2]	[7.8]	[6.5]	570	破片	石英安山岩	両面にくぼみあり
5-2	石皿	[25.5]	[14.5]	4.3	1500	½	砂岩	裏面にくぼみあり
6-5	多孔石	[32.5]	[12.5]	8.6	4400	½	点紋緑泥片岩	一部敲打痕を残す
9-2	磨石	8.5	7.8	2.4	180	ほぼ完形	安山岩	両面に磨面 黒色付着物あり

(5) 配石遺構他

1号配石遺構

位置 C71～73-I59～62 Gr 重複 なし 規模 4.1m×4.06m 主軸方位 N-74°-W

配石状況 径20～70cmの礫を東西に2列やや距離をおいて線状に配し、南の列はその南側にも配石している。

出土遺物 土器は、II群1点、IV・V群7点、VI群6点、VII群9点、VIII群8点、X群1類3点、XI群1類5点、XI群2類37点、XII群1点の計77点出土し、石器は、打製石斧1点、剥片11点、石核1点が出土している。

18・19号配石遺構

位置 C59～60-II19～20 Gr 重複 なし 規模 3.42m×3.12m 主軸方位 N-51°-E

配石状況 2つの配石として調査したが、連続しているため1つの配石とした。長さ20～40cmの偏平な割り石が3点並んで検出され、周辺に径10～20cmの礫が不規則に配石されている。

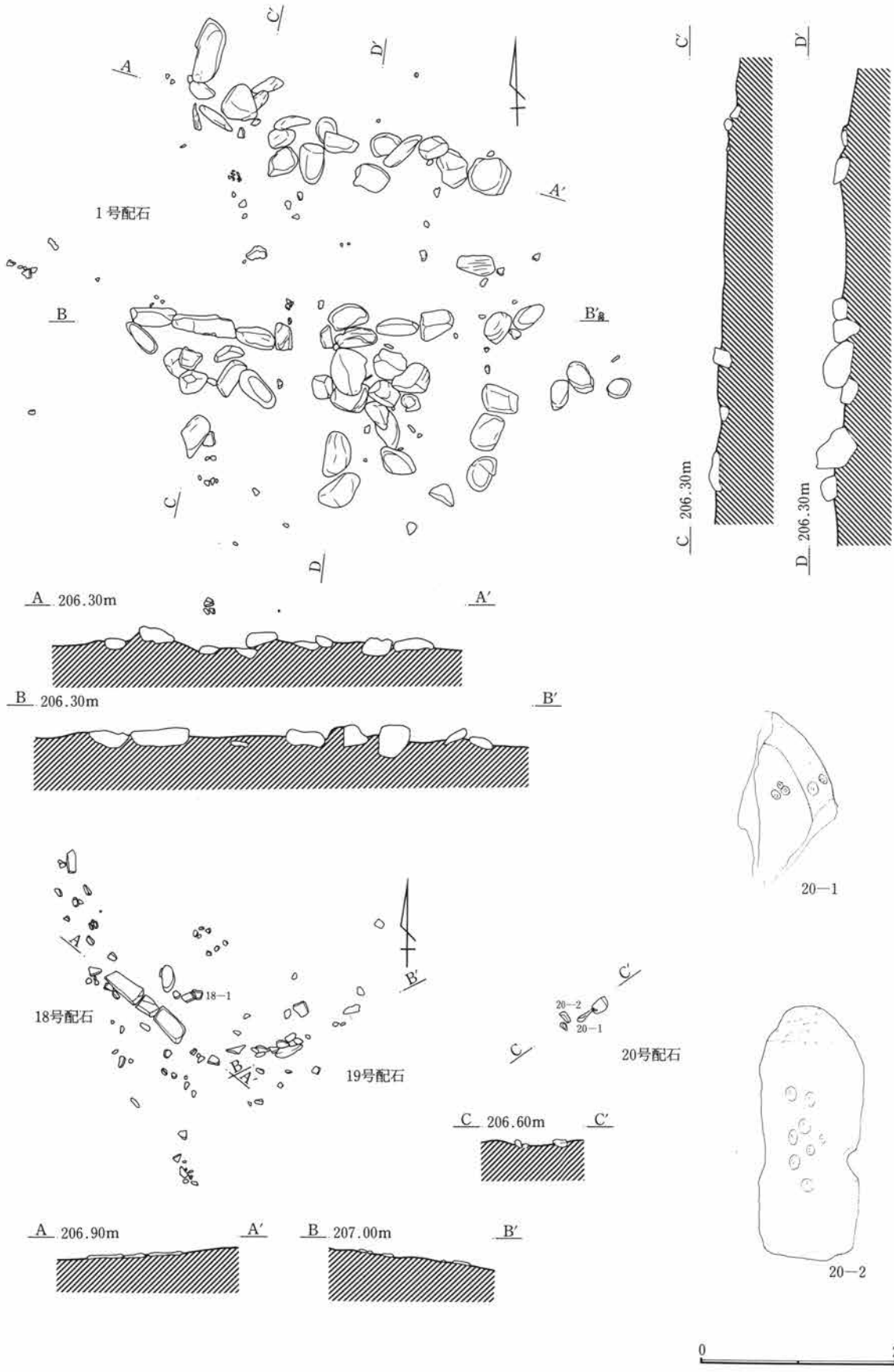
出土遺物 IV・V群5点、VI群6点、VII群1点、VIII群5点、X群2類6点、XI群2類9点、計32点の土器が出土している。

20号配石遺構

位置 C60-II18 Gr 重複 なし 規模 0.54m×0.22m 主軸方位 N-58°-E

配石状況 18・19号配石と近接しており、径5～20cmの礫4点を線状に並べた小規模な配石である。

出土遺物 配石として、石皿・多孔石が各1点出土している。



第128図 1・18~20号配石遺構

16号配石遺構

位置 C83-II42 Gr 重複 なし

規模 1.0m×0.42m 配石状況 径

5~20cmの礫を不規則に並べている。

出土遺物 配石として多孔石が1点出土している。

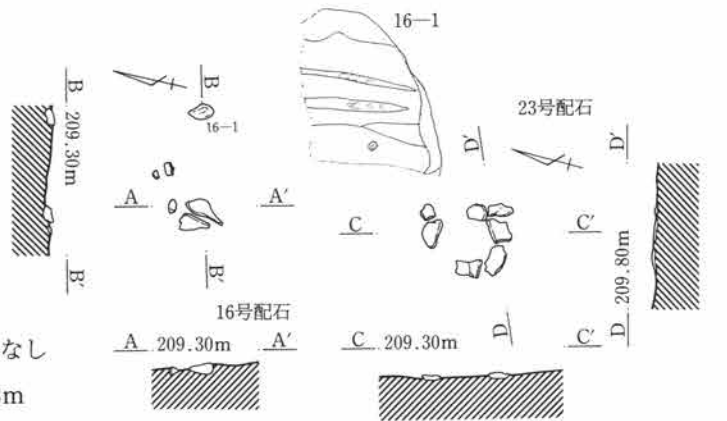
23号配石遺構

位置 C81~82-II41~42 Gr 重複 なし

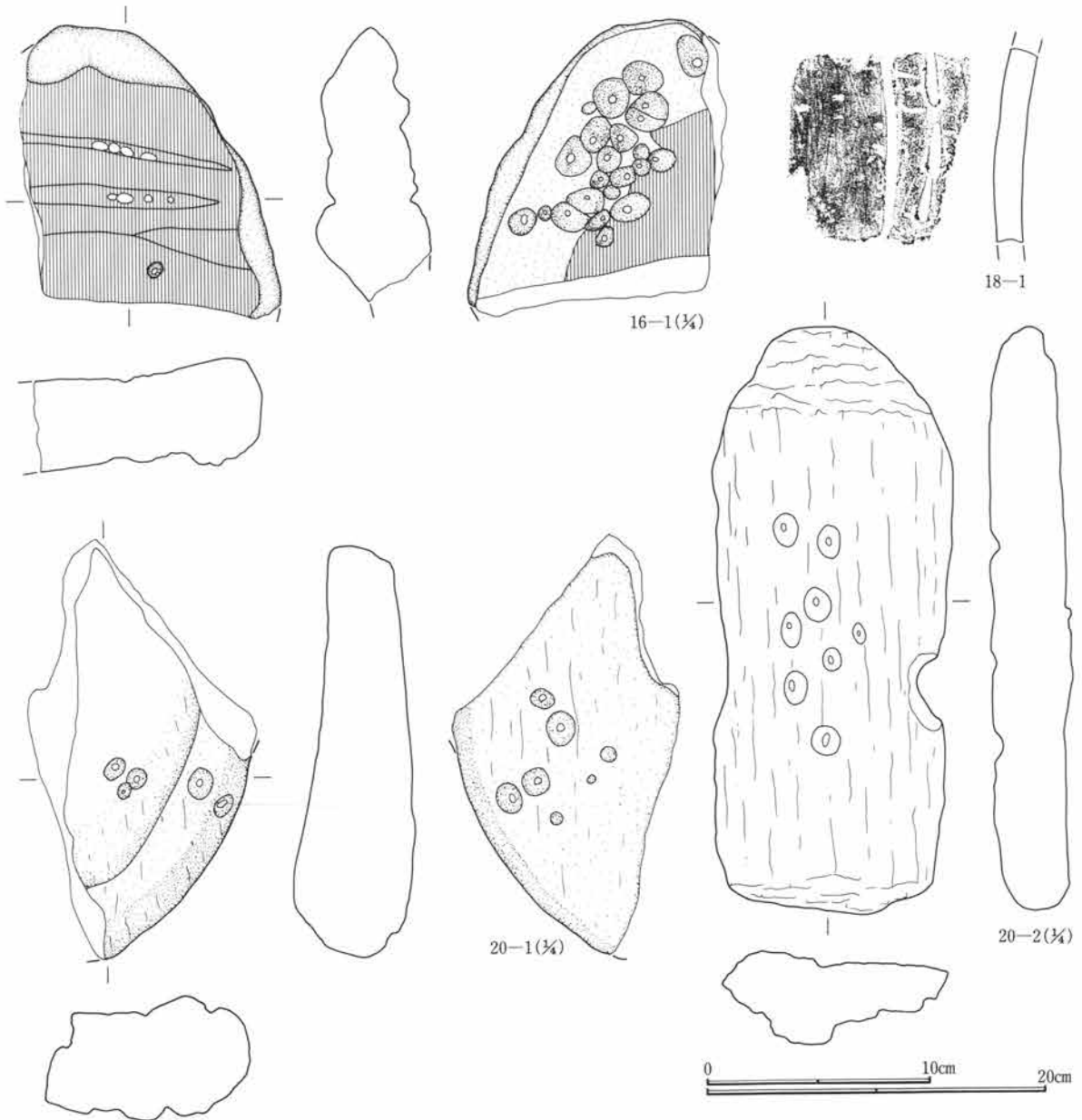
平面形態 楕円形 規模 0.76m×0.58m

配石状況 16号配石と近接しており、径10~20cm

の扁平な礫を楕円形に並べる。出土遺物 なし



第129図 16・23号配石遺構



第130図 16・18・20号配石遺構出土遺物

配石遺構出土土器観察表

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調 量整	文様要素	分類	備考
18 1	深鉢 胴部	①褐灰 ②淡黄 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11~12mm 内外面研磨	沈線区画内に連続する短沈線	VII-1	

配石遺構出土石器観察表

No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
16-1	砥石	[17.2]	[15.3]	6.7	1800	1/4	砂岩	2条の溝あり 裏面にくぼみ・磨面あり
20-1	石皿	[24.4]	[13.3]	7.2	2700	破片	点紋緑泥片岩	両面にくぼみあり
20-2	多孔石	34.0	13.6	5.0	3500	完形	絹雲母石墨片岩	片面にくぼみ 両側縁にえぐりあり 一部赤化

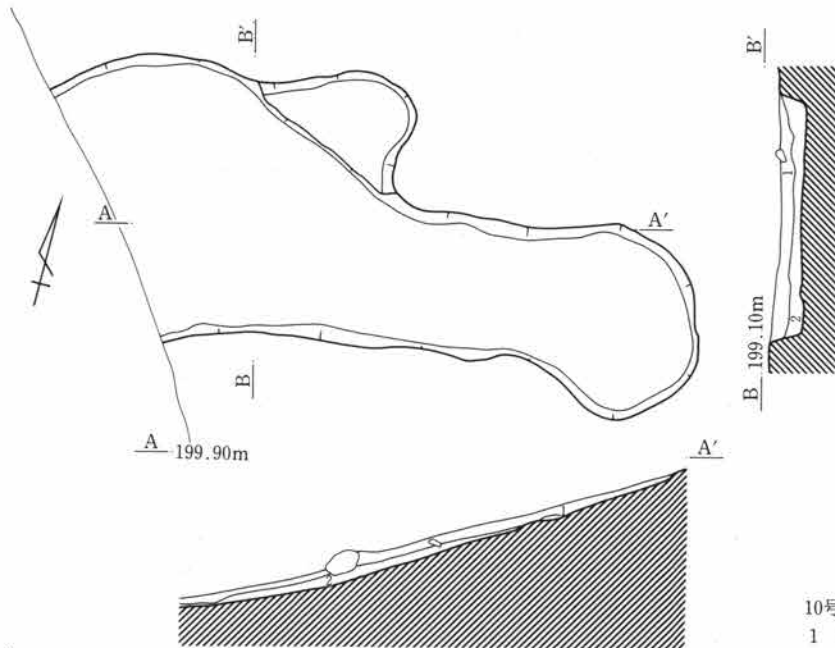
10号溝

位置 C 58~59-I 70~72 Gr 重複 なし 規模 長さ [5.6m] 幅1.0m~2.3m

深さ 16cm~22cm 走向 N-76°-W

掘り方 底部は、東から西に向かい下がっており、高低差は1mに及ぶ。南北方向はほぼ水平で、立ち上がりは比較的急で断面は台形である。

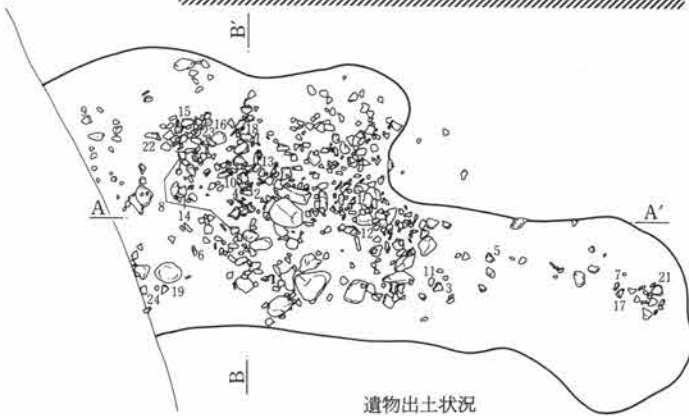
遺物 出土遺物は多く、中央やや西よりに土器片や礫が集中して出土している。土器は、I群3点、II群14



点、III群1点、IV・V群31点、VI群14点、VII群58点、VIII群23点、IX群32点、X群1類9点、X群2類5点、XI群1類39点、XI群2類169点、XII群1点、不明1点、計399点出土し、石器は、打製石斧1点、丸石2点、剥片12点が出土している。

10号溝土層注記

- 1 暗褐色土 白色粒子を多量に含む
- 2 褐色土 白色粒子を少量含む



遺物出土状況

第131図 10号溝

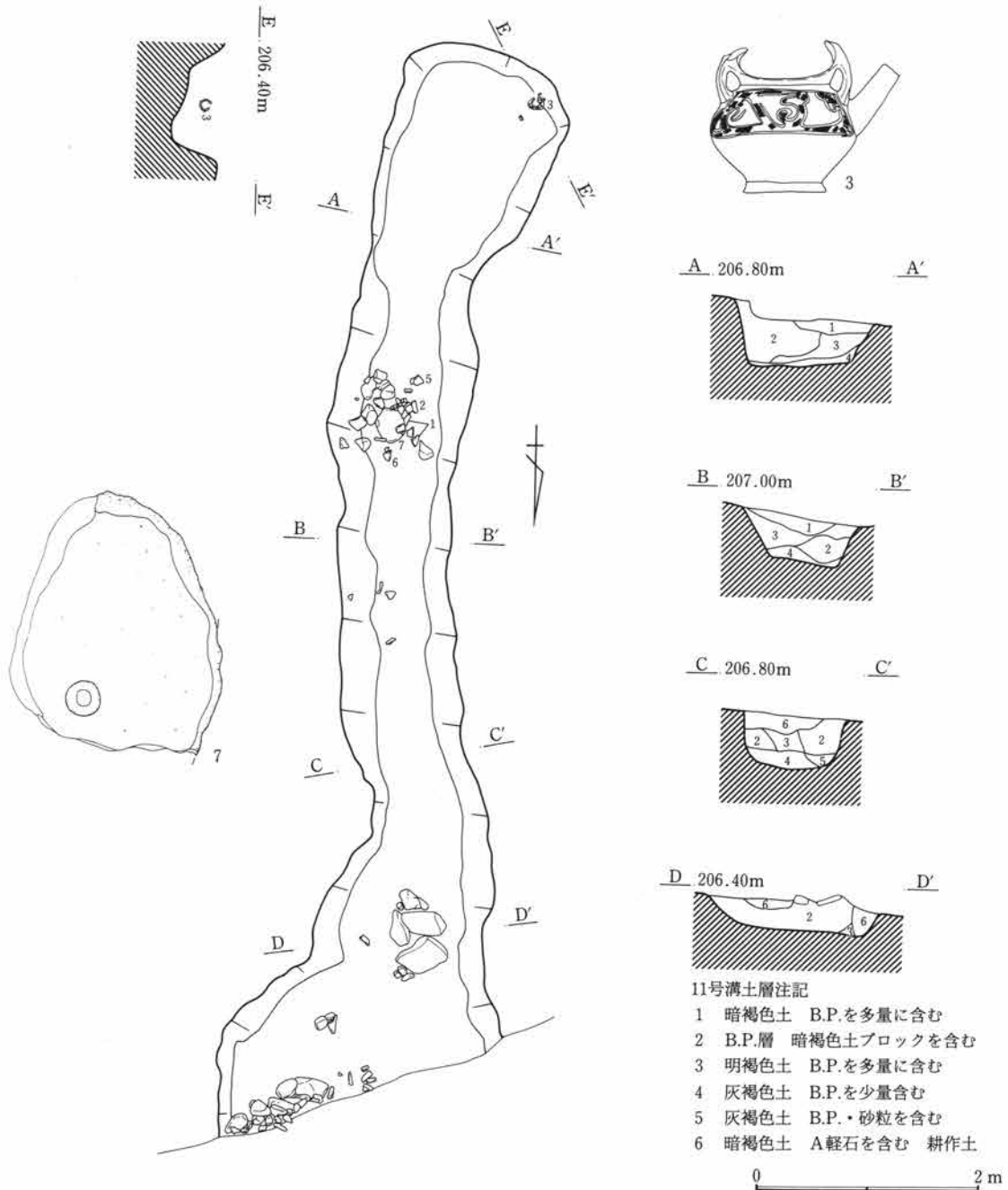
11号溝

位置 C54~59-II47~49 Gr 重複 なし 規模 長さ [9.94m] 幅0.96m~2.66m

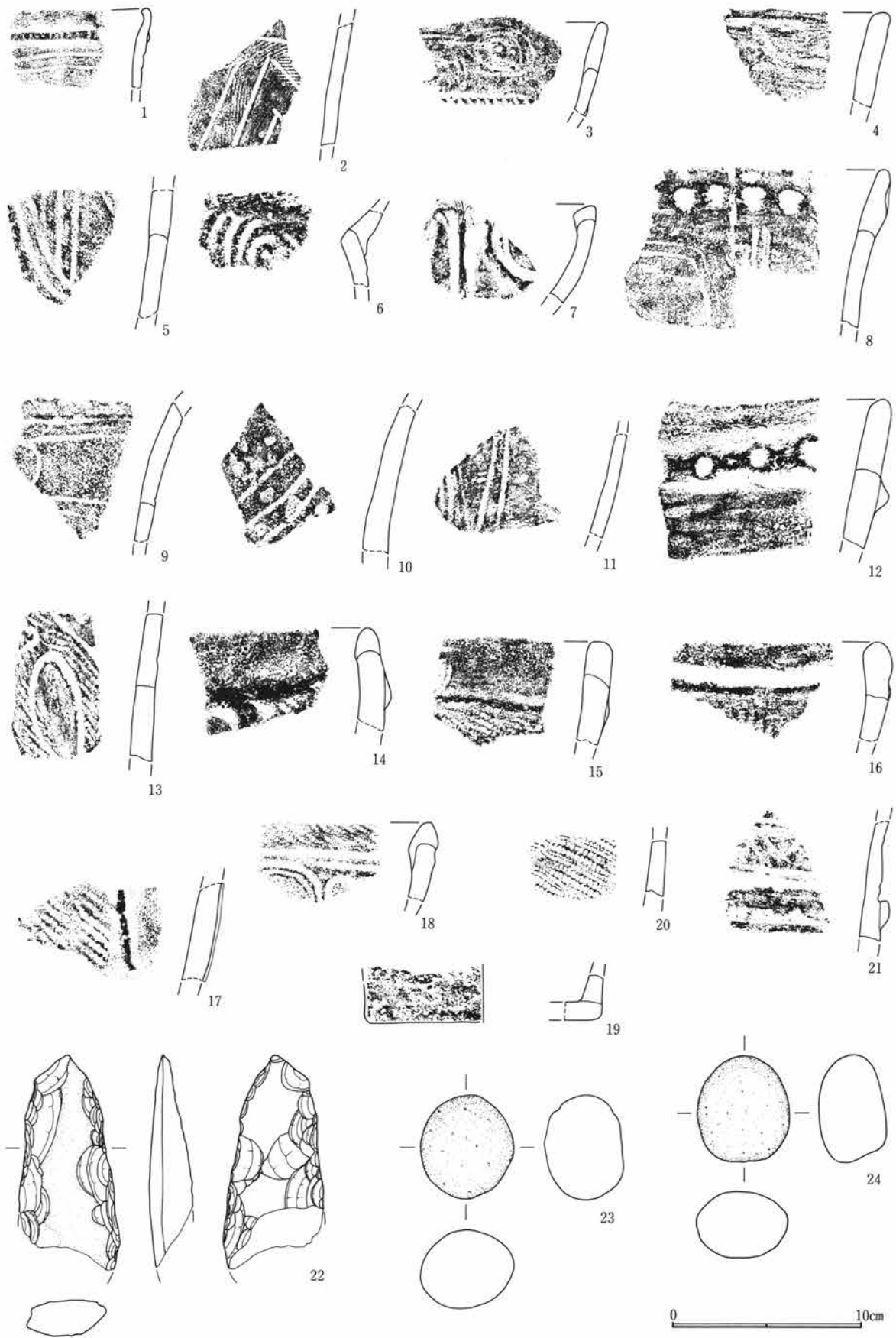
深さ 30cm~60cm 走向 N-17°-E

掘り方 底部は部分的には高低があるが、全体としてはほぼ水平である。断面形態も場所により差があるが、ほぼ台形を呈している。

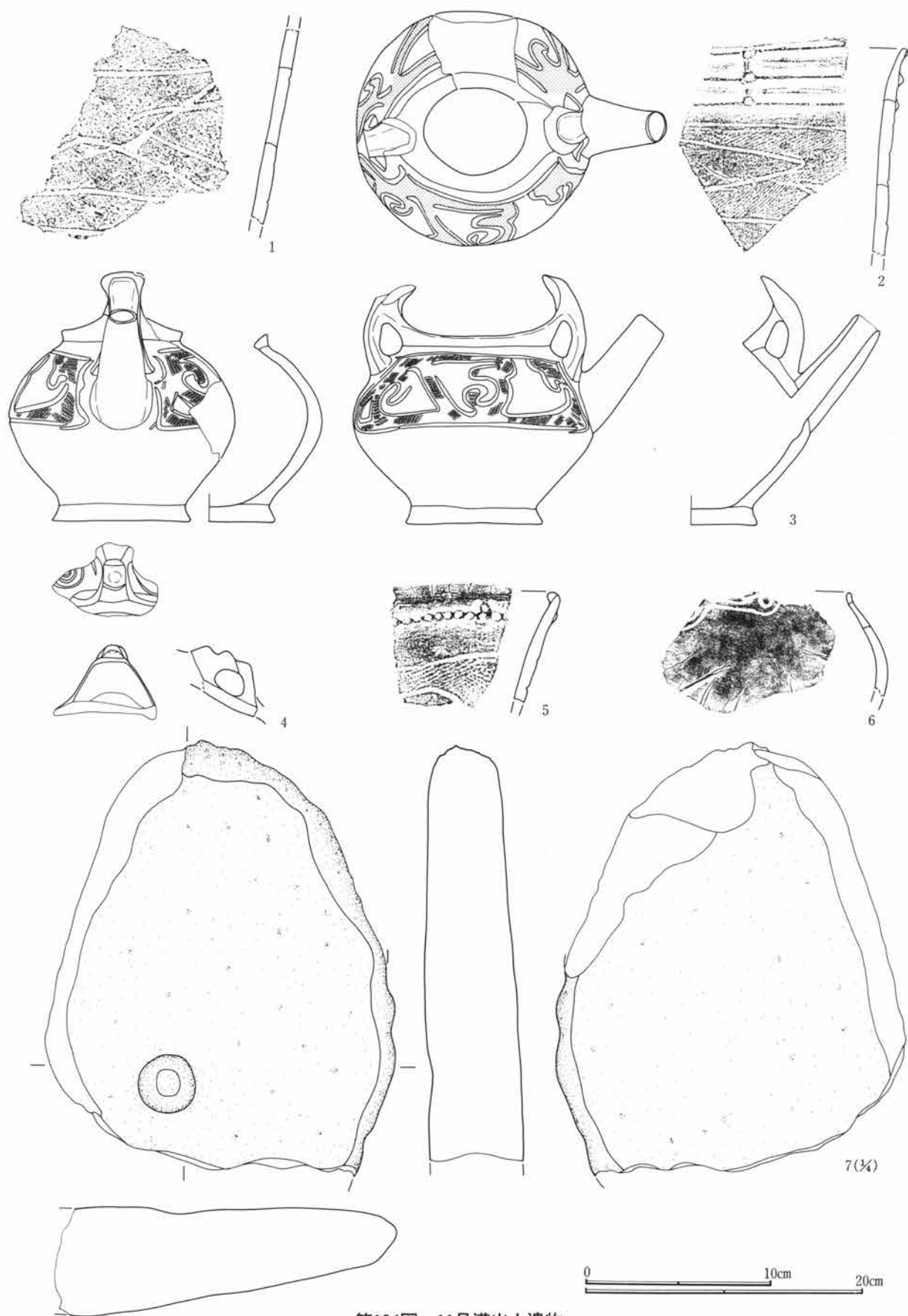
遺物 中央やや南よりに土器・礫が集中しており、北側の壁付近にも礫が集中している。土器は、II群1点、VII群1点、IX群7点、XI群2類13点、計22点出土しており、他に台石が1点出土している。南の立ち上がり付近から、3の注口土器が出土している。



第132図 11号溝



第133図 10号溝出土遺物



第134図 11号溝出土遺物

10号溝出土土器観察表

No	器種 部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
1	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚4~7mm 摩滅により調整不明	隆帯文上に刻み 沈線	IX-2	
2	深鉢 胴部	①灰黄褐 ②明赤褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚7mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	IX-1	
3	深鉢 口縁部	①明黄褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚6~8mm 内面研磨	沈線による同心円文 隆帯文上に 刻み	IX-2	
4	深鉢 口縁部	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚9~11mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX-3	
5	深鉢 胴部	①浅黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚9~11mm 摩滅により調整不明	沈線	VIII-4	
6	深鉢 胴部	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚7~16mm 内面ナデか	沈線による同心円文	VIII-4	
7	深鉢 口縁部	①明褐 ②にぶい褐 ③不良 ④粗 砂粒・雲母を含む	器厚7~12mm 摩滅により調整不明	隆帯文脇に沈線	VIII-5	
8	深鉢 口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~12mm 内外面研磨	口縁部外面に指頭による円孔 沈 線	VIII-4	
9	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~9mm	沈線	VIII-4	
10	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚11~13mm	沈線	VIII-4	
11	深鉢 胴部	①灰黄褐 ②浅黄橙 ③不良 ④細 砂粒を含む	器厚6~8mm 摩滅により調整不明	沈線	VIII-4	
12	深鉢 口縁部	①橙 ②明褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚11~20mm 摩滅により調整不明	口縁部下横位の隆帯文に連続する 押圧文	VII-6	
13	深鉢 胴部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚8~12mm 内外面研磨	沈線施文後区画内にLR縄文	VI-1	
14	深鉢 口縁部	①明褐 ②明褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚12~17mm 内面研磨	隆帯文区画内にRL(?)縄文	V-1	
15	深鉢 口縁部	①橙 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚12~15mm 内面研磨	隆帯文 LR縄文	V-1	
16	深鉢 口縁部	①明褐 ②明褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚9~15mm 内面研磨	幅広の沈線区画内にRL(?)縄文	V-2	
17	深鉢 胴部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚10~11mm 内面研磨か	隆帯文区画内にLR縄文縦回転	V-1	
18	深鉢 口縁部	①褐 ②明褐 ③良好 ④粗 砂粒を多く含む	器厚8~14mm 内面研磨	口縁部外面にRL縄文 沈線	II-1	
19	深鉢 底部	①褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を多く含む	底径(16.0cm) 内面研磨か		不明	
20	深鉢 胴部	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を少量含む	器厚7~8mm	直前段多条 R $\left\{ \begin{array}{l} L \\ L \\ L \end{array} \right.$ 縄文	I-2	
21	深鉢 胴部	①明褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④粗 砂粒・雲母を含む	器厚6~14mm 摩滅により調整不明	隆帯文 半截竹管状工具による沈 線または結節沈線	II-1	

10号溝出土石器観察表

No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
10-22	打製石斧	[11.1]	5.5	2.2	125	刃部欠損	熱変成岩	撥II型 片面に自然面を残す
10-23	丸石	5.3	4.8	4.1	140	完形	安山岩	
10-24	丸石	5.5	4.8	3.5	130	完形	安山岩	

11号溝出土土器観察表

No	器種 部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
1	深鉢 口縁部	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚7mm 内外面研磨か	沈線	IX-2	
2	深鉢 口縁部	①暗褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚9~12mm 内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文上に刻み 沈線区画内にLR磨消縄文	IX-1	

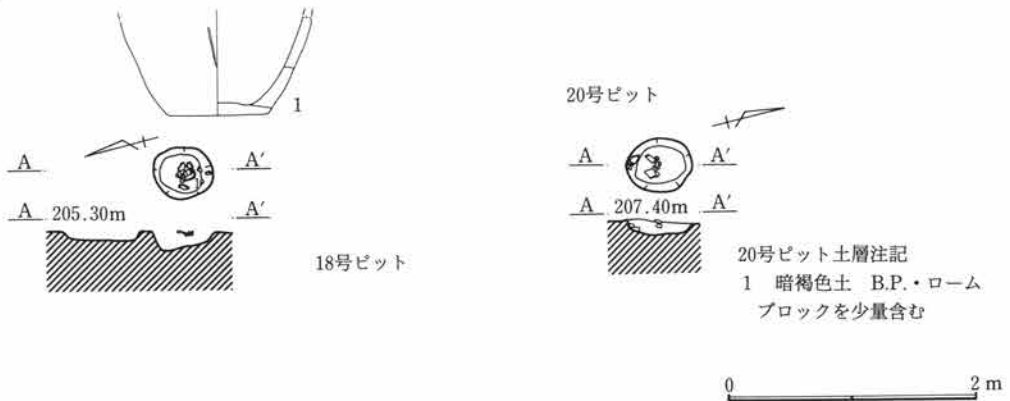
第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
3	注口土器	①褐 ②におい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口7.8cm 底7.2cm 高13.2cm 内面ナデ外面研磨	口縁部に橋状把手 沈線区画内にL R磨消縄文	IX-4	
4	注口土器口縁	①灰黄褐 ②におい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・バミスを含む	器厚6~7mm 内外面研磨	口縁部橋状把手 沈線による同心円文	IX-4	
5	深鉢口縁部	①暗褐 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚4~7mm 内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文上に刻み沈線区画内にL R磨消縄文	IX-1	
6	鉢口縁部	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚3~7mm 内面ナデ外面研磨か	沈線	IX-2	

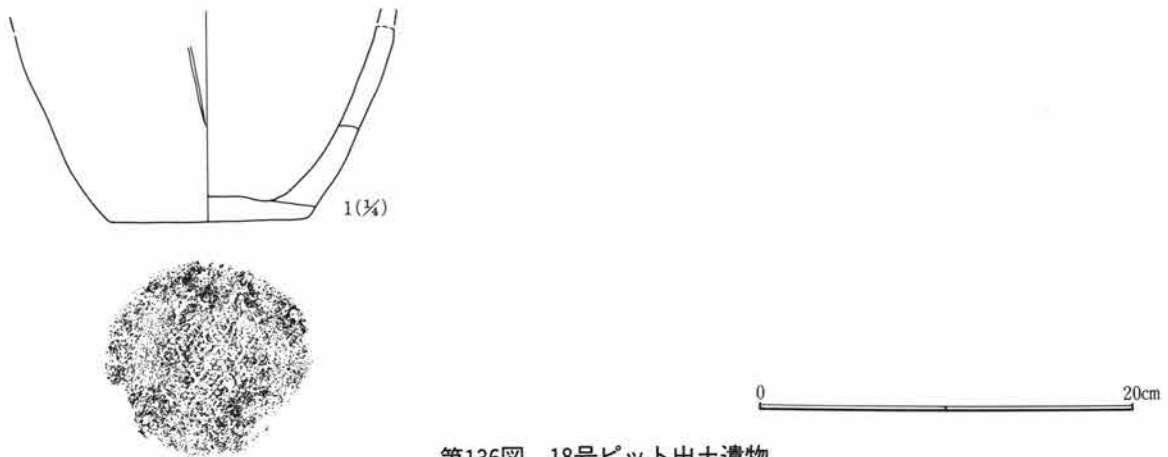
11号溝出土石器観察表

No	器種	全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	残存状況	石材	特徴
11-7	台石	[30.6]	25.0	7.9	7900	%	安山岩	片面にくぼみあり

18・20号ピット



第135図 18・20号ピット



第136図 18号ピット出土遺物

18号ピット出土土器観察表

No	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
18 1	深鉢胴部	①褐灰 ②淡黄 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11~12mm 内外面研磨	沈線区画内に連続する短沈線	VII-1	

(6) 谷津状遺構

1号谷津状遺構

位置 C56~68-I 60~80 Gr 重複 中世整地面より古

調査区東部の北側に位置しており、埋没後中世において整地されており、当初の規模・形態ははっきりしない。整地面下の谷津覆土だけでなく整地面上の覆土からも多量の縄文土器・石器が出土しており、整地面上の遺物は本来は中世遺構の混入遺物であるが、整地面の底部がはっきりせず、また多くは谷津の遺物が再度埋没したものと考えられるため、一括して谷津の遺物として取り扱った。

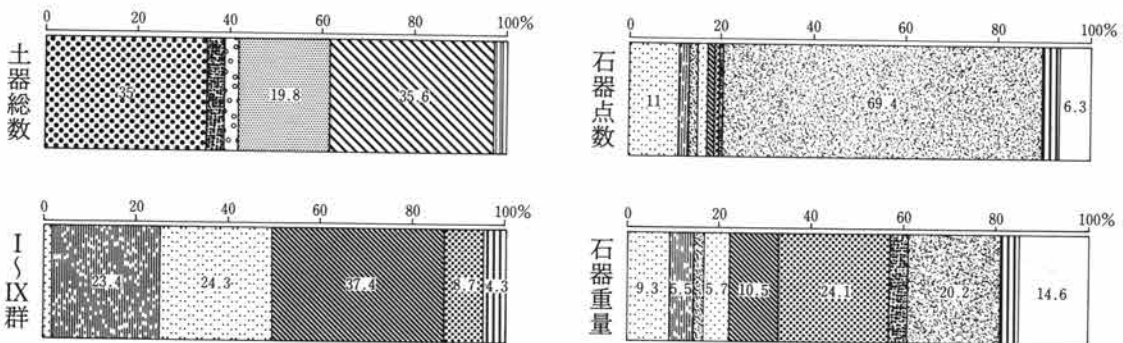
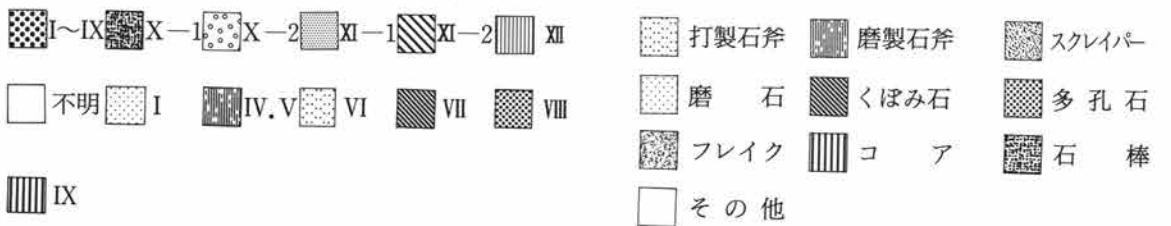
遺物出土状況 ほぼ全面から出土しているが、全時期を通して特に中央やや西寄りの径10m程の範囲に集中して出土している。時期による出土状況の変化はほとんど見られず、各時期とも同様の出土状況を示している。

出土遺物 土器は遺構の性格上小破片が多くなっているが、縄文土器が12,537点と多量に出土している。時期は前期から後期に及ぶが、特に中期末から後期初頭のもの（IV~VII群）が圧倒的に多い。

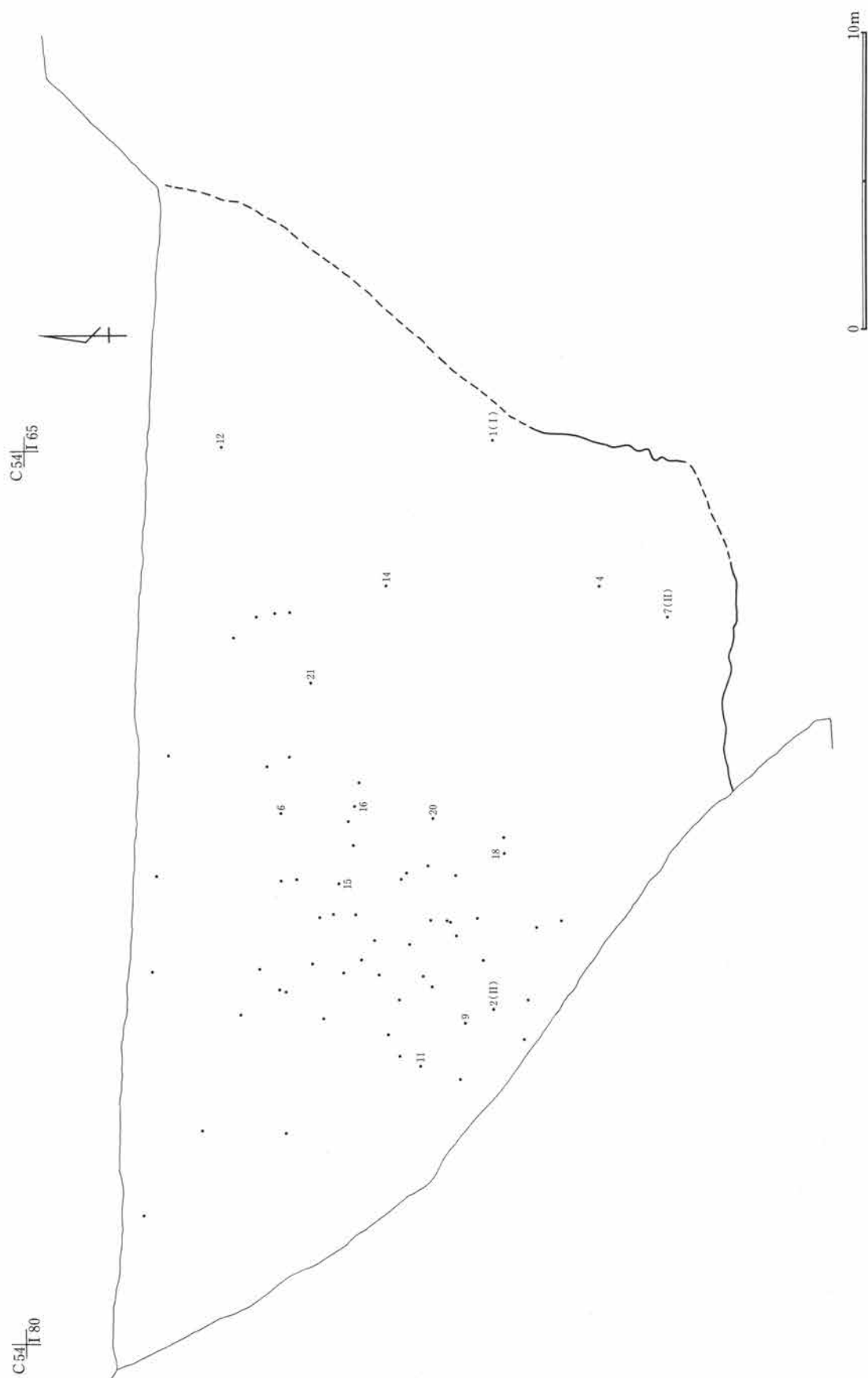
1号谷津状遺構出土土器数量表

群別	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	I~IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	計
点数	1	3	82	1,027	1,066	1,641	384	189	4,393	478	402	2,482	4,459	245	78	12,537
%	0.0	0.1	1.9	23.4	24.3	37.4	8.7	4.3	35.0	3.8	3.2	19.8	35.6	2.0	0.6	
重量(g)	20	113	1,959	36,941	25,008	30,539	10,752	3,587	108,919	10,736	6,706	57,827	57,603	5,508	1,894	249,193
%	0.0	0.1	1.8	33.9	23.0	28.0	9.9	3.3	43.7	4.3	2.7	23.2	23.1	2.2	0.8	

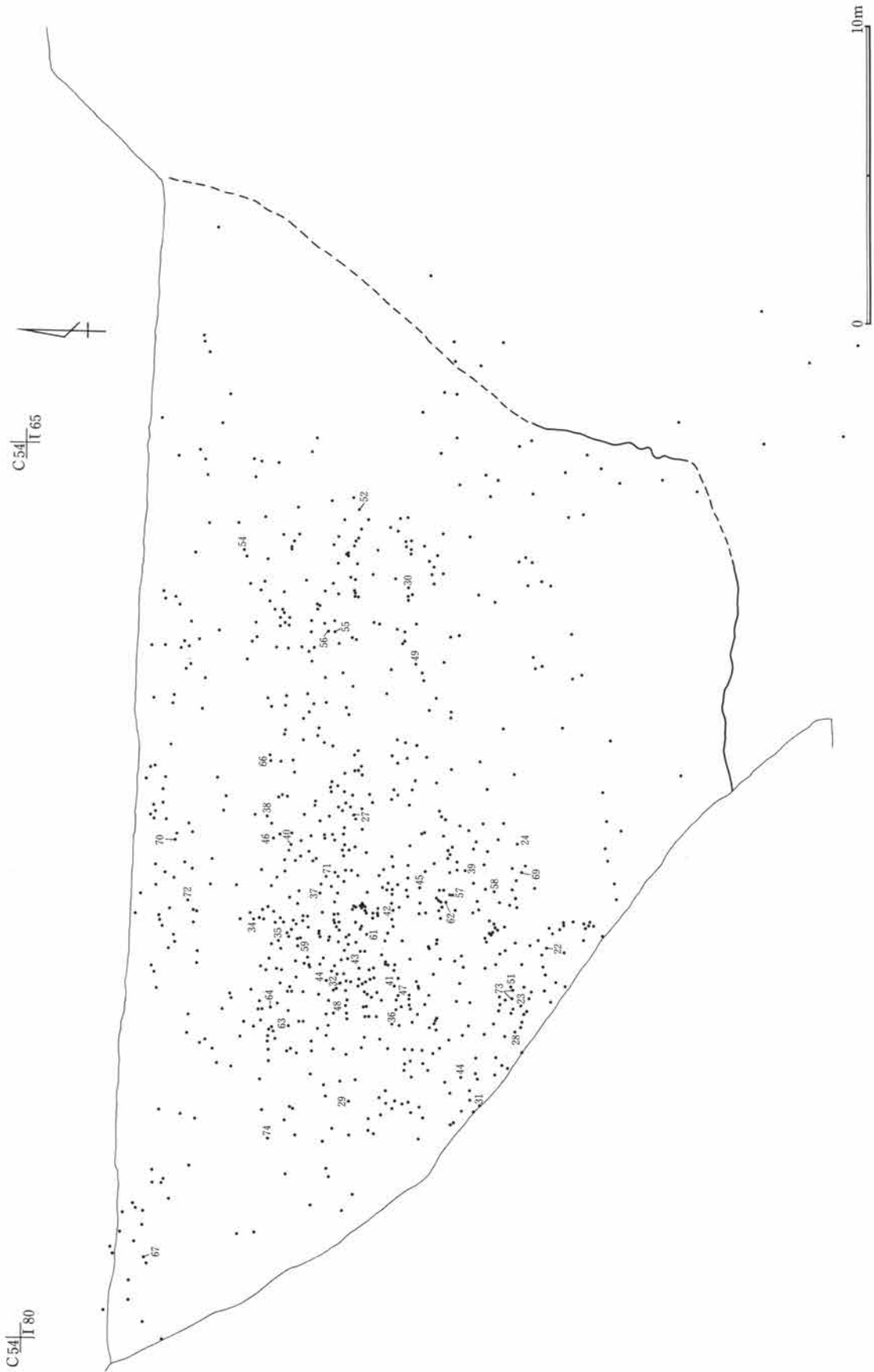
石器は590点出土しているが、その内424点は剥片・石核であり、定型的な石器は166点である。器種別に見ると、石鏃2点(0.3%)、ピエスエスキュー2点(0.3%)、打製石斧65点(11.0%)、磨製石斧13点(2.2%)、スクレイパー12点(2.0%)、微細剝離痕のある剥片9点(1.5%)、磨石12点(2.0%)、くぼみ石10点(1.7%)、石皿2点(0.3%)、多孔石7点(1.2%)、敲打石1点(0.2%)、丸石1点(0.2%)、砥石2点(0.3%)、石棒3点(0.5%)、不明石器25点(4.2%)、剥片402点(68.1%)、石核22点(3.7%)となっている。



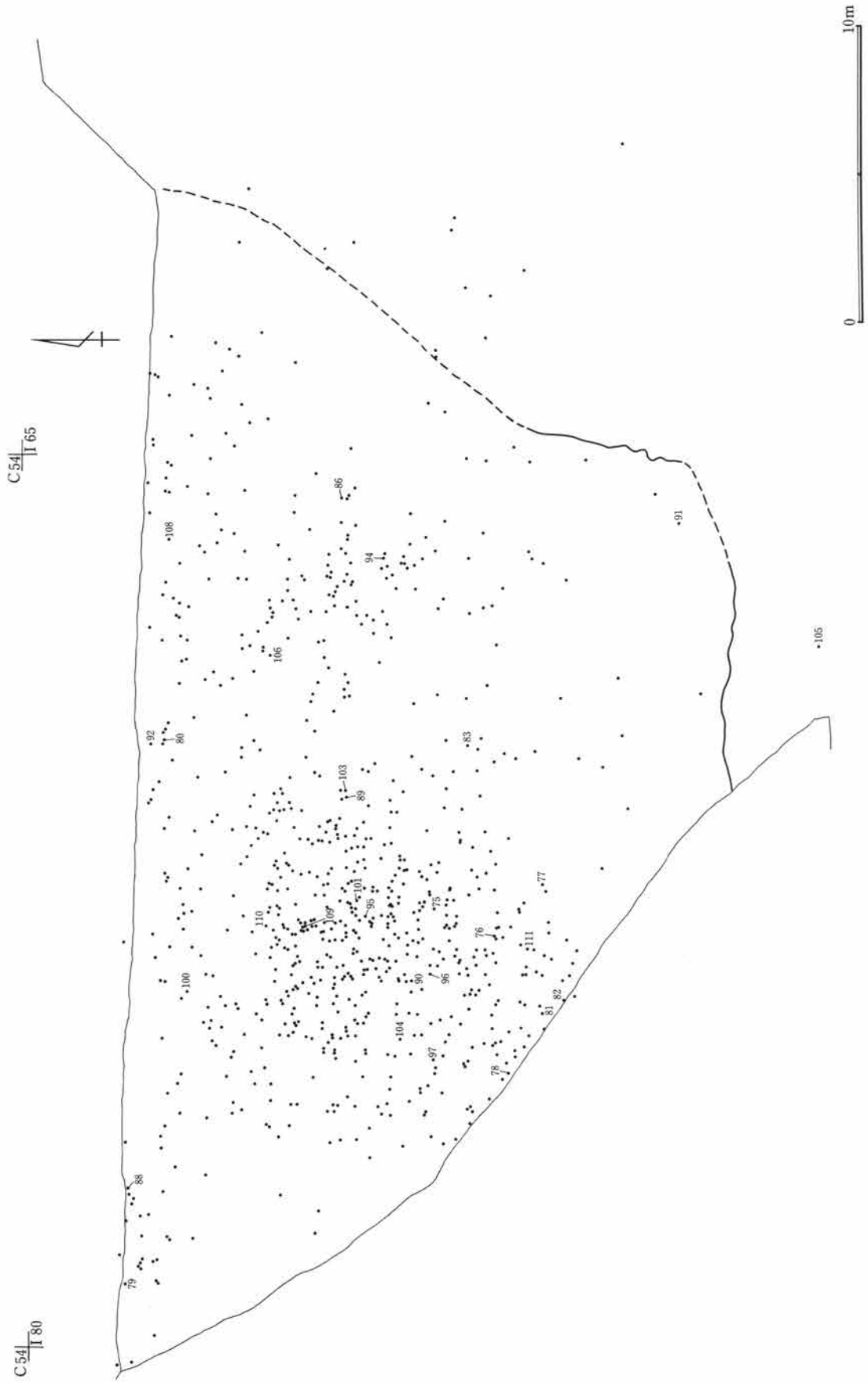
第137図 1号谷津状遺構土器・石器分類グラフ



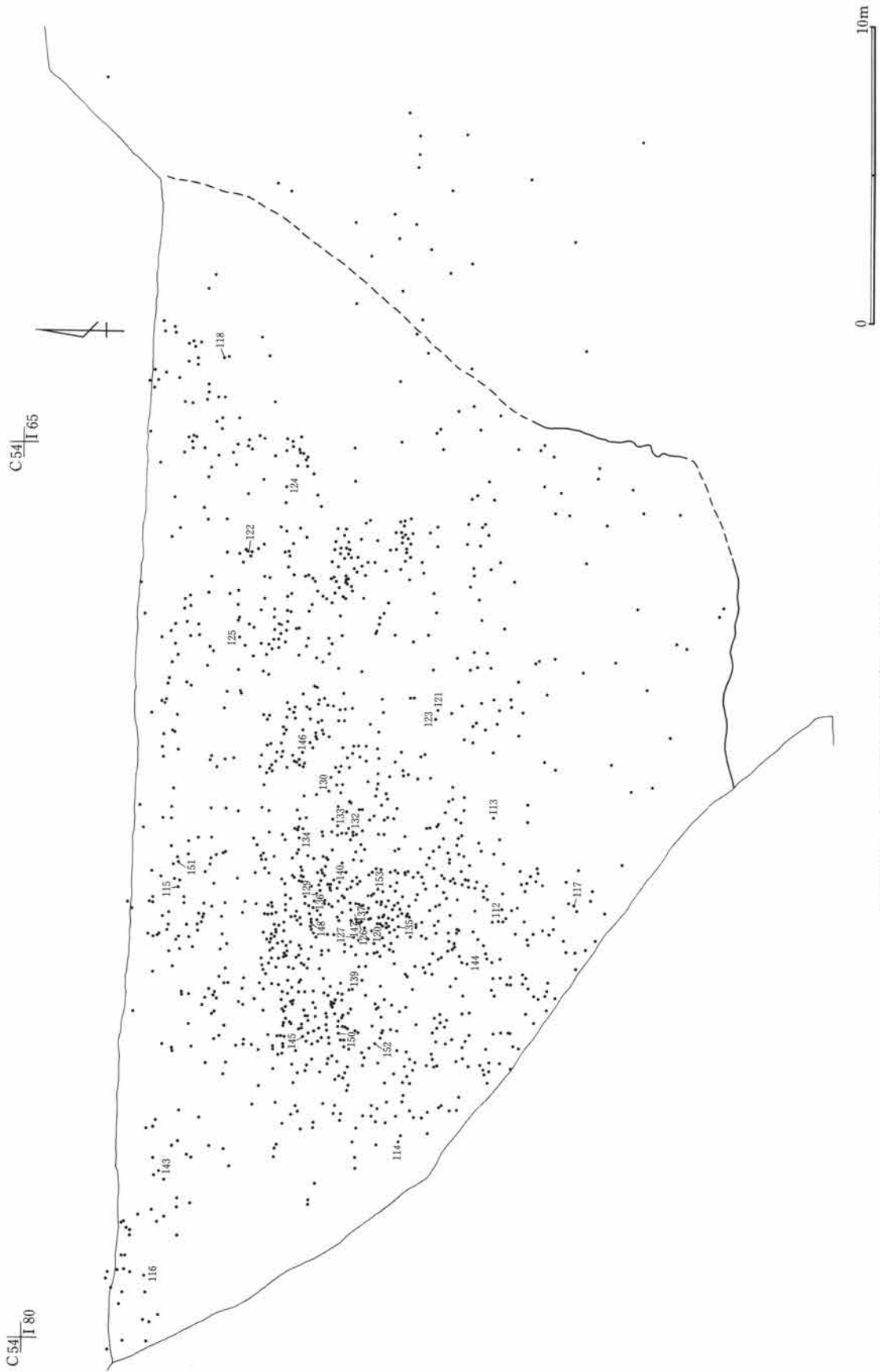
第138図 1号谷津状遺構縄文土器出土状況(Ⅰ～Ⅲ群)



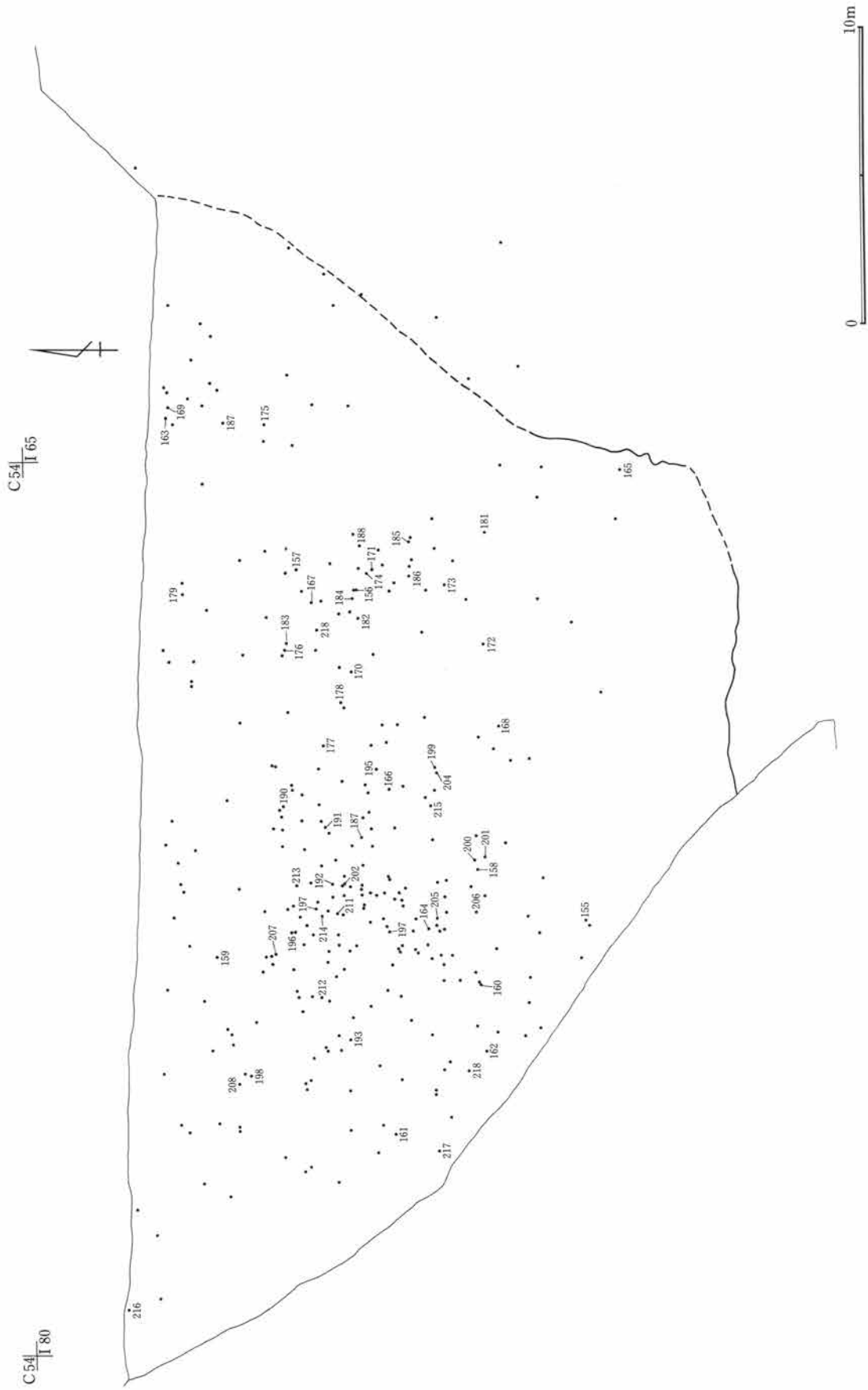
第139図 1号谷津状遺構縄文土器出土状況 (IV~V群)



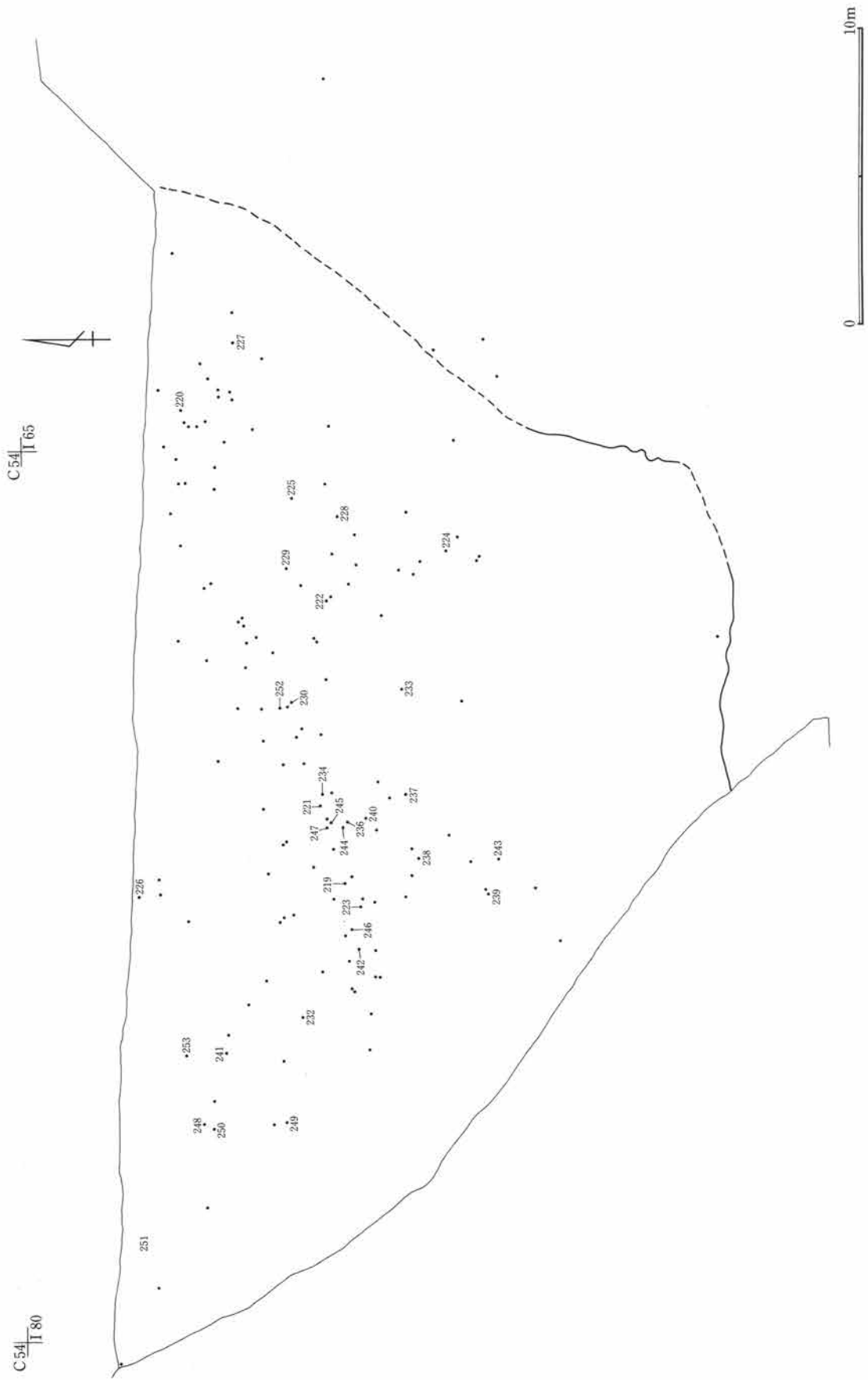
第140図 1号谷津状遺構縄文器出土状況(VI群)



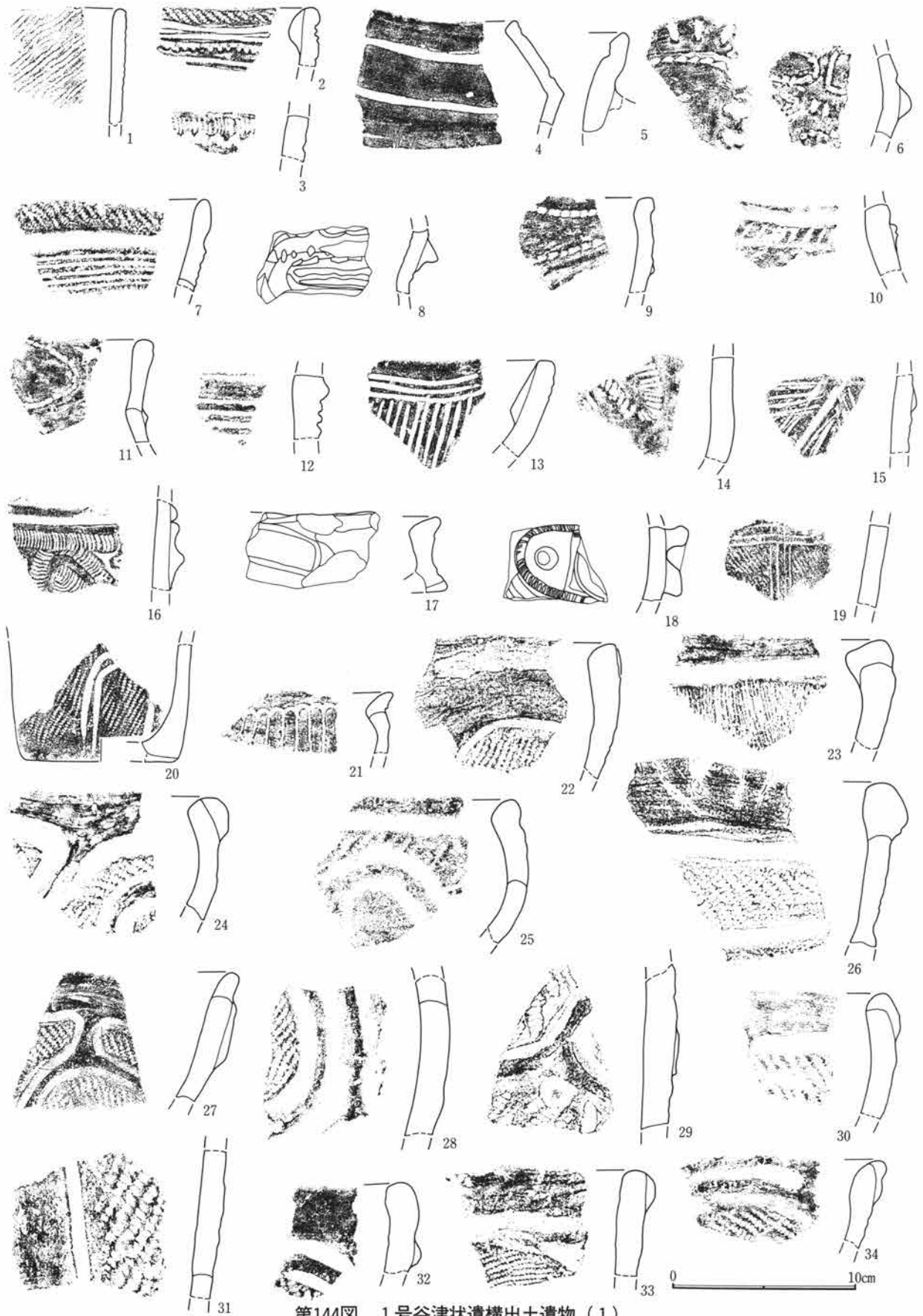
第141図 1号谷津状遺構縄文土器出土状況（VII群）



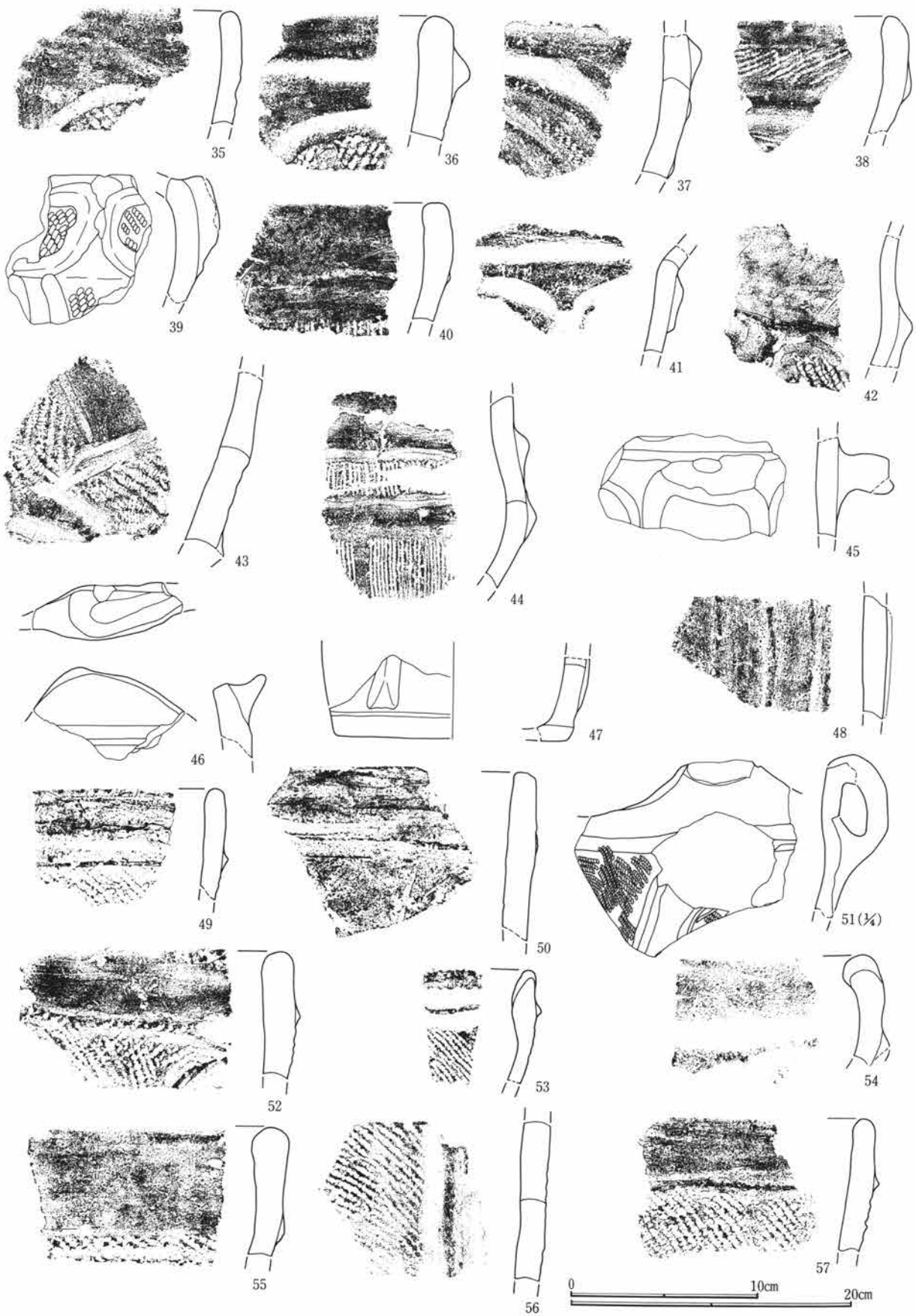
第142図 1号谷津状遺構縄文器出土状況（Ⅷ群）



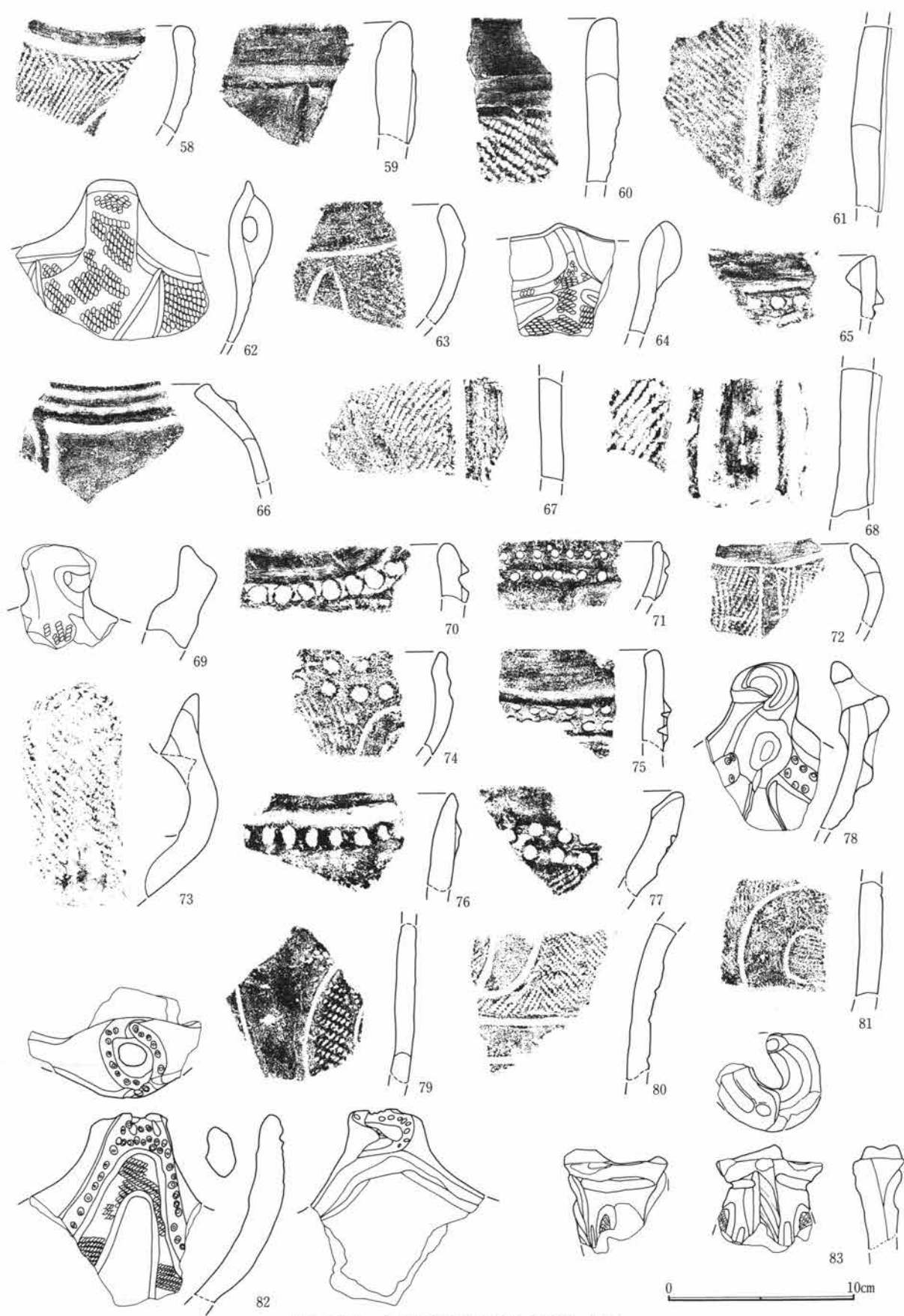
第143図 1号谷津状遺構縄文土器出土状況 (IX群)



第144図 1号谷津状遺構出土遺物 (1)



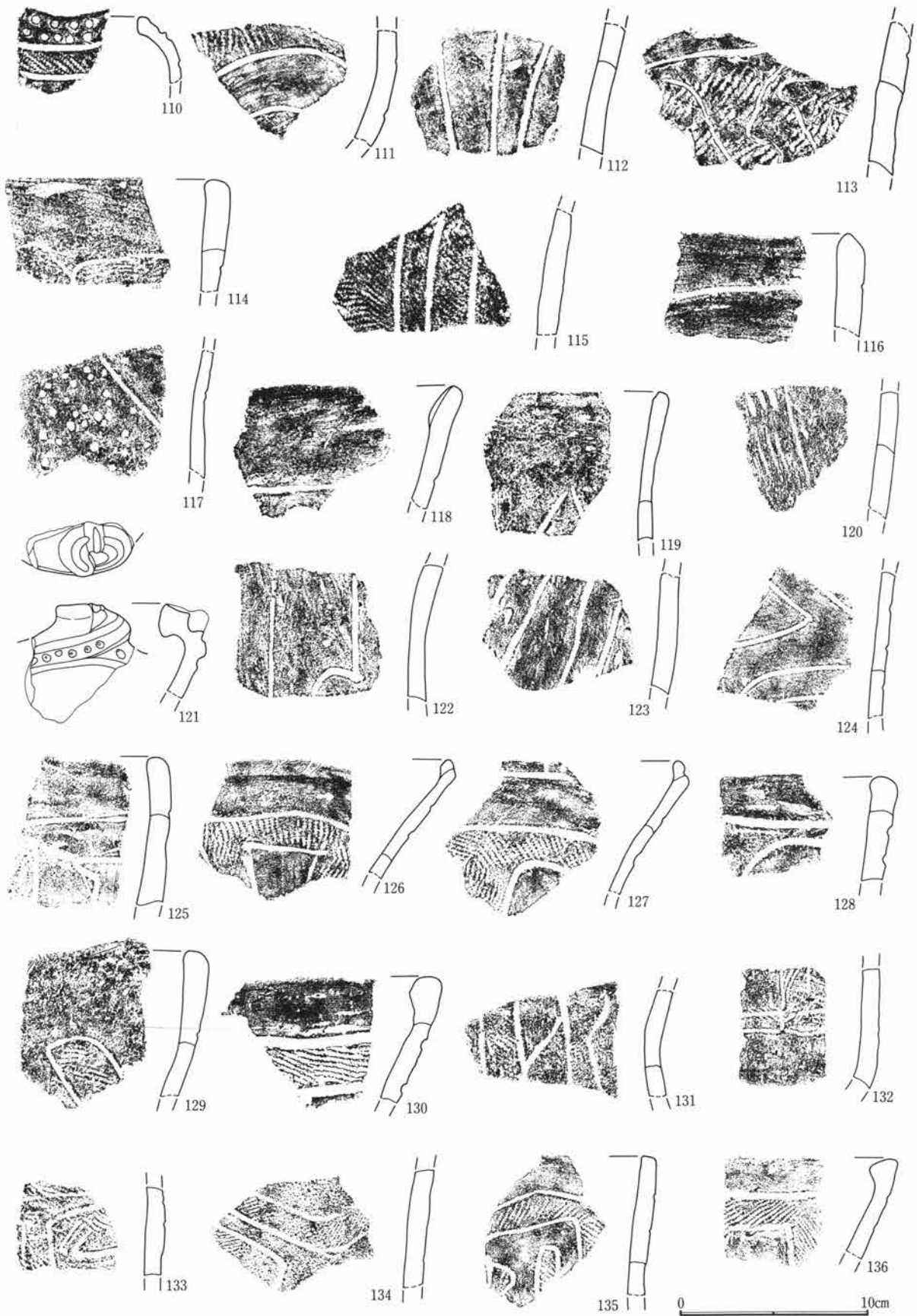
第145図 1号谷津状遺構出土遺物(2)



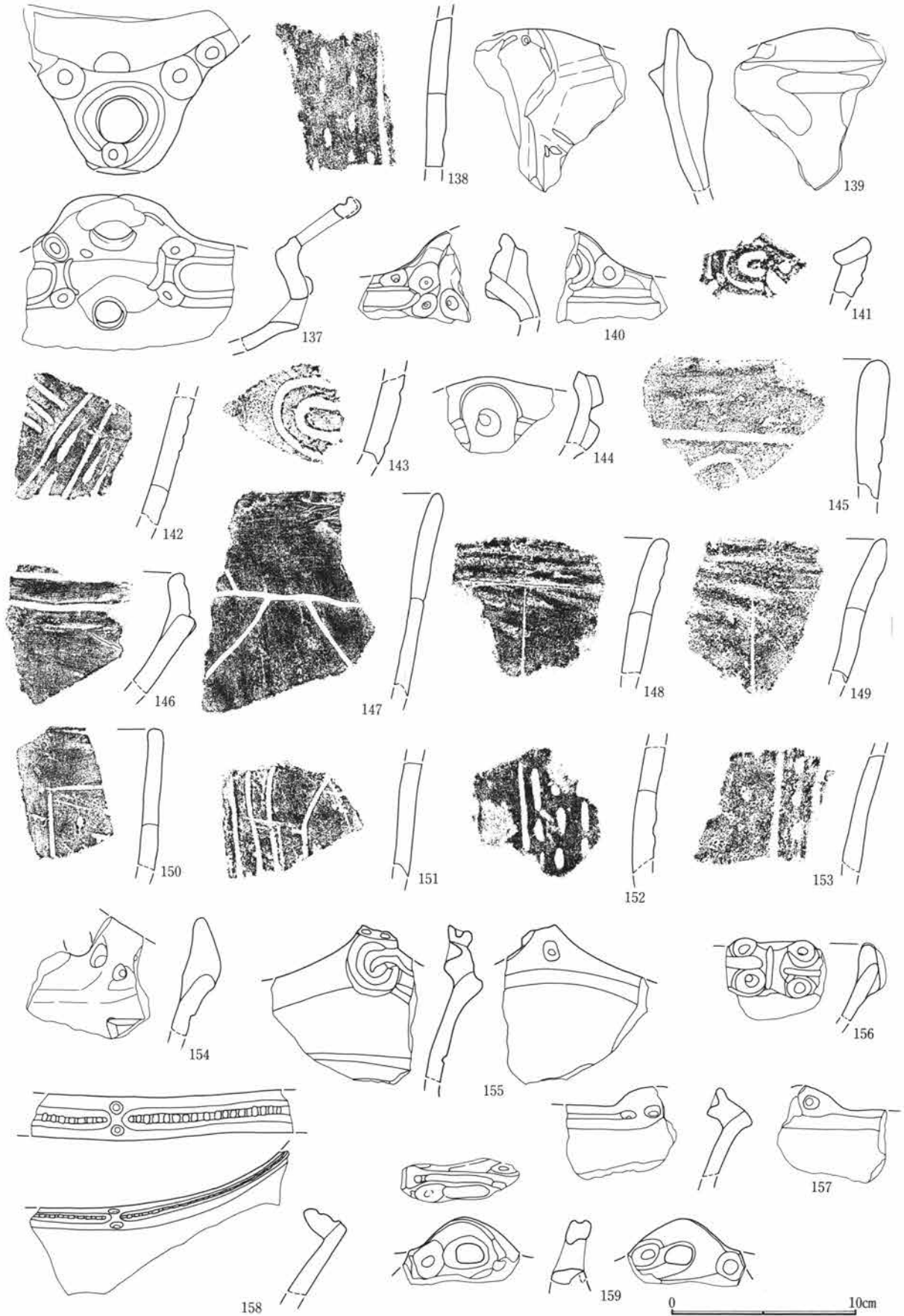
第146図 1号谷津状遺構出土遺物(3)



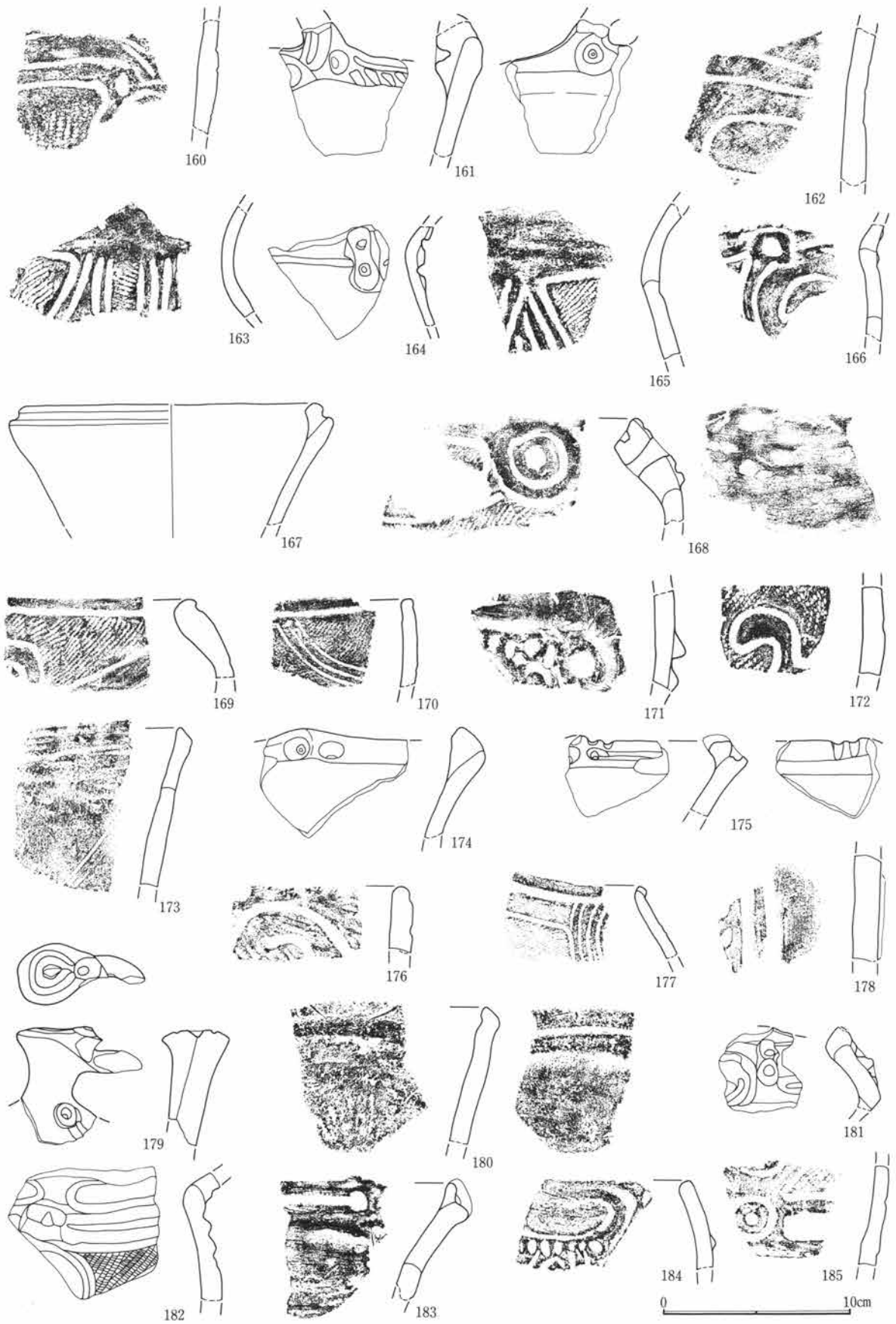
第147図 1号谷津状遺構出土遺物(4)



第148図 1号谷津状遺構出土遺物(5)



第149図 1号谷津状遺構出土遺物(6)

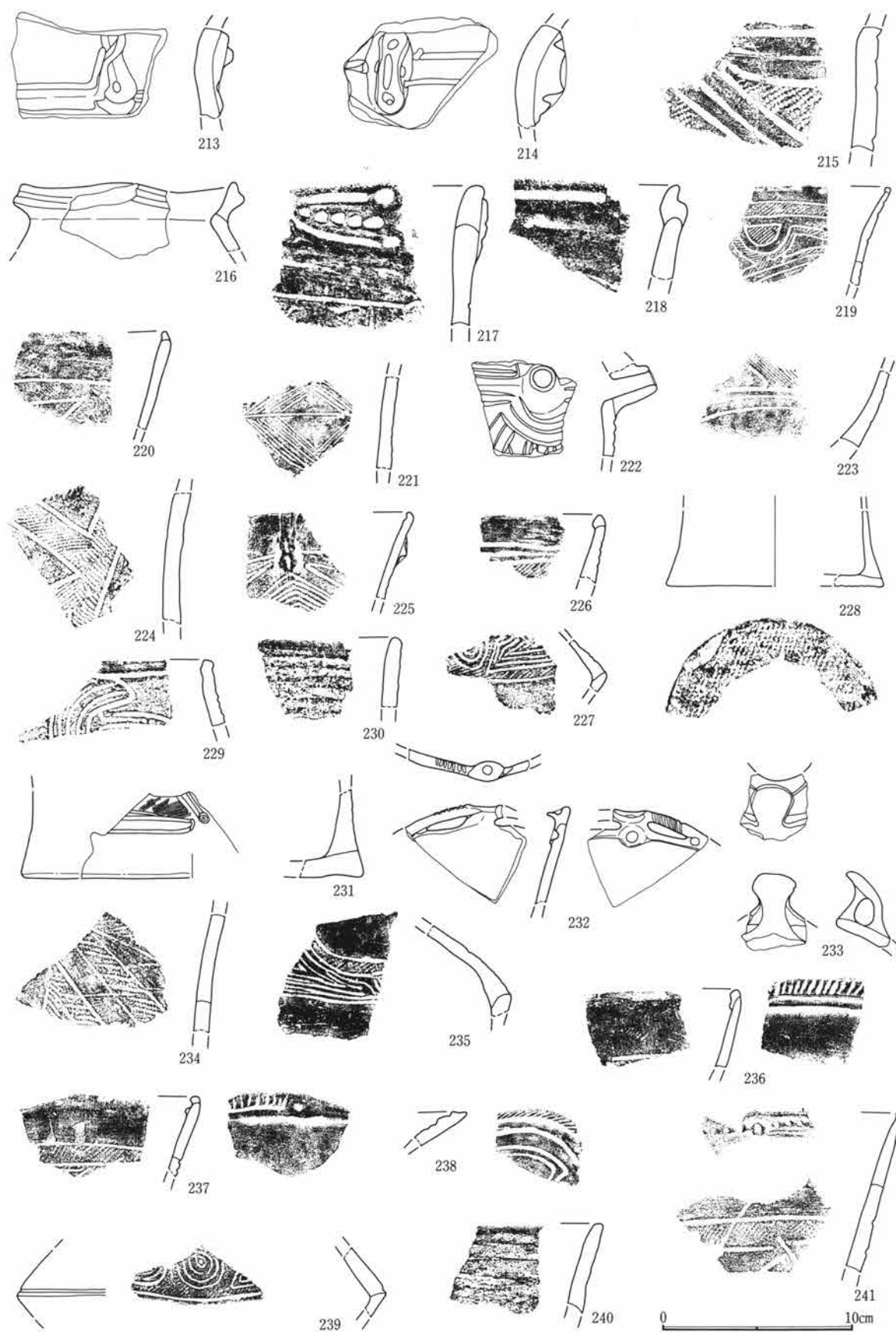


第150図 1号谷津状遺構出土遺物(7)

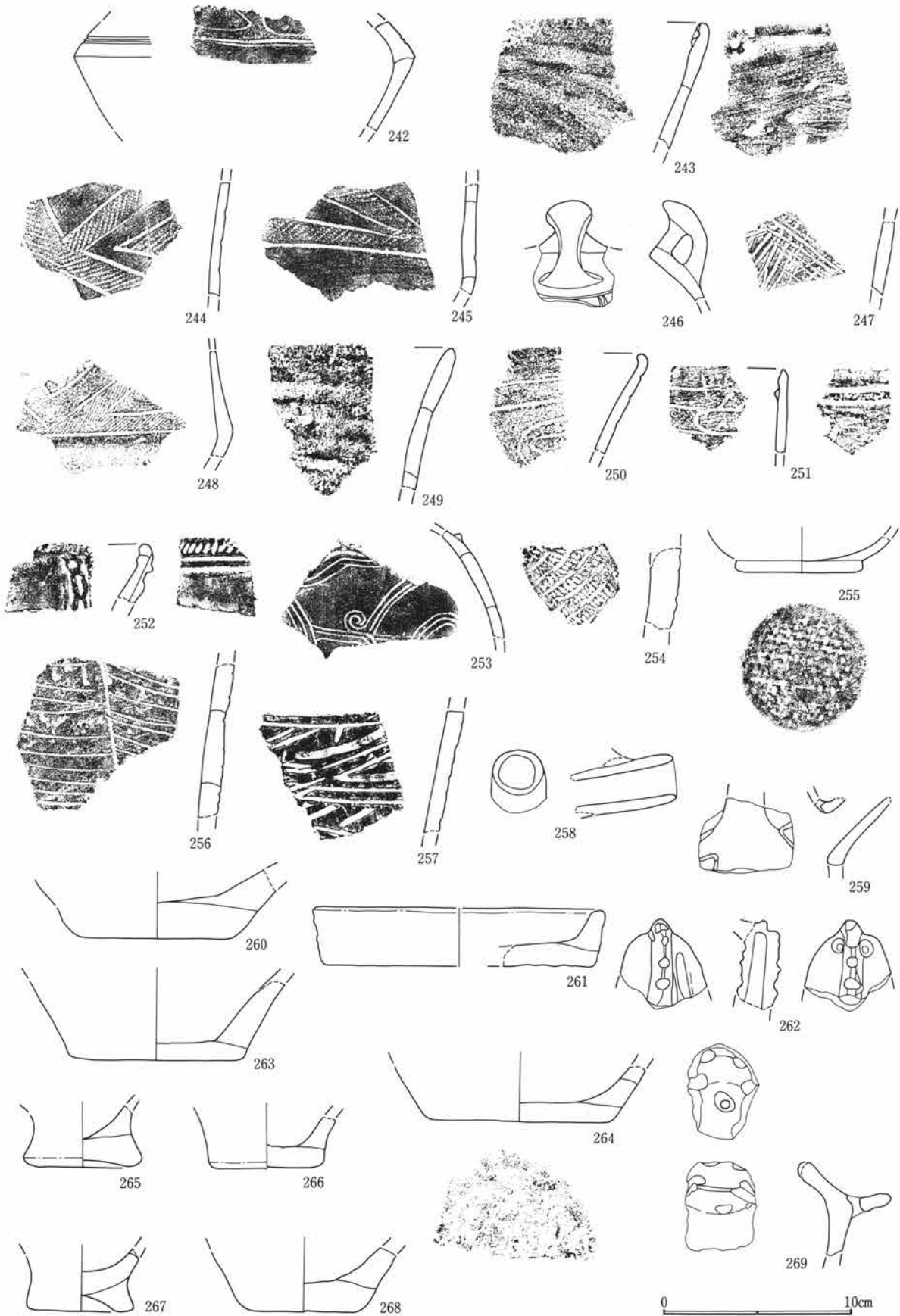


第151図 1号谷津状遺構出土遺物(8)

第III章 検出された遺構と出土遺物

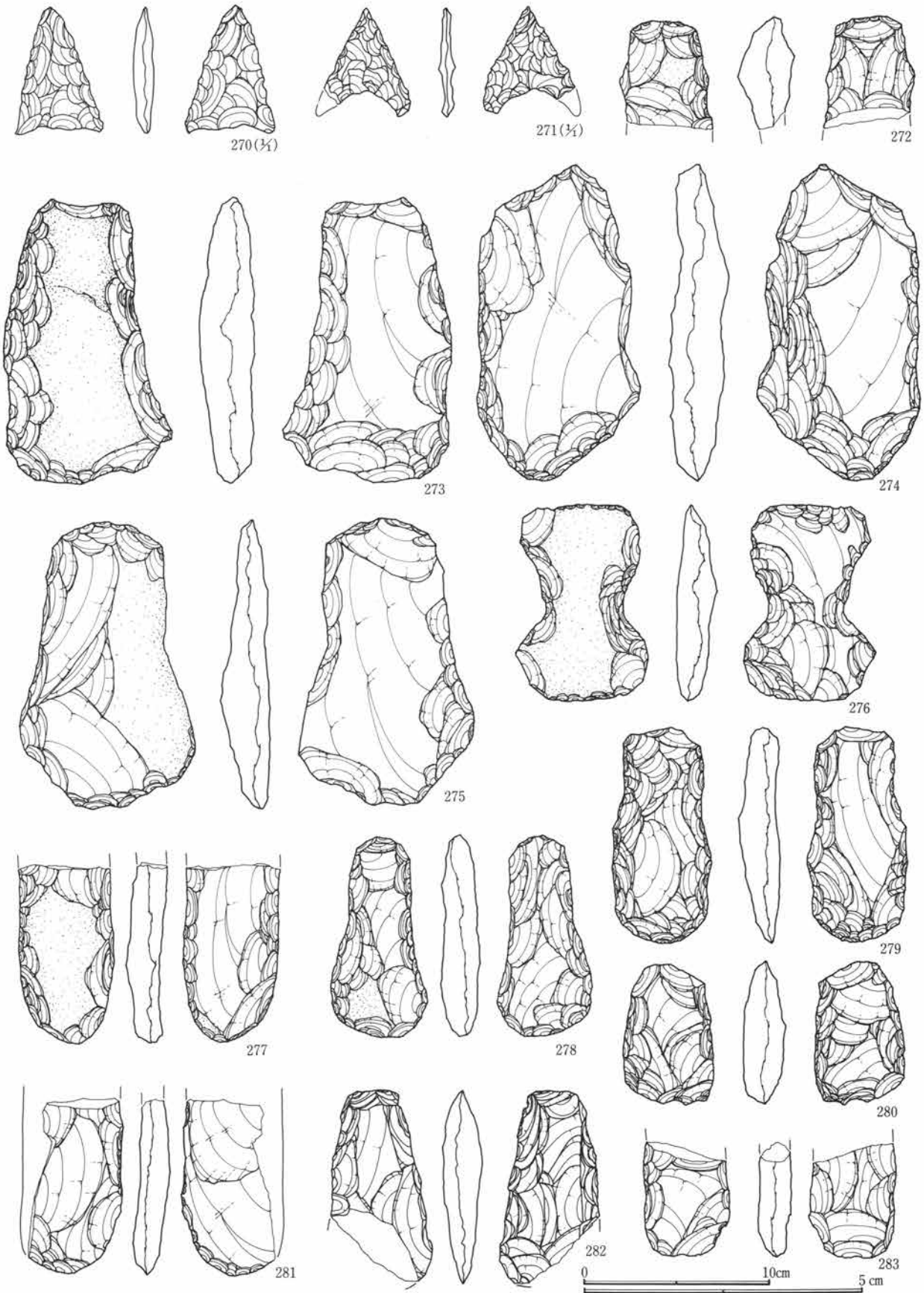


第152図 1号谷津状遺構出土遺物(9)

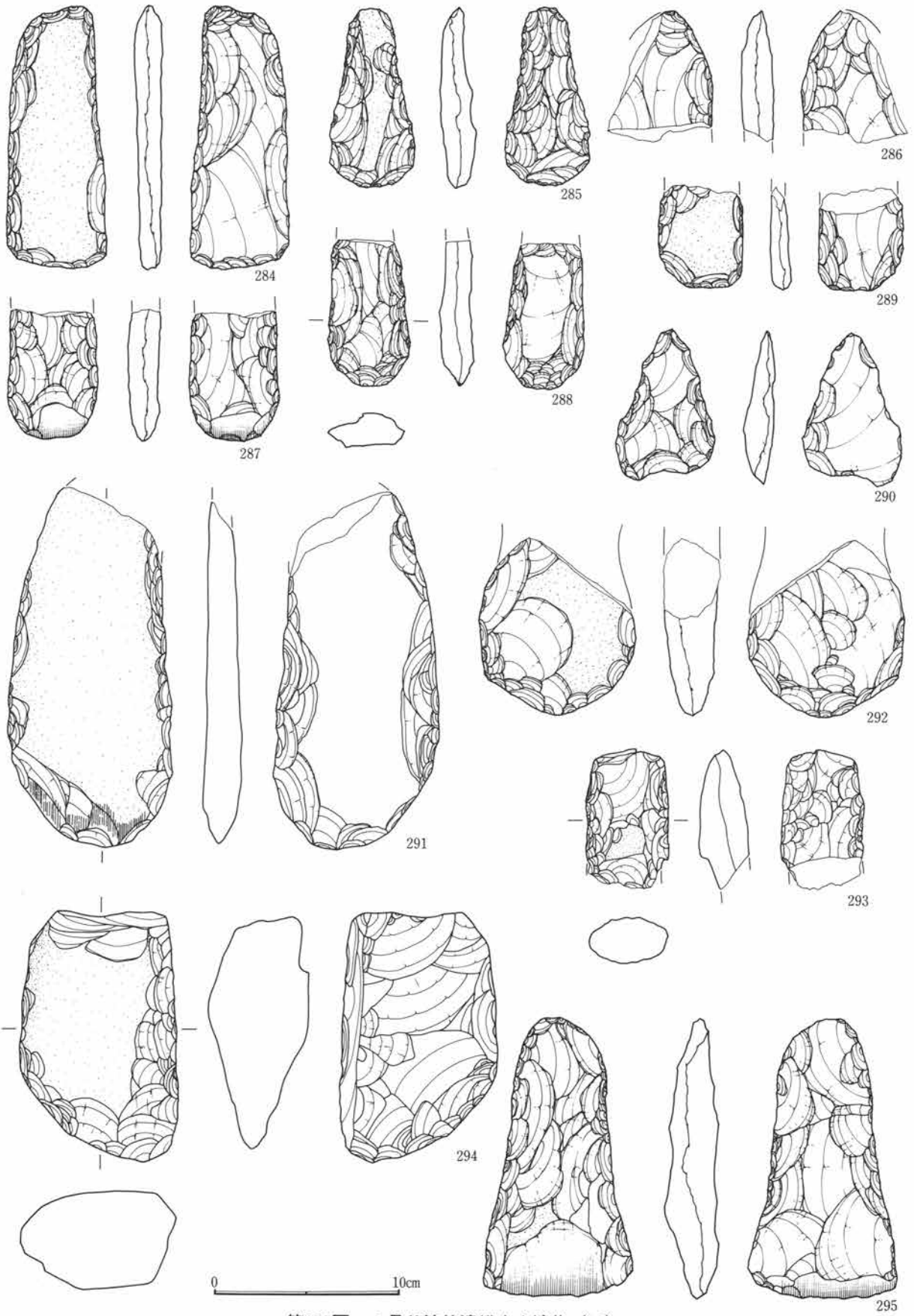


第153図 1号谷津状遺構出土遺物 (10)

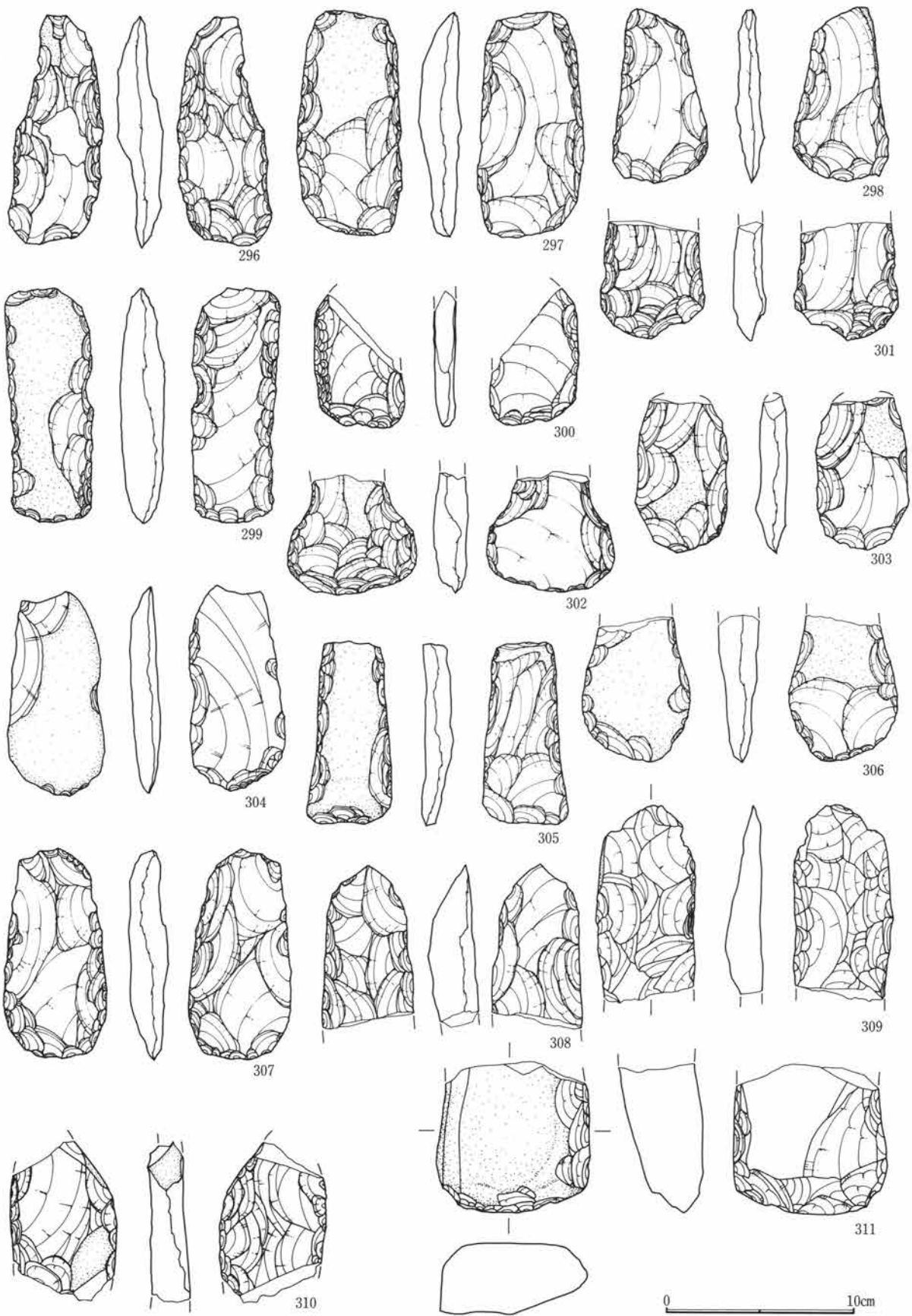
第三章 検出された遺構と出土遺物



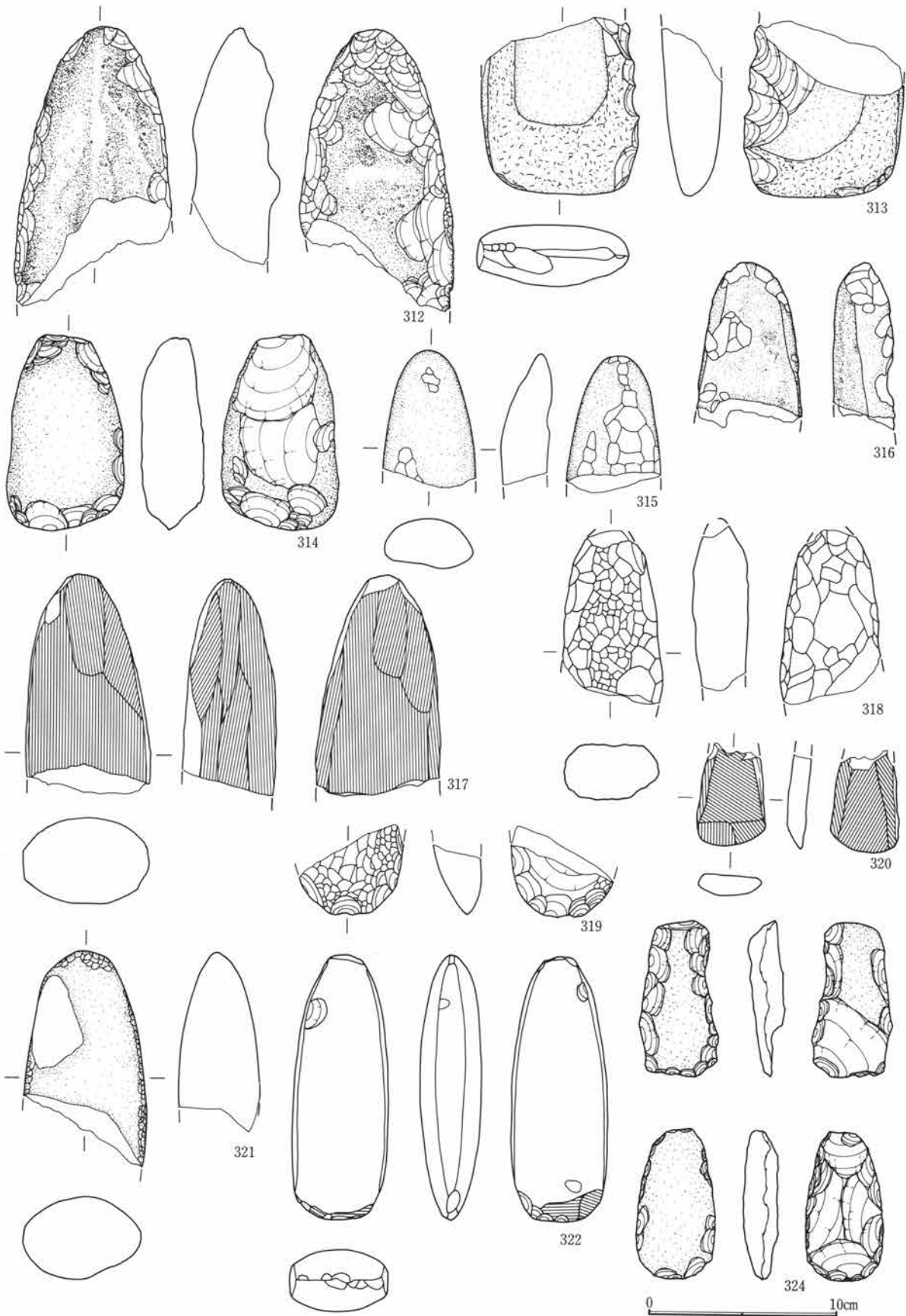
第154図 1号谷津状遺構出土遺物 (11)



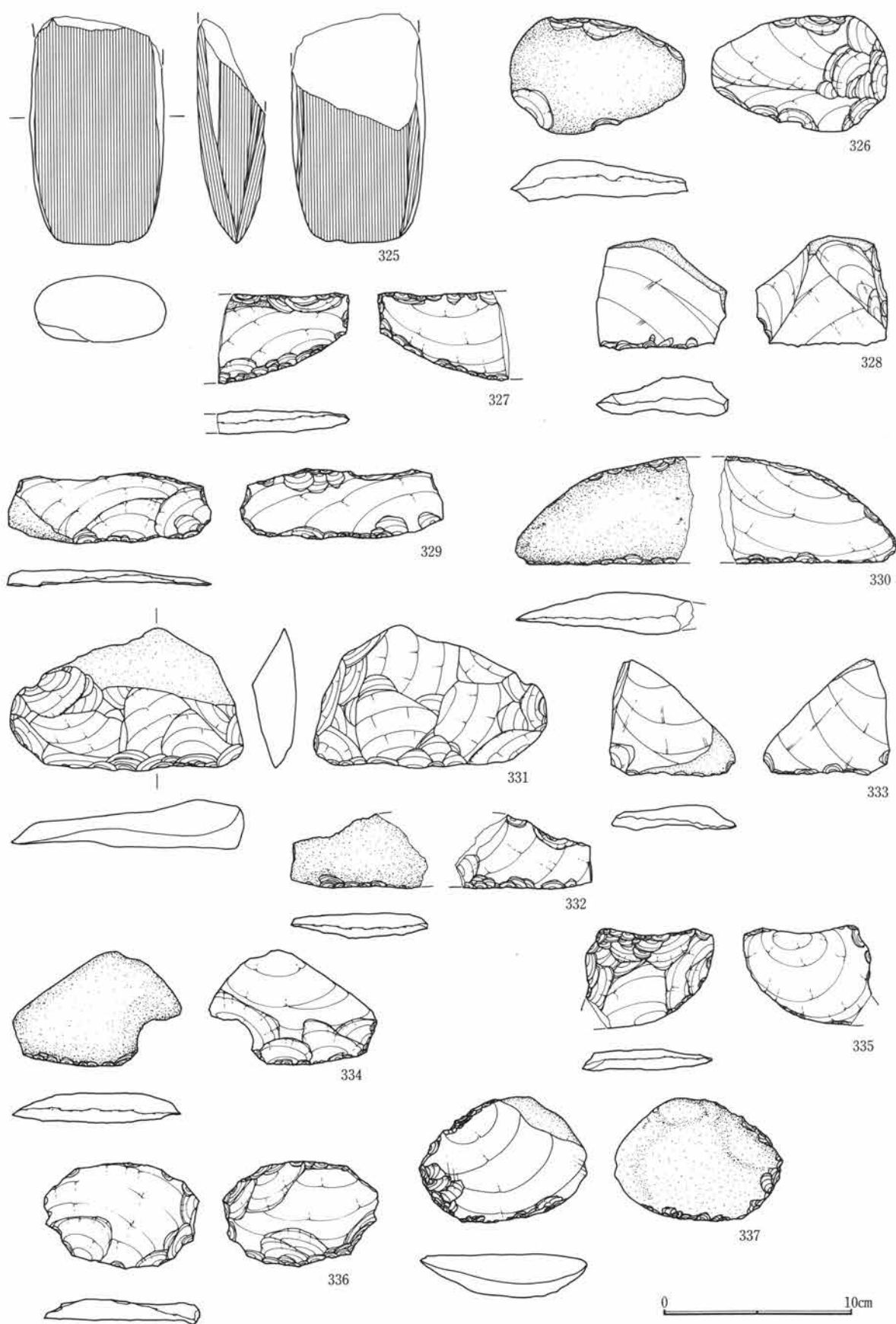
第155図 1号谷津状遺構出土遺物 (12)



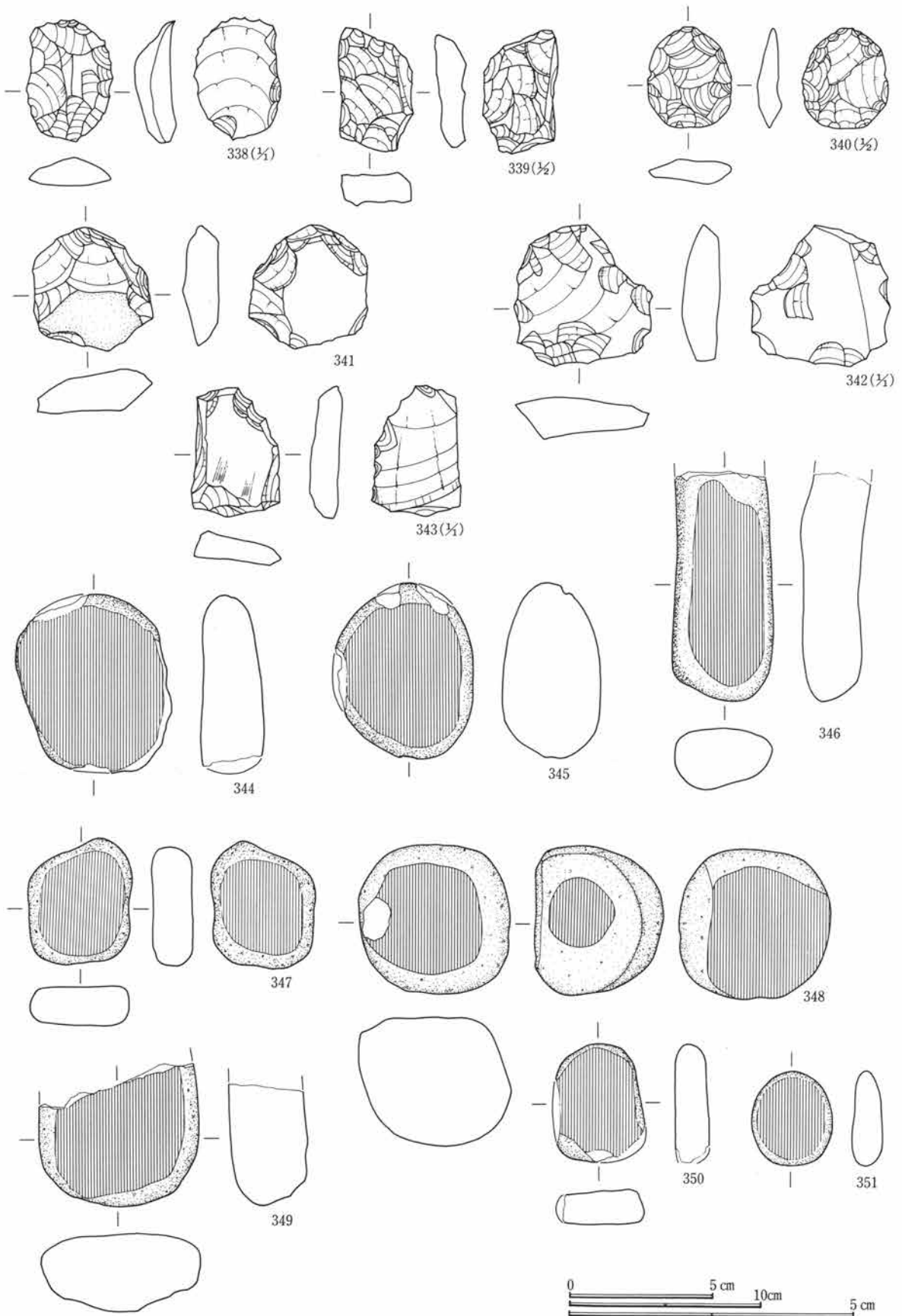
第156図 1号谷津状遺構出土遺物 (13)



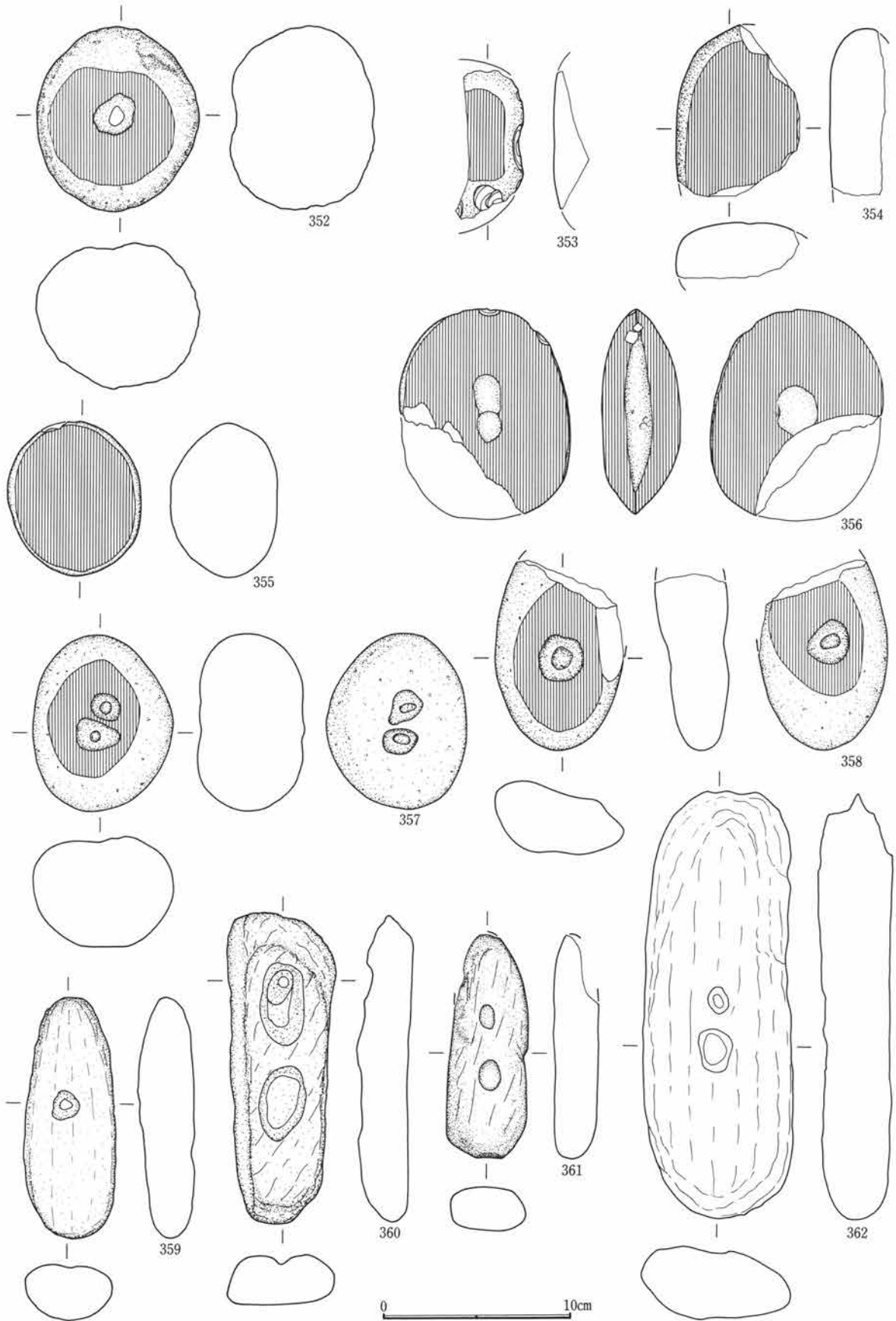
第157図 1号谷津状遺構出土遺物 (14)



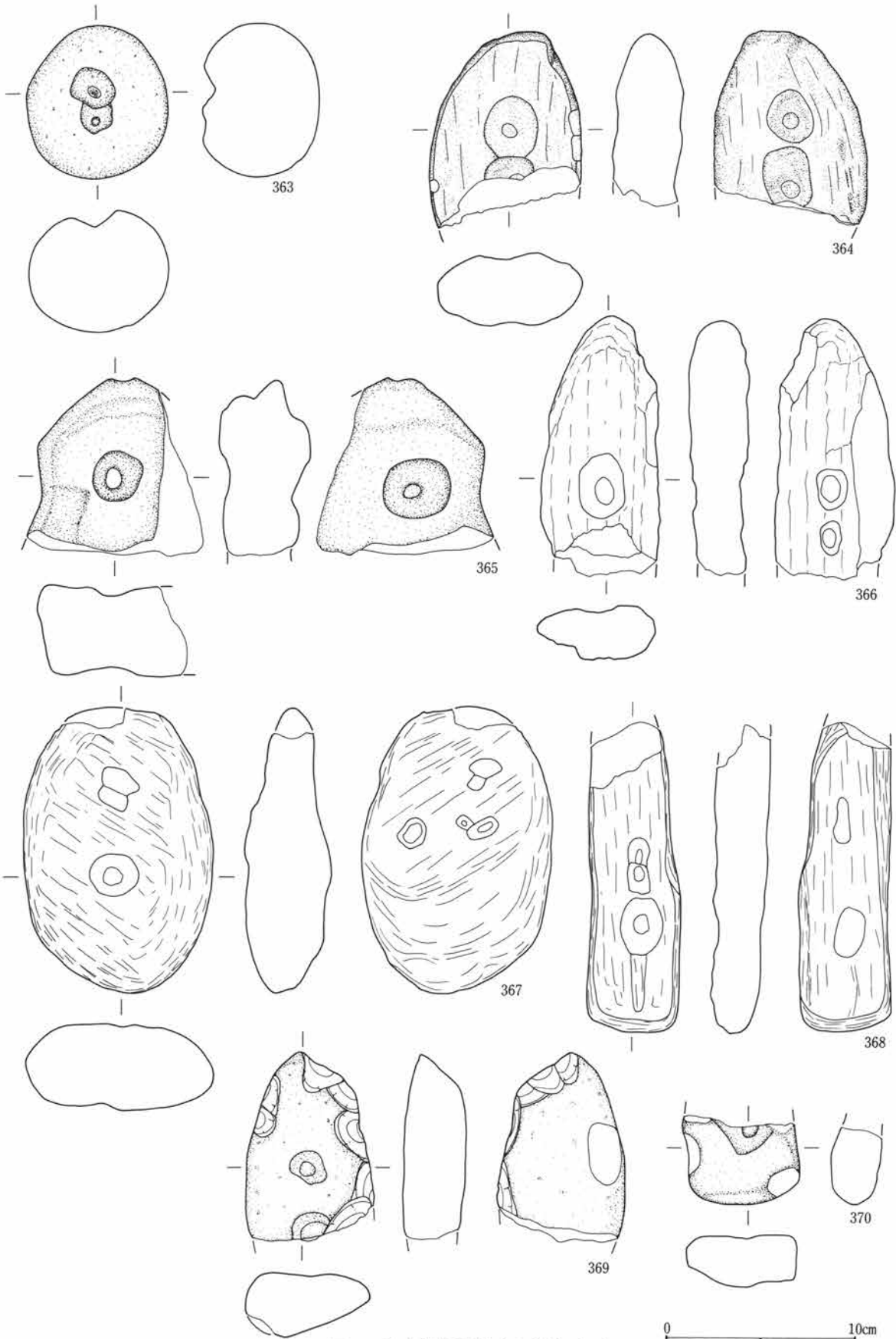
第158図 1号谷津状遺構出土遺物 (15)



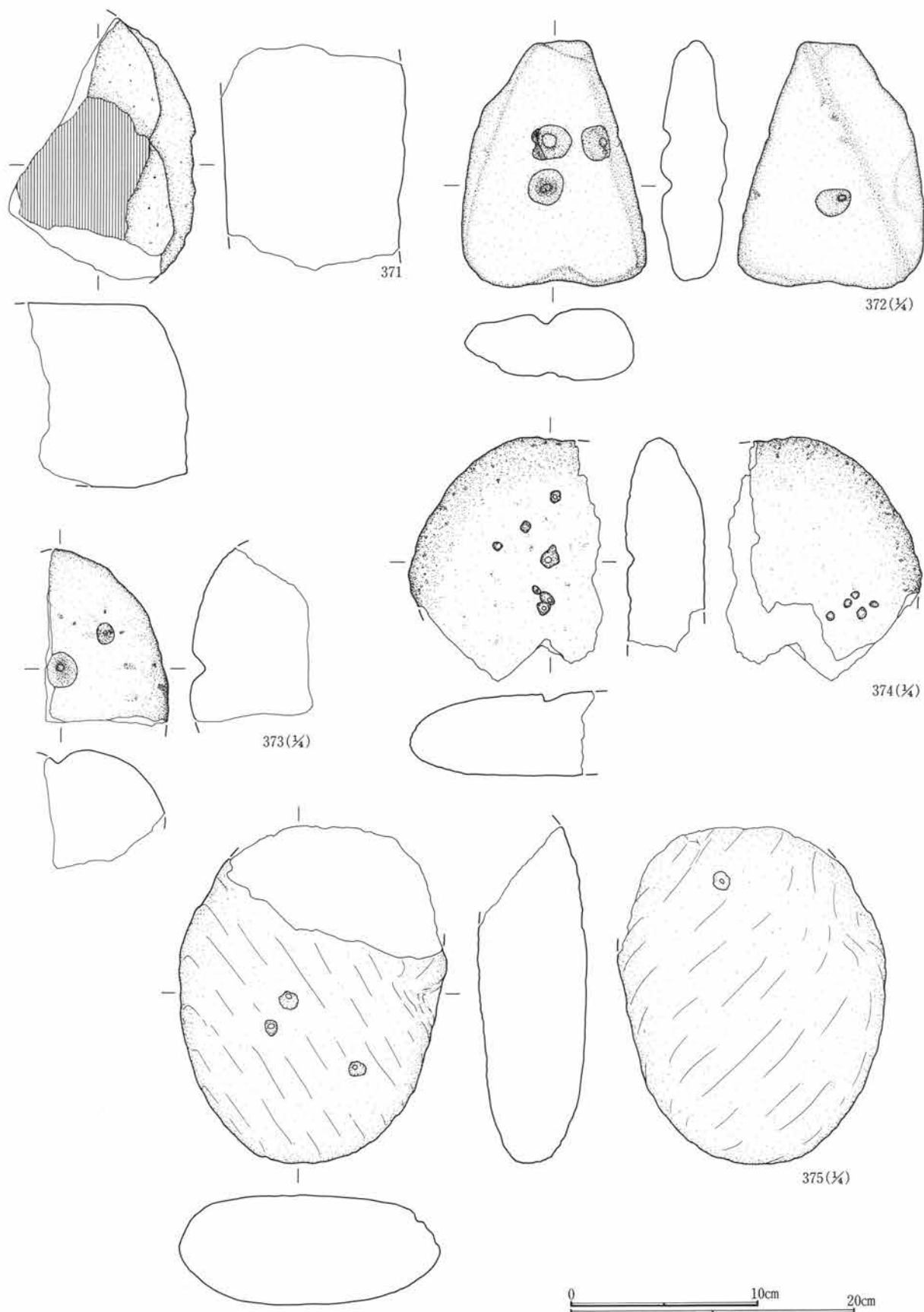
第159図 1号谷津状遺構出土遺物 (16)



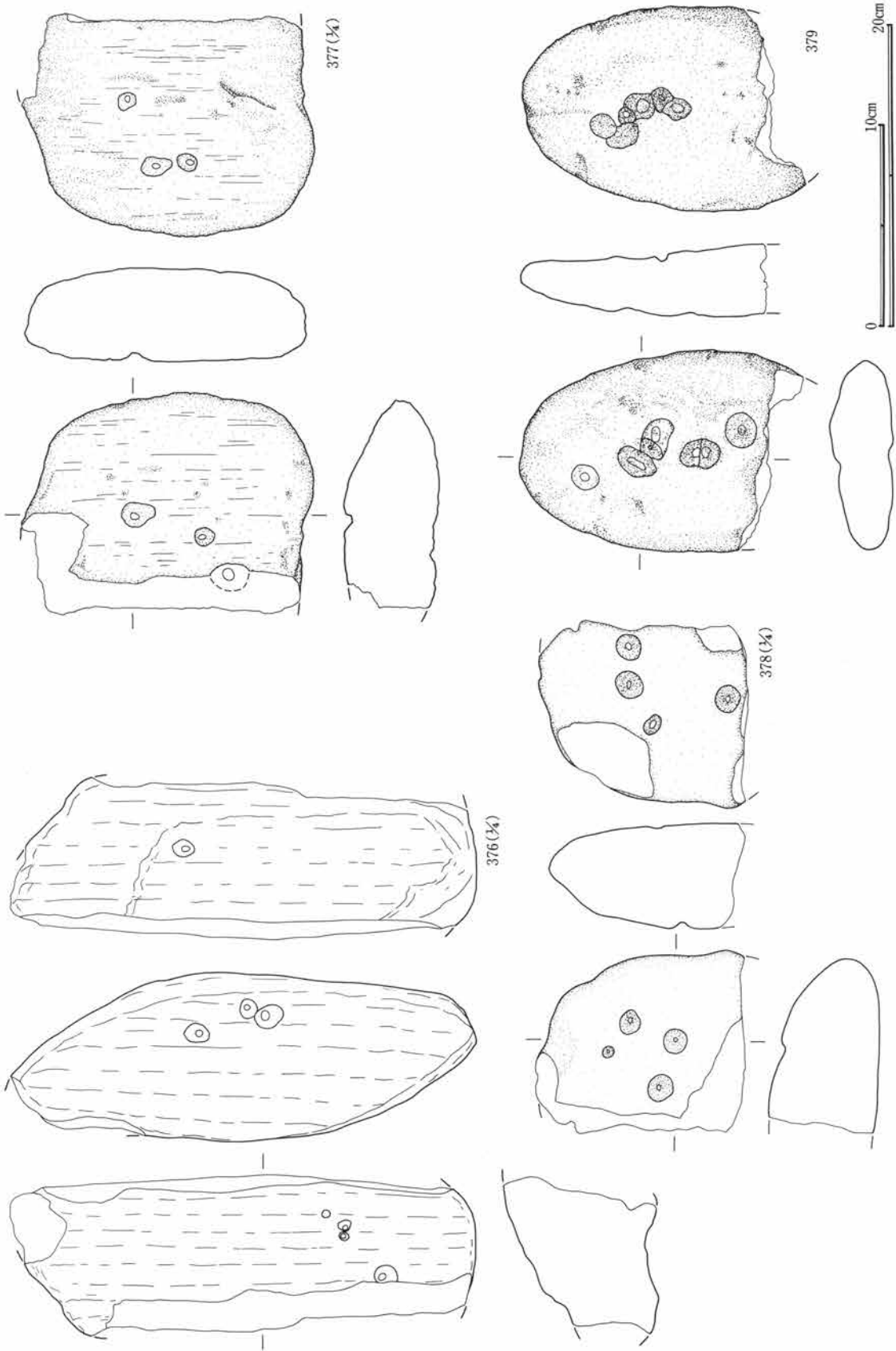
第160図 1号谷状遺構出土遺物 (17)



第161図 1号谷津状遺構出土遺物 (18)

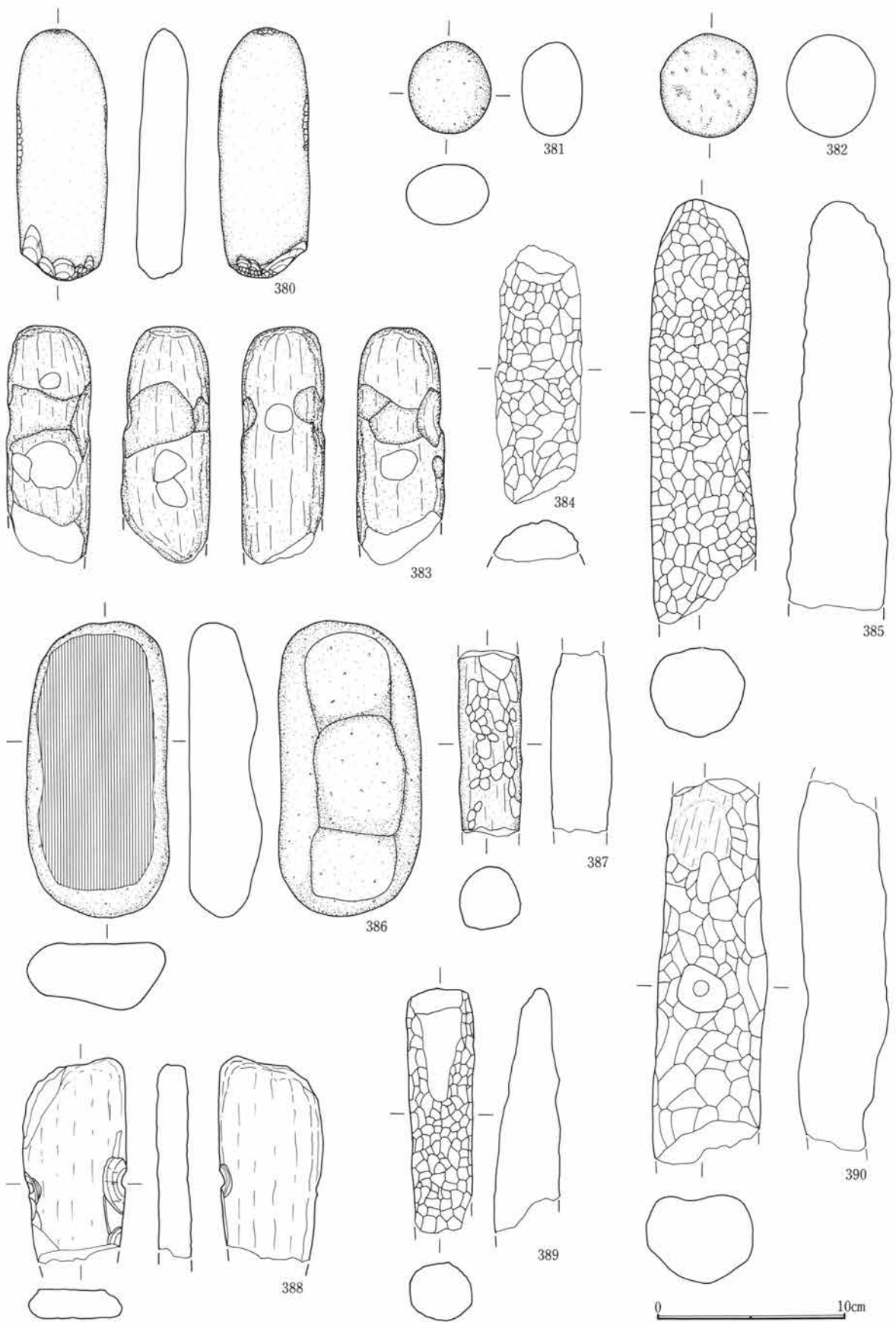


第162図 1号谷津状遺構出土遺物 (19)



第163図 1号谷津状遺構出土遺物 (20)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第164図 1号谷津状遺構出土遺物 (21)

1号谷津状遺構出土土器観察表

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
1	深鉢 口縁部	C61 I64	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚7mm 内面研磨	L r 無節縄文	I 2	
2	深鉢 口縁部	C61 I74	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒・金雲母を含む	器厚11~15mm 内面研磨	口縁部外面にRL縄文 円形竹管 による平行沈線・連続刺突文	II 1	
3	深鉢 胴部	覆土	①黒褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚10~12mm 内面研磨	半截竹管状工具によるキャタピラ 文 山型の結節沈線	II 1	
4	浅鉢か 口縁部	C63 I68	①灰黄褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚6~7mm 内外面研磨	沈線	不明	
5	深鉢 口縁部	C57 I75	①褐 ②灰褐 ③良好 ④粗 砂粒・金雲母を含む	器厚12~17mm 内外面ナデか	口縁部把手の口唇部に刻み 連続 刺突文	III 3	
6	深鉢 胴部	C58 I71	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒・金雲母を含む	器厚7~15mm 内外面研磨か	隆帯文上に刻み 円形竹管による 結節沈線	III 3	
7	深鉢 口縁部	C63 I78	①にぶい赤褐 ②灰褐 ③良好 ④粗 砂粒・石英粒を多く含む	器厚7~10mm 内面研磨	口縁部外面にRL縄文 沈線 平行沈線	II 1	
8	深鉢 胴部	覆土	①黒褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒・金雲母を含む	器厚6~17mm 内面研磨	隆帯文上に刻み 沈線 波状沈線 結節沈線	III 3	
9	深鉢 口縁部	C61 I74	①黒褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・金雲母を多く含む	器厚9~11mm 内面研磨か	隆帯文脇に半截竹管状工具による 結節沈線	III 3	
10	深鉢 胴部	覆土	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12~17mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み	III 2	
11	深鉢 口縁部	C60 I75	①明褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・金雲母を多く含む	器厚8~12mm 内面研磨	隆帯文脇に半截竹管状工具による 結節沈線	III 3	
12	深鉢 胴部	C57 I64	①褐 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒・石英粒・金雲母を含む	器厚12~19mm 内面研磨か	隆帯文 半截竹管状工具による平 行沈線	III 2	
13	深鉢 口縁部	C59 I72	①赤褐 ②明赤褐 ③不良 ④粗 砂粒・石英粒・金雲母を含む	器厚12~17mm 内外面研磨	平行沈線 内面に段あり	III 2	
14	深鉢 胴部	C60 I67	①明褐 ②黒褐 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚11~13mm 内外面研磨か	半截竹管状工具によるキャタピラ 文	III 1	
15	深鉢 胴部	C59 I72	①褐 ②灰褐 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚9~12mm 内面研磨	隆帯文貼付後平行沈線	III 2	
16	深鉢 胴部	C59 I70	①赤褐 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒・金雲母を含む	器厚8~16mm 内面研磨	半截竹管状工具による半隆起線文 隆帯文貼付後キャタピラ文	III 1	
17	深鉢 口縁部	C60 I72	①橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~14mm 内外面研磨か	口縁部把手欠損 沈線	III	
18	深鉢 胴部	C62 I71	①にぶい赤褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚8~18mm 内外面研磨	楕円形貼付文外周に刻み 円孔 沈線	III 1	
19	深鉢 胴部	C59 I73	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10mm 内面研磨か	半截竹管状工具による2本1単位 の平行沈線区画内にLR縄文	III 4	
20	深鉢 胴へ底	C60 I71	①明褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒を含む	底径(8.4cm) 欠残存 内面ナデ外面研磨か	RL縄文縦回転の地文に2本1 単位の沈線	III 4	
21	深鉢 口縁部	C58 I68	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒を少量含む	器厚6~10mm 内面研磨	半截竹管状工具による刺突文・平 行沈線	III 5	
22	深鉢 口縁部	C62 I73	①褐灰 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚9~16mm 内外面研磨	隆帯文・沈線区画内にRL縄文縦 回転	IV 2	
23	深鉢 口縁部	C62 I74	①にぶい橙 ②にぶい赤褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚14~25mm 内面研磨	沈線区画内に櫛状工具による条線 文	IV 3	
24	深鉢 口縁部	C62 I71	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12~22mm 内外面研磨	隆帯文区画内にRL縄文 隆帯文 両脇の縄文磨消	IV 2	
25	深鉢 口縁部	C63 I78	①にぶい褐 ②灰褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚11~17mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	IV 2	
26	深鉢 口縁部	C75 I56	①褐 ②褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚9~24mm 内面研磨	隆帯文区画内にRL縄文横回転 隆帯文両脇の縄文磨消	IV 2	
27	深鉢 口縁部	C59 I71	①明黄褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④粗 砂粒を少量含む	器厚10~17mm	隆帯文区画内にRL縄文 隆帯文 両脇の縄文磨消	IV	
28	深鉢 胴部	C62 I74	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚15~16mm 内面研磨	隆帯文区画内にRL縄文縦回転 隆帯文両脇の縄文磨消	IV 2	
29	深鉢 胴部	C59 I75	①暗褐 ②黒褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚15~19mm 内面研磨	隆帯文区画内にLR縄文 隆帯文 脇は磨消 沈線による円形文	IV 2	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No.	器 部 位	出土 位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
30	深鉢 口縁部	C60 I67	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12~17mm 内外面研磨	沈線区画内にRL縄文横回転	IV 3	
31	深鉢 胴部	C62 I74	①浅黄橙 ②灰褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~13mm 内面ナデか	沈線区画内にRL縄文縦回転	IV 3	
32	深鉢 口縁部	C59 I73	①明赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚14~18mm 内外面研磨か	隆帯文・沈線区画内にRL(?)縄文	IV 2	
33	深鉢 口縁部	C63 I80	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚12~18mm 内面ナデか	隆帯文・沈線区画内にLR縄文	IV 2	
34	深鉢 口縁部	C57 I72	①浅黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~17mm 内面研磨	隆帯文区画内にRL縄文横回転 隆帯文脇の縄文磨消	IV 1	
35	深鉢 口縁部	C58 I73	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③不良 ④粗 砂粒・礫・パミスを含む	器厚9~11mm 内面研磨	沈線区画内にRL縄文	IV 3	
36	深鉢 口縁部	C60 I74	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③不良 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚27mm 内面研磨	隆帯文区画内にRL縄文縦回転 隆帯文両脇の縄文磨消	IV 1	
37	深鉢 胴部	C58 I72	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④粗 砂粒・白色粒子を含む	器厚13~21mm 内面研磨	隆帯文区画内にRL縄文 隆帯文 両脇の縄文磨消	IV 1	
38	深鉢 口縁部	C58 I71	①橙 ②橙 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚11~15mm 内面研磨	隆帯文区画内にR無節縄文	IV 1	
39	深鉢 胴部	C61 I72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚10~24mm 内面研磨	隆帯文区画内にRL縄文 隆帯文 脇の縄文磨消	IV 2	
40	深鉢 口縁部	C59 I71	①橙 ②浅黄 ③不良 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚11~15mm 摩滅により調整不明	微隆帯文 櫛状工具による条線文	IV 1	
41	深鉢 胴部	C60 I73	①黄灰 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚9~15mm 内面研磨	隆帯文脇に沈線	IV 2	
42	深鉢 胴部	C60 I72	①黒褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~17mm 内外面研磨	隆帯文区画内にLR縄文縦回転 隆帯文脇の縄文磨消	IV 1	
43	深鉢 胴部	C59 I73	①にぶい褐 ②暗褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚13~22mm 内外面研磨	隆帯文・沈線区画内にRL縄文	IV 2	
44	深鉢 胴部	C61 I75	①褐 ②褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚9~18mm 内外面研磨	隆帯文区画内に櫛状工具による条 線文 隆帯文両脇は磨消	IV 1	
45	深鉢 胴部	C60 I72	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④粗 砂粒を多く含む	器厚9~11mm 内外面研磨か	橋状把手欠損 隆帯文区画内に縄 文施文か	IV 1	
46	深鉢 口縁部	C58 I71	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~25mm 内外面ナデか	波状口縁部突起 頂部・外面に 幅広の沈線	IV	
47	深鉢 底部	C60 I74	①明赤褐 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	底径(12.4cm) 1/2残存 内面ナデ	隆帯文	IV 1	
48	深鉢 胴部	C59 I74	①明黄褐 ②明褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚13~15mm 摩滅により調整不明	隆帯文	IV 1	
49	深鉢 口縁部	C60 I68	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11~13mm 内外面研磨	隆帯文区画内にLR縄文縦回転	V 1	
50	深鉢 口縁部	C63 I76	①にぶい ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚13~16mm 内外面ナデか	隆帯文	V 1	
51	深鉢 口縁部	C62 I74	①にぶい橙 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒・雲母を含む	器厚14mm 内外面研磨か	橋状把手欠損 隆帯文区画内にL R縄文縦回転	V 1	
52	深鉢 口縁部	C59 I65	①橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚15~19mm 内外面研磨か	隆帯文区画内にLR縄文	V 1	
53	深鉢 口縁部	覆土	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚8~15mm 内面研磨	隆帯文 LR縄文	V 1	
54	深鉢 口縁部	C57 I66	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚11~18mm	隆帯文・沈線区画内にRL(?)縄 文	V 2	
55	深鉢 口縁部	C59 I68	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚12~19mm 内外面研磨	隆帯文区画内にRL縄文横回転	V 1	
56	深鉢 胴部	C59 I67	①にぶい黄橙 ②淡黄 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚13~15mm 内面研磨	隆帯文区画内にRL縄文縦回転 (?)	V 1	
57	深鉢 口縁部	C61 I72	①橙 ②黒褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚11~16mm 内外面研磨	隆帯文区画内にLR縄文縦回転	V 1	
58	深鉢 口縁部	C62 I72	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~11mm 内面研磨	沈線区画内にRL縄文	V 3	
59	深鉢 口縁部	C58 I73	①明褐 ②にぶい褐 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚21mm 内外面研磨	隆帯文	V 1	

第1節 縄文時代

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量 調整	文様要素	分類	備考
60	深鉢 口縁部	C63 I72	①灰褐 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚12~18mm 内外面研磨	隆帯文区画内にLR縄文縦回転	V 1	
61	深鉢 胴部	C59 I73	①暗灰黄 ②にぶい褐橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚12~16mm 摩滅により調整不明	隆帯文区画内にLR縄文縦回転 (?)	V 1	
62	深鉢 口縁部	C61 I72	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚5~22mm 内面研磨か	橋状把手 沈線区画内にLR縄文 縦回転	V 3	
63	深鉢 口縁部	C58 I74	①明黄褐 ②明黄褐 ③不良 ④粗 砂粒を少量含む	器厚5~12mm 摩滅により調整不明	沈線区画内に縄文施文(摩滅により 原体不明)	V 3	
64	深鉢 口縁部	C58 I74	①灰褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~21mm 内外面研磨	波状口縁突起外面に貼付文 隆帯 文・沈線区画内にLR縄文	V 2	
65	深鉢 口縁部	C58 I73	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚15mm 内外面研磨	隆帯文上に円形竹管による連続刺 突文 口縁部内面に段あり	V 1	
66	深鉢 口縁部	C58 I70	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚7~10mm 内外面研磨か	隆帯文	V 1	
67	深鉢 胴部	C56 I78	①にぶい赤褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~12mm 内外面ナデか	隆帯文脇に沈線 RL縄文	V 2	
68	深鉢 胴部	覆土	①にぶい黄橙 ②明褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚15~18mm	隆帯文区画内にRL縄文縦回転	V 1	
69	深鉢 口縁部	覆土	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚16~24mm 内外面研磨	口縁部把手 沈線区画内にLR縄 文	V	
70	深鉢 口縁部	C56 I71	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚14mm 内外面研磨	2条の隆帯文間に連続刺突文	V 1	
71	深鉢 口縁部	C59 I72	①にぶい黄橙 ②黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9mm 内外面研磨か	口縁部外面に2段の連続刺突文	V	
72	深鉢 口縁部	C55 I72	①橙 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~9mm 内面研磨	沈線区画内にRL縄文	V 3	
73	深鉢 把手部	C62 I73	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚15~21mm 内面ナデか	橋状把手 LR縄文縦回転	V	
74	深鉢 口縁部	C58 I76	①黄褐 ②灰褐 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚7~9mm	口縁部外面に2段の連続刺突文 沈線区画内にLR(?)縄文	V 3	
75	深鉢 口縁部	C62 I78	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚15mm 内外面研磨	平行する隆帯文間に2段の連続刺 突文 LR縄文	VI	
76	深鉢 口縁部	C62 I73	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚14mm 内外面ナデか	口縁部下に隆帯文上に連続刺突文	VI 2	
77	深鉢 口縁部	C62 I72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚14~16mm 内面研磨	平行する隆帯文間に2段の連続刺 突文 LR縄文	VI	
78	深鉢 口縁部	C62 I75	①にぶい橙 ②灰 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚9~22mm 摩滅により調整不明	把手に透孔・沈線 隆帯文 隆帯 文間に円形竹管による連続刺突文	VI	
79	深鉢 胴部	C64 I60	①明赤褐 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚8~10mm 内外面研磨か	隆帯文両脇に沈線 沈線区画内にLR縄文	VI 1	
80	深鉢 胴部	C56 I69	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~12mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
81	深鉢 胴部	C62 I74	①明褐 ②暗赤褐 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚11~12mm 内面研磨	沈線区画内にLR(?)縄文	VI 1	
82	深鉢 口縁部	C63 I73	①暗褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11~17mm 内面研磨	把手に上下方向の透孔 連続刺突 文 沈線区画内にLR縄文縦回転	VI 1	
83	深鉢 把手部	C61 I69	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚27mm 内面ナデか	把手に上下方向の透孔 頂部の貼 付文に刺突文 沈線 隆帯文に斜 めの沈線 沈線区画内にLR縄文	VI 1	84と同一 個体か
84	深鉢 把手部	C59 I66	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚24mm 内面ナデか		VI 1	83と同一 個体か
85	深鉢 口縁部	C63 I77	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚9~12mm 内面研磨	連続刺突文 隆帯文区画内にLR 縄文	VI	
86	深鉢 口縁部	C59 I65	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚7~13mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
87	深鉢 口縁部	C69 I60	①褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11~13mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
88	深鉢 口縁部	C55 I77	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~16mm 内外面研磨	隆帯文上に連続する押圧文	VI 2	
89	深鉢 胴部	C59 I70	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~13mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	

第III章 検出された遺構と出土遺物

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量 調整	文様要素	分類	備考
90	深鉢胴部	C60 I73	①褐 ②明褐 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8~12mm 摩滅により調整不明	沈線区画内にLR(?)縄文	VI 1	
91	深鉢胴部	C65 I66	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~10mm 内面ナデ外面研磨か	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
92	深鉢胴部	C56 I69	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を多く含む	器厚11~12mm 内外面ナデか	沈線区画内LR縄文	VI 1	
93	深鉢胴部	覆土	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を多く含む	器厚10~11mm 内面研磨か	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
94	深鉢口縁部	C60 I66	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚9~15mm 内外面研磨	口縁部下横位の隆帯文上に連続する押圧文	VI 2	
95	深鉢口縁部	C59 I72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚14~20mm 内外面ナデ	横位の幅広の隆帯文上に連続する押圧文	VI 2	
96	深鉢胴部	C60 I73	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚6~9mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
97	深鉢胴部	C61 I75	①褐 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を多く含む	器厚9~12mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
98	深鉢口縁部	C58 I71	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~15mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
99	深鉢口縁部	覆土	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~12mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
100	深鉢口縁部	C56 I74	①にぶい赤褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~10mm 内外面研磨か	口縁頂部に刺突文 隆帯文上に刻み 沈線区画内にLR縄文	VI 1	
101	深鉢口縁部	C59 I72	①にぶい黄褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11~14mm 内外面研磨	横位の幅広の隆帯文上に刺突文	VI 2	
102	深鉢胴部	C78 I63	①暗褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~8mm 内外面研磨	沈線区画内にRL縄文	VI 1	
103	深鉢胴部	C59 I70	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚12~20mm 内外面ナデか	横位の隆帯文上に連続する押圧文	VI 2	
104	深鉢胴部	C60 I74	①灰黄褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚7~10mm 内外面ナデか	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
105	深鉢把手部	C67 I68	①褐灰 ②褐 ③不良 ④普通 砂粒を少量含む	器厚9~8mm 内面研磨	口縁部把手頂部に円孔 沈線	VI	
106	深鉢口縁部	C59 I66	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚6~17mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文横回転および円形竹管による連続刺突文	VI 1	
107	深鉢胴部	C58 I72	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文縦回転	VI 1	
108	深鉢胴部	C56 I66	①浅黄 ②浅黄 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚10~14mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
109	深鉢胴部	C58 I72	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~7mm 内面研磨	沈線区画内にRL縄文縦回転	VI 1	
110	深鉢口縁部	C57 I72	①にぶい赤褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7mm 内面ナデ	口縁部外面に2段の連続刺突文 沈線区画内にRL縄文横回転	VI 1	
111	深鉢胴部	C62 I73	①にぶい黄褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
112	深鉢胴部	C62 I72	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚11~12mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
113	深鉢胴部	C62 I71	①にぶい褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚11~14mm 内面研磨	L r 無節縄文 沈線	VII 3	
114	深鉢口縁部	C60 I76	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~13mm 内外面研磨	沈線区画内にLR(?)縄文	VII 3	
115	深鉢胴部	C58 I64	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③不良 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚9~11mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VII 3	
116	深鉢口縁部	C55 I52	①赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚14mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
117	深鉢胴部	C63 I72	①明黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚6~8mm 内面研磨か	沈線区画内に刺突文	VII 1	
118	深鉢口縁部	C57 I63	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~13mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
119	深鉢口縁部	C68 I60	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8mm 内外面とも 削り後研磨か	沈線	VII 2	

第1節 縄文時代

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
120	深鉢 胴部	C59 I73	①明褐 ②にぶい褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚9mm 内面研磨	沈線区画内に連続する短い沈線	VII 1	
121	深鉢 口縁部	C61 I69	①明褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9～15mm 内外面研磨	口縁部突起頂部に沈線・孔 平行する沈線間の隆帯文上に円形竹管による連続刺突文	VII 4	
122	深鉢 胴部	C57 I66	①にぶい黄橙 ②浅黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8～10mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
123	深鉢 胴部	C61 I69	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10～11mm 内面ナデ外面研磨か	沈線区画内に連続刺突文	VII 1	
124	深鉢 胴部	C58 I65	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6～8mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
125	深鉢 口縁部	C56 I68	①明黄褐 ②明褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚12mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
126	深鉢 口縁部	C59 I73	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7mm 内外面研磨	沈線区画内にRL磨消縄文	VII 3	127 と同一個体か
127	深鉢 口縁部	C59 I73	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6～7mm 内外面研磨	沈線区画内にRL磨消縄文	VII 3	126 と同一個体か
128	深鉢 口縁部	C58 I74	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11～14mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
129	深鉢 口縁部	C58 I72	①にぶい褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚9～13mm 内外面研磨か	沈線区画内にLR縄文	VII 3	
130	深鉢 口縁部	C59 I70	①黒褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚8～15mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VII 3	
131	深鉢 胴部	C57 I71	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④細 砂粒を含む	器厚8～9mm 摩滅により調整不明	沈線区画内にRL(?)縄文	VII 3	
132	深鉢 胴部	C59 I71	①褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9～10mm 内面ナデか	沈線区画内にR1無節縄文	VII 3	
133	深鉢 胴部	C59 I71	①褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8～10mm 内面ナデか	沈線区画内にR1無節縄文	VII 3	
134	深鉢 胴部	C58 I71	①橙 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚9～11mm 内外面研磨か	沈線区画内にLR縄文	VII 3	
135	深鉢 口縁部	C60 I72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8～10mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VII 3	
136	深鉢 口縁部	C58 I72	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8～13mm 内面ナデ外面研磨か	沈線区画内にLR縄文	VII 3	
137	浅鉢 口縁部	C59 I72	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9～14mm 内外面研磨か	把手に透孔 内外面に沈線・円形貼付文に刺突文 注口あり	VII 5	
138	深鉢 胴部	C59 I76	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚8～10mm 内外面研磨	沈線区画内に刺突文	VII 1	
139	深鉢 口縁部	C59 I74	①橙 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を少量含む	器厚11～30mm 内面研磨か	横位の橋状把手欠損 隆帯文 口縁部内面に隆帯文	VII 4	
140	深鉢 口縁部	C59 I72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚7～14mm 内外面研磨	口縁部把手に透孔 内外面に沈線・円形貼付文に刺突文	VII	
141	深鉢 把手か	C56 I78	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚10～18mm 内外面研磨	把手の破片か 外面に沈線・刺突文 内面に隆帯文	VII	
142	深鉢 口縁部	C58 I73	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10mm 内外面研磨	沈線区画内に連続する短い沈線	VII 1	
143	深鉢 胴部	C56 I77	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚10～11mm 内面研磨	沈線による同心円文	VII 2	
144	深鉢 口縁部	C61 I73	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6～15mm 内面研磨	橋状の貼付文に円形刺突文	VII 4	
145	深鉢 口縁部	C58 I75	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を多く含む	器厚12～16mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
146	深鉢 口縁部	C58 I70	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚9～15mm 内外面研磨	口縁部外面に2条の平行沈線	VII 2	
147	深鉢 口縁部	C59 I72	①灰褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚7～10mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
148	深鉢 口縁部	C58 I72	①浅黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9～12mm 内面研磨外面ナデ	沈線	VII 2	149 と同一個体か
149	深鉢 口縁部	覆土	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9～11mm 内面研磨外面ナデ	沈線	VII 2	148 と同一個体か

第III章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 量 調 整	文 様 要 素	分類	備 考
150	深鉢 口縁部	C59 I74	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~9mm 内外面研磨	沈線区画内に刺突文	VII 1	
151	深鉢 胴部	C56 I72	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚8~10mm 内面研磨	沈線	VII 2	
152	深鉢 胴部	C60 I74	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚10~12mm 内外面研磨か	沈線区画内に連続する短い沈線	VII 1	
153	深鉢 胴部	C60 I72	①橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚7~10mm 摩滅により調整不明	沈線区画内に連続刺突文	VII 1	
154	深鉢 口縁部	C58 I67	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子・パミスを含む	器厚9~20mm 内外面研磨	口縁部把手に透孔・刺突文 沈線	VII 2	
155	深鉢 口縁部	C63 I72	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚3~16mm 内外面研磨	波状口縁部突起頂部・内面に円形竹管による刺突文・外面沈線	VII 2	
156	深鉢 口縁部	C59 I67	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚6~12mm 内外面研磨	円形貼付文に刺突文・沈線	VI 1	
157	深鉢 口縁部	C58 I66	①橙 ②明黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚8~15mm 内面研磨	口縁部突起内外面・口縁部外面に円形竹管による刺突文・竹管	VI	
158	浅鉢 口縁部	C61 I71	①灰褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒を少量含む	器厚8~12mm 内外面研磨	口縁頂部に円形刺突文・U字状平行沈線間に刻み	VIII 5	
159	深鉢 把手部	C57 I53	①にぶい橙 ②明褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚10~19mm 内外面研磨	把手に透孔・頂部に沈線・円形貼付文に刺突文	VII	
160	深鉢 胴部	C59 I71	①橙 ②赤褐 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚8~11mm 内外面研磨か	沈線区画内にRL縄文 円形貼付文に刺突文	VIII 1	
161	深鉢 口縁部	C60 I76	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9~24mm 内外面研磨	口縁部突起透孔・内面円形貼付文に刺突文 外面に刺突文・	VIII	
162	深鉢 胴部	C61 I74	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚10~14mm 摩滅により調整不明	沈線・沈線外側に刻み 沈線	VIII 4	
163	深鉢 胴部	C56 I64	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を少量含む	器厚6~8mm 内外面研磨	沈線区画内にLr無節縄文	VIII 1	
164	深鉢 胴部	C60 I72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚4~10mm 内外面研磨	8の字状貼付文 沈線	VIII 5	
165	深鉢 胴部	C63 I65	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VIII 1	
166	深鉢 胴部	C62 I71	①明褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚7~10mm 内外面研磨	円形貼付文に円孔 沈線	VIII 5	
167	深鉢 口縁部	C58 I67	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	口径(13.4cm) 内外面研磨	口縁部外面に沈線	VIII 4	
168	深鉢 口縁部	C61 I69	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚10~20mm 内面研磨	沈線による同心円文中心に透孔 沈線区画内にLr無節縄文	VIII 1	169 と同一個体か
169	深鉢 口縁部	C56 I64	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚9~15mm 内面研磨	沈線区画内にLr無節縄文	VIII 1	168 と同一個体か
170	深鉢 口縁部	C59 I66	①橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚7mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VIII 1	
171	深鉢 胴部	C59 I66	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~15mm 内外面研磨	円形貼付文に円孔 隆帯文上に刺突文	VIII 5	
172	深鉢 胴部	C61 I68	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~12mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VIII 1	
173	深鉢 口縁部	C61 I67	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚9~10mm 内外面研磨	沈線	VIII 4	
174	深鉢 口縁部	C59 I66	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~18mm 内外面研磨	波状口縁部外面に円形竹管による円孔	VIII	
175	深鉢 口縁部	C58 I64	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~12mm 内外面研磨	口縁部外面に円形竹管による刺突文・沈線 口唇部に沈線	VIII	
176	深鉢 口縁部	C58 I68	①灰黄褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚11mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文縦回転 口縁部に突起	VIII 1	
177	深鉢 口縁部	C59 I69	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚6mm 内面研磨	沈線区画内にLR(?)縄文	VIII 1	
178	深鉢 胴部	C59 I69	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚13~14mm 内外面研磨	隆帯文両脇に沈線 連続刺突文 把手頂部に沈線による同心円文刺突文 粘土燃合せによる把手 円形貼付文に刺突文 沈線	VIII 5	
179	深鉢 把手部	C56 I67	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚16~35mm 内外面研磨	円形貼付文に刺突文 沈線	VIII	

第1節 縄文時代

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調 量整	文様要素	分類	備考
180	深鉢 口縁部	覆土	①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚10mm 内外面研磨か	口縁部内面に沈線	VIII	
181	鉢 口縁部	C 61 I 66	①にぶい黄橙 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚14mm 内外面研磨	8の字状貼付文 貼付による把手 沈線	VIII	
182	深鉢 胴部	C 59 I 67	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚7~12mm 内面研磨	隆帯文・沈線区画内にL R無節縄 文 貼付文上に刺突文	VIII 5	
183	深鉢 口縁部	C 58 I 68	①褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~14mm 内外面研磨	口縁部外面に円形竹管による刺突 文・沈線 沈線	VIII 4	
184	深鉢 口縁部	C 59 I 67	①黄灰 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み 円形竹管による 刺突文 沈線	VIII 5	
185	深鉢 胴部	C 60 I 66	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を少量含む	器厚6~10mm 内外面研磨	沈線による同心円文 隆帯文・沈 線区画内にR L縄文	VIII 5	
186	深鉢 胴部	C 60 I 66	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内面研磨	沈線区画内にL R縄文 刺突文	VIII 1	
187	深鉢 胴部	C 57 I 64	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~9mm 内面研磨	沈線区画内にL R縄文縦回転 貼付文	VIII 1	
188	深鉢 胴部	C 59 I 66	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚8~11mm 内外面研磨か	平行沈線内に連続刺突文	VIII 3	
189	深鉢 口縁部	C 59 I 71	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8mm 内外面研磨	波状口縁突起に透孔 沈線区画内 にR L(?)縄文	VIII 1	
190	深鉢 口縁部	C 58 I 70	①浅黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8~17mm 内面ナデか	幅広い隆帯文上の平行沈線間に連 続する円形刺突文	VIII 3	
191	深鉢 胴部	C 59 I 71	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚7~10mm 内面研磨	沈線区画内にL R縄文横回転	VIII 1	
192	深鉢 口縁部	C 59 I 72	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~14mm 内外面研磨	幅広い隆帯文上の平行沈線間に連 続刺突文 沈線	VIII 3	
193	深鉢 口縁部	C 59 I 74	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚9~13mm 内外面研磨	口縁部把手に透孔・頂部に沈線	VIII	
194	深鉢 口縁部	C 59 I 71	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚6~21mm 内外面研磨	口縁部把手に透孔 内面・頂部に 円形刺突文 隆帯文脇に沈線	VIII 5	
195	深鉢 口縁部	C 59 I 70	①にぶい橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~19mm 内外面研磨	刺突文を施す円形貼付文を4つ菱 形に配置 沈線	VIII 3	
196	深鉢 口縁部	C 68 I 71	①にぶい橙 ②明黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・パミス・白色粒子を含む	器厚7~20mm 内外面研磨	口縁部内外面に円孔 沈線	VIII	
197	深鉢 口縁部	C 58 I 72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚7~19mm 内外面研磨	波状口縁突起に沈線・円形貼付文 に刺突文 隆帯文 平行沈線	VIII 5	
198	深鉢 口縁部	C 57 I 75	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚8~12mm 内外面研磨	口縁部外面に幅広い沈線 沈線外 側に刻み	VIII	
199	深鉢 口縁部	C 60 I 70	①灰褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	口径(19cm) 1/2残存 内外面研磨	口縁部外面に稜線	VIII 7	
200	深鉢 口縁部	C 61 I 71	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚11~16mm 内外面研磨か	口縁部外面に円孔・沈線	VIII	
201	深鉢 口縁部	C 61 I 71	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚7~13mm 内外面研磨	沈線	VIII 4	
202	深鉢 胴部	C 59 I 72	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~8mm 内外面研磨か	沈線	VIII 4	
203	深鉢 胴~底	C 58 I 72	①褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	底径(5.4cm) 1/2残存 内面ナデ外面研磨か	10+α本1単位の櫛状工具による 同心円状の条線	VIII 7	
204	深鉢 胴部	C 60 I 70	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚9~12mm 内面研磨	沈線による渦巻き文 沈線区画 連続刺突文	VIII 3	
205	深鉢 口縁部	C 60 I 72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚17mm 内外面研磨	沈線	VIII 4	
206	深鉢 口縁部	C 61 I 72	①浅黄橙 ②浅黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚7~21mm 摩滅により調整不明	口縁部把手内面に沈線・円形貼 付文に円孔 外面沈線	VIII 4	
207	深鉢 口縁部	C 58 I 73	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~15mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線 沈線区画内に L R縄文縦回転	VIII 1	208と同一 個体か
208	深鉢 口縁部	C 60 I 70	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~13mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線 沈線区画内に L R縄文縦回転	VIII 1	207と同一 個体か
209	深鉢 口縁部	C 59 I 75	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~9mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線	VIII 3	

第Ⅲ章 検出された遺構と出土遺物

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
210	深鉢胴部	覆土	①暗褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~17mm 内面研磨	8の字状貼付文 沈線	VIII 5	
211	深鉢口縁部	C59 I72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~13mm 内外面研磨	波状口縁突起に透孔・円形刺突文・沈線	VIII	
212	深鉢口~胴	C59 I73	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚6~12mm 内面研磨	口縁部外面に2条の平行沈線 沈線 LR縄文横回転	VIII	
213	深鉢胴部	C58 I72	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~21mm 内外面研磨か	隆帯文貼付の8の字状貼付文・隆帯文脇に沈線	VIII 5	
214	深鉢胴部	C58 I72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~22mm 内面ナデ外面研磨か	楕円形貼付文に刺突文・沈線 沈線	VIII 5	
215	深鉢胴部	C60 I70	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚10~12mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	VIII 1	
216	深鉢口縁部	C55 I79	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	口径(11.0cm) 1/2残存 内外面研磨か	口縁部外面に沈線	VIII	
217	深鉢口縁部	C60 I76	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~16mm 内面ナデ外面研磨か	口縁部外面に刺突文・沈線区画内に連続刺突文 沈線	VIII 3	
218	深鉢口縁部	C61 I75	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚14mm	口縁部外面に円形竹管による刺突文・沈線	VIII 4	
219	深鉢口縁部	C59 I72	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚2~5mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	IX 1	
220	深鉢口縁部	C56 I64	①淡黄 ②にぶい黄橙 ③不良 ④細 砂粒・雲母を含む	器厚4~6mm 内外面研磨か	沈線区画内にRL(?)磨消縄文	IX 1	
221	深鉢胴部	C60 I72	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚6~7mm 内外面研磨	沈線	IX 2	
222	注口土器注口	C59 I67	①にぶい黄橙 ②暗褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚10mm 内外面研磨	注口 沈線	IX 4	
223	深鉢胴部	C62 I72	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚5~10mm 内面ナデ外面研磨	沈線区画内に櫛状工具による条線文	IX 2	
224	深鉢胴部	C61 I66	①にぶい黄橙 ②黄灰 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~9mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
225	深鉢口縁部	C58 I65	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~9mm 内外面研磨	8の字状貼付文 沈線	IX 2	
226	深鉢口縁部	C55 I72	①橙 ②橙 ③良好 ④細 砂粒・雲母を少量含む	器厚4~9mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文 口縁部内面に刺突文	IX 1	
227	注口土器胴部	C57 I63	①灰黄 ②浅黄 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚3~6mm 内外面研磨	沈線による同心円文 沈線区画内にLR縄文	IX 4	
228	深鉢底部	C59 I64	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(11.2cm) 1/2残存 内外面研磨	底部網代痕あり	IX	
229	深鉢口縁部	C58 I64	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7mm 内外面研磨	沈線	IX 2	
230	深鉢口縁部	C58 I69	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX 3	
231	深鉢底部	覆土	①にぶい褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(17.6cm) 1/2残存 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文 円形竹管による刺突文	IX 1	
232	深鉢口縁部	C58 I74	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚3~10mm 内外面研磨	口縁頂部に刺突文・刻み 口縁部に楕円形の透孔・円形刺突文	IX	
233	注口土器口縁	C60 I68	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚13mm 内外面研磨か	注口土器口縁部橋状把手	IX 4	
234	深鉢胴部	C59 I70	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~8mm 外面研磨	沈線区画内にLR縄文	IX 1	
235	注口土器胴部	C63 I60	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を少量含む	器厚5~11mm 内面ナデ外面研磨	平行沈線 沈線区画内にLR磨消縄文	IX 4	
236	深鉢口縁部	C59 I71	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~6mm 内外面研磨	口唇部に刻み 口縁部内面に半隆起線文 外面沈線	IX 2	
237	深鉢口縁部	C60 I70	①褐灰 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚4~8mm 内外面研磨	口唇部に刻み 口縁部内面に沈線・刺突文	IX 1	
238	鉢か口縁部	C60 I71	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④細 砂粒・雲母を少量含む	器厚5~6mm 内外面研磨	口唇部に刻み 口縁部内面に半隆起線文 沈線	IX	
239	注口土器胴部	C61 I72	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	最大径(19.2cm) 1/2残存 内面ナデ外面研磨	沈線による同心円文 沈線区画内にLR磨消縄文	IX 4	

第1節 縄文時代

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調	量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
240	深鉢 口縁部	C59 I71	①浅黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚6~8mm 内面研磨		指頭によるナデ	IX 3	
241	深鉢 口縁部	C57 I75	①暗褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒・パミスを含む	器厚4~8mm 内外面研磨		8の字状貼付文(?) 隆帯文上に 刻み 沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
242	注口土 器胴部	C59 I73	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	最大径(17.7cm) 1/2残 存 内面ナデ外面研磨		沈線区画内に磨消縄文施文か	IX 4	
243	深鉢 口縁部	C62 I71	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を多く含む	器厚6~7mm 内面研磨		指頭によるナデ 口縁部内面円形 貼付文に刺突文	IX 3	
244	深鉢 胴部	C59 I71	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~6mm 内外面研磨		沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	245と同 一個体か
245	深鉢 胴部	C59 I71	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~8mm 内外面研磨		沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	244と同 一個体か
246	注口土 器口縁	C59 I72	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~11mm 内面ナデ外面研磨か		注口土器口縁部橋状把手か 沈線	IX 2	
247	深鉢 胴部	C58 I70	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚6~7mm 内面研磨		平行沈線	IX 2	
248	深鉢 胴部	C57 I70	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚3~8mm 内外面研磨		沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
249	深鉢 口縁部	C58 I70	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚7~9mm 内面研磨か		指頭によるナデ	IX 3	
250	深鉢 口縁部	C57 I70	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③不良 ④細 砂粒を含む	器厚4~5mm 内外面研磨か		沈線	IX 2	
251	深鉢 口縁部	C53 I78	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚5~7mm 内外面研磨		沈線 口縁部内面に隆帯文	IX 2	
252	深鉢 口縁部	C58 I69	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚9mm 内外面研磨		口唇部に刻み 隆帯文上に刺突 文・連続する短沈線 内面に半隆 起線文	IX 6	
253	深鉢か 胴部	C56 I75	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚4~8mm 内面ナデ外面研磨		隆帯文 平行沈線	IX 6	
254	深鉢 胴部	C60 I66	①明褐 ②明赤褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚14~15mm		L { R縄文 r	不明	
255	鉢 底部	C60 I73	①にぶい黄褐 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を多く含む	底径6.4cm 底部全周 内外面研磨か		底部網代痕あり	不明	
256	深鉢 胴部	C59 I72	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~11mm 内面研磨		平行沈線	不明	
257	深鉢 胴部	C57 I60	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚7~9mm 内外面研磨		平行沈線	不明	
258	注口土 器注口	C58 I73	①橙 ②にぶい橙 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚3~8mm 摩滅により調整不明			不明	
259	注口土 器注口	C61 I71	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④細 砂粒・白色粒子を含む	器厚4~8mm 摩滅により調整不明		沈線	不明	
260	深鉢 底部	C58 I68	①にぶい黄橙 ②淡黄 ③不良 ④粗 砂粒・礫を含む	底径7.5cm 1/2残存 内面ナデ外面研磨か			X 1	
261	皿? 口~底	C57 I65	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口(15.0cm) 底(14.2cm) 高(2.7cm) 浅い盤形の土器 1/2残存 内外面研磨			不明	
262	深鉢か 把手か	C57 I68	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を多く含む	器厚15~20mm 内外面ナデか		内外面の隆帯文上に刻み 外面沈 線内面刺突文	不明	口縁部把 手か
263	深鉢 底部	C59 I74	①にぶい橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(9.0cm) 1/4残存 内外面研磨			X 1	
264	深鉢 底部	C58 I73	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	底径(10.0cm) 1/2残存 内面ナデ外面研磨 底部木葉痕あり			X 1	
265	深鉢 底部	C62 I72	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径6.2cm 底部全周 内外面研磨			X 2	
266	深鉢 底部	C64 I76	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	底径5.8cm 底部全周 内外面研磨			X 2	
267	深鉢 底部	C60 I67	①明褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径5.3cm 底部全周 内面ナデ外面研磨			X 2	
268	深鉢 底部	C61 I66	①にぶい黄橙 ②暗褐 ③不良 ④粗 砂粒・礫を含む	底径5.6cm 1/2残存 内外面研磨か			X 1	
269	不明 把手部	C58 I67	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~13mm 内外面研磨		注口土器口縁部把手か 把手に透孔	不明	

第III章 検出された遺構と出土遺物

1号谷津状遺構出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
270	石鏃	C58-I74	2.2	1.6	0.4	1.3	完形	安山岩	平基無茎鏃
271	石鏃	C58-I60	[1.9]	[1.6]	0.3	0.5	基部一部欠損	黒曜石	凹基無茎鏃
272	打製石斧	C61-I61	[5.8]	4.9	3.0	91	刃部欠損	安山岩	撥型か 片面に自然面を残す
273	打製石斧	C75-I57	15.1	9.1	3.0	420	完形	安山岩	撥I型 片側の側縁は膨らむ 直刃
274	打製石斧	C76-I66	16.7	8.7	3.2	400	完形	輝緑岩	短冊型 凸刃
275	打製石斧	C77-I59	15.1	9.4	2.6	420	完形	輝緑岩	撥I型 凸刃 片面に自然面を残す
276	打製石斧	C63-I72	10.3	7.1	2.1	146	完形	熱変成岩	分銅型 直刃 片面に自然面を残す
277	打製石斧	C62-I72	[9.5]	5.2	2.1	170	基部欠損	角閃岩	短冊型 凸刃 片面に自然面を残す
278	打製石斧	C62-I72	10.6	5.1	2.1	115	完形	熱変成岩	撥I型 凸刃
279	打製石斧	C56-I67	11.3	5.3	2.3	150	完形	熱変成岩	短冊型 凸刃
280	打製石斧	C60-I61	7.4	4.8	2.4	127	完形	輝緑岩	撥II型 直刃か
281	打製石斧	C62-I72	[9.3]	[5.0]	1.9	85	一部欠損	安山岩	短冊型 凸刃
282	打製石斧	C63-I72	10.1	5.4	2.1	90	刃部欠損	安山岩	撥II型
283	打製石斧	C62-I73	[6.0]	4.7	1.7	65	基部欠損	熱変成岩	短冊型 直刃
284	打製石斧	C59-I75	13.8	5.4	1.5	145	完形	絹雲母緑泥石片岩	短冊型 直刃
285	打製石斧	C64-I76	9.3	4.4	2.0	74	完形	安山岩	撥I型 凸刃
286	打製石斧	C61-I65	[6.9]	[5.6]	1.8	63	刃部欠損	熱変成岩	形態分類不能
287	打製石斧	C75-I59	[6.9]	4.8	1.7	85	基部欠損	熱変成岩	短冊型 凸刃
288	打製石斧	C56-I63	[7.7]	4.3	1.9	70	基部欠損	熱変成岩	撥II型 凸刃
289	打製石斧	C55-I74	[5.4]	4.5	1.1	35	基部欠損	熱変成岩	短冊型 直刃 片面に自然面を残す
290	打製石斧	C60-I70	8.0	5.3	1.5	60	完形	熱変成岩	撥II型 凸刃か
291	打製石斧	C58-I65	[18.9]	8.8	2.0	500	基部欠損	輝緑岩	撥II型 凸刃 片面に自然面を残す
292	打製石斧	C63-I76	[9.2]	8.4	3.0	250	基部欠損	安山岩	撥I型か 凸刃 片面に自然面を残す
293	打製石斧	C64-I68	7.3	4.5	2.7	97	刃部欠損	熱変成岩	短冊型
294	打製石斧	C60-I65	13.1	8.5	5.2	735	完形	熱変成岩	短冊型か 片面に自然面を残す
295	打製石斧	C58-I75	17.7	8.0	2.8	285	完形	熱変成岩	撥I型 直刃 刃部摩耗著しい
296	打製石斧	C59-I72	11.9	4.6	2.4	105	完形	熱変成岩	撥II型 凸刃
297	打製石斧	C59-I75	11.5	5.5	2.2	170	完形	熱変成岩	短冊型 直刃 片面に自然面を残す
298	打製石斧	C58-I75	9.0	5.0	1.5	60	完形	熱変成岩	撥I型 凸刃
299	打製石斧	C61-I70	12.1	4.7	2.3	165	完形	熱変成岩	短冊型 直刃 片面に自然面を残す
300	打製石斧	C57-I70	[7.0]	4.8	1.2	45	一部欠損	絹雲母石墨片岩	短冊型 直刃
301	打製石斧	C57-I72	[6.1]	5.4	1.7	60	基部欠損	熱変成岩	短冊型か 凸刃
302	打製石斧	C59-I74	[6.2]	6.7	1.8	90	基部欠損	熱変成岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
303	打製石斧	C59-I72	[7.9]	4.9	1.6	71	基部欠損	熱変成岩	短冊型 凸刃 両面に自然面を残す
304	打製石斧	C61-I71	10.6	5.1	1.5	100	未製品	熱変成岩	撥II型 凸刃 片面に自然面を残す
305	打製石斧	C62-I73	9.5	4.4	1.6	91	完形	輝緑岩	撥I型 直刃 片面に自然面を残す
306	打製石斧	C57-I75	[7.5]	5.7	2.1	95	基部欠損	熱変成岩	撥I型 凸刃 両面に自然面を残す
307	打製石斧	C62-I73	10.8	5.4	2.0	110	完形	安山岩	撥II型 凸刃
308	打製石斧	C57-I74	[8.5]	4.8	2.7	115	刃部欠損	熱変成岩	撥II型
309	打製石斧	C57-I76	[10.2]	5.2	1.9	108	刃部欠損	熱変成岩	短冊型
310	打製石斧	C63-I73	[8.3]	5.6	2.3	110	一部欠損	熱変成岩	形態分類不能 側縁に自然面を残す
311	磨製石斧	C57-I76	[7.8]	8.2	4.4	440	基部欠損	輝緑岩	粗割途中 片面に自然面を残す
312	磨製石斧	C59-I75	[14.5]	8.2	4.6	670	未製品	角閃岩	敲打途中 側面に敲打痕 自然面残す
313	磨製石斧	C60-I70	[9.1]	8.5	3.2	375	基部欠損	輝緑岩	敲打途中 両面外周を敲打
314	磨製石斧	C75-I66	10.1	6.1	3.3	340	完形	角閃岩	研磨途中
315	磨製石斧	C65-I73	[7.1]	5.0	2.5	142	刃部欠損	角閃岩	研磨途中 片面に敲打痕を残す
316	磨製石斧	C59-I71	[8.6]	5.5	3.3	225	刃部欠損	輝緑岩	研磨途中 一部敲打痕を残す
317	磨製石斧	C78-I61	[11.4]	6.5	4.9	565	刃部欠損	角閃岩	研磨段階 全面研磨
318	磨製石斧	C58-I64	[9.0]	5.3	2.9	226	刃部欠損	輝緑岩	敲打段階 全面敲打
319	磨製石斧	C59-I72	[3.8]	5.8	2.5	59	刃部のみ	輝緑岩	敲打段階
320	磨製石斧	C61-I65	[5.2]	3.6	1.1	30	基部欠損	ヒスイ	研磨段階 全面研磨
321	磨製石斧	C57-I74	[11.1]	6.4	4.3	377	刃部欠損	角閃岩	研磨途中 側面に敲打痕を残す
322	磨製石斧	C58-I68	13.7	5.2	3.2	405	完形	角閃岩	研磨段階 刃部以外は粗い研磨
323	磨製石斧	C58-I75	8.0	4.2	2.0	72	未製品	輝緑岩	粗割段階 両面に自然面を残す
324	磨製石斧	C55-I59	7.7	4.1	1.9	85	完形	角閃岩	粗割段階 片面に自然面を残す
325	磨製石斧	覆土	[11.7]	7.0	3.5	430	基部欠損	輝緑岩	研磨段階 全面研磨
326	スクレイパー	覆土	9.1	6.1	2.2	119	完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃 片面に自然面を残す
327	スクレイパー	C59-I73	4.6	[6.9]	1.2	45	欠損	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃
328	スクレイパー	C63-I72	5.6	6.8	2.0	61	完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃 側面に自然面を残す

第1節 縄文時代

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
329	スクレイパー	C58-171	3.7	10.7	0.9	35	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃
330	スクレイパー	C60-174	5.5	[9.3]	2.2	100	一部欠損	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面を残す
331	スクレイパー	C58-164	7.6	11.9	2.5	210	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面を残す
332	スクレイパー	C60-174	3.8	[7.1]	1.3	30	完形	輝緑岩	直刃 片面に自然面を残す
333	スクレイパー	C60-175	5.9	6.6	1.2	35	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面を残す
334	スクレイパー	C59-174	5.9	8.8	1.5	80	完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃 片面に自然面を残す
335	スクレイパー	C59-174	5.2	6.7	1.2	35	一部欠損	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃
336	スクレイパー	C63-179	8.1	5.5	1.3	45	完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃
337	スクレイパー	C56-163	8.3	6.6	2.7	155	完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃 片面に自然面を残す
338	ピエースキーユ	C60-174	2.1	1.5	0.7	2.0	完形	黒曜石	
339	不明	C58-169	4.3	2.6	1.2	15	完形	玉髄	
340	不明	C57-174	3.5	2.9	0.9	9.0	完形	玉髄	
341	石核	C61-173	6.4	6.3	2.1	90	完形	安山岩	
342	ピエースキーユ	C61-173	2.5	2.4	0.7	4.8	完形	黒曜石	
343	不明	C71-156	2.3	1.6	0.5	1.8	完形	黒曜石	
344	磨石	C78-159	[9.3]	8.2	3.3	360	一部欠損	安山岩	片面に磨面 側面に敲打痕を残す
345	磨石	C58-173	9.1	[7.3]	5.2	445	一部欠損	安山岩	両面に磨面
346	磨石	C58-174	11.9	5.3	3.6	331	一部欠損	石英安山岩	片面に磨面
347	磨石	覆土	6.6	5.5	2.1	125	完形	安山岩	両面に磨面
348	磨石	覆土	7.7	8.0	6.8	590	完形	安山岩	4面に磨面
349	磨石	C56-176	7.4	8.4	4.1	380	ㄨ	安山岩	片面に磨面 敲打痕を残す
350	磨石	C58-169	6.1	4.6	1.8	80	一部欠損	安山岩	両面に磨面
351	磨石	覆土	4.9	4.2	1.6	50	完形	安山岩	両面に磨面
352	磨石	C58-166	9.6	8.5	7.6	800	完形	石英安山岩	片面にくぼみ・磨面
353	磨石	C59-170	[7.7]	3.6	1.9	45	ㄨ	熱変成岩	
354	磨石	C61-173	8.8	6.4	2.9	205	ㄨ	安山岩	
355	磨石	C58-165	8.0	7.0	5.6	385	一部欠損	安山岩	片面に磨面
356	くぼみ石	C62-172	[10.6]	9.0	4.2	425	一部欠損	安山岩	断面紡錘形 両面にくぼみ
357	くぼみ石	C71-160	9.1	7.4	5.7	525	完形	安山岩	両面にくぼみ 片面に磨面
358	くぼみ石	C59-177	9.9	6.7	3.9	320	ㄨ	安山岩	両面にくぼみ・磨面
359	くぼみ石	C63-176	12.6	4.8	3.0	280	完形	点紋緑泥片岩	片面にくぼみ
360	くぼみ石	C71-157	16.2	5.8	2.9	410	完形	点紋絹雲母石墨片岩	片面にくぼみ
361	くぼみ石	C60-175	11.6	4.3	2.4	190	一部欠損	点紋緑泥片岩	片面にくぼみ
362	くぼみ石	覆土	22.4	7.8	3.9	1100	ほぼ完形	絹雲母石墨片岩	片面にくぼみ
363	くぼみ石	C71-160	7.8	7.4	6.2	520	完形	安山岩	片面にくぼみ
364	くぼみ石	C60-170	10.0	7.9	3.8	425	ㄨ	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ 側面に一部敲打痕あり
365	くぼみ石	C58-174	9.1	9.2	4.7	378	ㄨ	砂岩	両面にくぼみ
366	くぼみ石	覆土	[13.2]	6.3	3.0	350	ㄨ	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ
367	くぼみ石	覆土	14.7	9.8	4.5	850	一部欠損	点紋絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ
368	くぼみ石	C59-172	15.9	4.9	2.9	341	一部欠損	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ
369	くぼみ石	C65-175	[9.8]	6.7	3.2	288	ㄨ	安山岩	片面にくぼみ 側面に剝離痕
370	不明	C58-165	[4.0]	6.2	2.7	75	ㄨ	砂岩	片面にくぼみ
371	石皿	C58-175	13.5	9.8	9.7	1400	ㄨ	安山岩	磨面は平坦
372	多孔石	C59-175	17.1	13.1	5.0	1100	ほぼ完形	砂岩	両面にくぼみ
373	多孔石	C60-170	[12.3]	[8.7]	[8.6]	1070	ㄨ	石英安山岩	
374	多孔石	C59-161	[17.0]	[13.7]	6.0	1750	ㄨ	安山岩	両面にくぼみ
375	多孔石	C59-160	[23.5]	18.7	7.7	4450	一部欠損	点紋絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ
376	多孔石	C58-164	31.0	10.7	11.2	4800	ㄨ	緑泥片岩	3面にくぼみ 一部敲打痕を残す
377	多孔石	C59-172	[19.5]	[14.7]	6.1	2850	ㄨ	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ
378	多孔石	C58-174	[14.0]	[12.3]	7.1	1600	ㄨ	砂岩	両面にくぼみ
379	多孔石	C60-171	[14.0]	10.1	3.6	580	一部欠損	安山岩	両面にくぼみ
380	敲打石	C59-171	13.0	4.7	2.7	289	完形	輝緑岩	端部に敲打痕あり
381	丸石	覆土	4.7	4.3	3.2	80	完形	安山岩	
382	丸石	C57-174	5.2	5.1	4.6	151	完形	安山岩	
383	石棒	C56-168	12.2	4.4	4.6	445	ㄨ	点紋緑泥片岩	全面研磨 くびれあり
384	石棒	C58-168	13.4	4.5	[2.1]	170	破片	緑泥片岩	全面に敲打痕を残す
385	石棒	C61-164	[22.0]	5.6	5.9	1100	一部欠損	点紋緑泥片岩	全面に敲打痕を残す
386	不明	C58-175	15.4	7.6	3.8	720	完形	安山岩	片面に磨面あり
387	石棒	C57-172	[9.6]	3.4	3.3	200	両端部欠損	点紋緑泥片岩	一部敲打痕を残す
388	不明	C58-165	[10.6]	5.5	1.8	165	一部欠損	紅簾絹雲母片岩	両側面にえぐりあり

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
389	石棒(?)	C61- I 67	[12.7]	3.6	3.5	220	½	点紋緑泥片岩	全面に敲打痕を残す
390	石棒	C59- I 70	[20.1]	6.0	4.6	900	¾	絹雲母石墨片岩	全面に敲打痕を残す くぼみあり

2号谷津状遺構

位置 C55~86-II 3~20 Gr 重複 4・8号竪穴住居跡、3・4号井戸等より古

調査区中央部に位置し、南北に細長い谷津状遺構で、底面は北東に向かって下がっており、調査区南壁付近で立ち上がっている。

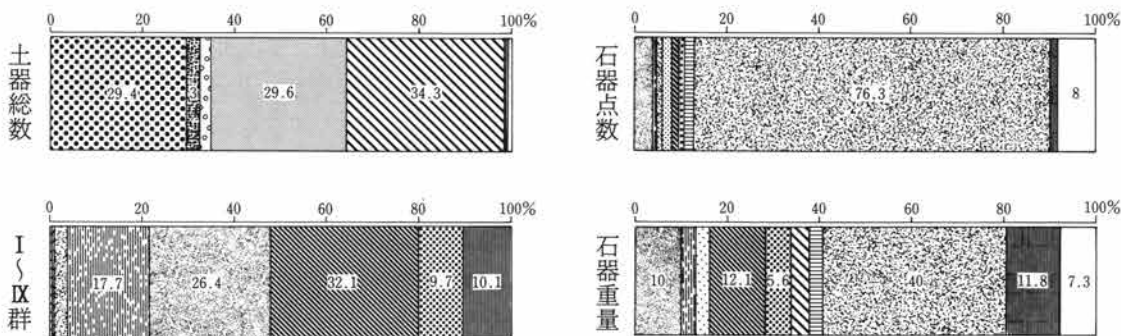
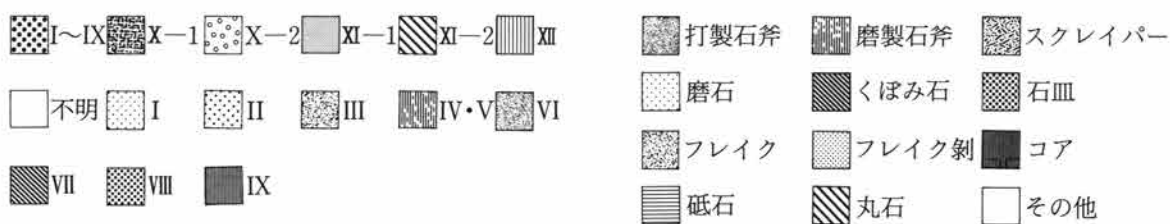
遺物出土状況 出土量の少ないI~III群はまばらな出土であるが、IV~IX群は各時期とも中央部からやや北よりにかけての部分に集中して出土している。谷頭部や、調査区北壁付近はまばらな出土である。

出土遺物 土器は小破片が多いが、計9,698点出土している。時期は前期から後期におよび、1号谷津状遺構と同様中期末から後期初頭のもの(IV~VII群)が多いが、1号谷津状遺構に比べI~III群・VIII~IX群の割合がやや高くなっている。

2号谷津状遺構出土土器数量表

群別	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	I~IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	計
点数	10	12	90	506	755	916	277	289	2,855	291	227	2,872	3,326	68	59	9,698
%	0.4	0.4	3.2	17.7	26.4	32.1	9.7	10.1	29.4	3.0	2.3	29.6	34.3	0.7	0.6	
重量(g)	741	525	1,895	19,075	16,322	18,200	5,416	5,452	67,626	5,848	3,485	41,368	41,598	1,408	1,236	162,579
%	1.1	0.8	2.8	28.2	24.1	26.9	8.0	8.1	41.6	3.6	2.1	25.4	25.6	0.9	0.8	

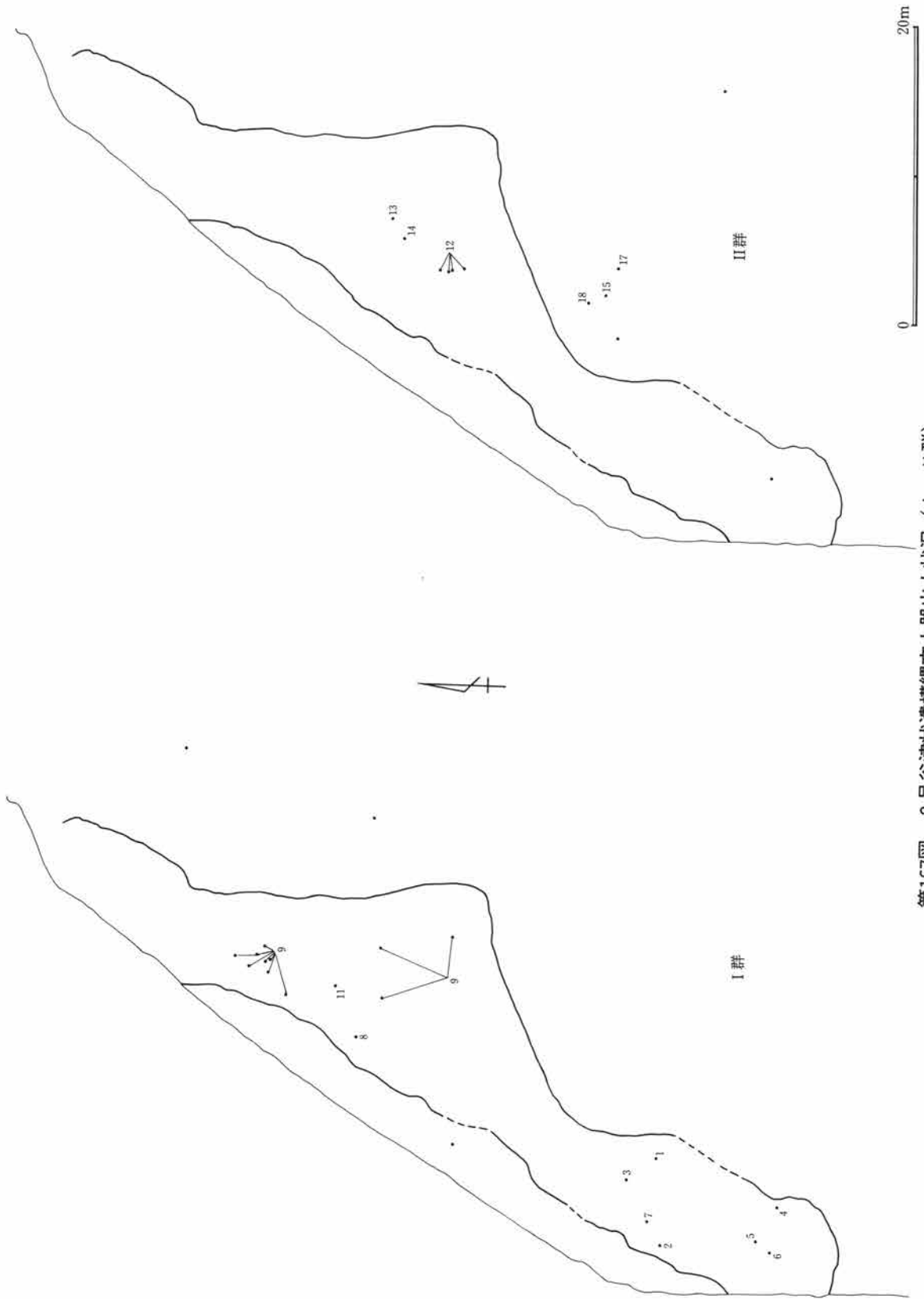
石器は337点出土しており、その内274点は剥片・碎片・石核で、他の63点が定型的な石器である。器種別に見ると、石鏃1点(0.3%)、石槍1点(0.3%)、打製石斧14点(4.2%)、磨製石斧3点(0.9%)、礫器(0.3%)、スクレイパー4点(1.2%)、微細剥離痕のある剥片10点(3.0%)、磨石2点(0.6%)、くぼみ石5点(1.5%)、石皿4点(1.2%)、丸石3点(0.9%)、砥石7点(2.1%)、石錘1点(0.3%)、不明石器5点(1.5%)、剥片257点(76.3%)、碎片13点(3.9%)、石核6点(1.8%)となっている。



第165図 2号谷津状遺構土器・石器分類グラフ



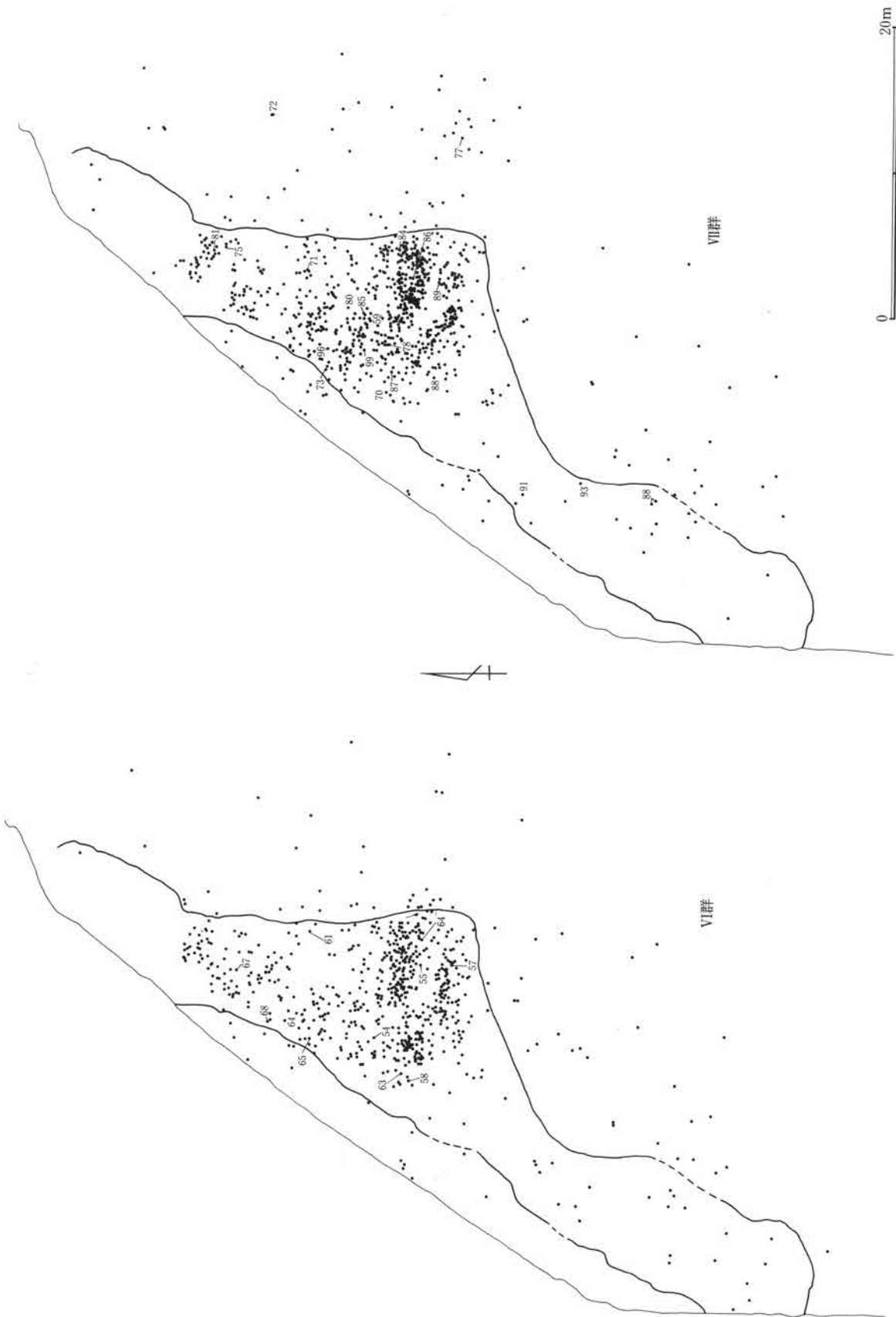
第166図 2号谷状遺構



第167図 2号谷津状遺構縄文土器出土状況 (I・II群)



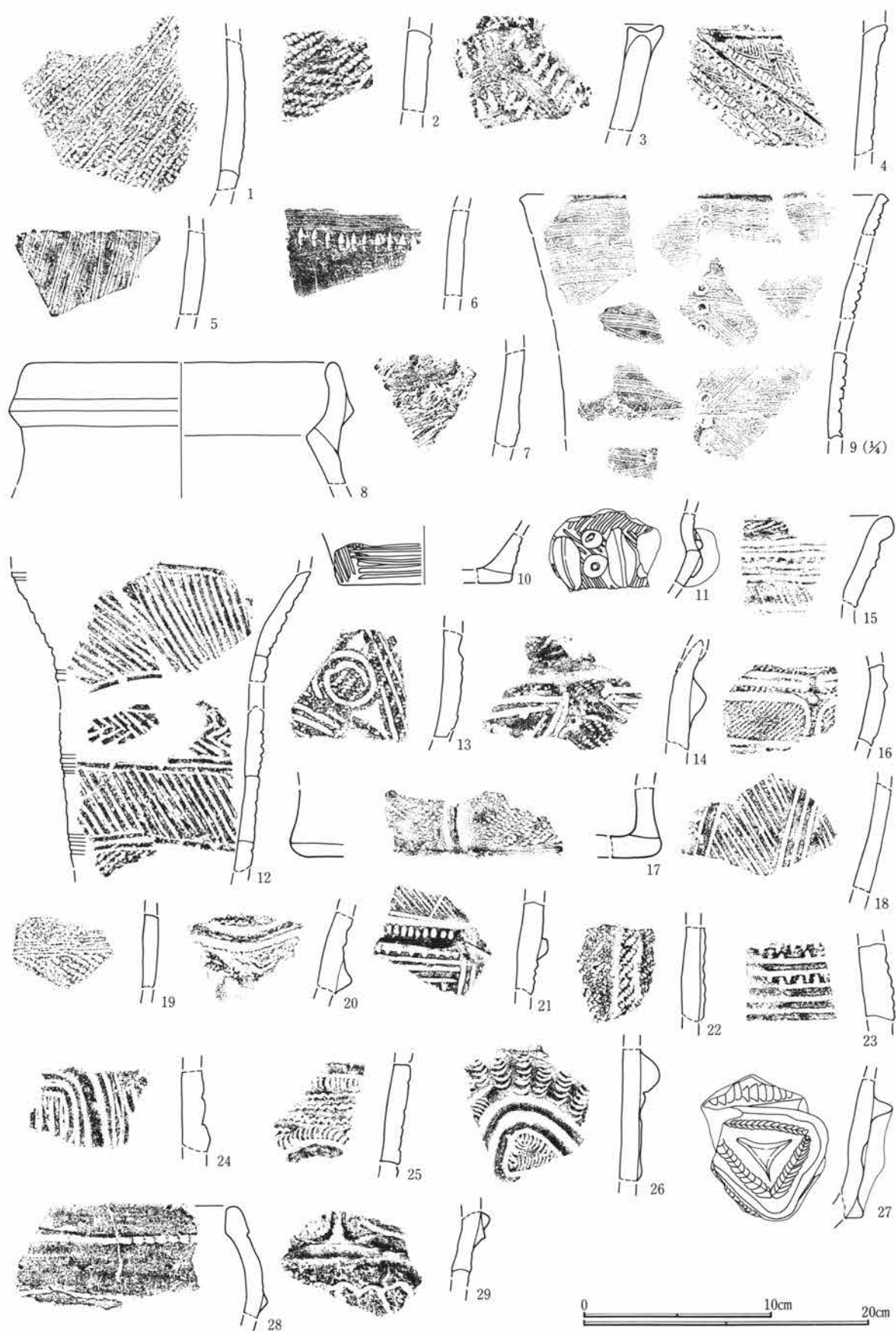
第168図 2号谷津状遺構縄文土器出土状況 (III・IV・V群)



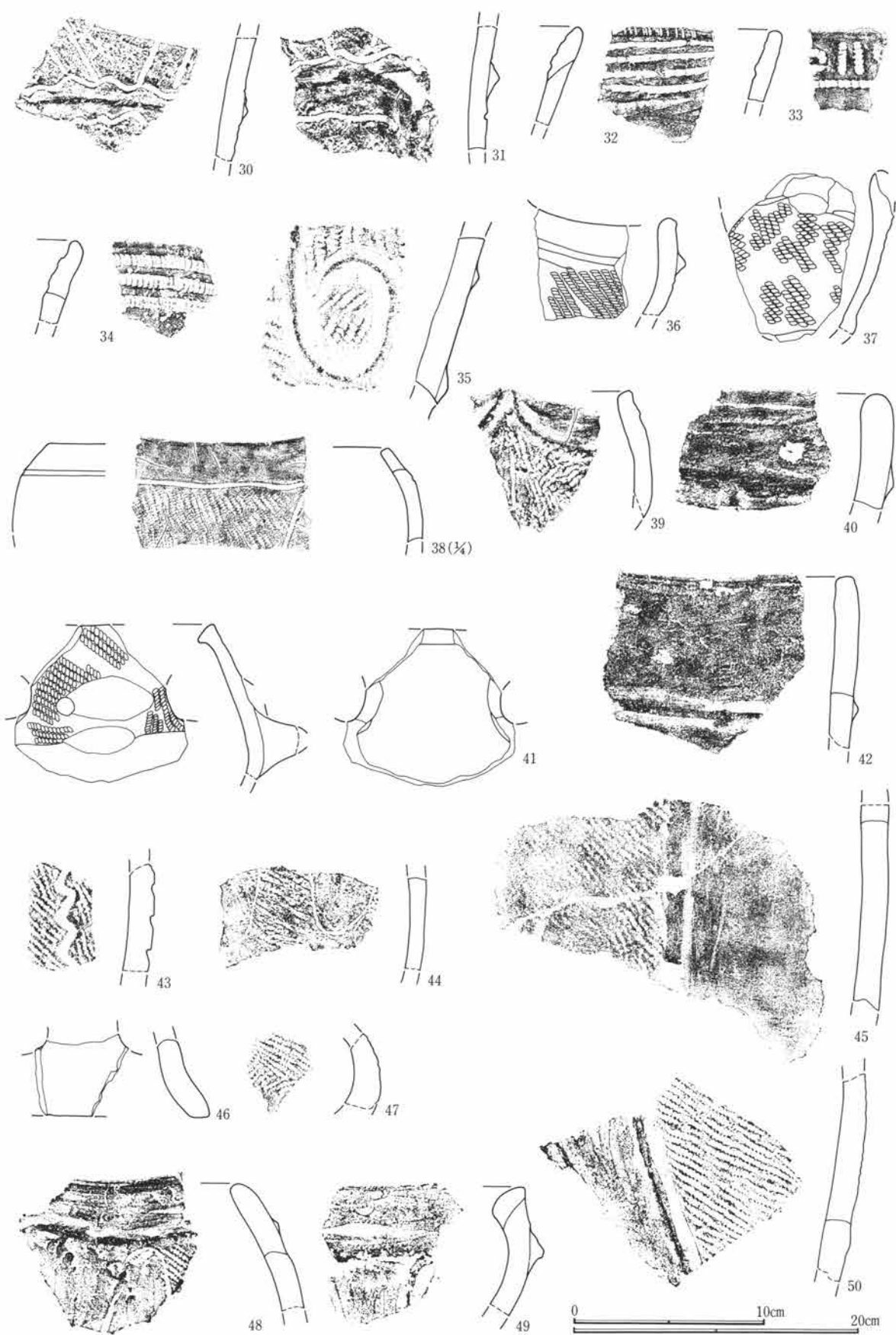
第169図 2号谷津状遺構縄文土器出土状況 (VI・VII群)



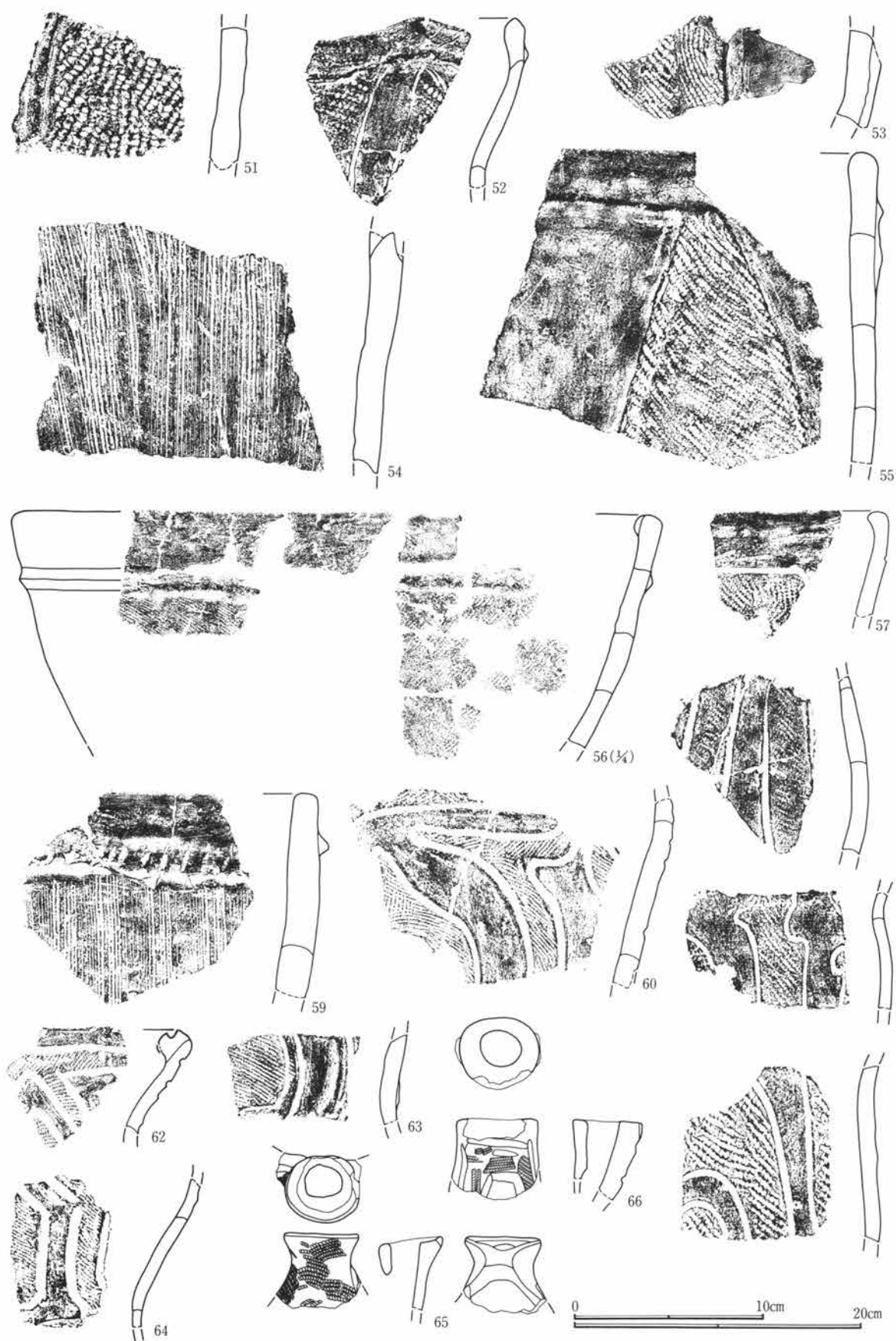
第170図 2号谷津状遺構縄文土器出土状況（Ⅷ・Ⅸ群）



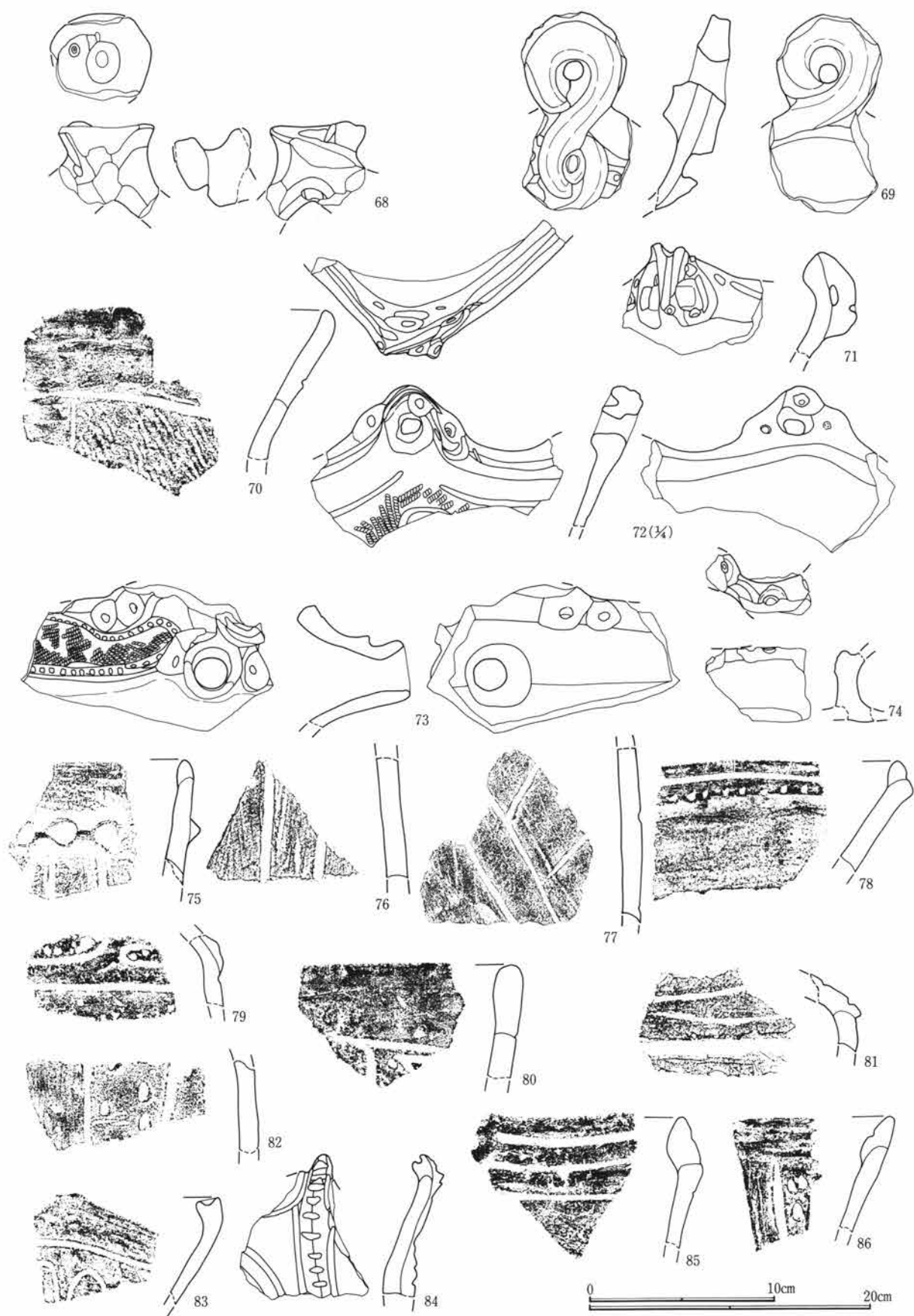
第171図 2号谷津状遺構出土遺物(1)



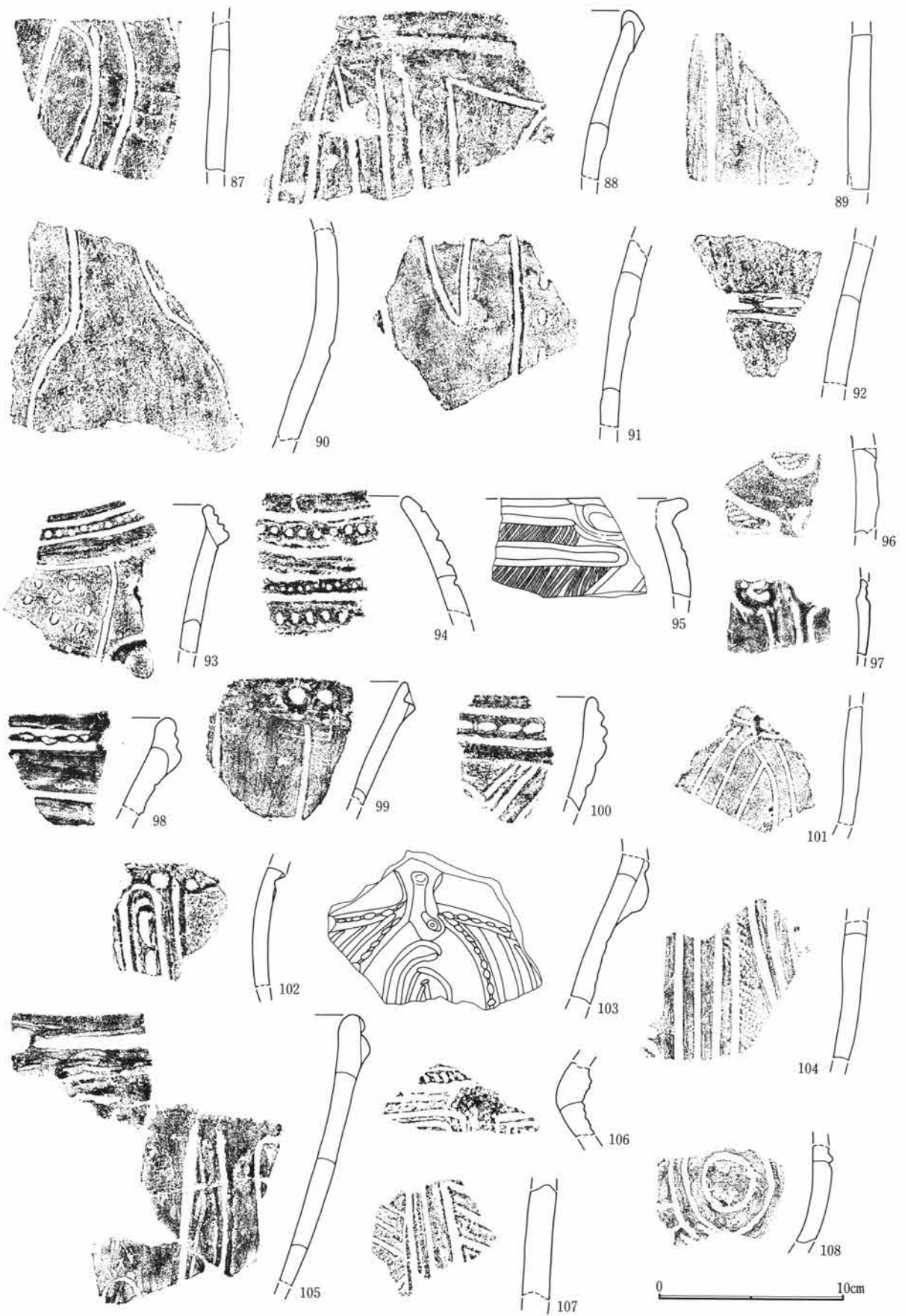
第172図 2号谷津状遺構出土遺物(2)



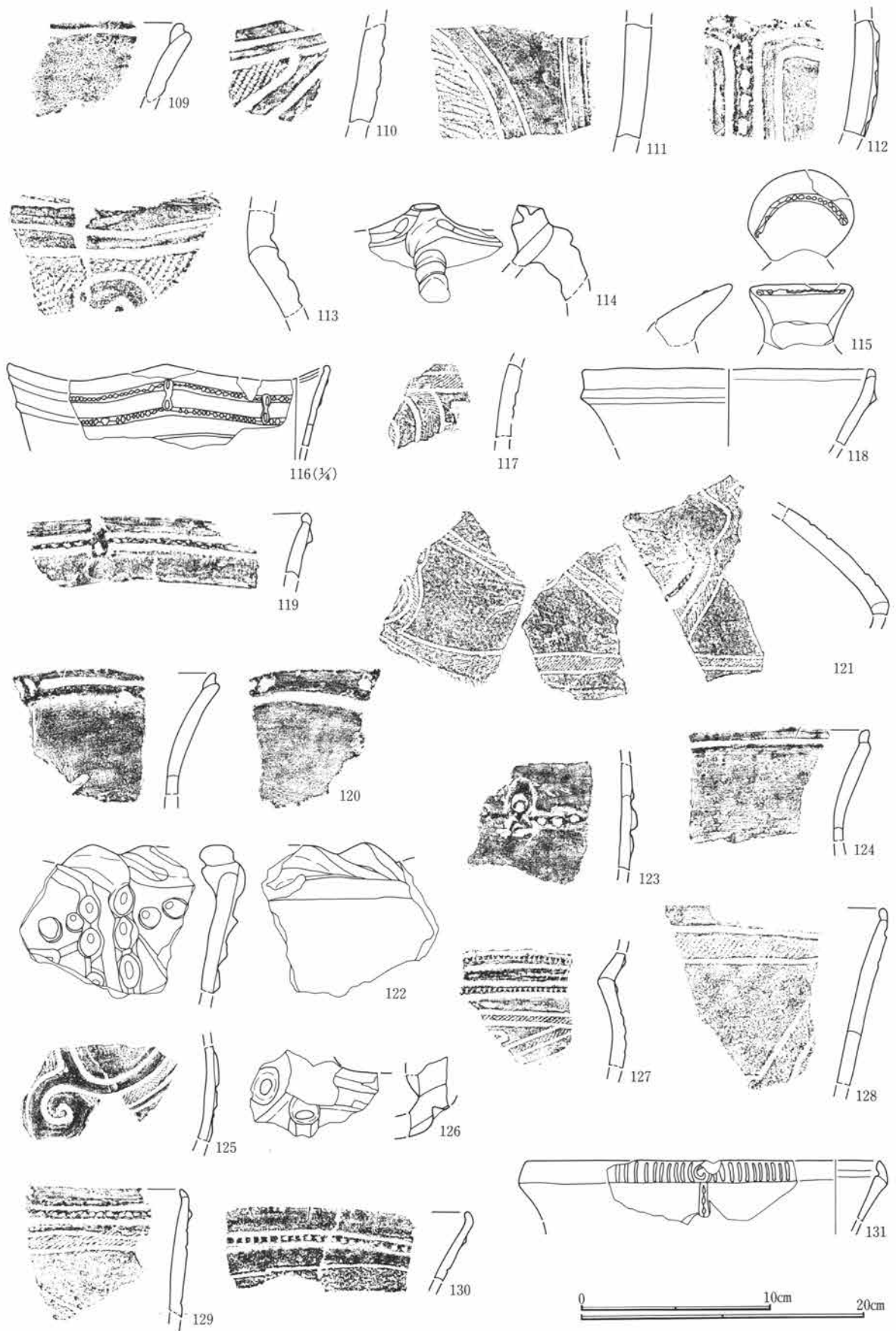
第173図 2号谷津状遺構出土遺物(3)



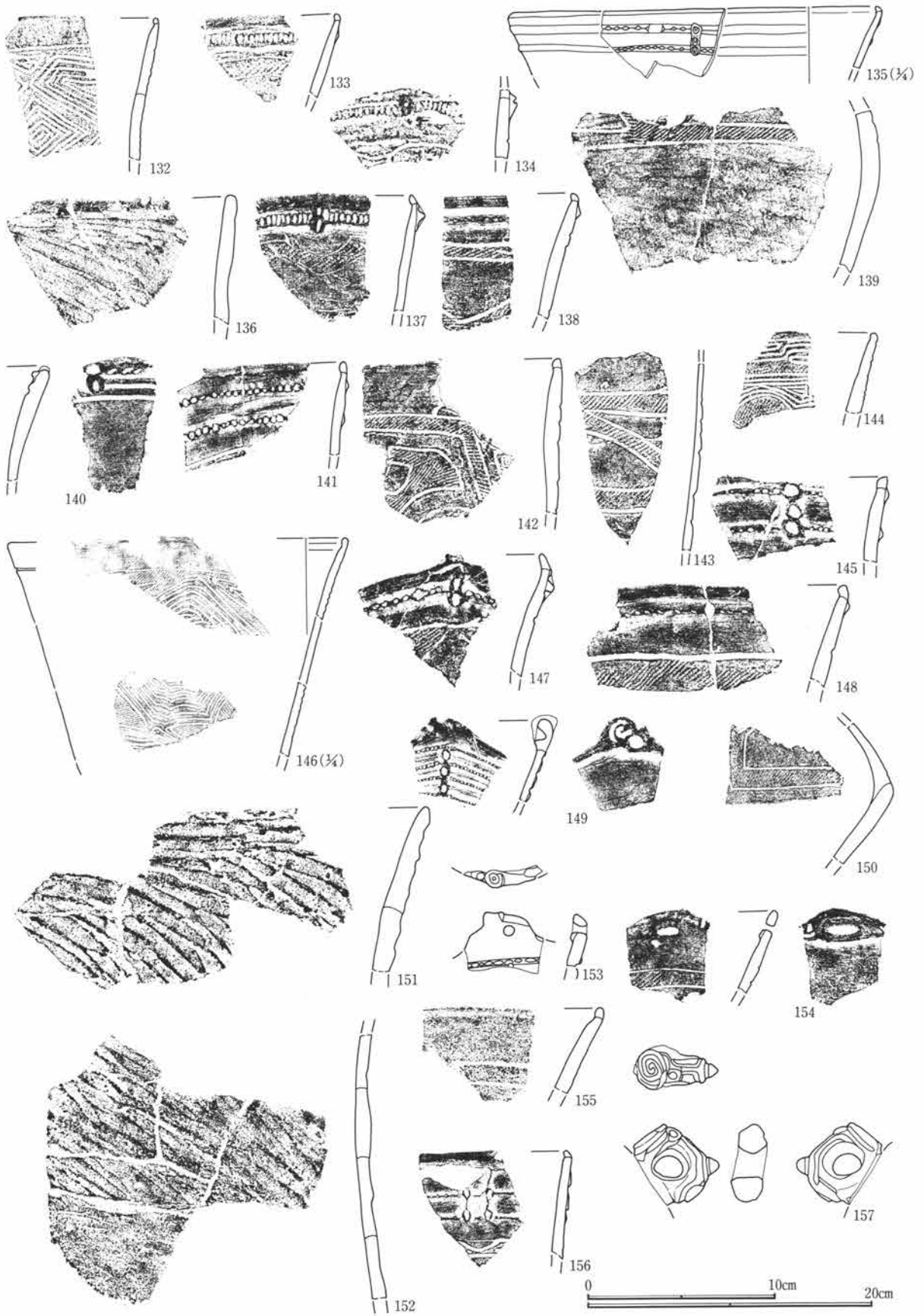
第174図 2号谷津状遺構出土遺物(4)



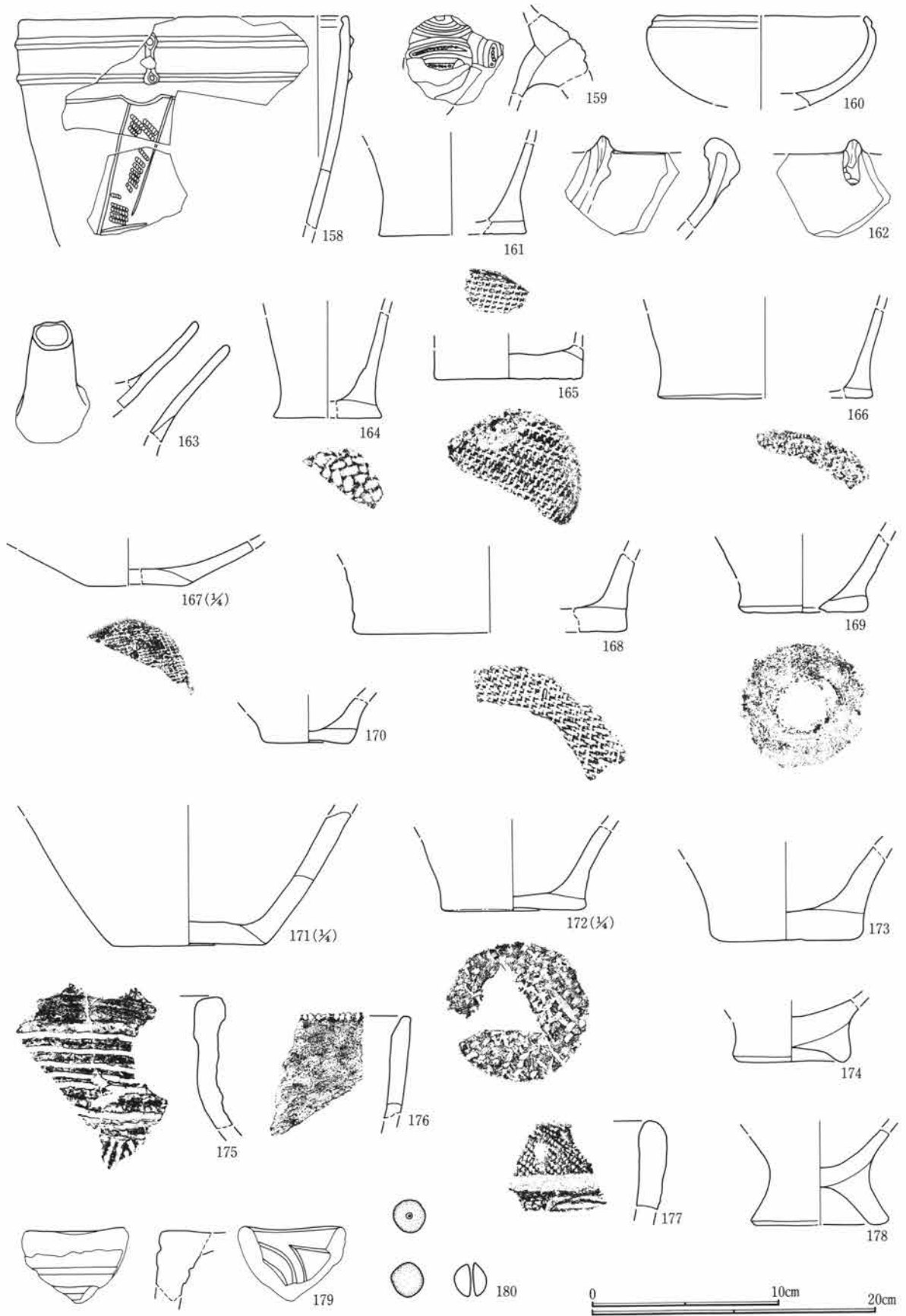
第175図 2号谷津状遺構出土遺物(5)



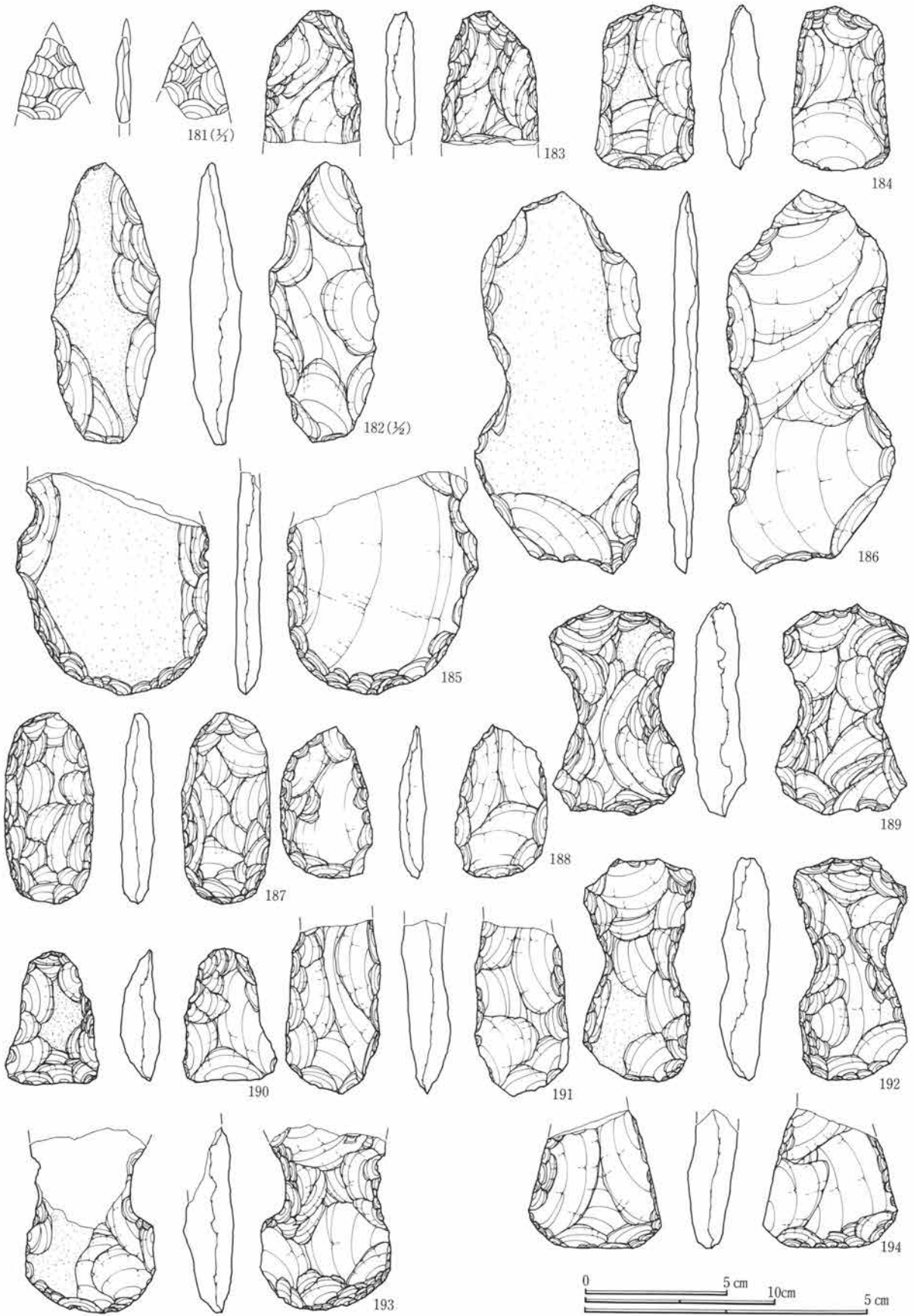
第176図 2号谷津状遺構出土遺物(6)



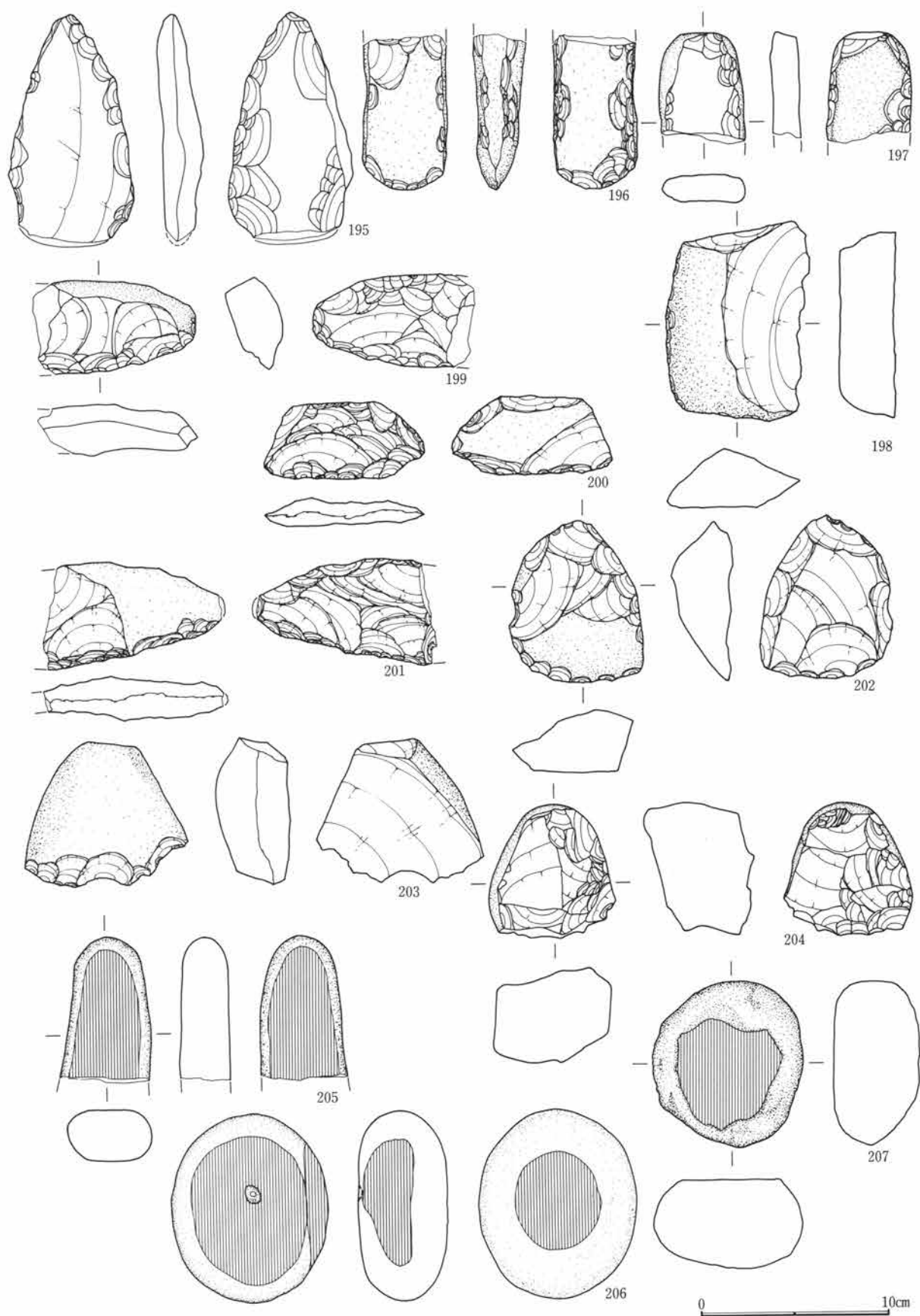
第177図 2号谷津状遺構出土遺物(7)



第178図 2号谷津状遺構出土遺物(8)



第179図 2号谷津状遺構出土遺物 (9)



第180図 2号谷津状遺構出土遺物 (10)



第181図 2号谷津状遺構出土遺物 (11)

第III章 検出された遺構と出土遺物

2号谷津状遺構出土土器観察表

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調 量整	文様要素	分類	備考
1	深鉢胴部	C76 II15	①明褐 ②橙 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚7~11mm 内面研磨か	直前段合燃L $\left\{ \begin{matrix} R \\ L \\ L \\ L \end{matrix} \right.$ 縄文	I 2	
2	深鉢胴部	C76 II18	①にぶい橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚11~13mm 内面研磨	R L 縄文 L R 縄文	I 2	
3	深鉢口縁部	C75 II15	①明褐 ②明黄褐 ③良好 ④粗 繊維・砂粒を含む	器厚18mm 内面研磨か	櫛状工具(?)による連続刺突文	I 2	
4	深鉢胴部	C75 II13	①にぶい黄橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 繊維・砂粒・礫を含む	器厚7~11mm 内面研磨	半截竹管状工具による平行沈線・ 連続刺突文 R L 縄文原体圧痕	I	
5	深鉢胴部	C75 II13	①にぶい黄橙 ②黄褐 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚8~10mm 内面研磨か	平行沈線	I 2	6と同一 個体
6	深鉢胴部	C80 II18	①灰黄褐 ②褐 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚8~9mm 内面研磨	櫛状工具による連続刺突文 沈線	I 2	5と同一 個体
7	深鉢胴部	C76 II17	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚9~11mm 内面研磨	直前段反燃L $\left\{ \begin{matrix} L \\ L \end{matrix} \right.$ 縄文か	I 2	
8	深鉢口縁部	C66 II11	①橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(15.3cm) 1/2残存 内外面研磨	外面に隆帯文 内面に段あり	I	
9	深鉢口~胴部	C63 II 8	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(24.3cm) 内面研磨	円形竹管による連続刺突文 櫛状 工具による平行沈線・波状文	I 4	
10	深鉢底部	C68 II10	①にぶい赤褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を多量に含む	底径(8.8cm) 1/2残存 内面研磨	縄文(原体不明)施文後平行沈線	I 5	
11	深鉢胴部	C66 II 9	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~9mm 内面研磨	半截竹管状工具による集合沈線 円形貼付文に刺突文 貼付文	I 6	
12	深鉢胴部	C68 II10	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	現存最大径15.8cm 内面研磨	半截竹管状工具による集合沈線・ 山型の沈線 L R 縄文	II 2	
13	深鉢胴部	C67 II 9	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内面研磨	R L 縄文を地文とし沈線による渦 巻文・平行沈線施文	II 3	
14	深鉢胴部	C67 II10	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・金雲母を含む	器厚11~19mm 内面研磨	貼付文・隆帯文貼付後に LR 縄文 半 截竹管状工具による沈線・結節沈線	II 1	
15	深鉢口縁部	C74 II16	①灰黄褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒を含む	器厚7~9mm 内面研磨	R L 縄文 平行沈線・円形竹管に よる連続刺突文	II 1	
16	深鉢胴部	C60 II 6	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~9mm 内面研磨	隆帯文上に刻み 刺突文 沈線区 画内にL R 縄文横回転	II	
17	深鉢底部	C74 II11	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒・長石粒・石英粒を含む	底径(9.2cm) 1/2残存 内外面研磨	隆帯文 R L 縄文縦回転	II 4	
18	深鉢胴部	C73 II11	①黒褐 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒・石英粒を含む	器厚8~9mm 内面ナデか	沈線区画内に集合沈線	II 2	
19	深鉢胴部	C60 II 7	①明赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~7mm 内面研磨	櫛状工具による平行沈線 R L 縄 文横回転	III 4	
20	深鉢胴部	C82 II 0	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒・石英粒を含む	器厚8~17mm 内面研磨	隆帯文 平行沈線 半截竹管状工具による集合沈線	III 2	
21	深鉢胴部	C70 II 8	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 砂粒・石英粒を含む	器厚9~16mm 内面研磨か	隆帯文上に刻み 円形竹管による 連続刺突文 平行沈線	III 2	
22	深鉢胴部	C68 II11	①にぶい赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚7~12mm 内面研磨	胴部外面および隆帯文上にR L 縄 文縦回転	III 4	
23	深鉢胴部	C67 II 9	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚13~15mm 内面研磨	平行沈線間に円形竹管による連続 刺突文を交互に施文	III 2	
24	深鉢胴部	C67 II 9	①灰褐 ②にぶい褐 ③不良 ④粗 砂粒・雲母を多く含む	器厚10~15mm 内面研磨	隆帯文 半截竹管状工具による半 隆起線文	III 2	
25	深鉢胴部	C74 II11	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚9~10mm 内面研磨	沈線 連続する爪形状の刻み	III 1	26と同一 個体か
26	深鉢胴部	C67 II 6	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚9~19mm 内面研磨	半隆起線文 連続する爪形状の刻 み	III 1	25と同一 個体か
27	深鉢胴部	C61 II 7	①灰褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~19mm 内面研磨	隆帯文による三角区画内外に連続 するペン先状刺突文 中央に三叉	III 1	
28	深鉢口縁部	C67 II 7	①暗褐 ②褐 ③良好 ④粗 砂粒・ 長石粒・石英粒・金雲母を多く含む	器厚12mm 内面研磨	文沈刻 外にキャピラ文 口縁部外面に2条の結節沈線	III 3	
29	深鉢胴部	C68 II 8	①褐 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒 ・長石粒・石英粒・金雲母を多く含む	器厚8~14mm 内面研磨か	隆帯文上に一對の隆帯文 波状沈 線 結節沈線	III 3	30・31と 同一か

第1節 縄文時代

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調 量整	文様要素	分類	備考
30	深鉢胴部	C67 II 7	①褐 ②暗褐 ③良好 ④粗 砂粒・長石粒・石英粒・金雲母を多く含む	器厚9~13mm 内面研磨か	隆帯文両脇に波状沈線 結節沈線	III 3	29・31と 同一か
31	深鉢胴部	C67 II 7	①褐 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒・長石粒・石英粒・金雲母を多く含む	器厚8~15mm 内面研磨か	横位の隆帯文にY字状の縦位の隆帯文貼付 波状沈線 結節沈線	III 3	29・30と 同一か
32	深鉢口縁部	C68 II11	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11mm 内外面研磨	口唇部に刻み 口縁部内面に半截竹管状工具による結節沈線	III 3	
33	深鉢口縁部	C63 II 8	①にぶい黄褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10mm 内面研磨外面ナデ	口縁部内面に縦位・横位・円形の結節沈線	III 3	
34	深鉢口縁部	C69 II 7	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12mm 内外面研磨	口縁部内面に3条の結節沈線	III 3	
35	深鉢胴部	C74 II 7	①淡黄 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚13~17mm 内面研磨	隆帯文 L R縄文 隆帯文両脇は縄文磨消	IV 1	
36	深鉢口縁部	覆土	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚14mm 内面研磨	隆帯文 R L縄文	V 3	
37	小型鉢口~底	C68 II 8	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~11mm 1/2残存 内面研磨	橋状把手欠損 沈線 L R縄文	V 4	
38	深鉢口縁部	C68 II10	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(23.6cm) 1/2残存 内外面研磨	沈線区画内にR L縄文縦回転	V 3	
39	深鉢口縁部	C69 II10	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10mm 内面研磨	口縁部突起から隆帯文 隆帯文・沈線区画内にL R縄文	V 2	
40	深鉢口縁部	C69 II 9	①橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚19mm 内外面研磨	隆帯文	V 1	
41	深鉢口縁部	C69 II 6	①明黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒・長石粒を含む	器厚7~27mm 内面研磨	橋状把手欠損 把手両脇に透孔 L R(?)縄文	V 4	
42	深鉢口縁部	C67 II10	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚14mm 内外面研磨	隆帯文	V 1	
43	深鉢胴部	C68 II11	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚11~13mm 内面研磨	沈線による山形の懸垂文 L R縄文縦回転	V 3	
44	深鉢胴部	C70 II 9	①にぶい赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を多く含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文縦回転	V 3	
45	深鉢胴部	C68 II 7	①明褐 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚12~14mm 内外面研磨	隆帯文区画内にL R縄文縦回転	V 1	
46	器台脚部	C79 II 6	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚14mm 内外面研磨	脚部に透孔	V 6	
47	深鉢把手部	C62 II 9	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~15mm 内面研磨	橋状把手破片 L R縄文	V	
48	深鉢口縁部	C68 II 6	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10~14mm 内外面研磨	隆帯文・沈線区画内にL R縄文縦回転	V 2	
49	深鉢口縁部	C80 II14	①にぶい褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚19mm 内外面研磨	隆帯文	V 1	
50	深鉢胴部	C78 II15	①にぶい褐 ②明赤褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚11~15mm 内面研磨	隆帯文区画内にL R縄文縦回転 隆帯文脇の縄文磨消	V 1	
51	深鉢胴部	C79 II14	①明褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚12~15mm 内面研磨	隆帯文区画内にR L縄文縦回転 隆帯文脇の縄文磨消	V 1	
52	深鉢口縁部	C75 II12	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10mm 内外面研磨か	隆帯文・沈線区画内にL R縄文縦回転	V 2	内面に煤(?)付着
53	深鉢胴部	C67 II11	①褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚11~17mm 内外面研磨	隆帯文区画内にL R縄文	V 1	
54	深鉢胴部	C79 II18	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒・長石粒を含む	器厚13~17mm 内面ナデ	櫛状工具による条線文 輪積痕上に刻み顕著	V 5	
55	深鉢口~胴	C68 II 7	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚17mm 内外面研磨	隆帯文区画内にL R縄文縦回転	VI 3	
56	深鉢口~胴	C63 II 9	①明褐 ②にぶい褐 ③不良 ④粗 砂粒・礫を多く含む	口径(43.6cm) 1/2残存 内面研磨	口縁部下に隆帯文 R L縄文縦回転	VI 2	
57	深鉢口縁部	C69 II 7	①褐灰 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~10mm 内外面研磨	沈線区画内にR L縄文	VI 1	
58	深鉢胴部	C68 II11	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~9mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文縦回転	VI 1	
59	深鉢口縁部	C66 II10	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚11~17mm 内面研磨	隆帯文上に刻み 櫛状工具による条線文	VI 2	

第III章 検出された遺構と出土遺物

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調	量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
60	深鉢胴部	C63 II 9	①にぶい赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内面ナデか		沈線区画内にLR縄文	VI 1	
61	深鉢胴部	C64 II 6	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚5~6mm 内外面研磨		沈線区画内にLR磨消縄文縦回転	VI 1	
62	深鉢口縁部	C64 II 5	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~17mm 内外面研磨		沈線区画内にLR磨消縄文 口縁 頂部円形貼付文に刺突文	VI 1	
63	深鉢胴部	C68 II11	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~10mm 内外面研磨		隆帯文脇に沈線施文後区画内にLR 縄文	VI 4	
64	深鉢胴部	C68 II 6	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~7mm 内面研磨		沈線区画内にLR(?)縄文	VI 1	
65	深鉢把手部	C64 II10	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~11mm 内面研磨		把手に縦方向の透孔 沈線区画内 にLR(?)縄文	VI 1	
66	深鉢把手部	C64 II10	①黒褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~12mm 内面研磨		把手に縦方向の透孔 沈線区画内 にLR無節縄文	VI 1	
67	深鉢胴部	C62 II 8	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~8mm 内外面研磨		沈線区画内にLR縄文縦回転	VI 1	
68	深鉢把手部	C63 II 9	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・バミスを含む	器厚15~40mm 内外面研磨か		頂部に円孔・円形竹管による刺突 文 隆帯を螺旋状に貼付	VI	
69	深鉢把手部	覆土	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~30mm 内外面研磨か		円形の把手に透孔 外面は隆帯を 8の字状に貼付	VI	
70	深鉢口縁部	C67 II11	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・バミスを含む	器厚8~10mm 内外面研磨		沈線区画内にLR無節縄文	VII 3	
71	深鉢口縁部	C64 II 7	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~22mm 内外面研磨		橋状把手・口縁部外面に沈線・円 形竹管による刺突文	VII	
72	深鉢口縁部	C63 II 2	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚7~25mm 内外面研磨		把手部内外面に透孔・沈線・刺突 文 沈線区画内にLR縄文	VII 3	
73	浅鉢口縁部注口部	C65 II10	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~12mm 内外面研磨		注口上部橋状把手欠損 円形沈文 に刺突文 沈線施文後連続刺突文 区画内にLR縄文	VII 5	
74	小型土器	覆土	①褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚10~13mm 内外面研磨		滑車状の器形 円形貼付文に刺突 文 沈文	VII	把手の可 能性あり
75	深鉢口縁部	C61 II 6	①暗褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8~15mm 内外面研磨		口縁部下の横位の隆帯文上に連続 押圧文 沈線	VII 4	
76	深鉢胴部	C61 II 5	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚10~12mm 内外面研磨		沈線区画内に短沈線	VII 1	
77	深鉢胴部	C69 II 2	①にぶい黄橙 ②灰褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨		沈線	VII 2	
78	深鉢口縁部	C67 II10	①にぶい褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚10~14mm 内外面研磨		口縁部外面に横位の沈線・連続刺 突文	VII	
79	深鉢胴部	C66 II10	①にぶい黄橙 ②赤褐 ③不良 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚8~12mm 内面研磨		隆帯文両脇沈線区画内に円形竹管 による連続刺突文	VII 4	
80	深鉢口縁部	C66 II 8	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~15mm 内面研磨		沈線区画内に刺突文	VII 1	
81	深鉢胴部	C61 II 7	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚10~14mm 内面ナデか		沈線	VII 2	
82	深鉢胴部	C62 II 9	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内外面研磨か		沈線区画内に刺突文	VII 1	
83	深鉢口縁部	C67 II 7	①にぶい黄褐 ②黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚6~13mm 内外面研磨か		口唇部突起にC字状刺突文 沈線	VII 2	
84	深鉢口縁部	C69 II11	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚9~17mm 内面研磨外面ナデ		縦位の隆帯文上に刻み 沈線	VII 4	
85	深鉢口縁部	C66 II 9	①褐灰 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を多く含む	器厚7~15mm 内外面研磨か		口縁部外面に平行沈線 口縁部内 面に段あり	VII 2	
86	深鉢口縁部	C68 II 7	①にぶい黄橙 ②淡黄 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~13mm 内外面研磨か		沈線区画内に刺突文 口縁部内面 に横位の沈線・段あり	VII 1	
87	深鉢胴部	C67 II10	①にぶい褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8~10mm 内面研磨		沈線区画内に刺突文	VII 1	
88	深鉢口縁部	C76 II14	①にぶい赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚10mm 内面研磨		沈線	VII 2	
89	深鉢胴部	C69 II 7	①淡黄 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~12mm 内外面研磨		沈線区画内に連続する短沈線	VII 1	

第1節 縄文時代

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調 量整	文様要素	分類	備考
90	深鉢 胴部	C77 II17	①暗赤褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚11~13mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
91	深鉢 胴部	C72 II14	①褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚9~12mm 内外面研磨	沈線区画内に連続刺突文	VII 1	
92	深鉢 胴部	C67 II7	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~12mm 内外面研磨	平行沈線間に連続する短沈線	VII 1	
93	深鉢 口縁部	C74 II44	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚13mm 内外面研磨	円形竹管による連続刺突文 隆帯文 沈線区画内に刺突文	VII 4	
94	深鉢 口縁部	C67 II7	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~10mm 内面研磨	沈線区画内に円形竹管による連続刺突文	VII 1	
95	深鉢 口縁部	C65 II10	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~12mm 内外面研磨	口縁部外面にC字状(?)貼付文 沈線区画内にL R無節縄文	VIII 1	
96	深鉢 胴部	C57 II5	①明赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚10~12mm 輪積痕 上に刻み 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文(?)	VIII 1	
97	深鉢 胴部	C70 II0	①褐灰 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚3~4mm 内面ナデ外面研磨	隆帯文 沈線 円形竹管による刺突文 外面に一部赤彩残る	VIII 5	
98	深鉢 口縁部	C67 II10	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚10~17mm 内外面研磨	口縁部外面平行沈線間に連続する押圧文・円形刺突文 沈線	VIII	
99	深鉢 口縁部	C67 II7	①橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~12mm 内外面研磨	口縁部外面に一对の円形竹管による刺突文 沈線	VIII 4	
100	深鉢 口縁部	C70 II60	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚7~13mm 内外面研磨	口縁部外面平行沈線間に連続刺突文 平行沈線	VIII 4	
101	深鉢 胴部	C67 II9	①橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚7~9mm 内外面研磨	8の字状(?)貼付文 沈線	VIII 4	
102	深鉢 胴部	C67 II10	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚6~11mm 内面ナデ外面研磨	刺突文 沈線区画内に連続する短沈線	VIII 3	
103	深鉢 胴部	C65 II9	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~17mm 内外面研磨	貼付文上に沈線・円形竹管による刺突文 隆帯文上に刻み 沈線	VIII 5	
104	深鉢 胴部	C69 II9	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8~12mm 内外面研磨	沈線区画内にL R磨消縄文縦回転刺突文	VIII 1	
105	深鉢 口縁部	C67 II7	①にぶい褐 ②淡黄 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚7~17mm 内面ナデ外面研磨か	口縁部外面に円孔・沈線 沈線	VIII 4	
106	深鉢 胴部	C70 II9	①褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚9~16mm 内面研磨	隆帯文上に刻み 貼付文 平行沈線	VIII 5	
107	深鉢 胴部	C63 II9	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④粗 砂粒を多く含む	器厚14mm 内外面研磨か	平行沈線	VIII 4	
108	深鉢 胴部	C69 II9	①にぶい赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線による同心円文	VIII 4	
109	深鉢 口縁部	C72 II15	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚11mm 内面研磨	口縁部外面に横位の沈線	VIII 4	
110	深鉢 胴部	C76 II14	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚10~12mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文横回転	VIII 1	
111	深鉢 胴部	C69 II6	①にぶい橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~13mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文縦回転	VIII 1	
112	深鉢 胴部	C67 II9	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~14mm 内外面研磨	隆帯文上に連続刺突文 平行沈線	VIII 5	
113	深鉢 胴部	C68 II7	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚10~15mm 内外面研磨	平行沈線 沈線区画内にL R縄文横回転	VIII 1	
114	深鉢 口縁部	C67 II7	①暗赤褐 ②極暗赤褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚17~26mm 内外面研磨	口縁部・内外面に刺突文・沈線 螺旋状の把手あり	VIII	
115	深鉢 把手部	C63 II8	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒・雲母を少量含む	器厚18mm 内外面研磨	口縁部把手 内面隆帯文に刻み	VII	
116	深鉢 口縁部	C68 II6	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	口径(22.2cm) 1/2残存 内外面研磨	8の字状貼付文 2条の隆帯文上に刻み 沈線 口縁部内面沈線	IX 2	
117	深鉢 胴部	C61 II5	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を含む	器厚7~8mm 内外面研磨か	沈線区画内にL R磨消縄文	IX 1	
118	深鉢 口縁部	C67 II4	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	口径(20.4cm) 1/2残存 内外面研磨	口縁部下に横位の隆帯文	IX	
119	深鉢 口縁部	C65 II9	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚4~8mm 内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文上に刻み 沈線	IX	

第III章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量 調整	文様要素	分類	備考
120	深鉢 口縁部	C65 II10	①暗褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~8mm 内外面研磨	口縁部突起外面に短沈線・内面に 刺突文 口縁部に横位の沈線	IX	
121	注口土 器胴部	C60 II7	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚7~9mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文 隆帯 文上に刻み	IX 4	
122	深鉢 口縁部	C69 II10	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚5~14mm 内面ナデ	口唇部に連続する斜めの隆帯文 隆帯文上に連続する押圧文 刺突 文 沈線	IX 5	
123	深鉢 胴部	C62 II1	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~8mm 内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文上に刻み	IX	
124	深鉢 口縁部	C65 II9	①褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~6mm 内外面研磨	口縁部外面に横位の沈線	IX 5	
125	深鉢 胴部	C67 II6	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~7mm 内面ナデ外面研磨	隆帯文・沈線区画内に櫛状工具に よる条線文	IX 5	
126	深鉢 口縁部	C67 II10	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚9~21mm 内外面研磨	口唇部外面円形貼付文に刺突文 隆帯文に刺突文	IX 5	
127	深鉢 胴部	C68 II7	①褐灰 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚5~8mm 内外面研磨	2条の平行する隆帯文上に刻み 沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
128	深鉢 口縁部	C62 II9	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚3~8mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
129	深鉢 口縁部	C68 II10	①褐灰 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~7mm 内外面研磨	横位の隆帯文上に刻み 沈線区画 内にLR磨消縄文	IX 1	
130	深鉢 口縁部	C64 II9	①褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~6mm 内外面研磨か	横位の隆帯文上に刻み 沈線区画 内に縄文施文か	IX 1	
131	深鉢 口縁部	C62 II8	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を含む	口径(19.0cm) 1/2残存 内外面研磨	口縁部外面に連続する短沈線 縦位の隆帯文上に刻み	IX	
132	深鉢 口縁部	C67 II6	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚3~5mm 内外面研磨	沈線による同心方形文 沈線区画 内にLR磨消縄文	IX 2	
133	深鉢 口縁部	C62 II7	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚3~5mm 内外面研磨か	横位の隆帯文上に刻み 沈線区画 内にLR(?)磨消縄文	IX 1	
134	深鉢 胴部	C62 II9	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚5~10mm 内面ナデ	円形貼付文に刺突文 横位の隆帯 文上に刻み 沈線	IX 2	
135	深鉢 口縁部	C68 II6	①橙・褐 ②にぶい橙・暗褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	口径(26.0cm) 1/2残存 内外面研磨	8の字状貼付文 2条の隆帯文上 に刻み	IX	
136	深鉢 口縁部	C67 II8	①にぶい赤褐 ②褐 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚6~8mm 内面研磨か	指頭によるナデ	IX 1	
137	深鉢 口縁部	C68 II9	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③不良 ④細 砂粒を含む	器厚3~7mm 内外面研磨か	8の字状貼付文 隆帯文上に刻み 沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
138	深鉢 口縁部	C66 II9	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚4~7mm 内外面研磨	横位の隆帯文上に刻み 沈線区画 内にLR磨消縄文	IX 1	
139	深鉢 胴部	C66 II9	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~9mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
140	深鉢 口縁部	C62 II10	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚5~9mm 内外面研磨	口縁部内面円形貼付文に刺突文 口唇部刻み 平行沈線	IX 5	
141	深鉢 口縁部	C67 II6	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を含む	器厚3~6mm 内外面研磨	2条の横位の隆帯文上に刻み 沈線 口縁部内面に横位の沈線	IX 2	
142	深鉢 口縁部	C69 II7	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~8mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	IX 1	
143	深鉢 胴部	C66 II8	①褐灰 ②褐灰 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚3~5mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
144	深鉢 口縁部	C67 II10	①黒褐 ②褐灰 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚2~6mm 内外面研磨	沈線 沈線区画内にLR磨消縄文	IX 2	
145	深鉢 口縁部	C68 II7	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒・長石粒を含む	器厚5~9mm 内外面研磨	8の字状貼付文 2条の横位の隆 帯文上に刻み	IX	
146	深鉢 口縁部	C70 II6	①暗褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	口径(27.8cm) 1/2残存 内外面研磨	沈線による同心文 沈線区画内に LR磨消縄文 内面に沈線	IX 2	
147	深鉢 口縁部	C68 II7	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚4~9mm 内外面研磨	口縁部突起両側に刺突文 8の字状貼付文 隆 帯文上に刻み 沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
148	深鉢 口縁部	C68 II7	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚4~8mm 内外面研磨	横位の隆帯文上に刻み 沈線区画 内にLR磨消縄文	IX 1	

第1節 縄文時代

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
149	深鉢 口縁部	C68 II 6	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚3~9mm 内外面研磨	口縁部突起に沈線による渦巻文 刺突文 8の字状貼付文 4条の 横位の隆帯文上に刻み	IX	
150	注口土 器胴部	C66 II10	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚4~10mm 内面ナデ外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX 4	
151	深鉢 口縁部	C66 II10	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚7~10mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX 3	152と同一個体か
152	深鉢 胴部	C67 II 7	①にぶい橙 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚5~8mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX 3	151と同一個体か
153	深鉢 口縁部	C68 II 8	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚3~7mm 内外面研磨	口縁部突起に透孔・頂部に刺突文 横位の隆帯文上に刻み	IX	
154	深鉢 口縁部	C68 II 8	①灰黄褐 ②褐灰 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を含む	器厚5~7mm 内外面研磨	口縁部突起に楕円形の透孔 沈線 区画内にLR磨消縄文	IX 1	
155	深鉢 口縁部	C72 II15	①淡黄 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚7mm 摩滅により調整不明	沈線区画内に磨消縄文か	IX 1	
156	深鉢 口縁部	C68 II 7	①褐 ②褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚3~6mm 内外面研磨	8の字状貼付文 3条の隆帯文上 に刻み 沈線	IX 2	
157	注口土 器把手	C65 II 8	①灰褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚13~16mm 外面研磨	橋状把手 沈線による渦巻文・隆 帯文・沈線・刺突文等で施文	IX 4	
158	深鉢 口~胴	C67 II 6	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(17.0cm) 1/2残存 内外面研磨か	8の字状貼付文 2条の隆帯文 沈線区画内にLR(?)磨消縄文	IX 1	
159	深鉢 胴部	C65 II 7	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚6~33mm 内外面研磨	沈線による同心円文 沈線区画内 に連続刺突文	IX 2	
160	壊か 口縁部	C67 II 7	①灰褐 ②灰褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を少量含む	口径(11.0cm) 1/2残存 内外面研磨	口縁部外面に横位の沈線	IX 6	
161	深鉢 胴~底	C81 II19	①にぶい橙 ②褐灰 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	底径(7.6cm) 1/2残存 内外面研磨	底部網代痕あり	IX	
162	深鉢 口縁部	C67 II 9	①にぶい橙 ②褐灰 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を含む	器厚5~16mm 内外面研磨	口縁部に隆帯貼付の突起あり	IX 6	
163	注口 土器	C73 II16	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚8mm 外面研磨	注口部	IX 4	
164	深鉢 胴~底	C67 II 6	①にぶい赤褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	底径(5.0cm) 1/2残存 内外面ナデ	底部網代痕あり	X 2	
165	深鉢 底部	C67 II 9	①にぶい赤褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	底径(7.6cm) 1/2残存 内外面研磨	底部網代痕あり	X 2	
166	深鉢 胴~底	C68 II10	①にぶい褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒・雲母を少量含む	底径(11.2cm) 1/2残存 内外面研磨	底部網代痕あり	X 2	
167	深鉢 底部	C66 II11	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(6.0cm) 1/2残存 内外面研磨	底部網代痕あり	X 2	
168	深鉢 底部	C70 II 7	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底部(14.0cm) 1/2残存 内外面研磨	底部網代痕あり	X 2	
169	深鉢 底部	C68 II10	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	底部6.2cm 底部全周 内面研磨外面ナデか	焼成後底部穿孔か	X 2	
170	深鉢 底部	C66 II 8	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径4.4cm 底部全周 内外面ナデ外面研磨か	底部ナデか	X 2	
171	深鉢 胴~底	C67 II 9	①明褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	底径10.8cm 底部全周 内面ナデ外面削りか	底部研磨か	X 1	
172	深鉢 胴~底	C65 II 6	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径10.0cm 底部全周 内外面ナデ・研磨	底部網代痕あり	X 1	
173	深鉢 胴~底	C68 II 7	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(7.0cm) 1/2残存 内外面研磨		X 1	
174	深鉢 底部	C70 II 9	①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	底径5.6cm 底部全周 内面ナデ外面研磨か	高台状の粘土貼付か	X 1	
175	深鉢 口縁部	C66 II11	①赤褐 ②暗赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚16mm 内面研磨外面ナデ	口縁部に一對の突起 半截竹管 状工具による結節沈線	不明	
176	深鉢 口縁部	C72 II15	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9mm 内面研磨外面ナデ	口唇部に刻み	不明	
177	深鉢 口縁部	C65 II 7	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚14mm 内面研磨か	沈線 RL縄文	不明	
178	深鉢 底部	C64 II 8	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	底径(6.0cm) 1/2残存 内外面研磨	高台状粘土貼付	X 2	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調 量整	文様要素	分類	備考
179	鉢か 胴部	C69 II 7	①にぶい赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚25mm 内外面研磨	平行沈線 内面に沈線・三叉印沈 文か	不明	
180	土製玉	C69 II 7	①橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	径17mm 孔径3mm			

2号谷津状遺構出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
181	石鏃	C69-II10	[1.4]	[1.2]	0.3	0.4	両端部欠損	黒曜石	基部形態不明
182	石槍	C64-II 8	9.8	3.9	1.8	60	完形	熱変成岩	片面に自然面を残す
183	打製石斧	C61-II 6	[6.9]	5.1	1.5	80	刃部欠損	熱変成岩	短冊型か
184	打製石斧	C70-II 9	8.5	5.1	2.4	115	完形	輝緑岩	短冊型 凸刃
185	打製石斧	C73-II13	[11.5]	10.1	1.3	215	基部欠損	絹雲母石墨片岩	分銅型か 凸刃 片面に自然面を残す
186	打製石斧	C68-II 7	19.8	8.8	1.6	320	完形	輝緑岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
187	打製石斧	C64-II 3	9.9	4.7	1.8	75	完形	輝緑岩	短冊型 凸刃
188	打製石斧	C72-II 7	7.9	4.8	1.4	55	完形	熱変成岩	撥II型か 凸刃
189	打製石斧	C69-II 1	11.0	7.1	2.8	209	完形	熱変成岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
190	打製石斧	C67-II10	6.9	5.0	2.1	60	完形	熱変成岩	撥I型 直刃 片面に自然面を残す
191	打製石斧	C70-II 9	9.0	4.9	2.6	100	完形	熱変成岩	撥II型 凸刃
192	打製石斧	C65-II 6	11.5	5.9	2.1	185	完形	熱変成岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
193	打製石斧	C70-II 6	[9.6]	6.9	2.6	140	基部欠損	熱変成岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
194	打製石斧	C66-II 8	[7.1]	7.0	2.6	105	基部欠損	熱変成岩	撥II型 直刃
195	打製石斧	C72-II12	11.8	6.6	2.5	214	刃部欠損	絹雲母緑泥片岩	撥II型
196	磨製石斧	C69-II10	[8.0]	4.4	2.7	180	基部欠損	角閃岩	研磨途中 粗割痕を残す
197	磨製石斧	C76-II11	[5.7]	4.5	1.6	80	刃部欠損	角閃岩	粗割段階
198	磨製石斧	C66-II 9	10.3	7.6	3.0	355	完形	輝緑岩	粗割途中 片面に自然面を残す
199	スクレイパー	C73-II10	4.8	[8.5]	3.0	130	%	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃 側面に自然面を残す
200	スクレイパー	C68-II 2	4.0	8.4	1.4	42	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面を残す
201	スクレイパー	C80-II17	9.3	5.6	2.3	119	刃部欠損	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面を残す
202	石核	C66-II 7	8.4	7.0	3.3	183	完形	熱変成岩	片面に自然面を残す
203	礫器	C67-II10	8.5	8.6	3.3	215	完形	熱変成岩	片面に自然面を残す
204	石核	C64-II 5	7.0	6.8	5.8	310	完形	玉髓	一部自然面を残す
205	磨石	C65-II 9	7.5	5.0	2.7	154	%	流紋岩	両面に磨面
206	磨石	C63-II10	9.8	8.3	4.7	510	完形	安山岩	3面に磨面 片面にくぼみ
207	磨石	C69-II 6	8.5	7.9	4.6	425	完形	安山岩	片面に磨面 磨面以外は敲打痕か
208	くぼみ石	C66-II 8	14.0	6.9	2.8	485	完形	輝緑岩	両面にくぼみ・磨面 両側面に刻み
209	石皿	C67-II 7	10.0	11.6	6.0	770	完形	安山岩	小型の石皿か
210	くぼみ石	C69-II10	10.4	7.6	4.0	470	完形	輝緑岩	片面にくぼみ
211	石皿	C69-II 9	9.0	[4.8]	4.4	289	破片	安山岩	片面に磨面
212	くぼみ石	C69-II 7	[15.4]	5.4	[2.5]	335	½	緑簾緑泥片岩	
213	丸石	C68-II 9	4.9	4.4	3.0	75	完形	石英安山岩	
214	丸石	C76-II17	6.1	5.4	4.8	195	完形	安山岩	
215	砥石	C68-II10	[8.8]	[7.9]	2.4	175	破片	砂岩	両面に研ぎ面 側縁に敲打痕あり
216	石錘	C68-II 6	6.0	2.9	1.2	25	%	絹雲母石墨片岩	両端部に刻み
217	砥石	C64-II10	[10.2]	6.5	[1.4]	140	½	砂岩	研ぎ面中央縦にわずかにくぼむ
218	砥石	C70-II 6	[5.8]	5.5	[1.4]	63	½	砂岩	
219	砥石	C67-II 9	4.6	[6.1]	[2.3]	71	破片	砂岩	
220	砥石	C63-II10	[6.0]	[7.0]	1.2	70	一部欠損	砂岩	片面に研ぎ面
221	砥石	覆土	[4.1]	[2.4]	0.9	15	破片	砂岩	片面に研ぎ面
222	石棒	C67-II10	[15.5]	5.4	4.3	676	½	緑泥片岩	全面研磨 両面にくぼみあり

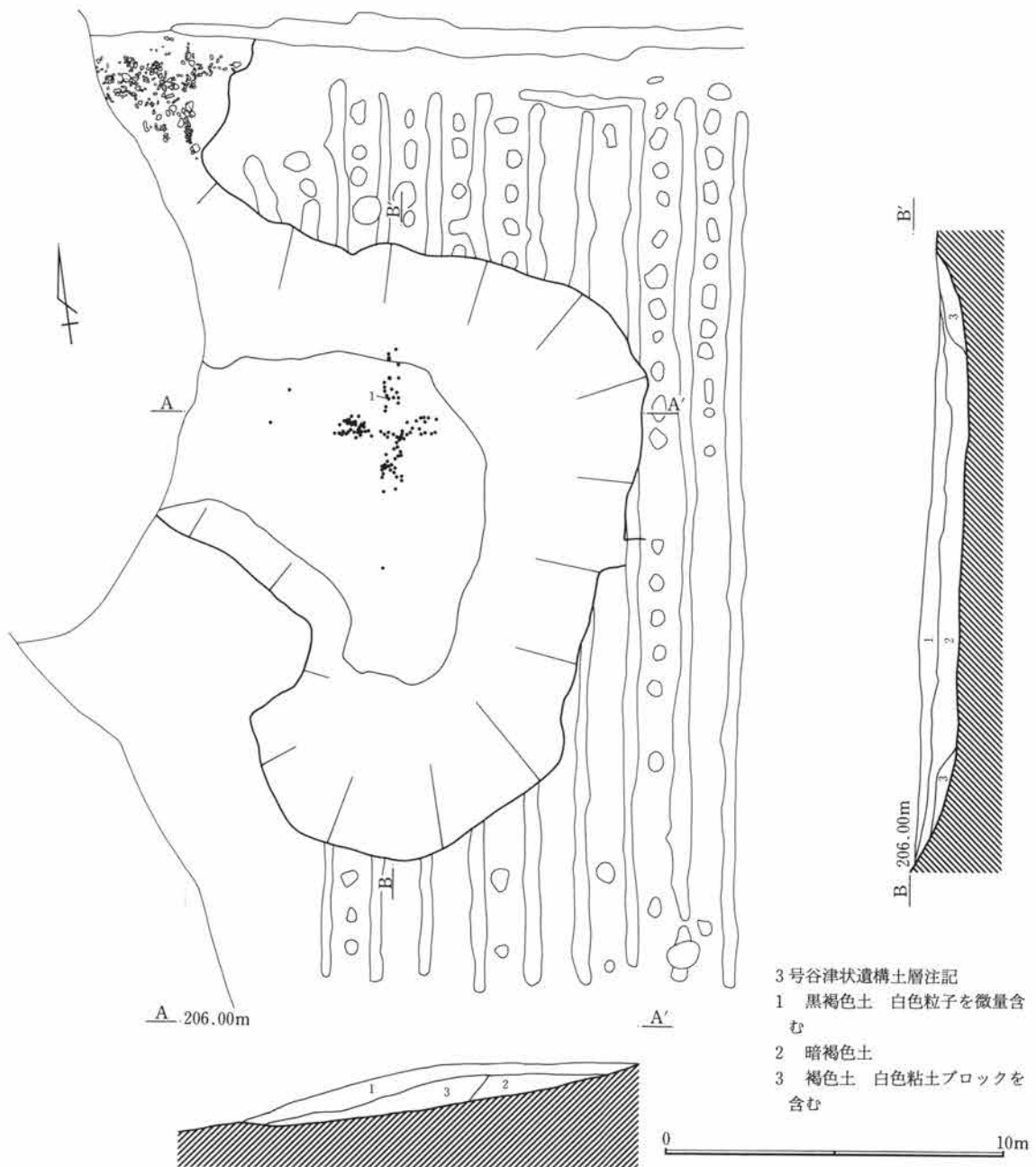
3号谷津状遺構

位置 C67~79-II55~63 Gr 調査区の西端部に位置し、西に向かって下がっている。

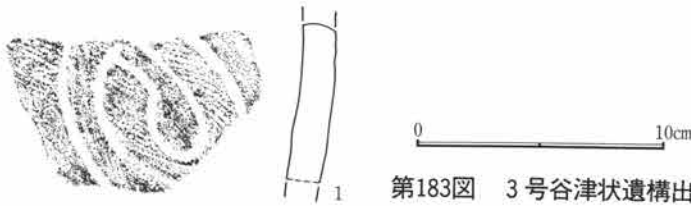
出土遺物 土器は112点と少なく、また時期の判明するものも19点だけである。石器は出土していない。

3号谷津状遺構出土土器数量表

群別	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	I~IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	計
点数	1	0	0	3	5	7	3	0	19	8	1	15	64	3	2	112
%	5.2	0	0	15.8	26.3	36.8	15.8	0	20.0	7.1	0.8	13.4	57.1	2.7	1.8	
重量(g)	19	0	0	127	136	142	59	0	483	214	24	433	1,069	113	20	2,356
%	3.9	0	0	26.2	28.2	29.4	12.2	0	20.5	9.1	1.0	18.4	45.4	4.8	0.8	



第182図 3号谷津状遺構



第183図 3号谷津状遺構出土遺物

3号谷津状遺構出土土器観察表

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ④胎土 ②色調(裏) ③焼成	法調量整	文様要素	分類	備考
1	深鉢胴部	C73 II59	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚12~15mm 摩滅により調整不明	沈線区画内にLR(?)縄文	VIII 1	

4号谷津状遺構

位置 C53~61-II16~23 Gr 重複 なし

調査区中央やや西寄り、2号谷津状遺構の西に位置し、北東に向かって開いている。

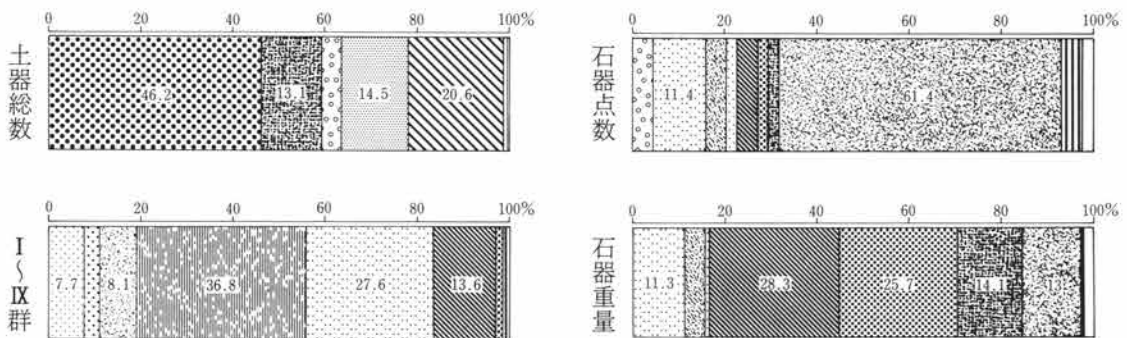
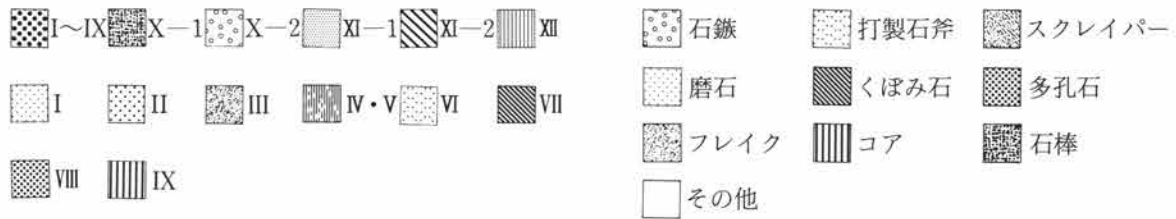
遺物出土状況 谷頭部からはほとんど出土せず、調査区北壁付近に集中している。垂直分布を見ると、底面からの高さ1.5~2mの範囲に集中しており、その上層・下層からはほとんど出土していない。

出土遺物 土器は2,027点出土しており、時期の判明するものは936点と比較的多い。IV~VII群が多いが、1・2号谷津状遺構に比べ、I~III類の土器の割合が高くVIII・IX群の割合が低くなっている。

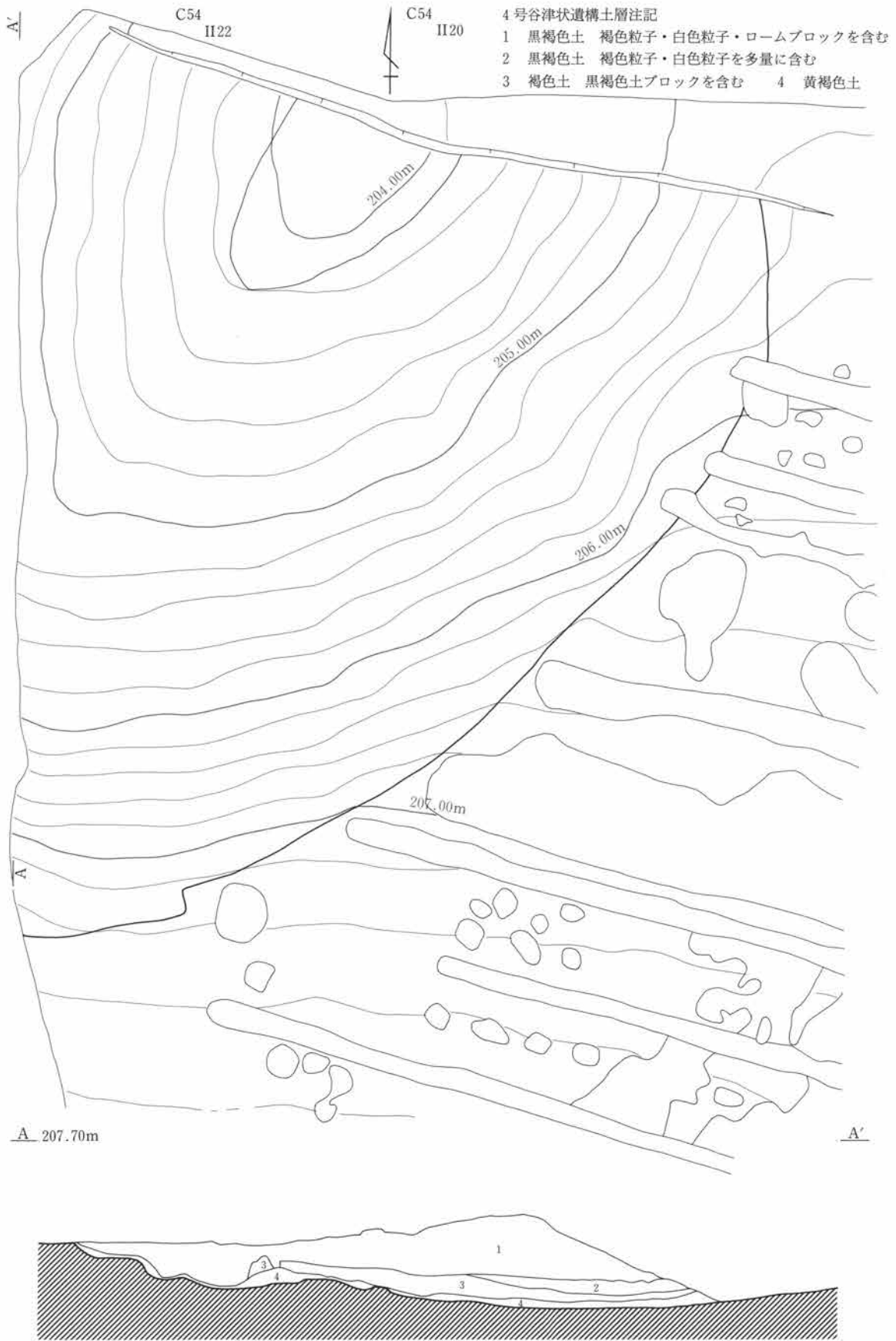
4号谷津状遺構出土土器数量表

群別	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	I~IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	計
点数	72	32	76	344	258	127	15	12	936	266	87	294	418	26	0	2,027
%	7.7	3.4	8.1	36.8	27.6	13.6	1.6	1.3	46.2	13.1	4.3	14.5	20.6	1.3	0	
重量(g)	2,351	577	1,560	17,207	7,509	2,705	371	239	32,519	7,106	2,081	8,497	6,981	977	50	58,211
%	7.2	1.8	4.8	52.9	23.1	8.3	1.1	0.7	55.9	12.2	3.6	14.6	12.0	1.7	0.1	

石器は44点出土しており、29点は剥片・石核である。器種別に見ると、石鏃2点(4.5%)、打製石斧5点(11.4%)、スクレイパー2点(4.5%)、磨石1点(2.3%)、くぼみ石2点(4.5%)、多孔石1点(2.3%)、石棒1点(2.3%)、不明石器1点(2.3%)、剥片27点(61.4%)、石核2点(4.5%)である。

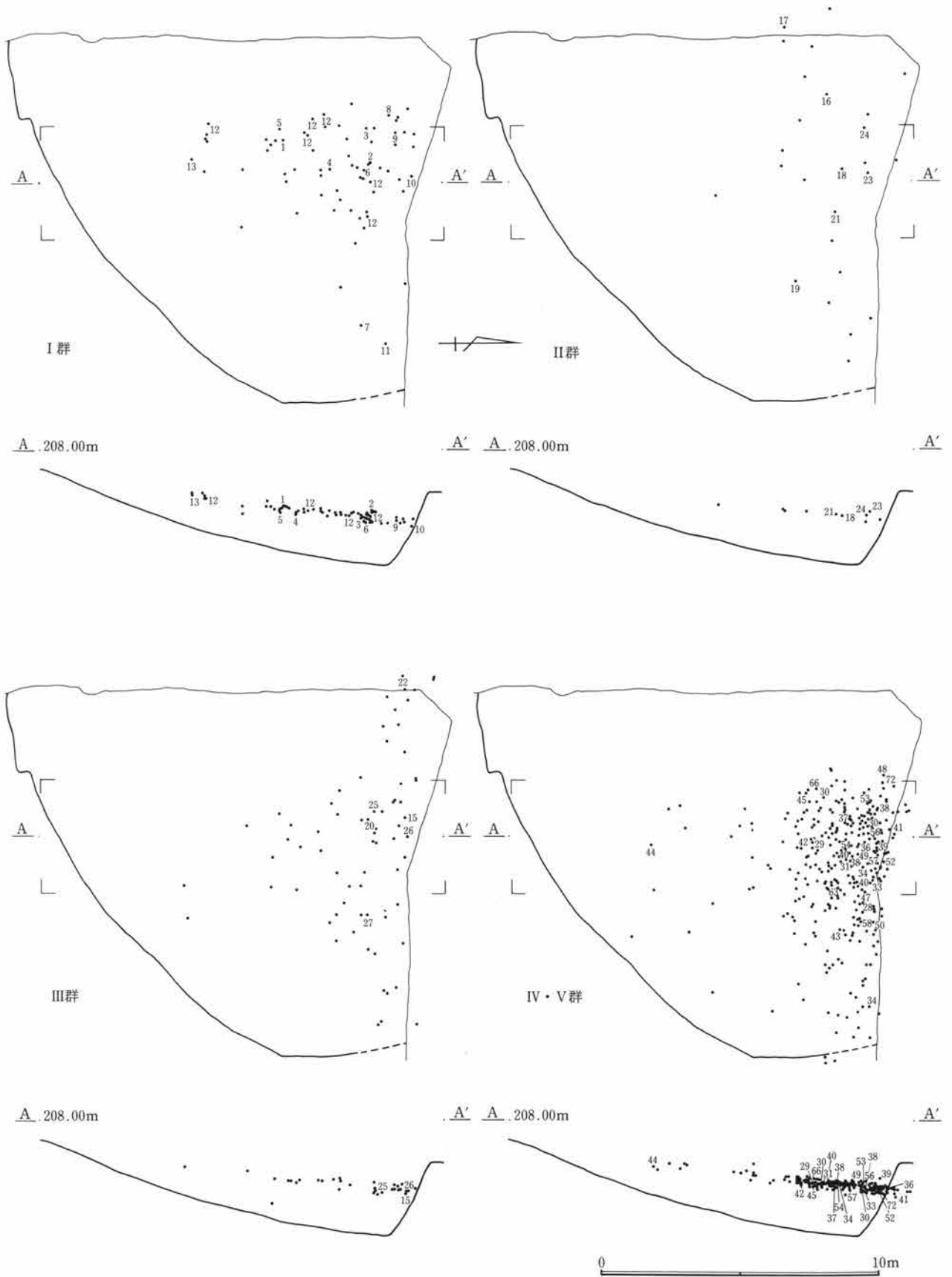


第184図 4号谷津状遺構土器・石器分類グラフ

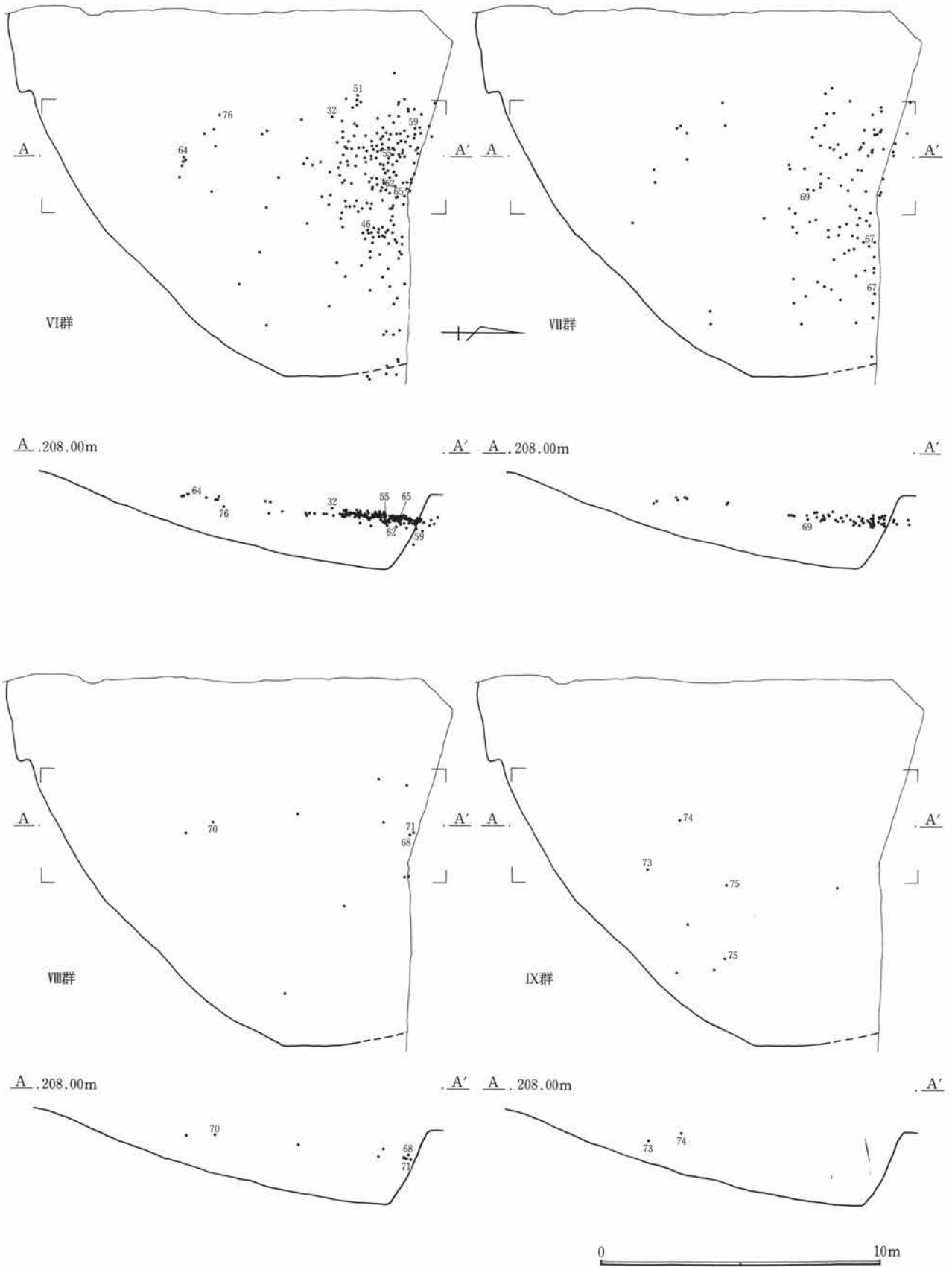


第185図 4号谷津状遺構

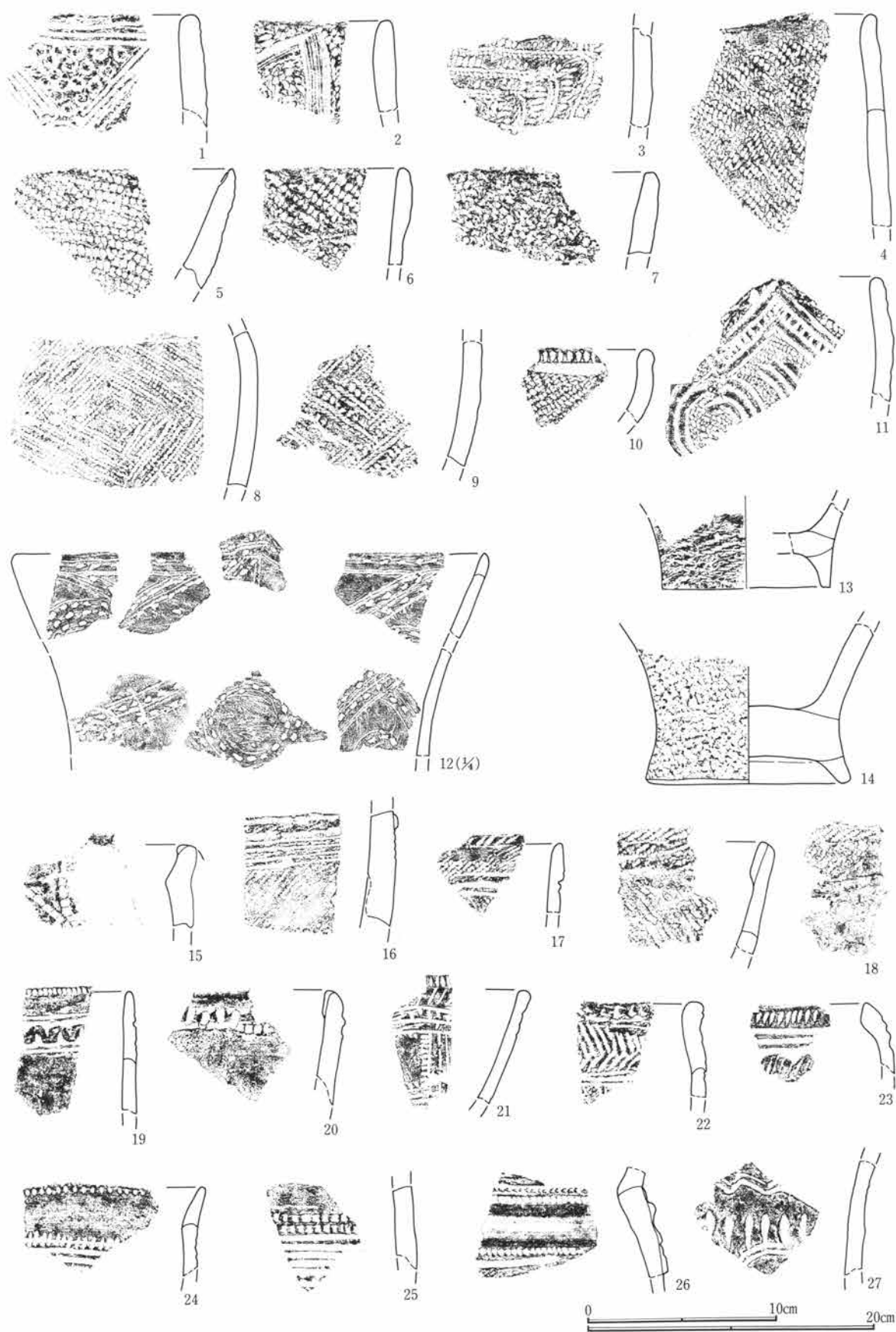
第III章 検出された遺構と出土遺物



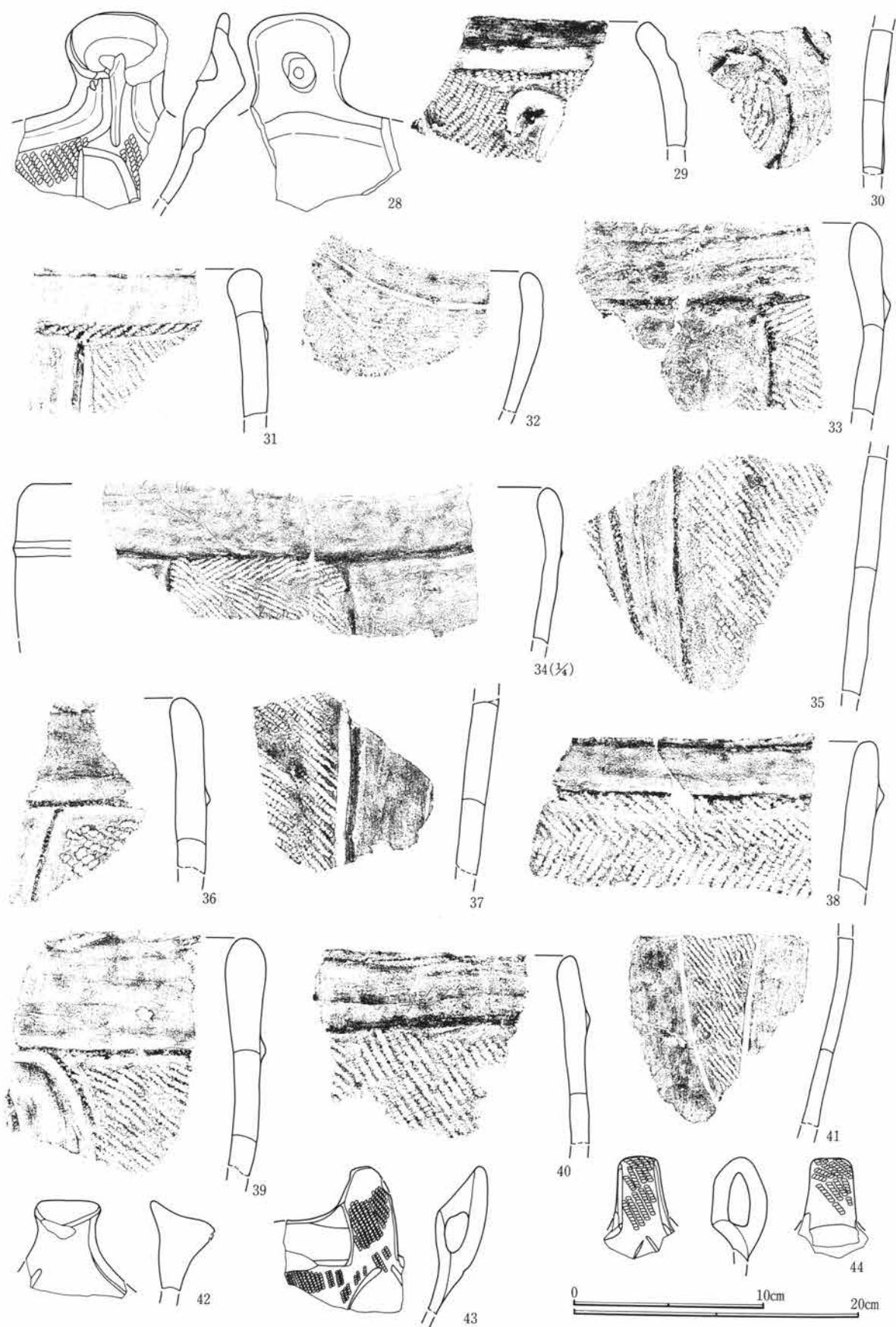
第186図 4号谷津状遺構縄文土器出土状況 (I~IV・V群)



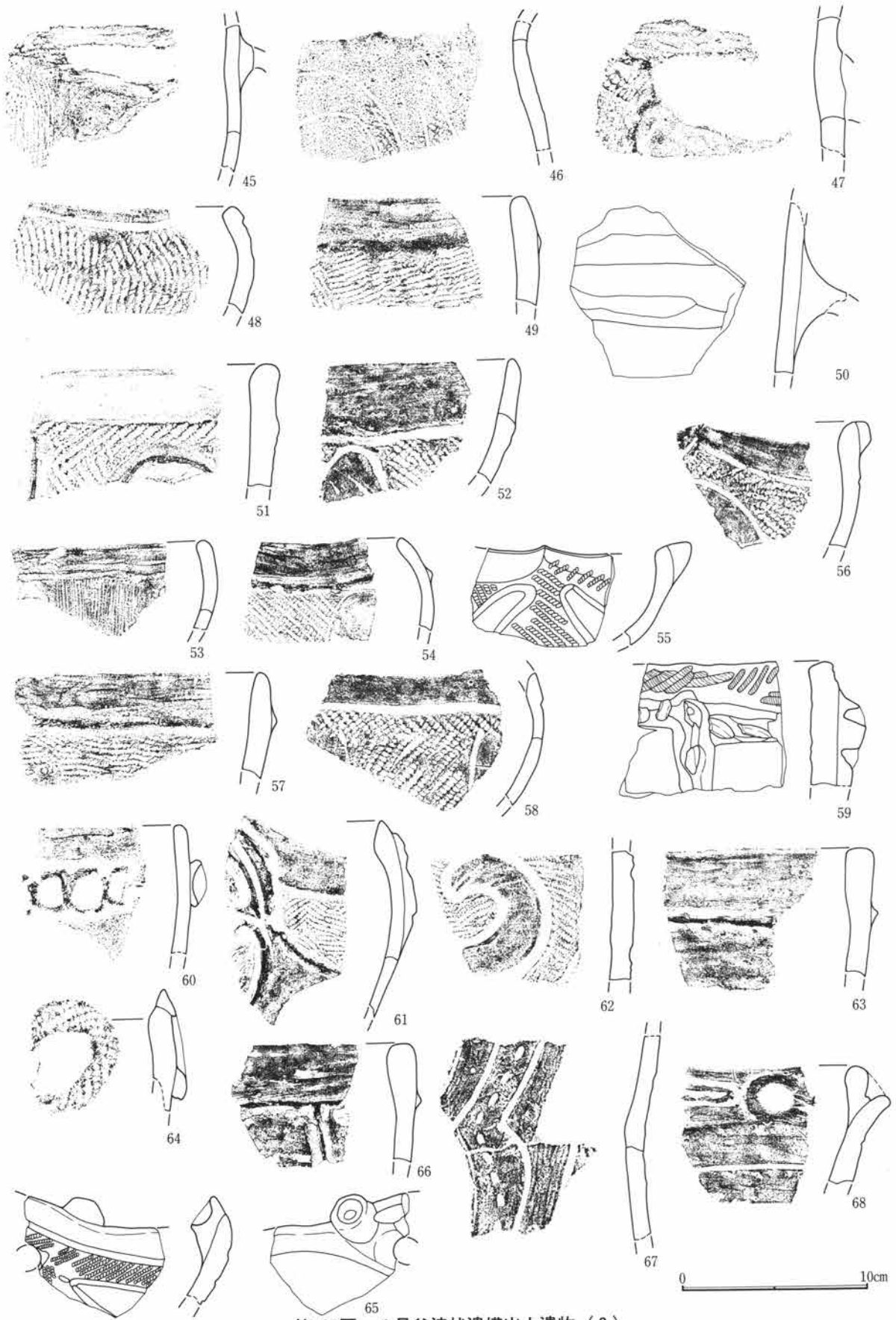
第187図 4号谷津状遺構縄文土器出土状況 (VI~IX群)



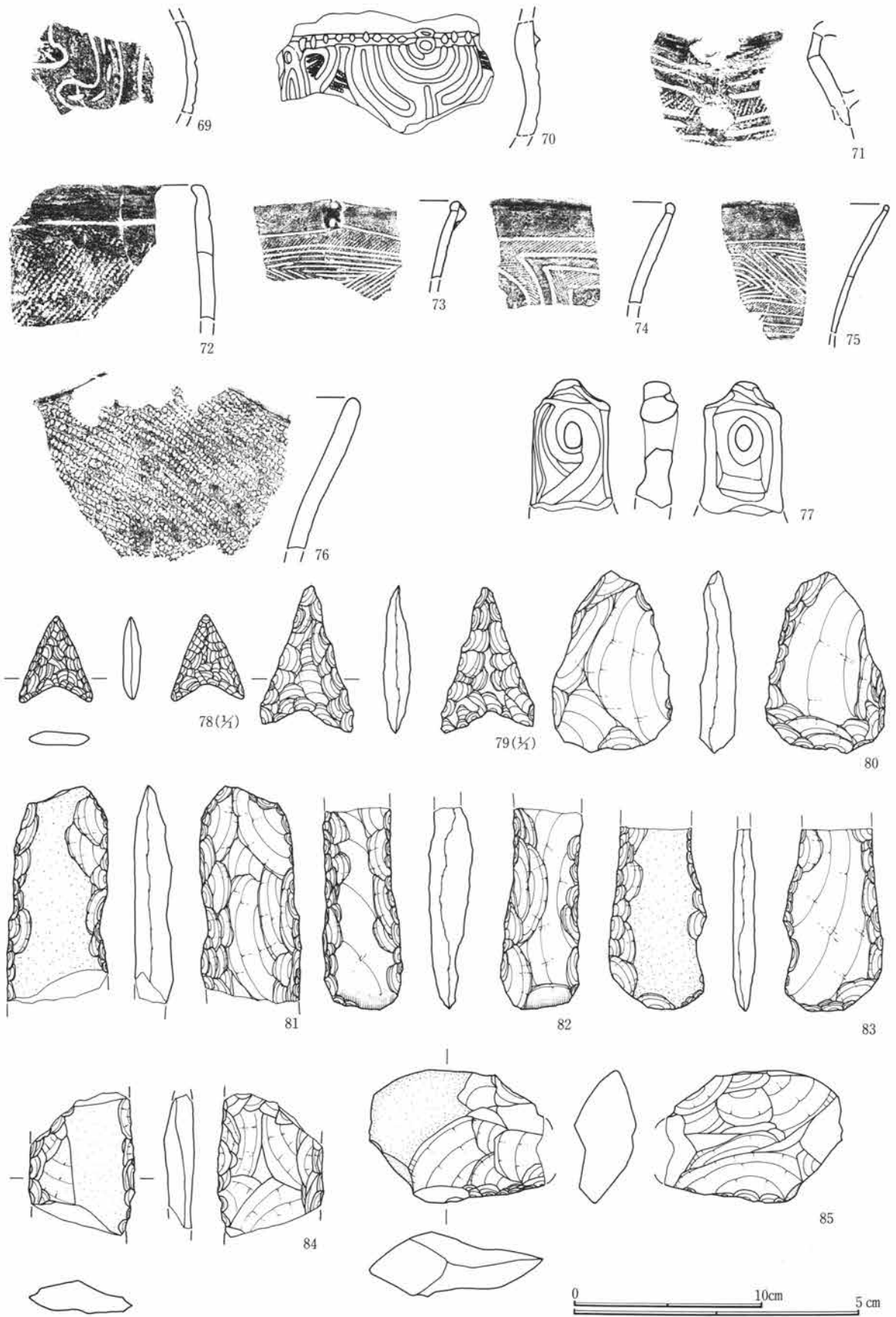
第188図 4号谷津状遺構出土遺物(1)



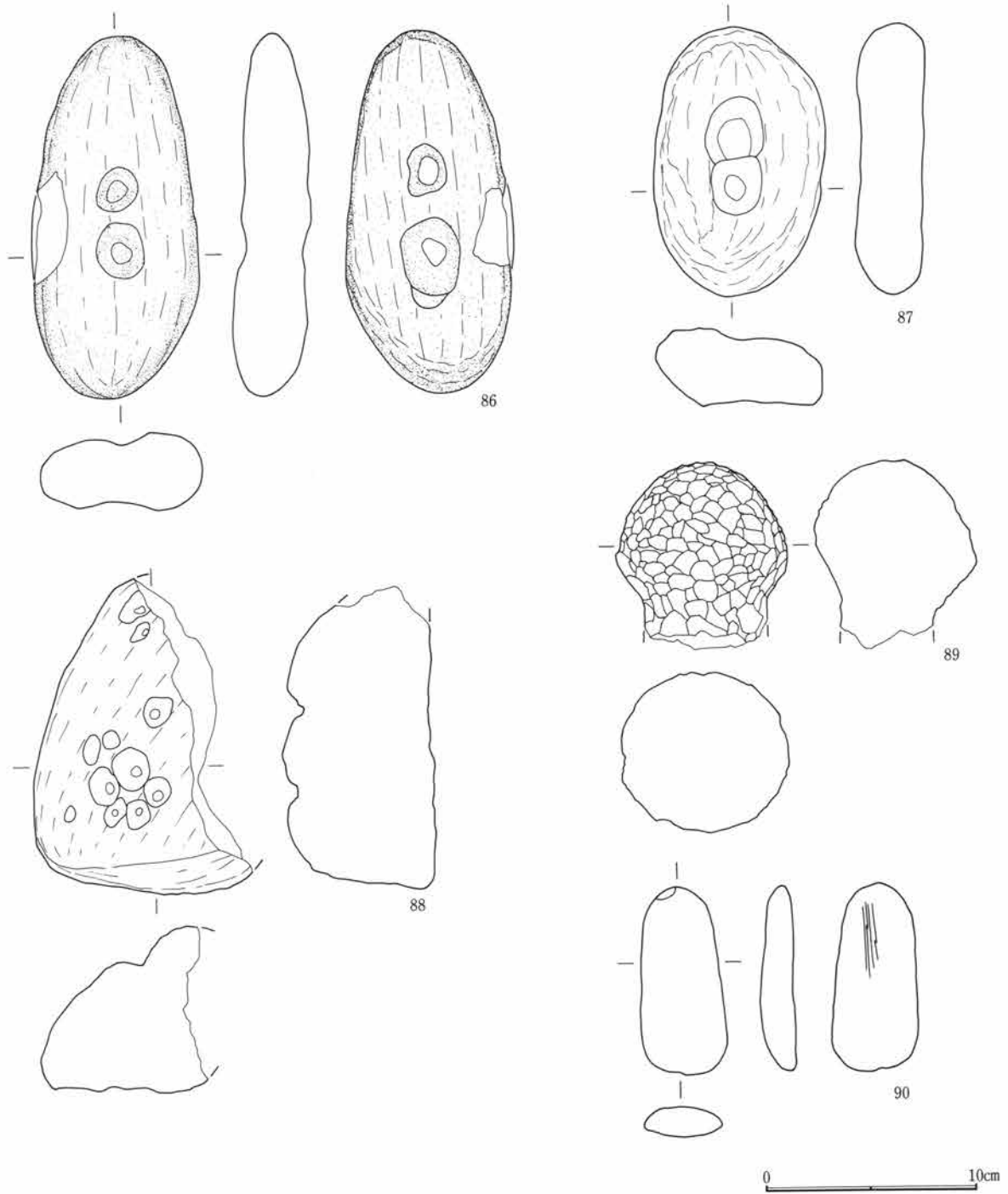
第189図 4号谷津状遺構出土遺物(2)



第190図 4号谷津状遺構出土遺物(3)



第191図 4号谷津状遺構出土遺物(4)



第192図 4号谷津状遺構出土遺物（5）

4号谷津状遺構出土土器観察表

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量調整	文様要素	分類	備考
1	深鉢口縁部	C56 II21	①にぶい黄褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を少量含む	器厚9~14mm 内面ヘラナデか	半截竹管状工具による平行沈線 円形竹管による刺突文	I	
2	深鉢口縁部	C55 II21	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚9~12mm 内面研磨	直前段合燃L $\left\{ \begin{matrix} R \\ R \\ R \\ L \end{matrix} \right.$ 縄文施文 後沈線か	I	
3	深鉢胴部	C55 II21	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 繊維・砂粒・白色粒子を含む	器厚9~10mm 内面研磨か	直前段合燃R $\left\{ \begin{matrix} L \\ R \\ L \\ L \end{matrix} \right.$ 縄文か	I	
4	深鉢口縁部	C26 II21	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚8~10mm 内面研磨	R L 縄文	I	

第1節 縄文時代

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
5	深鉢 口縁部	C56 II21	①にぶい褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 繊維・砂粒を含む	器厚3~14mm 内面研磨か	R L縄文	I	
6	深鉢 口縁部	C55 II21	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④細 繊維・砂粒を含む	器厚6~8mm 内面ナデか	R L縄文	I	
7	深鉢 口縁部	C55 II19	①にぶい黄褐 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 繊維・砂粒を含む	器厚7~11mm 内面研磨か	縄文(原体不明)	I	
8	深鉢 胴部	C54 II22	①暗褐 ②明赤褐 ③良好 ④粗 繊維・砂粒を含む	器厚8~10mm 内面研磨	直前段 反燃 $R \left\{ \begin{matrix} L \\ R \end{matrix} \right\} \cdot L \left\{ \begin{matrix} L \\ R \\ R \\ R \end{matrix} \right\}$ 縄文	I	
9	深鉢 胴部	C54 II21	①明褐 ②赤褐 ③良好 ④粗 繊維・砂粒を含む	器厚9~10mm 内面研磨	直前段 合燃 $L \left\{ \begin{matrix} L \\ L \\ L \end{matrix} \right\} \cdot R \left\{ \begin{matrix} L \\ R \\ R \\ R \end{matrix} \right\}$ 縄文	I	
10	深鉢 口縁部	C54 II20	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚7~8mm 内面研磨	口縁部外面に刻み 幅広の沈線 R L縄文	I	
11	深鉢 口縁部	C55 II18	①にぶい黄橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚8~10mm 内面研磨	R L縄文施文後半截竹管状工具による平行沈線・結節沈線・同心円文	I	
12	深鉢 口~胴	C56 II22	①にぶい黄褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	口径(32.6cm) 内面研磨	半截竹管状工具による平行沈線間に連続刺突文	I 3	
13	深鉢 底部	C58 II21	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 繊維・砂粒・白色粒子を含む	底径(8.8cm) $\frac{1}{2}$ 残存 内面研磨	直前段反燃 $L \left\{ \begin{matrix} L \\ L \\ L \end{matrix} \right\} \left\{ \begin{matrix} R \\ R \\ R \end{matrix} \right\}$ 縄文	I	
14	深鉢 底部	覆土	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	底径(10.6cm) 底部全周 内面ナデか	複節 $L \left\{ \begin{matrix} L \\ R \\ L \end{matrix} \right\}$ 縄文か	I 2	
15	深鉢 口縁部	C54 II20	①にぶい黄褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒・金雲母を含む	器厚10~12mm 内面研磨	半截竹管状工具による結節沈線	II 1	
16	深鉢 胴部	C55 II20	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒・雲母を含む	器厚12~14mm 内面研磨か	隆帯文 半截竹管状工具による2 本単位の平行沈線 R L縄文	II 1	
17	深鉢 口縁部	覆土	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~7mm 内面研磨	口唇部に刻み L R縄文 半截竹 管状工具による半隆起線文	II 1	
18	深鉢 口縁部	C55 II21	①赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~10mm 内面研磨	口縁部内面に段あり 口唇部~口 縁部外面にL R縄文	II 4	
19	深鉢 口縁部	C56 II19	①灰黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~7mm 内面研磨	口唇部刻み 2本1単位の2条の 平行沈線間に交互に刺突文	II 1	
20	深鉢 口縁部	C55 II21	①褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内面研磨か	口縁部内面に段あり 半截竹管状工具による結節沈線間に交互に刺突文	II 1	
21	深鉢 口縁部	C55 II20	①にぶい赤褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~6mm 内面研磨	口唇部・口縁部外面に刻み 沈線 円形竹管による連続刺突文	II 1	
22	深鉢 口縁部	C54 II21	①黒褐 ②暗褐 ③良好 ④粗 砂粒・石英粒・金雲母を含む	器厚7~10mm 内面研磨	半截竹管状工具による連続刺突 文・半隆起線文	II 2	
23	深鉢 口縁部	C54 II21	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒・長石粒を含む	器厚6~10mm 内面研磨	平行沈線 集合沈線	II 2	
24	深鉢 口縁部	C54 II21	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚3~8mm 内外面研磨	口唇部に刻み 半截竹管状工具による半隆起線文に連続刺突文	II 1	
25	深鉢 胴部	C55 II21	①にぶい橙 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒を含む	器厚10~11mm 内面研磨	半截竹管状工具による沈線・結節 沈線	II 1	
26	深鉢 胴部	C54 II19	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒を含む	器厚9~16mm 内外面研磨	隆帯文間に半截竹管状工具による 結節沈線	III 2	
27	深鉢 胴部	C55 II19	①褐 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒・金雲母を多く含む	器厚7~9mm 内外面研磨か	沈線 連続する短沈線	III 3	
28	深鉢 口縁部	C54 II19	①黒褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~20mm 内外面研磨	口縁部把手内面に円孔外面に沈線 沈線区画内にR L縄文	IV 3	
29	深鉢 口縁部	C55 II20	①暗褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~13mm 内面研磨	幅広の沈線区画内にR L縄文縦回 転 貼付文周囲に沈線	IV 3	
30	深鉢 胴部	C55 II21	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10~13mm 内外面研磨	隆帯文区画内にR L縄文 隆帯文 脇は磨消	V 1	
31	深鉢 口縁部	C55 II21	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚12~17mm 内外面研磨	横位の隆帯文上および隆帯文区画 内にL R縄文 隆帯文脇磨消	V 1	
32	深鉢 口縁部	C55 II21	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11mm 摩滅により調整不明	沈線区画内にL R(?)縄文	V 3	
33	深鉢 口縁部	C56 II19	①にぶい赤褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~17mm 内外面研磨	隆帯文貼付後区画内にL R縄文	V 1	34と同一 個体か
34	深鉢 口縁部	C55 II20	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口径(52.0cm) $\frac{1}{2}$ 残存 内外面研磨	隆帯文貼付後区画内にL R縄文	V 1	33と同一 個体か

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量調整	文様要素	分類	備考
35	深鉢胴部	C54 II20	①淡黄 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚10~12mm 内外面研磨か	隆帯文区画内にL R縄文縦回転	V 1	
36	深鉢口縁部	C54 II20	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚14~18mm 内外面研磨	隆帯文区画内にL R縄文縦回転 隆帯文脇は磨消	V 1	
37	深鉢胴部	C55 II21	①赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12~13mm 内外面研磨	隆帯文区画内にL R縄文縦回転 隆帯文脇は磨消	V 1	
38	深鉢口縁部	C55 II20	①にぶい褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚15~18mm 内面研磨	隆帯文貼付後R L縄文	V 1	
39	深鉢口縁部	C54 II20	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚13~21mm 内外面研磨	隆帯文貼付後区画内にR L縄文横回転	V 1	
40	深鉢口縁部	C55 II20	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚9~14mm 内外面研磨	隆帯文貼付後L R縄文縦回転	V 1	
41	深鉢胴部	C54 II21	①にぶい褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚7~9mm 内外面研磨	沈線区画内にL r無節縄文縦回転	V 3	
42	深鉢把手部	C56 II20	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚10~32mm 内外面研磨	沈線	V	
43	深鉢口縁部	C55 II19	①黒褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~23mm 内面研磨	橋状把手外面・沈線区画内にR L縄文縦回転	V 3	
44	深鉢把手部	C58 II20	①にぶい褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内面研磨か	橋状把手外面にL R縄文縦回転 沈線	V 3	
45	深鉢胴部	C55 II21	①明赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚8~16mm 内面研磨	橋状把手欠損 櫛状工具による条線文	V 5	
46	深鉢胴部	C55 II19	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③不良 ④細 砂粒を含む	器厚7~9mm 内面研磨	沈線区画内にL R縄文	V 3	
47	深鉢胴部	C55 II19	①褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11~15mm 内外面研磨か	橋状把手欠損 隆帯文区画内にL R縄文	V 1	
48	深鉢口縁部	C54 II22	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚8~12mm 内面研磨	口縁部外面に横位の沈線 R l無節縄文	V 3	
49	深鉢口縁部	C55 II20	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~14mm 内面研磨	横位の隆帯文貼付後L R縄文	V 1	
50	深鉢胴部	C54 II19	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~37mm 内外面研磨	橋状把手欠損	V	
51	深鉢口縁部	C55 II22	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚15mm 内面研磨	隆帯文区画内にL R縄文	V 1	
52	深鉢口縁部	C54 II20	①にぶい黄褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文縦回転	V 1	
53	深鉢口縁部	C54 II21	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	器厚7~8mm 内外面研磨	9本1単位の櫛状工具による条線文	V 5	
54	深鉢口縁部	C55 II20	①にぶい褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚7~8mm 内外面研磨	口縁部下に横位の隆帯文 沈線区画内にL R縄文縦回転	V 2	
55	深鉢口縁部	C55 II21	①灰褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚9~20mm 内外面研磨	口縁部突起あり 沈線区画内にL R縄文縦回転	V 3	
56	深鉢口縁部	C54 II21	①灰褐 ②灰褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚8~14mm 内外面研磨	口縁部突起あり 沈線区画内にL R縄文	V 3	
57	深鉢口縁部	C55 II20	①黒褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~15mm 内外面研磨	横位の隆帯文貼付後R L縄文	V 1	
58	深鉢口縁部	C55 II19	①暗赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~7mm 内外面研磨	沈線区画内にR L縄文	V 3	
59	深鉢口縁部	C54 II21	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚29mm 内面研磨	口縁部外面にL R無節縄文 横位・縦位の隆帯文上に刺突文	VI 2	
60	深鉢口縁部	C54 II19	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚7~16mm 内外面研磨	横位の隆帯文上に連続する押圧文	VI 2	
61	深鉢口縁部	C56 II19	①褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚5~16mm 内外面研磨	隆帯文上に沈線 隆帯文・沈線区画内にL R縄文	VI 3	
62	深鉢胴部	C55 II20	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚9~12mm 内面研磨	沈線区画内にL R縄文	VI 1	
63	深鉢口縁部	C55 II19	①赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚10~16mm 内外面研磨	口縁部下に横位の隆帯文	VI 2	66と同一個体か
64	深鉢口縁部	C58 II20	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12~17mm 内面研磨	口縁部外面円形の隆帯文上にL R縄文	VI 4	

No.	器種 部位	出土 位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
65	深鉢 口縁部	C54 II20	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚6~22mm 内外面研磨か	内面円形貼付文に円孔・隆帯文外 面沈線区画内にLR縄文	VI 1	
66	深鉢 口縁部	C55 II21	①赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚9~15mm 内外面研磨	口縁部下に横位の隆帯文	VI 2	63と同一 個体か
67	深鉢 胴部	C54 II19	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~11mm 内外面研磨	沈線区画内に円形竹管文による連 続刺突文	VII 1	
68	深鉢 口縁部	C54 II20	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を含む	器厚12mm 内外面研磨	口縁部外面円形貼付文に円孔・沈 線区画内に連続刺突文 沈線	VII 2	
69	深鉢 胴部	C55 II20	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚3~5mm 内外面研磨	沈線区画内に連続刺突文 8の字 状貼付文 隆帯文上に刻み	VII 1	
70	深鉢 胴部	C58 II21	①灰褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8~14mm 内面研磨か	沈線による同心円文 沈線区画内 にLR縄文	VIII 1	外面に煤 (?)附着
71	深鉢 口縁部	C54 II18	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚7mm 内面研磨	橋状把手欠損 沈線区画内にLR 縄文横回転	VIII 1	
72	深鉢 口縁部	C54 II21	①にぶい赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~9mm 内外面研磨	口縁部下に横位の沈線 LR縄文	IX 5	
73	深鉢 口縁部	C58 II20	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚7mm 内外面研磨	8の字状貼付文 沈線区画内にLR 磨消縄文 沈線による同心三角文	IX 2	
74	深鉢 口縁部	C58 II21	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚6mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
75	深鉢 口縁部	C57 II19	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚5mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文 沈線 による同心三角文	IX 2	
76	深鉢 口縁部	C58 II21	①にぶい褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9mm 内面ナデ	RL縄文	XI 2	
77	深鉢 把手部	覆土	①淡黄 ②淡黄 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚19mm 摩滅により調整不明	把手頂部に貼付文 透孔 隆帯文 および沈線	不明	

4号谷津状遺構出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
78	石鏃	C55-II11	1.5	1.3	0.3	0.3	完形	黒曜石	凹基無茎鏃
79	石鏃	C58-II21	2.5	1.6	0.5	1.3	完形	黒曜石	凹基無茎鏃
80	打製石斧	C55-II16	9.4	6.4	1.9	1.9	完形	熱変成岩	撥II型 凸刃
81	打製石斧	C54-II21	[11.3]	5.3	2.0	148	刃部欠損	熱変成岩	短冊型 片面に自然面を残す
82	打製石斧	C55-II18	[10.5]	4.2	2.3	100	基部欠損	熱変成岩	短冊型 凸刃
83	打製石斧	C55-II22	[9.5]	5.1	1.2	76	基部欠損	熱変成岩	撥II型 凸刃 片面に自然面を残す
84	打製石斧	C56-II21	[7.4]	5.5	1.6	75	両端部欠損	熱変成岩	短冊型か 片面に自然面を残す
85	スクレイパー	C54-II21	6.9	9.2	3.3	210	一部欠損	熱変成岩	側縁に刃部 片面に自然面を残す
86	くぼみ石	C54-II19	16.8	7.7	3.7	770	完形	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ 側面に敲打痕を残す
87	くぼみ石	C54-II18	12.5	8.0	3.6	550	完形	絹雲母石墨片岩	片面にくぼみ 側面に敲打痕を残す
88	多孔石	C57-II18	[14.6]	[10.2]	7.6	1200	1/4	絹雲母石墨片岩	片面にくぼみ 敲打痕を残す
89	石棒	C54-II21	[8.6]	8.0	7.5	660	先端部	輝緑岩	全面に敲打痕を残す
90	不明	C55-II19	8.7	4.0	1.6	85	完形	輝緑岩	両端に浅い刻み 片面に擦痕あり

3号落ち込み

位置 C60~63-II44~48 Gr 重複 19・20号住、211・213号土坑より古 規模 8.08×5.44m

深さ 78cm 面積 33.4m²

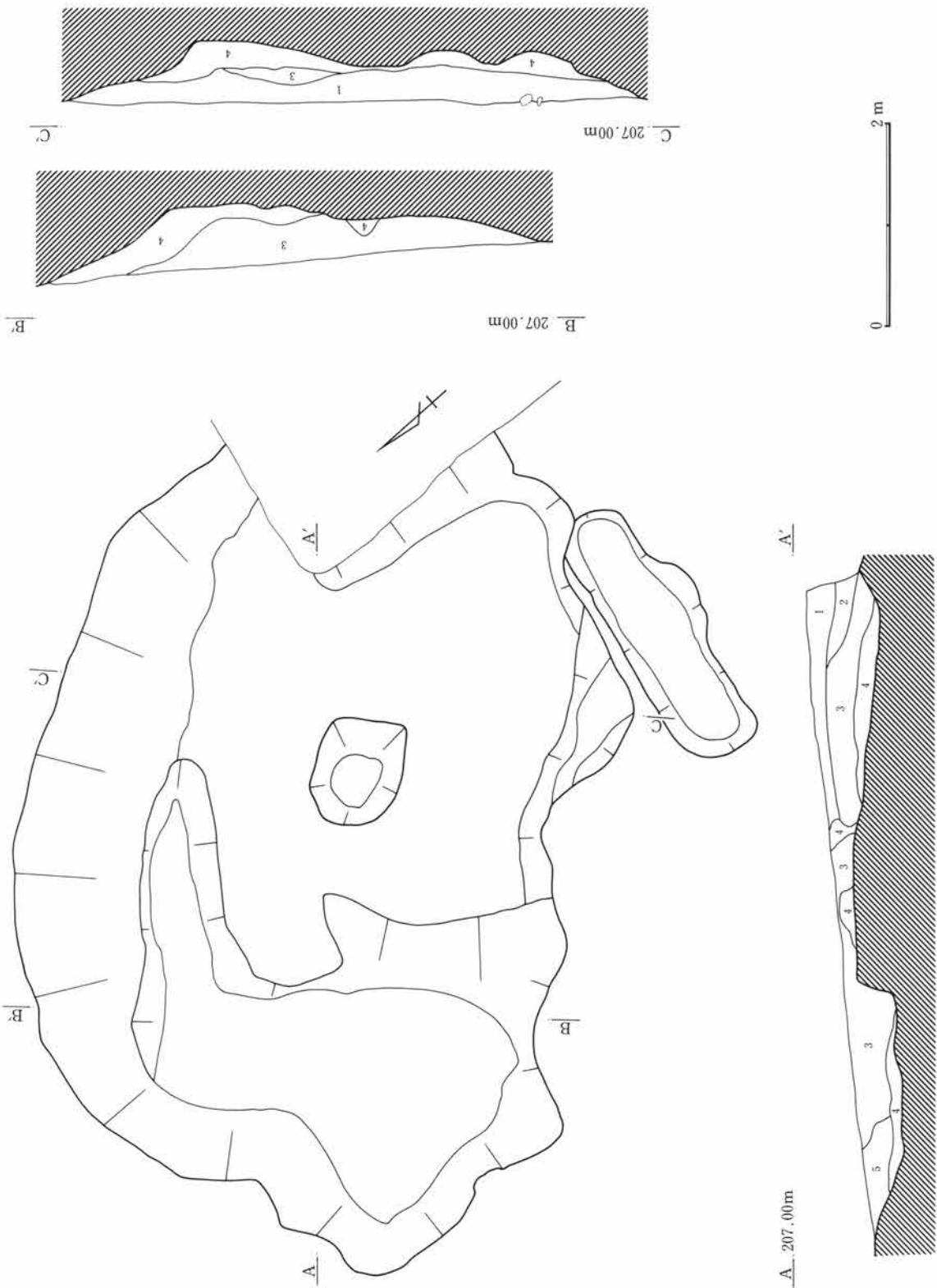
自然の小さな落ち込みと考えられるが、覆土や遺物から縄文時代に埋没したものと思われる。

遺物 縄文土器が275点、土偶が1点、石器は打製石斧6点、磨製石斧1点、不明1点、剥片49点、計57点出土している。

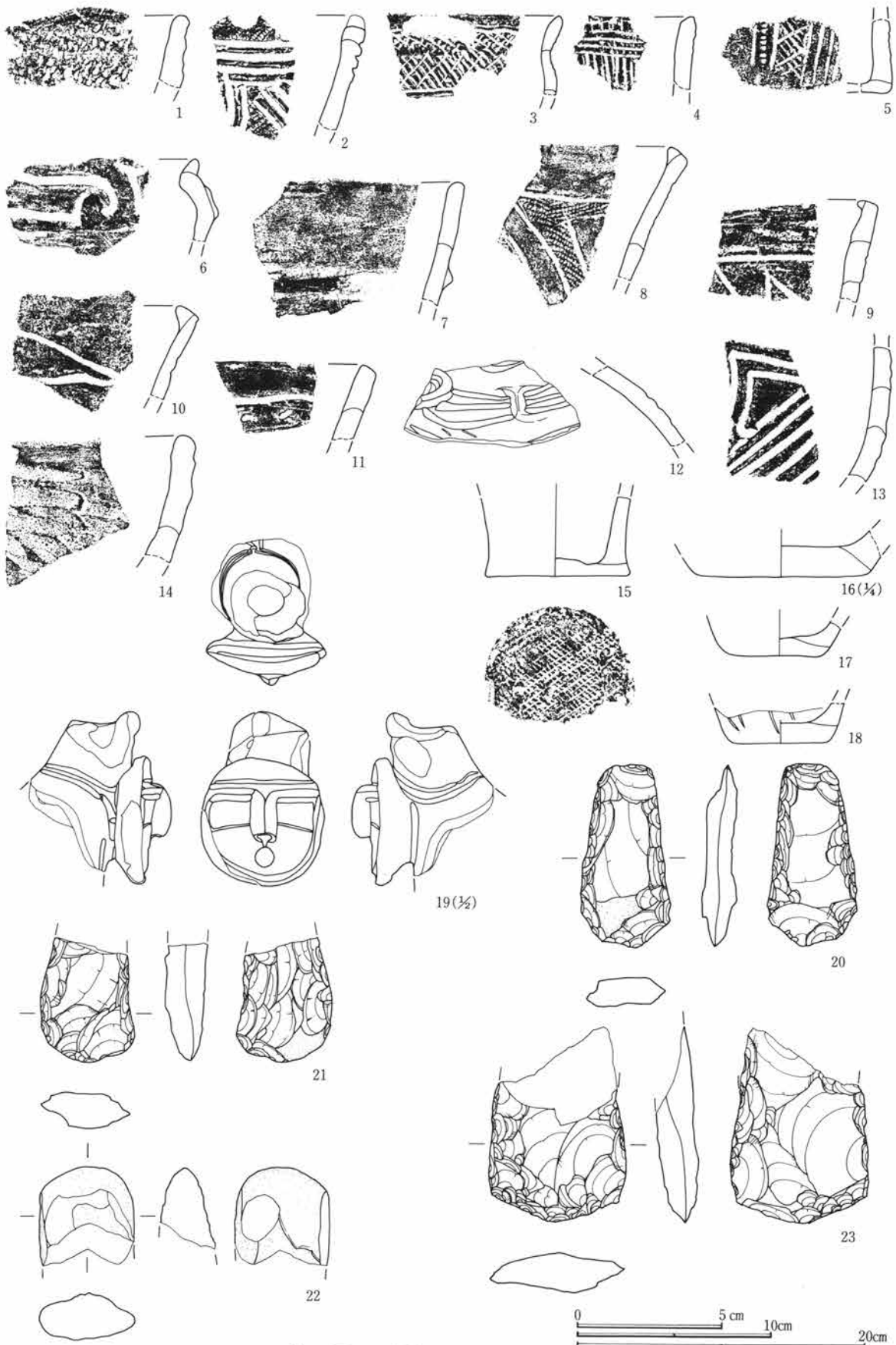
出土土器数量表

群 別	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	I~IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	計
点 数	5	9	5	8	7	30	11	2	77	11	7	27	135	3	15	275
%	6.5	11.6	6.5	10.3	9.1	39.0	14.2	2.6	28.0	4.0	2.5	9.8	49.1	1.1	5.5	

第III章 検出された遺構と出土遺物

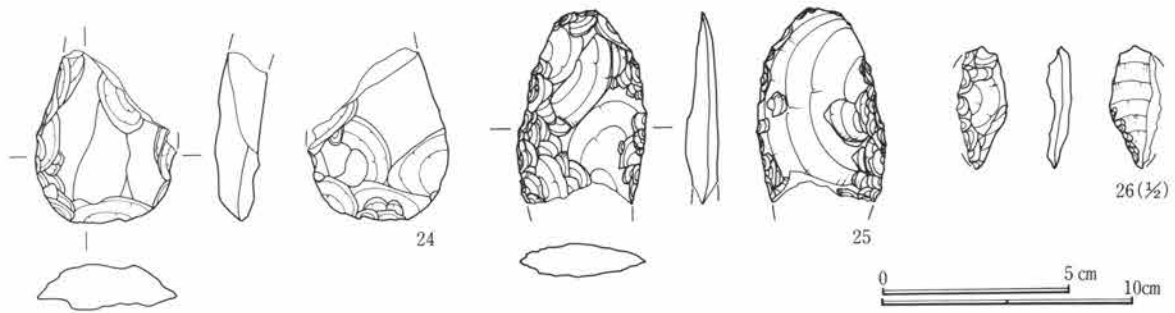


第193図 3号落ち込み



第194図 3号落ち込み出土遺物(1)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第195図 3号落ち込み出土遺物(2)

3号落ち込み出土土器観察表

No.	器種部位	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量 調整	文様要素	分類	備考
1	深鉢口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚8~12mm 内面研磨	直前段反撚L { L 縄文か	I 2	
2	深鉢口縁部	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 繊維・砂粒を含む	器厚7~11mm 内面研磨	口縁部に突起 LR縄文施文後半截竹管状工具による2本1単位の沈線	I 1	
3	深鉢口縁部	①にぶい赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~7mm 内面研磨	半截竹管状工具による2本単位の斜行沈線施文後直角に1本単位の斜行沈線	II 1	
4	深鉢口縁部	①赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~9mm 内面研磨	半截竹管状工具による2本単位の縦位沈線施文後横位の平行沈線	II 1	
5	深鉢底部	①赤褐 ②黒褐 ③不良 ④粗 砂粒・石英粒を多く含む	器厚9~10mm 内面ナデか	平行沈線・斜行沈線および連続刺突文	II 1	
6	深鉢口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚6~11mm 内面研磨	渦巻状の隆帯文 沈線	VII 4	
7	深鉢口縁部	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~13mm 内外面研磨	口縁部下に横位の隆帯文	VII 4	
8	深鉢口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~12mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VII 3	
9	深鉢口縁部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内面研磨か	沈線	VII 2	
10	深鉢口縁部	①褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~7mm 内面研磨	沈線	VII 2	
11	深鉢口縁部	①褐灰 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9~10mm 内外面研磨	沈線区画内に刺突文	VII 1	
12	深鉢か胴部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚9mm 内外面研磨	円形貼付文内外に円孔 楕円形貼付文両側に3条の沈線 沈線	VIII 5	
13	深鉢胴部	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線	VIII 4	
14	深鉢口縁部	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~13mm 内面研磨	指頭によるナデ	IX 3	
15	深鉢胴~底部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	底径(7.5cm) 1/2残存 内外面研磨	底部網代痕あり	IX	
16	深鉢底部	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	底径(12.2cm) 1/2残存 内外面研磨		X 1	
17	深鉢底部	①にぶい橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径5.0cm 底部全周 内面ナデ外面研磨		X 2	
18	深鉢底部	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	底径4.8cm 底部全周 内面ナデ外面研磨		X 2	
19	土偶頭部	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	顔長4.3cm 顔幅4.3cm 厚さ4.9cm 外面研磨	筒状の体に頭がつく 眉・鼻が隆帯で、口が透孔で表される他は沈線	IX	

3号落ち込み出土石器観察表

No.	器種	全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	残存状況	石材	特徴
20	打製石斧	9.4	4.6	1.9	80	完形	熱変成岩	撥II型 凸刃 片面に自然面を残す
21	打製石斧	[6.4]	4.9	1.9	75	基部欠損	熱変成岩	撥I型か 凸刃 片面に自然面を残す
22	磨製石斧	[5.0]	4.9	[2.8]	80	1/2	輝緑岩	研磨途中 敲打痕を残す

No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
23	打製石斧	[10.0]	7.2	[2.2]	141	½	熱変成岩	撥II型 刃部は山形を呈す
24	打製石斧	[6.8]	[5.7]	[2.0]	70	基部欠損	熱変成岩	撥I型か 凸刃
25	打製石斧	[7.7]	5.2	1.3	51	¾	熱変成岩	短冊型か
26	不明	3.2	1.4	0.7	2.0	完形	黒曜石	

遺構外出土遺物

遺構外からも、多量の縄文土器・石器が出土している。土器は総計8,792点で前期～後期にわたっている。時期の判明するものは3,279点で、IV～VII群が特に多く、8割以上を占めている。

出土状況を見ると、各時期を通して、内匠城土塁の下層と1号谷津状遺構付近から特に多く出土している。土塁下は、上部に土塁があったため下の層が削平されずに残っており、遺物の残りも良かったものと考えられる。

遺構外出土土器数量表

群別	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	I～IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	計
点数	12	14	58	763	813	1,084	386	149	3,279	322	216	1,467	3,347	115	46	8,792
%	0.4	0.4	1.8	23.3	24.8	33.1	11.8	4.5	32.3	3.7	2.5	16.7	38.1	1.3	0.5	

石器は計535点出土している。器種別に見ると、石鏃3点(0.6%)、石匙2点(0.4%)、打製石斧39点(7.3%)、磨製石斧8点(1.5%)、スクレイパー14点(2.6%)、微細剝離痕のある剥片14点(2.6%)、二次加工痕のある剥片2点(0.4%)、磨石16点(3.0%)、くぼみ石26点(4.9%)、石皿2点(0.4%)、多孔石11点(2.1%)、丸石2点(0.4%)、石棒3点(0.6%)、石錘4点(0.7%)、不明石器21点(3.9%)、剥片344点(64.3%)、碎片1点(0.2%)、石核25点(4.7%)となっている。

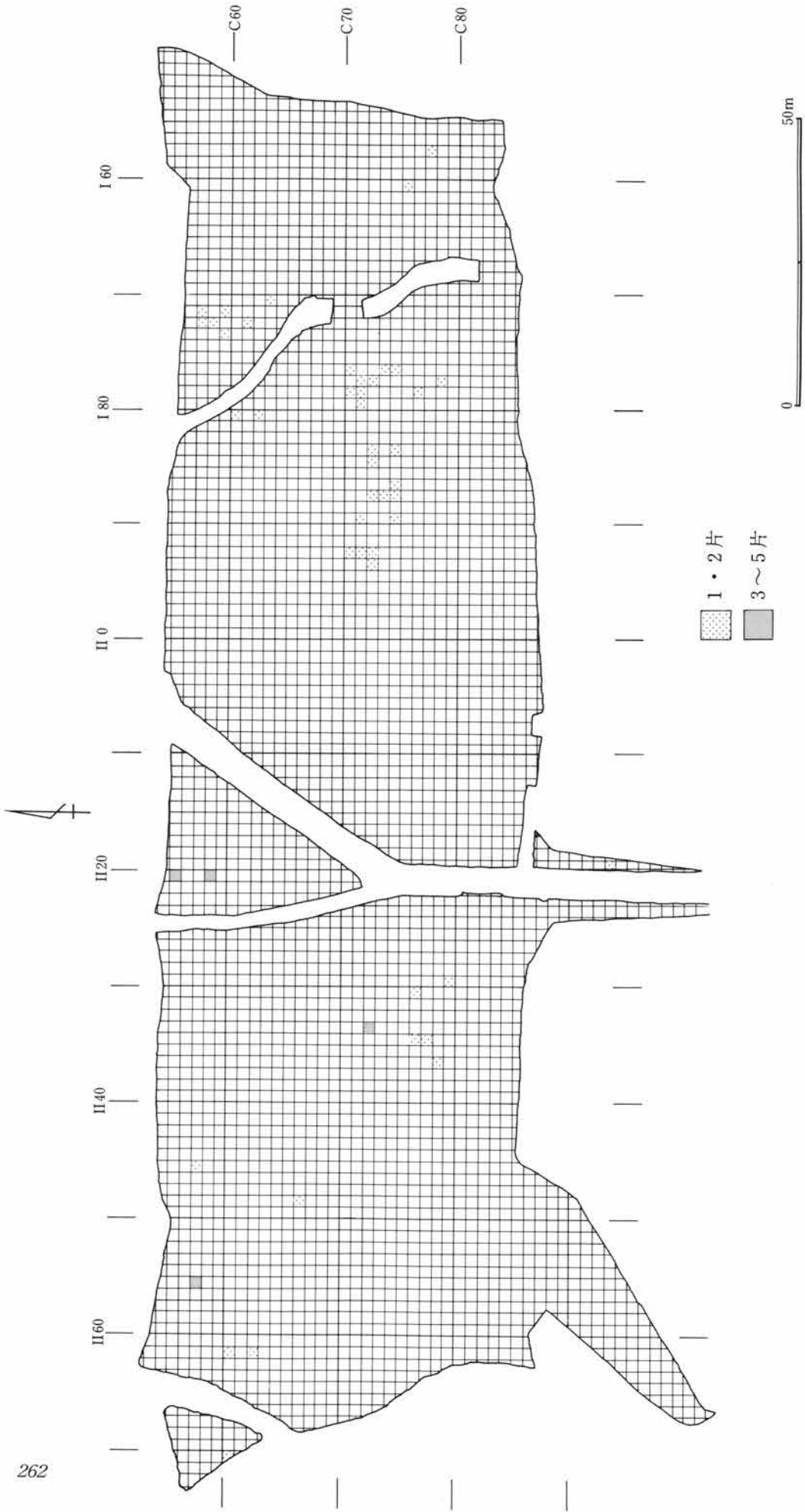
他遺構混入遺物

弥生時代遺構の遺構にも多量の縄文土器・石器が混入しているため、特に他遺構混入遺物として取り上げた。総数は7,064点で、前期から後期にわたっている。時期の判明するものは2,262点で、IV～VII群が多いが、約7割と遺構外出土土器よりも割合は低くなっている。これに対し、I～III群、VIII・IX群の割合は遺構外出土土器よりもやや高い。

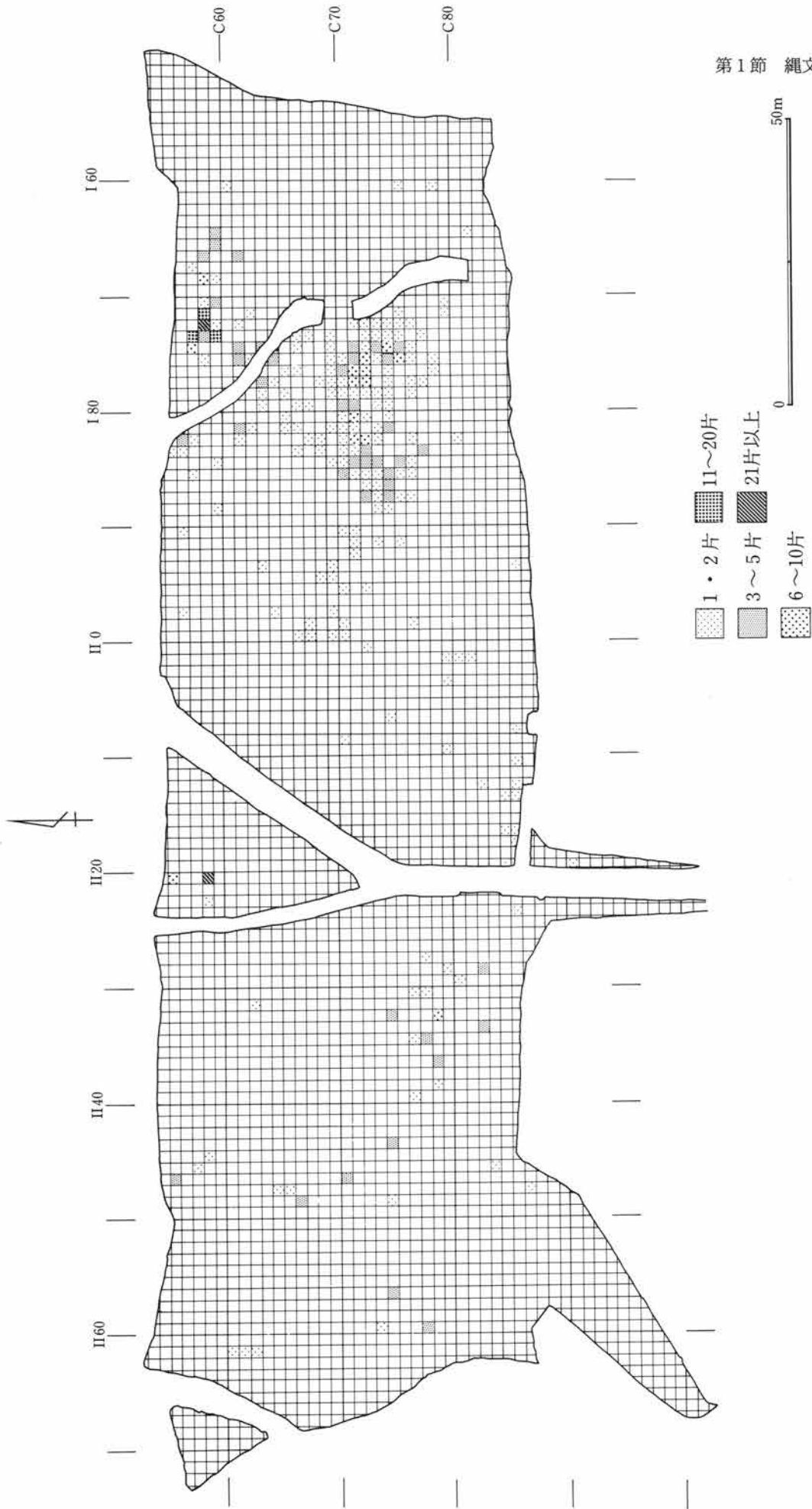
他遺構混入土器数量表

群別	I	II	III	IV・V	VI	VII	VIII	IX	I～IX	X-1	X-2	XI-1	XI-2	XII	不明	計
点数	46	56	62	526	524	564	242	242	2,262	257	192	963	3,259	73	58	7,064
%	2.0	2.5	2.7	23.3	23.2	24.9	10.7	10.7	32.0	3.6	2.7	13.6	46.1	1.0	0.8	

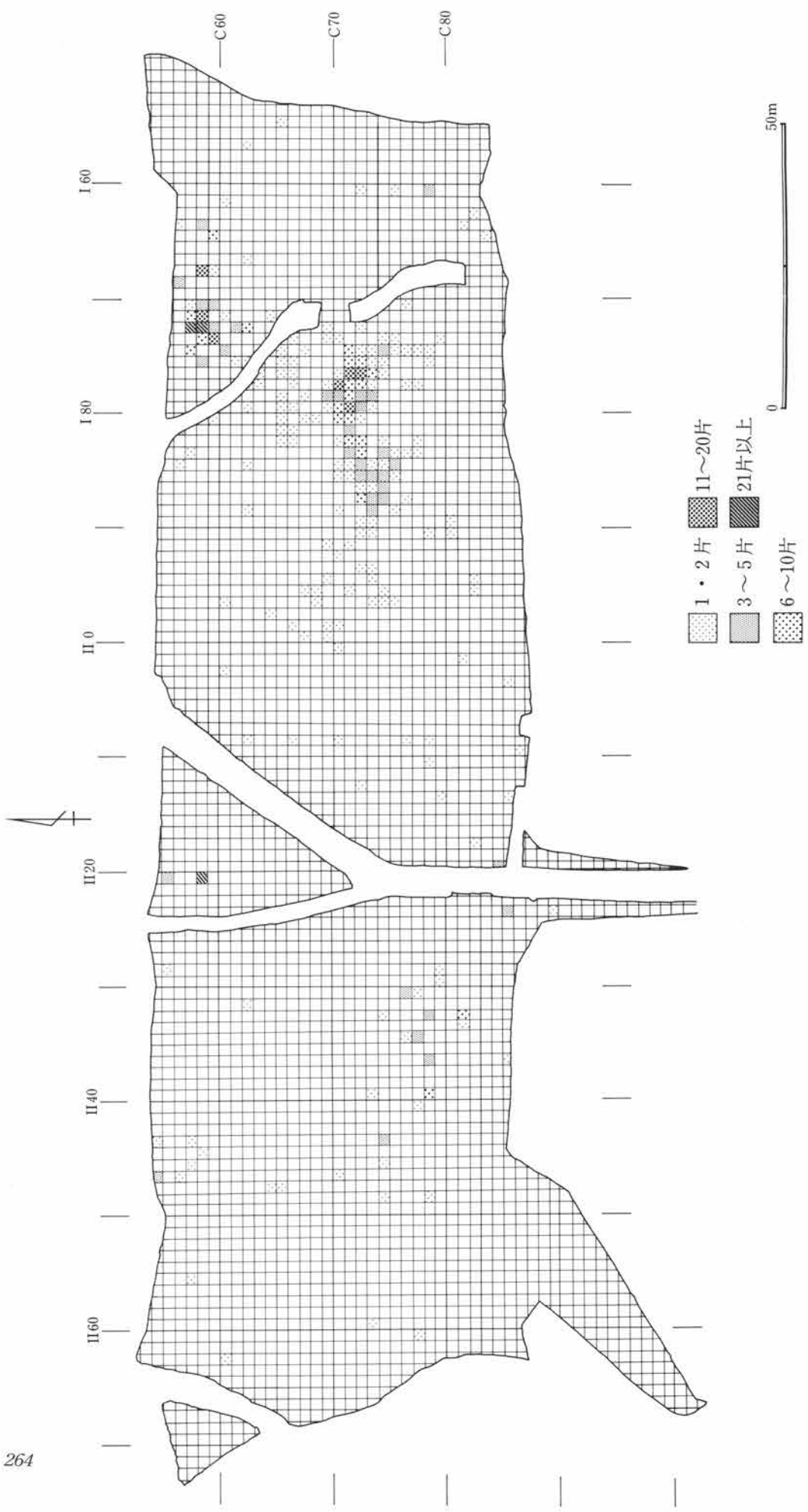
石器は計755点と、多数出土している。器種別に見ると、石鏃3点(0.4%)、石錐1点(0.1%)、ピエスエスキュー1点(0.1%)、石匙3点(0.4%)、打製石斧58点(7.7%)、磨製石斧11点(1.5%)、スクレイパー15点(2.0%)、微細剝離痕のある剥片3点(0.4%)、磨石45点(6.0%)、くぼみ石22点(2.9%)、石皿9点(1.2%)、多孔石17点(2.3%)、丸石4点(0.5%)、石棒15点(2.0%)、石錘1点(0.1%)、不明石器21点(2.9%)、剥片492点(65.2%)、石核32点(4.2%)となっている。



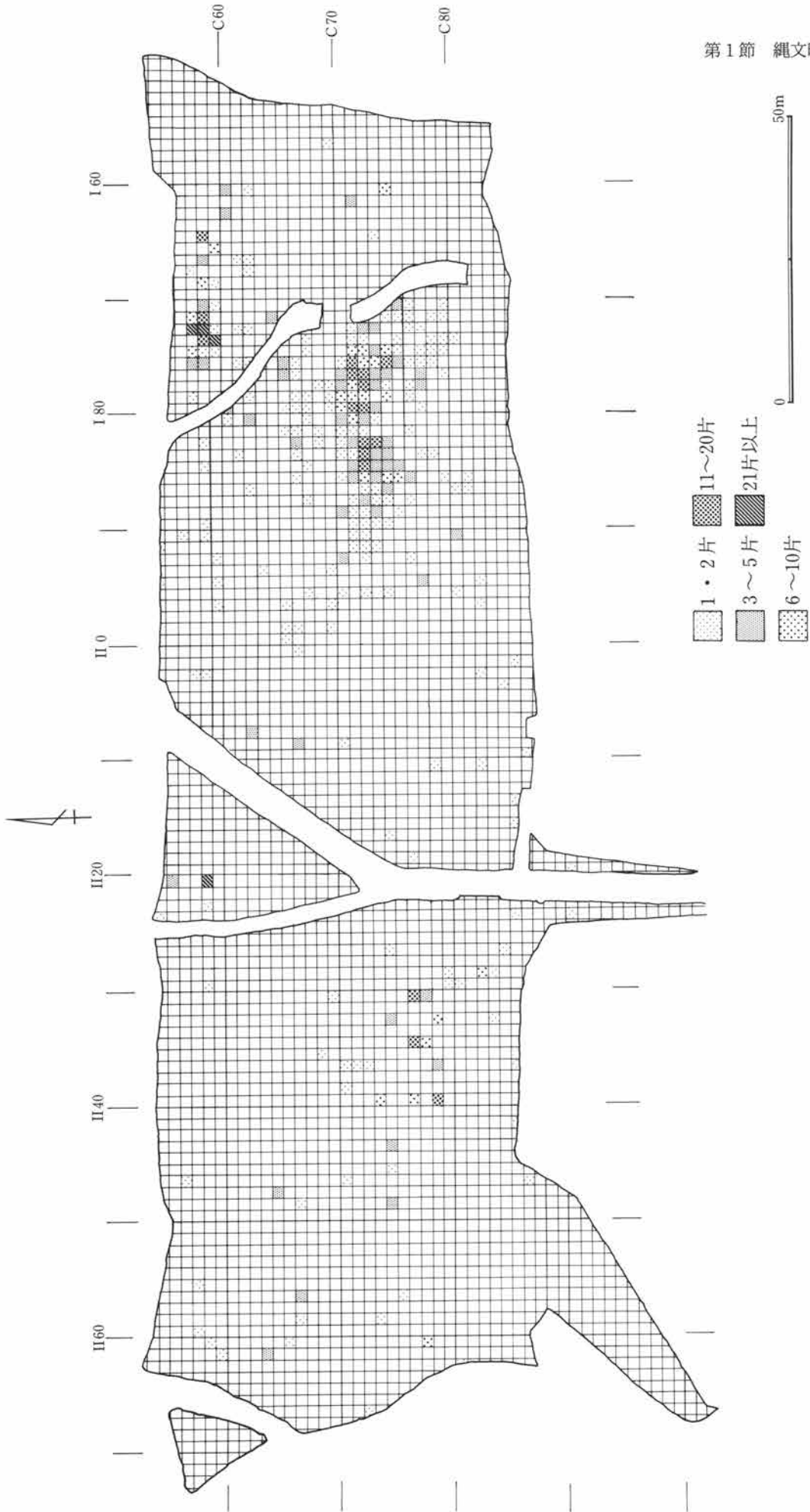
第196図 遺構外遺物出土分布図（I～III群）



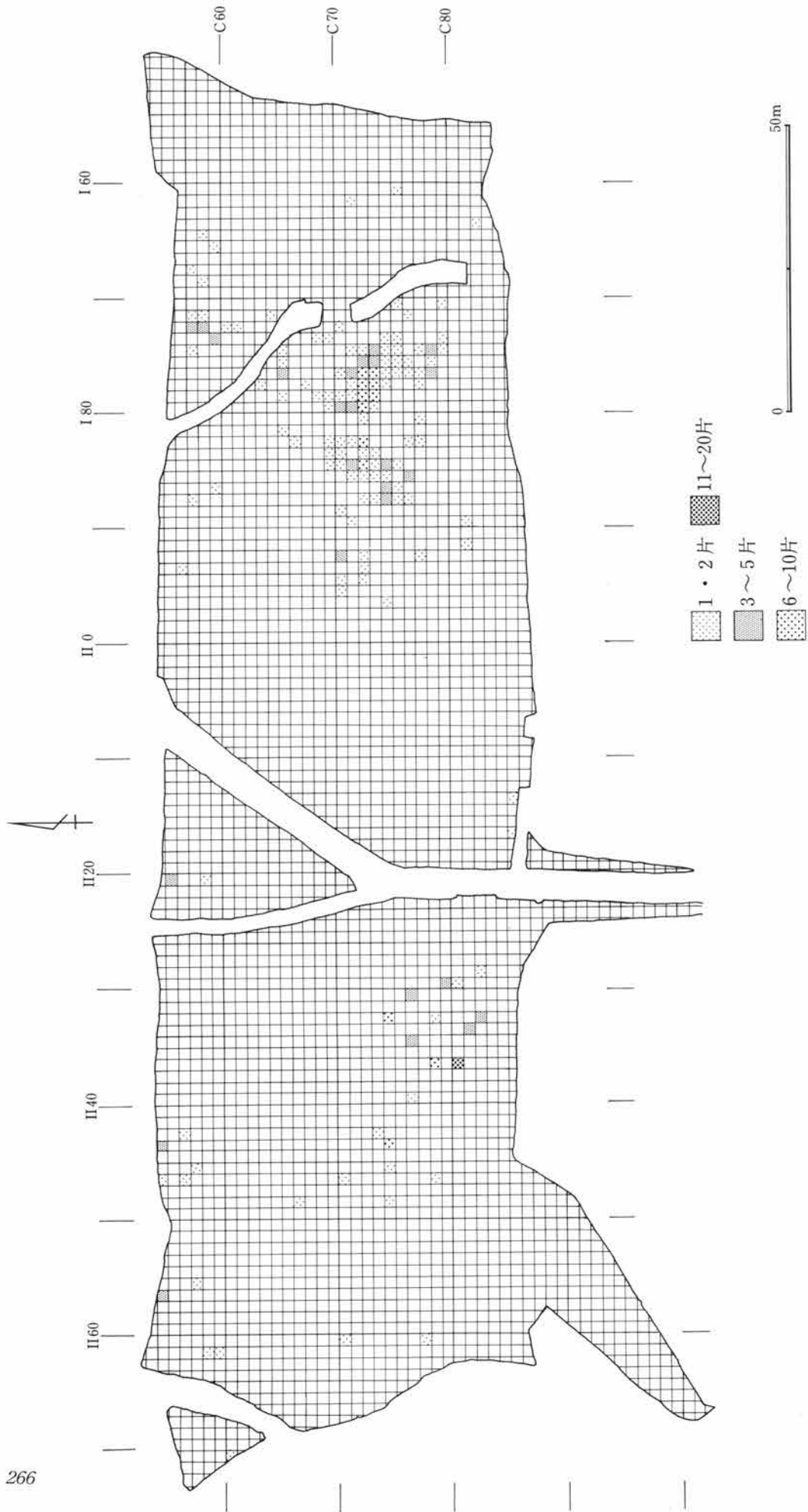
第197図 遺構外遺物出土分布図 (Ⅳ・Ⅴ群)



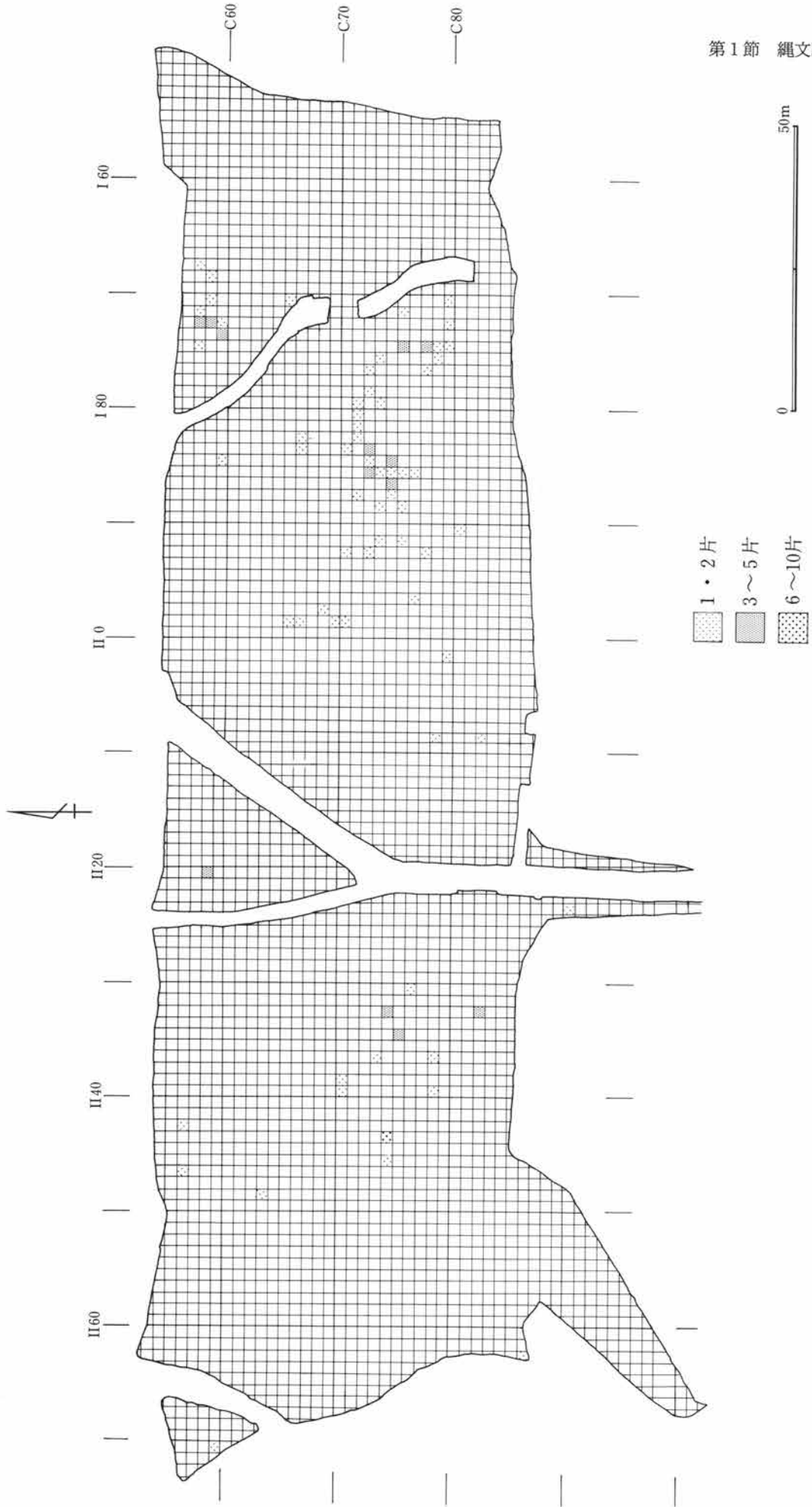
第198図 遺構外遺物出土分布図 (VI群)



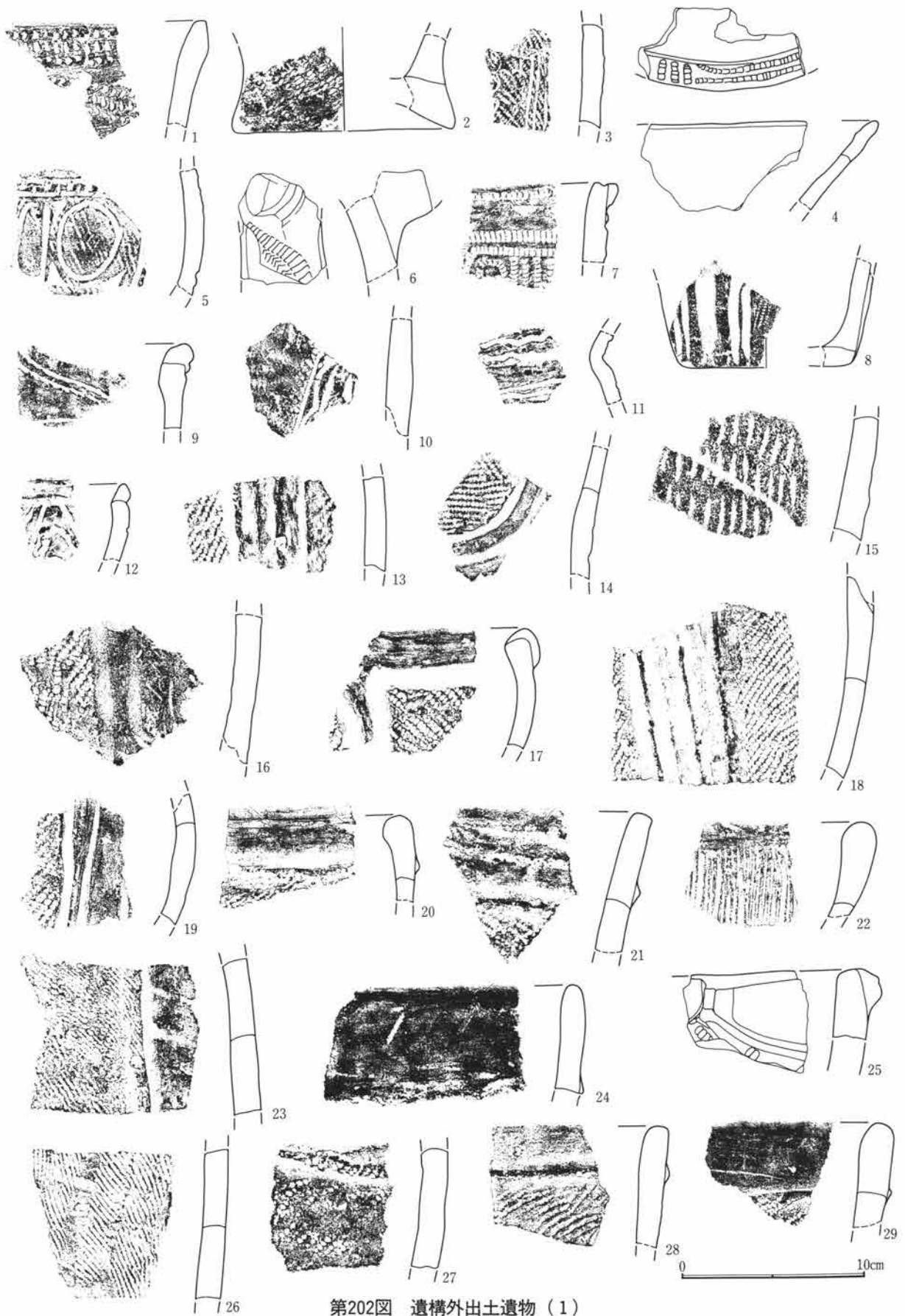
第199図 遺構外遺物出土分布図 (VII群)



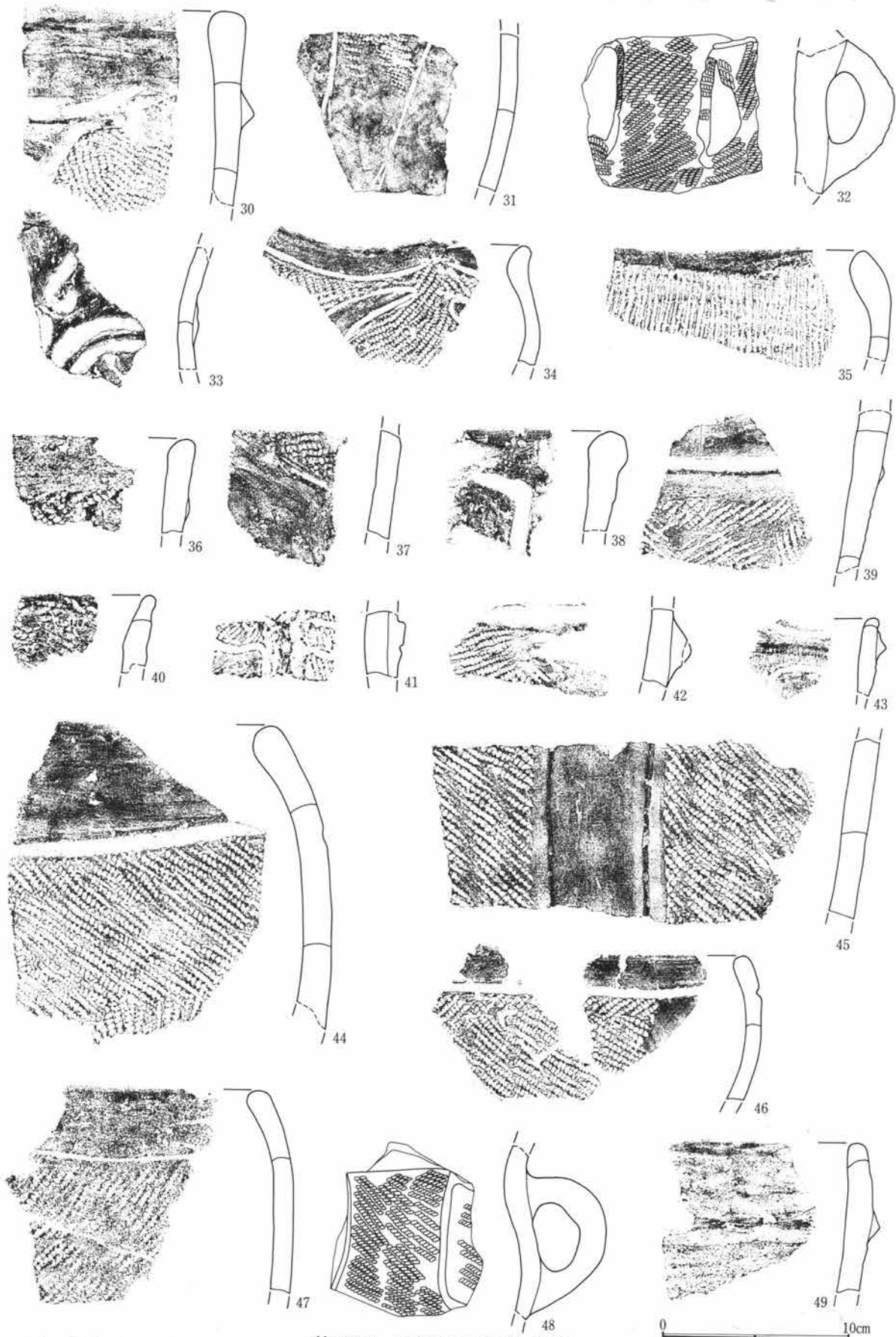
第200図 遺構外遺物出土分布図 (VIII群)



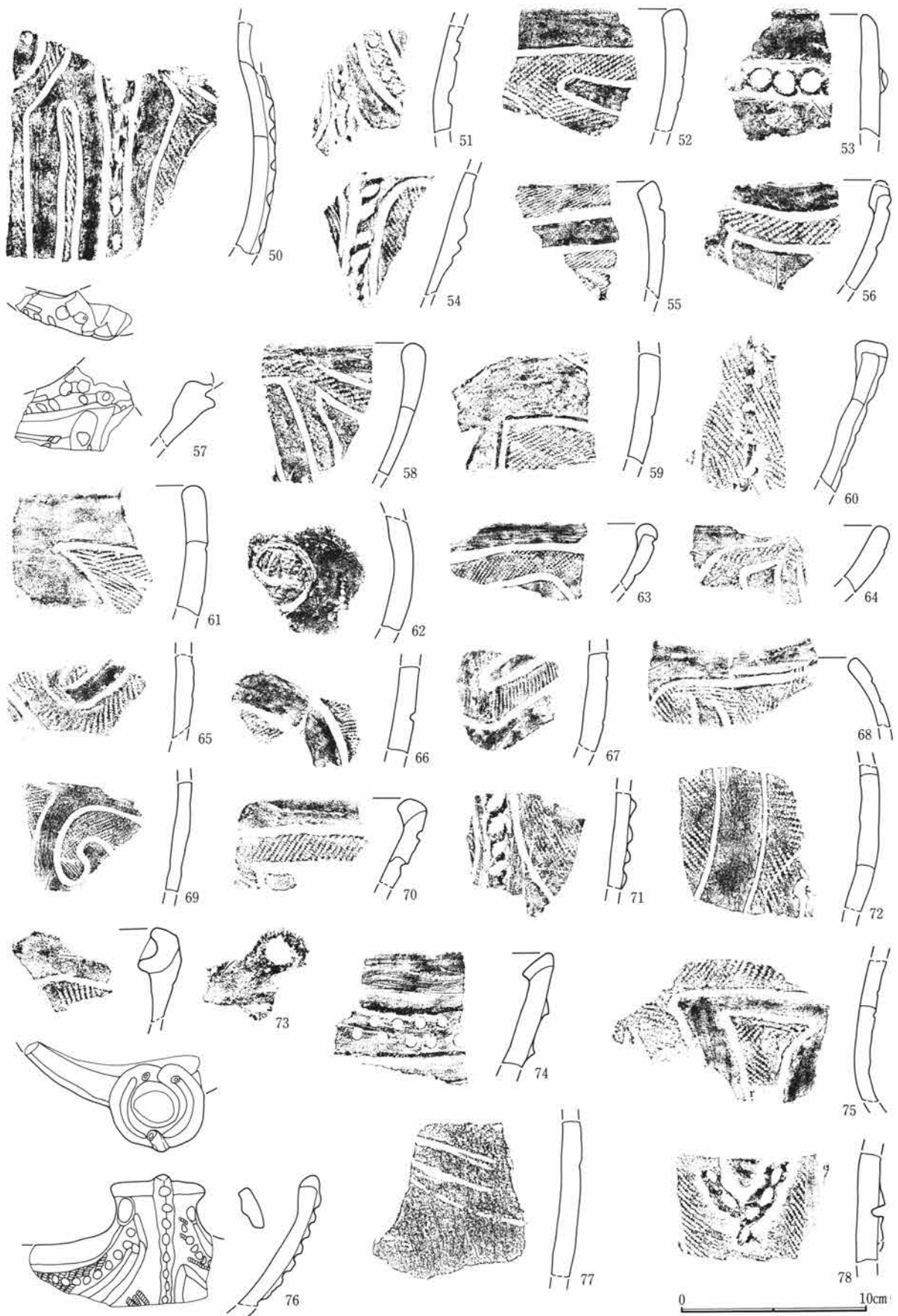
第201図 遺構外遺物出土分布図 (IX群)



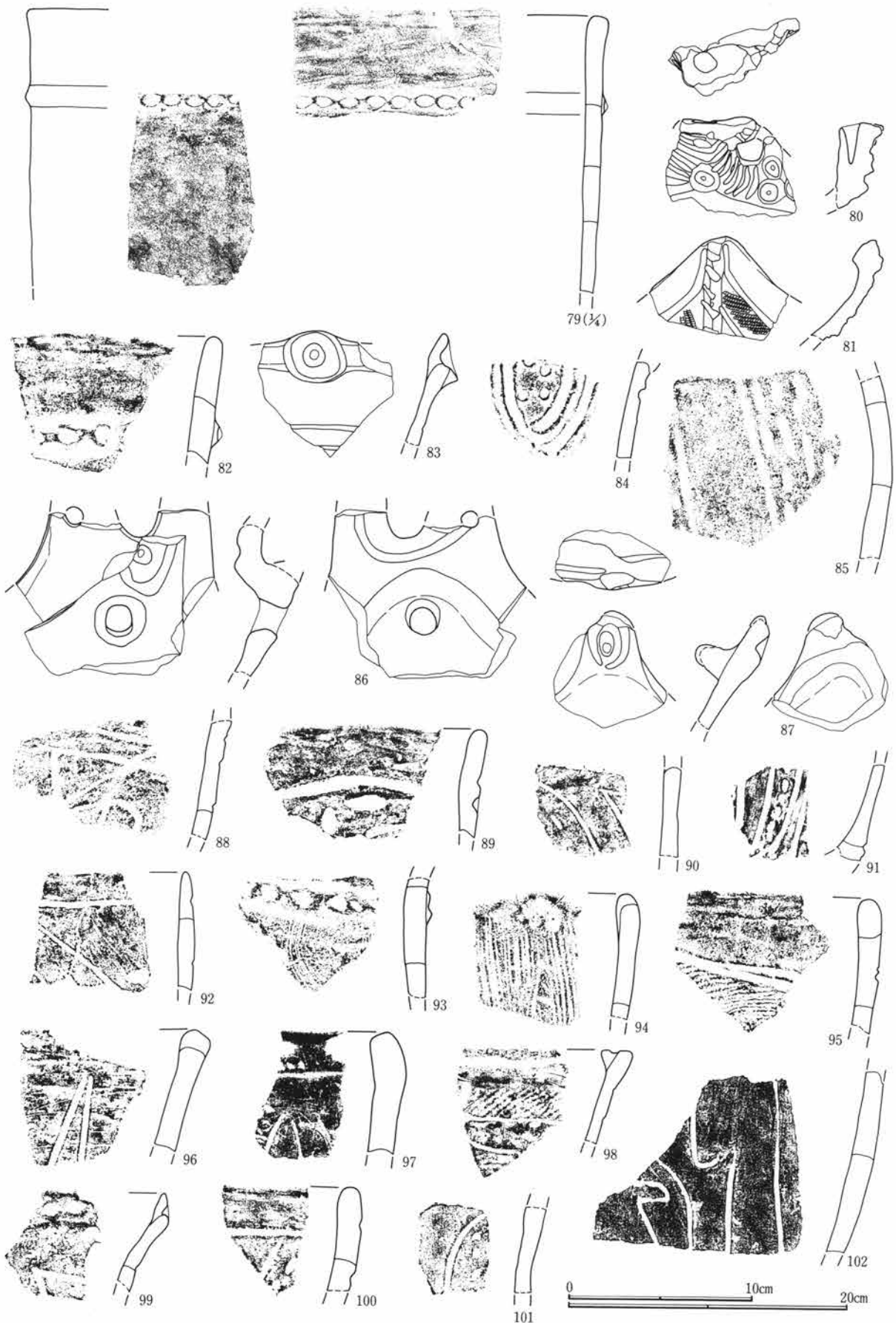
第202図 遺構外出土遺物 (1)



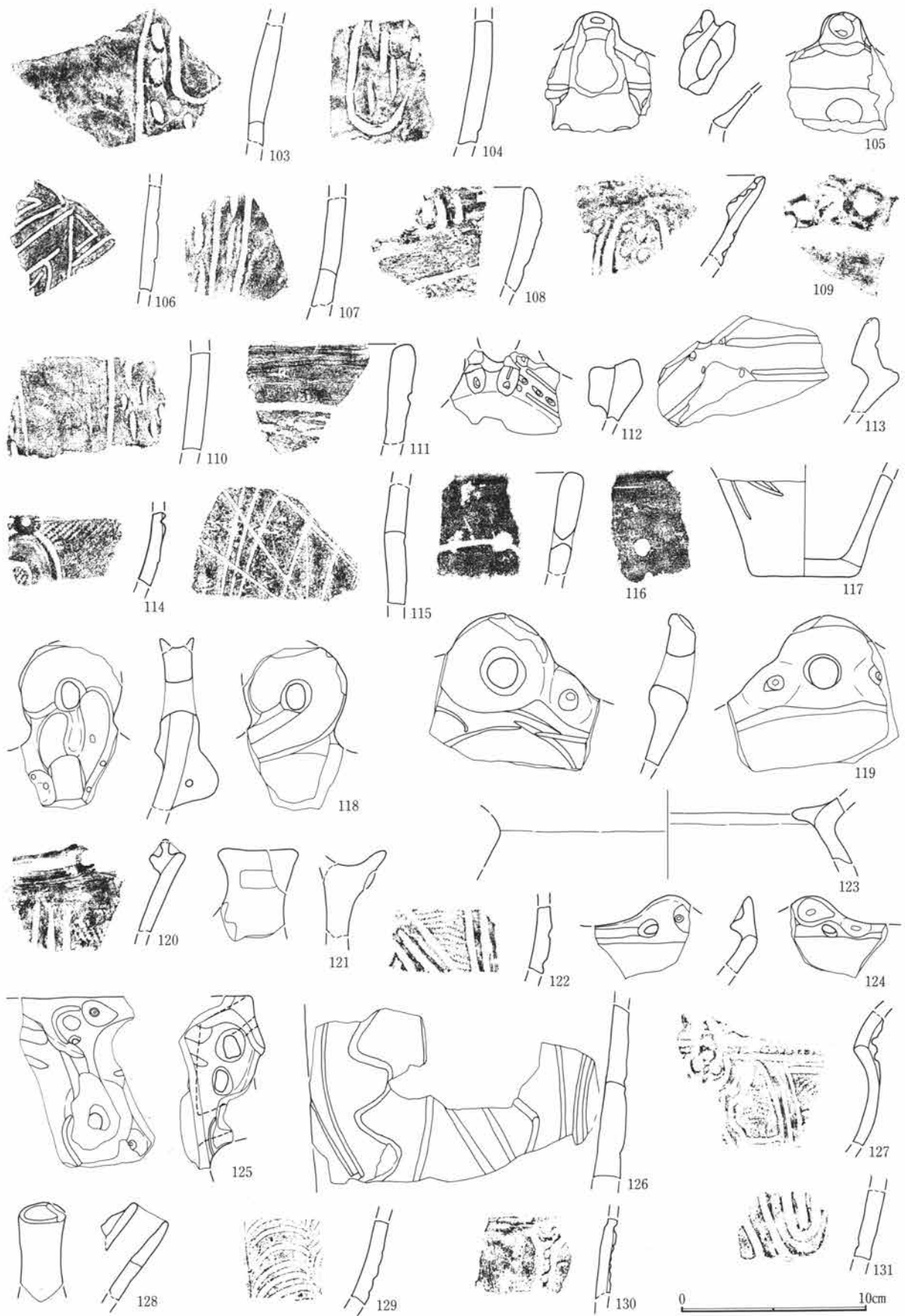
第203図 遺構外出土遺物 (2)



第204図 遺構外出土遺物 (3)



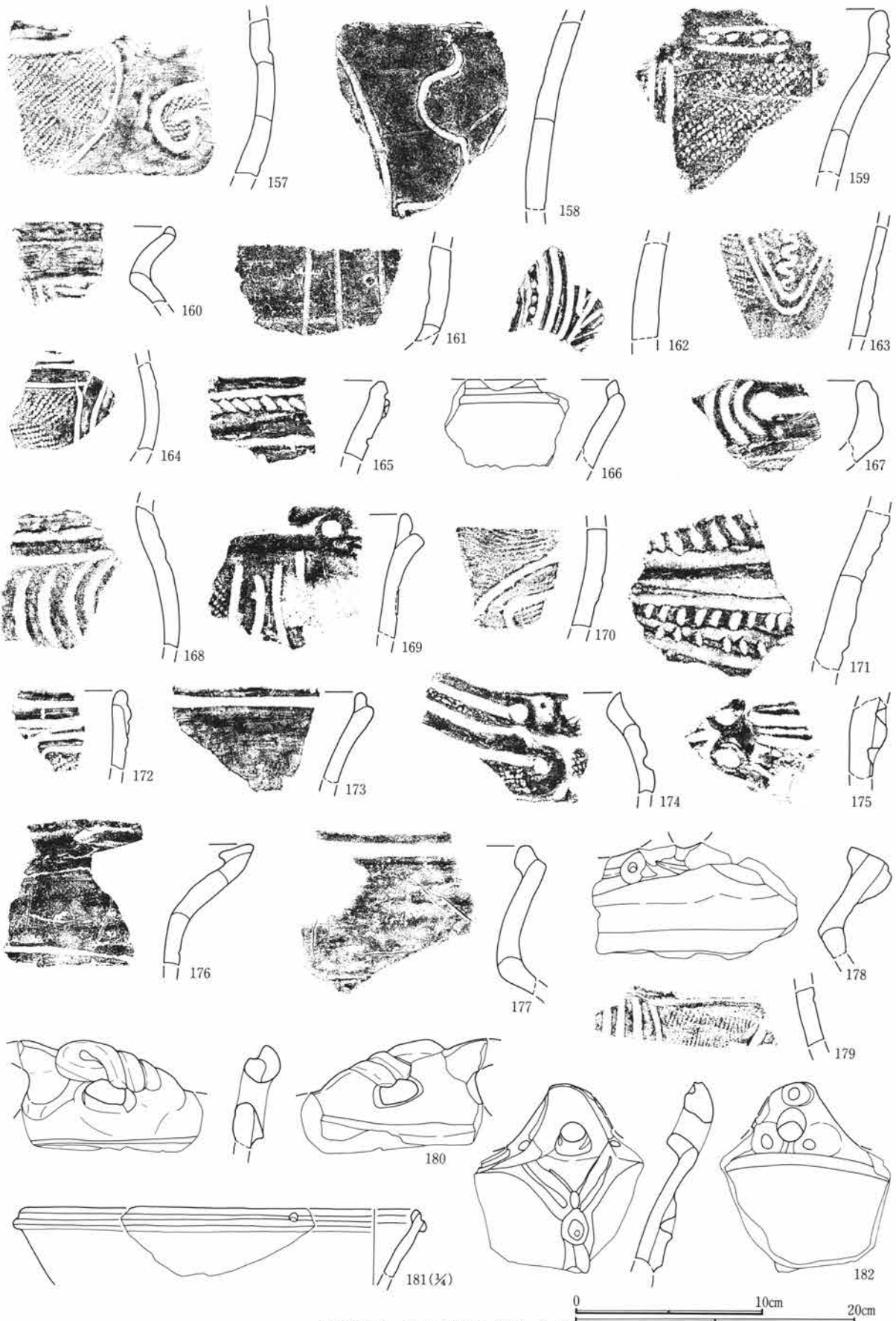
第205図 遺構外出土遺物(4)



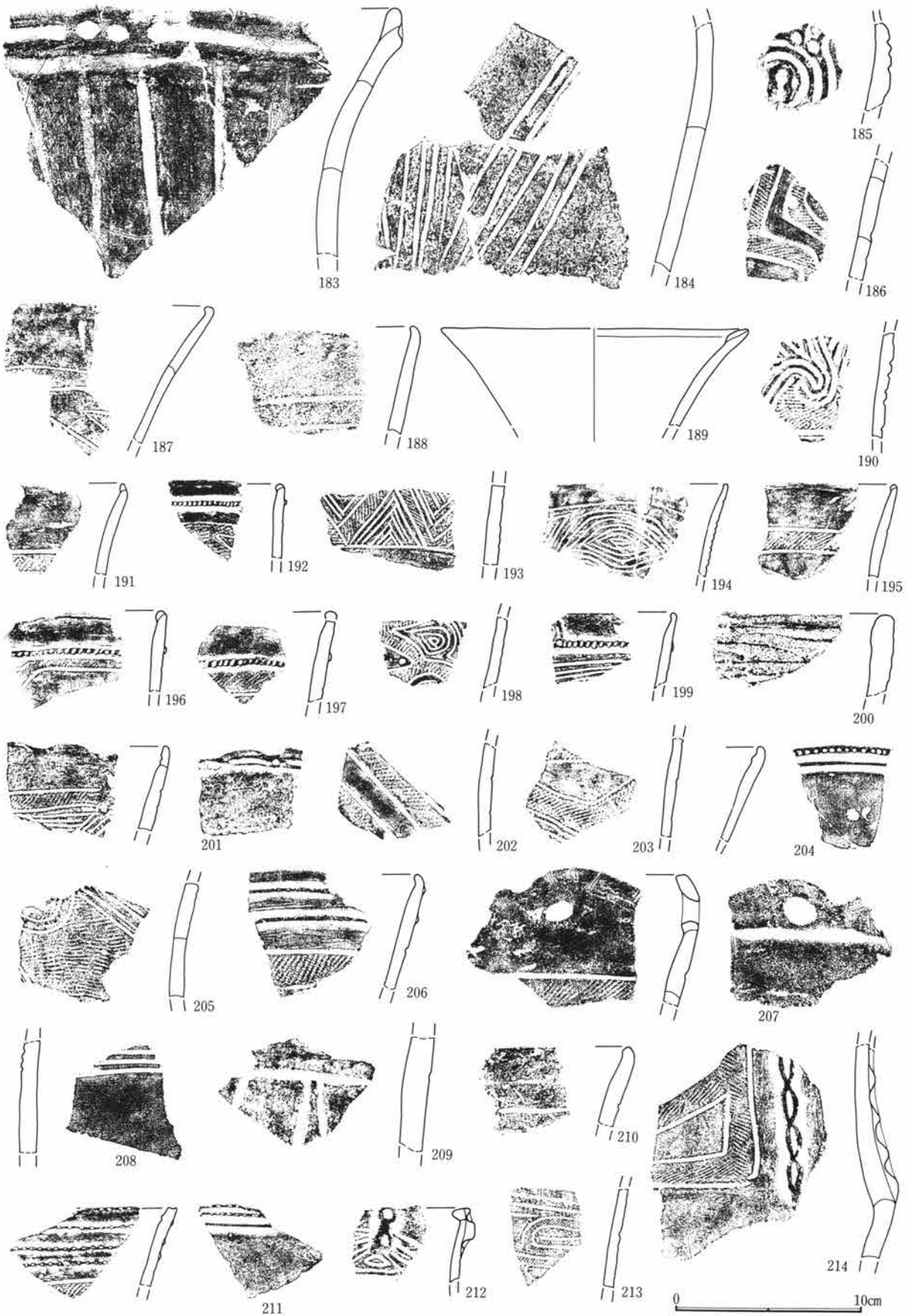
第206図 遺構外出土遺物（5）



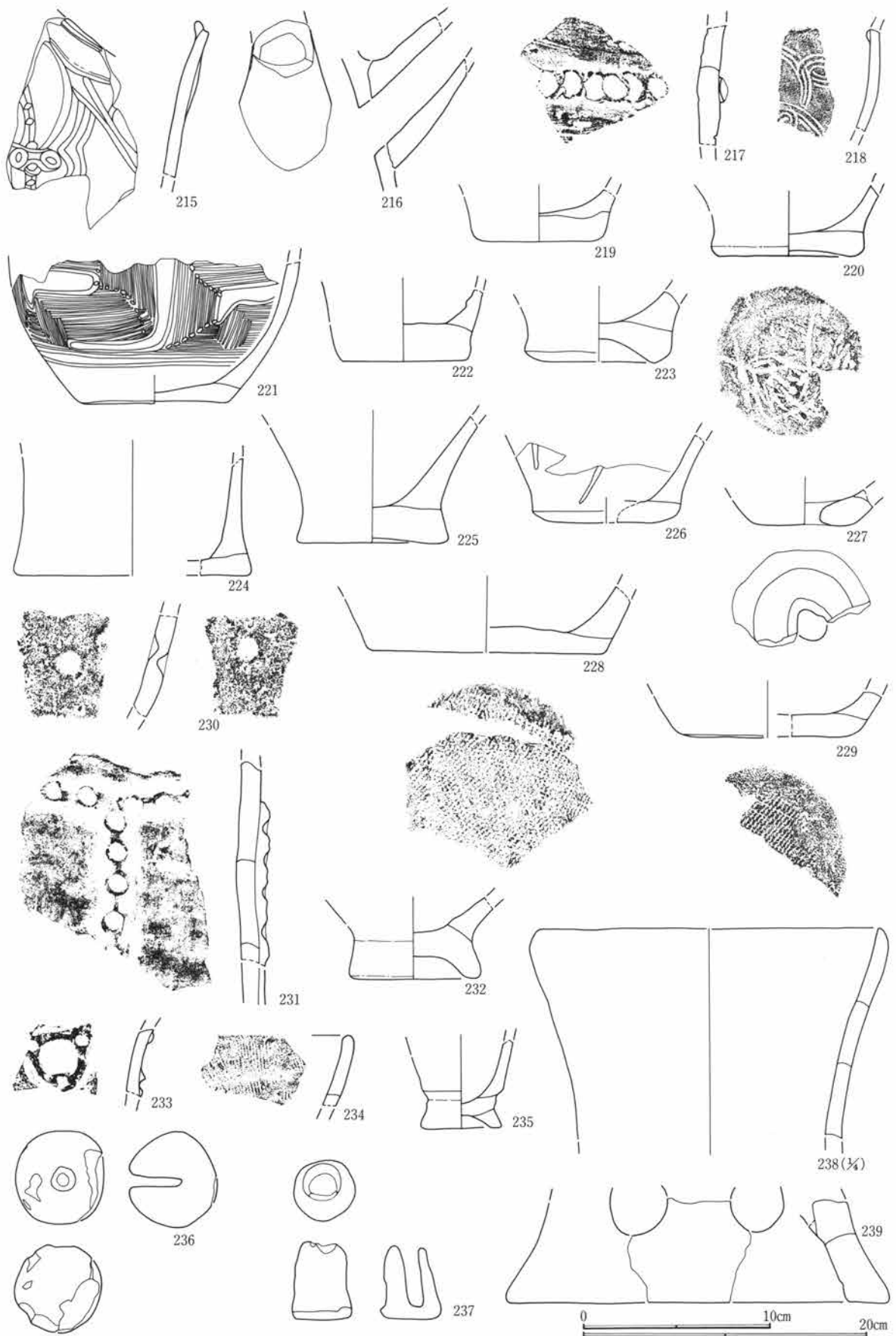
第207図 遺構外出土遺物 (6)



第208図 遺構外出土遺物 (7)



第209図 遺構外出土遺物(8)

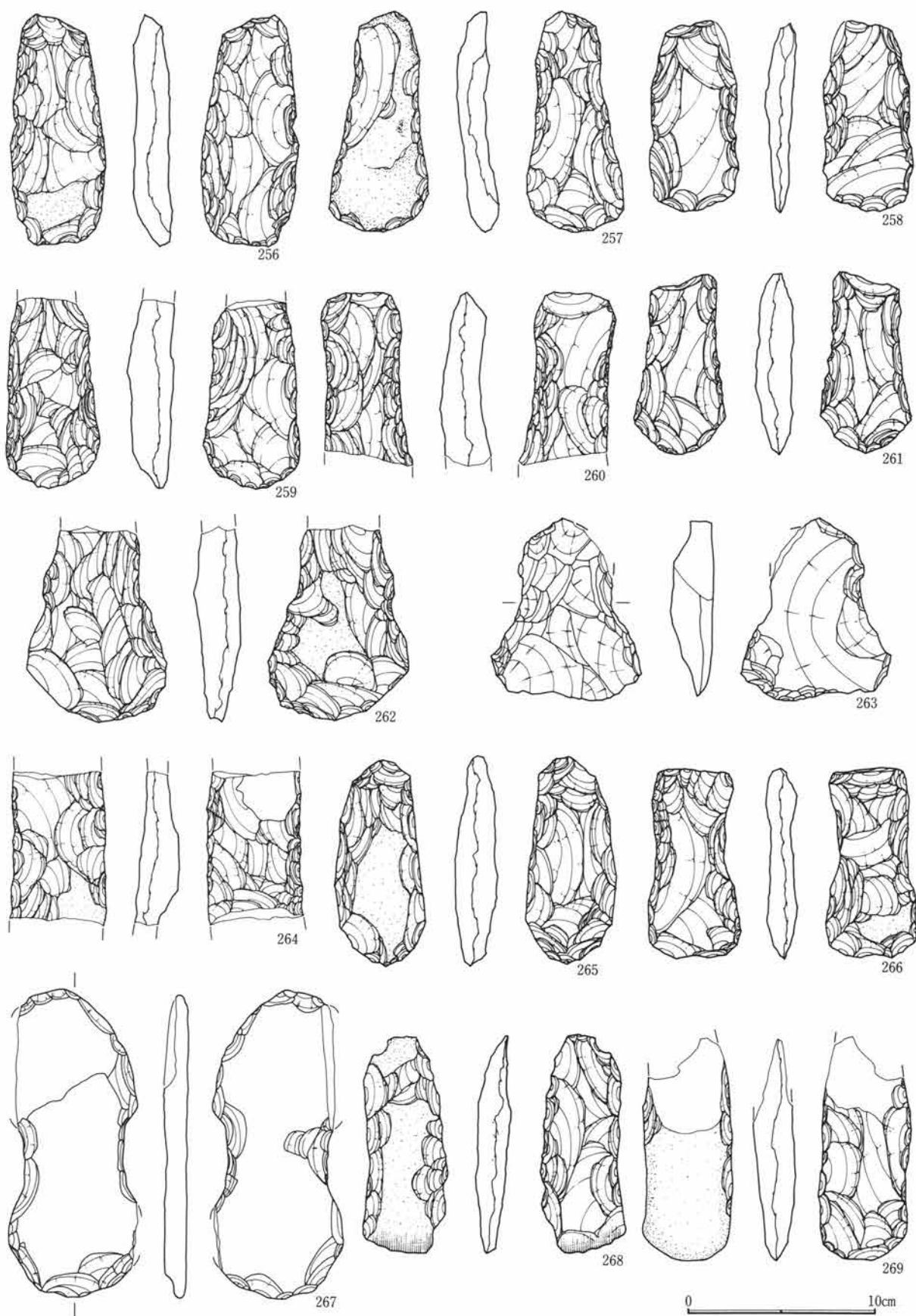


第210図 遺構外出土遺物 (9)

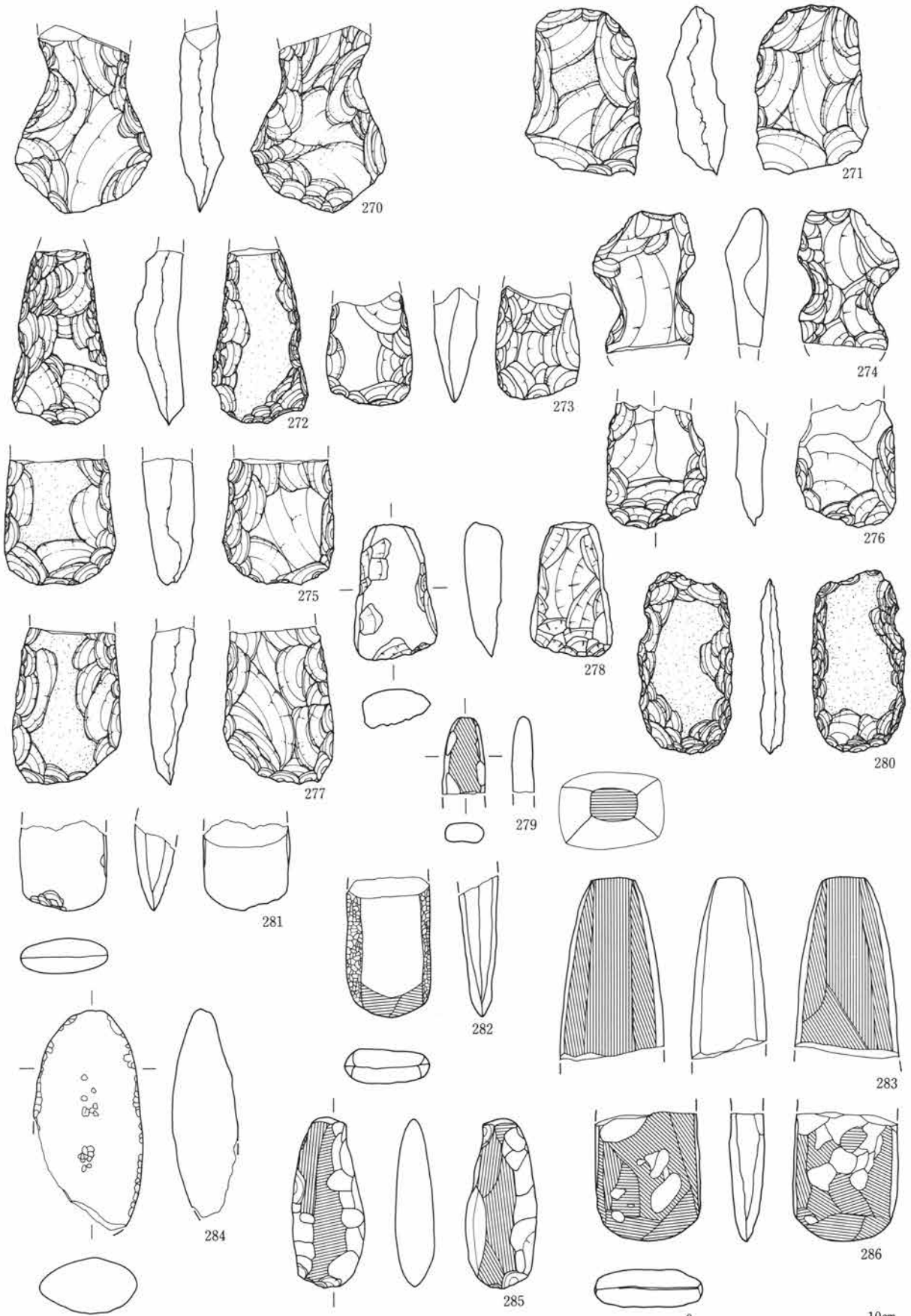


第211図 遺構外出土遺物 (10)

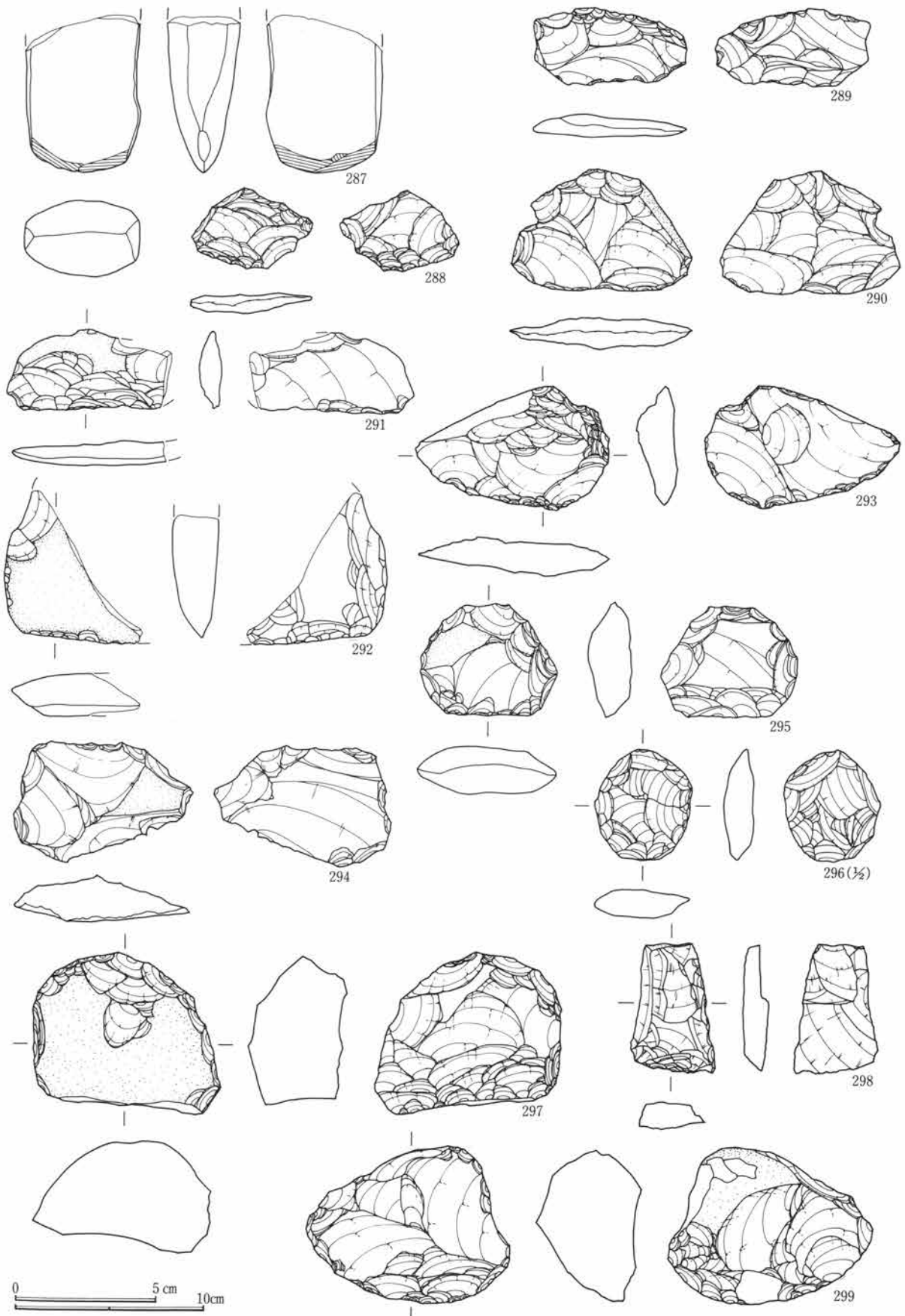
第三章 検出された遺構と出土遺物



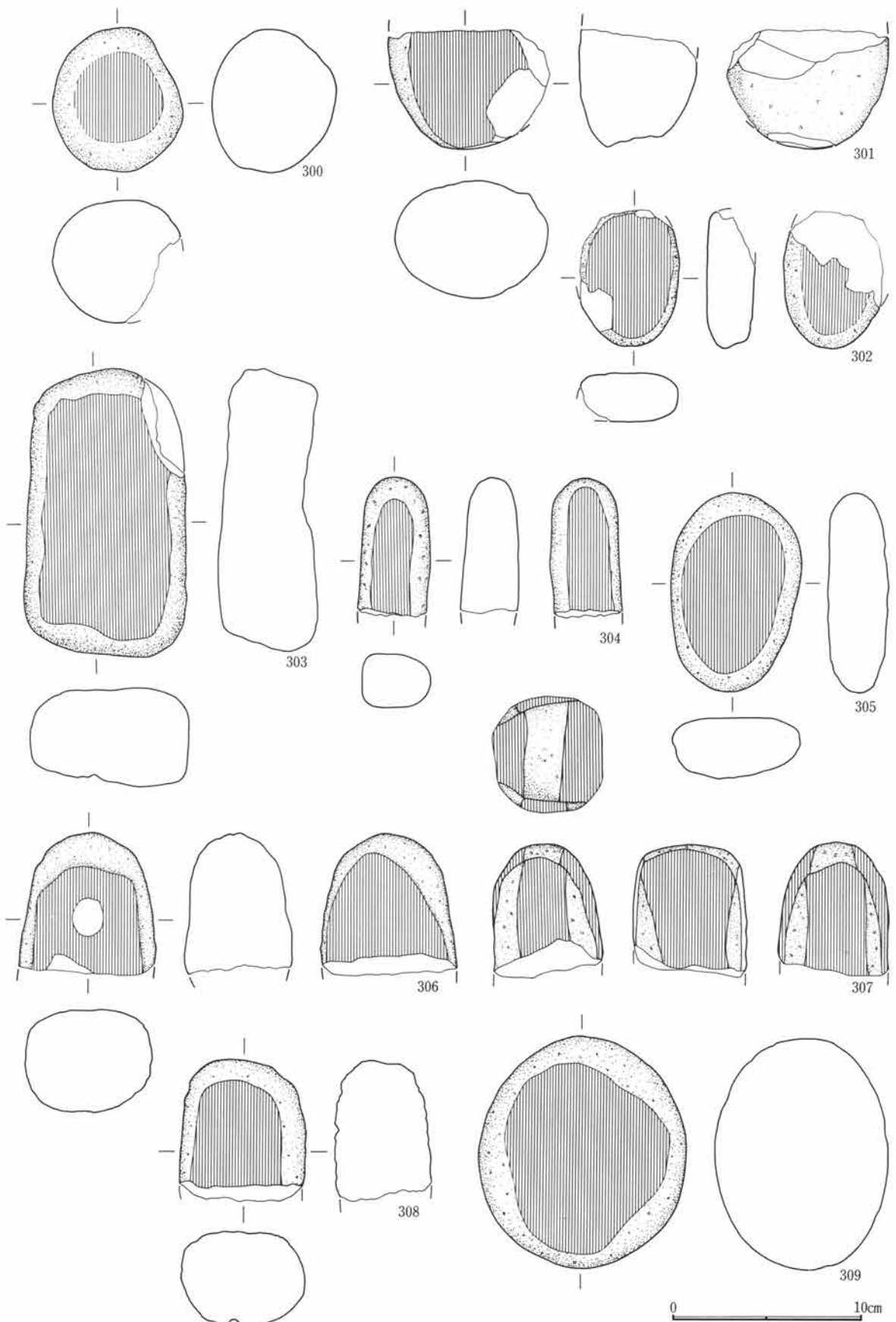
第212図 遺構外出土遺物 (11)



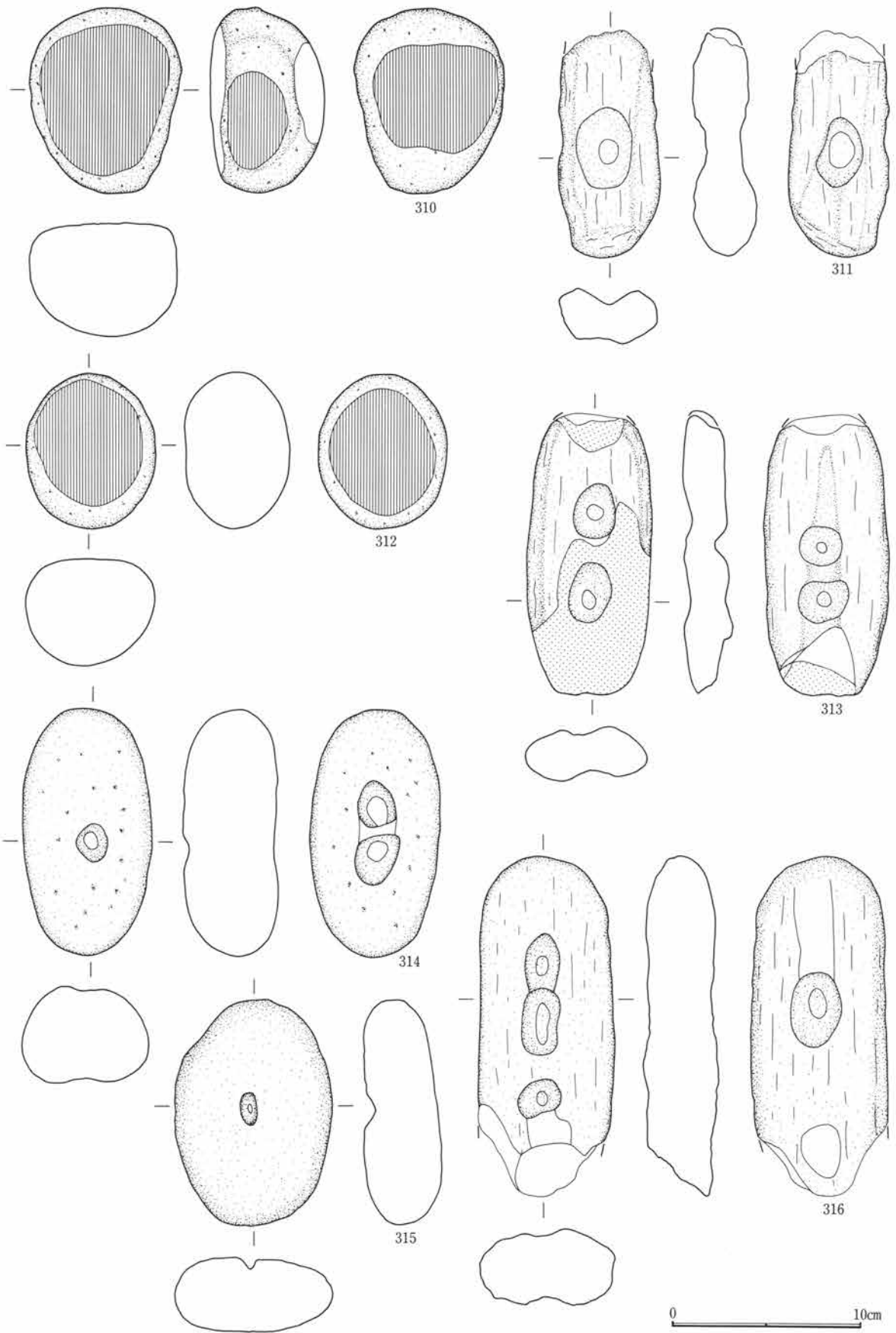
第213図 遺構外出土遺物 (12)



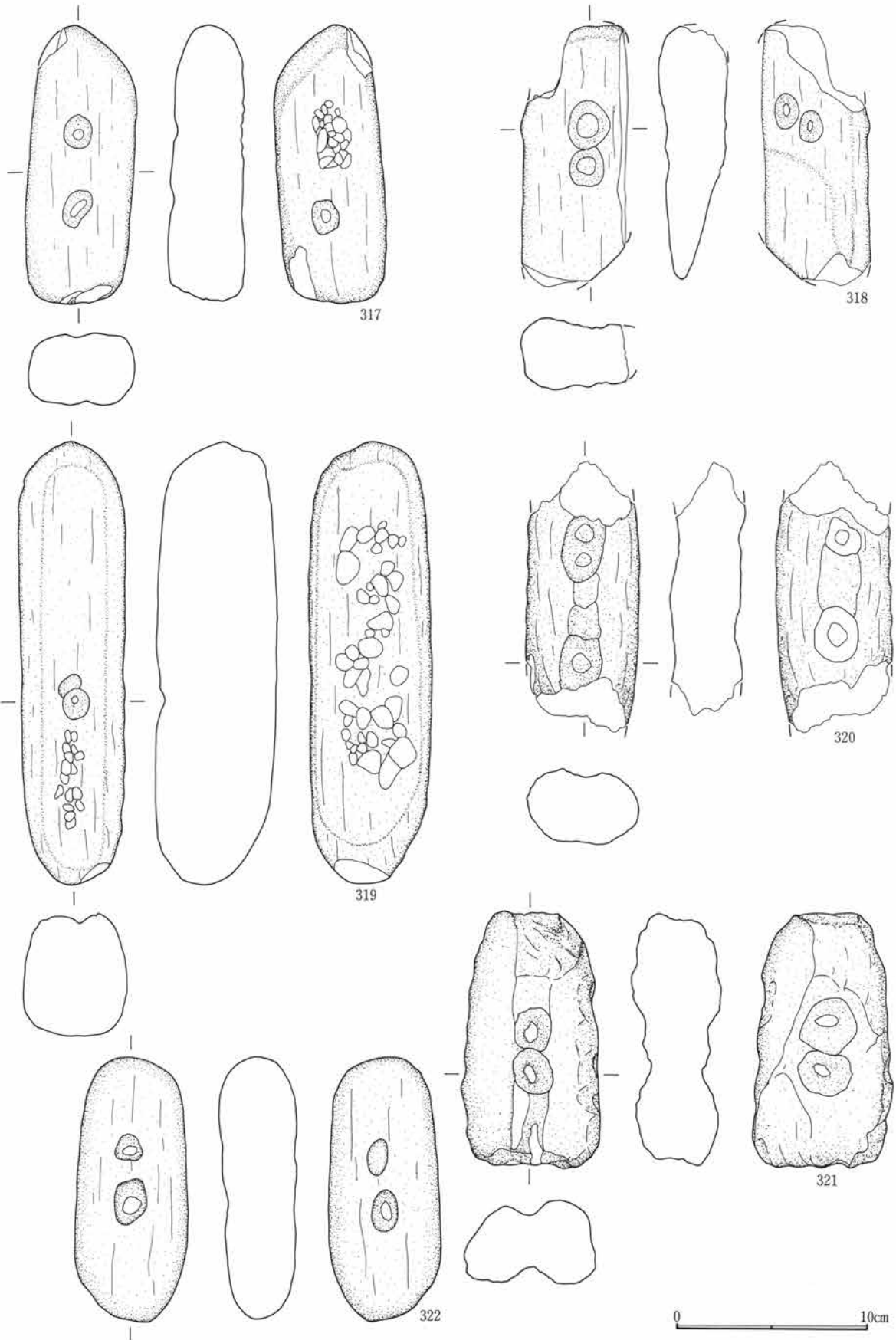
第214図 遺構外出土遺物 (13)



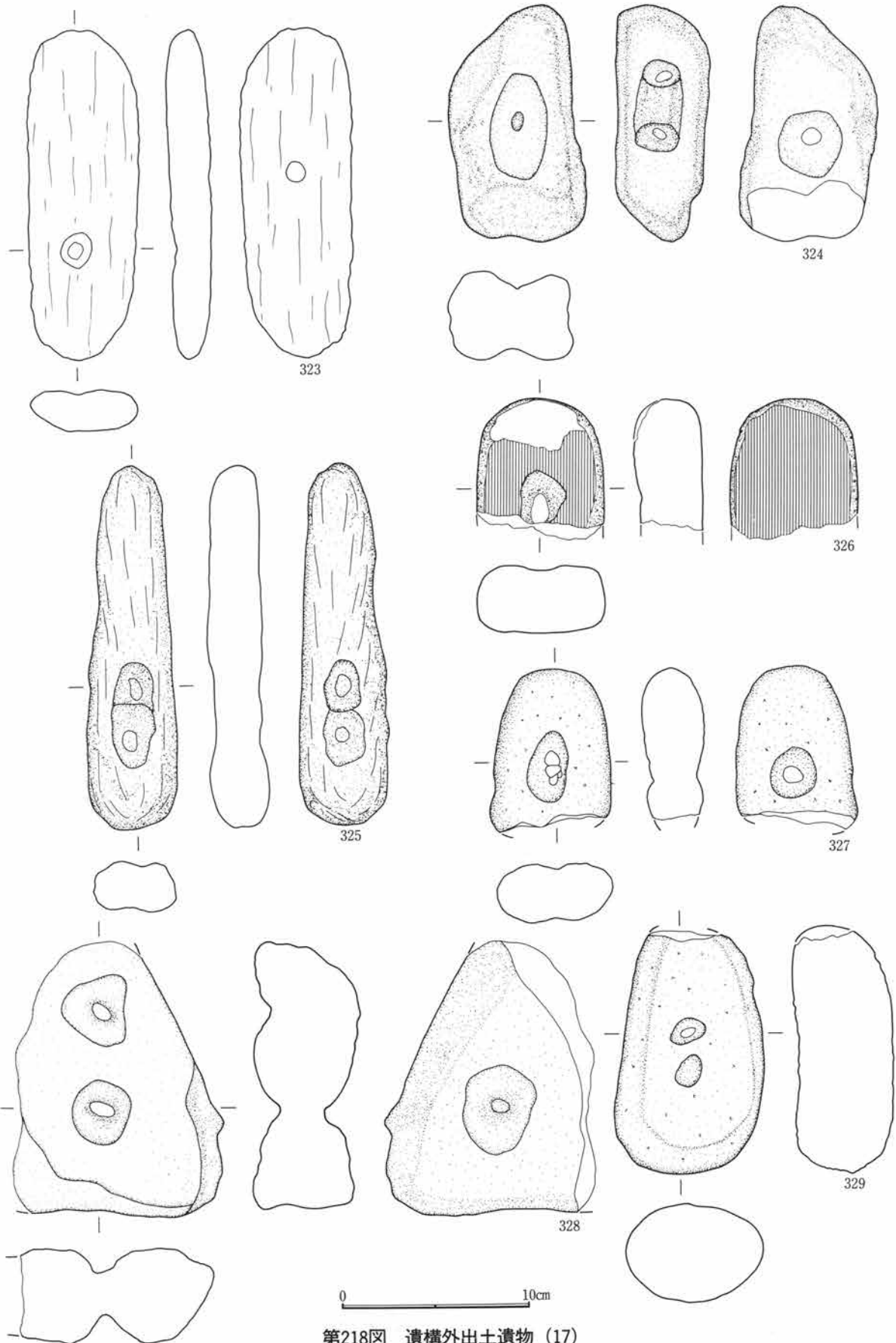
第215図 遺構外出土遺物 (14)



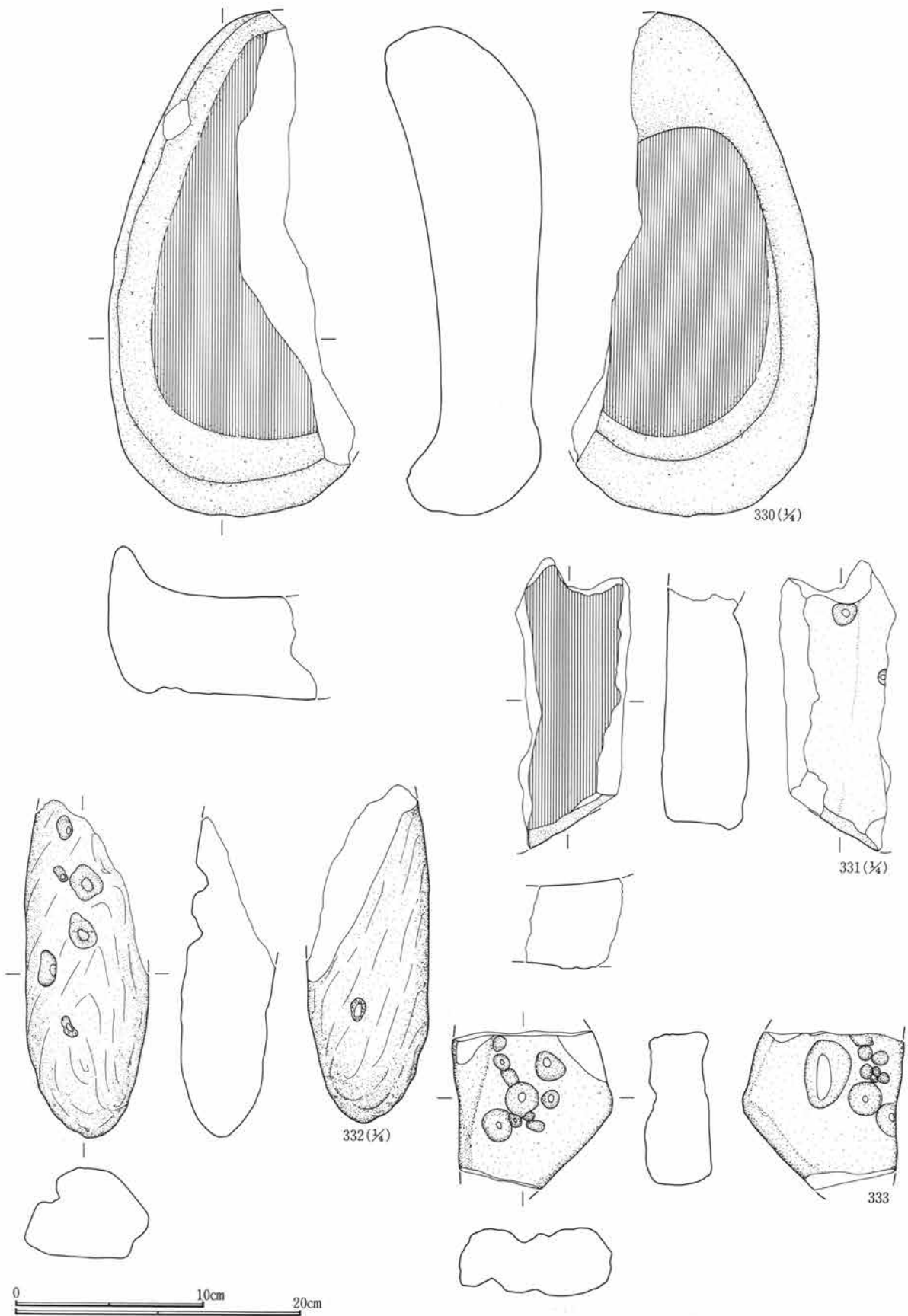
第216図 遺構外出土遺物 (15)



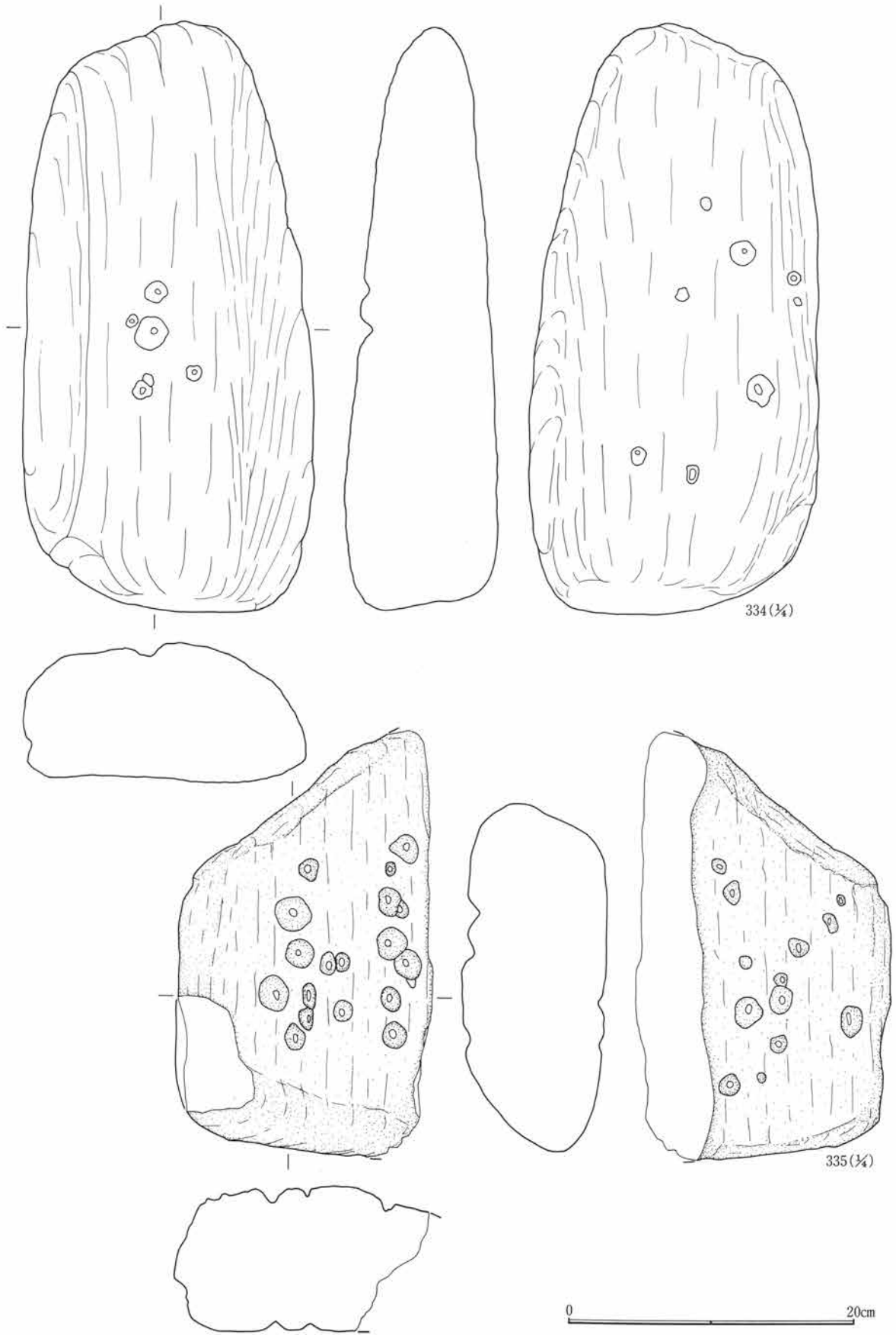
第217図 遺構外出土遺物 (16)



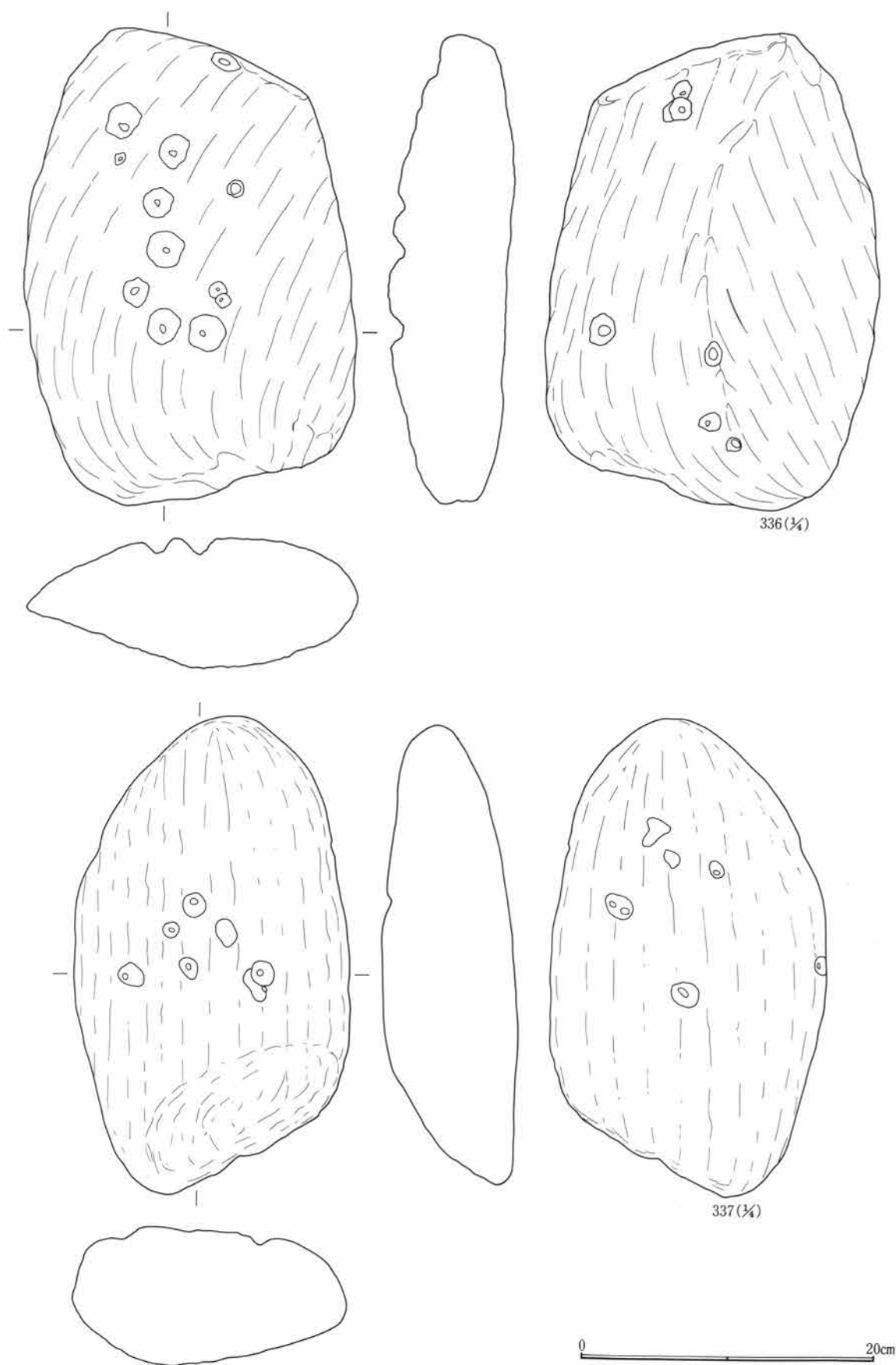
第218図 遺構外出土遺物 (17)



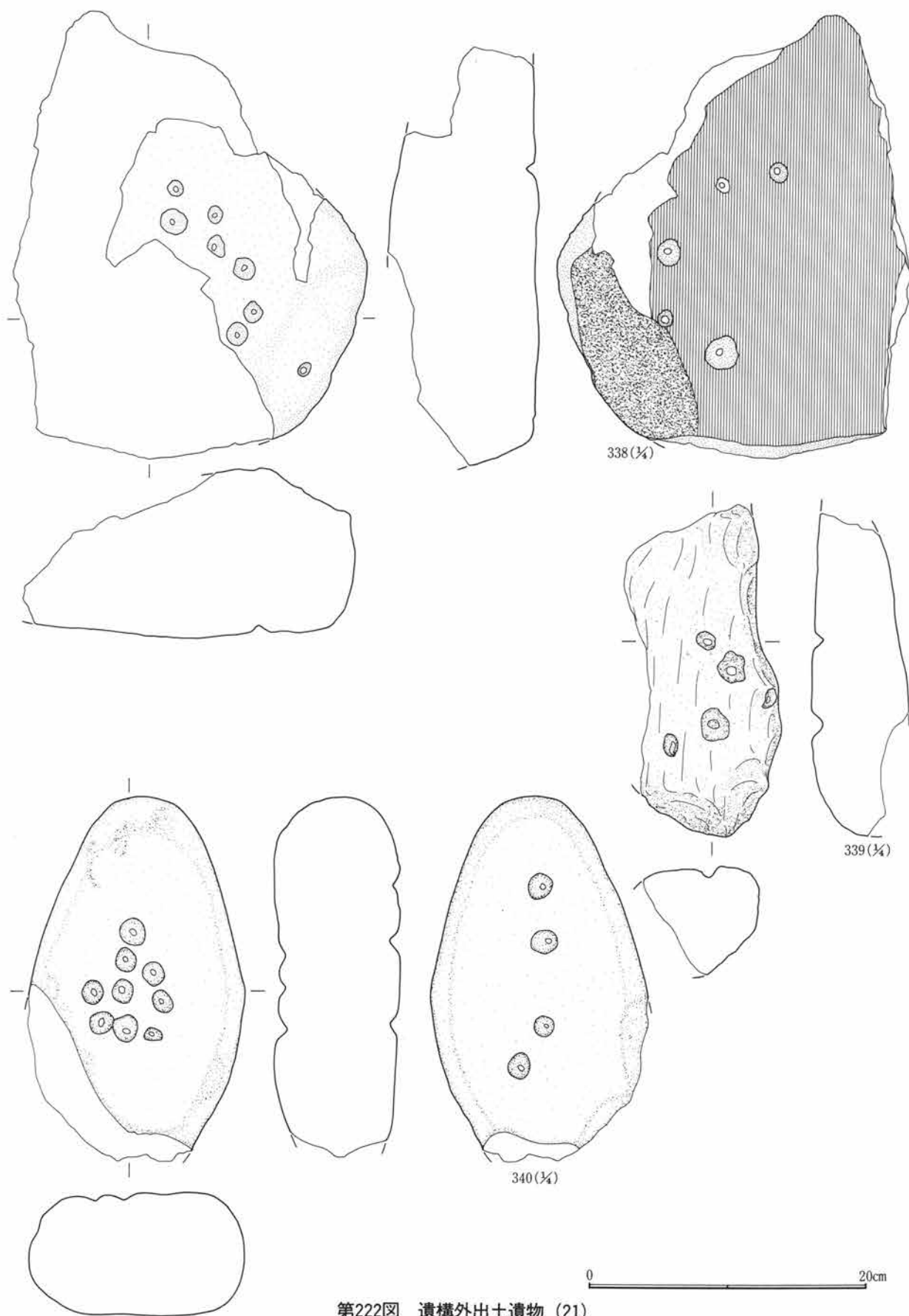
第219図 遺構外出土遺物 (18)



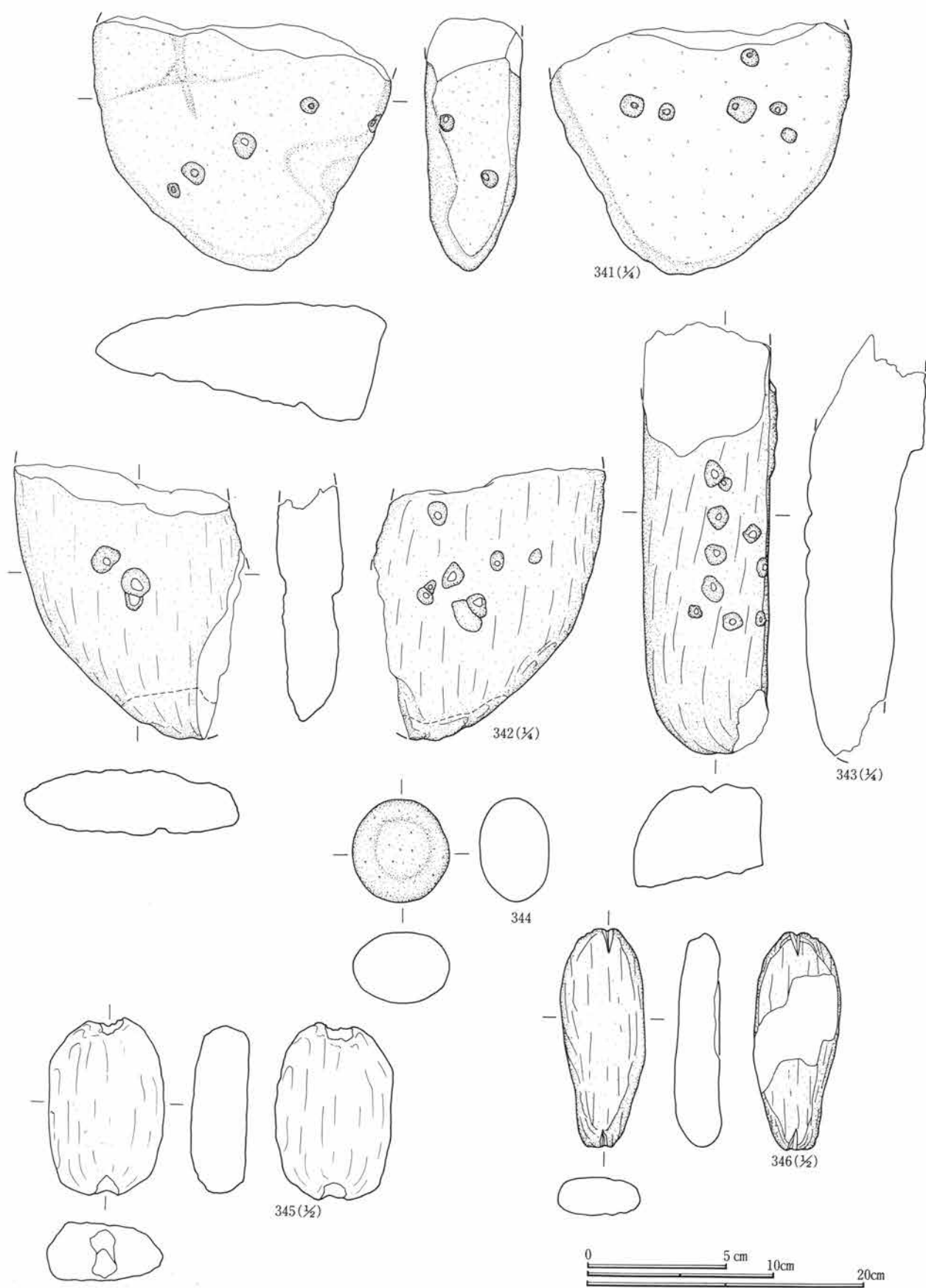
第220図 遺構外出土遺物 (19)



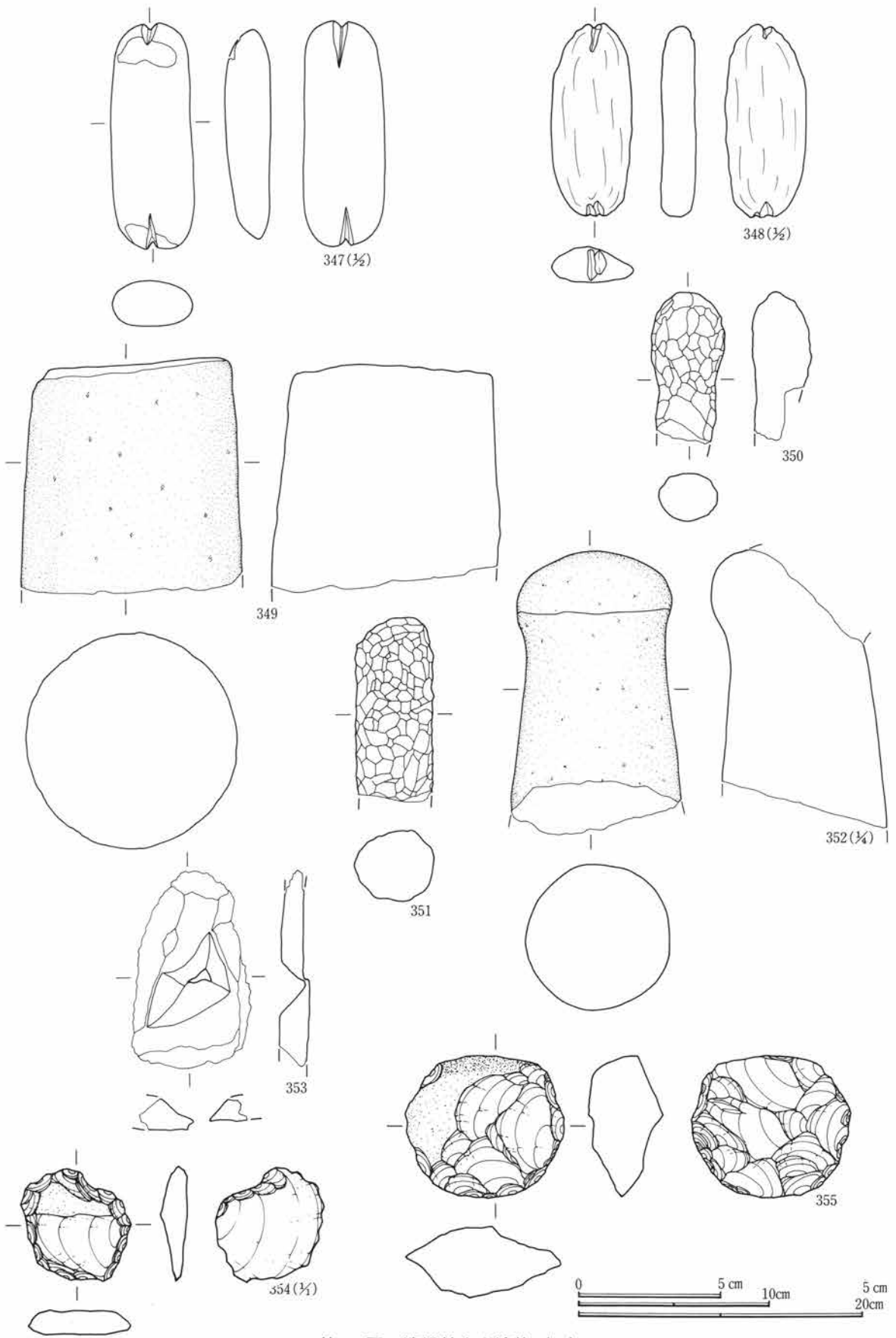
第221図 遺構外出土遺物 (20)



第222図 遺構外出土遺物 (21)



第223図 遺構外出土遺物 (22)



第224図 遺構外出土遺物 (23)

遺構外出土土器観察表

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 調 量 整	文 様 要 素	分 類	備 考
1	深鉢 口縁部	C55 II20	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④粗 繊維・砂粒を含む	器厚11~13mm 内面研磨	3条1単位の連続刺突文	I	
2	深鉢 底部	C65 II60	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 繊維・砂粒を含む	底径(12.0cm) 片残存 内面研磨	複節L $\left\{ \begin{array}{l} R \\ L \\ R \\ L \end{array} \right\}$ 縄文	I 2	
3	深鉢 胴部	C73 I85	①にぶい赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 砂粒・雲母を多く含む	器厚10~12mm 内面研磨か	L R 縄文縦回転施文後平行沈線	II 3	
4	深鉢 口縁部	C58 I75	①明褐 ②明褐 ③不良 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚6~8mm 摩滅により調整不明	口縁部内面に半截竹管状工具による横位・縦位の結節沈線	II	
5	深鉢 胴部	C73 I87	①にぶい赤褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~10mm 内外面研磨か	LR 縄文施文後2条の沈線に円形竹管による連続刺突文・沈線・三叉文	II 1	
6	深鉢 把手部	C76 II30	①にぶい赤褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚17~47mm 内外面研磨	把手に貼付文・キャタピラ文・ペン先状刺突文	III 1	
7	深鉢 口縁部	C75 I82	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚10~15mm 内面研磨	口唇部・胴部外面に半截竹管状工具によるキャタピラ文	III 1	
8	深鉢 底部	C59 I71	①明赤褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母・石英粒を含む	底部(9.0cm) 内面研磨	平行する縦位の隆帯文・沈線 R L 縄文	III 4	
9	深鉢 口縁部	C74 I87	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫・雲母を含む	器厚15mm 内面研磨	2条の棒状工具による結節沈線	III 3	
10	深鉢 胴部	C74 I84	①明赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 砂粒・石英粒・金雲母を多く含む	器厚11~14mm 内面ナデ外面研磨か	隆帯文 沈線 L r 無節縄文	III 4	
11	深鉢 胴部	C71 I88	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒・金雲母を多く含む	器厚6~9mm 内面研磨	波状沈線 平行沈線	III 3	
12	深鉢 口縁部	C71 I76	①にぶい赤褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒を多く含む	器厚8~9mm 内面研磨	半截竹管状工具による結節沈線	III 3	
13	深鉢 胴部	C71 I79	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚11~12mm 内面研磨	隆帯文 R L 縄文縦回転 隆帯文 両脇磨消	IV 1	
14	深鉢 胴部	C74 I75	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~12mm 内面研磨	沈線区画内にL R 縄文	IV 3	
15	深鉢 胴部	C62 II61	①明褐 ②にぶい橙 ③不良 ④粗 砂粒・礫・パミスを含む	器厚13~16mm 内面研磨	連続する短沈線	中 期	
16	深鉢 胴部	C73 I86	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12~14mm 内面研磨	幅広の沈線区画内にR L 縄文	IV 3	
17	深鉢 口縁部	C73 I81	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚9~18mm 内面研磨	隆帯文区画内にR L 縄文 隆帯文 両脇は磨消	IV 1	
18	深鉢 胴部	C66 I69	①にぶい黄橙 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚11~14mm 内面研磨	隆帯文区画内にR L 縄文縦回転 隆帯文両脇は磨消	IV 1	
19	深鉢 胴部	C72 I85	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚9~12mm 内面研磨	沈線区画内にR L 縄文	IV 3	外面に煤 附着
20	深鉢 口縁部	C73 I75	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~16mm 内外面研磨	隆帯文 L R 縄文横回転	V 1	
21	深鉢 口縁部	C65 I78	①黄灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~14mm 内面研磨	隆帯文 L R 縄文縦回転	V 1	
22	深鉢 口縁部	C67 I79	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10~19mm 内面研磨	櫛状工具による条線文	V 5	
23	深鉢 胴部	C71 I80	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚13~15mm 内面研磨	隆帯文区画内にL R 縄文縦回転	V 1	
24	深鉢 口縁部	C73 I77	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12~13mm 内外面研磨	隆帯文	V 1	
25	深鉢 口縁部	C71 I79	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚18~24mm 内外面研磨	口縁部貼付文からの隆帯文区画内 にL R 縄文	V 1	
26	深鉢 胴部	C72 I76	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚13~14mm 内面研磨	L r 無節縄文	V 4	
27	深鉢 胴部	C72 I77	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~16mm 内面ナデか	隆帯文区画内および隆帯文上にL R 縄文縦回転	V 1	
28	深鉢 口縁部	C74 I89	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚17mm 内面研磨	隆帯文 L R 縄文	V 1	
29	深鉢 口縁部	C75 I84	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚18mm 内外面研磨	隆帯文区画内および隆帯文上にL R 縄文	V 1	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 量 整 調	文 様 要 素	分 類	備 考
30	深鉢 口縁部	C70 I79	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~21mm 内外面研磨	隆帯文区画内にLR縄文 橋状把手欠損か	V 1	
31	深鉢 胴部	C72 I76	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~10mm 外面研磨内面ナデか	沈線区画内にLR磨消縄文	V 3	
32	深鉢 把手部	C74 I92	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚18mm 内面研磨	橋状把手外面・胴部外面にRL縄文縦回転	V	
33	深鉢 胴部	C73 I92	①にぶい橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~11mm 内外面研磨	隆帯文 沈線	V 2	
34	深鉢 口縁部	C58 II20	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚7~11mm 内外面研磨	沈線区画内にRL磨消縄文縦回転	V 3	
35	深鉢 口縁部	C71 I83	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚17mm 内面研磨	櫛状工具による条線文	V 5	
36	深鉢 口縁部	C77 I88	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚14mm 内面研磨か	隆帯文 LR縄文	V 1	
37	深鉢 胴部	C68 I95	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚9~12mm 内外面研磨	隆帯文区画内にLR縄文	V 1	
38	深鉢 口縁部	C69 I97	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚21mm 内面研磨	隆帯文(?)・沈線区画内にLR(?)縄文	V 2	
39	深鉢 胴部	C74 I87	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚10~17mm 内面研磨	隆帯文 LR縄文	V 1	
40	深鉢 口縁部	表採	①にぶい橙 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚12mm 内面ナデか	Lr無節縄文	V 4	
41	深鉢 胴部	C68 I82	①褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚16~21mm 内面研磨	隆帯文上に刻み 沈線区画内にLR縄文	V 2	
42	深鉢 胴部	表採	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚20mm 内面研磨	橋状把手欠損 LR縄文	V	
43	深鉢 口縁部	C70 I82	①にぶい褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚13mm 内面研磨	口縁部外面に沈線・隆帯文 沈線区画内に櫛状工具による条線文	V 4	
44	深鉢 口縁部	C65 II23	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚14~18mm 内面研磨	沈線区画内にRL縄文横回転	V 3	
45	深鉢 胴部	C66 II48	①にぶい橙 ②にぶい赤褐 ③良好 ④粗 砂粒・白色粒子を含む	器厚12~13mm 内面研磨	隆帯文区画内にRL縄文縦回転 隆帯文脇は磨消	V 1	
46	深鉢 口縁部	C70 II46	①暗褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫・白色粒子を含む	器厚7~10mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	V 3	
47	深鉢 口縁部	C77 II27	①橙 ②黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10~12mm 内面研磨	沈線区画内にRL縄文横回転	V 3	
48	深鉢 把手部	C58 II20	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚6~12mm 内面研磨	把手部外面・胴部外面にLR縄文縦回転	V	
49	深鉢 口縁部	C75 I87	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚18mm 内面研磨	隆帯文	V 1	
50	深鉢 胴部	C65 I80	①にぶい黄橙 ②淡黄 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚8~11mm 内外面研磨か	隆帯文上に円形竹管による刺突文 沈線区画内にLR縄文	VI 1	
51	深鉢 胴部	C63 I78	①黒褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~10mm 内外面研磨	隆帯文上に連続刺突文 沈線区画内にLR縄文および円形竹管による連続刺突文	VI 1	
52	深鉢 口縁部	C72 I73	①暗赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚8~12mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
53	深鉢 口縁部	C75 I75	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~15mm 内面研磨	横位の隆帯文上に連続する押圧文	VI 2	
54	深鉢 胴部	C70 I77	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④細 砂粒を含む	器厚5~10mm 摩滅により調整不明	隆帯文上に連続刺突文 沈線区画内にLR(?)縄文	VI 1	外面に煤付着
55	深鉢 口縁部	C69 I78	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~10mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
56	深鉢 口縁部	C71 I79	①明褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~12mm 内面研磨	口縁部突起欠損 透孔 沈線区画内にLR縄文	VI 1	
57	深鉢 口縁部	表採	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~19mm 内面研磨	口縁部突起欠損・内面に円孔 外面に刺突文・沈線・刻み 胴部	VI	
58	深鉢 口縁部	C71 I79	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~13mm 内外面研磨	外面に隆帯文・沈線 沈線区画内にLR縄文	VI 1	
59	深鉢 胴部	C71 I77	①灰褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	輪積痕上に刻み

第1節 縄文時代

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調	量整	文様要素	分類	備考
60	深鉢口縁部	C70 I78	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚7~15mm 内面研磨		隆帯文上に刻み 沈線区画内にL R縄文縦回転	VI 1	
61	深鉢口縁部	C74 I79	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~13mm 内外面研磨か		沈線区画内にL R縄文	VI 1	
62	深鉢胴部	C56 I84	①にぶい橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚10~11mm 内面研磨		沈線区画内にL R縄文	VI 1	
63	深鉢口縁部	C70 I78	①橙 ②橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~12mm 内外面研磨		沈線区画内にL R縄文	VI 1	
64	深鉢口縁部	C70 I77	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~11mm 内外面研磨		沈線区画内にL R縄文	VI 1	
65	深鉢胴部	C74 I85	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨		沈線区画内にL R縄文	VI 1	
66	深鉢胴部	C72 I76	①灰黄褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内外面研磨		沈線区画内にL R磨消縄文	VI 1	
67	深鉢胴部	C71 I84	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内外面研磨か		沈線区画内にL R縄文	VI 1	
68	深鉢口縁部	C70 I77	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚4~8mm 摩滅により調整不明		沈線区画内にL R(?)縄文	VI 1	外面に煤付着
69	深鉢胴部	C72 I83	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚5~8mm 内外面研磨か		沈線区画内にL R縄文	VI 1	
70	深鉢口縁部	C75 I90	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚16mm 内外面研磨		沈線区画内にL R縄文	VI 1	
71	深鉢胴部	C73 I85	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④細 砂粒を少量含む	器厚7~10mm 内面研磨か		隆帯文上に刻み 沈線区画内に単節縄文	VI 1	
72	深鉢胴部	C72 I82	①にぶい黄褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内外面研磨		沈線区画内にL R縄文	VI 1	
73	深鉢口縁部	C76 I88	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚23mm 内外面研磨か		口縁部突起内面に円孔 沈線区画内にR L縄文	VI 1	
74	深鉢口縁部	C74 I87	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・バミスを含む	器厚14mm 内外面研磨		口縁部下2条の隆帯文間に2段の連続刺突文	VI	
75	深鉢胴部	C71 I82	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~8mm 内外面研磨		沈線区画内にL R縄文 口縁部把手に縦方向の透孔・頂部に沈線・刺突文 外面に透孔・隆帯文上に連続刺突文 沈線区画内にL R縄文・連続刺突文	VI 1 1	
76	深鉢口縁部	C61 I72	①にぶい褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚12mm 内面研磨		隆帯文上に連続刺突文 沈線区画内にL R縄文・連続刺突文	VI 1	
77	深鉢胴部	C75 I88	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内外面研磨		隆帯文上に連続刺突文 沈線区画内にL R縄文縦回転	VI 1	
78	深鉢胴部	C69 I97	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚7~15mm 内面研磨		隆帯文上に連続刺突文 沈線区画内にL R縄文縦回転	VI 1	
79	深鉢口縁部	C69 I82	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	口径(42.0cm) 内外面研磨		口縁部下横位の隆帯文上に連続する押圧文	VI 2	
80	深鉢口縁部	C71 I85	①灰黄 ②灰黄 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚19mm 内外面研磨		口縁部把手に透孔・頂部に円孔外面に刺突文・連続する短沈線	VI	
81	深鉢口縁部	C75 I85	①にぶい黄橙 ②淡黄 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚16mm 内外面研磨		隆帯文上に刻み 沈線区画内にL R縄文	VI 1	
82	深鉢口縁部	C71 I75	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・バミスを含む	器厚10~17mm 内外面研磨		口縁部下横位の隆帯文上に押圧文 櫛状工具による条線文	VII 5	
83	深鉢口縁部	C71 I75	①褐灰 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚4~15mm 内外面研磨		口縁部外面円形貼付文に円孔 沈線	VII 2	
84	深鉢胴部	C71 I74	①にぶい褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~9mm 内面研磨		沈線区画内に刺突文	VII 1	
85	深鉢胴部	C72 I75	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚11mm 摩滅により調整不明		沈線区画内に連続する短沈線	VII 1	
86	浅鉢口縁部	C71 I75	①灰黄褐 ②淡黄 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚9~19mm 内外面研磨か		口縁部把手に透孔・内面に沈線 注口 沈線・刺突文	VII 5	
87	深鉢口縁部	C71 I74	①褐 ②にぶい褐 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8~27mm 摩滅により調整不明		口縁部把手外面に沈線・刺突文内面の隆帯に沈線	VII	
88	深鉢胴部	C71 I73	①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚9~11mm 内面研磨		沈線	VII 2	
89	深鉢口縁部	C68 I81	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚8~11mm 内外面研磨		沈線区画内に刺突文	VII 1	

第III章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
90	深鉢胴部	C73 I75	①褐灰 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線区画内に刺突文	VII 1	
91	深鉢胴部	C73 I74	①褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚6~13mm 内面研磨	沈線区画内に連続刺突文	VII 1	
92	深鉢口縁部	C70 I78	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~9mm 内面研磨	沈線区画内に短沈線	VII 1	
93	深鉢胴部	C70 I79	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~14mm 内面研磨	横位の隆帯文上に連続刺突文 櫛状工具による条線文	VII 6	
94	深鉢口縁部	C63 I78	①浅黄 ②灰黄 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚9~13mm 摩滅により調整不明	櫛状工具による条線文	VII 6	
95	深鉢口縁部	C70 I79	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~13mm 内面研磨	沈線 LR縄文	VII 3	
96	深鉢口縁部	C73 I79	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11~16mm 内面研磨	沈線	VII 2	
97	深鉢口縁部	C71 I85	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	器厚17mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
98	深鉢口縁部	C75 I76	①灰白 ②灰 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚6~15mm 内面研磨か	口縁頂部に沈線 沈線区画内にL R(?)縄文	VII 3	
99	深鉢口縁部	C73 I79	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒を含む	器厚6~9mm 内外面研磨	口縁部外面に連続刺突文 沈線区 画内に串状工具による刺突文	VII 1	
100	深鉢口縁部	C77 I88	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚10~13mm 内外面研磨	沈線区画内に連続刺突文	VII 1	
101	深鉢胴部	C76 I88	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8~11mm 内外面研磨	沈線区画内に半截竹管状工具によ る刺突文	VII 1	
102	深鉢胴部	C75 I77	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~13mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
103	深鉢胴部	C58 I64	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚9~12mm 内外面研磨	沈線区画内に連続刺突文	VII 1	
104	深鉢胴部	C72 I76	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	器厚9~10mm 内外面研磨	沈線区画内に短沈線	VII 1	
105	注口土器注口	C70 I90	①灰黄褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚19mm 内外面研磨	注口把手頂部に刺突文・内面円形 貼付文に刺突文 沈線	VII 6	
106	深鉢胴部	C85 II11	①黒褐 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚6~8mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
107	深鉢胴部	C78 I83	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内外面研磨	沈線区画内に連続する短沈線	VII 1	
108	深鉢口縁部	C74 I93	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11mm 内外面研磨	口縁部外面に短沈線 沈線	VII 2	
109	深鉢口縁部	C73 I78	①灰褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚3~13mm 内外面研磨	口縁部内面に沈線・刺突文 胴部 外面沈線区画内に刺突文	VII 1	
110	深鉢胴部	C76 I77	①赤褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10mm 内外面研磨	沈線区画内に連続する短沈線	VII 1	
111	深鉢口縁部	表採	①にぶい橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚13mm 内外面研磨	沈線区画内に連続する短沈線	VII 1	
112	浅鉢口縁部	C72 I76	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~28mm 内面研磨	口縁部把手に透孔 外面沈線区画 内に連続刺突文 刺突文	VII 5	
113	浅鉢口縁部	C73 I85	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚16mm 内面研磨か	口縁部外面に沈線・刺突文	VII 5	
114	深鉢胴部	C85 II9	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を少量含む	器厚5~7mm 内面研磨	円形貼付文に刺突文 隆帯文・沈 線区画内にLR(?)縄文	VII 4	
115	深鉢胴部	C71 I85	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9~11mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
116	深鉢口縁部	C69 I93	①明褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚6~12mm 内外面研磨	沈線	VII 2	補修孔あり
117	深鉢底部	C73 I75	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	底径(5.4cm) 内外面研磨	沈線	VII 2	
118	深鉢把手部	C57 I74	①橙 ②灰褐 ③不良 ④普通 砂粒を少量含む	器厚16~32mm 内面研磨か	透孔 内面渦巻状隆帯文 外面橋 状把手・隆帯文・刺突文	VII 2	
119	深鉢口縁部	C58 II20	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚7~22mm 内外面研磨	口縁部把手に透孔・内外面に刺突 文 沈線	VII 2	

第1節 縄文時代

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
120	深鉢 口縁部	C71 I79	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚6~19mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線・刺突文 沈線 区画内にLR縄文	VIII 1	
121	深鉢 把手部	C78 I74	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚5~20mm 内外面研磨	口縁部把手	VIII	
122	深鉢 胴部	C71 I75	①明褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚7~9mm 内面研磨か	沈線区画内にLR縄文	VIII 1	
123	深鉢 口縁部	C58 I75	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	口径(13.4cm) 内外面研磨	口縁部内面に鐮状の隆帯あり	VIII 6	
124	深鉢 口縁部	C72 I73	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~12mm 内外面研磨	口縁部突起に円孔・透孔 口縁部 外面に沈線	VIII 7	
125	深鉢 口縁部	C75 I72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7mm 内外面研磨	注口上部2孔の橋状把手に透孔円 形貼付文に刺突文・沈線	VIII	
126	深鉢 胴部	C72 I73	①明褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	胴径(16.8cm) 内外面研磨	沈線	VIII 4	
127	深鉢 胴部	C71 I79	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~10mm 内外面研磨	8の字状貼付文 沈線区画内に連 続刺突文 LR縄文	VIII 1	
128	深鉢 注口部	C71 I79	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚3~8mm 内面研磨外面削り	注口上部貼付文に刺突文	VIII 7	
129	深鉢 胴部	C65 I74	①褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~9mm 内面研磨	円弧状の連続沈線	VIII 4	
130	深鉢 胴部	C75 I75	①褐灰 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~7mm 内外面研磨	隆帯文 円形貼付文に刺突文隆帯 文に刻み・両脇に沈線	VIII 5	
131	深鉢 胴部	C78 I74	①にぶい褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8~9mm 内面研磨	沈線	VIII 4	
132	深鉢 胴部	C75 I75	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~20mm 内外面研磨	横位の隆帯文から橋状把手 円形 貼付文に刺突文 隆帯文・沈線区 画内にLR縄文	VIII 5	
133	深鉢 口縁部	C65 I76	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~12mm 内外面研磨	沈線	VIII 4	
134	浅鉢 口縁部	C71 I80	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚8~10mm 内外面研磨	口縁部外面に連続する押圧文 沈線	VIII 4	
135	深鉢 口縁部	C71 I79	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~9mm 内外面研磨	口縁部外面に8の字状貼付文 2条の平行沈線	VIII 6	
136	深鉢 口縁部	C72 I76	①橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	口径(25.6cm) 内外面研磨	口縁部突起および外面に透孔・刺突文・沈 線・刻み 沈線区画内にLR縄文	VIII 1	
137	深鉢 口縁部	C78 I74	①灰褐 ②にぶい褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚6~17mm 内外面研磨	口縁部突起および外面に沈線・透 孔 隆帯文・沈線	VIII 5	
138	深鉢 口縁部	C70 I80	①灰黄褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~15mm 内外面研磨	口縁部外面に円孔・沈線 沈線	VIII 4	
139	深鉢 口縁部	C70 I79	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚7~11mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VIII 1	
140	深鉢 胴部	C73 I75	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~15mm 内外面研磨	隆帯文 隆帯文上に連続刺突文	VIII 5	
141	深鉢 口縁部	表採	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚7~12mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線・刻み	VIII	
142	深鉢 口縁部	C63 I77	①明黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚8~14mm 内面研磨	口縁部外面に2条の平行沈線	VIII 4	
143	深鉢 把手部	C71 I77	①暗褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10~15mm 外面研磨	把手内外面に透孔・刺突文・頂部 に沈線	VIII	
144	深鉢 把手部	C74 I77	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚7~11mm 内面研磨	橋状把手に刺突文・沈文内に刺突 文 沈線	VIII 4	
145	深鉢 口縁部	C72 I77	①明褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~12mm 内面研磨	口縁部外面に円形押圧文	VIII	
146	深鉢 口縁部	C78 I76	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~22mm 内外面研磨	口縁部頂部円形貼付文に押圧文 沈線	VIII	
147	深鉢 胴部	C74 I76	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚8~10mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	VIII 1	
148	深鉢 口縁部	C72 I76	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(16.2cm) 内面研磨	口縁部突起に透孔・刺突文 隆帯 文上に刻み・刺突文 沈線区画内 にLR縄文	VIII 1	
149	深鉢 口縁部	C71 I80	①にぶい黄橙 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子・パミスを含む	器厚9~18mm 内面研磨	口縁部外面に沈線	VIII 4	

第III章 検出された遺構と出土遺物

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量 調整	文様要素	分類	備考
150	深鉢 口縁部	C72 I77	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を多く含む	器厚6~9mm 内外面研磨	口縁部外面橋状把手に円孔・内面に刺突文 沈線	VIII	
151	深鉢 口縁部	C70 I79	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚5~17mm 内外面研磨	口縁部突起内外面に透孔・沈線 口縁部外面に沈線・刺突文	VIII	
152	深鉢 口縁部	C74 I78	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚7~13mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線 隆帯文・沈線・円形貼付文に刺突文	VIII 5	
153	深鉢 口縁部	C73 I76	①にぶい黄褐 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~8mm 内面研磨	隆帯文・沈線区画内にL R縄文	VIII 5	
154	深鉢 口縁部	C72 I80	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を含む	器厚7~12mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線	VIII 4	
155	深鉢 口縁部	表採	①淡黄 ②灰黄 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~11mm 内面研磨か	沈線	VIII 4	
156	深鉢 口縁部	C72 I79	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~15mm 内面研磨	口縁部把手欠損 口縁部外面に刺突文・沈線	VIII	
157	深鉢 胴部	C73 I78	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚10~12mm 内面研磨か	沈線区画内にL R縄文	VIII 1	
158	深鉢 胴部	C80 I86	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9~11mm 内外面ナデカ	沈線	VIII 4	
159	深鉢 口縁部	C74 II43	①明褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~11mm 内面研磨	口縁部外面に透孔・沈線区画内に連続刺突文 沈線区画内にL R縄文	VIII 1	
160	深鉢 口縁部	C72 I76	①黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚6~11mm 内外面研磨	沈線	VIII 4	
161	深鉢 胴部	C81 I85	①浅黄 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚10~11mm 内面研磨か	沈線	VIII 4	輪積痕上に刻み
162	深鉢 胴部	C74 I85	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚12~14mm 内面研磨	隆帯文上に刻み 沈線	VIII 5	
163	深鉢 胴部	C73 I78	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	器厚5~8mm 内面研磨	沈線 L R縄文	VIII 2	
164	深鉢 胴部	C73 I76	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚7~8mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文	VIII 1	
165	深鉢 口縁部	C71 I84	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚12mm 内外面研磨	沈線 隆帯文上に円形竹管による連続刺突文	VIII 4	
166	深鉢 口縁部	C75 I85	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚9mm 摩滅により調整不明	口縁部外面に沈線	VIII 4	
167	深鉢 口縁部	C75 I89	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚16mm 内面研磨	口縁部外面に円孔・沈線	VIII	
168	深鉢 胴部	C72 I75	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 摩滅により調整不明	沈線	VIII 4	
169	深鉢 口縁部	C58 I75	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚9~15mm 内面研磨か	口縁部外面円形貼付文に刺突文・沈線 沈線・L R(?)縄文	VIII 1	
170	深鉢 胴部	C80 I89	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚8~11mm 摩滅により調整不明	沈線区画内にL R縄文	VIII 1	
171	深鉢 胴部	C71 I85	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚12~10mm 内面研磨	幅広の沈線間に連続刺突文	VIII 3	
172	深鉢 口縁部	C78 I76	①褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚7~10mm 内外面研磨	沈線区画内にL R縄文	VIII 1	
173	深鉢 口縁部	C81 I91	①にぶい黄橙 ②灰白 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚9mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線	VIII 1	
174	深鉢 口縁部	C74 II5	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚3~10mm 内面研磨	刺突文 沈線区画内にL R縄文	VIII	
175	深鉢 胴部	C81 I89	①橙 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚9~19mm 内面研磨	8の字状貼付文 沈線	VIII 5	
176	深鉢 口縁部	C72 I83	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚15mm 内外面研磨	沈線 口縁部内面に段あり	VIII 4	
177	深鉢 口縁部	C70 I83	①にぶい黄褐 ②灰黄 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚14mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線	VIII 4	
178	深鉢 口縁部	C76 II30	①明褐 ②にぶい橙 ③不良 ④粗 砂粒を含む	器厚8~27mm 内面研磨	口縁部外面に透孔・沈線・円形貼付文に刺突文	VIII	
179	深鉢 胴部	C72 I77	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~10mm 内面研磨か	沈線区画内にL R縄文	VIII 1	

第1節 縄文時代

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量整 調量	文様要素	分類	備考
180	深鉢 口縁部	表採	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚21mm 内外面研磨	粘土燃り合わせによる把手 透孔	VIII 2	
181	深鉢 口縁部	C58 I72	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	口径(28.4cm) 内外面研磨	口縁部外面に沈線	VIII 4	
182	深鉢 口縁部	C70 I92	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚7~20mm 内面研磨	口縁部突起に透孔・横方向の透孔 刺突文 隆帯文上に沈線・刺突文	VIII 5	
183	深鉢 口縁部	C57 I72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~12mm 内外面研磨	口縁部外面に3個1単位の円形押 圧文・沈線 沈線	VIII 4	
184	深鉢 胴部	C55 II20	①暗褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8~10mm 内外面ナデか	平行沈線	VIII 4	
185	深鉢 胴部	C76 I85	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚6~10mm 内面研磨	沈線 刺突文	VIII 4	土製円盤 に転用か
186	深鉢 胴部	C72 I73	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚7~8mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
187	深鉢 口縁部	C79 I72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚3~5mm 内面研磨か	沈線区画内にLR磨消縄文か	IX 1	
188	深鉢 口縁部	C73 I79	①橙 ②にぶい橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚4~8mm 摩滅により調整不明	沈線区画内にLR(?)磨消縄文か	IX 1	
189	不明 口縁部	C72 I77	①灰黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(16.4cm) 内外面研磨	口縁部内面に段あり	IX	外面に煤 附着
190	深鉢 胴部	C78 I76	①灰黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚5~7mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	IX 2	
191	深鉢 口縁部	C70 I77	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚4~6mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
192	深鉢 口縁部	C74 I86	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~5mm 内外面研磨	横位の隆帯文上に刻み 沈線区画 内にLR縄文	IX 1	
193	深鉢 胴部	C73 I84	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を含む	器厚6~7mm 内面研磨	沈線による同心方形文 LR磨消 縄文	IX 2	
194	深鉢 口縁部	C78 I75	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚2~4mm 内外面研磨	沈線による同心文 LR磨消縄文	IX 2	
195	深鉢 口縁部	C71 I81	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚3~5mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
196	深鉢 口縁部	C75 I85	①灰黄褐 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚7mm 内外面研磨	横位の隆帯文上に刻み 沈線区画 内にLR磨消縄文	IX 1	
197	深鉢 胴部	C74 I84	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚5~8mm 内外面研磨	横位の隆帯文上に刻み 沈線区画 内にLR磨消縄文	IX 1	
198	深鉢 胴部	C74 I86	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚5~6mm 内外面研磨	沈線による同心文 刺突文 LR 磨消縄文	IX 2	
199	深鉢 口縁部	C76 I87	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚6mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み・刺突文・沈線平 行沈線・LR縄文(?)	IX 2	
200	深鉢 口縁部	C72 I92	①黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	器厚12mm 内面ナデ	指頭によるナデ	IX 3	
201	深鉢 口縁部	C73 I91	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④細 砂粒・長石粒を含む	器厚7mm 内外面研磨	口縁部押圧文に刺突文 内面に 沈線・刺突文 平行沈線・LR磨 消縄文	IX 2	
202	深鉢 胴部	C70 I83	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚6~7mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
203	深鉢 胴部	C74 I86	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚4~5mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	IX 1	
204	深鉢 胴部	C58 I72	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚4~7mm 内外面研磨	口唇部内面に刻み 2条の半隆起 線文	IX 5	
205	深鉢 胴部	C77 I92	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚7~8mm 内外面研磨	沈線区画内にLR磨消縄文	IX 1	
206	深鉢 口縁部	C63 II48	①褐灰 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚5~8mm 内外面研磨	2条の隆帯文 沈線区画内にLR 磨消縄文	IX 1	
207	深鉢 口縁部	C57 I74	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚7~8mm 内外面研磨か	口縁部突起に透孔 沈線区画内に LR磨消縄文	IX 1	
208	深鉢 胴部	C67 I99	①にぶい黄褐 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を微量含む	器厚8~9mm 内外面研磨	内面に4条以上の横位の平行沈線	IX 5	
209	深鉢 胴部	C66 I83	①明褐 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚12~14mm 内外面研磨	沈線	IX 2	

第Ⅲ章 検出された遺構と出土遺物

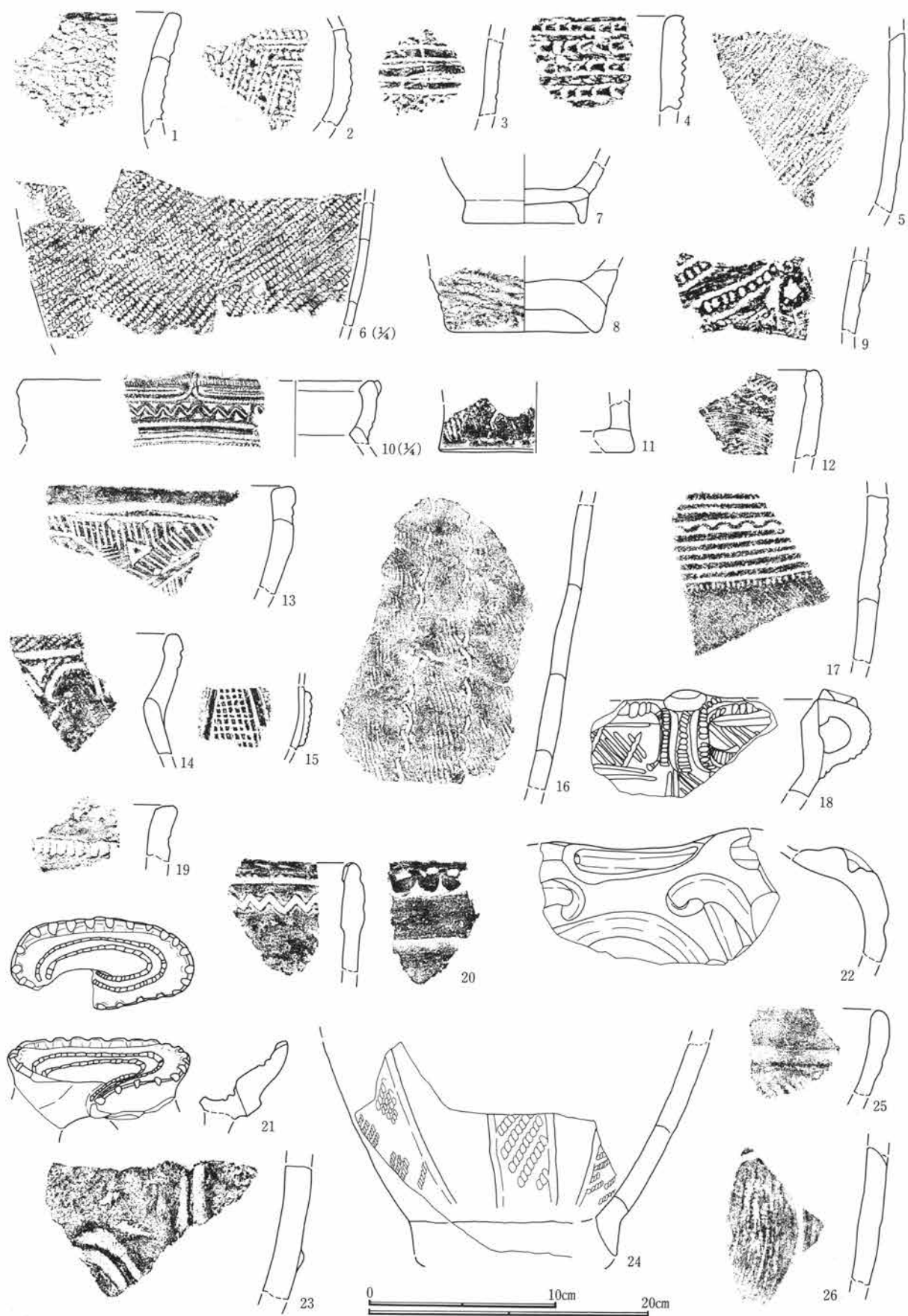
No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
210	深鉢 口縁部	C 83 II 9	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚 6～8 mm 内外面研磨	沈線区画内に L R 磨消縄文	IX 1	
211	深鉢 口縁部	C 58 II 20	①灰黄褐 ②褐灰 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚 4～6 mm 内外面研磨	口唇部に刻み・内面に半隆起線文 隆帯文 に刻み 沈線区画内に L R 磨消縄文	IX 1	
212	深鉢 口縁部	C 72 I 93	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚 9 mm 内面研磨か	口唇部押圧により折り曲げ 8 の 字状貼付文 平行沈線	IX 2	
213	深鉢 胴部	C 76 I 96	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚 4～5 mm 内外面研磨	沈線区画内に L R 磨消縄文	IX 1	
214	深鉢 胴部	C 60 I 62	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④細 砂粒・礫を含む	器厚 6～12mm 内外面研磨	隆帯文上に短沈線 沈線区画内に L R 磨消縄文	IX 1	
215	深鉢 口縁部	C 74 II 43	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚 9 mm 摩滅により調整不明	口縁部外面に沈線 横 8 の字状貼 付文上下に刺突文 隆帯文	IX 5	
216	深鉢 注口部	C 71 I 81	①灰 ②灰 ③不良 ④普通 砂粒を少量含む	器厚 6～20mm 摩滅により調整不明		IX 4	
217	深鉢 胴部	C 71 I 87	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚 8～13mm 内外面ナデか	横位の隆帯文上に連続する押圧文	IX	
218	深鉢 胴部	C 58 I 75	①にぶい褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒・パミスを含む	器厚 5～7 mm 内外面研磨か	3 本単位の平行沈線	IX 6	
219	深鉢 底部	C 71 I 77	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	底径(6.4cm) 内外面研磨		XI 1	
220	深鉢 底部	C 74 II 4	①明黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	底径(8.0cm) 内外面研磨 底部網代痕後研磨		XI 1	
221	深鉢 底部	C 61 I 72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	底径 7.8cm 内外面研磨か	沈線区画内に櫛状工具による平行 沈線・刺突文	IX 6	
222	深鉢 底部	C 71 I 83	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径 6.6cm 内外面研磨		XI 1	
223	深鉢 底部	C 66 II 48	①にぶい橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	底径(7.6cm) 内外面研磨	底部に高台状の粘土貼付 先端部 削り	XI 1	
224	深鉢 底部	C 73 I 91	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	底径(12.2cm) 内外面研磨		XI 2	
225	深鉢 底部	C 57 I 72	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通	底径(8.0cm) 内外面研磨		XI 2	
226	深鉢 底部	C 76 I 74	①明赤褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(7.6cm) 内外面研磨	沈線	不明	
227	深鉢 底部	C 69 I 77	①明赤褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	底径(5.0cm) 内外面研磨	底部に焼成後の穿孔か	XI	
228	深鉢 底部	C 71 I 83	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 砂粒・長石粒を含む	底径(12.3cm) 内外面研磨	底部網代痕あり	XI 1	
229	深鉢 底部	C 58 I 64	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	底径(9.0cm) 外面研磨	底部網代痕あり	XI 1	
230	深鉢 胴部	C 75 I 60	①明黄褐 ②明黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚 3～9 mm 摩滅により調整不明	補修孔穿孔失敗か	XI 1	
231	深鉢 胴部	C 71 I 75	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚 10～12mm 内外面研磨	隆帯文上に連続する押圧文	不明	
232	深鉢 底部	表探	①赤褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(6.5cm) 内外面研磨	高台状の粘土貼付	XI 2	
233	深鉢 胴部	C 86 I 91	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚 6～9 mm 内外面研磨	円形の隆帯文上に刺突文を施す円 形貼付文 沈線	不明	
234	深鉢 胴部	C 71 I 85	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚 6～7 mm 内面研磨	口唇部・胴部外面に L R 縄文	不明	
235	不明 胴～底	C 72 I 77	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	底径 4.2cm 内面研磨	高台状に粘土貼付	不明	
236	土製品	C 69 I 97	①にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒を含む	器厚 4.4mm 外面研磨	単孔の玉状土製品		
237	土製品 完形	C 59 I 73	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚 11mm	コップ型の小型土製品		
238	深鉢 口縁部	C 61 I 71	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	口径(24.0cm) 内外面研磨		XI 1	
239	器台 脚部	C 66 I 83	①明黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	脚径(20.0cm) 内外面研磨	脚部に透孔	不明	

遺構外出土石器観察表

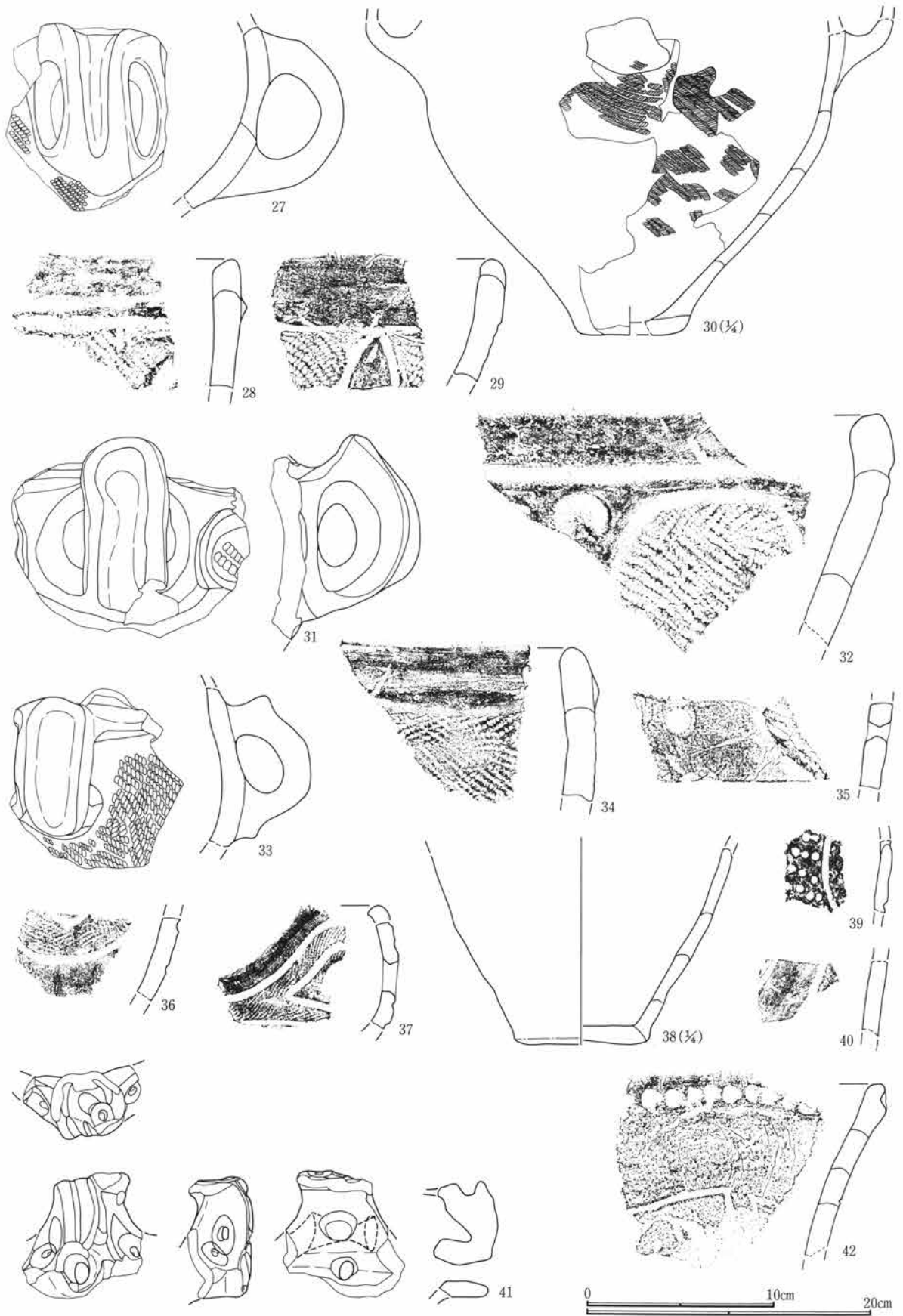
No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
240	石鏃	C58-I 64	1.7	1.3	0.4	0.6	完形	黒曜石	凹基無茎鏃 側縁部はやや膨らむ
241	石鏃	C65-II 60	1.7	[1.8]	0.4	0.5	基部欠損	黒曜石	平基無茎鏃
242	石匙	C71-I 92	4.5	5.9	1.1	25	完形	熱変成岩	横型 両面に自然面を残す
243	石鏃	C58-II 29	[2.9]	2.2	0.9	4.2	基部欠損	チャート	基部形態不明 側縁部はやや膨らむ
244	打製石斧	C69-I 93	10.5	8.2	1.5	161	完形	熱変成岩	分銅型 凸刃
245	打製石斧	C70-I 79	[6.0]	3.7	1.7	50	基部欠損	輝緑岩	短冊型 凸刃
246	打製石斧	C58-II 20	[6.1]	5.5	1.7	65	基部欠損	熱変成岩	撥II型か 凸刃 刃部摩耗著しい
247	打製石斧	C55-I 79	[6.2]	4.3	2.1	65	基部欠損	安山岩	撥I型 凸刃 片面に自然面を残す
248	打製石斧	C72-I 79	[8.3]	6.4	3.3	197	刃部欠損	熱変成岩	撥I型か 片面に自然面を残す
249	打製石斧	表採	[7.9]	7.1	2.4	140	基部欠損	熱変成岩	撥I型 直刃か 片面に自然面を残す
250	打製石斧	表採	15.2	5.8	2.0	225	完形	熱変成岩	短冊型 直刃
251	打製石斧	C84-II 17	[13.3]	4.9	2.8	200	基部欠損	熱変成岩	短冊型 凸刃 片面に自然面を残す
252	打製石斧	表採	10.4	4.3	2.6	150	完形	熱変成岩	短冊型 凸刃 片面に自然面を残す
253	打製石斧	C78-II 60	[8.2]	4.9	1.2	65	刃部欠損	放散虫板岩	短冊型
254	打製石斧	C71-I 76	[11.1]	6.0	2.2	160	刃部欠損	熱変成岩	撥II型
255	打製石斧	C57-I 73	11.7	7.1	2.6	209	完形	熱変成岩	分銅型 凸刃 両面に自然面を残す
256	打製石斧	C74-II 48	12.0	5.0	2.1	135	完形	熱変成岩	撥II型 凸刃 片面に自然面を残す
257	打製石斧	C58-I 73	11.4	5.2	2.3	95	完形	安山岩	撥I型 凸刃 片面に自然面を残す
258	打製石斧	C60-I 60	9.9	4.6	1.7	69	一部欠損	熱変成岩	短冊型 凸刃
259	打製石斧	C63-II 66	[9.8]	5.0	2.4	151	基部欠損	熱変成岩	撥II型 凸刃
260	打製石斧	C69-I 99	[9.4]	4.7	2.6	125	刃部欠損	熱変成岩	撥I型
261	打製石斧	C74-II 48	9.3	4.8	1.9	100	完形	熱変成岩	撥I型 凸刃
262	打製石斧	C58-II 75	[10.2]	7.9	2.5	185	基部欠損	熱変成岩	撥I型 凸刃
263	打製石斧	C71-I 74	9.3	7.9	2.2	140	一部欠損	熱変成岩	撥I型 直刃
264	打製石斧	C73-I 84	[8.0]	7.0	2.3	107	両端部欠損	熱変成岩	短冊型 片面に自然面を残す
265	打製石斧	C58-II 20	10.7	4.7	2.2	125	完形	熱変成岩	撥II型 凸刃 片面に自然面を残す
266	打製石斧	C60-I 72	9.9	4.8	1.7	106	完形	安山岩	撥I型 直刃
267	打製石斧	表採	16.0	6.9	1.4	190	ほぼ完形	絹雲母石墨片岩	分銅型 凸刃
268	打製石斧	C75-II 60	11.2	4.4	1.9	90	完形	熱変成岩	短冊型 直刃か 刃部摩耗著しい
269	打製石斧	C65-II 60	[11.6]	4.2	2.2	126	基部欠損	熱変成岩	短冊型 凸刃 片面に自然面を残す
270	打製石斧	C55-I 81	[9.8]	7.3	2.3	148	基部欠損	熱変成岩	分銅型 凸刃
271	打製石斧	C58-I 74	8.7	6.2	3.0	150	刃部欠損か	流紋岩	撥I型か 片面に自然面を残す
272	打製石斧	C71-I 82	[9.2]	5.1	2.6	135	基部欠損	熱変成岩	撥II型 凸刃 片面に自然面を残す
273	打製石斧	C71-I 78	[6.0]	4.6	2.2	80	基部欠損	輝緑岩	撥I型か 直刃か
274	打製石斧	C58-I 75	[7.5]	5.5	2.2	95	刃部欠損	熱変成岩	分銅型 凸刃
275	打製石斧	C60-I 76	[6.6]	6.0	2.7	150	基部欠損	熱変成岩	撥II型か 凸刃 片面に自然面を残す
276	打製石斧	C70-I 76	[6.7]	5.3	1.8	70	基部欠損	熱変成岩	撥II型か 凸刃
277	打製石斧	C74-I 87	8.2	5.8	2.5	136	基部欠損	安山岩	撥II型 凸刃 片面に自然面を残す
278	磨製石斧	表採	7.0	4.4	2.1	100	完形	輝緑岩	研磨途中 粗割痕を残す
279	磨製石斧	C58-I 68	[4.0]	2.2	1.1	22	刃部欠損	角閃岩	研磨段階
280	打製石斧	C60-I 84	9.5	5.0	1.3	83	ほぼ完形	熱変成岩	短冊型
281	磨製石斧	C70-I 80	[4.7]	4.6	2.0	65	基部欠損	輝緑岩	研磨段階 凸刃
282	磨製石斧	C66-I 64	[7.3]	4.4	2.0	104	基部欠損	角閃岩	研磨段階 側面に敲打痕を残す
283	磨製石斧	C72-I 60	[9.6]	5.7	4.0	385	刃部欠損	角閃岩	研磨段階 全面研磨 側面に敲打痕を残す
284	磨製石斧	C80-I 93	[11.4]	5.8	3.5	285	刃部欠損	角閃岩	研磨途中か 一部敲打痕を残す
285	磨製石斧	C75-II 50	8.8	3.7	2.1	85	完形	安山岩	研磨段階 凸刃 粗割痕を残す
286	磨製石斧	C77-II 34	6.7	5.6	1.9	129	基部欠損	角閃岩	研磨段階 凸刃
287	磨製石斧	C77-II 30	[8.2]	6.1	3.8	312	基部欠損	角閃岩	研磨段階 刃部以外は粗い研磨 凸刃
288	スクレイパー	C72-I 88	4.2	6.3	1.1	25	1/2	熱変成岩	側縁に刃部
289	スクレイパー	C78-II 60	4.1	8.1	1.2	43	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃
290	スクレイパー	C71-I 64	6.3	9.5	1.7	82	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 側面に自然面を残す
291	スクレイパー	表採	4.3	[8.6]	1.4	50	一部欠損	熱変成岩	側縁に刃部 直刃
292	スクレイパー	C57-I 74	[7.9]	[7.4]	2.5	100	1/2	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面を残す
293	スクレイパー	C58-I 73	6.4	10.3	2.1	118	完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃 側面に自然面を残す
294	打製石斧	C58-II 20	9.3	6.3	2.4	100	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面を残す
295	スクレイパー	C57-I 74	5.8	7.3	2.2	102	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面を残す
296	コア	表採	3.9	2.4	1.1	18	完形	チャート	
297	コア	表採	8.0	9.9	5.2	570	完形	熱変成岩	片面に自然面を残す

第III章 検出された遺構と出土遺物

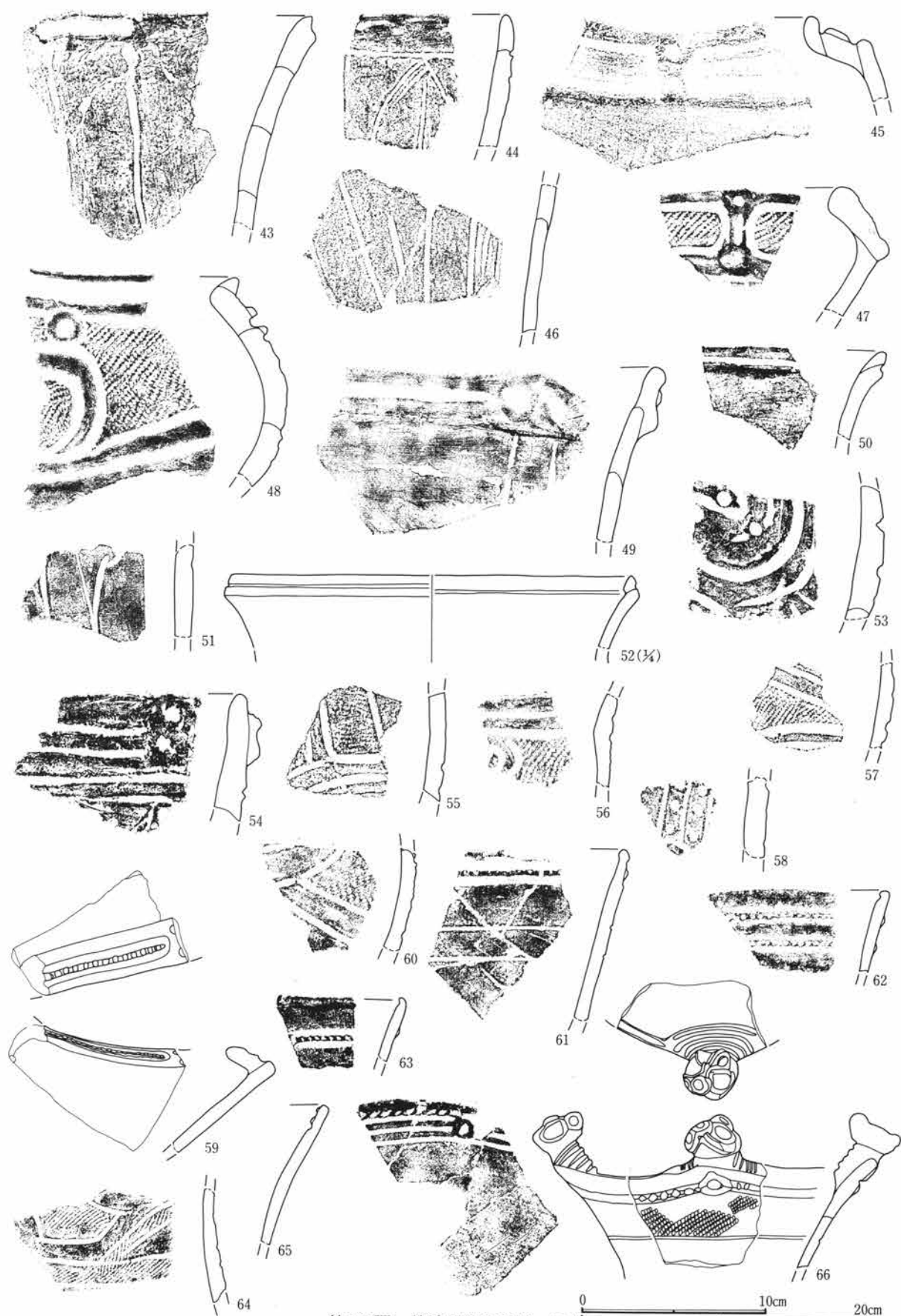
No	器種	出土状況	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
298	スクレイパー	表採	6.7	4.5	1.4	45	完形	熱変成岩	端部に刃部
299	コア	C62-II49	8.2	10.9	5.6	485	完形	熱変成岩	側縁に敲打痕あり 一部自然面を残す
300	磨石	表採	7.4	6.9	6.5	380	1/2	安山岩	片面に磨面
301	磨石	表採	[6.2]	8.5	6.1	355	1/2	流紋岩	片面に磨面
302	磨石	表採	[7.1]	[5.2]	2.5	115	1/2	流紋岩	両面に磨面
303	磨石	C58-I 73	15.0	8.6	5.3	1000	一部欠損	砂岩	片面に磨面 側面に敲打痕を残す
304	磨石	C72-I 78	[7.3]	3.8	3.1	137	1/2	安山岩	両面に磨面
305	磨石	C58-I 64	10.3	6.8	3.2	330	完形	安山岩	片面に磨面
306	磨石	C71-I 81	[7.3]	7.1	5.6	400	1/2	石英粗面岩	両面に磨面片面にくぼみ 側面に敲打痕
307	磨石	C78-II36	[6.9]	5.9	5.5	330	1/2	安山岩	4面に磨面 一部敲打痕を残す
308	磨石	C59-I 67	[7.4]	6.6	5.1	235	1/2	安山岩	片面に磨面
309	磨石	C70-I 60	11.9	10.9	9.0	1450	完形	石英安山岩	片面に磨面
310	磨石	C68-I 19	9.5	7.9	5.9	625	完形	安山岩	3面に磨面
311	磨石	C56-II21	8.0	6.7	5.5	440	完形	安山岩	両面に磨面
312	くぼみ石	C72-I 74	[11.7]	5.3	3.3	280	ほぼ完形	点紋縞雲母石墨片岩	両面にくぼみ
313	くぼみ石	C78-I 75	[14.6]	6.6	2.9	400	完形	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ 一部赤化
314	くぼみ石	表採	12.7	6.3	5.0	665	完形	流紋岩	両面にくぼみ
315	くぼみ石	表採	11.7	8.2	4.2	525	完形	砂岩	片面にくぼみ
316	くぼみ石	C82-I 85	17.5	7.1	4.0	900	一部欠損	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ 敲打痕を残す
317	くぼみ石	C71-I 12	14.3	5.8	4.0	600	ほぼ完形	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ 敲打痕を残す
318	くぼみ石	C61-I 74	[13.4]	5.6	3.7	430	一部欠損	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ
319	くぼみ石	C71-I 81	22.7	5.5	6.4	1500	完形	点紋緑泥片岩	片面にくぼみ 敲打痕を残す
320	くぼみ石	C58-I 73	[13.8]	5.9	3.9	494	一部欠損	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ
321	くぼみ石	表採	13.1	7.2	4.7	692	完形	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ 敲打痕を残す
322	くぼみ石	表採	13.4	5.9	4.1	510	完形	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ 敲打痕を残す
323	くぼみ石	表採	17.2	5.9	2.4	420	完形	緑泥片岩	両面にくぼみ
324	くぼみ石	表採	12.4	7.4	4.7	420	一部欠損	熔岩	4面にくぼみ
325	くぼみ石	C58-I 76	19.0	4.8	3.2	462	完形	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ
326	くぼみ石	C58-I 75	[7.3]	6.7	3.6	287	1/2	花崗斑岩	両面に磨面片面にくぼみ 敲打痕を残す
327	くぼみ石	C76-II30	[8.5]	6.4	3.3	250	1/2	安山岩	両面にくぼみ
328	くぼみ石	C58-I 76	[14.4]	[11.1]	5.3	950	一部欠損	砂岩	両面にくぼみ
329	くぼみ石	C58-I 64	[12.6]	7.9	5.1	780	一部欠損	安山岩	両面にくぼみ
330	石皿	表採	[35.0]	[17.1]	10.9	6500	1/2	安山岩	両面に磨面
331	石皿	表採	[20.1]	[8.2]	[6.3]	1600	破片	輝緑岩	裏面にくぼみあり
332	多孔石	C59-I 69	[23.4]	8.6	6.6	1900	1/2	点紋縞雲母石墨片岩	両面にくぼみあり
333	多孔石	C76-II30	[8.1]	8.4	3.5	310	1/2	砂岩	両面にくぼみあり
334	多孔石	表採	40.9	20.5	10.7	13500	完形	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみあり
335	多孔石	表採	[29.6]	[17.8]	10.2	7600	1/2	点紋縞雲母石墨片岩	両面にくぼみあり
336	多孔石	表採	32.3	22.6	8.8	8650	完形	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみあり
337	多孔石	表採	32.4	18.8	9.2	8100	完形	緑泥片岩	両面にくぼみあり
338	多孔石	表採	[31.6]	[25.5]	[12.1]	8400	一部欠損	砂岩	両面にくぼみ・敲打痕
339	多孔石	C62-I 80	[23.8]	[11.4]	[7.7]	2490	1/2	点紋緑泥片岩	片面にくぼみ・敲打痕
340	多孔石	表採	[26.0]	15.5	8.7	4600	ほぼ完形	砂岩	両面にくぼみ・敲打痕
341	多孔石	C75-II 4	[18.0]	22.6	8.2	4100	1/2	安山岩	3面にくぼみ・敲打痕
342	多孔石	C58-I 72	[19.5]	[16.6]	14.8	2050	1/2	点紋縞雲母石墨片岩	両面にくぼみ・敲打痕
343	多孔石	C60-I 84	[30.9]	9.7	8.5	3900	1/2	点紋緑泥片岩	片面にくぼみ・敲打痕
344	丸石	C75-I 74	5.5	5.2	3.7	125	完形	安山岩	
345	石錘	C62-I 66	6.3	4.2	2.1	92	ほぼ完形	絹雲母石墨片岩	両端部に刻み
346	石錘	C72-I 74	7.7	3.1	1.8	53	完形	点紋縞雲母石墨片岩	両端部に刻み
347	石錘	C78-I 74	7.8	2.9	1.6	55	完形	輝緑岩	両端部に刻み
348	石錘	C62-II49	6.7	2.8	1.3	41	完形	緑泥片岩	両端部に刻み
349	石棒	表採	[12.3]	11.7	12.0	2600	破片	流紋岩	全面粗い研磨 敲打痕を残す
350	石棒	C70-I 78	[7.8]	3.8	3.0	120	1/2	点紋緑泥片岩	全面に敲打痕を残す
351	石棒	C58-I 74	[9.5]	4.0	3.7	269	1/2	点紋緑泥片岩	全面に敲打痕を残す
352	石棒	C58-I 75	[19.8]	[11.9]	11.3	3350	1/2	流紋岩	全面研磨 敲打痕を残す
353	不明	表採	10.2	6.3	1.6	120	不明	緑泥片岩	中央に四角錐形の穿孔
354	不明	表採	1.9	1.9	0.5	1.6	完形	黒曜石	外縁部を加工
355	コア(?)	C72-I 79	7.4	8.3	3.9	244	完形	熱変成岩	外縁部を一部加工



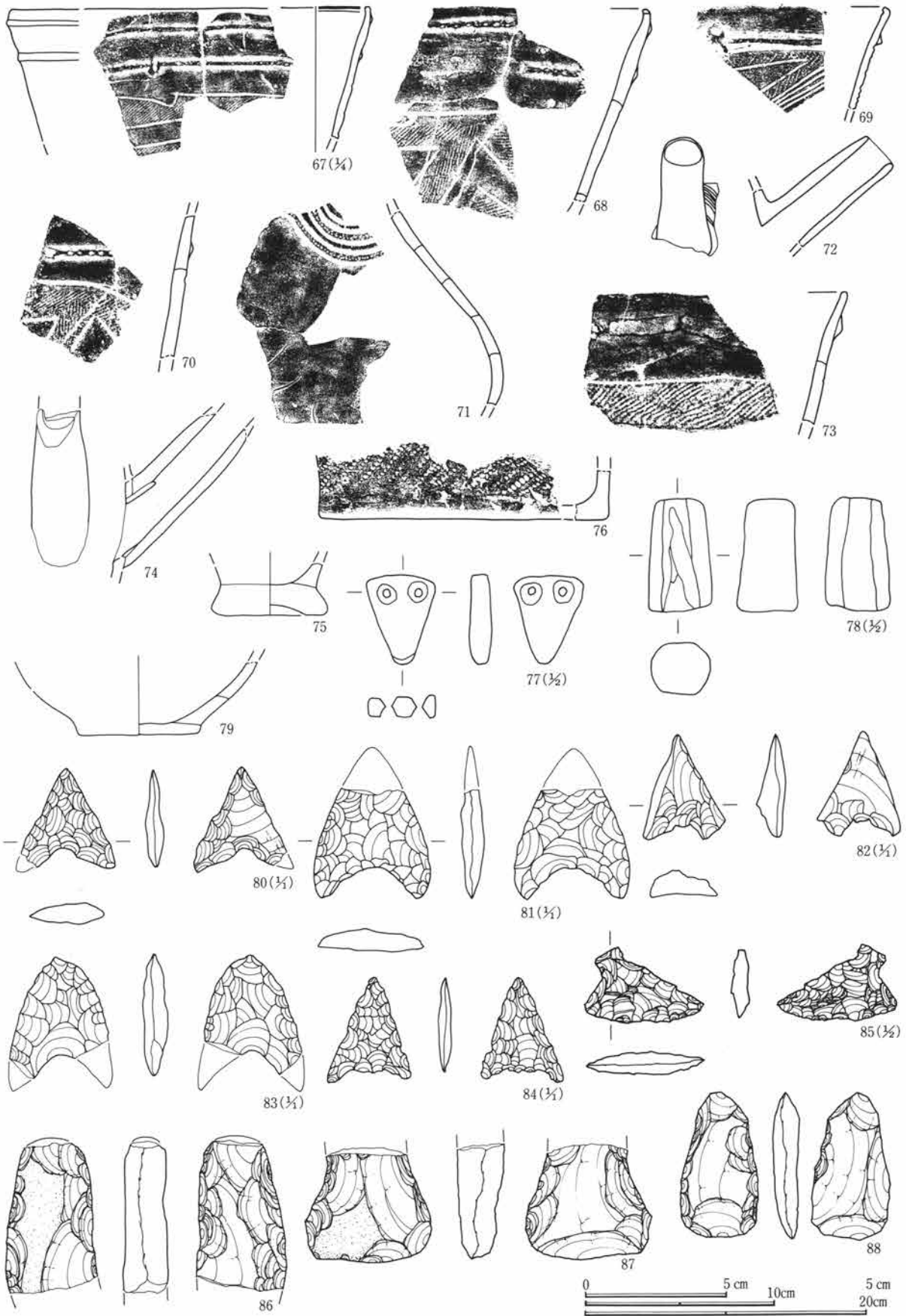
第225図 他遺構混入遺物 (1)



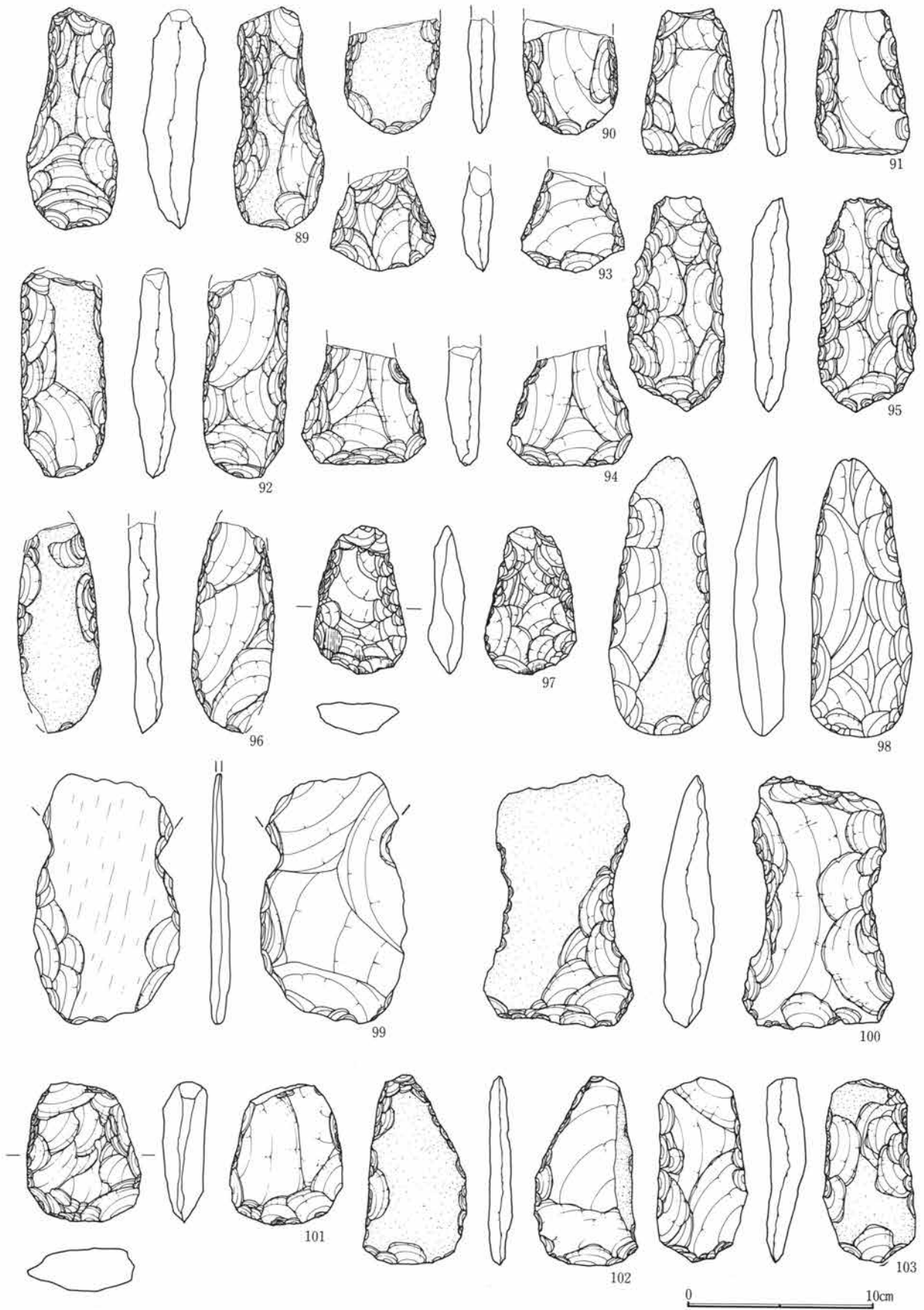
第226図 他遺構混入遺物 (2)



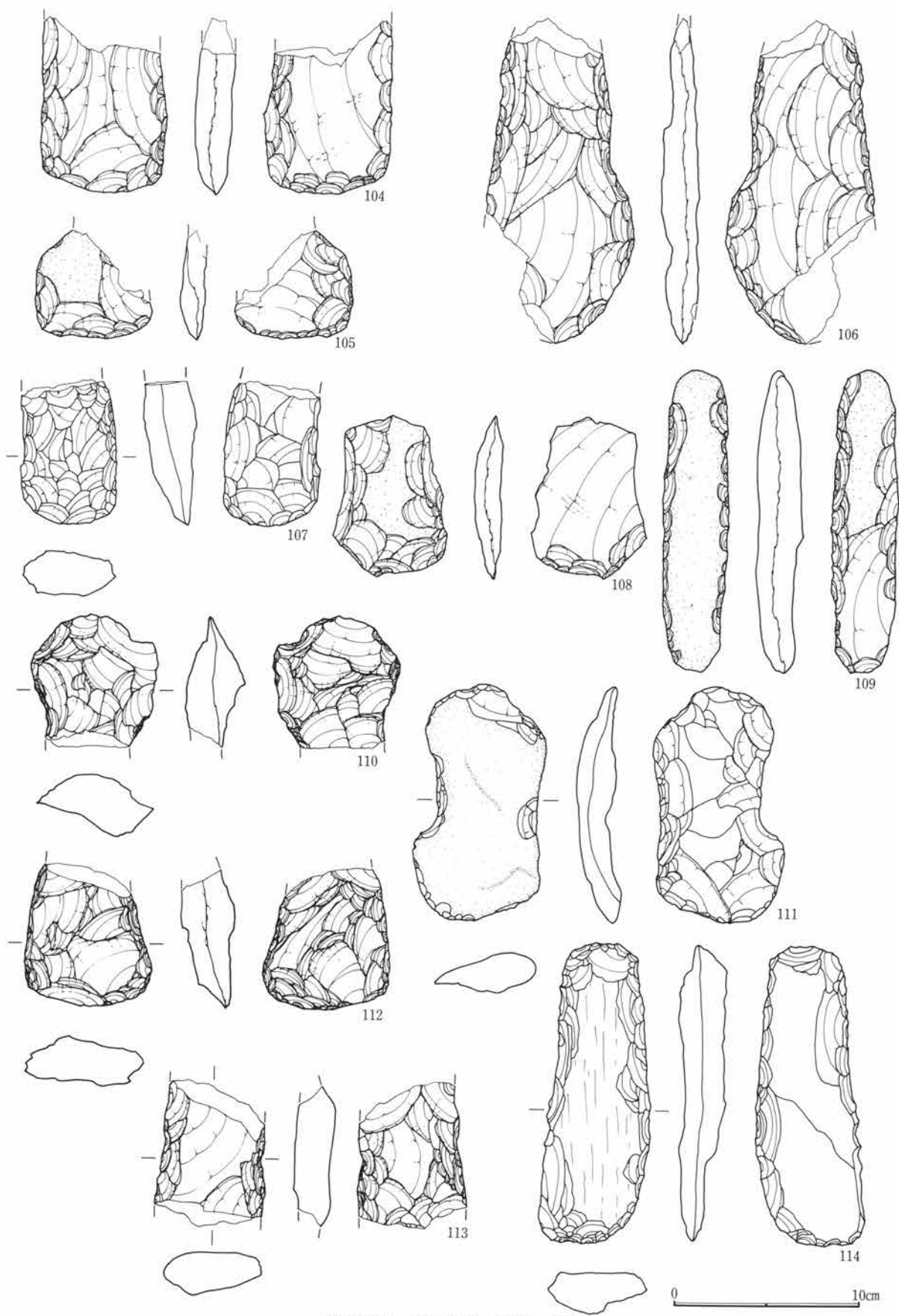
第227図 他遺構混入遺物 (3)



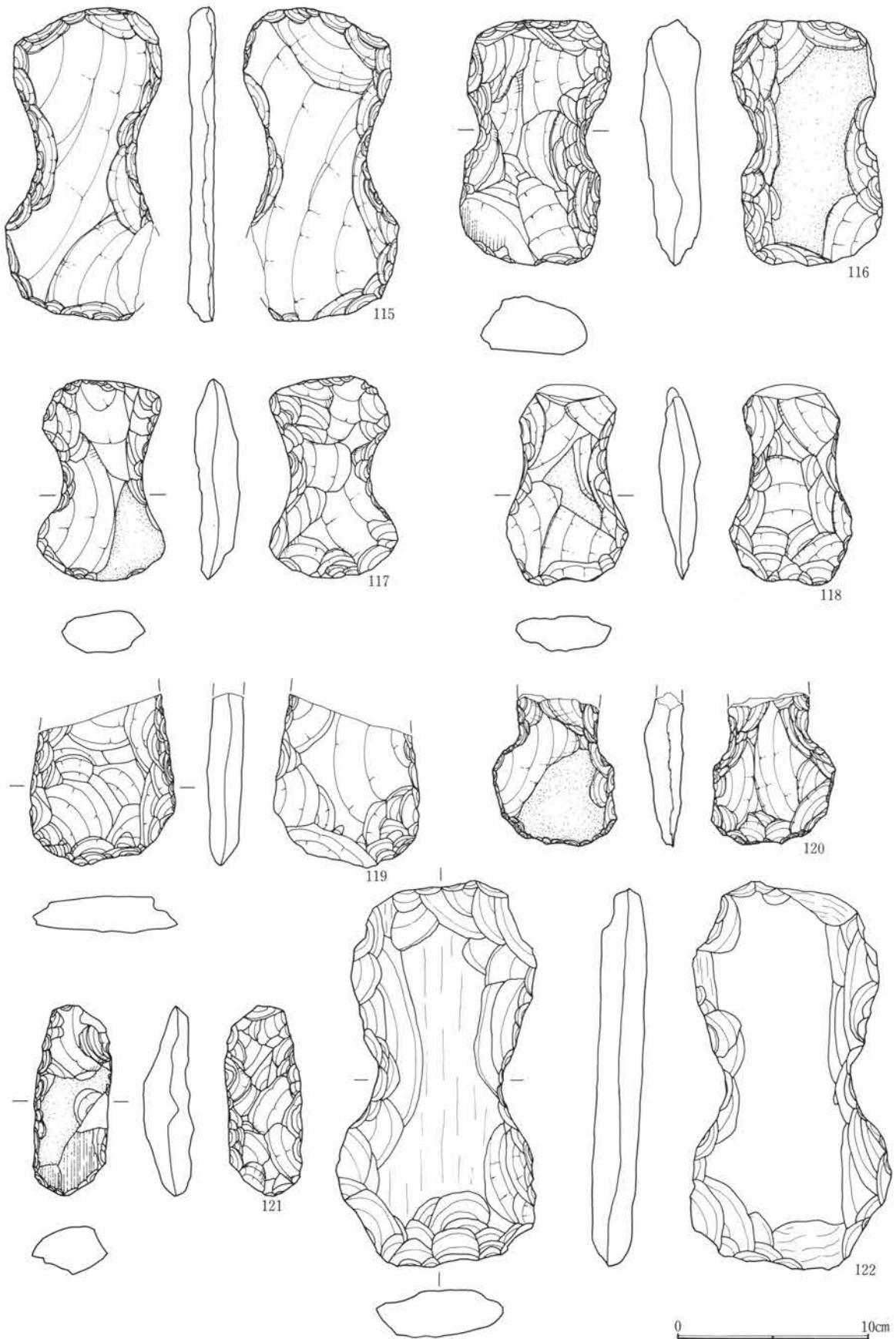
第228図 他遺構混入遺物 (4)



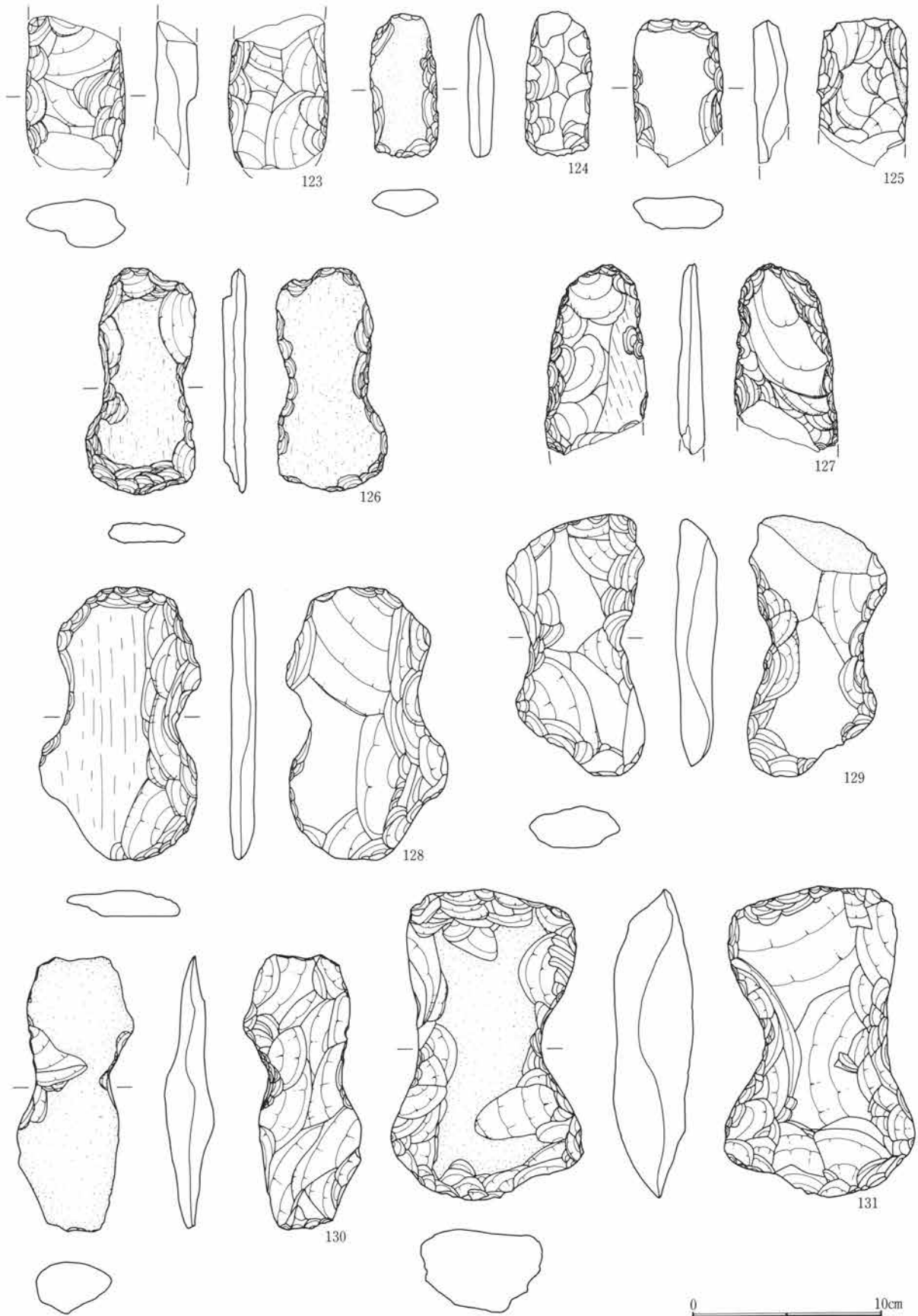
第229図 他遺構混入遺物 (5)



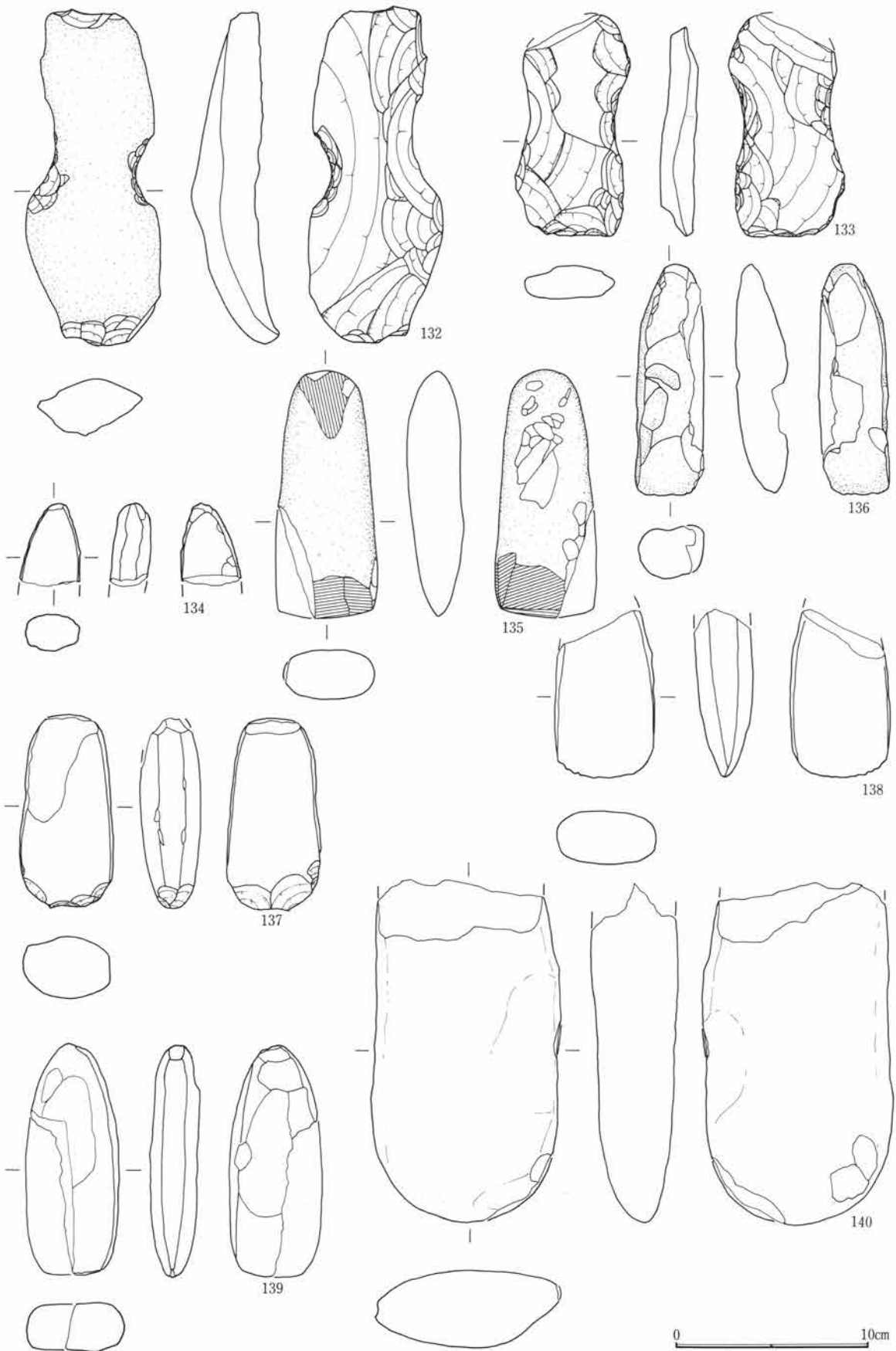
第230図 他遺構混入遺物 (6)



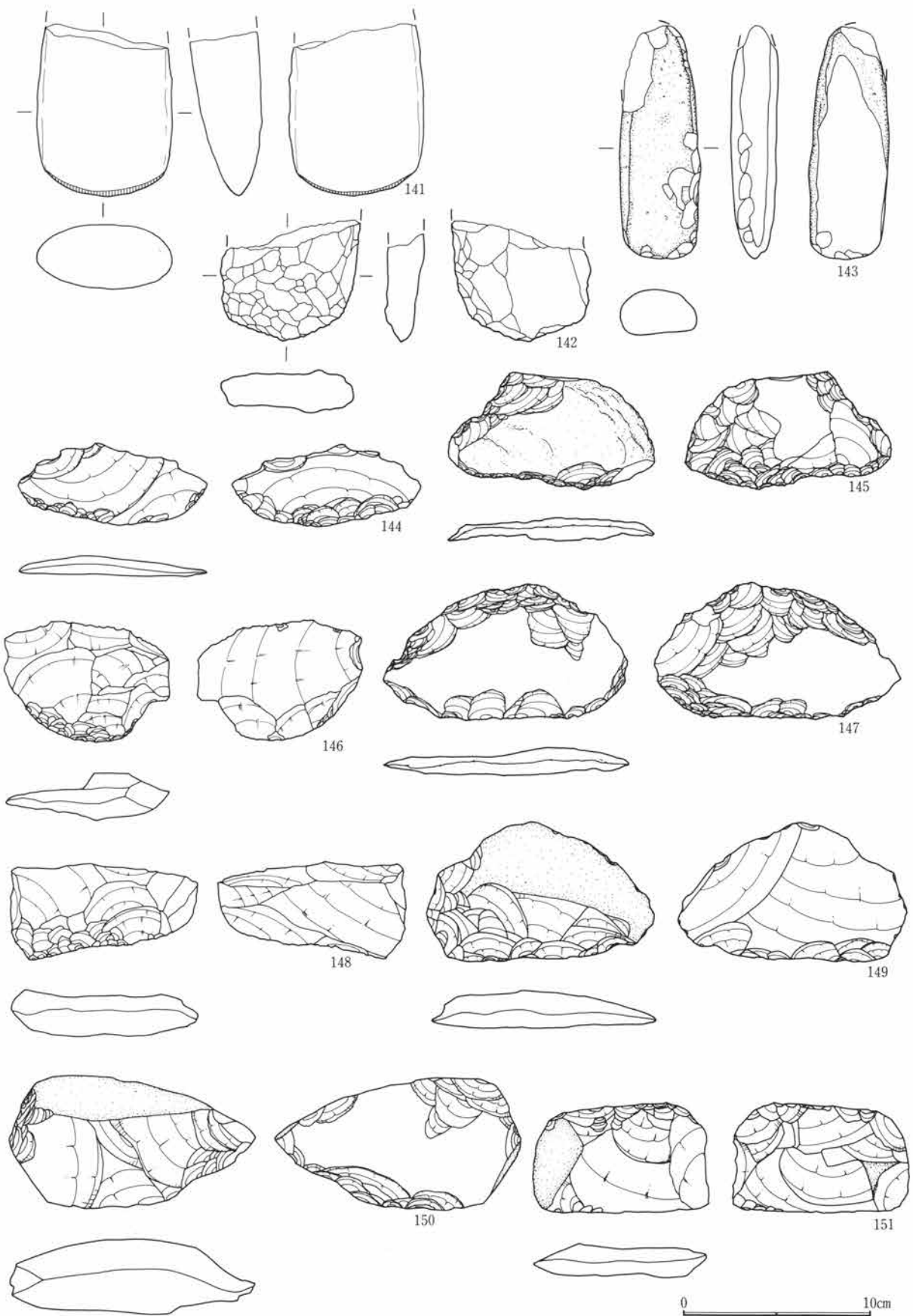
第231図 他遺構混入遺物 (7)



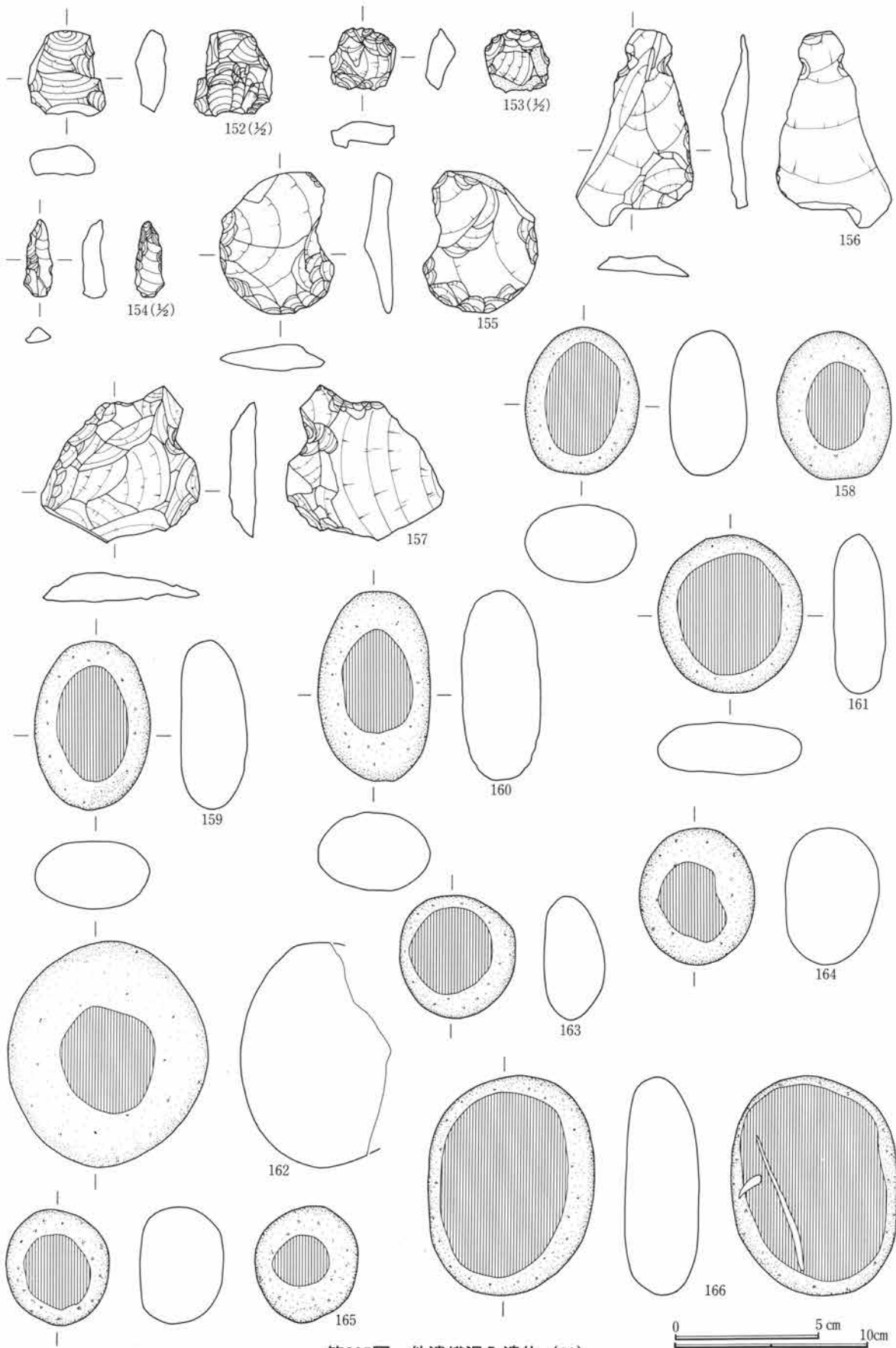
第232図 他遺構混入遺物 (8)



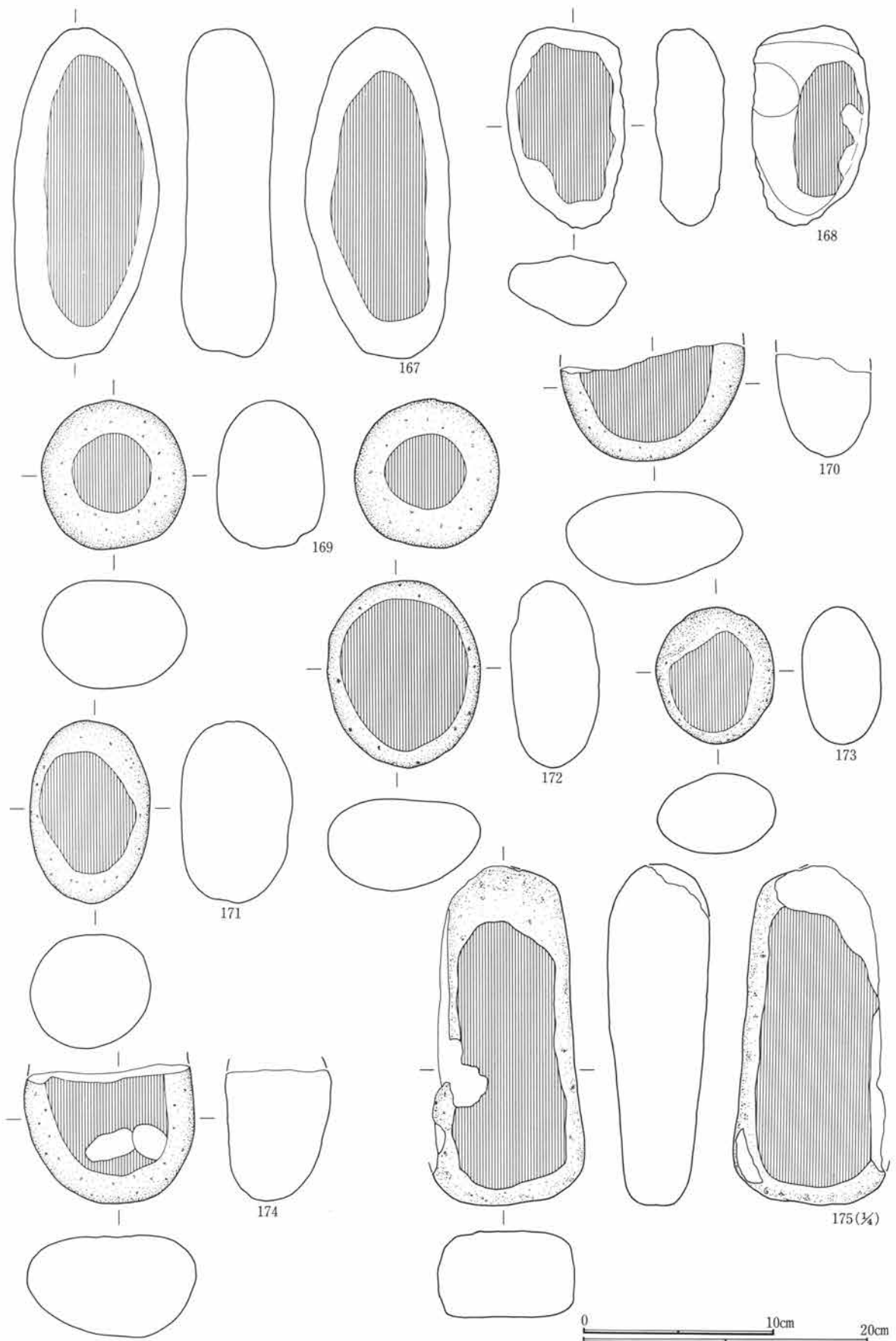
第233図 他遺構混入遺物(9)



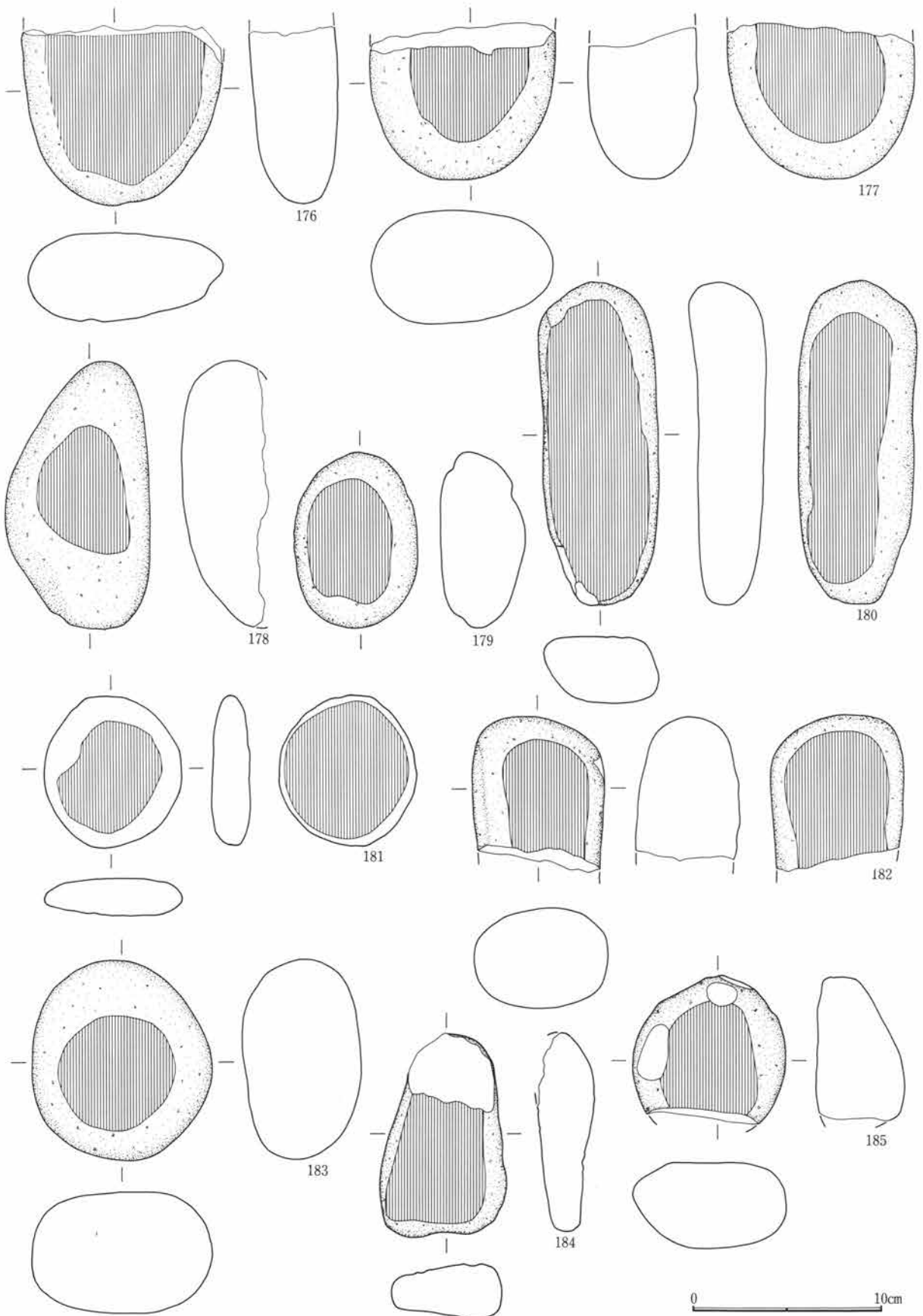
第234図 他遺構混入遺物 (10)



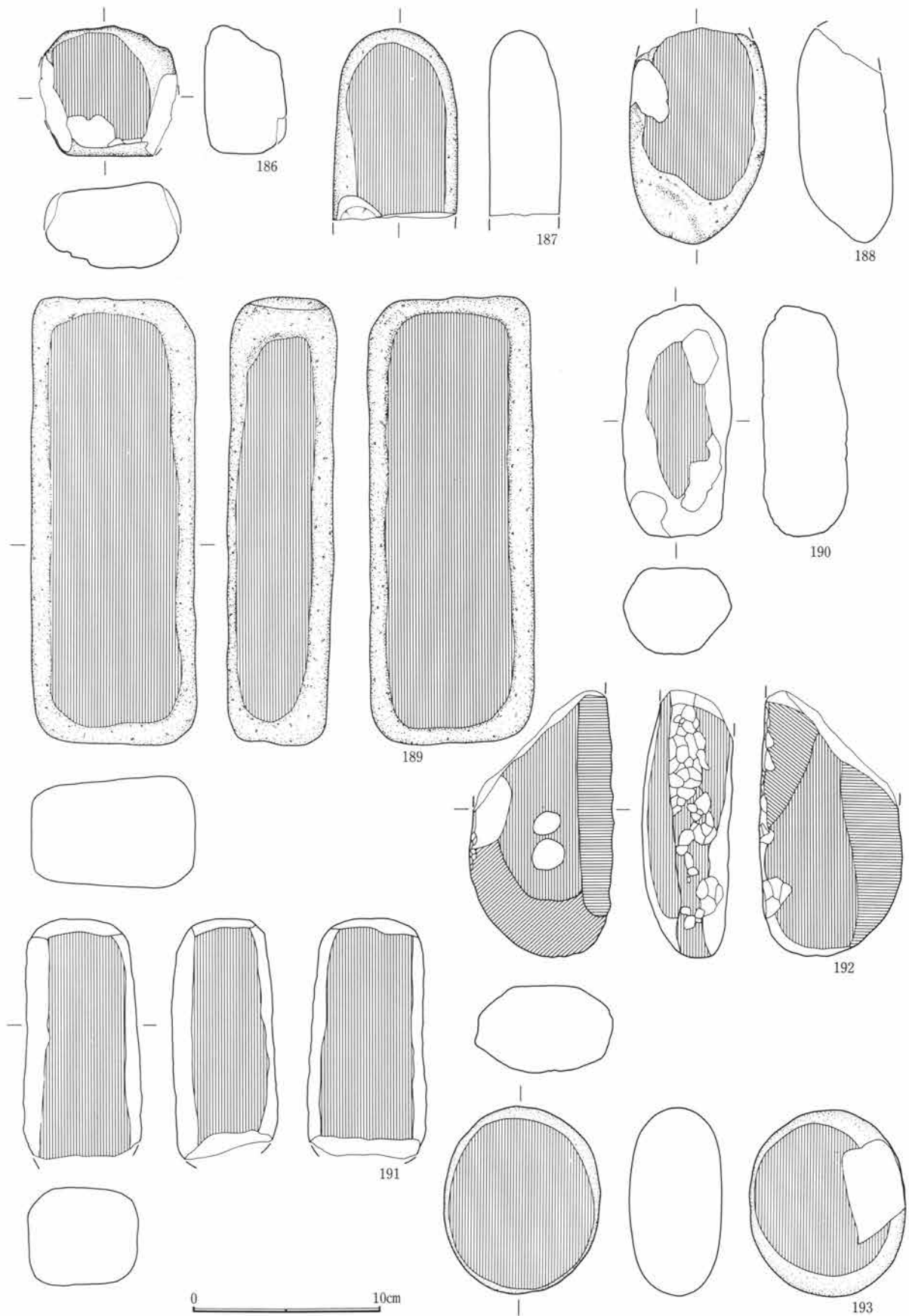
第235図 他遺構混入遺物 (11)



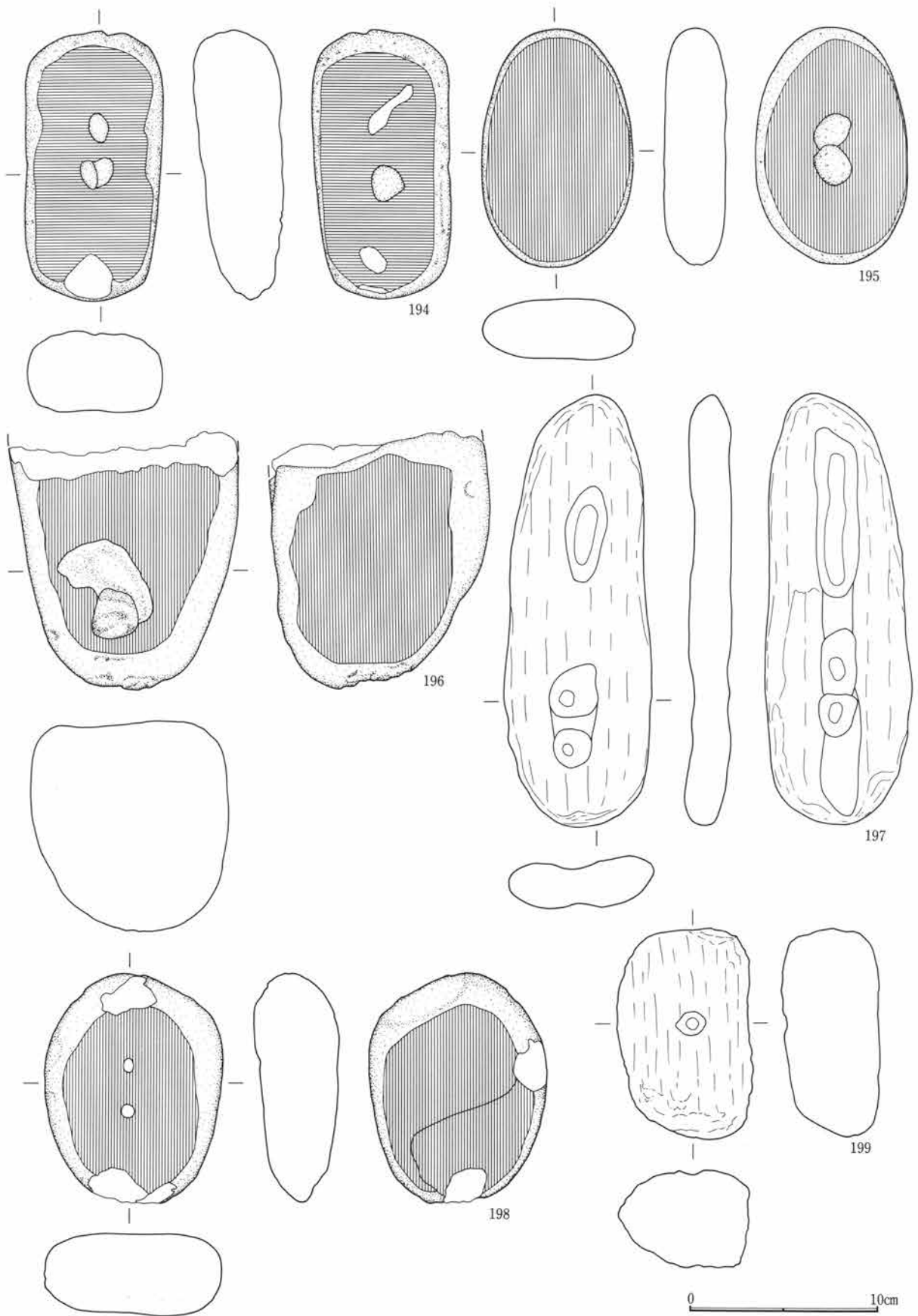
第236図 他遺構混入遺物 (12)



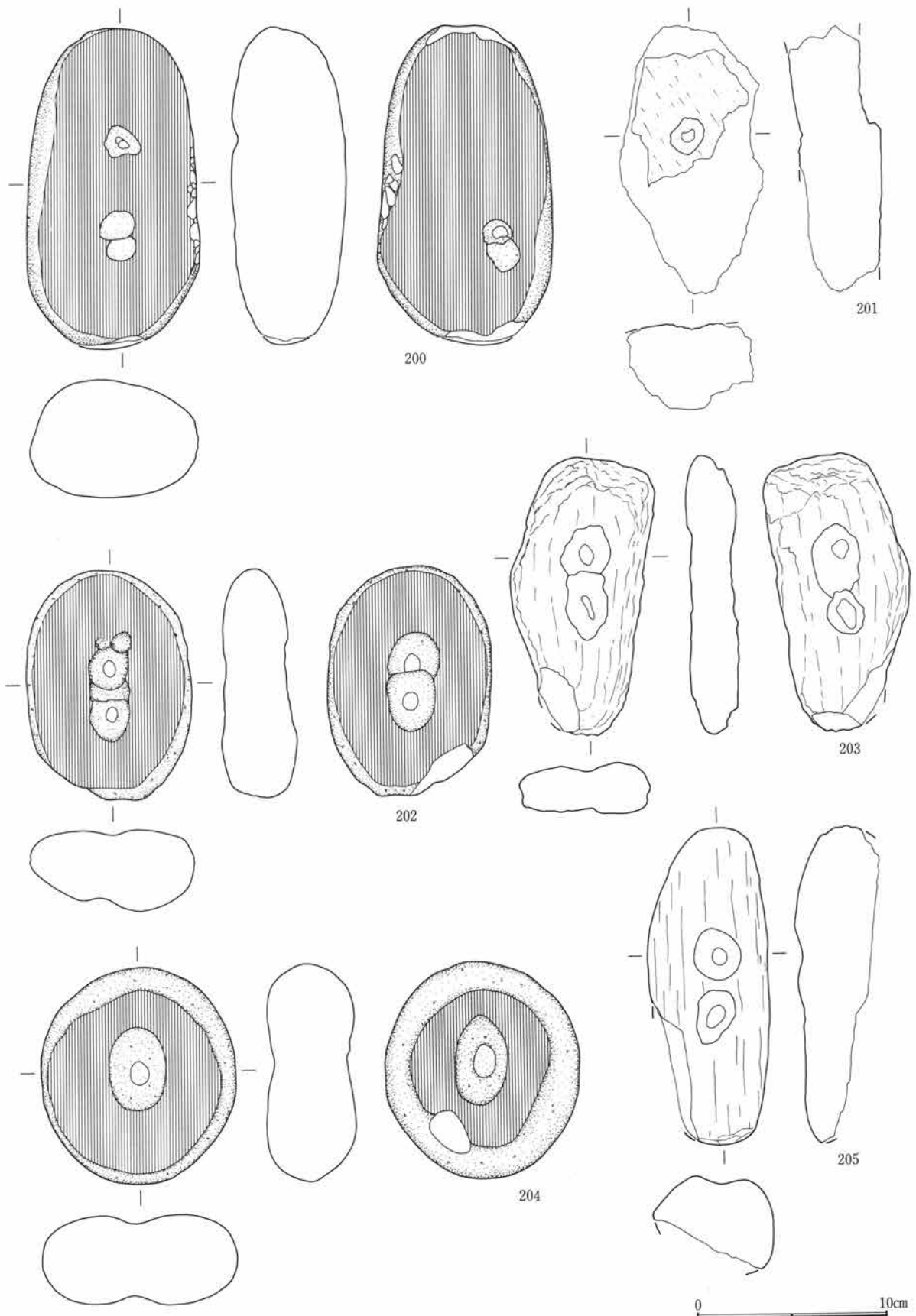
第237図 他遺構混入遺物 (13)



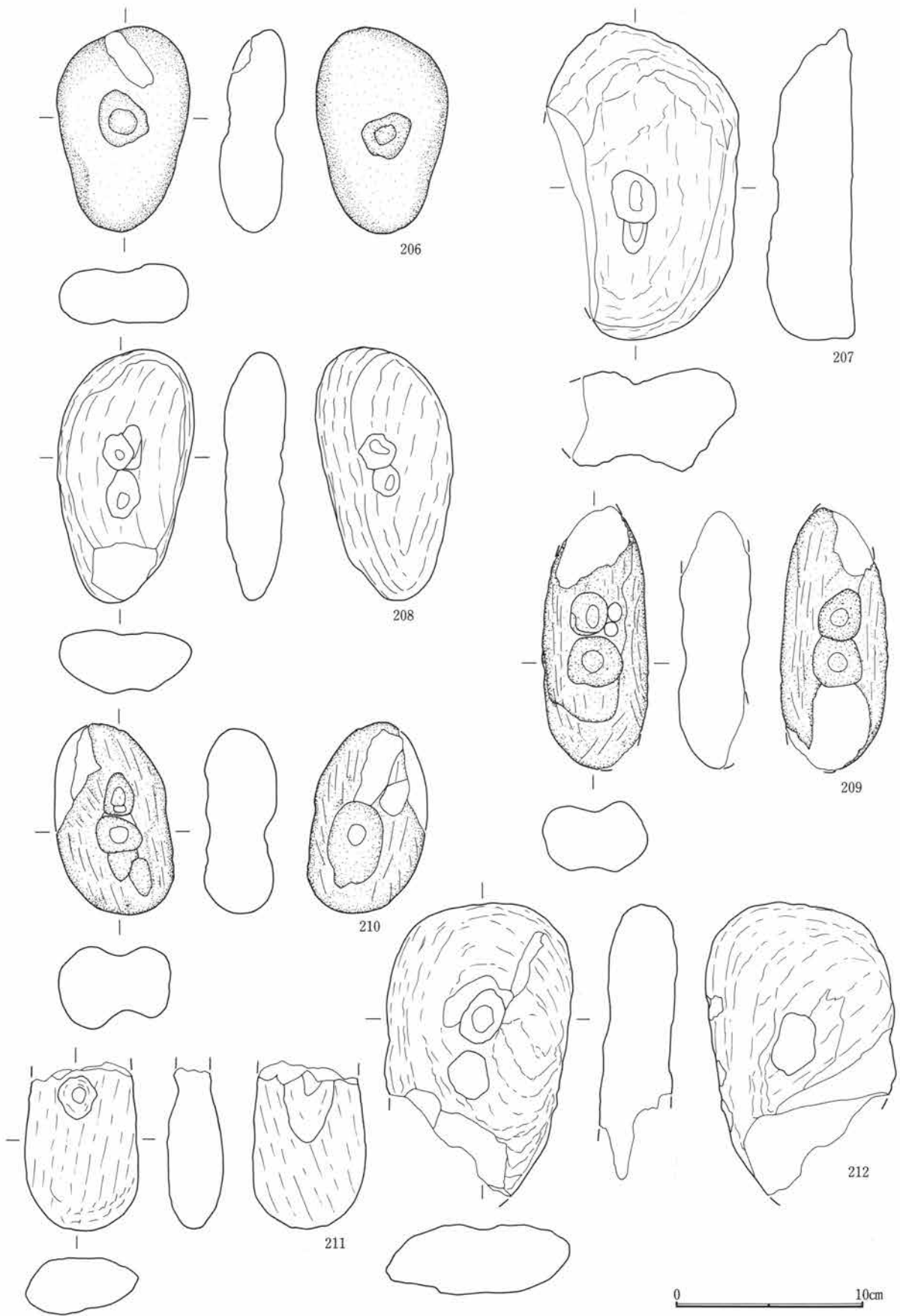
第238図 他遺構混入遺物 (14)



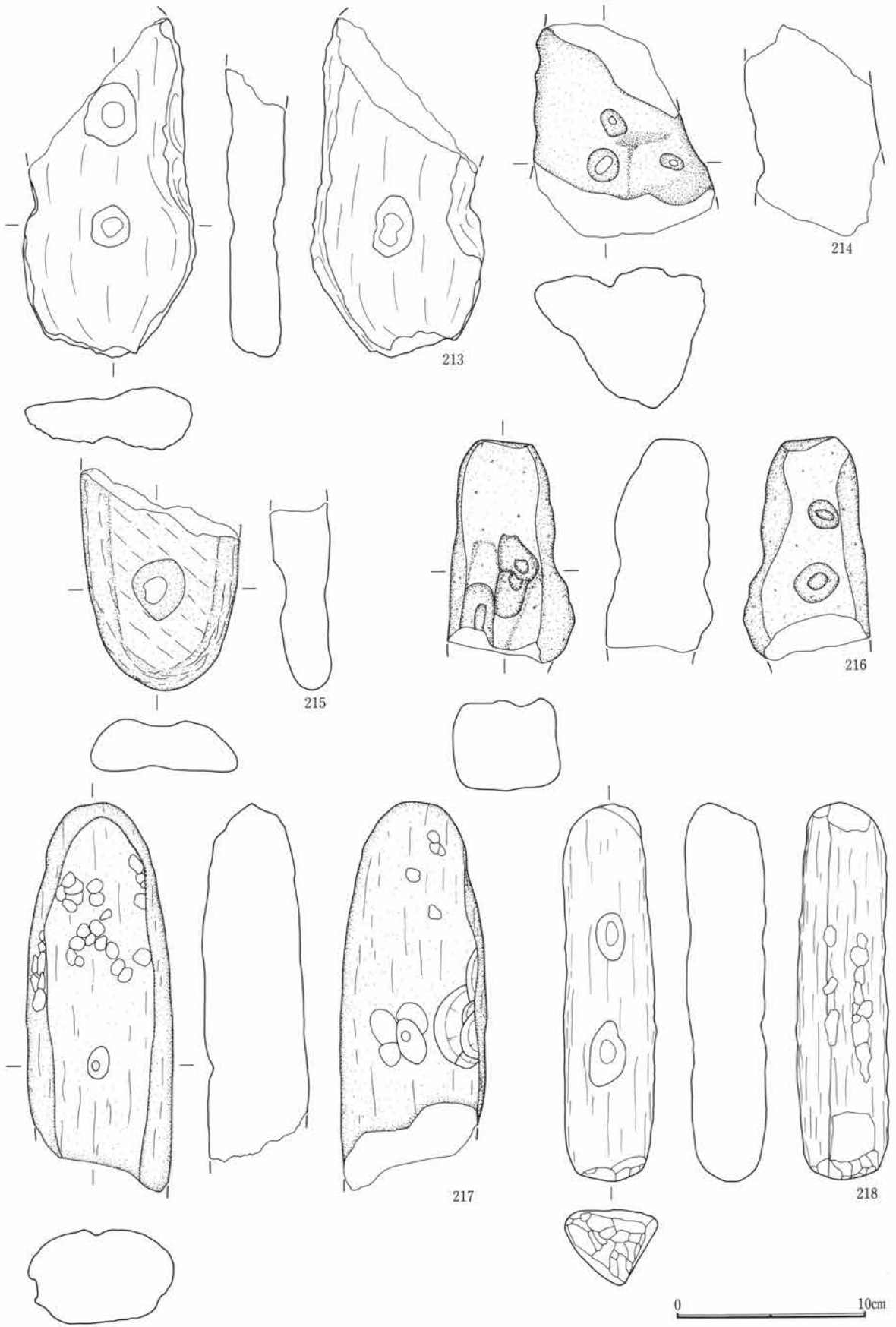
第239図 他遺構混入遺物 (15)



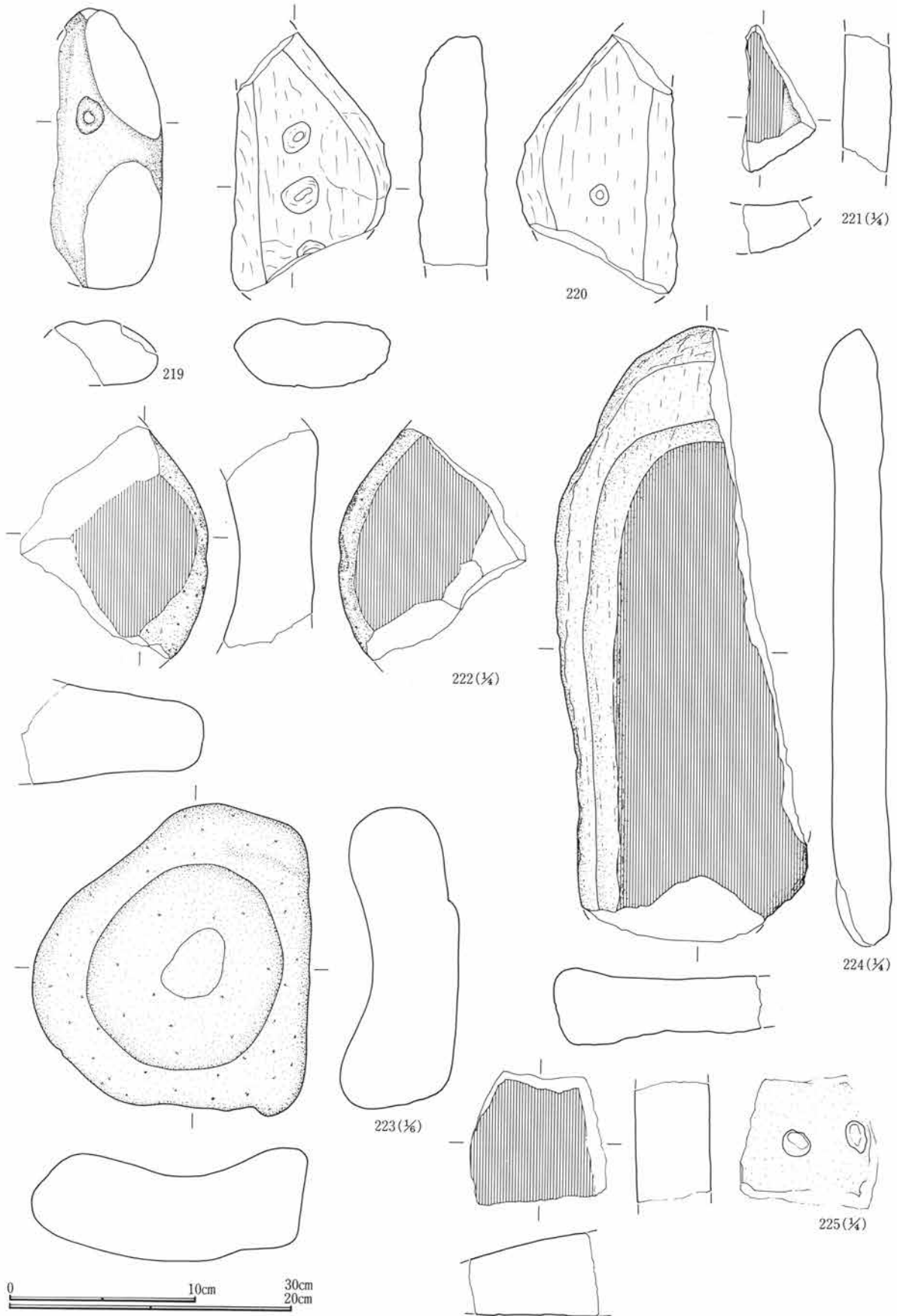
第240図 他遺構混入遺物 (16)



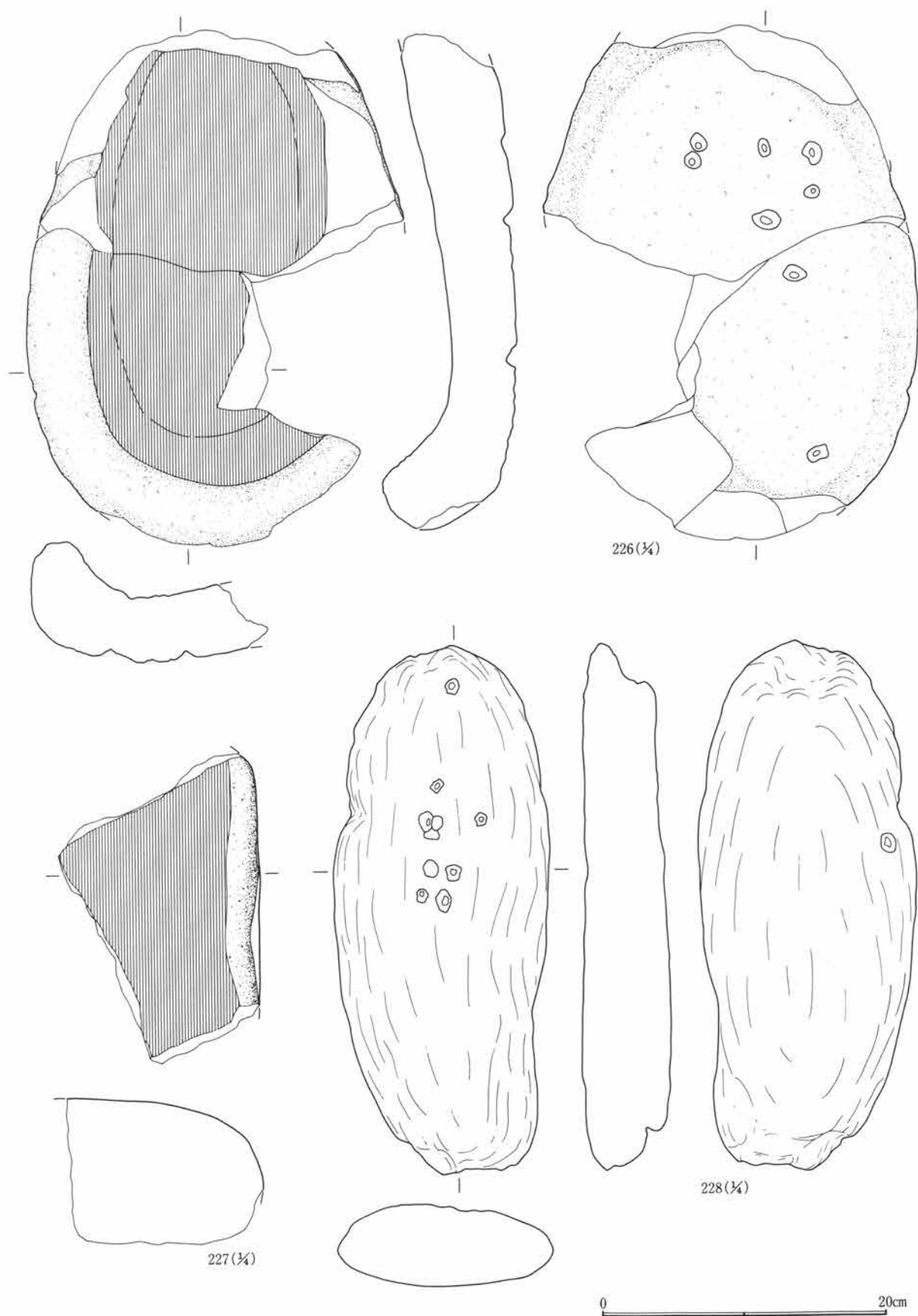
第241図 他遺構混入遺物 (17)



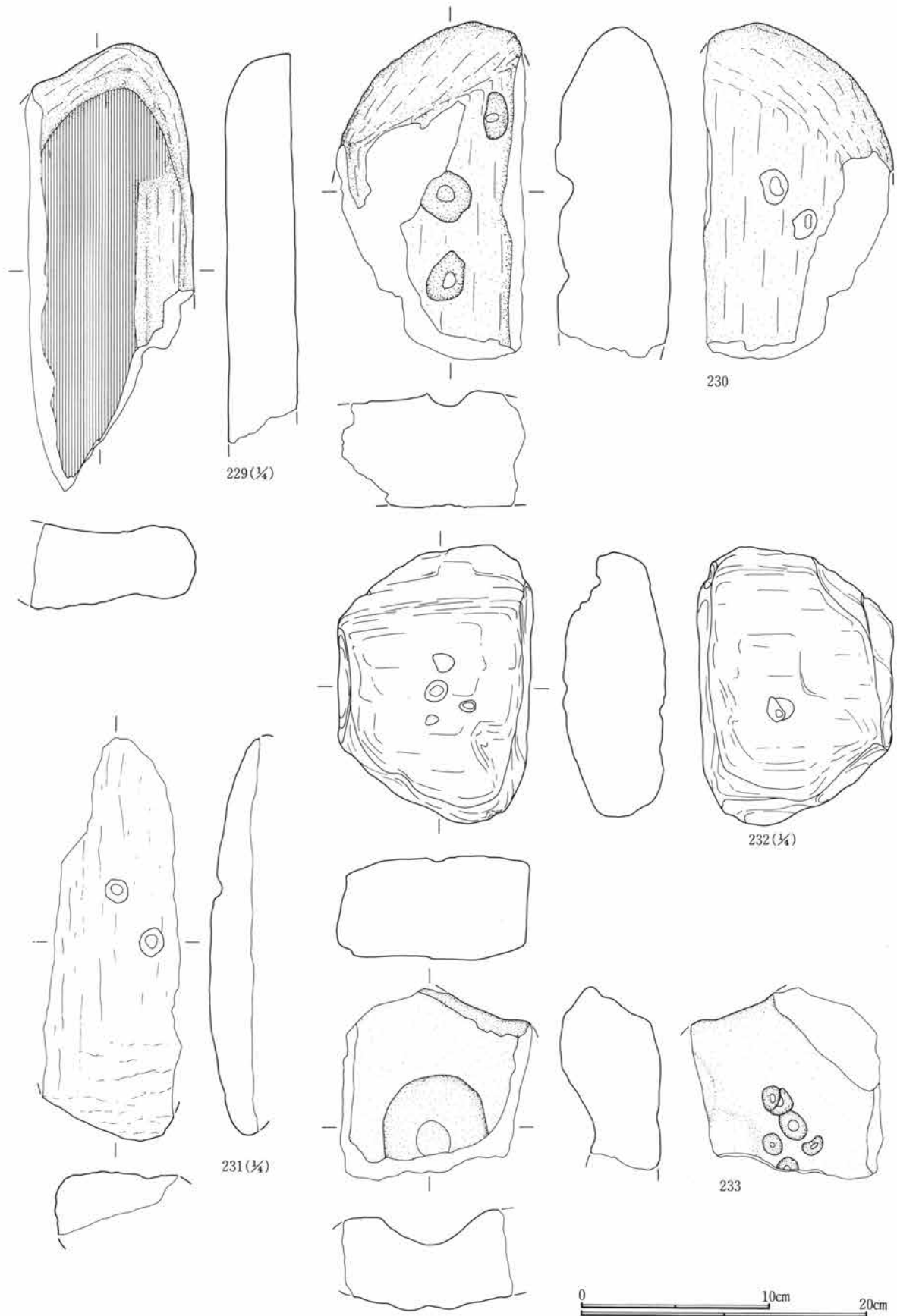
第242図 他遺構混入遺物 (18)



第243図 他遺構混入遺物 (19)



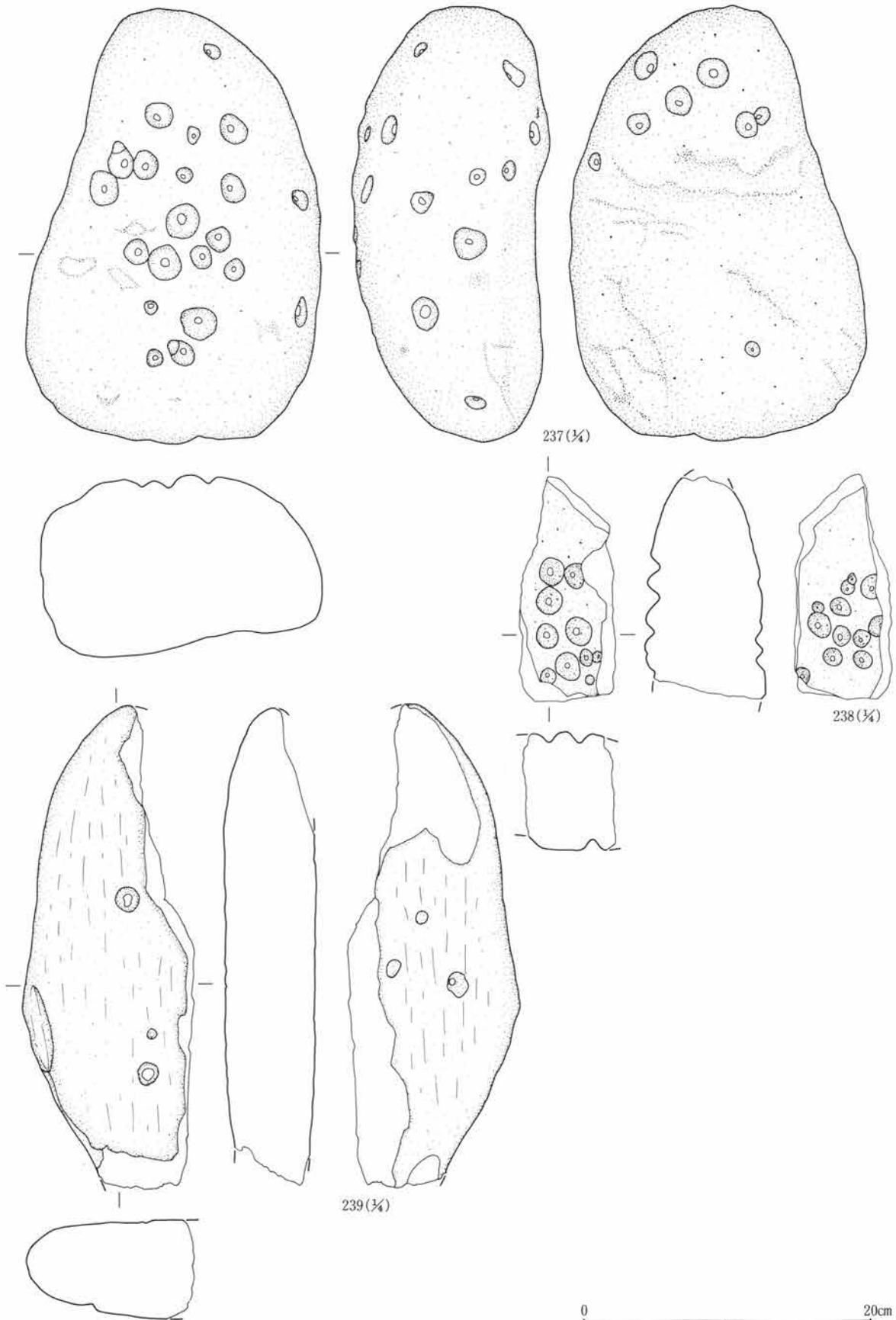
第244図 他遺構混入遺物 (20)



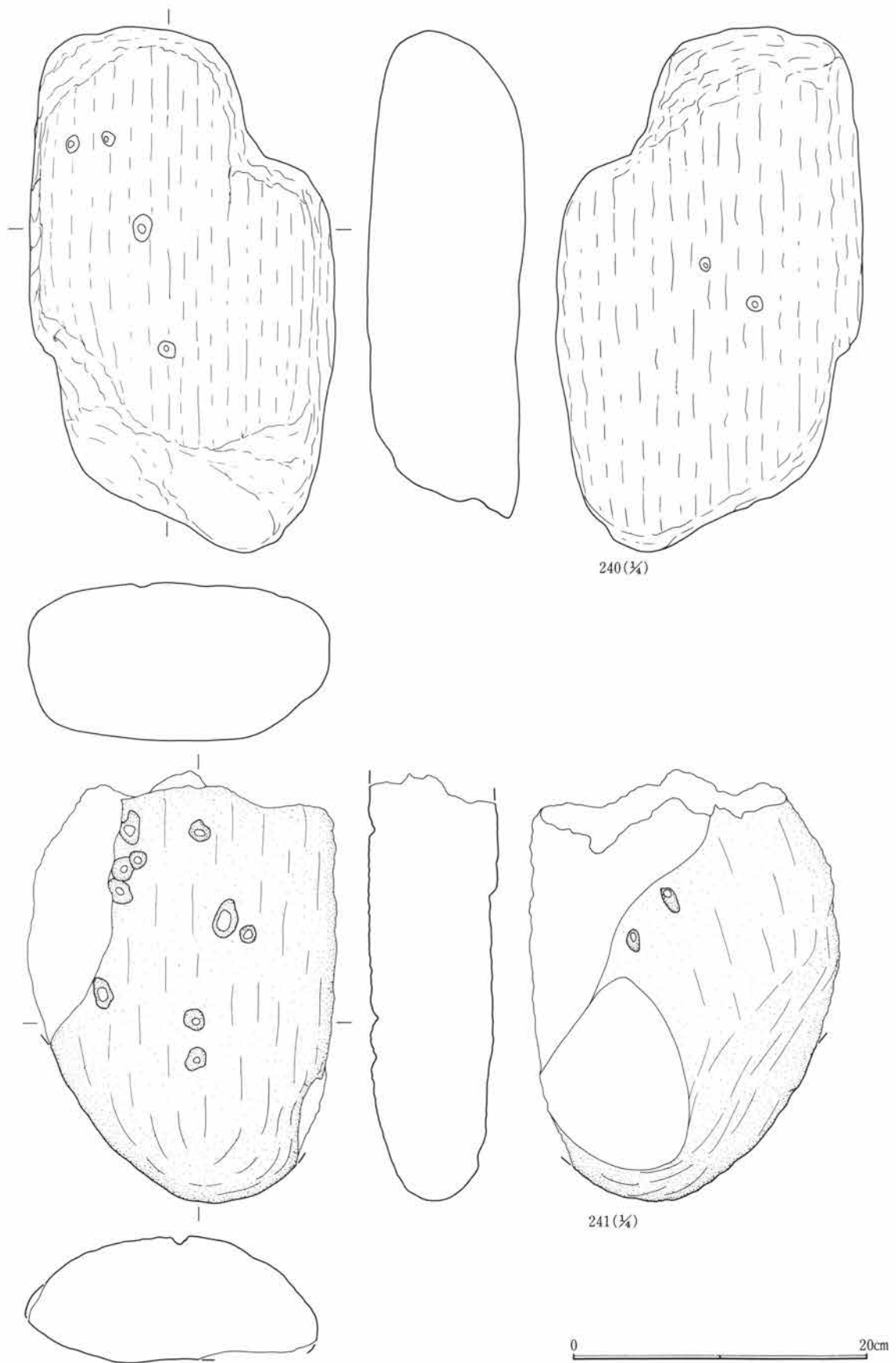
第245図 他遺構混入遺物 (21)



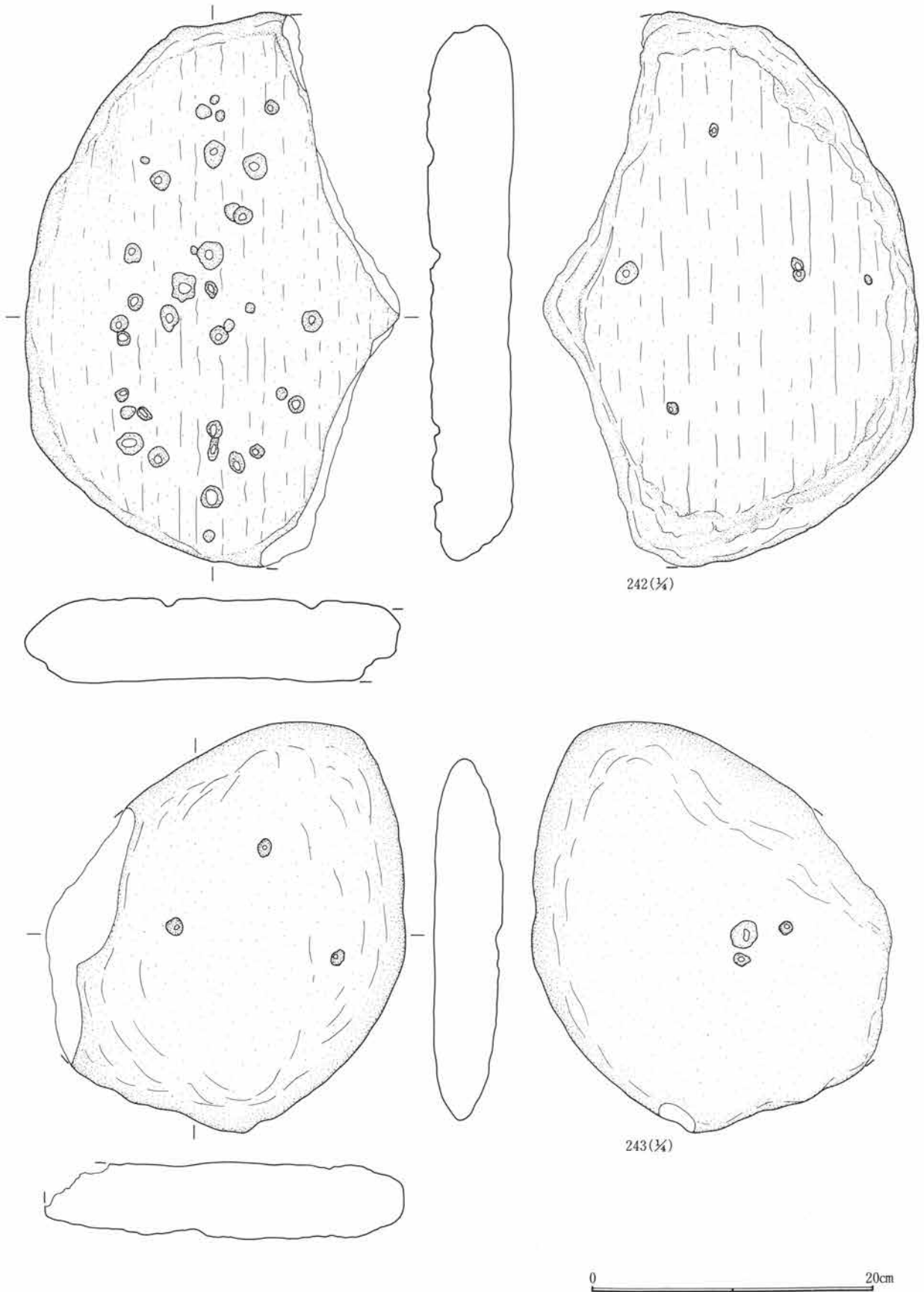
第246図 他遺構混入遺物 (22)



第247図 他遺構混入遺物 (23)



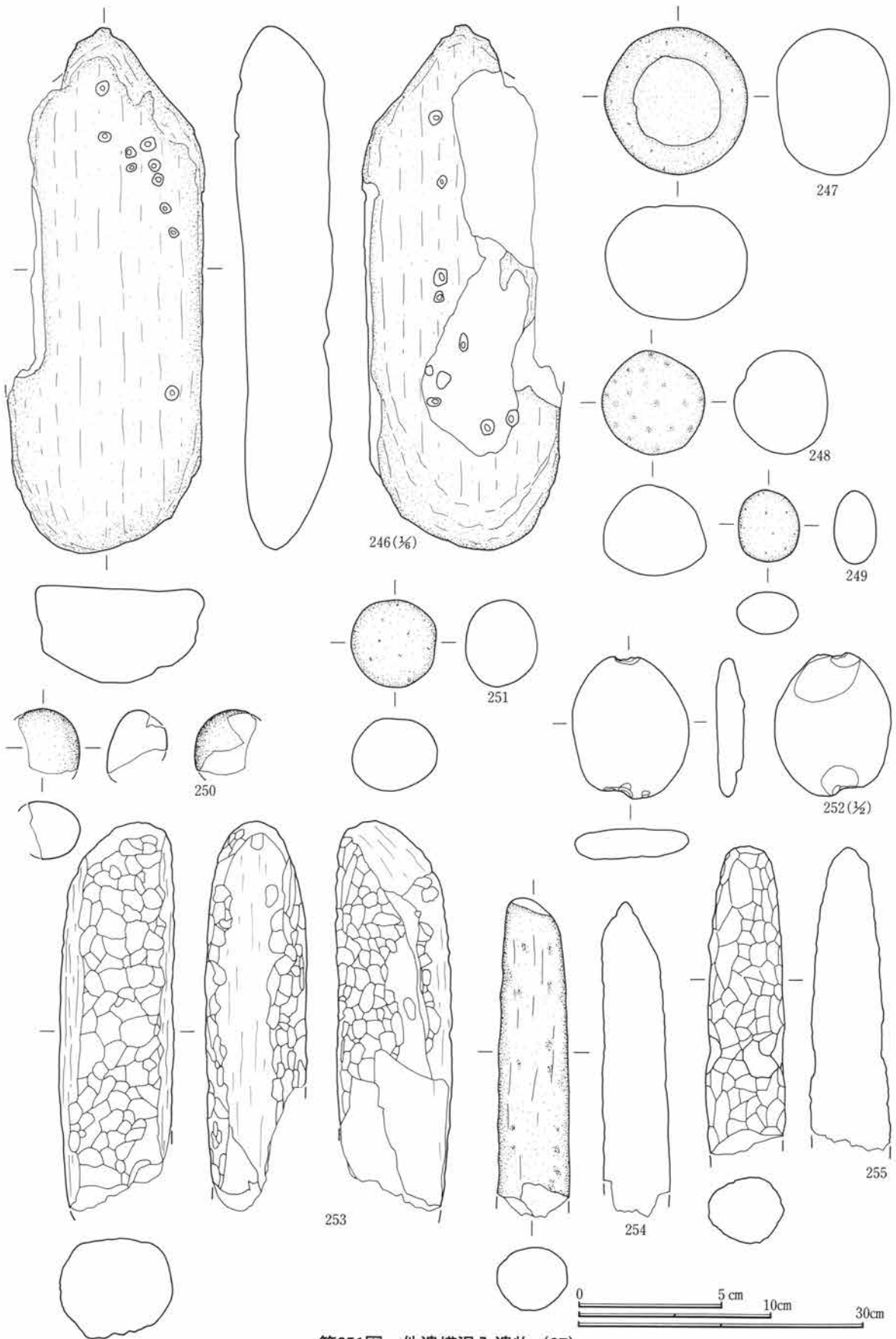
第248図 他遺構混入遺物 (24)



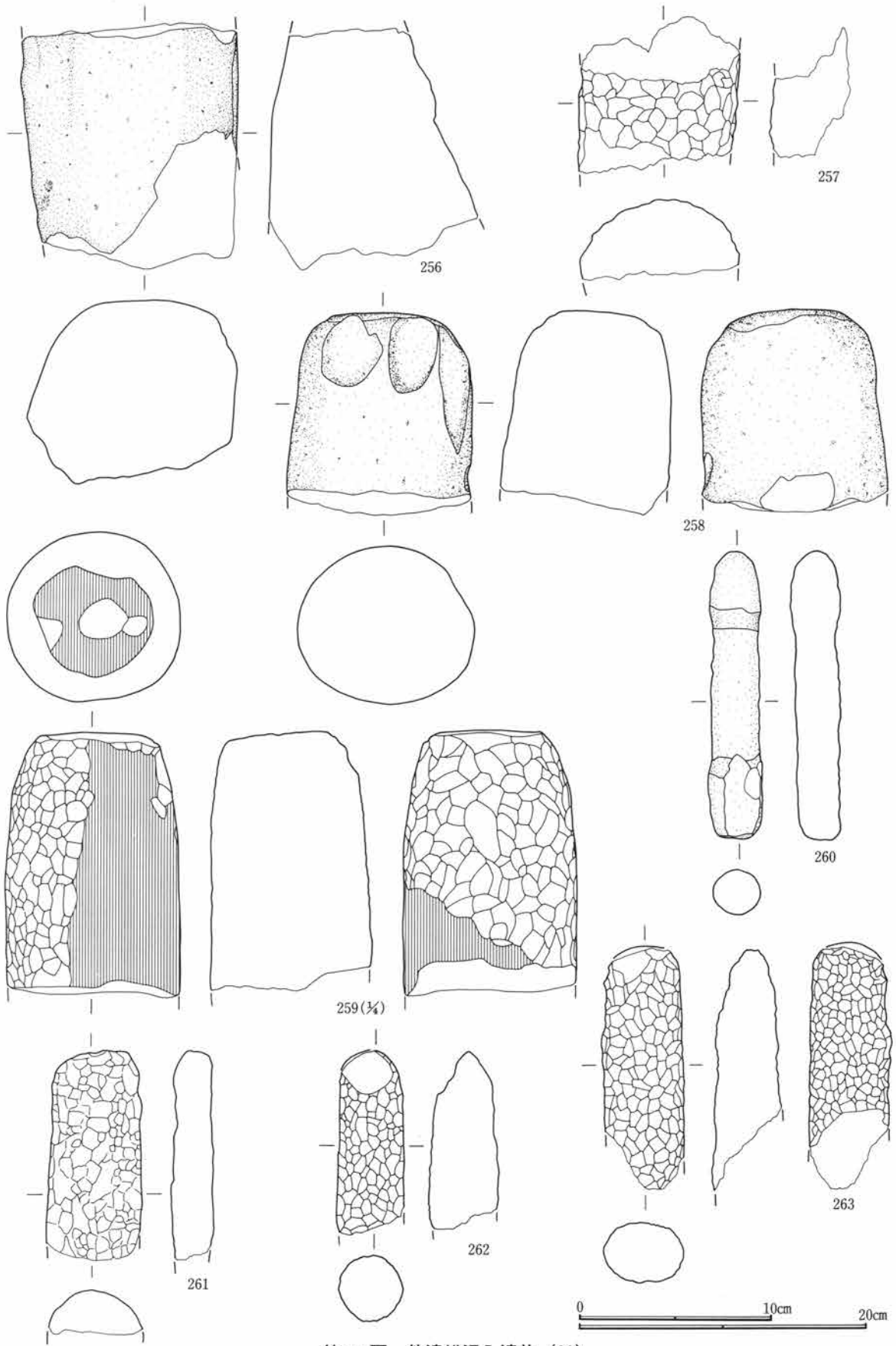
第249図 他遺構混入遺物 (25)



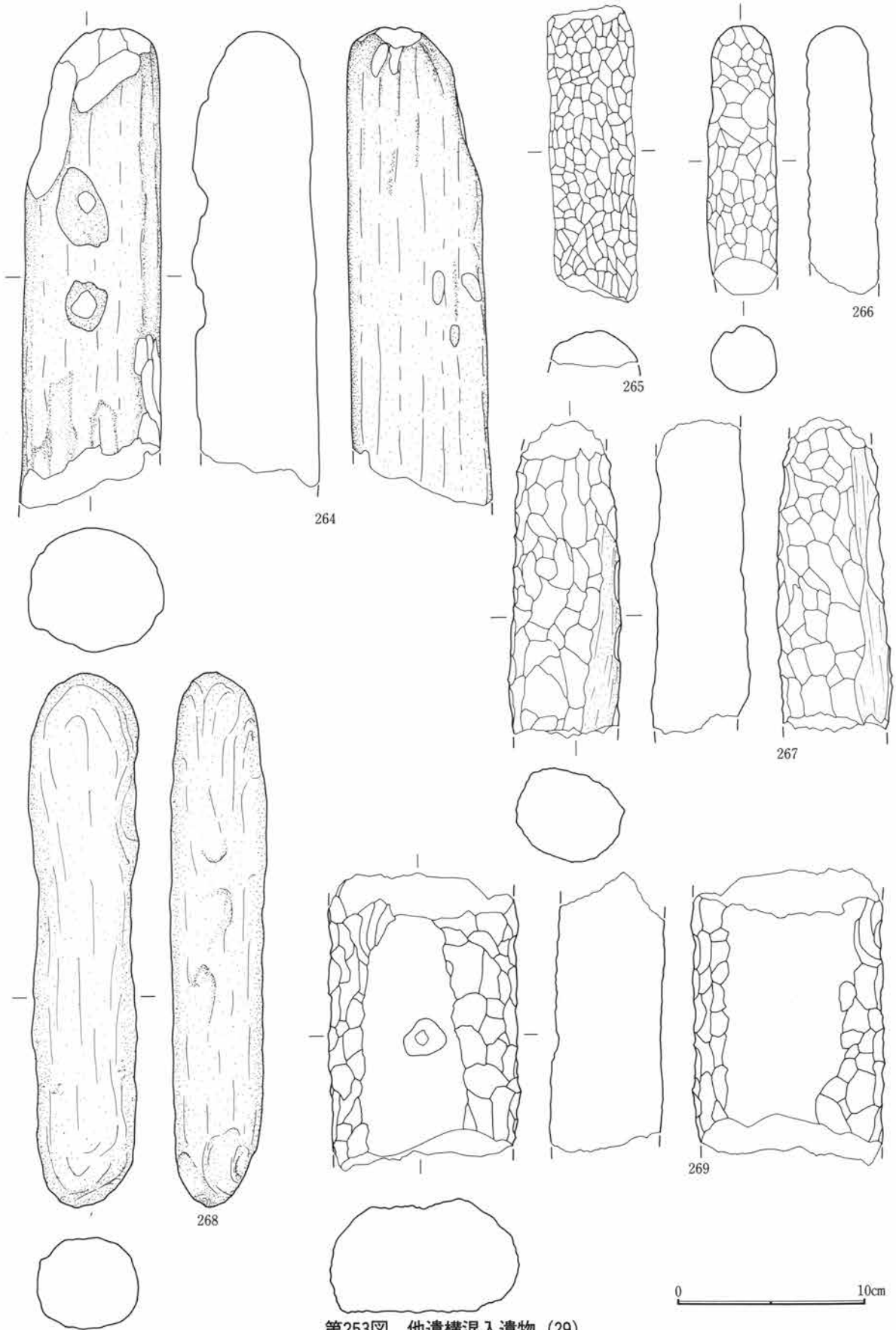
第250図 他遺構混入遺物 (26)



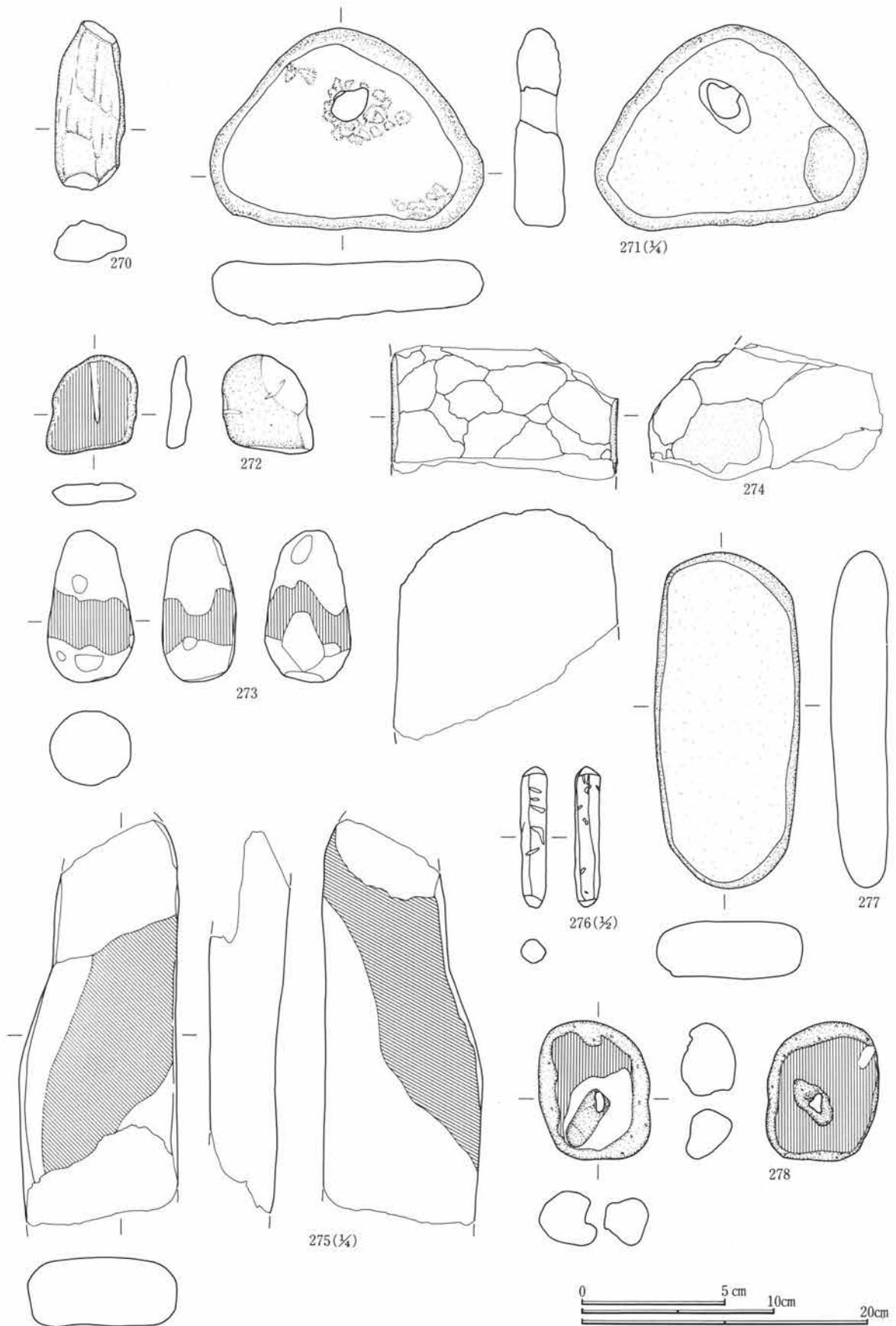
第251図 他遺構混入遺物 (27)



第252図 他遺構混入遺物 (28)



第253図 他遺構混入遺物 (29)



第254図 他遺構混入遺物 (30)

他遺構混入土器観察表

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
1	深鉢口縁部	17号住居	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒・繊維を微量含む	器厚11mm	直前段合燃L $\left\{ \begin{matrix} R \\ L \\ L \\ R \end{matrix} \right\}$ 縄文か	I 2	
2	深鉢胴部	16号住居	①黒褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子・繊維を含む	器厚6~10mm 内面研磨	直前段合燃 $\left\{ \begin{matrix} R \\ L \\ L \\ R \end{matrix} \right\} \cdot R \left\{ \begin{matrix} L \\ R \\ L \\ L \end{matrix} \right\}$ 縄文	I	
3	深鉢胴部	6号井戸	①にぶい黄褐 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・繊維を少量含む	器厚7~8mm 内面研磨	直前段合燃 $\left\{ \begin{matrix} R \\ L \\ L \\ R \end{matrix} \right\}$ 縄文 半截竹管状による起線文	I	
4	深鉢口縁部	17号住居	①橙 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒・繊維を含む	器厚13mm 内面研磨か	半截竹管による平行内側結節沈線	I 2	
5	深鉢胴部	6号井戸	①明褐 ②明黄褐 ③不良 ④粗 砂粒・繊維を少量含む	器厚8~10mm 内面研磨	直前段合燃L $\left\{ \begin{matrix} R \\ L \\ L \\ L \end{matrix} \right\}$ 縄文	I 2	
6	深鉢胴部	19住 20住	①褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子・繊維を含む	胴径(25.6cm) 内面研磨	L R 縄文横回転	I 2	
7	深鉢底部	6号井戸	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫・繊維を含む	底径(6.7cm) 内面ナデ	上げ底 高台貼付け	I	
8	深鉢底部	23号住居	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒・繊維を含む	底径(8.0cm) 内面ナデ	R L 無節縄文 上げ底	I	
9	深鉢胴部	17号住居	①褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・繊維を少量含む	器厚8~10mm 内面研磨か	隆帯文・円形隆帯文上に刻み	I	
10	深鉢口縁部	64耕 作溝	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	口径(25.2cm) 内面研磨	半截竹管状工具による結節沈線 ・沈線 連続する三角印刻文	II 1	
11	深鉢底部	33号土坑	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9~12mm 内面研磨	L R 結節縄文縦回転	II 4	
12	深鉢口縁部	23号住居	①褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	器厚10mm 内面研磨	口縁部内面L R 縄文・外面L R 結節縄文 直前段反燃L $\left\{ \begin{matrix} L \\ L \\ L \end{matrix} \right\}$ 縄文	II 4	
13	深鉢口縁部	16号住居	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・石英粒・長石粒を多く含む	器厚10~13mm 内面研磨	沈線区画内に集合沈線 三角印刻文	II 2	
14	深鉢口縁部	16号住居	①にぶい赤褐 ②赤褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器厚7~11mm 内面研磨か	口縁部外面L R 縄文 沈線区画内に三叉文 L R 縄文 隆帯文	II 1	
15	深鉢胴部	16号住居	①明赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚3~7mm 内面研磨か	幅広の隆帯上に格子状の平行沈線	II 1	
16	深鉢胴部	97号土坑	①黒褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚7~10mm 内面研磨	L R 結節縄文縦回転	II 4	
17	深鉢胴部	16号住居	①橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒・雲母を含む	器厚9~12mm 内面研磨か	半截竹管状工具による平行沈線連続刺突文 R L 縄文(?)	II 1	
18	深鉢口縁部	17耕 作溝	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	器厚33mm 内面研磨	橋状把手に円形隆帯文 沈線 連続刺突文 沈線・集合沈線	II 1	
19	深鉢口縁部	33号土坑	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を多く含む	器厚12mm 内面研磨	口唇部に刻み 結節沈線	III 3	
20	深鉢口縁部	3号配石	①褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・金雲母を含む	器厚12mm 内面研磨	口縁部内面交互に連続三叉文 結節沈線 山形沈線	III 3	
21	深鉢把手部	土壘 下	①明褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・金雲母を多く含む	器厚7~34mm 内外面ナデか	口縁部把手に透孔 口唇部に刻み 2条の結節沈線	III 3	
22	深鉢胴部	1号井戸	①にぶい黄橙 ②明赤褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚7~16mm 内外面研磨	幅広の沈線に2つの橋状把手	IV 3	
23	深鉢胴部	152号土坑	①にぶい褐 ②褐灰 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚11~14mm 内外面研磨	隆帯文	V 1	
24	深鉢胴部	外堀	①明赤褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 砂粒を多く含む	底径(10.0cm) 内面研磨か	隆帯文区画内にR L 縄文縦回転	IV 1	
25	深鉢口縁部	33号土坑	①明褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	器厚10mm 内面研磨	沈線区画内にL R 縄文	V 3	
26	深鉢胴部	33号土坑	①橙 ②橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚11mm 内面研磨	沈線区画内にR L 縄文	V 3	
27	深鉢把手部	11号井戸	①橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚7~9mm 内面研磨	橋状把手脇に隆帯 R L(?) 縄文	V	
28	深鉢口縁部	1号配石	①褐 ②褐 ③良好 ④粗 砂粒・パミスを含む	器厚15mm 内外面研磨	沈線区画内にL R 縄文縦回転	V 3	
29	深鉢口縁部	1号溝	①にぶい黄橙 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	器厚12~17mm 内面研磨	隆帯文区画内にR L 縄文縦回転	V 1	

第III章 検出された遺構と出土遺物

No.	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調量整	文様要素	分類	備考
30	深鉢 胴～底	78耕 作溝	①浅黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(6.4cm) 内面研磨	橋状把手欠損 直前段反摺R { 長縄文	V 4	
31	深鉢 把手	2号 竪穴	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	器厚14～17mm 内面研磨	橋状把手脇に隆帯 沈線区画内に LR縄文	V 3	
32	深鉢 口縁部	外堀	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚17～21mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	V 3	
33	深鉢 把手	6号 井戸	①灰黄褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚11mm 内面研磨	橋状把手脇に隆帯 LR縄文	V 4	
34	深鉢 口縁部	8号 井戸	①灰黄褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚19mm 内面研磨	隆帯文 LR縄文	V 1	
35	深鉢 胴部	外堀	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10～12mm 内面研磨	隆帯文区画内にLR縄文 補修孔 あり	V 1	
36	深鉢 胴部	130号 土坑	①褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚9～10mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VI 1	
37	深鉢 口縁部	11耕 作溝	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚9mm 内面研磨	口縁部突起に透孔 沈線区画内に LR縄文	VI 1	
38	深鉢 胴～底	40号 土坑	①暗赤褐 ②褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を多く含む	底径(9.5cm) 内外面研磨		VII	
39	深鉢 胴部	61号 土坑	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚5～7mm 内面研磨か	沈線区画内に刺突文	VII 1	
40	深鉢 胴部	157号 土坑	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚9mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
41	浅鉢か 口縁部	土塁 下	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚27～34mm 内外面研磨	注口あり 橋状把手に沈線・円 孔・円形貼付文に刺突文	VII 5	
42	深鉢 口縁部	外堀	①明褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚10～14mm 内外面研磨	口縁部外面に連続する押圧文 沈線区画内に刺突文	VII 1	
43	深鉢 口縁部	外堀	①浅黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚10～14mm 内外面研磨	口縁部外面に押圧による沈線 沈線	VII 2	
44	深鉢 口縁部	1号 竪穴	①褐灰 ②淡黄 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚10mm 内面研磨	沈線	VII 2	
45	鉢 口縁部	1号 溝	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8～14mm 内外面研磨	口縁部外面に8の字状貼付文 沈線	VII	外面に煤 付着
46	深鉢 胴部	1号 配石	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚7～8mm 内外面研磨	沈線	VII 2	
47	浅鉢 口縁部	2号 竪穴	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚16mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文 円形沈文 に刺突文	VII 5	
48	深鉢 口縁部	9号 住居	①橙 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚18mm 内面研磨	円形貼付文に刺突文 沈線区画内 にLR縄文	VIII 1	
49	深鉢 口縁部	33号 土坑	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	器厚16mm 内外面研磨	口縁部外面に円孔・沈線 沈線	VIII 2	
50	深鉢 口縁部	1号 竪穴	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚11mm 内外面研磨	口縁部外面に沈線	VIII 4	
51	深鉢 胴部	33号 土坑	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	器厚9mm 内外面研磨	沈線	VIII 4	
52	深鉢 口縁部	3号 配石	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	口径(28.8cm) 内面研磨	口縁部内面に段あり・外面に沈線	VIII 4	
53	深鉢 胴部	1号 竪穴	①にぶい橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚8～14mm 内外面研磨か	沈線 円形竹管による刺突文	VIII 4	
54	深鉢 口縁部	11耕 作溝	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	器厚18mm 内面研磨か	口縁部外面に8の字状貼付文・平 行沈線 沈線	VIII 4	
55	深鉢 胴部	1号 配石	①褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚8～9mm 内外面研磨	沈線区画内にLR縄文	VIII 1	
56	深鉢 胴部	33号 土坑	①褐灰 ②暗灰黄 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	器厚7～10mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VIII 1	
57	深鉢 胴部	1号 配石	①黒褐 ②褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚5～8mm 内面研磨	沈線区画内にLR縄文	VIII 1	
58	深鉢 胴部	33号 土坑	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を多く含む	器厚11mm 内外面研磨か	沈線区画内に連続刺突文	VIII 3	
59	深鉢 口縁部	2号 竪穴	①黒褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	器厚7～10mm 内外面研磨	口縁部外面沈線区画内に連続する 刻み	VIII 6	1谷津158 と同一か

No	器種部位	出土位置	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調 量整	文様要素	分類	備考
60	深鉢胴部	33号土坑	①橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚 8mm 内外面研磨	沈線区画内に R L 縄文	VIII 1	
61	深鉢口縁部	42号土坑	①灰黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚 4~7mm 内外面研磨	口縁部下横位の隆帯文上に刻み 沈線	IX 2	
62	深鉢口縁部	17号住居	①におい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚 5~7mm 内外面研磨	口縁部内面に沈線 口縁部外面2 条の隆帯文上に刻み	IX	
63	深鉢口縁部	61号土坑	①におい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	器厚 7mm 内外面研磨	口縁部外面隆帯文上に刻み	IX	
64	深鉢胴部	3号配石	①におい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚 5~8mm 内外面研磨	沈線区画内に L R 磨消縄文	IX 1	
65	深鉢口縁部	11耕作溝	①におい黄褐 ②におい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚 6mm 内外面研磨	口縁部内面に連続する刻み 平行 沈線 円形貼付文に刺突文	IX 5	
66	深鉢口縁部	3号住居	①灰黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	口径(18.4cm) 内外面研磨	口縁部突起に8の字状貼付文・沈線 内面に平 行沈線 隆帯文上に刻み L R 縄文 沈線	IX 1	
67	深鉢口縁部	9号住居	①褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口径(25.4cm) 内外面研磨	8の字状貼付文剥落 隆帯文上に 刻み 沈線区画内に L R 磨消縄文	IX 1	68・70と 同一か
68	深鉢口縁部	9号住居	①におい赤褐 ②暗赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚 4~7mm 内外面研磨	67に同じ	IX 1	67・70と 同一か
69	深鉢口縁部	33号土坑	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚 4~6mm 内外面研磨	8の字状貼付文 隆帯文 沈線区 画内に L R 磨消縄文	IX 2	
70	深鉢胴部	9号住居	①におい赤褐 ②暗赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚 4~8mm 内外面研磨	67に同じ	IX 1	67・68と 同一か
71	深鉢胴部	9号住居	①赤褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚 5~6mm 内外面研磨	沈線による同心円文区画内に連続 刺突文	IX 2	
72	注口土器注口	13号住居	①灰黄褐 ②におい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	器厚 8mm 外面研磨	注口を中心とした同心円文	IX 4	
73	深鉢口縁部	9号住居	①におい黄褐 ②におい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	器厚 4~7mm 内外面研磨	隆帯文上に刻み 沈線区画内に L R 磨消縄文	IX 1	
74	注口土器注口	14号土坑	①におい黄橙 ②におい橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	器厚 5~10mm 外面研磨	外面にキズあり	IX 4	
75	深鉢底部	17耕作溝	①におい褐 ②明褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	底径(20.2cm) 内外面研磨か	L R 縄文	不明	
76	深鉢底部	4号溝	①におい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底径(6.0cm) 内面ナデ外面研磨	高台状粘土貼付け	XI 2	
77	深鉢底部	4号溝	①灰黄褐 ②におい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	底径(8.5cm) 内外面研磨		XI 2	
78	土製品完形	64耕作溝	①明褐 ③良好 ④細	長さ3.1cm 幅2.4cm 器厚0.8cm	両面からの穿孔 2孔あり		
79	土製品完形	11耕作溝	①褐灰 ③良好 ④細 雲母を含む	長さ3.9cm 幅2.3cm 器厚2.1cm			

他遺構混入石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
80	石鏃	8号住居	[1.7]	[1.7]	0.3	0.5	基部一部欠損	黒曜石	凹基無茎鏃
81	石鏃	23号住居	[1.9]	2.1	0.4	1.1	両端部欠損	安山岩	凹基無茎鏃
82	石鏃	17号住居	[1.8]	[1.5]	0.5	0.5	基部欠損	黒曜石	凹基無茎鏃
83	石鏃	18号住居	[2.1]	[1.8]	0.3	1.2	基部欠損	黒曜石	凹基無茎鏃
84	石鏃	23号住居	1.8	1.5	0.3	0.5	完形	黒曜石	平基(凹基?)無茎鏃
85	石匙	61号土坑	2.6	4.2	0.8	5.0	完形	黒曜石	横型
86	打製石斧	17号住居	[7.8]	4.9	2.5	2.5	一部欠損	熱変成岩	撥II型か 片面に自然面を残す
87	打製石斧	9号住居	[5.9]	6.6	2.5	105	基部欠損	熱変成岩	撥I型 凸刃 片面に自然面を残す
88	打製石斧	13号住居	7.6	4.2	1.5	60	完形	角閃岩	撥II型 凸刃
89	打製石斧	13号住居	11.6	4.8	3.3	180	ほぼ完形	熱変成岩	撥I型 凸刃 両面に自然面を残す
90	打製石斧	14号住居	[6.1]	5.1	1.4	55	基部欠損	熱変成岩	短冊型か 凸刃 片面に自然面を残す
91	打製石斧	16号住居	7.6	5.0	1.2	65	完形	熱変成岩	撥II型 直刃
92	打製石斧	18号住居	[10.9]	4.5	2.3	130	一部欠損	熱変成岩	短冊型 凸刃 片面に自然面を残す
93	打製石斧	13号住居	[5.5]	5.6	1.6	54	基部欠損	熱変成岩	撥I型 凸刃
94	打製石斧	19号住居	[6.3]	6.7	1.9	90	基部欠損	熱変成岩	撥I型 直刃
95	打製石斧	13号住居	11.3	5.1	2.1	141	ほぼ完形	熱変成岩	撥II型 凸刃
96	打製石斧	19号住居	[11.0]	4.4	1.8	100	一部欠損	熱変成岩	撥II型 凸刃 片面に自然面を残す

第III章 検出された遺構と出土遺物

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
97	打製石斧	21号住居	7.8	4.9	1.9	70	完形	熱変成岩	撥II型 凸刃 片面に自然面を残す
98	打製石斧	16号住居	14.7	5.4	2.8	266	完形	輝緑岩	撥II型 凸刃 片面に自然面を残す
99	打製石斧	8号住居	13.2	7.8	1.2	146	一部欠損	絹雲母石墨片岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
100	打製石斧	16号住居	13.3	8.0	2.8	275	一部欠損	熱変成岩	分銅型 直刃 片面に自然面を残す
101	打製石斧	42号土坑	7.4	6.1	2.3	133	完形	熱変成岩	撥II型
102	打製石斧	16号住居	9.9	5.5	1.3	70	完形	熱変成岩	撥II型 片面に自然面を残す
103	打製石斧	20号住居	9.7	4.8	2.1	105	ほぼ完形	熱変成岩	短冊型 凸刃 片面に自然面を残す
104	磨製石斧	19号住居	[9.2]	6.8	2.1	172	基部欠損	緑泥片岩	敲打段階 粗割痕を残す凸刃
105	打製石斧	17号住居	[5.6]	6.3	1.4	45	基部欠損	熱変成岩	分銅型か 凸刃 片面に自然面を残す
106	打製石斧	23号住居	[17.0]	[7.8]	2.0	270	両端部欠損	輝緑岩	撥I型 凸刃
107	打製石斧	1号配石	[7.6]	5.1	2.8	155	基部欠損	熱変成岩	短冊型 凸刃
108	打製石斧	17号住居	8.5	6.1	1.5	81	完形	熱変成岩	撥I型 凸刃 片面に自然面を残す
109	打製石斧	20号住居	15.9	3.5	2.5	181	ほぼ完形	輝緑岩	短冊型 凸刃 両面に自然面を残す
110	打製石斧	40号土坑	7.0	6.8	3.1	136	完形	熱変成岩	分銅型 凸刃
111	打製石斧	1号井戸	12.4	7.0	2.4	180	完形	熱変成岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
112	打製石斧	40号土坑	[7.5]	6.8	2.8	152	完形	熱変成岩	撥II型 凸刃
113	打製石斧	33号土坑	[7.7]	5.9	2.2	130	両端部欠損	熱変成岩	撥I型か
114	打製石斧	9号井戸	15.7	5.8	2.5	255	完形	絹雲母石墨片岩	撥II型 凸刃 片面に自然面を残す
115	打製石斧	外堀(西)	15.9	[8.0]	1.4	245	一部欠損	紅簾絹雲母片岩	分銅型 凸刃
116	打製石斧	1地目境	12.6	7.9	3.1	360	完形	熱変成岩	分銅型 凸刃 刃部摩耗 片面に自然面
117	打製石斧	1号集石	10.2	6.6	2.3	165	完形	熱変成岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
118	打製石斧	3号竪穴	[9.9]	6.4	2.1	125	基部欠損	熱変成岩	撥I型 凸刃 片面に自然面を残す
119	打製石斧	2号竪穴	[8.8]	7.4	1.9	145	基部欠損	熱変成岩	撥II型 凸刃
120	打製石斧	外堀	[7.8]	6.4	2.1	95	基部欠損	熱変成岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
121	打製石斧	1地目境	9.7	4.0	2.6	105	完形	熱変成岩	短冊型 凸刃 刃部摩耗 片面に自然面
122	打製石斧	1号集石	19.6	10.3	2.4	635	完形	絹雲母石墨片岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
123	打製石斧	2号集石	[7.9]	5.2	2.5	130	両端部欠損	熱変成岩	短冊型
124	打製石斧	2号集石	7.4	3.6	1.3	55	一部欠損	閃緑岩	短冊型 直刃か 片面に自然面を残す
125	打製石斧	3号集石	[7.6]	4.8	1.8	95	刃部欠損	熱変成岩	短冊型 直刃か
126	打製石斧	4号集石	11.7	5.9	1.1	120	完形	点紋絹雲母石墨片岩	撥I型 凸刃 片面に自然面を残す
127	打製石斧	4号集石	[9.8]	5.4	1.4	85	刃部欠損	緑泥片岩	撥II型 片面に自然面を残す
128	打製石斧	64耕作溝	14.1	8.6	1.4	210	完形	絹雲母石墨片岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
129	打製石斧	36耕作溝	13.6	4.8	2.2	243	完形	熱変成岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
130	打製石斧	1号暗渠	14.2	6.1	2.7	170	完形	熱変成岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
131	打製石斧	1号暗渠	16.0	10.0	4.2	760	完形	流紋岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
132	打製石斧	1号暗渠	17.1	6.4	3.4	345	完形	熱変成岩	分銅型 凸刃 片面に自然面を残す
133	打製石斧	1号暗渠	[11.3]	5.9	1.9	155	基部欠損	熱変成岩	分銅型 直刃
134	磨製石斧	3号住居	[4.2]	3.1	2.0	40	刃部欠損	緑泥片岩	研磨途中 敲打痕を残す
135	磨製石斧	外堀	12.5	4.9	2.9	295	一部欠損	角閃岩	研磨段階 刃部・基部以外は粗い研磨
136	磨製石斧	40号土坑	11.9	[3.5]	[2.7]	159	1/2	輝緑岩	研磨途中か
137	磨製石斧	3号住居	[9.6]	4.8	3.1	230	ほぼ完形	輝緑岩	研磨途中 粗割痕を残す
138	磨製石斧	18号住居	[8.5]	5.1	3.0	210	基部欠損	緑泥片岩	研磨途中 敲打痕を残す
139	磨製石斧	8耕作溝	11.7	[4.2]	2.5	189	刃部一部欠損	角閃岩	研磨段階 全体的に粗い研磨
140	磨製石斧	1号集石	[17.3]	9.7	4.4	1200	基部欠損	輝緑岩	研磨途中か 敲打痕一部残す
141	磨製石斧	2号集石	[9.0]	7.1	3.8	390	基部欠損	角閃岩	研磨段階 刃部以外は粗い研磨
142	磨製石斧	9号井戸	[6.3]	7.3	2.2	140	基部欠損	角閃岩	敲打段階 刃部は山形
143	磨製石斧	79耕作溝	[12.1]	4.3	2.5	227	一部欠損	緑泥片岩	研磨途中 粗割痕を一部残す
144	スクレイパー	7号井戸	4.3	9.9	1.1	45	ほぼ完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃
145	スクレイパー	4号溝	6.1	10.9	1.3	84	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面を残す
146	スクレイパー	11号井戸	6.2	8.7	2.3	110	完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃
147	スクレイパー	4号溝	7.1	12.9	1.4	144	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面を残す
148	スクレイパー	9号井戸	5.1	9.9	2.3	120	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃
149	スクレイパー	1号暗渠	7.2	12.1	2.0	175	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面を残す
150	スクレイパー	1地目境	6.8	12.9	3.0	325	完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃 片面に自然面を残す
151	スクレイパー	3号集積	5.2	9.3	1.8	110	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面を残す
152	石核(?)	26耕作溝	3.0	2.7	1.0	10	完形	黒曜石	
153	ピエスエスキュー	13号住居	2.2	2.2	1.0	4.5	一部欠損	黒曜石	上下に剝離痕あり
154	石錐	4号住居	2.6	1.0	0.8	1.7	完形	黒曜石	先端部摩耗
155	不明	23号住居	7.4	6.1	1.5	65	一部欠損	熱変成岩	縁辺部に剝離痕あり
156	石匙	13号住居	10.1	6.0	1.3	53	一部欠損	熱変成岩	縦型

第1節 縄文時代

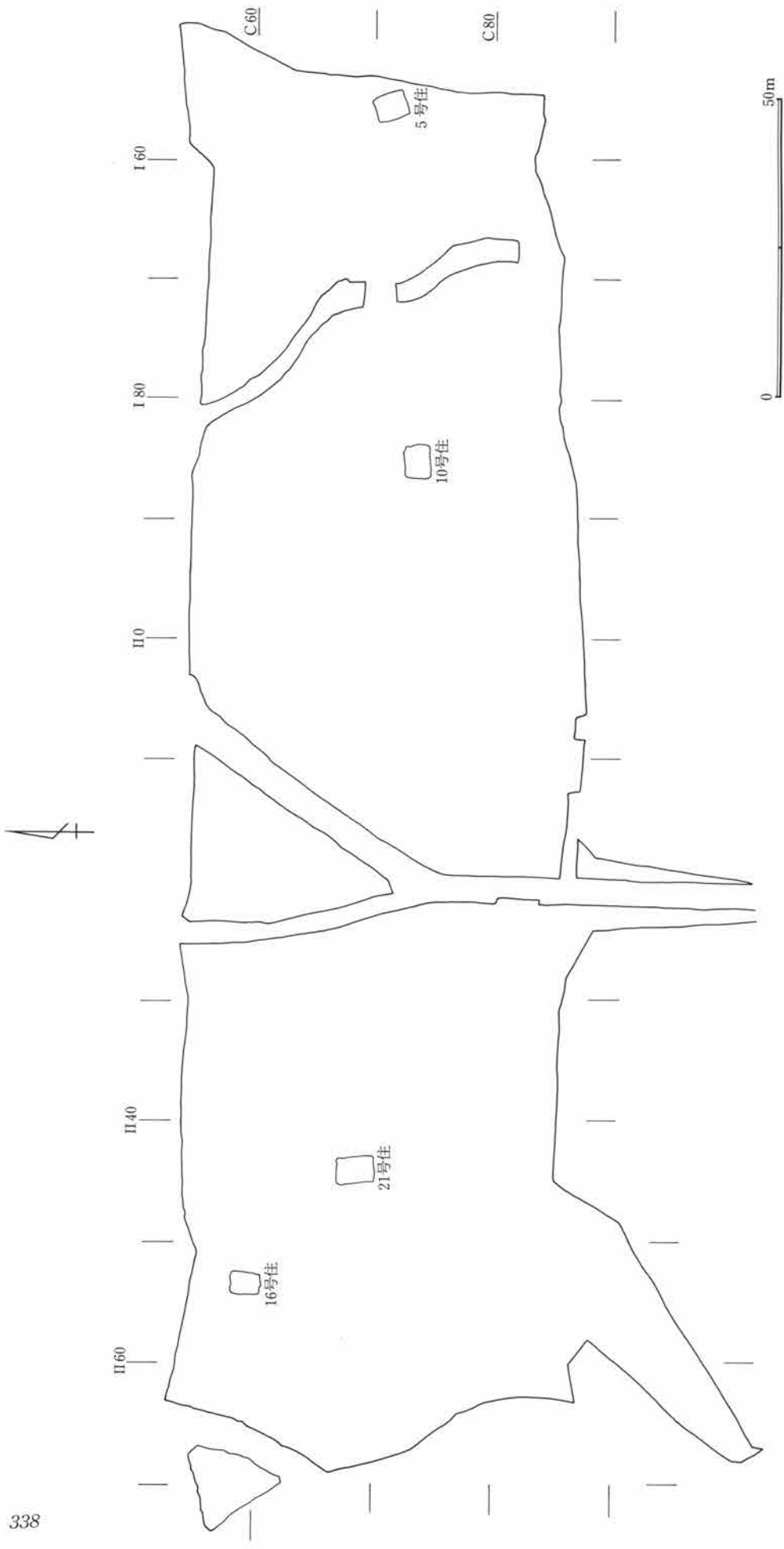
No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
157	石匙	19号住居	8.0	8.2	1.5	95	完形	熱変成岩	横型
158	磨石	11号住居	7.6	6.0	4.0	225	完形	石英安山岩	両面に磨面
159	磨石	14号住居	8.7	6.0	3.5	235	完形	石英安山岩	片面に磨面
160	磨石	3号住居	9.7	5.9	4.1	340	完形	石英安山岩	片面に磨面 全面に敲打痕を残す
161	磨石	3号住居	8.1	7.4	2.7	225	完形	石英安山岩	片面に磨面 側面に敲打痕を残す
162	磨石	14号住居	11.6	10.4	7.8	1400	%	安山岩	側面に敲打痕を残す
163	磨石	3号住居	6.3	6.0	3.3	165	完形	石英安山岩	片面に磨面 側面に一部敲打痕を残す
164	磨石	23号住居	7.0	6.0	4.8	315	完形	安山岩	片面に磨面
165	磨石	17号住居	6.0	5.4	4.3	225	完形	安山岩	両面に磨面
166	磨石	18号住居	11.2	8.2	3.9	540	完形	石英安山岩	両面に磨面
167	磨石	14号住居	17.0	7.6	5.0	900	完形	輝緑岩	両面に磨面 端部に敲打痕あり
168	磨石	17号住居	10.3	6.2	3.6	375	一部欠損	輝緑岩	両面に磨面 側面に敲打痕を残す
169	磨石	1号暗渠	7.8	7.6	5.6	510	完形	安山岩	両面に磨面
170	磨石	5号住居 [6.0]	9.6	9.6	5.0	305	1/2	石英安山岩	片面に磨面
171	磨石	74耕作溝	9.4	6.3	5.8	483	完形	安山岩	片面に磨面
172	磨石	3号竪穴	9.7	8.1	4.7	450	完形	流紋岩	片面に磨面
173	磨石	2号集石	7.1	6.2	4.2	215	完形	安山岩	片面に磨面
174	磨石	3号住居 [6.7]	8.9	5.6	4.90	1/2	石英安山岩	片面に磨面	
175	磨石	4号集石 [23.5]	[10.5]	7.8	2900	一部欠損	安山岩	両面に磨面	
176	磨石	16号住居 [9.3]	10.6	4.7	534	1/2	石英安山岩	片面に磨面 側面に敲打痕を残す	
177	磨石	18号住居 [8.1]	9.8	5.7	630	1/2	石英安山岩	両面に磨面	
178	磨石	1号住居 13.9	7.7	[4.6]	610	1/2	石英安山岩		
179	磨石	14号住居 9.1	6.5	4.5	315	完形	石英安山岩	片面に磨面	
180	磨石	19号住居 16.9	6.3	4.0	625	完形	石英安山岩	両面に磨面	
181	磨石	11号住居 7.8	7.7	2.0	150	完形	輝緑岩	両面に磨面	
182	磨石	19号住居 [8.1]	7.0	5.5	400	1/2	安山岩	両面に磨面	
183	磨石	3号竪穴 10.4	9.5	6.4	900	完形	安山岩	片面に磨面	
184	磨石	1号住居 10.5	6.6	[3.0]	245	ほぼ完形	石英安山岩	片面に磨面	
185	磨石	26号土坑 [7.7]	8.0	4.6	425	%	安山岩	片面に磨面	
186	磨石	40号土坑 [6.8]	[7.3]	4.5	402	ほぼ完形	輝緑岩	片面に磨面	
187	磨石	1号暗渠 [10.0]	6.6	3.9	395	一部欠損	流紋岩	片面に磨面 黒色付着物あり	
188	磨石	79耕作溝 [11.2]	7.2	5.0	613	一部欠損	安山岩	片面に磨面 側面に敲打痕を残す	
189	磨石	11号土坑 23.4	8.7	5.7	2600	完形	流紋岩	4面に磨面	
190	磨石	6号井戸 12.1	5.7	4.5	595	完形	角閃岩	片面に磨面	
191	磨石	3地目境 [12.5]	6.3	5.6	725	一部欠損	閃緑岩	4面に磨面	
192	くぼみ石	3号住居 [14.9]	7.4	4.6	740	%	輝緑岩	両面に磨面 片面にくぼみ 側面に敲打痕	
193	磨石	3号住居 9.7	8.2	4.9	580	ほぼ完形	硬砂岩	両面に磨面	
194	磨石	21号住居 14.0	7.3	4.7	730	完形	安山岩	両面に磨面・くぼみ 側面に敲打痕	
195	磨石	97号土坑 12.4	8.1	3.2	450	完形	安山岩	両面に磨面 片面にくぼみ 側面に敲打痕	
196	磨石	40号土坑 [13.4]	[10.4]	11.4	2470	%	安山岩	両面に磨面	
197	くぼみ石	3号集石 22.5	7.8	2.6	850	完形	安山岩	両面にくぼみ	
198	磨石	40号土坑 12.0	9.4	4.4	670	完形	安山岩	両面に磨面 片面にくぼみ 側面に敲打痕	
199	くぼみ石	2号住居 10.9	7.1	5.1	622	完形	絹雲母石墨片岩	片面にくぼみ	
200	くぼみ石	3号住居 16.4	9.1	6.1	1500	完形	輝緑岩	両面に磨面・くぼみ 側面に敲打痕	
201	くぼみ石	40号土坑 [13.8]	[7.5]	4.3	573	1/2	点紋絹雲母片岩	片面にくぼみ	
202	くぼみ石	1号暗渠 11.8	8.6	4.2	580	完形	安山岩	両面にくぼみ・磨面 側面に敲打痕	
203	くぼみ石	7号井戸 14.3	7.5	2.6	390	ほぼ完形	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ・敲打痕	
204	くぼみ石	6号井戸 11.2	10.0	4.6	740	完形	安山岩	両面にくぼみ・磨面 側面に敲打痕	
205	くぼみ石	23号住居 16.3	[6.2]	4.8	635	1/2	緑簾緑泥片岩		
206	くぼみ石	14号住居 10.8	7.2	3.5	261	ほぼ完形	砂岩	両面にくぼみ・磨面 側面に敲打痕	
207	くぼみ石	18号土坑 16.5	[10.2]	4.6	900	一部欠損	絹雲母緑泥片岩	片面にくぼみ	
208	くぼみ石	9号井戸 13.2	7.3	3.4	435	完形	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ 片面に磨面 側面に敲打痕	
209	くぼみ石	79耕作溝 13.8	5.6	3.8	470	ほぼ完形	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ 側面に敲打痕	
210	くぼみ石	79号土坑 10.0	[6.2]	3.9	390	一部欠損	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ 側面に敲打痕	
211	くぼみ石	17号住居 [8.7]	5.9	3.0	250	1/2	絹雲母片岩	両面にくぼみ・敲打痕	
212	くぼみ石	7号井戸 [15.2]	10.0	4.0	740	%	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ 側面に敲打痕	
213	くぼみ石	14号住居 [17.5]	9.1	3.2	671	%	緑泥片岩	両面にくぼみ 側面にえぐり・敲打痕	
214	多孔石	17号住居 [11.1]	[9.4]	[7.4]	565	破片	砂岩	片面にくぼみ 敲打痕を残す	
215	くぼみ石	18号住居 [11.5]	8.3	3.2	415	1/2	点紋緑泥片岩	片面にくぼみ	
216	くぼみ石	16号住居 [11.5]	6.7	5.6	545	%	安山岩	両面にくぼみ・敲打痕	

第III章 検出された遺構と出土遺物

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
217	くぼみ石	237号土坑	[20.1]	7.7	5.4	1300	%	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ・敲打痕
218	くぼみ石	20号住居	19.8	4.9	4.2	605	完形	絹雲母石墨片岩	1面にくぼみ 全面・端部に敲打痕
219	くぼみ石	11号土坑	14.2	[5.9]	[3.4]	340	1/2	輝緑岩	片面にくぼみ 一部敲打痕を残す
220	くぼみ石	18号住居	[13.5]	8.4	3.6	535	1/2	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ・敲打痕
221	石皿	3号井戸	[10.5]	[5.2]	[3.4]	140	破片	砂岩	片面に磨面
222	石皿	11号配石	[16.2]	[13.3]	[7.0]	1600	1/4	安山岩	両面に磨面 側面に敲打痕
223	石皿	9号住居	36.4	29.4	12.4	20700	完形	安山岩	片面に磨面 一部敲打痕を残す
224	石皿	3号配石	[43.0]	[18.1]	5.6	6000	%	点紋緑泥片岩	片面に磨面
225	石皿	40号土坑	[9.4]	[9.7]	[5.8]	910	1/2	安山岩	片面に磨面 片面にくぼみ
226	石皿	1地目境・1住居	[27.6]	[36.1]	9.7	9100	%	安山岩	片面に磨面 片面にくぼみ・敲打痕
227	石皿	11号土坑	[21.5]	[14.5]	[10.1]	4600	1/2	安山岩	
228	多孔石	5号配石	36.8	15.1	6.2	5170	完形	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ・敲打痕
229	石皿	3号集石	[31.2]	[11.8]	6.0	3400	1/2	点紋緑泥片岩	片面に磨面
230	多孔石	3号住居	[17.5]	[10.0]	6.1	1630	%	点紋絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ・敲打痕
231	多孔石	6号井戸	[28.0]	[9.1]	[4.5]	1100	1/4	絹雲母石墨片岩	くぼみ・敲打痕を残す
232	くぼみ石	14号住居	19.4	12.8	7.2	3000	完形	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ・敲打痕
233	くぼみ石	3号井戸	[9.9]	[10.0]	5.2	530	1/4	砂岩	両面にくぼみ・敲打痕
234	多孔石	9号井戸	[31.3]	[16.4]	5.3	4000	%	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ・敲打痕
235	多孔石	2号住居	[21.5]	13.2	6.9	2550	%	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ・敲打痕
236	多孔石	3号井戸	[25.0]	25.9	7.6	8500	1/2	絹雲母石墨片岩	片面にくぼみ・敲打痕
237	多孔石	3地目境	30.2	20.7	13.9	12850	完形	安山岩	3面にくぼみ・敲打痕
238	多孔石	6号配石	[15.5]	[6.8]	8.4	1100	破片	安山岩	両面にくぼみ
239	多孔石	75耕作溝	[33.3]	[11.9]	6.4	3850	1/2	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ・敲打痕
240	多孔石	3号配石	35.3	20.8	10.7	12400	完形	絹雲母石墨片岩	両面にくぼみ・敲打痕
241	多孔石	4号集石	[24.2]	[21.0]	8.8	8200	%	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ・敲打痕
242	多孔石	3号配石	[39.1]	[26.7]	5.8	10400	%	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ・敲打痕
243	多孔石	5号配石	30.3	[25.5]	5.4	5750	一部欠損	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ・敲打痕
244	多孔石	1地目境	[33.3]	[17.6]	11.8	8400	1/2	輝緑岩	両面にくぼみ・敲打痕 片面は赤化
245	多孔石	5号配石	47.5	21.6	3.1	4920	完形	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ・敲打痕
246	石皿	2号住居	54.6	[20.2]	10.0	18200	一部欠損	点紋緑泥片岩	両面にくぼみ・敲打痕
247	丸石	130号土坑	7.6	7.5	5.9	450	完形	石英安山岩	外周研磨 中央に敲打痕を残す
248	丸石	33号土坑	5.4	5.4	4.8	187	完形	安山岩	
249	丸石	23号住居	3.7	3.2	2.2	35	完形	安山岩	
250	丸石	42号土坑	[3.4]	[2.9]	3.0	30	1/2	安山岩	
251	丸石	9号住居	4.5	4.5	3.8	90	完形	石英安山岩	
252	石錘	5号住居	4.9	4.1	1.0	30	一部欠損	輝緑岩	両端に刻み
253	石棒	23号住居	20.1	6.0	5.2	1000	%	緑泥片岩	研磨途中 全面に敲打痕を残す
254	石棒	1号暗渠	[16.5]	3.8	3.7	345	一部欠損	点紋緑泥片岩	全面に敲打痕を残す
255	石棒	1号暗渠	[15.9]	4.2	4.2	390	一部欠損	点紋緑泥片岩	全面に敲打痕を残す くびれあり
256	石棒	14号住居	[12.7]	[11.3]	[10.8]	2200	1/4	安山岩	全面研磨
257	石棒	3号住居	[8.0]	[8.3]	[4.2]	310	破片	緑泥片岩	敲打痕を残す
258	石棒	12号住居	[10.5]	9.7	8.9	1150	1/4	石英安山岩	全面研磨
259	石棒	3号住居	[18.2]	12.1	11.3	3900	1/4	石英安山岩	研磨途中 敲打痕を残す
260	石棒	16号住居	14.8	2.8	2.6	160	完形	緑泥片岩	敲打痕を残す
261	石棒	130号土坑	[10.7]	4.9	2.2	200	破片	点紋緑泥片岩	全面に敲打痕を残す
262	石棒	5号掘立	[9.4]	3.5	3.7	195	破片	点紋緑泥片岩	全面に敲打痕を残す
263	石棒	11号配石	[12.3]	4.3	3.6	260	破片	点紋緑泥片岩	全面に敲打痕を残す
264	石棒	1地目境	[25.2]	7.5	6.8	2000	%	点紋緑泥片岩	全面研磨 くぼみ・敲打痕あり
265	石棒	6号配石	[15.5]	[4.0]	[2.0]	240	1/4	絹雲母石墨片岩	全面に敲打痕を残す
266	石棒	6号配石	[14.1]	3.7	3.7	330	一部欠損	点紋緑泥片岩	全面に敲打痕を残す
267	石棒	5号配石	[16.3]	[6.0]	[5.3]	850	1/4	点紋緑泥片岩	全面に敲打痕を残す
268	石棒	3地目境	28.0	5.9	5.2	1500	完形	点紋緑泥片岩	全面研磨 敲打痕を残す
269	石棒	5号配石	[15.4]	[10.0]	[6.1]	1800	破片	点紋緑泥片岩	全面に敲打痕を残す くぼみあり
270	打製石斧	11号土坑	[8.7]	3.7	2.1	90	完形	点紋緑泥片岩	未製品か
271	不明	3号住居	14.0	19.0	4.4	1600	完形	閃緑岩	両面に敲打痕 片面に磨面 透孔あり
272	不明	11号土坑	5.1	4.7	1.2	32	完形	安山岩	片面に磨面
273	不明	3号住居	7.8	4.5	3.8	215	完形	輝緑岩	乳棒状の石器 全面研磨 端部に敲打痕
274	不明	40号土坑	[7.0]	[11.9]	[10.1]	1130	1/4	安山岩	敲打痕・研磨面あり
275	不明	9号井戸	[27.9]	11.1	5.7	2700	%	輝緑岩	両面赤化 敲打痕を残す
276	不明	61耕作溝	4.8	0.9	0.8	6.0	完形	滑石片岩	全面研磨 小型の石棒か

第1節 縄文時代

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
277	不明	16号住居	17.4	7.5	3.0	760	完形	点紋緑泥片岩	一部敲打痕あり
278	不明	6号井戸	7.1	5.8	2.8	156	完形	流紋岩	両面に磨面 透孔あり



第255図 弥生時代遺構位置図

第2節 弥生時代

(1) 遺構・遺物の概要

遺構

竪穴住居跡が4軒（5・10・16・21号住居跡）検出されている。

①分布 4軒が台地上に散在している。5号住と10号住が調査区の東寄り、15号住と21号住が調査区の西寄りにそれぞれ位置しており、2つの群を構成していると考えられることもできるが、5号住と10号住の住居間距離が60m、15号住と21号住が30mと、群とするには距離がありすぎる。

②時期 出土土器は縄文で施文する赤井戸系のものがほとんどで、4軒とも弥生時代終末期（一部古墳時代初頭まで下る可能性のあるものもある）で大きな時期差はないものと考えられる。

③平面形態・規模 平面形態はすべて隅丸長方形で、規模は、長辺が5.14～6.48m平均5.65m、短辺が3.34～4.54m平均4.10m、床面積が16.12m²～27.67m²平均22.34m²となっている。

④主軸方位 炉の寄っている辺に直角の方向を主軸とすると、主軸が南北方向に向くものが3軒、東西方向に向くものが1軒（10号住は1号炉を基本とした）となっている。

⑤床面・掘り方 4軒とも貼床が施されており、構築土はロームを含む暗褐色土である。掘り方は比較的浅いものが多いが、5号住には長方形の土坑状の掘り込みが認められる。

⑥炉 4軒とも炉を持ち、10号住には2基存在する。長軸が南北方向に向くものは、すべて北壁寄りにあり、東西方向に向く10号住は、1基が西壁、1基が北壁に寄っている。いずれも柱穴を結ぶ線の外側に位置している。平面形態はすべて楕円形で、長軸が主軸に平行のものと直角のものがある。

遺物

土器 壺・甕・台付甕・高坏・器台・小型土器が出土している。

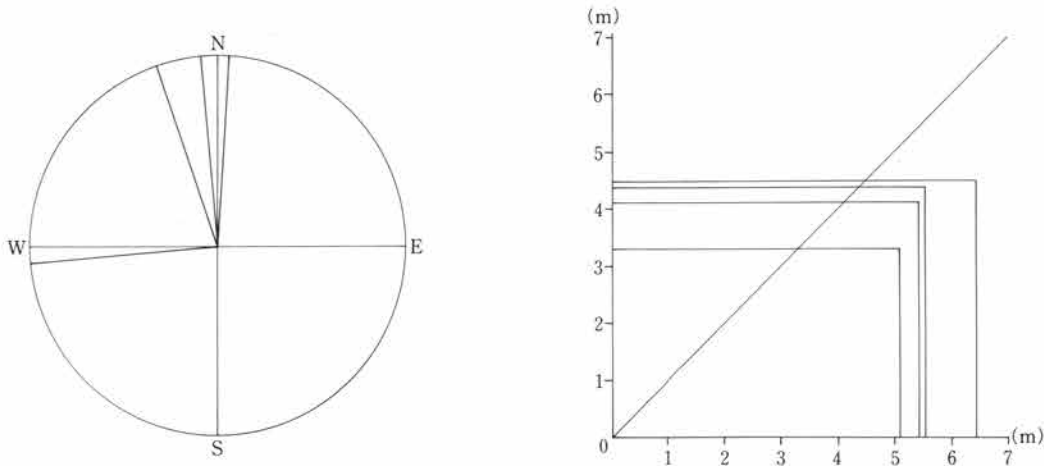
- I 壺 A類 縄文を施すもの B類 篋磨き調整だけで無文のもの
C類 櫛描文を施すもの D類 その他
- II 甕 A類 縄文を施すもの B類 縄文と櫛描文を施すもの
C類 櫛描文を施すもの D類 その他

III 台付甕 IV 高坏 V 器台 VI 小型土器

石器 磨製石鏃が1点出土している。

出土遺物数量表

壺	84
甕	166
台付甕	4
高坏	31
器台	1
小型土器	2
計	288



第256図 弥生時代住居跡主軸および規模

第三章 検出された遺構と出土遺物

(2) 竪穴住居跡

5号住居跡

位置 C70~72-I74~76 Gr 重複 なし

平面形態 南北に長い隅丸長方形 南壁に対し北壁がやや短く、東壁は途中で緩く折れている。

規模 東西4.10m 南北5.40m 壁高 40cm 立ち上がりはほぼ垂直である。面積 25.0m²

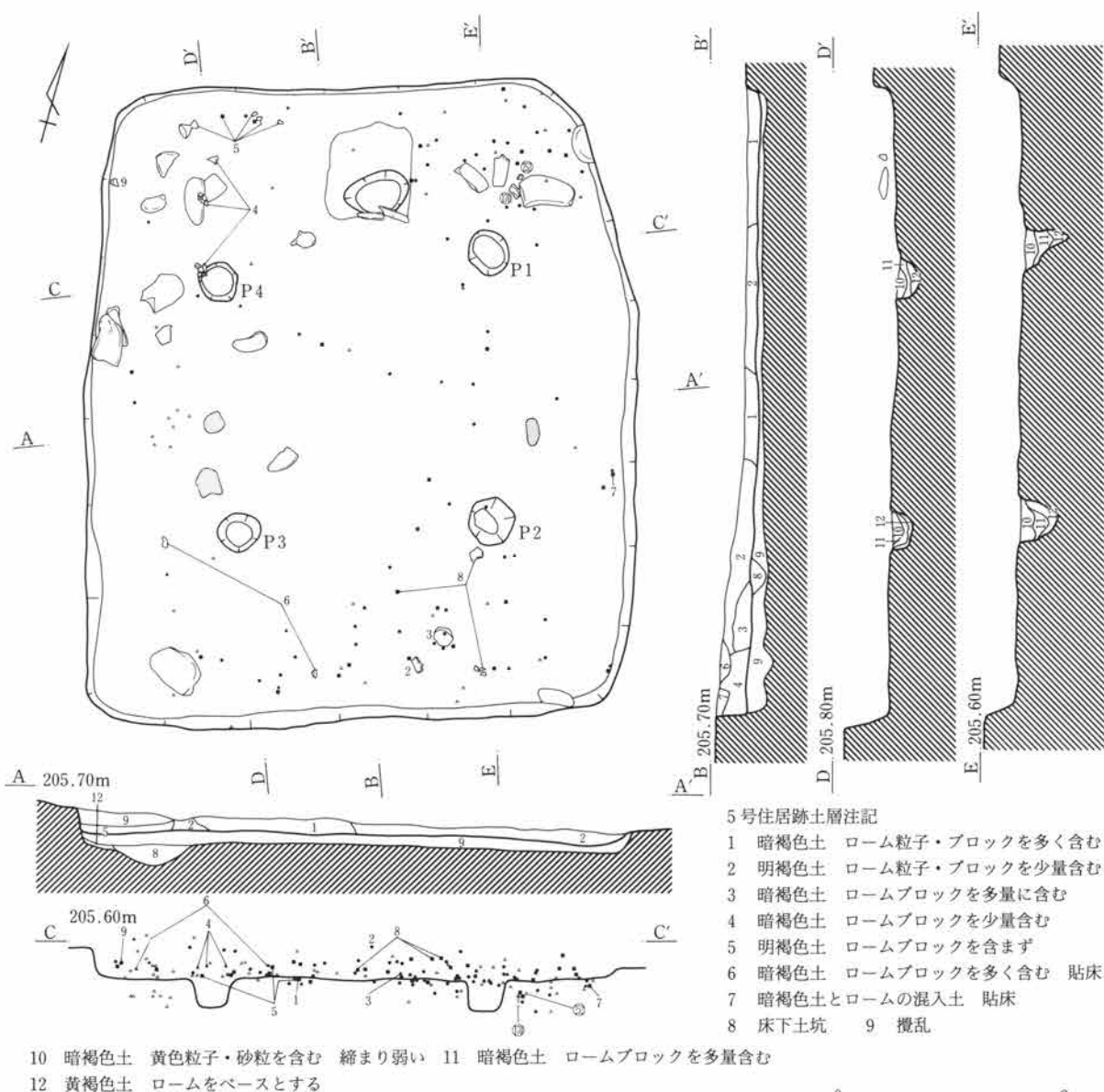
床面積 23.58m² 主軸方位 N-19°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4本検出された。

P1 径68cm深さ40cm P2 径76cm深さ38cm P3 径73cm深さ64cm P4 径80cm深さ76cm

入り口施設 床面からは入り口施設のピットは検出されていない。 貯蔵穴 なし

床面 ロームブロックを含む暗褐色土で貼床としており、やや軟弱である。



第257図 5号住居跡

0 2 m

掘り方 南北に長い土坑状掘り込みが、北側の東西両壁際に検出され、10~60cmのピットが多数検出された。
遺物出土状況 ほぼ全面から出土しているが、特に炉の周辺に多く分布している。1・3・5・7は床直出土であるが、他は覆土中の出土である。

炉

位置 中央北より **主軸方位** N-9°-W **平面形態** 楕円形 **規模** 長さ42cm 幅54cm
深さ 9cm **備考** 南側に枕石をもち、主軸と直行する方向に長くなっている。火床面ははっきりしていないが覆土上層に焼土を含んでいる。

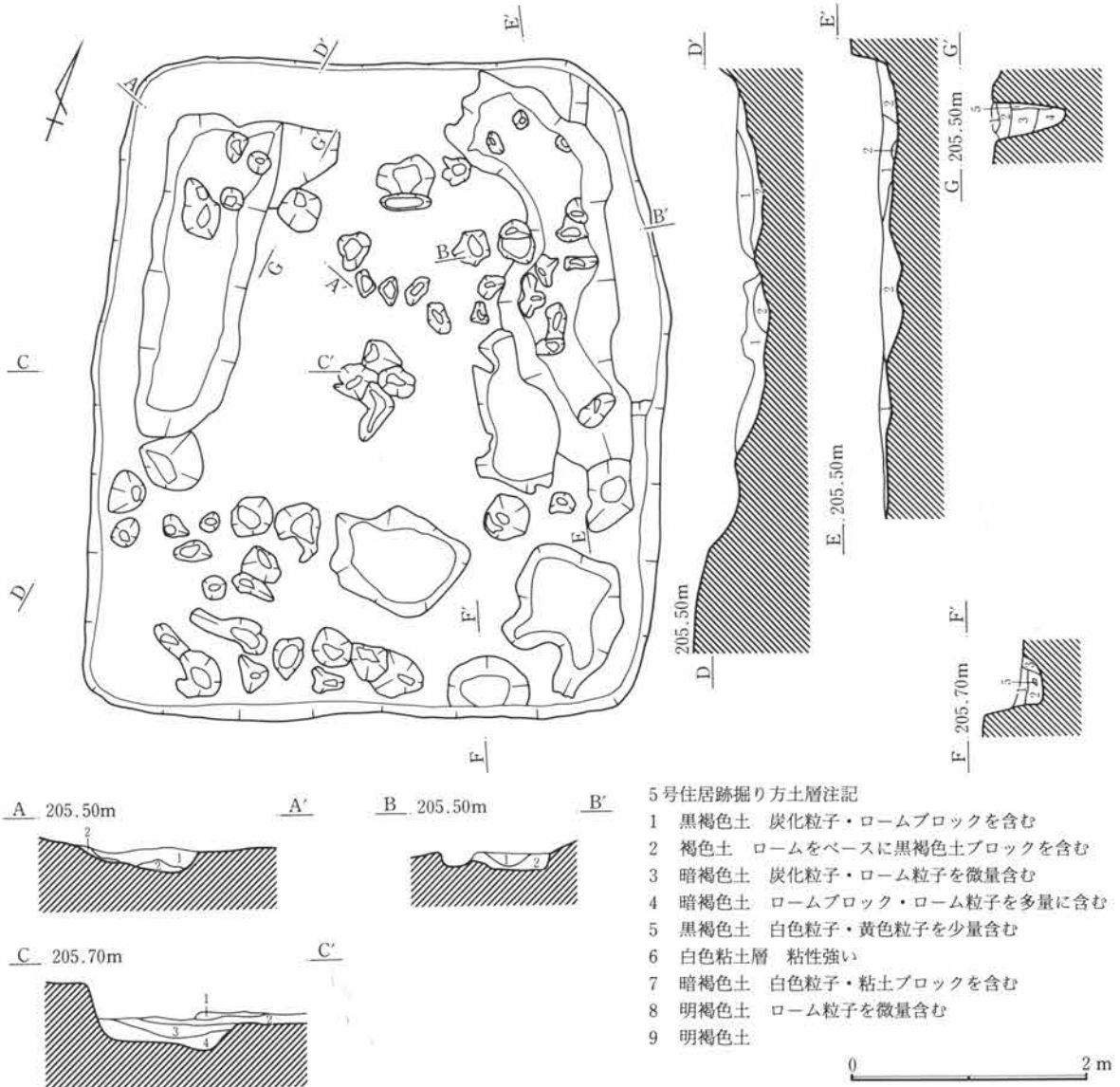
出土遺物 出土土器総数は52点と少なく、壺・甕・台付甕が出土しているが、甕が39点と多く壺は少ない。

8・9は混入品で、弥生中期の所産と考えられる。他に縄文土器が56点、石器が6点出土している。

所見 出土遺物は縄文を施文する赤井戸系のものが主体をなすため、弥生終末期前後の住居と考えられる。

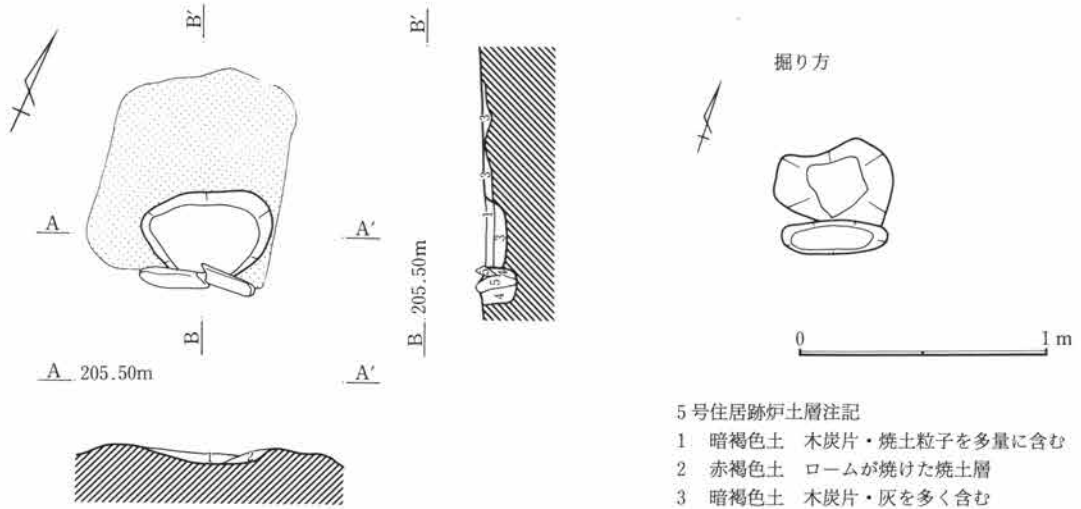
出土土器数量表

器種	壺	甕	台付甕	高坏	計
点数	11	39	1	1	52
重量(g)	127	1,375	255	2	1,759

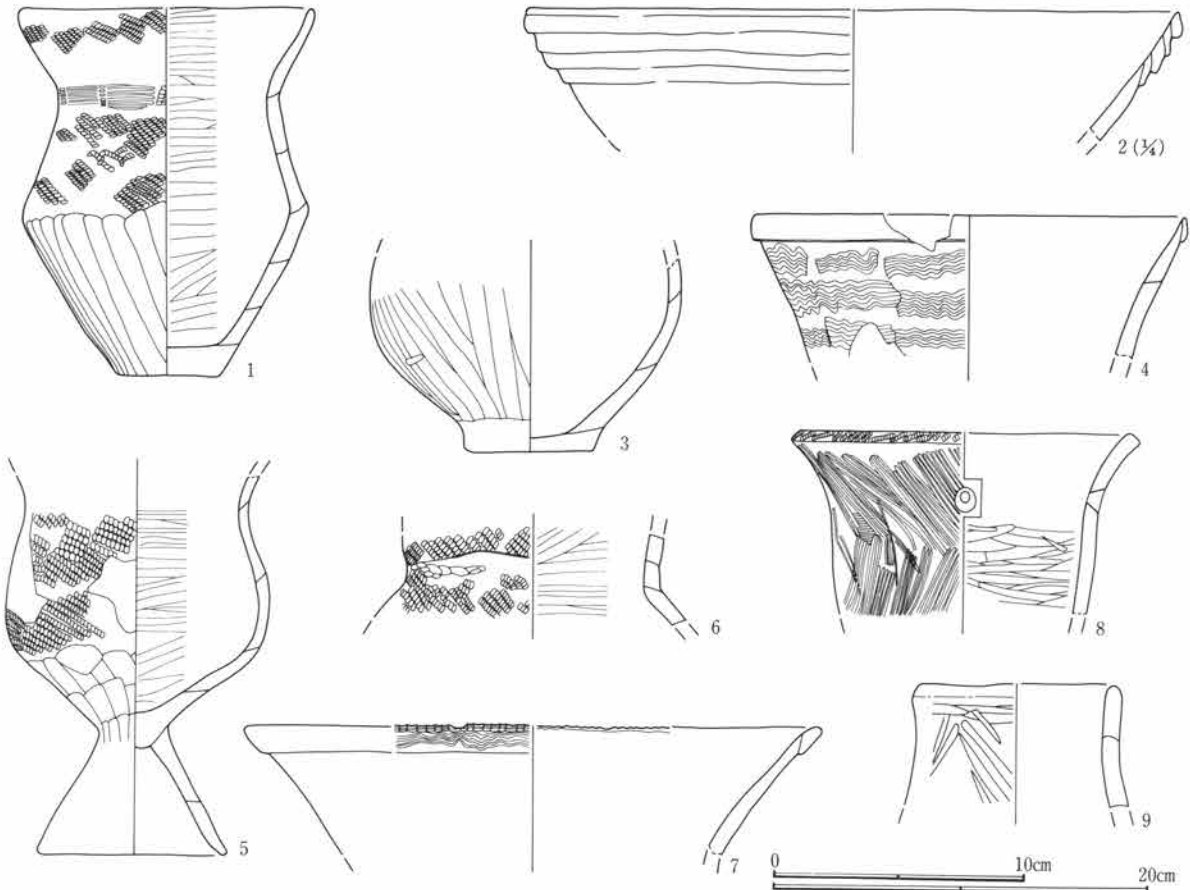


第258図 5号住居跡掘り方

第III章 検出された遺構と出土遺物



第259図 5号住居跡炉



第260図 5号住居跡出土遺物

5号住居跡出土土器観察表

No	器種	出土位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整・文様	分類	備考
1	甕	北西 -2	①(10.2cm) ②4.1cm ③14.4cm ④ほぼ完形	①におい褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部・胴部外面LR網文縦回転 頸部 等間隔止簾状文 胴部下半・内面磨き	II B		
2	甕	南東 27	①(34.6cm) ②— ③[6.8cm] ④口縁片	①におい黄橙 ②におい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒を含む	口縁部外面に4段の輪積痕を残す	II		

No.	器種	出土位置	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整・文様	分類	備考
3	甕	南東 4	①— ②4.9cm ③[7.7cm] ④胴~底	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	胴部外面篋磨き 内面ナデカ	II	
4	甕	北西 10	①(17.1cm)②— ③[5.8cm] ④口縁 $\frac{1}{2}$	①橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 砂粒を含む	折り返し口縁 口~頸部描き波状文 内面ナデ	II C	
5	台付甕	北西 2	①— ②7.3cm ③[13.6cm]④ $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	頸~胴外面上半RL縄文横回転 下半 ~脚・内面篋磨き 脚部内面ナデカ	III	
6	甕	南西 8	①— ②— ③[3.7cm] ④頸部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒含む	頸~胴部外面LR縄文横回転 内面 篋磨き	II A	
7	壺	南東 5	①(23.0cm)②— ③[5.0cm] ④口縁部片	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミス・白色粒子を含む	口唇部刻み 折り返し口縁 内面は器 面剥落が著しいが内外面とも篋磨き	I C	
8	甕	南東 17	①(13.2cm)②— ③[7.2cm] ④口縁 $\frac{1}{2}$	①暗褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	口唇部にLR横回転 頸~胴外面刷 毛調整 内面ナデ 補修孔あり	II D	
9	壺	北西 14	①(7.6cm)②— ③[4.8cm] ④口縁部片	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部外面に横位の2条の平行沈線 斜位の平行短沈線	I D	

10号住居跡

位置 C72~74—I83~86 Gr 重複 なし

平面形態 東西に長い隅丸長方形 南辺に比べ北辺がやや短く、正確には台形となる。

規模 東西5.58m 南北4.40m 壁高 16cm 垂直に近い 面積 23.48m² 床面積 22.0m²

主軸方位 N-95°-W 壁溝 なし

柱穴 床面には11基のピットが検出されているが、支柱穴は深さが30cm以上あるP3・P4・P8・P9の4本と考えられる。ただし、P4は位置がややずれており深さも一番浅いため、確実ではない。

P1 径40cm深さ24cm P2 径50cm深さ16cm P3 径42cm深さ56cm P4 径29cm深さ32cm P5 径32cm深さ16cm
P6 径30cm深さ23cm P7 径30cm深さ12cm P8 径28cm深さ46cm P9 径31cm深さ55cm P10 径30cm深さ12cm
P11 径32cm深さ10cm

入り口施設 P6が入り口施設の可能性があるが、位置的にはややずれる。

貯蔵穴 なし 床面 黒褐色土と暗黄褐色土で貼床としているが、全体的にやや軟弱である。

掘り方 ほぼ平坦で、掘り方の面でさらに16基のピットが検出されている。

遺物出土状況 土器は南東部に比較的集中して検出されており、削平のためか北部には少ない。

また、炭化材が、南西隅と北東隅から検出されている。

炉 中央西寄り(1号)と北東部(2号)の2カ所から検出されている。

1号炉

位置 中央西寄り 主軸方位 N-91°-W 平面形態 楕円形 規模 長さ73cm 幅58cm

深さ 30cm 備考 東側に枕石をもち、主軸の方向に長くなっている。比較的是っきりした火床面があるが、掘り方は深く、下層にも若干焼土を含む。

2号炉

位置 北東部 主軸方位 N-5°-E 平面形態 楕円形 規模 長さ48cm 幅30cm

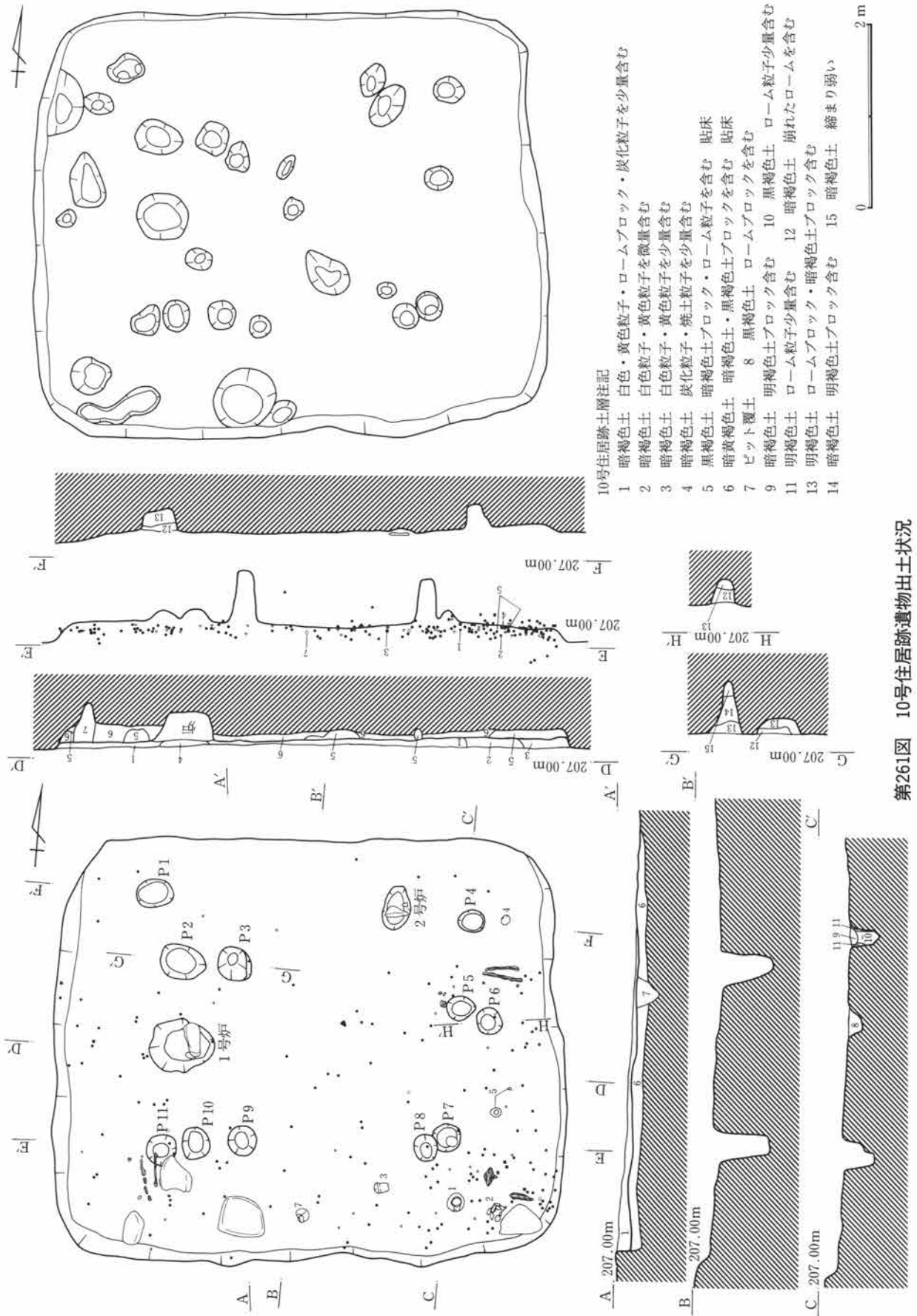
深さ 10cm 備考 南側に枕石をもち、1号炉と直角の方向に長くなっている。はっきりした火床面は検出されず、覆土に少量焼土を含む程度である。

出土遺物 出土土器総数は38点と少なく、壺・無頸壺・甕・台付甕・高環が出土している。

所見 5号住同様赤井戸系の土器を主体とするため、弥生末~古墳初頭の住居と考えられる。2基の炉は、いずれも枕石が残り、踏み固められた痕跡もないため、同時に使用されたものであろう。

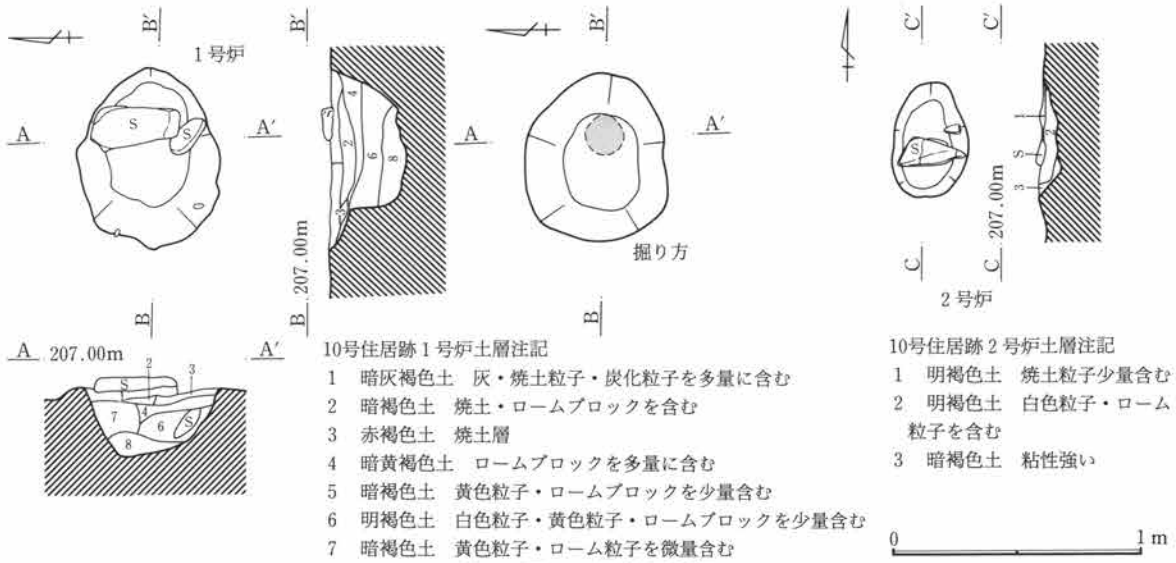
出土土器数量表

器種	壺	甕	高環	計
点数	9	23	6	38
重量(g)	1,159	1,150	215	2,524



第261図 10号住居跡遺物出土状況

第2節 弥生時代



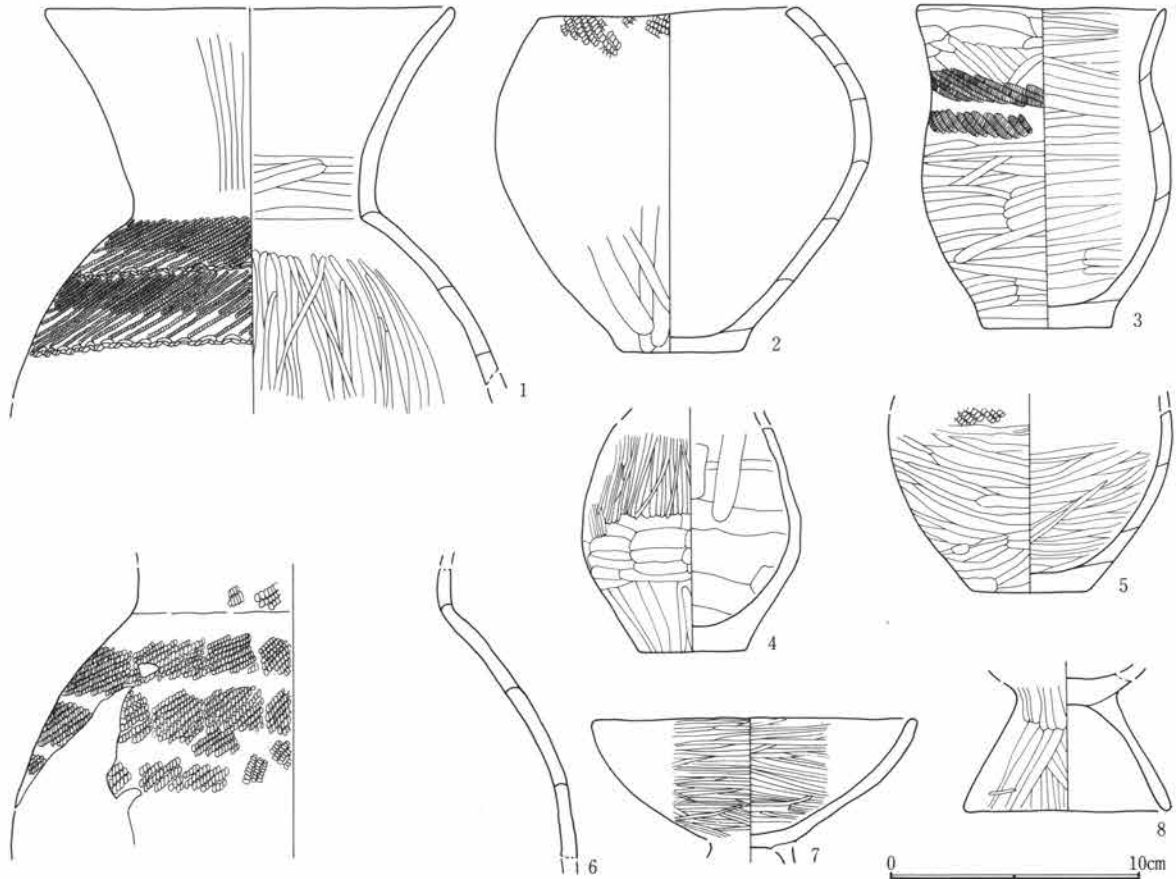
10号住居跡1号炉土層注記

- 1 暗灰褐色土 灰・焼土粒子・炭化粒子を多量に含む
- 2 暗褐色土 焼土・ロームブロックを含む
- 3 赤褐色土 焼土層
- 4 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む
- 5 暗褐色土 黄色粒子・ロームブロックを少量含む
- 6 明褐色土 白色粒子・黄色粒子・ロームブロックを少量含む
- 7 暗褐色土 黄色粒子・ローム粒子を微量含む

10号住居跡2号炉土層注記

- 1 明褐色土 焼土粒子少量含む
- 2 明褐色土 白色粒子・ローム粒子を含む
- 3 暗褐色土 粘性強い

第262図 10号住居跡炉



第263図 10号住居跡出土遺物

10号住居跡出土土器観察表

No	器種	出土位置	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整・文様	分類	備考
1	壺	南東 7	①(16.1cm)②— ③[15.2cm]④%	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	胴部外面2段のLR結節縄文横回転 口縁部外面・内面篋磨き	I A	
2	無頸壺	南東 10	①10.5cm ②5.0cm ③13.1cm ④ほぼ完形	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部外面1段のRL縄文横回転 胴部外面篋磨き 内面ナデ	I D	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No.	器種	出土位置	法量 ①口径 ②底径 ③高さ ④残存 (cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整・文様	分類	備考
3	甕	南東4	①10.0cm ②5.0cm ③12.8cm ④完形	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	口縁部外面磨き 頸部2段のR 1 無節縄文 胴部・内面磨き	II A	
4	甕	北東1	①— ②4.4cm ③[8.5cm] ④頸～底部	①暗褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	外面磨き 内面磨ナデ	II	
5	甕	南東0	①— ②4.6cm ③[7.3cm] ④胴～底部	①黒褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④細 砂粒・白色粒子を少量含む	外面胴部上半 R L 縄文横回転 胴部 下半・内面磨き	II	
6	甕	覆土	①— ②— ③[10.2cm] ④頸～胴部	①にぶい褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	頸～胴部外面 L R 縄文横回転 内面磨き	II A	
7	高坏	南西4	①11.6cm ③[5.0cm] ④坏部ほぼ完形	①明赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	内外面とも磨き 外面は全体・内面は部分的に赤彩	IV	
8	高坏	覆土	①— ②8.0cm ③[5.9cm] ④脚部	①明褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底部内面・脚部外面磨き 脚部内面ナデ	IV	

16号住居跡

位置 C58～60—II52～54 Gr 重複 15号住より新

平面形態 南北に長い隅丸長方形 北壁が南壁よりやや長く、台形に近い。

規模 東西3.34m 南北5.14m 壁高 42cm やや傾斜している 面積 17.33㎡ 床面積 16.12㎡

主軸方位 N-3°-E 壁溝 なし

柱穴 対角線上に4本検出された。他の住居に比べ4基とも浅く、掘り方面まで達していない。

P1 径22cm 深さ7cm P2 径20cm 深さ8cm P3 径34cm 深さ12cm P4 径24cm 深さ12cm

入り口施設 床面には入り口施設と考えられるものは検出されておらず、掘り方面において南壁際東よりにピットが1基検出されているが、入り口施設とは断定できるものではない。

貯蔵穴 南東隅に径120cm深さ50cmおよび径90cm深さ65cmのピットがあり、貯蔵穴の可能性はある。南西のピットには上層から中層にかけてに厚さ14cm程の白色粘土の層があり、その上面から3・5の甕を含む多くの土器が出土している。

床面 暗褐色土ブロックを含む暗黄褐色土を貼床としているが、北東部は2～3cmと薄く、南西部は10cmと厚くなっている。床面は比較的軟弱である。

掘り方 平坦な掘り方で、ピットが3基検出されただけである。

遺物出土状況 全体にほぼ均一に出土しているが、炉の南側に大きな破片が比較的多い。図示した土器でも完形に近いものは少なく、破片が接合したものがほとんどである。接合関係で見ると住居内のかなり広範囲で接合しているものが多いが、出土層位は床直出土のものが多く、覆土中のものはほとんど接合していない。また、炭化材が北部・南部の柱穴の外側から出土している。

炉

位置 中央北より 主軸方位 N-2°-W 平面形態 楕円形 規模 長さ56cm 幅63cm

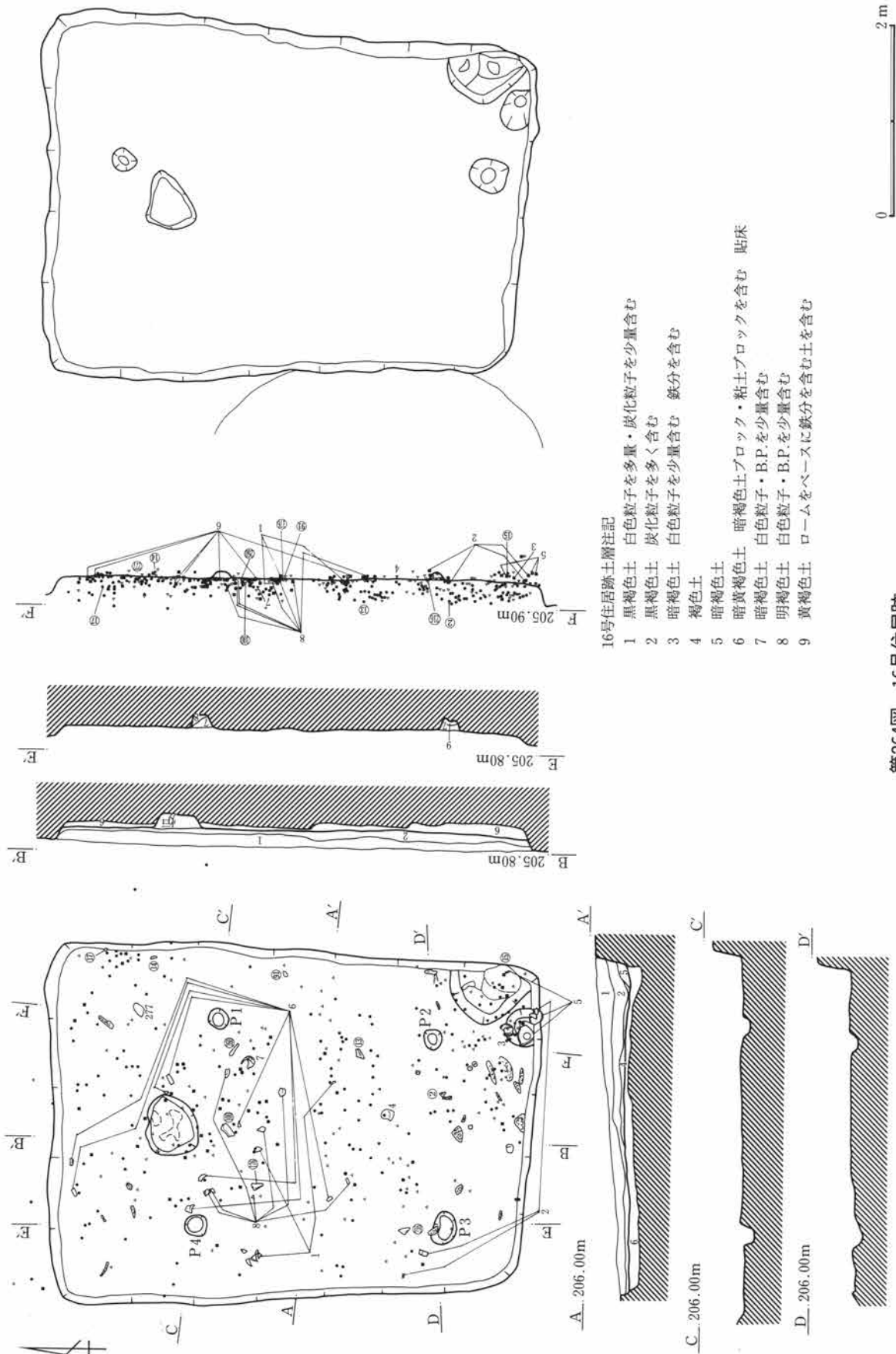
深さ 16cm 備考 枕石は検出されず、主軸と直行する方向に長くなっている。火床面は比較的是っきりしており、中央部に焼土が検出されている。

出土遺物 出土土器総数は68点と少ないが弥生の住居の中では最も多い。壺・甕が検出されており、6は器形から台付甕の可能性が高い。

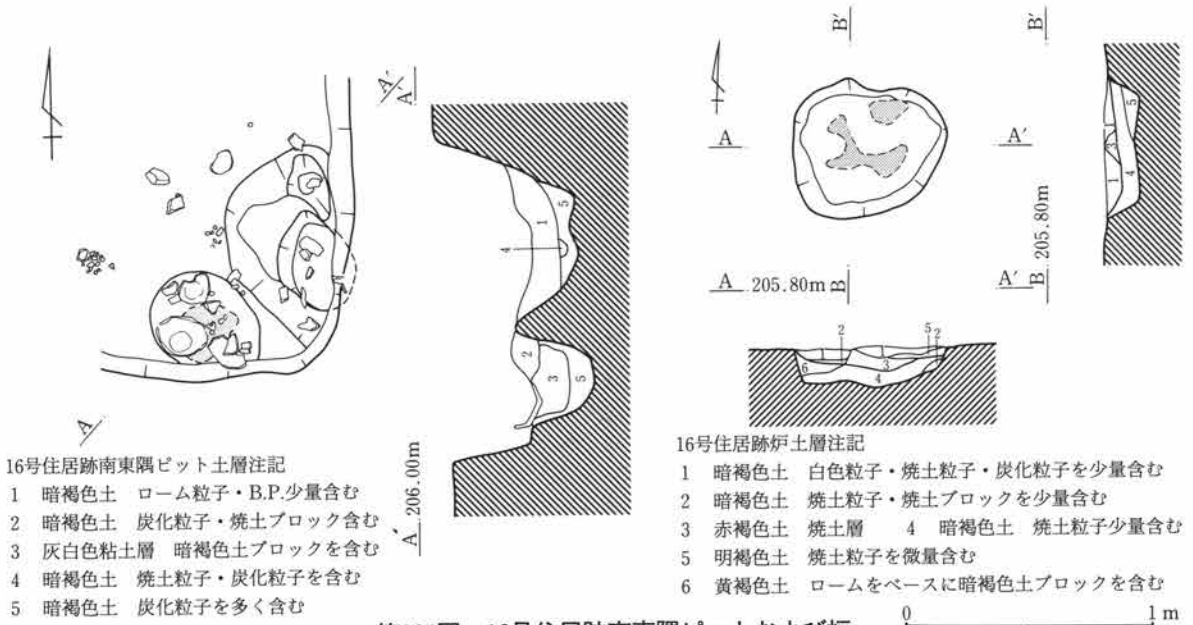
所見 5・10号住と同様赤井戸系の土器が出土するため、弥生末～古墳初頭の住居と考えられる。

出土土器数量表

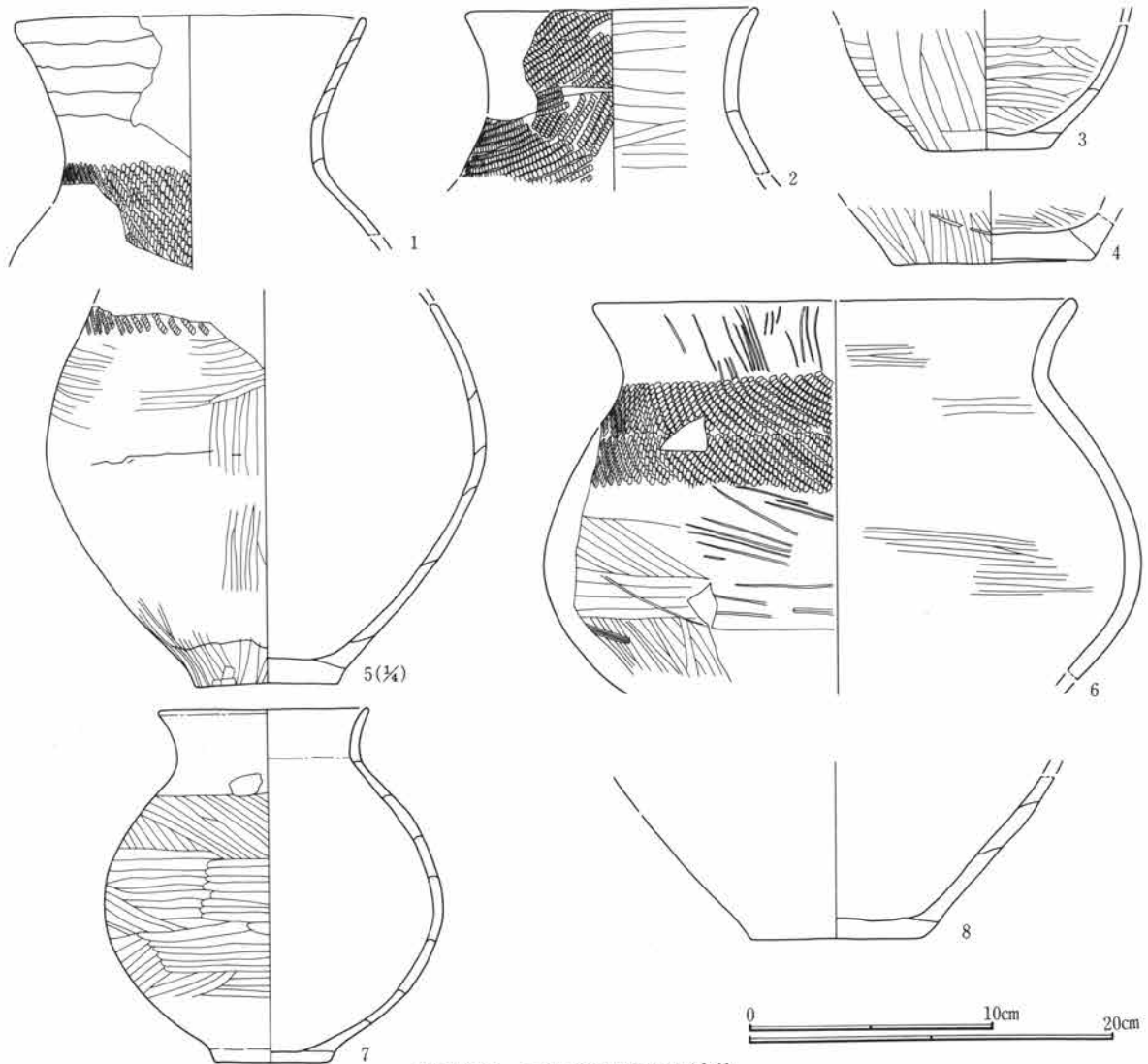
器種	壺	甕	台付甕	計
点数	23	44	1	68
重量(g)	840	2,835	375	4,050



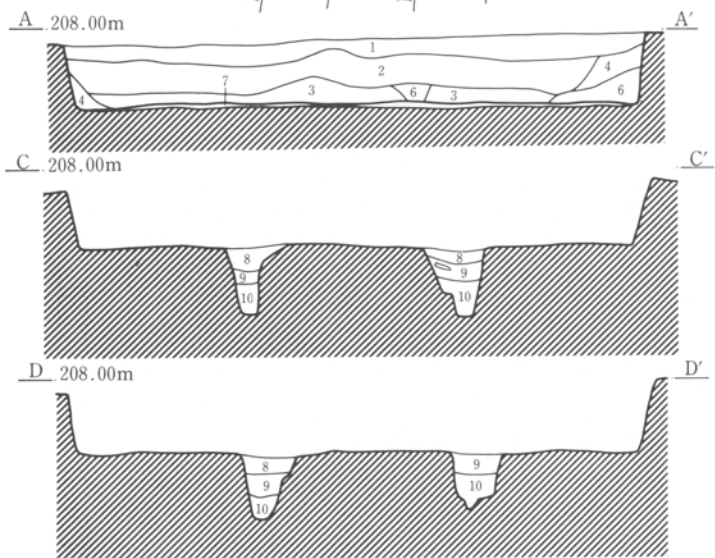
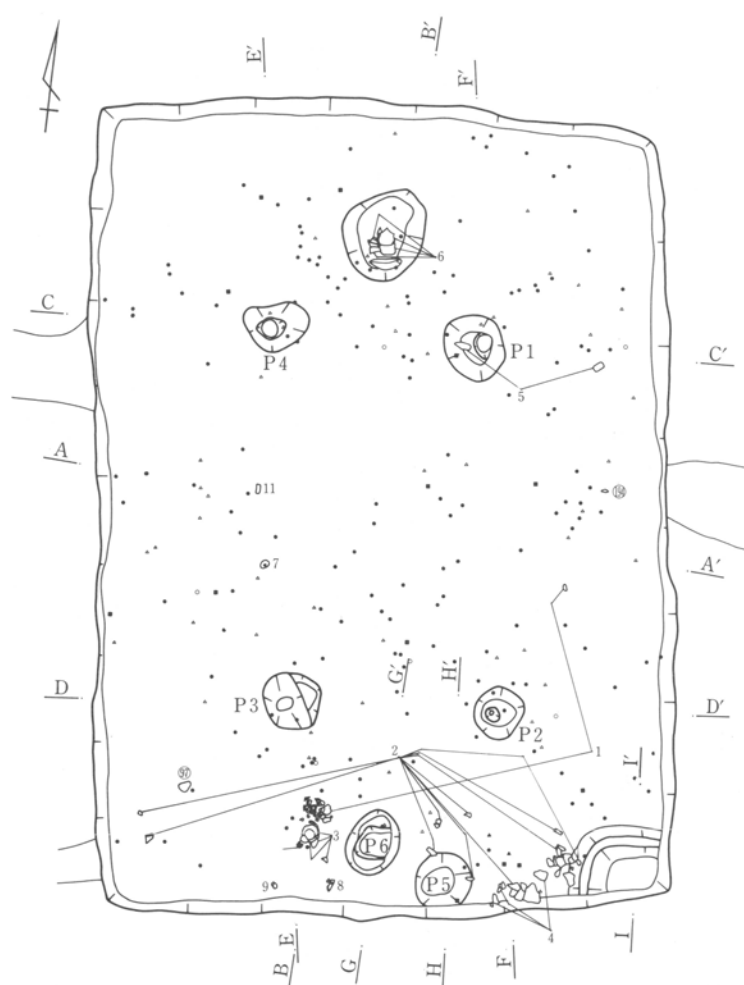
第264図 16号住居跡



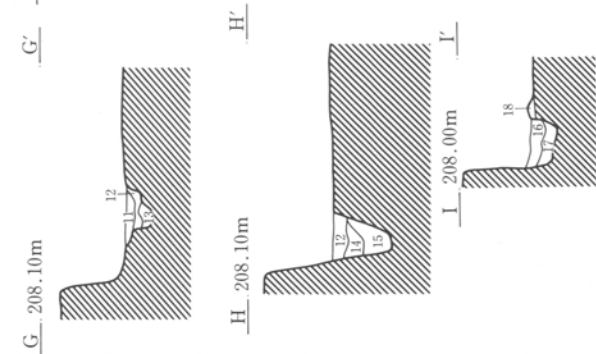
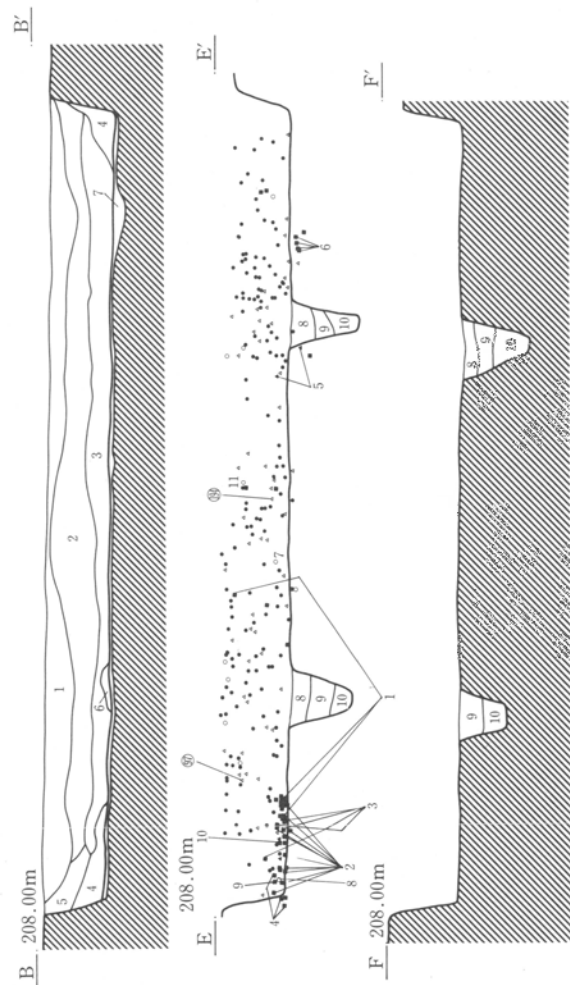
第265図 16号住居跡南東隅ピットおよび炉



第266図 16号住居跡出土遺物



- 11 暗褐色土 B.P.・炭化粒子を少量含む
- 12 黒褐色土 B.P.を少量含む
- 13 暗褐色土 B.P.・赤褐色土ブロックを少量含む
- 14 黒色土 B.P.を含む
- 15 黒色土 B.P.を微量含む 粘性強い
- 16 黒色土 B.P.を少量含む
- 17 黒色土
- 18 白色粘土層

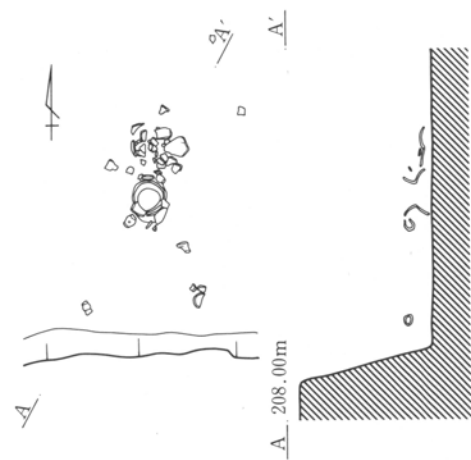


21号住居跡土層注記

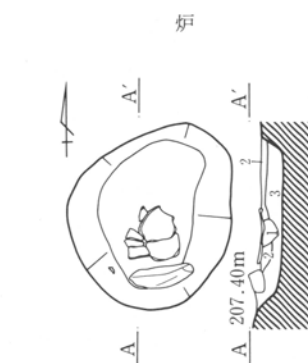
- 1 褐色土 ローム粒子・白色粒子を多量・黒色土を少量含む
- 2 褐色土 ロームブロック・炭化粒子を含む
- 3 褐色土 ロームブロックを少量含む
- 4 暗褐色土 B.P.・暗黄褐色土ブロックを少量含む
- 5 暗褐色土 暗黄褐色土ブロックを含む
- 6 暗褐色土 B.P.・Y.P.を多く含む
- 7 暗褐色土 B.P.を多量に含む 貼床
- 8 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子・黄色粒子を少量含む
- 9 暗褐色土 白色・褐色・黄色粒子・赤褐色粒子を少量含む
- 10 暗褐色土 赤褐色粒子を少量含む

0 2m

第267図 21号住居跡



南壁際遺物出土状況



21号住居跡炉土層注記

- 1 赤褐色土 焼土層
- 2 暗褐色土 黒色土ブロック・焼土粒子を含む
- 3 暗褐色土 焼土粒子微量含む

0 1m

16号住居跡出土土器観察表

No.	器種	出土位置	法量 ①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整・文様	分類	備考
1	甕	北西2	①14.3cm ②— ③[10.1cm]④口縁欠	①にぶい赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部輪痕残す 頸～胴RL縄文横回転 内面磨きか	II A	
2	甕	南西-10	①11.8cm ②— ③[6.7cm]④口縁欠	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・バミスを含む	口～胴外面LR縄文横回転 内面磨き	II A	
3	甕	南東5	①— ②5.0cm ③[5.0cm]④胴～底欠	①にぶい褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 砂粒・バミスを含む	胴部内外面とも磨き 底部外面ナデか	II	
4	甕	南東2	①— ②8.1cm ③[2.4cm]④底部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・長石粒を含む	胴～底部内外面磨き	II	
5	甕	南東13	①— ②7.8cm ③[20.5cm]④胴～底欠	①明褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	胴部外面上半LR縄文 胴部外面下半・内面磨き	II A	
6	台付甕	北西0	①(19.6cm)②— ③[15.5cm]④口～胴欠	①橙 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 胴部外面上半RL縄文横回転 胴部下半・内面磨き	III	
7	壺	北東8	①14.4cm ②4.7cm ③14.3cm ④ほぼ完形	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	口縁部横ナデ 胴部外面磨き 胴部内面磨きか	I B	
8	甕	北西-2	①— ②7.0cm ③[6.5cm]④胴～底欠	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	内外面とも磨きか(磨き痕不明)	II	

21号住居跡

位置 C66～70-II42～45Gr 重複 なし

平面形態 長方形 西壁よりも東壁がやや短く、台形に近い。

規模 東西4.54m南北6.48m 壁高 56cm やや傾斜している 面積 29.61㎡ 床面積 27.67㎡

主軸方位 N-5°-W 壁溝 なし

柱穴 対角線の内側に4本検出された。他の住居に比べ、内側に寄っている。

P1 径53cm 深さ52cm P2 径42cm 深さ44cm P3 径48cm 深さ48cm P4 径23cm 深さ51cm

入り口施設 南壁際中央部に、床面で2基、掘り方面でさらに1基ピットが検出されている。掘り方面の1基も床面から掘り込まれていた可能性があり、3基が偏平な三角形に配置されていたと考えられる。

P5 径45cm 深さ47cm P6 径56cm 深さ23cm P7 径52cm 深さ10cm

貯蔵穴 南東隅から、68×54cm 深さ26cmの隅丸長方形のピットが検出されている。周囲には床面に盛り土をした幅30cm高さ5cmの土手状の高まりがある。

床面 暗褐色土で貼床としているが厚さは2～3cmと薄い。よく踏み固められており、硬質である。

掘り方 ほぼ平坦で、9基のピットが検出された。

遺物出土状況 覆土中の小破片の遺物はほぼ全面から平均して出土しているが、床面付近の比較的大きな破片は南壁際に集中している。図示した土器も、ほとんどが床面付近から出土したものである。

炉

位置 中央北寄り 主軸方位 N-2°-W 平面形態 楕円形 規模 長さ75cm 幅66cm

深さ 12cm 備考 南側に枕石が検出され、その北側に甕の破片が出土している。主軸の方向に長くなっている。火床面は比較的是っきりしており、甕の下に焼土層が検出されている。

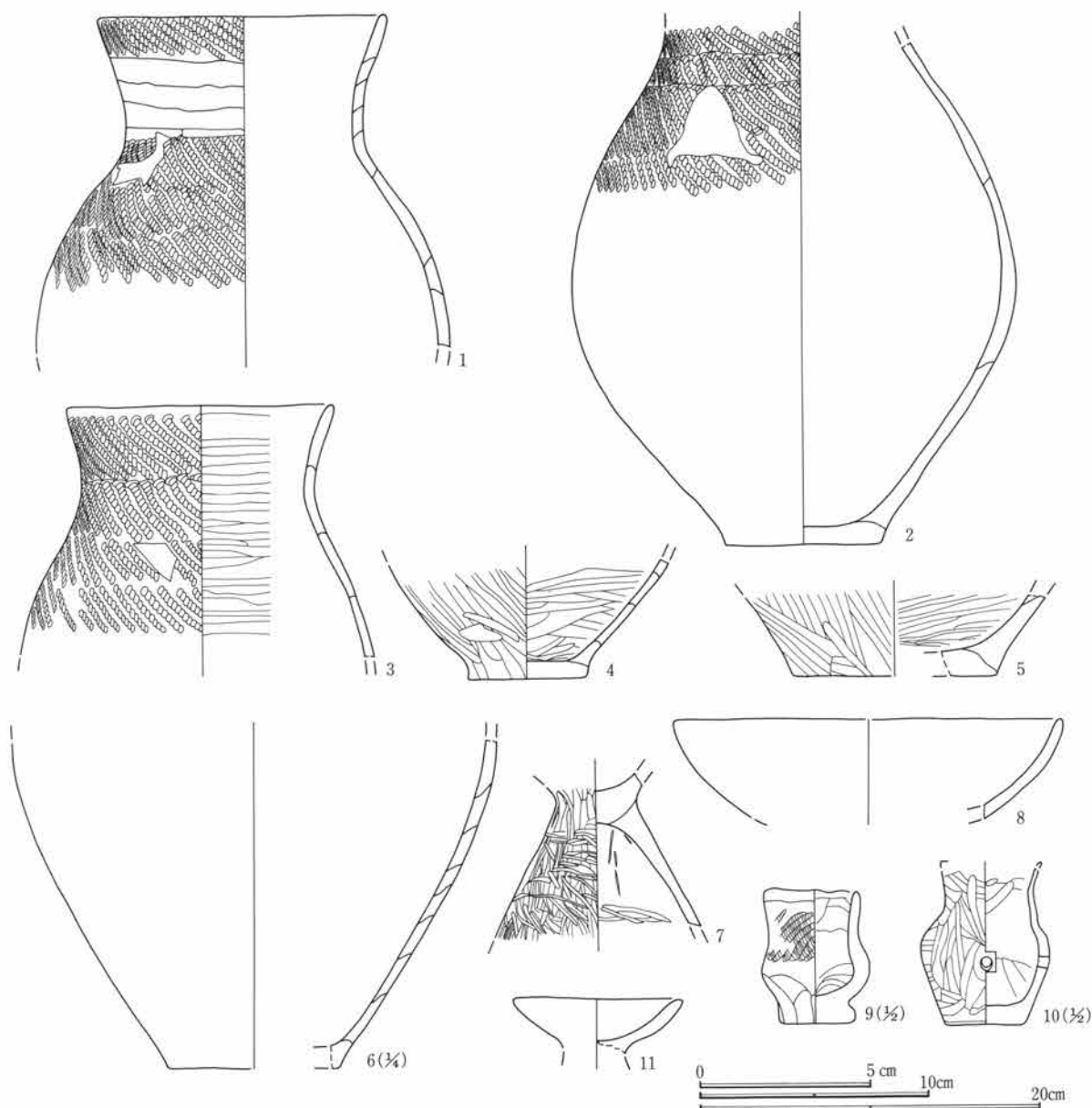
出土遺物 弥生土器総数は36点と最も少ない。壺・甕・高坏・器台・小型土器が出土している。

所見 弥生の住居の中では、最も規模が大きく掘り方もしっかりしており、壁高も高い。他の住居と同様赤井戸系の土器が出土しているため、弥生末から古墳初頭の住居と考えられる。

出土土器数量表

	壺	甕	高坏	器台	計
点数	5	20	8	1	36
重量(g)	194	2,453	290	48	3,038

第III章 検出された遺構と出土遺物



第268図 21号住居跡出土遺物

21号住居跡出土土器観察表

No	器種	出土位置	法量 ①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整・文様	分類	備考
1	甕	南西 1	①12.6cm ②— ③[14.5cm]④ $\frac{1}{2}$	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部上半外面・頸～胴上半RL縄文横回転 口(下半)～頸輪痕残す	II A	
2	甕	南東 -2	①— ②6.8cm ③[21.7cm]④胴～底 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	頸～胴上半外面RL縄文横回転 胴部下半・内面篋磨き	II A	
3	甕	南西 2	①11.6cm ②— ③[10.9cm]④口～胴	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	口縁部～胴部上半4段のRL縄文 内面篋磨き	II A	
4	甕	南東 -2	①— ②5.2cm ③[5.0cm] ④胴～底部	①にぶい黄褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	外面斜め方向篋磨き 内面横方向篋磨き	II	
5	甕	北東 -9	①— ②(8.8cm) ③[3.5cm] ④底部片	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	胴部外面縦方向篋磨き 内面斜め方向篋磨き 底部外面篋ナデ	II	
6	甕	北東 8	①— ②(10.0cm) ③[19.0cm]④胴～底 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒(細砂)を多く含む	胴部外面篋磨き 内面ナデ	II	
7	高坏	南西 9	①— ②— ③[6.7cm] ④脚部	①にぶい赤 ②底-灰赤 脚-黒 ③良好 ④普通 砂粒を含む	外面縦方向篋磨き後横方向篋磨き 底部内面篋磨 脚部内面ナデ後篋磨	IV	

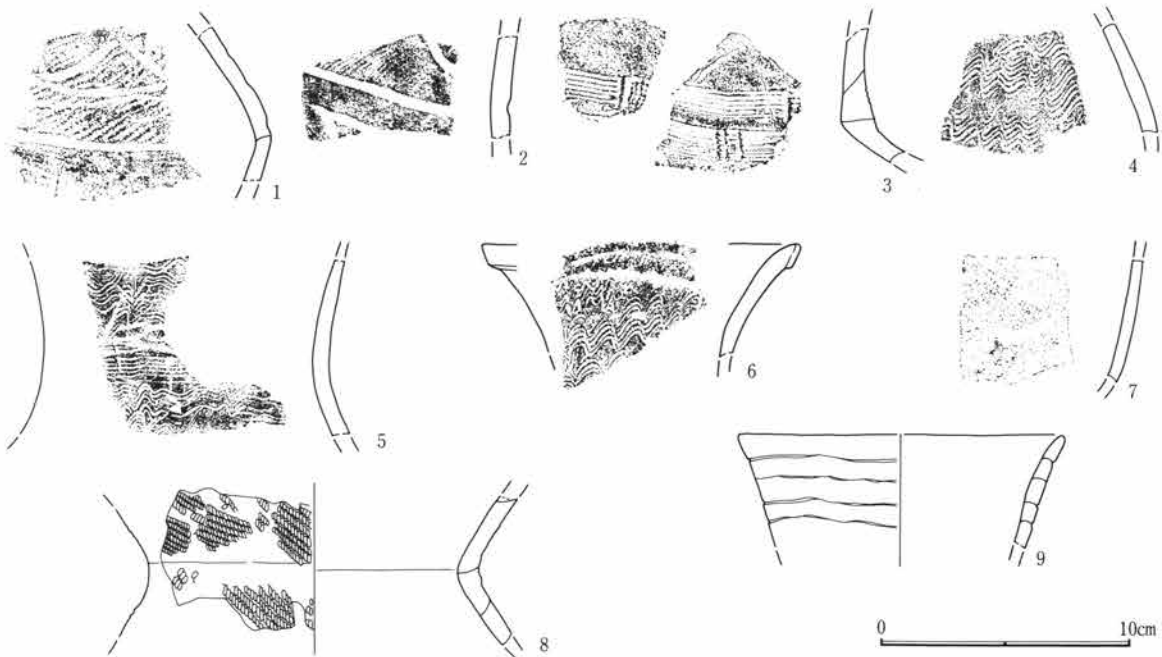
No	器種	出土位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整・文様	分類	備考
8	高坏	南西 4	①(17.0cm)③[4.3cm] ④坏部口縁部片	①にふい黄橙 ②にふい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒(細砂)を含む	器面の摩滅が著しいが、内外面とも 篋磨きか	IV		
9	小型 土器	南西 6	①2.8cm ②2.2cm ③3.9cm ④完形	①にふい黄橙 ②にふい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒(細砂)を含む	口縁部ナデ 胴部外面上半Lr無節縄 文・下半指頭によるナデ 内面篋ナデ	VI		
10	小型 土器	南西 6	①— ②2.4cm ③[4.5cm] ④ほぼ完形	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④細 砂粒(細砂)を少量含む	外面篋磨き 内面篋ナデか 胴部に 3mmの孔あり	VI		
11	器台	北西 36	①7.4cm ②— ③[2.4cm] ④台部	①明赤褐 ②明褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	内外面ともナデ	V		

遺構外出土遺物

遺構外および古墳時代以降の遺構からも弥生(古墳時代初頭に入る可能性のある土器も含む)土器が94点、石器が1点出土している。土器では甕が43点と最も多く、続いて壺、高坏、台付甕の順に少なくなっている。この中には、竪穴住居跡から主に出土した縄文施文の赤井戸系の土器の他、弥生中期の土器や、櫛描波状文や櫛描簾状文を施す所謂樽式系の土器等が含まれる。石器は磨製石鏃が1点古墳時代の土坑に混入して出土している。

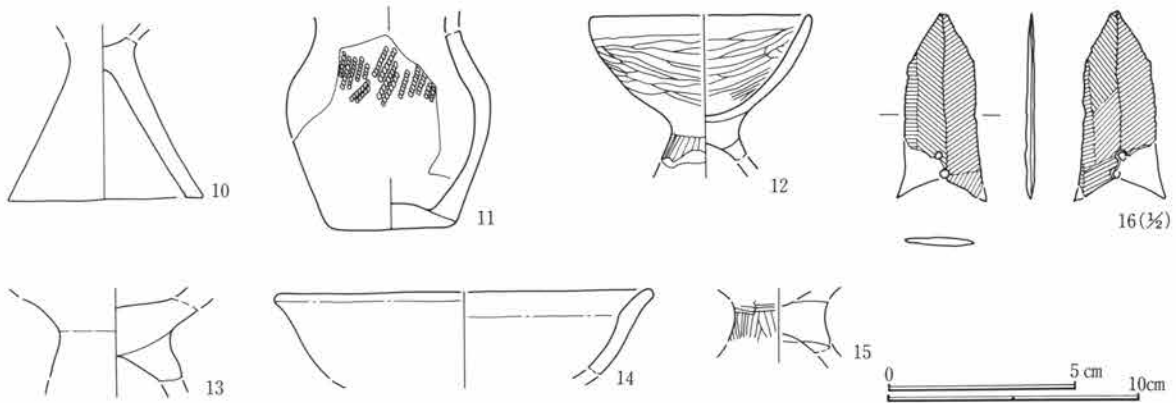
遺構外出土遺物数量表

	壺	甕	台付甕	高坏	計
遺構外	23	12	0	12	47
他遺構混入	9	32	2	4	47
計	32	44	2	16	94



第269図 遺構外出土遺物(1)

第III章 検出された遺構と出土遺物



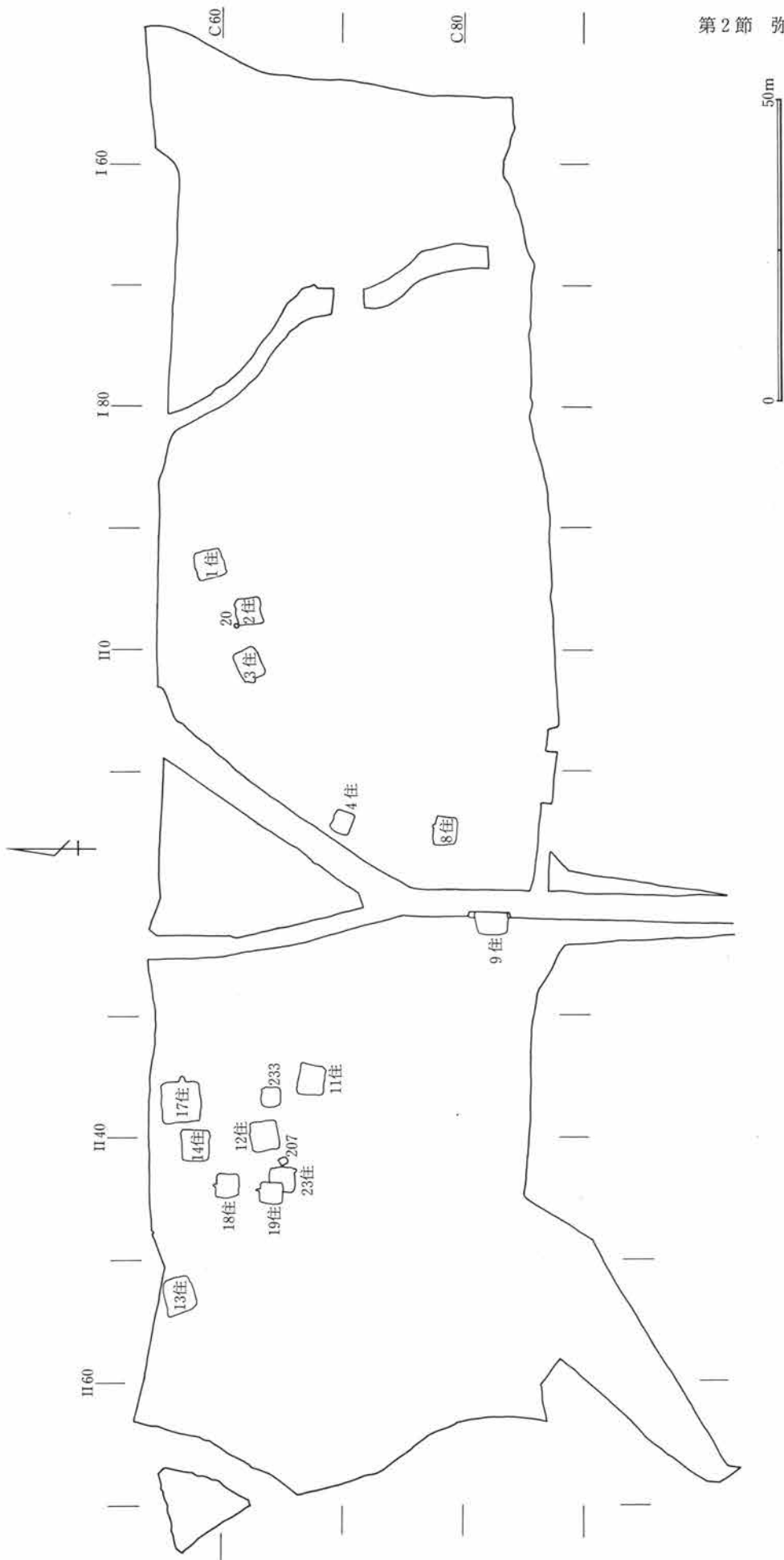
第270図 遺構外出土遺物（2）

遺構外出土土器観察表

No	器種	出土位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整・文様	分類	備考
1	壺	C70 I56	器厚6~7mm ④胴部片		①にぶい黄橙 ②暗灰黄 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	外面沈線区画内にLR縄文 内面篋磨き	I D	
2	壺	表探	器厚6~7mm ④胴部片		①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	頸部外面櫛描き簾状文 内面ナデ	I D	
3	壺	C59 I67	器厚10~17mm ④胴部片		①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	頸部2段の3連止簾状文 内外面篋磨き	I C	
4	甕	C57 I71	器厚6mm ④胴部片		①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	外面櫛描き波状文 内面篋磨き	II C	
5	甕	18号 土坑	最大径(11.4cm) ④胴部片		①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	外面櫛描き波状文および簾状文 内面篋磨き	II C	
6	壺	C57 I74	①(12.8cm)③[4.4cm] ④口縁部片		①明赤褐 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を含む	折り返し口縁 外面櫛描き波状文 内面篋磨き	I C	
7	甕	147号 土坑	器厚3~4mm ④胴部片		①明黄褐 ②黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	外面RL縄文横回転 内面篋磨きか	II A	
8	甕	C58 I67	最大径15.9cm ④胴部片		①黒褐 ②暗褐 ③不良 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	外面RL縄文横回転 内面篋磨き	II A	
9	壺	3号 配石	①(12.8cm)②— ③[4.4cm] ④口縁部片		①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	口縁部外面一部押さえ痕あり 内面 磨き 輪積痕を残す	I	
10	台付甕	C58 I74	①— ②7.8cm ③[6.4cm] ④脚部		①明褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	脚部外面篋磨き 脚部内面ナデ	III	
11	小型甕	C78 I60	①— ②(4.8cm) ③[7.8cm] ④頸~底迄		①橙 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	外面胴部上半LR縄文・下半篋磨き 内面篋ナデ	II A	
12	高坏	C72 I84	①(8.7cm) ②— ③[6.0cm] ④口縁~脚		①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	内外面とも篋磨き	IV	
13	高坏	C56 I68	①— ②— ③[3.3cm] ④脚部片		①にぶい橙 ②にぶい橙 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	摩滅により調整不明	IV	
14	高坏	2号 竪穴	①(15.2cm) ②— ③[3.3cm] ④口縁部片		①橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	内外面とも篋磨き 内外面とも赤彩 (赤褐色)	IV	
15	高坏	C79 I71	①— ②— ③[2.0cm] ④脚部片		①赤 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	底部内面・外面篋磨き・赤彩 脚部内面ナデ	IV	

遺構外出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
16	磨製石鏃	233号土坑	[4.9]	2.1	0.3	4.0	基部欠損	結晶片岩系	基部に小孔2個以上 孔径約2mm



第271図 古墳時代遺構位置図

第3節 古墳時代

(1) 遺構・遺物の概要

遺構

竪穴住居跡が14軒（1～4・8・9・11～14・17～19・23号住居跡）、土坑が3基検出されている。

①分布 竪穴住居跡は、調査区の中央やや東よりに3軒（1～3住）、中央部に3軒（4・8・9住）西側に8軒（11～14・17～19・23住）と、3つの群を形成している。中央の3軒の住居間距離が約10mと離れているのに対し、他の2群は、5m以下と比較的接近している。

②時期 出土土器は、後期鬼高式のもので、竪穴住居もすべて後期鬼高式期のものと考えられる。

③平面形態・規模 平面形態は、隅丸方形のものが9軒、隅丸長方形のものが4軒、不明が1軒である。規模は、長辺が3.32～6.96m平均4.74m、短辺が2.58～6.36m平均4.15m、床面積が9.0m²～36.7m²平均18.05m²となっている。

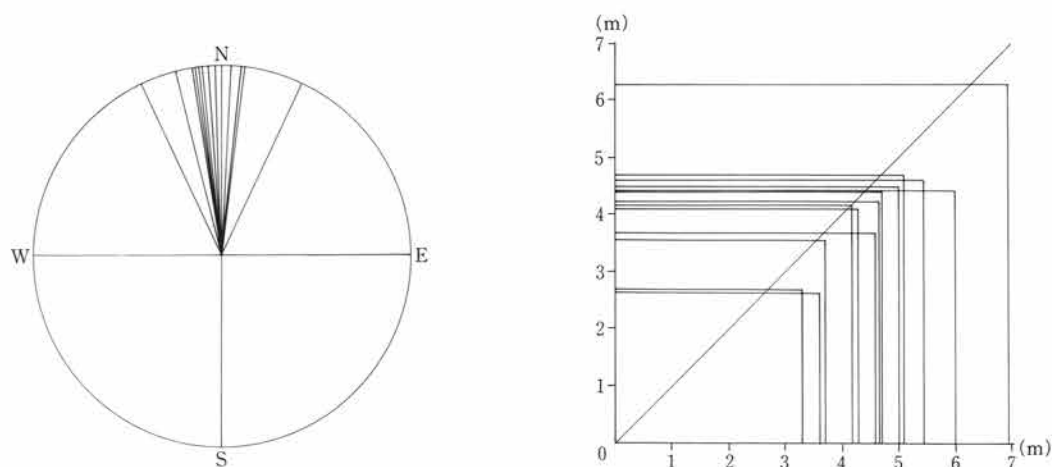
④主軸方位 カマドのある辺に直角の方向を主軸とすると、主軸を北方向とするものが12軒、西方向とするものが2軒となっている。北方向のものは、N-7°-EからN-9°-Wの間に9軒集中している。

⑤床面・掘り方 すべての住居に貼床が施されており、構築土はロームブロックを含む暗褐色土である。床面は比較的良く踏み固められているものが多く、はっきりと硬化面の残っている住居もある。掘り方は平坦なものもあるが、ピットや土坑状の掘り込みがあるものが多い。

⑥カマド 西半分しか調査できなかった9号住を除き、すべての住居がカマドをもっている。位置は、北壁中央部のものが4軒、北壁東よりのものが7軒、東壁中央のものが2軒、不明が1軒となっており、壁の中央にあるものと右に寄っているものがほぼ同数となっている。規模は、全長が煙道部の残っているもので1.11m～2.15m平均1.45m、残っていないもので0.50m～0.90m平均0.66m、幅が0.72m～1.14m平均0.90mである。

⑦柱穴 4・19号住の2軒で検出されず、他の12軒で検出されている。基本的に4本で住居の四隅の対角線上に存在している。

⑧貯蔵穴 3軒で検出されず、8軒で検出され（掘り方で確認された19号住は除く）、2軒（9・17号住）は不明である。すべてカマドの右側の隅にあり、形態は円形・楕円形が4軒、方形・隅丸方形が4軒である。



第272図 古墳時代住居跡主軸方位および規模

遺物

①土器 古墳時代の土器は、須恵器が82点、土師器が3,405点出土している。

須恵器

出土点数は少なく、坏・蓋・甕・瓶が出土している。

- I 坏 A類 かえりを持つもの B類 かえりを持たないもの
 II 蓋 A類 かえりを持つもの B類 かえりを持たないもの
 III 甕 A類 内面青海波文当て具痕のあるもの B類 内面ナデのもの
 IV 瓶

土師器

出土点数は多く、壺・長胴甕・胴張甕・小型甕・甌・鉢・坏・椀・皿・高坏等多くの器種が出土している。

- I 壺 1点のみの出土
 II 長胴甕 A類 口縁部がくの字に強く開くもの B類 口縁部がなだらかに開くもの
 III 胴張甕 胴部に最大径を持つ
 IV 小型甕 A類 口縁部に最大径を持つもの B類 胴部に最大径を持つもの
 V 甌 A類 底部がなく胴部が直線的またはやや内湾して立ち上がるもの
 B類 丸底の底部に孔が1つあくもの
 VI 鉢
 VII 坏 A類 口縁部と体部を画す稜線から口縁部が直立もしくは外傾するもの
 B類 口縁部と体部を画す稜線がはっきりせず口縁部が直線的に立ち上がるもの
 C類 湾曲する体部で短い口縁部がわずかに直立もしくは内傾するもの
 D類 特殊なもの
 VIII 高坏 坏部が浅く皿状のもの
 IX 埴 X 皿

須恵器・土師器数量表

須 恵 器				土 師 器								総計
坏・蓋	甕	瓶	計	甕	甌	鉢	坏	高坏	碗	皿	計	
12	56	5	73	1,986	24	526	859	5	6	1	3,407	3,480

②石製品 こも編石が109点、台石10点、石製模造品・環状の石製品が各1点出土しており、他に柱穴の底部に敷いた自然石（2点は多孔石の転用）が4点出土している。

こも編石 竪穴住居7軒から109点出土している。各住居3～39点で1軒平均約15点である。「こも」を編む時の錘と考えられ、側面に敲打痕や剝離痕のあるものや、くぼみ石を転用したものがある。

台石 4軒から10点出土している。各住居1～4点で、扁平な自然石が床面に据えられた状態で出土している。工作台等と考えられ、表面に敲打痕を残すものもある。

石製模造品 滑石製。刀子の模造品。

環状石製品 滑石製。中心に孔あり。

第三章 検出された遺構と出土遺物

1号住居跡

位置 C57～60—I91～94 Gr 重複 なし 平面形態 隅丸方形 規模 東西4.46m 南北4.72m
 壁高 44cm 垂直に近い 面積 20.6㎡ 床面積 19.7㎡ 主軸方位 N-14°-W 壁溝 なし
 柱穴 住居の対角線上に4本検出された。各柱穴を結んだ平面形は、住居と同様整った正方形を呈し、壁からの距離もそれぞれほぼ等しい。

P1 径30cm深さ18cm P2 径36cm深さ36cm P3 径39cm深さ46cm P4 径39cm深さ44cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 100cm×58cm 深さ 40cm 形状 楕円形 底面2カ所に掘り込みあり。

床面 ローム粒子を含む明褐色土で、最大25cmとかなり厚い貼床を施している。床面は比較的良く踏み固められている。

掘り方 ほぼ平坦な掘り方で、径20cm～50cmのピットが多数、浅い土坑状の掘り込みが2基検出されている。

遺物出土状況 ほぼ全面から平均して出土しており、垂直分布でも上層から床面まで満遍なく出土している。接合関係の判明するものは3個体あり、覆土中の破片が接合している。

カマド

位置 北壁中央 主軸方位 N-9°-W 規模 全長0.73m 幅0.88m

構築 暗褐色土で袖を構築しているが、袖石・天井石等は不明である。焚き口は平坦で床面とほぼ同じ高さであるが、火床面は床面よりもやや低い位置にあり、それほど強く焼けていない。煙道部は削平のためか検出されなかった。

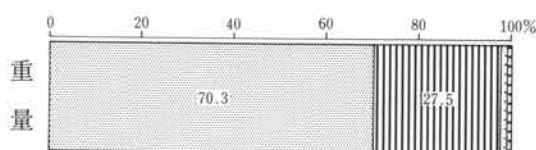
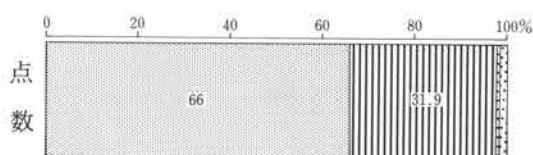
遺物出土状況 カマド内の出土遺物は少ないが、カマド右脇および貯蔵穴右脇に、坏・甕の比較的残りの良い破片が出土している。

出土遺物 出土量は古墳時代の住居の中では比較的多く、土師器は甕93点、坏45点で、須恵器は蓋1点、坏1点出土している。また台石が4点出土し、他に弥生土器が4点、縄文土器が107点出土している。

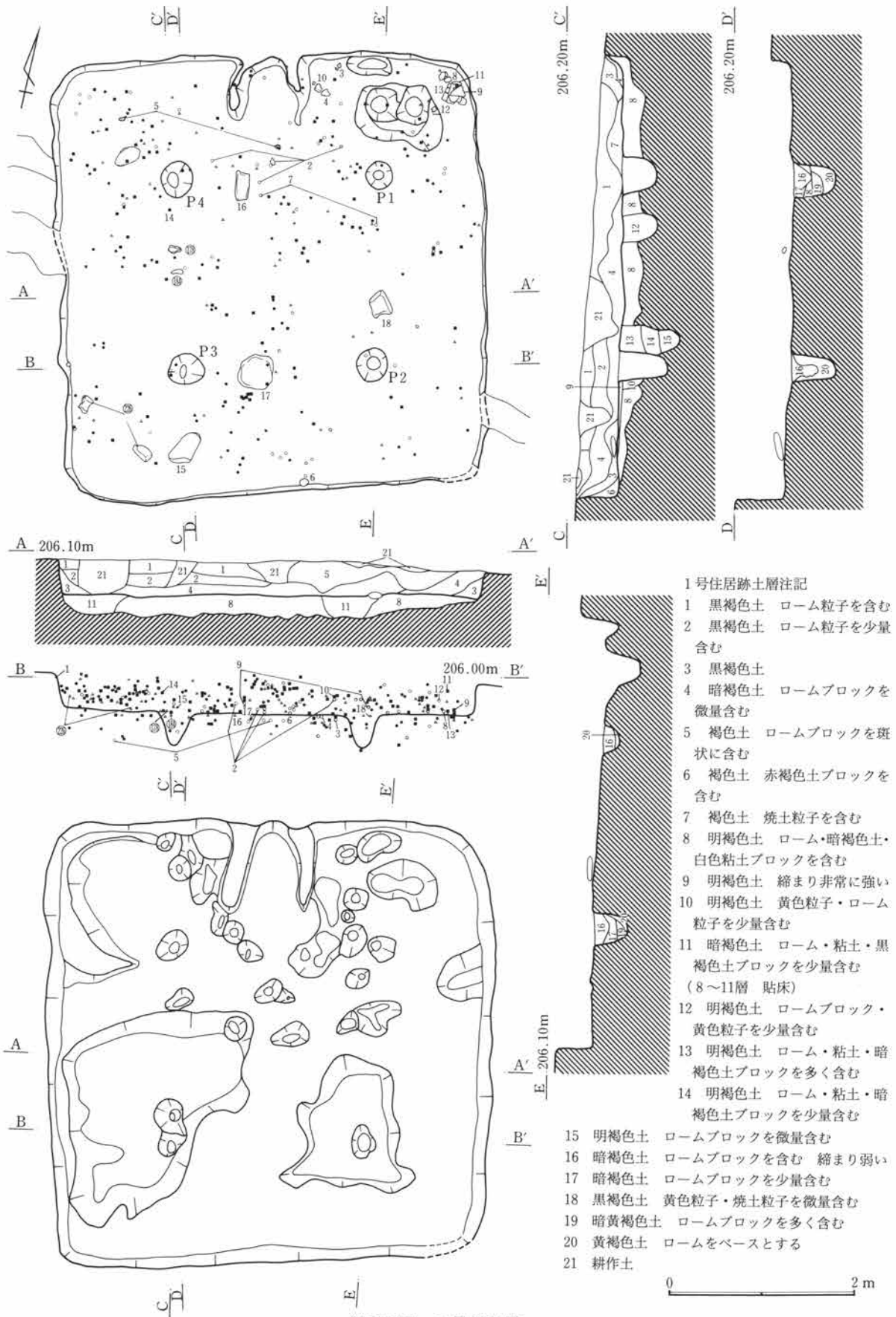
所見 P3の柱穴に重複してかなり深いピットがあるため、柱の建て替えの可能性はある。しかし床面まで切り込んでいて、上面が踏み固められているため、床を貼り替えずに建て替えたものと考えられる

出土土器数量表

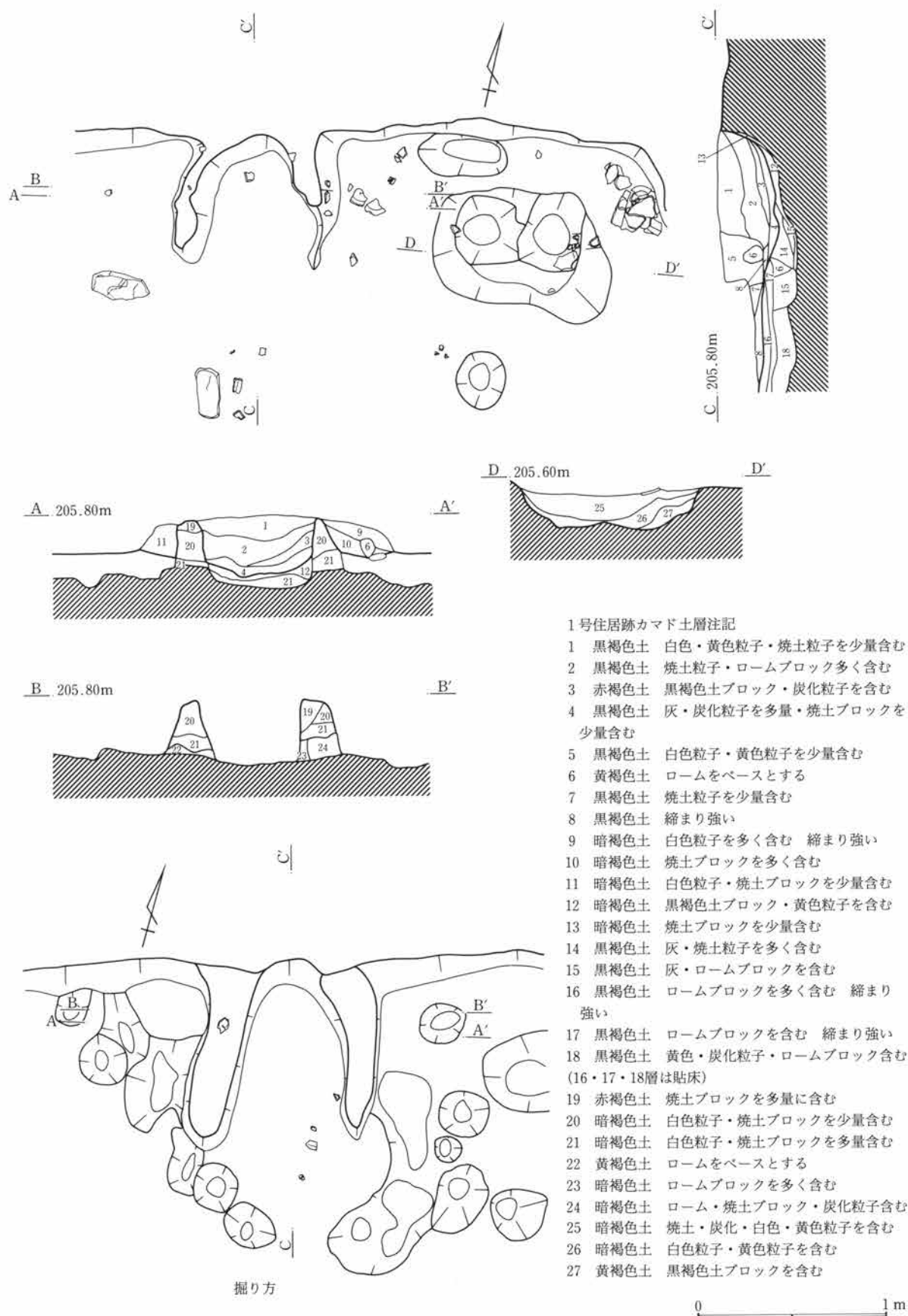
種別	土師器			計	須恵器		総計
	甕	坏	甕		坏・蓋	計	
点数	93	45	1	139	2	2	141
重量(g)	1,964	770	40	2,774	21	21	2,795



第273図 1号住居跡土器分類グラフ

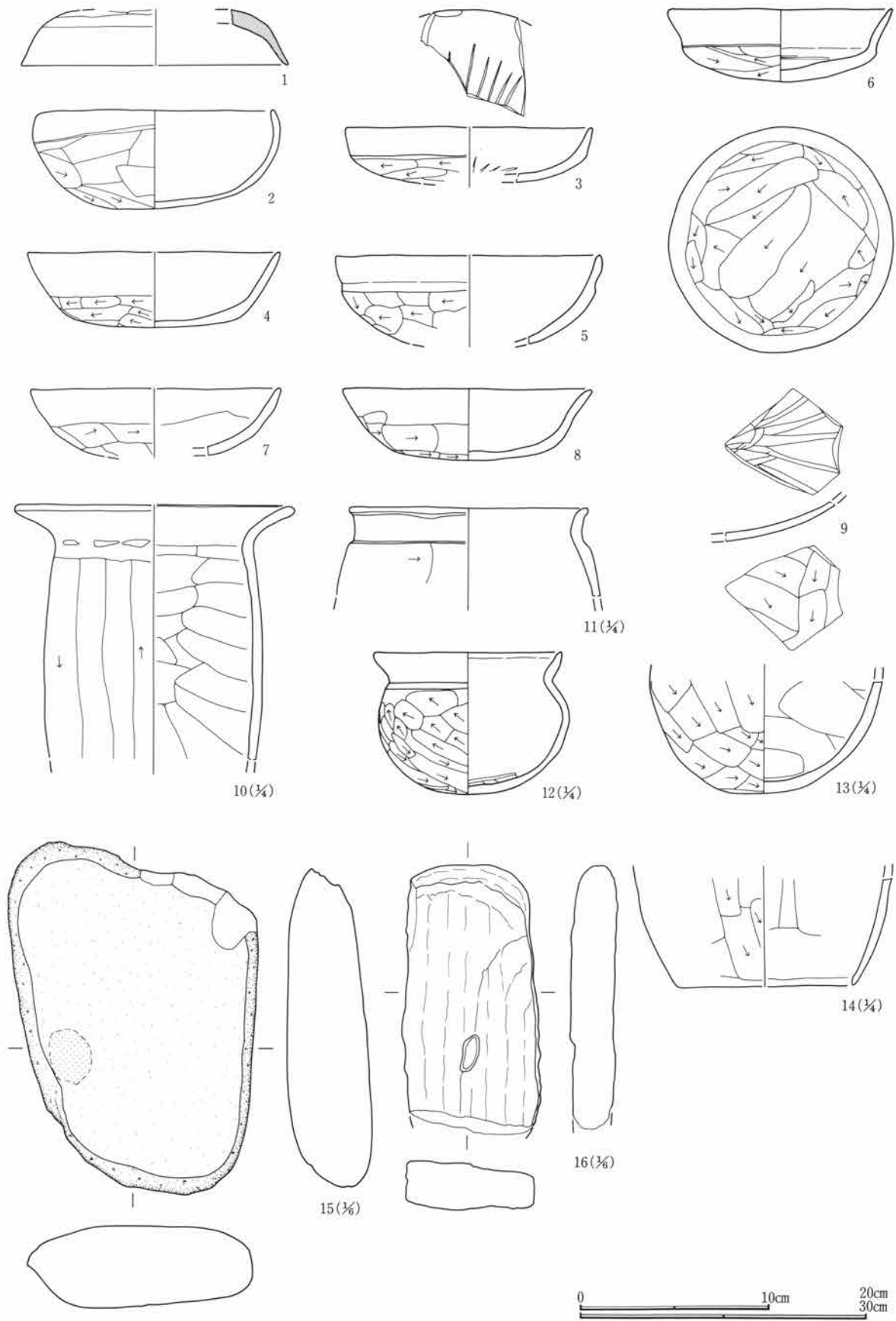


第274図 1号住居跡

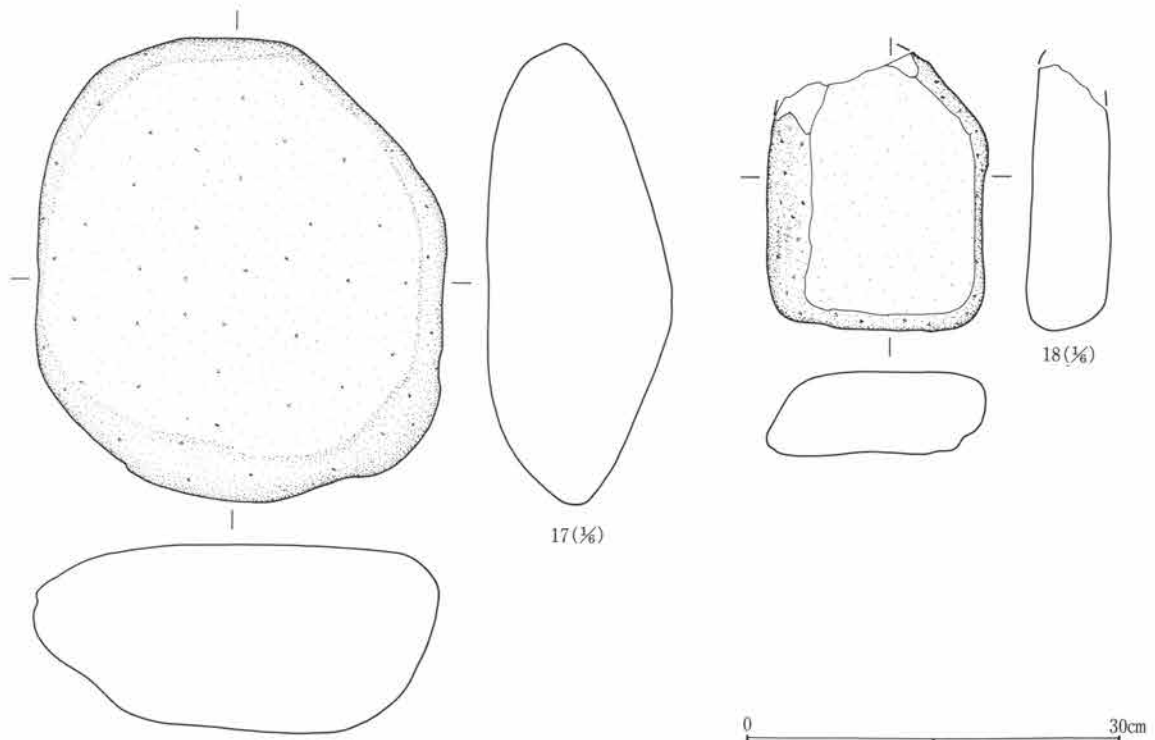


第275図 1号住居跡カマド

第3節 古墳時代



第276図 1号住居跡出土遺物(1)



第277図 1号住居跡出土遺物(2)

1号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	須恵器 蓋	南東 4	①14.0cm ③[2.9cm] ④口縁部片	①灰白 ②灰白 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を含む	天井部手持ち篋削り 体部回転 篋削り ロクロ調整	I A	
2	土師器 坏	北東 2	①12.4cm ③5.1cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②明赤褐 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII C	
3	土師器 坏	北東 -2	①13.0cm ③[2.8cm] ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後暗文	VII A	
4	土師器 坏	北東 -2	①13.2cm ③3.9cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII B	
5	土師器 坏	北東 -6	①14.0cm ③[4.6cm] ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
6	土師器 坏	北東 6	①11.7cm ③3.8cm ④完形	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
7	土師器 坏	北東 11	①13.2cm ③[3.5cm] ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII B	
8	土師器 坏	北東 3	①13.1cm ③3.7cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面横ナデ	VII B	
9	土師器 坏	北東 3	①器厚3～5mm ④底部片	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	外面篋削り 内面ナデ後暗文	VII	
10	土師器 長胴甕	南西 -12	①(19.0cm)③[14.6cm] ④口～胴 $\frac{1}{2}$	①褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面ナデ	II A	
11	土師器 長胴甕	北東 16	①16.3cm ③[14.6cm] ④口縁部片	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面ナデ	II A	
12	土師器 小型甕	北東 22	①— ③[7.8cm] ④胴～底部	①にぶい褐 ②灰褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り 内面ナデ(底部は篋ナデか)	IV A	
13	土師器 甕	北東 6	①— ③[7.8cm] ④胴～底部	①にぶい橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 大粒の砂粒を含む	胴～底部外面篋削り 内面篋ナデ	II	
14	土師器 甕	北西 33	①— ②(10.0cm) ③[7.4cm] ④胴～底部	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒・パミスを含む	外面篋削り 内面篋ナデ	V A	

1号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
15	台石	南西 11	36.4	26.2	8.8	12300	ほぼ完形	安山岩	一部赤化
16	台石	北西 -2	27.6	14.6	5.0	3600	完形	絹雲母石墨片岩	一部赤化
17	台石	南西 11	36.6	32.4	14.8	29300	完形	安山岩	
18	台石	南東 1	[22.0]	17.6	6.6	5000	一部欠損	安山岩	一部赤化

2号住居跡

位置 C61~62-I96~97 Gr 重複 20号土坑より新 平面形態 隅丸方形
 規模 東西4.4m 南北4.24m 壁高 66cm やや傾斜している 面積 17.58㎡ 床面積 15.44㎡
 主軸方位 N-6°-W 壁溝 なし 貯蔵穴 なし

柱穴 住居の対角線上に4本検出されたが、壁からの距離がそれぞれ違っており、平面形はつぶれた方形となっている。P1 径30cm深さ20cm P2 径32cm深さ22cm P3 径30cm深さ18cm P4 径25cm深さ16cm

床面 黒色土を含む褐色土で貼床とし、比較的よく踏み固められている。

掘り方 径30~60cmのピットが多数検出され、浅い土坑状の掘り込みも3基検出されている。

遺物出土状況 北西隅部を除いてほぼ全面から出土し、垂直分布も上層から床面まで平均して出土している。接合関係の判明する土器は3個体あり、床面付近と覆土上層の破片が接合しているものもある。1・2は、北西部に重複する20号土坑の破片と接合している。また3号住とも接合関係をもっている。

カマド

位置 北壁東寄り 主軸方位 N-2°-W 規模 全長0.72m 幅0.9m

構築 径約60cmの円形に床を掘りくぼめ、その上に黒褐色土で袖を構築しているが、袖石・天井石等は検出されなかった。掘り方を直接火床面としており、床面よりやや低い位置となっている。火床面は、非常に強く焼けているが、その手前に灰の広がりがあり、さらにその手前がまた強く焼けている。煙道部は検出されなかった。

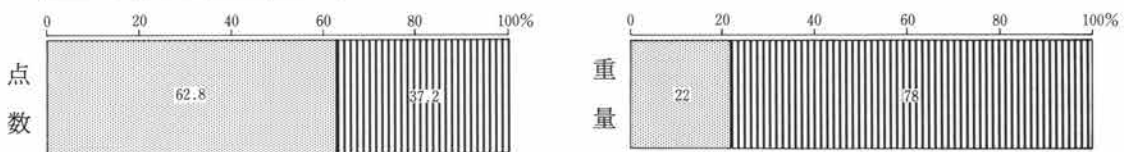
遺物出土状況 カマド内の出土遺物は少ないが、カマド左脇から4・5の坏が出土している。

出土遺物 出土遺物は比較的少なく、土師器甕27点、坏16点が出土しているが、坏が完形品が多いのに対し、甕は小破片が多く完形に近いものはない。須恵器は出土しなかった。3は他の坏に比べ極端に大きく、鉢に近いものとなっている。鉄器が1点出土しているが器種は不明である。また台石が2点出土し、他に縄文土器が232点出土している。

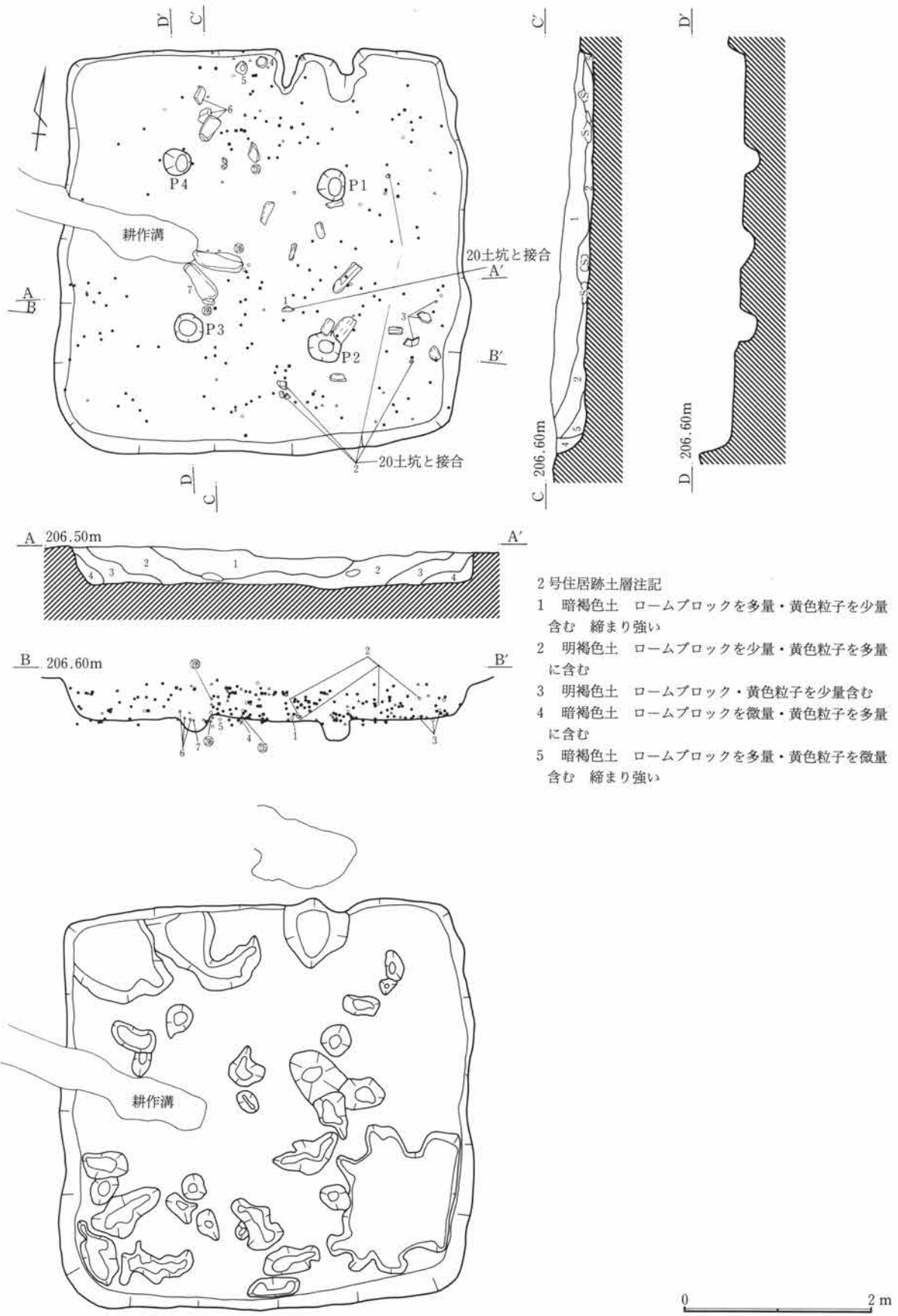
所見 3号住と接合関係をもつ破片は覆土床面から30cm上の出土であり、小破片であるため、2号住は3号住より先に埋没していた可能性が高い。

出土土器数量表

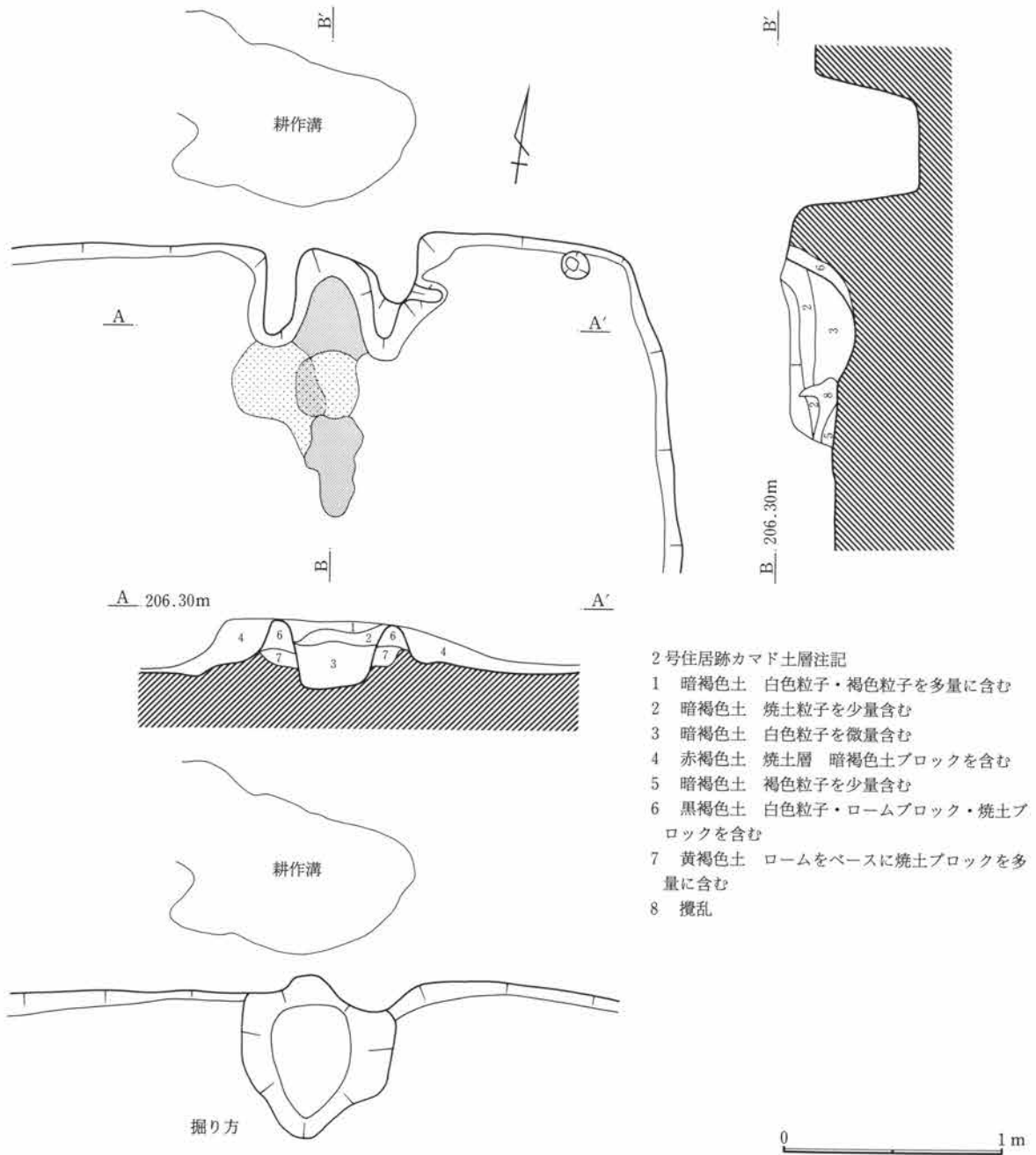
種別	土師器		
器種	甕	坏	計
点数	27	16	43
重量(g)	283	1,003	1,286



第278図 2号住居跡土器分類グラフ



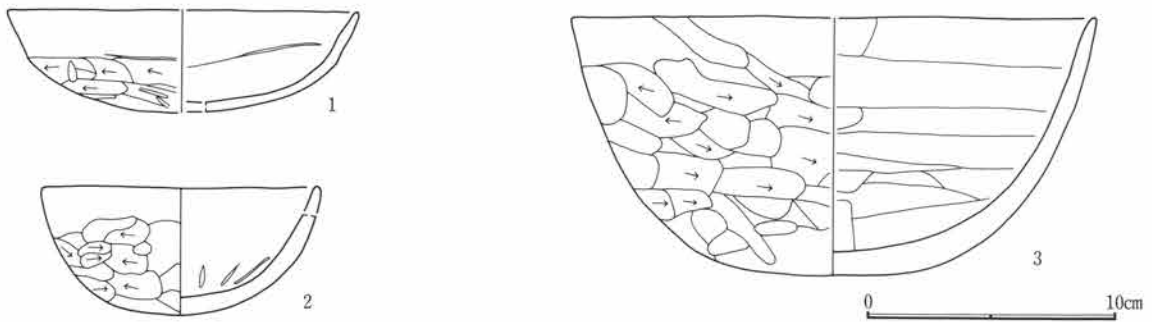
第279図 2号住居跡



2号住居跡カマド土層注記

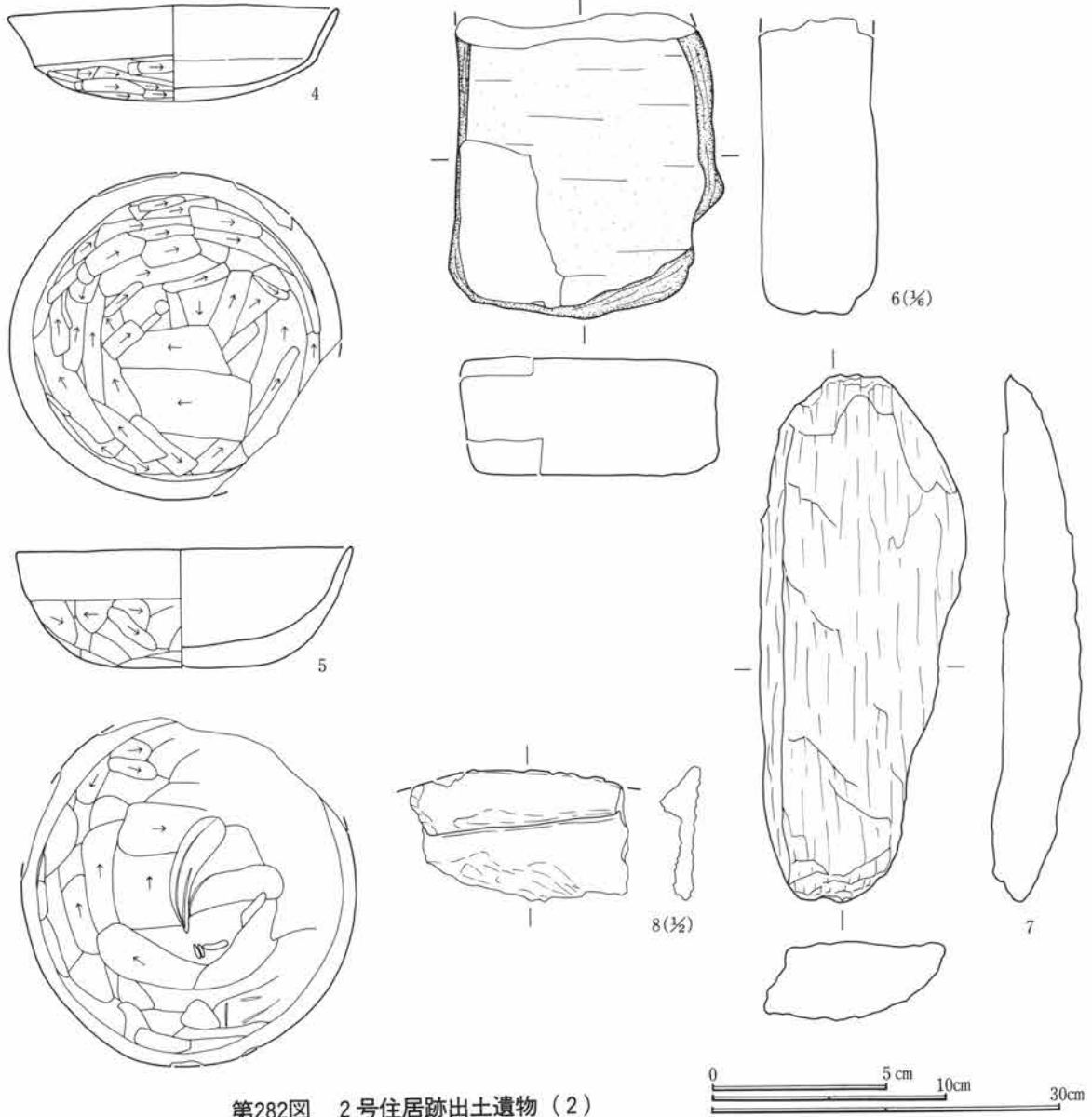
- 1 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子を多量に含む
- 2 暗褐色土 焼土粒子を少量含む
- 3 暗褐色土 白色粒子を微量含む
- 4 赤褐色土 焼土層 暗褐色土ブロックを含む
- 5 暗褐色土 褐色粒子を少量含む
- 6 黒褐色土 白色粒子・ロームブロック・焼土ブロックを含む
- 7 黄褐色土 ロームをベースに焼土ブロックを多量に含む
- 8 攪乱

第280図 2号住居跡カマド



第281図 2号住居跡出土遺物(1)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第282図 2号住居跡出土遺物(2)

2号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調	整	分類	備考
1	土師器 坏	南東 4	①14.0cm ④口~底部 $\frac{1}{2}$	③[4.0cm]	①にぶい赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④細 砂粒・パミスを含む	口縁部横ナデ 内面ナデ	体~底部外面篋削り	VII A	
2	土師器 坏	南東 5	①(11.0cm)③5.0cm ④口~底部 $\frac{1}{2}$		①にぶい赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	口縁部横ナデ 内面ナデ	体~底部外面篋削り	VII B	
3	土師器 坏	南東 1	①(21.0cm)③10.1cm ④口~底部 $\frac{1}{2}$		①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 内面篋ナデ	体~底部外面篋削り	VII	
4	土師器 坏	北東 -3	①14.2cm ④一部欠損	③4.0cm	①明赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④細 大粒の砂粒・パミスを含む	口縁部横ナデ 内面ナデ	体~底部外面篋削り	VII A	
5	土師器 坏	北西 -4	①14.4cm ④口縁部一部欠損	③5.0cm	①にぶい黄褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 内面ナデ	体~底部外面篋削り	VII B	

2号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
6	台石	北西 -1	[25.8]	23.6	10.2	10500	$\frac{1}{2}$	点紋網雲母石墨片岩	表面に一部敲打痕あり 一部赤化
7	台石	北西 -1	45.0	18.0	7.8	6900	完形	網雲母石墨片岩	割石使用

2号住居跡出土鉄器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特徴
8	不明	覆土	[6.2]	[3.7]	1.0	45	破片	不明鉄製品

3号住居跡

位置 C60~62-I99~II2 Gr 重複 なし 平面形態 東西に長い隅丸長方形

規模 東西5.0m 南北3.84m 壁高 46cm 面積 18.83m² 床面積 17.72m²

主軸方位 N-24°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4本検出された。住居が東西に長いいためか、東西間の距離がかなりある。

P1 径30cm深さ26cm P2 径28cm深さ54cm P3 径32cm深さ25cm P4 径36cm深さ16cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 58cm×56cm 深さ 28cm 形状 平面は円形で断面は台形である。

遺物出土状況 覆土中から9の坏とも編石が1点出土している。

床面 暗褐色土で約10cmの貼床を施し、比較的良く踏み固められている。南壁際中央およびカマド南東部に浅い土坑状の掘り込みがある。

掘り方 ほぼ平坦な掘り方で、径20~40cmのピットが9基、浅い土坑状の掘り込みが4基検出されている。

遺物出土状況 土器はほぼ全面から出土し、垂直分布も上層から床面まで平均して出土している。接合関係の判明するものは4個体あり、床面付近の破片と、覆土上層・下層の破片が接合しており、11の坏は2号住居の破片と接合している。こも編石は、住居の東側の柱穴を結ぶラインの外側に集中して出土している。

カマド

位置 北壁東寄り 主軸方位 N-24°-W 規模 全長0.56m 幅0.98m

構築 北東部が耕作溝に壊されていて不明であるが、長径100cm以上、短径80cm以上の楕円形の掘り込み上に粘土を含む暗褐色土で袖を構築している。袖石・天井石等不明であるが、前面に構築材と考えられる自然礫が散乱している。火床面は床面とほぼ同レベルにあり、比較的よく焼けている。掘り方は深く火床面から40cm程下になっている。左袖南西部に長径110cm短径70cm深さ15cmの性格不明の掘り込みがある。

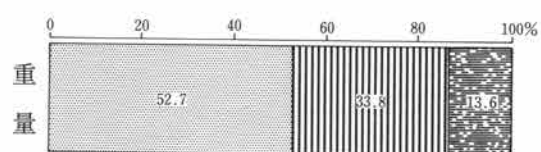
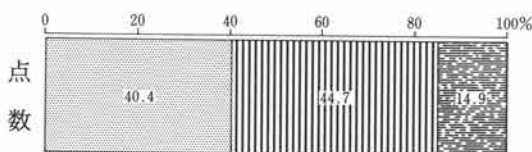
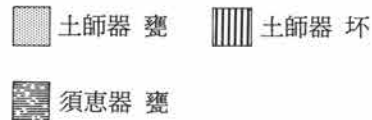
遺物出土状況 カマド内からの出土遺物はほとんどないが、カマド右脇から15の甕底部が出土している。

出土遺物 土器の出土量は少なく、土師器甕19点、坏20点、須恵器甕7点が出土している。また台石3点、こも編石18点が出土しているが、19のこも編石は両側面に刻みが入る。他に縄文土器が304点出土している。

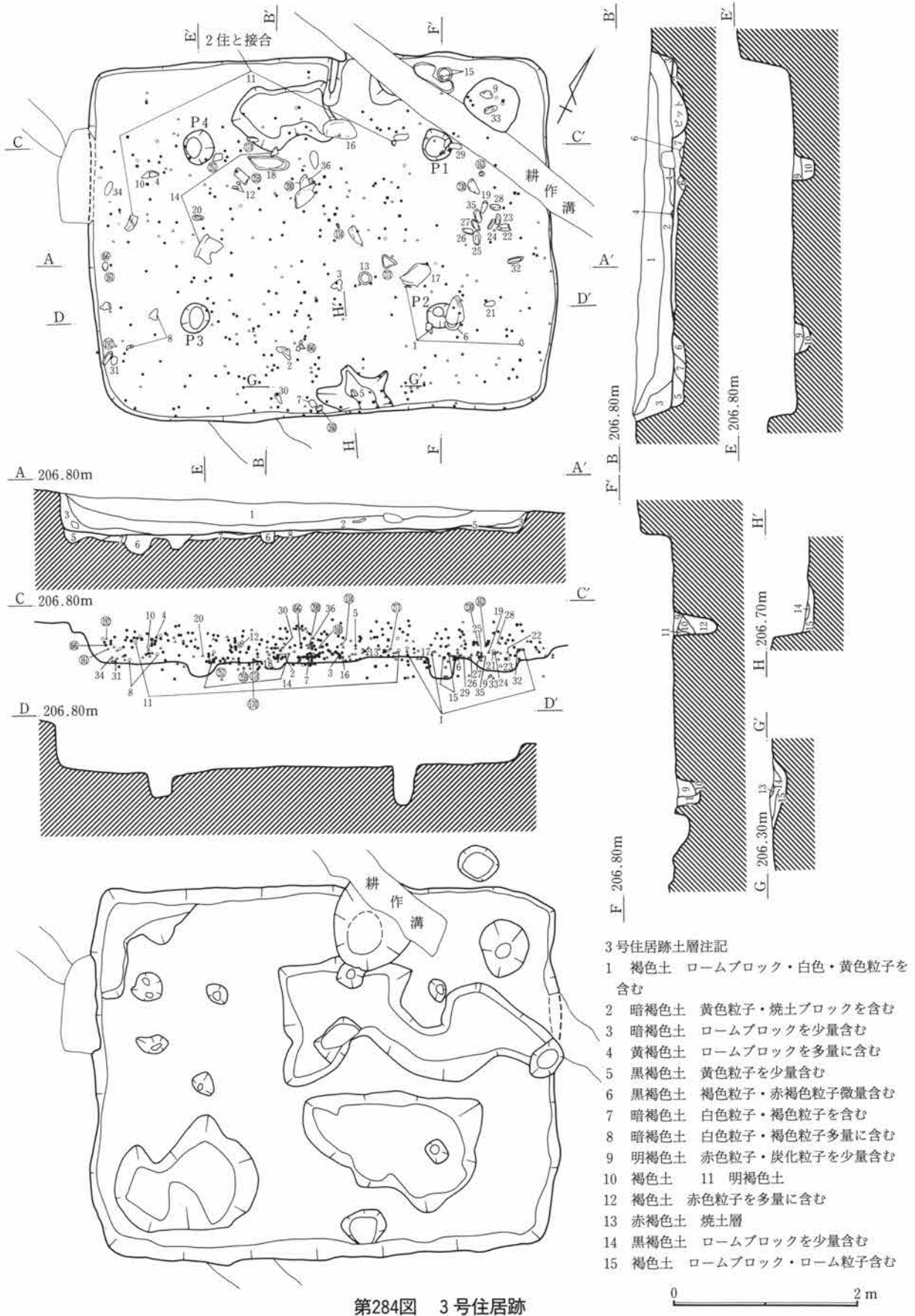
所見 床面から5cmおよび20cm上から出土した坏片と2号住居覆土上層(床面から30cm上)のものが接合しているため、近似した時期の住居であるが、出土位置の高い2号住居が先に埋没した可能性が高い。

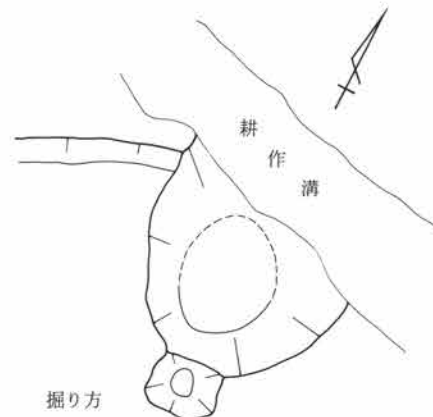
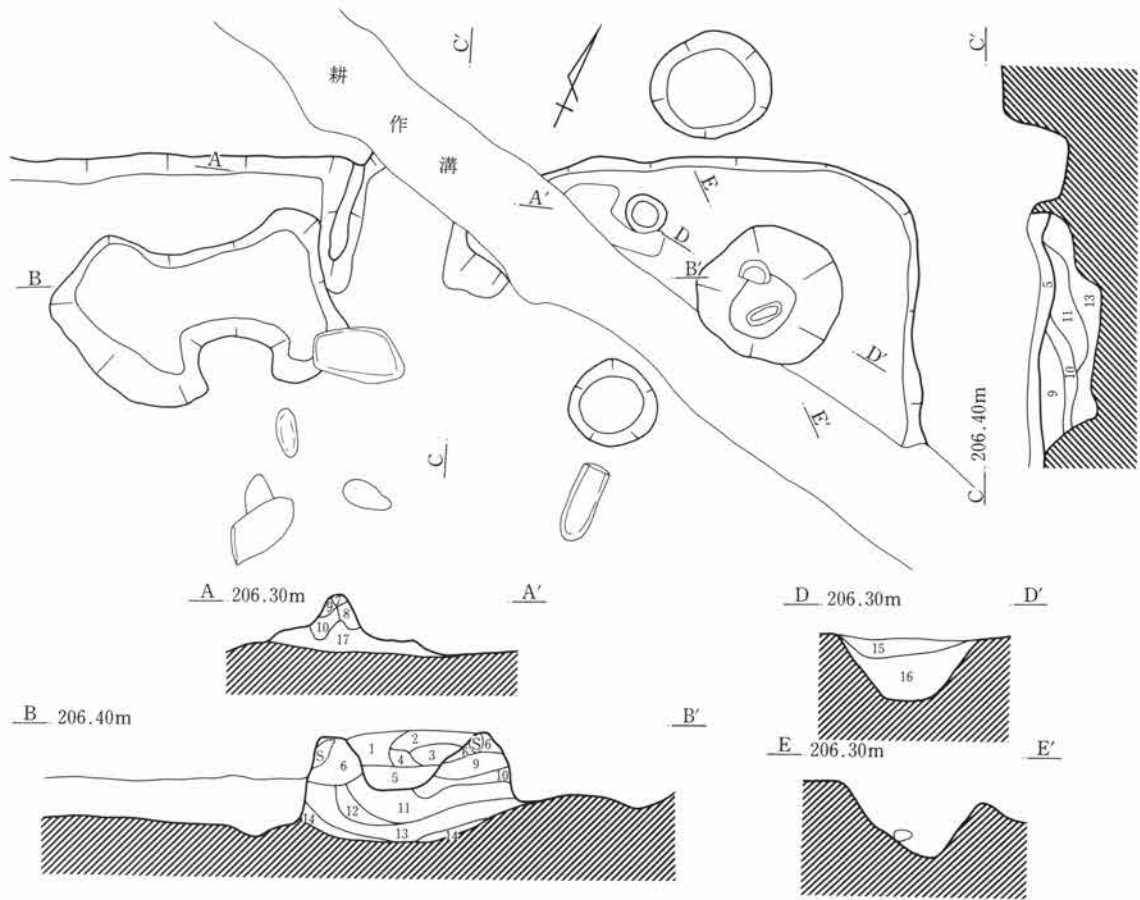
出土土器数量表

種別 器種	土師器			須恵器		総計
	甕	坏	皿	甕	計	
点数	19	20	1	7	7	47
重量(g)	1,460	906	30	376	376	2,772



第283図 3号住居跡土器分類グラフ



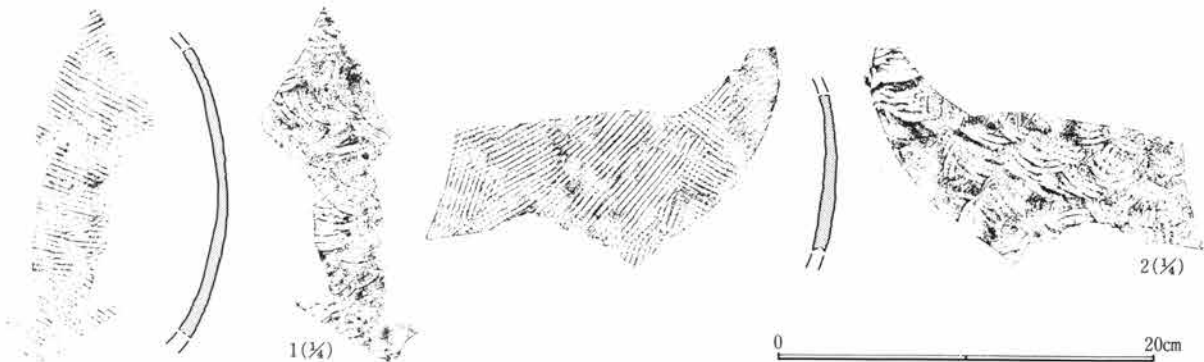


3号住居跡カマド土層注記

- 1 暗赤褐色土 焼土をベースに炭化粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 褐色粒子を少量含む
- 3 暗赤褐色土 焼土ブロックを少量含む
- 4 暗赤褐色土 焼土ブロックを多く含む
- 5 黒色土 焼土ブロックを含む 火床面
- 6 暗褐色土 灰白色粘土ブロックを含む
- 7 黄褐色土 ロームをベースとする
- 8 黒褐色土 ローム・焼土粒子微量含む
- 9 黒褐色土 締め強い
- 10 黒褐色土 白色粒子を微量含む
- 11 暗褐色土 赤褐色粒子を含む
- 12 暗褐色土 褐色粒子を微量含む
- 13 黒褐色土 赤褐色粒子を含む
- 14 褐色土 黒色土ブロック含む
- 15 暗褐色土 白色・黄色粒子含む
- 16 暗褐色土 ローム粒子含む
- 17 貼床

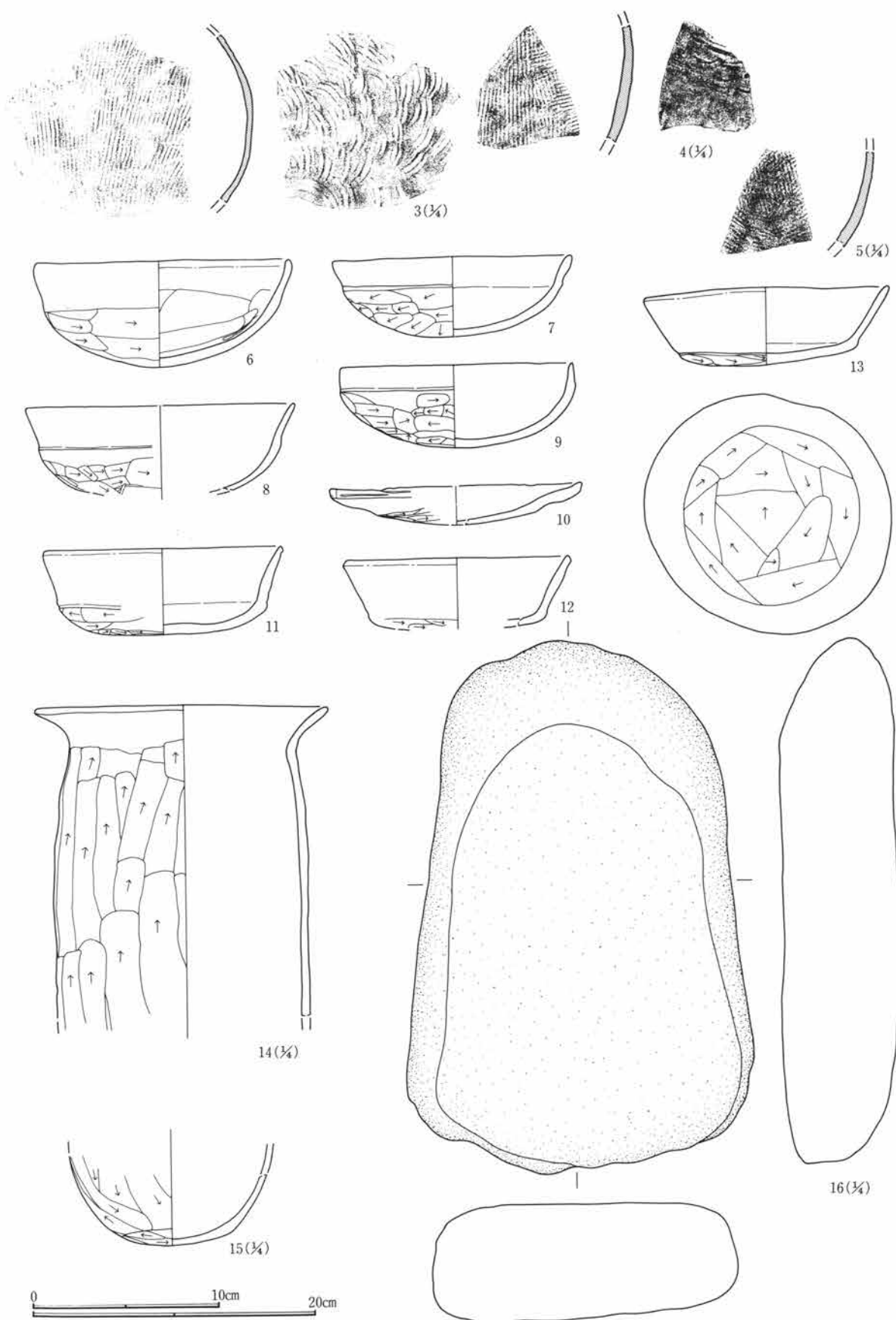
0 1 m

第285図 3号住居跡カマド

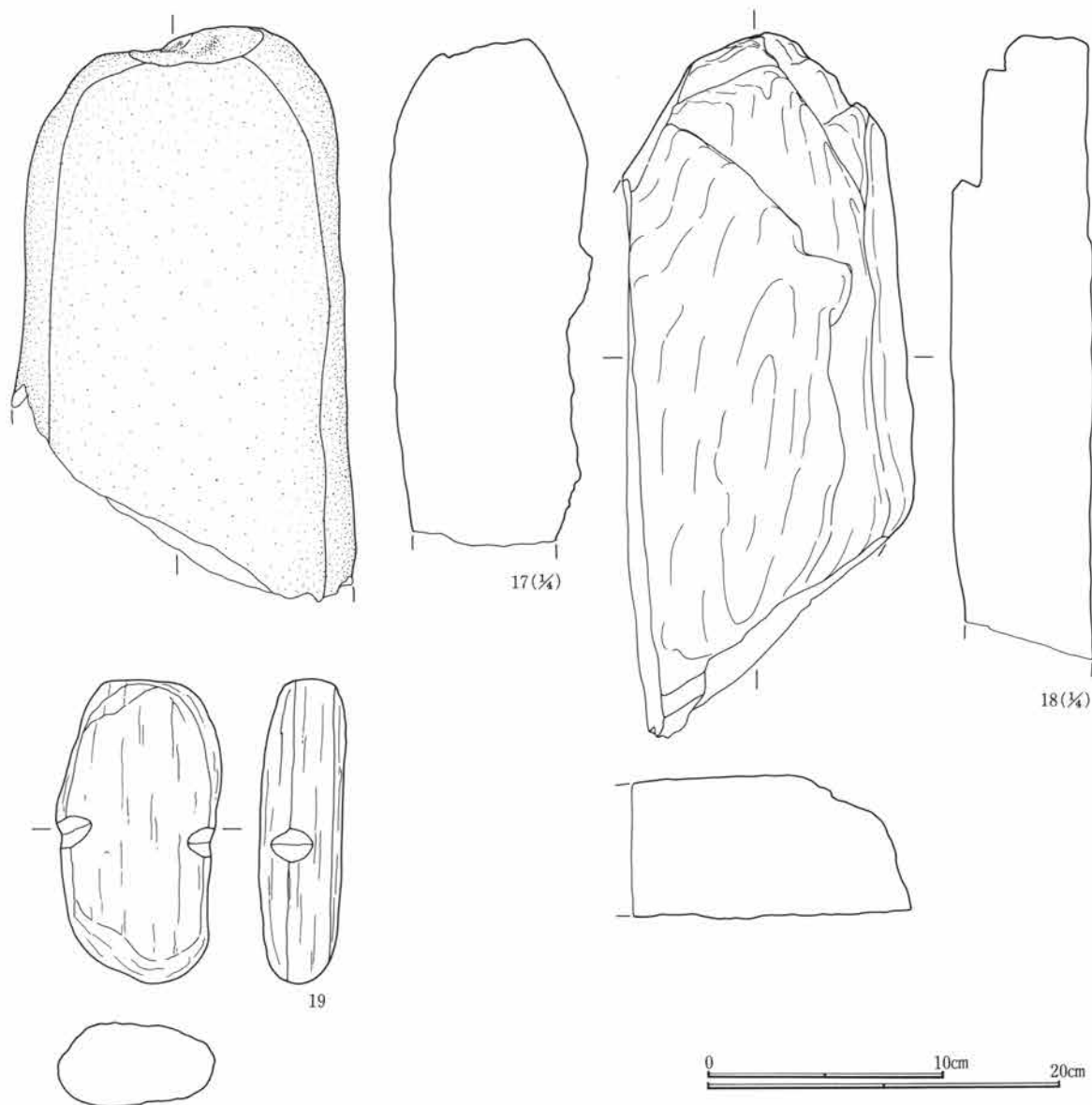


第286図 3号住居跡出土遺物 (1)

第III章 検出された遺構と出土遺物



第287図 3号住居跡出土遺物(2)



第288図 3号住居跡出土遺物(3)

3号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	須恵器 甕	南東 4	器厚 5~7mm ④胴部片		①灰 ②灰黄 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	外面平行叩き目 内面青海波文当て具痕	III A	
2	須恵器 甕	南西 6	器厚 5~7mm ④胴部片		①灰白 ②灰黄 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	外面平行叩き目 内面青海波文当て具痕	III A	
3	須恵器 甕	北東 7	器厚 3~5mm ④胴部片		①灰白 ②灰白 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	外面平行叩き目 内面青海波文当て具痕	III A	
4	須恵器 甕	北西 26	器厚 6~8mm ④胴部片		①灰黄 ②にぶい黄 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	外面平行叩き目 内面上部青海波文 当て具痕・下部ナデ	III A	
5	須恵器 甕	南東 17	器厚 5~7mm ④胴部片		①灰黄 ②にぶい黄 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	外面平行叩き目 内面ナデ	III B	
6	土師器 坏	南東 3	①13.4cm ③5.6cm ④完形		①にぶい橙 ②明赤褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面篋ナデ 一部器面剝落	VII 1	
7	土師器 坏	南西 8	①12.5cm ③4.2cm ④口~底部%		①明褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデ	VII 1	
8	土師器 坏	南西 10	①14.1cm ③[4.5cm] ④口~底部片		①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体部外面横ナデ 体部下~底外面篋削り 内面ナデ	VII 1	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径 ②底径 ③高さ ④残存 (cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
9	土師器 坏	北東 一5	①12.2cm ③4.3cm ④口～底部 $\frac{3}{4}$	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
10	土師器 皿	北西 18	①13.3cm ③(2.0cm) ④口～底部 $\frac{3}{4}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	口縁部横ナデ 底部外面篋削り 内面ナデ 口唇部に沈線あり	X	
11	土師器 坏	北東 24	①12.5cm ③4.5cm ④口～底部 $\frac{3}{4}$	①明赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
12	土師器 坏	南東 18	①11.8cm ③[3.7cm] ④口～底部片	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
13	土師器 坏	南東 8	①13.0cm ③4.1cm ④完形	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
14	土師器 長胴甕	北西 5	①20.4cm ②一 ③[21.5cm] ④口～胴部	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面ナデ	II A	
15	土師器 長胴甕	北東 一3	①一 ②7.2cm ③[6.5cm] ④底部	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	胴～底部外面篋削り 内面ナデ	II	

3号住居跡出土石器観察表

No.	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
16	台石	北東 6	37.0	24.5	8.8	13400	完形	安山岩	
17	台石	南東 6	[32.4]	19.6	11.9	12400	$\frac{1}{2}$	輝緑岩	表面に一部敲打痕あり 一部赤化
18	台石	北西 8	[39.8]	16.5	8.1	8150	$\frac{3}{4}$	絹雲母石墨片岩	表面に一部敲打痕あり
19	こも編石	北東 7	12.8	7.0	3.6	465	完形	絹雲母石墨片岩	両側面断面にV字状の刻みあり
20	こも編石	南西 5	11.9	5.0	3.1	305	完形	緑泥片岩	
21	こも編石	北東 6	12.8	6.2	4.7	550	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
22	こも編石	北東 7	12.5	6.2	4.8	545	$\frac{3}{4}$	輝緑岩	側面に敲打痕あり
23	こも編石	北東 7	12.9	6.9	4.2	555	完形	点紋絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり
24	こも編石	北東 8	14.1	5.3	4.9	355	ほぼ完形	絹雲母石墨片岩	
25	こも編石	北東 6	13.6	6.9	4.5	690	完形	絹雲母石墨片岩	側面に一部敲打痕あり
26	こも編石	北東 6	12.3	5.9	5.1	435	完形	安山岩	
27	こも編石	北東 5	13.9	6.4	3.5	475	完形	絹雲母石墨片岩	
28	こも編石	北東 17	14.8	6.3	4.1	550	ほぼ完形	絹雲母石墨片岩	
29	こも編石	北東 2	15.4	8.2	5.4	950	完形	安山岩	
30	こも編石	南東 14	11.9	5.1	4.9	410	ほぼ完形	絹雲母石墨片岩	
31	こも編石	南西 3	14.6	7.6	4.1	800	完形	絹雲母石墨片岩	
32	こも編石	北東 10	12.6	6.3	5.2	625	完形	絹雲母石墨片岩	
33	こも編石	北東 一20	13.7	6.7	4.5	625	完形	緑泥片岩	側面に敲打痕あり
34	こも編石	南西 6	14.2	5.7	4.3	525	完形	絹雲母石墨片岩	
35	こも編石	北東 5	14.9	7.4	2.7	505	完形	緑泥片岩	側面に敲打痕あり
36	こも編石	北西 25	11.7	4.6	1.8	140	完形	点紋緑泥片岩	

4号住居跡

位置 C68～70-II13～15 Gr 重複 なし 平面形態 東西に長い隅丸長方形

規模 東西3.63m 南北2.58m 壁高 24cm 垂直に近い 面積 9.85m² 床面積 9.0m²

主軸方位 N-25°-E 壁溝 なし 柱穴 なし 貯蔵穴 なし

床面 ロームを含む暗褐色土で5～15cmの貼床を施しているが、床面は平坦でなく中央部がかなり盛り上がっている。よく踏み固められており、特に南壁中央やや西寄りからカマドにかけての部分(図の実線の内側)は硬化面がはっきりしている。柱穴は確認されなかったが、カマド左脇と西壁際中央に浅いピットが検出されている。

掘り方 ほぼ平坦な掘り方で、浅い土坑状の掘り込みやピットが数基検出された。

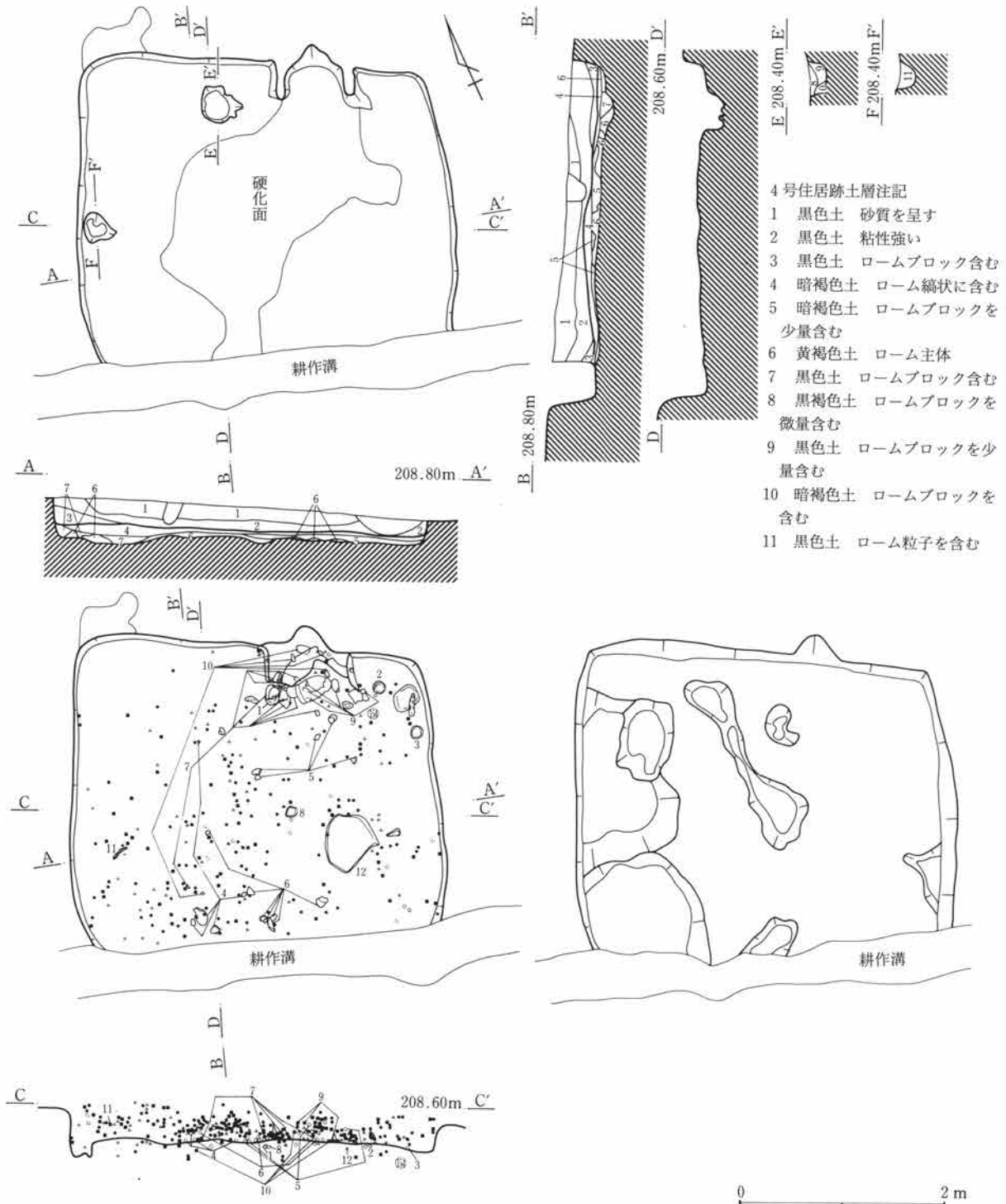
遺物出土状況 土器は北西隅部を除いてほぼ全面から出土しているが、カマドおよび南壁際やや西寄りの部分に比較的集中している。垂直分布も、上層から床面まで出土しているが、中下層からの出土が比較的多い。接合関係の判明するものは6個体あるが、床面付近の破片と上層のものが接合している個体や、カマドのもの

のと南壁際のものに接合している個体もある。また、砂岩の台石が南東部の床面に据えられた状態で出土し、炭化材の破片も北東部・南東部から出土している。

カマド

位置 北壁東寄り 主軸方位 N-23°-E 規模 全長0.63m 幅0.9m

構築 自然石および砂岩の切り石を袖石とし、褐色粘質土で袖を構築し、天井部も砂岩の偏平な切り石を



第289図 4号住居跡

第III章 検出された遺構と出土遺物

使用して構築している。天井部は、更に土師器甕を重ねて補強されていた可能性もある。火床面は床面より若干低くなる程度でほぼ平坦であり、比較的良好に焼けている。

遺物出土状況 両袖石間に2個体の甕を重ねたものが横たわって出土しており、天井部の補強材の可能性もある。甕の下に1の坏が、またカマド右脇から2の坏が出土している。

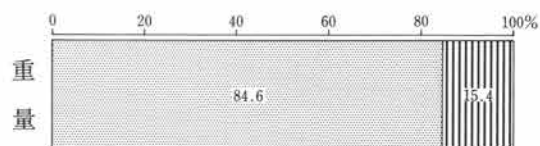
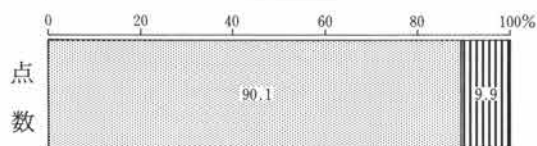
出土遺物 土器は、土師器甕82点、坏9点が出土しているが、須恵器は出土していない。完形に近いものが多いため、点数に比して重量は大きくなっている。3は他の坏に比べ器厚が厚く形態も半球形に近くなっている。また、台石が1点出土し、他に縄文土器が156点出土している。

所見 他の住居に比べ規模が小さく、柱穴・貯蔵穴もないが、出土遺物は他の住居と変わっておらず、時代的にもほぼ同じであるため、この時代の住居としては特異な存在となっている。

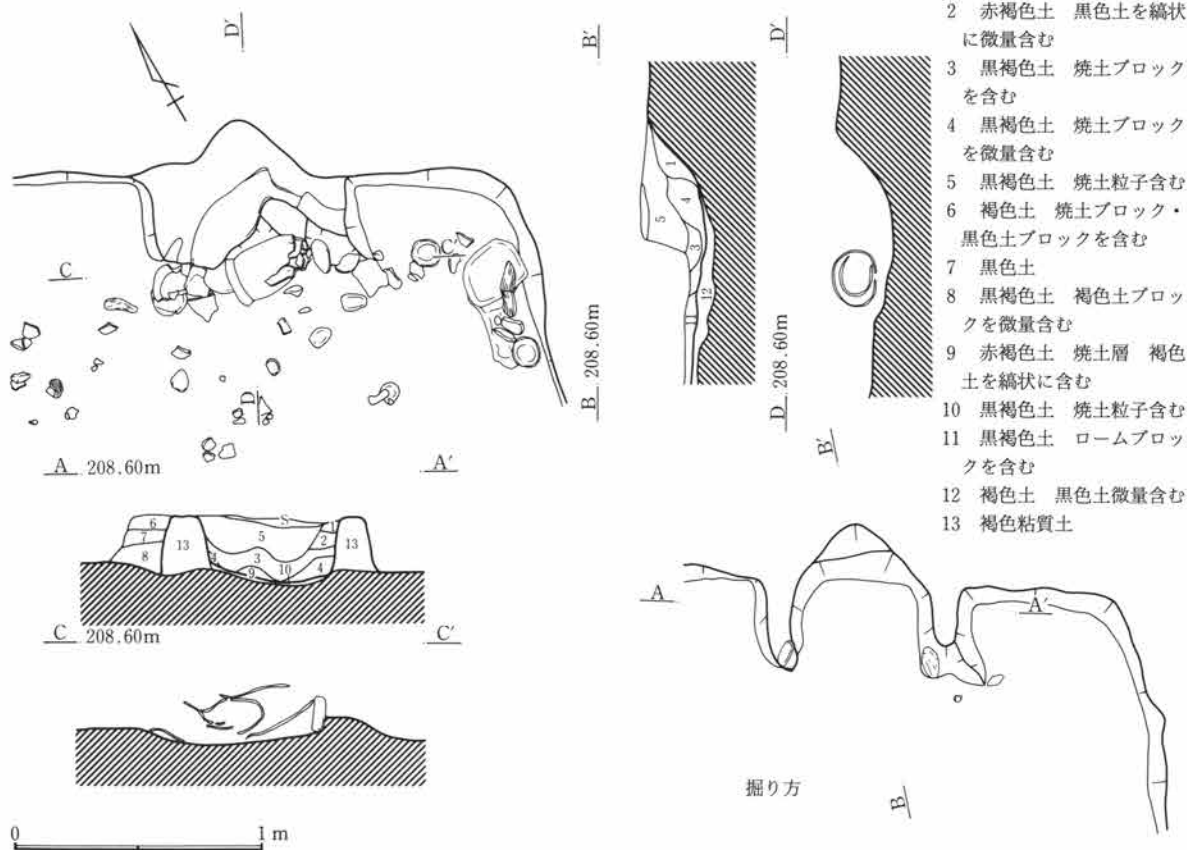
出土土器数量表

種別	土師器		
	甕	坏	計
点数	82	9	91
重量(g)	6,510	1,185	7,695

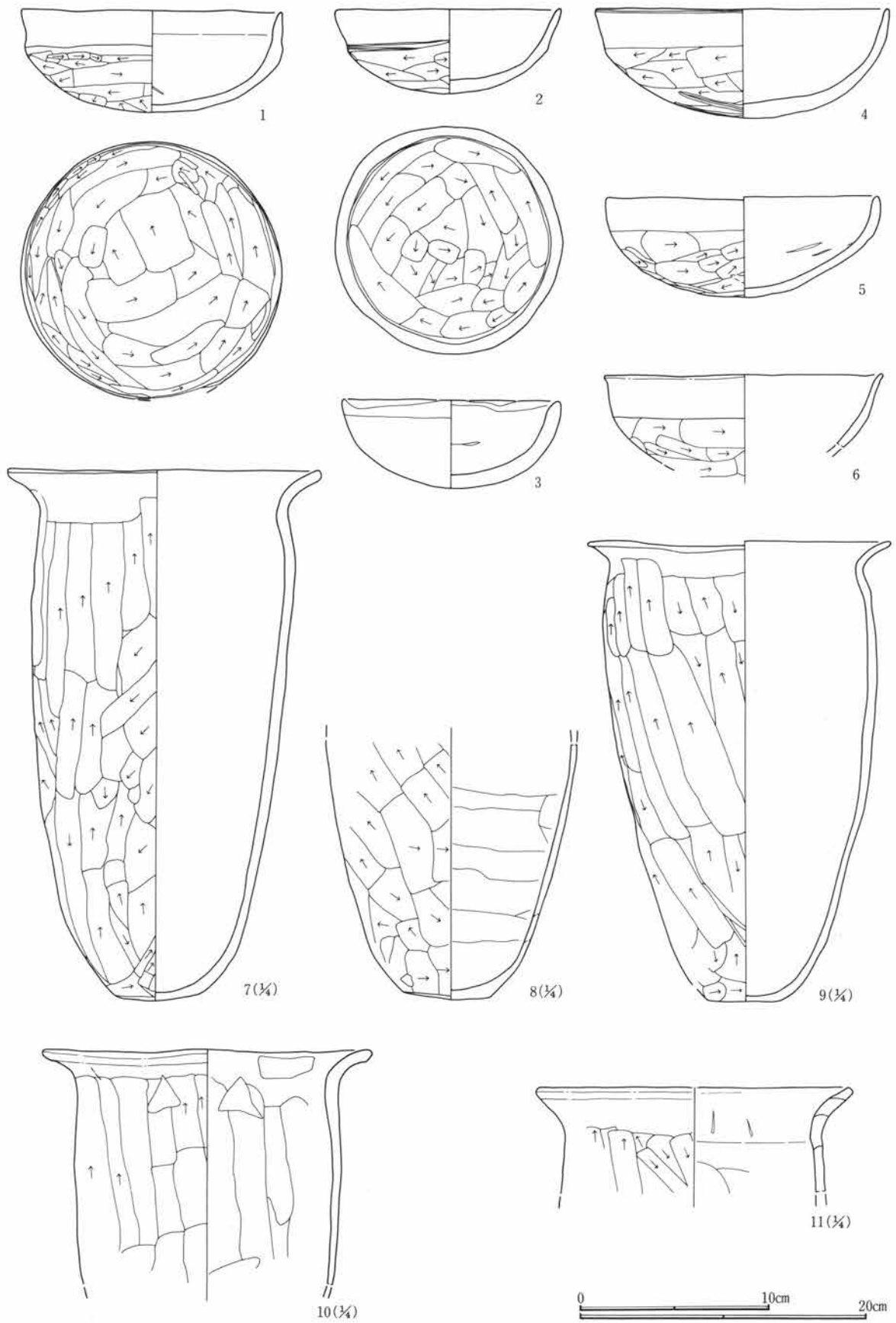
■ 土師器 甕 ▨ 土師器 坏



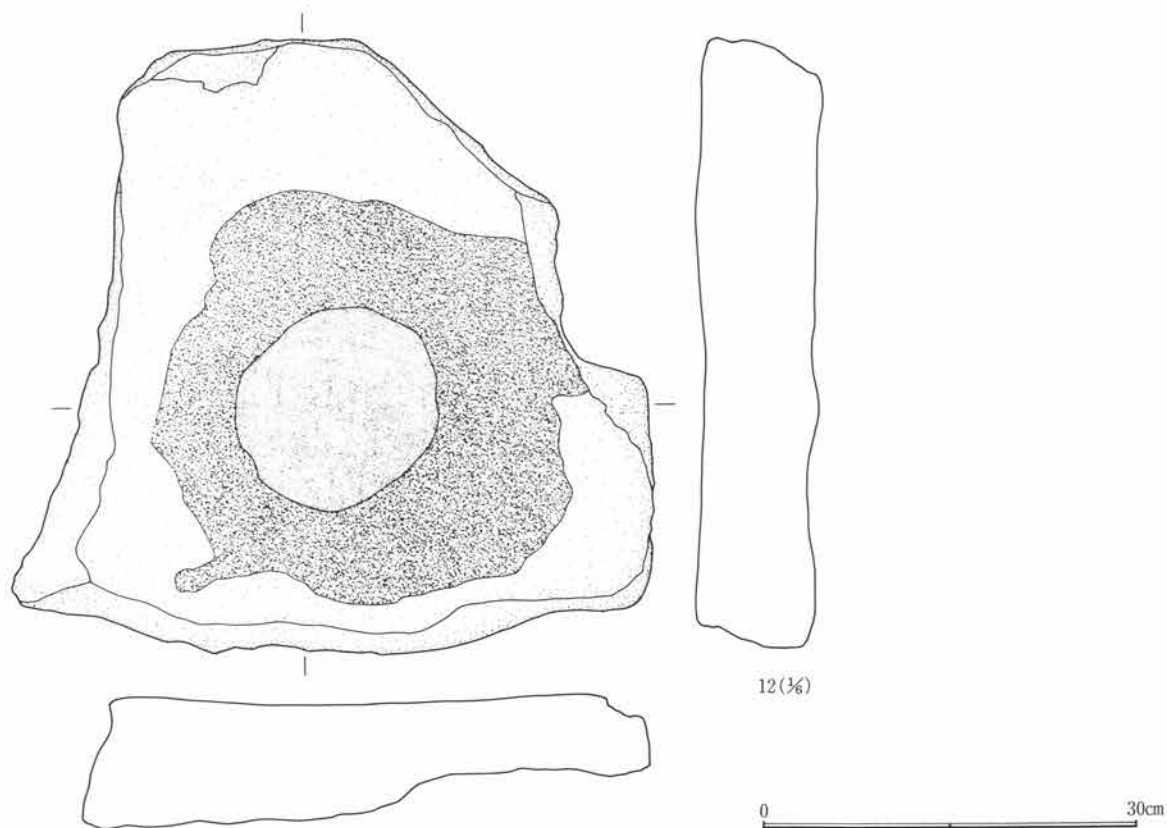
第290図 4号住居跡土器分類グラフ



第291図 4号住居跡カマド



第292図 4号住居跡出土遺物(1)



第293図 4号住居跡出土遺物(2)

4号住居跡出土土器観察表

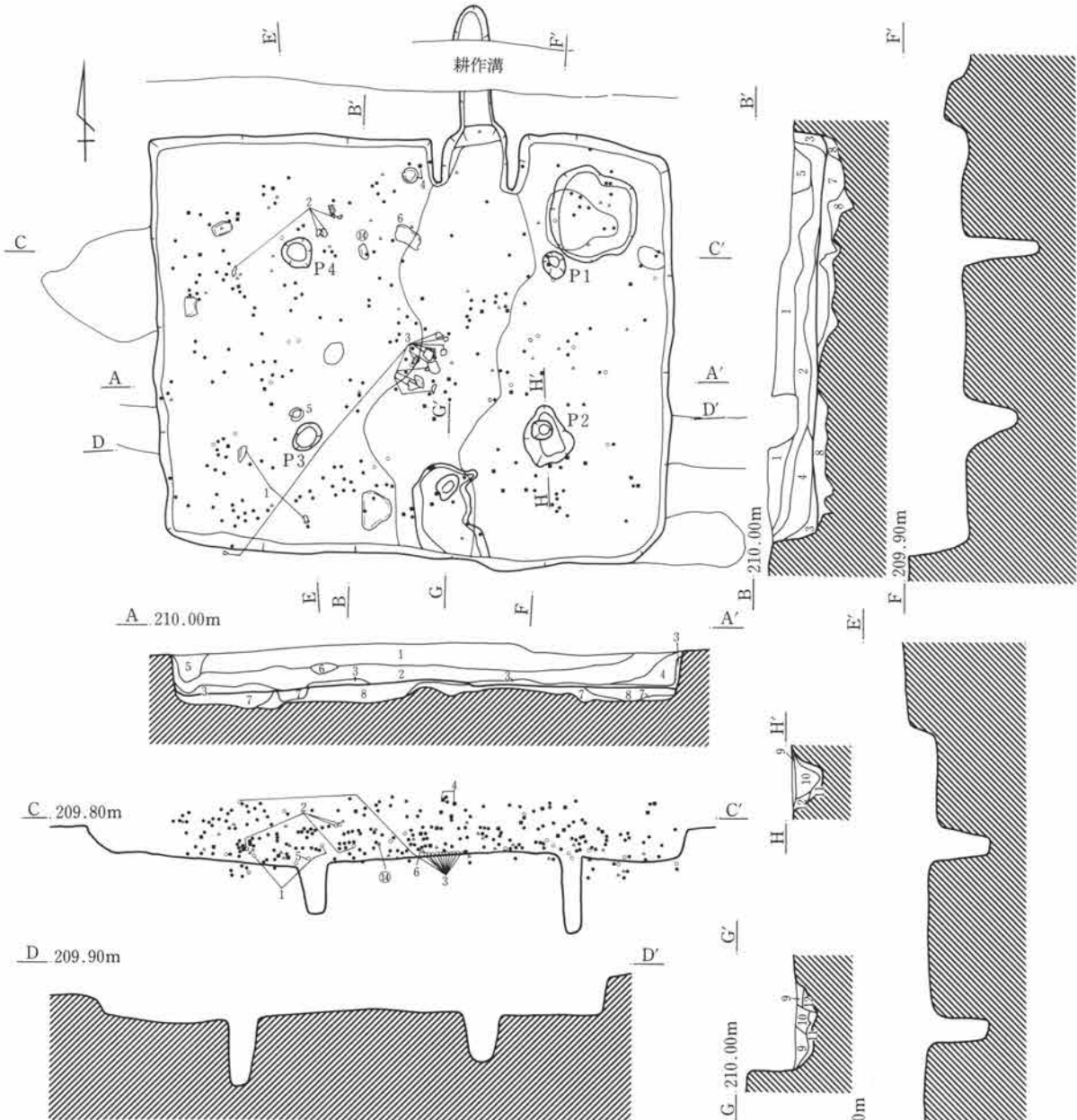
No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	北東 -5	①13.6cm ③5.3cm ④ほぼ完形	①にふい赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデ	VII A		
2	土師器 坏	北東 2	①11.9cm ③4.4cm ④完形	①褐 ②にふい赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデ 体~底部間に沈線	VII A		
3	土師器 坏	北東 3	①11.4cm ③4.6cm ④完形	①にふい黄褐 ②にふい褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	口縁部横ナデ 焼成後内面削るか 体~底部削りか 内面ナデ	VII B		
4	土師器 坏	北西 3	①15.7cm ③5.7cm ④ほぼ完形	①灰褐 ②黒(一部暗褐) ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデ(一部篋ナデ)	VII A		
5	土師器 坏	北東 1	①14.2cm ③5.2cm ④口~底部%	①にふい黄褐 ②にふい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデ	VII B		
6	土師器 坏	南東 6	①14.4cm ③[3.8cm] ④口縁~体部%	①明褐 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデ	VII B		
7	土師器 長胴甕	北西 -1	①22.9cm ②5.7cm ③36.6cm ④ほぼ完形	①にふい橙 ②にふい黄橙 ③良好 ④粗 砂粒・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面篋ナデ	II A		
8	土師器 長胴甕	北東 2	①— ②6.1cm ③[17.9cm] ④胴~底%	①にふい褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	胴~底部外面篋削り 内面篋ナデ	II		
9	土師器 長胴甕	北東 1	①20.9cm ②4.9cm ③32.8cm ④胴部一部欠	①にふい褐 ②にふい褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面篋ナデ	II A		
10	土師器 長胴甕	北東 1	①21.8cm ②— ③[16.3cm] ④口~胴%	①にふい黄褐 ②にふい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面篋ナデ	II A		
11	土師器 甕	南西 10	①(21.5cm) ②— ③[7.2cm] ④口~胴%	①にふい褐 ②橙 ③不良 ④粗 砂粒を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面篋ナデ	II A		

4号住居跡出土土器観察表

No.	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
12	台石	北東 5	50.2	48.6	10.4	28500	完形	砂岩	表面に敲打痕あり特に中心部に集中

8号住居跡

位置 C76~79-II13~16 Gr 重複 なし 平面形態 長方形 規模 東西4.6m 南北3.8m
 壁高 40cm 垂直に近い 面積 17.0m² 床面積 15.45m² 主軸方位 N-4°-E 壁溝 なし
 柱穴 住居の対角線上に4本検出されたが、西壁と西側柱穴間の距離が東壁と東側柱穴間の距離よりやや長くなっている。 P1 径24cm深さ66cm P2 径50cm深さ50cm P3 径28cm深さ44cm P4 径28cm深さ50cm
 貯蔵穴 位置 北東隅 規模 87cm×78cm 深さ 28cm 形状 平面は丸みを帯びた隅丸方形で、断面は底部が丸みを帯びている。上面に薄い粘土層が検出された。

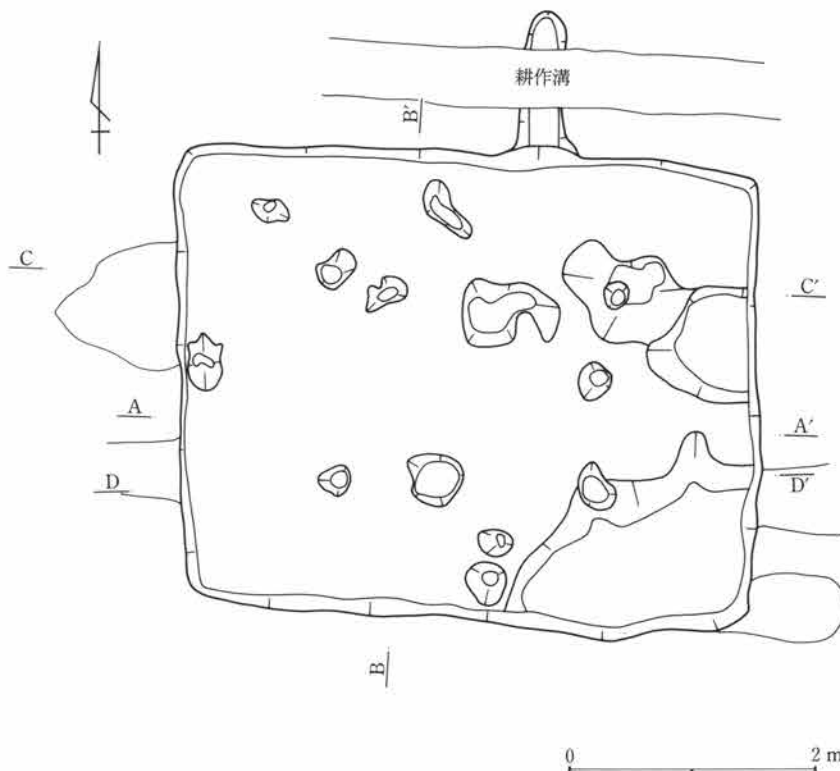


8号住居跡土層注記

- 1 暗褐色土 ローム・白色粒子を多量に含む
- 2 黒褐色土 白色粒子を少量含む
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む
- 4 黒褐色土 白色粒子を微量含む
- 5 黒色土 ロームブロックを少量含む
- 6 褐色土 黒色土ブロック・白色粒子を含む
- 7 黒色土 褐色土ブロックを含む
- 8 褐色土 ロームをベースとする
- 9 黒色土 褐色土ブロック含む
- 10 黒色土 灰褐色粘土含む
- 11 褐色土 黒色土ブロック含む
- 12 黒褐色土 褐色土ブロック含む

第294図 8号住居跡

0 2 m



第295図 8号住居跡掘り方

床面 黒色土および褐色土で貼床を施しているが、中央部が若干高くなっている。よく踏み固められており、特に南壁中央からカマドにかけて（図の実線の内側）は、硬化面がはっきりしている。南壁際中央の硬化面下に径80cm×60cm深さ15cmのピットが検出された。

掘り方 比較的凹凸が多く、径20cm～50cmのピットや土坑状の掘り込みが数基検出されている。

遺物出土状況 ほぼ全面から出土しているが、壁際は分布が薄い。垂直分布も平均しているが、下層にやや

集中している。接合関係の判明するものは3個体あり、3の坏は床直のものに覆土上面のものが接合した。

カマド

位置 北壁東寄り **主軸方位** N-1°-W **規模** 全長1.68m 幅0.93m 煙道長112cm 煙道幅32cm

構築 暗褐色土・黒褐色土で袖を構築しているが、袖石・天井石等は検出されなかった。焚き口は平坦で、火床面も床面とほぼ同レベルであり、あまり強く焼けていない。煙道部はほぼ水平に延びており、立ち上がりは垂直と考えられるが、上部は削平のためほとんど残っていない。

遺物出土状況 カマド内からの出土遺物はほとんど無いが、左脇から4の土師器坏が出土している。

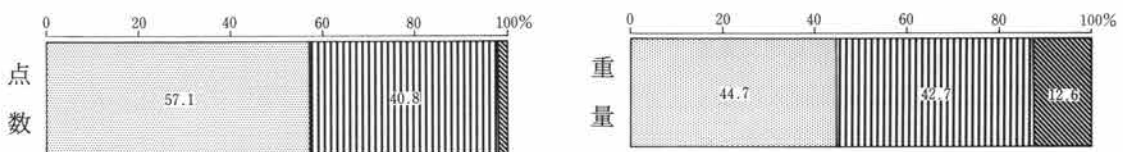
出土遺物 出土量は比較的少なく、土師器甕28点、坏20点、壺1点が出土しており、須恵器の出土はない。5の坏は、糸切り痕があり体部に指頭圧痕を残す特異なものである。他に縄文土器が304点出土している。

所見 カマドから南壁中央にかけて硬化面が続いており、南壁際硬化面下にはピットも検出されており、南壁中央部に入り口のあった可能性が高い。

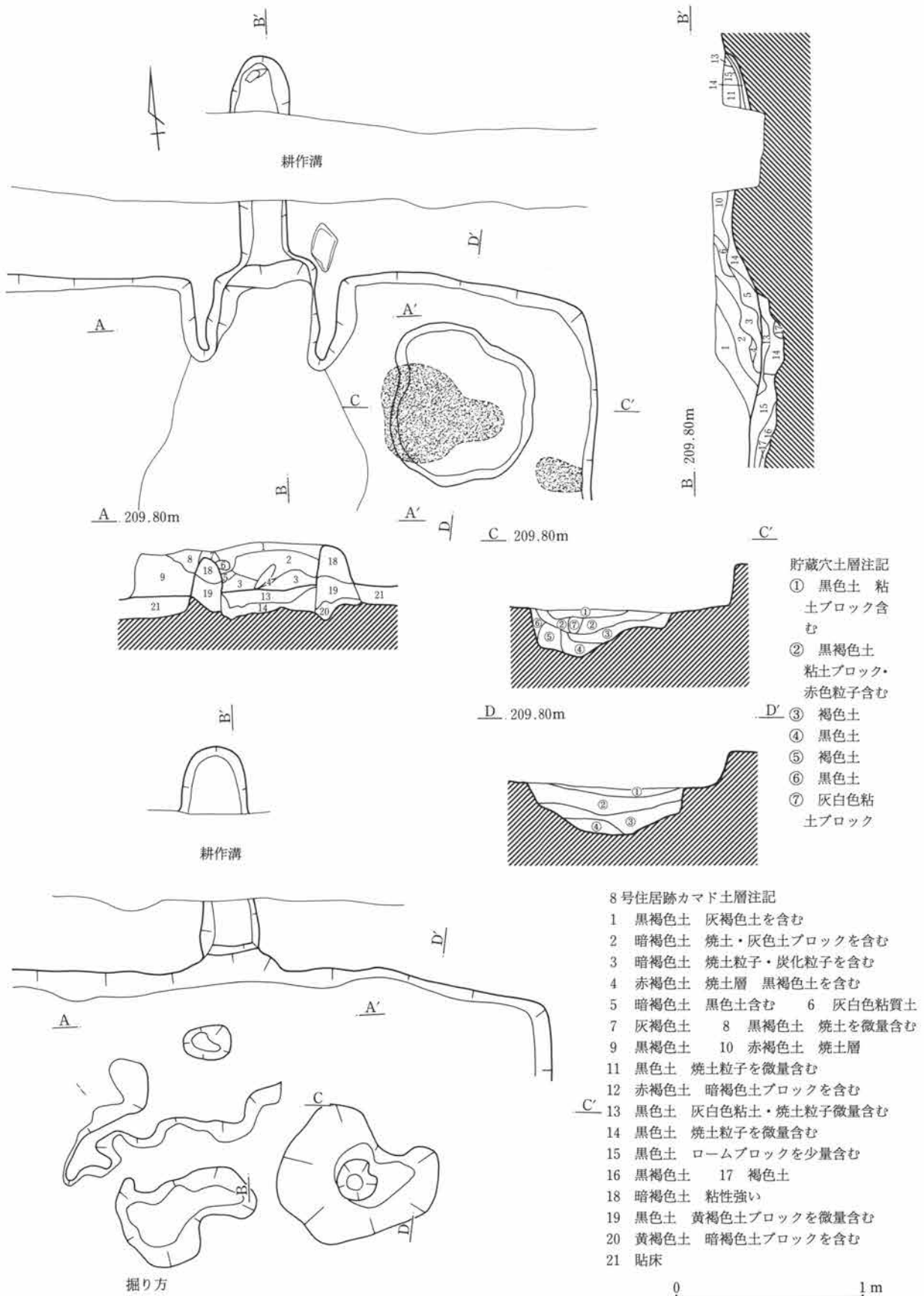
出土土器数量表

種別	土 師 器			計
	甕	坏	壺	
器種				
点数	28	20	1	49
重量(g)	1,105	1,055	310	2,470

土師器 甕
 土師器 坏
 土師器 壺

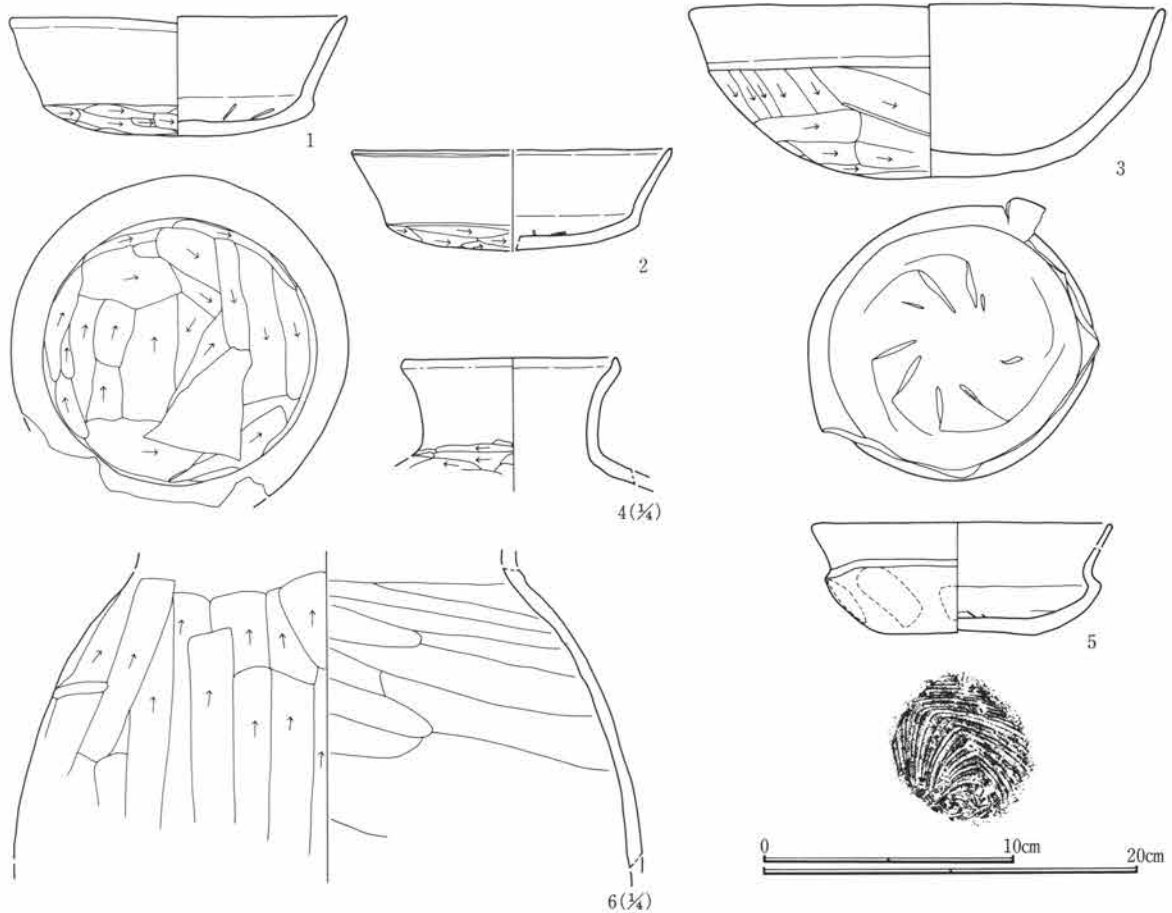


第296図 8号住居跡土器分類グラフ



第297図 8号住居跡カマド

第三章 検出された遺構と出土遺物



第298図 8号住居跡出土遺物

8号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 杯	南西 6	①13.4cm ③4.7cm ④ほぼ完形	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII A		
2	土師器 杯	北西 11	①(12.7cm) ③4.0cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①明赤褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII A		
3	土師器 杯	南西 51	①18.8cm ③6.9cm ④完形	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII A		
4	土師器 壺	北西 7	①11.4cm ②— ③[6.0cm] ④口～頸部	①橙 ②にぶい褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面ナデ	I		
5	土師器 杯	南西 7	①(11.4cm)②6.1cm ③4.4cm ④一部欠損	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 体部外面指頭痕 底部外面回転糸切り無調整	VII D		
6	土師器 胴張壺	北東 8	最大径33.5cm ④胴部片	①橙 ②橙 ③不良 ④粗 大粒砂粒を多く含む	外面篋削り 内面篋ナデ	III		

9号住居跡

位置 C80～83—II21～23 Gr 重複 22号住より新 地目境溝より古 平面形態 長方形か

規模 東西 [3.48m] 南北5.5m 壁高 22cm 面積 [17.86m²] 床面積 [16.74m²]

主軸方位 N-8°-W 壁溝 なし

柱穴 2本検出されたが、他は未調査区に存在すると思われる。

貯蔵穴 未検出

床面 ロームを含む暗褐色土で10cm～15cmの貼床を施し、ほぼ平坦な床面としている。よく踏み固められて

おり、特に中央部（図の実線の内側）は硬化面がはっきりしている。柱穴以外にピットが4基検出されているが、いずれも浅いものである。

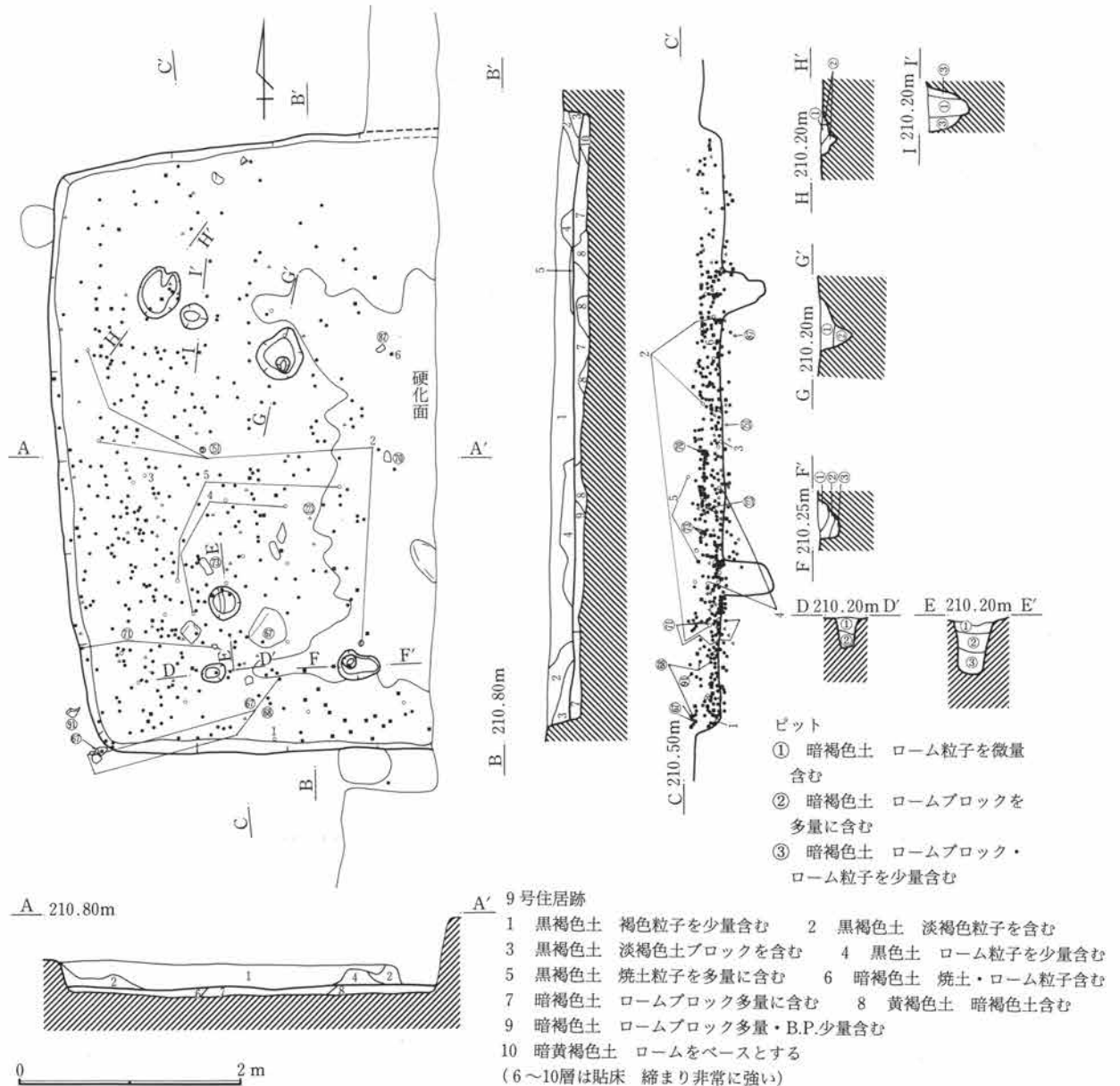
掘り方 平坦な掘り方でピットもほとんど検出されなかった。

遺物出土状況 全面から出土しているが、北東部は分布が薄くなっている。垂直分布でも上層から床面まで平均して出土している。接合関係の判明するものは3個体あり、覆土中の破片が接合している。

カマド 調査区内では検出されなかったが、覆土中の焼土の分布などから、北壁にある可能性が高い。

出土遺物 土師器は甕41点、坏18点が出土しており、須恵器甕1点も出土している。また22号住と重複しているため、縄文土器が453点と多数出土している。

所見 未調査区に続くため全景は不明であるが、未検出のカマドの位置を考えると東西に長い長方形になるものと考えられるため、かなり規模の大きい住居となる可能性が高い。

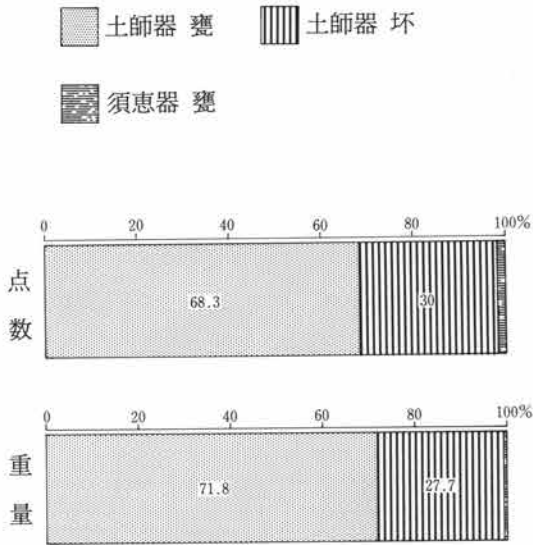


第299図 9号住居跡

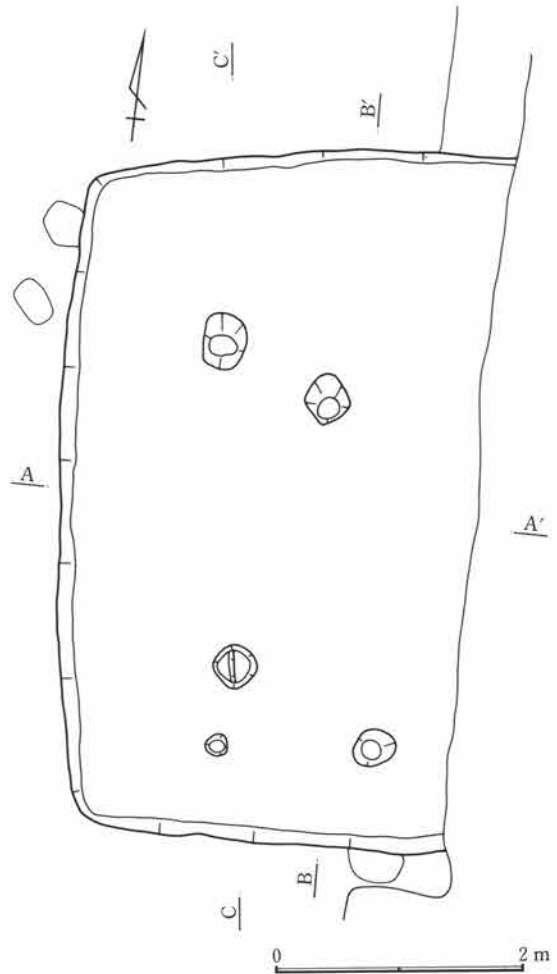
第III章 検出された遺構と出土遺物

出土土器数量表

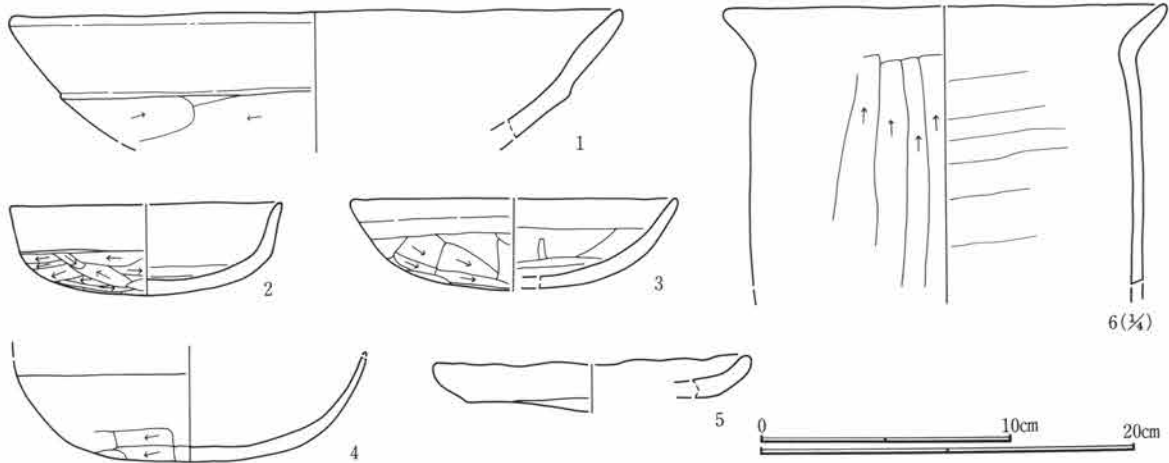
種別	土師器			須恵器	
器種	甕	坏	計	甕計	総計
点数	41	18	59	1	60
重量(g)	1,118	432	1,550	8	1,558



第300図 9号住居跡土器分類グラフ



第301図 9号住居跡掘り方



第302図 9号住居跡出土遺物

9号住居跡出土土器観察表

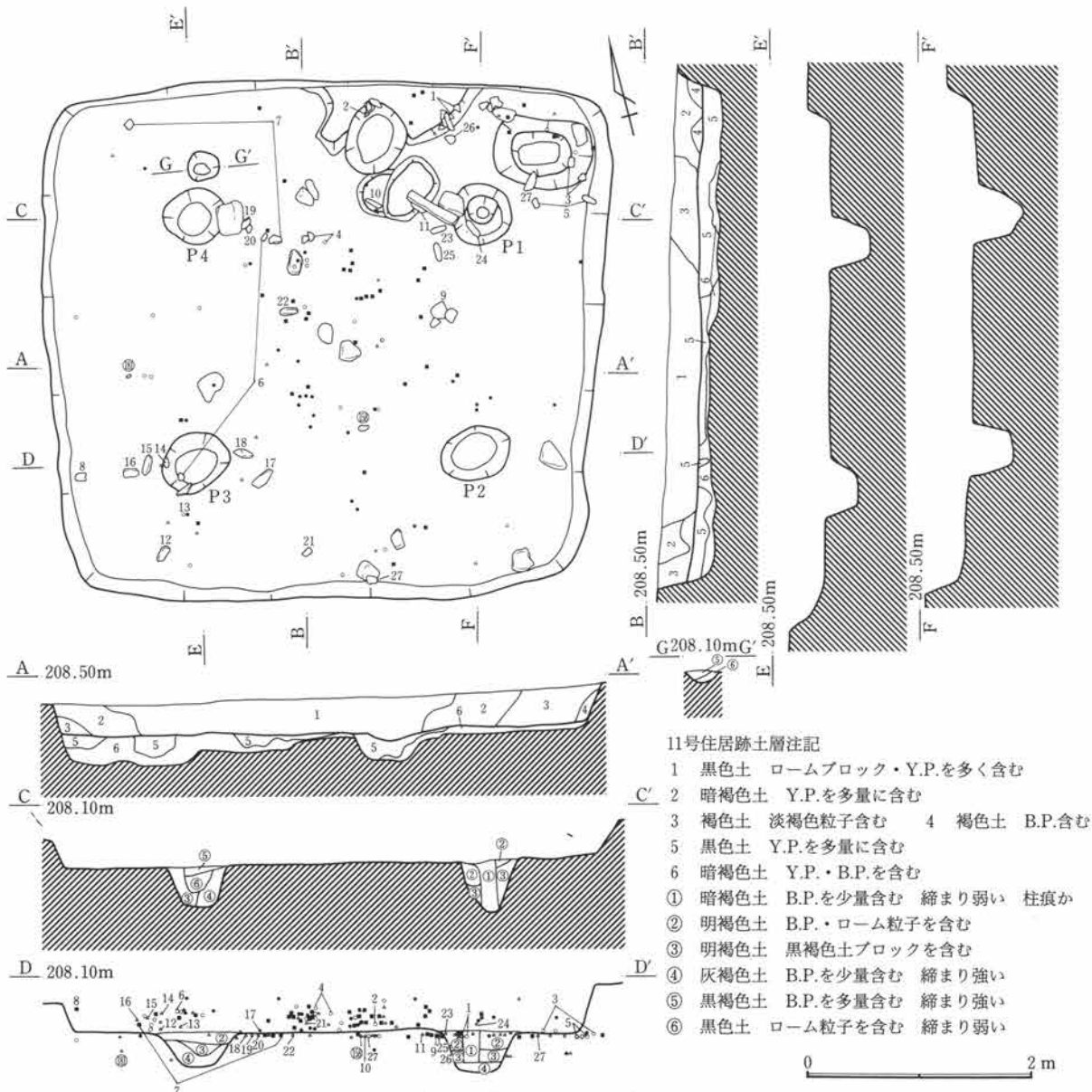
No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整	分類	備考
1	土師器 坏	北西 5	①(24.4cm) ③[5.0cm] ④口~胴部片	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り 内面ナデ	VII A		
2	土師器 坏	北東 15	①(10.8cm) ③3.6cm ④口~底部½	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り り・刷毛状の掻き痕あり 内面ナデ	VII A		

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
3	土師器 坏	北西 1	①(13.0cm)③[3.6cm] ④口~底部迄	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面篋ナデ	VII B	
4	土師器 坏	北西 5	①(14.0cm)③(4.1cm) ④口~底部迄	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデ 体部上半摩滅著しい	VII B	
5	土師器 皿	南西 25	①(12.4cm)②(10.0cm) ③2.1cm ④口~底部片	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口~体部外面・内面指頭押さえ 底部外面篋ナデ 手づくね成形か	X	
6	土師器 甕	南東 4	①(23.6cm)③[14.8cm] ④口~胴部片	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒・長石粒を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面ナデ	II A	

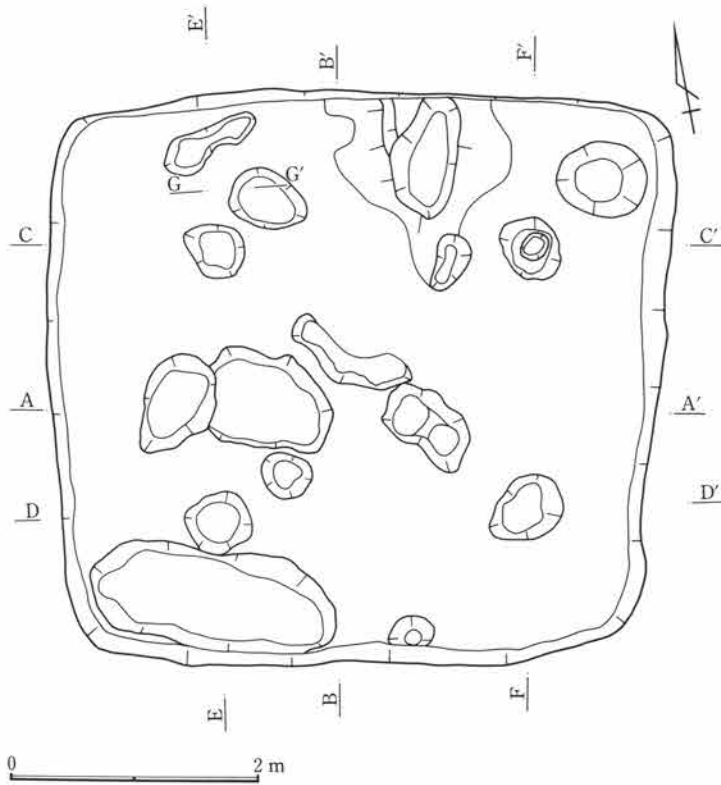
11号住居跡

位置 C66~68-II34~36 Gr 重複 なし 平面形態 隅丸方形 規模 東西5.0m 南北4.5m
 壁高 40cm やや傾斜している 面積 21.37m² 床面積 19.36m² 主軸方位 N-7°-E
 柱穴 住居の対角線上に4本検出された。他の住居に比べ、各柱穴の径は大きい。

P1 径54cm深さ36cm P2 径52cm深さ44cm P3 径60cm深さ40cm P4 径56cm深さ30cm



第303図 11号住居跡



第304図 11号住居跡掘り方

貯蔵穴 位置 北東隅

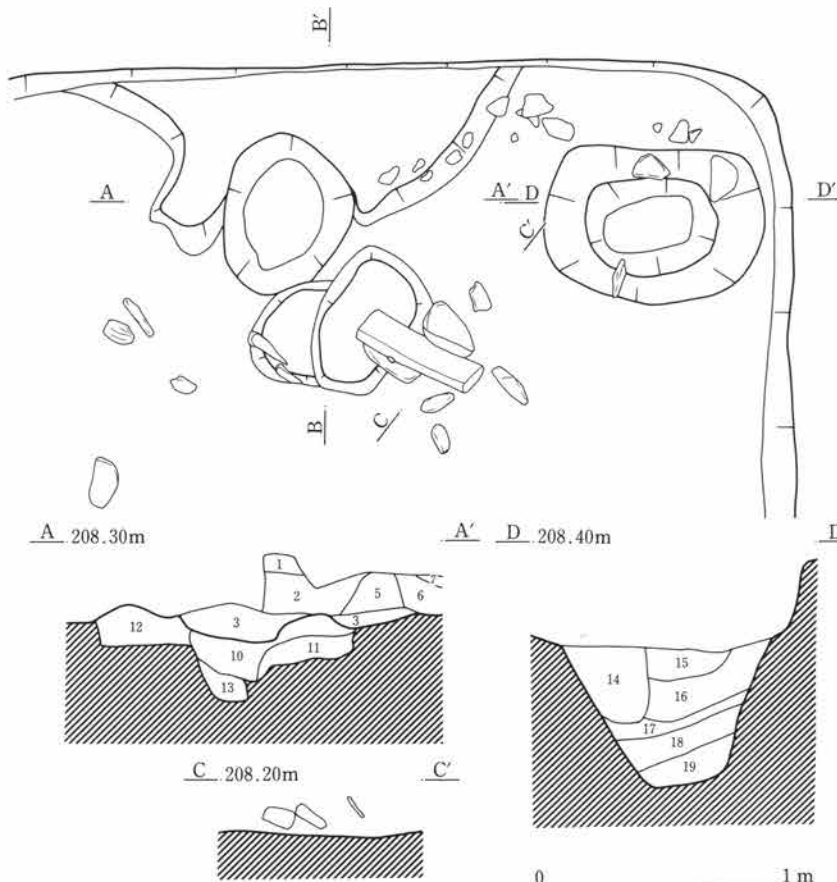
規模 88cm×66cm 深さ40cm

形状 平面は楕円形で断面は台形を呈す。

床面 黒色土・暗褐色土で5～25cmの貼床を施しており、若干のくぼみがあるがほぼ平坦な床面である。

掘り方 凹凸が多く、30cm～100cmの掘り込みが数基検出された。

遺物出土状況 東西の壁際に少なく中央部に集中しており、垂直分布では床面付近の出土が多くなっている。接合関係の判明するものは4個体あるが、床面付近のものが接合したものと、覆土中のものが接合したものがある。こも編石は1カ所に集中せず、広範囲に散乱している。



第305図 11号住居跡カマド




11号住居跡カマド

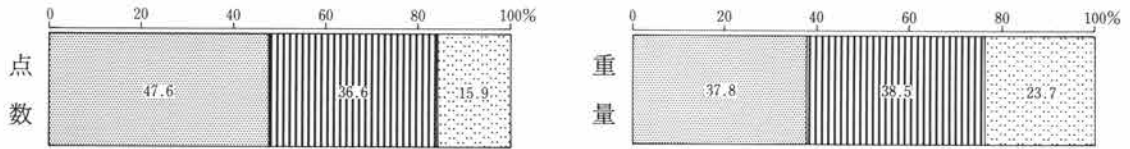
土層注記

- 1 暗褐色土 白色粒子少量含む
- 2 暗褐色土 白色・焼土粒子少量含む
- 3 暗褐色土 焼土・炭化粒子を含む
- 4 暗赤褐色土 焼土を主とする
- 5 暗褐色土 炭化・焼土粒子を多量に含む
- 6 暗褐色土 焼土粒子を少量含む
- 7 暗褐色土 Y.P.・B.P.を含む
- 8 黒褐色土 灰・炭化粒子を含む
- 9 暗褐色土 Y.P.を少量含む
- 10 黒褐色土 ローム粒子を含む
- 11 暗褐色土 ローム粒子を含む
- 12 暗褐色土 白色・褐色粒子を含む
- 13 暗褐色土
- 14 黒褐色土 ローム・炭化粒子含む
- 15 暗褐色土 ローム・焼土粒子含む
- 16 暗黄褐色土 焼土ブロックを含む
- 17 暗褐色土 白色粘土粒子を含む
- 18 暗褐色土 焼土ブロックを含む
- 19 暗黄褐色土 砂粒を含む

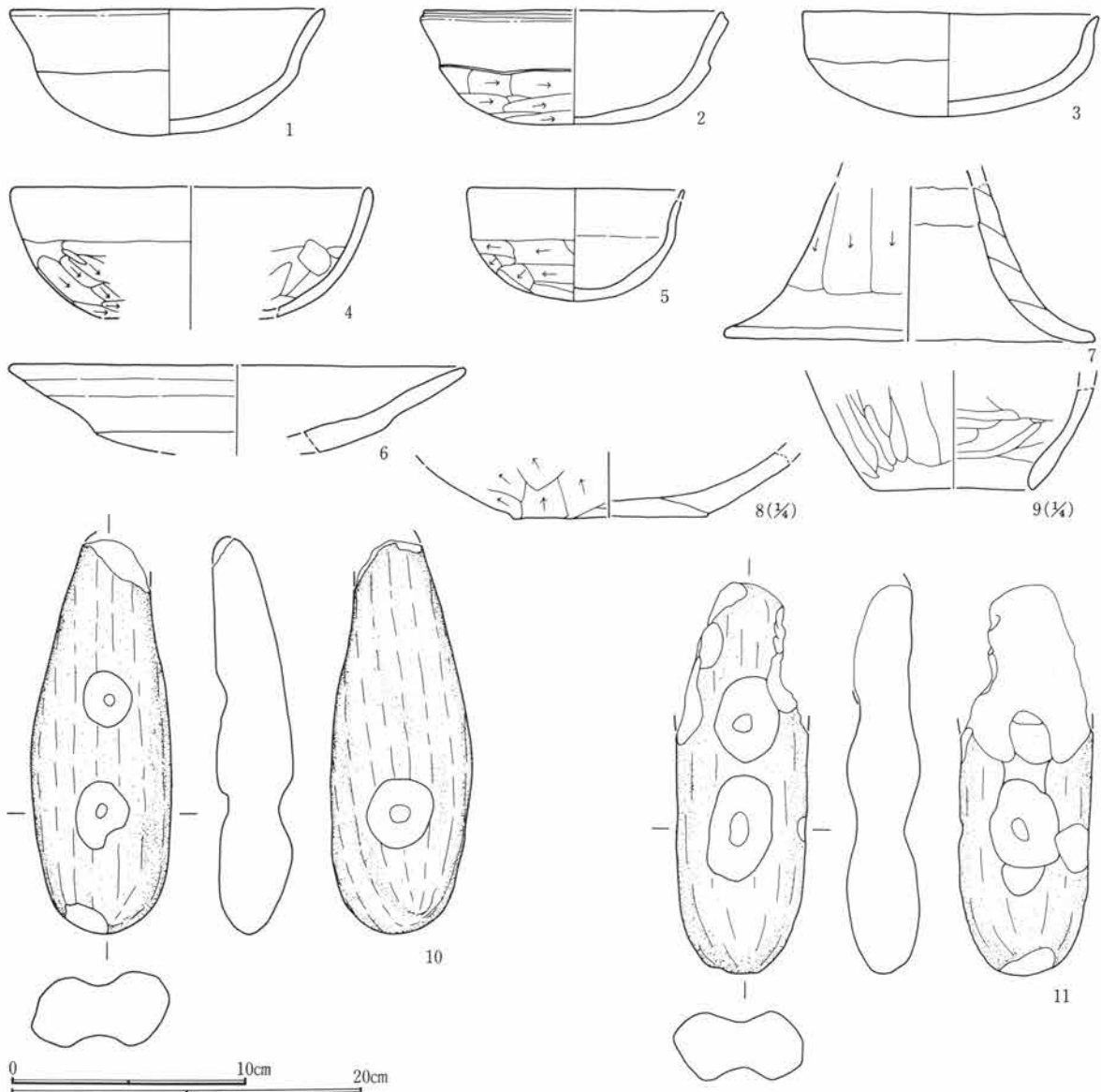
出土土器数量表

種別	土師器				計
	甕	坏	甗	高坏	
点数	40	30	13	1	84
重量(g)	833	767	473	128	2,201

 土師器 甕
  土師器 坏
 土師器 甗



第306図 11号住居跡土器分類グラフ



第307図 11号住居跡出土遺物

第三章 検出された遺構と出土遺物

11号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土位置	法量 ①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	土師器 坏	北東 5	①13.3cm ③5.3cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②橙 ③不良 ④細 砂粒を含む	口縁部横ナデ 摩滅著しいが体～底部外面篋削りか	VII A	
2	土師器 坏	北東 6	①(12.8cm) ③4.9cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①明赤褐 ②明赤褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	VII A	
3	土師器 坏	北東 1	①12.4cm ③4.4cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	VII A	内面剥落 著しい
4	土師器 坏	北西 15	①(15.2cm) ③[5.5cm] ④口～体部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄橙 ②明黄 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内面篋ナデ	VII B	
5	土師器 坏	北東 3	①(9.0cm) ③4.8cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	VII A	
6	土師器 坏	南西 6	①(18.2cm) ③[3.6cm] ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	器面摩滅剥落著しく調整不明 口縁部横ナデか	VII D	
7	土師器 高 坏	北西 -2	①— ②(15.6cm) ③[6.6cm] ④脚部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②橙 ③良好 ④細かい 砂粒を少量含む	脚体部外面篋削り 脚端部横ナデ・内面ナデ	VIII	
8	土師器 胴張甕	南西 20	①— ②8.2cm ③[2.7cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②橙 ③不良 ④砂粒を少量含む	胴～底部外面篋削り 内面ナデ	III	
9	土師器 甕	北東 -4	①— ②9.0cm ③[5.7cm] ④胴部片	①にぶい橙 ②黒 ③良好 ④普通 砂粒・礫を少量含む	胴部外面篋ナデ 内面ナデ	IV A	

11号住居跡出土石器観察表

No.	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
10	こも編石	北東 3	[16.5]	6.0	3.5	460	ほぼ完形	点紋緑泥片岩	くぼみ石転用 ほぼ全面赤化
11	こも編石	南東 -5	16.4	5.6	3.5	432	一部欠損	点紋緑泥片岩	くぼみ石転用 側面に刻みあり
12	こも編石	南西 5	13.1	5.7	5.2	775	完形	角閃岩	
13	こも編石	南西 6	14.7	6.7	5.7	705	完形	安山岩	
14	こも編石	南西 17	12.7	7.0	4.2	550	完形	安山岩	
15	こも編石	南西 12	16.0	7.9	4.2	850	完形	輝緑岩	
16	こも編石	南西 11	15.9	7.9	4.0	770	完形	安山岩	表面摩滅 磨石の転用か
17	こも編石	南西 3	18.5	6.8	4.7	900	完形	安山岩	
18	こも編石	南西 -1	16.1	6.7	5.4	660	完形	玄武岩	
19	こも編石	北西 -1	14.8	5.8	4.1	540	完形	輝緑岩	表面に敲打痕あり
20	こも編石	北西 -1	14.3	7.6	5.1	900	完形	安山岩	
21	こも編石	南西 9	13.3	6.1	3.3	320	$\frac{1}{2}$	絹雲母石墨片岩	
22	こも編石	北西 -1	21.3	7.3	4.3	900	完形	安山岩	
23	こも編石	北東 -5	14.6	6.4	5.5	755	完形	安山岩	
24	こも編石	北東 7	18.6	6.8	4.9	590	ほぼ完形	砂岩	
25	こも編石	北東 -5	13.3	6.1	3.8	420	完形	石英片岩	
26	こも編石	カマド	13.0	7.2	3.3	470	完形	絹雲母緑泥片岩	
27	こも編石	貯蔵穴	17.8	5.2	3.7	475	完形	絹雲母石墨片岩	

カマド

位置 北壁東寄り 主軸方位 N-9°-E 規模 全長0.9m幅1.85m

構築 径100cm×55cmの楕円形に床を掘りくぼめ、その上に暗褐色土で袖を構築している。袖石・天井石等は不明であるが、前方に構築材と考えられる砂岩の切り石が散乱している。火床面は床面よりやや低く、あまり焼けていない。

遺物出土状況 カマド内の出土遺物は少ないが、小破片の他に1・2の坏が出土している。

出土遺物 土師器甕40点、坏30点、高坏1点が出土しており、他の住居に比べ土師器坏の割合が高くなっている。またこも編石が18点出土しているが、その内2点はくぼみ石を転用している。他に縄文土器が42点出土している。

所見 出土遺物で完形に近いものは少ないが、出土位置は床直のものが多く、覆土上層出土のものは少ないため、住居が埋没する以前に廃棄されたものが多いと考えられる。

12号住居跡

位置 C62～64—II38～41 Gr 重複 なし 平面形 隅丸方形 規模 東西4.7m 南北4.28m
 壁高 29cm やや傾斜している 面積 20.2㎡ 床面積 18.0㎡ 主軸方位 N-10°-W
 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4本検出された。

P1 径46cm深さ24cm P2 径54cm深さ52cm P3 径54cm深さ62cm P4 径40cm深さ44cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 104cm×73cm 深さ 57cm

形状 平面は隅丸方形であるが南西部が張り出しており、断面は底部が丸みを帯びた鍋底状を呈している。上面に蓋をするように緑泥片岩の偏平石が出土している。

床面 暗褐色土で厚さ5～20cmの貼床を施し、平坦な床面としている。

掘り方 ほぼ平坦な掘り方であるが、南壁際に120cm×90cm深さ20cmの掘り込みがあり、さらに径10cm～20cmの小ピットが、特に南東部に集中して検出されている。

遺物出土状況 ほぼ全面から出土しているが、カマド部分を除いて北壁際からはほとんど出土していない。南壁際中央には比較的残りのよい遺物が集中している。接合関係の判明するものは6個体あり、覆土中の破片が接合しているものが多いが、17はすべて床直の破片である。こも編石は、南西隅と南壁際中央の2カ所に集中して検出された。

カマド

位置 北壁東より 主軸方位 N-13°-W 規模 全長1.11m幅1.25m

構築 径90cm×70cmの楕円形に床面を掘りくぼめて、その上に砂岩の切り石を袖石として黄褐色土で袖を構築している。天井石は泥岩質の切り石を使用しているが、風化が著しく原型を留めていない。火床面は床面とほぼ同レベルで、あまり強く焼けていない。

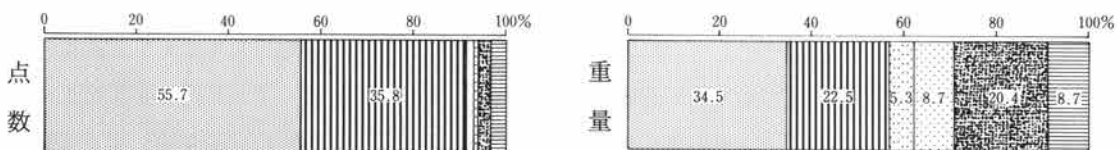
遺物出土状況 カマド内の出土遺物は少ないが、両脇から3・9の坏が出土している。

出土遺物 出土量は比較的多く、土師器甕59点、坏38点、甑2点、鉢1点、高坏3点、埴3点が出土しており、完形に近いものもかなりある。また高坏・埴など他の住居でほとんど検出されていない器形が多い特徴がある。こも編石も39点と非常に多い。他に縄文土器が28点出土している。

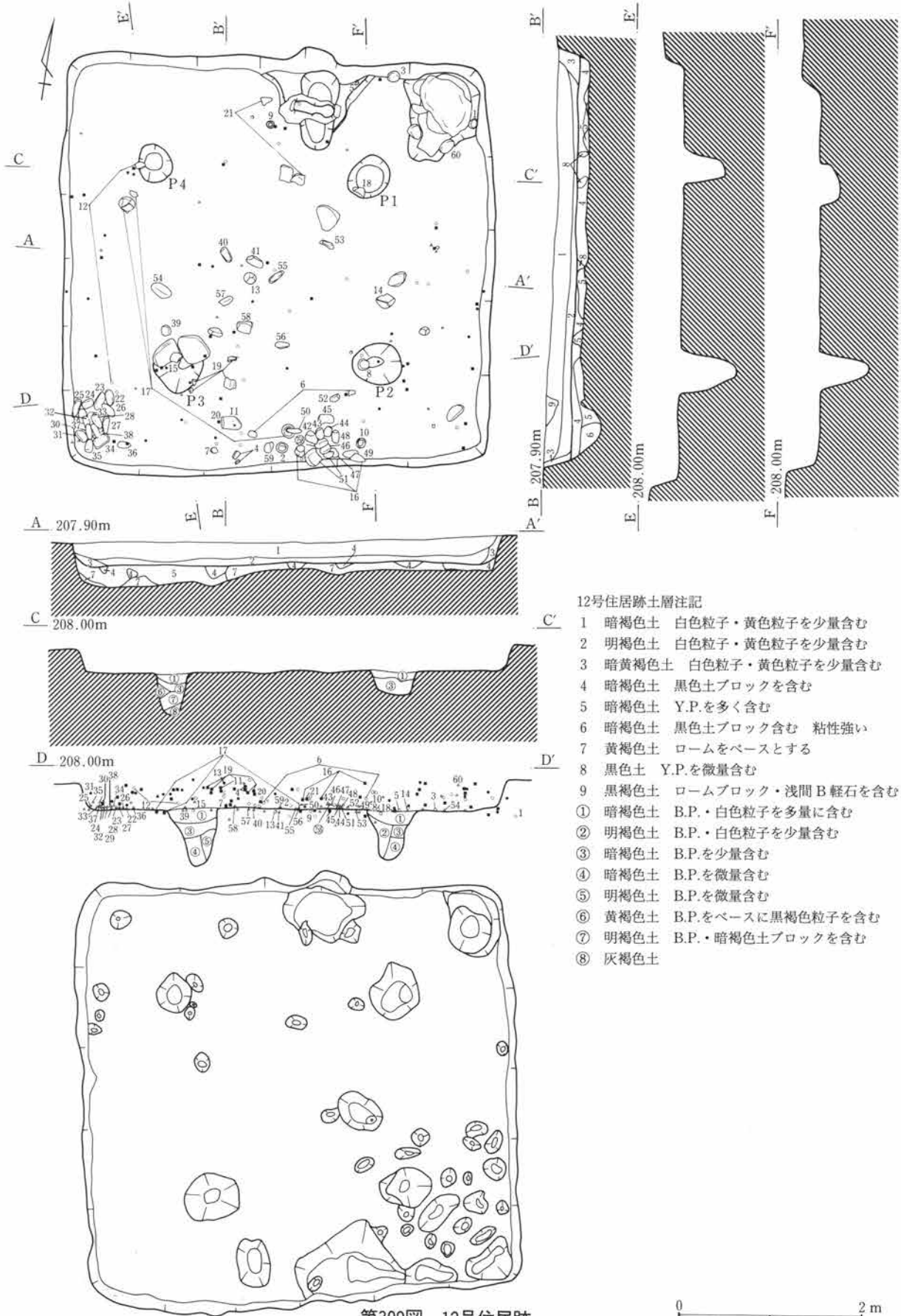
所見 完形に近い高坏3点・埴2点等の、他の住居にない遺物が出土しており、遺物において特異な存在である。また、こも編石が2カ所に分かれて39点と多数出土しており、使用位置を考える上で興味深い。

出土土器数量表

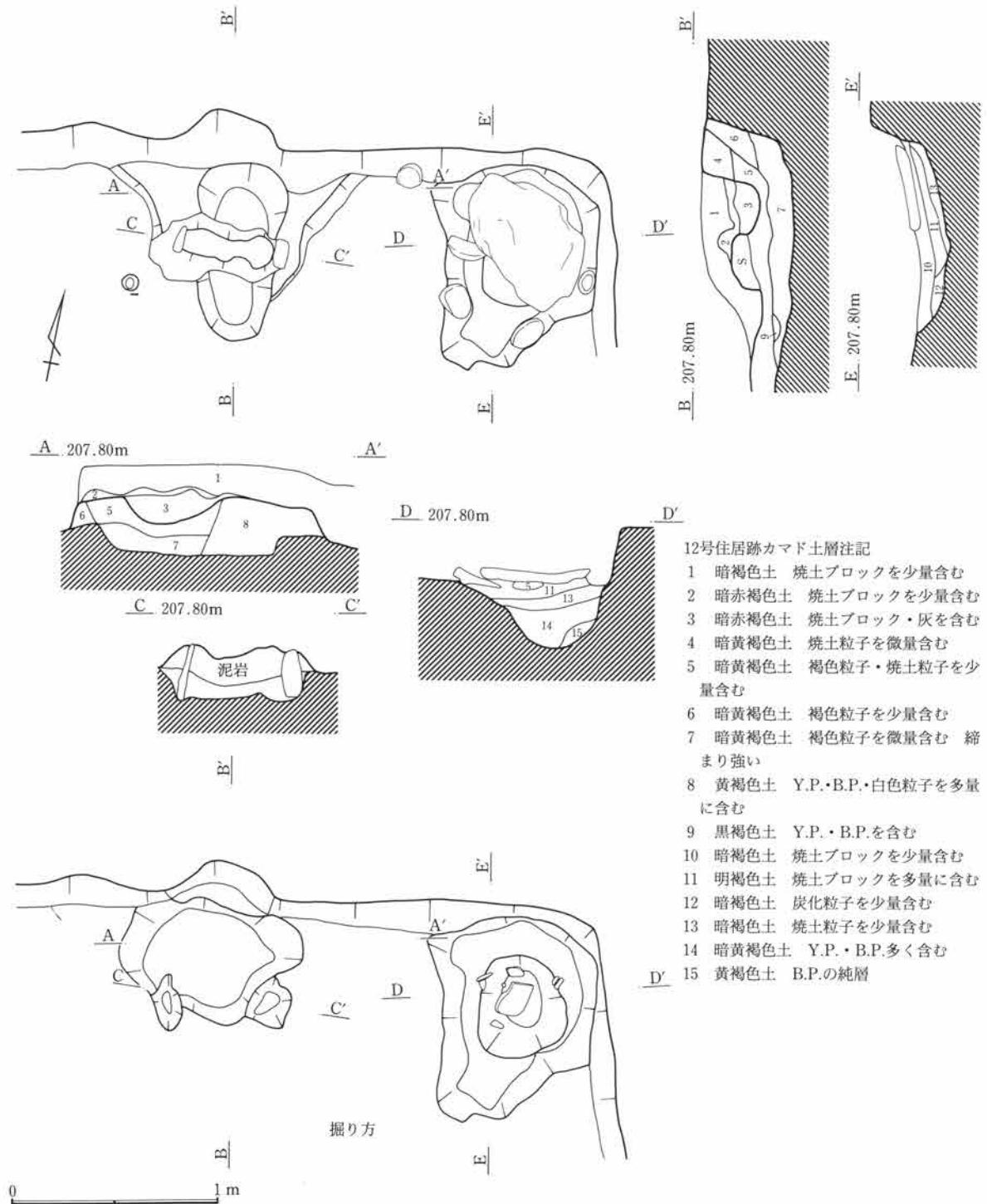
種別	土 師 器						計
	甕	坏	甑	鉢	高坏	埴	
点数	59	38	2	1	3	3	106
重量(g)	1,829	1,191	280	460	1,082	459	5,301



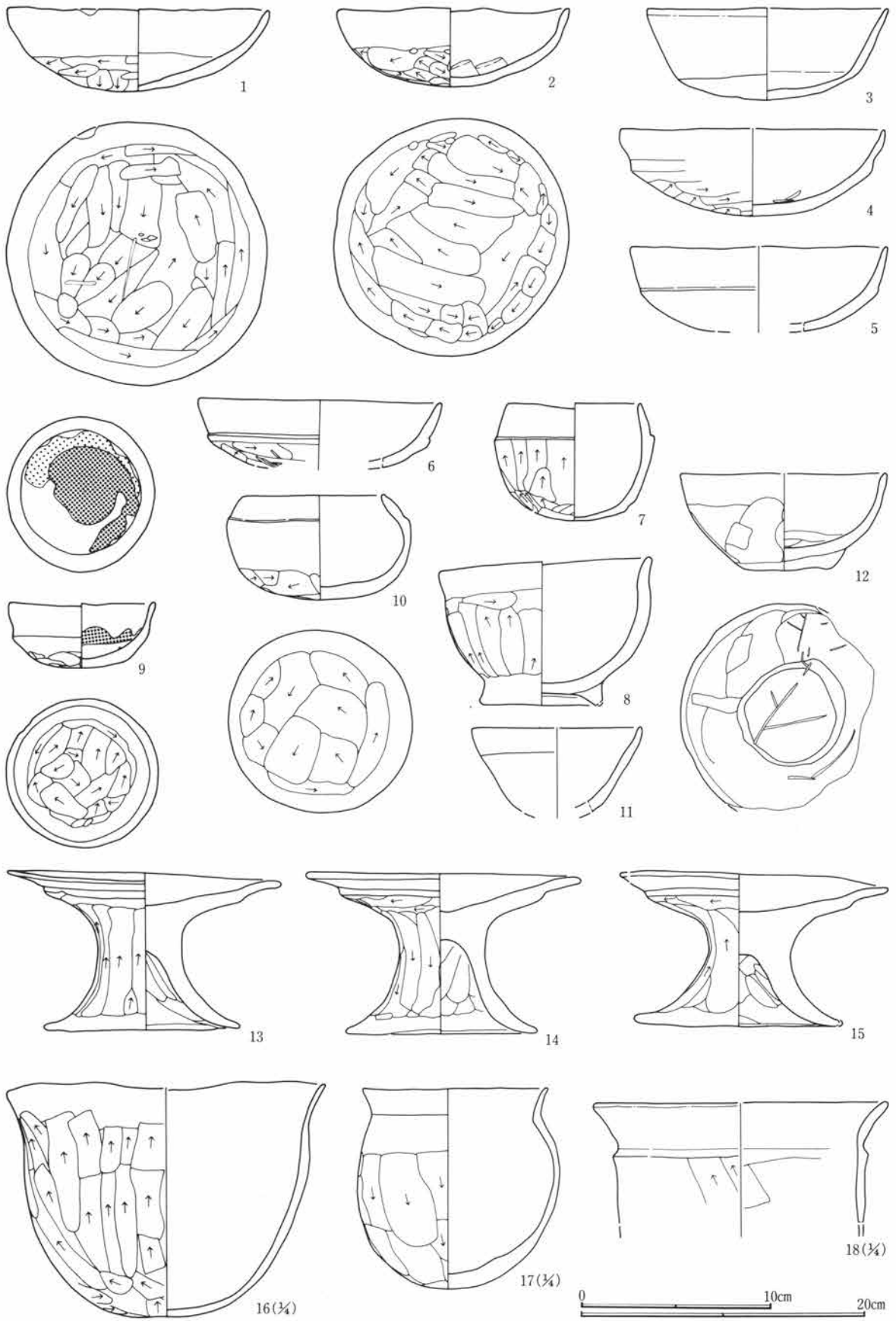
第308図 12号住居跡土器分類グラフ



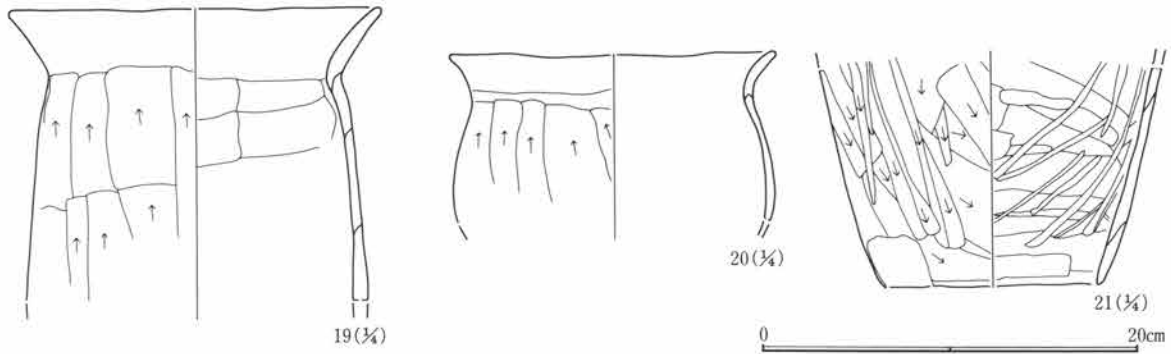
第309図 12号住居跡



第310図 12号住居跡カマド



第311図 12号住居跡出土遺物（1）



第312図 12号住居跡出土遺物(2)

12号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	北東 1	①13.8cm ④完形	③4.4cm	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面篋ナデ	VII B	口縁部内 に煤付着
2	土師器 坏	南東 5	①12.2cm ④完形	③4.1cm	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面篋ナデ	VII B	
3	土師器 坏	北東 1	①12.7cm ④口~底部%	③4.8cm	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口縁部横ナデ 内面ナデ・黒色処理 か 器面剥落し外面調整不明	VII A	
4	土師器 坏	南東 19	①(13.8cm) ④口~底部%	③4.5cm	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面篋ナデ・黒色処理	VII A	
5	土師器 坏	北東 1	①(13.6cm) ④口~底部%	③[4.4cm]	①橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体部外面は摩滅著し いが篋削りか 内面ナデ	VII A	
6	土師器 坏	南東 11	①(12.6cm) ④口~底部%	③(3.1cm)	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
7	土師器 坏	南西 14	①7.0cm ④ほぼ完形	③6.1cm	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
8	土師器 埴	南東 -1	①11.0cm ③7.7cm	②6.2cm ④完形	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	口縁部高台部横ナデ 体部外面篋削り 底部外面・内面ナデ	IX	
9	土師器 坏	北西 3	①7.8cm ④完形	③3.4cm	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 体部外面押さえ 底部 篋削り・内面ナデ・煤か油煙付着	VII A	
10	土師器 坏	南東 6	①7.4cm ④完形	③5.4cm	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫・パミスを含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り後ナ デ 底部外面篋削り 内面ナデ	VII D	
11	土師器 埴	南西 23	①(9.0cm) ④口縁部%	③[4.9cm]	①黒褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体部外面押さえ 内面ナデ	IX	
12	土師器 埴	北西 6	①(11.0cm) ③5.0cm	②4.3cm ④口~底部%	①にぶい黄橙 ②口褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	口縁部ナデ 体部一部ナデ 底部か ら体部の一部にかけて木葉痕	IX	
13	土師器 高坏	南西 26	①14.4cm ③8.2cm	②10.3cm ④完形	①にぶい橙 ②坏部黒褐・脚部橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	口縁部・脚部外縁横ナデ 体~脚部外 面篋削り 脚部内面指頭によるナデ	VIII	脚部外面 に煤付着
14	土師器 高坏	南東 4	①14.4cm ③13.3cm	②10.0cm ④ほぼ完形	①橙 ②坏部褐灰・脚部橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	口縁部・脚部外面横ナデ 体~脚部外 面篋削り 脚部内面指頭によるナデ	VIII	
15	土師器 高坏	南西 -1	①14.0cm ③8.0cm	②11.0cm ④口~底部%	①橙 ②坏部褐灰・脚部橙 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	口縁部・脚部外縁横ナデ 体~脚部外 面篋削り 脚部内面指頭によるナデ	VIII	
16	土師器 鉢	南東 23	①(22.3cm) ④口~底部%	③16.4cm	①にぶい黄橙・底部黒褐 ②にぶい黄 橙 ③良好 ④普通 砂粒を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面ナデ	VI	
17	土師器 小型甕	北西 -1	①13.0cm ④口~底部%	③13.9cm	①灰黄褐 ②黒褐 ③不良 ④粗 砂粒・礫を含む	器面剥落著しいが口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面ナデ	IV B	
18	土師器 長胴甕	北東 0	①(20.4cm) ④口~胴部%	③[8.3cm]	①橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面篋ナデ	II A	
19	土師器 長胴甕	南西 15	①(20.0cm) ④口~胴部%	③[15.4cm]	①黄灰 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 砂粒・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面篋ナデ	II A	
20	土師器 甕	南西 16	①(17.4cm) ④口~胴部%	③[8.9cm]	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面篋ナデ		
21	土師器 甕	北西 11	①— ③(11.4cm)	②11.5cm ④底部%	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを少量含む	外面篋削り 内面篋ナデ	V A	

第三章 検出された遺構と出土遺物

12号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
22	こも編石	南西 2	15.6	7.2	3.1	550	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
23	こも編石	南西 2	15.7	8.0	3.8	640	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
24	こも編石	南西 3	14.1	7.7	3.4	625	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
25	こも編石	南西 4	14.0	6.8	4.2	590	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
26	こも編石	南西 2	14.0	7.1	3.5	570	完形	閃緑岩	
27	こも編石	南西 3	14.8	7.5	2.9	520	完形	点紋緑泥片岩	
28	こも編石	南西 3	15.5	6.3	5.0	705	完形	絹雲母石墨片岩	
29	こも編石	南西 4	15.6	7.1	5.4	820	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
30	こも編石	南西 8	14.6	5.4	5.6	620	完形	点紋緑泥片岩	側面に一部敲打痕あり
31	こも編石	南西 7	15.6	5.2	4.7	605	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
32	こも編石	南西 4	14.0	6.0	4.9	660	ほぼ完形	点紋絹雲母石墨片岩	
33	こも編石	南西 5	17.1	7.0	4.5	835	完形	輝緑岩	側面に敲打痕あり
34	こも編石	南西 4	16.0	8.3	2.7	665	完形	点紋緑泥片岩	側面に敲打痕あり
35	こも編石	南西 7	13.8	7.5	3.4	540	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
36	こも編石	南西 2	14.0	6.6	2.9	445	完形	絹雲母石墨緑泥片岩	
37	こも編石	南西 3	16.1	8.1	4.0	710	完形	絹雲母石墨片岩	
38	こも編石	南西 4	16.5	6.8	2.5	435	ほぼ完形	絹雲母石墨片岩	
39	こも編石	南西 -2	13.4	9.2	5.1	1000	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
40	こも編石	南西 -2	16.4	8.0	3.2	630	完形	点紋絹雲母石墨片岩	側面に一部敲打痕あり
41	こも編石	南西 -2	16.5	6.0	4.6	790	完形	絹雲母石墨片岩	
42	こも編石	南東 2	17.4	9.1	3.5	900	完形	緑泥片岩	
43	こも編石	南東 4	16.5	9.3	4.3	1000	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
44	こも編石	南東 3	14.3	6.9	3.4	450	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
45	こも編石	南東 1	14.4	8.4	3.0	370	完形	砂岩	
46	こも編石	南東 4	13.1	7.1	3.9	505	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
47	こも編石	南東 2	16.8	8.6	4.7	730	完形	輝緑岩	表面に線状のキズ・側面に敲打痕あり
48	こも編石	南東 4	16.6	9.6	4.2	1050	ほぼ完形	絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり
49	こも編石	南東 4	16.2	7.7	4.4	620	完形	絹雲母石墨片岩	
50	こも編石	南東 5	16.1	5.4	3.5	480	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
51	こも編石	南東 2	15.6	6.7	4.3	725	完形	絹雲母石墨片岩	
52	こも編石	南東 2	15.8	6.8	2.7	460	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
53	こも編石	北東 -3	16.8	5.8	5.4	850	一部欠損	点紋絹雲母片岩	
54	こも編石	南東 2	14.0	8.6	3.2	505	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
55	こも編石	南西 1	16.8	6.6	5.7	1000	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
56	こも編石	南東 1	15.0	7.3	[3.7]	660	¾	輝緑岩	表面摩滅 敲打痕あり 磨石の転用か
57	こも編石	南西 -1	14.7	7.2	5.7	900	完形	輝緑岩	
58	こも編石	南西 0	14.7	7.6	3.9	660	完形	点紋緑泥片岩	表面に線状のキズ・側面に敲打痕あり
59	こも編石	南東 3	13.1	7.3	3.7	585	完形	輝緑岩	表面に敲打痕あり
60	こも編石	北東 20	15.7	8.8	4.3	1000	完形	点紋緑泥片岩	側面に敲打痕あり

13号住居跡

位置 C55~57-II51~54 Gr 重複 なし 平面形態 隅丸方形か 北壁・東壁は削平されている。

規模 東西5.48m 南北4.64m 壁高 30cm やや傾斜している 面積 27.38㎡ 床面積 25.7㎡

主軸方位 N-9°-W 壁溝 なし 貯蔵穴 なし

柱穴 住居の対角線上に4本検出された。P3だけは掘り方が2段になり、規模も大きい。

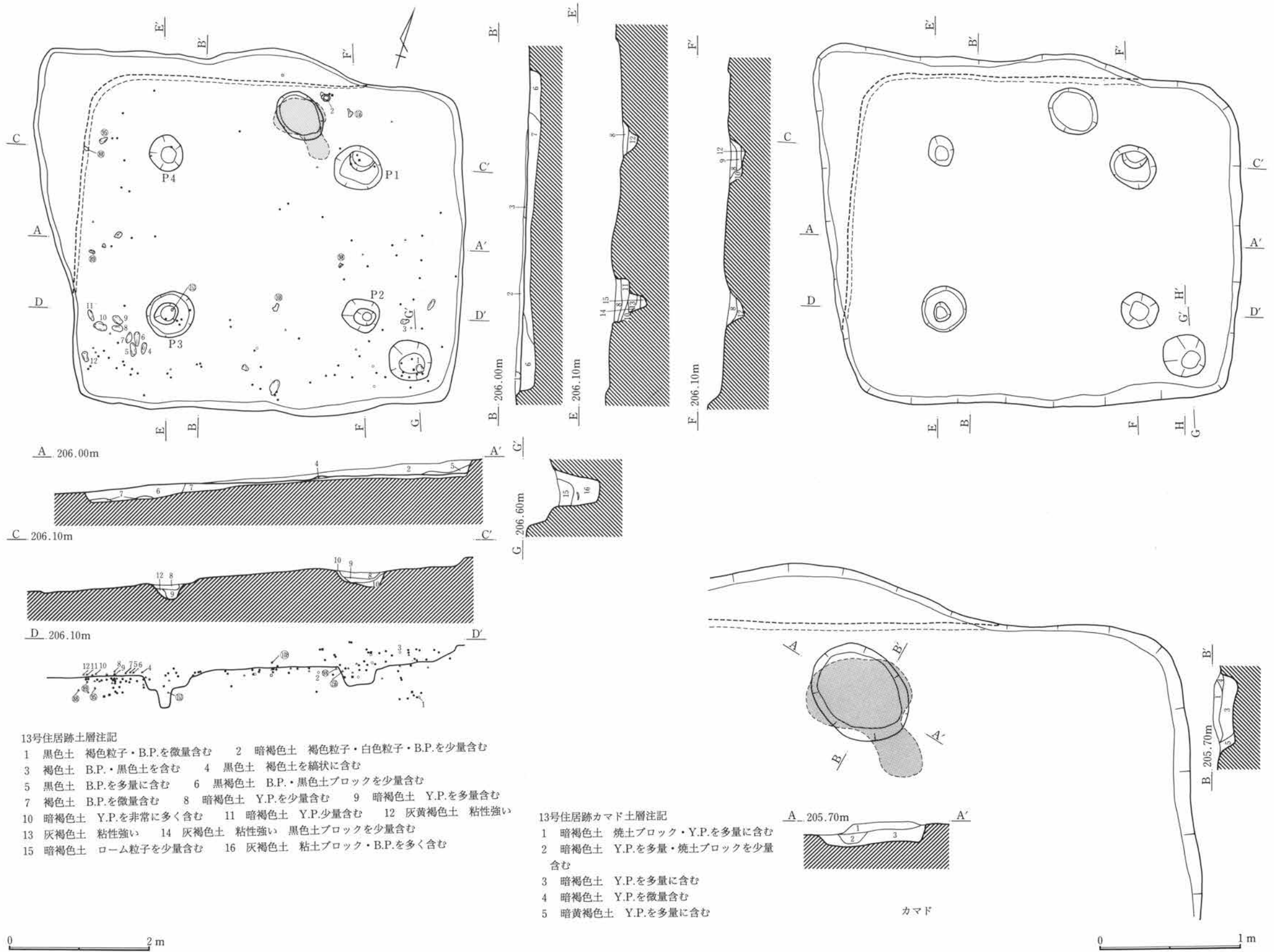
P1 径68cm深さ20cm P2 径52cm深さ22cm P3 径66cm深さ50cm P4 径50cm深さ24cm

床面 北西部は削平のため一部不明であるが、黒褐色土・褐色土で貼床を施し、ほぼ平坦な床面としている。

南東隅にピットが検出されており、覆土中から1の土器が出土している。

掘り方 西に傾斜しているが、南北方向は平坦な掘り方である。凹凸が少なくピットも検出されなかった。

遺物出土状況 遺構の残存状態が悪いため遺物も少なく、特に削平されている北西部は分布が薄くなっており、接合関係もない。こも編石が南西隅に集中して出土している。



第313図 13号住居跡カマド

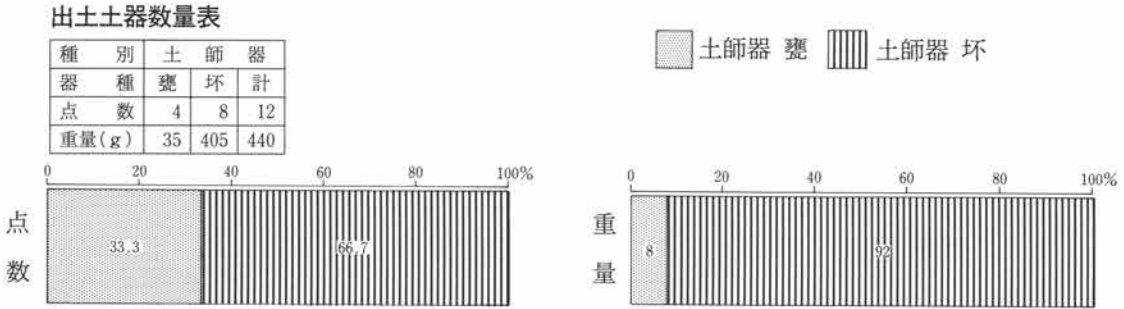
カマド

位置 北壁東寄り 主軸方位 N-4°-W 規模 全長0.58m 幅0.76m

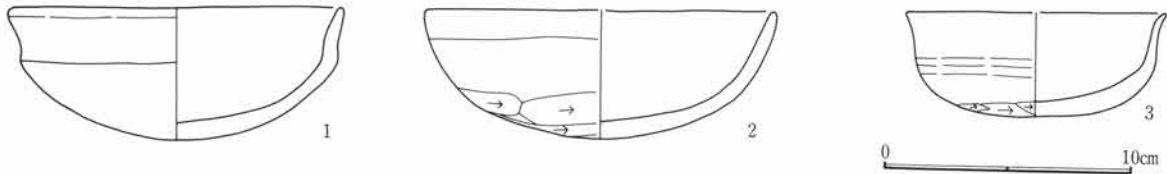
構築 削平のため上部構造は不明で、径76cm×58cmの楕円形の掘り方の上に、火床面と思われる焼土の広がり確認されただけである。

遺物出土状況 カマド内の出土遺物はないが、右脇に2の坏が出土している。

出土遺物 出土量は少なく、土器は土師器甕4点、坏8点が出土しただけで、他にこも編石が9点出土している。縄文土器は108点出土した。



第314図 13号住居跡土器分類グラフ



第315図 13号住居跡出土遺物

13号住居跡出土土器観察表

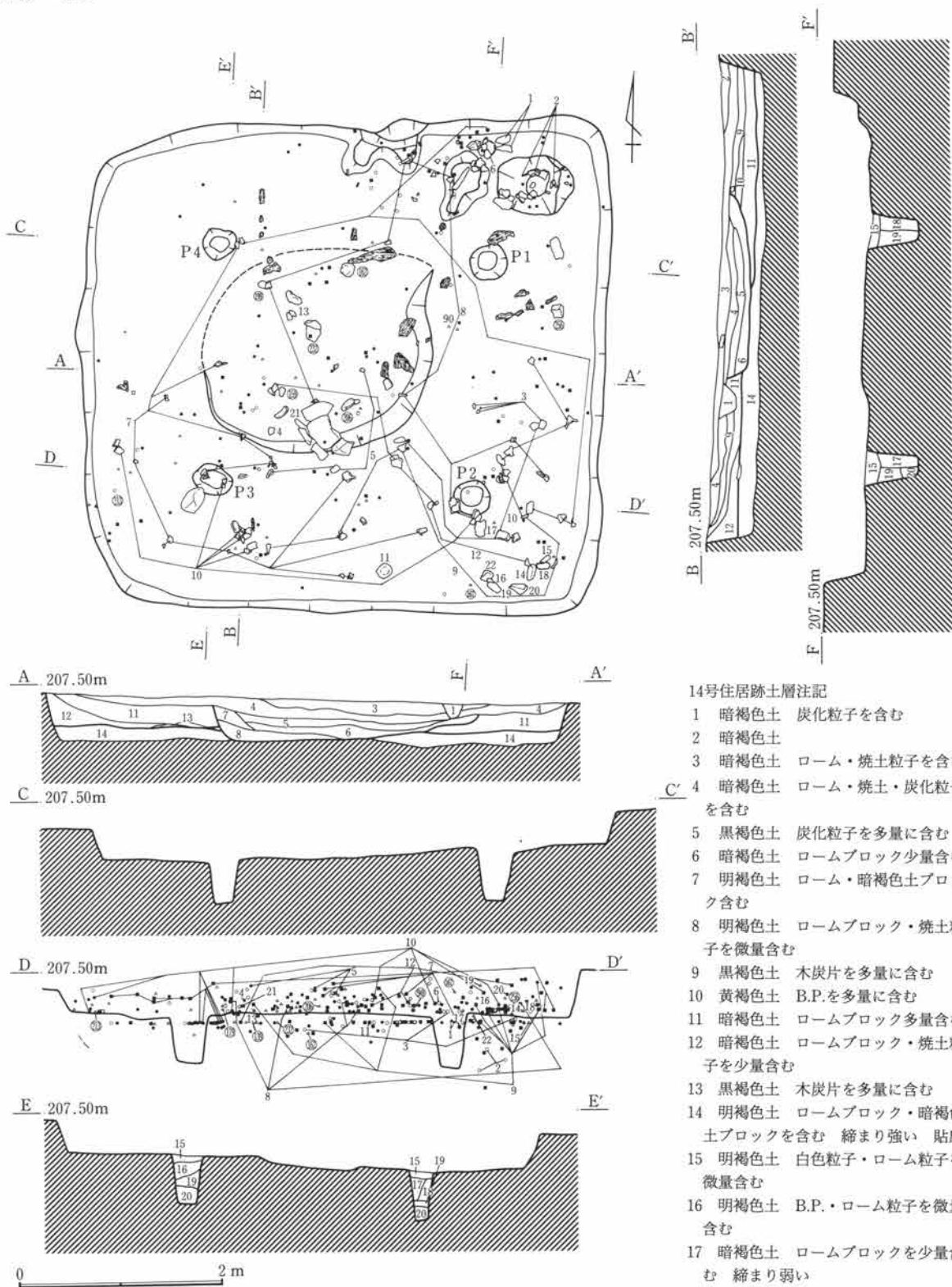
No.	種別 器種	出土位置	法量 ①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整	分類	備考
1	土師器 坏	南東 -50	①13.0cm ③5.2cm ④一部欠損	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデか	VII A	器面剥落 著しい
2	土師器 坏	北東 -6	①12.8cm ③5.1cm ④口~底部%	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体部外面ナデ 底部 篋削りか 内面ナデ	VII B	
3	土師器 坏	南東 15	①10.2cm ③4.1cm ④口~底部%	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ・3条の沈線 外面体 部ナデ・底部篋削り 内面ナデ	VII A	

13号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
4	こも編石	南西 5	16.6	7.1	5.0	800	完形	安山岩	
5	こも編石	南西 6	15.0	7.6	4.4	760	完形	安山岩	
6	こも編石	南西 5	16.4	5.6	5.5	725	完形	安山岩	
7	こも編石	南西 5	16.4	6.9	5.0	800	完形	安山岩	
8	こも編石	南西 4	16.3	6.7	5.5	950	完形	安山岩	
9	こも編石	南西 2	17.0	8.5	3.6	710	完形	安山岩	
10	こも編石	南西 4	15.1	8.2	4.7	900	完形	安山岩	
11	こも編石	南西 3	15.8	6.8	5.6	815	完形	安山岩	
12	こも編石	南西 4	12.9	7.5	4.8	615	完形	赤色硅質板岩	

14号住居跡

位置 C56~58-II39~41 Gr 重複 なし 平面形態 隅丸方形 規模 東西5.12m 南北4.72m
 壁高 50cm やや傾斜している 面積 23.2m² 床面積 20.96m² 主軸方位 N-2°-W
 壁溝 なし



14号住居跡土層注記

- 1 暗褐色土 炭化粒子を含む
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土 ローム・焼土粒子を含む
- 4 暗褐色土 ローム・焼土・炭化粒子を含む
- 5 黒褐色土 炭化粒子を多量に含む
- 6 暗褐色土 ロームブロック少量含む
- 7 明褐色土 ローム・暗褐色土ブロック含む
- 8 明褐色土 ロームブロック・焼土粒子を微量含む
- 9 黒褐色土 木炭片を多量に含む
- 10 黄褐色土 B.P.を多量に含む
- 11 暗褐色土 ロームブロック多量含む
- 12 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒子を少量含む
- 13 黒褐色土 木炭片を多量に含む
- 14 明褐色土 ロームブロック・暗褐色土ブロックを含む 締まり強い 貼床
- 15 明褐色土 白色粒子・ローム粒子を微量含む
- 16 明褐色土 B.P.・ローム粒子を微量含む
- 17 暗褐色土 ロームブロックを少量含む 締まり弱い
- 18 暗褐色土 黒褐色土ブロックを含む

第316図 14号住居跡

第3節 古墳時代

柱穴 住居の対角線上に4本検出された。4本とも、形態・規模に大きな差がなく平均している。

P1 径36cm深さ50cm

P2 径36cm深さ52cm

P3 径38cm深さ48cm

P4 径32cm深さ46cm

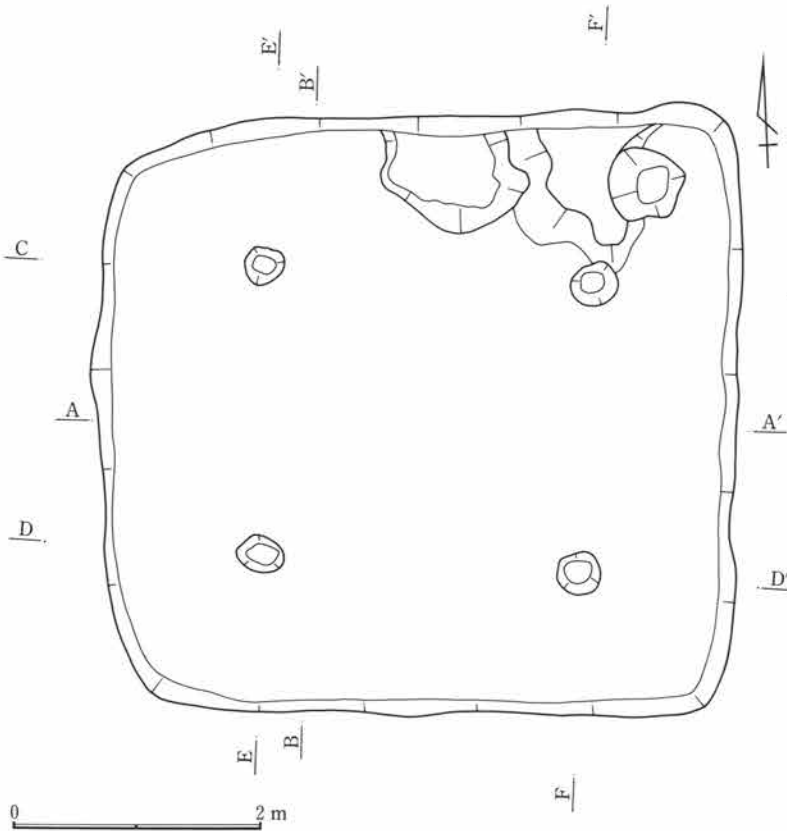
貯蔵穴 位置 北東隅

規模 0.76m×0.56m

深さ 60cm

形状 平面は楕円形で、断面は台形であるが底部付近に段有り。覆土中より2の坏が出土。

床面 ほぼ平坦な床面であるが、北に向かい低くなっている。また、覆土中に掘り込まれた土坑により中央部を壊されている。



第317図 14号住居跡掘り方

掘り方 平坦な掘り方で凹凸がなく、ピットも検出されていない。

遺物出土状況 ほぼ全面から出土しているが、北西部は分布が薄くなっている。接合関係の判明するものは9個体と多く、覆土中から床面付近まで多くの破片が接合している。また炭化材が数カ所から出土している。

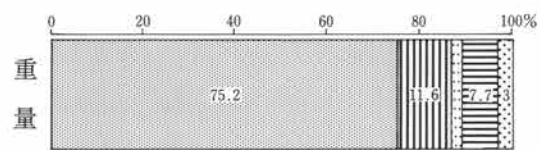
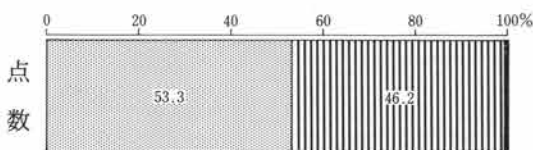
カマド

位置 北壁中央 主軸方位 N-2°-W 規模 全長0.5m 幅0.72m

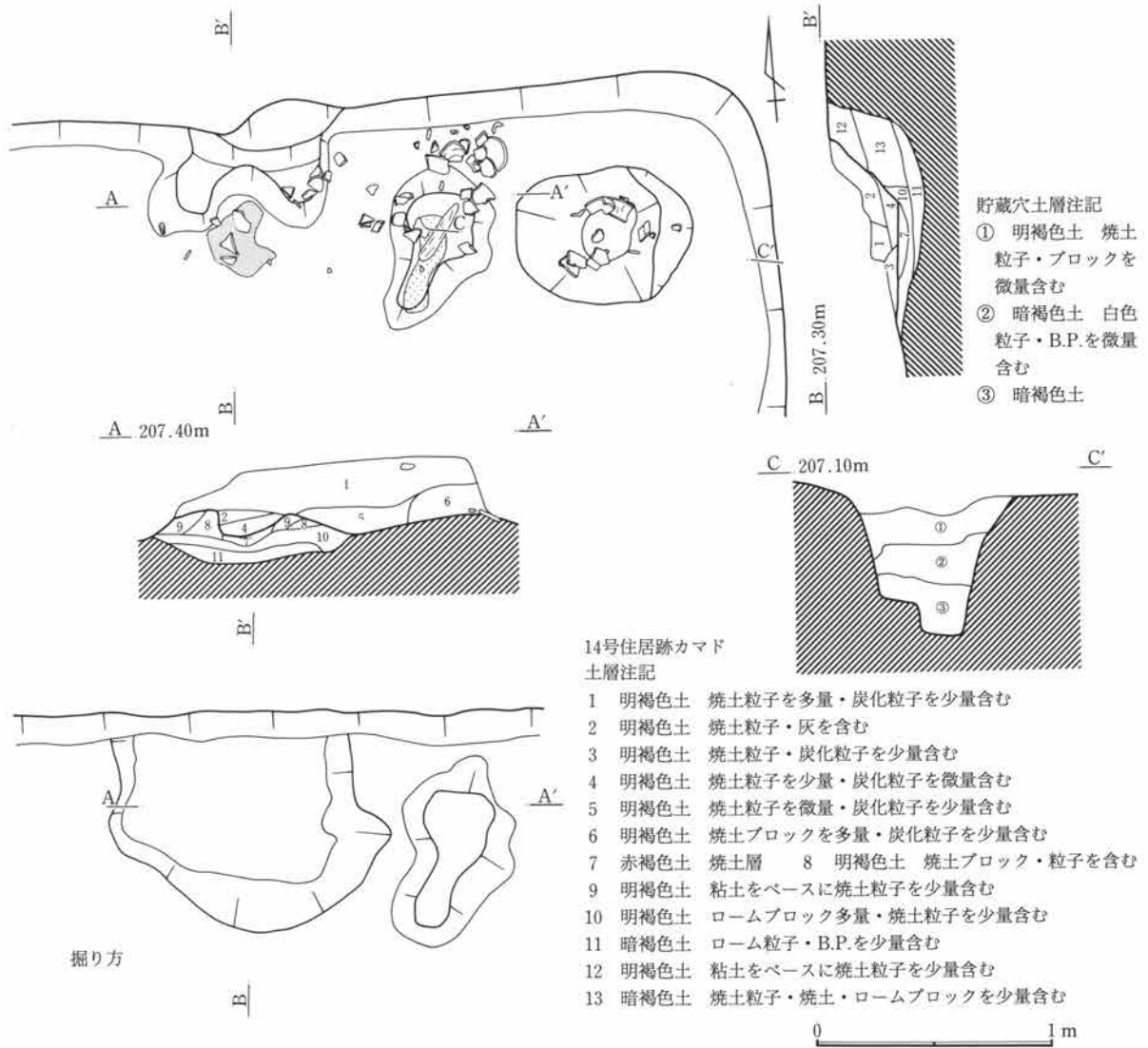
構築 120cm×80cmの一辺が丸みを帯びた方形の掘り込み上に粘土を主とする明褐色土で袖を構築しているが、袖石・天井石等は不明である。火床面はほぼ床面と同レベルで、強く焼けている。

出土土器数量表

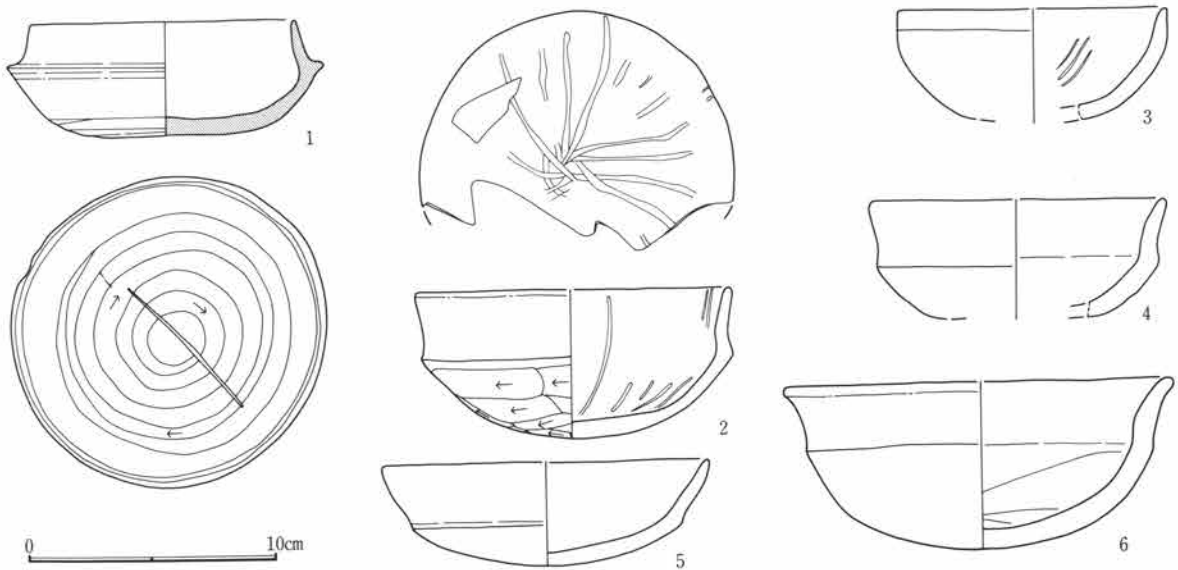
種別	須恵器		土師器				総計
	坏	計	甕	坏	甕	計	
点数	1	1	82	37	2	121	122
重量(g)	215	215	6,000	840	180	7,020	7,235



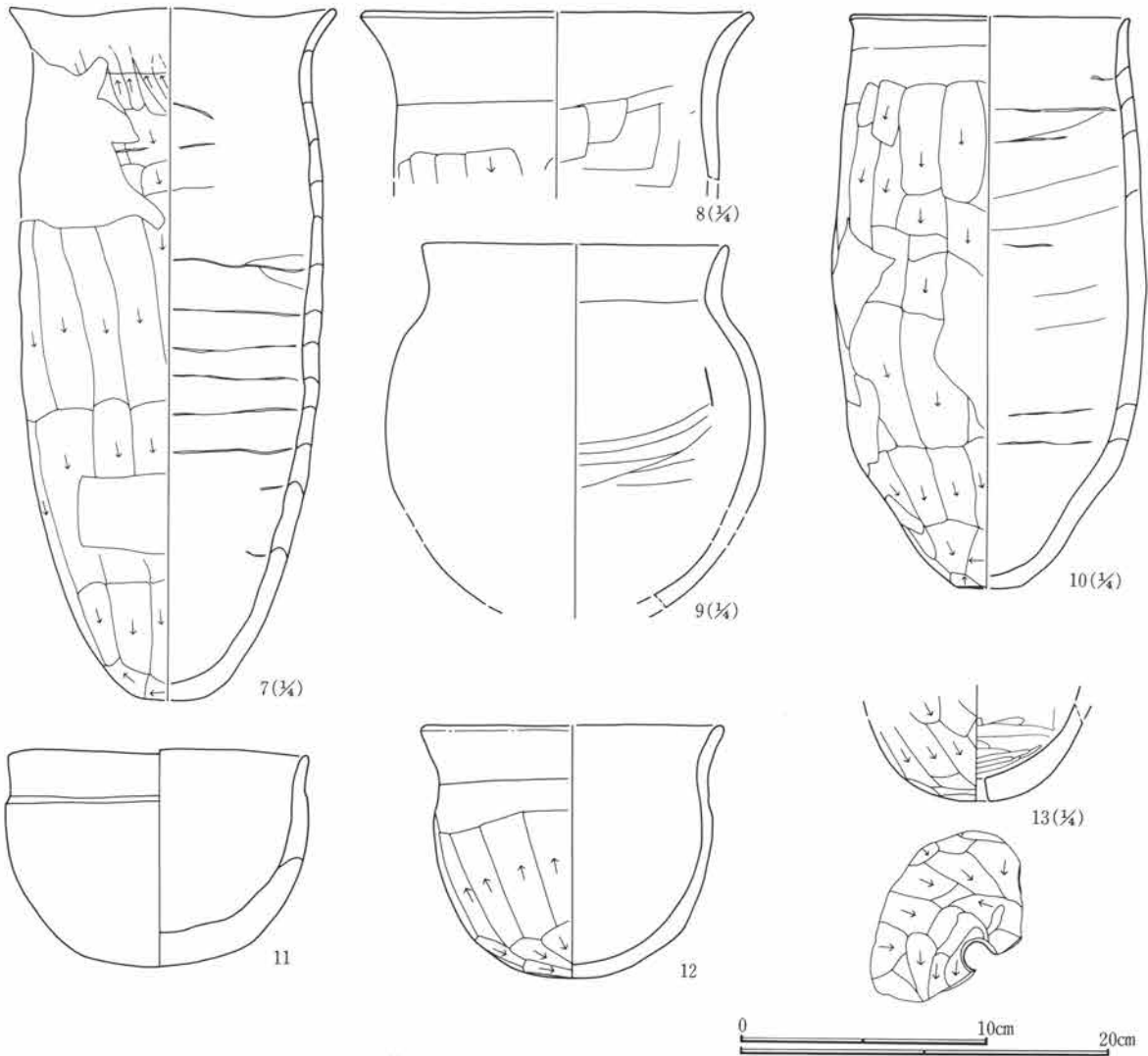
第318図 14号住居跡土器分類グラフ



第319図 14号住居跡カマド



第320図 14号住居跡出土遺物 (1)



第321図 14号住居跡出土遺物(2)

14号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	須恵器 坏	北東 —10	①10.8cm ④ほぼ完形	③4.4cm	①灰 ②灰 ③良好 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	ロクロ整形(左回転) 体部下半から 底部外面回転削り	I A	
2	土師器 坏	北東 —55	①12.5cm ④口~底部 $\frac{1}{2}$	③5.9cm	①橙 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 口縁下ナデ 体~底部外 面削り 内面ナデ・放射状暗文	VII A	
3	土師器 坏	南東 8	①(10.7cm) ④口~底部 $\frac{1}{4}$	③(4.5cm)	①橙 ②橙 ③不良 ④細 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面削り 内面ナデ 放射状暗文	VII B	器面摩滅 著しい
4	土師器 坏	南西 12	①(11.5cm) ④口~底部 $\frac{1}{4}$	③[4.6cm]	①明黄褐 ②明黄褐 ③不良 ④普通 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 体部外面削りか 内面ナデ	VII A	器面剥落 著しい
5	土師器 坏	南東 18	①12.9cm ④口~底部 $\frac{1}{4}$	③4.0cm	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面削り 内面ナデ	VII A	器面摩滅 著しい
6	土師器 坏	北東 16	①(15.3cm) ④口~底部 $\frac{1}{2}$	③6.5cm	①明赤褐 ②明赤褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面削り 内面ナデ	VII A	器面摩滅 著しい
7	土師器 甕	南東 5	①(17.8cm) ③37.2cm ④口~底部 $\frac{1}{2}$	②3.5cm	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 胴部外面削り 内面ナデ 内面に輪積痕残す	II B	
8	土師器 甕	南東 31	①11.1cm ④口縁部 $\frac{1}{4}$	③[9.0cm]	①にぶい橙 ②橙一部灰褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部上半外面ナデ・ 下半削り 内面削り	II B	
9	土師器 甕	南東 8	①(16.5cm) ④口~胴部 $\frac{1}{4}$	③[19.5cm]	①橙 ②にぶい橙 ③不良 ④粗 砂粒・礫を少量含む	口縁部横ナデ 胴部内面中位削り 外面不明	III	器面剥落 著しい
10	土師器 甕	南東 20	①[15.0cm] ③30.8cm ④口~底部 $\frac{1}{2}$	②3.5cm	①にぶい橙 ②上にぶい黄橙・下黄橙 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面削り内面 ナデ 内面に輪積痕残す	II B	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
11	土師器 小型甕	南東 -10	①12.0cm ④ほぼ完形	③8.7cm	①明赤褐 ②明赤褐 ③不良 ④粗 大粒の砂粒を多く含む	口縁部横ナデ 胴～底部内外面ナデ か	IV A	器面剝落 著しい
12	土師器 小型甕	南東 7	①(12.2cm)③10.0cm ④口～底部1/2		①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 大粒の砂粒・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面上部ナデ中 ～下部筥削り 内面ナデ	IV A	
13	土師器 甕	北西 -1	③[5.4cm] ④底部1/2	底部穴径1.5cm	①明黄褐 ②橙 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを少量含む	外面筥削り 内面筥ナデ	V B	

14号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
14	こも編石	南東 1	17.0	7.9	5.2	1200	完形	安山岩	表面摩滅 磨石の転用か
15	こも編石	南東 -5	16.0	7.0	5.9	900	完形	流紋岩	
16	こも編石	南東 15	19.9	7.7	5.1	1000	完形	流紋岩	
17	こも編石	南東 2	18.2	9.4	6.4	1550	完形	硬砂岩	
18	こも編石	南東 -7	15.8	8.5	6.1	1100	完形	安山岩	
19	こも編石	南東 27	9.6	8.0	4.8	710	完形	安山岩	
20	こも編石	南東 15	19.5	9.6	4.1	1100	完形	安山岩	
21	こも編石	南西 0	15.6	7.6	4.4	750	完形	安山岩	
22	こも編石	南東 -3	14.1	10.9	3.7	1100	完形	絹雲母石墨片岩	

遺物出土状況 カマド内から土器片が数点出土している他、カマド右脇から1の須恵坏、6の土師坏が出土している。

出土遺物 出土量は多く、土師器甕81点、坏37点、甕2点の他、須恵器坏の完形品が出土している。縄文土器は108点出土した。

所見 接合関係が判明するものが多く、また接合の範囲もかなり広範囲である。炭化材が各所に見られ、焼失家屋と断定できるほど多くはないが、接合個体が多いことと関係する可能性もある。

17号住居跡

位置 C54～57-II34～38 Gr **重複** 6・10号井戸より古 **平面形態** 隅丸方形

規模 東西6.96m 南北6.36m **壁高** 46cm やや傾斜している **面積** 40.93㎡ **床面積** 36.7㎡

主軸方位 N-90°-E **壁溝** なし

柱穴 住居の対角線上に4本検出された。4本とも底面に石を据えて柱を支えている。

P1 径54cm深さ58cm P2 径66cm深さ56cm P3 径54cm深さ60cm P4 径68cm深さ62cm

貯蔵穴 検出されていないが、6号井戸に壊されている可能性はある。

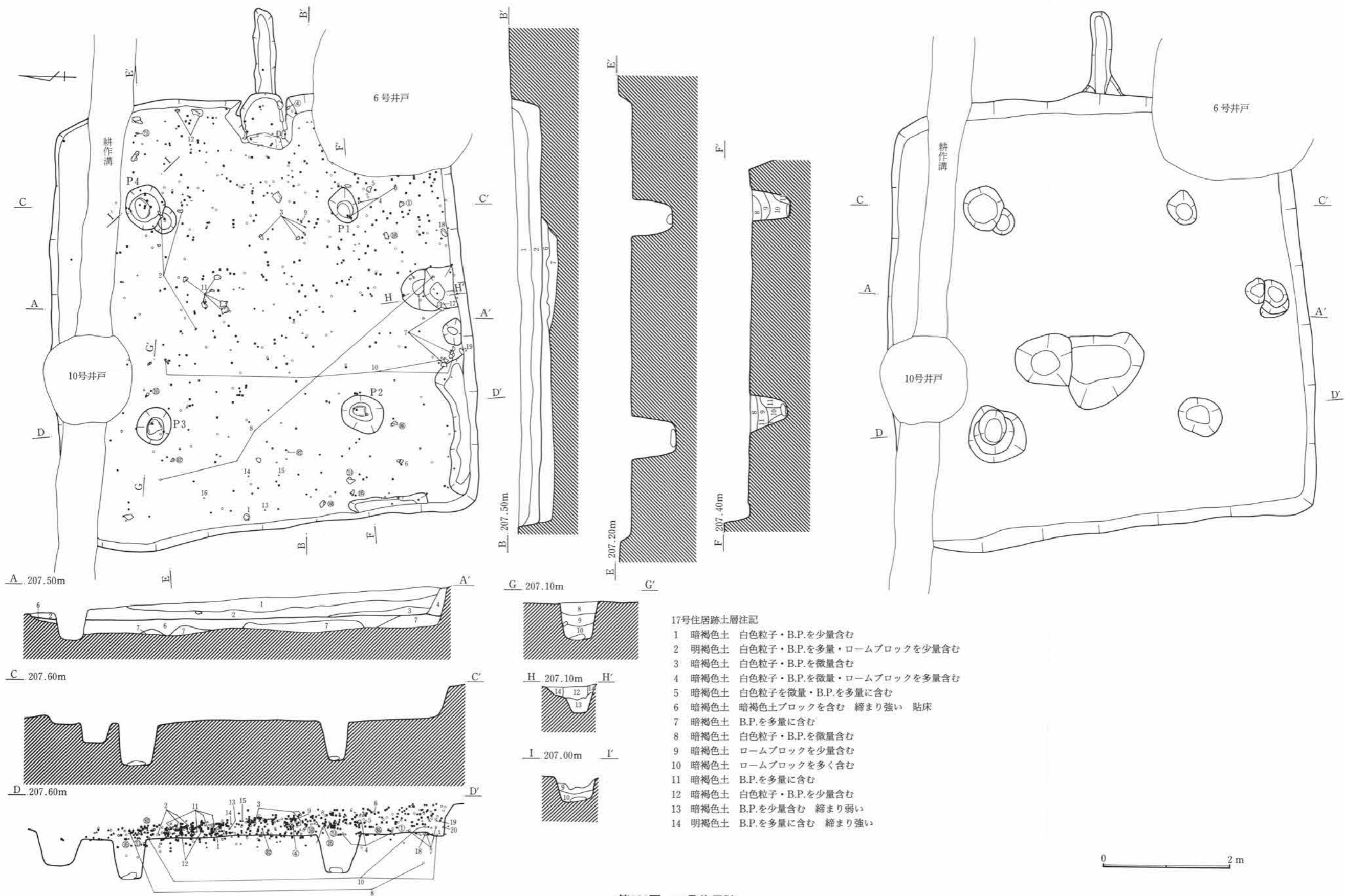
床面 暗褐色土で15cm～25cmの貼床を施しており、ほぼ平坦な床面としている。南壁際中央にピットが2基検出されており、性格は不明であるが、位置、形態から入り口施設の可能性も考えられる。

掘り方 ほぼ平坦な掘り方であるが、東側には掘り方を直接床面としている部分もある。中央やや西よりに径100cm～120cmの掘り込みが2基検出されている。

遺物出土状況 上部を大きく削平されている北壁際を除いて、ほぼ全面から出土しており、垂直分布においても上層から床面付近まで平均して出土している。接合関係の判明するものは6個体あり、覆土中のものが接合している他、床面付近の破片が接合している。

カマド

位置 東壁中央 **主軸方位** N-90°-E **規模** 全長2.15m 幅1.2m 煙道長1.32m 煙道幅0.35m



- 17号住居跡土層注記
- 1 暗褐色土 白色粒子・B.P.を少量含む
 - 2 明褐色土 白色粒子・B.P.を多量・ロームブロックを少量含む
 - 3 暗褐色土 白色粒子・B.P.を微量含む
 - 4 暗褐色土 白色粒子・B.P.を微量・ロームブロックを多量含む
 - 5 暗褐色土 白色粒子を微量・B.P.を多量に含む
 - 6 暗褐色土 暗褐色土ブロックを含む 締まり強い 貼床
 - 7 暗褐色土 B.P.を多量に含む
 - 8 暗褐色土 白色粒子・B.P.を微量含む
 - 9 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
 - 10 暗褐色土 ロームブロックを多く含む
 - 11 暗褐色土 B.P.を多量に含む
 - 12 暗褐色土 白色粒子・B.P.を少量含む
 - 13 暗褐色土 B.P.を少量含む 締まり弱い
 - 14 明褐色土 B.P.を多量に含む 締まり強い

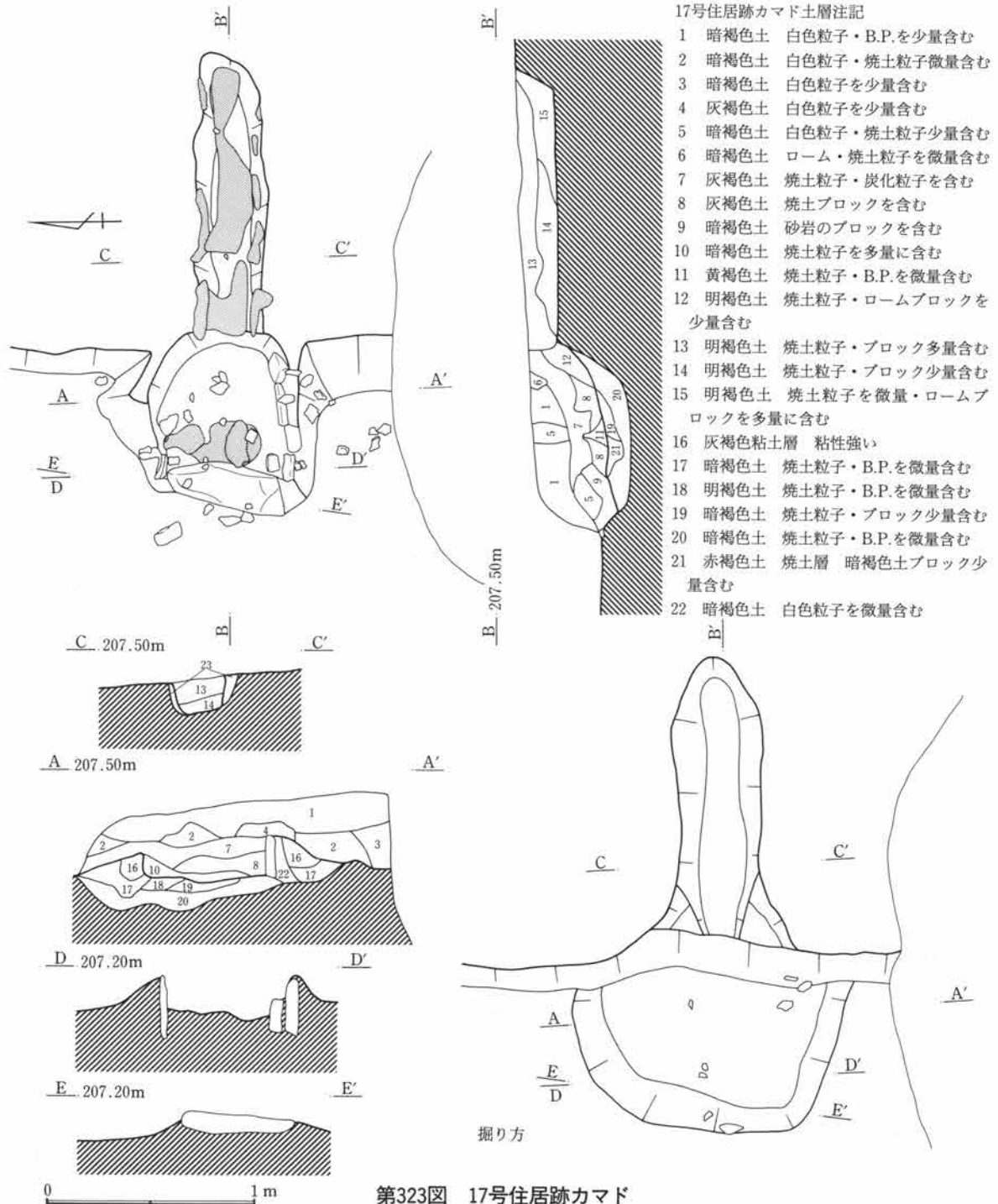
第322図 17号住居跡

0 2m

構築 130cm×75cmの半円形に床面を掘りくぼめ、その上に灰褐色粘土と暗褐色土で袖を構築している。袖石・天井石はいずれも砂岩の切り石を使用し、右袖は2本立て並べている。火床面は床面とほぼ同レベルで、よく焼けている。煙道部は水平に延び、立ち上がりは傾斜しているが、上部は削平されているため不明である。両側の壁はよく焼けており、上層に天井部のもと思われる焼土が検出されている。

遺物出土状況 カマド内および周辺から土器片が数点出土している。

出土遺物 出土量は古墳時代の住居の中では最も多く、土師器甕188点、坏163点、埴1点、須恵器甕1点が出土している。1・5の坏には暗文があり、4・6の坏には黒色処理が施されている。また、各柱穴に据えら



第323図 17号住居跡カマド

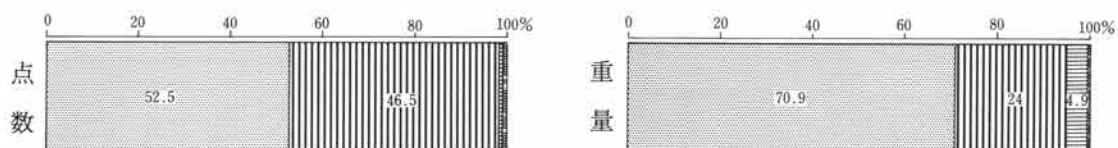
第III章 検出された遺構と出土遺物

れた石の2点は多孔石を転用している。他に弥生土器が3点、縄文土器が203点出土している。

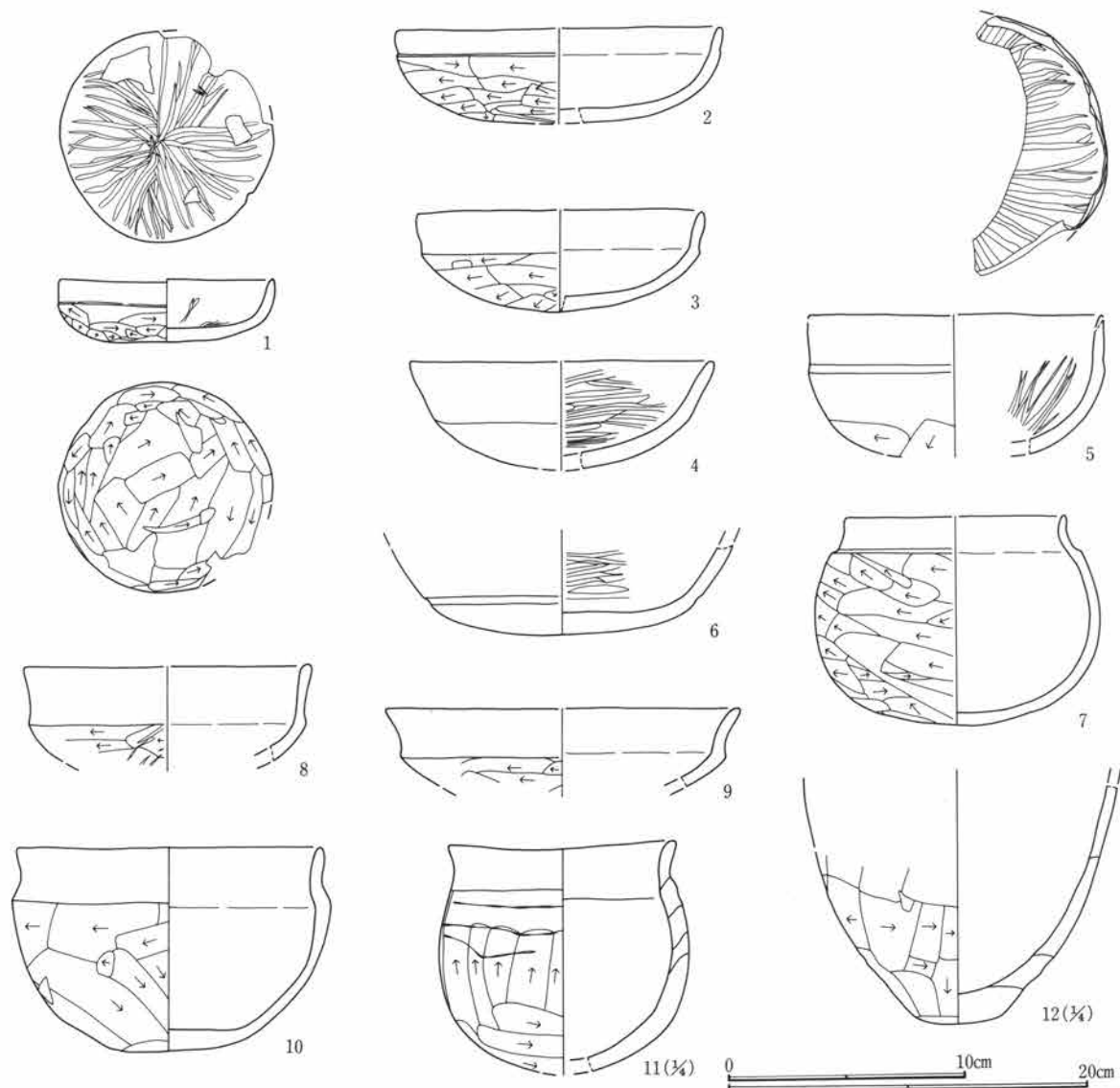
所見 住居の中で最も規模が大きくカマドもしっかりしている。柱穴には石が据えられており、太い主柱が想定される。東壁中央下にピットがあるため、入り口は東壁にあったものと考えられる。

出土土器数量表

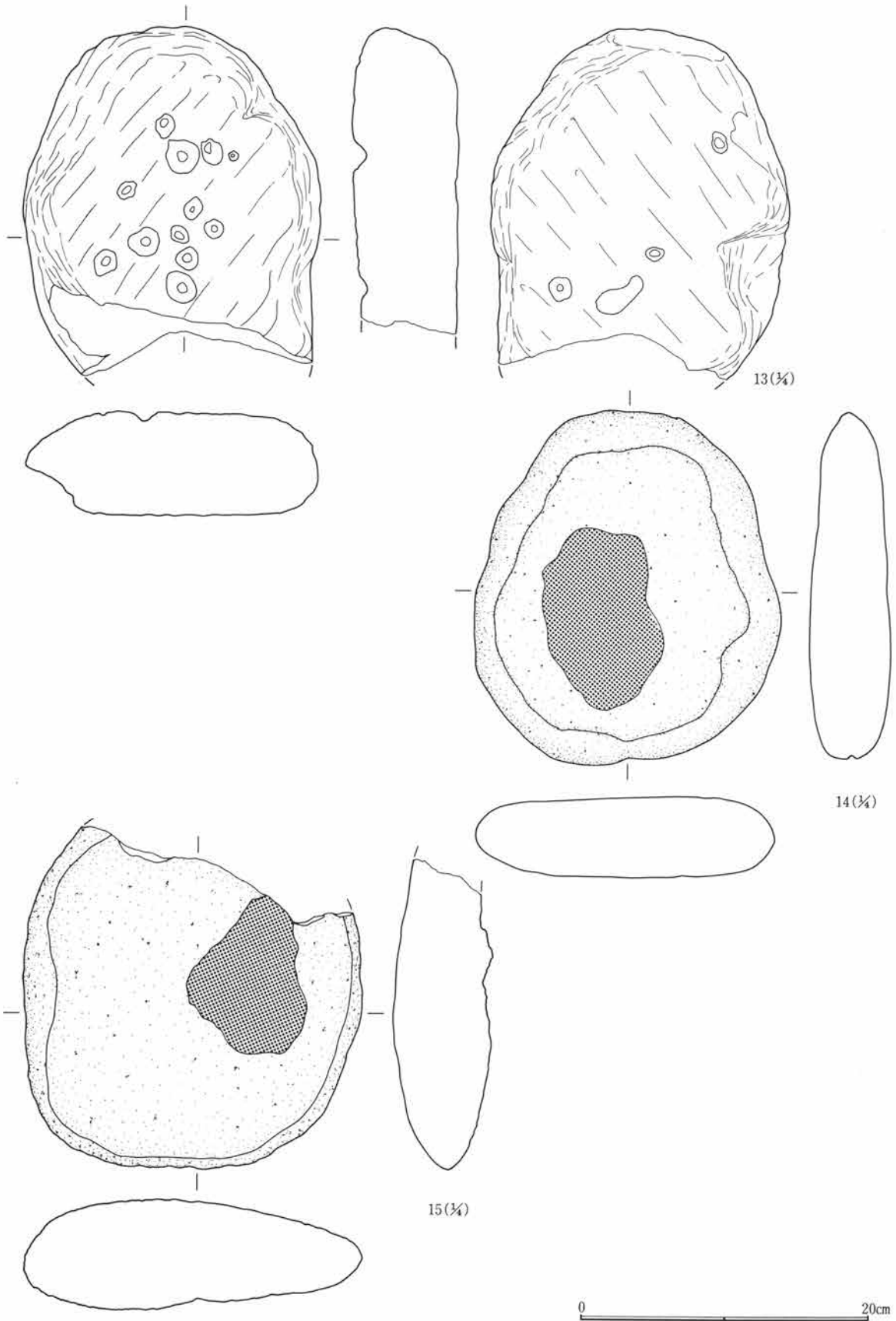
種別	土 師 器				須恵器		総計
器種	甕	坏	埴	計	甕	計	
点数	188	163	1	352	1	1	353
重量(g)	3,610	1,222	250	5,082	10	10	5,092



第324図 17号住居跡土器分類グラフ

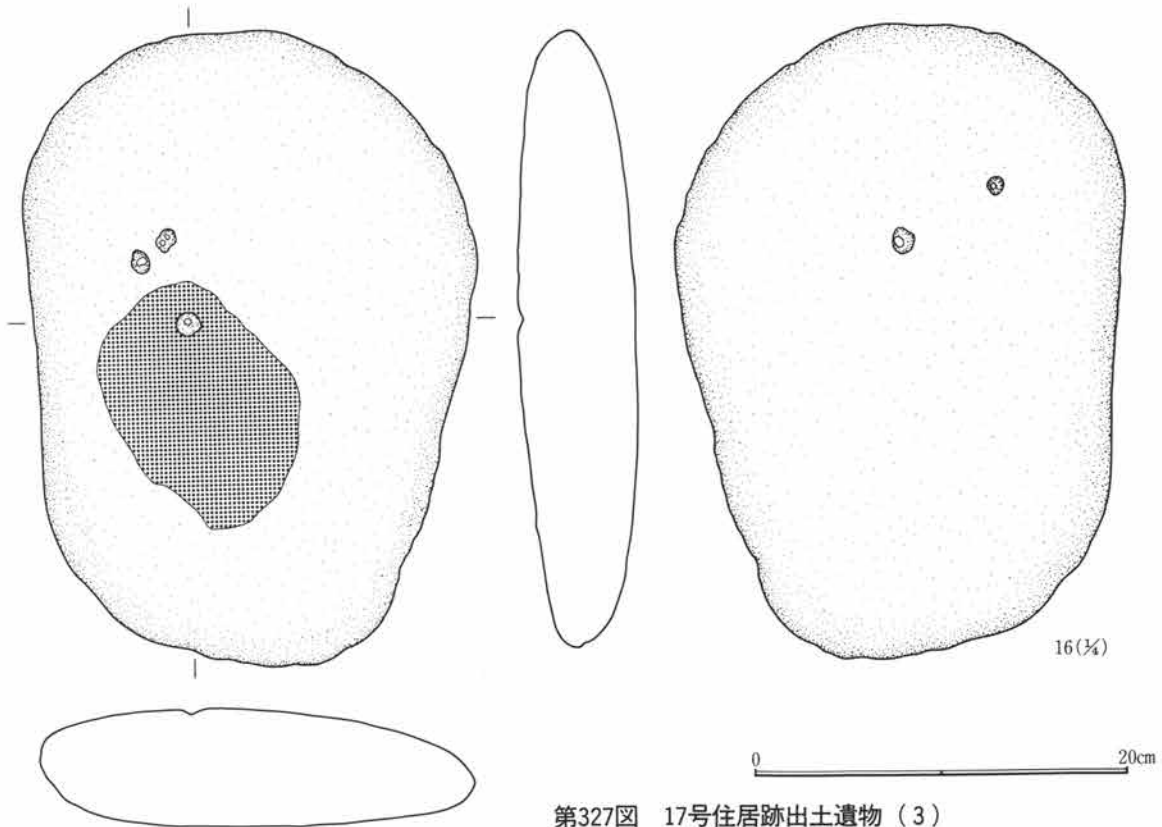


第325図 17号住居跡出土遺物 (1)



第326図 17号住居跡出土遺物(2)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第327図 17号住居跡出土遺物(3)

17号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	土師器 坏	南西 8	①8.8cm ③2.4cm ④ほぼ完形	①黒褐 ②にぶい褐 ③良好 ④細 砂粒・雲母を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後放射状暗文施文	VII A	
2	土師器 坏	北西 6	①(13.4cm)③[3.9cm] ④口～底部1/4	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④細 砂粒・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
3	土師器 坏	北東 31	①(11.8cm)③4.2cm ④口～底部1/4	①橙 ②橙 ③不良 ④普通 砂粒・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
4	土師器 坏	北東 16	①(12.6cm)③(4.5cm) ④口～底部1/4	①にぶい黄褐 ②黒 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを少量含む	口縁部外面横ナデ 体～底部外面篋削り 内面篋磨き・黒色処理か	VII D	外面摩滅 著しい
5	土師器 坏	北東 18	①— ③[5.5cm] ④体～底部1/4	①赤褐 ②暗赤褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 外面体部篋削り後ナデ・ 底部篋削り 内面ナデ後放射状暗文施文	VII A	
6	土師器 坏	南東 33	①— ③[3.7cm] ④体～底部片	①橙 ②黒 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面篋磨き・黒色処理	VII D	外面摩滅 著しい
7	土師器 塊	北東 8	①(9.0cm) ③8.5cm ④口～底部1/4	①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③良好 ④細 砂粒・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	IX	
8	土師器 坏	南西 12	①(12.0cm)③[3.9cm] ④口～体部片	①橙 ②橙 ③良好 ④細 砂粒・パミスを含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
9	土師器 坏	北東 23	①(14.8cm)③[3.4cm] ④口～底部片	①橙 ②橙 ③良好 ④細 砂粒・パミスを含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り 内面横ナデ	VII A	
10	土師器 塊	南西 6	①12.6cm ②4.5cm ③8.3cm ④ほぼ完形	①にぶい褐 ②明赤褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	IX	
11	土師器 小型甕	北西 9	①(12.6cm)③[12.8cm] ④口～底部1/4	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り 内面篋ナデ	IV B	
12	土師器 長胴甕	北西 8	①4.7cm ③[13.0cm] ④胴～底部1/4	①にぶい褐 ②明赤褐 ③良好 ④粗 礫を含む	胴～底部外面篋削り 内面ナデ	II	

17号住居跡出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
13	礎石	南西 11	[24.0]	20.7	7.3	5600	一部欠損	絹雲母石墨片岩	多孔石の転用

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
14	礎石	南西 16	24.5	21.2	5.6	4650	完形	安山岩	表面変色部あり柱のアタリか
15	礎石	南東 20	[23.6]	23.4	7.7	5580	1/2	安山岩	表面変色部あり柱のアタリか
16	礎石	南西 6	33.6	24.2	6.3	8400	完形	輝緑岩	多孔石の転用 表面変色柱のアタリか
17	こも編石	南東 一5	13.4	6.7	3.9	525	完形	安山岩	
18	こも編石	南東 18	13.8	7.7	4.6	600	完形	安山岩	表面摩滅 磨石の転用か
19	こも編石	南西 6	14.4	6.5	4.5	600	完形	流紋岩	

18号住居跡

位置 C59～61-II43～44 Gr 重複 覆土堆積途中に土坑が掘り込まれている

平面形態 隅丸方形 南壁が他の壁より短く台形になる 規模 東西3.76m 南北3.6m 壁高 58cm

面積 13.92㎡ 床面積 11.32㎡ 主軸方位 N-3°-E 壁溝 なし

柱穴 ほぼ住居の対角線上に検出されたが、P3はやや西にずれている。

P1 径30cm深さ22cm P2 径30cm深さ16cm P3 径40cm深さ24cm P4 径34cm深さ24cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 38cm×29cm 深さ 31cm

形状 平面隅丸方形、断面台形であるが、他の住居の貯蔵穴に比べ規模がやや小さい。

床面 2面あり、上面は下面の上に明褐色土で5～10cmの貼床を施しており、柱穴の内側から北壁際（図の実線の内側）にははっきりした硬化面が確認された。下面は暗褐色土で5～15cmの貼床を施している。東壁際と南壁際には下面の貼床はなく直接地山となっているため、拡張の可能性も考えられる。

掘り方 東壁際と南壁際および西壁際の一部は床面のため平坦で、他は一段下がった形になっている。しかしながら、はっきりと拡張されたとは断定できない。

遺物出土状況 ほぼ全面から出土しており、垂直分布も上層から床面付近まで平均している。

カマド

位置 北壁中央 主軸方位 N-5°-E 規模 全長1.23m 幅0.9m 煙道長79cm 煙道幅30cm

構築 57cm×54cmの方形に床を掘りくぼめ(袖石の部分は更に掘り下げる)、その上に砂岩の切り石を袖石として袖を構築している。天井石は検出されなかった。火床面は床面とほぼ同レベルで、よく焼けている。煙道部は水平に延び、立ち上がりは内傾している。

遺物出土状況 カマド内から土器片が数点出土している。

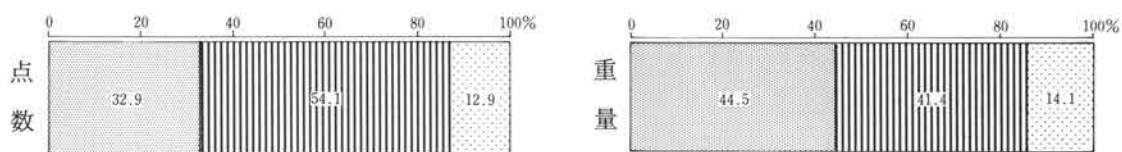
出土遺物 土師器甕28点、坏46点、鉢11点が出土しており、坏の出土量が比較的多い。他に弥生土器7点、縄文土器267点が出土している。また、覆土に掘り込まれた土坑からは、土師器甕4点、鉢503点、計507点が出土しており、鉢が圧倒的に多い。

出土土器数量表

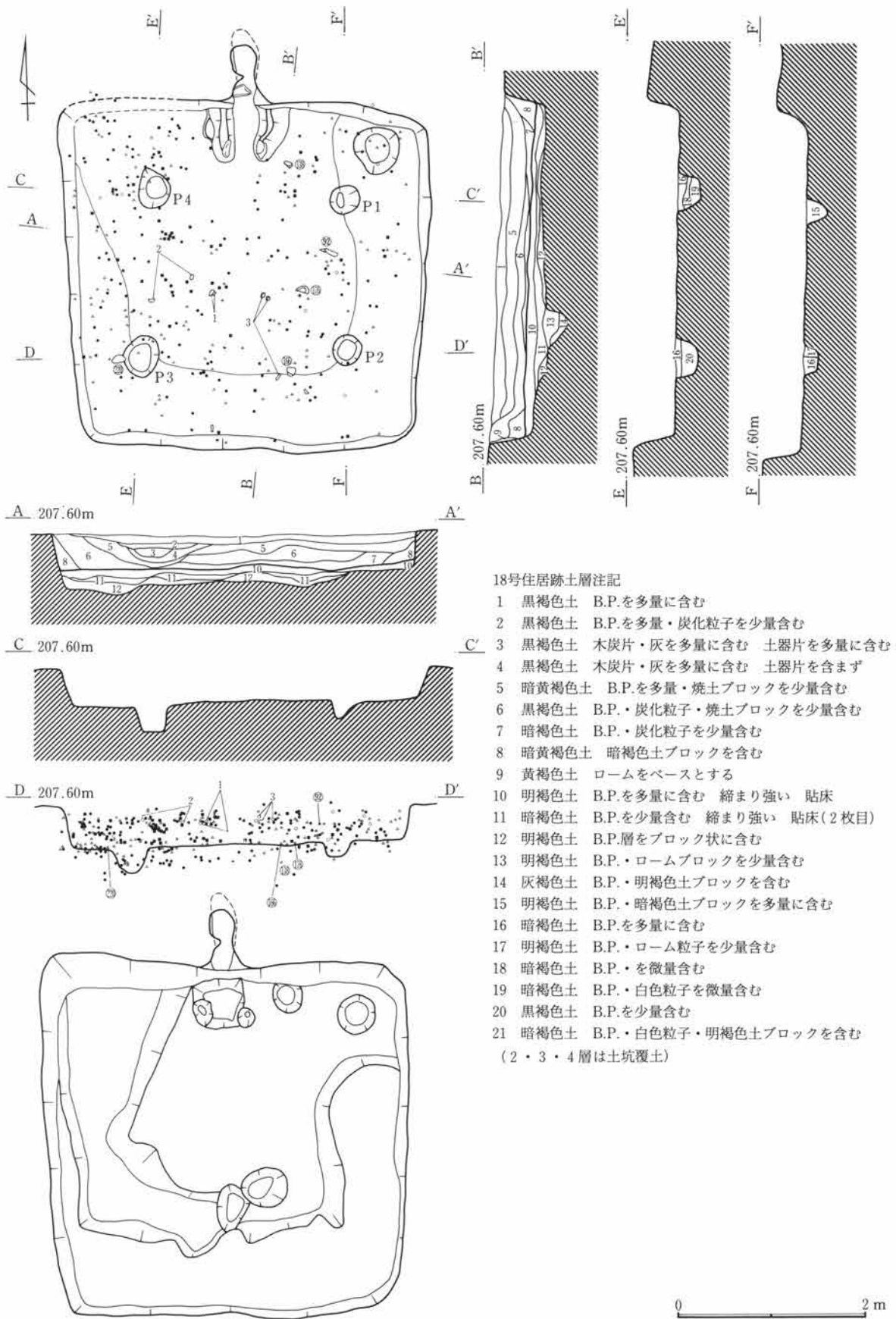
種別	土師器			計
	甕	坏	鉢	
点数	28	46	11	85
重量(g)	310	288	98	696

■ 土師器 甕 ▨ 土師器 坏

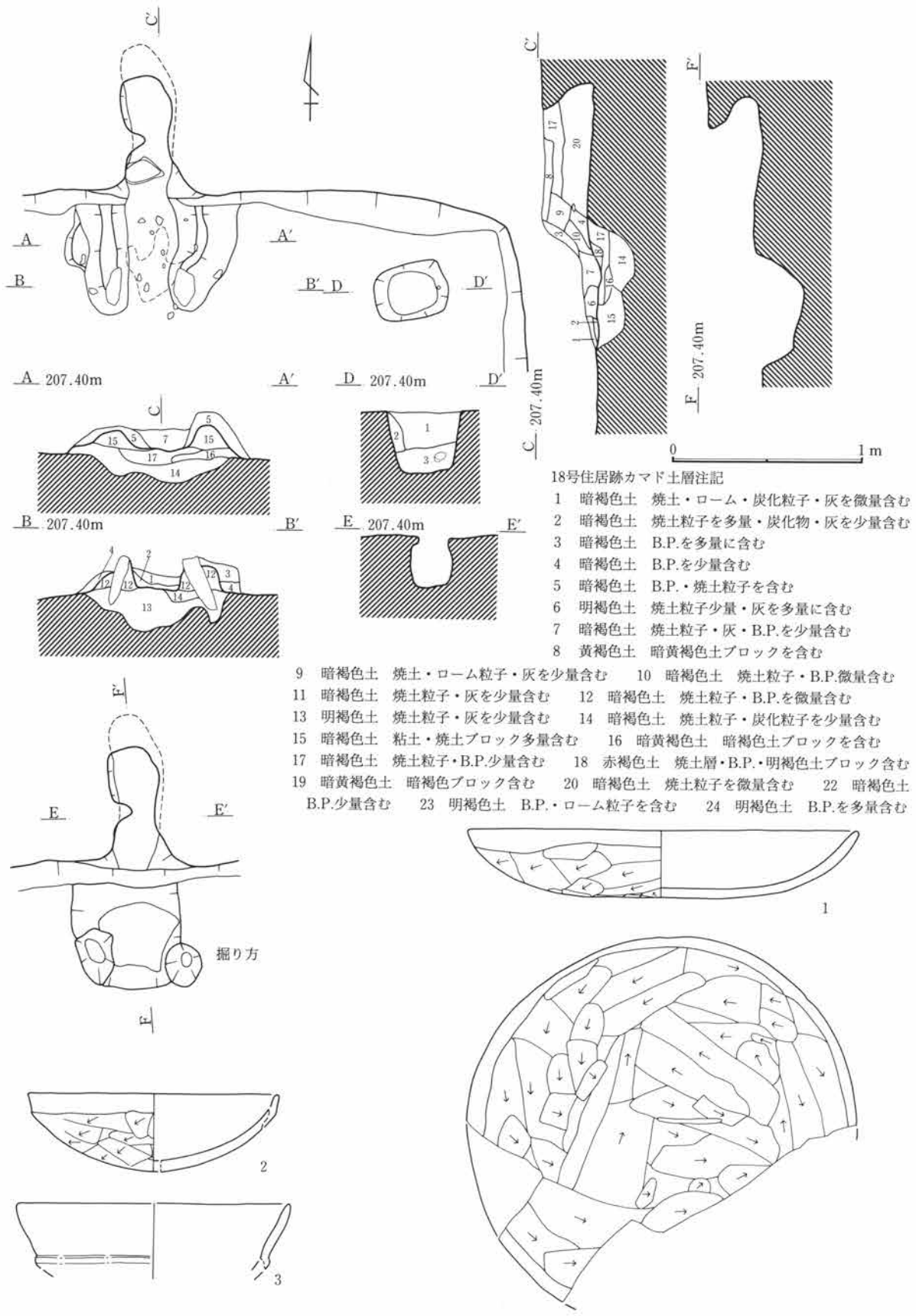
▨ 土師器 鉢



第328図 18号住居跡土器分類グラフ



第329図 18号住居跡



第330図 18号住居跡カマドおよび出土遺物

18号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	南西 24	①20.2cm ②9.0cm ③3.5cm ④口～底 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII B	
2	土師器 坏	南西 26	①(13.0cm)③4.0cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 大粒の砂粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
3	土師器 坏	南東 23	①(14.0cm)③[3.4cm] ④口縁部 $\frac{1}{2}$	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	口縁部横ナデ	VII A	

所見 拡張の痕跡がみられるが、拡張されたとすると拡張以前の規模が一辺3m以下と極端に小さくなって
しまうため、可能性は薄いと思われる。

19号住居跡

位置 C62～64-II43～45 Gr 重複 20号住より新 23号住と重複(新旧不明) 平面形態 隅丸長方形か
規模 東西3.3m 南北2.7mか 壁高 42cm 垂直に近い 面積 12.85㎡ 床面積 11.0㎡
主軸方位 N-6°-E 壁溝 なし 柱穴 なし

貯蔵穴 掘り方においてカマド横に確認された楕円形の掘り込みが、貯蔵穴の可能性がある。

床面 暗褐色土で15cm～20cmの貼床を施しているが、軟弱で踏み固められた面は確認できなかった。

掘り方 ほぼ平坦で、カマド右の掘り込みの他、浅い掘り込み、ピットが検出された。

遺物出土状況 ほぼ全面から出土しているが、特に中央部に甕の破片が集中している。こも編石は南西隅に
集中して検出された。

カマド

位置 北壁中央 主軸方位 N-10°-E 規模 全長1.44m 幅1.3m 煙道長1.00m 煙道幅0.34m
構築 残りが悪く、袖・火床面等は検出されなかった。煙道部は水平に延び、傾斜して立ち上がっている
が、上部は削平されて不明である。

遺物出土状況 土器片が少量周辺から出土している。

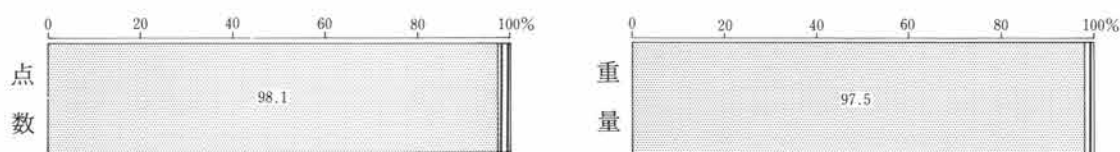
出土遺物 土師器甕154点、坏3点出土しているが小破片が多く図示できるものはない。こも編石は13点出土
しており1点はくぼみ石を転用している。他に弥生土器3点、縄文土器101点が出土している。

所見 黒色土中に掘り込まれていたため、北壁以外ははっきり検出できなかった。また床も軟弱でカマドも
ほとんど焼けていないため、短期間で廃棄された住居であろう。

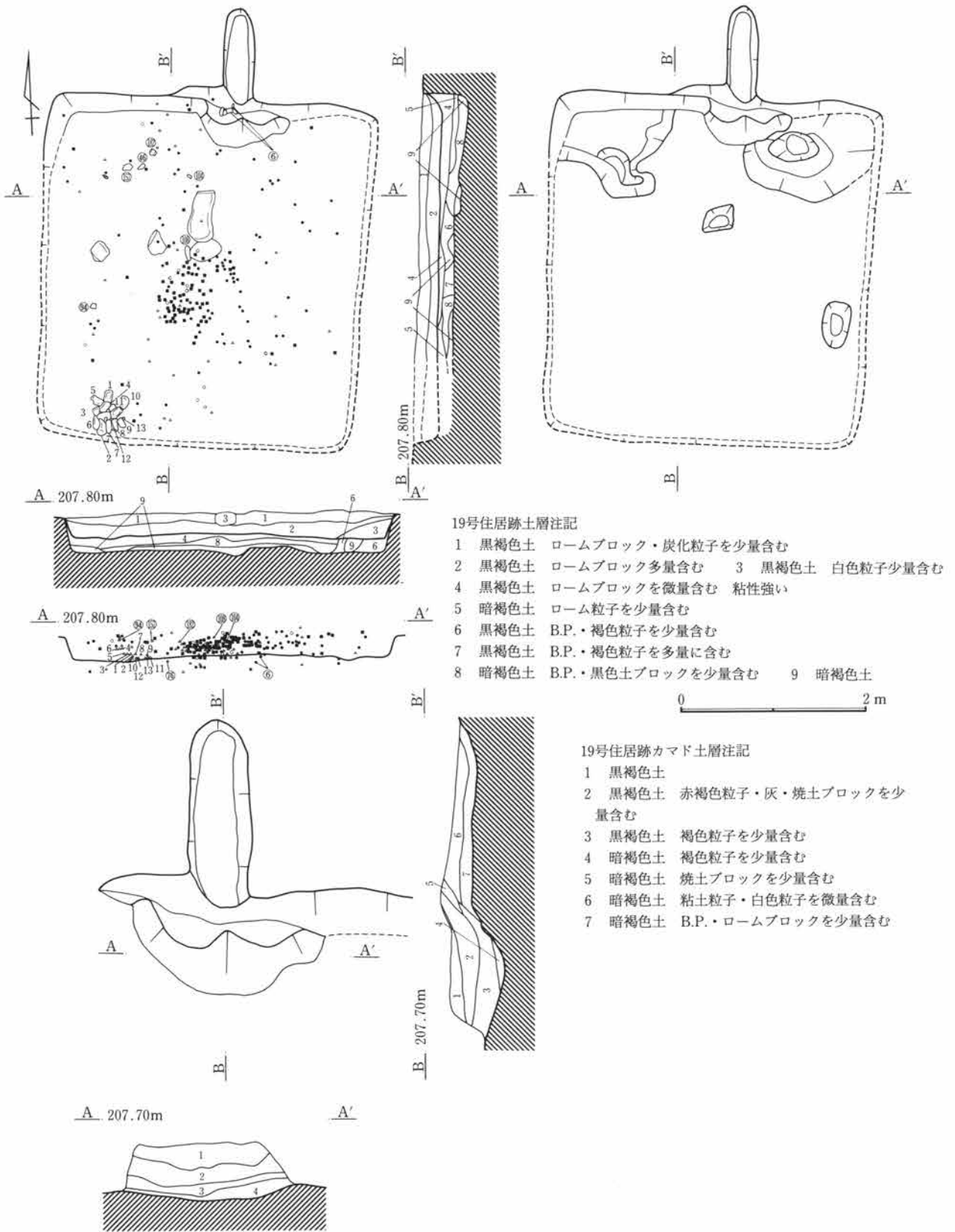
出土土器数量表

種別 器種	土 師 器		
	甕	坏	計
点 数	154	3	157
重量(g)	1,100	28	1,128

■ 土師器 甕 ▨ 土師器 坏

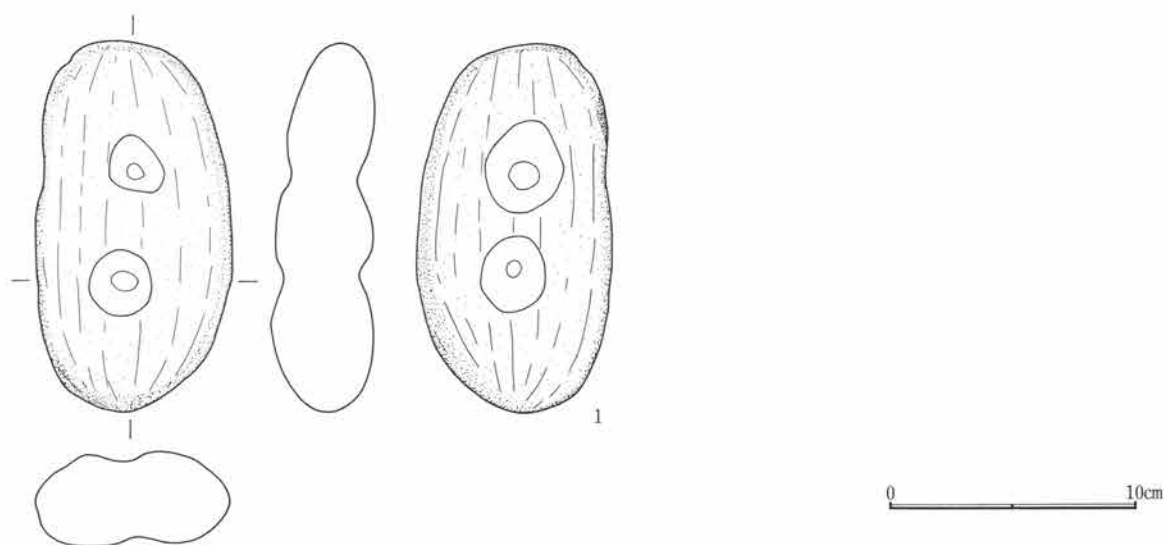


第331図 19号住居跡土器分類グラフ



第332図 19号住居跡・カマド

第III章 検出された遺構と出土遺物



第333図 19号住居跡出土遺物

19号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴	
1	こも編石	南西	5	14.7	8.0	4.1	715	完形	点紋緑泥片岩	くぼみ石の転用
2	こも編石	南西	8	13.8	7.5	6.2	810	完形	輝緑岩	
3	こも編石	南西	7	10.7	8.7	4.4	750	完形	角閃岩	側面に敲打痕あり
4	こも編石	南西	8	10.5	8.8	4.7	555	完形	絹雲母石墨片岩	
5	こも編石	南西	14	13.0	7.3	4.5	610	完形	絹雲母石墨片岩	
6	こも編石	南西	14	13.2	7.7	3.8	490	完形	安山岩	
7	こも編石	南西	8	13.6	7.5	5.0	820	完形	輝緑岩	
8	こも編石	南西	5	13.3	8.1	5.5	830	完形	輝緑岩	側面に敲打痕あり
9	こも編石	南西	3	12.1	6.6	4.9	565	完形	絹雲母石墨片岩	
10	こも編石	南西	1	12.4	9.0	4.9	650	完形	安山岩	
11	こも編石	南西	3	13.6	7.8	4.8	605	完形	安山岩	
12	こも編石	南西	3	13.7	7.6	5.4	785	完形	安山岩	
13	こも編石	南西	1	12.7	8.5	4.6	720	完形	輝緑岩	側面に敲打痕あり

23号住居跡

位置 C63~65-II42~44 Gr 重複 20号住より新 19号住と重複 平面形態 隅丸方形

規模 東西4.2m 南北4.2m 壁高 54cm やや傾斜している 面積 16.55m² 床面積 14.36m²

主軸方位 N-81°-E 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4本検出された。他の住居に比べ、4本とも浅い。

P1 径54cm深さ22cm P2 径36cm深さ22cm P3 径46cm深さ24cm P2 径40cm深さ12cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 90cm×72cm 深さ 22cm 形状 丸みを帯びた隅丸長方形

床面 ロームを含む暗褐色土で5~15cmの貼床を施し、ほぼ平坦な床面としている。

掘り方 南西部に225cm×120cmの土坑状の掘り込みがある他は平坦な掘り方である。

遺物出土状況 北西隅を除いてほぼ全面から出土しており、垂直分布も上層から床面まで平均している。

接合関係の判明するものは3個体あり、5の甕は床直の破片と覆土中の破片が接合している。

カマド

位置 東壁中央 主軸方位 N-87°-E 規模 全長[1.14m]幅0.8m 煙道長[0.4m]煙道幅0.48m

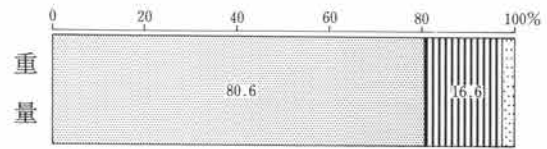
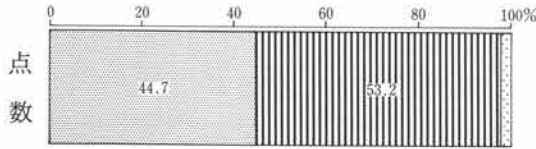
構築 88cm×80cmの楕円形の掘り込み上に、灰褐色粘土と暗褐色土で袖を構築しているが、袖石・天井石

出土土器数量表

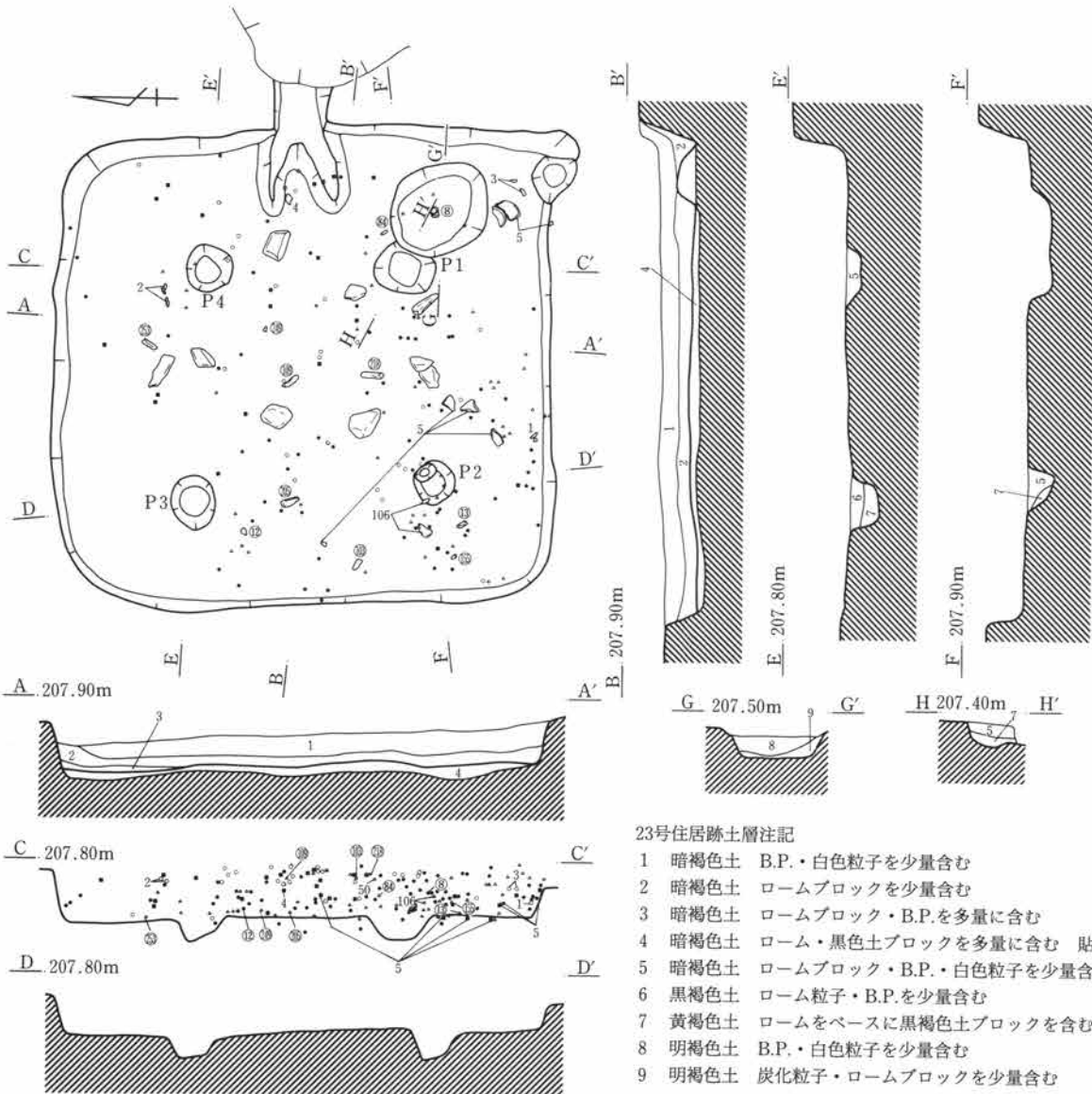
種別	土師器			
器種	甕	坏	甔	計
点数	21	25	1	47
重量(g)	1,183	244	40	1,467

■ 土師甕 ▨ 坏

▤ 弥生高坏



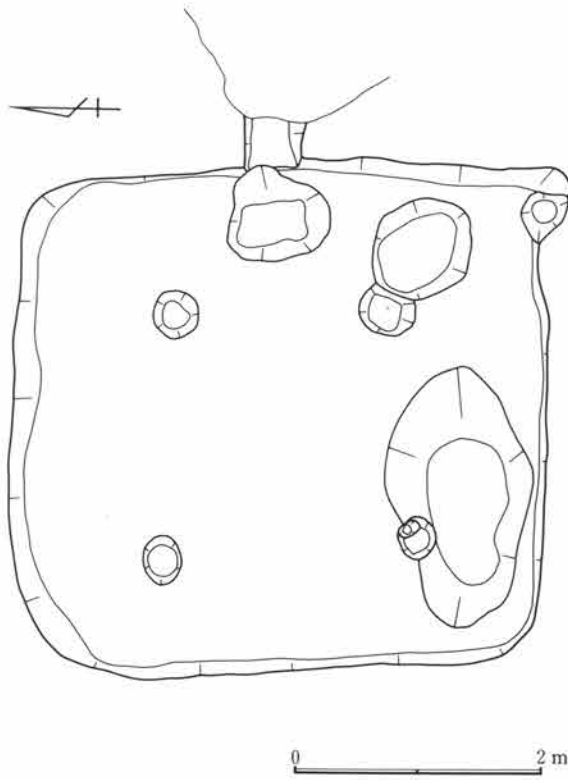
第334図 23号住居跡土器分類グラフ



23号住居跡土層注記

- 1 暗褐色土 B.P.・白色粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
- 3 暗褐色土 ロームブロック・B.P.を多量に含む
- 4 暗褐色土 ローム・黒色土ブロックを多量に含む 貼床
- 5 暗褐色土 ロームブロック・B.P.・白色粒子を少量含む
- 6 黒褐色土 ローム粒子・B.P.を少量含む
- 7 黄褐色土 ロームをベースに黒褐色土ブロックを含む
- 8 明褐色土 B.P.・白色粒子を少量含む
- 9 明褐色土 炭化粒子・ロームブロックを少量含む

第335図 23号住居跡



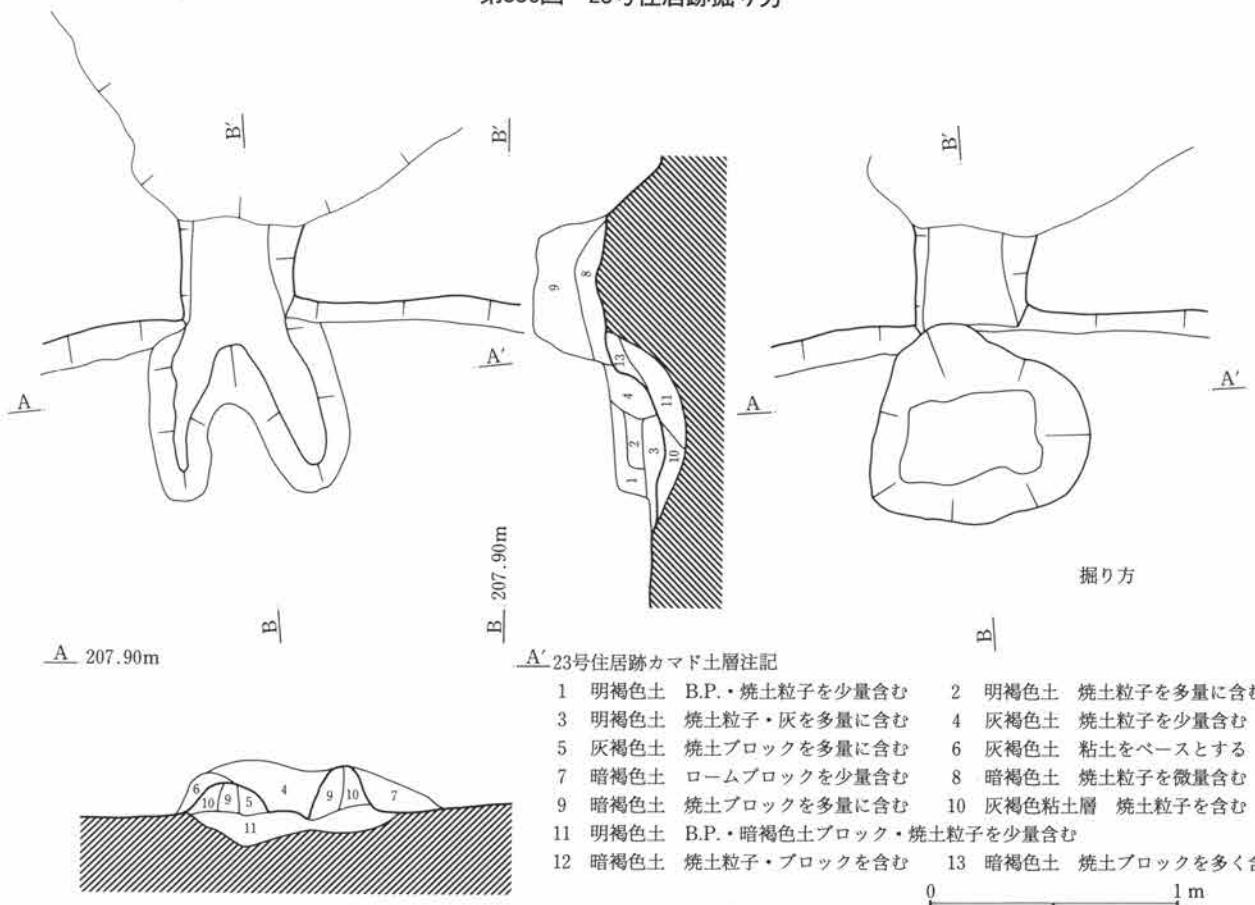
第336図 23号住居跡掘り方

等は不明である。火床面は床面とほぼ同レベルで、あまり焼けていない。煙道部は先端部を攪乱に壊されて不明であるが、ほぼ水平に延びていると考えられる。

遺物出土状況 カマド内から4の甑他土器片が数点出土している。

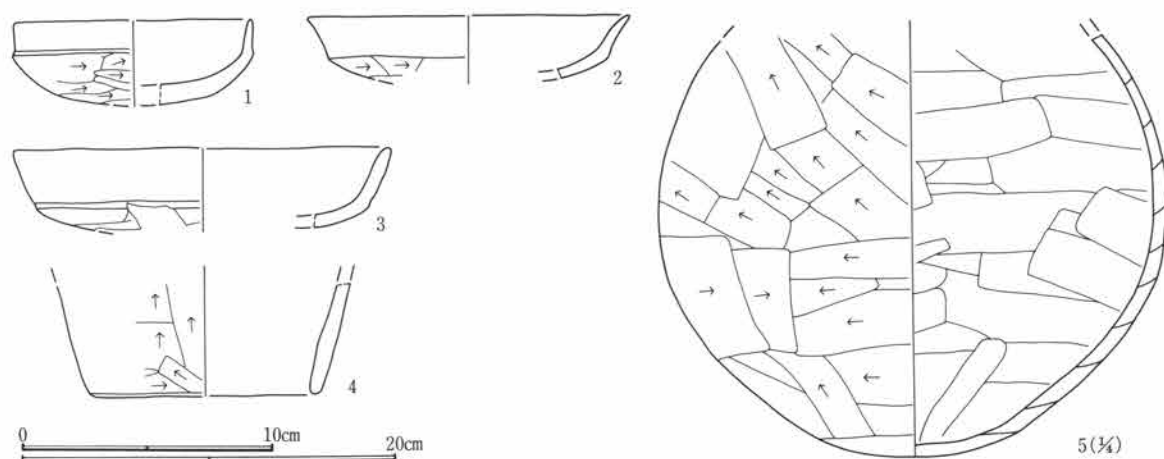
出土遺物 出土量は少なく、土師器甕21点、坏25点、甑1点が出土しており、他に縄文土器が94点出土している。

所見 19号住と重複するが新旧関係は不明である。竪穴住居の重複はこの2軒だけである。また、カマドが東壁にあるのが、17号住とこの住居の2軒だけである。



第337図 23号住居跡カマド

- A' 23号住居跡カマド土層注記
- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1 明褐色土 B.P.・焼土粒子を少量含む | 2 明褐色土 焼土粒子を多量に含む |
| 3 明褐色土 焼土粒子・灰を多量に含む | 4 灰褐色土 焼土粒子を少量含む |
| 5 灰褐色土 焼土ブロックを多量に含む | 6 灰褐色土 粘土をベースとする |
| 7 暗褐色土 ロームブロックを少量含む | 8 暗褐色土 焼土粒子を微量含む |
| 9 暗褐色土 焼土ブロックを多量に含む | 10 灰褐色粘土層 焼土粒子を含む |
| 11 明褐色土 B.P.・暗褐色土ブロック・焼土粒子を少量含む | |
| 12 暗褐色土 焼土粒子・ブロックを含む | 13 暗褐色土 焼土ブロックを多く含む |



第338図 23号住居跡出土遺物

23号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調	整	分類	備考
1	土師器 坏	南西 13	①(9.4cm) ③[3.3cm] ④口~底部 $\frac{1}{2}$	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデ	VII A			
2	土師器 坏	北東 33	①(13.0cm) ③[2.5cm] ④口~底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④細 砂粒・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデ	VII A			
3	土師器 坏	南東 22	①(15.2cm) ③[3.1cm] ④口~底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 砂粒・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデ 一部灰褐色に変色	VII A			
4	土師器 甕	カマド 21	①— ②[5.9cm] ③[5.9cm] ④底部片	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒・パミスを含む	外面篋削り 内面篋ナデ	V A			
5	土師器 胴張甕	南東 一2	①— ③[15.5cm] ④胴~底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④粗 大粒の砂粒を含む	外面篋削り 内面篋ナデ	III			

土坑・ピット

土坑は3基検出されており、いずれも竪穴住居に近接もしくは重複している位置にある。出土遺物は各土坑とも少なく、20土坑は2号住と接合した坏2点、207号土坑は甕2点(同一個体と考えられる)、233号土坑は高坏1点が出土しているだけである。

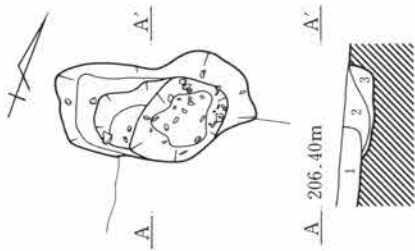
また、土師器甕の底部が出土したピットが1基検出された。

古墳時代土坑一覧表

No	位 置 (Gr)	重複関係	平面形態	断面 形態	規模(m)	深さ (cm)	面積 (m ²)	主軸方位	備考
20	C60~61-I97~98	2号住居より古	隅丸長方形	a	1.52×0.72	25	1.03	N-70°-E	2号住土器と接合関係あり
207	C64~65-II41~42	232土坑より新	隅丸方形	b	1.52×1.43	64	1.83	N-42°-E	
233	C63~64-II35~37	なし	隅丸方形	a	3.44×1.30	64	9.62	N-2°-W	磨製石鏃出土

第三章 検出された遺構と出土遺物

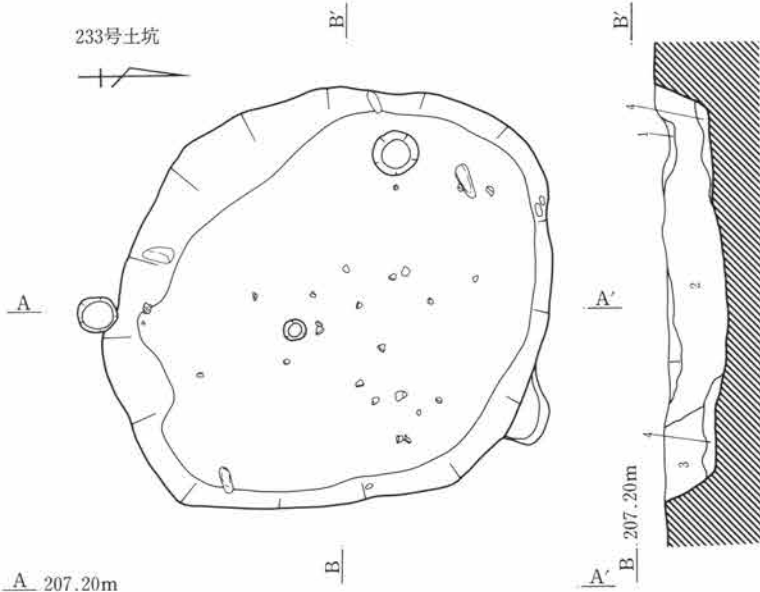
20号土坑



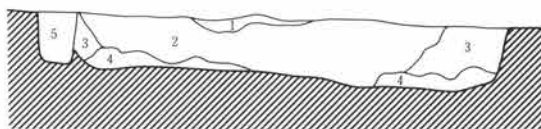
20号土坑土層注記

- 1 黒褐色土 白色粒子を少量含む
- 2 暗褐色土

233号土坑



A 207.20m



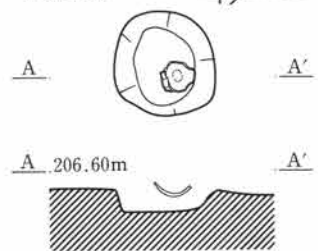
232号土坑



207号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 黒褐色土ブロックを含む
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む
- 3 暗褐色土 白色粒子多量含む 締まり強い
- 4 明褐色土 暗褐色土ブロックを含む
- 5 明褐色土 B.P.ブロック含む 6 耕作溝

1号ピット



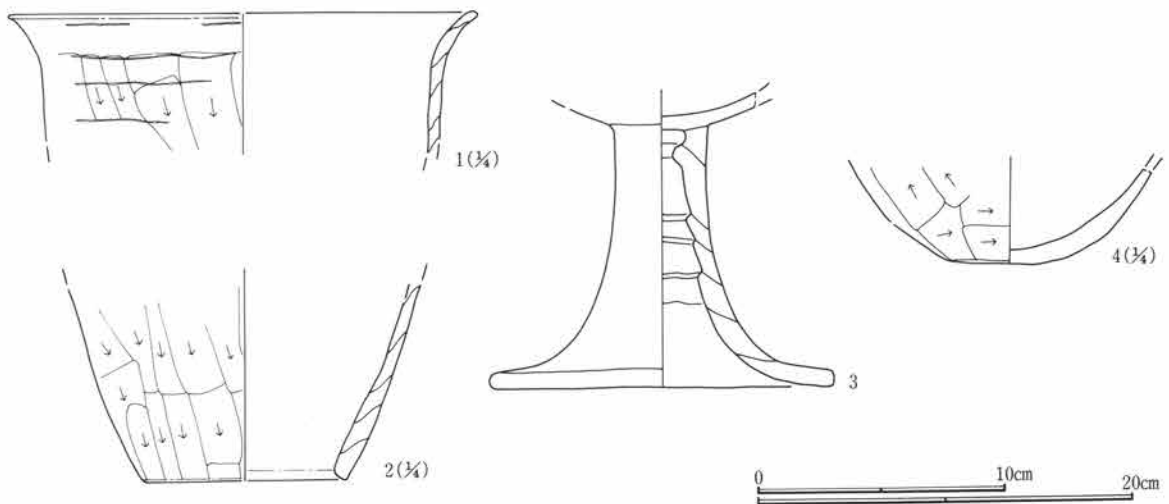
0 1 m

233号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む
- 2 暗褐色土 B.P.・炭化粒子を少量含む
- 3 暗褐色土 B.P.を少量含む
- 4 黄褐色土 B.P.をベースとする
- 5 黒褐色土 浅間B軽石を少量含む
土坑より新しいピット

0 2 m

第339図 20・207・233号土坑・1号ピット



第340図 20・207・233号土坑・1号ピット出土遺物

207・233土坑・1号ピット出土土器観察表

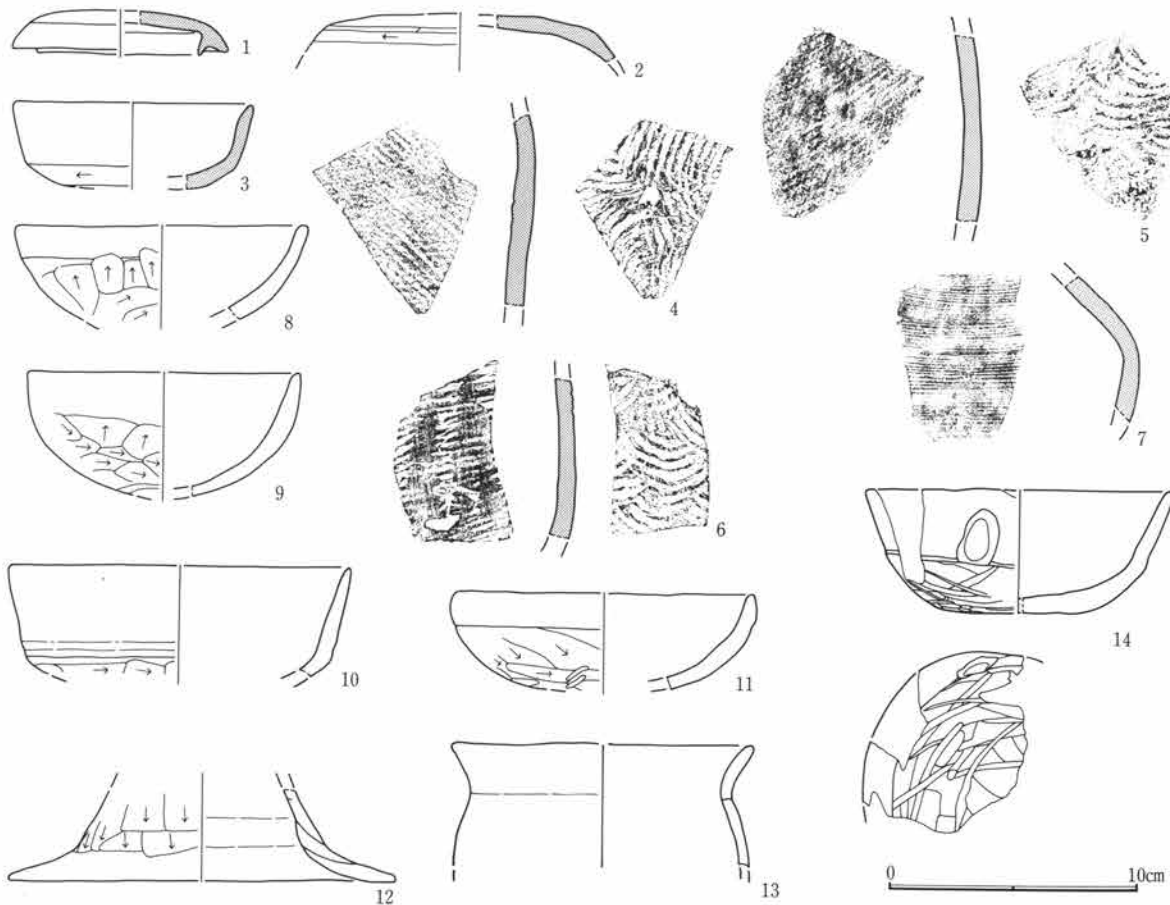
No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師器 甕	207 土坑	①25.2cm ③[6.9cm] ④口縁部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面篋ナデ・磨き 2と同一個体	V A	
2	土師器 甕	207 土坑	②10.8cm ③[10.0cm] ④底部 $\frac{1}{4}$		1と同一個体	V A	
3	土師器 高 坏	233 土坑	器厚5～9mm 坏部底部～脚 $\frac{1}{2}$	①橙 ②橙 ③不良 ④細 砂粒・パミスを含む	脚部上半は巻き上げ成形 他は輪積 みか 摩滅著しく調整痕不明	VIII	
4	土師器 長胴甕	1号 ピット	①4.5cm ③[5.0cm] ④底部	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 砂粒・礫を多く含む	胴～底部外面篋削り 内面篋ナデ	II	

遺構外出土遺物

遺構外および中世以降の遺構覆土から古墳時代の遺物が出土している。土器は総計1583点で、器種別に見ると土師器甕が圧倒的に多く、続いて土師器坏、須恵器甕の順になっている。他に、土師器甕・鉢・埴、須恵器坏・瓶等が出土している。石製品は、滑石製模造品の刀子、滑石製の環状石製品が各1点出土している。

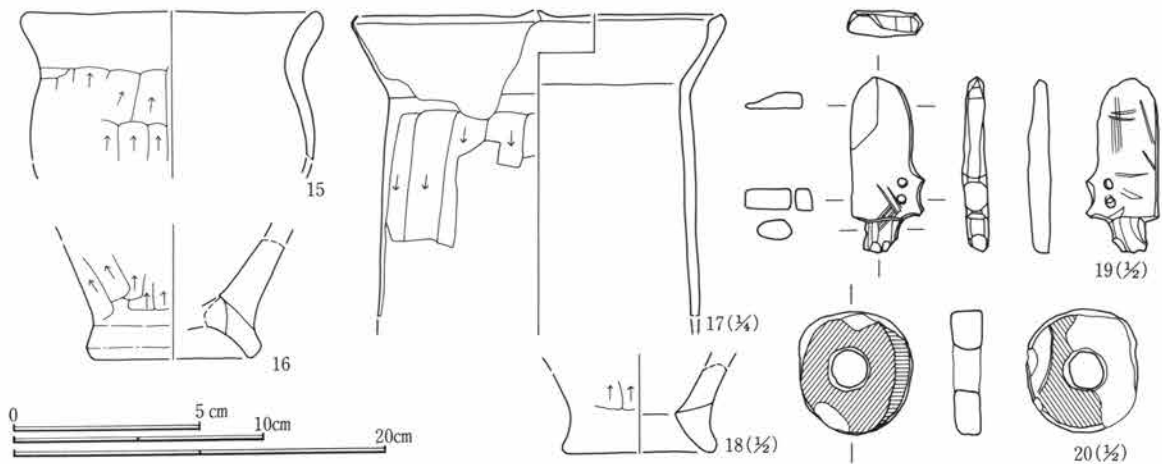
遺構外出土遺物数量表

種別 器種	須 恵 器					土 師 器						総計
	坏・蓋	甕	瓶	不明	計	甕	甕	鉢	坏	埴	計	
遺構外	5	37	4	9	55	590	1	0	94	1	686	741
他遺構混入	4	10	1	0	15	526	2	11	287	1	827	842
計	9	47	5	9	70	1,116	3	11	381	2	1,513	1,583



第341図 遺構外出土遺物 (1)

第III章 検出された遺構と出土遺物



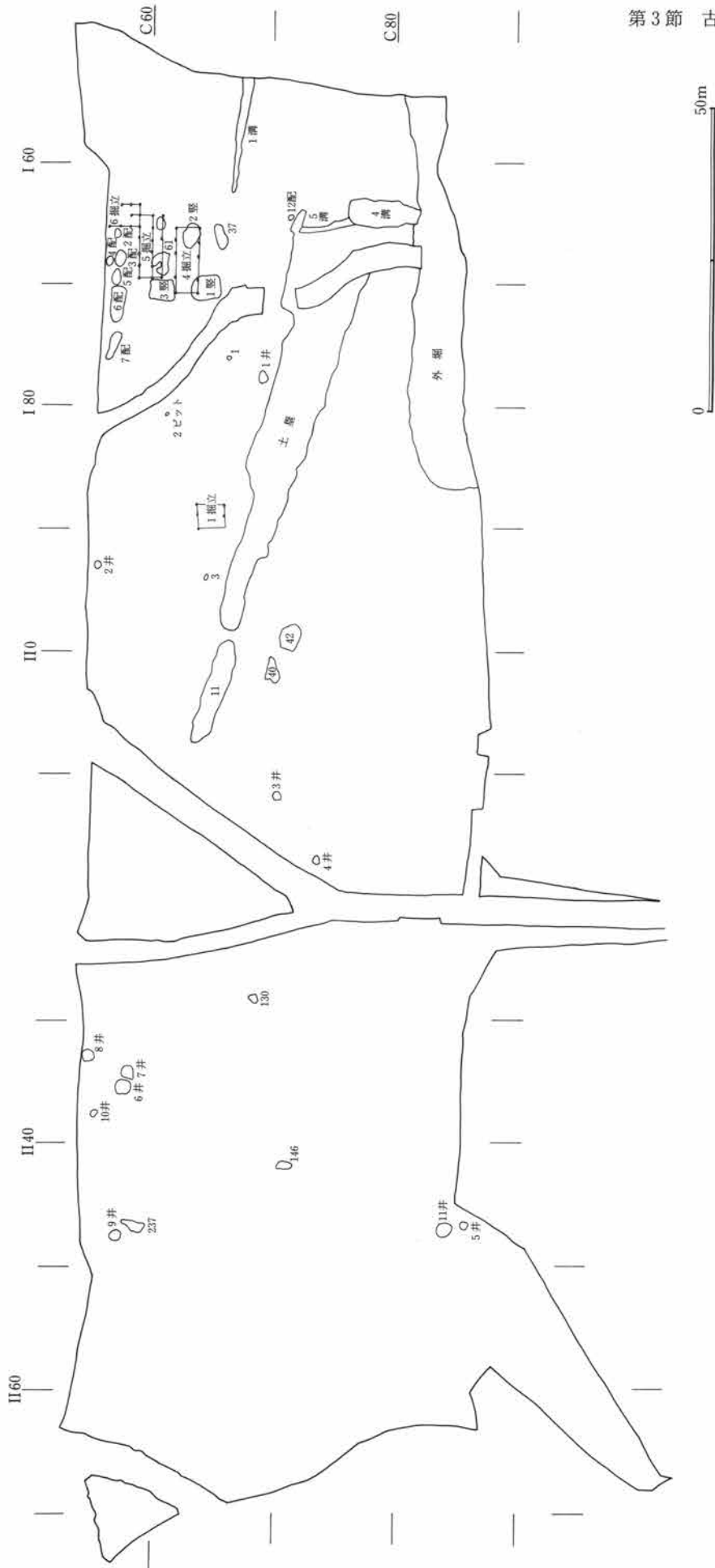
第342図 遺構外出土遺物（2）

遺構外出土土器観察表

No.	種別 器種	出土位置	法量 ①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	須恵器 蓋	C71 I88	①8.6cm ③[1.8cm] ④口～天井部 $\frac{1}{2}$	①灰白 ②黄灰 ③良好 還元焰 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整 天井部外面ナデか 口縁部内面にかえりあり	II A	
2	須恵器 蓋	耕作 溝	①— ③[1.7cm] ④天井部 $\frac{1}{4}$	①灰白 ②灰白 ③不良 還元焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 天井部内外面ナデか 肩部外面回転篋削り	II	
3	須恵器 坏	C70 I90	①(9.4cm) ②[5.2cm] ③[3.3cm] ④口～底 $\frac{1}{2}$	①灰 ②灰 ③良好 還元焰 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整 底部外面2段の回転篋 削り	I B	
4	須恵器 甕	C70 I91	器厚6～9mm ④胴部片	①灰 ②灰 ③良好 還元焰 ④細 砂粒・白色粒子を微量に含む	外面平行叩き 内面青海波文当て具 痕	III A	
5	須恵器 甕	C57 I72	器厚7～8mm ④胴部片	①黄灰 ②黄灰 ③良好 還元焰 ④細 砂粒・白色粒子を微量に含む	外面平行叩き 内面青海波文当て具 痕	III A	
6	須恵器 甕	C71 I90	器厚5～7mm ④胴部片	①浅黄 ②浅黄 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・白色粒子を微量に含む	外面平行叩き 内面青海波文当て具 痕	III A	
7	須恵器 瓶	C55 I73	器厚6～7mm ④胴部片	①黄灰 ②黄灰 ③良好 還元焰 ④細 砂粒を極微量含む	ロクロ調整 外面回転刷毛調整	IV	
8	土師器 坏	C58 I69	①(11.6cm)③[3.6cm] ④口～体部 $\frac{1}{2}$	①明赤褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り 内面ナデ	VII B	
9	土師器 坏	3号 配石	①(11.0cm)③[4.8cm] ④口～底部片	①にぶい黄橙 ②褐 ③良好 ④細 砂粒・長石粒を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	VII B	
10	土師器 坏	C78 II13	①(13.6cm)③[3.2cm] ④口～体部片	①にぶい褐 ②灰褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り 内面ナデ	VII A	
11	土師器 坏	73 土坑	①(11.8cm)③[3.9cm] ④口～～底部片	①にぶい黄橙 ②黒 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り 内面ナデ 内面黒色処理か	VII C	
12	土師器 高坏	6号 井戸	①— ②15.4cm ③[3.6cm] ④脚部	①褐 ②明褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	脚部外面篋削り 内面ナデ 脚端部横ナデ	VIII	
13	土師器 甕	C70 II0	①(12.0cm)③[4.8cm] ④口縁部片	①にぶい赤褐 ②黒褐 ③不良 ④普通 砂粒を多く含む	外面摩滅により調整不明 内面ナデ	II A	
14	土師器 坏	C70 I90	①(12.2cm)③4.9cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい褐 ②灰褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	口縁部横ナデ・外面に押さえ痕体 ～底部外面篋磨き 内面ナデ	VII D	
15	土師器 小型甕	C72 I74	①(11.9cm)③[5.9cm] ④口～胴部片	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面ナデ	IV A	
16	土師器 不明	C60 I72	①(7.0cm) ③[4.7cm] ④底部片	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を少量含む	胴部外面篋削り 内面ナデ 高台あり		
17	土師器 (?) 甕	C60 II10	①(19.4cm)③[16.0cm] ④口～胴部 $\frac{1}{2}$	①褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒を含む	口～胴部外面篋削りか 内面ナデ 口縁部に突起あり		
18	土師器 不明	C59 I66	①(3.2cm) ③[3.2cm] ④底部片	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	体部外面篋削り端部横ナデ 内面ナデ		

遺構外出土石製品観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
19	石製模造品	C71-I74	4.6	1.9	0.6	8.2	完形	滑石片岩	刀子の模造品 2個の穿孔あり
20	石製品	C58-I58	3.3	3.0	1.8	15	一部欠損	滑石片岩	中央に径1cmの孔あり



第343図 中世遺構位置図

第4節 中 世

(1) 遺構・遺物の概要

遺構

中世城郭内匠城外堀、土塁の他、整地面上に作られた掘立柱建物、竪穴遺構、配石遺構や、他に溝、掘立柱建物、井戸、土坑、ピットが検出されている。

内匠城外堀・土塁 内匠城は北側から西側にかけて3重の堀に囲まれているが、その最も外側の堀の北側の北半分が、調査区の南東部にかかっており、その北には小規模な堀状の遺構（4・5号溝）が接している。さらにそこから西北西に向かって延びる土塁状の遺構と、その先に続く長い楕円形の掘り込み（11号土坑）が検出されている。

整地面 調査区北側に、縄文の谷津状遺構上の地面をやや掘り込んで整地した面が検出され、さらに北に続いている。その面から、掘立柱建物、竪穴遺構、配石遺構が検出されている。

①掘立柱建物 1間×4間1棟（4号）、2間×5間1棟（5号）、さらに5号の北に接して2間×2間以上？（6号）の3棟が検出されているが、5号と6号は主軸、柱筋が揃っているため同一遺構である可能性がある。

②竪穴遺構 4基（61土坑も形態等から竪穴遺構と考えられる）検出されており、平面形態・規模等まちまちであるが、いずれも底面が踏み固められており、住居の床面状を呈す。

③配石遺構 整地面上に10基検出された。形態は様々で、周囲を石で囲うもの（3・4・5号）、土坑上に石を組むもの（11号）、線状または面状に配石するもの（2・6～10号）がある。

溝 調査区東端中央部に東西に走る溝が検出され、さらに東へ続いている。外堀の北側に位置し、城郭との関係が考えられる。

掘立柱建物 整地面以外に3棟（1～3号）検出されており、2・3号は重複している。いずれも1間×2間もしくは2間×2間の小規模なものである。

井戸 11基検出されている。調査区全体に散在しているが、北西部に5基集中している。規模は長径1.16～2.84m平均1.99m、短径1.00～2.06m平均1.70m、深さ1.46～4.84m平均2.89m、面積0.90～4.73m²平均2.78m²である。

土坑 中世の土坑は5基検出されている。形態・規模は様々であるが、3基から人骨が出土しているため、墓塚と考えられる。

ピット 土師質土器を埋納したピットが1基検出されている。

遺物

土器 中世の土器としては、土師質土器、軟質陶器、陶器、磁器が出土している。

土師質土器 香炉の破片が1点あるが、他は皿である。すべてロクロ調整で、底部回転糸切り無調整である。底部内面ナデおよび底部外面に板状圧痕のあるものがある。法量により、4種類に分類でき、さらに形態により各類が細分できる。

A類 口径8cm未満の小型品

A1類 口縁部が外反するもの A2類 体部が内湾して立ち上がるもの

B類 口径8～11cmの中型品

B1類 体部中位が外湾し口縁部がやや内湾するもの B2類 体部が直線的に立ち上がるもの
C類 口径11~13cmの大型品

C1類 体部中位が外湾し口縁部がやや内湾するもの C2類 体部が直線的に立ち上がるもの
D類 口径13cm以上の超大型品

D1類 体部中位が外湾し口縁部がやや内湾するもの D1類 体部が直線的に立ち上がるもの

軟質陶器 内耳鍋、火鉢、すり鉢、こね鉢が出土しているが、大部分は内耳鍋であり、他は少ない。内耳鍋はロクロ調整で、口縁部内面に一對の耳が貼り付けられている。形態から以下のように分類できる。

I 内耳鍋 A類 口縁部がくの字状に外反するもの B類 口縁部が直線的に立ち上がるもの
C類 盤形を呈するもの

II 火鉢 印花文を施す III すり鉢 IV こね鉢

陶器 碗、皿、甕、搦鉢、蓋等が出土している。

磁器 青磁の破片が4点出土している。

出土土器数量表

種 別	土師質土器		軟 質 陶 器					陶 器					磁器	計
	皿	香炉	内耳鍋	火鉢	搦鉢	こね鉢	不明	碗・皿	甕	搦鉢	蓋	不明	青磁	
遺構内	408	0	643	12	18	0	5	151	5	1	1	3	2	1,249
遺構外	336	1	709	0	22	1	7	350	23	1	0	0	2	1,452
計	744	1	1,352	12	40	1	12	501	28	2	1	3	4	2,701

石製品 石臼、砥石、板碑等が出土している。

石臼 粉挽き臼の上臼・下臼、茶臼の下臼が出土しており、以下のように分類できる。

I 粉挽き臼上臼 A すり合わせ面に溝(目)のあるもの B 溝(目)の確認されないもの

II 粉挽き臼下臼 A 溝(目)のあるもの B 溝(目)の確認されないもの

III 茶臼下臼 A 溝(目)のあるもの

粉挽き臼は小破片が多く、すり合わせ面の分画数・分画内の溝(目)が推定できるものはほとんどない。目の確認されないものは、当初から目のない「目なし臼」か、摩滅により目が消えたものかははっきりしない。粒子の粗い石材を使用しており、目なしでも使用できた可能性はある。石材は砂岩が4点、安山岩が3点となっている。

茶臼は下臼のみ2点出土しており、いずれも半完形で粉挽き臼よりも残りが良い。粉挽き臼に比べ丁寧な加工が施されており、すり合わせ面は摩滅が著しい。石材はいずれも砂岩を使用している。

砥石 形態・大きさは様々である。石材は流紋岩7点、砂岩4点、珪藻土1点であり、粒子の細かい流紋岩と粒子の粗い砂岩の両者を使用しており、使用段階に差のあったことが想定できる。

板碑 6点出土しているが、1点は小破片のため板碑と断定できない。小破片を除いた5点に種子があり、阿弥陀三尊、阿弥陀一尊および両者の一部がある。石材は、点紋系の結晶片岩が5点で、小破片のみ結晶片岩となっている。

出土石製品数量表

器 種	粉挽き臼		茶臼	砥石	板碑	不明	計
	上臼	下臼	下臼				
遺構内	3	2	2	6	6	4	23
遺構外	2	0	0	6	0	0	8
計	5	2	2	12	6	4	31

第三章 検出された遺構と出土遺物

鉄製品 欠損品が多く、器種の不明なものが多い。不確定のものも含めて、刀子が9点、角釘が13点、環状の鉄製品が2点、手鎌状の鉄製品が2点、器種不明のものが8点、他に鉄滓等が出土している。

鉄以外の金属製品 銅製の角釘が1点、鉛製の鉄砲玉が2点出土している。

銅銭 北宋銭が8点、明銭が2点、不明が2点出土している。北宋銭は宋通元寶1点、皇宋通寶1点、治平元寶1点、元豊通寶3点、元符通寶1点、熙寧元寶1点、明銭は洪武通寶2点である。

木製品 漆器の椀が1点出土している。

(2) 内匠城

内匠城は「離れ山」丘陵の南東部に位置する崖端城で、南東隅に主郭を持つため南側と東側が急崖になり、曲輪は北西方向に広がっている。所謂囲郭式を4分の1にした形態を呈しており、北から西側にかけて3重の堀が巡っている。最も外側の堀には2カ所の折れがあり、西側の折れで中央の堀とつながっている。調査範囲は東側の折れの東側、北面の堀の北半分より北側になる。堀以外の城郭関係の遺構としては、堀に接して検出された小規模な堀状遺構（4・5号溝）、堀の北側に西北西に延びる土塁状遺構とその先に続く長い楕円形の掘り込み（11号土坑）などがある。

外堀

位置 C81～86—I49～86 Gr **重複** なし **規模** 長さ64.5m 幅6.40m（調査範囲）

堀幅（調査区外も含む）18.8m **深さ** 最深部8.6m 底面7.4m

掘り方 南半分は調査区外のため不明であるが、底面の北側は検出できた。底面はほぼ平坦であるが、部分的に長さ7.4m深さ1m以上の掘り込みがある。断面形はなだらかな薬研掘りであるが、掘り込みの部分は垂直に近い角度で落ち込んでいる。西壁から24mで上端から約2.4mの位置に、長さ9.6m幅0.48m深さ0.4mの溝が検出された。性格は不明であるが、虎口に関する施設の遺構であるとも考えられる。

遺物出土状況 遺物は東側から多く出土している。垂直分布を見ると、西壁際は中層付近に集中していて下層からは出土していないが、東側ほど下層の出土が多くなり、逆に中層はなくなっている。接合関係の判明するものは少なく、1の内耳鍋と7の陶器だけであり、いずれも近接した破片が接合している。

出土遺物 土器は、土師質土器皿が12点、軟質陶器内耳鍋が123点出土しており、軟質陶器に比べ土師質土器の割合が非常に小さい。陶器は碗・皿が52点と比較的多く、他にすり鉢、甕、蓋が出土している。

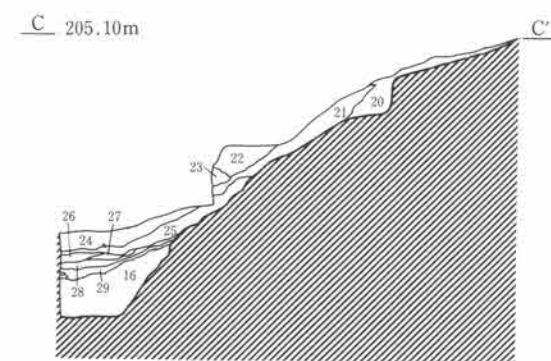
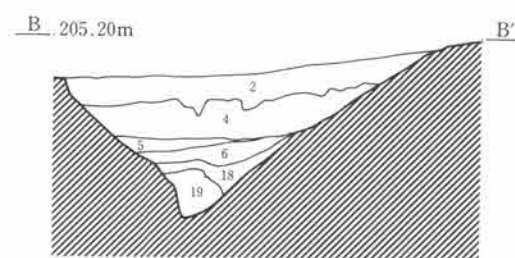
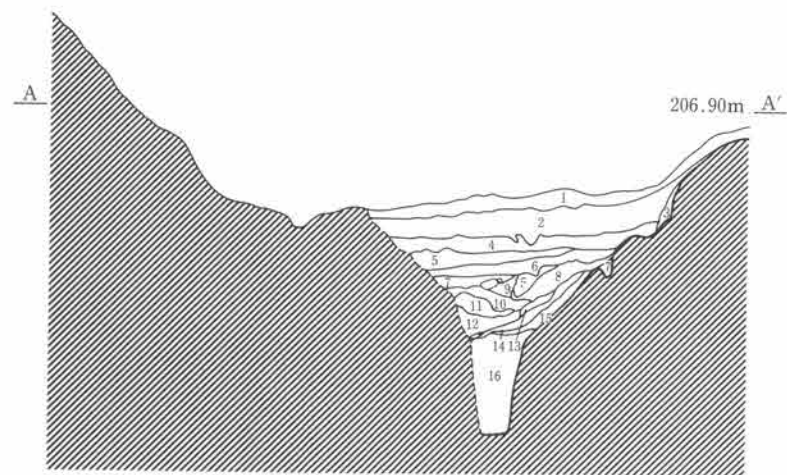
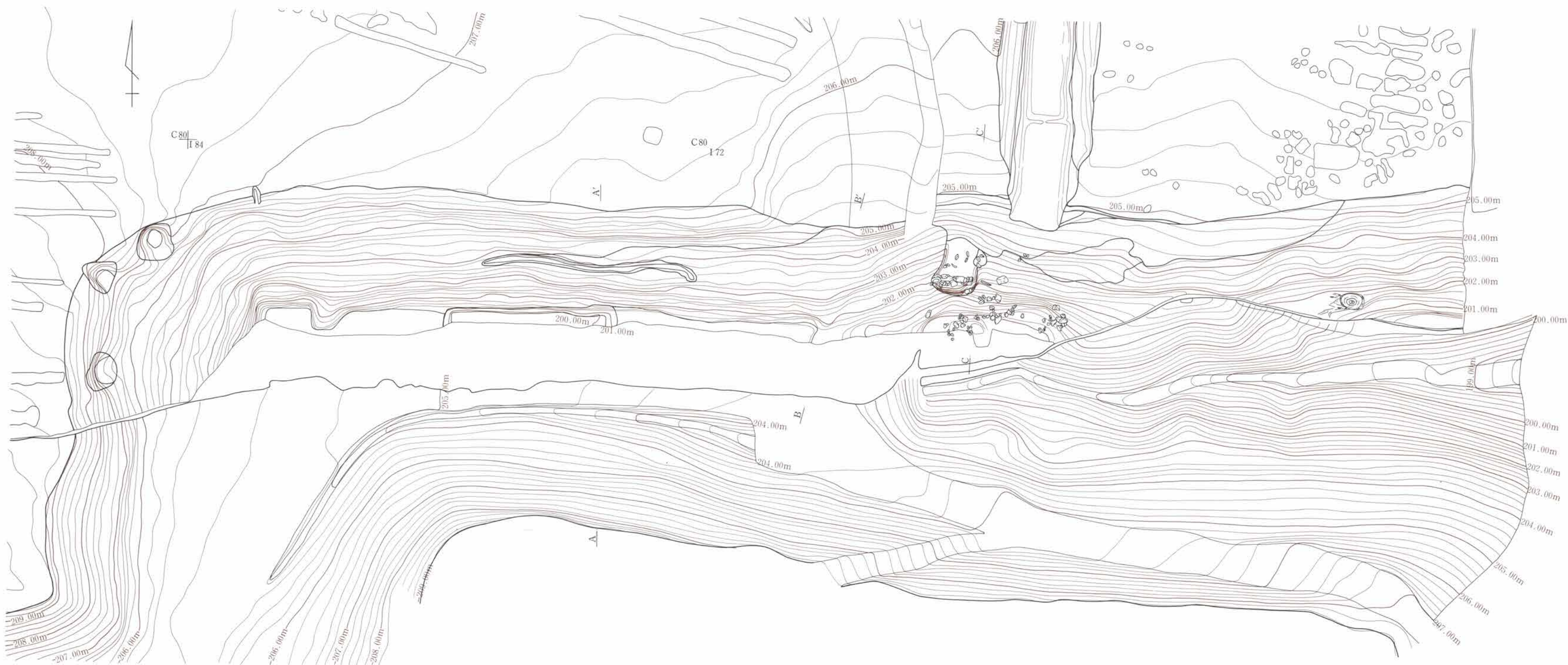
出土土器数量表

種別	土師質土器		軟質陶器				陶器			計
	皿	内耳鍋	火鉢	播鉢	碗・皿	甕	播鉢	蓋		
点数	12	123	0	0	52	1	1	1	190	
重量(g)	44	4,380	0	0	1,357	410	96	10	6,297	

石製品は、石臼（粉引き臼）の上臼1点、下臼1点、板碑3点（1点是小破片で板碑と断定できない）、不明石製品1点が出土している。

鉄製品は、角釘が2点と不明鉄製品が3点出土しており、他に鉛製の鉄砲玉が出土している。

木製品は、漆器の椀が1点出土している。

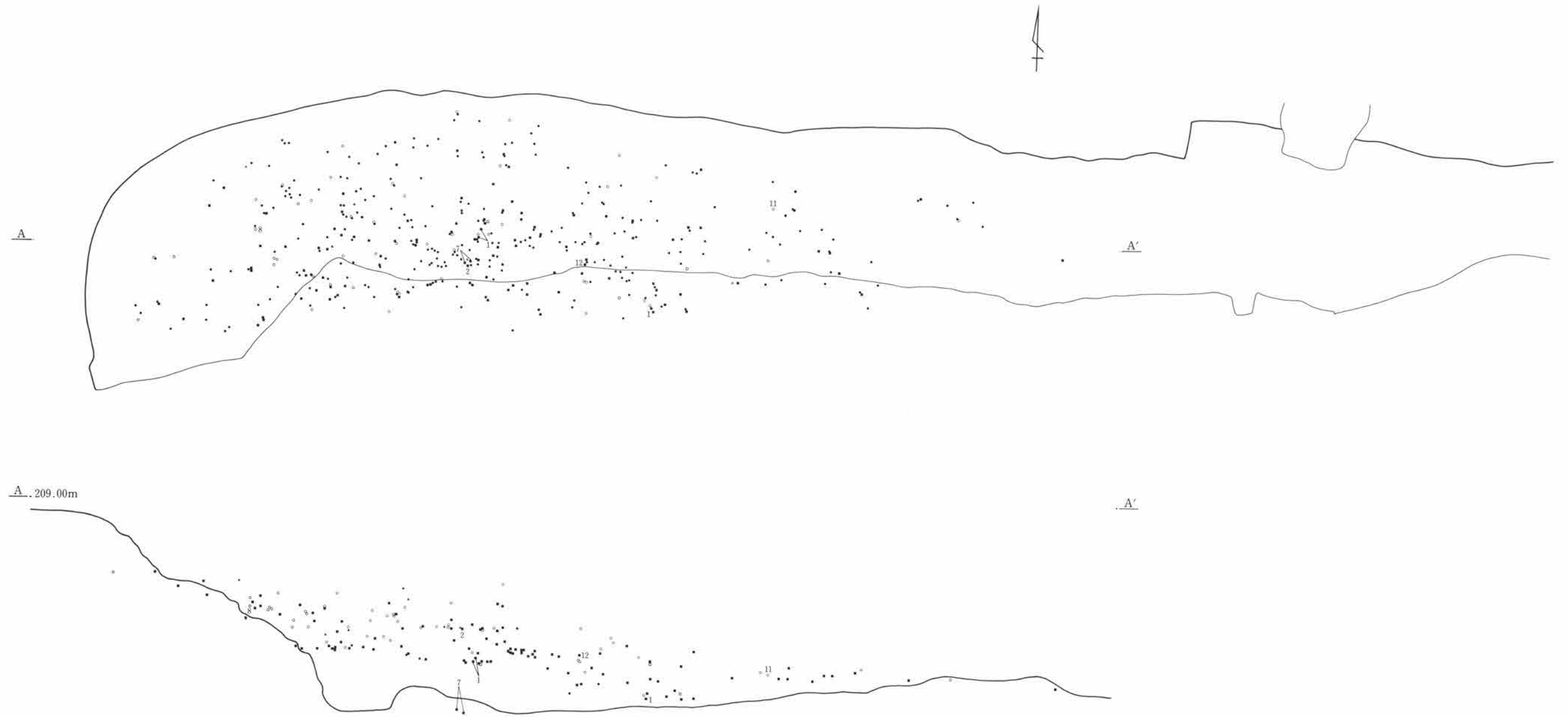


内匠城外堀土層注記

- 1 耕作土 2 浅間A軽石を含む 締まり弱い 3 黄褐色土 ロームをベースとする
- 4 褐色土 白色・褐色粒子を含む 5 黄褐色土 ロームをベースに黒褐色土・灰褐色土ブロックを含む
- 6 黒褐色土 黄色・白色粒子・ロームブロックを含む 7 灰褐色土 黄色粒子・鉄分を含む
- 8 灰褐色土 黄色粒子を含む 9 黒褐色土 黄色粒子・ロームブロックを含む 10 黒褐色土 黄色粒子を含む
- 11 黄褐色土 黒褐色土・灰褐色土ブロックを含む 12 黒褐色土 ローム・灰褐色土ブロックを含む
- 13 黒褐色土 黄色粒子を含む 14 黄褐色土 黒褐色土ブロックを含む 15 黒褐色土 ロームブロックを含む
- 16 灰褐色土 ロームブロック・黄色粒子・鉄分を含む 17 黒褐色土 黄色粒子・白色粒子を含む
- 18 暗褐色土 黄褐色土・黒褐色土 層状に含む 19 暗青灰色土 ロームブロック・鉄分を含む
- 20 黒褐色土 ロームブロック・層状のロームを多く含む 21 暗褐色土 ロームブロック・円礫を含む
- 22 黒褐色土 ロームブロック・白色粒子を含む 23 黄褐色土 暗褐色土ブロックを少量含む
- 24 灰褐色土 鉄分を含む砂層と円礫層を含む 25 暗褐色土 砂層 褐色土ブロックを含む
- 26 黒褐色土 砂層 黄褐色土ブロックを含む 27 暗褐色土 締まり強い 28 黄褐色土 黒褐色土ブロックを含む
- 29 灰褐色土 ロームブロック・小円礫を含む

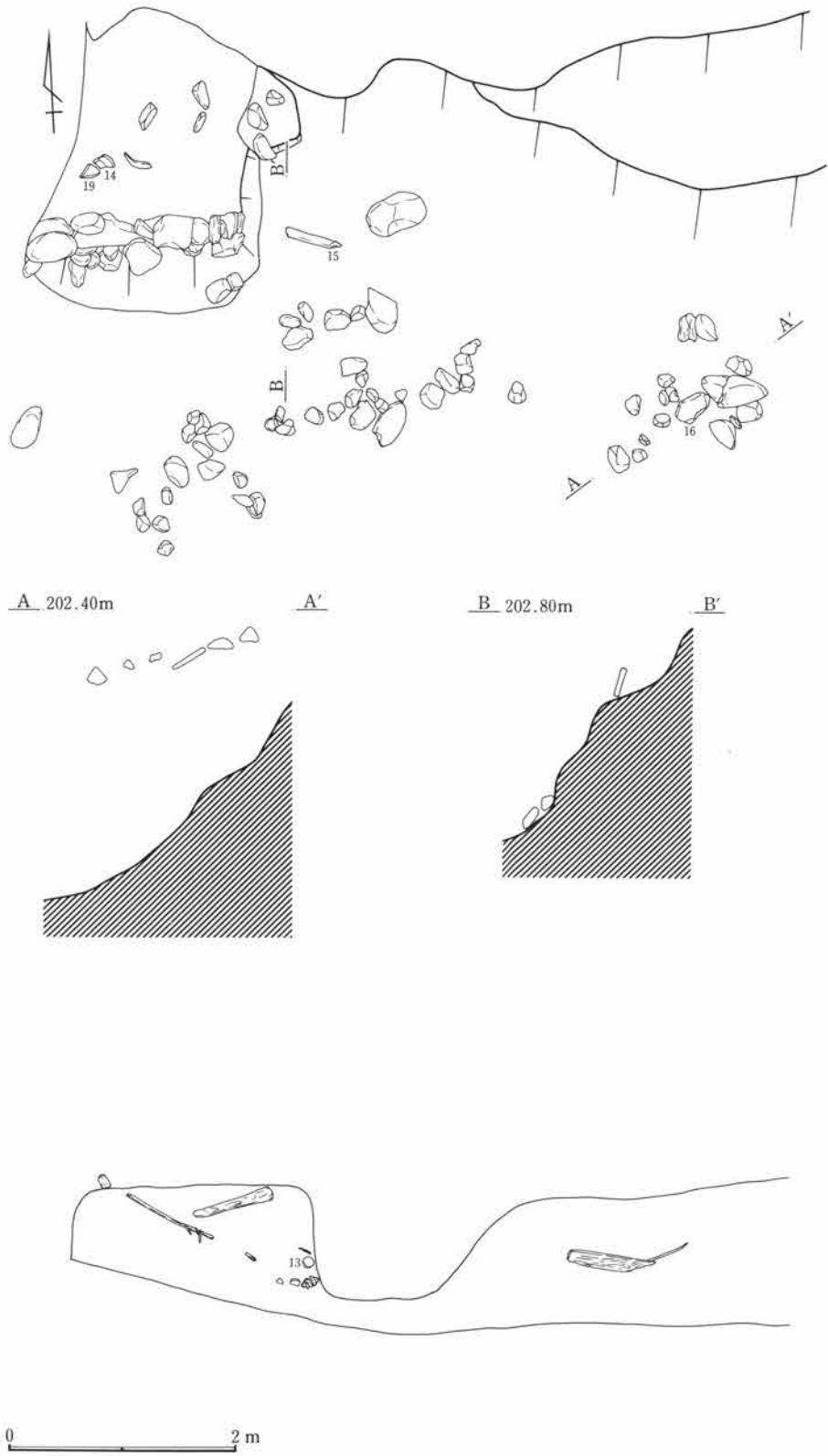


第344図 内匠城外堀

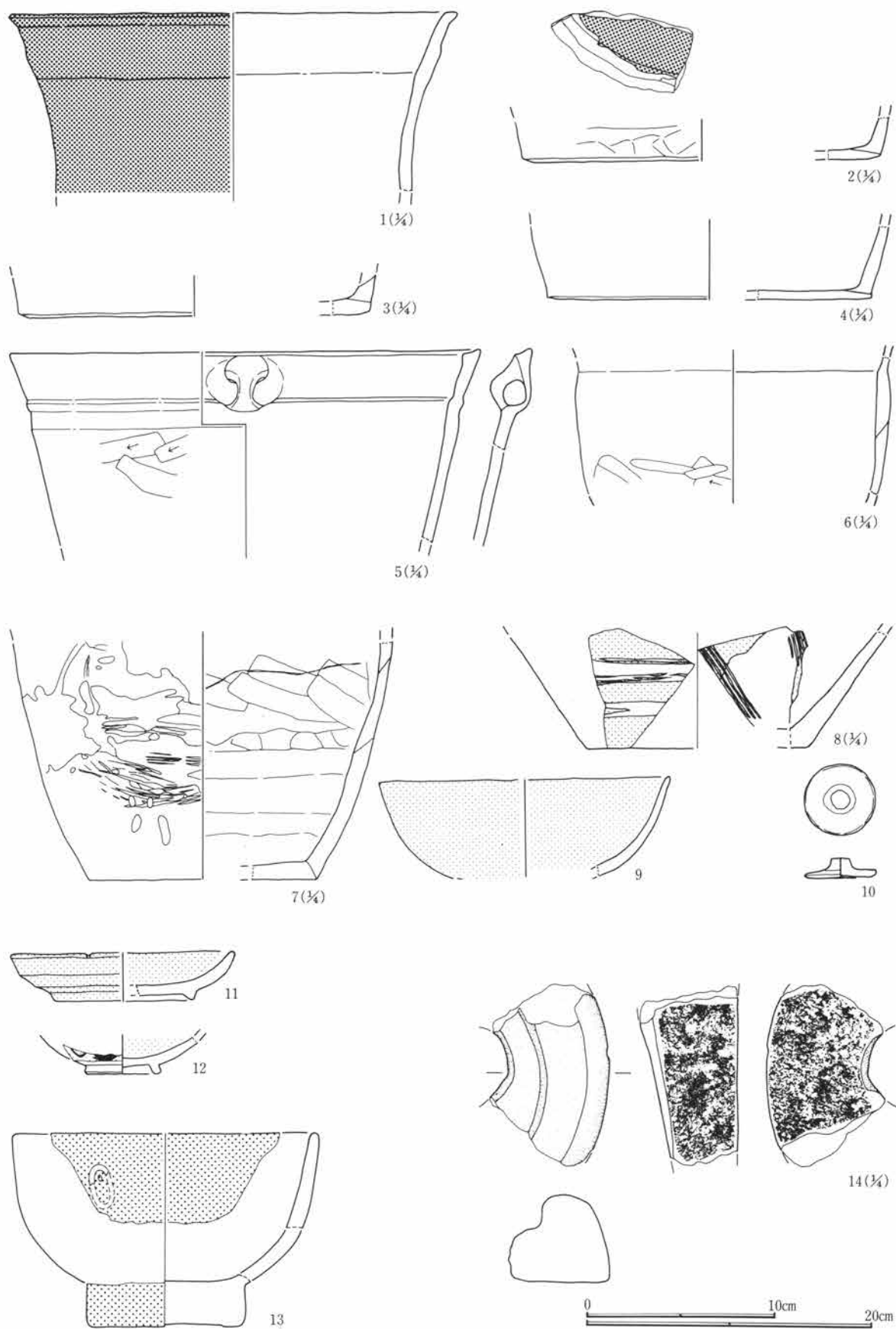


第345図 内匠城外堀遺物出土状況

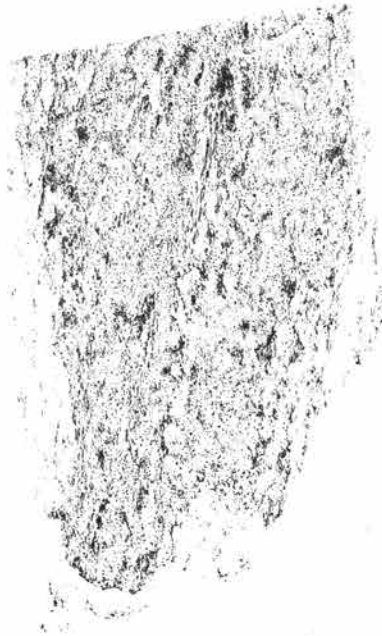
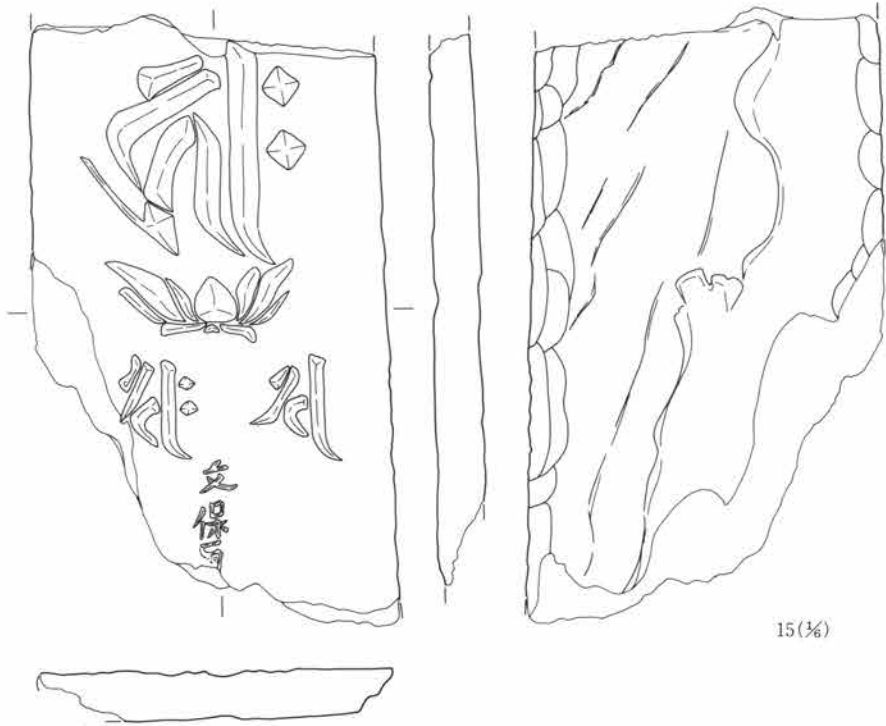
0 8 m



第346図 内匠外堀東側板碑出土状況および西側木製品出土状況

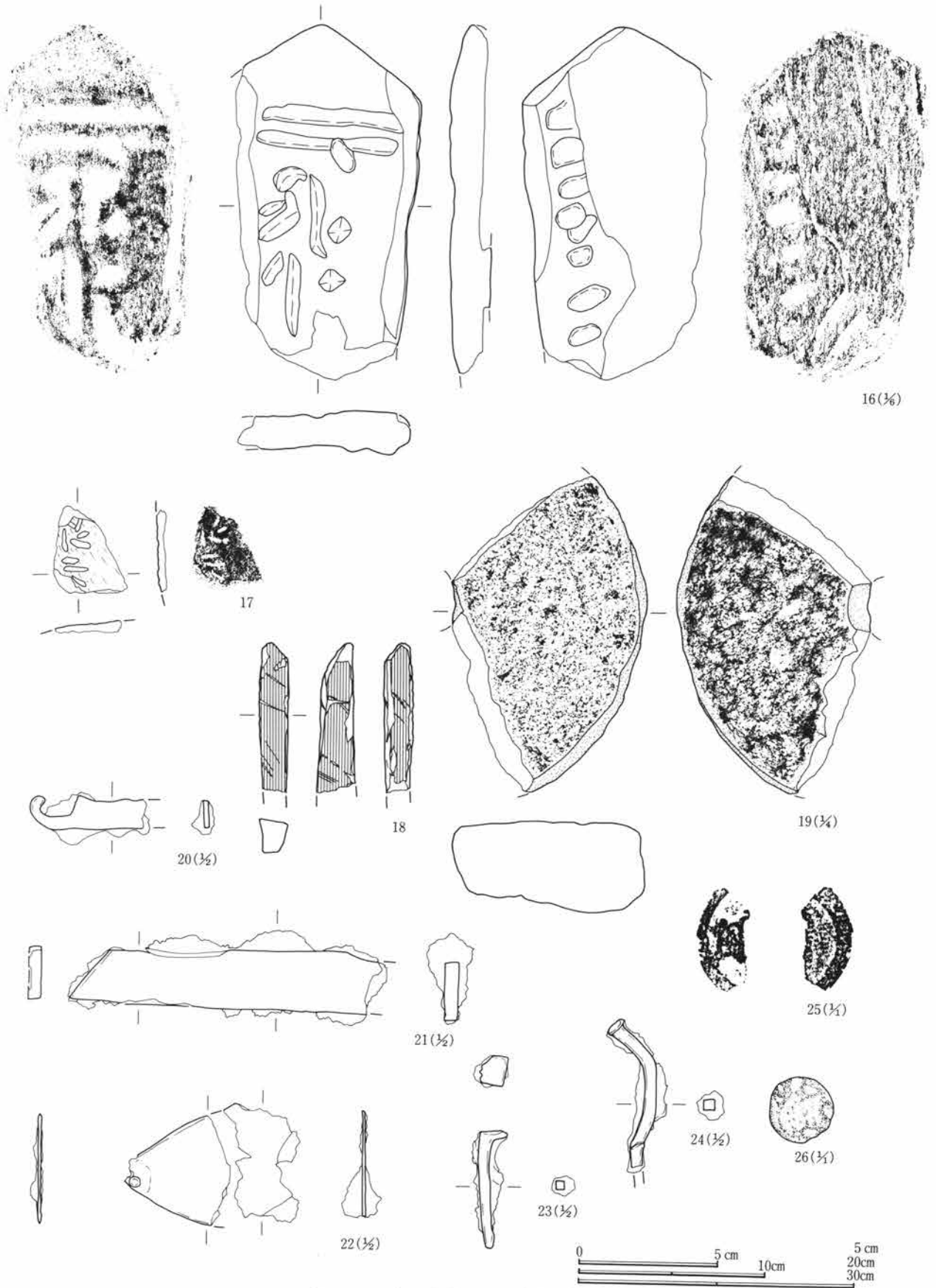


第347図 内匠城外堀出土遺物 (1)



0 30cm

第348図 内匠城外堀出土遺物(2)



第349図 内匠城外堀出土遺物 (3)

外堀出土土器観察表

No.	種別 器種	出土位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	軟質陶器 内耳鍋	C84 I79	①(31.2cm)③[12.1cm] ④口~胴部片	①にぶい橙 ②橙 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面中位~下半 ナデか・全面に煤付着	I B		
2	軟質陶器 内耳鍋	C84 I79	②(25.2cm)③[2.9cm] ④底部片	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整 胴部外面下半ナデ・ 押さえ 底部外面ナデ・油煙付着	I		
3	軟質陶器 内耳鍋	覆土	②(24.6cm)③[2.8cm] ④底部片	①灰褐 ②にぶい褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整 底部外面ナデか	I		
4	軟質陶器 内耳鍋	覆土	②(22.6cm)③[5.1cm] ④底部片	①灰褐 ②にぶい褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整 胴部外面下半~底部 ナデ	I		
5	軟質陶器 内耳鍋	覆土	①(32.8cm)③[23.3cm] ④口縁部片	①褐灰 ②灰黄褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整 胴部外面篋削り・ナ デ	I B		
6	軟質陶器 内耳鍋	覆土	最大径21.6cm ④胴部片	①黒褐 ②にぶい橙 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整 胴部下半指頭による ナデ・篋削り	I		
7	陶器 甕	C81 I81	②(16.0cm)③[16.4cm] ④胴部~底部片	①灰 釉褐灰・にぶい赤褐 ②灰 ③良 好 還元焰 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整 胴~底部外面回転篋 削り 胴上半内面ナデ			
8	陶器 播鉢	C83 I83	②(15.4cm)③[8.0cm] ④胴~底部	釉極暗赤褐 胎土にぶい黄橙 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整			
9	陶器 碗	C65 I53	①(15.2cm)③[5.0cm] ④口~胴部片	①胎土灰白 ③良好 還元焰 ④細 砂粒を含まない	ロクロ調整 透明釉・貫入あり 18世紀後半以降			
10	陶器 蓋	覆土	径3.6cm 器厚10mm ④完形	①黄褐 ②黄褐 ③良好 還元焰 ④細 砂粒を微量含む	ロクロ調整			
11	陶器 皿	C82 I73	①(11.6cm)②(7.0cm) ③2.5cm ④口~底部	①灰白 ②灰白 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を微量含む	ロクロ調整 削り出し高台 17世紀前半 長珪石釉			
12	陶器 碗	C83 I77	②(4.0cm)③[1.9cm] ④底部	文様オリープ黒 胎土明オリープ灰 ③良 好 還元焰 ④細 砂粒を微量含む	ロクロ調整 削り出し高台か 瀬 戸美濃柳茶碗 18C後~19C初			
13	木製漆器 椀	覆土	①(15.6cm)②8.0cm ③(10.0cm)口~体 $\frac{1}{2}$ ・底部		内外面黒漆地に赤漆で施文			

外堀出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
14	石臼	C84-I81	[12.5]	[9.1]	6.2	615	$\frac{1}{2}$	砂岩	粉挽き臼上白 目なし白か 歪み著しい
15	板碑	C84-I81	[48.5]	29.0	4.1	10250	両端部欠損	点紋緑泥片岩	阿弥陀三尊種子 主尊のみ蓮台に乗る 銘文一部残る「文保□」か
16	板碑	C84-I81	37.7	19.9	4.6	5100	下半部欠損	点紋黒母石片岩	2条線・キリクのみ残る 裏面に平 ノミ状工具痕残る
17	不明	C84-I79	[4.7]	[3.9]	[0.6]	12	破片	絹雲母緑泥片岩	板碑の破片か
18	砥石	C84-I75	[7.9]	2.0	1.5	36	一部欠損	流紋岩	3面使用
19	石臼	C82-I66	[22.6]	[14.0]	6.5	2400	$\frac{1}{4}$	砂岩	粉挽き臼下白 直径(28cm)

外堀出土鉄器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
20	不明	C84-I82	[5.2]	[1.2]	1.5	6.9	$\frac{1}{2}$ 程度か	先端部が鍵型になる
21	不明	C83-I76	[11.3]	[1.2]	[0.5]	70	一部欠損	細長い板状の鉄製品
22	不明	C83-I80	[6.1]	[4.3]	1.0	13	一部欠損	薄い板状の鉄製品
23	角釘	C83-I81	4.2	1.0	0.3	4.4	完形	
24	角釘	C84-I77	[5.3]	[1.8]	0.4	7.5	先端部欠損	角釘が曲がったものか
26	鉄砲玉	C83-I78	1.2	1.2	1.1	7.6	完形	鉛製

外堀出土銅銭観察表

No.	器種	出土位置	径 (cm)	孔 (cm)	重量 (g)	材質	銭 貨 名	残存状況	特 徴
25	銭	覆土	(2.4)	(0.6)	0.6	銅	不明	$\frac{1}{4}$	寶字部分のみ残存

4号溝

位置 C75~81-I63~65 Gr 重複 外堀・5号溝と接する 規模 長さ11.6m 幅4.56m~2.32m

深さ 200cm~164cm 走向 N-10°-E

礫出土状況 上端から1.1~1.4mの高さに集中して、敷かれたような状態で多数の礫が出土した。壁際には

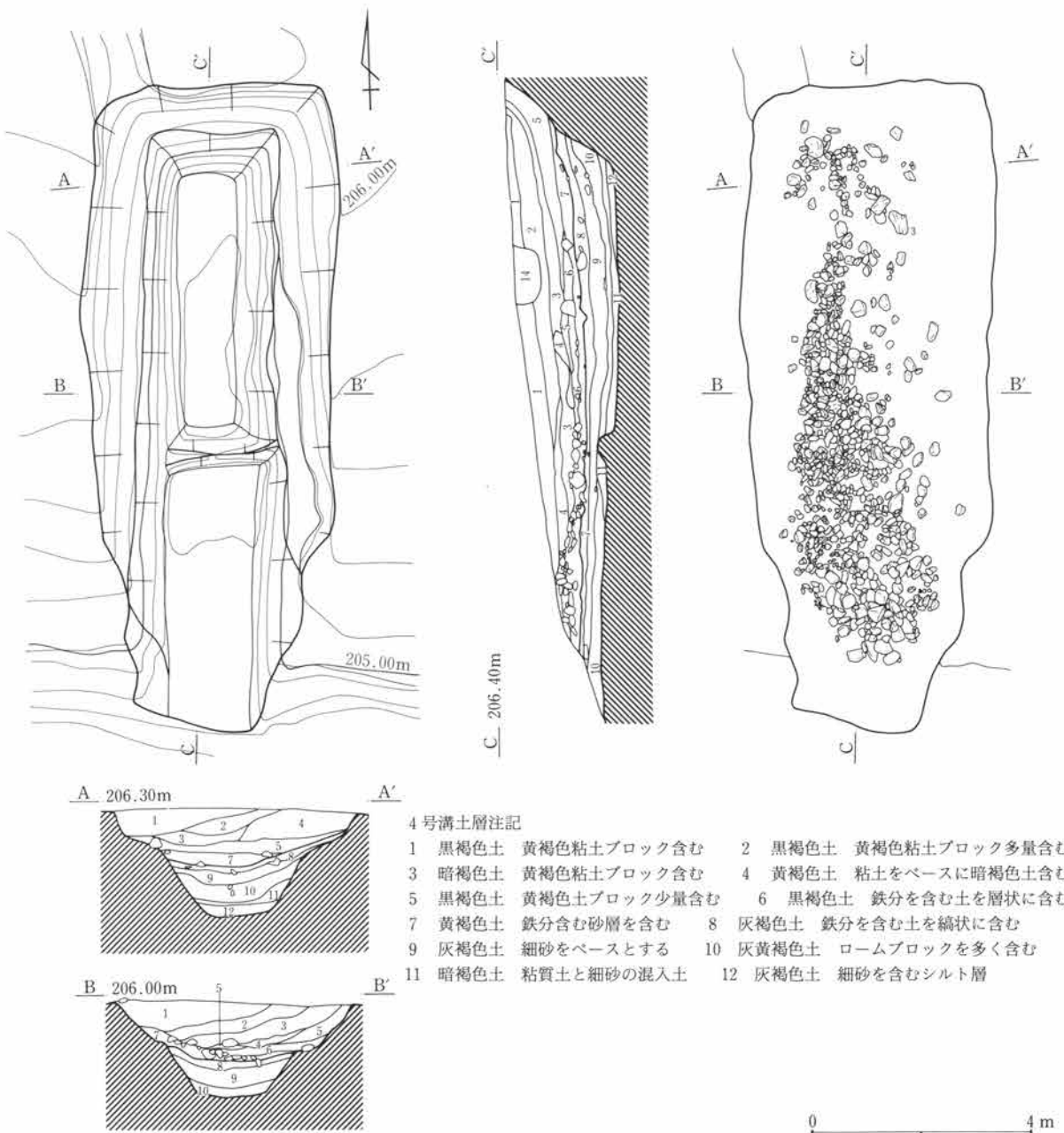
第三章 検出された遺構と出土遺物

ほとんど無く中央部にまとまっており、特に西側中央から南側にかけて集中している。この高さで土層も大きく変わっており、面としてとらえられるものである。

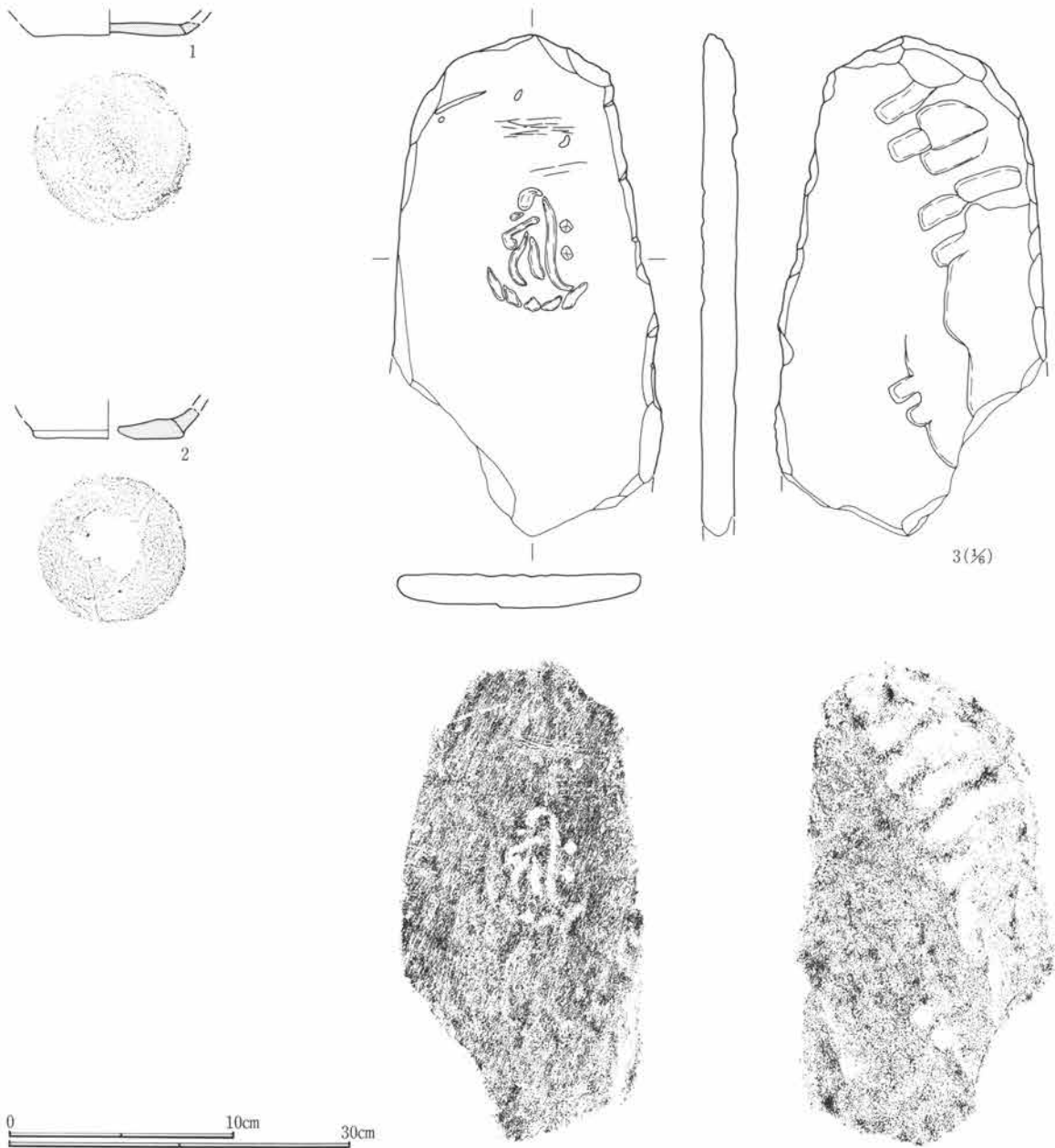
掘り方 礫の出土した面とほぼ同レベルで立ち上がりの傾斜が変わっている。そこでテラス状の平坦面をもつ部分もある。底部は平坦であるが、北壁上端から6.4mの位置に、北と南を区画する様に地山を掘り残した土手状の高まりがある。その両側で底面のレベルが異なり、北側は、南側よりも20~30cm低くなっている。

遺物 出土遺物は少なく、土師質土器皿が3点、板碑が1点出土しているだけである。1・2はいずれも底部だけ全周している破片で、2には中央に穿孔がある。3の板碑は、北東部の、礫の出土した層のやや下から出土している。

所見 外堀に接して新旧関係が認められないため、堀・土塁とともに内匠域に関する防御施設であった可能性が高いが、性格は不明である。



第350図 4号溝



第351図 4号溝出土遺物

4号溝出土土器観察表

No	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	土師質土 器 皿	①6.8cm ③[0.5cm] ④底部	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焰 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	C	
2	土師質土 器 皿	①(6.6cm) ③[1.0cm] ④底部片	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整 焼成後の穿孔あり	C	

4号溝出土石器観察表

No	器 種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
3	板碑	[43.5]	23.7	3.1	4800	下半部欠損	点紋網雲母緑泥片岩	阿弥陀一尊種子 蓮台に乗る 裏面に平ノミ状工 具痕あり

5号溝

位置 C71~76-I 65~66 Gr

重複 4号溝・内匠城土塁と接する

規模 長さ9.2m 幅1.2m~0.9m 深さ 34cm

走向 N-17°-W

掘り方 掘り方は浅く、断面はU字形で鍋底状を呈す。

遺物 礫が数点、覆土中層から下層にかけて、点在して出土した以外は出土遺物はなかった。

所見 4号溝・土塁に接し、新旧関係は認められないため、4号溝同様内匠城に関係する防御施設の1つであったと考えられるが、性格は不明である。

土塁

外堀の北側、南北に延びる4・5号溝から西北西の方向に、土塁状の高まりが検出された。

位置 C65~77-I 63~99 Gr 主軸方位 N-73°-W

規模 長さ69.0m 幅3.4~13.0m 高さ 60cm

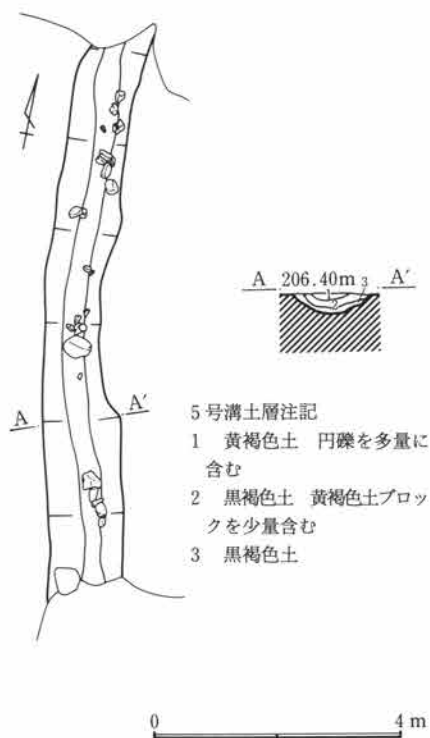
平面形態 遺構の性格上削平を受けやすく、当初の形態を復元するのは難しいが、北面には築造当時のものと考えられる石組が残っていたため、当初の形態をほぼ留めていていると思われる。ここで見ると、5号溝から西北西にのびているが、5号溝北端部から14mと40mの地点の2カ所で南に折れており、66mまで続いている。南面はかなり耕作による削平を受けており、原型が失われているが、北面とほぼ同じ形態になっていると考えられる。

礫出土状況 北面は拳大の礫を壁面に貼り付けた状態で出土しており、部分的に出土していない場所もあるが、本来は全面に貼られていたものであろう。北面や頂部からも礫が出土しているが、これは土塁構築土中に混入していたものと考えられる。

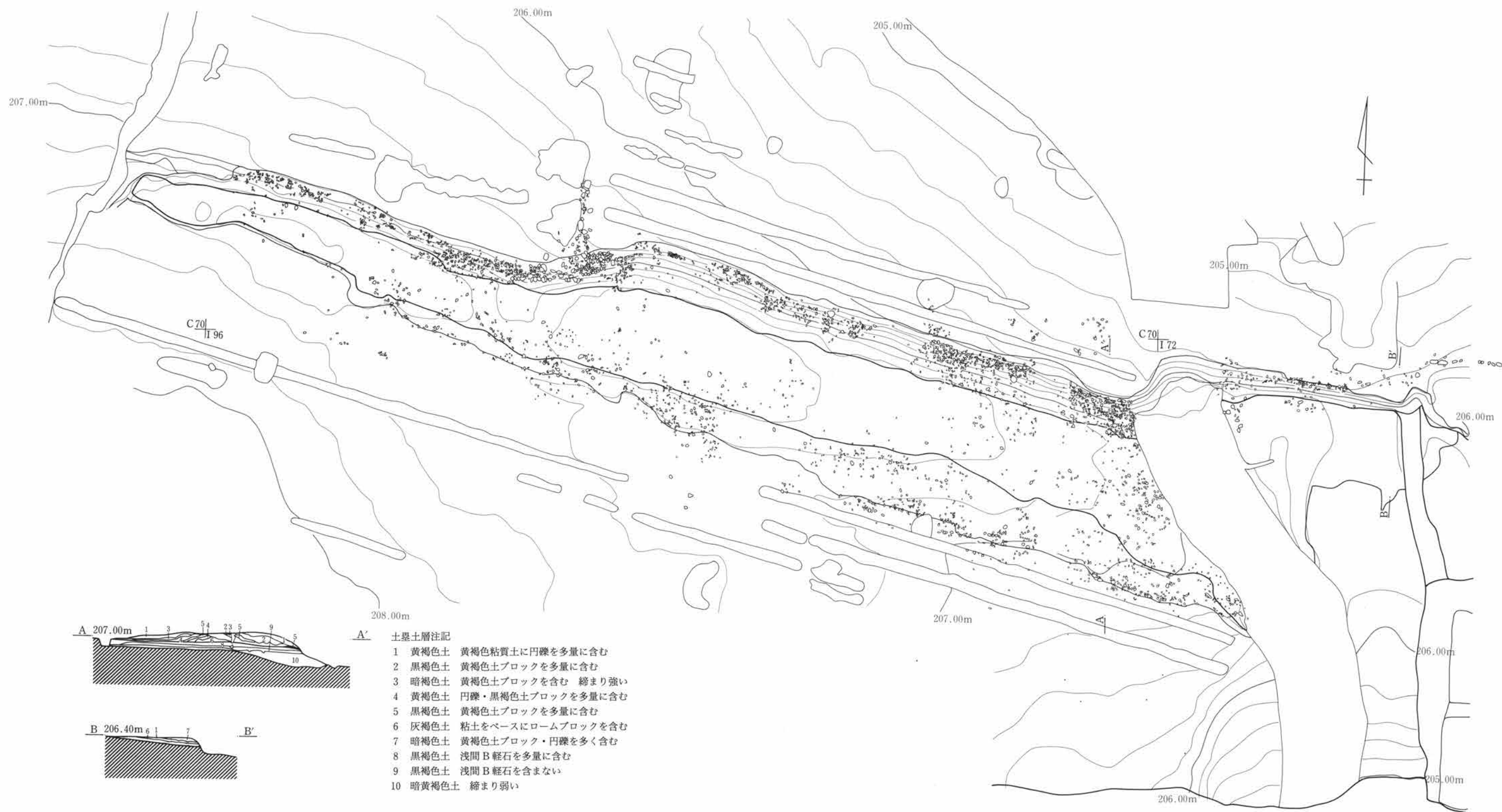
遺物 土器は、土師質土器皿、軟質陶器内耳鍋、軟質陶器播鉢、陶器碗・皿、陶器甕の計68点出土しているが、その内軟質陶器内耳鍋が61点と圧倒的に多く、土師質土器皿は1点のみの出土である。他に土師器・須恵器が各1点、縄文土器が21点出土している。石製品は、粉挽き白の上白1点と不明石製品が1点出土しており、他に剝片が8点混入している。

出土土器数量表

種別	土師質土器		軟質陶器		陶器		計
	皿	内耳鍋	播鉢	碗・皿	甕		
点数	1	61	1	4	1	68	
重量(g)	38	2,274	110	75	208	2,705	

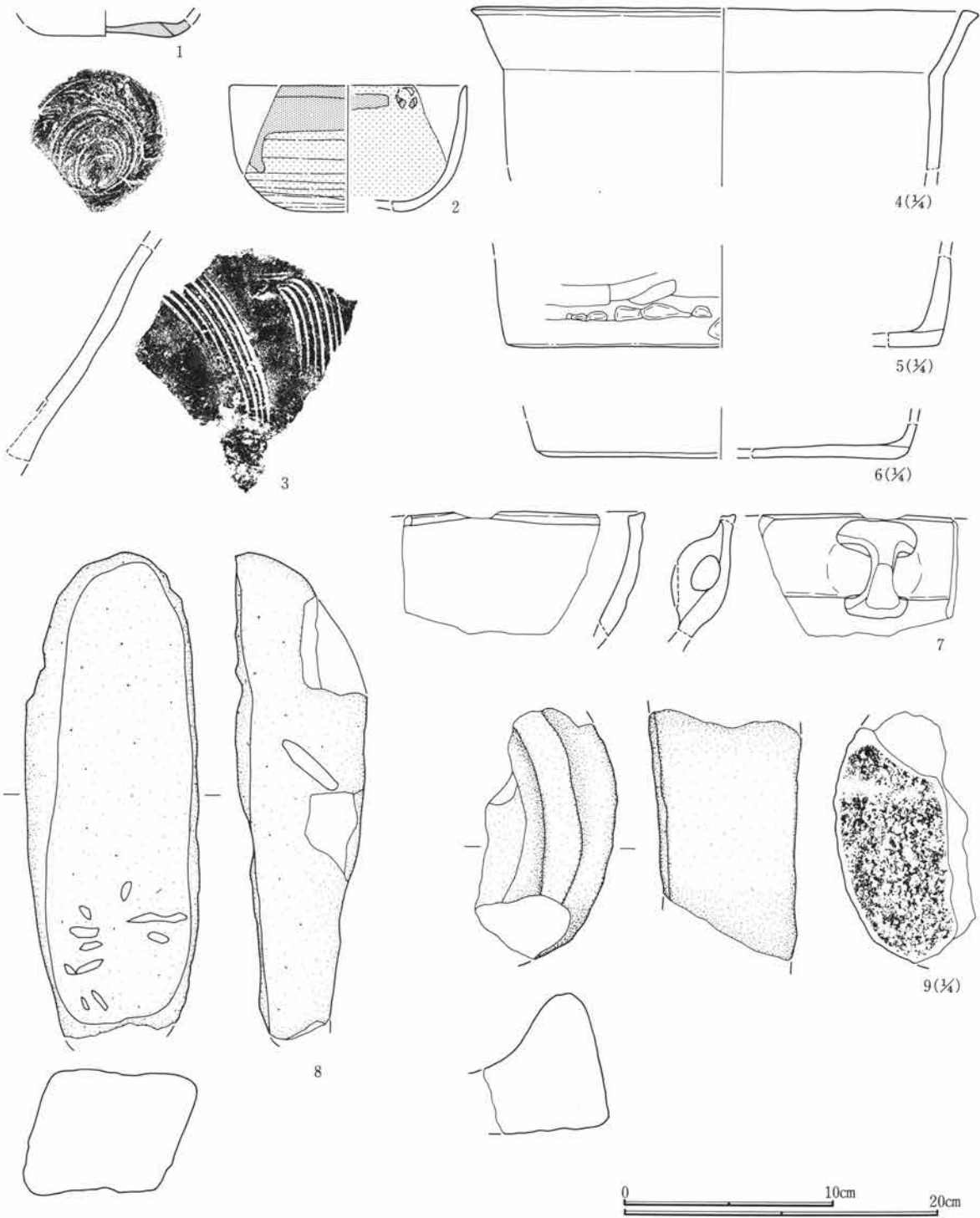


第352図 5号溝



- 土層土層注記
- 1 黄褐色土 黄褐色粘質土に円礫を多量に含む
 - 2 黒褐色土 黄褐色土ブロックを多量に含む
 - 3 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む 縮まり強い
 - 4 黄褐色土 円礫・黒褐色土ブロックを多量に含む
 - 5 黒褐色土 黄褐色土ブロックを多量に含む
 - 6 灰褐色土 粘土をベースにロームブロックを含む
 - 7 暗褐色土 黄褐色土ブロック・円礫を多く含む
 - 8 黒褐色土 浅間B軽石を多量に含む
 - 9 黒褐色土 浅間B軽石を含まない
 - 10 暗黄褐色土 縮まり弱い

第353図 内匠城土塁



第354図 内匠城土壘出土遺物

土壘出土土器観察表

No.	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師質土 器 皿	②6.5cm ③[0.9cm] ④底部	①明褐 ②にぶい橙 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・バミスを含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	C	
2	陶 器 碗	①(11.4cm)②(4.8cm) ③[6.0cm] ④口~胴 $\frac{1}{2}$	①②釉褐 ③良好 還元焰 ④細 砂粒を微量含む	ロクロ調整 口縁部下に白色の釉を施す 18世紀 アメ釉		
3	陶 器 播 鉢	器厚6~12mm ④胴部片	①暗灰黄 ②黄灰 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整か 外面に一部指頭圧痕		

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
4	軟質陶器 内耳鍋	①(35.6cm)③[9.7cm] ④口～胴部片	①暗灰 ②灰 ③不良 還元焰 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整	I	A
5	軟質陶器 内耳鍋	②(27.8cm)③[5.8cm] ④胴～底部片	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 酸 化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面下半ナデ	I	
6	軟質陶器 内耳鍋	②(22.6cm)③[2.2cm] ④底部片	①明赤褐 ②にぶい黄橙 ③不良 酸 化焰 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整	I	
7	軟質陶器 内耳鍋	器厚6～8mm ④口縁部片	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整 内耳は貼付け	I	

土壘出土石器観察表

No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
8	不明	[22.9]	8.4	6.1	1200	一部欠損	安山岩	表面・側面に線状の彫り込みあり
9	石臼	[15.8]	[9.0]	8.9	1200	破片	砂岩	粉挽き臼上臼 周縁あり 目なし白か 器形歪む

11号土坑

位置 C63～66—I99～II7 Gr 平面形態 楕円形 規模 長さ17.3m 幅3.5m 深さ 40cm

主軸方位 N-73°-W

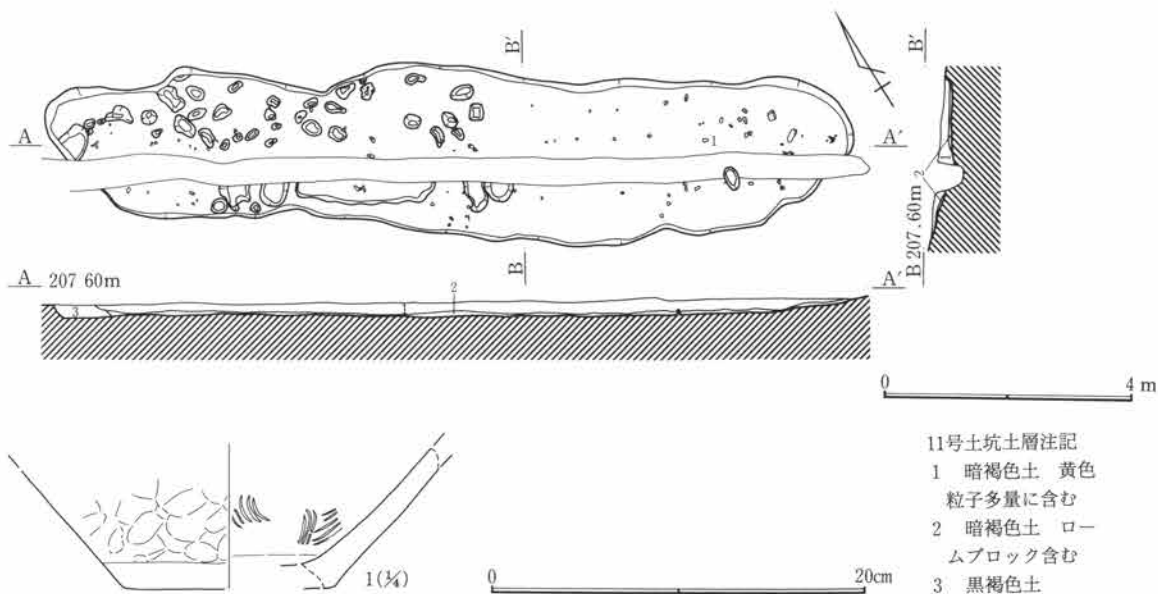
掘り方 長い楕円形の掘り方であり、底面は平坦

であるが中央部がやや深くなっている。径20cm～50cmのピットが西側に集中して検出されている。

出土遺物 土師質土器皿、軟質陶器内耳鍋・搦鉢、陶器甕が出土しており、他に土師器が1点、弥生土器が1点、縄文土器が51点出土している。

出土土器数量表

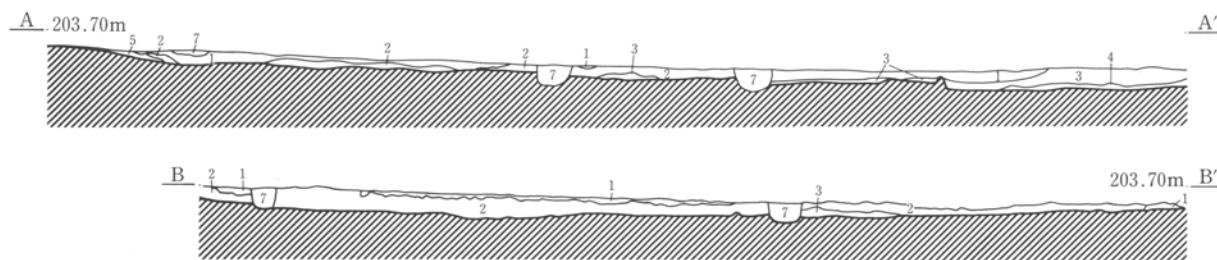
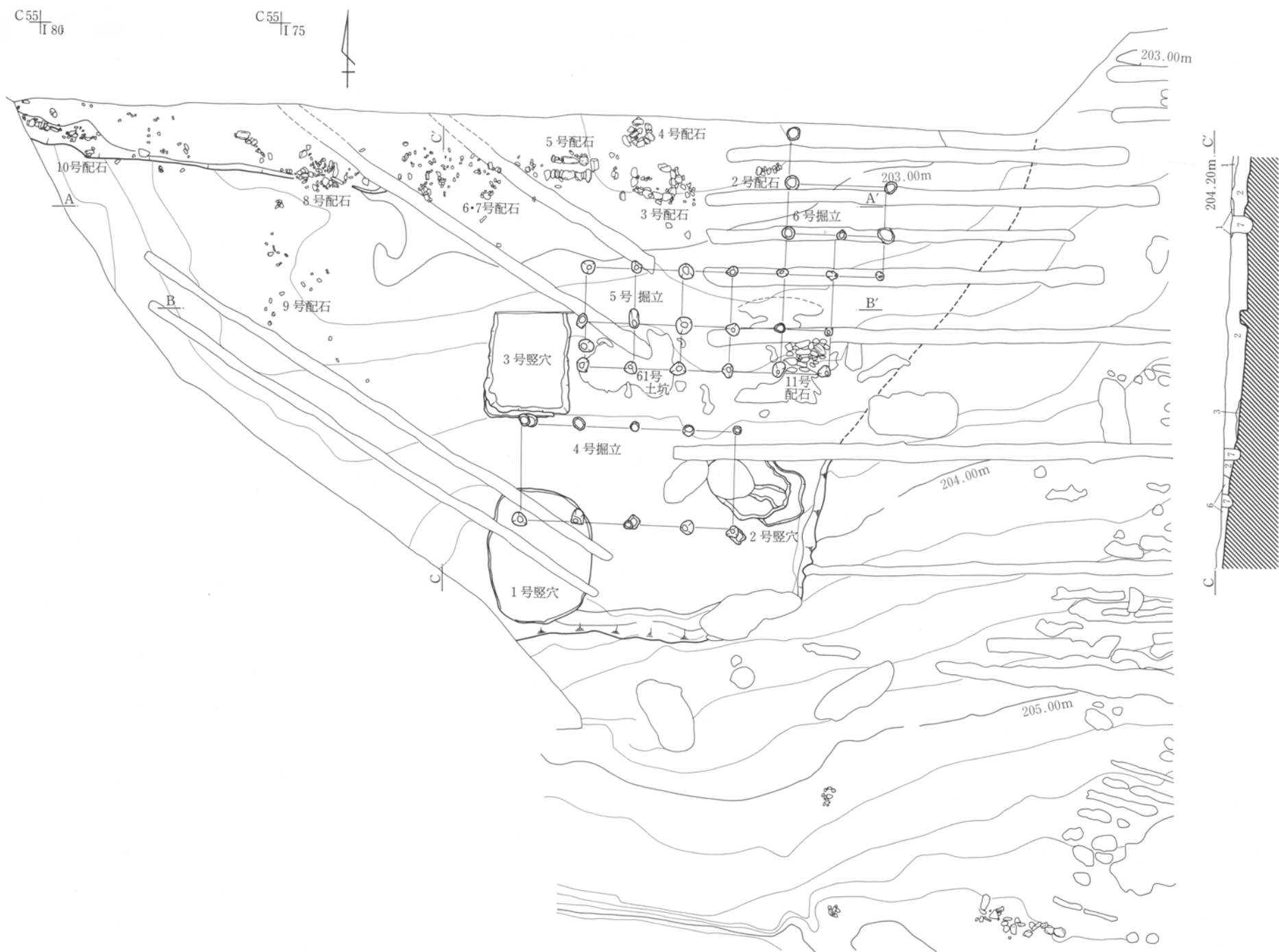
種別 器種	土師質土器 皿	軟質陶器 内耳鍋 搦鉢	陶器 甕	計
点数	5	8	1	15
重量(g)	21	130	152	332



第355図 11号土坑および出土遺物

11号土坑出土土器観察表

No	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	軟質陶器 搦鉢	②(11.2cm)③[7.4cm] ④胴部片	①灰黄 ②にぶい黄橙 ③良好 還元 焰 ④普通 砂粒を含む	外面上半指頭圧痕残る・下半回転斫削り		



1号谷状遺構土層注記

- 1 暗褐色土 白色・黄色粒子・明褐色土ブロックを含む
- 2 暗褐色土 白色・黄色粒子を少量含む
- 3 明褐色土 白色・黄色粒子・ロームブロックを少量含む
- 4 明褐色土 白色・黄色粒子微量・ロームブロック多量に含む
- 5 黄褐色土 ロームをベースに明褐色土ブロックを含む
- 6 暗褐色土 白色・黄色粒子・明褐色土ブロックを少量含む
- 7 耕作溝

0 10m

第356図 1号谷状遺構中世整地面

(2) 中世整地面

外堀・土塁の北側、埋没した縄文時代の谷津状遺構の上面に、緩い傾斜面を掘込んで整地した面が存在している。この面からは、掘立柱建物3棟(2棟の可能性も有り)、竪穴遺構4基、配石遺構10基が集中して検出された。

位置 C56～68—I60～80 Gr 重複 1号谷津(縄文時代)より新 規模 東西39.0m 南北21.2m
深さ 75cm

掘り方 全体的に北に向かって緩く傾いている斜面上に位置しており、立ち上がりは、南東部に検出されているが、北は調査区外、東は道路下、西はしだいに浅くなり消えてしまうため、いずれも検出できなかった。下に縄文時代の埋没谷が存在するため、底面は明確に検出できなかったが、全体的に北に向かって緩く下がっている。調査区北壁の手前の西側に整地によるものと考えられる段が検出された。東部には検出されなかったが、配石遺構の北側の調査区外に存在する可能性はあり、さらに数段ある可能性もある。この段にそって配石遺構が存在しているため、配石遺構と何らかの関連があったと思われる。

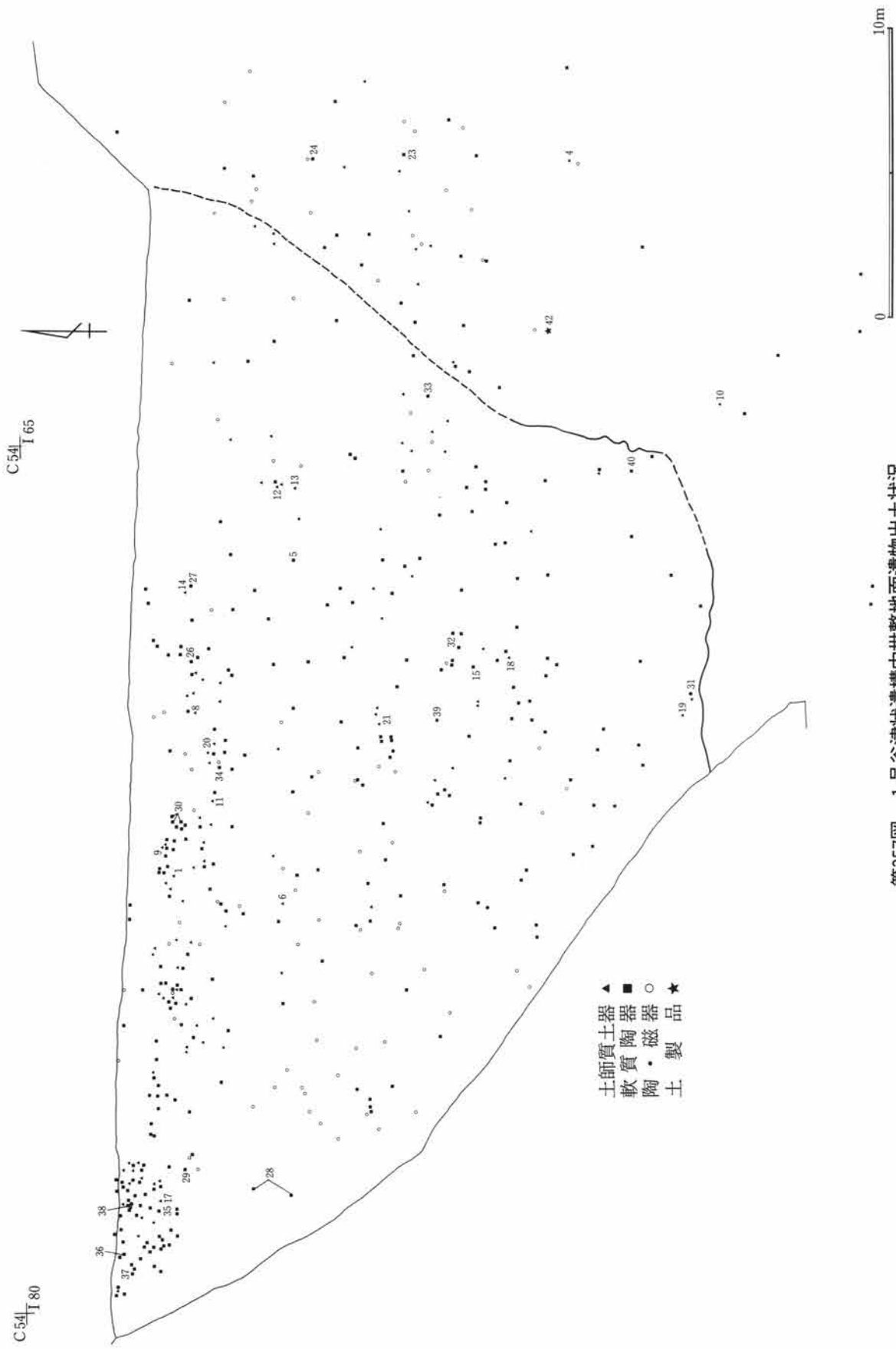
遺物出土状況 ほぼ全面から出土しているが、調査区北壁際の配石遺構が集中している部分から、比較的多く出土している。遺構の性格上、整地面上の遺構や周囲からの混入が多いと考えられ、接合関係のあるものも極端に少なく、28と30の内耳鍋の、いずれも近接した破片が接合しているだけである。

出土遺物 土器は、土師質土器皿、軟質陶器内耳鍋・火鉢・播鉢、陶器碗・皿・甕、青磁皿が出土している。土師皿、軟質陶器内耳鍋、陶器碗・皿で大部分をしめ、他は少数の出土である。石製品は、砥石3点が出土している。鉄製品は、刀子(不確実なものも含む)が6点、角釘が6点、環状の鉄製品が1点、不明鉄製品が6点出土している。銅製品は、角釘が1点、銅銭(洪武通寶)が2点出土している。

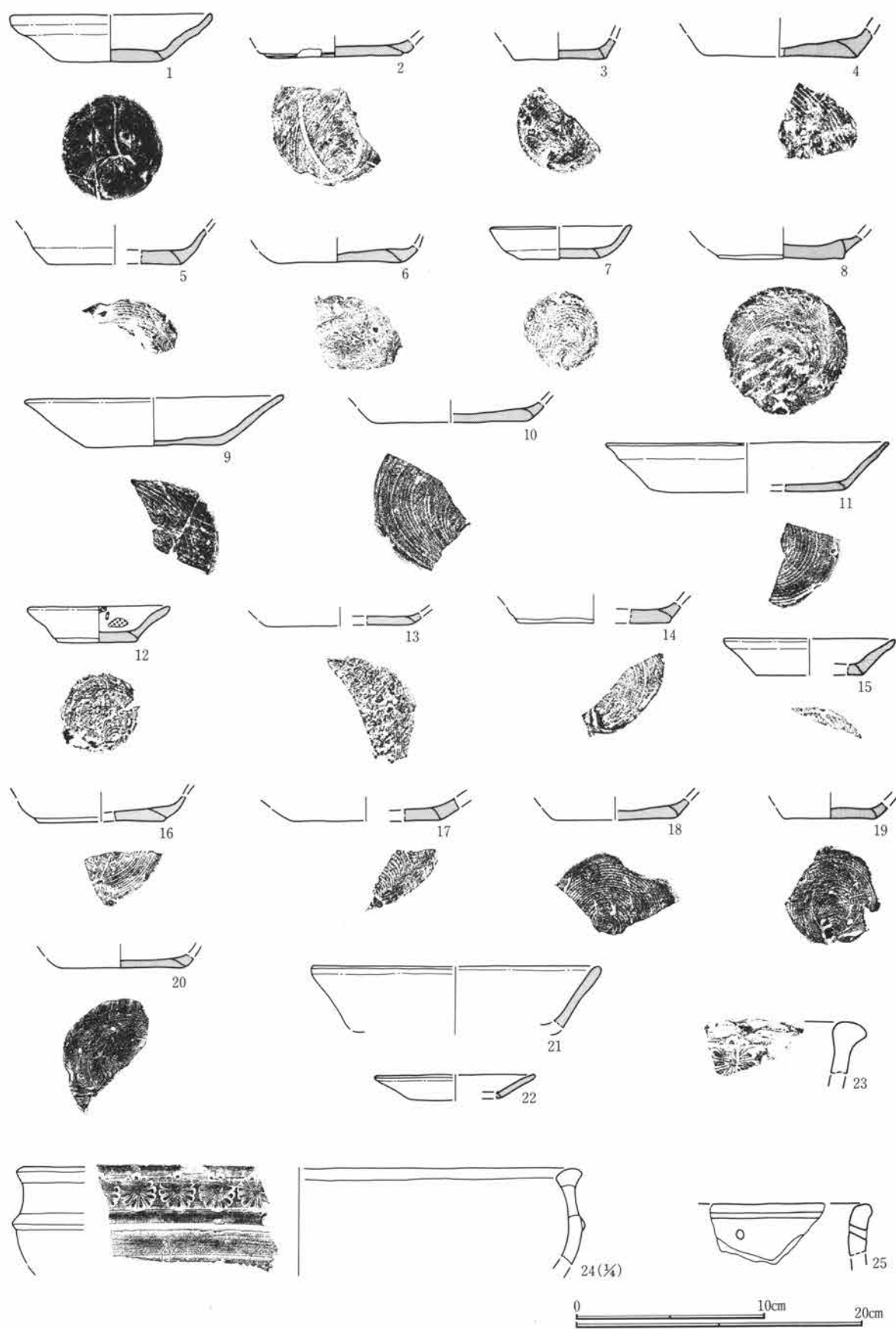
所見 内匠城外堀の北30mの位置にあり、内匠城との密接な関連が想定できる。掘立柱建物は、城の根小屋的な性格を持つ可能性もある。

出土土器数量表

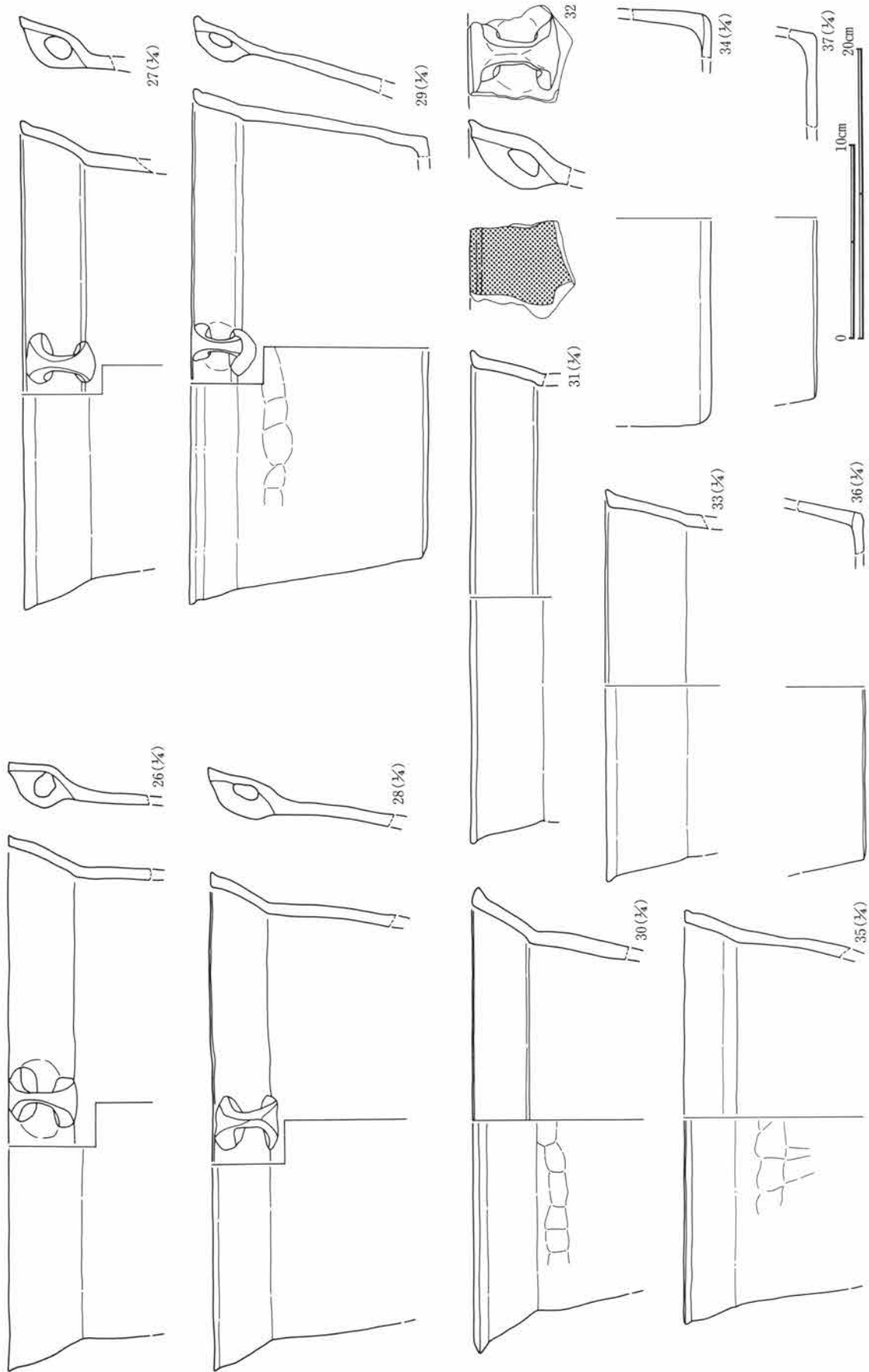
種別	土師質土器					軟質陶器			陶器		磁器	計
	皿	内耳鍋	火鉢	播鉢	その他	碗・皿	甕	その他	青磁皿			
点数	275	371	11	7	5	87	1	3	1	761		
重量(g)	651	2,946	121	90	100	750	85	10	10	4,763		



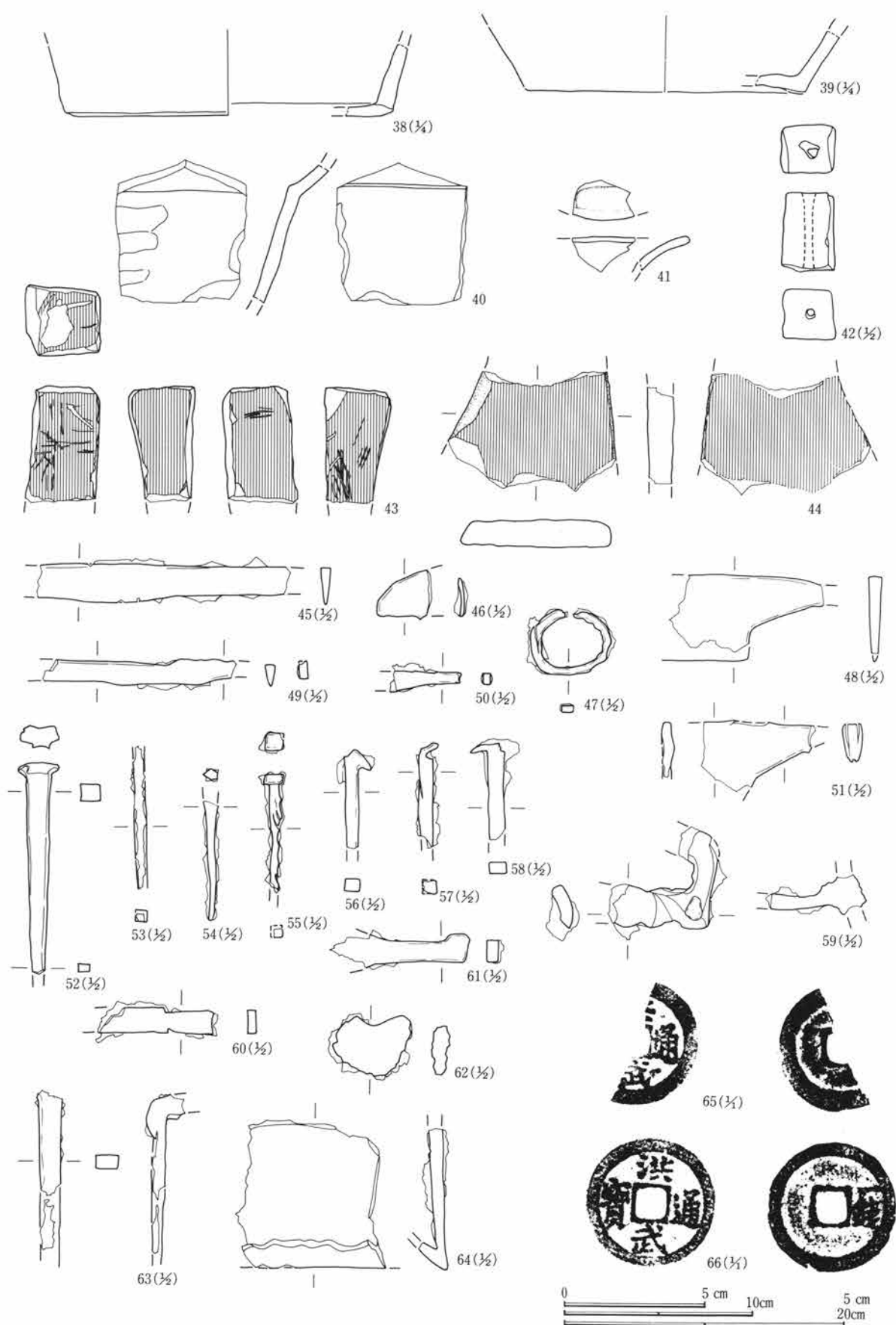
第357図 1号谷津状遺構中世整地面遺物出土状況



第358図 1号谷津状遺構出土遺物(1)



第359図 1号谷津状遺構出土遺物(2)



第360図 1号谷津状遺構出土遺物(3)

第三章 検出された遺構と出土遺物

1号谷津状遺構出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	土師質土 器 皿	C58 I65	①(10.4cm)②(5.4cm) ③2.4cm ④口底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒を微量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整	B 1	
2	土師質土 器 皿	覆土	②(7.0cm)③[0.8cm] ④底部片	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 酸化焙 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整	C	
3	土師質土 器 皿	C54 I50	②5.0cm ③[1.0cm] ④底部片	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒を微量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整	A	
4	土師質土 器 皿	C63 I60	②(8.0cm)③[1.4cm] ④底部片	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調 整 底部内面ナデ	D	
5	土師質土 器 皿	C58 I66	②(7.0cm)③[1.8cm] ④底部片	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調 整	C	
6	土師質土 器 皿	C58 I72	②(6.8cm)③[0.8cm] ④底部片	①橙 ②にぶい橙 ③良好 酸化焙 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整・板状圧痕・内面ナデ	C	
7	土師質土 器 皿	C60 I58	①7.5cm ②4.0cm ③1.7cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調 整	A 2	
8	土師質土 器 皿	C57 I69	②6.5cm ③[1.2cm] ④底部	①明褐 ②明赤褐 ③良好 酸化焙 ④細 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整・板状圧痕・内面ナデ	C	
9	土師質土 器 皿	C58 I64	①(11.2cm)②(8.8cm) ③2.5cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②明赤褐 ③良好 酸化焙 ④細 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整・板状圧痕・内面ナデ	D 2	
10	土師質土 器 皿	C66 I64	②(8.0cm)③[1.0cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 無調整・内面ナデ	D	
11	土師質土 器 皿	C57 I71	①(14.8cm)②(10.0cm) ③2.5cm ④口～底部片	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒を微量含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調 整	D 1	
12	土師質土 器 皿	C58 I65	①(7.4cm)②(4.1cm) ③1.8cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整 体部内面に煤・油煙付着	A 1	
13	土師質土 器 皿	C58 I65	②7.6cm ③[0.6cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 酸化焙 ④細 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整・板状圧痕	D	
14	土師質土 器 皿	C56 I67	②(8.0cm)③[1.0cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 酸化焙 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整	D	
15	土師質土 器 皿	C61 I68	①(9.0cm)②(6.0cm) ③2.3cm ④口～底部片	①褐灰 ②黒褐 ③良好 酸化焙か ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整	B 1	
16	土師質土 器 皿	覆土	②(6.6cm)③[1.2cm] ④底部片	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調 整	C	
17	土師質土 器 皿	C56 I77	②(8.0cm)③[1.1cm] ④底部片	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒を微量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整	D	
18	土師質土 器 皿	C62 I68	②(6.4cm)③[1.0cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒を微量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整	C	
19	土師質土 器 皿	C65 I69	②(5.0cm)③[0.8cm] ④底部片	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調 整	A	
20	土師質土 器 皿	C57 I70	②(6.7cm)③[0.6cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒を微量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整	C	
21	土師質土 器 皿	C60 I69	①(13.0cm)③[3.2cm] ④口縁部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 酸化焙 ④細 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整	D 2	
22	土師質土 器 皿	覆土	①(8.4cm)②(4.8cm) ③[1.2cm]④口～体部片	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 酸 化焙 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左)	A 1	
23	軟質陶器 火鉢	C60 I60	器厚8～17mm ④口縁部片	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焙 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 口縁部外面に12弁の 印花文	II	24と同一 個体
24	軟質陶器 火鉢	C59 I60	①(46.0cm)③[6.7cm] ④口縁部片		23と同一	II	23と同一 個体
25	軟質陶器 内耳鍋	覆土	器厚10mm ④口縁部片	①浅黄 ②淡黄 ③良好 還元焙 ④普通 砂粒を少量含む	補修孔あり	I	
26	軟質陶器 内耳鍋	C56 I68	①(36.8cm)③[10.0cm] ④口縁部片	①黒褐 ②にぶい褐 ③良好 酸化 焙 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面ナデ 内耳 は貼付	I A	
27	軟質陶器 内耳鍋	C56 I67	①(33.6cm)③[9.0cm] ④口～胴部片	①にぶい黄褐 ②灰 ③良好 還元焙 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整 内耳貼付	I A	
28	軟質陶器 内耳鍋	C58 I77	①(34.6cm)③[13.0cm] ④口縁部片	①黄灰 ②灰 ③良好 還元焙 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面指頭による ナデ 内耳貼付	I A	
29	軟質陶器 内耳鍋	C64 I60	①(34.0cm)②(24.6cm) ③[15.6cm]④口～底部	①灰黄褐 ②暗灰黄 ③良好 還元焙 ④普通 砂粒・礫を含む	ロクロ調整 胴部外面指頭圧痕残 す 内耳貼付	I B	

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
30	軟質陶器 内耳鍋	C56 I67	①(32.0cm)③[10.8cm] ④口縁部片	①褐灰 ②灰黄 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整	I A	
31	軟質陶器 内耳鍋	C65 I69	①(34.0cm)③[5.2cm] ④口縁部片	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 酸化焰か ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整	I A	
32	軟質陶器 内耳鍋	C61 I67	器厚23mm ④口縁部片	①黒褐 ②褐 ③良好 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整 内耳貼付 外面煤付着	I	
33	軟質陶器 内耳鍋	C61 I64	①(27.0cm)③[7.3cm] ④口縁部片	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整	I B	
34	軟質陶器 内耳鍋	C57 I70	②(28.0cm)③[5.5cm] ④胴～底部片	①灰黄 ②灰黄 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整	I	
35	軟質陶器 内耳鍋	C56 I78	①(28.4cm)③(11.4cm) ④口～胴部片	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整 胴部外面指頭圧痕残 す	I B	
36	軟質陶器 内耳鍋	C55 I78	①(24.0cm)③[4.5cm] ④底部片	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・礫を含む	ロクロ調整 胴部外面篋ナデ	I	
37	軟質陶器 内耳鍋	C55 I79	②(20.4cm)③[1.9cm] ④底部片	①にぶい黄橙 ②にぶい黄橙 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整	I	
38	軟質陶器 内耳鍋	C57 I59	②(18.2cm)③[5.1cm] ④胴～底部片	①黒褐 ②暗灰黄 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整	I	
39	軟質陶器 内耳鍋	C61 I69	②(19.8cm)③[4.4cm] ④底部片	①灰黄褐 ②褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 底部外面外周に貼付 痕あり	I	
40	軟質陶器 内耳鍋	C64 I65	器厚6～8mm ④胴部片	①灰 ②灰 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面指頭による ナデ後篋ナデ	I A	
41	磁器 青磁碗	C56 I71	器厚4mm ④口縁部片	釉 緑灰 胎土 灰黄 ③良好 ④細	釉は細かい気泡含む 貫入あり		
42	土製品 不明	C62 I62	器厚16～19mm ④完形	①明赤褐 ③良好 ④細 砂粒を少量含む	角柱型の土製品 中心に孔		

1号谷津状遺構出土石器観察表

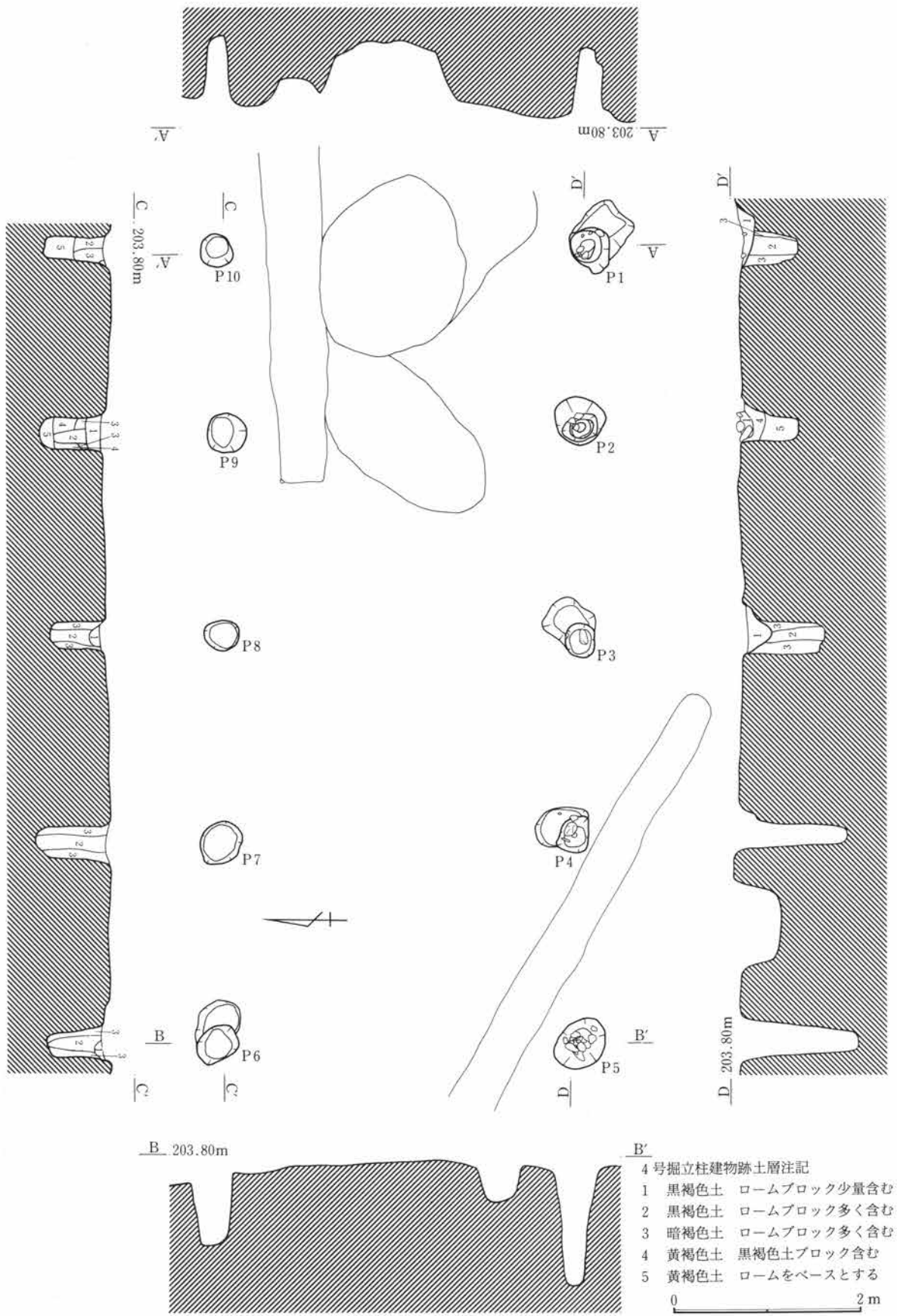
No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
43	砥石	C59-I67	[6.1]	3.9	3.5	125	一部欠損	流紋岩	5面使用
44	砥石	C59-I70	[6.2]	[9.0]	[1.4]	110	破片	砂岩	2面使用

1号谷津状遺構出土鉄器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
45	刀子	C59-I70	[9.0]	[1.4]	0.3	11.7	両端部欠損	関は刃部にあるが非常になだらかではっきりしない
46	刀子(?)	C60-I62	[2.0]	[1.6]	[0.2]	3.3	先端部のみ	刀子の先端部か
47	鉄環(?)	C61-I71	[2.9]	[2.3]	0.2	3.3	ほぼ完形	環状の鉄製品
48	刀子	覆土	[5.5]	[2.7]	[0.5]	13.2	両端部欠損	大型の刀子か 関は刃部にあり
49	刀子	C59-I70	[6.8]	[0.9]	[0.3]	7.9	両端部欠損	関は刃部にあるが鈍角ではっきりしない
50	刀子(?)	C57-I74	[2.4]	[6.5]	3.0	1.9	刃部欠損	関は刃部にあり鈍角
51	刀子(?)	C61-I59	[4.1]	[2.5]	7.0	9.0	両端部欠損	大型の刀子か 関は刃部にあり鈍角
52	銅製角釘	C61-I67	7.4	[1.4]	0.7	21.9	先端部欠損	銅製
53	角釘	C57-I71	[5.0]	[0.5]	(0.4)	1.7	頭部欠損	
54	角釘	C60-I70	[4.2]	[0.6]	[0.4]	1.6	頭部欠損	
55	角釘	C56-I71	4.1	0.6	(0.4)	2.5	完形	
56	角釘	C62-I69	[3.5]	[1.3]	[0.4]	3.7	先端部欠損	
57	角釘	C57-I61	[3.6]	[0.5]	(0.5)	2.6	先端部欠損	
58	角釘	C59-I64	[3.4]	[1.3]	0.4	6.2	先端部欠損	
59	不明	C62-I69	[3.6]	[3.4]	[1.4]	28.0		鍵形の鉄製品
60	不明	C63-I73	[4.0]	[1.0]	0.3	4.9	破片	やや湾曲する
61	不明	C58-I61	[5.0]	[1.1]	[0.4]	7.2	刃部欠損	刀子等の茎か
62	不明	C57-I71	[2.2]	[2.2]	[0.6]	9.5	破片	板状の鉄製品
63	不明	C61-I64	(5.6)	[1.0]	[0.7]	5.0	一部欠損	板状の鉄製品
64	不明	C58-I73	[5.3]	[5.2]	[1.0]	58.0	一部欠損	

1号谷津状遺構出土銅銭観察表

No.	種別	出土位置	径 (cm)	孔 (cm)	重量 (g)	材質	銭貨名	残存状況	特 徴
65	銭	C58-I69	(2.4)	(0.5)	1.4	銅	洪武通寶	左半部欠損	方穿
66	銭	C57-I66	2.3	0.5	3.2	銅	洪武通寶	完形	背文「一銭」 方穿



第361図 4号掘立柱建物

4号掘立柱建物

位置 C61~63-I66~70 Gr 重複 1号竪穴遺構より新、2・3号竪穴と重複(新旧不明)

規模 東西9.12m 南北4.38m 面積 39.95m² 主軸方位 N-85°-W

概要 1間×4間の大型の掘立柱建物である。柱間は桁行が平均2.1m、梁行が平均3.9mとなっており、梁行が桁行の倍近くある。柱穴は径が30~60cm程度で、深さは60~120cmとかなり深くしっかりしている。

出土遺物 なし

4号掘立柱建物柱穴計測表 (単位 cm)

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
長径	50	53	34	41	59	46	49	37	41	35
短径	41	48	31	38	47	34	42	32	41	33
深さ	69	61	87	117	123	76	79	58	69	71

5号掘立柱建物

位置 C58~61-I63~69 Gr 重複 なし 規模 東西10.08m 南北4.32m

面積 43.55m² 主軸方位 N-88°-W

概要 2間×5間の大型の掘立柱建物である。柱間は桁行が平均1.9m、梁行が平均1.9mとほとんど同じであるが、梁行は中央の柱列がやや南に寄っており、北側が平均2.2m、南側が平均1.7mとなっている。柱穴は径が30~70cm程度と、4号掘立柱建物に比べかなり小さいものが多く、深さも30~90cm程度と4号掘立柱建物よりも浅くなっている。

出土遺物 P13覆土中から、軟質陶器火鉢が1点出土している。



第363図 5号掘立柱建物出土遺物

5号掘立柱建物出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調	整	分類	備考
1	軟質陶器 火鉢	ピット 13	器厚15mm ④口縁部片		①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焙 ④普通 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整	口縁部下に12弁の印 花文あり	II	

5号掘立柱建物柱穴計測表 (単位 cm)

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P25
長径	43	38	48	59	52	64	47	53	54	52	49	62	50	42	39	53	68	74	54	36
短径	30	30	40	46	43	47	43	43	32	51	42	55	46	31	32	47	63	37	46	29
深さ	28	58	68	97	93	91	77	87	57	59	57	57	35	54	54	72	59	63	77	56

6号掘立柱建物

位置 C56~58-I63~65 Gr 重複 なし 規模 3.85m×3.75m

面積 14.44m² 主軸方位 N-4°-E

概要 2間×2間以上の掘立柱建物と考えられるが、北側は調査区外のため不明であり、また北東の柱穴が検出されていないため、単独の掘立柱建物になるかどうか不明である。5号掘立柱建物と主軸方位・柱筋が同じであるため、1棟の建物の可能性もある。しかしながら、柱穴の規模は異なり、径は大きく深さは浅くなっている。

出土遺物 なし

6号掘立柱建物柱穴計測表 (単位 cm)

	P20	P21	P22	P23	P24	P26
長径	48	54	48	37	71	50
短径	45	50	47	34	55	49
深さ	33	28	46	13	57	91

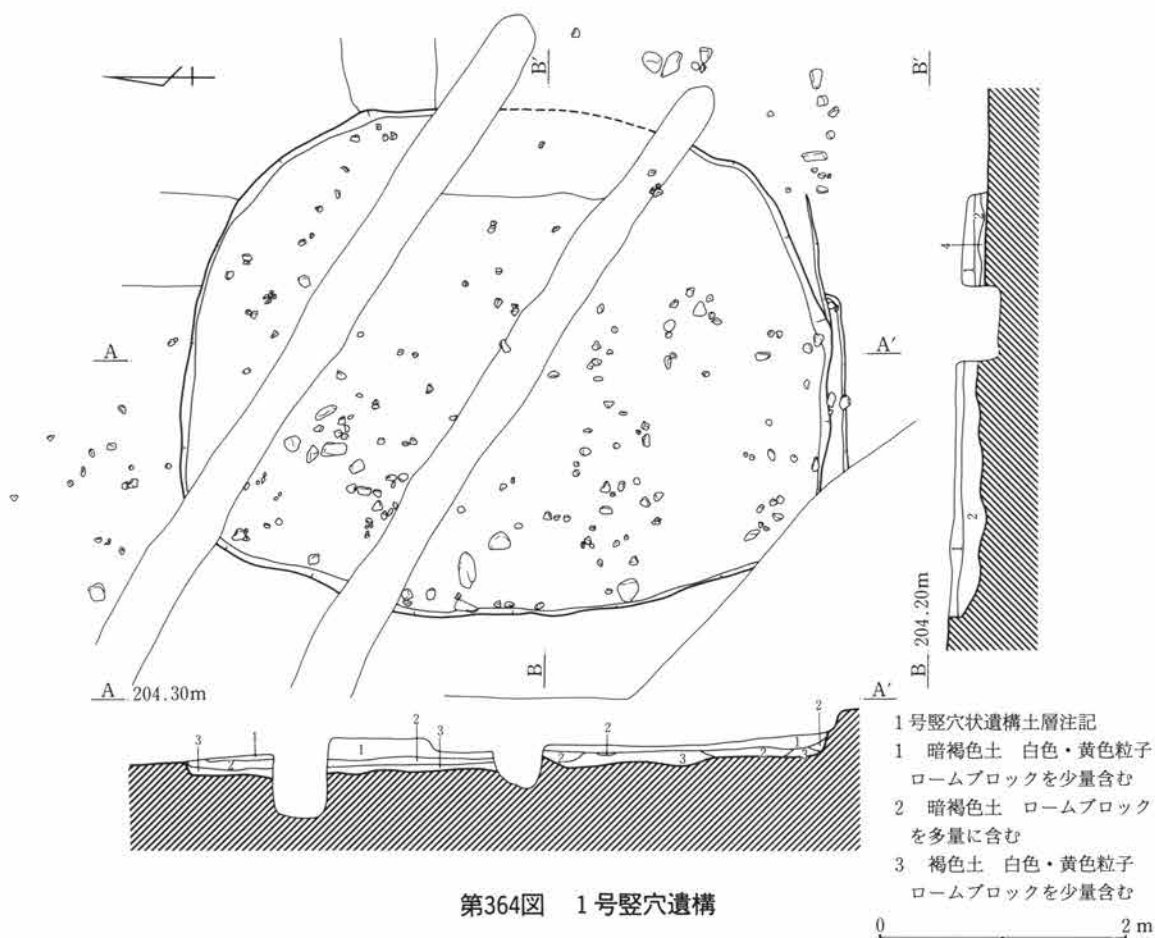
1号竖穴遺構

位置 C62~65-I 69~71 Gr 重複 4号掘立より古 平面形態 隅丸長方形
 規模 東西 [3.96m] 南北5.24m 面積 [17.4m²] 深さ 52cm 主軸方位 N-1°-W
 底面 底面は平坦で、ほぼ全面踏み固められたように硬化している。

遺物 ほぼ全面から出土しているが、土師質土器皿と内耳鍋の他は陶器碗の破片が出土しているだけである。縄文土器は84点、石器は剥片が4点出土している。

出土土器数量表

種別	土師質土器	軟質陶器	陶器	計
器種	皿	内耳鍋	碗	
点数	8	11	1	20
重量(g)	38	215	5	258



第364図 1号竖穴遺構

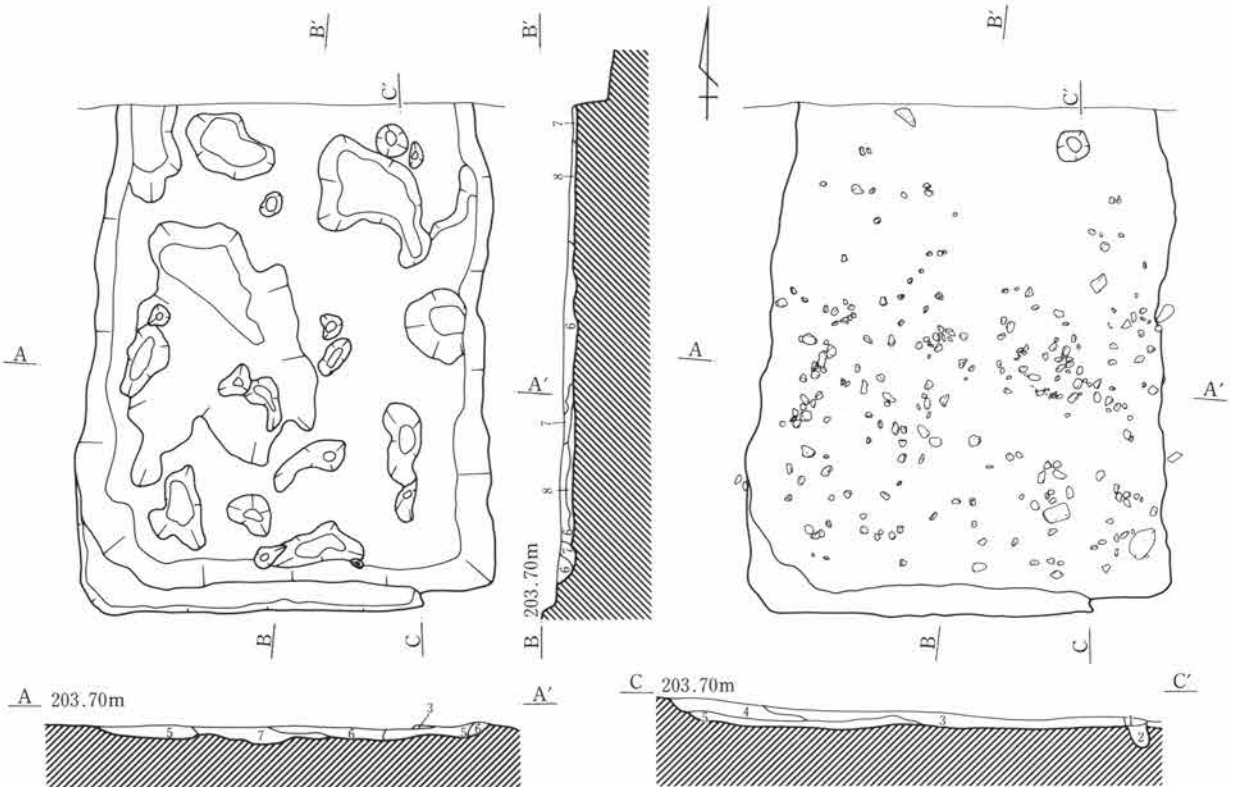
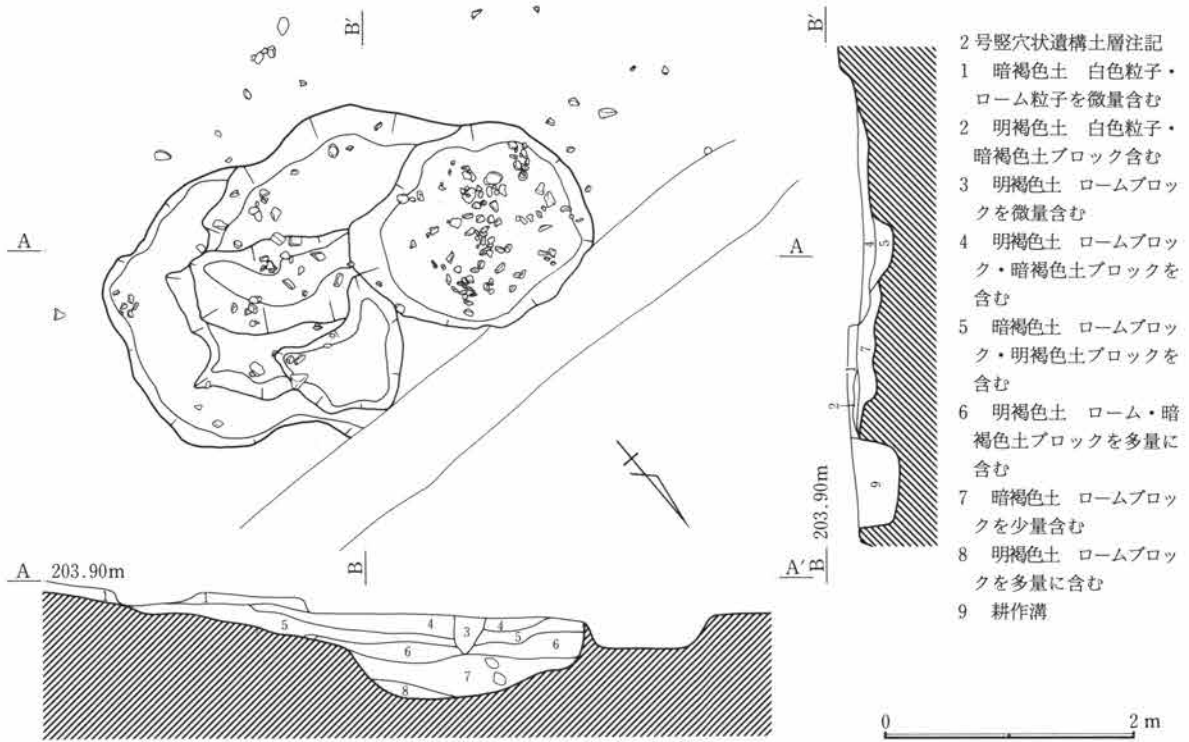
2号竖穴遺構

位置 C62~63-I 65~67 Gr 重複 なし 平面形態 不正形
 規模 東西3.78m 南北 [2.18m] 面積 [6.8m²] 深さ 84cm 主軸方位 N-81°-W
 底面 東部に楕円形の掘り込みがあり、西からそこに向かいやや下がっている。他の竖穴遺構と異なり、踏み固められた痕跡はなく、軟弱である。

遺物 楕円形の掘り込み内から特に多く出土しているが、縄文土器が多い。中世の土器は7点だけであり、縄文土器は77点、石器は12点出土している。

出土土器数量表

種別	土師質土器	軟質陶器	陶器	計
器種	皿	内耳鍋	掘鉢	
点数	1	5	1	7
重量(g)	5	170	53	228



3号竪穴遺構

位置 C59～61-I 69～71 Gr 重複 なし 平面形態 長方形 規模 東西 [4.0m] 南北3.34m

面積 [12.4m²] 深さ 40cm 主軸方位 N-1°-E

底面 全体に土坑・ピット状の浅い掘り込みがあり、凹凸が多い。南壁にテラス状の平坦面がある。底面全面が硬化している。

遺物 北東部を除いてほぼ全面から出土している。中世の遺物は内耳鍋だけであるが、縄文土器は69点、石器は9点出土している。

出土土器数量表

種別	軟質陶器	計
器種	内耳鍋	
点数	6	6
重量(g)	180	180

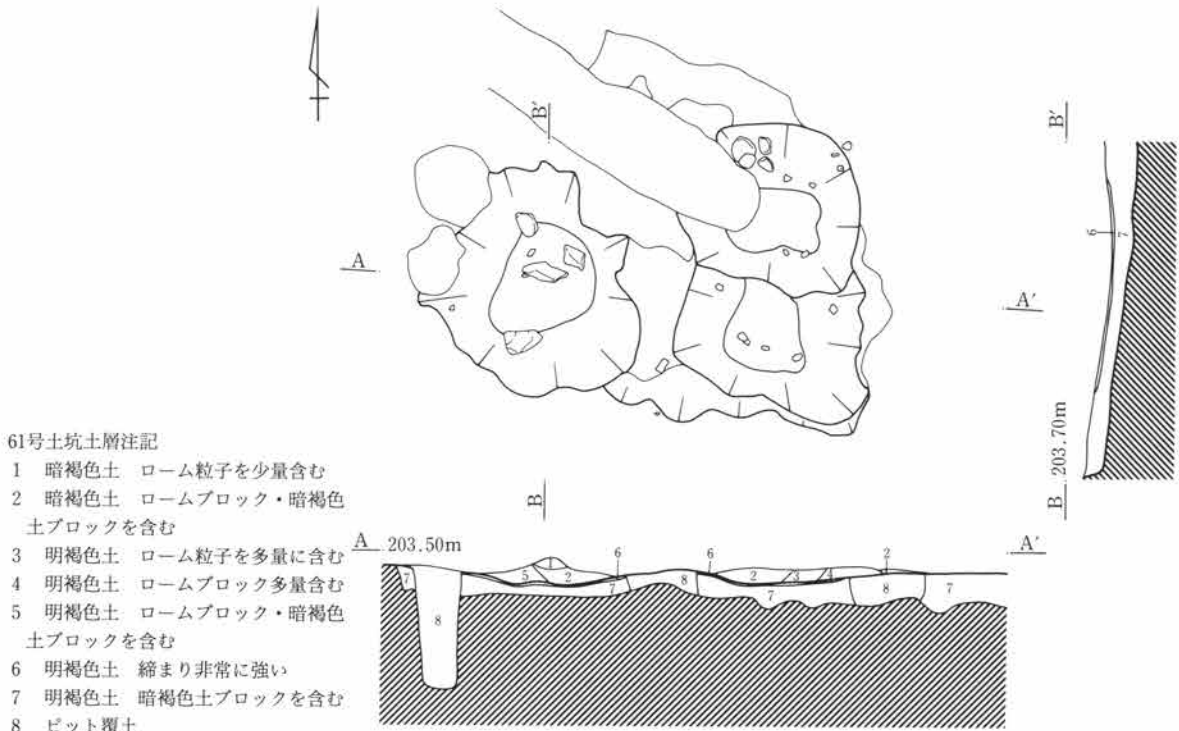
61号土坑

位置 C60～61-I 67～69 Gr 重複 5号掘立柱建物より古 平面形態 不正形

規模 東西3.54m 南北2.80m 面積 7.67m² 深さ 26cm 主軸方位 N-79°-W

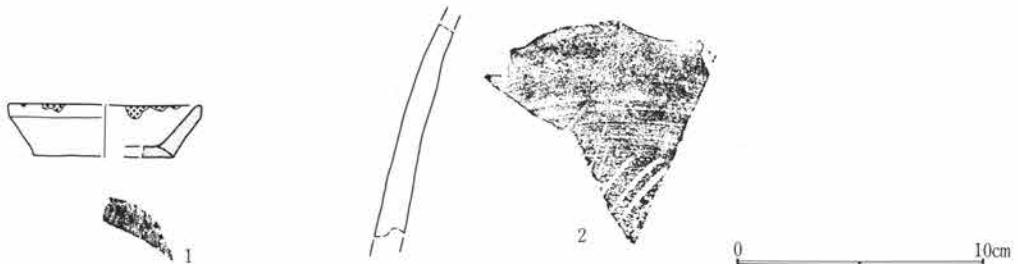
底面 土坑が3基つながった形態を呈し、底部が3カ所ある。上端から下端まで全面が硬化している。

遺物 中世の遺物は出土していない。縄文土器が17点と石匙が1点出土している。



第367図 61号土坑

0 2 m



第368図 2号竪穴出土遺物

2号竖穴出土土器観察表

No.	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整	分類	備考
1	土師質土 器 皿	①(7.8cm) ②(5.6cm) ③2.0cm ④口~底部片	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焰 ④細 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整 口縁部に煤・油煙付着	A 2	
2	軟質陶器 搦 鉢	器厚6~11mm ④胴部片	①黄灰 ②黄灰 ③良好 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 外面指頭圧痕	III	

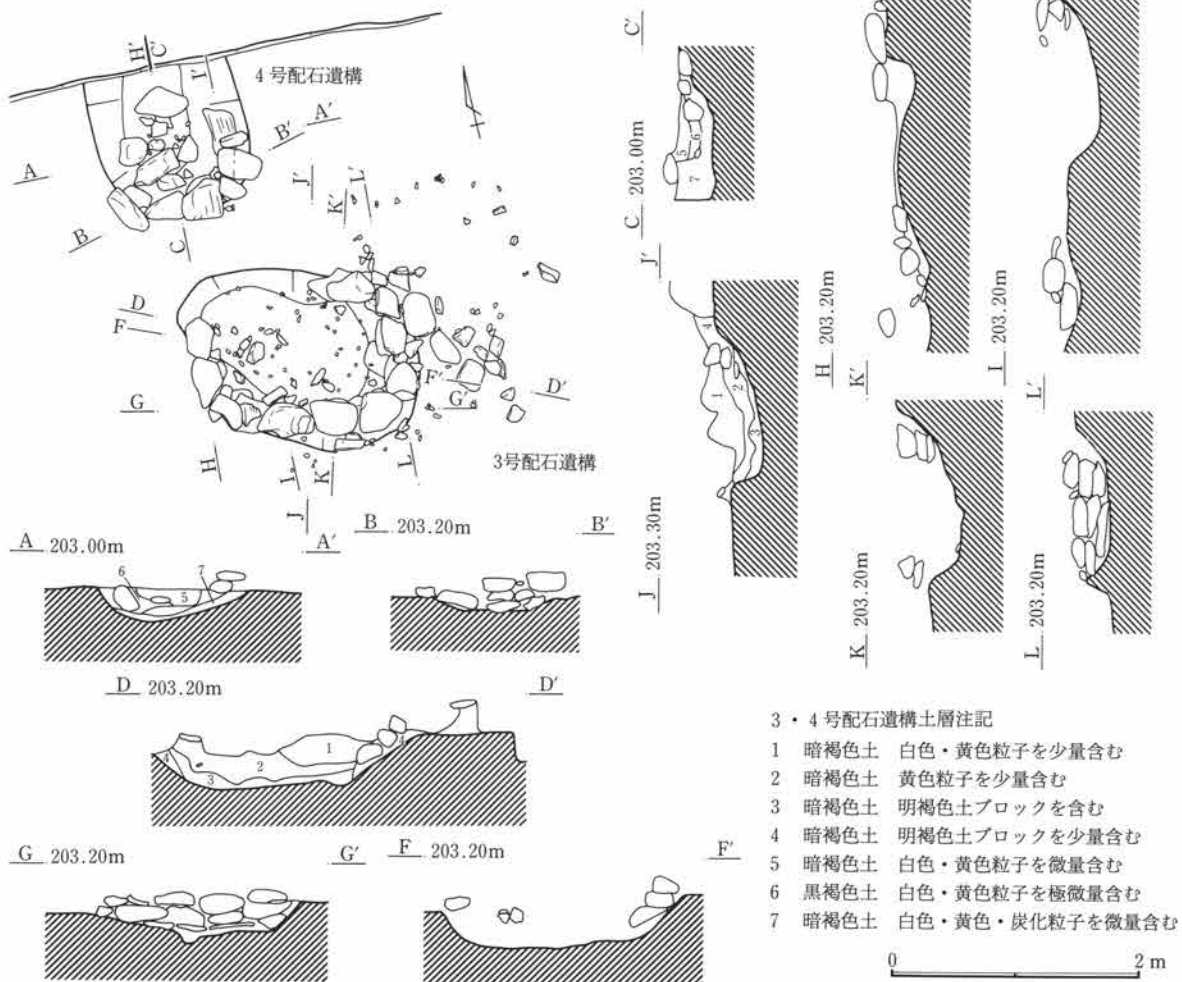
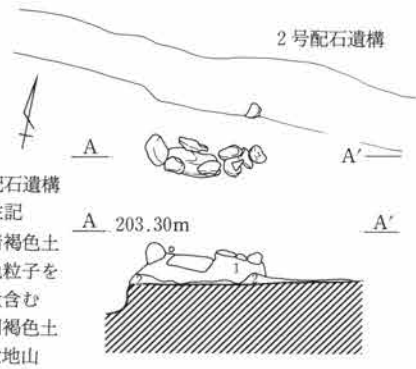
2号配石遺構

位置 C55~57-I65 Gr 重複 なし

規模 0.98m×0.3m

概要 径10~40cmの礫を直線状に配しているが、規模は小さい。中世の出土遺物はないが、整地面上にあり、東側に3・4号配石遺構が近接している、礫も同様のものを使用しているため、中世のものと判断した。

出土遺物 なし



第369図 2・3・4号配石遺構

3号配石遺構

位置 C56~57-I 67~68 Gr 重複 なし 平面形態 楕円形 規模 2.0m×1.34m

深さ 55cm 主軸方位 N-68°-W

配石状況 主に径30~40cmの礫を使用し、3段の小口積みで楕円形に配石しているが、北西部は抜き取られたためか検出されなかった。楕円形の掘り方の上端の内側に沿って置かれているが、一部その外側からも出土している。

掘り方 平面形態は楕円形で、深さは配石上面から55cmとかなりある。断面形は鍋底状を呈し、底面は平坦であるが立ち上がりは丸みを帯びている。

遺物 配石以外に覆土中から遺物が出土しているが、中世の土器は軟質陶器内耳鍋1点だけで、他は、土器が縄文土器170点、弥生土器2点、土師器7点、須恵器2点出土しており、配石として石皿2点・多孔石1点、打製石斧等の石器が15点出土している。

4号配石遺構

位置 C55~56-I 68 Gr 重複 なし 平面形態 円形(楕円形) 規模 (1.24)m×1.2m

深さ 38cm 主軸方位 N-S

配石状況 径20~40cmの礫を、2~3段の小口積みで円形に配石しているが、北側の配石は原位置を留めておらず、掘り方も調査区外に続いているため、北側に延びて楕円形になる可能性もある。

掘り方 北側は調査区外になるため全体の形状は不明であるが、楕円形になるものと考えられる。深さは38cmと3号配石遺構よりも浅く、断面形態は底面・立ち上がりとも丸みを帯びている。

遺物 土器は覆土中から土師質土器皿と軟質陶器内耳鍋が各1点出土しており、他に縄文土器が26点、土師器が1点出土している。石器は配石として石皿が1点出土している。

5号配石遺構

位置 C56~57-I 69~70 Gr

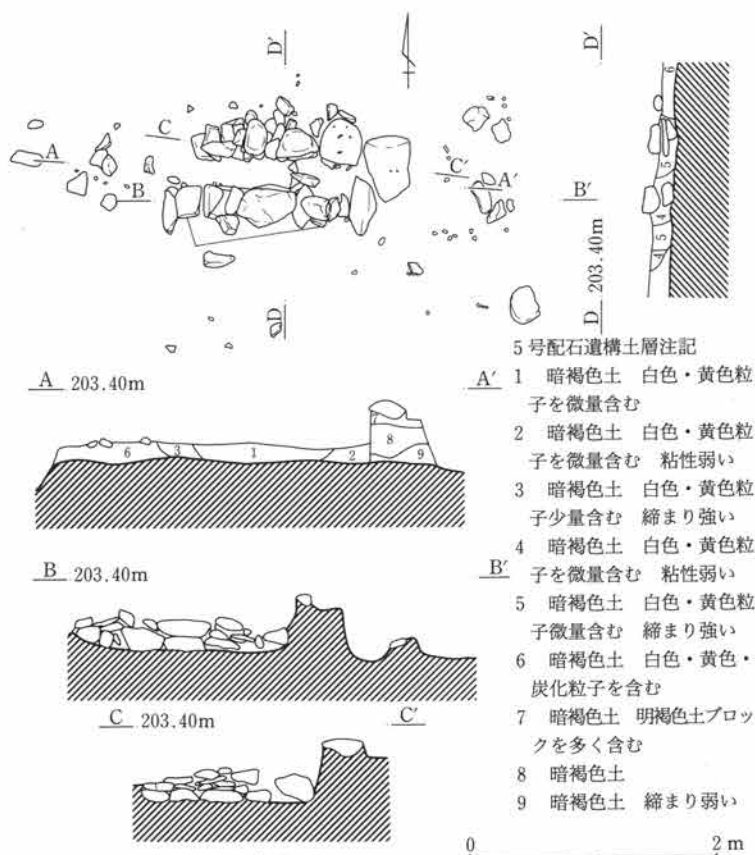
重複 なし 平面形態 長方形

規模 1.9m×1.0m

主軸方位 N-80°-W

配石状況 径20~40cmの比較的偏平な礫を2~3段の小口積みにし、長方形に配石しているが、東西の礫は原位置を留めていない可能性が高い。

掘り方 配石と同様の長方形の掘り方を持っていたと考えられるが、明確な形では検出できなかった。



第370図 5号配石遺構

遺物 土器は、覆土内から陶器碗が1点、他に縄文土器が77点出土している。石器は打製石斧等が13点出土している。

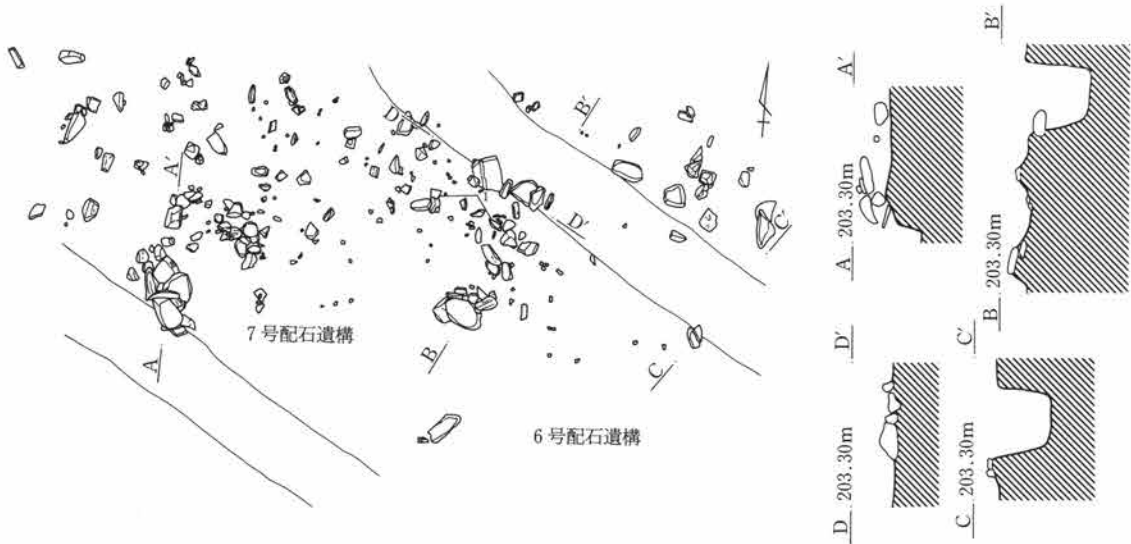
6・7号配石遺構

位置 C56~57-I70~72 Gr 重複 なし 規模 6.18m×3.12m 主軸方位 N-90°-W

配石状況 調査時点では6号と7号を別の配石としたが、連続しており、配石状況も近似しているため同一の遺構とした。径5~40cmとかなり大きさに差のある礫を不規則に配置している。

掘り方 検出できなかった。

遺物 土師質土器皿6点、軟質陶器内耳鍋4点、播鉢1点、縄文土器48点、弥生土器1点、配石として多孔石1点、他に石棒等の石器が4点出土している。



8号配石遺構

位置 C56~57-I73~75 Gr

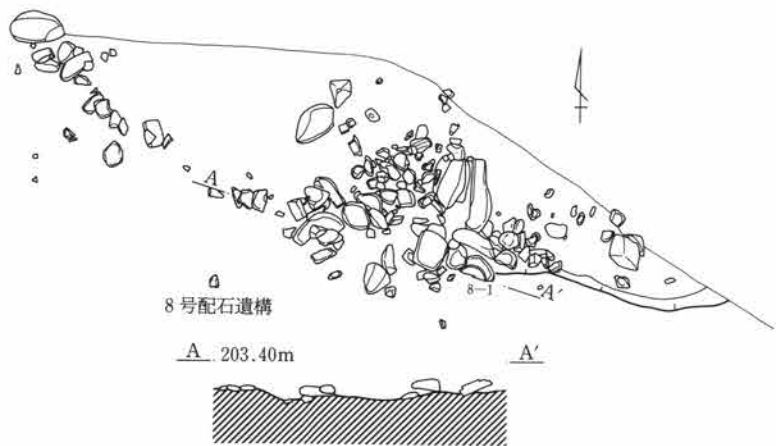
重複 なし

規模 6.1m×1.78m

主軸方位 N-68°-W

配石状況 径10~50cmと、大小の礫を取り混ぜて配石しているが、東側は2.0m×1.7mの楕円形の範囲のほぼ全面に集中しているのに対し、西側はほぼ直線状に配石している。

掘り方 検出できなかった。



0 2m

第371図 6・7・8号配石遺構

第三章 検出された遺構と出土遺物

遺物 土器の出土はなく、配石として石臼と不明石製品が出土している。

9号配石遺構

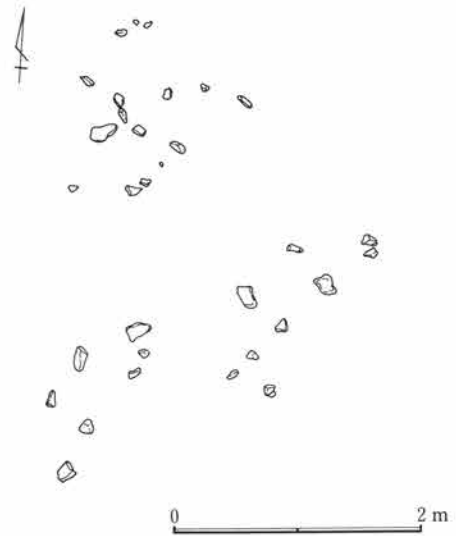
位置 C58～59—I74～75 Gr 重複 なし

規模 3.7m×2.5m

配石状況 径5～20cmの比較的小さな礫を不規則に配しており、他の配石遺構と比べ、配石もまばらで礫も小さいため、配石遺構とするには疑問が残るが、整地面上にあり他の配石遺構とも近いため遺構として扱った。

掘り方 検出できなかった。

遺物 配石以外には出土していない。



第372図 9号配石遺構

10号配石遺構

位置 C55～56—I77～80 Gr 重複 なし 規模 6.9m×2.8m 主軸方位 N-73°-W

配石状況 整地面の北西部の段になっている部分に、径5～40cmの礫を直線状に配石しており、これを中心として周囲にも礫がまばらに存在する。

掘り方 検出できなかった。



第373図 10号配石遺構

遺物 配石以外には出土していない。

11号配石遺構

位置 C60～61—I64～67 Gr 重複 なし 平面形態 くずれた長方形 規模 1.8m×1.28m

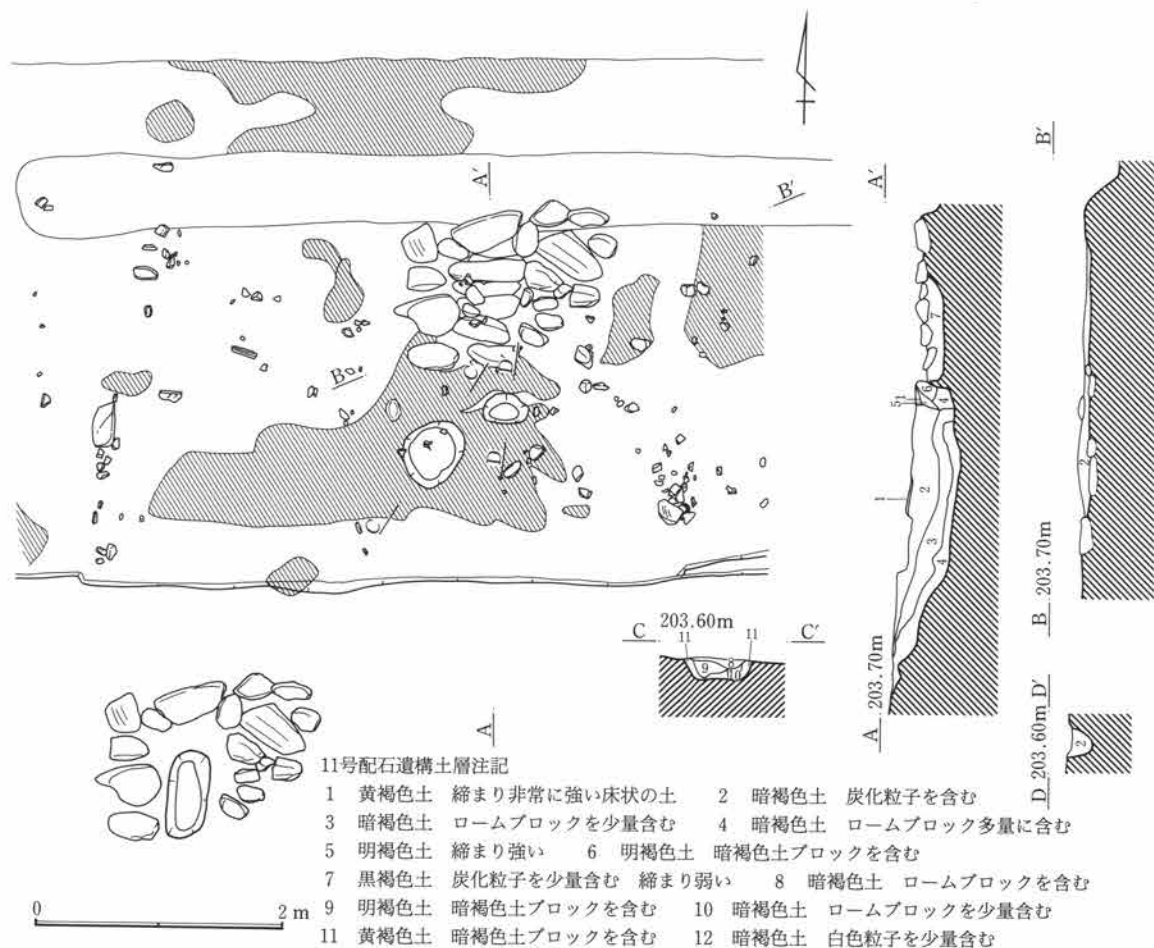
主軸方位 N-83°-E

配石状況 径20～50cmの比較的偏平な礫を南北に3列に配しているが、東側の列はやや乱れている。中央の

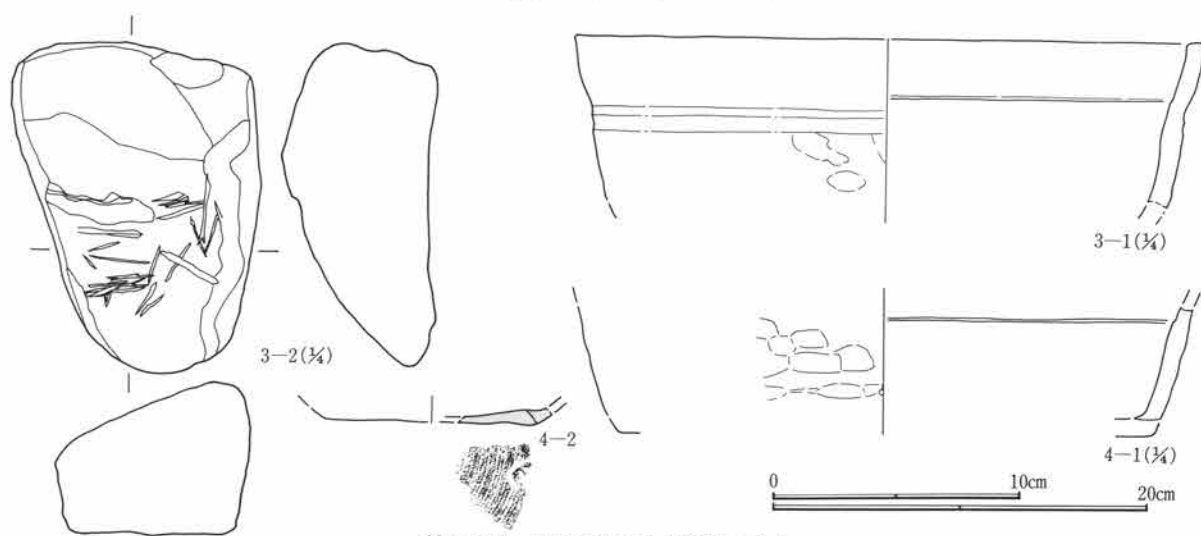
列の下に70cm×30cm深さ20cmの土坑が掘られている。配石の周囲は、東西7m南北5m程の範囲で硬化面が点在している。

掘り方 土坑以外にも周囲に掘り込みが存在した可能性はあるが、明確には検出できなかった。

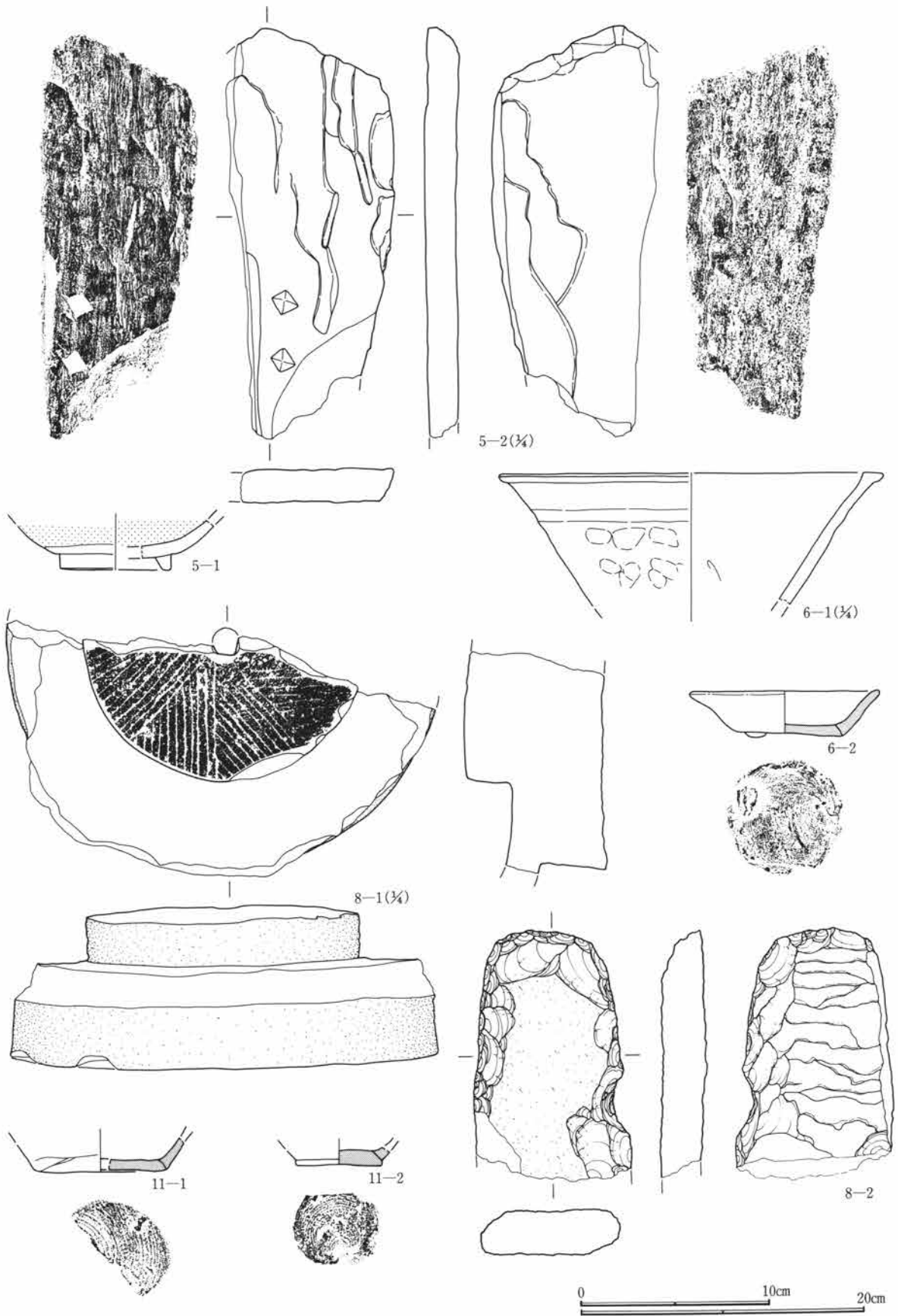
遺物 土器は、土師質土器が4点出土しており、他に縄文土器が26点、弥生土器が1点出土している。石製品は、石臼1点、砥石1点の他、配石として石皿1点、石棒等の石器が2点出土している。



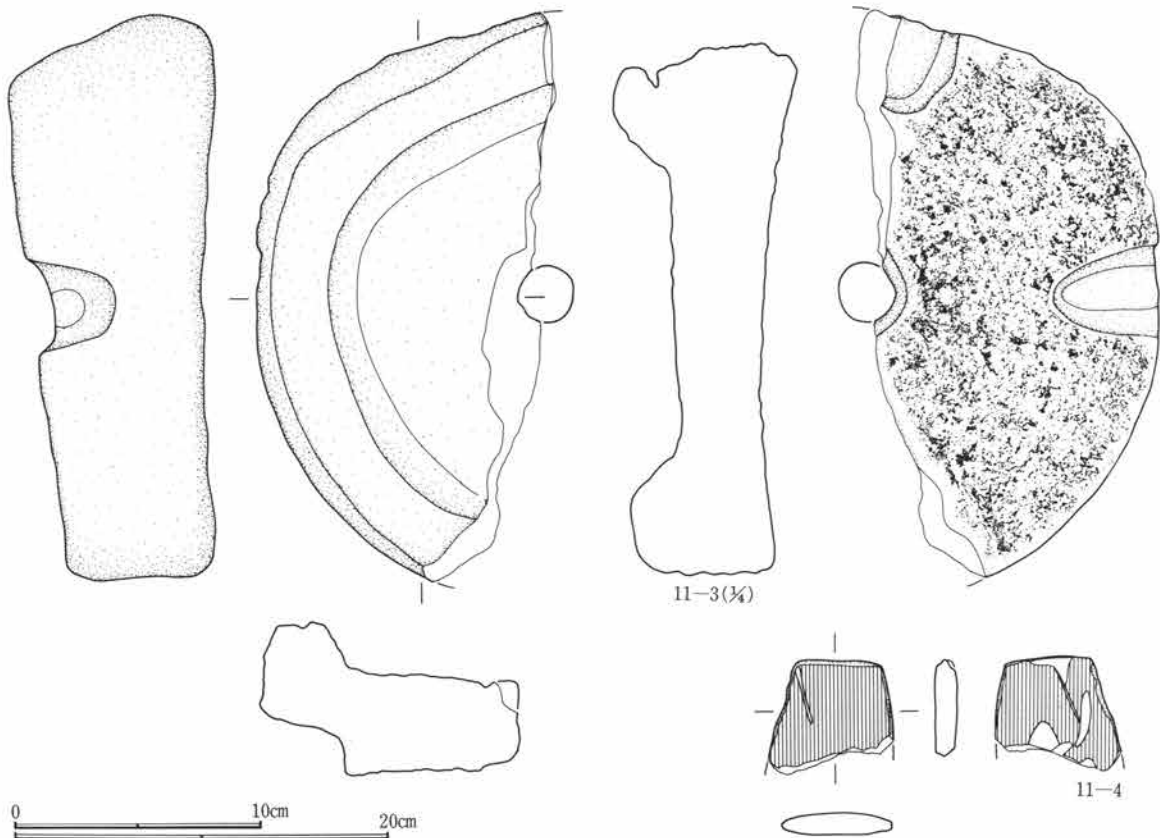
第374図 11号配石遺構



第375図 配石遺構出土遺物 (1)



第376図 配石遺構出土遺物（2）



第377図 配石遺構出土遺物（3）

配石遺構出土土器観察表

No.	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
3	軟質陶器	①(33.8cm)③[8.6cm]	①黒褐 ②黄灰 ③良好 還元焰	ロクロ調整 胴部外面に指頭圧痕を残す	I	
1	内耳鍋	④口縁部片	④普通 砂粒・雲母の細粒を含む		B	
4	軟質陶器	最大径(32.8cm)	①黒褐 ②黒褐 ③良好 酸化焰	ロクロ調整 胴部外面に指頭圧痕を残す	I	
1	内耳鍋	④胴部片	④普通 砂粒・雲母を少量含む			
4	土師質土	②(8.4cm) ③[0.5cm]	①橙 ②橙 ③良好 酸化焰	ロクロ調整 底部回転糸切り無調整	D	
2	器 皿	④底部片	④普通 砂粒を含む			
5	陶 器	①(5.8cm) ③[2.2cm]	①②釉は暗褐色・以外は浅黄色 ③良	ロクロ調整 付高台 外面体部下半まで		18世紀代
1	碗	④胴～底部片	好 還元焰 ④細 白色粒子を含む	施釉 内面全面施釉		
6	軟質陶器	①(26.8cm)③[9.2cm]	①にぶい橙 ②暗灰黄 ③良好 酸化焰	ロクロ調整 胴部に指頭圧痕あり	III	
1	播 鉢	④口縁部片	④普通 砂粒を含む			
6	土師質土	①10.0cm ②5.6cm	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸	ロクロ調整 底部回転糸切り無調整・粘	B	
2	器 皿	③2.3cm ④完形	化焰 ④細 砂粒・雲母を少量含む	土塊(1.7×1.1cm)付着	1	
11	土師質土	②(7.0cm) ③[1.4cm]	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整	C	
1	器 皿	④底部片	化焰 ④細 砂粒・雲母を少量含む	体部外面下半に輪積痕		
11	土師質土	②(4.6cm) ③[1.0cm]	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整	A	
2	器 皿	④底部片	化焰 ④細 砂粒・雲母を少量含む			

配石遺構出土石器観察表

No.	器 種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
3-2	不明	17.3	13.0	8.2	3100	完形	角閃岩	表面に線状のキズあり
5-2	板碑	[28.5]	[11.7]	[2.5]	1310	破片	点紋緑泥片岩	キリークの一部残る 両面赤化
8-1	石臼	[18.1]	[30.0]	9.9	4800	1/2	砂岩	茶白下白 8分割溝11~12本 臼口径(20cm)
8-2	不明	[17.5]	11.8	3.2	890	1/2	点紋緑泥片岩	側面にくびれあり 剝離痕・工具痕あり
11-3	石臼	[29.7]	[15.8]	8.8	4200	1/2	砂岩	粉挽き白上白 目なし白か 直径(28cm)
11-4	砥石	[4.5]	[4.8]	0.9	20	1/2	砂岩	2面使用

(4) 溝状遺構

1号溝

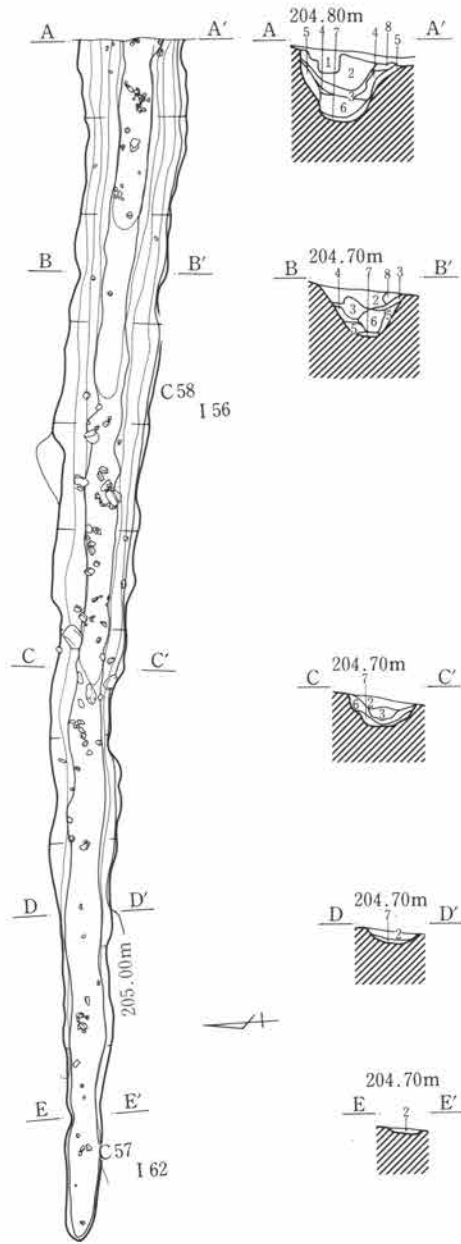
位置 C66~67-I 53~65 Gr 重複 なし

規模 長さ [24.12m] 幅1.6m~0.28m

深さ 112cm~8cm 走向 N-80°-E

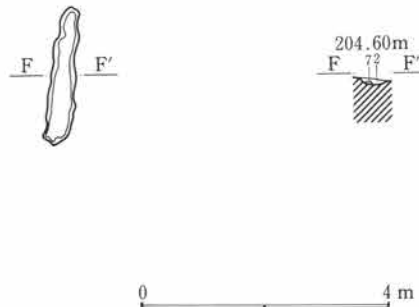
概要 調査区の東壁中央部から、整地面の南東部付近にかけて位置し、東は調査区外に続いている。西端は調査区壁から19.2mのところをいったん立ち上がっているが、さらに2.3mのところ、長さ2.28m幅0.48mの長い楕円形の浅い掘り込みが存在している。底部は東に向かって低くなっているため、結果として西側ほど浅くなって消滅しているため、上部がかなり削平されていることがわかる。そのため、溝の一部深くなっている部分が残ったものが、前述の浅い掘り込みであろう。平面形態も西側ほど幅が狭くなっている。断面形は台形を呈するが、底部はやや丸みを帯びている。外堀から30m北にあり、土塁にも近いため、内匠城に関係した遺構である可能性が高い。

遺物 ほぼ全面からまばらに礫・土器が出土しているが、中世の遺物は土師質土器皿1点と軟質陶器内耳鍋1点が出土しているだけである。他に縄文土器が45点、土師器坏が2点出土しており、石器は剥片が5点出土している。



1号溝土層注記

- 1 耕作土
- 2 黒褐色土 浅間B軽石を含む
- 3 黒褐色土 ロームブロックを含む
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む
- 5 褐色土 ロームブロックを多量に含む
- 6 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒子を多量に含む
- 7 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む
- 8 褐色土 ロームブロックを多量に含む



第378図 1号溝

(5) 掘立柱建物

1号掘立柱建物

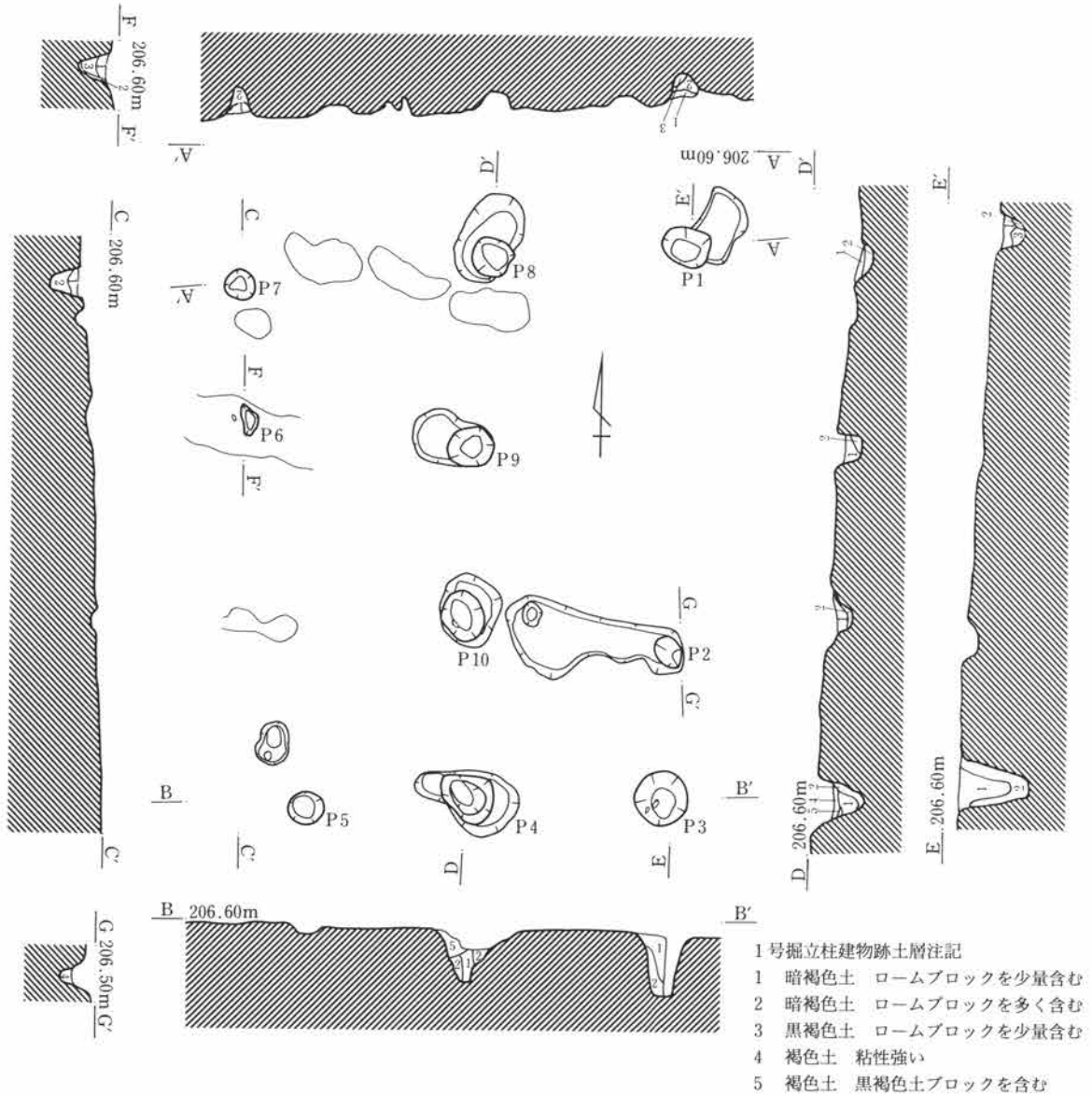
位置 C63~66-I 87~90 Gr 重複 なし
 規模 東西3.83m 南北4.98m 面積 19.07m²
 主軸方位 N-2°-W

柱穴計測表 (単位 cm)

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
長径	42	24	46	51	31	27	27	36	41	42
短径	32	19	46	49	27	15	26	32	33	35
深さ	25	13	62	46	9	5	27	19	23	23

概要 2間×3間の総柱の建物と考えられるが、北から2列目の東のピットがなく、3列目の西のピットもないが、4列目の西のピットに近接した位置にもう1基ピットが存在している。柱間は桁行が平均1.5m、梁行が平均1.8mである。中央の列のピットは、平均して比較的径が大きく、深さもある程度あるが、両脇の列のピットは柱穴とするには径が小さいものも多く、また深さの差が非常に大きく60cm近くある。このため掘立柱建物と断定するには疑問が残る。

出土遺物 中世の遺物はなく、縄文土器が2点、土師器甕が1点出土しているだけである。



第379図 1号掘立柱建物

2号掘立柱建物

位置 C57~59-II 4~6 Gr 重複 3号掘立・69号土坑と重複 規模 東西3.0m 南北3.77m

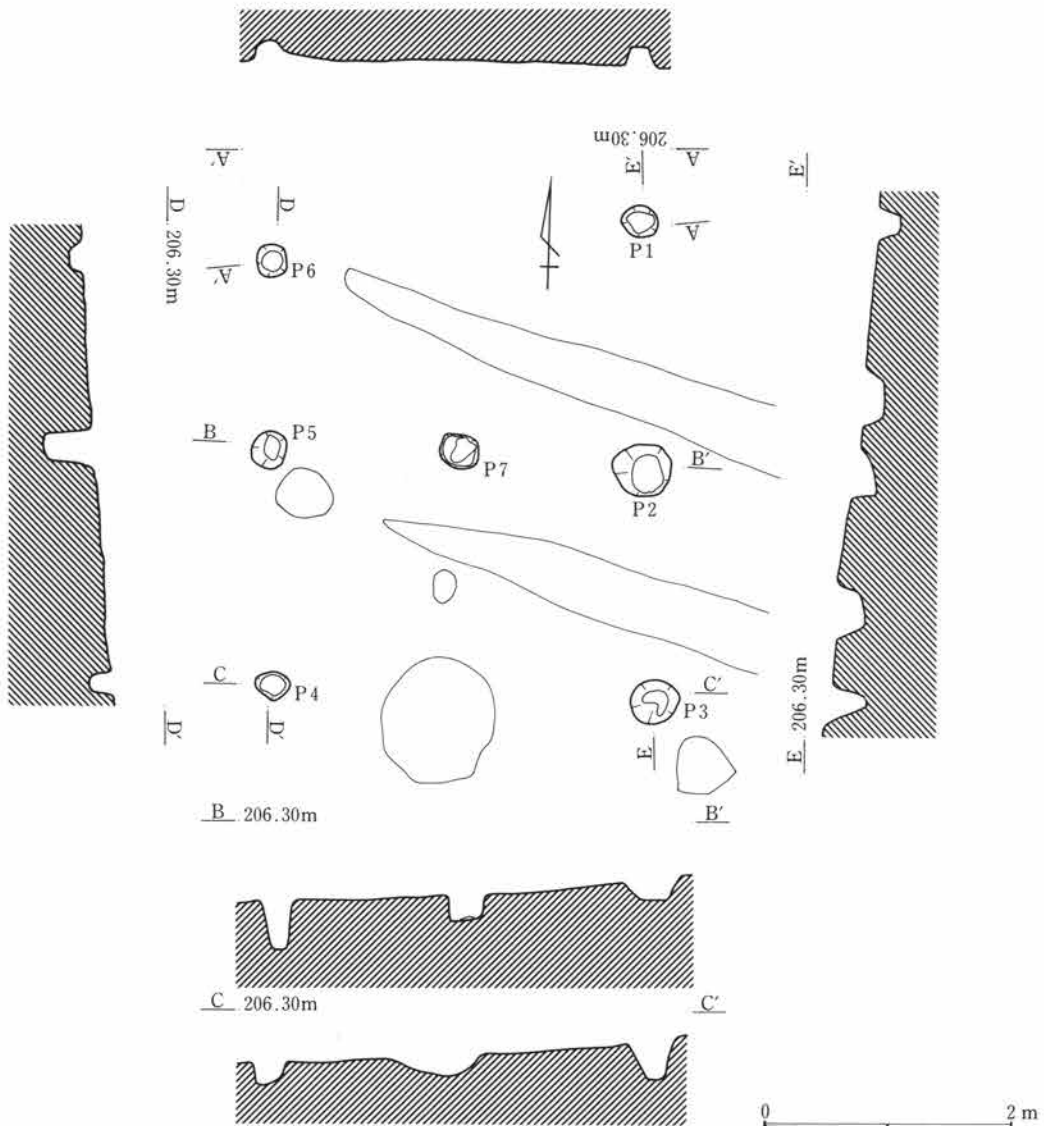
面積 11.31m² 主軸方位 N-7°-W

概要 2間×2間の掘立柱建物と考えられるが、南北ともに中央の柱穴が検出されず、中央の列のみ検出されている。柱間は桁行が平均1.9mであるがP5~P6間は1.5mと狭くなっており、梁行が平均1.5mとなっている。

出土遺物 なし

柱穴計測表 (単位 cm)

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
長径	28	47	40	27	31	28	34
短径	25	45	34	20	28	26	22
深さ	17	20	34	20	42	14	21



第380図 2号掘立柱建物

3号掘立柱建物

位置 C56~59-II 3~6 Gr 重複 2号掘立・69号土坑と重複 規模 東西4.0m 南北3.8m

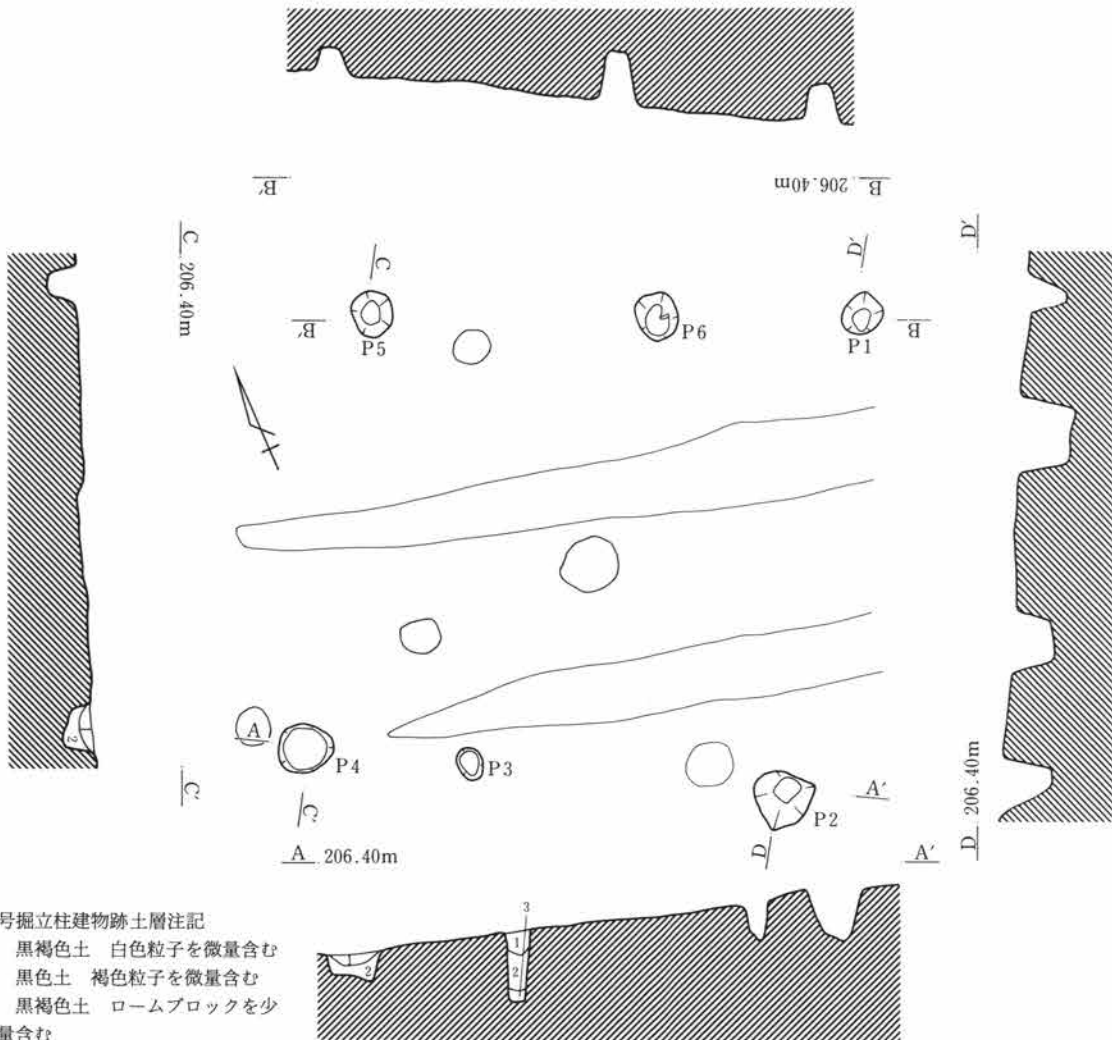
面積 15.2m² 主軸方位 N-60°-W

概要 1間×2間の掘立柱建物と考えられるが、北列と南列が東西にややずれており、平面形は長方形をつぶした形になっている。柱間は桁行が平均2.0m、梁行が3.7mとなっているが、P3は中央より大きく西に寄っており、P5はやや東に寄っている。

出土遺物 縄文土器が1点出土している。

柱穴計測表 (単位 cm)

	P1	P2	P3	P4	P5	P6
長径	34	46	28	45	36	37
短径	28	41	20	39	31	33
深さ	32	41	59	24	23	44



第381図 3号掘立柱建物

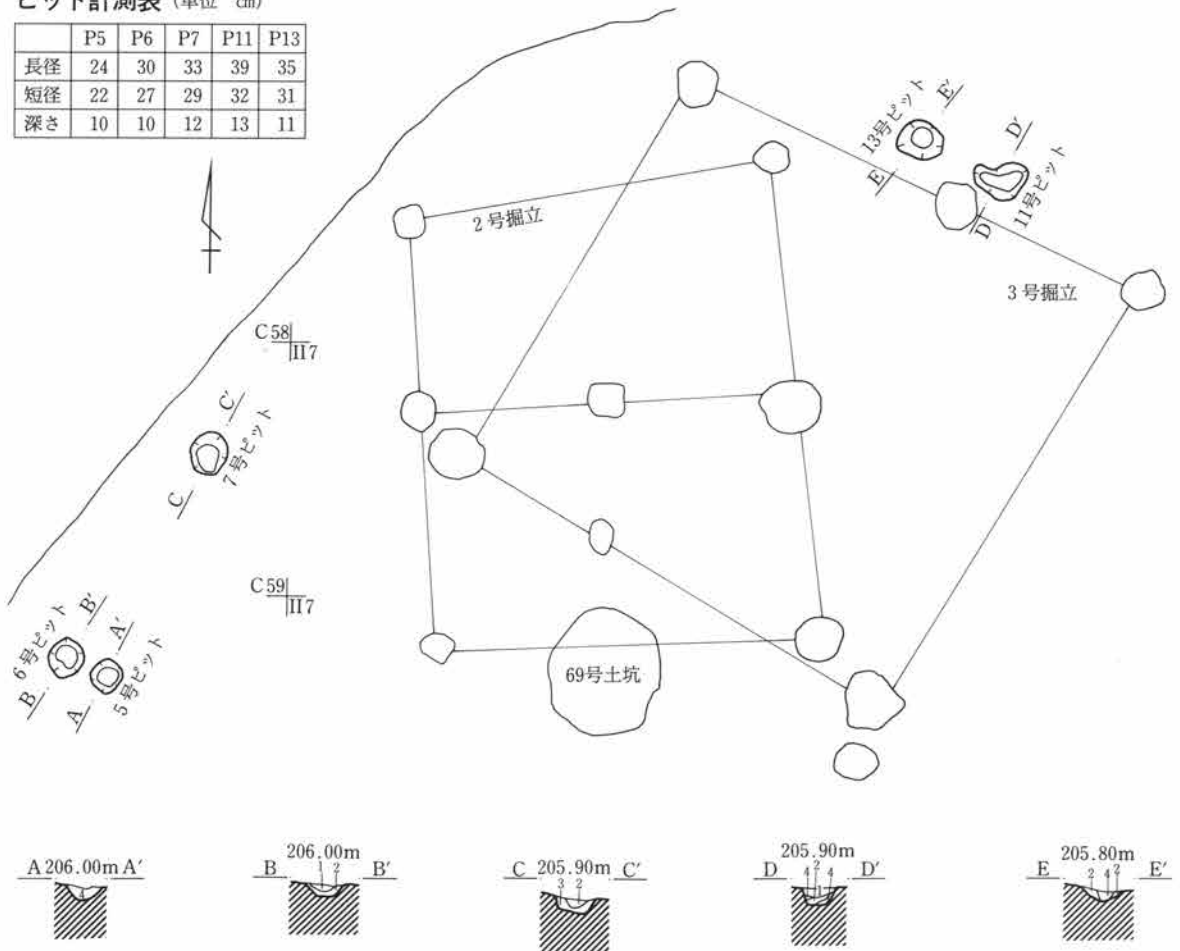
第三章 検出された遺構と出土遺物

2・3号掘立柱建物周辺ピット

2・3号掘立柱建物の周辺から5基ピットが検出されている。調査区外に広がり、掘立柱建物になる可能性もあるが、径が25~40cm、深さ10~13cmといずれも小規模で、掘立柱建物の柱穴より浅くなっている。

ピット計測表 (単位 cm)

	P5	P6	P7	P11	P13
長径	24	30	33	39	35
短径	22	27	29	32	31
深さ	10	10	12	13	11



5・6・7・11・12号ピット土層注記

- 1 黒色土 砂質を呈す 2 黒褐色土 砂質を呈す 3 暗褐色土 白色粒子を少量含む
- 4 黄褐色土 ロームをベースとする

0 2 m

第382図 5・6・7・11・13号ピット

(6) 井戸

1号井戸

位置 C68~69-II77 Gr 重複 なし 平面形態 円形 規模 1.9m×1.64m

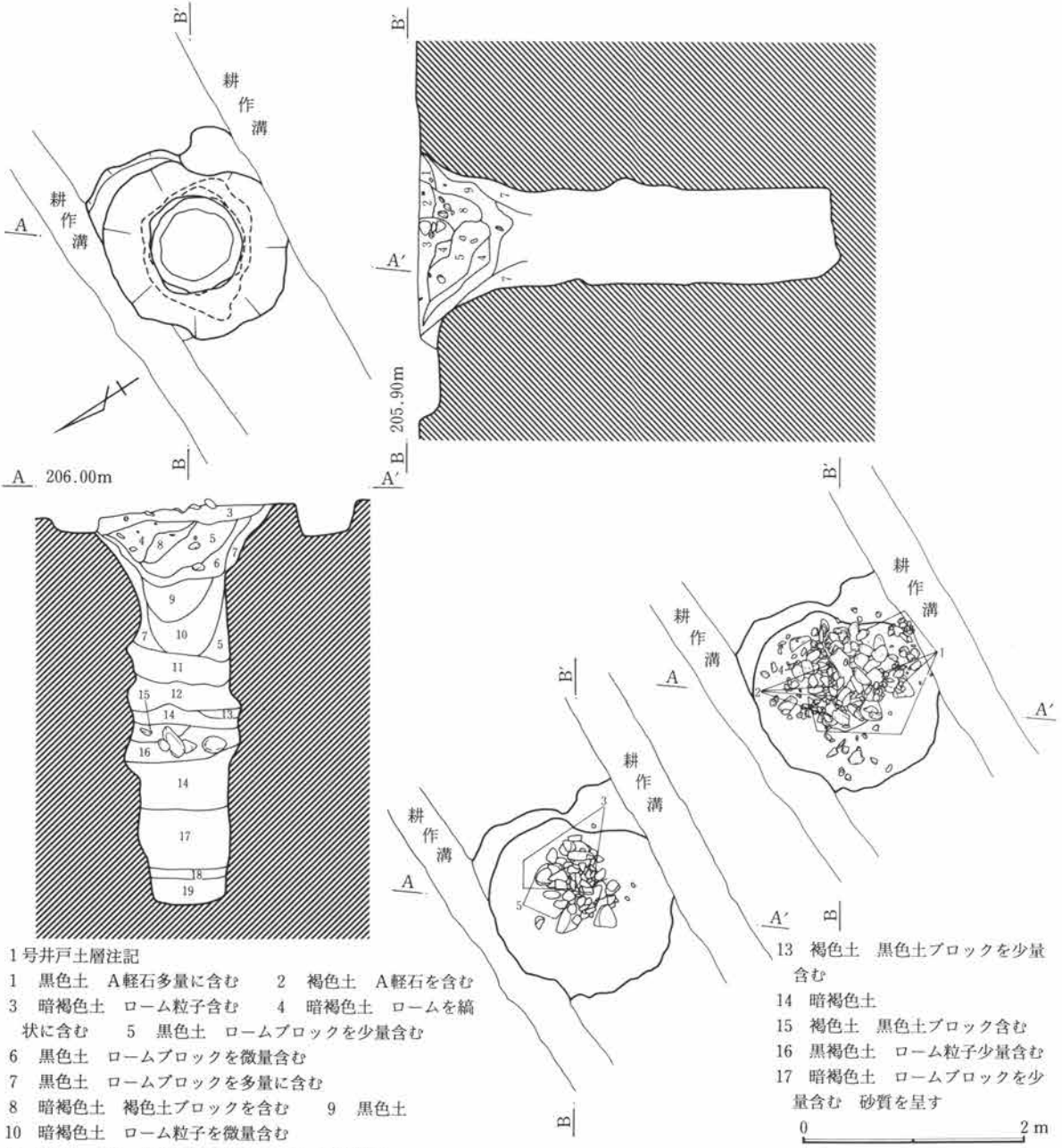
深さ 3.44m 面積 2.4m²

掘り方 深さ1mより上は次第に開いて行く朝顔形であるが、下は径90cm程の円筒形を呈し、底部は70cmの円形である。確認面からの深さ1.1~2.3mの間に部分的なアグリが見られる。

遺物出土状況 覆土最上層から1・2の内耳鍋が出土しており、ここから朝顔形に開いた元の部分に礫が集中している。また、中央やや下層にも礫が集中している。

出土遺物 土器は、軟質陶器内耳鍋9点、播鉢2点、陶器碗5点、計16点出土し、石製品は石臼1点と砥石1点が出土している。他に近世陶磁器5点、土師器3点、縄文土器67点、打製石斧1点、剥片が6点出土している。

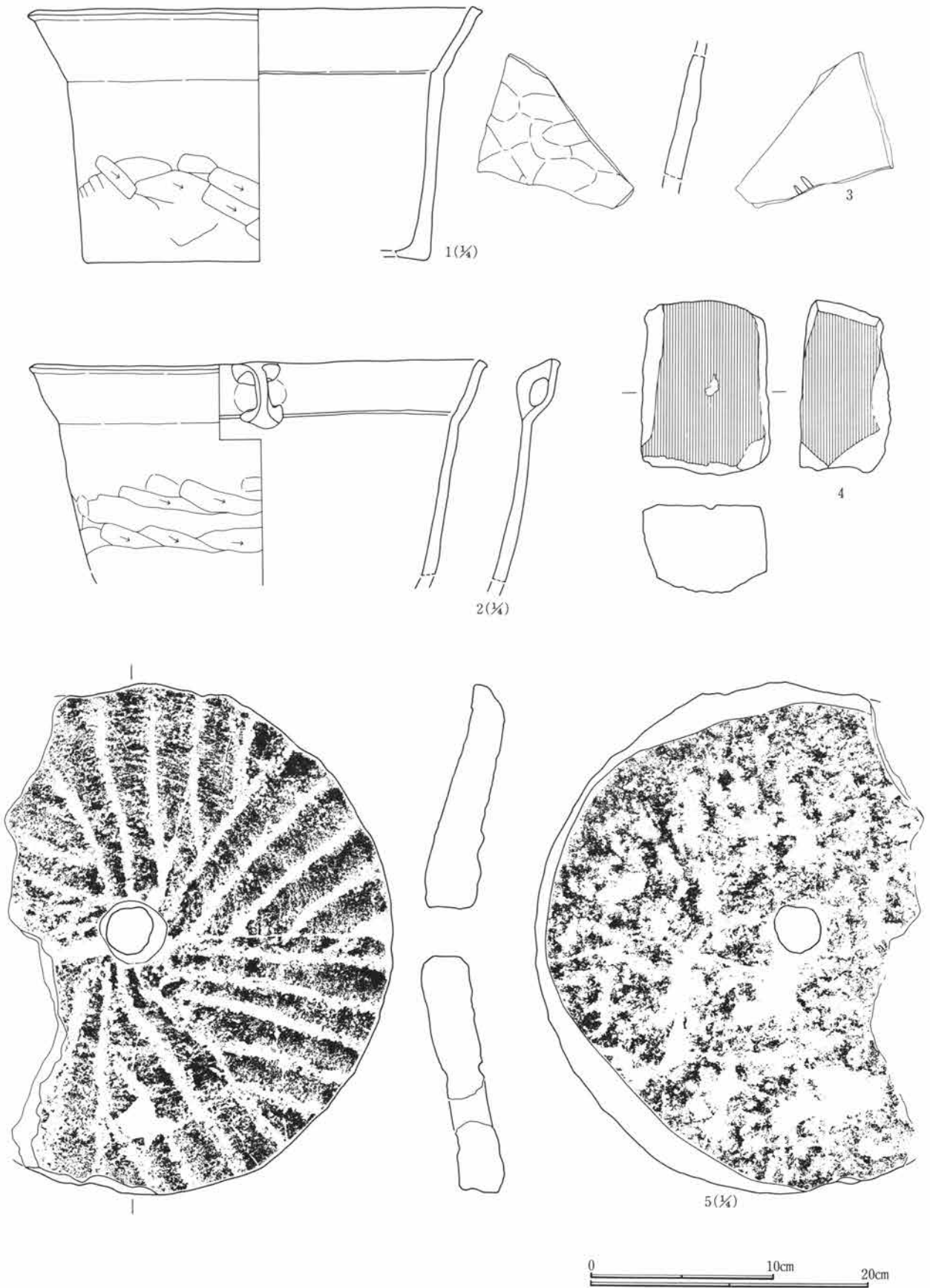
備考 7月下旬の調査で、湧水量が一晩で220ℓ（1時間に約10ℓ）あった。



1号井戸土層注記

- 1 黒色土 A軽石多量に含む
- 2 褐色土 A軽石を含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子含む
- 4 暗褐色土 ロームを縞状に含む
- 5 黒色土 ロームブロックを少量含む
- 6 黒色土 ロームブロックを微量含む
- 7 黒色土 ロームブロックを多量に含む
- 8 暗褐色土 褐色土ブロックを含む
- 9 黒色土
- 10 暗褐色土 ローム粒子を微量含む
- 11 黒色土 ロームを縞状に含む
- 12 暗褐色土
- 13 褐色土 黒色土ブロックを少量含む
- 14 暗褐色土
- 15 褐色土 黒色土ブロック含む
- 16 黒褐色土 ローム粒子少量含む
- 17 暗褐色土 ロームブロックを少量含む 砂質を呈す

第383図 1号井戸



第384図 1号井戸出土遺物(1)

1号井戸出土土器観察表

No.	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	軟質陶器 内耳鍋	①31.5cm ③17.8cm ④口~底部迄	①褐灰 ②褐灰 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・礫を含む	ロクロ調整 胴部外面下半篋削り・ナデ 内耳は不明	I A	
2	軟質陶器 内耳鍋	①32.2cm ③[15.8cm] ④口~胴部	①黒褐 ②黒褐 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面下半篋削り後ナデ 内耳貼付け	I A	
3	軟質陶器 捕鉢	器厚6~10mm ④胴部片	①褐灰 ②褐灰 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 外面指頭圧痕あり	III	

1号井戸出土石器観察表

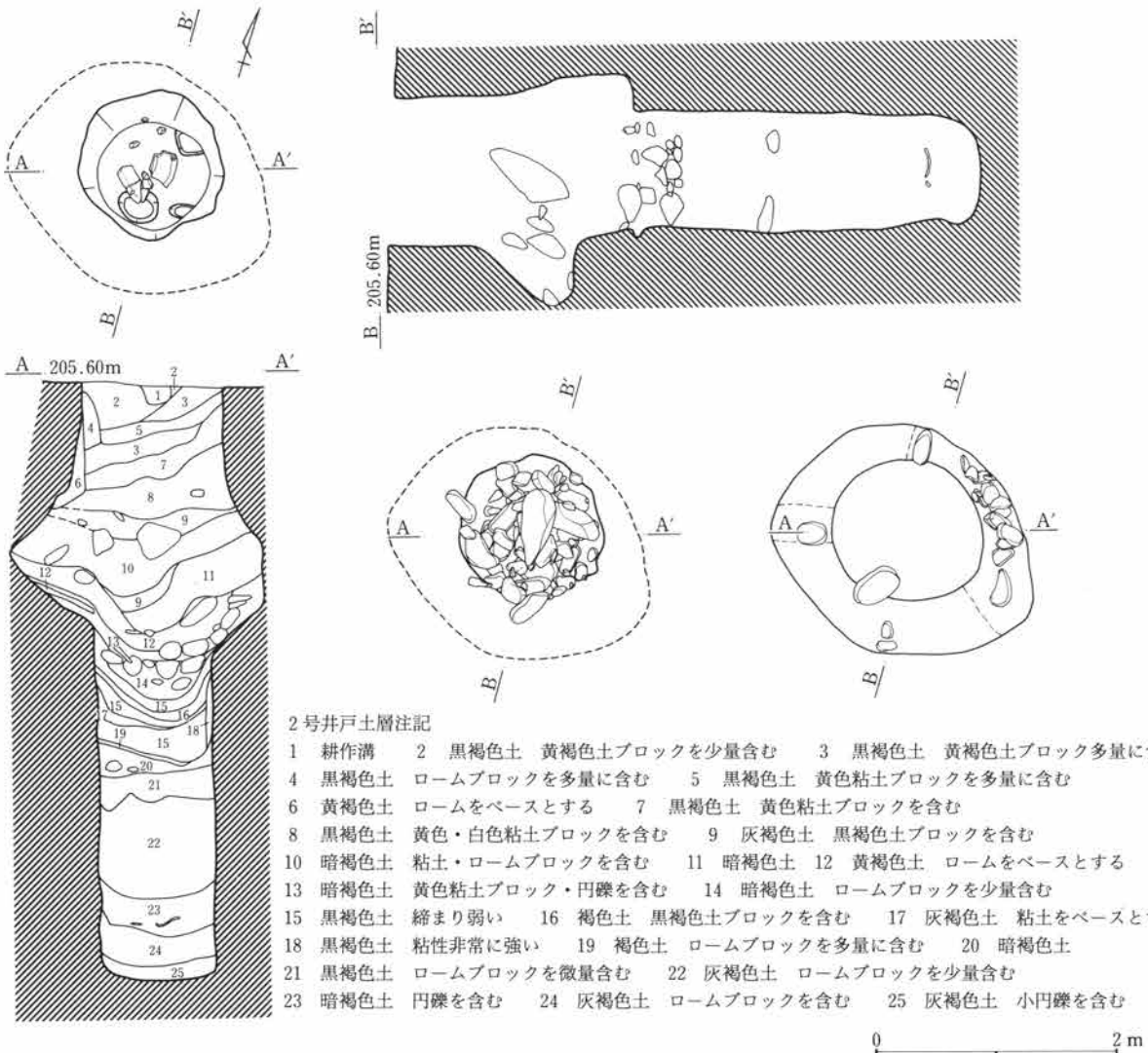
No.	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
4	砥石	9.2	6.9	4.9	480	完形	流紋岩	2面使用
5	石臼	36.4	[27.9]	5.4	4900	%	安山岩	粉挽き臼下臼 6分割溝4~5本 直径36.4cm

2号井戸

位置 C55-II92~93 Gr 重複 なし 平面形態 楕円形 規模 2.24m×1.8m

深さ 4.84m 面積 3.0m²

掘り方 確認面からの深さ0.9m~2.2mの部分にアグリがあり、その上部は径約120cm、下部は約95cmの円筒



第385図 2号井戸

第III章 検出された遺構と出土遺物

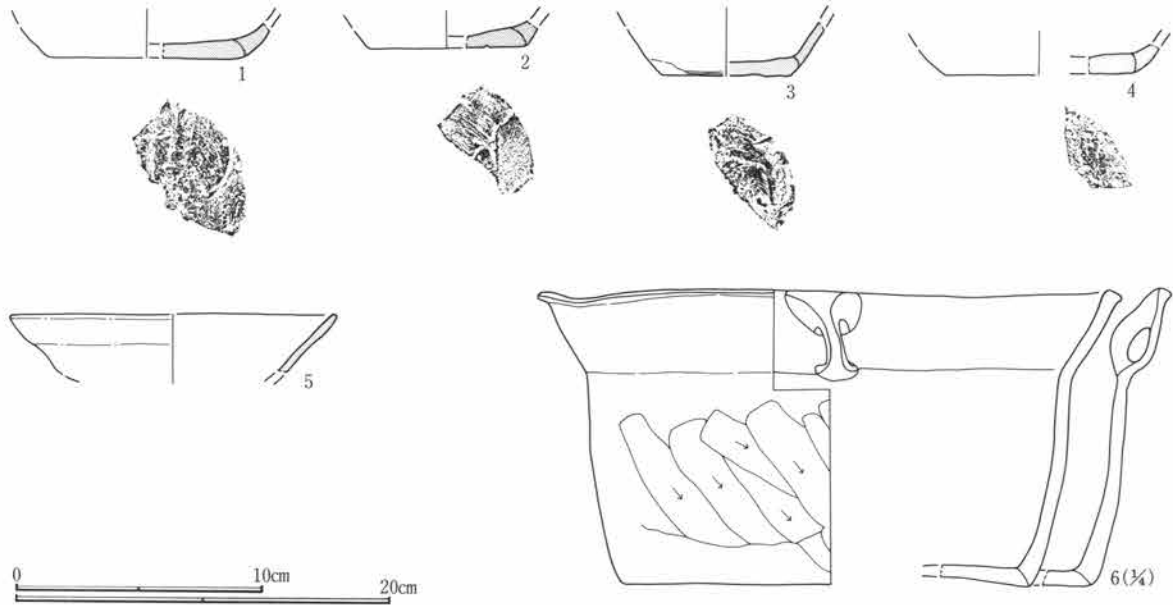
形を呈する。底部は径80cmの円形である。アグリ部の径は190cmある。

遺物出土状況 アグリ部およびその下方に礫が集中して出土しており、アグリ部下面は石組で補強している。

下層の底面から40cm上の位置に内耳鍋の破片が出土している。

出土遺物 中世の遺物としては、軟質陶器内耳鍋12点、土師質土器皿15点が出土し、他に土師器15点、須恵器1点、縄文土器18点が出土している。

備考 8月の調査で、湧水量が1時間に20ℓあった。



第386図 2号井戸出土遺物

2号井戸出土土器観察表

No.	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師質土器 皿	①(7.6cm) ③[1.4cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい褐 ②明赤褐 ③良好 酸化焙 ④細 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・板状圧痕・内面ナデ	D	
2	土師質土器 皿	②(6.4cm) ③[1.0cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①褐 ②にぶい褐 ③良好 酸化焙 ④細 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・内面ナデ	C	
3	土師質土器 皿	②(5.2cm) ③[2.1cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 酸化焙 ④細 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・内面ナデ	B 2	
4	土師質土器 皿	①(7.6cm) ③[1.1cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 酸化焙 ④細 砂粒・雲母を微量含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調整	D	
5	土師質土器 皿	①(13.0cm) ③[2.3cm] ④口縁部 $\frac{1}{4}$	①にぶい赤褐 ②にぶい橙 ③良好 酸化焙 ④細 砂粒・雲母を微量含む	ロクロ調整	C 1	
6	軟質陶器 内耳鍋	①30.6cm ②21.8cm ③15.6cm ④底部一部欠	①褐灰 ②褐灰 ③良好 還元焙 ④粗 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面篋削り後ナデか	I A	

3号井戸

位置 C69~70-I 11~12 Gr 重複 なし 平面形態 円形 規模 1.5m×1.3m

深さ 3.52m 面積 1.52㎡

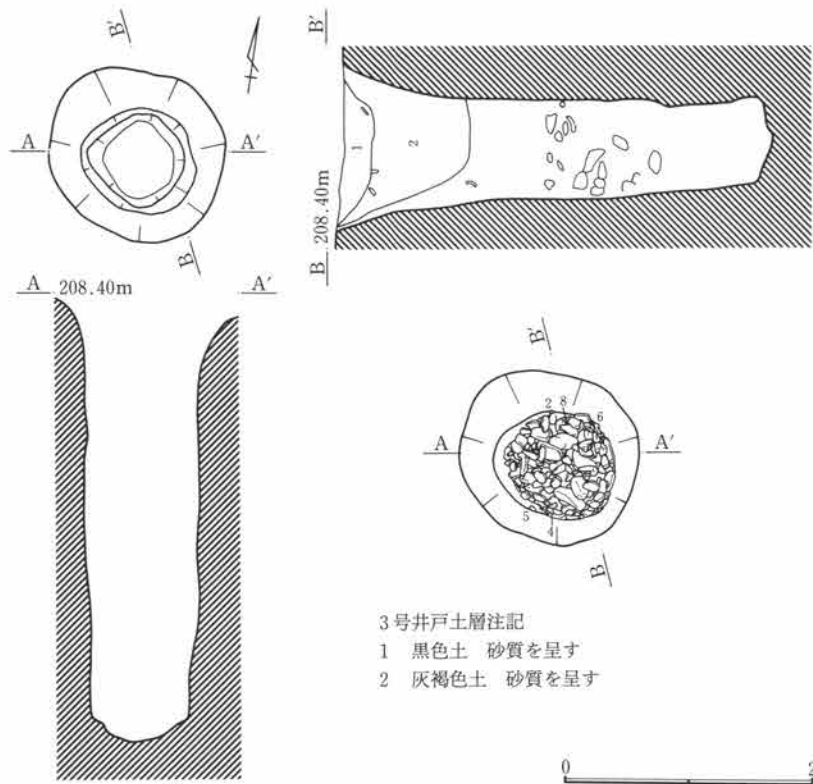
掘り方 確認面より約50cmのところから上は朝顔形に開くが、下は径90cm程の円筒形を呈す。底部は径60cmの円形である。顕著なアグリは見られない。

遺物出土状況 覆土中位からやや下にかけて、礫が集中して出土している。

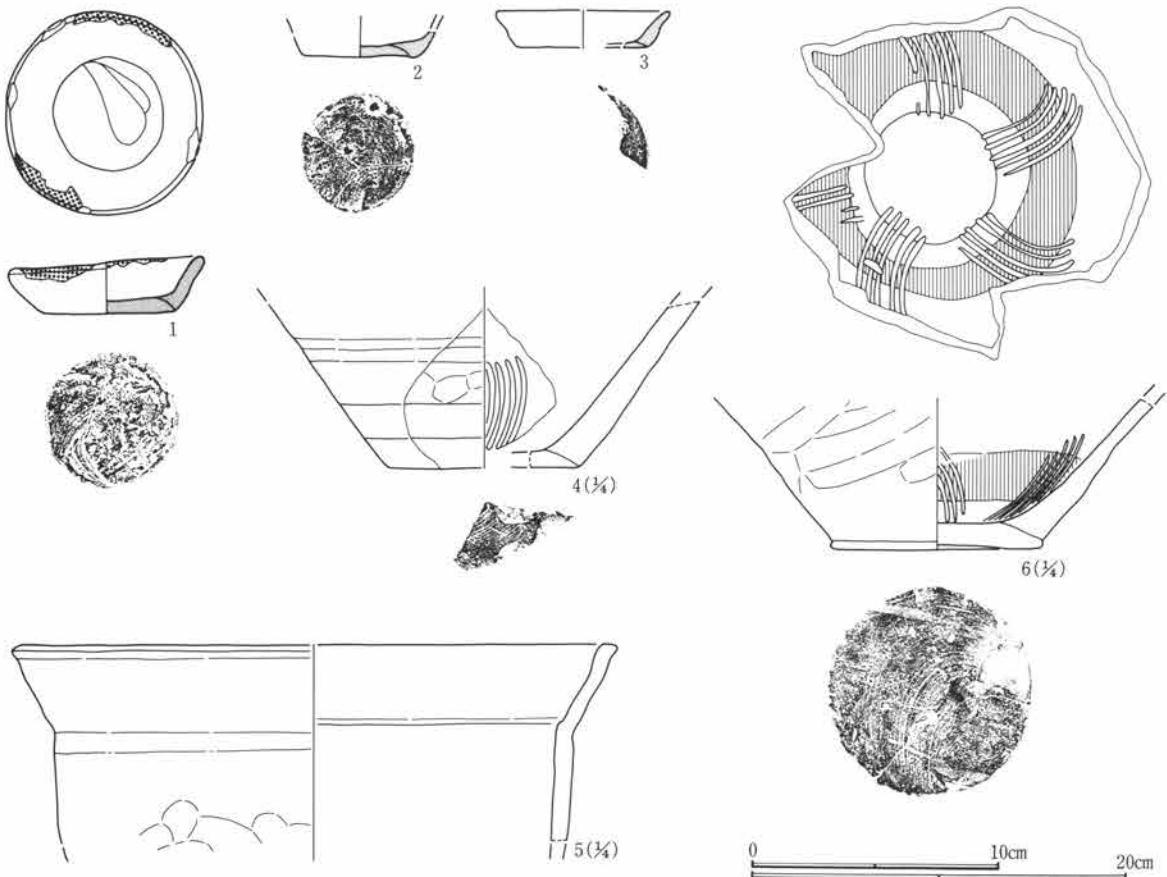
出土遺物 中世の遺物としては、軟質陶器内耳鍋5点、播鉢2点、土師質土器皿6点、陶器碗5点、計16点

と鉄製品1点が出土しており、他に土師器2点、縄文土器34点、石器としてくぼみ石、石皿、多孔石、剝片が各1点出土している。

備考 9月の調査で、1日の湧水量は360ℓ（1時間15ℓ）である。

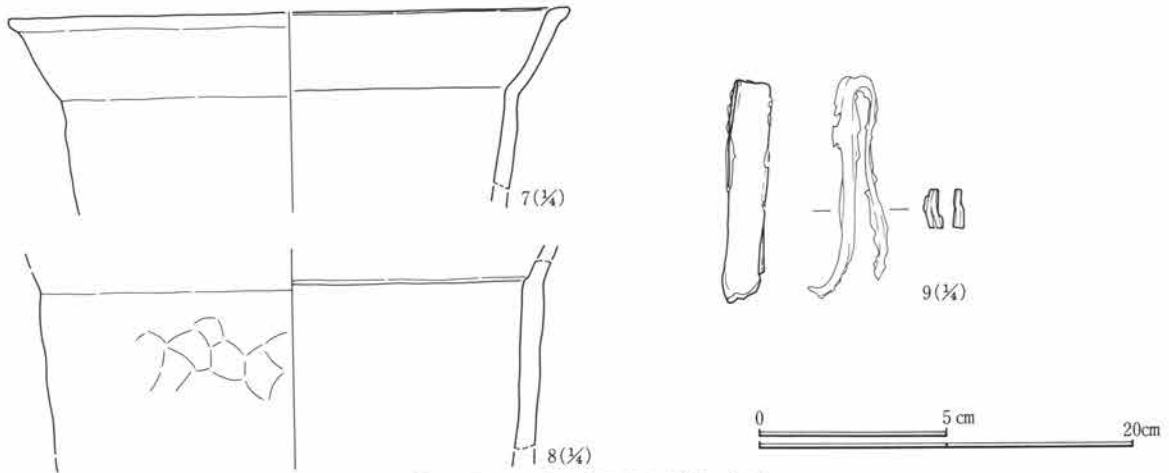


第387図 3号井戸



第388図 3号井戸出土遺物（1）

第III章 検出された遺構と出土遺物



第389図 3号井戸出土遺物(2)

3号井戸出土土器観察表

No.	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整	分類	備考
1	土師質土器 皿	①7.9cm ②5.0cm ③2.3cm ④完形	①橙 ②橙 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・パミスを少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・板状圧痕・内面ナデ	A 2	口縁部に油煙附着
2	土師質土器 皿	①4.6cm ③[1.0cm] ④底部	①橙 ②橙 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・粘土塊附着	A	
3	土師質土器 皿	①(7.0cm) ②(5.0cm) ③1.4cm ④口~底部 $\frac{1}{2}$	①黒 ②にぶい黄橙 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・雲母微量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	A 1	
4	陶器 播鉢	②(10.4cm) ③[8.8cm] ④胴~底部片	①灰黄褐 ②灰黄 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・白色粒子を少量含む	ロクロ調整 胴部外面押さえ・回転篋ナデ 底部回転糸切り無調整	III	内面摩滅著しい
5	軟質陶器 土鍋	①[32.4cm] ③[10.9cm] ④口~胴部 $\frac{1}{2}$	①灰 ②灰 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整 胴部下半指頭圧痕	I A	
6	陶器 播鉢	②11.0cm ③[8.3cm] ④胴~底部	①灰 ②灰 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・礫を含む	ロクロ調整 胴部外面指頭圧痕・回転篋削りか 内面中位摩滅著しい	III	
7	軟質陶器 土鍋	①(30.0cm) ③[9.4cm] ④口~胴部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整	I A	
8	軟質陶器 土鍋	最大径27.6cm ④胴部片	①黒褐 ②にぶい橙 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面上半指頭圧痕・下半ナデか	I A	

3号井戸出土鉄器観察表

No.	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特徴
9	不明	[5.8]	[1.4]	[0.3]	10.0	一部欠損	ピンセット状の鉄製品

4号井戸

位置 C73-II15~16 Gr 重複 なし

平面形態 円形 規模 1.16m×1.0m

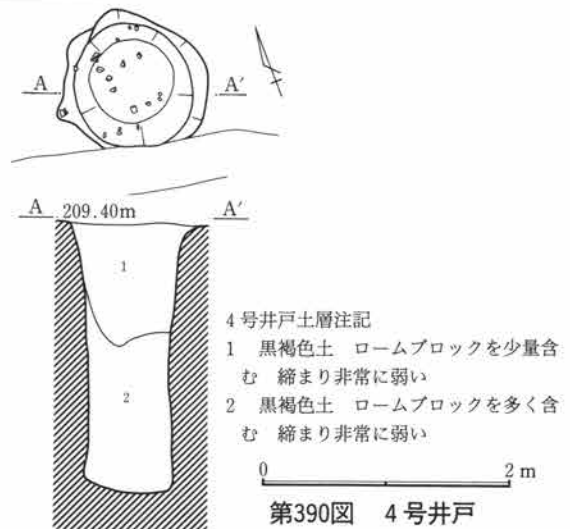
深さ 2.5m 面積 0.9m²

掘り方 径70cm程の円筒形であるが、確認面からの深さ20cmより上はやや開いている。底部は径65cmの円形である。

遺物出土状況 礫の出土はほとんど無く、土器片が少量出土しただけである。

出土遺物 中世の遺物の出土はなく、土師器が3点、縄文土器が3点、剥片が3点出土している。

備考 底部が湧水点に達していないため、掘削途中で廃棄された井戸と考えられる。



第390図 4号井戸

5号井戸

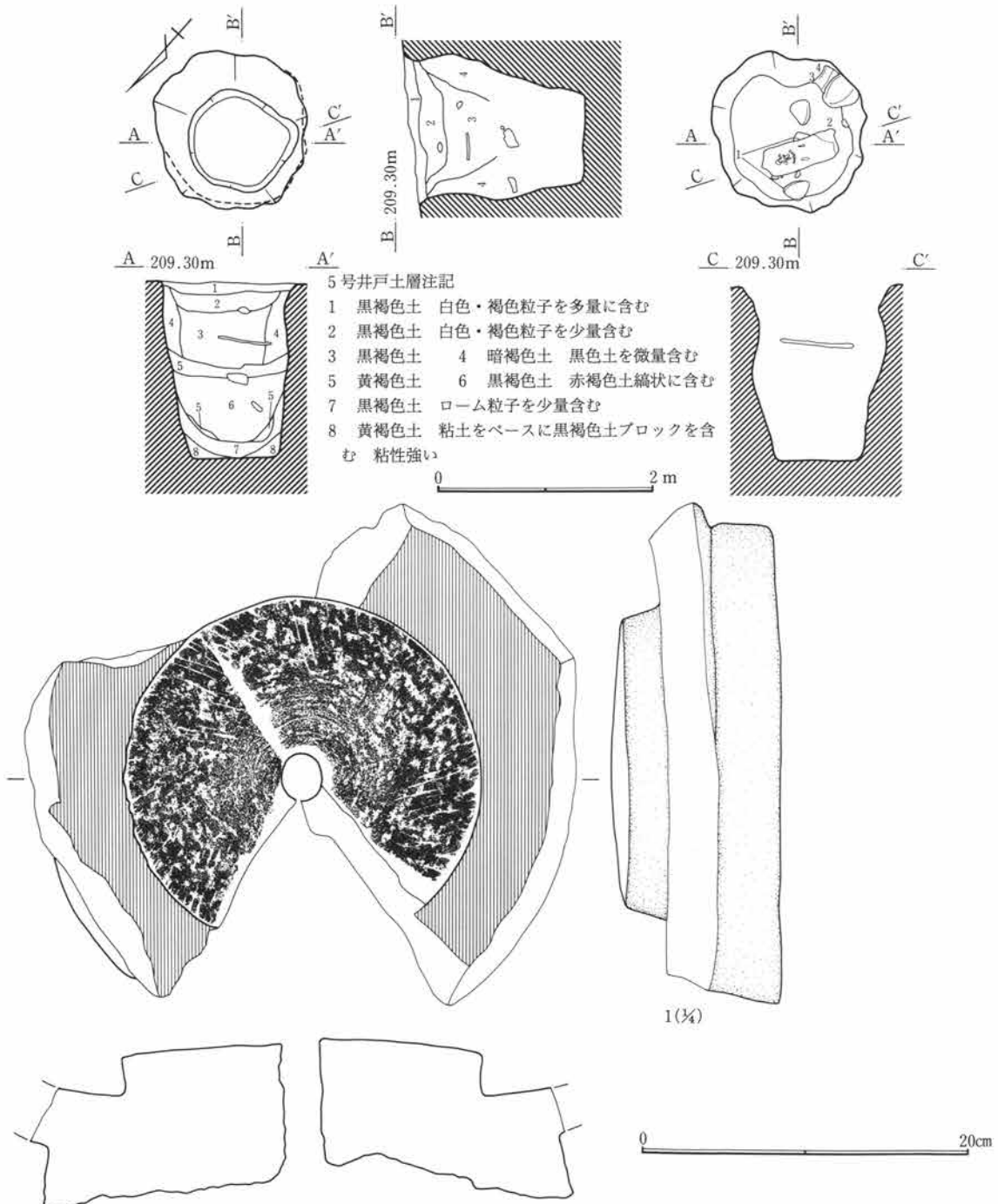
位置 C85-II46~47 Gr 重複 なし 平面形態 円形 規模 1.48m×1.4m

深さ 1.64m 面積 1.59㎡

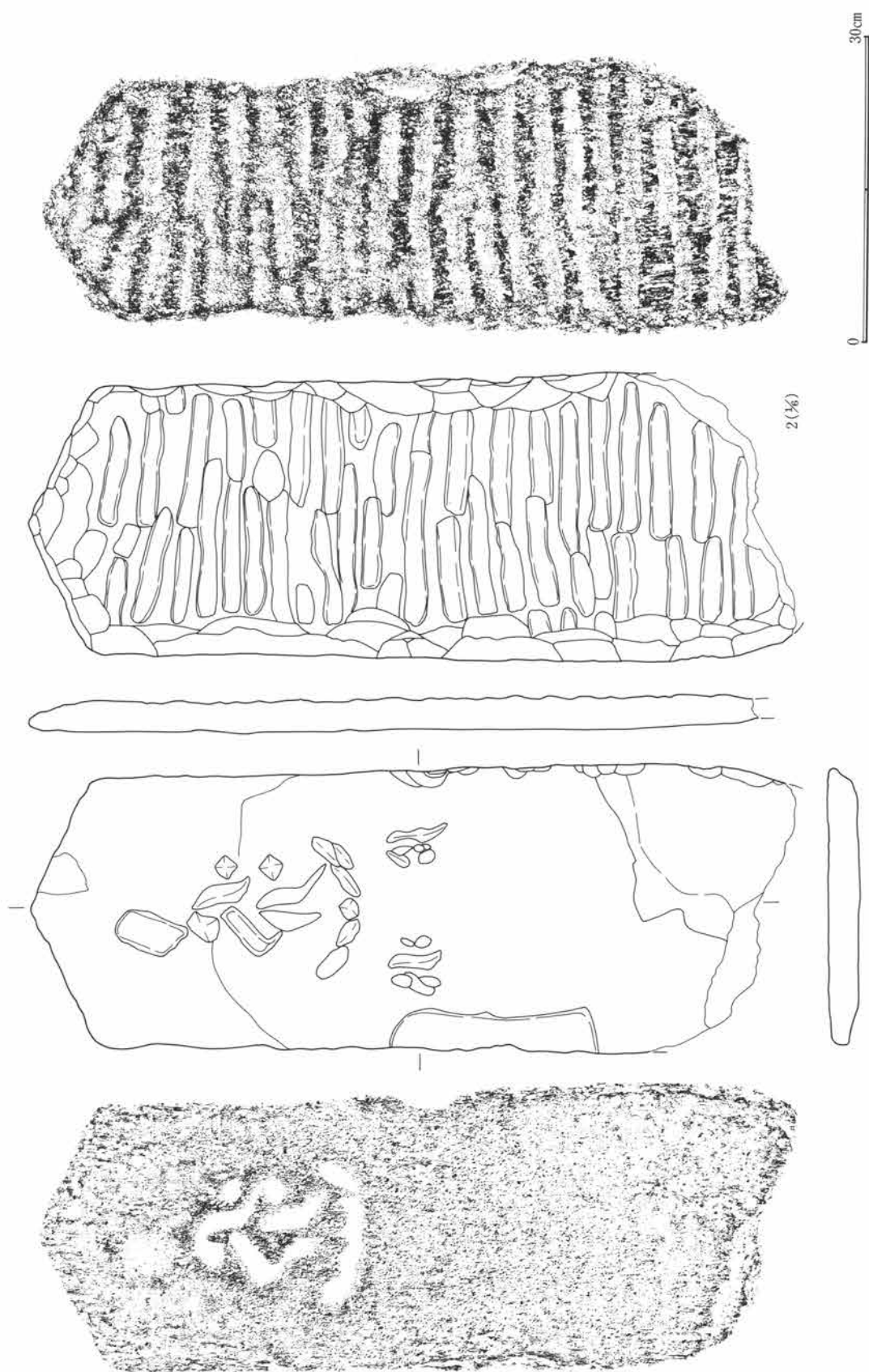
掘り方 円筒形と考えられるが、上部が若干開いており、全体的に弱い朝顔形になっている。底部は径80cmのやや崩れた円形である。確認面からの深さ0.2m~1mの間にアグリが見られる。

遺物出土状況 覆土中位よりやや上から内耳鍋の破片と板碑が、中位付近から石臼の破片が、出土しているが、礫はほとんど出土していない。

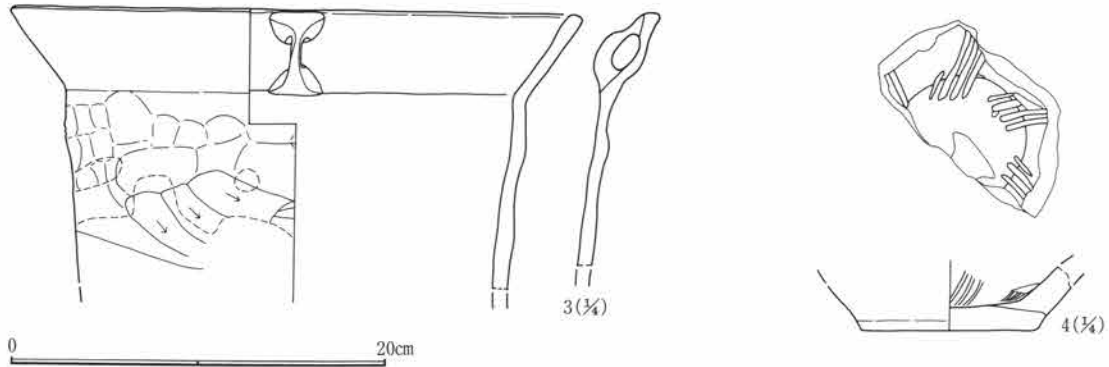
出土遺物 中世の遺物として、軟質陶器内耳鍋1点、播鉢1点、計2点、石製品は板碑1点、石臼1点が出



第391図 5号井戸および出土遺物(1)



第392図 5号井戸出土遺物(2)



第393図 5号井戸出土遺物(3)

5号井戸出土石器観察表

No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
1	茶臼	[33.6] 臼径(22)	[30.4] 孔径 2.5	10.4	8500	%	砂岩	茶臼下臼 磨面摩滅著しいが8分画溝10本か受皿部欠損表面研磨
2	板碑	[74.8]	28.2	3.4	13900	一部欠損	点紋緑泥片岩	阿弥陀三尊種子 主尊のみ蓮台に乗る 裏面には平ノミ状工具痕を残す

5号井戸出土土器観察表

No	種 別 器 種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
3	軟質陶器 内 耳 鍋	①30.6cm ③[14.5cm] ④口~胴迄	①にふい黄橙 ②にふい黄橙 ③不良 還元焰 ④普通 砂粒・バミス多く含む	ロクロ調整 胴部外面上半指頭圧痕下半 篋削り後ナデ・煤付着	I A	
4	軟質陶器 播 鉢	①9.4cm ③[3.3cm] ④底部迄	①にふい黄橙 ②褐灰 ③良好 酸化 焰 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	III	

土している。他に、縄文土器が8点出土している。

備考 遺物の出土した上層(1~3層)と下層(5~8層)は明確に異なっており、5層上面での何等かの作為が考えられるが、詳細は不明である。

6号井戸

位置 C56~57-II35~36 Gr 重複 17号住より新 平面形態 楕円形 規模 2.84m×2.06m
深さ 4.4m 面積 4.73㎡

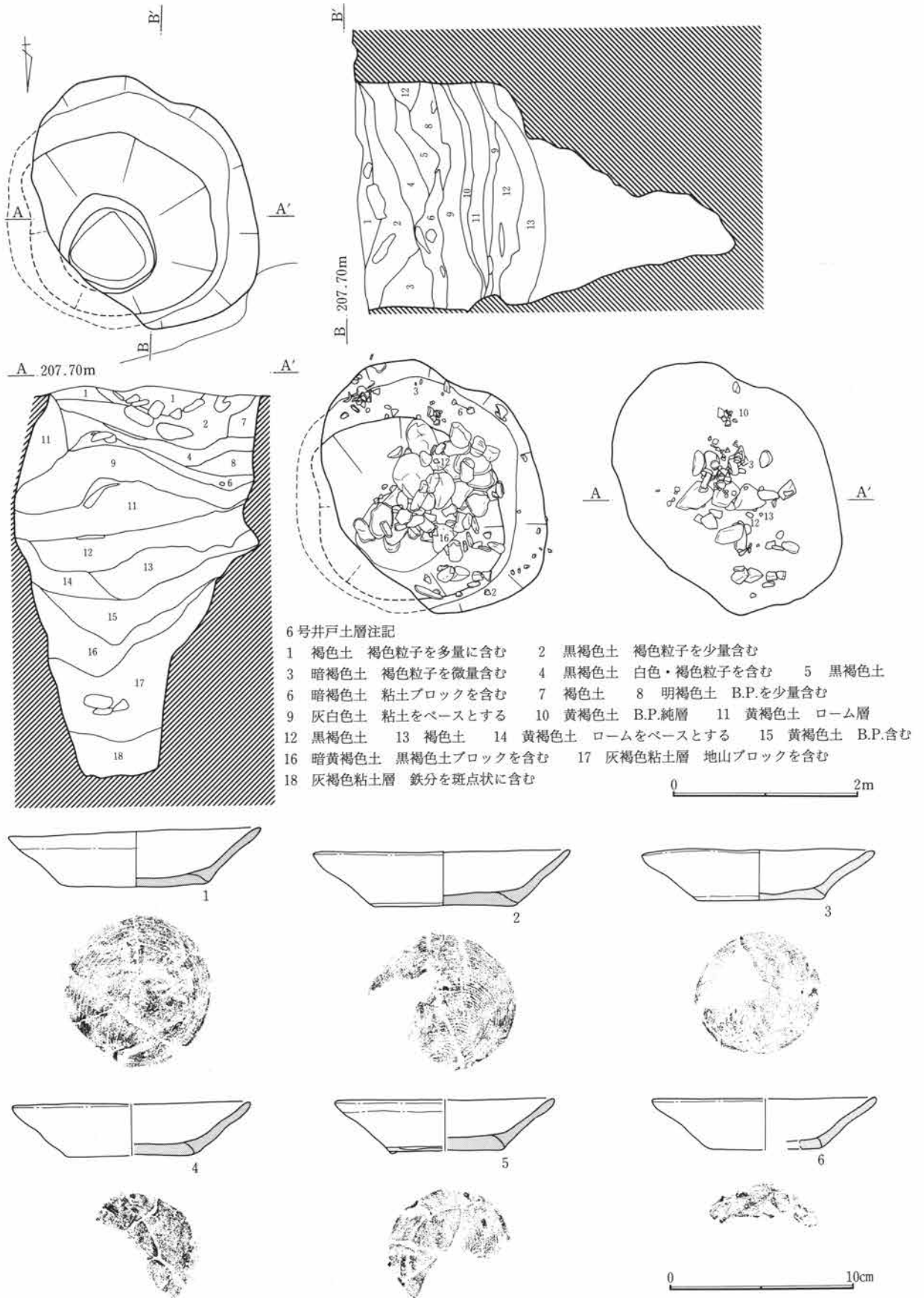
掘り方 上端の長径が2.84mとかなり大きいのが、確認面からの深さ1.5mまでは、北東部を除いて壁がほぼ垂直に落ち円筒形を呈している。北東部にはアグリがあり、壁は大きく内側に傾いている。その下は次第に細くなっているが、壁の崩落が著しく、原形をとどめていないと考えられる。底部は径70cm程度で、隅丸の三角形に近い形になっている。

遺物出土状況 覆土最上層から大型の礫が集中して出土しており、その下からは土師質土器の破片が多量に出土している。また覆土下層からも大型の礫が数点出土した。

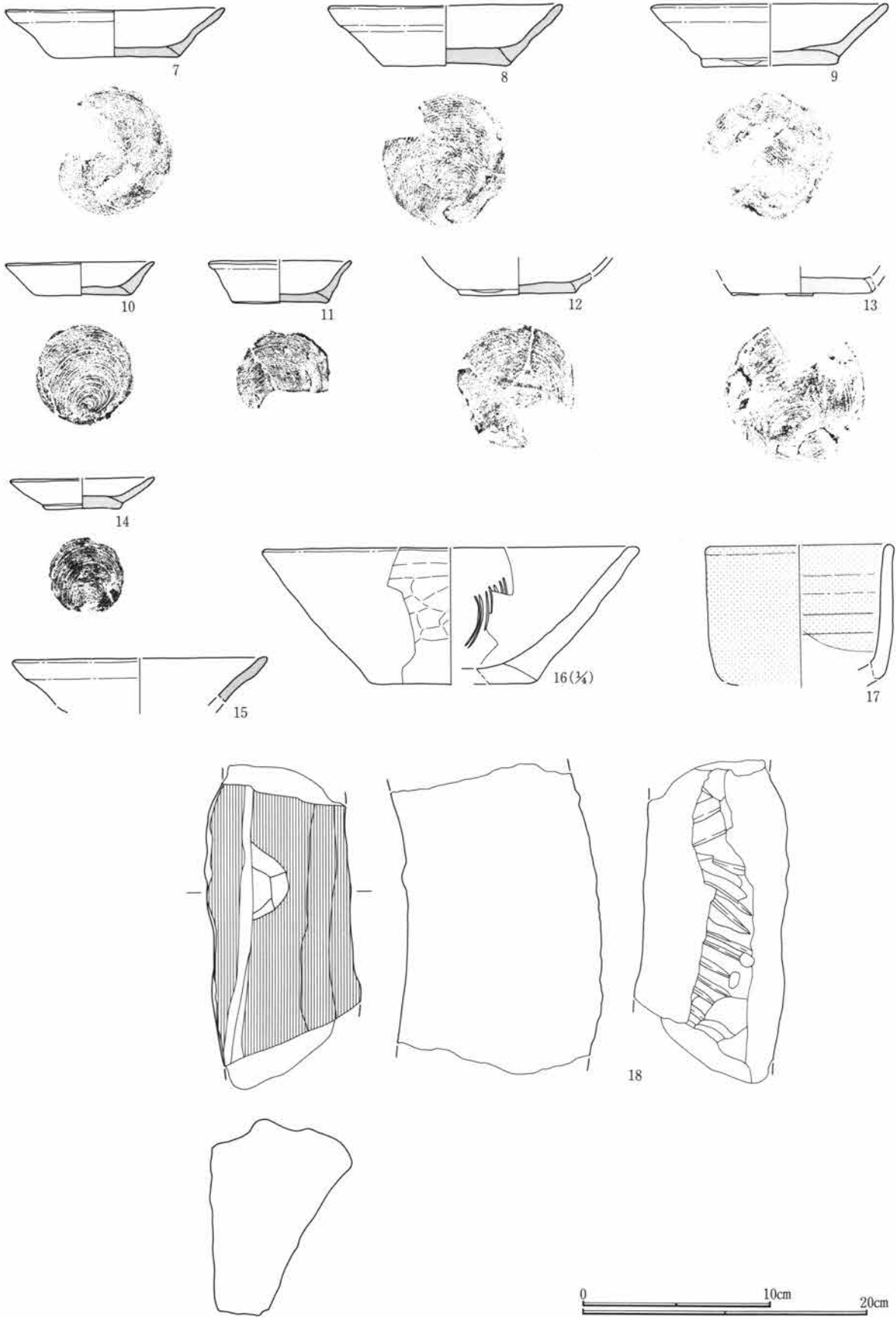
出土遺物 中世の遺物としては、軟質陶器内耳鍋が9点、播鉢が1点、土師質土器皿が52点、陶器甕が1点、青磁碗が1点、計64点が出土しており、石製品では砥石が1点出土している。他に土師器が24点、縄文土器が51点、磨石、多孔石、石棒が各1点出土している。

備考 上から見ると、底部はアグリのある北東部に寄っている。これと南西部の壁がほぼ垂直に落ちていることを考え合わせると、南西部は壁の崩落が北東部よりも更に著しいため、壁を垂直に掘り直した可能性もある。

第III章 検出された遺構と出土遺物



第394図 6号井戸および出土遺物(1)



第395図 6号井戸出土遺物(2)

第三章 検出された遺構と出土遺物

6号井戸出土土器観察表

No	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師質土器 皿	①13.4cm ②7.8cm ③2.9cm ④一部欠損	①橙 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・板状圧痕	D 1	
2	土師質土器 皿	①13.7cm ②7.9cm ③3.0cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・板状圧痕・内面ナデ	D 1	
3	土師質土器 皿	①12.2cm ②6.8cm ③3.7cm ④一部欠損	①橙 ②橙 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・板状圧痕	C 1	
4	土師質土器 皿	①(12.7cm)②(6.5cm) ③2.8cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②にぶい褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	C 1	
5	土師質土器 皿	①(11.7cm)②(6.4cm) ③2.8cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・底部内面ナデ	C 1	
6	土師質土器 皿	①(12.0cm)②(6.1cm) ③[2.7cm]④口～底部 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り・内面ナデか	C 1	
7	土師質土器 皿	①11.5cm ②6.9cm ③2.6cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・板状圧痕	C 1	
8	土師質土器 皿	①(12.3cm)②6.6cm ③3.2cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	C 1	
9	土師質土器 皿	①(12.1cm)②(6.7cm) ③3.2cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・板状圧痕・内面ナデ	C 2	
10	土師質土器 皿	①7.8cm ②5.1cm ③1.8cm ④一部欠損	①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	A 1	
11	土師質土器 皿	①(7.4cm)②5.1cm ③2.2cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調整	B	
12	土師質土器 皿	①6.1cm ③[1.1cm] ④底部	①橙 ②にぶい橙 ③不良 酸化焰 ④細 砂粒を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・板状圧痕・内面ナデ	C	
13	土師質土器 皿	①7.3cm ③[1.0cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・3ヶ所楕円形の粘土痕あり	A 2	
14	土師質土器 皿	①7.5cm ②3.9cm ③2.1cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・内面ナデ	C	
15	土師質土器 皿	①(13.3cm)②(8.7cm) ③[2.3cm]④口～底 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・雲母少量含む	ロクロ調整	C 1	
16	軟質陶器 搦鉢	①(25.5cm)②(11.1cm) ③(9.5cm)④口～底部片	①褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒・雲母・礫を含む	ロクロ調整 胴部外面指頭圧痕 口縁部は割れ口を再加工か	III	内面摩滅著しい
17	青磁 碗	①(7.0cm) ③[7.0cm] ④口～胴部片	①②明緑灰に近い ③良好 還元焰 ④細 砂粒を微量含む	ロクロ調整		

6号井戸出土石器観察表

No	種別 器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
18	砥石	[16.9]	[8.1]	[11.0]	1500	$\frac{1}{2}$	砂岩	1面使用 裏面にはノミ状工具痕を残す

7号井戸

位置 C57~58-II33~34 Gr 重複 なし 平面形態 楕円形 規模 2.52m×2.0m

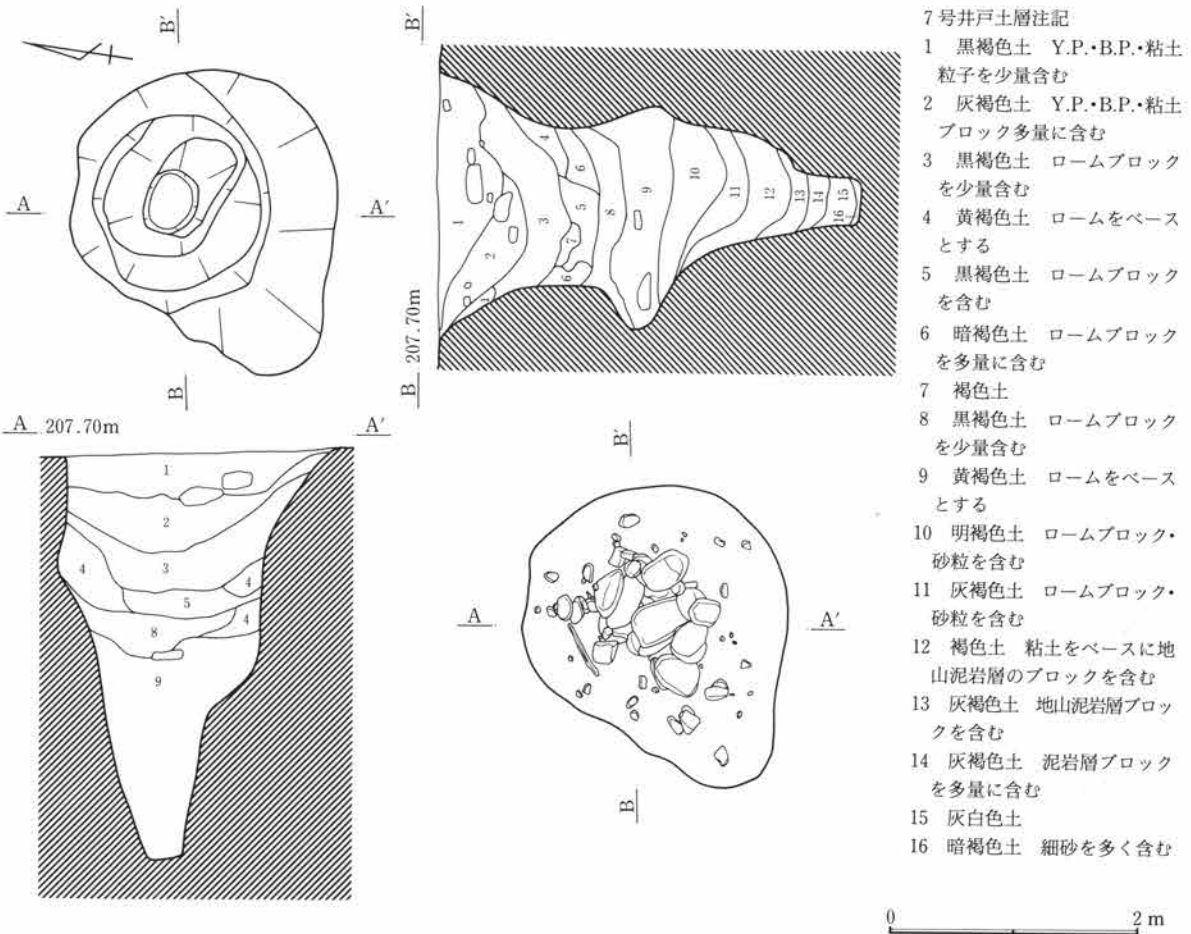
深さ 3.08m 面積 3.8m²

掘り方 確認面からの深さ1.0mより上は朝顔形に開いているが北側はほぼ垂直に立ち上がっている。深さ1.1m~2.0mの間にはアグリがあるが、特に東西方向に顕著にみられる。また東壁はアグリの下から底部から50cm程度のところまで崩落している可能性が高い。アグリの下は底部に向かって次第に狭くなっている。アグリの上から底部にかけては本来は逆円錐形になっていたと考えられる。底部は非常に狭く、長径40cm短径32cmの楕円形で、比較的平坦である。

遺物出土状況 覆土上層の中央部に、比較的大型で偏平な礫が集中して出土しており、中層のアグリ付近からも数点の礫が出土している。土器は主に上層から出土している。

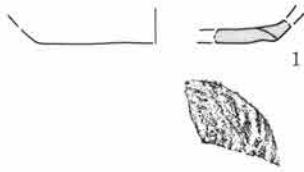
出土遺物 中世の遺物として、軟質陶器内耳鍋3点、土師質土器皿2点が出土し、板状の木製品やタガ状の竹製品も出土しているが、図示できなかった。他に土師器8点、縄文土器22点、石器はくぼみ石2点、スクレイパー1点、剥片2点が出土している。

備考 6号井戸と近接しているため6号井戸との同時存在は考えられず、どちらかを廃棄して掘り直した可能性がある。



第396図 7号井戸

第III章 検出された遺構と出土遺物



0 10cm

第397図 7号井戸出土遺物

7号井戸出土土器観察表

No.	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師質土 器 皿	②(9.4cm) ③[0.8cm] ④底部片	①明赤褐 ②明赤褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	D	

8号井戸

位置 C54~55-II32~33 Gr 重複 なし 平面形態 円形 規模 2.04m×1.84m

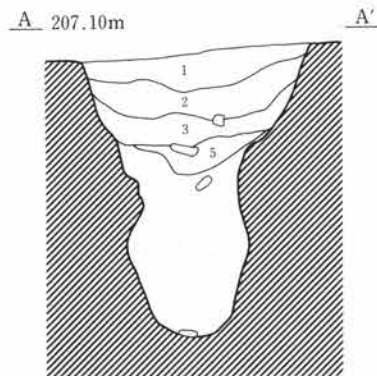
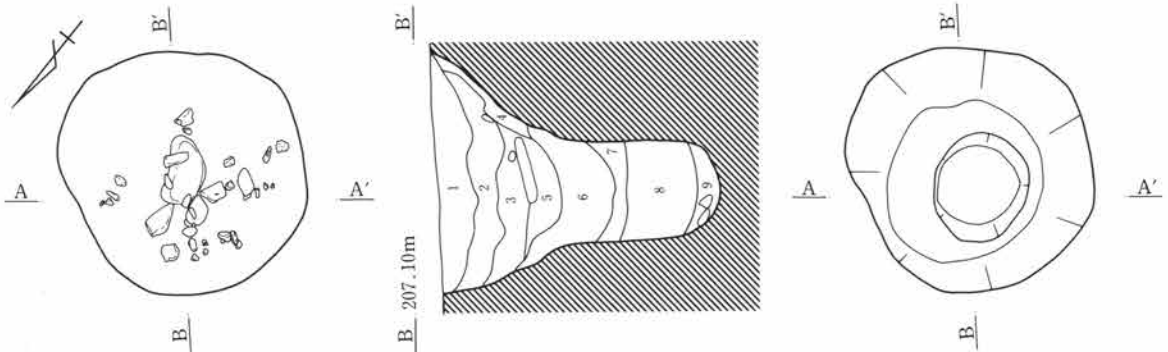
深さ 2.3m 面積 3.0m²

掘り方 確認面からの深さ1.0mより上は朝顔形に開いており、その下は一部アグリが見られるがほぼ円筒形を呈している。底部は径60cmの円形であるが、やや丸みを帯びている。

遺物出土状況 覆土中層やや上部(朝顔形に開き始める部分)から礫が数点集中して出土している。

出土遺物 中世の遺物としては、軟質陶器内耳鍋が1点出土しているだけである。他に縄文土器が12点、剥片が1点出土している。

備考 確認面からの深さ2.3mと浅いが、最下層に湧水があり、使用された井戸である可能性は高いが、湧水量は計測できなかった。



8号井戸土層注記

- 1 暗褐色土 ロームブロック・黄色粒子を少量含む
- 2 明褐色土 ロームブロックを含む
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む
- 4 明褐色土 暗褐色土ブロックを含む 縮まり強い
- 5 暗褐色土 ロームブロック・B.P.を少量含む
- 6 黄褐色土 ロームをベースとする
- 7 暗褐色土
- 8 黄褐色土 ロームをベースとする
- 9 灰褐色土 砂粒・ローム粒子を少量含む 粘性強い

0 2m

第398図 8号井戸

9号井戸

位置 C56~57-II47~48 Gr 重複 なし 平面形態 円形 規模 2.22m×2.02m

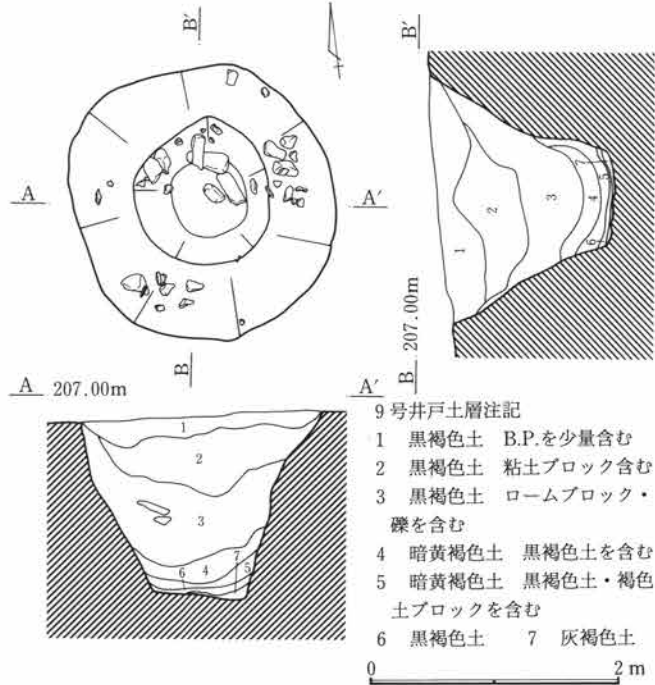
深さ 1.46m 面積 3.59m²

掘り方 確認面からの深さ0.8mより上は朝顔形に開いており、その下は底部に向かって狭くなっているが、非常に浅く0.6mで底部に達してしまう。底部は径60cmの円形である。

遺物出土状況 礫が数十点出土しているが、比較的集中度が低く上層から下層まで散在しており、点数もそれほど多くない。

出土遺物 中世の遺物は出土しておらず、土器は、弥生土器1点、縄文土器9点、石器は、打製石斧・磨製石斧・スクレイパー・くぼみ石・多孔石・不明石器各1点、剥片4点が出土している。

備考 最下層に水性堆積気味の層があるが、確認面からの深さ1.46mと浅く湧水点に達していないため、掘削途中で廃棄されたものと考えられる。



- 9号井戸土層注記
- 1 黒褐色土 B.P.を少量含む
 - 2 黒褐色土 粘土ブロック含む
 - 3 黒褐色土 ロームブロック・礫を含む
 - 4 暗黄褐色土 黒褐色土を含む
 - 5 暗黄褐色土 黒褐色土・褐色土ブロックを含む
 - 6 黒褐色土 7 灰褐色土
- 0 2 m

10号井戸

位置 C54~55-II37~38 Gr

重複 17号住より新 平面形態 円形

規模 1.40m×1.35m 深さ 2.3m

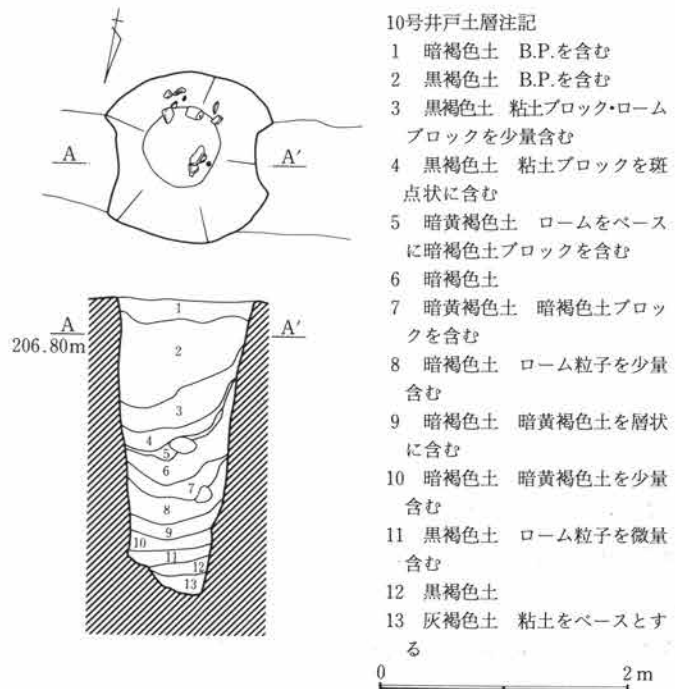
面積 1.4m²

掘り方 径1.4mの上端から底部に向かい次第に狭くなり、逆円錐形になっている。底部は径60cmの円形であるが、東側に緩い段が見られる。

遺物出土状況 他の井戸に比べ比較的小さい礫や土器が数点まばらに出土しており、覆土中層から韃の羽口が出土している。

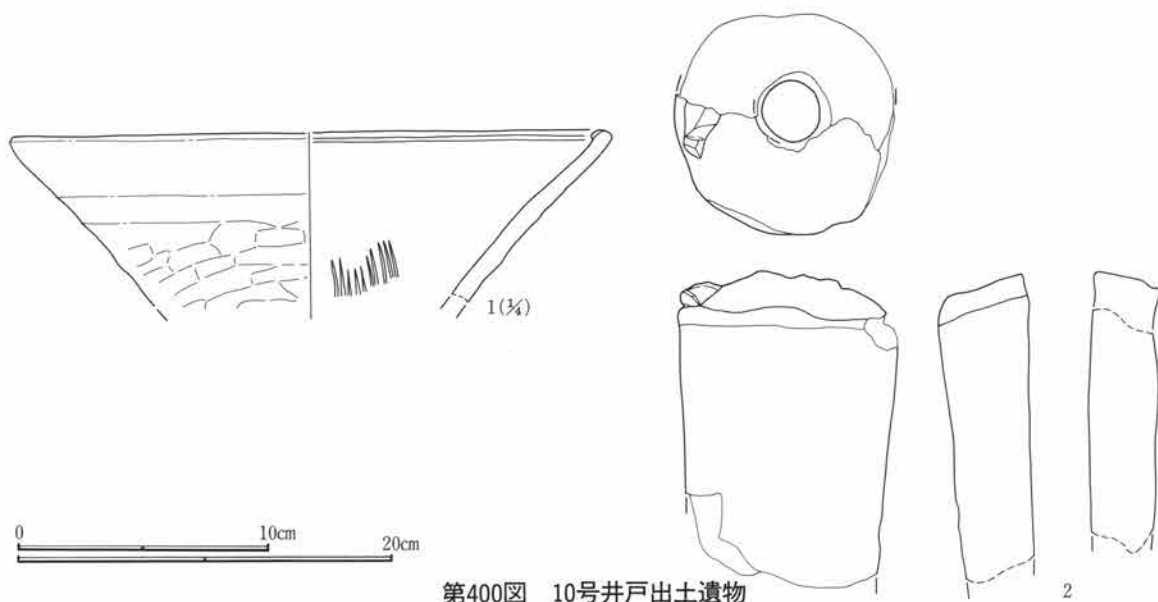
出土遺物 中世の遺物は、軟質陶器播鉢1点、土師質土器4点、韃羽口1点が出土している。古墳時代以前の遺物の混入は見られない。

備考 上部は17号住・耕作溝に壊されているため、朝顔形に開く可能性もある。



- 10号井戸土層注記
- 1 暗褐色土 B.P.を含む
 - 2 黒褐色土 B.P.を含む
 - 3 黒褐色土 粘土ブロック・ロームブロックを少量含む
 - 4 黒褐色土 粘土ブロックを斑点状に含む
 - 5 暗黄褐色土 ロームをベースに暗褐色土ブロックを含む
 - 6 暗褐色土
 - 7 暗黄褐色土 暗褐色土ブロックを含む
 - 8 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 9 暗褐色土 暗黄褐色土を層状に含む
 - 10 暗褐色土 暗黄褐色土を少量含む
 - 11 黒褐色土 ローム粒子を微量含む
 - 12 黒褐色土
 - 13 灰褐色土 粘土をベースとする
- 0 2 m

第399図 9・10号井戸



第400図 10号井戸出土遺物

10号井戸出土土器観察表

No	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調	整	分類	備考
1	軟質陶器 擂鉢	①(31.8cm)③[9.0cm] ④口縁部片	①灰 ②灰 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整	胴部外面下半指頭によるナ デ	III	
2	靴羽口	胴径8.8cm ③[12.5cm] ④ほぼ完形	①にぶい黄橙 鉾滓黒褐 ③不良 ④普通 砂粒を含む	端部鉾滓附着	孔径23~27mm		

11号井戸

位置 C 83~84-II 46~47 Gr

重複 なし 平面形態 円形

規模 2.54m×2.26m

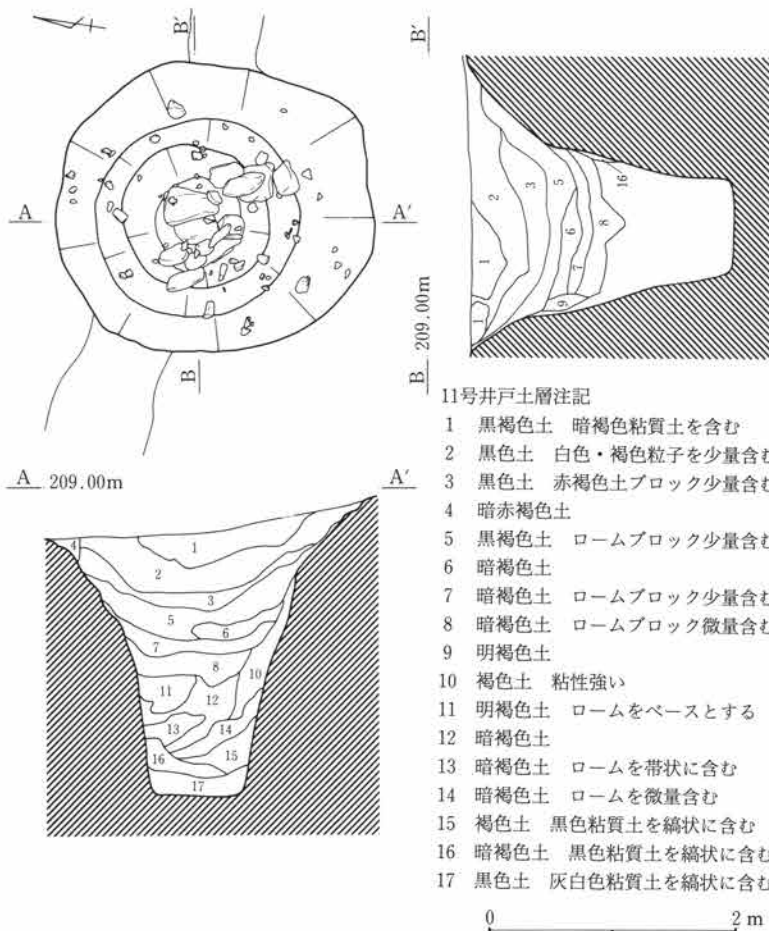
深さ 2.36m 面積 4.67㎡

掘り方 南側の確認面からの深さ
1.4mより上は朝顔形に開き、その
下は底部に向かって狭くなってお
り、アグリはみられない。底部は
径70cmの円形で平坦である。

遺物出土状況 覆土上層に比較的
大型の礫が数点集中して出土して
いる。

出土遺物 中世の出土遺物はなく、
縄文土器50点、スクレイパー1点、
剥片3点が出土している。

備考 アグリ等の壁の崩れもなく、
しっかりした掘り方である。確認
面より20~30cm下のところで若干
の湧水がみられたが、井戸として



11号井戸土層注記

- 1 黒褐色土 暗褐色粘質土を含む
- 2 黒色土 白色・褐色粒子を少量含む
- 3 黒色土 赤褐色土ブロック少量含む
- 4 暗赤褐色土
- 5 黒褐色土 ロームブロック少量含む
- 6 暗褐色土
- 7 暗褐色土 ロームブロック少量含む
- 8 暗褐色土 ロームブロック微量含む
- 9 明褐色土
- 10 褐色土 粘性強い
- 11 明褐色土 ロームをベースとする
- 12 暗褐色土
- 13 暗褐色土 ロームを帯状に含む
- 14 暗褐色土 ロームを微量含む
- 15 褐色土 黒色粘質土を縞状に含む
- 16 暗褐色土 黒色粘質土を縞状に含む
- 17 黒色土 灰白色粘質土を縞状に含む

第401図 11号井戸

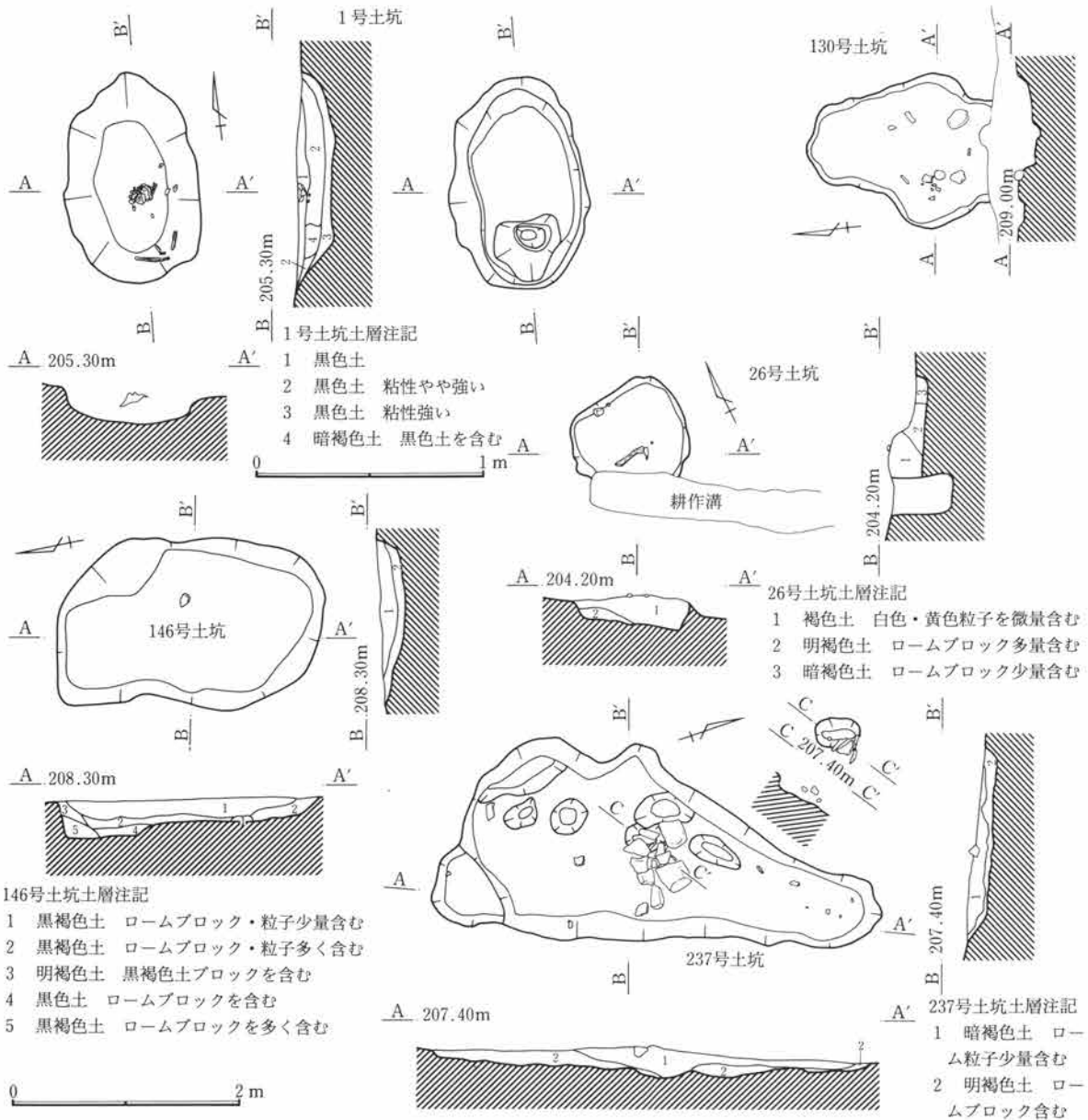
の機能するほどの湧水はなかった。

(7) 土坑・ピット

出土遺物は、1号土坑は人骨以外になく、26号土坑は銅銭（元豊通寶）2点と他に縄文土器3点・磨石1点、130号土坑は軟質陶器内耳鍋1点と他に縄文土器3点・丸石1点・石棒1点、146号土坑は土師質土器皿1点、237号土坑は銅銭（治平元寶1 元符通寶1 宋通元寶1）3点と他に土師器2点・縄文土器5点・くぼみ石1点・剝片1点である。

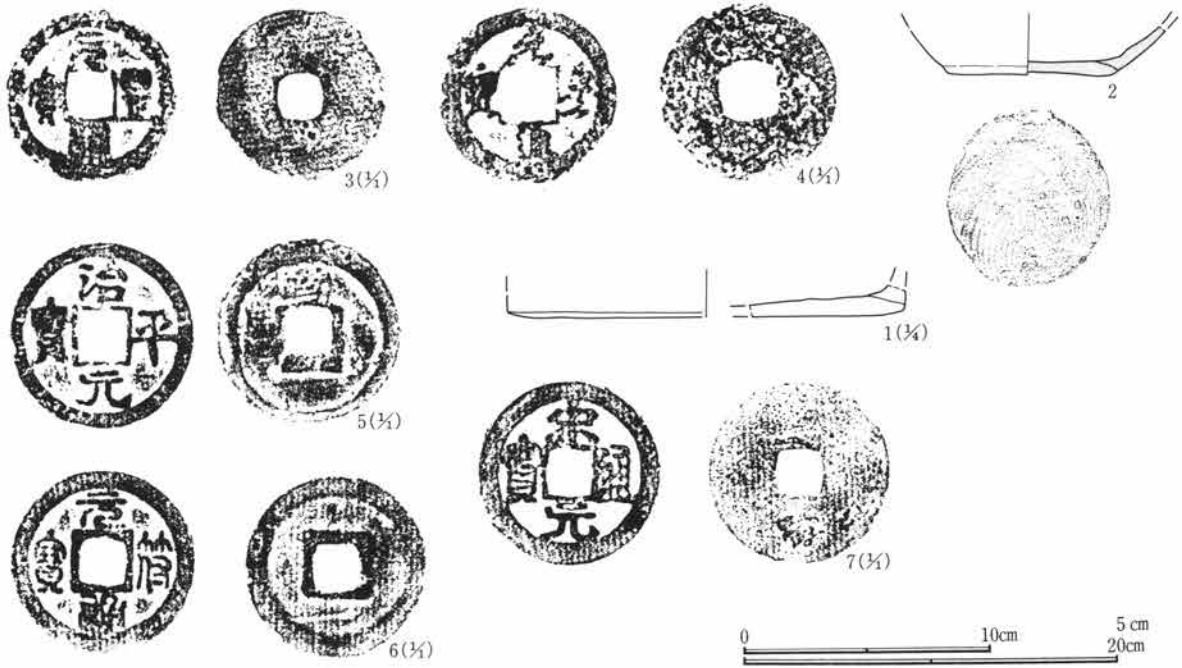
中世土坑一覧表

No	位置 (Gr)	重複関係	平面形態	断面形態	規模 (m)	深さ (cm)	面積 (m ²)	主軸方位	備 考
1	C66- I75~76	なし	楕円形	d	0.90×0.57	18	0.40	N-1°-E	人骨（下顎骨？）出土
26	C59- I77	なし	隅丸方形	a	1.02×0.81	32	0.68	N-62°-W	人骨（大腿骨？）出土
130	C67~68-II28	なし	不正形	e	1.57×1.33	22	1.45	N-14°-E	
146	C70~71-II41~42	なし	隅丸長方形	b	2.28×1.47	30	2.86	N-14°-E	
237	C57~59-II46~47	なし	不正形	e	3.72×1.70	28	4.48	N-24°-E	人骨出土 人骨付近に配石あり



第402図 1・26・130・146・237号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物



第403図 26・130・146・237号土坑出土遺物

130・146号土坑出土土器観察表

No.	種別 器種	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	軟質陶器 内耳鍋	②(20.6cm)③[1.6cm] ④底部片	①灰黄褐 ②にぶい褐 ③良好 酸化 焰 ④普通 砂粒・雲母を多く含む	ロクロ調整 底部外面ナデ	I	
2	土師質土 器 皿	②6.6cm ③[2.0cm] ④体~底部	①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒・白色粒子を含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調整・板 状圧痕	C 2	

26・237号土坑出土銅銭観察表

No.	種別	径 (cm)	孔 (cm)	重量 (g)	材質	銭貨名	残存状況	特 徴
3	銭	2.3	0.6	2.7	銅	元豊通寶	完形	方穿
4	銭	2.4	0.7	2.6	銅	元豊通寶	完形	方穿
5	銭	2.4	0.6	2.4	銅	治平元寶	完形	方穿
6	銭	2.4	0.6	2.5	銅	元符通寶	完形	方穿
7	銭	2.4	0.6	3.2	銅	宋通元寶	完形	方穿

2号ピット

位置 C61-I 81 Gr

重複 なし 平面形態 楕円形

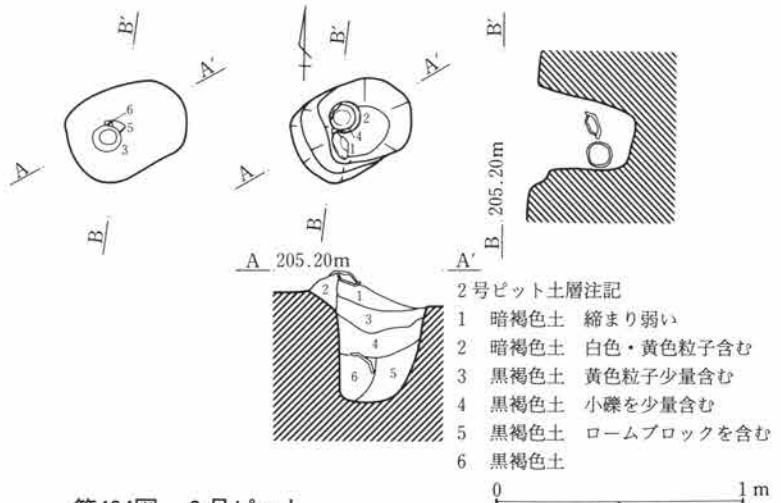
規模 0.50m×0.35m

深さ 45cm

主軸方位 N-60°-E

掘り方 楕円形の掘り方をもち西壁には緩い段がある。立ち上がりは急で底部は平坦である。

遺物出土状況 覆土上面から土師質土器皿が3点重なって出土し、覆土中層やや下からも土師質土器

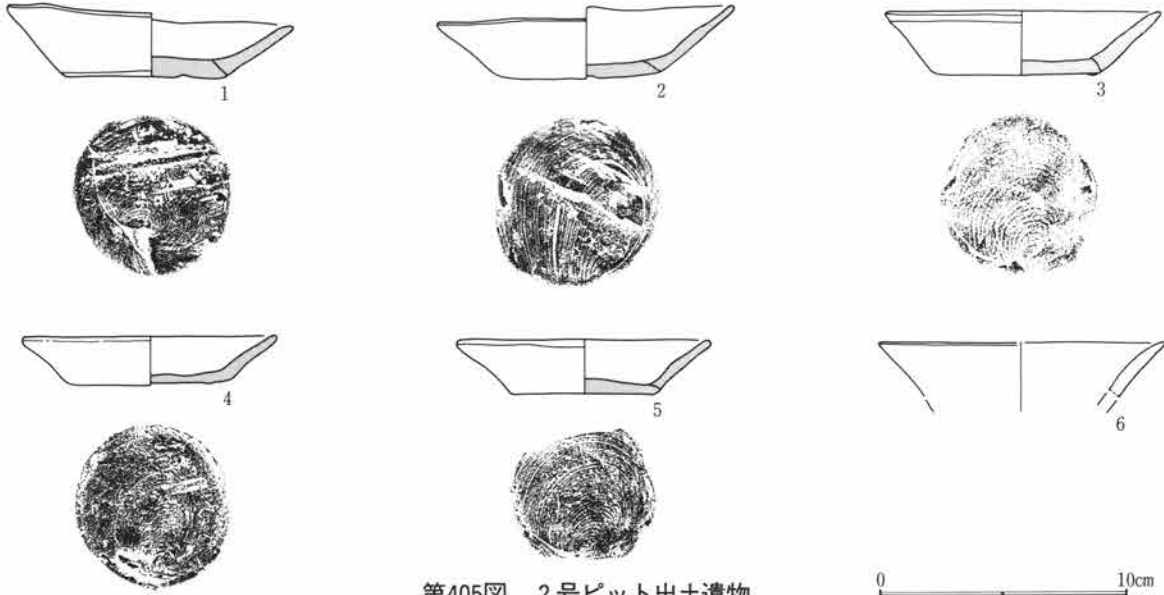


第404図 2号ピット

皿が2点は重なり、1点は立った状態で出土した。

出土遺物 土師質土器皿が6点出土しており、他に縄文土器が1点出土した。

所見 小型のピット中に、ほぼ完形の土器が5点出土しており、覆土上面と中層に分かれて重なって出土しているため、人為的に土器を埋納したピットと考えられる。



第405図 2号ピット出土遺物

2号ピット出土土器観察表

No	種別 器種	法量 (cm)	①口径 ②底径 ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師質土 器 皿	①11.7cm ③2.9cm	②6.3cm ④完形	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・板状圧痕・内面ナデ	C 2	
2	土師質土 器 皿	①11.4cm ③2.7cm	②6.5cm ④完形	①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調整・板状圧痕・内面ナデ	C 1	
3	土師質土 器 皿	①10.9cm ③2.5cm	②6.0cm ④完形	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・粘土塊付着・内面ナデ	B 1	
4	土師質土 器 皿	①10.0cm ③1.9cm	②6.2cm ④一部欠損	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整・板状圧痕・内面に粘土塊付着	B 1	
5	土師質土 器 皿	①10.0cm ③2.1cm	②5.8cm ④口~底部迄	①黄褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	B 1	
6	土師質土 器 皿	①(11.4cm) ④口縁部片	③[2.1cm]	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 酸化焰 ④細 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整 外面に煤・油煙付着	C 1	

(8) 遺構外出土遺物

遺構外および近世以降の遺構覆土から中世の遺物が出土している。

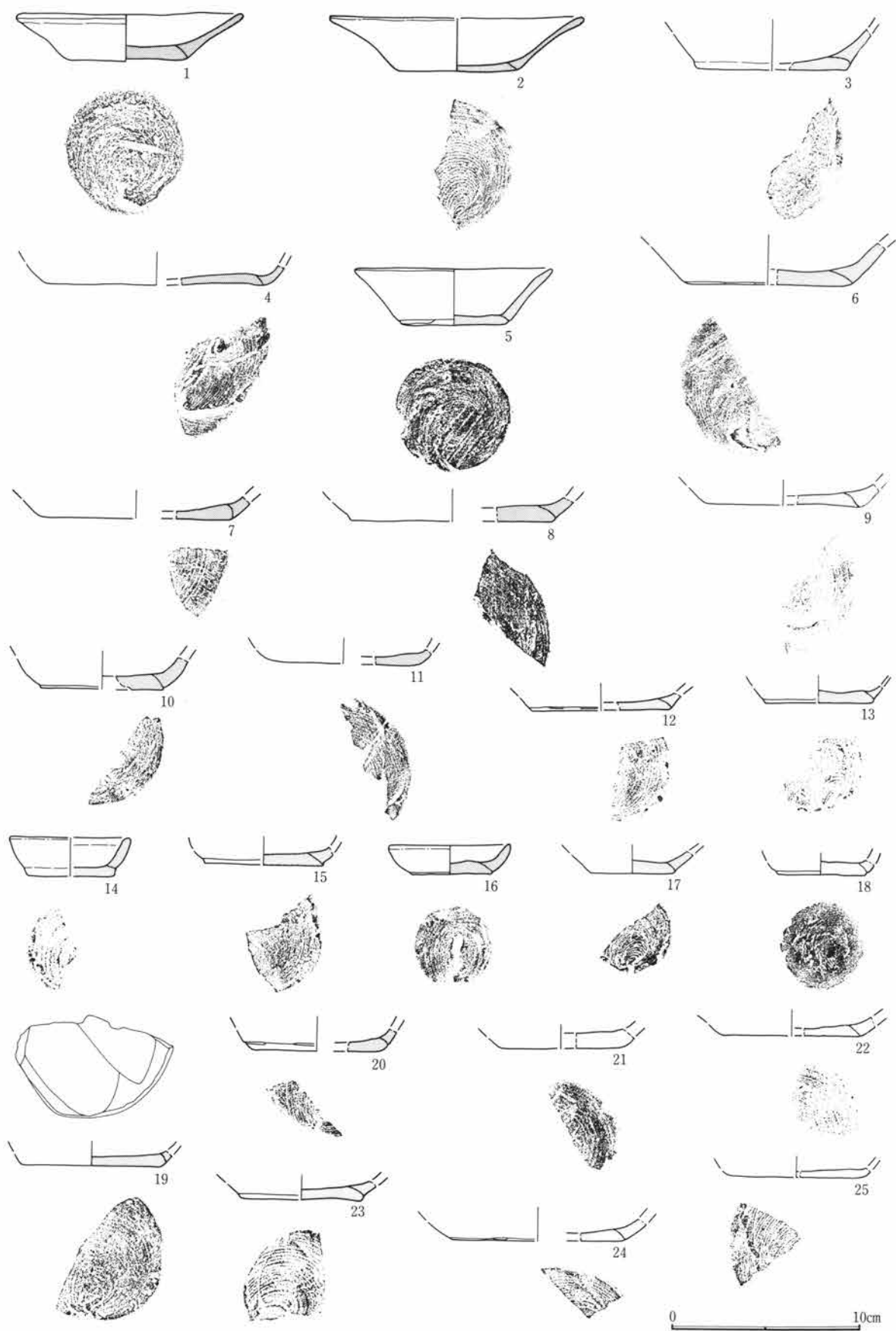
土器・陶磁器は、土師質土器皿・香炉、軟質陶器内耳鍋・播鉢、陶器碗・皿・播鉢・甕、青磁等が出土している。

出土土器数量表

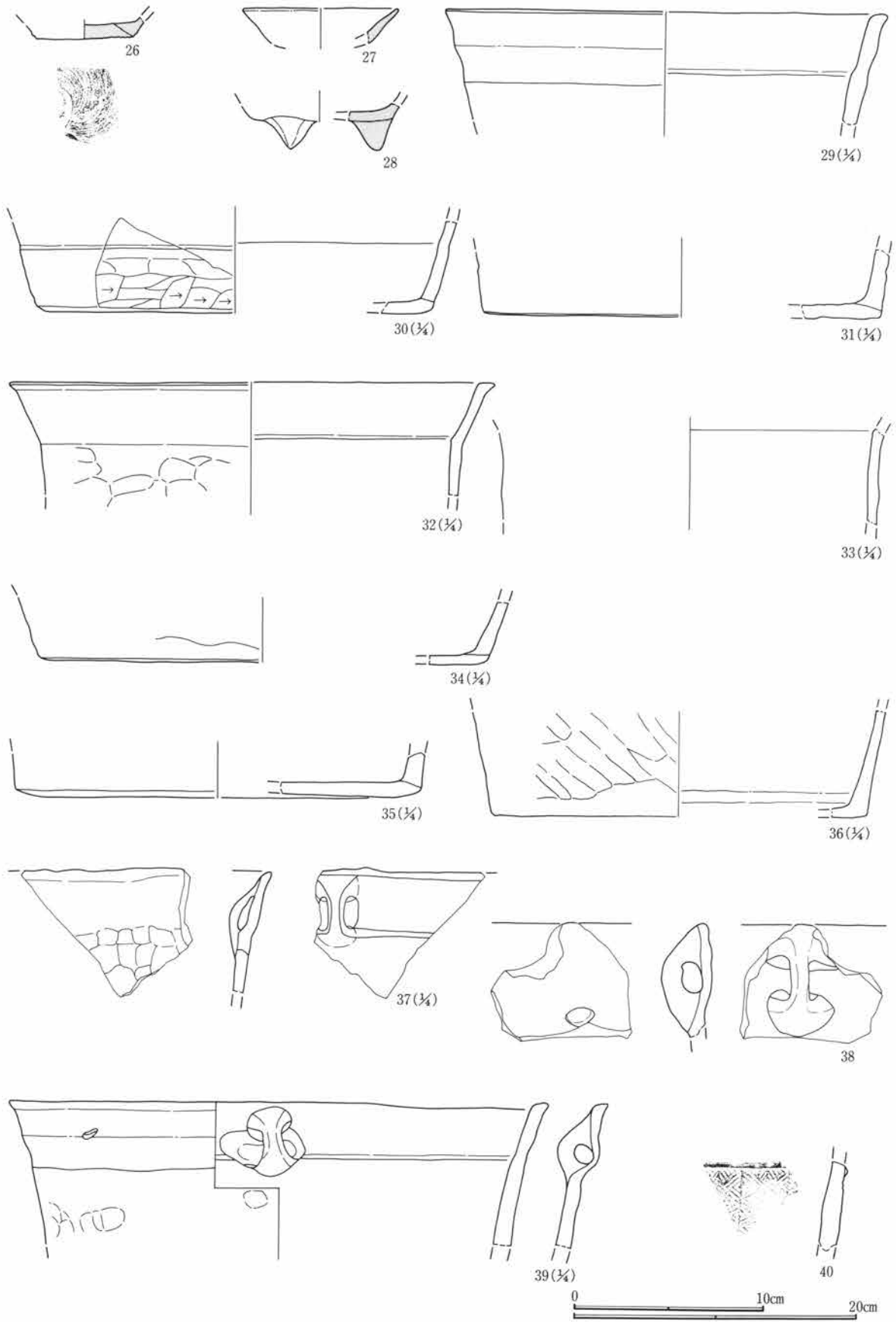
土師質土器	軟 質 陶 器						陶 器				磁器	計	
皿 香炉	内耳鍋	火鉢	播鉢	こね鉢	不明	碗・皿	甕	播鉢	蓋	不明	青磁		
336	1	709	0	22	1	7	350	23	1	0	0	2	1,452

石製品は、石臼、砥石が出土している。石臼は粉挽き臼上臼が2点、砥石は6点、計8点である。

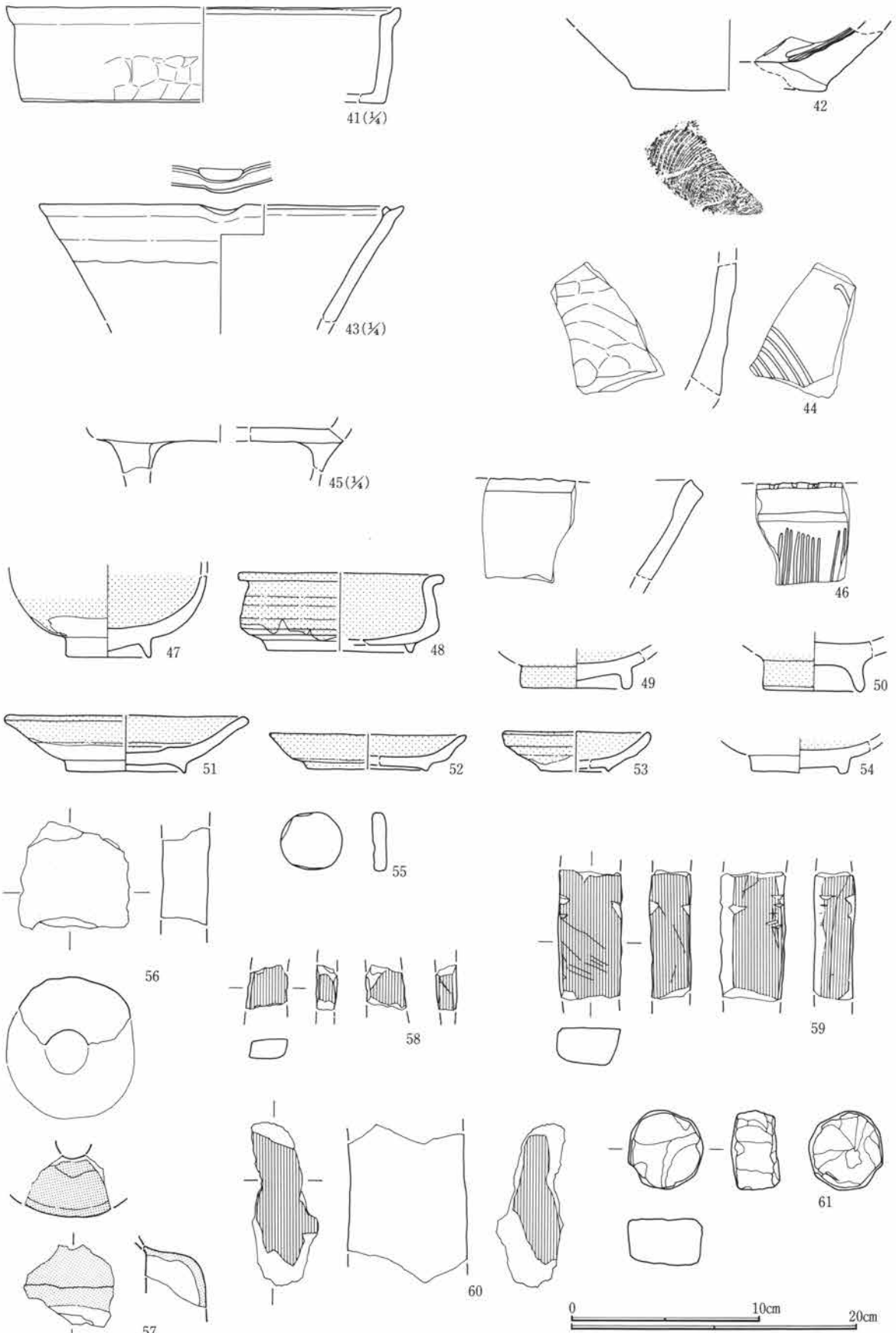
金属製品は、鉄製品15点、鉛製の鉄砲玉1点、銅銭4点が出土している。鉄製品は、不確実のものも含めて、刀子3点、角釘7点、環状の鉄製品1点、手鎌状の鉄製品2点、器種不明のもの1点、鉄滓1点が出土している。銅銭は、北宋銭3点、不明が1点で、北宋銭は皇宋通寶1点、元豊通寶1点、熙寧元寶1点である。



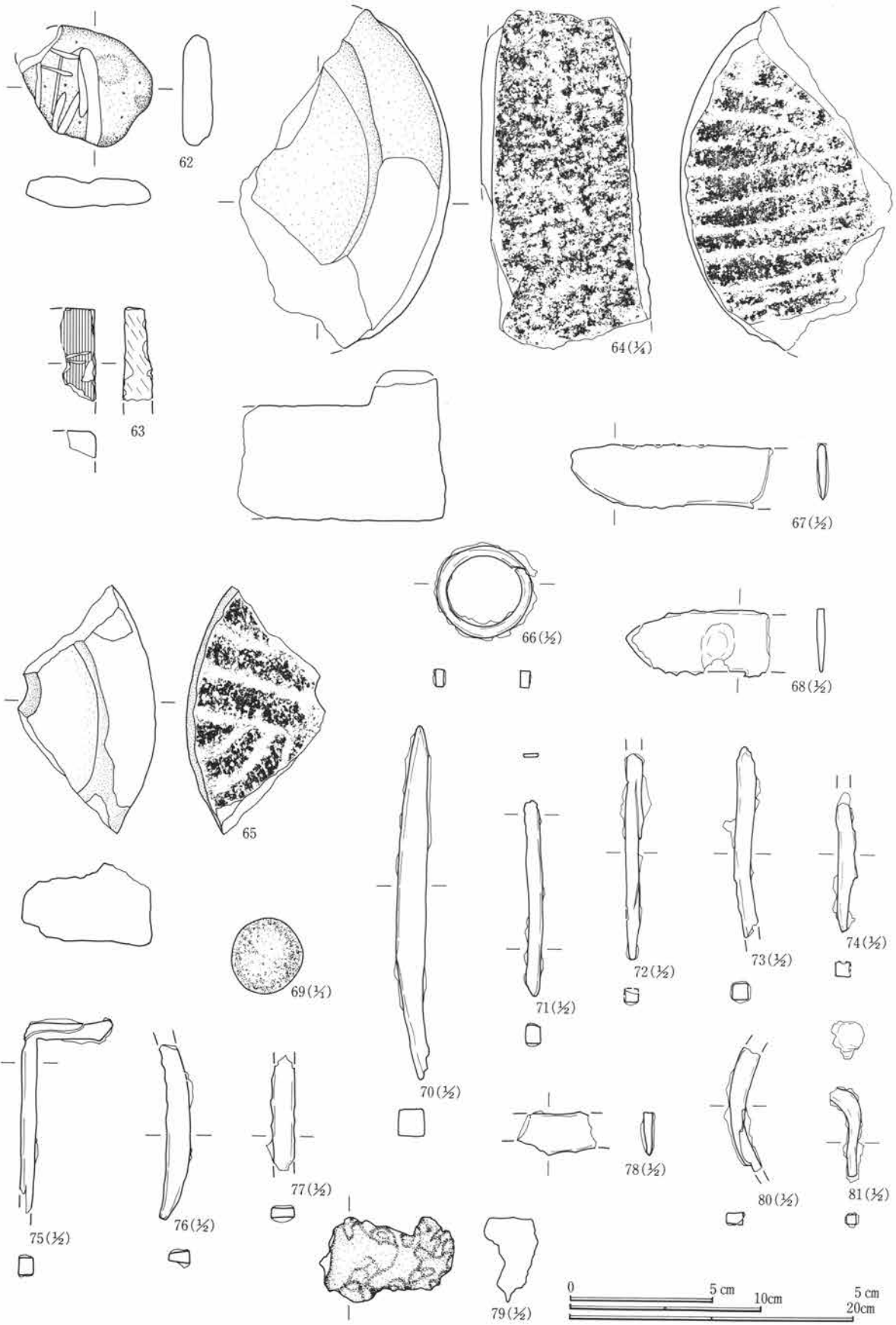
第406図 遺構外出土遺物 (1)



第407図 遺構外出土遺物 (2)

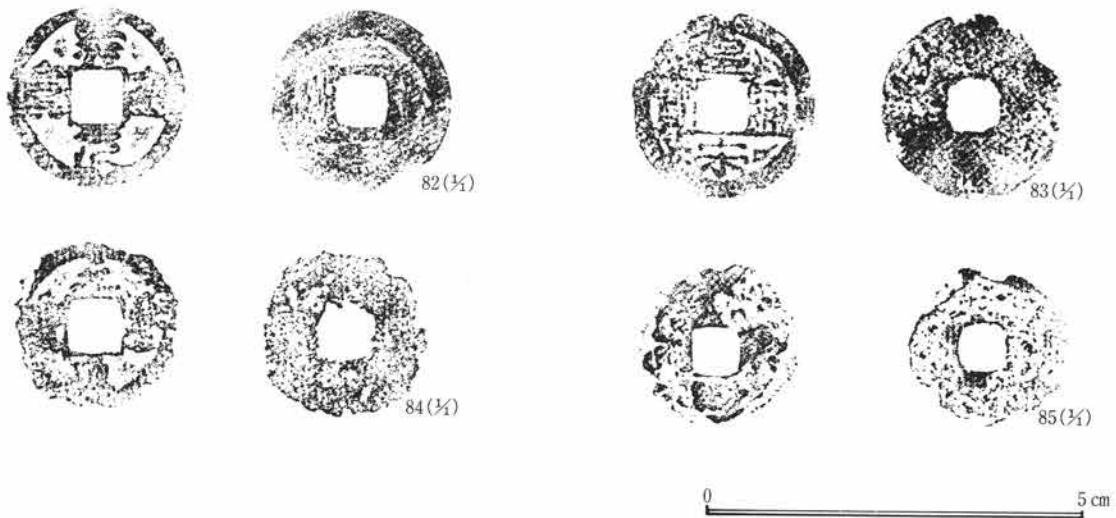


第408図 遺構外出土遺物 (3)



第409図 遺構外出土遺物 (4)

第III章 検出された遺構と出土遺物



第410図 遺構外出土遺物（5）

遺構外出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師質土 器 皿	C53 II10	①11.8cm ②6.2cm ③2.4cm ④ほぼ完形	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸化 ④細 砂粒を微量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 無調整・板状圧痕・内面ナデ	C	
2	土師質土 器 皿	C74 II 8	①(13.4cm)②(6.2cm) ③2.8cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 酸化 ④普通 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 無調整	D	
3	土師質土 器 皿	C70 I 90	②(8.0cm) ③[2.1cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸化 ④普通 砂粒を微量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 無調整・内面ナデ	D	
4	土師質土 器 皿	112号 土坑	②(11.2cm)③(1.0cm) ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 酸化 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整 底部回転系切り無調 整・板状圧痕	D	
5	土師質土 器 皿	2号落 ち込み	①10.4cm ②5.6cm ③2.9cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 酸化 ④普通 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整 底部回転系切り無調 整・板状圧痕・内面ナデ	B	
6	土師質土 器 皿	C68 II35	②(8.6cm) ③[2.2cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸化 ④普通 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 無調整・板状圧痕・内面ナデ	D	
7	土師質土 器 皿	C72 I 87	②(9.8cm) ③[1.2cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②橙 ③不良 酸化 ④細 砂粒を含む	ロクロ調整 底部回転系切り無調 整・板状圧痕か	D	
8	土師質土 器 皿	5号 新作溝	②(10.6cm)③[1.2cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①褐灰 ②褐灰 ③良好 酸化 ④普通 砂粒・パミスを少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 無調整・板状圧痕・内面ナデ	D	
9	土師質土 器 皿	C69 I 77	②(8.2cm) ③[1.2cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②橙 ③良好 酸化 ④普通 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切無 調整	D	
10	土師質土 器 皿	C72 I 86	②(6.4cm) ③[1.7cm] ④体～底部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 酸化 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切無 調整 底部内面剥落著しい	C	
11	土師質土 器 皿	C72 I 61	②(8.2cm) ③[0.9cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②橙 ③良好 酸化 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 無調整	D	
12	土師質土 器 皿	C72 I 86	②(7.2cm) ③[0.8cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②橙 ③良好 酸化 ④細 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 無調整・内面ナデ	D	
13	土師質土 器 皿	C69 II 6	②5.0cm ③[0.9cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②橙 ③良好 酸化 ④普通 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 無調整	B	
14	土師質土 器 皿	C69 I 73	①(6.4cm) ②(4.6cm) ③2.0cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 酸化 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 無調整	A	
15	土師質土 器 皿	C70 I 94	②6.2cm ③[1.0cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸化 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 無調整	C	内外面に 煤付着
16	土師質土 器 皿	C75 I 82	①6.2cm ②4.0cm ③1.7cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②橙 ③良好 酸化 ④普通 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 無調整	A	
17	土師質土 器 皿	50号 新作溝	②4.4cm ③[1.1cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸化 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整 底部回転系切り無調 整	A	
18	土師質土 器 皿	C69 I 99	②(4.4cm) ③[0.8cm] ④底部全周	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸化 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 後外周ナデ	A	
19	土師質土 器 皿	C55 I 81	②(7.4cm) ③[0.8cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸化 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転系切り 無調整・板状圧痕・内面ナデ	D	

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
20	土師質土 器 皿	C72 I 85	②(6.8cm) ③[1.2cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焰 ④普通 砂粒を微量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整・内面ナデ	C	
21	土師質土 器 皿	C85 II13	②(6.2cm) ③[1.0cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②にぶい橙 ③不良 酸化焰 ④普通 砂粒を微量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 後ナデか・内面ナデ	C	
22	土師質土 器 皿	C85 II12	②(7.2cm) ③[1.0cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄橙 ②黒 ③良好 酸化 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調 整	D	
23	土師質土 器 皿	C73 I 85	②(6.4cm) ③[1.0cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焰 ④普通 砂粒を少量含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り 無調整	C	
24	土師質土 器 皿	65号 土坑	②(9.0cm) ③[1.2cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①橙 ②にぶい橙 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調 整	D	
25	土師質土 器 皿	123号 土坑	②(7.0cm) ③[0.5cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焰 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調 整	C	
26	土師質土 器 皿	172号 土坑	②5.0cm ③[1.0cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②明褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調 整・板状圧痕	A	
27	土師質土 器 皿	123号 土坑	①(8.2cm) ③[1.8cm] ④口～体部 $\frac{1}{2}$	①にぶい褐 ②にぶい褐 ③良好 酸 化焰 ④細 砂粒を少量含む	ロクロ調整	A 1	
28	土師質土 器 香炉	C70 I 93	②(7.5cm) ③[2.3cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 脚部ナデ 3足の1 つが残ったものか		
29	軟質陶器 内耳鍋	C82 I 66	①(29.8cm)③[7.3cm] ④口縁部 $\frac{1}{2}$	①明褐 ②明褐 ③不良 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面ナデ	I B	
30	軟質陶器 内耳鍋	C82 I 66	②(26.0cm)③[6.4cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面上半ナデ下 半篋削り	I	
31	軟質陶器 内耳鍋	C82 I 66	②(28.0cm)③[4.8cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①灰褐 ②にぶい橙 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面ナデ	I	
32	軟質陶器 内耳鍋	C60 I 82	①(34.0cm)③[7.8cm] ④口縁部 $\frac{1}{2}$	①灰褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整	I A	外面に煤 付着
33	軟質陶器 内耳鍋	180号 土坑	最大径26.6cm ④胴部 $\frac{1}{2}$	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 酸 化焰 ④普通 砂粒・礫を含む	ロクロ調整	I	
34	軟質陶器 内耳鍋	C70 I 73	②(31.6cm)③[4.3cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①灰褐 ②にぶい褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面指頭圧痕あ り	I	
35	軟質陶器 内耳鍋	C82 I 66	②(22.0cm)③[3.0cm] ④底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 酸 化焰 ④普通 砂粒・雲母少量含む	ロクロ調整	I	
36	軟質陶器 内耳鍋	2号 土坑	②(26.2cm)③[7.4cm] ④胴～底部 $\frac{1}{2}$	①黄灰 ②灰黄 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整後胴部外面ナデ 底部内外面ナデか	I	
37	軟質陶器 内耳鍋	228号 土坑	器厚5～9mm ④口縁部片	①黒褐 ②黒褐 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整 胴部外面指頭圧痕あ り 内耳貼付け	I	
38	軟質陶器 内耳鍋	40号 土坑	器厚1.1mm ④口縁部片	①黄灰 ②灰黄褐 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・雲母片を少量含む	ロクロ調整 内耳貼付け	I	
39	軟質陶器 内耳鍋	C82 I 66	①(36.5cm)③[10.0cm] ④口縁部 $\frac{1}{2}$	①にぶい褐 ②橙 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 胴部外面指頭圧痕あ り 内耳貼付け	I B	
40	軟質陶器 鉢	C72 I 87	器厚7～10mm ④胴部片	①にぶい橙 ②黒褐 ③良好 酸化焰 ④普通 砂粒を含む	胴部外面に印刻文		
41	軟質陶器 内耳鍋	139号 土坑	①(27.5cm)②(25.4cm) ③6.5cm ④口～底部片	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 酸化 焰 ④普通 砂粒・雲母を含む	ロクロ調整 胴部下半指頭による 押さえ 底部ナデ	I C	
42	軟質陶器 搦鉢	C66 I 97	②(10.0cm)③[3.3cm] ④胴～底部 $\frac{1}{2}$	①にぶい黄 ②灰 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒・雲母を少量含む	ロクロ調整(左) 胴部外面回転篋 削り 底部回転糸切り無調整	III	
43	軟質陶器 こね鉢	C66 I 64	①(25.0cm)③[7.8cm] ④口縁部片	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 還 元焰気味 ④普通 砂粒を含む	ロクロ調整 片口あり 胴部外面 ナデ	IV	
44	軟質陶器 搦鉢	2号 土坑	器厚7～12mm ④胴部片	①灰 ②灰 ③良好 還元焰 ④普通 砂粒を含む	胴部外面指頭圧痕あり	III	
45	軟質陶器 火鉢?	C76 II53	①(17.2cm) ④底部片	①淡黄 ②灰黄 ③良好 還元焰 ④細 砂粒を含む	ロクロ調整 3足の1つが残った ものか	II	
46	陶器 搦鉢	C76 II30	器厚10mm ④口縁部片	①灰褐 ②灰褐 ③良好 ④細 砂粒を含む	ロクロ調整		
47	陶器 碗	C76 II30	②4.4cm ③[4.2cm] ④胴～底部全周	釉 暗褐 胎土 浅黄橙 ③良好 ④細 砂粒を微量含む	ロクロ調整 削り出し高台		胎釉
48	陶器 香炉	C67 I 84	①(10.5cm)②(7.6cm) ③4.0cm ④口～底部 $\frac{1}{2}$	釉 暗褐 胎土 淡黄 ③良好 ④細 砂粒を微量含む	ロクロ調整 削り出し高台		17世紀 美濃系
49	陶器 碗	C76 II30	②5.6cm ③[1.9cm] ④底部全周	釉 黒褐 胎土 淡黄 ③良好 ④細 砂粒を微量含む	ロクロ調整 削り出し高台		17世紀 鉄釉

第III章 検出された遺構と出土遺物

No	種別 器種	出土位置	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
50	陶器 皿	C75 II56	②5.0cm ③[2.6cm] ④底部全周	釉 透明 胎土 淡黄 ③良好 ④細 砂粒を微量含む	ロクロ調整 貫入あり 肥前京焼風		17世紀後半
51	陶器 皿	C68 I88	①(12.6cm)②(6.0cm) ③2.9cm ④口～底部1/2	釉 灰白 胎土 灰白 ③良好 ④細 砂粒を微量含む	ロクロ調整 削り出し高台 貫入あり		17世紀前半
52	陶器 皿	C69 I89	①(9.8cm)②(6.2cm) ③1.9cm ④口～底部1/2	釉 灰白 胎土 灰白 ③良好 ④細 砂粒を含む	ロクロ調整 削り出し高台 底部外面に粘土塊付着		17世紀前半
53	陶器 皿	C71 I89	①(7.6cm)②(6.0cm) ③2.9cm ④口～底部1/2	釉 透明 胎土 淡黄 ③良好 ④細 砂粒を含む	ロクロ調整 削り出し高台 一部貫入あり		17世紀 瀬戸美濃
54	陶器 碗	C76 II30	②4.6cm ③[1.7cm] ④底部全周	釉 透明 胎土 灰白 ③良好 ④細 砂粒を含む	ロクロ調整 削り出し高台 貫入あり		17世紀 灰釉
55	土製品	C65 II0	器厚6mm ④完形	①②灰黄 ③良好 ④細 砂粒を微量含む	軟質陶器?の周囲を人為的に削つた ものか		
56	鞆羽口	C72 II28	胴径[7.2cm] ③[5.0cm] ④胴部1/2	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 酸化焙 ④普通 砂粒を含む	内外面ともナデか 鉍滓付着		57と同一 個体か
57	鞆羽口	C58 II5	③[3.0cm] ④破片	①黒褐 ②橙 ③良好 酸化焙 ④普通 砂粒を含む	外面に鉍滓付着		56と同一 個体か

遺構外出土石器観察表

No	種別 器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特 徴
58	砥石	9号耕作溝	[2.2]	2.1	1.0	6.0	破片	流紋岩	4面使用 刃物ならし傷あり
59	砥石	C67-II3	[6.6]	3.3	2.1	73	一部欠損	流紋岩	4面使用 刃物ならし傷・刻み状傷あり
60	砥石	79耕作溝	[8.4]	3.5	6.3	180	破片	流紋岩	2面使用
61	砥石	C58-I72	4.0	3.8	2.5	52	完形	流紋岩	円筒形 全面使用
62	砥石	表採	[6.2]	[7.0]	1.6	55	一部欠損	砂岩	中央に溝あり
63	砥石	C56-I83	[4.8]	1.9	1.6	18	一部欠損	珪藻土	1面使用
64	石臼	4号集石	[23.5]	[14.7]	[11.9]	3900	1/2	安山岩	粉挽き臼上臼 分画・溝数不明 直径(28cm)
65	石臼	1号地目境	[17.2]	[9.8]	[5.7]	1000	1/2	安山岩	粉挽き臼上臼 分画・溝数不明 直径(21cm)

遺構外出土鉄器観察表

No	種別 器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
66	鉄環	101号土坑	3.4	3.2	0.3	11.0	完形	環状の鉄製品
67	手鎌(?)	表採	[7.0]	[2.2]	(3.0)	20.0	一部欠損	
68	手鎌(?)	表採	[4.8]	[2.4]	[0.3]	7.7	一部欠損	
69	鉄砲玉	10耕作溝	1.3	1.3	1.2	10.2	完形	鉛製
70	角釘	C64-II12	12.3	1.2	0.9	60.0	ほぼ完形	
71	釘(?)	C64-I94	6.8	0.6	(0.6)	8.2	ほぼ完形	
72	角釘(?)	耕作ピット列	[7.2]	[0.6]	(0.5)	8.0	一部欠損	
73	角釘	C57-I59	[6.6]	[0.8]	[0.6]	8.0	一部欠損	
74	角釘	表採	[4.9]	[0.8]	(0.5)	4.1	一部欠損	
75	不明	C73-II7	[6.8]	[3.2]	[0.6]	11.2	先端部欠損	
76	不明	C60-II7	[6.2]	[1.1]	[0.4]	6.1	刃部欠損	刀子の茎か
77	不明	C78-I85	[5.0]	(0.8)	(0.3)	4.4	両端部欠損	刀子の茎か
78	不明	C69-II1	[2.8]	[1.5]	(0.3)	3.1	破片	刀子の破片か
79	鉄滓	C85-II17	4.7	3.0	1.9	30.0		
80	角釘	C70-I91	[4.3]	[1.2]	(0.4)	4.8	両端部欠損	
81	角釘	2号土坑	3.1	1.1	0.3	3.1	先端部欠損	

遺構外出土銅銭観察表

No	種別	出土位置	径 (cm)	孔 (cm)	重量 (g)	材質	銭貨名	残存状況	特 徴
82	銭	B区北	2.4	0.7	3.1	銅	熙寧元寶	完形	
83	銭	C57-I60	2.5	0.7	1.5	銅	皇宋通寶	ほぼ完形	
84	銭	71耕作溝	(2.3)	0.6×0.7	2.3	銅	元豐通寶	ほぼ完形	
85	銭	C74-II56	[2.1]	0.6	1.2	銅	不明	外周欠損	

第5節 近世以降

近世以降の遺構・遺物は、溝状遺構（暗渠・地目境溝を含む）が計8条、土坑が50基、配石遺構が8基、耕作溝・耕作ピット等が検出されている。

(1) 溝状遺構

2号溝

位置 C53～66—I51～53 Gr 重複 なし 規模 長さ [26.08m] 幅3.80m～1.84m

深さ 40cm 走向 N-5°-E

備考 中央東よりに幅60cm程の溝があり、浅間A軽石がほぼ純層で入っているため、浅間A軽石廃棄のための溝と考えられる。寛永通寶が3点出土している。

3号溝

位置 C53～58—I50～51 Gr 重複 なし 規模 長さ [9.6m] 幅1.00m～0.48m

深さ 64cm 走向 N-2°-E

備考 2号溝とほぼ並行して走っており、2号溝と同時期の遺構と考えられる。

6号溝

位置 C93～94-II22～25 Gr 重複 なし 規模 長さ [3.32m] 幅2.66m～1.20m

深さ 32cm 走向 N-15°-E

備考 両側が調査区外のため詳細は不明であるが、東西にさらに長く続くと考えられるため溝とした。

7号溝

位置 C75～77-II22～32 Gr 重複 なし 規模 長さ21.44m 幅1.52m～0.52m

深さ 32cm 走向 N-19°-W

備考 北側中央東よりに石組あり。浅間A軽石がほぼ純層で入るため、A軽石を廃棄した溝と考えられる。

8号溝

位置 C77～83-II28～30 Gr 重複 9号溝より新 規模 長さ10.28m 幅3.36m～1.52m

深さ 40cm 走向 N-20°-E 備考 性格不明

9号溝

位置 C78～81-II28～30 Gr 重複 8号溝より古 規模 長さ7.8m 幅1.48m～0.88m

深さ 80cm 走向 N-24°-E 備考 性格不明 深さ80cmとかなり深い。

1号暗渠

位置 C74～75-II51～63 Gr 重複 なし 規模 長さ22.2m 幅0.5～1.7m

深さ 50cm 走向 N-87°-W

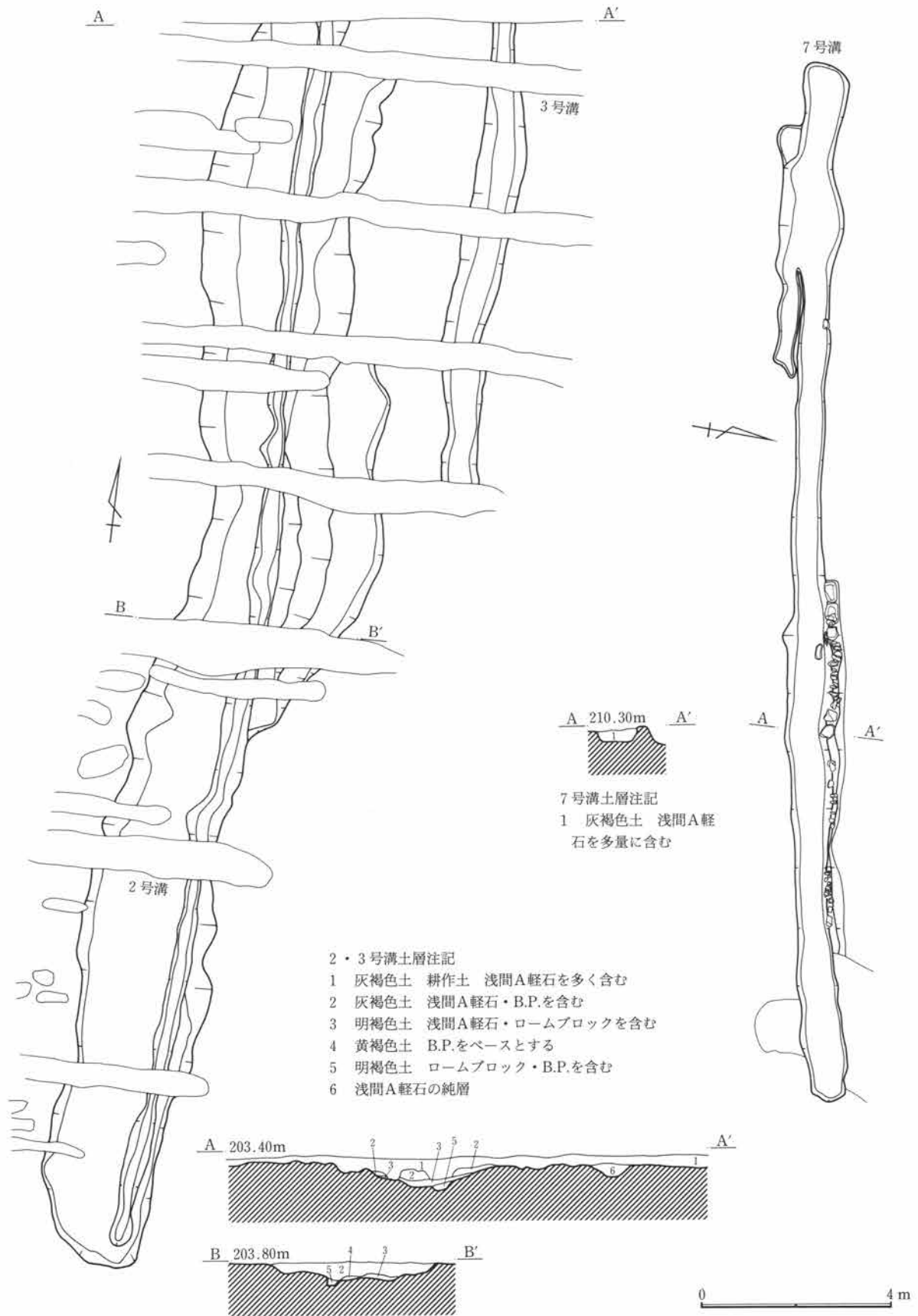
備考 断面台形の掘り方上に、径10～40cmの礫を組んでいる。

地目境溝

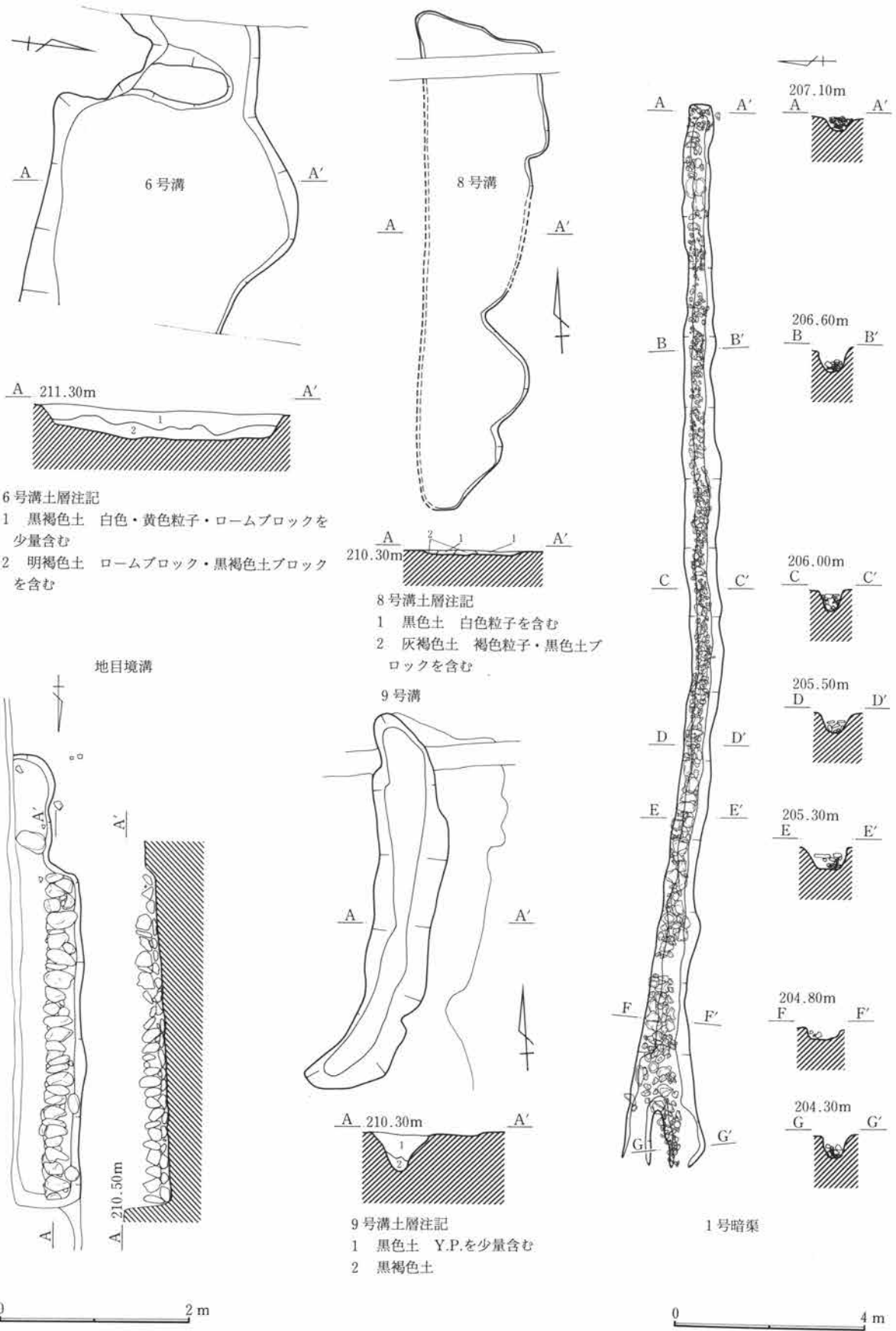
位置 C80～83-II21～22 Gr 重複 9号住より新 規模 長さ [4.68m] 幅0.72m

深さ 30cm 走向 N-S 備考 径10～30cmの礫を2段に敷いて地目境としている。

第三章 検出された遺構と出土遺物

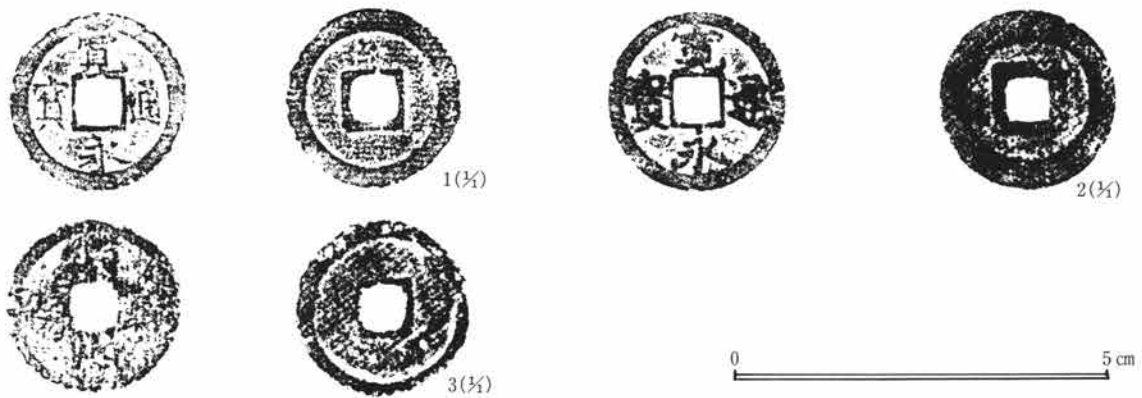


第411図 2・3・7号溝



第412図 6・8・9号溝・1号暗渠・地目境溝

第III章 検出された遺構と出土遺物



第413図 2号溝出土遺物

2号溝出土銅銭観察表

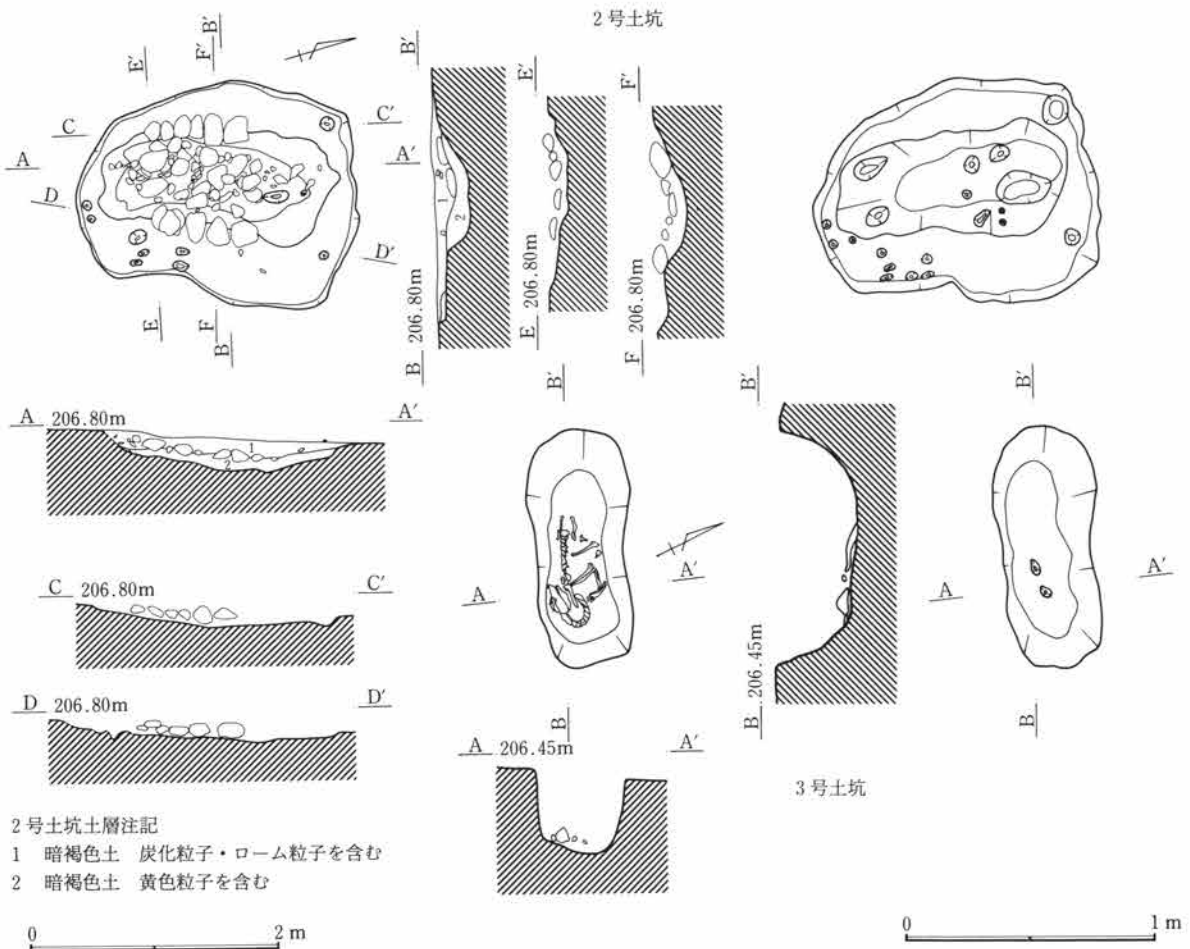
No	種別	径 (cm)	孔 (cm)	重量 (g)	材質	銭貨名	残存状況	特徴
1	銭	2.4	0.6	2.3	銅	寛永通寶	完形	
2	銭	2.4	0.6	3.7	銅	寛永通寶	完形	
3	銭	2.3	0.6	3.2	銅	寛永通寶	完形	

(2) 土坑

近世以降土坑一覧表

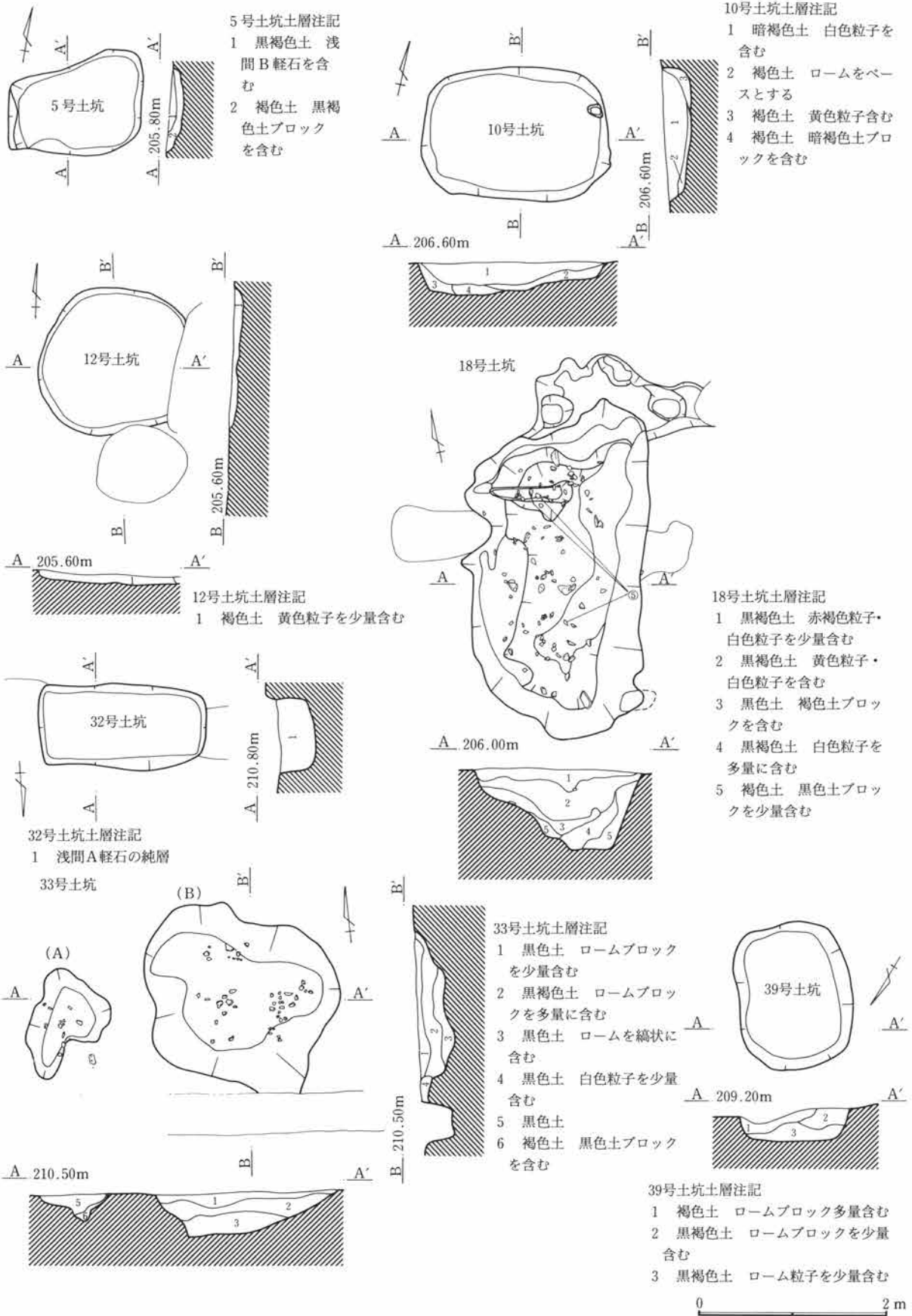
No	位置 (Gr)	重複関係	平面形態	断面形態	規模 (m)	深さ (cm)	面積 (m ²)	主軸方位	出土遺物
2	C65~66-I 90~91	なし	隅丸長方形	d	2.27×1.70	36	3.14	N-23°-E	軟質陶器 4 縄文土器 3
3	C64-I 93~94	なし	隅丸長方形	d	0.94×0.35	34	0.32	N-74°-W	なし
5	C56-I 99~II 0	なし	隅丸長方形	d	1.40×0.95	17	1.05	N-84°-E	なし
10	C60~61-II 4~5	なし	隅丸長方形	a	1.95×1.38	34	2.42	N-79°-E	なし
12	C57~58-II 86~87	なし	隅丸方形	a	1.54×1.40	16	1.88	N-6°-E	なし
18	C62~64-I 83~85	なし	楕円形	e	4.03×1.62	84	6.29	N-20°-E	磁器 1 瓦 1 縄文93 剥片13
32	C83~84-II 12~13	なし	隅丸長方形	a	1.76×0.89	53	1.42	N-85°-W	なし
33A	C82~83-II 9~10	なし	不正形	e	1.07×0.72	28	0.59	N-29°-E	陶器播鉢 1・甕 1 縄文土器69
33B	C82~83-II 10~11	なし	隅丸長方形	d	2.10×1.65	50	3.05	N-71°-W	打斧 1 丸石 1 剥片 1
37	C64~66-I 65~67	29土坑より新	不正形	e	4.08×1.58	96	4.74	N-76°-E	軟質陶器 1 縄文 5 剥片 1
39	C79~80-I 96~97	なし	隅丸長方形	a	1.50×1.18	34	1.62	N-48°-W	なし
40	C68~70-II 0~2	65土坑より新	不正形	e		85			軟質陶器 5 土師質土器 4 土師 3 縄文土器45 石器20
42	C70~72-I 97~II 0	なし	隅丸長方形	a	4.30×3.13	182	10.27	N-69°-W	軟質陶器 1 土師質土器 1 土師 2 縄文土器18 石器40
57	C75-I 93	なし	楕円形	b	0.86×0.66	24	0.40	N-77°-W	なし
59	C84~85-I 95~96	なし	楕円形	b	1.42×0.98	22	1.17	N-79°-W	なし
66	C69-II 8~9	なし	楕円形	b	1.51×1.07	38	1.24	N-76°-W	なし
67	C85-II 5	なし	隅丸長方形	b	0.89×0.58	24	0.45	N-47°-W	なし
69	C59-II 5	なし	隅丸方形	d	0.98×0.94	24	0.77	N-11°-W	なし
80	C77~78-I 59~60	81土坑と重複	隅丸長方形	d	3.17×1.60	60	4.32	N-35°-W	なし
81	C78~79-I 57~59	80土坑と重複	隅丸長方形	b	2.52×1.16	74	3.36	N-82°-E	なし
89	C83-II 34	なし	隅丸長方形	b	0.97×0.72	20	0.59	N-84°-E	なし
96	C96~98-II 23	なし	隅丸長方形	d	1.12×0.80	56	1.73	N-7°-E	縄文土器 1 剥片 1
97	C83~84-II 34	なし	不正形	a	1.15×0.76	57	0.53	N-26°-E	縄文土器 1 磨石 1
99	C84-II 36	87土坑より新	隅丸長方形	a	0.73×0.50	53	0.31	N-80°-E	縄文土器 1
107	C84-II 30	106土坑より新	円形	d	0.27×0.25	16	0.06	N-53°-W	なし
124	C84~85-II 23~24	123土坑	楕円形	b	1.70×0.88	11	1.18	N-32°-W	縄文土器 4
127	C68-II 31	なし	楕円形	b	1.13×0.70	35	0.65	N-36°-E	縄文土器 1
128	C57~58-II 29	129土坑より新	楕円形	b	1.76×0.76	23	1.17	N-18°-E	なし
129	C57~58-II 29~30	128土坑より古	隅丸方形	d	1.20×1.10	32	1.04	N-67°-W	なし
140	C68~69-II 24~25	なし	隅丸長方形	d	1.58×1.02	19	1.37	N-18°-W	なし
143	C74~75-I 83	152土坑より新	隅丸長方形	b・c	2.42×0.91	86	1.97	N-8°-E	縄文土器12
147	C59~60-II 40~41	なし	隅丸長方形	b	2.24×1.64	72	3.27	N-85°-E	弥生 3 縄文24 剥片 1

No	位置 (Gr)	重複関係	平面形態	断面形態	規模 (m)	深さ (cm)	面積 (m ²)	主軸方位	出土遺物
152	C 73~75-II82	143土坑	隅丸長方形	b	2.46×1.08	35	1.81	N-95°-E	軟質1 土師質1 縄文22 剝片2
156	C 84~85-II29	90土坑より新	隅丸方形	b	0.55×0.50	35	0.21	N-24°-W	縄文土器1 剝片1
157	C 79~80-II38	なし	楕円形	d	1.94×1.54	21	2.38	N-87°-W	縄文土器3
159	C 74~75-II39~40	なし	隅丸長方形	d	2.48×1.50	48	3.36	N-87°-W	なし
160	C 83~84-II28	161土坑より新	楕円形	a	1.04×0.83	40	0.65	N-28°-E	なし
161	C 83~84-II28	160土坑より古	隅丸長方形	d	0.36×0.30	35	0.11	N-52°-E	なし
170	C 59~60-II16	なし	楕円形	d	1.82×1.04	32	1.42	N-35°-W	軟質陶器2 縄文2 剝片2
172	C 76~77-I 83	なし	長方形	a	2.20×1.40	40	2.33	N-S	土師質土器1 縄文土器2
174	C 95~96-II40~41	なし	円形	d	0.82×0.70	30	0.45	N-45°-W	なし
175	C 80~81-II43~44	なし	楕円形	b	2.20×1.28	18	2.19	N-14°-E	なし
176	C 73~75-II41~42	なし	楕円形	b	2.48×1.96	50	3.56	N-8°-W	なし
180	C 58~59-II17~18	なし	不正形	e	1.60×1.16	44	2.05	N-44°-E	軟質陶器2 縄文土器4
188A	C 75-I 36~37	188B土坑より新	楕円形	d	1.52×9.20	48	1.04	N-70°-W	なし
188B	C 74~75-II35~37	188土坑より古	隅丸長方形	d	2.58×1.34	32	3.00	N-62°-E	なし
190	C 75~76-II36	なし	楕円形	b	0.88×0.62	50	0.42	N-39°-W	なし
194	C 55-II58	なし	隅丸長方形	b	1.26×0.68	20	0.72	N-84°-W	なし
206	C 55-II58~59	なし	楕円形	d	1.10×0.68	22	0.57	N-76°-E	なし
221	C 87~88-II50	なし	隅丸方形	d	0.96×0.90	24	0.69	N-S	なし
225	C 60~61-II60	なし	楕円形	d	1.14×0.78	24	0.66	N-74°-W	なし
234	C 57-II44	なし	円形	b	0.84×0.78	22	0.52	N-35°-W	なし
249	C 81-II29	なし	楕円形	b	1.22×0.90	34	0.90	N-25°-E	なし
250A	C 80~81-II29~30	250B土坑より新	円形	d	0.90×0.86	30	0.68	N-52°-W	なし
250B	C 80~81-II30	250A土坑より古	楕円形	d	0.76×0.58	24	0.37	N-28°-E	なし
257	C 75~76-II16	なし	円形	d	1.26×1.16	14	1.16	N-50°-W	なし



第414図 2・3号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物

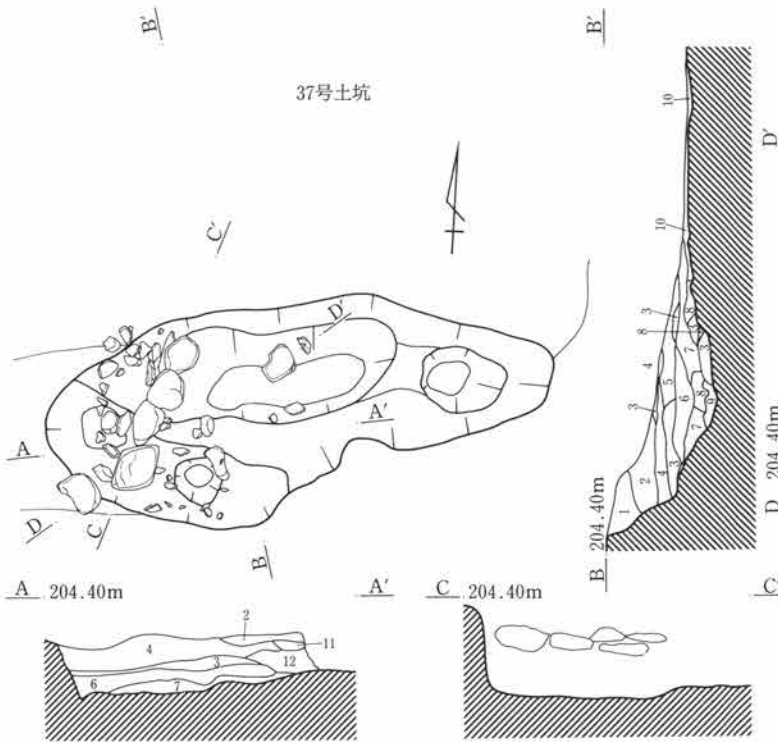


第415図 5・10・12・18・32・39号土坑

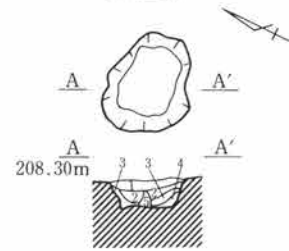
第5節 近世以降

37号土坑土層注記

- 1 黒褐色土 浅間A軽石を含む
- 2 黒褐色土 ロームブロック・小礫を含む
- 3 黄褐色土 暗褐色土ブロックを含む
- 4 黒褐色土 ロームブロックを多く含む
- 5 黒褐色土 ロームブロックを少量含む
- 6 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む
- 7 黄褐色土 暗褐色土ブロックを含む
- 8 黒褐色土 黄色粒子を含む
- 9 黄褐色土 暗褐色土ブロックを多く含む
- 10 黒褐色土 締まり強い
- 11 黒褐色土

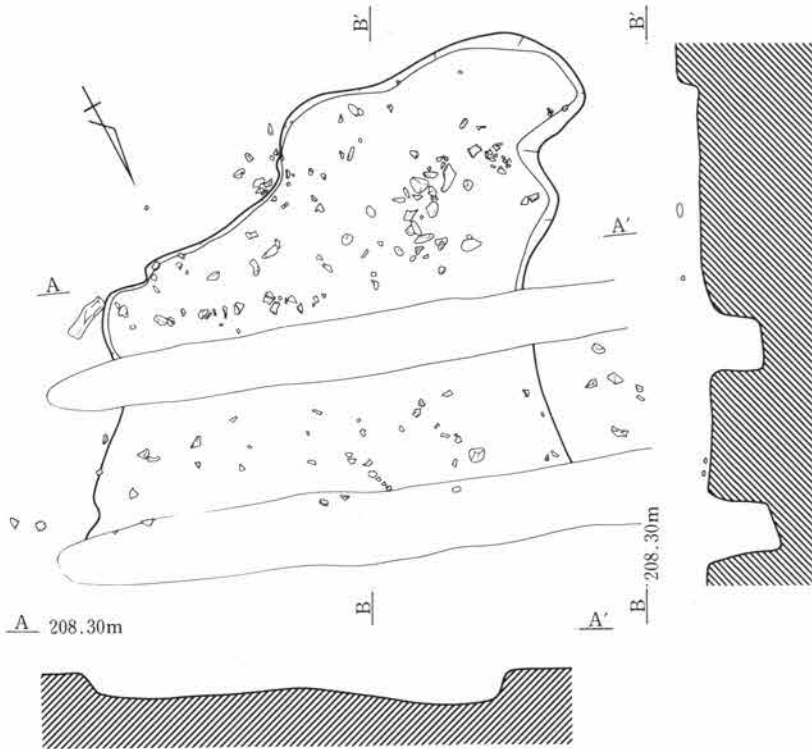


57号土坑

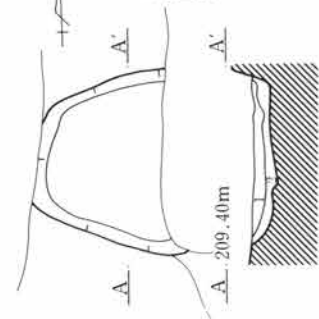


57号土坑土層注記

- 1 黒褐色土 黄色粒子を含む
- 2 黒褐色土 ロームブロック含む
- 3 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む
- 4 黄褐色土 ロームをベースとする
- 5 攪乱



59号土坑



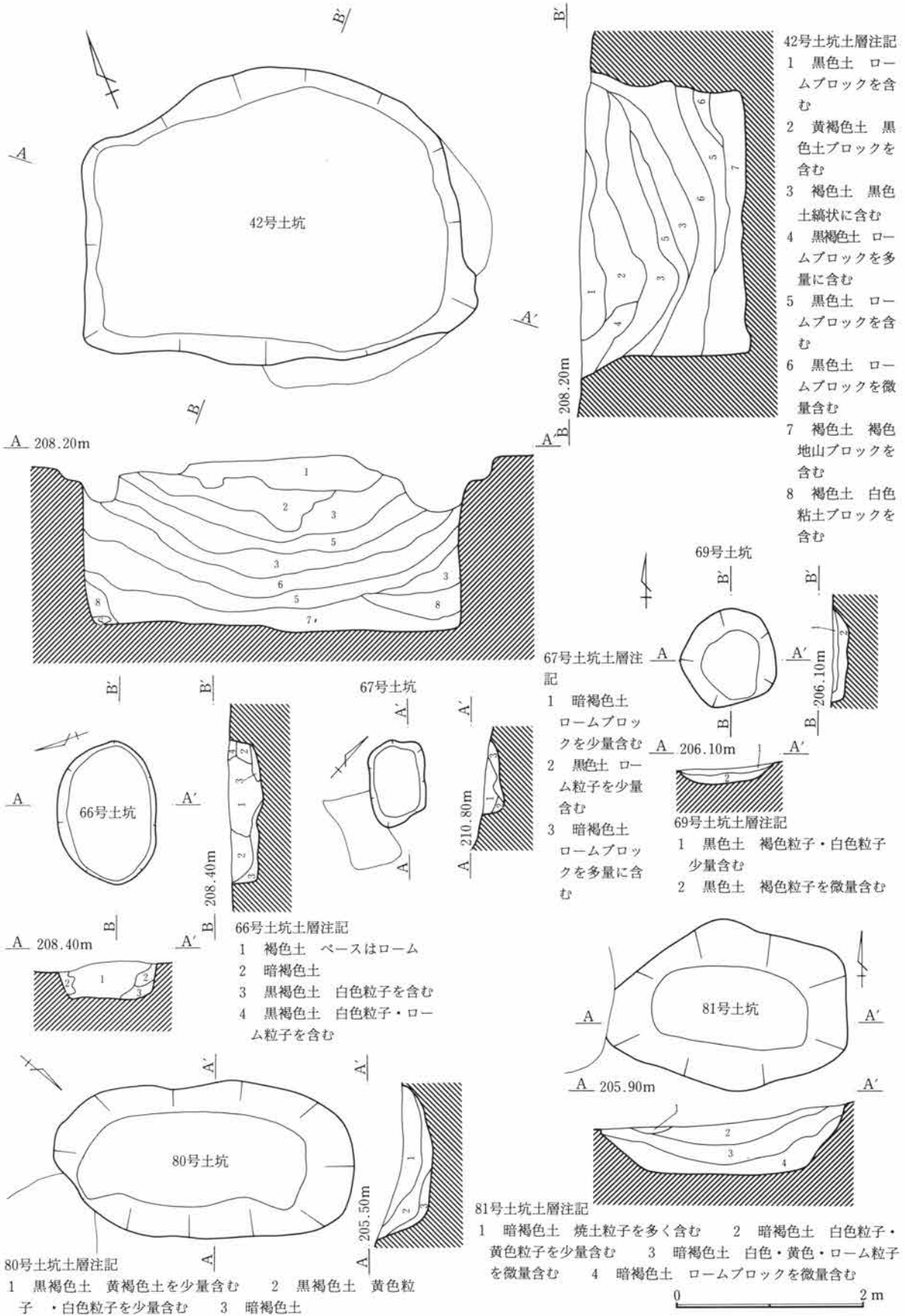
59号土坑土層注記

- 1 黒褐色土 褐色土ブロックを含む
- 2 褐色土 黒色土ブロックを含む

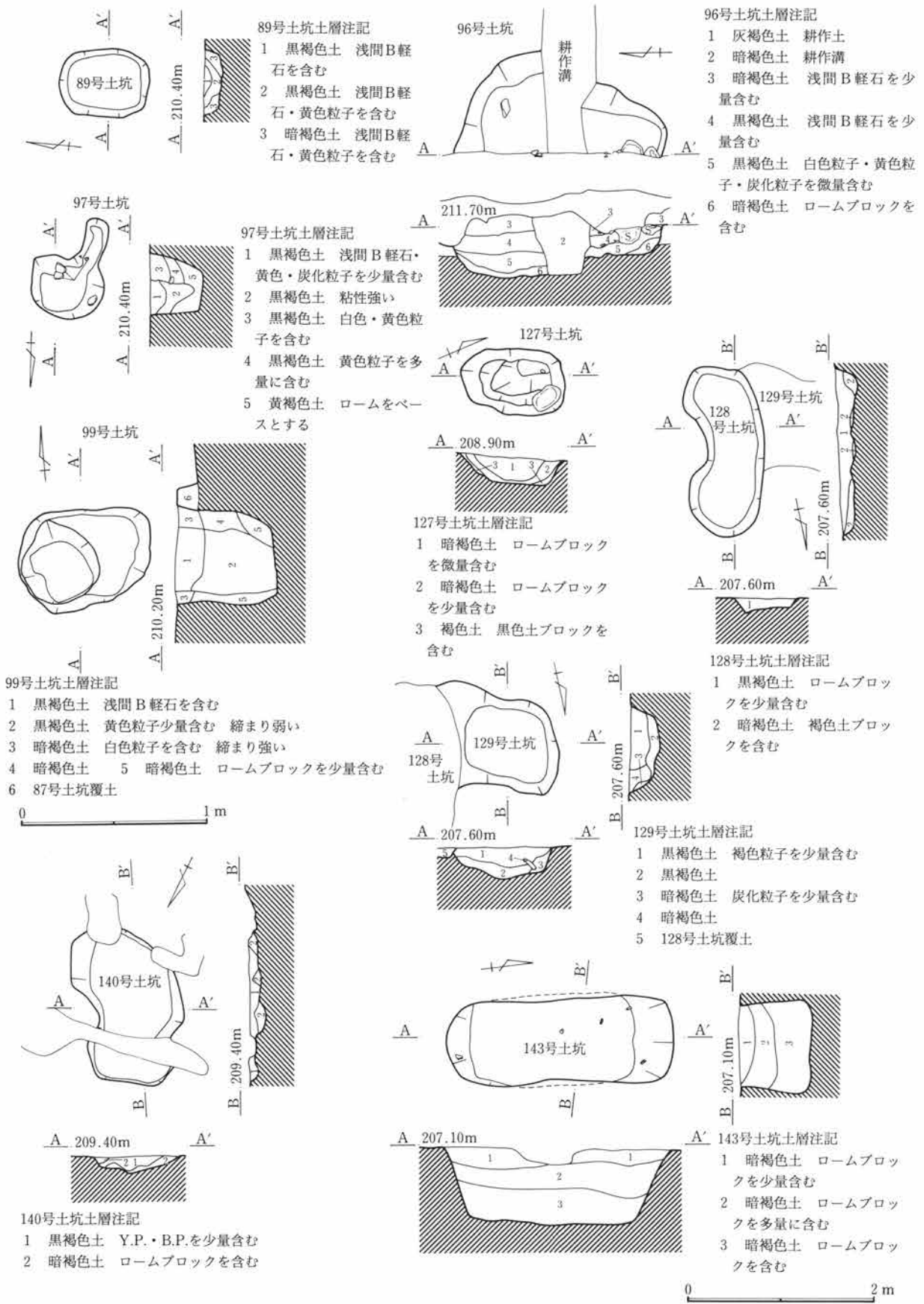


第416図 37・40・57・59号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物

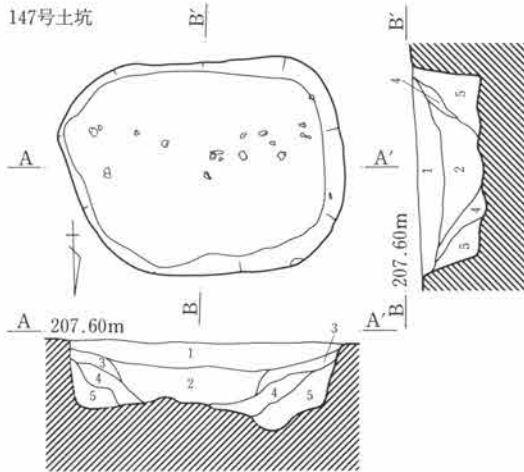


第417図 42・66・67・69・80・81号土坑



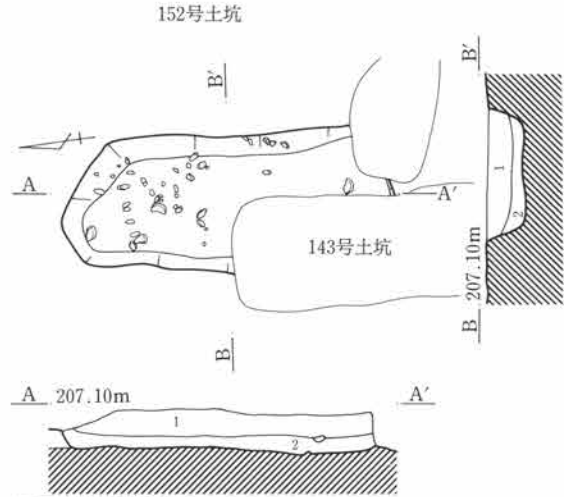
第418図 89・96・97・99・127～129・140・143号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物



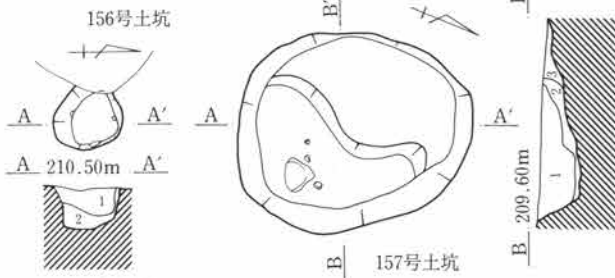
147号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 黄色粒子・白色粒子・粘土粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 白色粘土粒子を多量に含む
- 3 暗褐色土 白色粒子を少量含む
- 4 暗褐色土 黄色粒子を少量含む
- 5 黄褐色土 ロームをベースとする



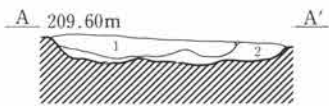
152号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 B.P.・白色粒子・黄色粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 B.P.・白色粒子・黄色粒子を微量含む



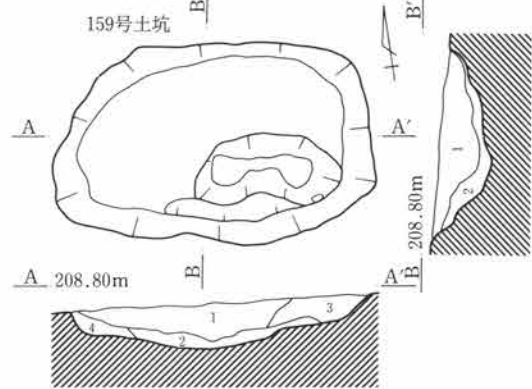
156号土坑土層注記

- 1 黒色土 褐色粒子を少量含む
- 2 黒色土 褐色粒子を微量含む



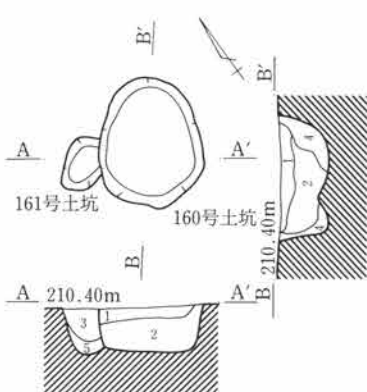
157号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 白色粒子・褐色土ブロック含む
- 2 黒褐色土 明褐色土ブロックを少量含む
- 3 褐色土



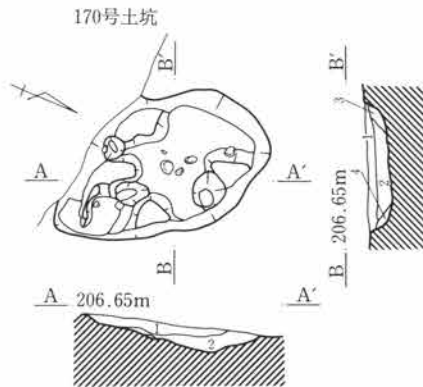
159号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 白色粒子・ローム粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 白色粒子・ロームブロックを少量含む
- 3 明褐色土 白色粒子・ロームブロックを少量含む
- 4 明褐色土 白色粒子・ロームブロック・B.P.を少量含む



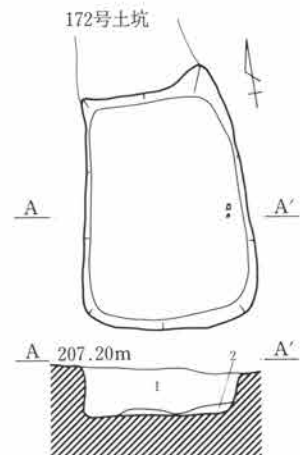
160・161号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 黒色土ブロックを含む
- 2 黒褐色土 暗褐色土ブロックを含む
- 3 暗褐色土 白色粒子・B.P.を微量含む
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土 褐色土ブロックを含む



170号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子・B.P.を少量含む
- 3 明褐色土 ローム粒子を少量含む
- 4 暗黄褐色土 暗褐色土ブロック含む

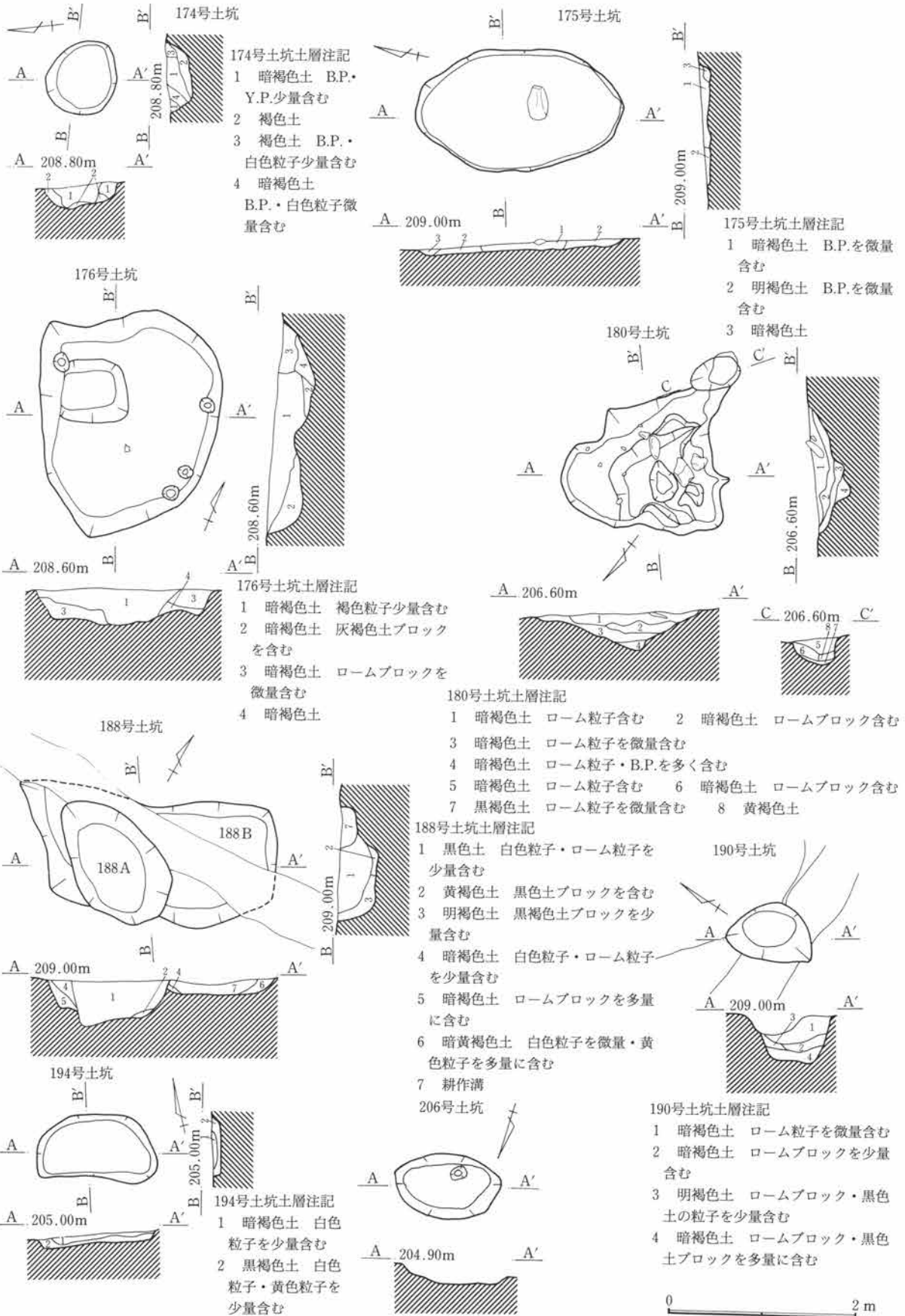


172号土坑土層注記

- 1 明褐色土 B.P.・白色粒子を含む
- 2 暗褐色土 B.P.・白色粒子を含む

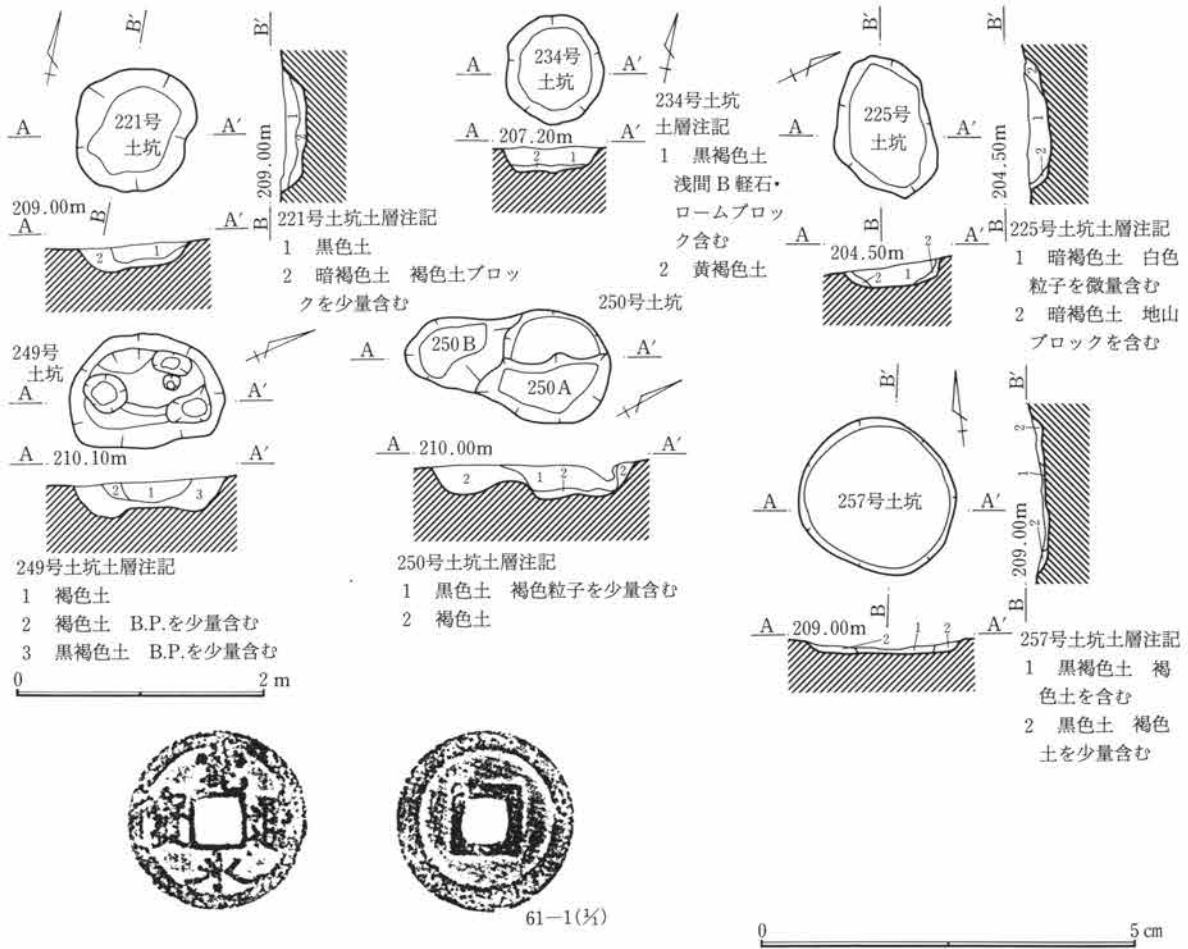
0 2 m

第419図 147・152・156・157・159・160・161・170・172号土坑



第420図 174～176・180・188・190・194・206号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物



第421図 221・225・234・249・250・257号土坑および土坑出土遺物

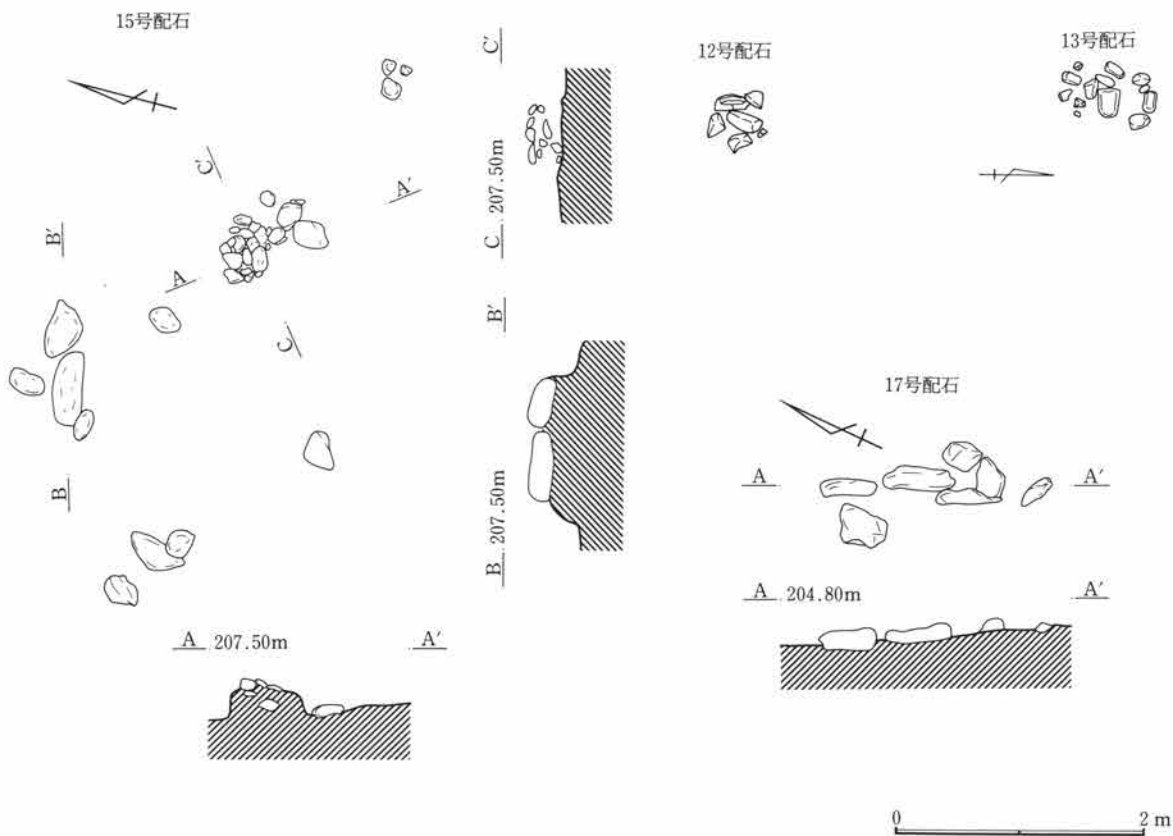
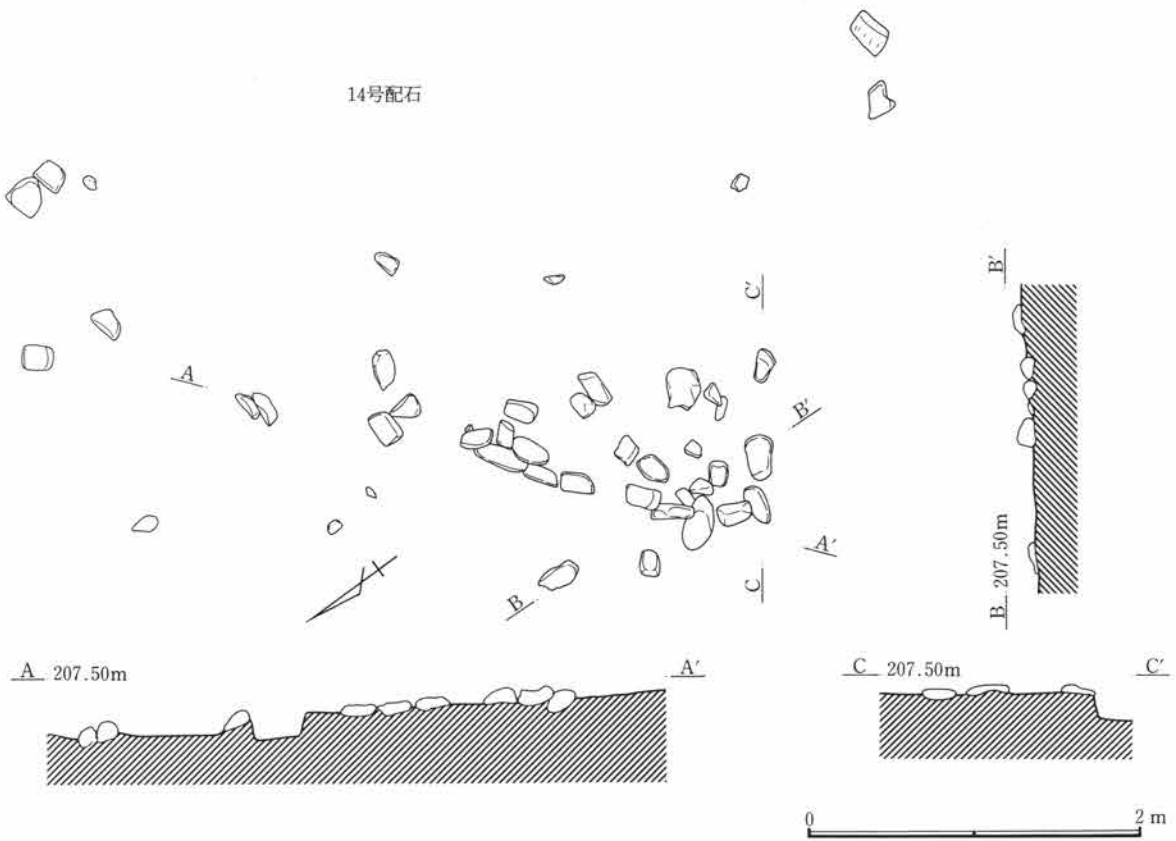
61号土坑出土銅銭観察表

No.	種別	径 (cm)	孔 (cm)	重量 (g)	材質	銭貨名	残存状況	特徴
61-1	銭	2.5	0.7	1.5	銅	寛永通寶	完形	

(3) 配石遺構

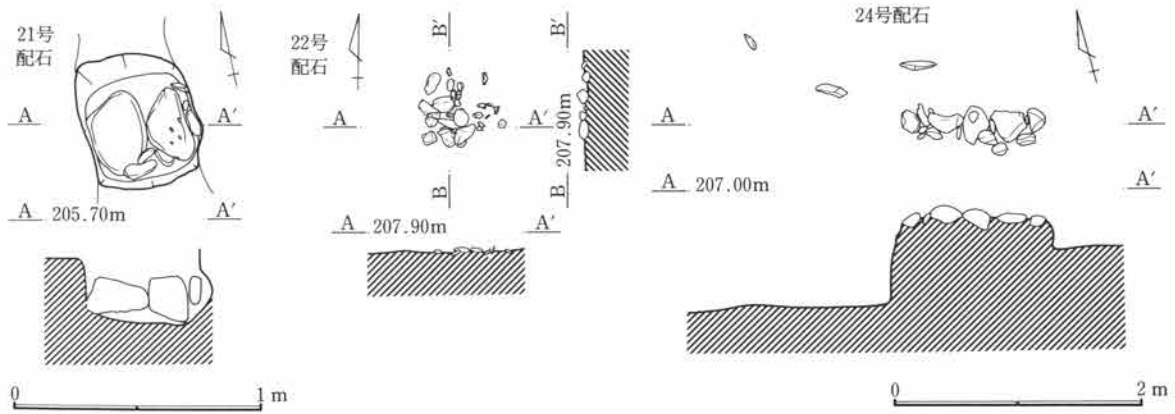
近世以降配石遺構一覧表

No.	位置 (Gr)	重複	規模 (m)	主軸方向	配石状況
12	C 71-I 64	なし	0.50×0.48	N-90°-E	径20~30cmの礫6点を集中的に配石する。
13	C 68~69-I 64	なし	0.78×0.42	N-29°-E	径10~30cmの礫10数点を集中的に配石する。
14	C 69~72-I 83~87	なし	0.70×2.60	N-52°-E	径20~40cmの礫を直線的に配し、周辺にも配石する。
15	C 72~73-I 82~83	なし	2.80×2.20	N-37°-W	径20~50cmの礫を不規則に配するが、径10~20cmの礫が一部に集中する。
17	C 56-II 59-60	なし	1.84×0.80	N-37°-W	径35~50cmの礫を直線的に配石する。
21	C 74-II 57	なし	0.53×0.45	N-S	堀り方中の、径60cmの礫2点の周囲に小礫をつめている。
22	C 66-II 44~45	なし	0.62×0.40	N-49°-W	径10~20cmの礫10数点を集中的に配石する。
24	C 61-II 6	なし	1.16×0.30	N-72°-E	径10~30cmの礫を直線的に配石する。



第422図 12~15・17号配石遺構

第三章 検出された遺構と出土遺物



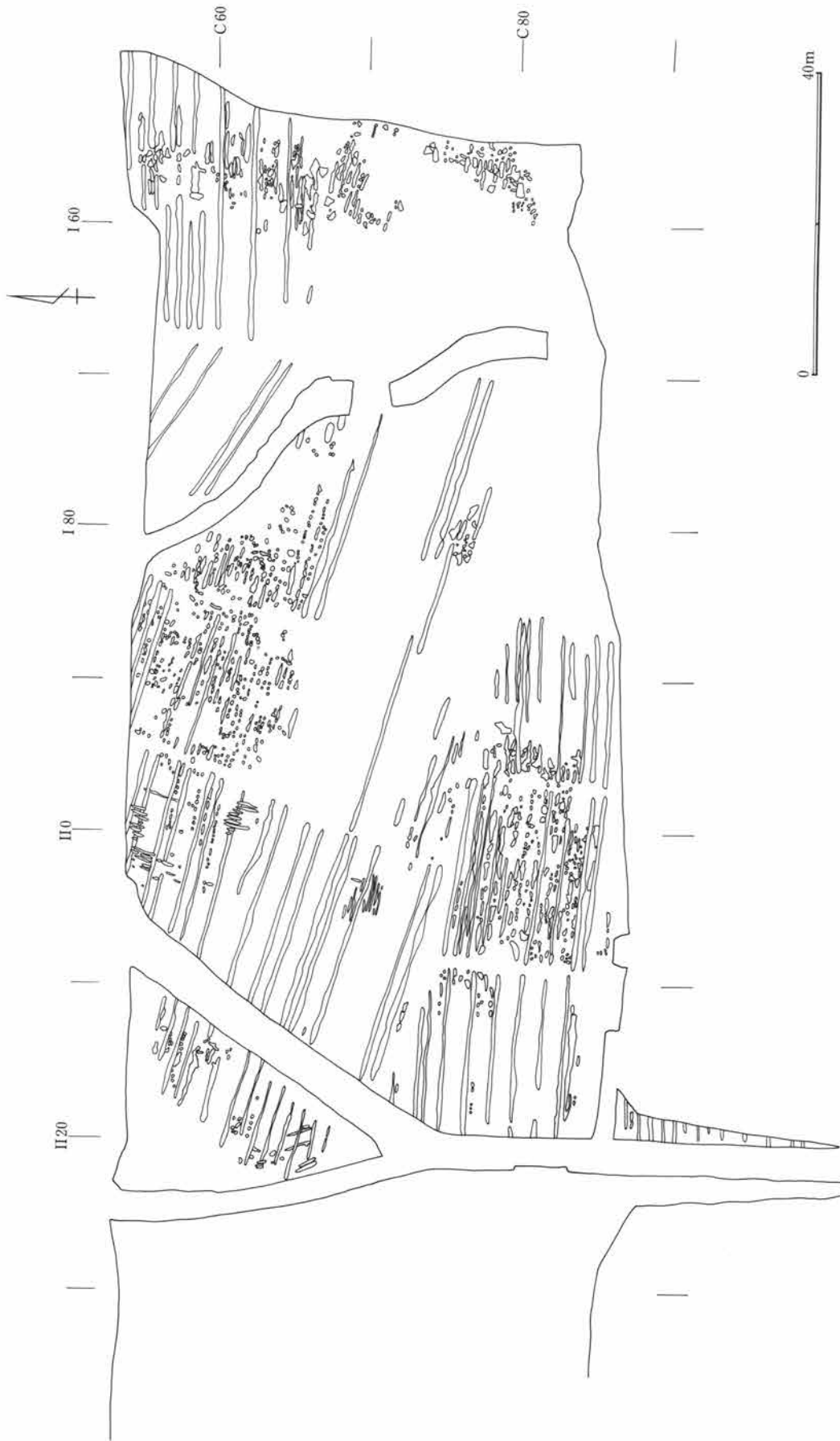
第423図 21・22・24号配石遺構

(4) 耕作溝

近世以降の耕作によるものと考えられる溝・ピット・ピット列が、調査区の全面から検出されている。遺構に伴う出土遺物はないが、縄文時代～中世にかけての遺物が多量に混入している。

(5) 遺構外出土遺物

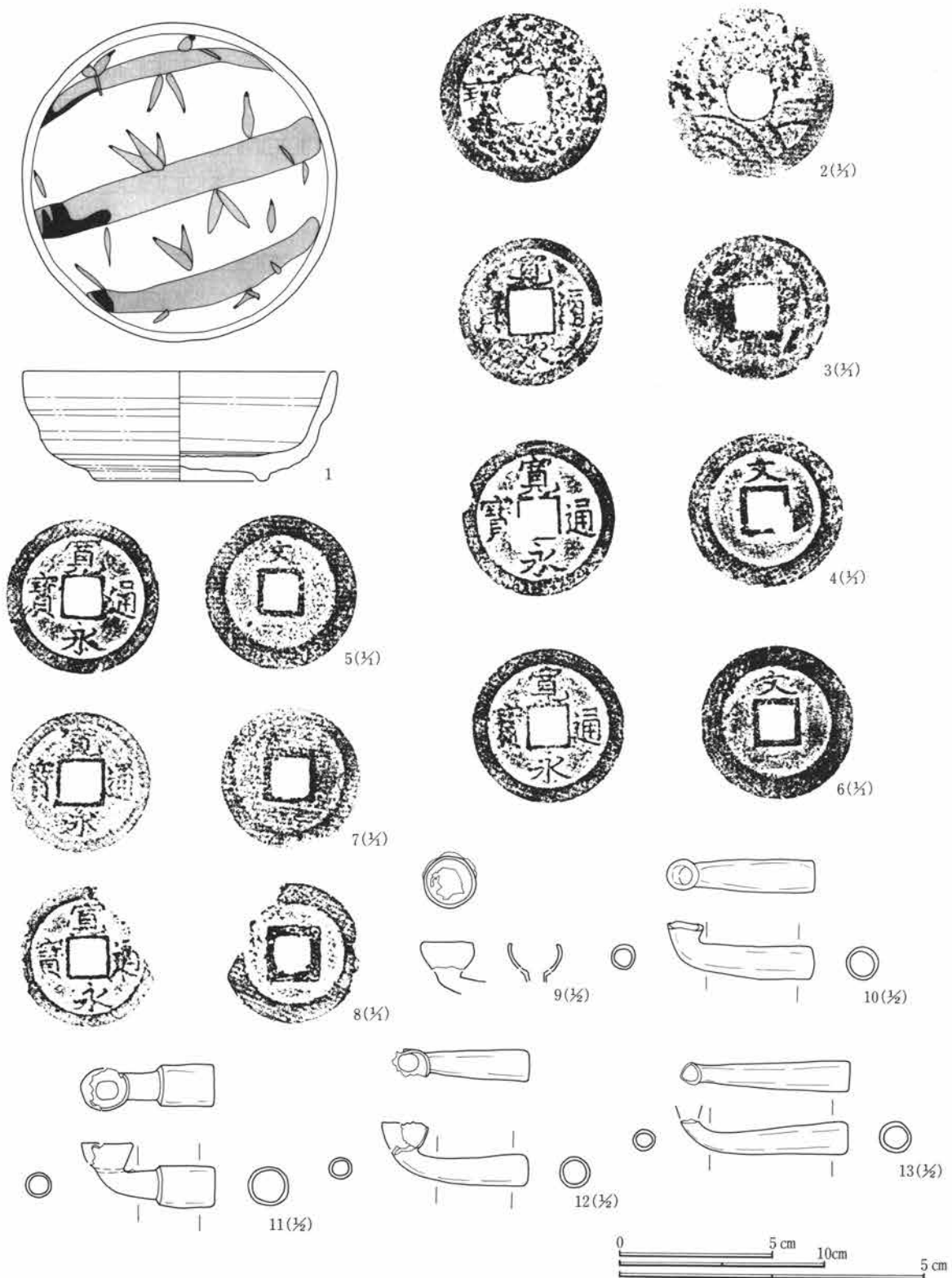
遺構外から、陶器1点と銅製品（銅銭・煙管雁首）計12点が出土している。銅銭はすべて寛永通寶で、背面に青海波文があるもの1点、「文」字があるもの3点、無文のもの3点である。煙管雁首は火皿部が欠損しているものが多いが、火皿部だけのものが1点ある。



第424図 耕作溝位置図(1)



第425図 耕作溝位置図(2)



第426図 遺構外出土遺物

遺構外出土器観察表

No	種別 器種	出土位置	法量 ①口径 ②底径 (cm) ③高さ ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成	調	整	分類	備考
				④胎土				
1	陶器 碗	表採	①15.2cm ②8.2cm ③5.3cm ④完形	①灰白 ②灰白 ③良好 還元焰 ④細	ロクロ調整	削り出し高台?		

第三章 検出された遺構と出土遺物

遺構外出土銅製品観察表

No	種別	出土位置	径 (cm)	孔 (cm)	重量 (g)	材質	銭貨名	特徴
2	銭	B区北	2.8	0.7	4.1	銅	寛永通寶か	両面に付着物あり 背文青海波
3	銭	C58-I56	2.4	0.7	2.8	銅	寛永通寶	
4	銭	C70-I68	2.5	0.6	2.6	銅	寛永通寶	背文「文」
5	銭	外堀	2.5	0.6	3.1	銅	寛永通寶	背文「文」
6	銭	B区北	2.5	0.6	3.5	銅	寛永通寶	背文「文」
7	銭	1谷津	2.3	0.6	2.2	銅	寛永通寶	
8	銭	外堀	2.3	0.6	1.5	銅	寛永通寶	
No	種別 器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特徴
9	煙管雁首	外堀	[0.9]	1.7	0.1	2.1	火皿部のみ	
10	煙管雁首	1谷津	1.8	1.8	0.1	8.1	完形	
11	煙管雁首	表採	[4.1]	2.1	0.1	8.9	ほぼ完形	首部に肩あり
12	煙管雁首	8耕作溝	[4.5]	[2.0]	0.1	3.6	火皿部一部欠	
13	煙管雁首	1谷津	[5.5]	[1.0]	0.1	7.0	火皿部欠損	

第IV章 調査の成果と問題点

第1節 縄文時代～中世の遺構遺物について

(1) 縄文時代

縄文時代は、中期初頭から後期前半にかけての遺構、前期から後期前半にかけての遺物が検出されている。遺構は竪穴・敷石住居跡、土坑、埋設土器、配石遺構、溝、ピット、谷津状遺構で、遺物は、土器48,523点と石器2,923点が出土している。ここでは、特に遺構の変遷と石器について検討してみたい。

遺構の変遷

遺構は中期初頭から後期前半のものが検出されているが、谷を隔てて西500m程にある内匠諏訪前・内匠日影周地遺跡や、他の内匠丘陵上の遺跡との比較も含めて、縄文時代の遺構の変遷を追ってみることにする。

①前期 草創期、早期は遺構・遺物ともに検出されておらず、当遺跡での居住活動はなされていないと言える。前期は、遺構は検出されておらず、土器178点が出土しているだけである。時期は関山式期から諸磯c式期にかけてで、黒浜・有尾式系のものがほとんどである。遺構が存在しないため調査区内での居住は考えられないが、調査区外に遺構のある可能性はある。内匠諏訪前遺跡・内匠日影周地遺跡では黒浜式期2軒、諸磯a式期2軒、諸磯b式期1軒、計5軒の住居跡が検出されているが、遺構外出土遺物の出土量は当遺跡とほぼ同じであったため、当遺跡においても近隣に遺構のあった可能性は高い。

②中期初頭～中葉 五領ヶ台式期（一部前期末十三菩提式期に入るものも含む）、勝坂・阿玉台式期、加曾利E3・E4式期の遺構・遺物が検出されている。五領ヶ台式期は、土坑1基（239号土坑）、埋設土器1基（6号埋設土器）が検出されており、他に土坑2基がこの時期になる可能性がある。239号土坑は調査区西側、6号埋設土器は中央部に位置している。土器は計386点出土しており、この時期の遺構以外の出土土器は247点で、前期よりも多くなっている。このことは前期よりも頻繁な居住活動の結果を表しているとともに、調査区外西側に遺構が存在する可能性を示している。内匠諏訪前・日影周地遺跡においては、この時期の遺構は土坑が13基検出され、遺構以外の出土遺物は381点であり、当遺跡以上の頻繁な居住活動が考えられる。

勝坂・阿玉台式期は竪穴住居跡1軒が検出され、土器は407点出土している。竪穴住居跡からの出土土器は2点だけであるため、遺構以外の出土遺物が比較的多く、調査区外に遺構のある可能性を示している。これ以後加曾利E3式期までの遺物は出土していないため、この住居の人々は短期間で移動したものと考えられる。内匠諏訪前・日影周地遺跡においてはこの時期以降の遺構・遺物は全く検出されておらず、丘陵上の他の遺跡でもほとんど出土していないため、移動は丘陵上の他の場所にしたとは考えにくく、全く別の場所に移動した可能性が高い。

③中期末～後期前半 加曾利E3式期以降後期堀之内II式期に至るまでは、当遺跡において連続して（あるいは短い断絶期間を挟んで断続的に）居住活動が行われた時期で、時期の判明する土器だけでも16,274点（94.4%）出土しており、また時期不明の無文・縄文施文・条線文土器のほとんどはこの時期のものと考えられるため、中期中葉以前に比べこの時期の生活活動の多さを物語っている。

加曾利E3式期は土坑1基（231号土坑）が検出されているだけで、土器も比較的少ない。加曾利E4式期になると、住居跡1軒（20号住）、土坑4基（21・93・133・167号土坑）が検出されており、他にこの時期の可能性のある土坑が8基検出されている。20号住居跡は調査区西側に位置し、平面形態不明で住居でない可

第IV章 調査の成果と問題点

能性もあるが、埋設土器2基が検出されている。土坑は、完形もしくは半完形の土器が出土しており、底面から浮いた状態で出土しているものもあり、人為的な埋没が想定される。分布は調査区内に散在しているが、西側に多い。すべてが同時期に存在したものとは考えにくい、重複は無く、遺物からも時期差は判別できないため、遺構の前後関係は不明である。土器は時期の判明するものだけでE3・E4式期合わせて3,788点出土し、遺構以外から出土した土器は3,000点以上と、中期中葉以前に比べ格段に多くなる。このことは、長期間にわたり連続してあるいは断続的に居住活動が行われたことを表している。

称名寺I式期は、土坑2基(19・185号土坑)が検出されており、他にこの時期の可能性のある土坑が4基検出されている。2基の土坑はいずれも調査区中央部から検出され、19号は半完形の土器が出土し、185号は比較的大きな破片を含む土器片が多く出土している。検出遺構数は少ないが、土器は3,885点と加曾利E式期とほぼ同量出土しており、遺構以外からの出土がかなり多くなっている。このため調査区外にさらに遺構がある可能性が高い。

称名寺II式期は、竪穴住居跡1軒(15号住)、住居跡の可能性のある土坑・埋設土器各1基(196号土坑・11号埋設土器)、土坑5基(31・112・136・254・256号土坑)、埋設土器4基(3・4・5・7号埋設土器)が検出されており、他にこの時期の可能性のある土坑が22基検出されている。住居跡は円形の竪穴で、敷石は伴っていない。また、住居の炉の可能性のある土坑が2基、調査区中央と西側に検出されている。土坑・埋設土器は調査区西側に土坑1基・埋設土器1基、中央から東側にかけて土坑4基・埋設土器3基が散在している。土器は時期の判明するものだけで5,405点出土しており、遺構出土以外のものも4,000点以上ある。中期末～後期のなかでも最も多く、頻繁な居住活動が想定できる。

堀之内I式期は、住居跡の可能性のある土坑1基(155号土坑)、土坑1基(179号土坑)が検出され、他にこの時期の可能性のある土坑が26基検出されている。155号土坑は、円形の竪穴住居の東半分の可能性のあるもので、調査区西側で検出されている。179号土坑も調査区の西側、155号土坑に近い位置に存在する。確実なものはこの2基だけであるが、他の26基の中にこの時期になるものが相当数あると考えられる。土器は計1,818点と加曾利E・称名寺式期に比べ減少しており、遺構以外のものも1,300点程度で、居住活動の減少を表している。

堀之内II式期は、敷石住居跡1軒(7号住)、竪穴状の遺構(22号住)、住居跡の可能性のある土坑1基(228号土坑)、土坑11基(13・25・68・85・94・101・132・153・165・168・240号土坑)、埋設土器2基(1・10号埋設土器)、溝2条(10・11号溝)が検出され、他にこの時期の可能性のある土坑37基が検出されている。遺構は調査区北西部、中央南側、中央やや北よりの3カ所に主に分布している。遺構数は縄文時代の中で最も多く、住居跡・土坑の他に溝・竪穴状の遺構等も検出されている。土器は計1,378点と、堀之内I式期よりも少なく、遺構以外のものは881点しか出土していない。一般的に、検出遺構量は遺構外出土遺物も含めて遺物出土量に比例すると考えるのが自然であり、内匠諏訪前・内匠日影周地遺跡においても遺構数と遺構外出土遺物の出土量に対応している状況が指摘されている。当遺跡においては、遺物出土量の少ない堀之内II式期が最も遺構数が多くなっており、単純に遺構数と遺物出土量が比例しているとは言えない。これには、時期不明の遺構の多くが遺構の少ない時期のものである場合、遺構の少ない時期は逆に調査区外にその時期の遺構が多い場合、時期不明の遺物に遺構の少ない時期のものが多い場合等が考えられるが、いずれも偶然によるところが多くて可能性は薄いため、これ以外の何等かの要因があったものと考えられる。

堀之内II式期以降は、加曾利B式土器が少量出土しているだけで、縄文時代の遺構・遺物は検出されていない。この時期の遺構は、内匠諏訪前・内匠日影周地遺跡や、丘陵上の他の遺跡においても検出されておら

ず、遺物も殆ど出土していないため、この場所での居住活動は行われず、人々は内匠丘陵以外の場所に移動したと考えられる。

石器について

縄文時代の石器は、剥片・碎片・石核等を含めて計2,923点出土している。残念ながら遺構出土のものが少なく、遺構との関連を検討することはできないため、石器全体における器種構成についてと、比較的個体数の多い、打製石斧、磨石・くぼみ石、多孔石の3器種について検討してみたい。

①器種構成について

当遺跡において出土した石器の器種、点数は前述の通りである。石器の時期は、厳密には遺構に帰属することが明確なものしか正確な時期を特定できるものはないが、遺構覆土中のもや遺構外出土のものはすべて時期不明となってしまう、資料数が極端に少なくなるため、ここでは石器の時期は出土土器の時期とほぼ同時期のものが多いと考え、大部分が中期末～後期前半のものであるとし、すべての石器を対象とすることにする。剥片・碎片・石核を除いた867点をみると、打製石斧(217点 25.0%)、磨石・くぼみ石(計217点 25.0%)、多孔石(69点 8.0%)、スクレイパー(65点 7.5%)、磨製石斧(48点 5.5%)等が個体数が多くなっている。

県内の縄文時代の石器を多量に出土した遺跡の石器組成は表のとおりである。時期の欄は出土土器が少量のものは省き、その遺跡の主とするものに限って示しており、当遺跡と同様石器の時期は出土土器とほぼ同じと考え、表示の時期がほぼ石器の時期に相当するとし、総ての石器を対象としている。石器組成の差は、時期差によるものだけでなく、地域差や他の要因も当然考慮に入れなければならないが、資料数が少なく比較することができないため、ここでは時期差によるおおよその傾向を指摘する程度に止どめる。

従来から、縄文前期から中期にかけて、石鏃・石匙の減少と打製石斧の増加が指摘されている。表によれば、石鏃は全体的に見ると前期が高く中期に低い傾向は窺えるが、前期の糸井宮前では1.5%と低く、逆に中期以降の国分寺中間と深沢では高くなっている。深沢は住居は1軒のみで配石遺構・土坑を主とする遺跡のため、石器組成もやや異なっている可能性があり、特に配石遺構からの石鏃の出土が多い特徴がある。このため石鏃は、時期差とともに遺跡の性格にも出土量の要因があると考えられる。石匙は前期と中期以降で顕著な差が見られる。前期の遺跡では初頭の三原田城が7.8%と最も高く、すべて3.5%以上であるのに対し、中期以降は三原田の1.2%が最も高く、他はすべて1%以下である。このことは石匙の出土量の差が、主に時期差によるものであることを示していると言えよう。打製石斧も、前期と中期以降で顕著な差が見られる。前期の遺跡では三原田城の15.8%が最も高く、糸井宮前遺跡は4.1%と非常に低い。これに対し中期以降は三原田の50.6%を初めすべて25%以上であり、石匙とは逆に中期以降に出土量の増加が見られる(前期の遺構の多い荒砥二ノ堰は石匙がやや高く打製石斧は低くなっている)。スクレイパーも前期中心の遺跡はすべて10%以上で、10%以下の遺跡は中期以降に集中するが、20%以上の遺跡もあり、石匙ほど顕著な差は見られない。

磨石・くぼみ石は、最も高い荒砥二ノ堰で46.6%、房谷戸・行幸田山・三原田で8.0%とかなりの差があるが、他の遺跡は10～20%台で時期による差も認められないため、比較的安定した出土率を示していると言える。石皿も国分寺中間と勝保沢中ノ山で低いが、他は2.6～5.3%と遺跡間の差が小さくなっており、磨石・くぼみ石と同様の傾向を示している。多孔石は、中期後半の国分寺中間・田篠中原と内匠上之宿・荒砥二ノ堰から高い割合で出土しており、中期後半の特徴的な石器とも考えられるが、同じく中期後半の遺物の多い

県内縄文時代主要遺跡出土石器器種別数量表

遺跡名	期	石 鏃	石 槍	石 錐	石 匙	打製石斧	磨製石斧	スクレイパー	磨 凹	石 皿	石 皿	多孔石	丸 石	砥 石	石 棒	その他	計
三原田城	前期初頭	数 144	3	22	67	135	7	288	116	31	0	0	0	0	0	44	857
	%	16.8	0.3	2.6	7.8	15.8	0.8	33.6	13.5	3.6	0	0	0	0	0	5.1	
分郷八崎	前期前半	数 105	11	23	44	123	33	202	310	39	3	0	17	1	339	1,250	
	%	8.4	0.9	1.8	3.5	9.8	2.6	16.2	24.8	3.1	0.2	0	1.4	0.08	27.1		
勝保沢中ノ山	前期前半～後半	数 44	0	4	36	72	12	76	108	9	0	0	2	0	281	644	
	%	6.8	0	0.6	5.6	11.2	1.9	11.8	16.7	1.4	0	0	0.3	0	43.6		
糸井宮前	前期前半～後半	数 69	2	42	162	185	58	1,109	1,058	155	58	0	38	0	1,458	4,394	
	%	1.5	0.04	0.9	3.6	4.1	1.3	24.4	23.3	3.4	1.3	0	0.8	0	35.3		
中棚	前期前半～後半	数 170	15	51	144	163	69	173	306	62	4	6	3	2	46	1,214	
	%	14.0	1.2	4.2	11.9	13.4	5.7	14.3	25.2	5.1	0.3	0.5	0.2	0.2	3.7		
房谷戸	中期中葉	数 37	3	13	6	457	7	207	118	64	0	2	0	10	427	1,351	
	%	2.7	0.2	1.0	0.4	33.8	0.5	15.3	8.7	4.7	0	0.1	0	0.7	31.6		
行幸田山	中期中葉～後半	数 15	5	8	2	287	26	169	77	40	13	0	9	2	233	886	
	%	1.7	0.6	0.9	0.2	32.4	3.0	19.1	8.7	4.5	1.5	0	1.0	0.2	26.3		
大平台	中期初頭～後半	数 45	1	10	15	1,602	57	1,001	890	99	28	0	37	3	48	3,836	
	%	1.2	0.03	0.3	0.4	41.8	1.5	26.1	23.2	2.6	0.7	0	1.0	0.08	2.5		
国分寺中間	中期後半	数 37	0	1	2	186	23	70	89	4	76	0	1	2	45	536	
	%	6.9	0	0.2	0.4	34.7	4.3	13.5	16.6	0.7	14.1	0	0.2	0.4	8.4		
田篠中原	中期後半	数 0	0	0	0	150	81	0	152	30	140	9	6	1	2	571	
	%	0	0	0	0	26.3	14.2	0	26.6	5.3	24.5	1.6	1.1	0.2	0.4		
三原田	中期中葉～後期前半	数 300	15	56	59	2,507	128	929	394	159	75	0	10	39	280	4,951	
	%	6.0	0.3	1.1	1.2	50.6	2.6	18.8	8.0	3.2	1.5	0	0.2	0.7	5.7		
荒砥二ノ堰	前期後半～後期前半	数 4	0	1	4	39	7	1	110	11	34	0	0	2	23	236	
	%	1.7	0	0.4	1.7	16.5	3.0	0.4	46.6	4.7	14.4	0	0	0.8	9.7		
深沢	中期初頭～後期中葉	数 253	0	45	10	397	8	373	273	53	15	16	14	17	95	1,569	
	%	16.1	0	2.9	0.6	25.3	0.5	23.8	17.4	3.4	1.0	1.0	0.9	1.1	6.1		
内匠上之宿	中期末～後期前半	数 19	2	1	4	217	48	65	217	36	69	14	11	35	129	867	
	%	2.2	0.2	0.1	0.5	25.0	5.5	7.5	25.0	4.2	8.0	1.6	1.3	4.0	14.9		

※荒砥二ノ堰遺跡は報告書に石器総点数の記載がなかったため、遺構出土の石器の総点数を表している。

大平台は0.7%と低いため、断定はできない。

当遺跡において特異なものは石棒で、他の遺跡では最も多い深沢でも1.1%で他はすべて1%以下の出土率であるのに対し、4.0%と際立って高くなっている。他に後期主体の遺跡が少ないので、後期の特徴であるのか遺跡の性格によるものなのかは判断できない。後期の遺物の多い深沢や荒砥二ノ堰ではやや高くなっており、後期に出土が増加する器種であることは想定できそうであるが、1%前後であるため特に後期に多いとも言えない。いずれにしても、当遺跡の特徴的な石器であることは間違いない。

②打製石斧について

打製石斧は217点出土しているが、平面形の判明する158点について田篠中原遺跡の分類を参考にして、分銅・撥I・撥II・短冊の4種類に分類した。⁽²⁾

分銅型 石器のほぼ中央部にえぐりがはいるもの。31点(19.6%)出土している。

撥I型 撥型の中で側縁が内湾するもの。40点(25.3%)出土している。

撥II型 撥型の中で側縁が直線的なもの。45点(28.5%)出土している。

短冊型 基部から刃部まで幅がほぼ一定のもの。42点(26.6%)出土している。

出土点数は撥II型が45点で最も多く、分銅型が31点で最も少ないが、その差は10%以内で比較的小さく平均して出土している。県内の他の遺跡をみると、短冊型が最も多いのが勝保沢中ノ山(前期前半～後半)、糸井宮前(前期前半～後半)であるが、房谷戸は撥型とほとんど変わらない。他の遺跡は撥型が最も多く、すべて50%以上である。分銅型は全体的に少なく、田篠中原以外はすべての遺跡で最も少なくなっているが、

中期後半の国分寺中間と中期末～後期前半の内匠上之宿では10%以上と、前期中心の遺跡よりやや多くなっており、中期後半以降の傾向を表しているともいえる。中期後半の田篠中原は分銅型が34%と非常に多く、逆に短冊型が最も少なくなっており、唯一特殊な構成となっている。内匠上之宿遺跡を除くと分銅型と短冊型の差は最低でも20%以上あるが、内匠上之宿では10%以内と非常に小さくこの遺跡の一つの特徴となっている。

打製石斧形態分類表 (%)

遺跡名	短冊型	撥I型	撥II型	分銅型
三原田城	27.2	65.8		7.0
分郷八崎	28.7	71.3		0.0
勝保沢中ノ山	67.9	25.0		7.1
糸井宮前	52.2	40.4		7.3
房谷戸	50.3	48.4		1.3
国分寺中間	34.6	7.0	48.1	10.3
田篠中原	11.3	22.0	32.7	34.0
内匠上之宿	26.6	25.3	28.5	19.6

次に石材について見ることにする。当遺跡における形態別の石材は表のとおりである。表を見ると、全形態において最も多いのは熱変成岩で、撥I型が62.5%とやや少ないが、他はほぼ同じ割合であり、平均すると71.5%と圧倒的に多い。この傾向はスクレイパー等の剥片石器や剥片・石核でも同様である。熱変成岩は他の石材に比べ均質・緻密で加工しやすいため、剥片石器に選択的に利用されたものと考えられる。熱変成岩以外の石材は個体数が少ないため傾向はほとんど窺えないが、結晶片岩が分銅型で、安山岩が撥I型でやや多くなっている。当遺跡の東側の丘陵下に位置する田篠中原遺跡では、分銅型に結晶片岩が約8割と圧倒的に多く使用されており、1～2割しか使用されていない他の形態との間で顕著な差が見られる⁽³⁾。この遺跡は三波川変成帯に属する小幡扇状地上にあって三波川結晶片岩が大方を占める礫層が存在しており、結晶片岩は遺跡周辺に普遍的に存在し石器にも多用されている。このため結晶片岩の少ない内匠上之宿遺跡と単純には比較できないが、同じ分銅型で結晶片岩の割合が高くなっているのは興味深い。報告書では、分銅型は他の形態と比べ平面形のバラつきが多く、平面形に対する規制が弱かったために、素材の形態を大きく変える必要のない分銅型の素材として、片状構造をもち調整の頻度を高くすることはできないが、

内匠上之宿遺跡打製石斧形態別石材分類表

石	材	A	B	C	D	E	F	G	H	計
		分銅	数 23	6	1	0	0	1	0	
		% 74.2	19.4	3.2	0	0	3.2	0	0	
撥	I	数 25	2	4	7	0	2	0	0	40
		% 62.5	5.0	10.0	17.5	0	5.0	0	0	
撥	II	数 34	3	3	3	2	0	0	0	45
		% 75.5	6.7	6.7	6.7	4.4	0	0	0	
短冊		数 31	2	5	1	1	0	1	1	42
		% 73.8	4.7	11.9	2.4	2.4	0	2.4	2.4	
計		数 113	13	13	11	3	3	1	1	158
		% 71.5	8.2	8.2	7.0	1.9	1.9	0.6	0.6	

※石材欄の記号は以下の通りである。

A—熱変成岩 B—結晶片岩 C—輝緑岩 D—安山岩 E—角閃岩 F—流紋岩
G—閃緑岩 H—放射虫板岩

遺跡周辺に普遍的に存在する結

晶片岩が多用されたと推測している。内匠上之宿遺跡では結晶片岩が遺跡周辺にあまり存在しないため個体数は少ないが、分銅型において同様の傾向を示しており、また田篠中原遺跡同様結晶片岩製のものは周辺加工のみで調整の頻度が低いため、平面形に対する規制の弱さを裏付けている面もある。しかしながら、7割以上を占める熱変成岩も遺跡周辺に多量にある石材ではないため、必ずしも入手しやすい石材を使用しているとはいえない。熱変成岩が他の形態と同様の割合であることは、基本的には形態にかかわらず、加工しやすく石器使用に適した石材を選択して使用していたことを示しているといえよう。

完形のものについて、長さ・幅・厚さ・重量・長幅比の比較を形態別に行った。表を見ると、長さ・幅・厚さ・重量のすべてについて分銅型が最も大きく、特に重量は最も小さい撥II型の2倍ある。これに対し、

第IV章 調査の成果と問題点

撥II型はすべてについて最も小さくなっている。撥I型も若干大きくなっているが、撥II型とほとんど同じ値となっている。短冊型は長幅比が他より大きく、細長い形態を呈している。田篠中原遺跡と比較すると、全体の平均値は、数値的には当遺跡より長さで2.8cm、幅で0.9cm、厚さで0.1cm、重量で140g大きくなっており、特に重量の差が目立っている。形態別にみると、長さ・幅は当遺跡の傾向と類似しているが、厚さは分銅型・短冊型が薄く撥型が厚くなっており、当遺跡と逆の傾向を示している。この違いが時期差によるものか、遺跡の性格によるものか、他の要因によるものかは判断できないが、田篠中原遺跡の分銅型の素材は結晶片岩のものが多く、全体の厚みを減じるような加工に不向きなため、あらかじめ薄手の素材を選択していた可能性があるとされている。当遺跡においては分銅型の素材も結晶片岩はそれほど多くなく、他の形態同様熱変成岩が多用されているため、厚さも大きくなっている可能性が高い。このように考えるならば、機能的に厚いもしくは薄い形態が必要とされていた可能性は低いとすることができよう。

打製石斧計測値平均

	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長幅比
分銅	13.6	7.4	2.3	264	1.8
撥I	10.5	5.6	2.1	132	1.9
撥II	10.3	5.3	2.0	127	1.9
短冊	11.5	5.3	2.3	178	2.2
全体	11.5	5.9	2.2	176	1.9

③磨石・くぼみ石について

磨石・くぼみ石については、磨面・くぼみの有無により9類に分類したが、完形のものについて磨面、くぼみ数、長さ・幅・厚さ・重量・長幅比の平均を示した。

磨石・くぼみ石くぼみ数および計測値平均表

分類	磨面	くぼみ数								計測値平均					
		0	1	2	3	4	5	6	計	平均	長さ	幅	厚さ	重量	長幅比
1類	片面	26							26		9.7	7.3	4.6	474	1.3
2類	両面	20							20		9.1	6.6	3.8	362	1.4
3類	片面		1	1					2	1.7	9.2	7.8	6.4	592	1.2
4類	両面			5	2	2	1		10	2.9	13.2	8.2	4.4	713	1.6
5類	両面		2	3					5	1.6	11.5	8.8	4.5	663	1.3
6類	片面			2		1			3	2.7	11.6	8.6	4.4	510	1.3
7類	片面			1					1	2.0	7.6	6.2	2.6	160	1.2
8類			9	10					19	1.5	14.2	7.1	4.1	591	2.0
9類				4	5	9		1	19	3.4	14.3	6.7	3.7	525	2.1
全体		46	12	26	7	12	1	1	105	2.5	11.7	7.2	4.2	515	1.6

※1類-片面に磨面 2類-両面に磨面 3類-片面に磨面・くぼみ 4類-両面に磨面・くぼみ 5類-両面に磨面片面にくぼみ
6類-片面に磨面両面にくぼみ 7類-片面に磨面片面にくぼみ 8類-片面にくぼみ 9類-両面にくぼみ

表を見ると、くぼみのないもの(1・2類)が46点(43.8%)、あるもの(3~9類)が59点(56.2%)で、くぼみ数は、2個が最も多く26点、1個と4個が12点、3個が7点、5個・6個が各1点となっている。類型別に見ると、片面にくぼみがある3・5・7・8類では、くぼみは1・2個だけで、1個が12点2個が15点であり、2個のものがやや多いがそれほど差はなく、各類型もそれぞれほぼ同数となっている。両面にくぼみがある4・6・9類は、くぼみは2~6個で、2個が11点、3個が7点、4個が12点、5・6個が各1点であり、2個と4個がほぼ同数で、3個はやや少なくなっている。磨面をもつ4類は2個が最も多いが、磨面をもたない9類は4個が最も多く対照的である。

次に類型別の計測値の平均を見ると、くぼみをもたない1・2類、くぼみ・磨面をもつ3~6類(1点のみの7類は対象外とする)、磨面をもたない8・9類で差が見られる。長さは1・2類が9cm台で小さく、4~6類は11~13cm台、磨面をもたない8・9類は14cm台で大きくなっている。幅は4~6類が8cm台で大きく、

1・2類と8・9類は6～7cm台でほぼ同じ大きさとなっている。したがって、長幅比は1～6類がほぼ等しく1.2～1.6であるのに対し、8・9類は2以上となり、細長い形態を呈していることが特徴となっている。厚さは各類型ともあまり差がないが、8・9類はやや薄くなっている。重量は4～6類がやや大きく、1・2類は小さくなっている。全体的に見ると、1・2類は形態は円形に近く、大きさは他よりも小さくなっており、4～6類は形態は円形に近いが、大きさは1・2類よりも大きくなり、8・9類は細長い形態で、大きさは1・2類よりも大きくなっているとすることができる。磨石の機能としては植物質食糧を磨り潰すことが考えられ、くぼみ石の機能としては殻果類の破碎が考えられるが、磨る行為よりもたたいて割る行為の方がより重量を必要とし、逆に磨る場合はあまり重量があると動かしにくくなるため、上記のような結果となったと考えられる。

④多孔石について

多孔石は69点出土しているが、遺構が少ないこともあり、遺構出土のものは少なく谷津状遺構出土のものや遺構外のものが多い。また破片が多く完形のものも少なくなっている。このため検討する際にかかなりの制限を受けるが、できる範囲での検討を加えて見たい。

遺構別の出土点数は、住居跡5点、土坑17点、埋設土器2点、配石遺構1点、谷津状遺構9点、遺構外他36点となっている。住居跡出土のものはすべて7号住居跡（敷石住居）からで、完形の3点は敷石として使用されている。田篠中原遺跡においても11軒の敷石住居から38点の多孔石が出土しており、そのうち30点は敷石として使用されている。このように多孔石は敷石住居の敷石として使用される例が多く、これを単なる転用とすることはできないであろう。田篠中原遺跡では配石遺構も多数検出されており、そこから多量に⁽⁴⁾検出されているため、多孔石は配石遺構に関係した石器であるとされている。当遺跡では配石遺構は少ないためこの点の検討はできないが、それだけに敷石住居からの多孔石の多数の出土は、敷石住居との関係を裏付けているとも言えよう。

石材は結晶片岩類が計57.9%と多くなっており、他の石器についても結晶片岩類が多い田篠中原遺跡と同様の傾向を示している。当遺跡においては、結晶片岩類が特に入手しやすいものとは言えないため、多孔石には結晶片岩類が選択的に使用されていたと考えられる。

完形もしくはほぼ完形のものについては、計測値・孔数・孔の計測値平均を表に示した。大きさは、長さが最大54.6cm最小17.1cm平均33.6cm、幅が最大36.0cm最小10.9cm平均17.9cm、厚さが最大15.7cm最小3.1cm平均8.2cmとなり、重量が最大18,200g最小1,100g平均7,597gとなっている。長さ・幅については、長さ22～37cm、幅10～23cmの間に入るものが15点と7割を占めており、厚

多孔石計測表

遺構	図版 No	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	孔数	長径 (mm)	短径 (mm)	深さ (mm)
7号住	16	33.0	10.9	7.9	3,800	32	19.0	15.2	3.0
7号住	17	33.1	13.4	9.2	6,500	4	11.3	7.3	2.8
7号住	19	41.6	36.0	6.6	15,890	6	12.8	10.1	0.8
60号土坑	8	49.8	11.6	7.9	7,000	14	11.4	8.9	2.0
79号土坑	7	27.0	12.3	5.0	2,650	7	10.7	9.2	1.1
141号土坑	2	32.4	19.9	15.7	13,500	27	21.6	16.7	5.2
168号土坑	20	27.9	13.3	8.7	4,000	19	13.7	10.8	3.7
20号配石	2	34.0	13.6	5.0	3,500	8	17.5	12.5	6.8
1号谷津	372	17.1	13.1	5.0	1,100	4	25.3	21.5	6.3
1号谷津	375	23.5	18.7	7.7	4,450	4	12.2	10.7	2.0
遺構外	334	40.9	20.5	10.7	13,500	14	13.1	10.8	4.4
遺構外	336	32.3	22.6	8.8	8,650	19	17.8	14.6	5.2
遺構外	337	32.4	18.8	9.2	8,100	14	16.2	11.2	3.2
遺構外	340	26.0	15.5	8.7	4,600	13	17.3	14.7	6.6
他遺構混入	228	36.8	15.1	6.2	5,170	11	11.6	9.6	6.2
他遺構混入	232	19.4	12.8	7.2	3,000	6	14.4	9.8	1.9
他遺構混入	237	30.2	20.7	13.9	12,850	32	17.9	14.8	6.8
他遺構混入	240	35.3	20.8	10.7	12,400	6	12.8	9.5	2.5
他遺構混入	243	30.0	25.5	5.4	5,750	6	13.2	11.2	3.5
他遺構混入	245	47.5	21.6	3.1	4,920	26	10.2	8.4	2.1
他遺構混入	246	54.6	20.2	10.0	18,200	20	14.2	10.4	5.1
平均		33.6	17.9	8.2	7,597	13.9	15.0	11.8	3.9

第IV章 調査の成果と問題点

さは5～11cmの間に入るものが18点で8割以上を占めている。重量は2,000～9,000gの間にはほぼ満遍なく分布しているが、他は12,000g以上になっていて、9,000～12,000gのものがなくなっている。孔数は、最大32個最小4個平均13.9個となっているが、4～8個の間に9点、11～14個の間に5点集中しており、他は19・20個の間に3点、26個以上が4点となっている、一定区間内に集中する傾向が窺える。

(2) 弥生時代

弥生時代の遺構は、後期末(古墳時代初頭に下る可能性のあるものも含む)の竪穴住居跡4軒検出されている。出土遺物は、4軒とも縄文を施文する赤井戸式系のものがほとんどであり、櫛描文を施文する樽式系の土器はごく少量である。分布は5号住と10号住が調査区の東寄り、15号住と21号住が調査区の西寄りにやや近接して位置しており、5号住と10号住は60m、15号住と21号住は30m離れている。重複はなく、出土土器から時期差を判断するのも困難であり、また遺構間で接合関係もないため、同時存在の住居を抽出することは不可能である。遺物による時期差がほとんど認められないためすべての住居が1軒ずつ別の時期に存在したとは考えにくく、また近接した位置にあるものもないため、2軒ずつ2時期に分かれるか、すべて同時期に存在していた可能性も考えられる。

遺構はないが、弥生時代中期や後期樽式系の土器も少量ではあるが出土している。谷を隔てて西に存在する、内匠諏訪前・日影周地遺跡⁽⁵⁾では、中期の土坑や樽式期の竪穴住居が検出されており、当遺跡の遺物はこれらの人々が残したものと考えられよう。内匠諏訪前・日影周地遺跡では赤井戸系の土器は検出されておらず、当遺跡とは際立った違いを見せている。時期的には当遺跡の方が新しくなると考えられるが、出土土器の違いを単純に時期の差によるものとすることはできないであろう。しかしながら、当遺跡からは縄文と櫛描文の両方をもつ土器も出土しているため、文化の違いだけに起因するものと断定することもできない。この問題は、樽系の土器と赤井戸系の土器の分布状況を詳細に把握しなければならず、この地域の調査例の増加を待って検討する必要があるだろう。

(3) 古墳時代

古墳時代の遺構は、後期の竪穴住居跡・土坑が検出されている。ここでは特に竪穴住居跡の変遷について検討して見たい。

遺物による時期区分

住居跡の時期を決定するのに、最も一般的なのは出土遺物(主に土器)によるものであるが、この場合住居に伴うものか混入品であるのかをはっきりさせなければならない。床面直上の遺物でも、前時代の遺物の混入である可能性はかなりある(当遺跡の古墳時代竪穴住居跡からは、床面直上からも多くの縄文時代の遺物が出土している)。したがって、ここでは床面直上出土で、しかも完形・半完形で住居で使用された可能性の高い出土状況のものを時期決定の資料とした。

古墳時代住居跡の出土遺物としては、土師器甕・坏・高坏、須恵器甕・坏等が主要なものであるが、当遺跡では須恵器は少なく、土師器甕も破片が多く形態の判明するものは少ない。このため土師器坏を中心として、他の遺物は補助的に使用するだけとする。

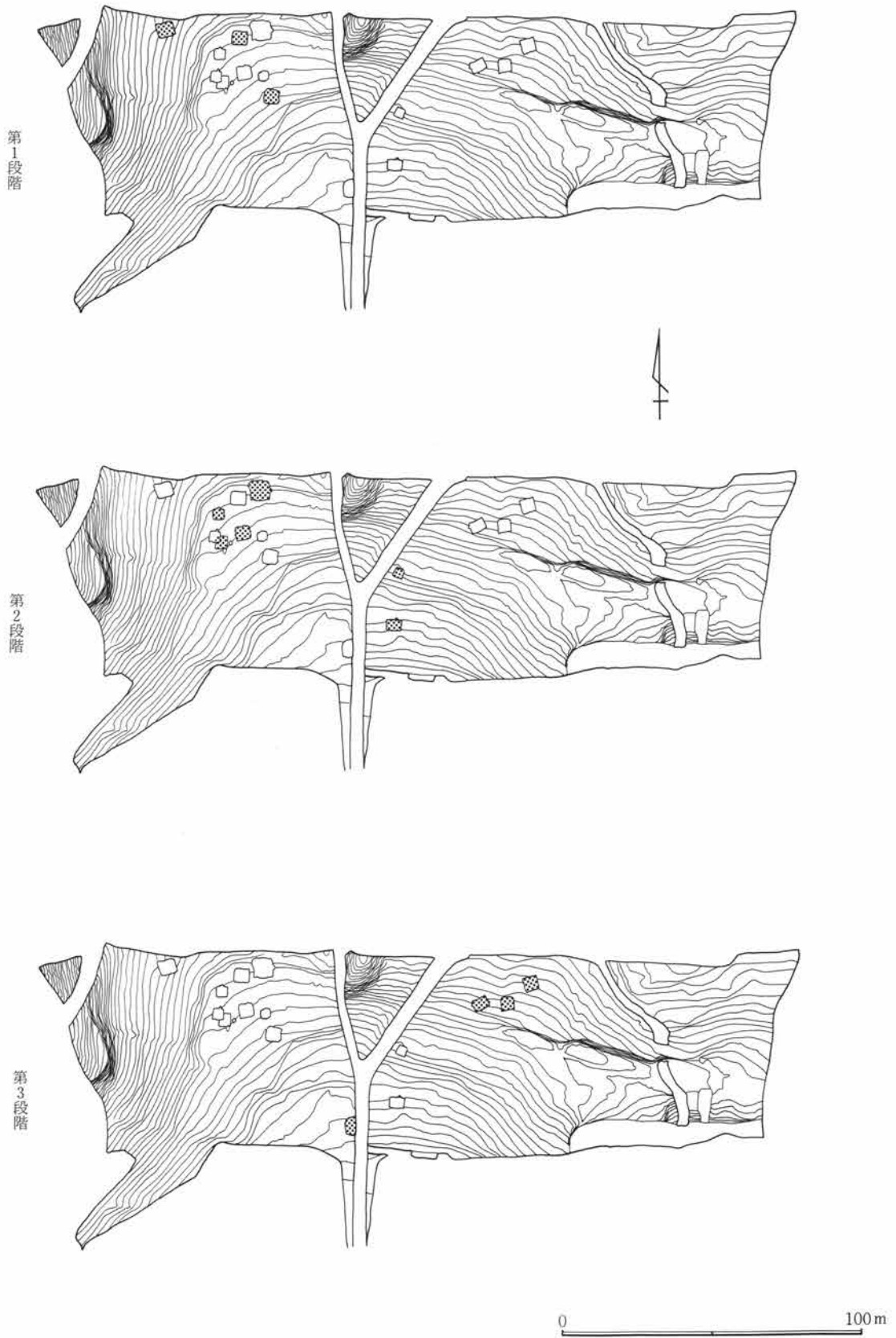
土師器坏は、特殊なものを除いて、A・B・Cの3類に分類できる。A類は須恵器坏蓋を模倣した、所謂「模倣坏」とされるもので、口縁部と体部を画す稜線がはっきりしており、口縁部は直立もしくは外傾するものであり、大部分の坏がこの中に入る。B類は口縁部と体部を画す稜線がはっきりせず、口縁部が直線的

に立ち上がるもので、やや平底気味になるものが多い。C類は湾曲する体部で短い口縁部がわずかに内傾するもので、個体数は非常に少ない。模倣坏より古い段階に位置する、いわゆる内斜口縁の坏は見られず、模倣坏よりも新しい段階に位置する、体部が丸く口縁部がやや内傾する坏も非常に少ないため、時期的には大きな差はないと思われる。しかしながら、その中でも微妙な時期差が見受けられる。B類は稜線がはっきりせず平底に近くなるなどA類より新しい様相が窺える。A類の中では、比較的深い体部から強い稜線をへて口縁部が弱く外反するもの（便宜的にA1類とする）が古く、体部が浅く、稜が弱くなっているもの（便宜的にA2類とする）が新しくなると考えられるため、大きく3段階に分類が可能であろう。これを古い順に第1・第2・第3段階とすると、第1段階に該当する住居は、A1類を伴出した11・13・14号住、第2段階に該当する住居は4・12・17号住、第3段階に該当する住居はB類を伴出した1・2号住、さらに2号住と接合関係のある3号住も2号住と近接した時期と考えられるため、この段階に含めた。8・9・18・19・23号住は住居に確実に伴う遺物が確認されなかったため段階を特定できない。さて、住居覆土中には前時代の遺物が混入しており、また住居埋没中に他から廃棄された遺物も存在しているが、前時代の遺物は破片になっていると考えられるため、完形に近くなるものは埋没中に他から廃棄されたものとして良いであろう。そこで出土遺物をさらに検討してみると、8号住は、ほぼ床面直上から散乱した状態でA2類の坏が出土しているため、第2段階に比定できる。9号住は床面付近からB類の坏が出土しているため、第3段階以降とすることができるが、第3段階が最も新しいためこの時期に比定してよいであろう。18号住は、覆土上層ではあるがA2類の完形に近い坏が出土しているため、第2段階とすることができる。23号住はA2類が出土しているため第2段階に近い時期と考えられるが、破片であるため確実性はない。

竪穴住居の変遷

さて竪穴住居跡は、調査区東よりに3軒、中央部に3軒、西よりに8軒と3つの群を形成しているが、これを東からA・B・C群とすることにする。段階別に見ると、第1段階はC群に3軒、第2段階はB群に2軒C群に3～4軒、第3段階はA群に3軒B群に1軒となっており、第1段階はC群、第3段階はA群に中心があり、時期により居住地が移動している傾向が窺われる。

当然のことながら、1つの段階の住居が同時に存在したわけではない。同時存在の住居を確定することは、当遺跡のような火山灰により一時期に埋まっているわけでもなく、耕作により上部を削平されてしまっている遺跡では不可能に近い。しかし、子持村の黒井峯・西組遺跡や渋川市の中筋遺跡では、榛名山二ツ岳の火山灰により埋没した集落が検出されており、当遺跡に近い時代の一時期の集落の状況が判明している⁽⁶⁾。これらの遺跡では、竪穴住居の他に平地式建物・家畜小屋・祭祀場・道・柴垣等が検出されている。黒井峯遺跡では、竪穴住居1軒と柴垣で囲まれた家屋群（方形平地式住居・方形平地式建物・円形平地式建物・高床式建物・家畜小屋）が一つの単位となっており、竪穴住居間の距離は最低で約20m、他は50mから100m離れている。また、中筋遺跡では1～2mの間をおいて4軒の竪穴住居が、周堤帯を共有して同時存在しているものが検出されている。これらのことから、この時代の一時期の集落においては、竪穴住居は互いにかなりの距離を置いて存在しているか、周堤帯を共有できる程度に近接して存在しているものの2形態が考えられる。さて当遺跡の各段階を見てみると、第1段階は、C群だけにそれぞれ20m程の距離をおいて3軒検出されている。この3軒が同時に存在した可能性も考えられないことはないが、それぞれの竪穴住居に付帯施設（黒井峯遺跡における柴垣で囲まれた家屋群）があったとするならば、3軒とも同時存在していないか11・13号住の2軒が同時に存在していたと考えるのが自然であろう。第2段階は、B群に約20m離れて2軒C群に3～20m離れて4軒検出されており、C群の4軒は距離からすべて同時存在していなかったと思われるが、最



第427図 古墳時代住居変遷図

も離れている17号住と23号住は2軒とも東壁にカマドをもつ共通性があり、同時存在した可能性も考えられる。B群とC群の住居は約50m離れており、同時存在した可能性が高いと言えよう。第3段階は、A群に4～15m離れて3軒B群に1軒であるが、A群の3軒は距離的に近く、また2号住と3号住には住居間で接合した土器もあるため同時存在した可能性は低い。B群の1軒はA群と50m以上離れているため、A群中の1軒と同時存在した可能性が高いといえよう。このように、当遺跡の古墳時代集落は、5期以上に互って建て替えを繰り返して変遷をしていたと考えられ、1時期には2～3軒の住居が同時存在していた状況が想定できる。

(4) 中世

中世の遺構は、内匠城の外堀・土塁、整地面とそこに検出された遺構、井戸、土坑、ピット等が検出されている。遺物は、土師質土器・軟質陶器・陶磁器や石臼・板碑等の石製品、刀子・鎌等の鉄製品、銅銭が出土している。

遺構について

内匠城外堀・土塁については次節で扱うためここでは整地面及びその上の遺構他について検討したい。整地面上には、掘立柱建物、竪穴遺構、配石遺構等の遺構が集中している。掘立柱建物はいずれも大型で、1間×4間1棟(4号)、2間×5間1棟(5号)さらにそれと同一遺構の可能性のある2間×2間以上のもの(6号)が検出されている。3棟(もしくは2棟)は主軸がほぼ同一であり、距離的に見ても同時存在の可能性が高い。竪穴遺構は4基(61号土坑を含む)検出されており、いずれも整地面の南部に位置している。配石遺構は10基検出されており、9・11号配石遺構以外は整地面の北側に線上に並んで検出されている。新旧関係を見ると、4号掘立柱建物が1・3号竪穴遺構より新しく、2号竪穴遺構と重複するが新旧は不明である。5号掘立柱建物は61号土坑より新しく、11号配石遺構と重複し新旧は不明であるが、11号配石遺構の周辺の硬化面を切っていると考えられるため11号配石遺構より新しくなると考えられる。掘立柱建物は同時存在していると考えられるため竪穴遺構とは同時存在せず、竪穴遺構廃絶後に建てられたものとする事ができる。配石遺構は11号以外は重複関係を持たないが、2号配石遺構は6号掘立柱建物と近接しているため同時存在は考えられない。竪穴遺構と配石遺構はともに重複がなくまた分布が明確に分かれており、ある程度他の存在を意識していたことが窺えるため、比較的近接した時期に作られたものと考えられる。すなわち、整地面上には竪穴遺構と配石遺構の時期と掘立柱建物だけの時期の最低2時期あり、掘立柱建物はより新しい時期になっているとすることができる。

さて遺構の年代であるが、整地面上の個々の遺構に伴出する遺物は少なく、ほとんど破片であるため遺物から時期を推定することは困難である。整地面上の覆土からは比較的多くの遺物が出土しており、特に土師質土器皿と軟質陶器内耳鍋が多い。土師質土器や軟質陶器の資料は平安時代以前の土器に比べ少なく、研究もあまりないが、前橋市下東西遺跡と前橋市・群馬町上野国分僧寺尼寺中間地域遺跡(以下国分寺中間遺跡と略す)および富岡市本宿・郷土遺跡の報告書においてこれらの検討がなされている。下東西遺跡では13世紀～16世紀にかけての軟質陶器の変遷が示されている⁽⁷⁾。それによると、14世紀は火鉢の印花文装飾帯の盛行期で鉢類が盛行し、後半に内耳鍋が出現する。15世紀は内耳鍋の盛行期で、中頃に内耳鍋が平底化し、後半には体部が直線的に外傾するようになる。16世紀代は軟質陶器が減少し内耳鍋の生産が16世紀後半には終了したとされている。国分寺中間遺跡では、下東西遺跡の論考を受けて内耳鍋が1～5期に時期区分され、1期は口縁部が短い段階、2期は口縁部外反し頸部のくびれが鋭くなる段階、3期は底部が平底化する段階、

第IV章 調査の成果と問題点

4期は器厚が薄くなり頸部にくびれが認められる段階、5期は体部が直線的になる段階とされている。そして1期が14世紀後半代、2期が15世紀前半代、3期が15世紀中頃、4期が15世紀後半、5期が16世紀前半と推定されている。⁽⁸⁾本宿・郷土遺跡では、内耳鍋が4種類分類され、1類は丸底で頸部が短く厚手のものであり、2類は1類と3類の間の段階、3類は平底で底部は小さく頸部は長くなるが体部は湾曲しているもの、4類は底部は平底で大きく体部が直線的で垂直に近い立ち上がりを示すものとされ、各類の出土する時期が1～4期とされている。そして、1期が14世紀代、2期が14世紀から15世紀初め、3期が15世紀中葉前後、4期が15世紀後半から16世紀代に比定されている。⁽⁹⁾

以上のことから、軟質陶器内耳鍋は丸底のものが平底になり、さらに器厚が薄くなって体部が直線的になって行くというおおよその変遷が考えられる。当遺跡の軟質陶器内耳鍋は、底部のあるものはすべて平底であり、器厚は薄く体部が直線的なものが多いため、軟質陶器の最も新しい段階のものと推定される。よって遺構もこの段階のものが中心になると考えられる。しかしながら、印花文の火鉢や体部が湾曲した内耳鍋も少量ながら出土しているため、それ以前から何らかの居住活動がなされていたと考えられるが、本格的になったのはこの段階であろう。年代は15世紀末から16世紀代と考えられるが、軟質陶器が衰退している段階になっていないため、16世紀末までは下らず、中世城郭では新しい段階に属するとされる内匠城よりは古くなる可能性が高い。

井戸は調査区の東端部および西端部を除いてほぼ全面に分布しているが、土塁と近接しているものもあり、分布状況から見ても内匠城関係の遺構と同時存在した可能性は薄い。内匠城との新旧は不明であるが、軟質陶器内耳鍋が廃棄された状態で覆土上層から出土している井戸もあるため、井戸の方が古くなる可能性がより高いといえよう。

いずれにしても、以上のことは数少ない資料をもとに想定したもので、予察の域を出るものではない。今後資料が増加した段階で改めて検討する必要がある。

註

- (1) 木村 収 1992
- (2) 田篠中原遺跡では、分銅型・撥型・短冊型がそれぞれⅠ・Ⅱ・Ⅲ類とされ、Ⅱ類をa・bに分けⅡa類が撥型で側縁部が内湾するもの、Ⅱb類が撥型で側縁部が直線的なものとしていたため、比較を考えて当遺跡でもこの分類に従った。(桜井美枝 1990)
- (3) 木村 1992 (4) 菊地 実 1990 (5) 木村 1992 (6) 石井克巳 1991 大塚昌彦 1988等
- (7) 大江正行 1987 (8) 木津博明 1987 (9) 井上 太他 1981

引用参考文献

- 赤山容三他 1990 『三原田遺跡 第2巻』群馬県企業局
石井克巳 1990 『黒井峯遺跡』『古墳時代の研究 第2巻』雄山閣出版
石坂 茂 1988 『勝保沢中ノ山遺跡Ⅰ』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
井上 太他 1981 『本宿・郷土遺跡発掘調査報告書』富岡市文化財保護協会
大江正行 1987 『第4章 第4節 中世土・陶・磁器』『下東西遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
大塚昌彦 1988 『中筋遺跡』第2次発掘調査報告書 渋川市教育委員会
大塚昌彦他 1989 『行幸田山遺跡』渋川市教育委員会
小野和之 1987 『三原田城遺跡 八崎城址・八崎塚 上青梨子古墳』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
小野和之・山口逸弘 1989 『房谷戸遺跡Ⅰ』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
神谷佳明 1987 『下東西遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
菊地 実 1990 『田篠中原遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
木津博明・桜岡正信 1986 『上野国分僧寺・尼寺中間地域』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
木村 収 1992 『内匠諏訪前遺跡 内匠日影周地遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
小林敏男 1990 『第4章 第1節 (1) 出土土器について』『長根羽田倉遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
坂口 一 1986 『古墳時代後期の土器の編年』『群馬文化208号』
桜井美枝 1990 『5章 [3] 田篠中原遺跡出土の石斧について』『田篠中原遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)

- 下城 正 1987 『深沢遺跡 前田原遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
 下城 正 1989 『大平台遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
 関根慎二他 1986 『糸井宮前遺跡II』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
 徳江秀夫 1985 『荒砥二之堰遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
 富澤敏弘 1985 『中棚遺跡』 昭和村教育委員会
 右島和夫 1986 『分郷八崎遺跡』 北橋村教育委員会
 綿貫邦男 1988 『第5章 成果と課題』『鳥羽遺跡I・J・K区』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)

第2節 内匠城について

群馬県内の中世城郭については、山崎 一『群馬県古城壘址の研究』に詳しくまとめられており、内匠城についても記載されているので、最初にこれを引用する。

「富岡市内匠の内匠城は井戸沢城ともいう。国峰城の最も近い外堡でこの地方には珍しい崖端城である。

富岡の南に長く続く離山丘陵の東南端にこの城の本丸が置かれ、城の東側は50mの急崖に拠り、その下を管川が流れ直角に西折、城の南側を囲っている。

本丸は方100m、高土居をめぐらし、西南部は一段高い別郭になってここも土居でかこまれている。別郭の西半は更に高い櫓台西側の壕に壕幅だけ突出して所謂蔀櫓となり、兼ねて、壕内の縦射、二の丸、本丸郭内と南腰曲輪の掃射、城外の見切りに絶好の構えである。八方正面の櫓とはこれを言うのであろう。この櫓を天守と考えれば、別郭は天守曲輪となる。これだけを観察してもこのしろは国峰城より新らしく、南毛一帯にこれより新しい形式の城はない。この櫓台に現在稲荷祠があり、そのため稲荷城の名もある。

西南の壕には二ヶ所の「折」が雁木折に構えられている。北面の壕は中央に本丸虎口があり、東端は堀口虎口になっている。この虎口の上、つまり本丸東北角には櫓台が築かれている。ここの虎口から南に出ると本丸東南角下にある「ささ曲輪」に達する。ささ曲輪は径10m、本丸との間の堀切りは余土をささ曲輪側に盛ってある。

二の丸は、本丸の北から西にわたって違い付きとなり、北面に虎口がある。西南部は一段高く、その外縁と、郭の北西部には高土居が築かれているが、間がきれて、そこから西曲輪に出る虎口があり、堀に架け橋があったと思われる。二の丸は鍵形で北縁の長さ90m、西縁は110mある。

三の丸は北曲輪と西曲輪とに確然と分かれている。外堀は雁木折となり、南側の折れは大きく西曲輪、北曲輪間に楔入し、二の丸堀の西北角と支壕で連結する。この支壕の長さは10mに過ぎない。この連結は、この城の壕が交通壕となっていた証跡である。

西曲輪は菱形で東西辺は70m、南北辺は120m、西縁に高土居があり土居の南端はふくれて櫓台になる。

北曲輪は東西100m、南北60mで、西北角は角欠きとなり、北面中央に追手虎口が開く、この城の行きとどいた構造の中でこの虎口が単純な平虎口であるのは不調和な感じがする。全面に葎土居があったかも知れない。北曲輪西部は大きな台になっている。櫓台に用いられたことであろう。

城の南面の長さは250m、東面は230mで、天守台の標高は221.5m、管川からの高さ60mである。

この城は小幡氏家中の旗頭倉股大炊介の居城であったが、藤田氏の城であったとも伝えている。天正18年、国峰城を攻略した藤田信吉がしばらく在城したのはこの城と考えられ、その頃、現状のように改修されたのである。しかしここに藤田氏の城と伝えているのは藤田地域城の保塁であったことをさすものと想像する。」

また群馬県教育委員会編の『群馬県の中世城郭』では「昭和63年、発掘調査の結果、追手戸口外に長さ100mの土居が発見された。北側からの高さ2.5m程で、中央部に「折れ」が1か所ある。北外堀に並行せず西に

第IV章 調査の成果と問題点

向かいラップ状に開く。おそらく馬出し土居であって、西に開いているため出撃に都合がよい。馬出しにつき、丸馬出し角馬出しなど分類し、規格まで定めたのは近世の人々の仕業で、中世の武人は、戦の経験から、自由自在に工夫し、このようなものも作られたのである。平井金山城の発掘調査で検出された、北第二堡壘木戸前の20m四方の平坦地も馬出しで、山城では土居なしでも敵方からの通視が不可能な場合、これでよいのである。城跡の考察には、所謂築城法の規範をかなぐり捨てて実体と対する必要がある。」とされ、今回の発掘調査により検出された土壘状遺構を馬出し土居と考えている。また、「内匠城は、雄川が直角に屈折した所の崖端を選んで築かれ、囲郭式と呼ぶ平城の4分の1象現をとって見事に縄張りされた遺構がよくのこる。只、26年前の調査では存在した二の丸北堀が埋め立てられて跡方もない。この城跡で特筆されるのは、本丸の西南隅に1段高く構えられた天守曲輪とも呼ぶべき1小郭で、そこには更に高く上面の径10m程の櫓台がある。整然としたこの城の姿は、一見して後期のものと推断させ、後北条氏の築城と考えられよう。県下で後北条氏の創築の城で明らかなのは、赤城村と昭和村境の長井坂城・高山村の中山城・高山村と月夜野町境の榛名峠城(権現城)で、山城である榛名峠城は別として、他の2城はよく類似する半囲郭城である。内匠城は4分の1囲郭であるが選地も規模もこれら2城と相似である。

この城に関する文書が全くないのは、活動機関の短いことを示し、城主だったと伝えられる倉又大炊助は、慶長10年3月の水帳に内匠の本百姓と記され、帰農したことが確かである。北条氏の家臣であろう。

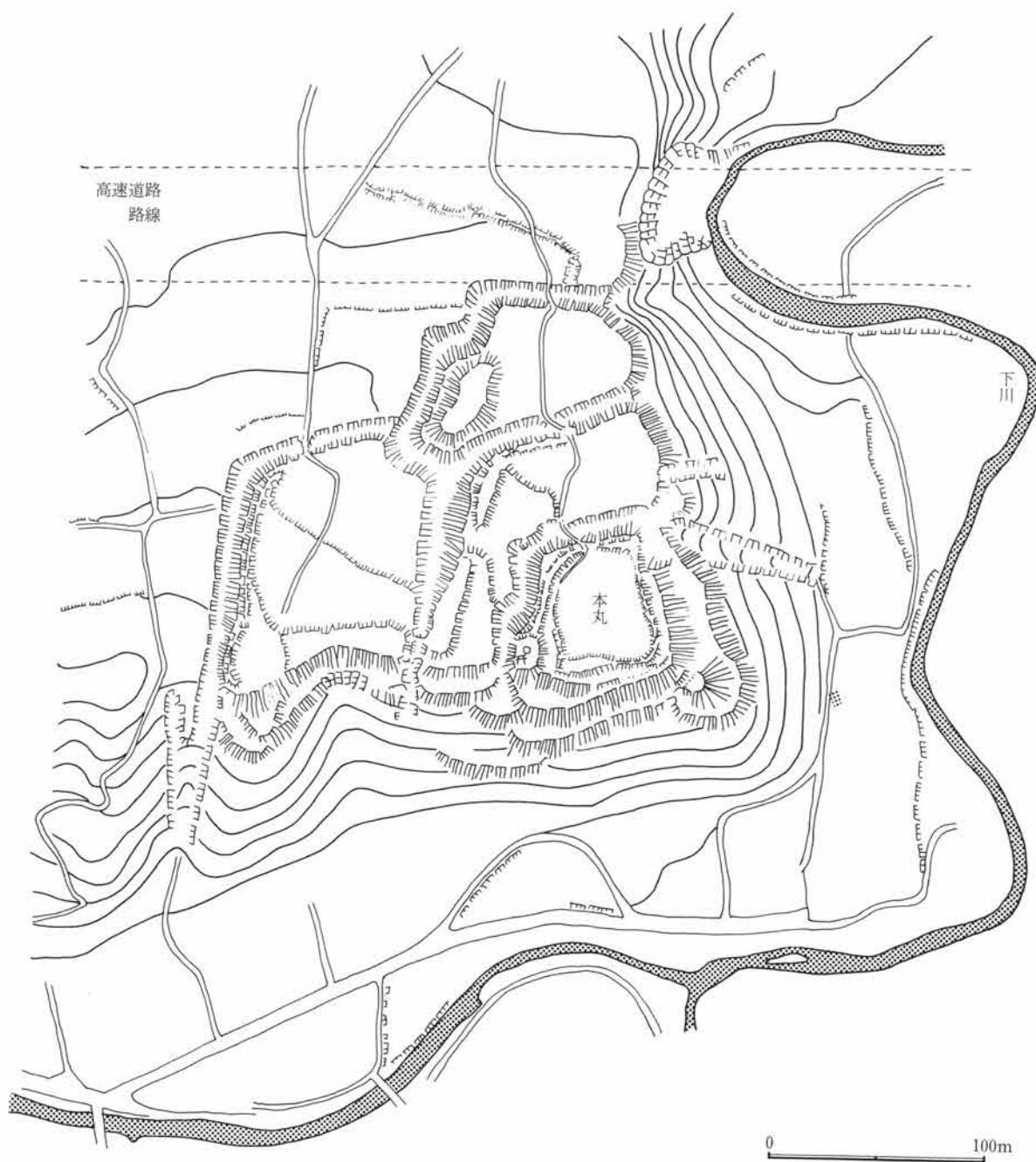
昨年発見された下鎌田城石組み中の墓石の、天正16年記年は、豊臣勢に備えた北条氏の内匠城築城も裏付けよう。」との記載もある。

今回の発掘調査は北側の外堀の北半分だけであったため、これにより城の全体像の解明は不可能であるが、調査によって判明したことをまとめてみたい。

外堀の深さは、確認面から底部までが7.4mと深く、さらに底部に長さ7.4m深さ1m以上の掘り込みが1カ所検出された。山崎氏はこの城を北条氏の築城と考えているが、もし堀底部の掘り込みが何か所もあるとするならば、北条氏の特徴である、堀の底部に土を掘り残して仕切りをし敵の通行を妨げた、所謂「障子掘り」の逆の形になり、機能的にも同様の働きが考えられるため、堀の構造からも北条氏の影響を見ることができる。土壘は堀の北側から西北西の方向に延びており、堀とは並行しておらず、だいに開く形となっている。山崎氏はこれを馬出し土居と考えており、西に開いているため出撃に都合がよいとしている。馬出しならば当然虎口があると考えられるが、ここは現在も土橋がかかって道路として使用されており、調査以前は当時からここに土橋がかかり虎口となっていたと想定していたが、調査により土橋はなく掘り抜かれていたことが判明した。しかしながら、土壘の形態や4・5号溝の存在を考えると、ここに虎口があった可能性は高く、堀北壁にある東西に長い溝は橋脚に関する遺構とも考えられるため、木橋による虎口だった可能性もあると思われる。

出土遺物は、土師質土器、軟質陶器、陶器、漆器、板碑、石臼、鉄砲玉等であるが、遺構の性格上埋没に時間がかかり、前時代の混入品だけでなく、後世の遺物も覆土中に多く入っていると考えられるため、出土遺物から時期を決定することは困難である。城の形態からは中世城郭でも後期のものとされ、年代では16世紀後半と考えられるが、出土した板碑の内1点は「文保」と読める銘文が残っており、14世紀となって形態から与えられる年代とは大きな開きができてしまう。陶器では17世紀前半に比定される長珪石釉の皿が覆土下層から出土しており、ある程度堀が埋まった時点で廃棄されたものと考えられるならば年代の矛盾は少なくなるが、これだけでは可能性が指摘できる程度であろう。

発掘調査により、堀の北に北向きの緩斜面を掘り込んだ整地面とそこに造られた掘立柱建物・竪穴遺構・配石遺構や、井戸・土坑等が検出された。出土遺物等から判断して、整地面上の竪穴遺構・配石遺構や井戸は城郭より古くなると考えられるため、内匠城築城以前にも居住活動が行われていたことが想定される。掘立柱建物はそれよりも新しくなり、はっきりした時期は不明であるが、城と併存した可能性も考えられる。この場合城の根小屋的な性格も考えられるが、位置的には近接しすぎていると思われるため、はっきりした性格は不明である。



第428図 内匠城縄張図（『群馬県の中世城郭』より転載）

第IV章 調査の成果と問題点

註

- (1) 山崎 一 1978 『群馬県古城壘址の研究 上・下巻』 山崎 一 1981 『群馬県古城壘址の研究 補遺編 上・下巻』
- (2) 群馬県教育委員会 1988 『群馬県の中世城郭』

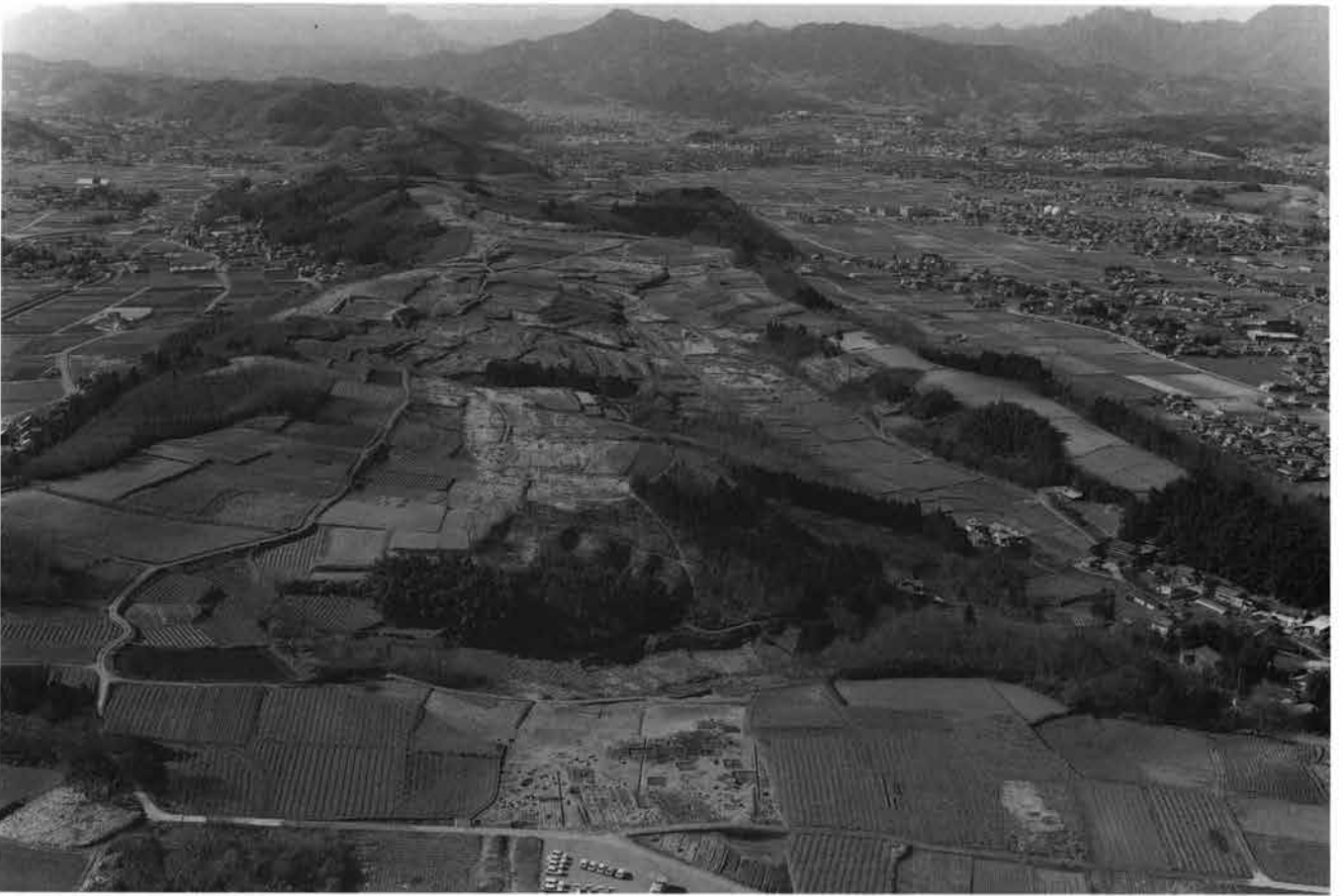
報 告 書 抄 録

フリガナ	タクミウエノシュクイセキ
書名	内匠上之宿遺跡
副書名	関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第15集
シリーズ名	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第143集
編著者名	新井 仁
編集機関	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377 群馬県勢多郡北橋村下箱田784-2
発行年	西暦1993年3月26日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市 町 村	遺跡番号					
たくみうえのしゆく 内匠上之宿	とみおかし たくみ 富岡市内匠	102105	10005- 00127	36°15' 40"	138°54' 20"	19870216- 19880305	14,600	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物	特 記 事 項				
内匠上之宿	住居	縄文時代	竪穴住居	4軒	縄文時代前期～後期 土器・石器類	縄文～中世の複 合遺跡				
			土坑	185基						
			埋設土器	10基			弥生時代後期 土器・石器類	縄文中期末～後 期前半の遺物多 量出土		
			配石遺構	5基			古墳時代後期 土師器			
			溝状遺構	2条			須恵器・石器類			
			谷津状遺構	4			中世 土器・陶磁器・石製品			
			弥生時代	竪穴住居			4軒		鉄製品・銅製品・木製品	
				古墳時代			竪穴住居			14軒
							土坑			3基
			中 世	城郭堀			1		中世城郭内匠城 調査	
		城郭土塁		1						
		整地面		1						
		掘立柱建物		6棟						
		竪穴遺構		4基						
		配石遺構		10基						
			井戸	11基						
	土坑	5基								

写 真 图 版



遺跡遠景 (東上空から)



遺跡遠景 (西上空から)

図版2 遺跡遠景



遺跡遠景（北上空から）



A区全景



A区東側全景



B区全景

図版4 縄文時代



6号住居跡 全景（北から）



6号住居跡 炉体土器（南から）



6号住居跡 掘り方全景（北から）



7号住居跡 全景（東から）



7号住居跡 炉全景（東から）



7号住居跡 全景 (北西から)



7号住居跡 全景 (敷石除去後) (西から)



7号住居跡 掘り方全景 (北西から)



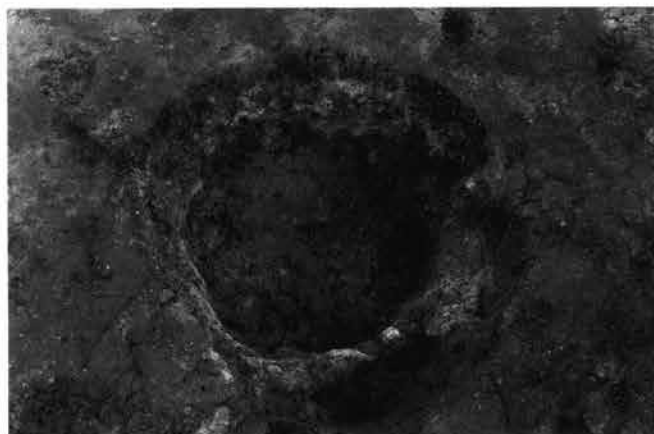
15号住居跡 遺物出土状況 (北から)



15号住居跡 炉遺物出土状況 (西から)



15号住居跡 全景 (西から)



15号住居跡 炉 焼土残存状況 (東から)



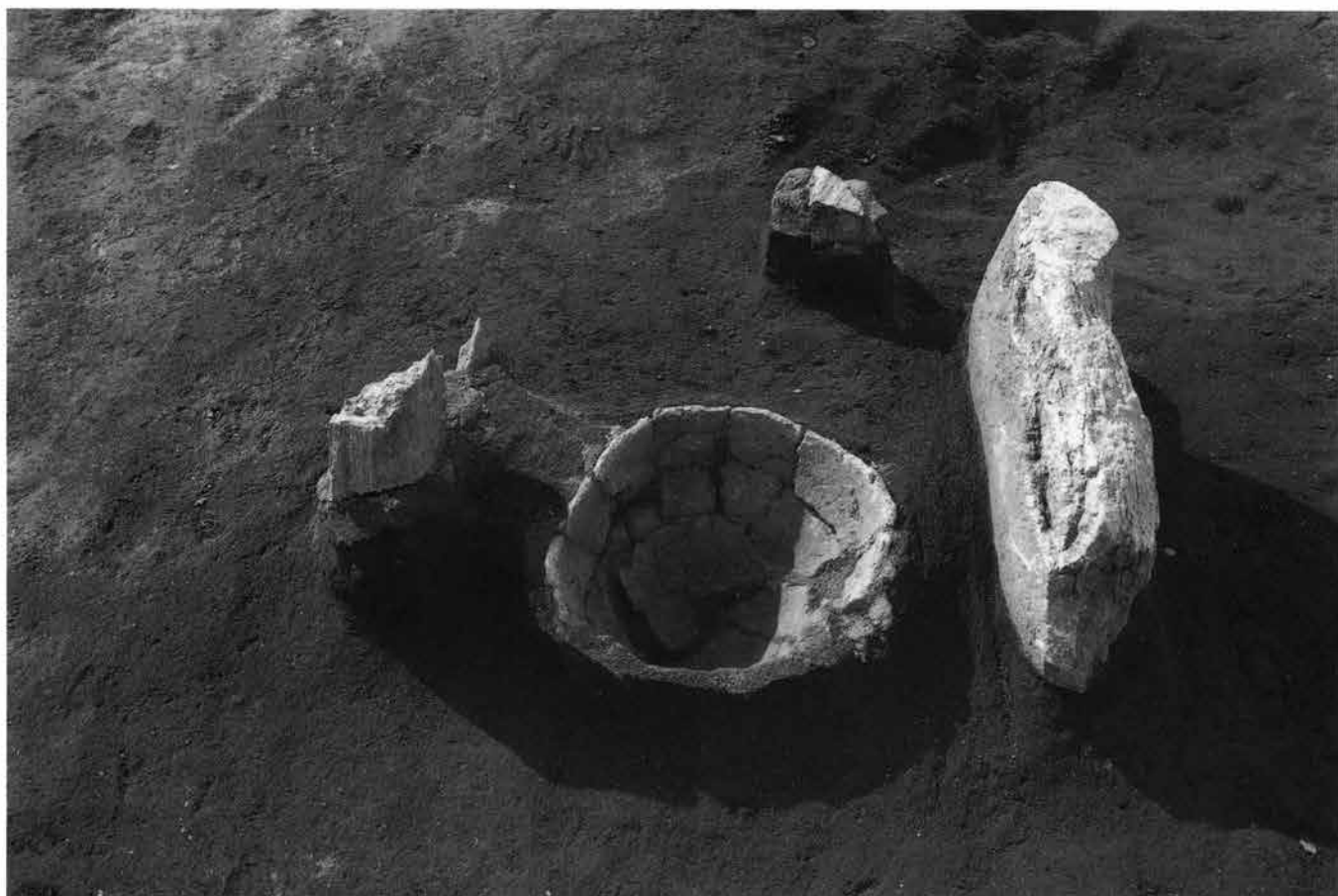
15号住居跡 掘り方全景 (西から)



20号住居跡 埋設土器出土状況 (南から)



20号住居跡 1号埋設土器 (東から)



20号住居跡 2号埋設土器（東から）



22号住居跡 遺物出土状況（北から）

図版 8 縄文時代



155号土坑 遺物出土状況 (西から)



155号土坑 埋設土器 (西から)



196号土坑 遺物出土状況 (南から)



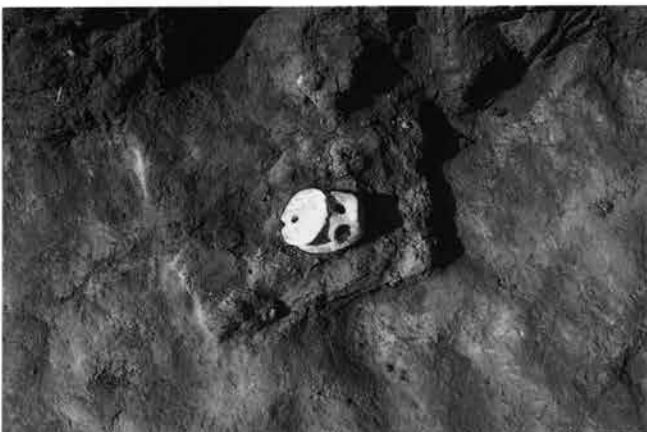
196号土坑 全景 (西から)



196号土坑 焼土層セクション (南から)



196号土坑 掘り方全景 (西から)



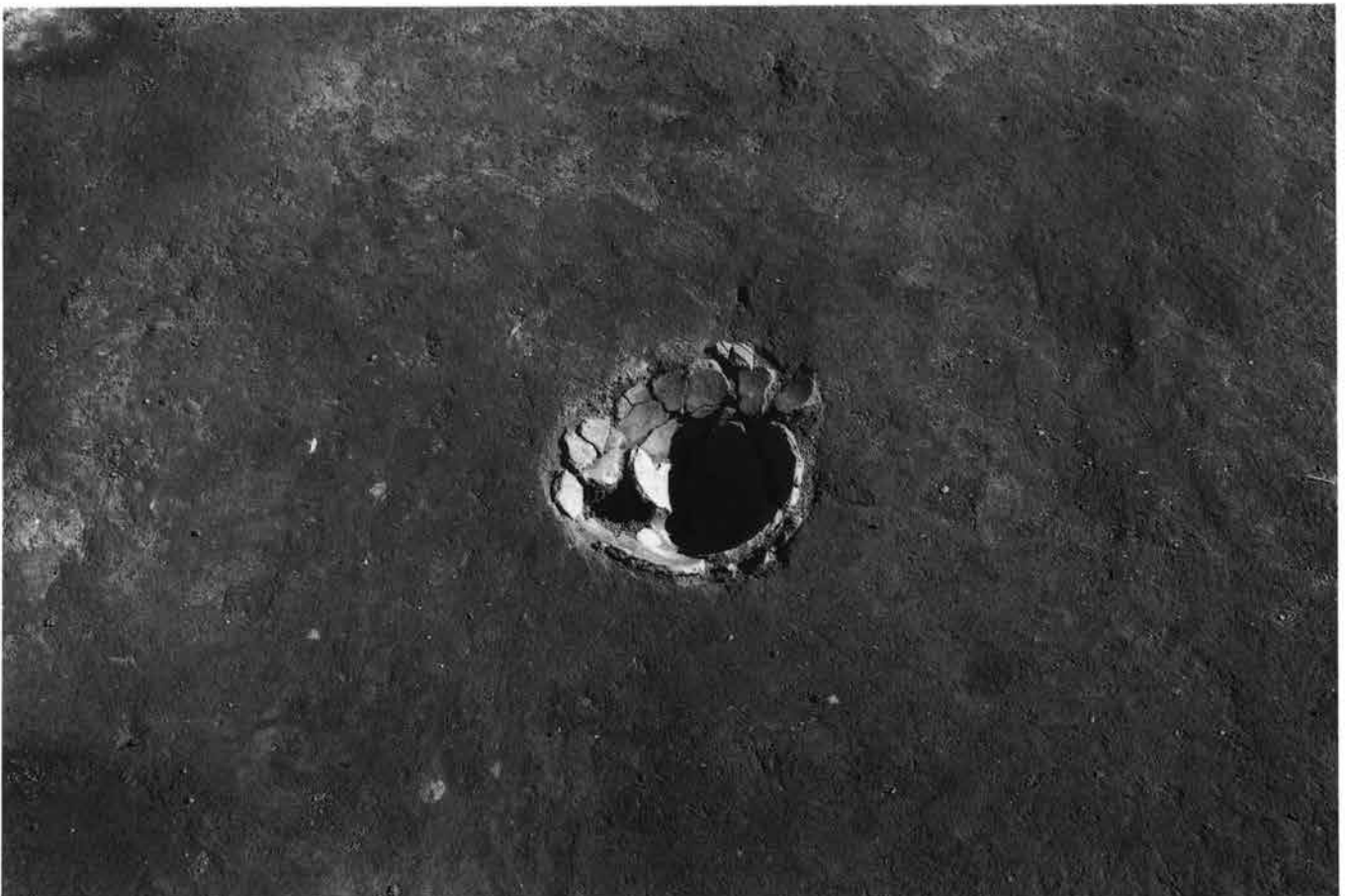
228号土坑 土偶出土状況 (東から)



228号土坑 掘り方全景 (東から)



228号土坑 全景（東から）



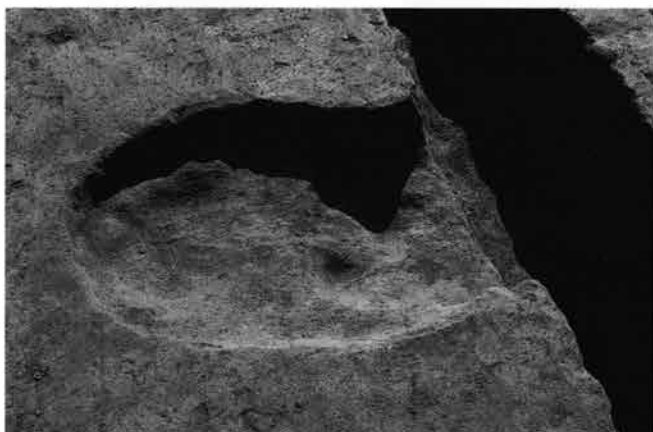
11号埋設土器 全景（西から）



11号埋設土器 遺物出土状況 (西から)



11号埋設土器 焼土層セクション (南から)



4号土坑 全景 (北から)



8号土坑 全景 (西から)



7号土坑 全景 (北から)



9号土坑 全景 (東から)



14号土坑 全景 (南から)



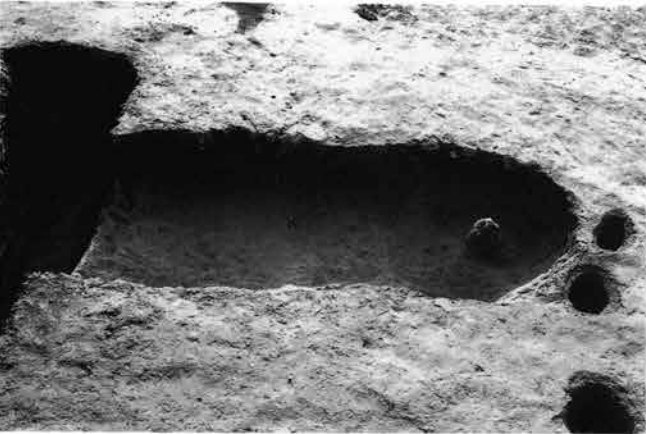
15号土坑 全景 (南から)



17・22号土坑 全景（西から）



25号土坑 遺物出土状況（北から）



27号土坑 全景（東から）



28号土坑 全景（東から）



30号土坑 全景（南から）



31号土坑 全景（北から）



36号土坑 全景（西から）



38号土坑 全景（北から）



41号土坑 全景 (南から)



43号土坑 全景 (南から)



44号土坑 全景 (南から)



49号土坑 全景 (西から)



52号土坑 遺物出土状況 (南から)



52号土坑 全景 (東から)



54号土坑 全景 (北から)



58号土坑 全景 (東から)



63号土坑 全景（北から）



64号土坑 全景（東から）



65号土坑 遺物出土状況（北から）



65号土坑 全景（北から）



70号土坑 全景（北から）



71号土坑 全景（西から）



72号土坑 全景（北から）



73号土坑 全景（西から）

図版14 縄文時代



78号土坑 全景（東から）



79号土坑 全景（西から）



85号土坑 全景（南東から）



87号土坑 全景（東から）



90号土坑 全景（北から）



91号土坑 全景（西から）



92号土坑 全景（東から）



93号土坑 全景（西から）



93号土坑 埋設土器 (東から)



94号土坑 全景 (東から)



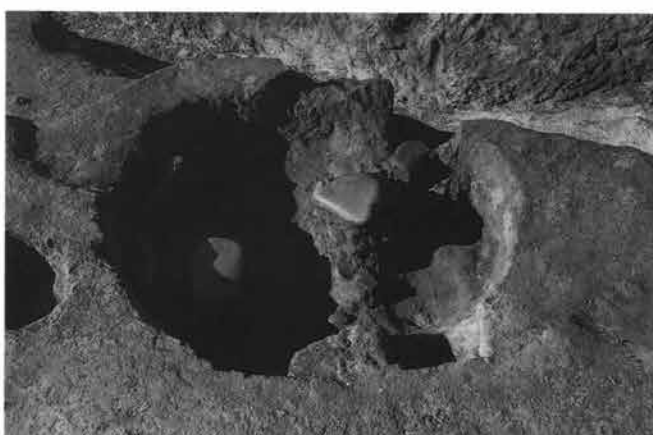
95号土坑 全景 (西から)



100号土坑 全景 (西から)



104号土坑 全景 (東から)



110号土坑 全景 (東から)



111号土坑 全景 (北から)



112号土坑 遺物出土状況 (西から)



112号土坑 掘り方全景 (西から)



115号土坑 全景 (西から)



119号土坑 全景 (東から)



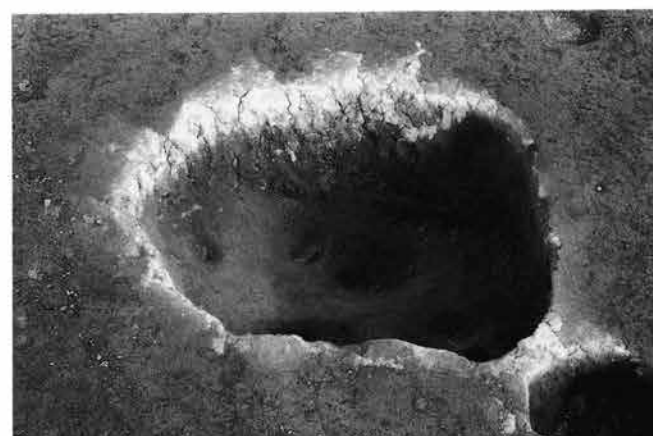
121号土坑 全景 (南から)



122号土坑 全景 (南から)



125号土坑 全景 (北から)



126号土坑 全景 (西から)



131号土坑 全景 (西から)



132・153号土坑 全景（東から）



133号土坑 全景（北から）



137号土坑 全景（北から）



139号土坑 全景（北から）



141号土坑 全景（東から）



144号土坑 全景（北から）



145号土坑 全景（南から）



147号土坑 全景（北から）

図版18 縄文時代



148号土坑 全景（西から）



149号土坑 全景（東から）



158号土坑 全景（北から）



162号土坑 全景（東から）



165号土坑 全景（西から）



167号土坑 全景（西から）



168号土坑 遺物出土状況（東から）



168号土坑 全景（東から）



169号土坑 全景（北から）



173号土坑 全景（北から）



177・178号土坑 全景（北から）



179号土坑 全景（西から）



181号土坑 全景（北から）



182号土坑 全景（西から）



183号土坑 全景（北から）



184号土坑 全景（東から）

図版20 縄文時代



185号土坑 全景 (東から)



191号土坑 全景 (北から)



192号土坑 全景 (西から)



193・199号土坑 全景 (西から)



200号土坑 全景 (南から)



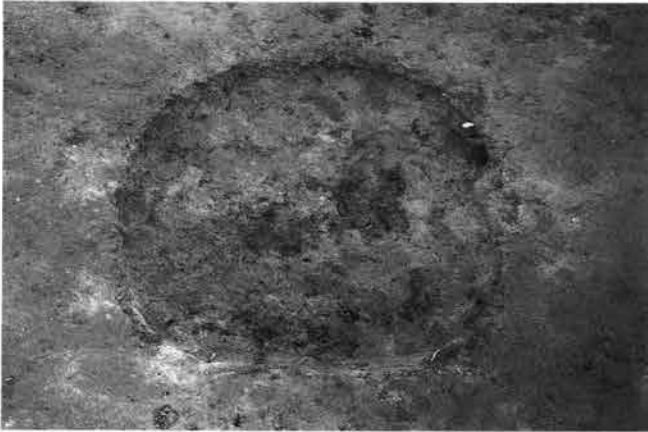
201号土坑 全景 (東から)



204号土坑 全景 (南から)



205号土坑 全景 (北から)



208号土坑 全景（北から）



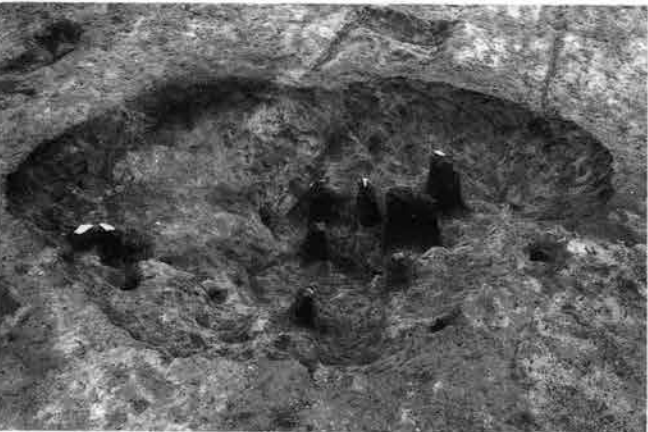
211号土坑 全景（北から）



213号土坑 全景（西から）



214号土坑 全景（東から）



215号土坑 全景（北から）



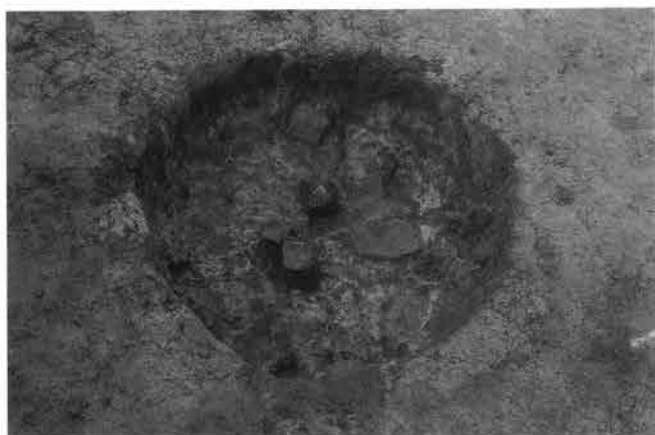
216号土坑 全景（東から）



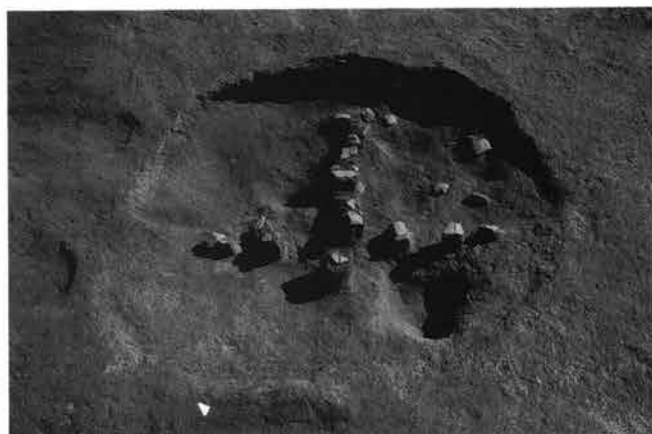
217号土坑 全景（東から）



218号土坑 全景（北から）



219号土坑 全景 (東から)



222号土坑 全景 (西から)



223号土坑 全景 (北から)



224号土坑 全景 (西から)



229号土坑 全景 (西から)



230号土坑 全景 (南から)



231号土坑 全景 (南から)



235号土坑 全景 (東から)



236号土坑 全景（東から）



238号土坑 全景（南から）



239号土坑 全景（東から）



240号土坑 全景（北から）



241号土坑 全景（東から）



243号土坑 全景（東から）



246号土坑 全景（北から）



248号土坑 全景（北から）



252号土坑 全景 (北から)



254号土坑 全景 (北から)



256号土坑 遺物出土状況① (西から)



256号土坑 遺物出土状況② (西から)



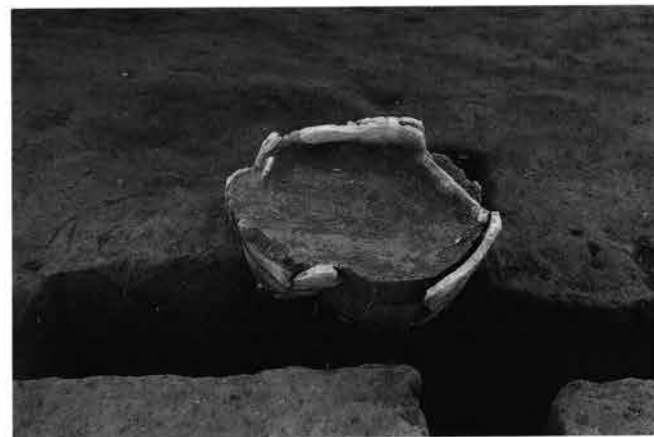
1号埋設土器 (南から)



3号埋設土器 (西から)



4号埋設土器および配石 (東から)



4号埋設土器 (北から)



5号埋設土器 (北から)



6号埋設土器および配石 (南から)



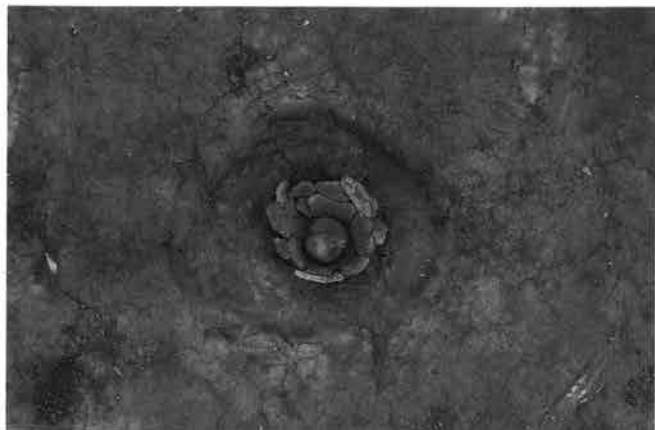
6号埋設土器 (北から)



7号埋設土器 (北から)



7号埋設土器振り方 (南から)



9号埋設土器 (北から)



10号埋設土器 (東から)



12号埋設土器 (東から)



1号配石 全景 (南から)



18・19号配石 全景 (北から)



11号溝 全景 (南から)



11号溝 注口土器出土状況 (西から)



2号谷津 全景 (北から)



5号住居跡 全景 (南から)



5号住居跡 炉 (南から)



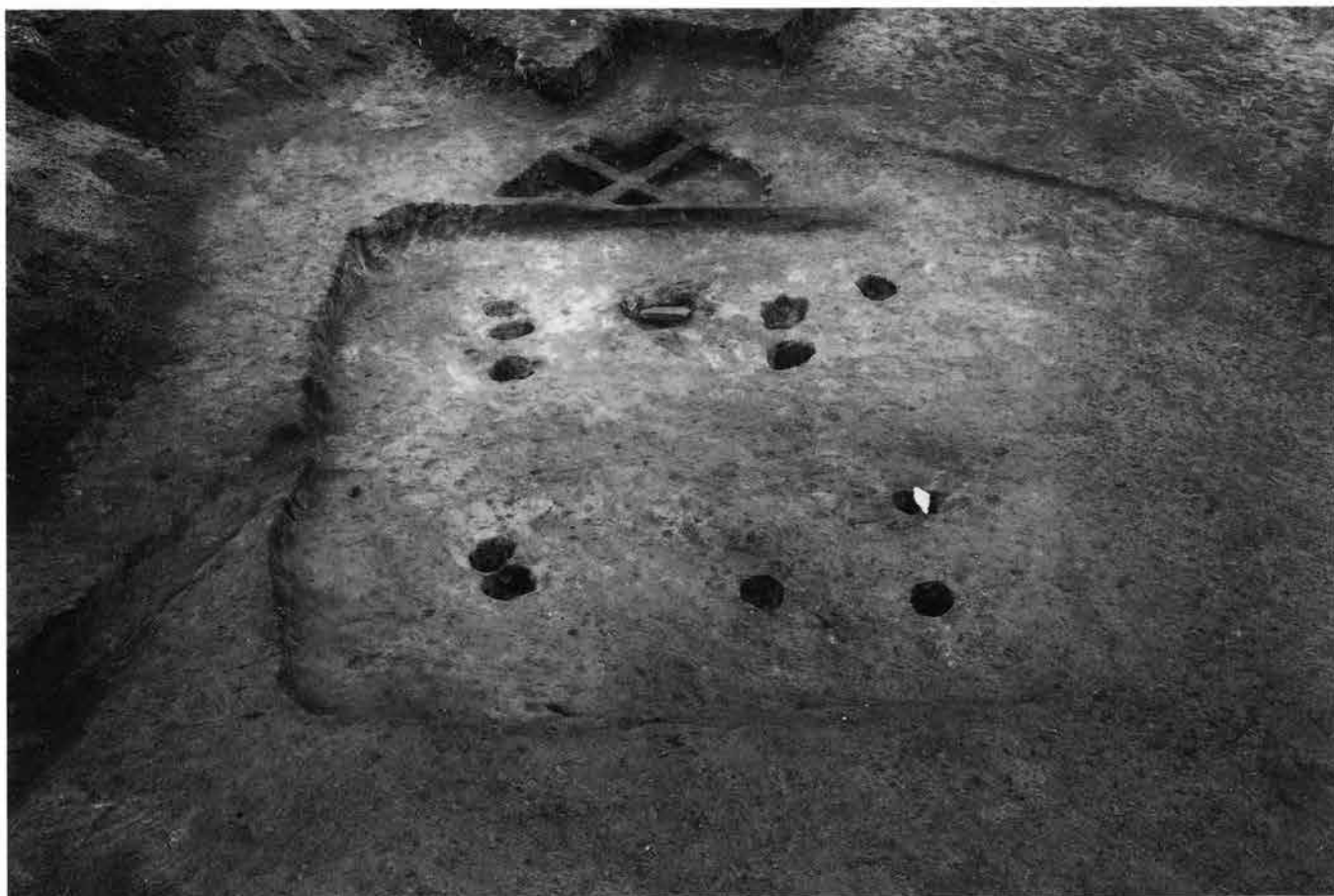
5号住居跡 全景 (南から)



10号住居跡 遺物出土状況全景 (北から)



10号住居跡 遺物出土状況 (北から)



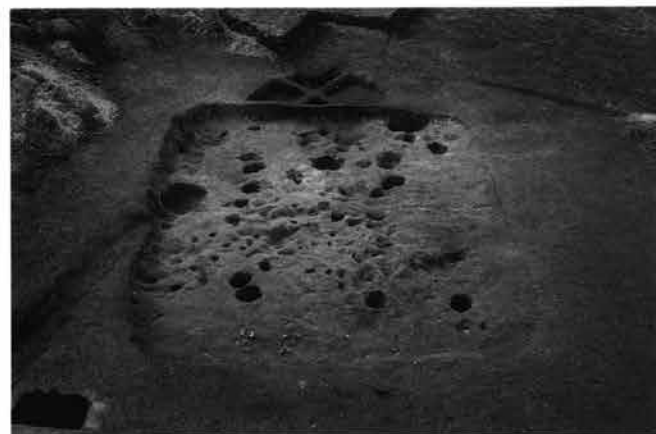
10号住居跡 全景（東から）



10号住居跡 1号炉（北から）



10号住居跡 2号炉（東から）



10号住居跡 掘り方全景（東から）



16号住居跡 遺物出土状況全景（北から）



16号住居跡 全景（南から）



16号住居跡 遺物出土状況（東から）



16号住居跡 炉（東から）



16号住居跡 南東隅ピット（北から）



16号住居跡 掘り方全景（南から）

図版30 弥生時代



21号住居跡 遺物出土状況（西から）



21号住居跡 炉（西から）



21号住居跡 全景（南から）



21号住居跡 南東隅ピット土手状遺構（北から）



21号住居跡 掘り方（南から）



1号住居跡 全景（南から）



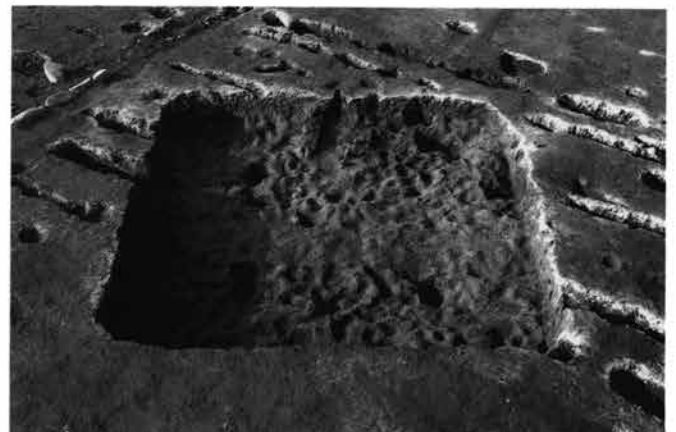
1号住居跡 カマド（南から）



1号住居跡 北東隅遺物出土状況（南から）



1号住居跡 カマド掘り方（南から）



1号住居跡 掘り方全景（南から）



2号住居跡 遺物出土状況全景 (南から)



2号住居跡 遺物出土状況 (南から)



2号住居跡 全景 (南から)



2号住居跡 カマド (南から)



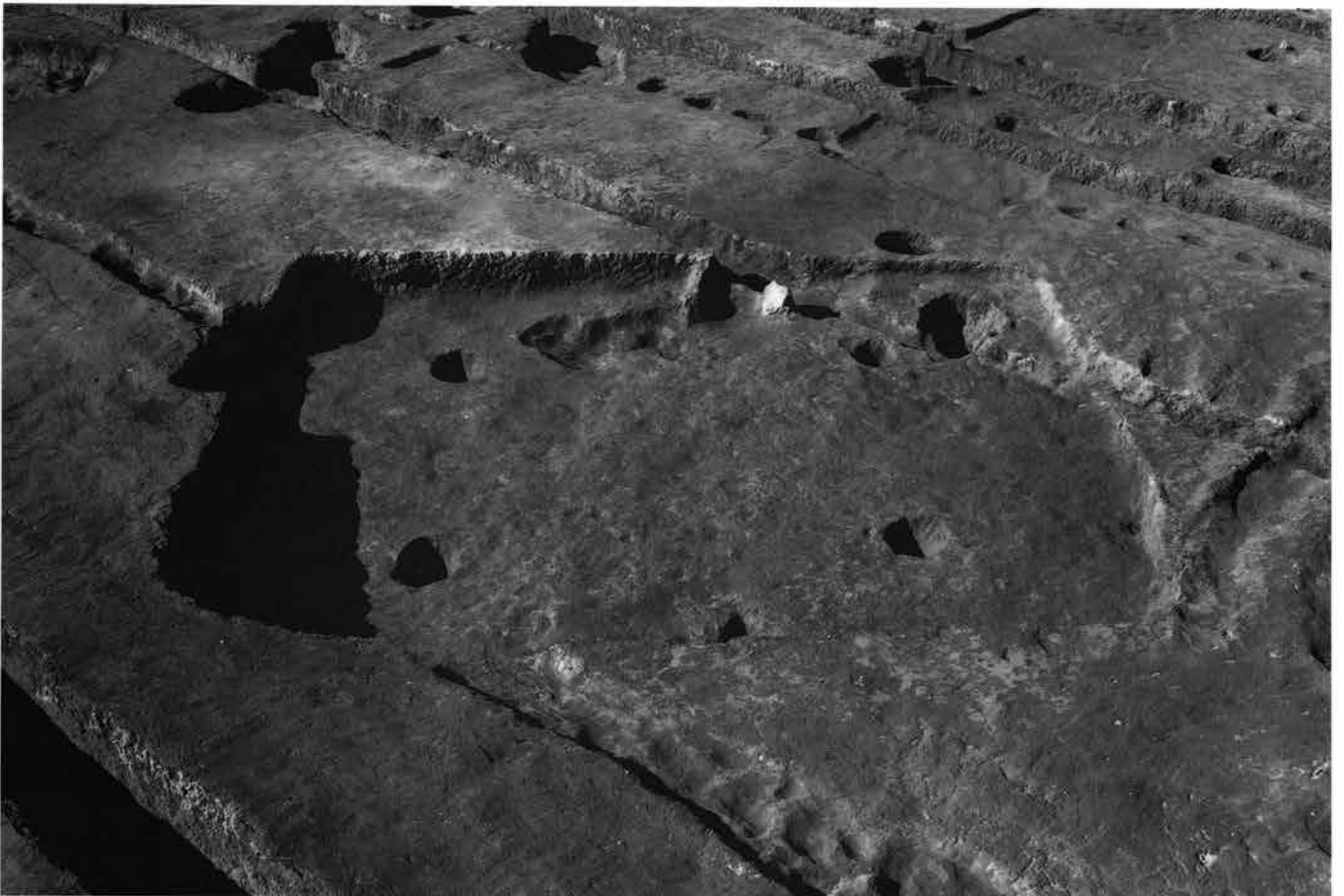
2号住居跡 掘り方全景 (南から)



3号住居跡 遺物出土状況全景（西から）



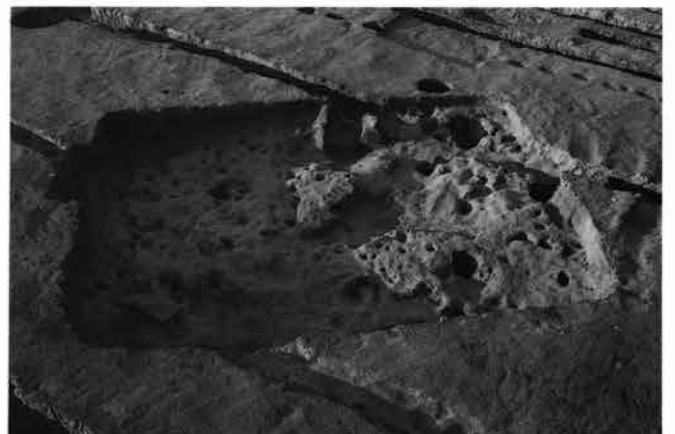
3号住居跡 カマド周辺遺物出土状況（南から）



3号住居跡 全景（南から）



3号住居跡 貯蔵穴（南から）



3号住居跡 掘り方全景（南から）



4号住居跡 全景（南から）



4号住居跡 カマド周辺遺物出土状況（南から）



4号住居跡 カマド（南から）



4号住居跡 全景（南から）



4号住居跡 掘り方全景（南から）



8号住居跡 遺物出土状況 (南から)



8号住居跡 カマド (南から)



8号住居跡 全景 (南から)



8号住居跡 掘り方全景 (南から)



9号住居跡 掘り方全景 (南から)



11号住居跡 遺物出土状況全景（南から）



11号住居跡 カマド（南から）



11号住居跡 全景（南から）



11号住居跡 貯蔵穴（南から）



11号住居跡 掘り方全景（南から）



12号住居跡 遺物出土状況全景（南から）



12号住居跡 遺物出土状況（西から）



12号住居跡 南壁際遺物出土状況（北から）



12号住居跡 貯蔵穴（南から）



12号住居跡 カマド（南から）



12号住居跡 全景 (南から)



13号住居跡 遺物出土状況 (南から)



13号住居跡 1号ピット (西から)



13号住居跡 全景 (南から)



14号住居跡 遺物出土状況 (南から)



14号住居跡 全景（南から）



14号住居跡 カマド（南から）



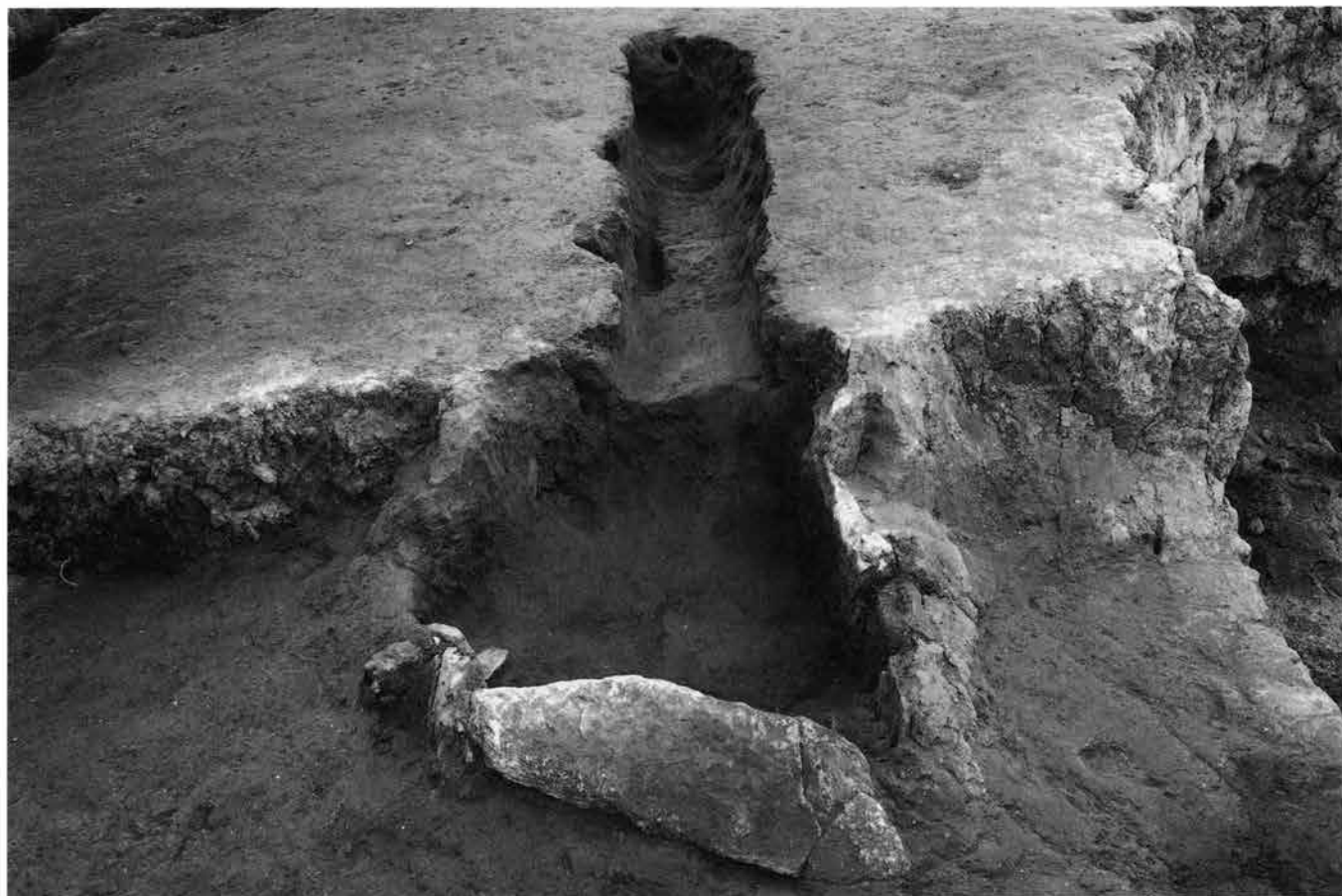
14号住居跡 貯蔵穴（南から）



14号住居跡 掘り方（南から）



17号住居跡 全景（西から）



17号住居跡 カマド全景 (西から)



17号住居跡 カマド脇遺物出土状況 (南西から)



17号住居跡 カマド掘り方 (西から)



17号住居跡 柱穴1 (西から)



柱穴2 (西から)



柱穴3 (西から)



柱穴4 (西から)



17号住居跡 掘り方 (西から)



18号住居跡内土坑 (北から)



18号住居跡 全景 (南から)



18号住居跡 カマド (南から)



18号住居跡 旧床面全景 (南から)



18号住居跡 カマド掘り方 (南から)



18号住居跡 掘り方 (南から)



19号住居跡 全景 (南から)



19号住居跡 遺物出土状況 (北から)



19号住居跡 カマド掘り方 (南から)



23号住居跡 遺物出土状況全景 (西から)



23号住居跡 カマド (西から)



23号住居跡 掘り方全景 (西から)



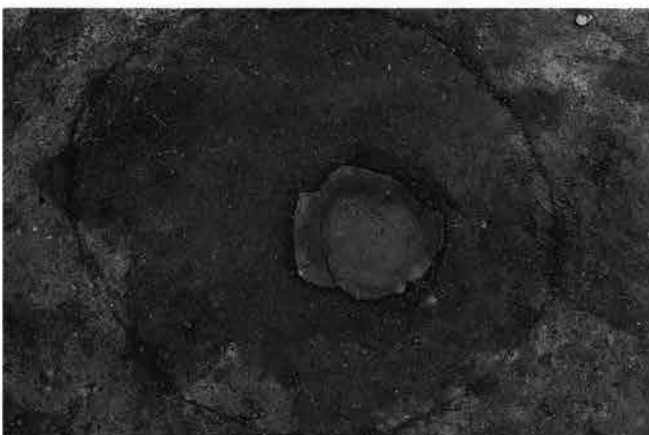
23号住居跡 全景（西から）



207・232号土坑 全景（北から）



233号土坑（西から）



1号ピット 全景（北から）



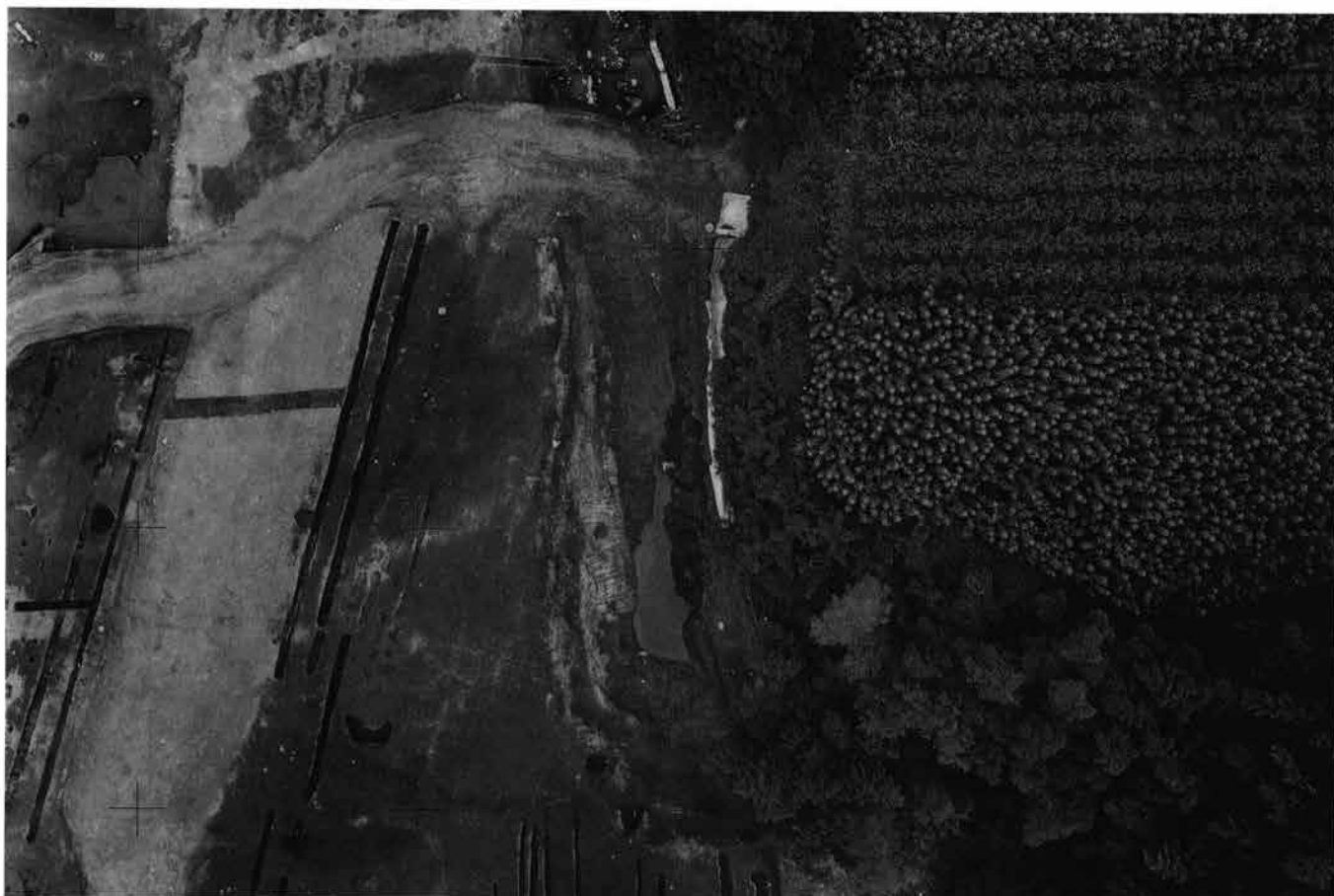
作業風景



内匠城 遠景（北から）



内匠城 全景（垂直）



外堀 全景 (垂直)



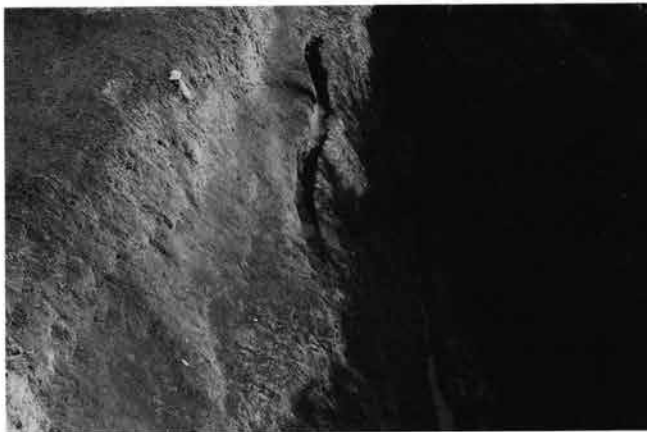
外堀 全景 (西から)



外堀 全景 (東から)



外堀調査風景 (西から)



外堀北壁面溝 (西から)



外堀 セクション (西から)



東側石組 (南から)



板碑出土状況 (南から)



木製椀出土状況 (北西から)



陶器出土状況 (南から)



4号溝 全景 (北から)



4号溝 セクション (南から)



4号溝 板碑出土状況 (北から)



4号溝 掘り方 (北から)



5号溝 全景 (北から)



土壘 全景 (北から)



土壘 全景 (西から)



土壘 全景 (北西から)



土壘 セクション (東から)



11号土坑 全景 (西から)



中世整地面 全景



3・4・5号配石 全景（南から）



2号配石 全景 (北から)



3号配石 全景 (北から)



3号配石 南側石組 (南から)



3号配石 東側石組 (西から)



3号配石 掘り方 (北から)



4号配石 全景 (北から)



4号配石 掘り方 (東から)



5号配石 全景 (西から)



5号配石 全景 (南から)



5号配石 南側石組 (北から)



6号配石 全景 (南から)



7号配石 全景 (西から)



8号配石 全景 (西から)



8号配石 茶臼出土状況(北から)



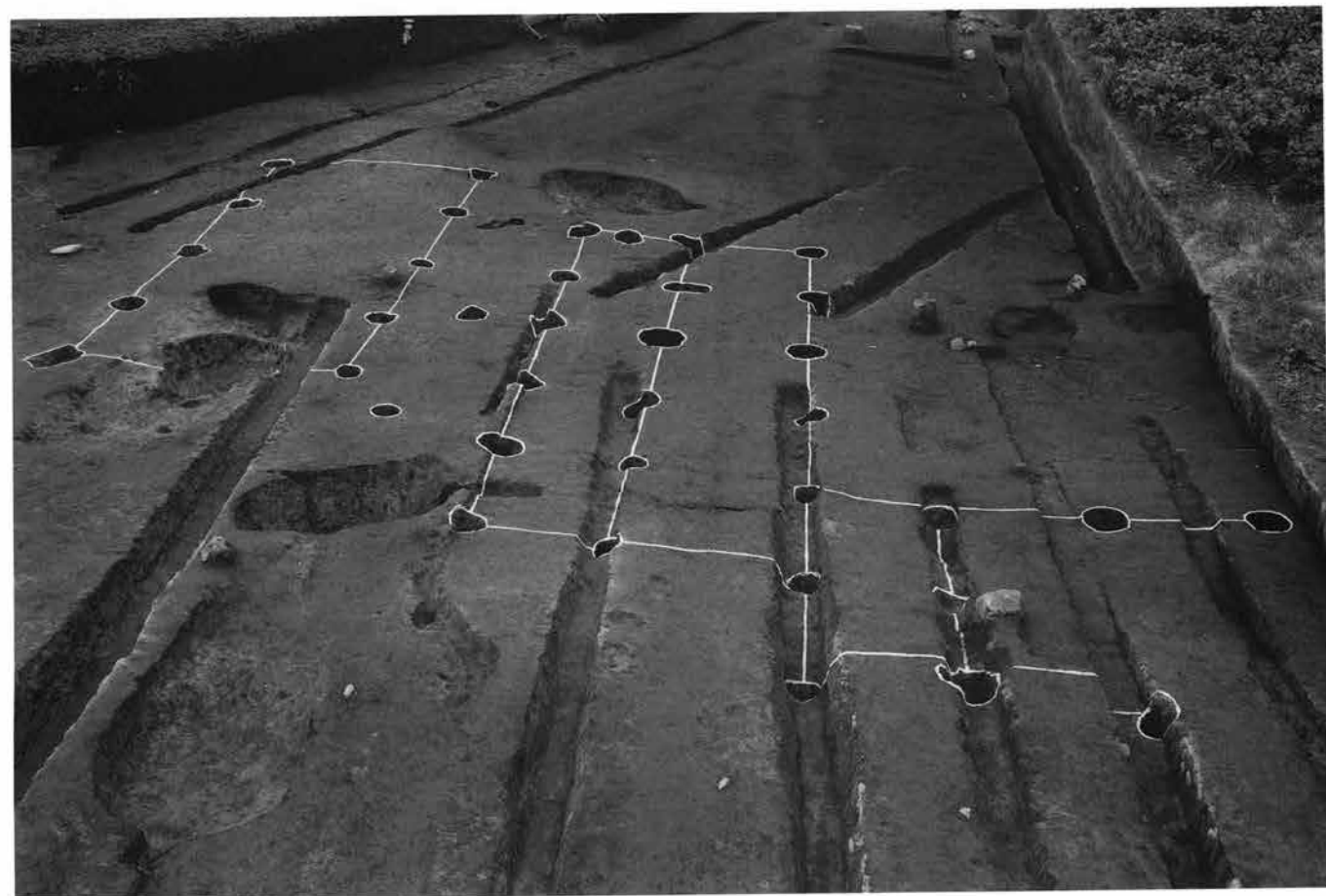
11号配石 全景(北から)



11号配石 配石下土坑(西から)



3・4・5・11号配石 遠景(南から)



4・5・6号掘立 全景(東から)



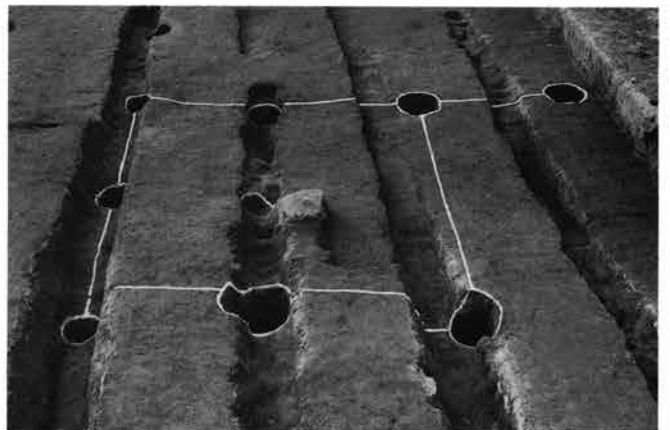
4・5・6号掘立 全景 (西から)



4号掘立 全景 (北から)



5号掘立 全景 (北から)



6号掘立 全景 (東から)



1号竪穴 全景 (西から)



2号竪穴 全景 (北から)



3号竪穴 全景 (北から)



61号土坑 硬化面 (北から)



1号溝 全景 (西から)



1号井戸 全景 (南から)



1号井戸 底部 (南から)



1号井戸 遺物出土状況 (南から)



2号井戸 全景 (北から)



2号井戸 中段石組遺構 (南から)



2号井戸 底部 (北から)



2号井戸 遺物出土状況 (西から)



3号井戸 遺物出土状況（西から）



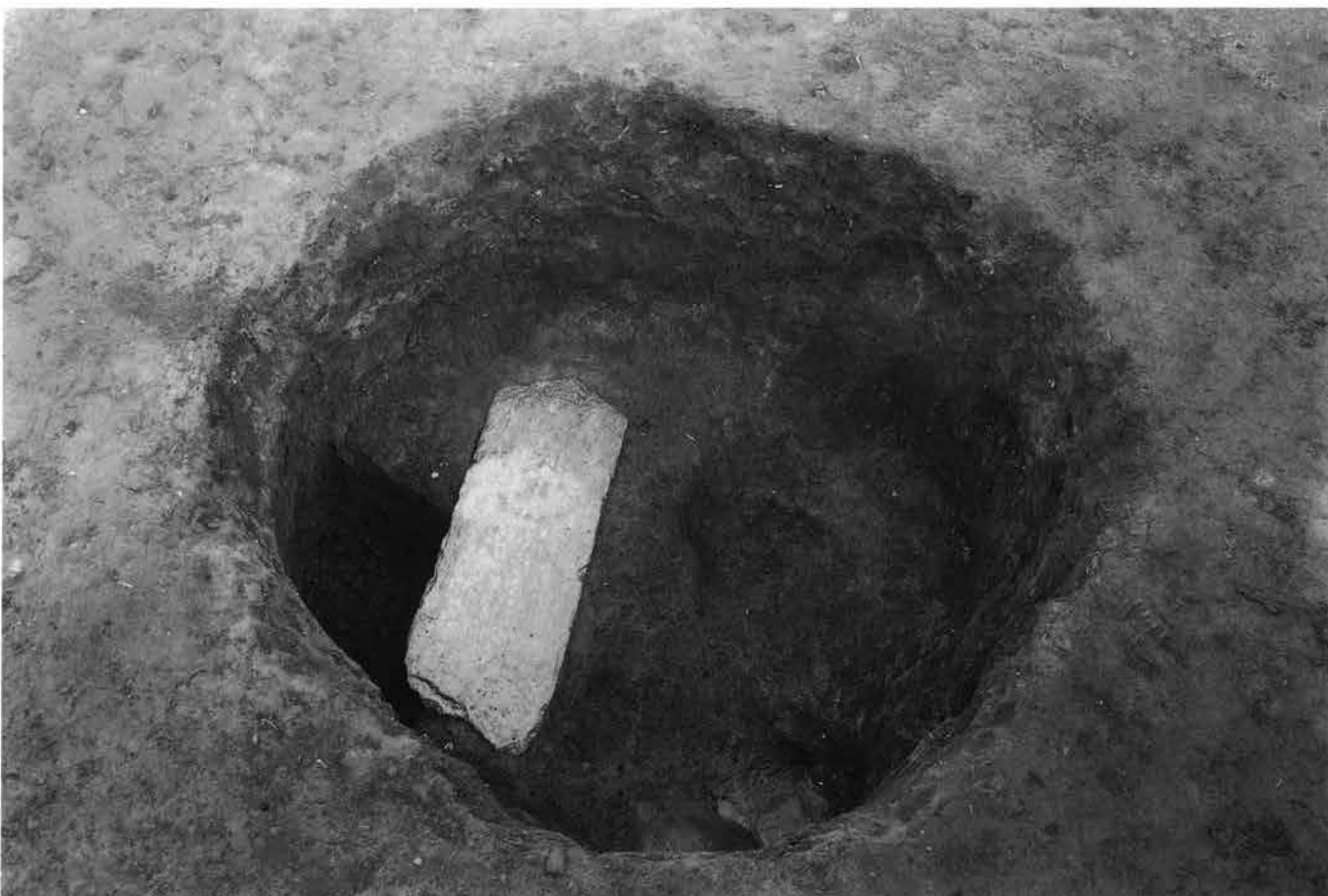
3号井戸 下層遺物出土状況（南から）



3号井戸 全景（南から）



4号井戸 全景（東から）



5号井戸 板碑出土状況（南から）



5号井戸 茶臼出土状況(南から)



5号井戸 全景(東から)



6号井戸 上層遺物出土状況(北から)



6号井戸 土師質土器出土状況(北から)



6号井戸 全景(北から)



6号井戸 底部(南から)



7号井戸 上層遺物出土状況(東から)



7号井戸 全景(南から)



7号井戸 底部 (北から)



8号井戸 遺物出土状況 (東から)



8号井戸 全景 (東から)



8号井戸 底部 (北から)



9号井戸 遺物出土状況 (西から)



9号井戸 全景 (西から)



10号井戸 全景 (北から)



10号井戸 底部 (南から)



11号井戸 遺物出土状況 (西から)



11号井戸 全景 (北から)



1号土坑 全景 (西から)



26号土坑 全景 (南から)



26号土坑 遺物出土状況 (北から)



37号土坑 全景 (北から)



130号土坑 全景 (東から)



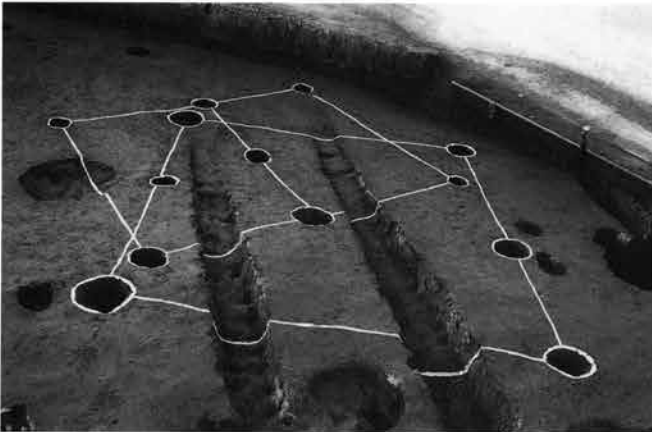
146号土坑 全景 (西から)



237号土坑 全景 (東から)



1号掘立 全景 (西から)



2・3号掘立 全景 (東から)



2号ピット 上面遺物状況 (東から)



2号ピット 全景 (東から)



2号土坑 全景（東から）



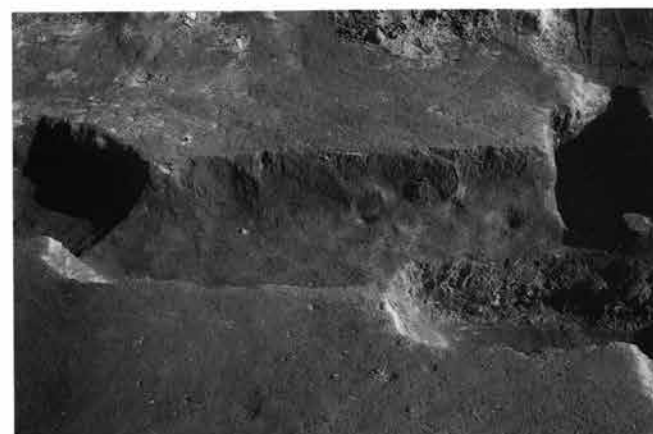
3号土坑 全景（北から）



10号土坑 全景（北から）



143号土坑 全景（西から）



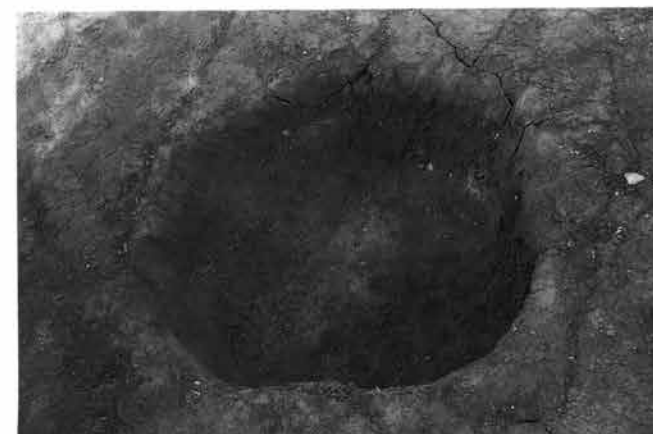
152号土坑 全景（西から）



157号土坑 全景（西から）



172号土坑 全景（西から）



226号土坑 全景（南から）



234号土坑 全景 (東から)



14号配石 全景 (東から)



17号配石 全景 (西から)



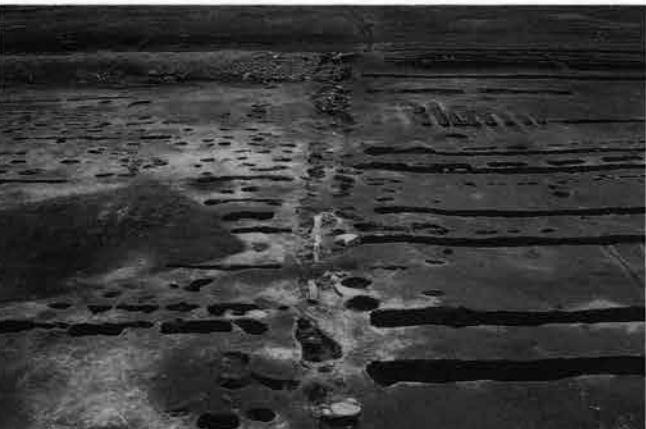
21号配石 全景 (西から)



1号暗渠 全景 (東から)



1号暗渠 谷落下部 (東から)

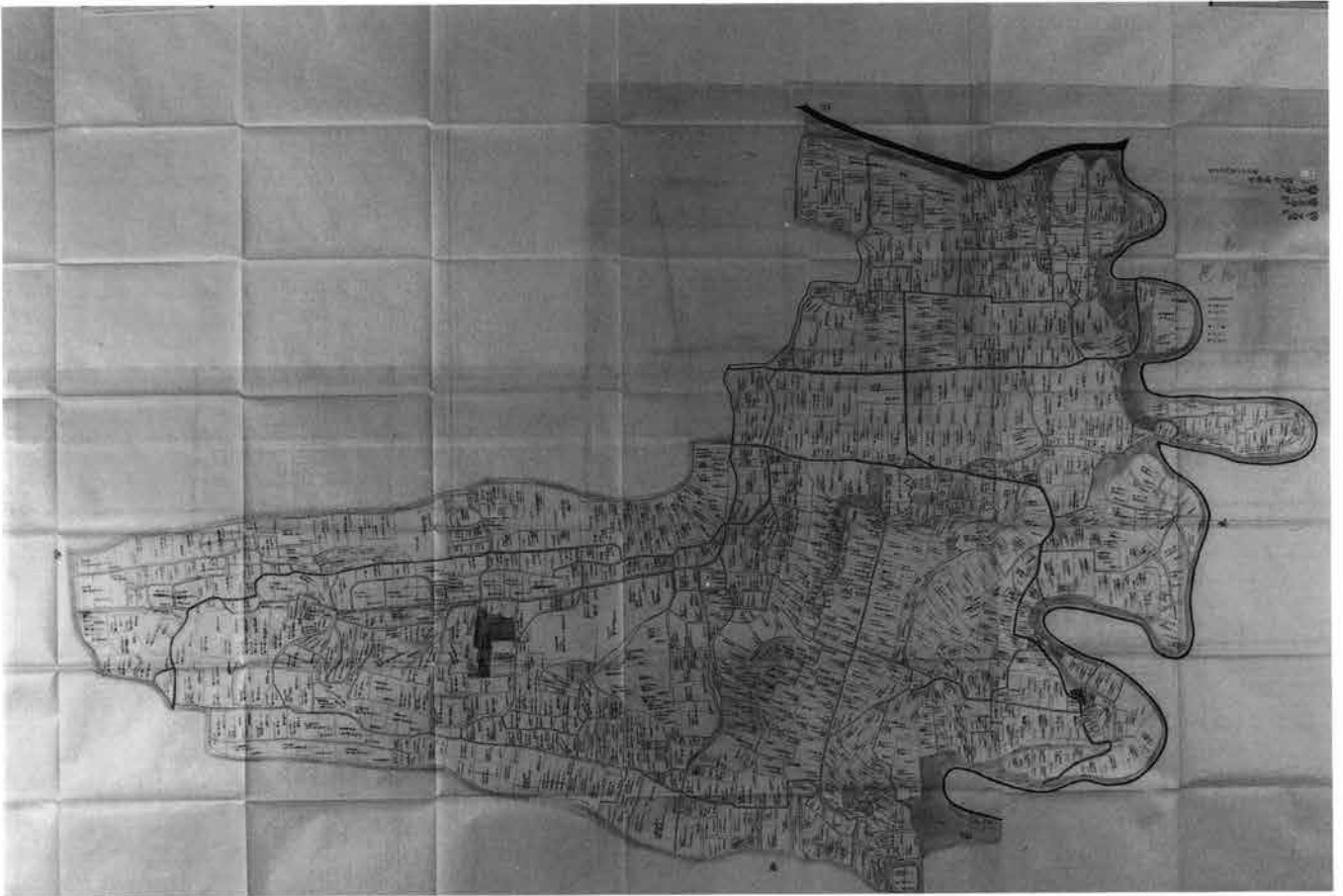


西地目境遺構 (北から)

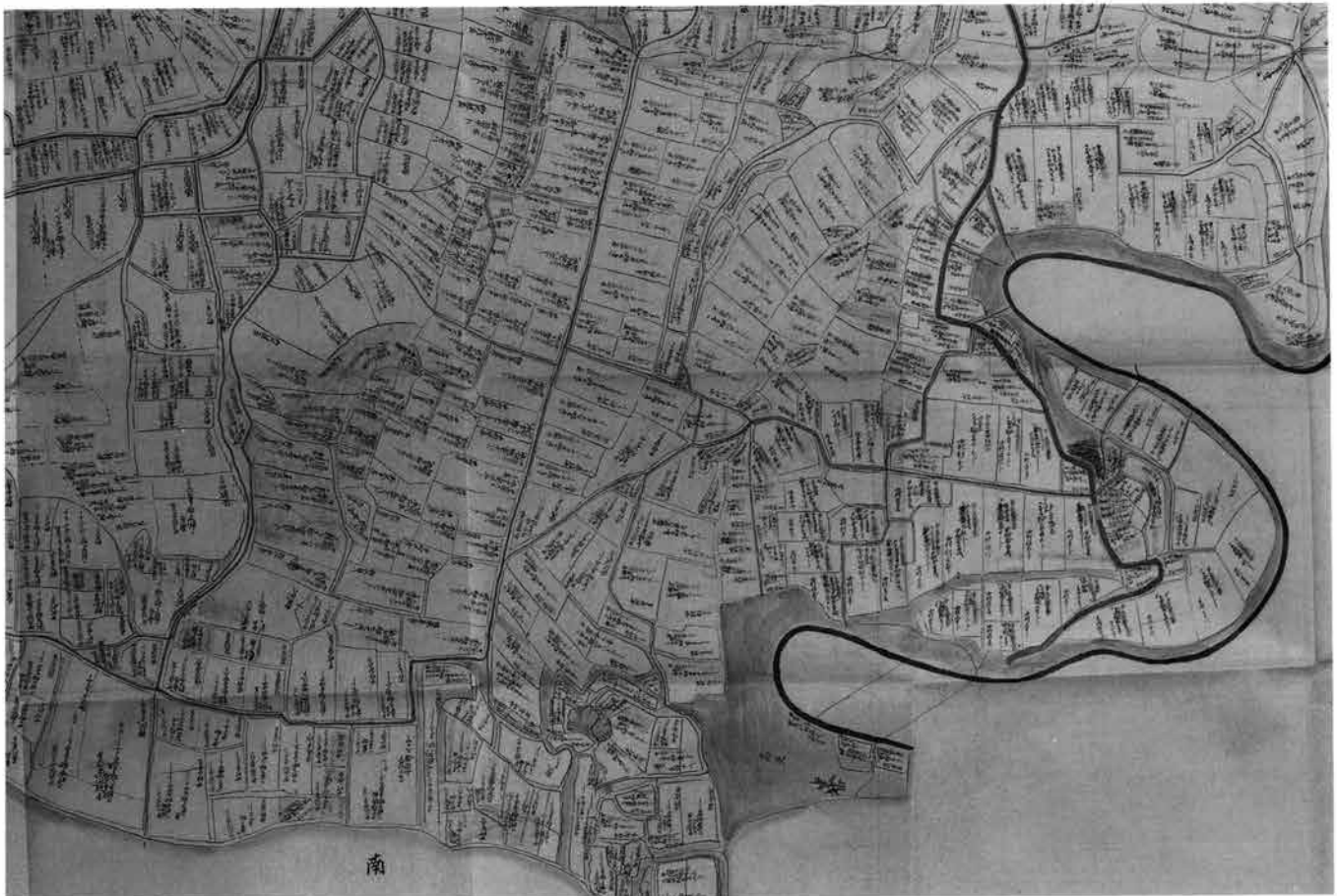


C801123Gr 地目境 (南から)

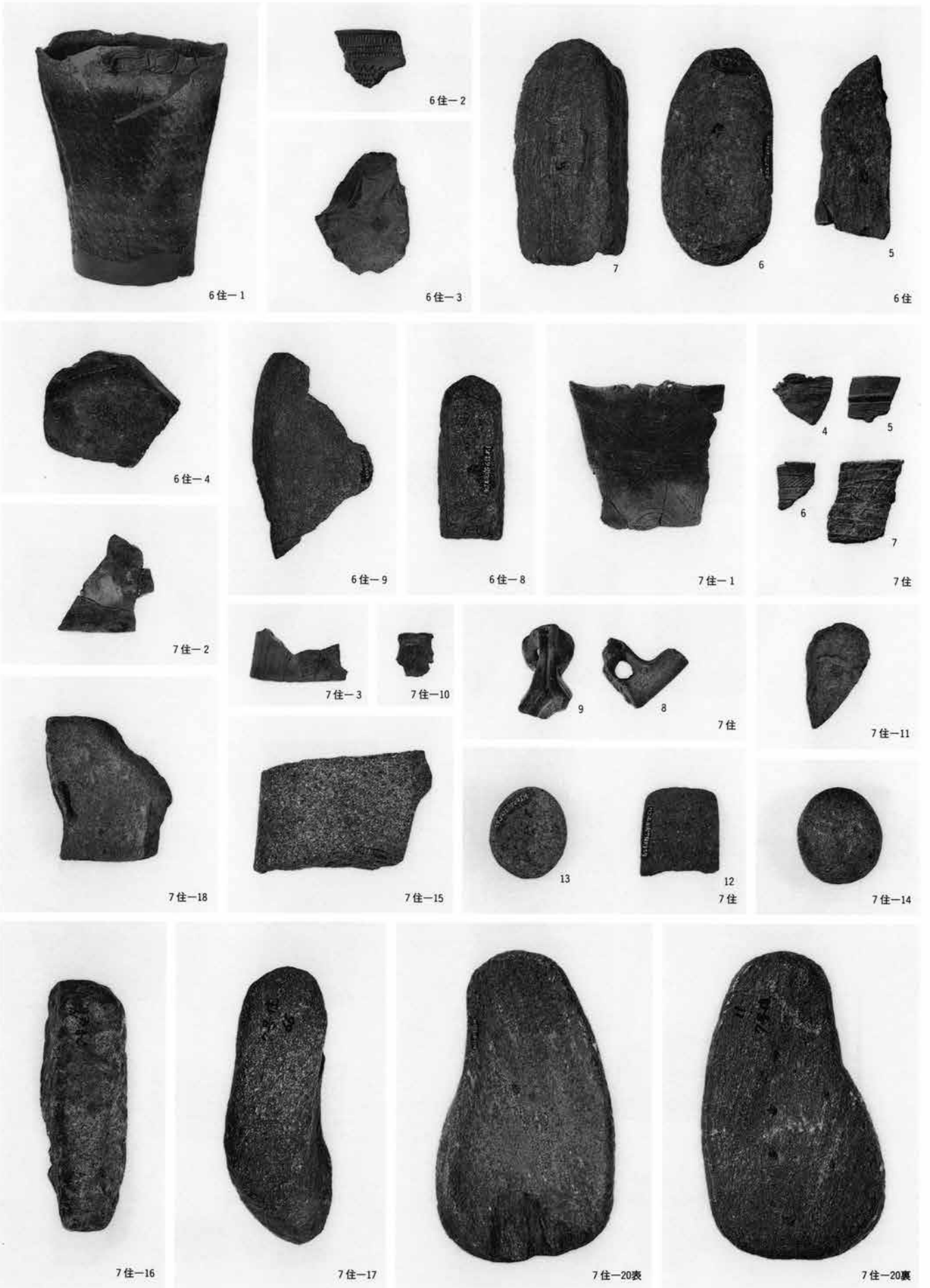
図版62 地籍図

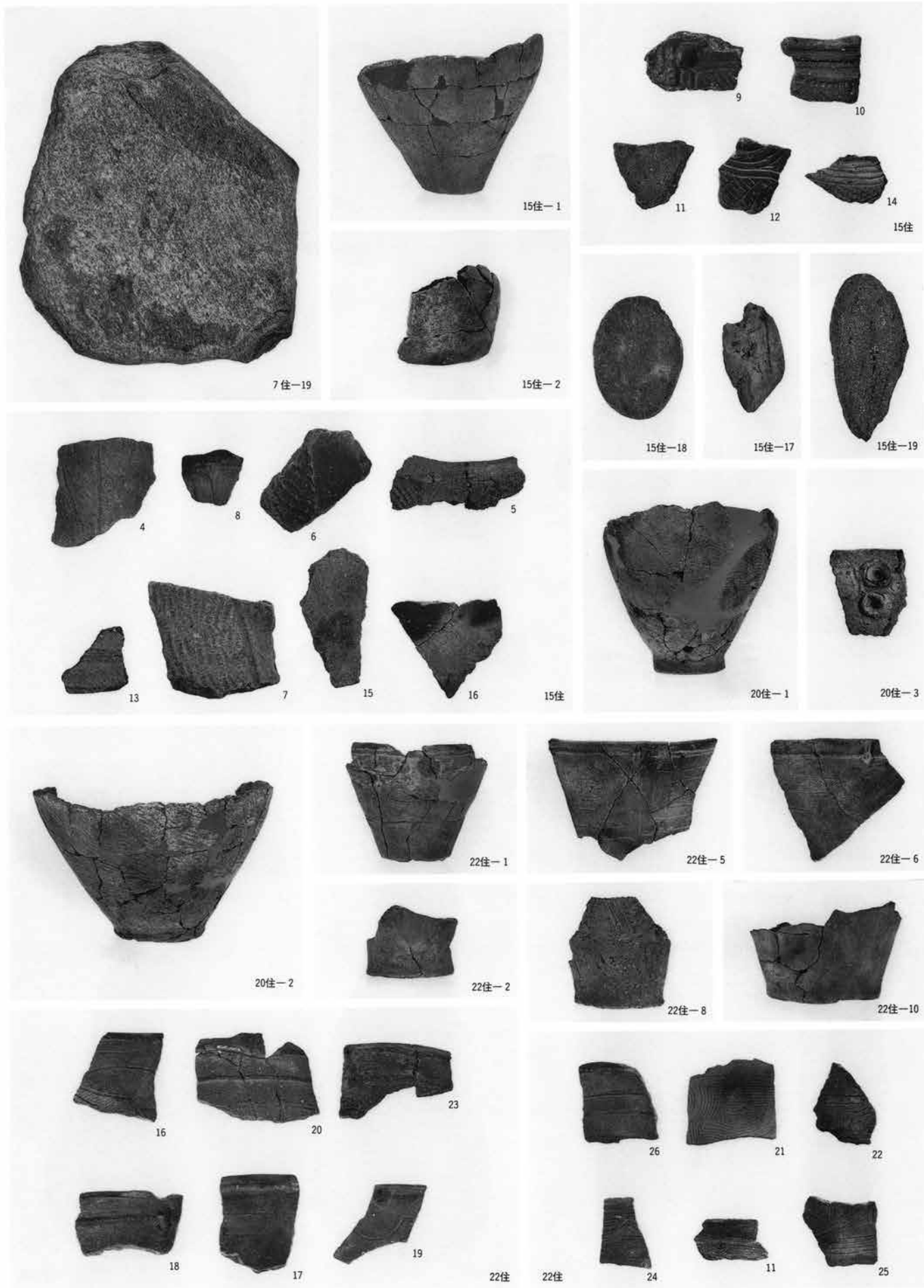


地籍図（壬申地券地引絵図・第十二大区小十三区甘楽郡内匠村 群馬県立文書館蔵）



同上 拡大図



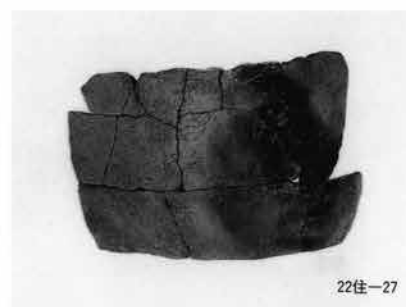




22住-31



22住-29



22住-27



22住-34



22住-30



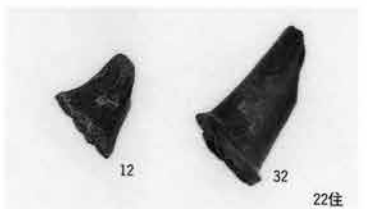
22住-33



22住-3



22住-4



12

32

22住



22住-35



22住-37表



22住-37裏



22住-42表



22住-42裏



22住-40



22住-41



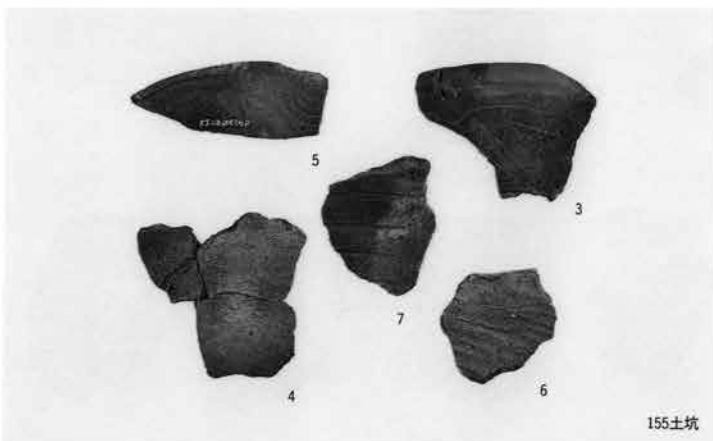
38



43



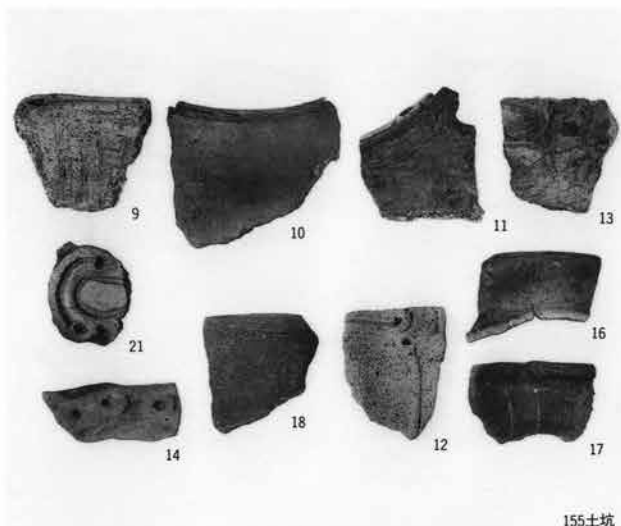
22住-44



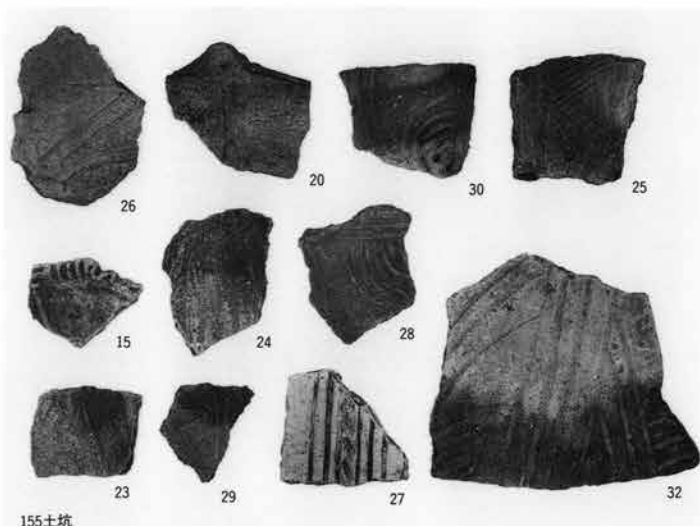
155土坑



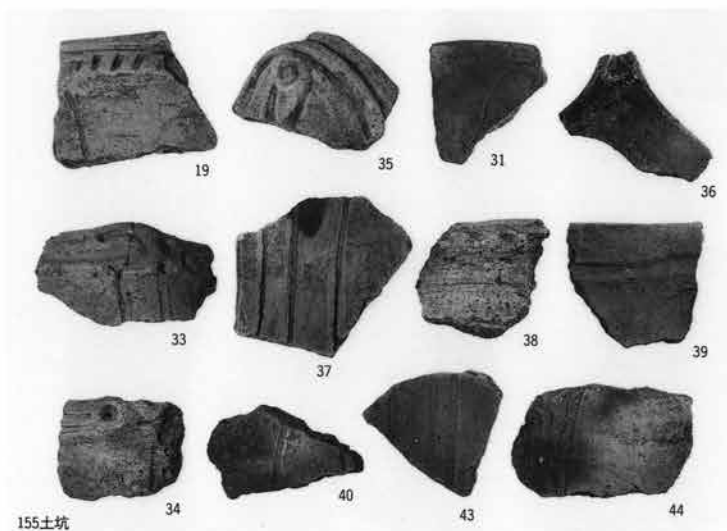
155土坑-22



155土坑



155土坑



155土坑

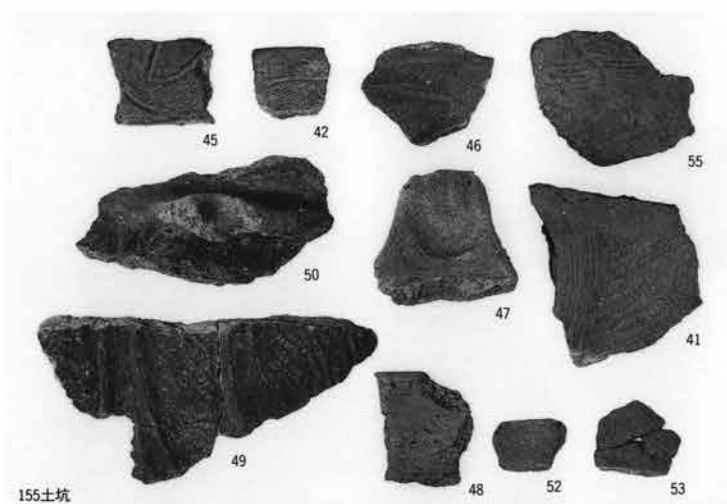


155土坑-8

155土坑-54



155土坑-1



155土坑



155土坑-56



228土坑-1上



196土坑-1



中世遺構外-34



228土坑-1右



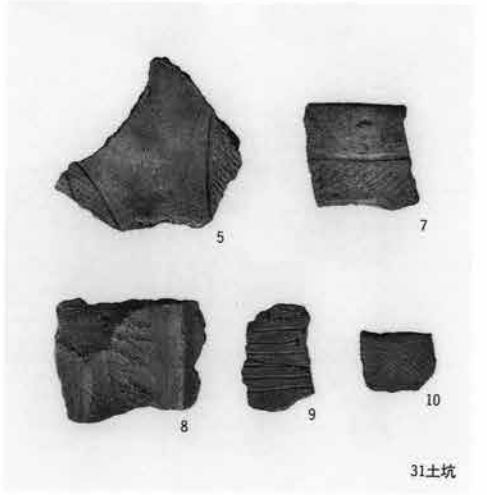
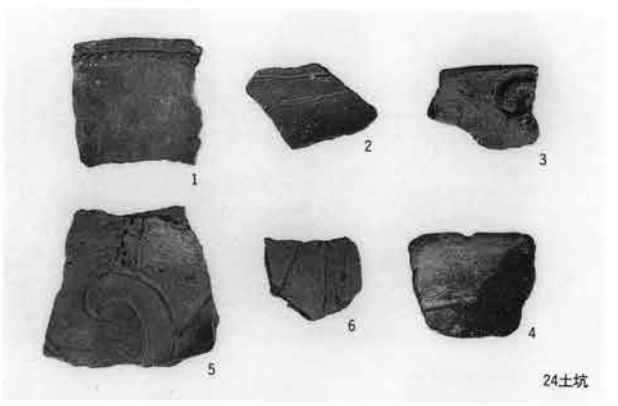
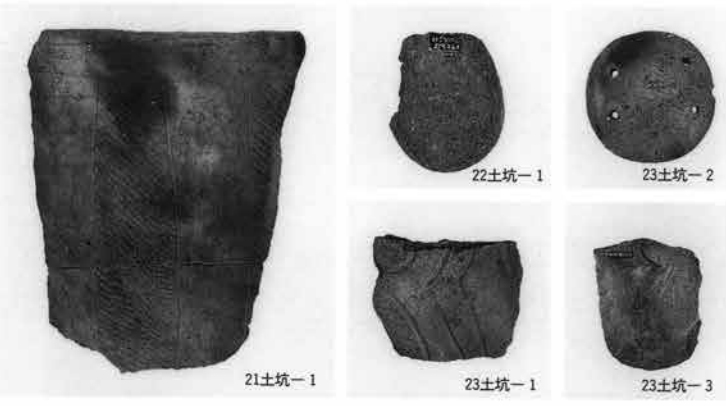
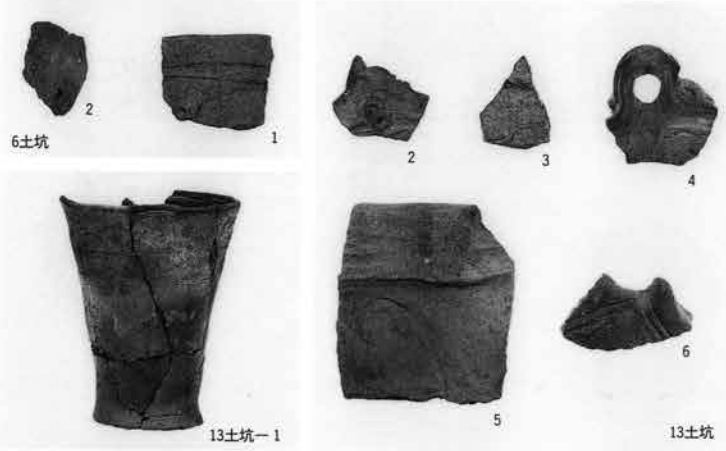
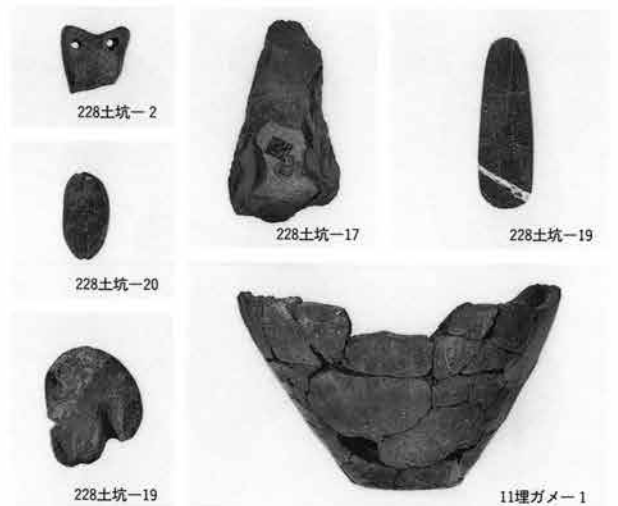
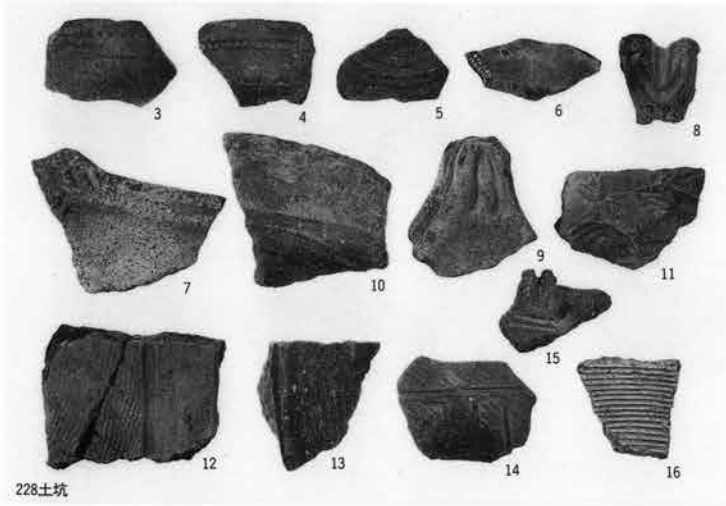
228土坑-1表

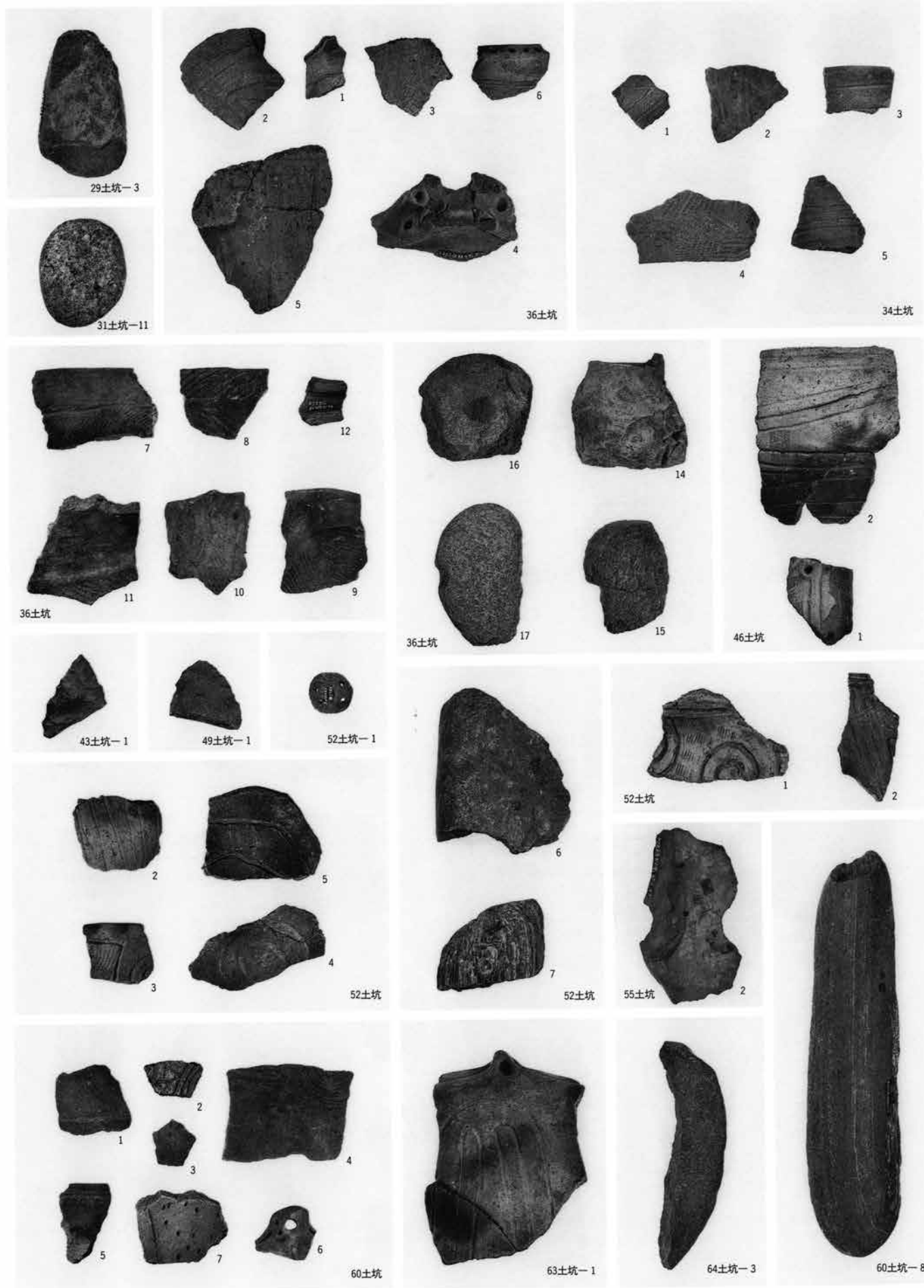


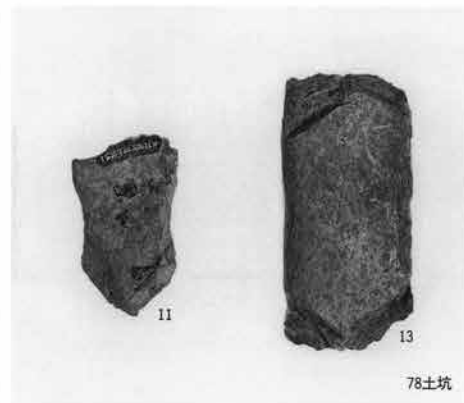
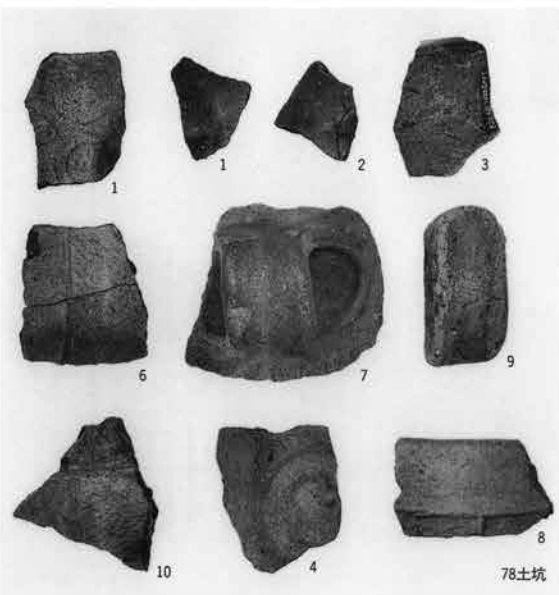
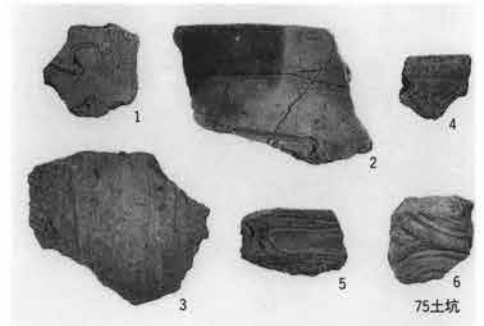
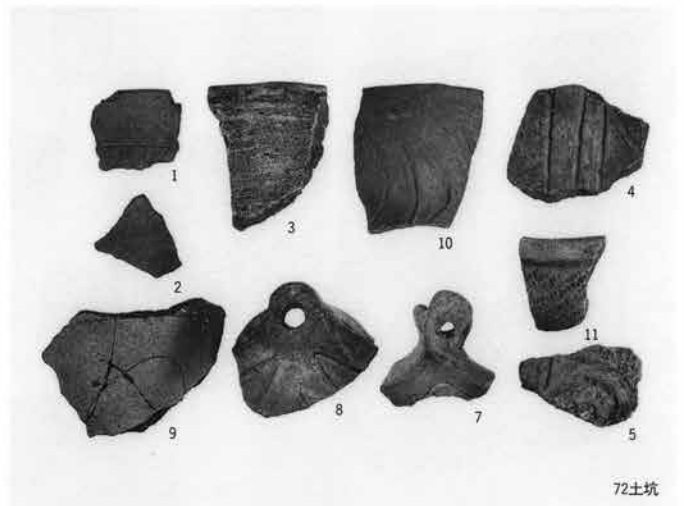
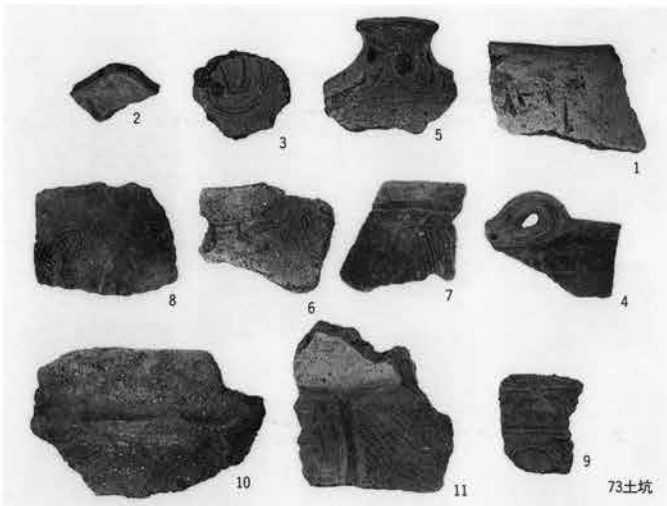
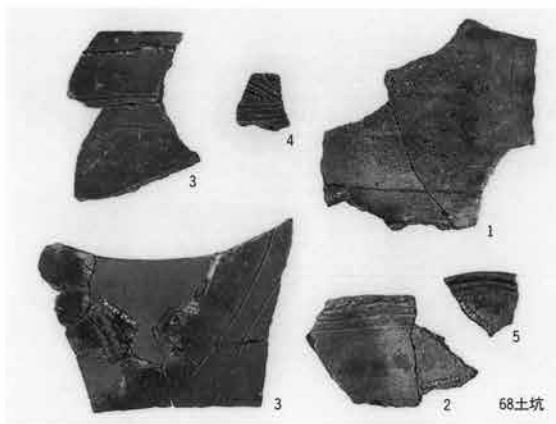
228土坑-1左



228土坑-1裏









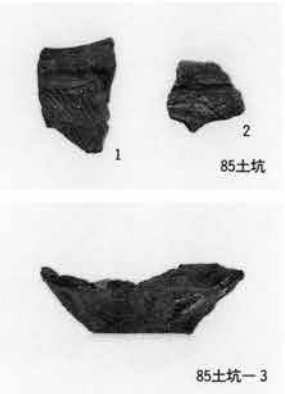
79土坑-1



79土坑



79土坑-7



85土坑-3



79土坑-8



79土坑-6



82土坑

83土坑



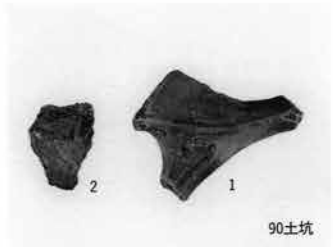
86土坑



87土坑



91土坑



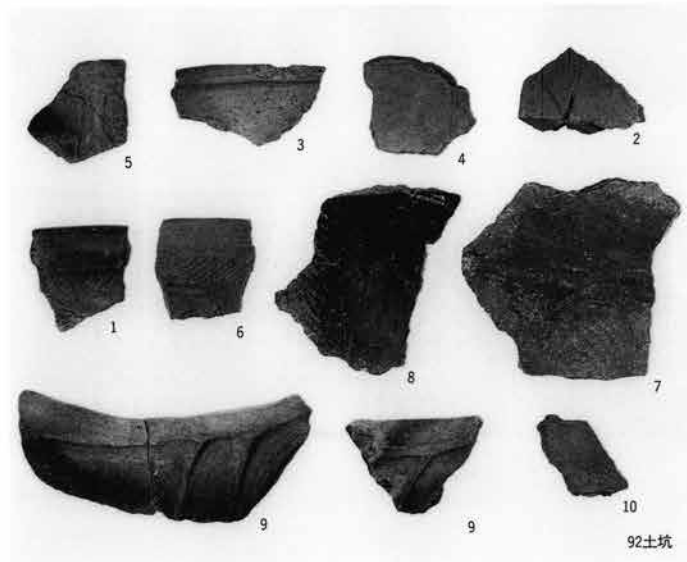
90土坑



91土坑



93土坑-1



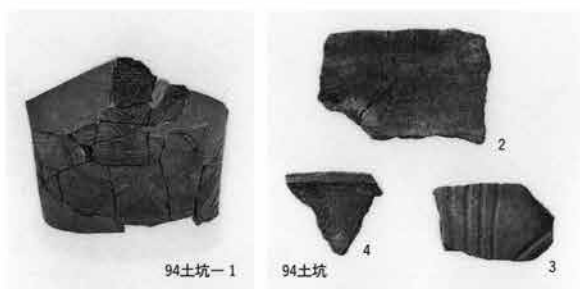
92土坑



92土坑

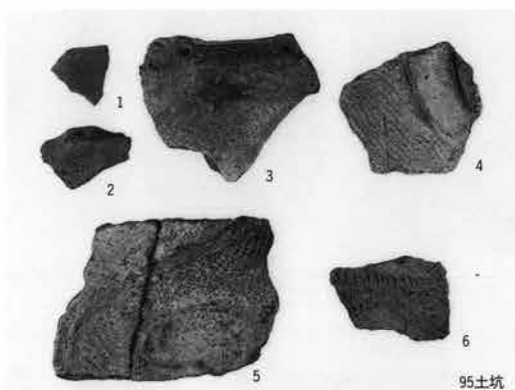


91土坑-9



94土坑-1

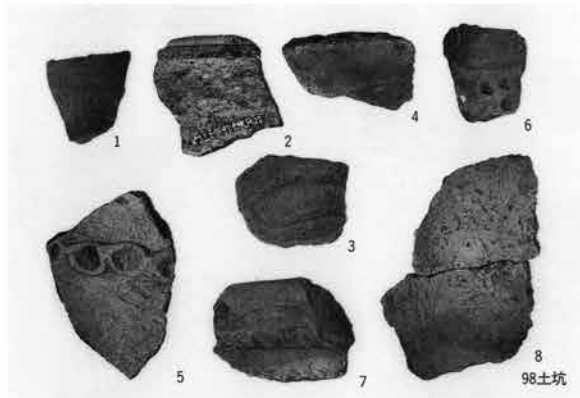
94土坑



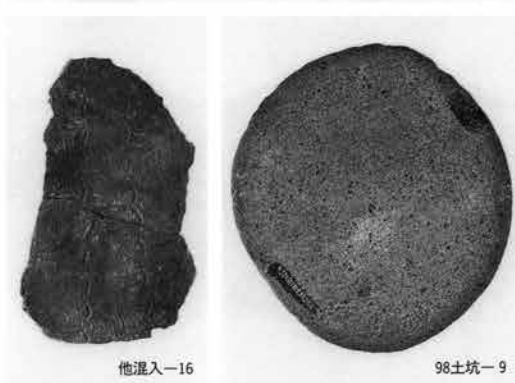
95土坑



95土坑-8



98土坑

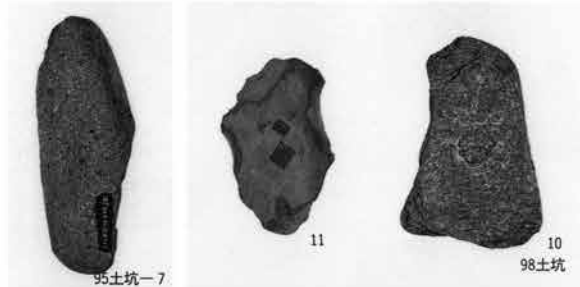


他混入-16

98土坑-9



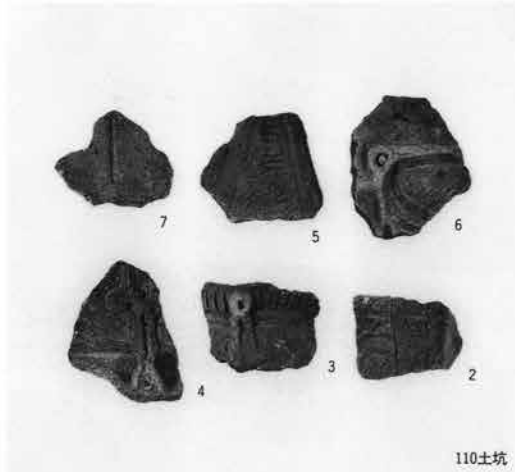
101土坑-1



95土坑-7

11

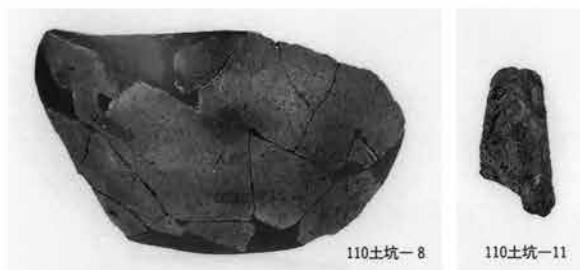
98土坑-10



110土坑

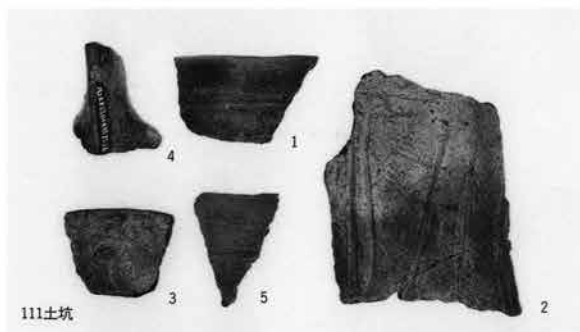


110土坑-10

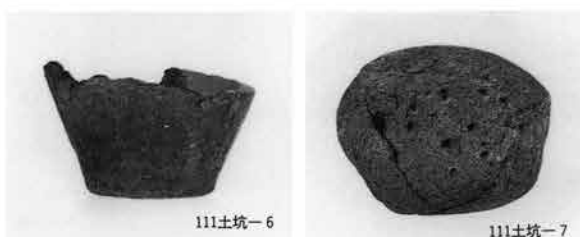


110土坑-8

110土坑-11



111土坑



111土坑-6

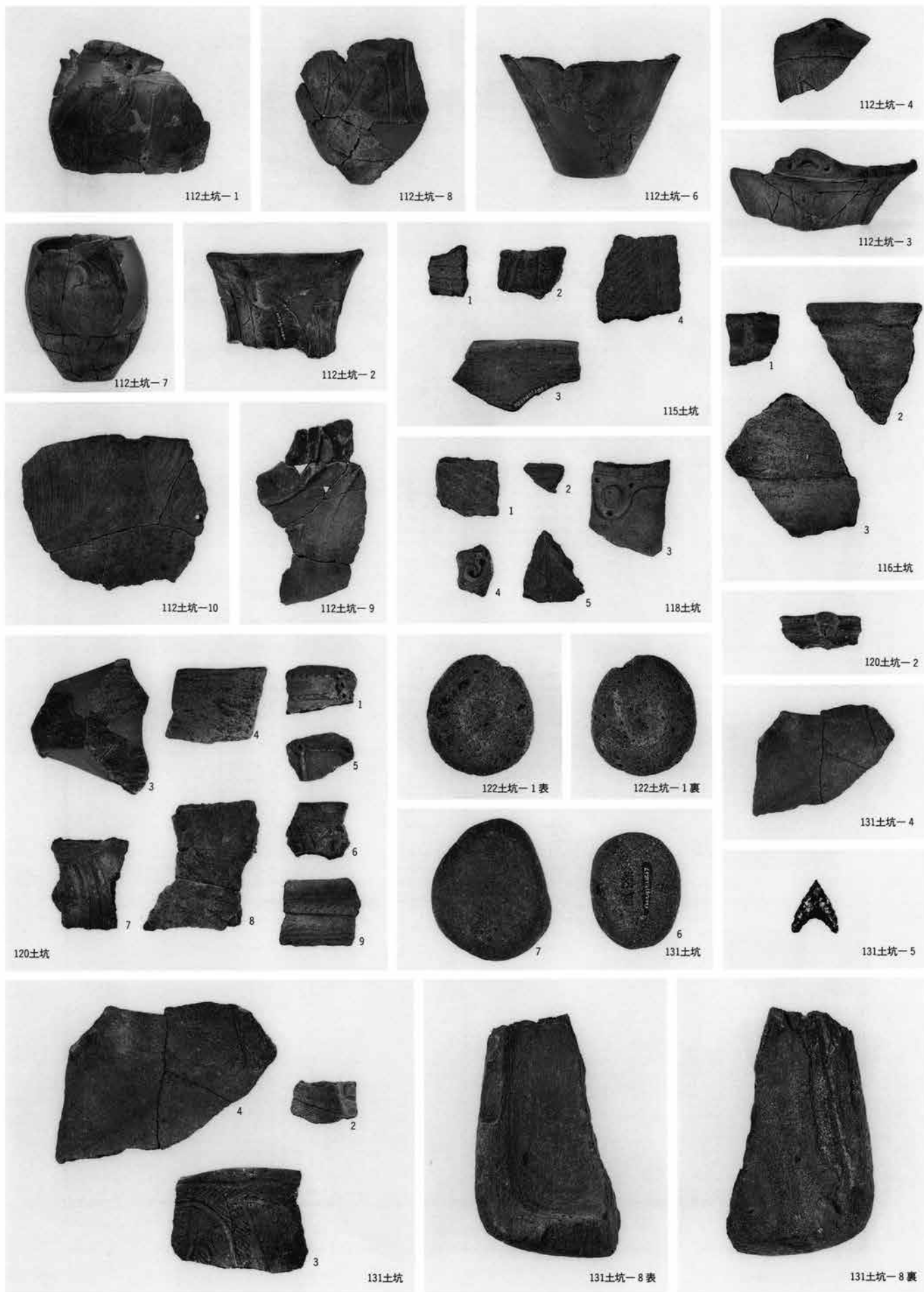
111土坑-7



110土坑-9



112土坑-5

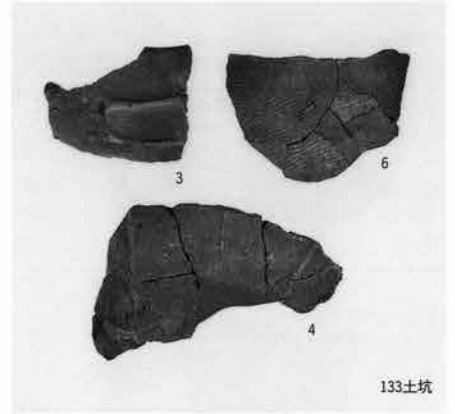




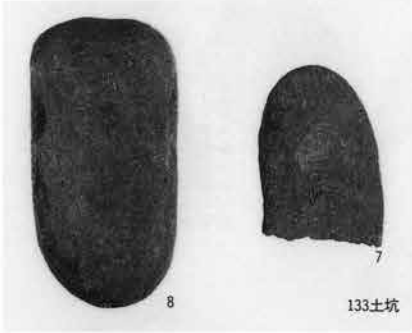
132土坑-1



133土坑-1



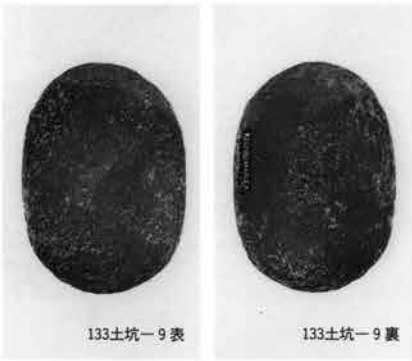
133土坑



133土坑

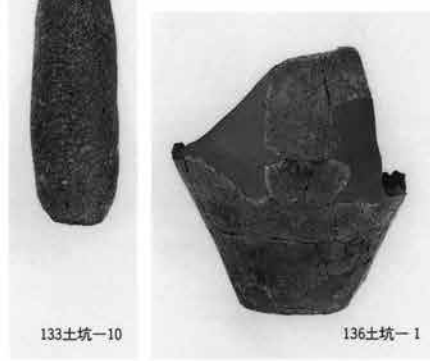


133土坑



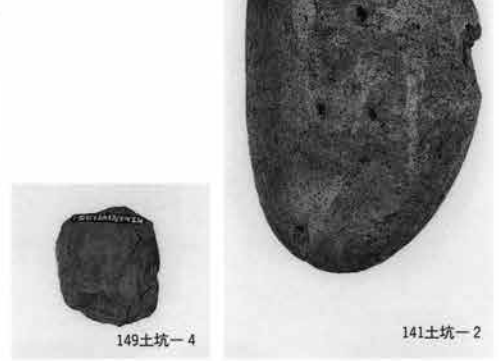
133土坑-9表

133土坑-9裏



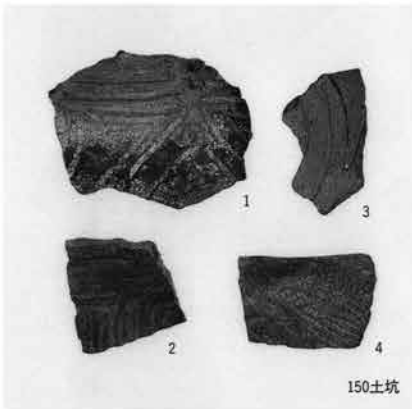
133土坑-10

136土坑-1



149土坑-4

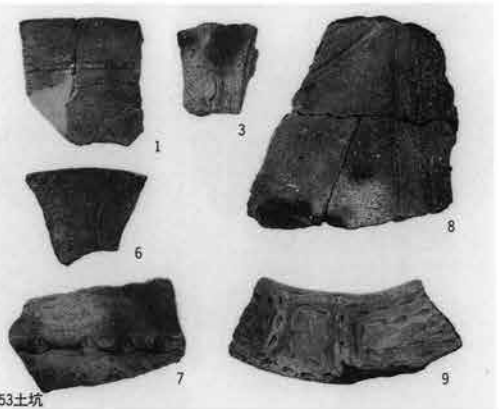
141土坑-2



150土坑



153土坑-1



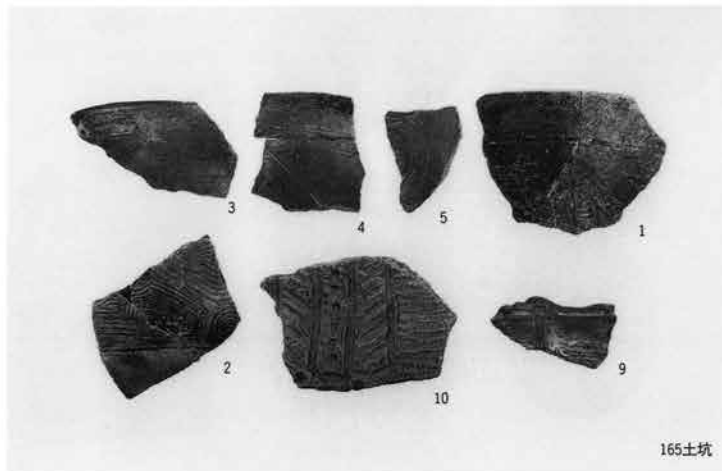
153土坑



153土坑-10



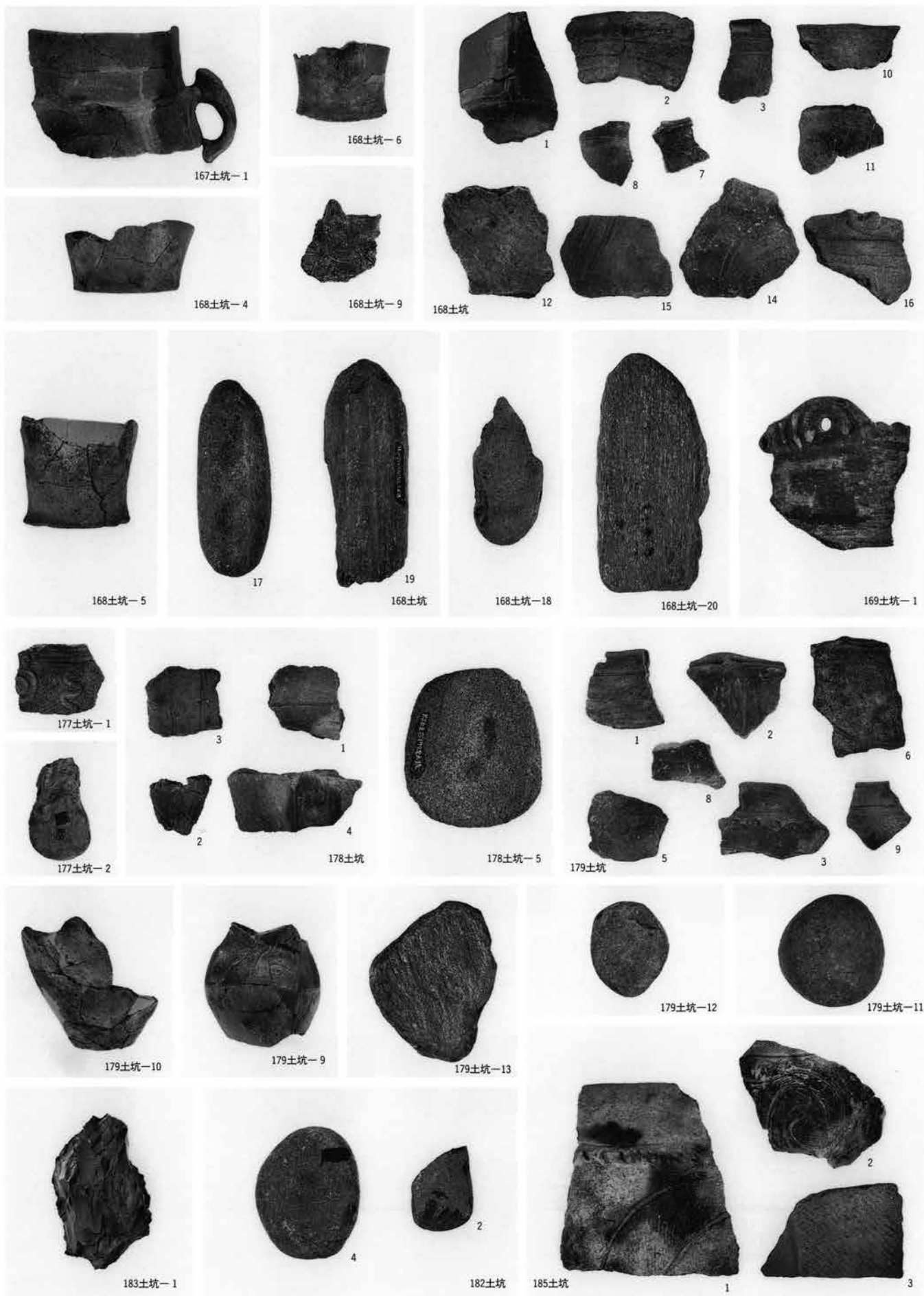
165土坑-6

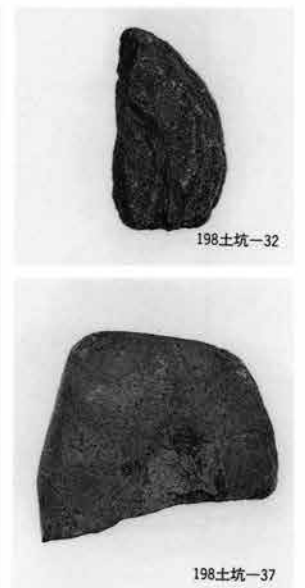
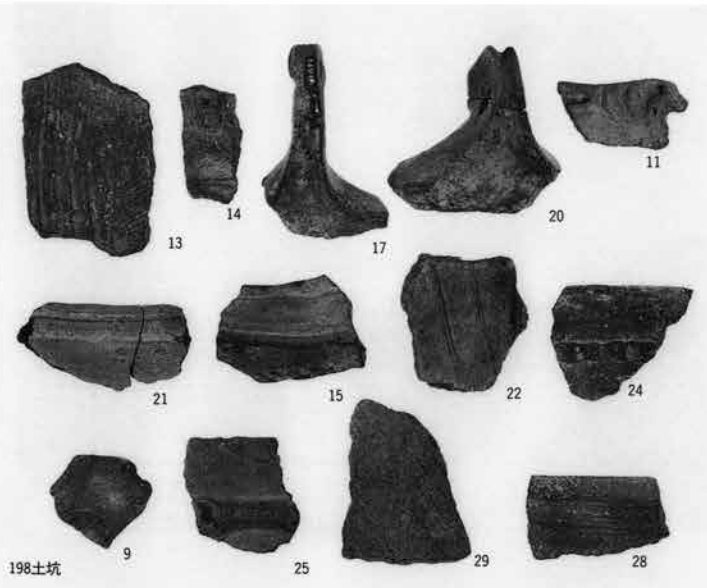
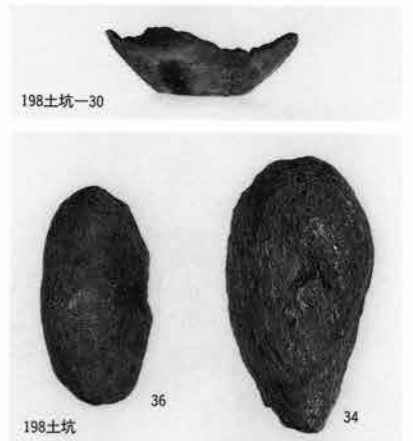
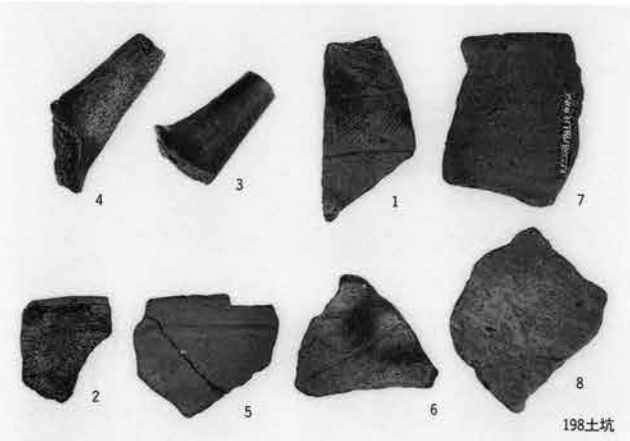
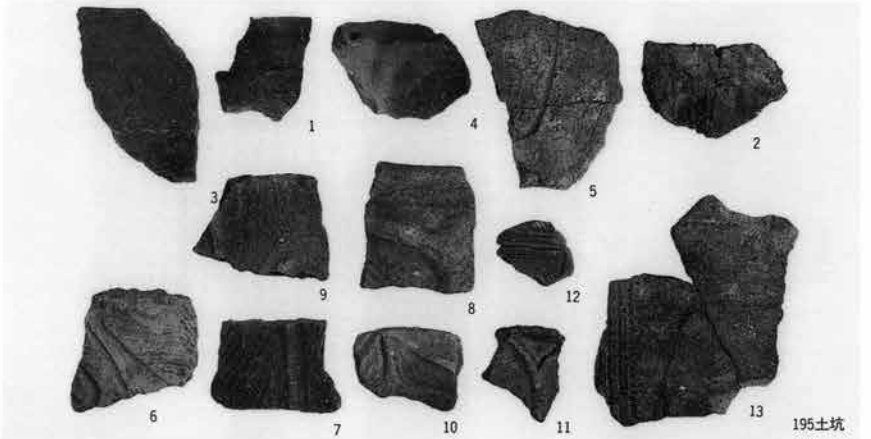
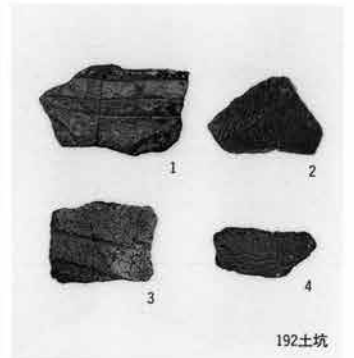
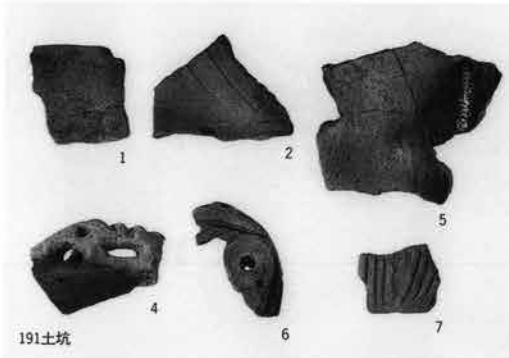
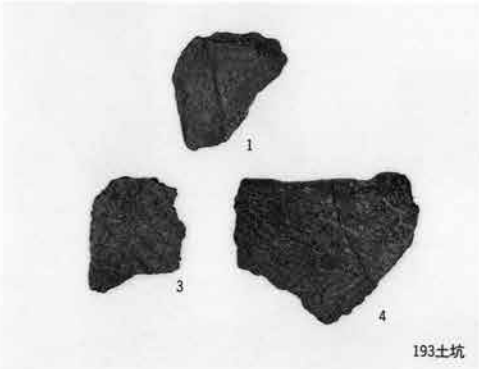
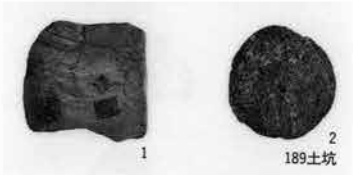
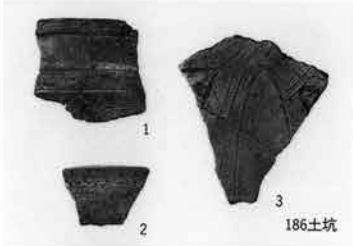


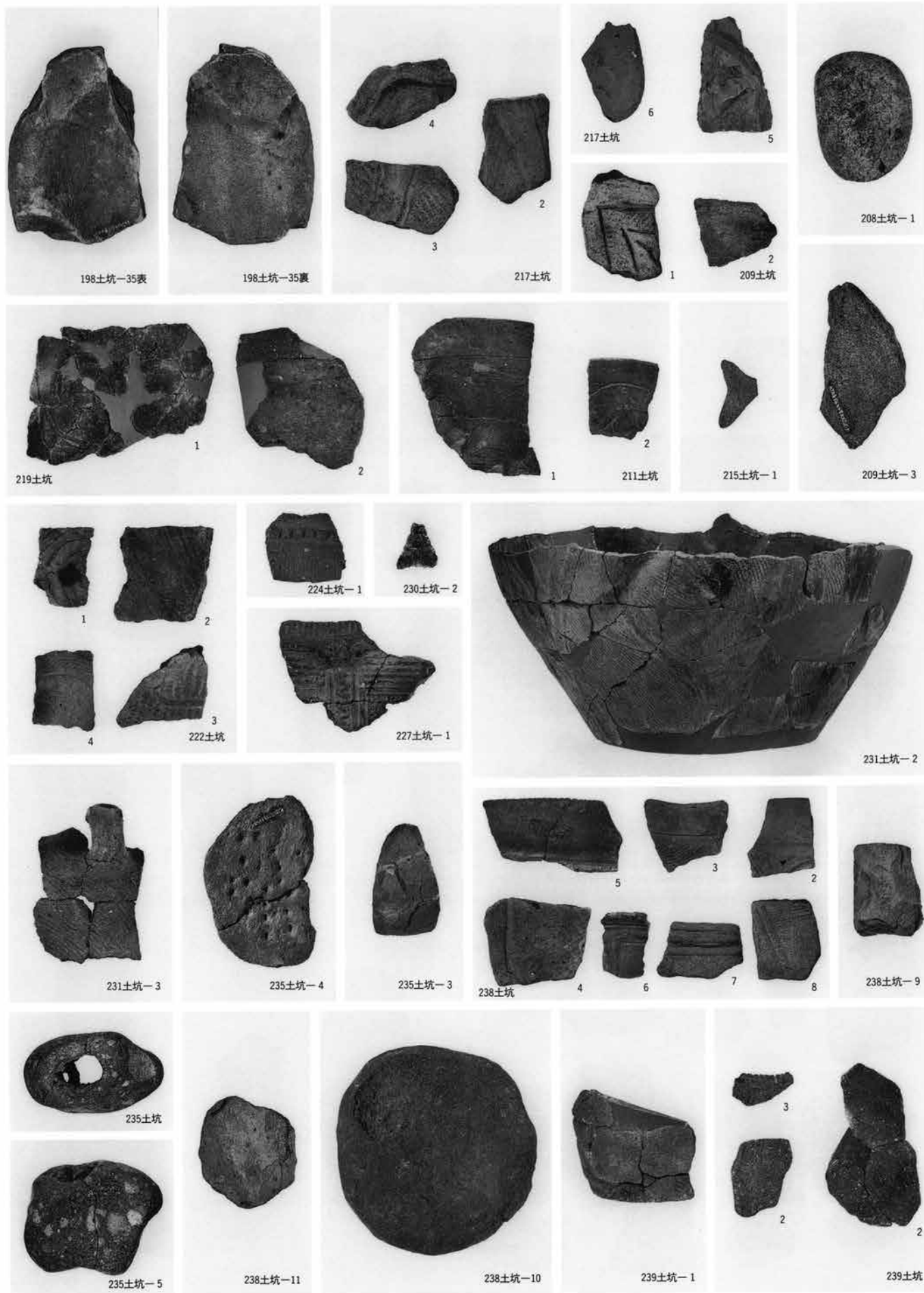
165土坑



165土坑-12









240土坑-2



240土坑-1



240土坑-8

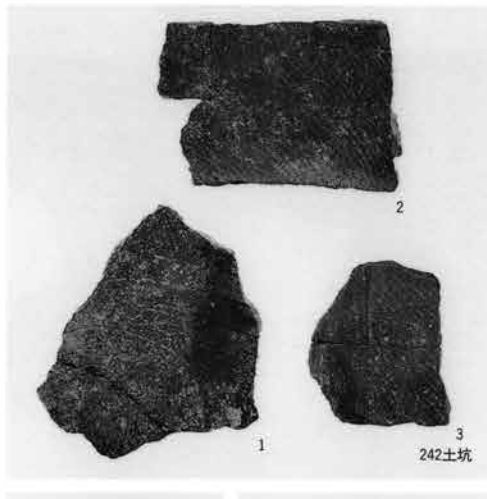


3



5

240土坑



2

1

242土坑



242土坑-5



242土坑-4



244土坑-2



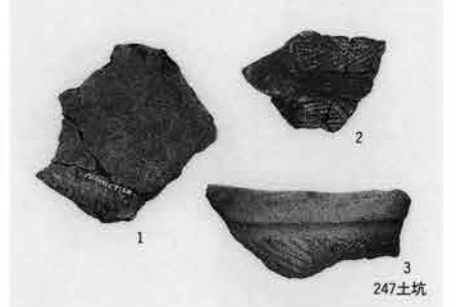
245土坑-1



245土坑-2



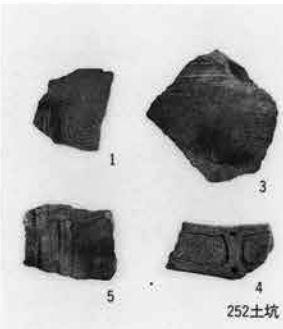
245土坑-3



1

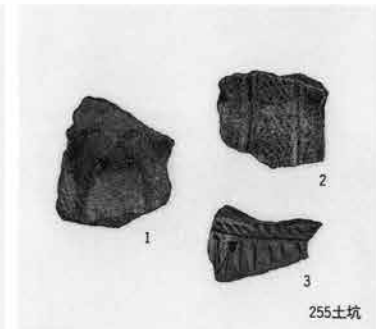
2

247土坑



1

252土坑



1

255土坑



254土坑-1



256土坑-3



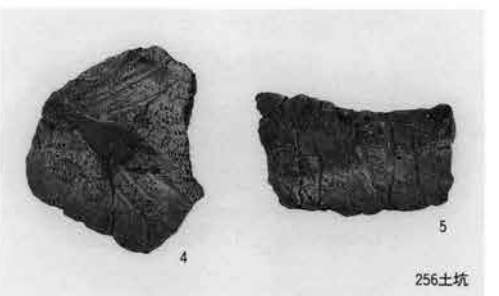
256土坑-1左



256土坑-1正面



256土坑-2



4

256土坑



1埋ガメ-1



3埋ガメ-1



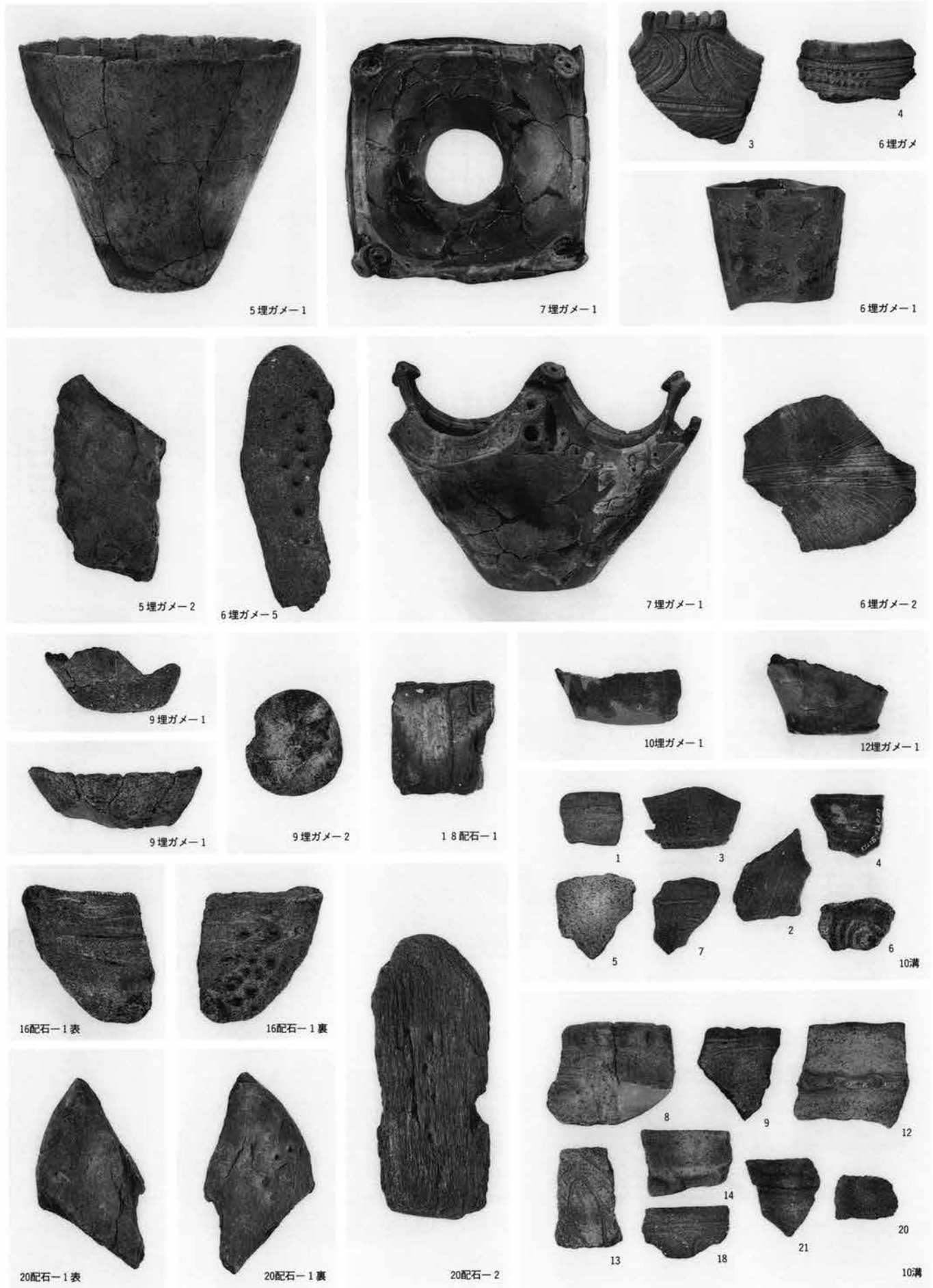
4埋ガメ-1



2埋ガメ-1



4埋ガメ-2





10溝-22



24

23

10溝



11溝-7



縄文深鉢-2



11溝-3上



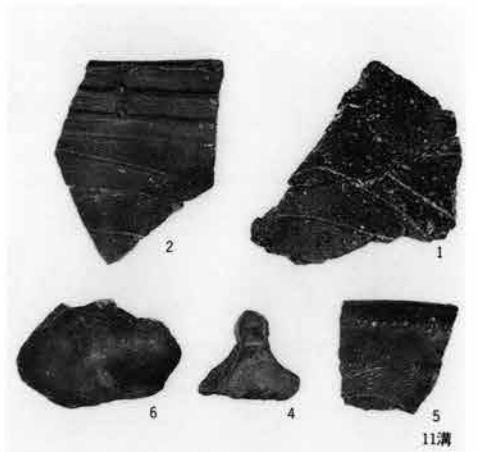
18ピット-1



11溝-3横



11溝-3前



2

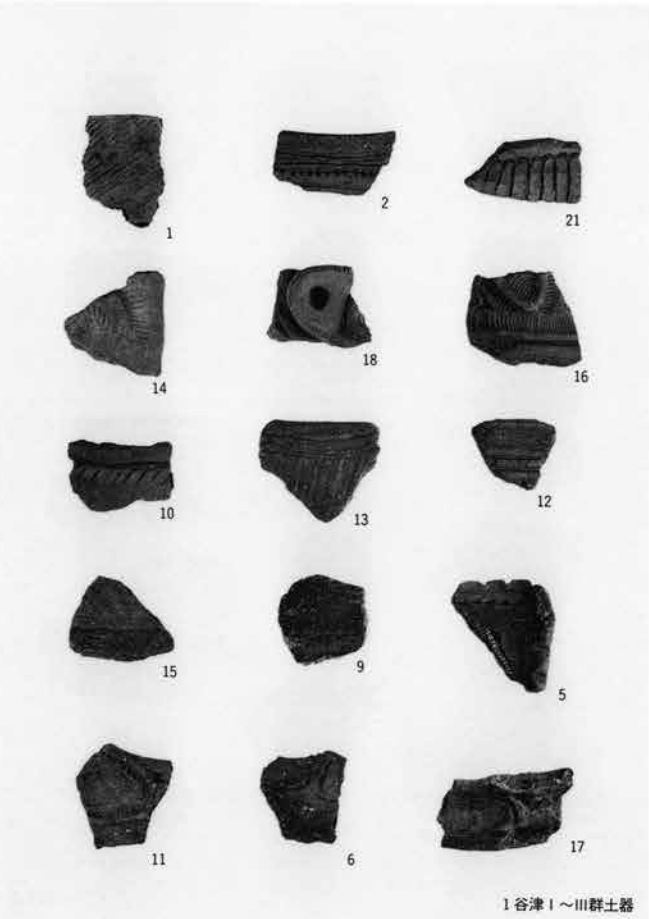
1

6

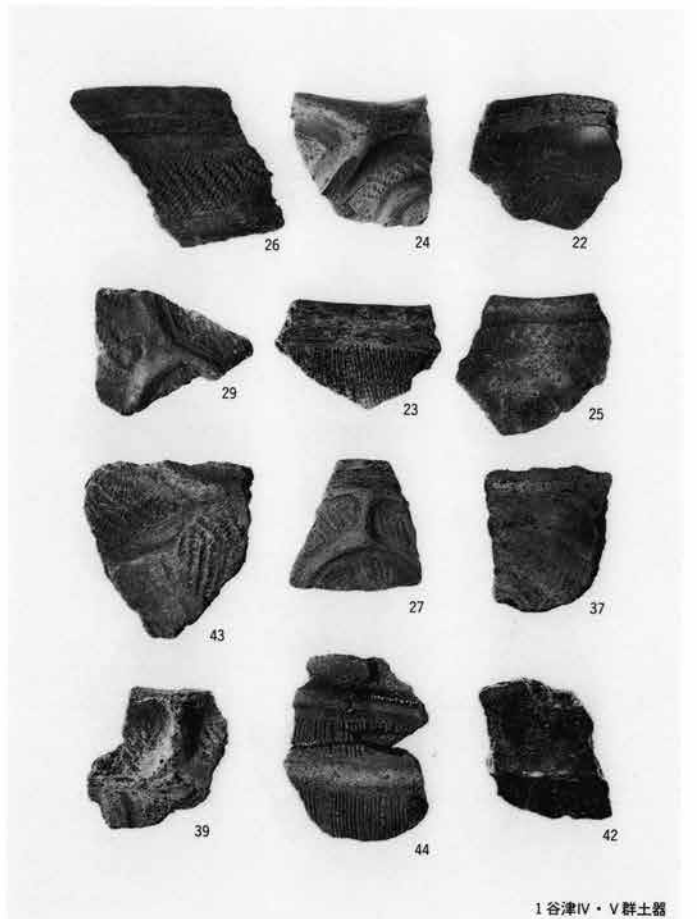
4

5

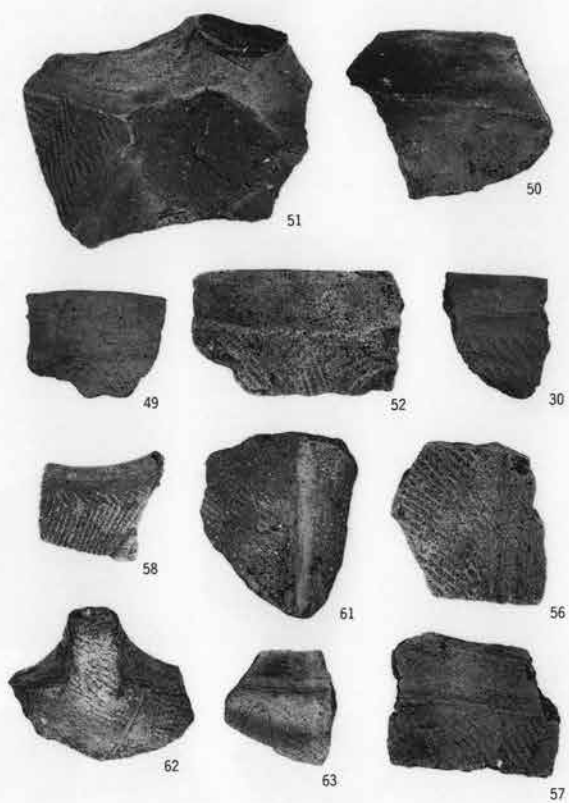
11溝



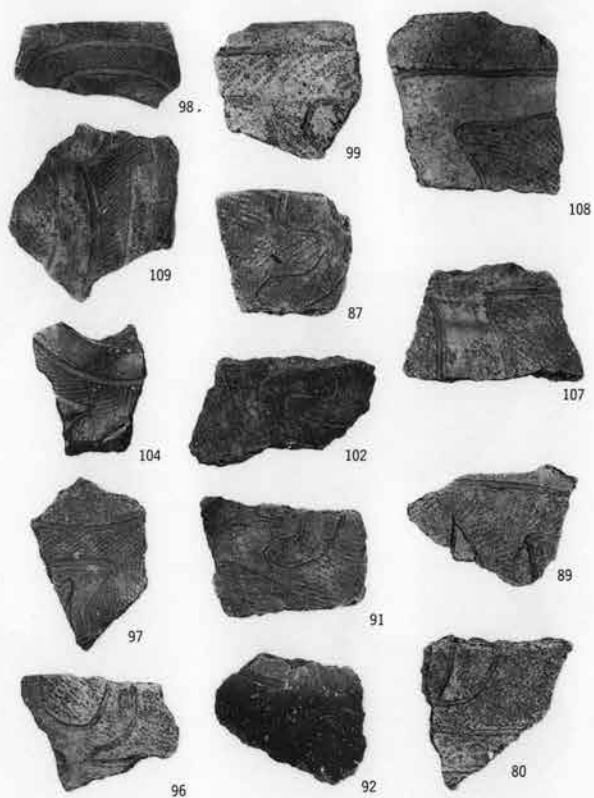
1 谷津 I ~ III 群土器



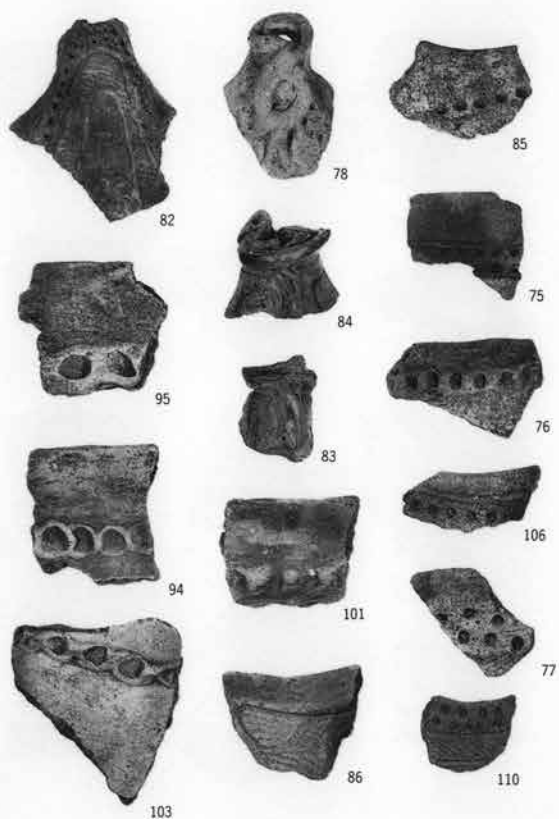
1 谷津 IV・V 群土器



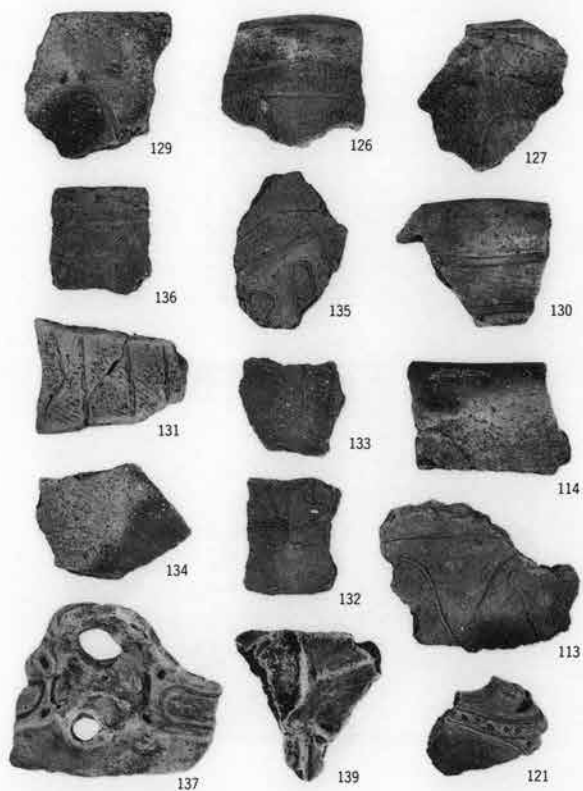
I 谷津IV・V群土器



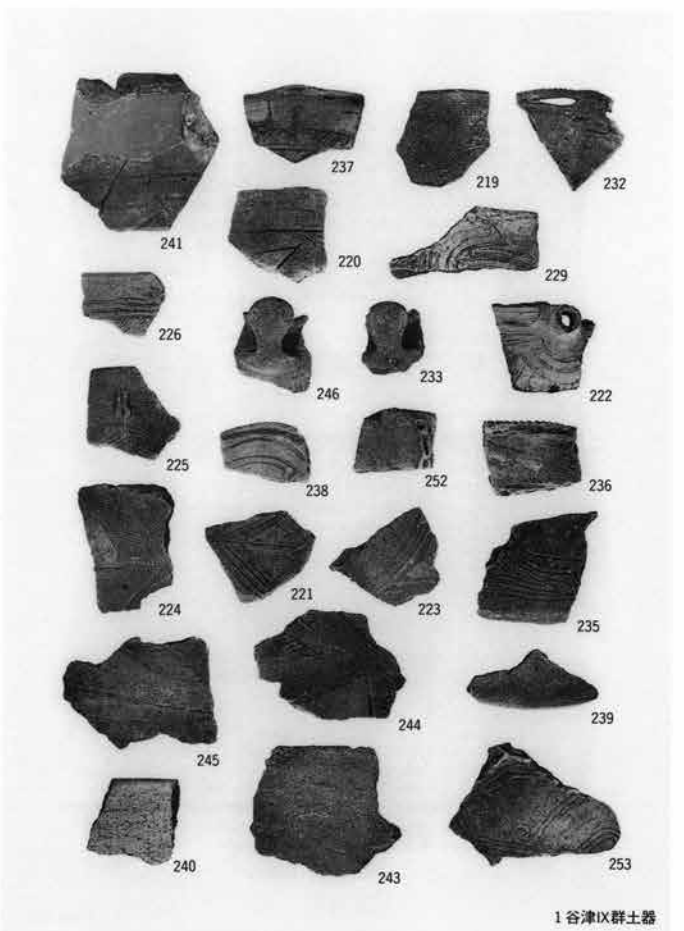
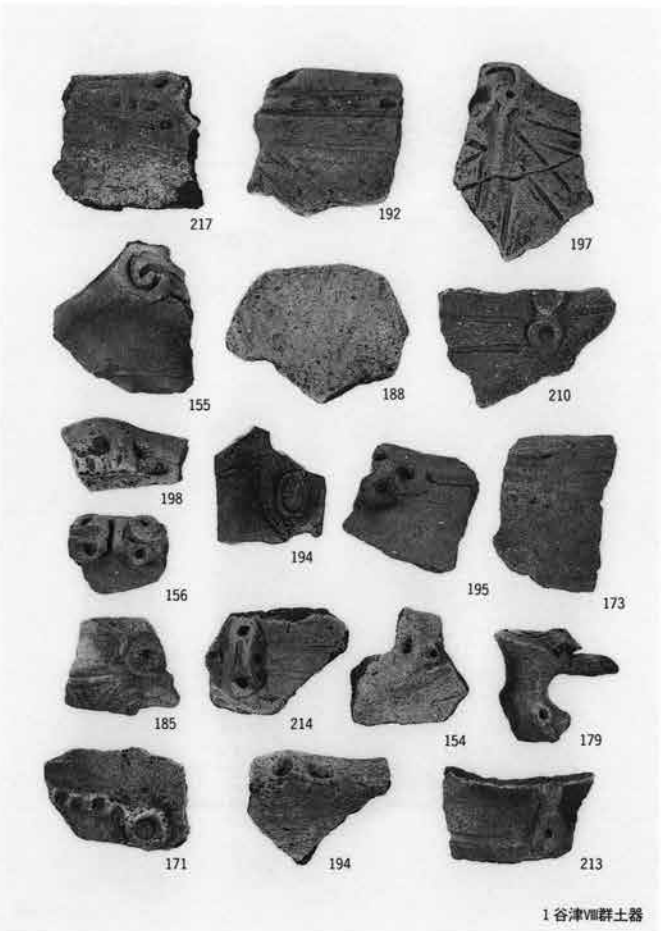
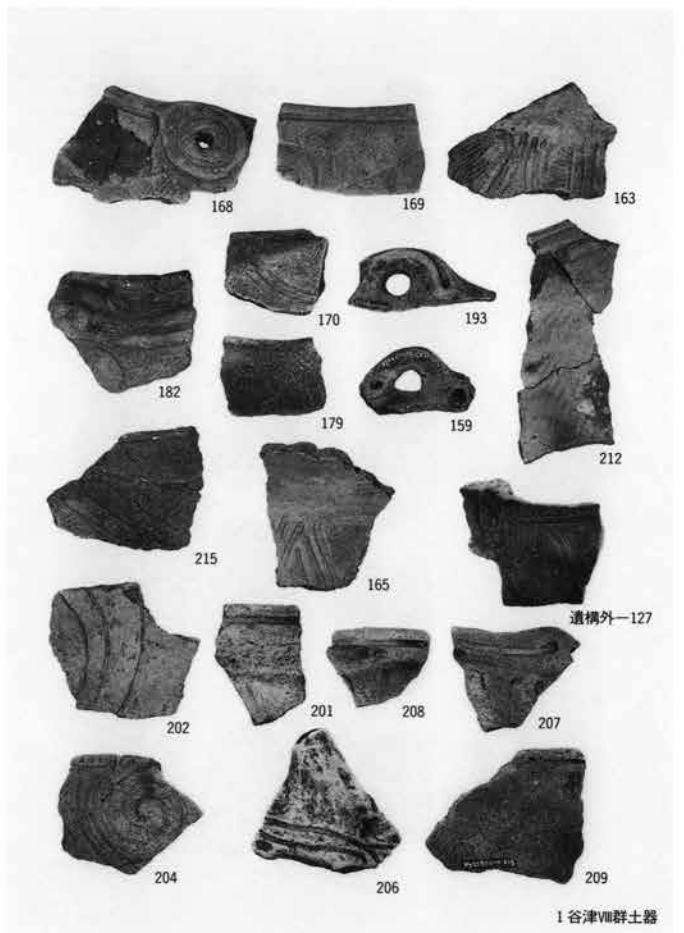
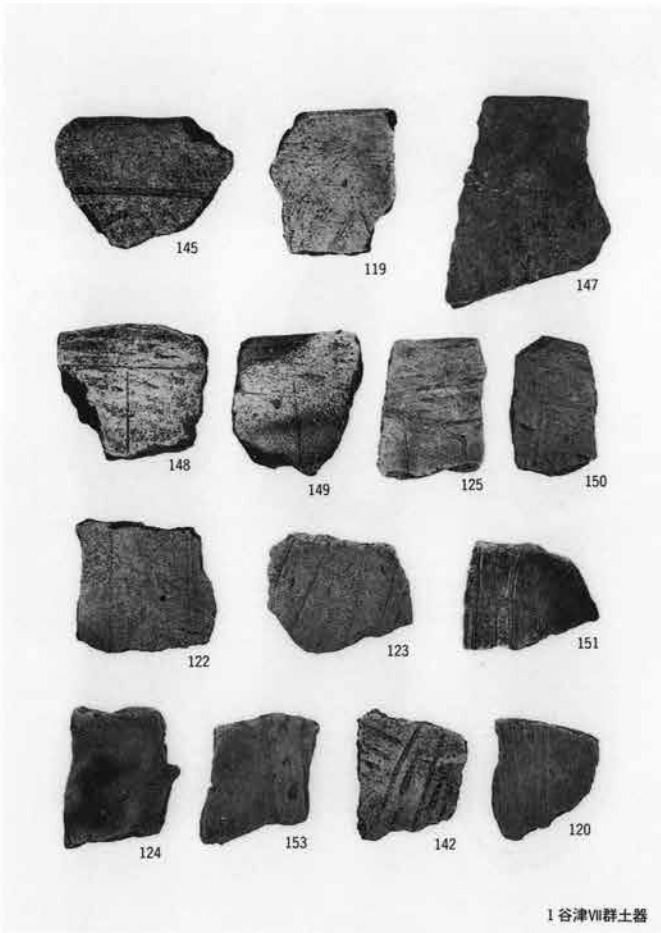
I 谷津VI群土器

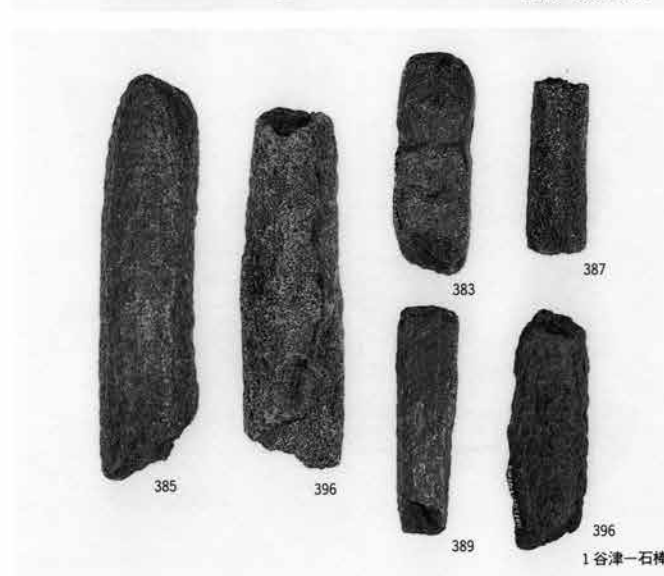
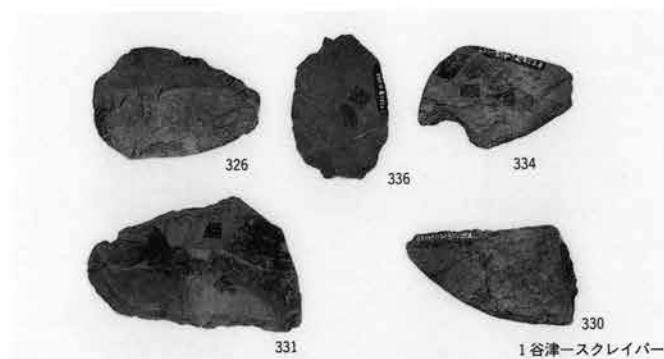
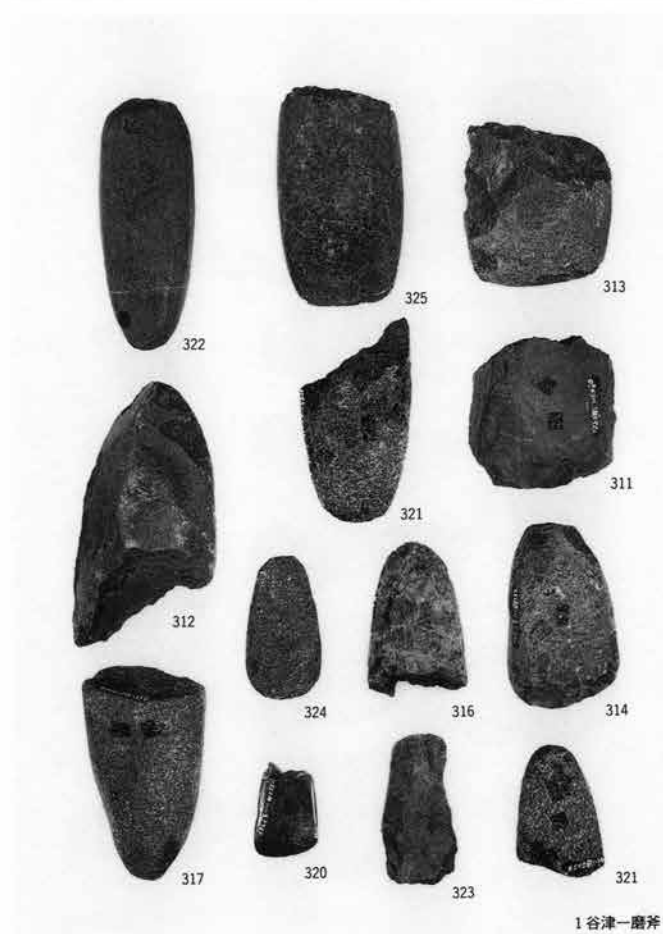
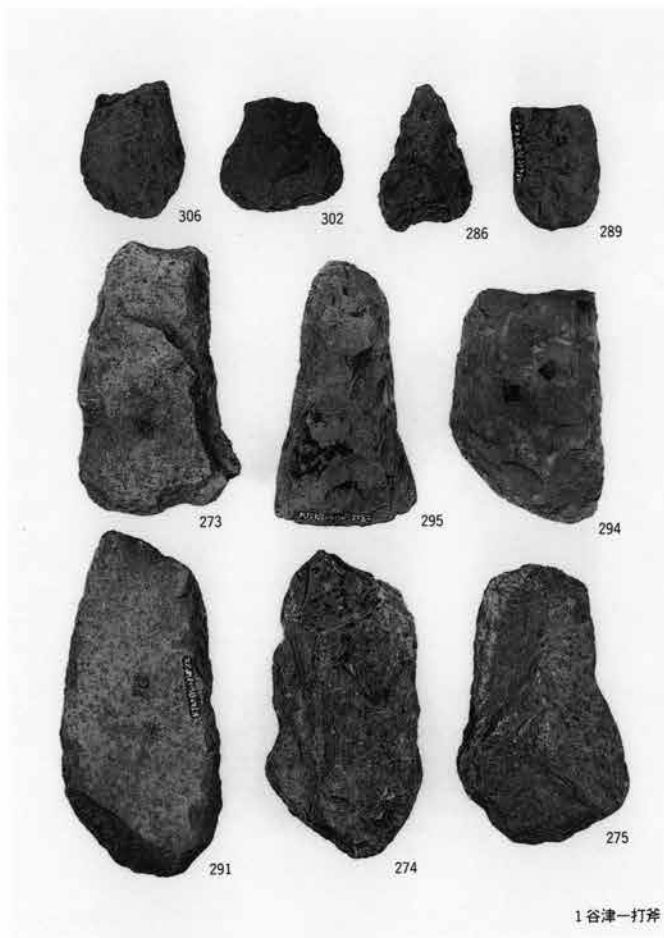
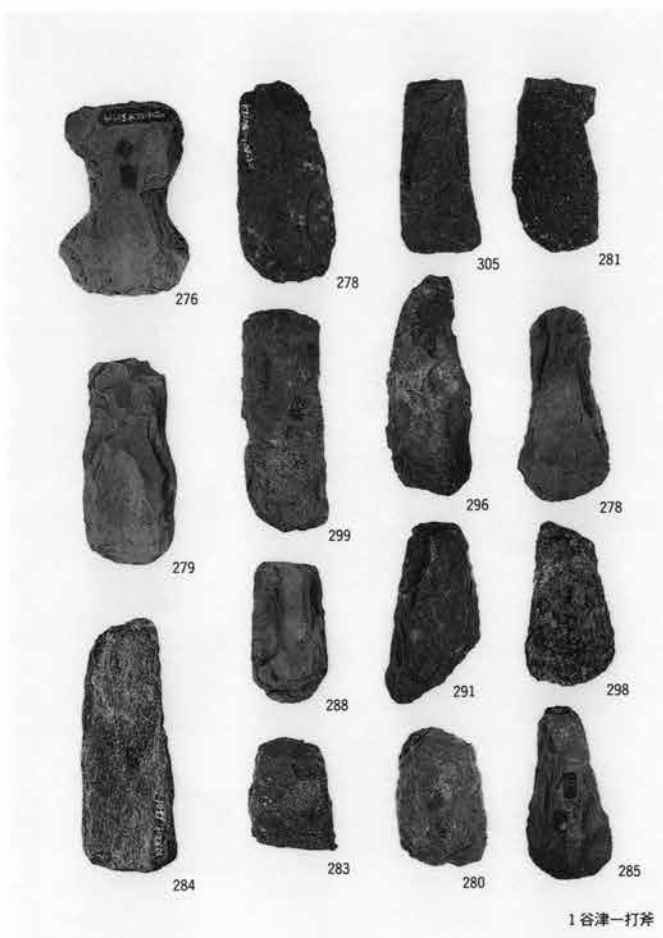


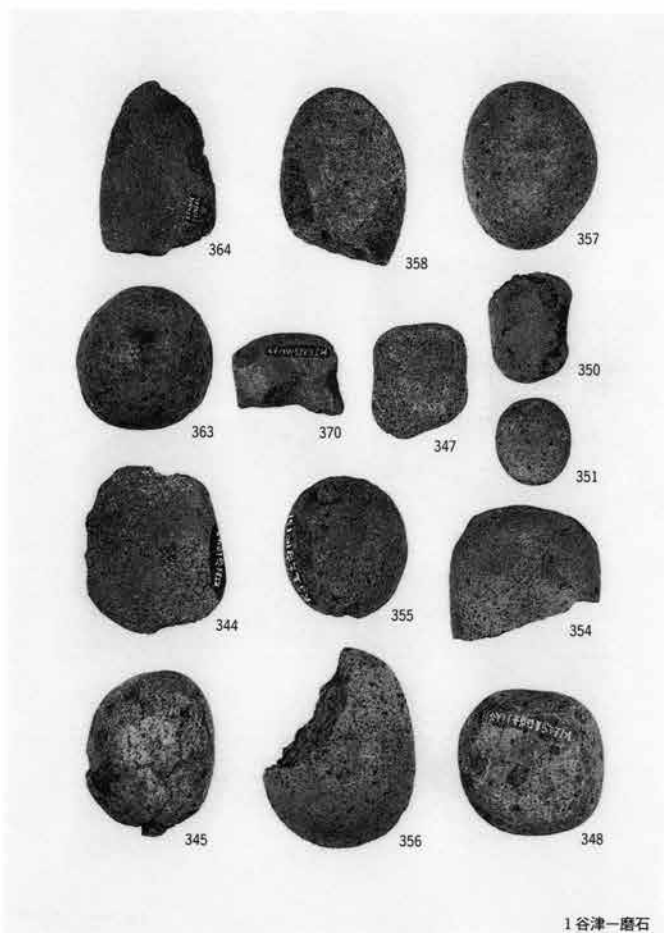
I 谷津VI群土器



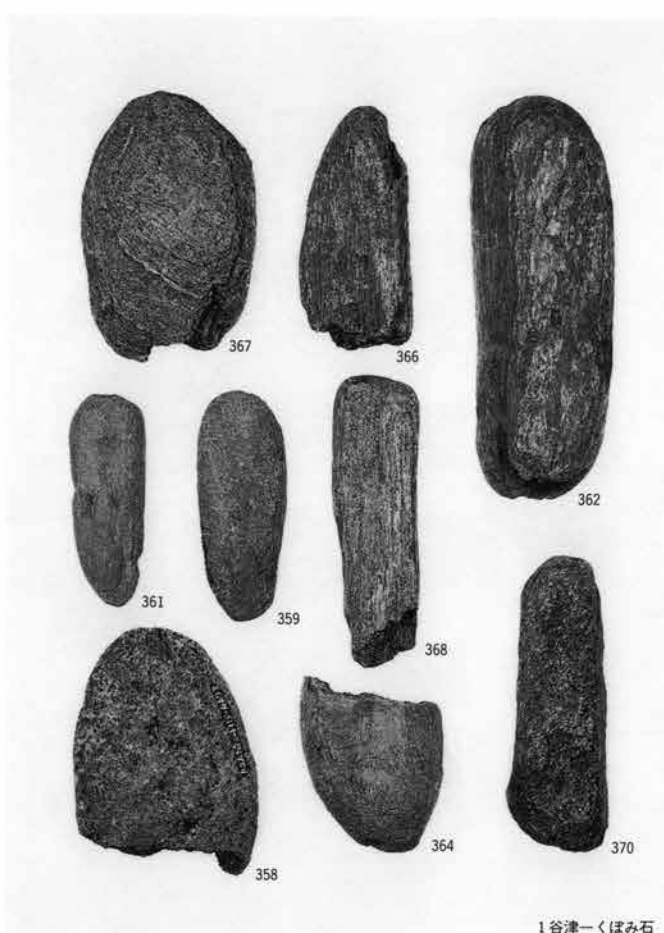
I 谷津VII群土器



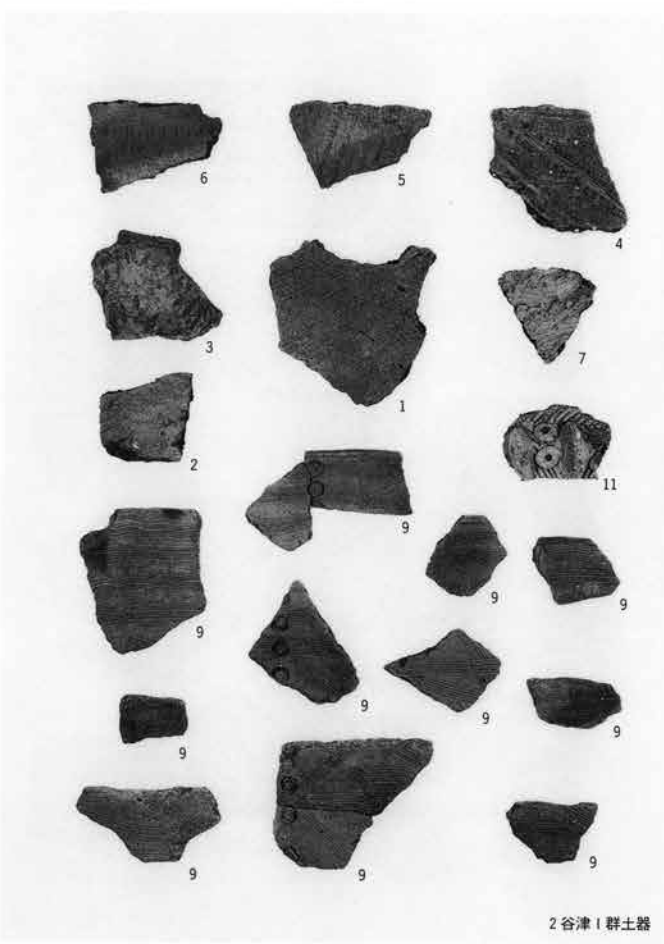
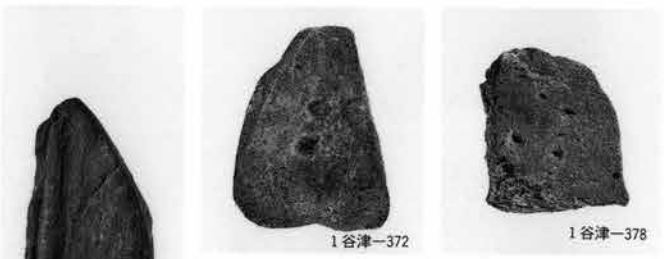
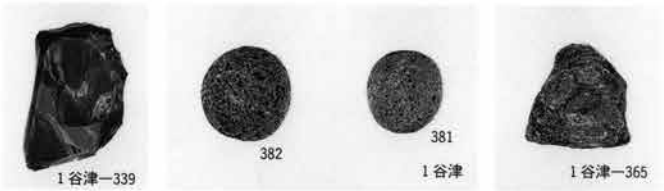




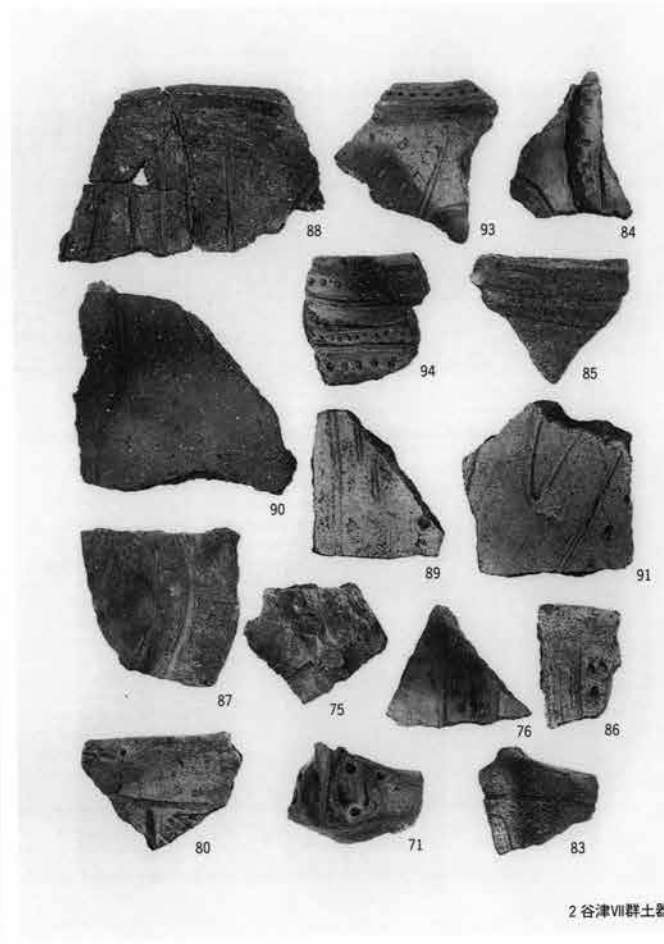
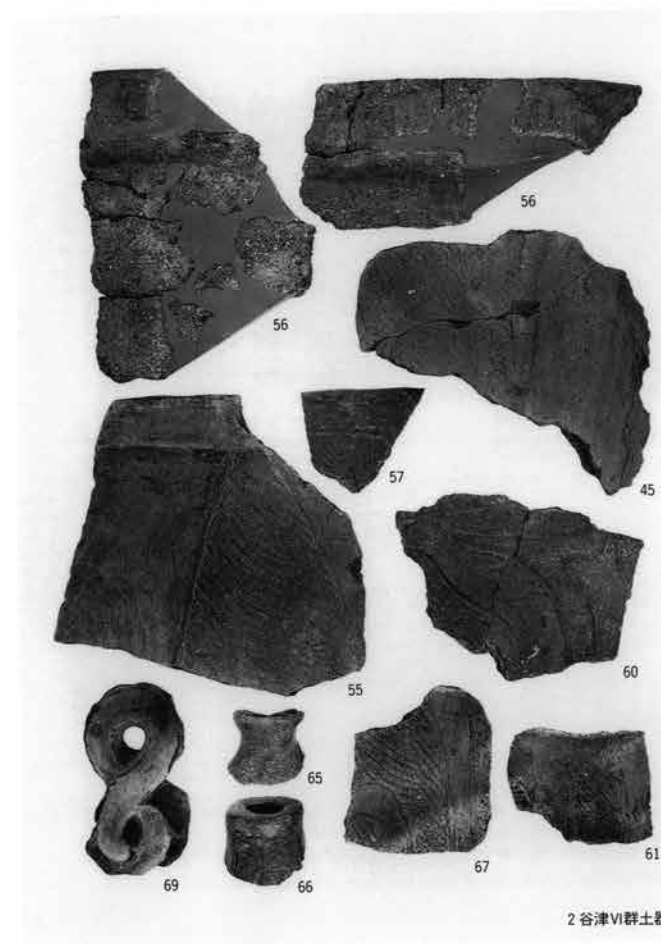
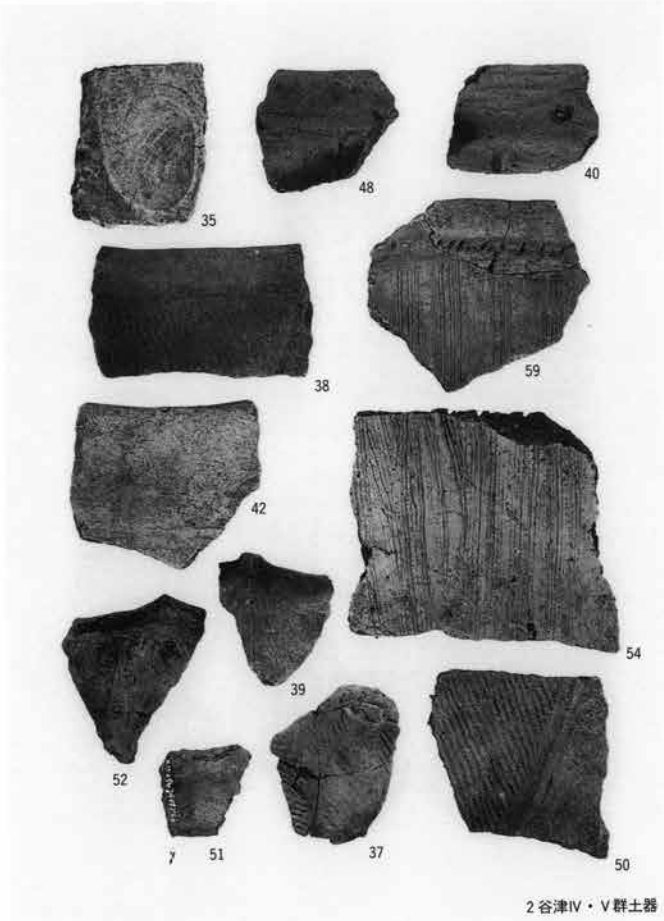
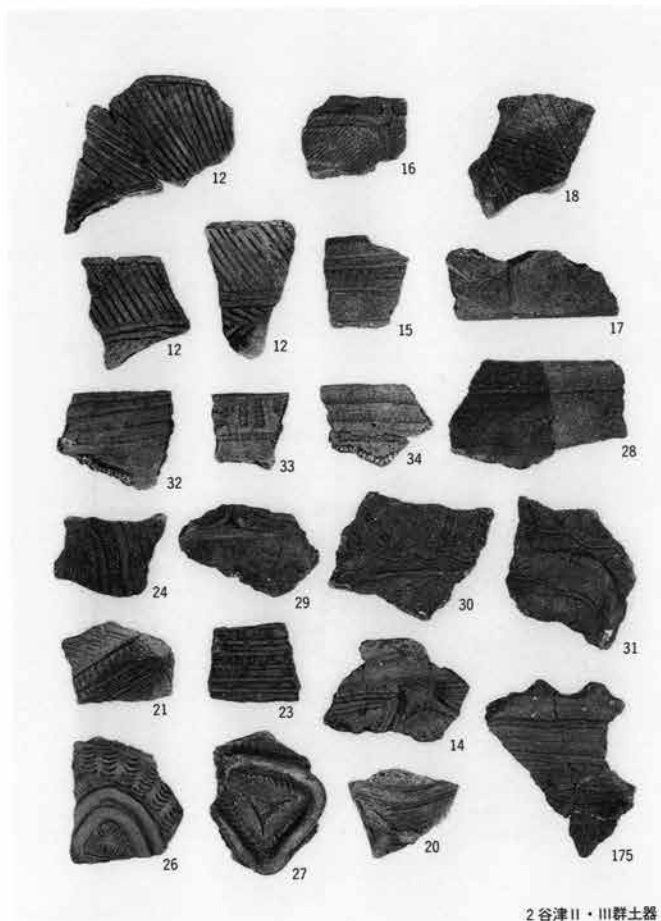
1 谷津一磨石

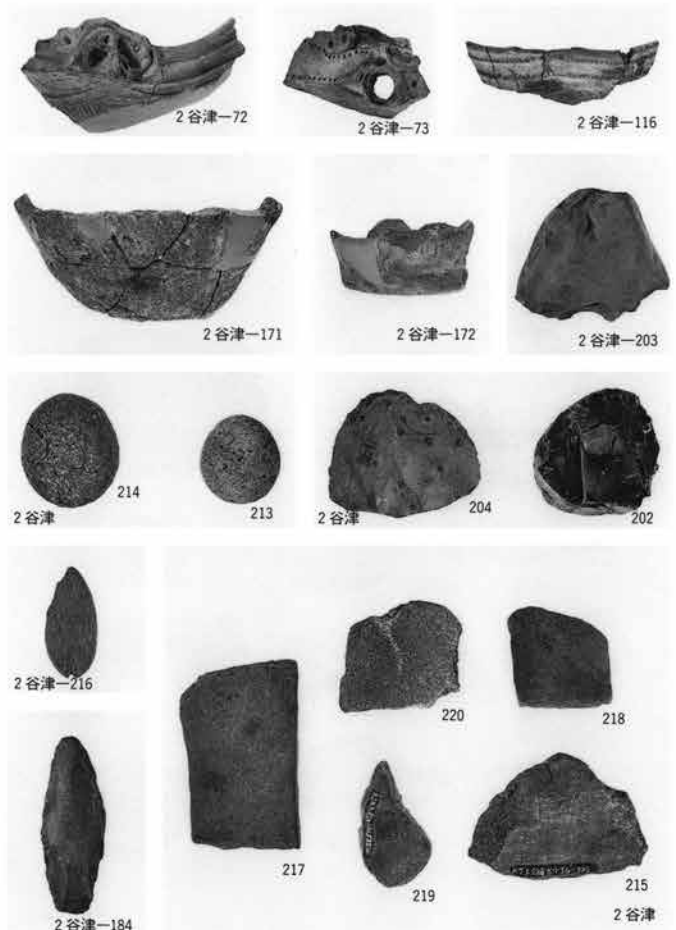
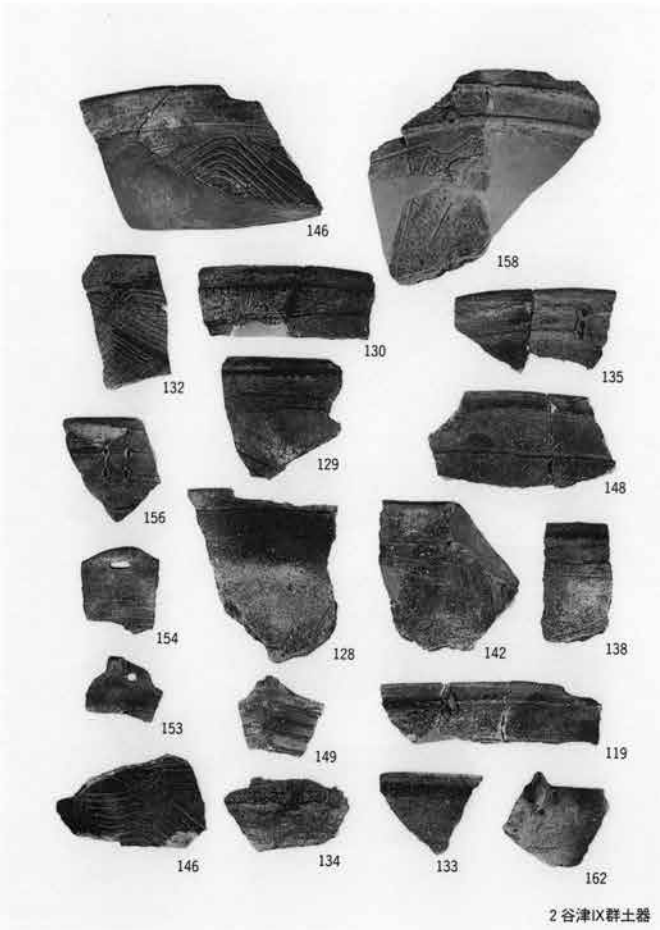
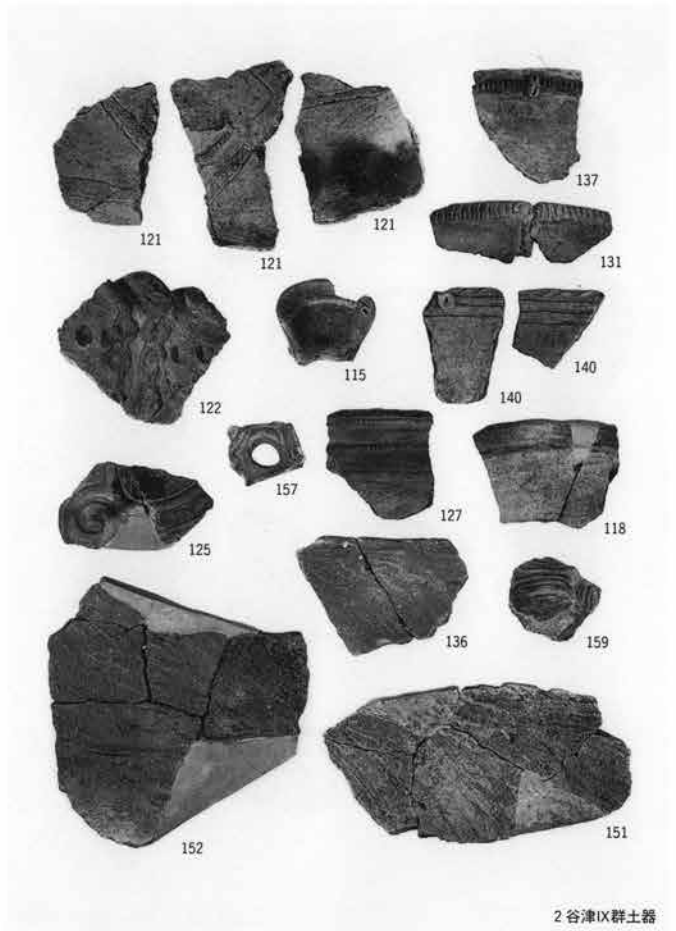
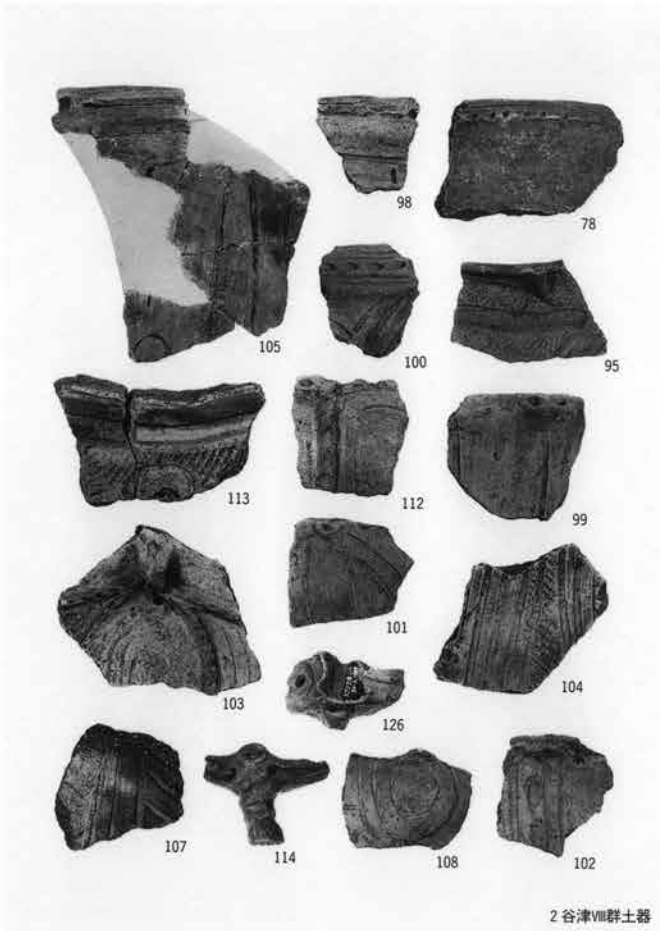


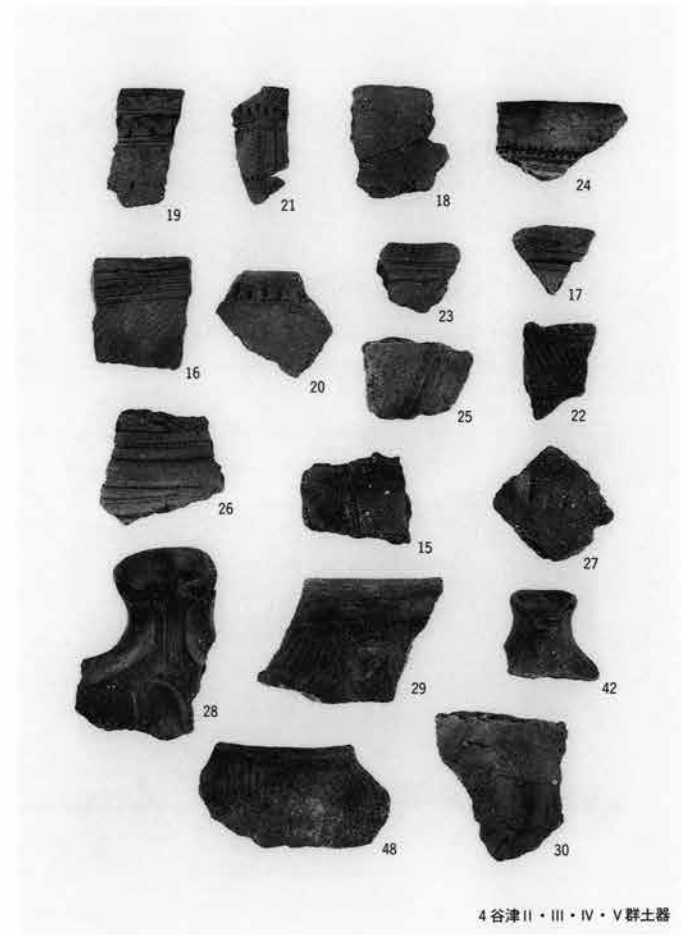
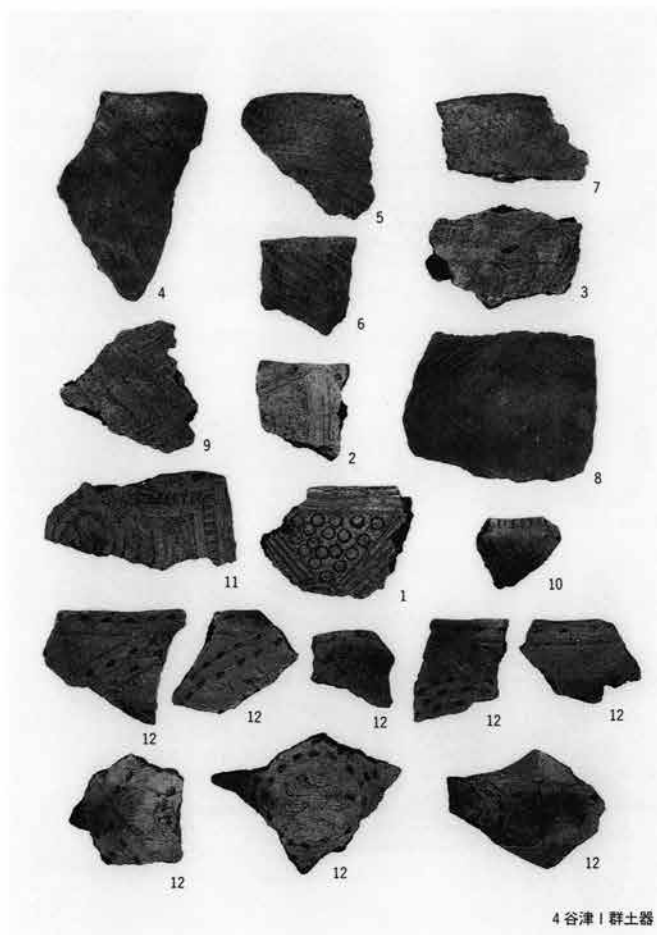
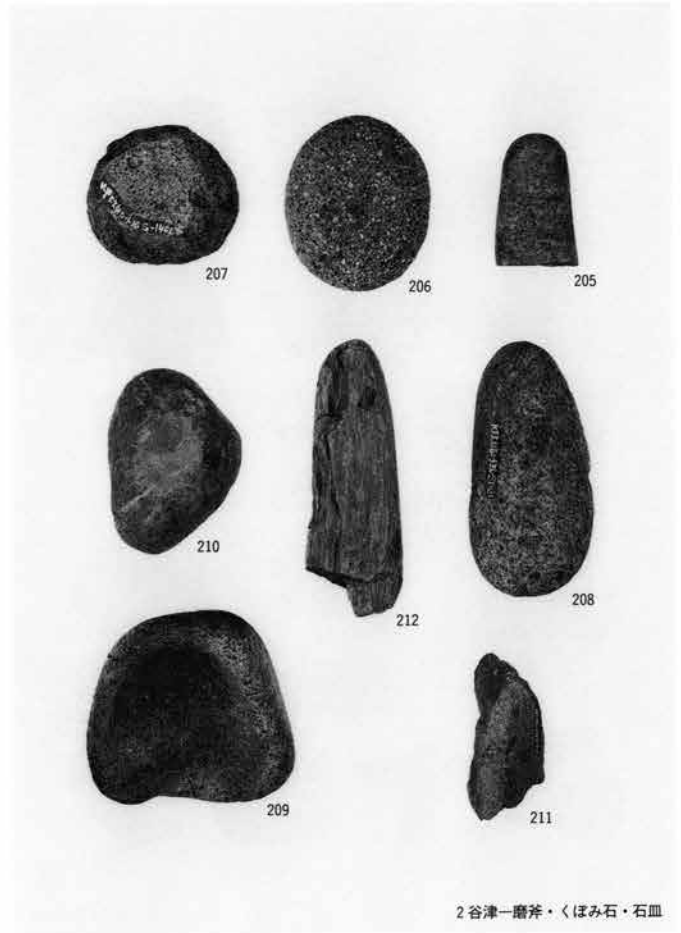
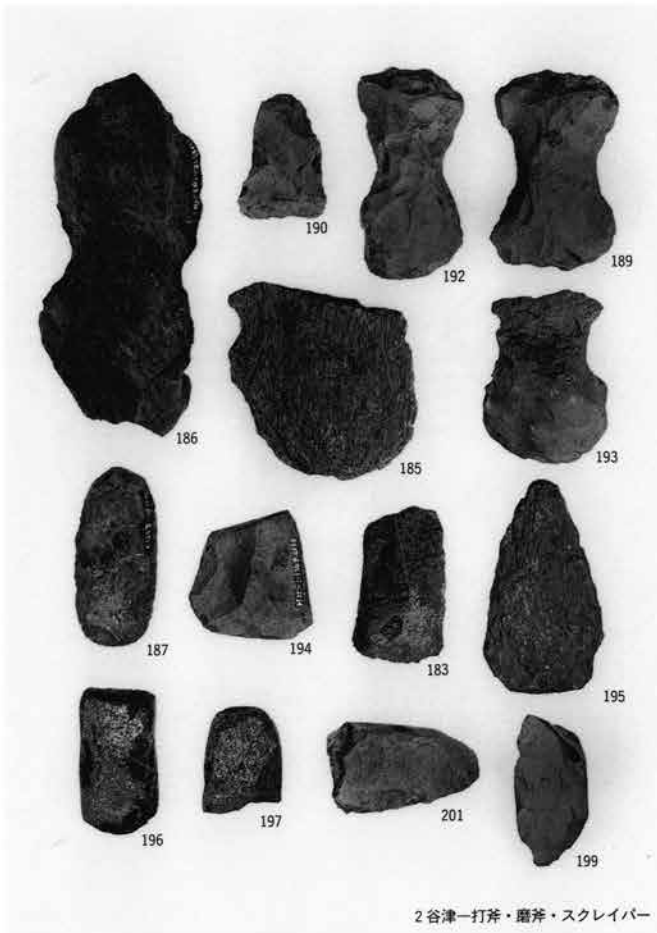
1 谷津一くぼみ石

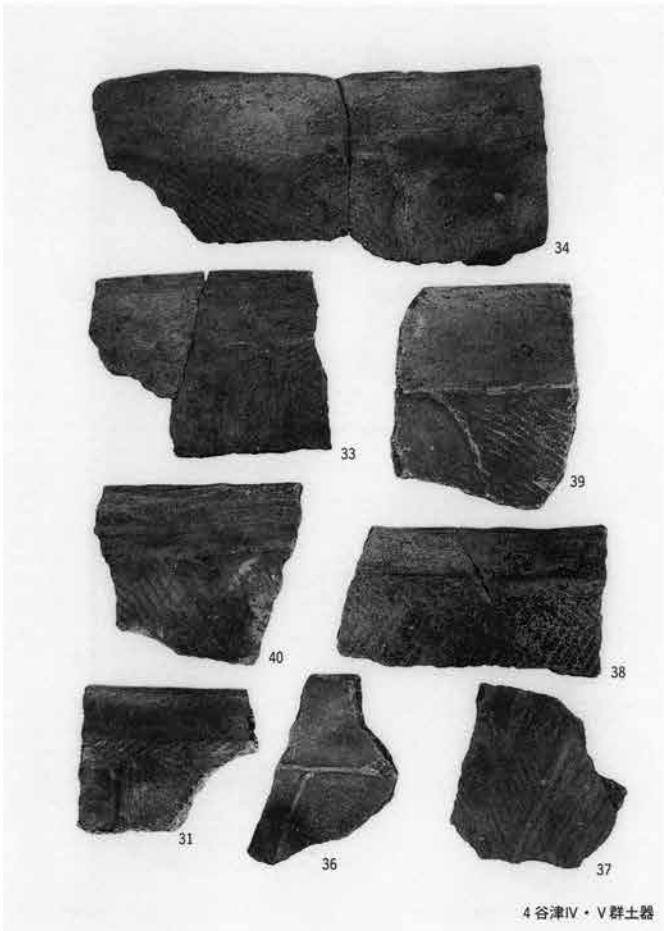


2 谷津 1 群土器

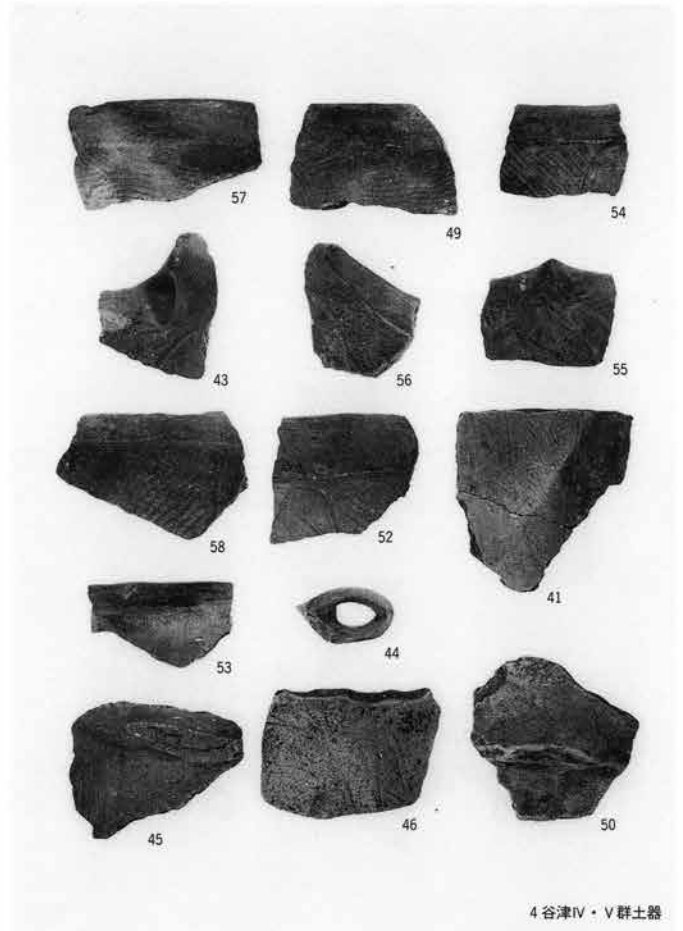




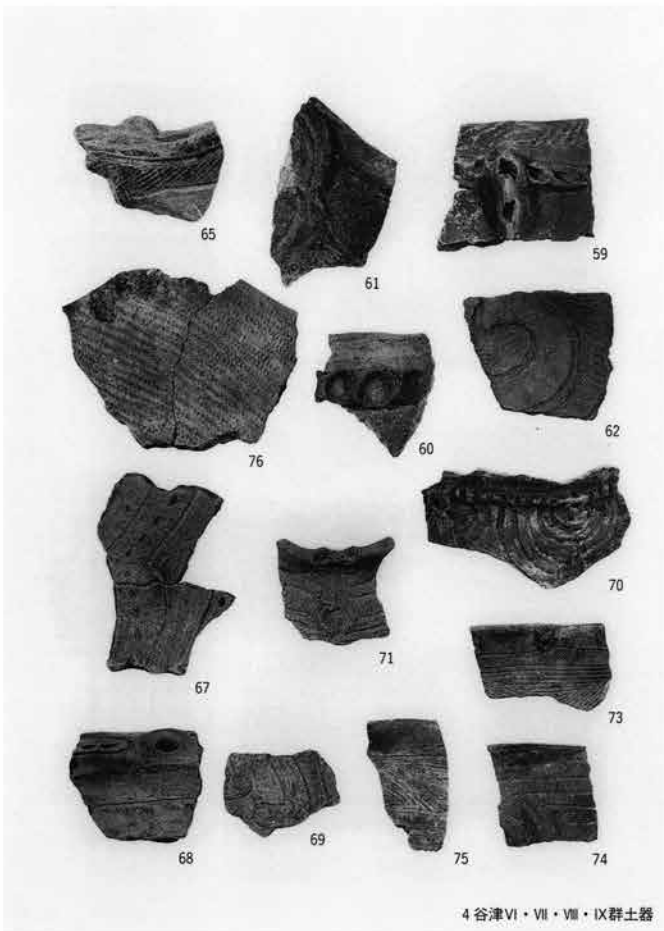




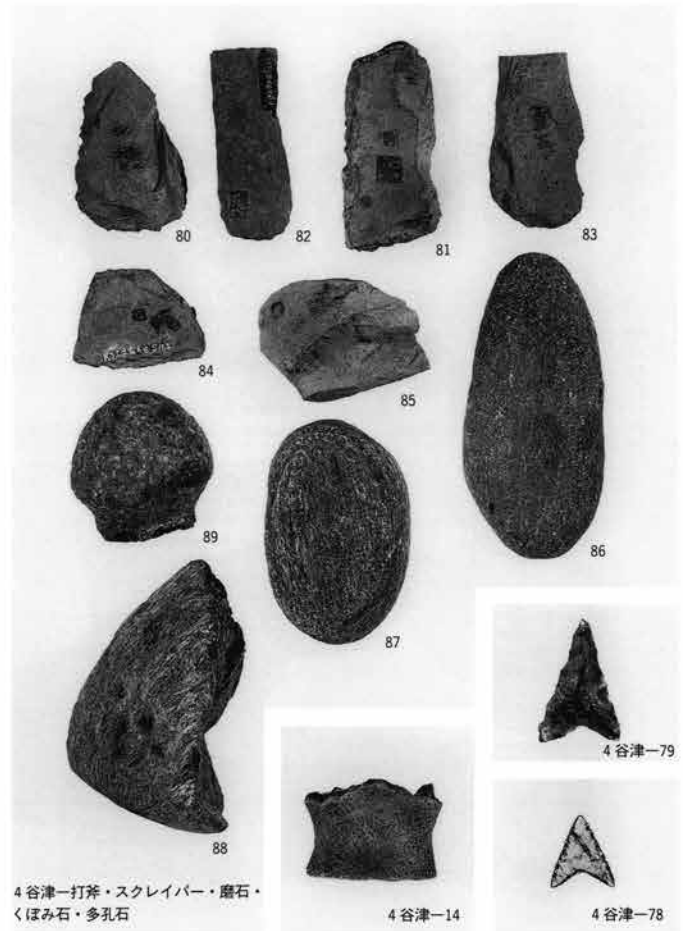
4谷津IV・V群土器



4谷津IV・V群土器



4谷津VI・VII・VIII・IX群土器

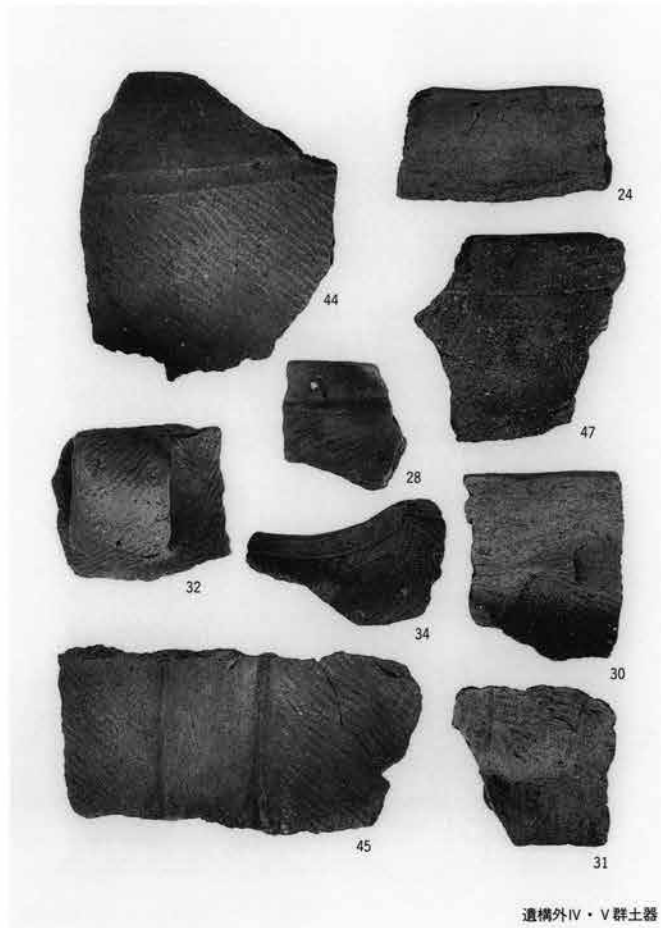
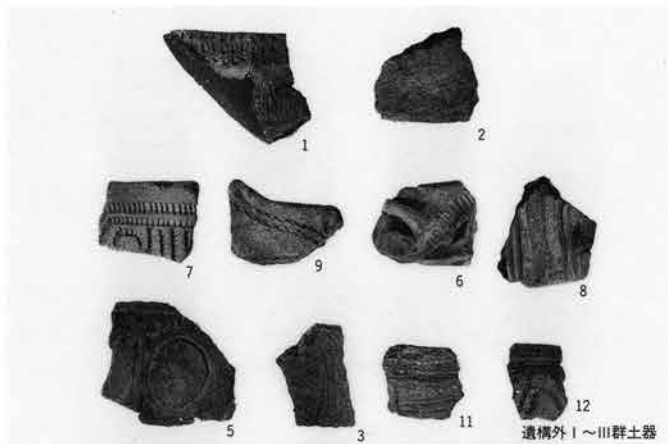
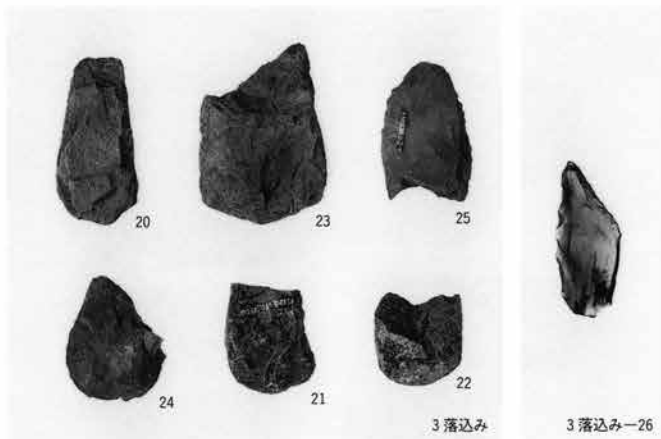
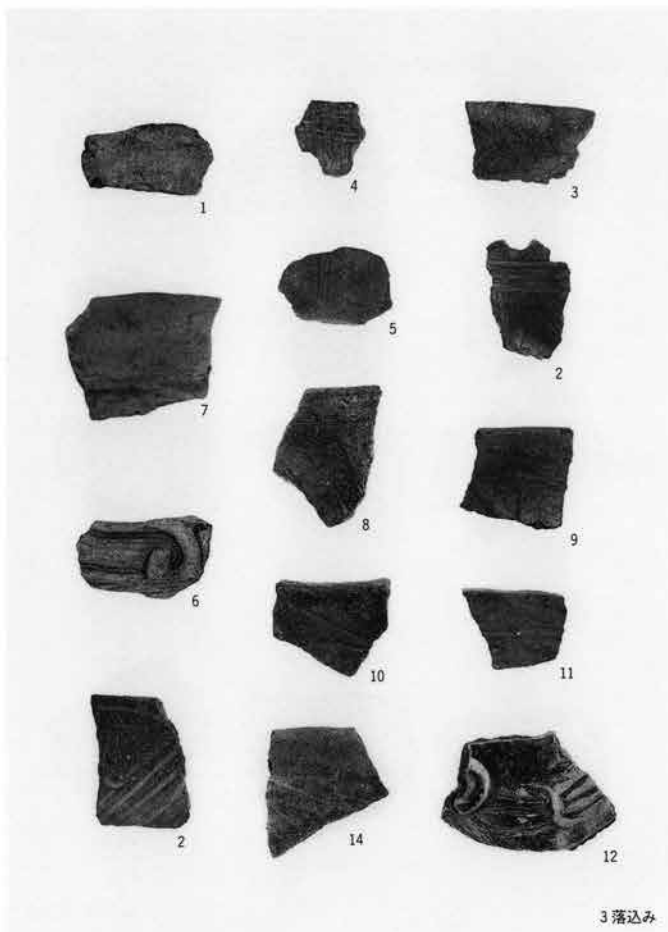


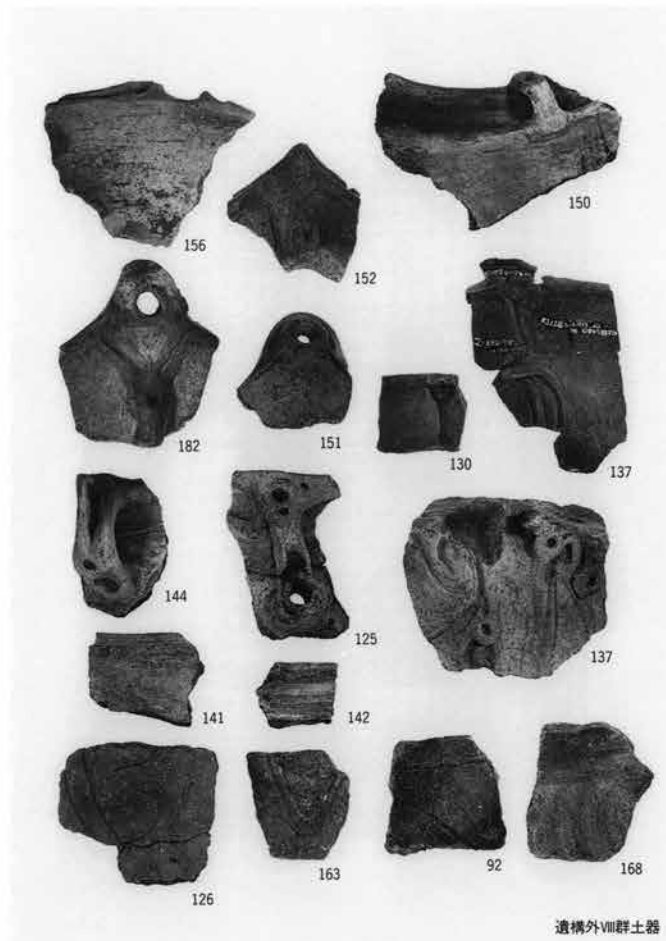
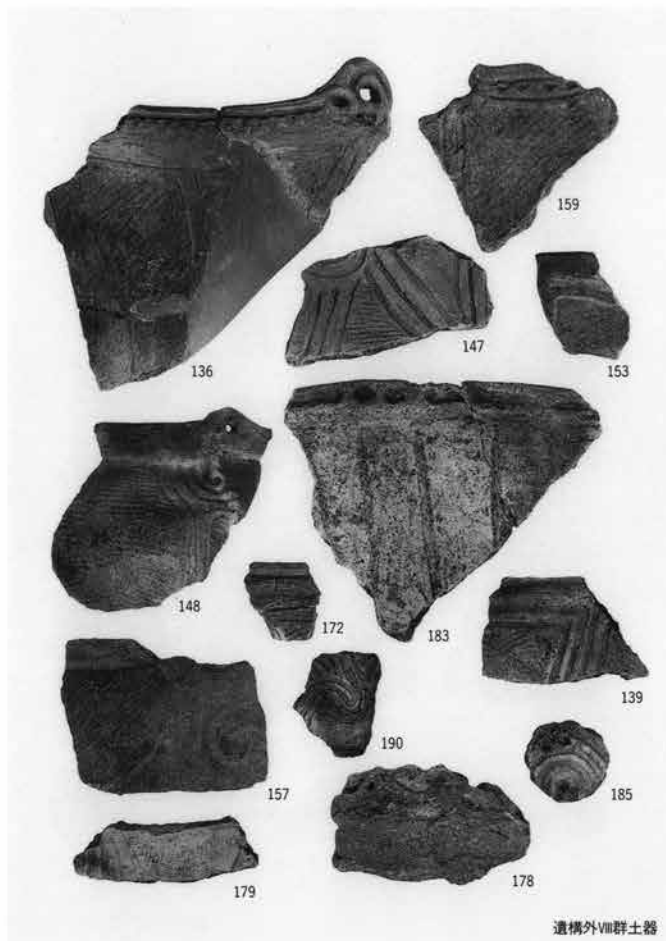
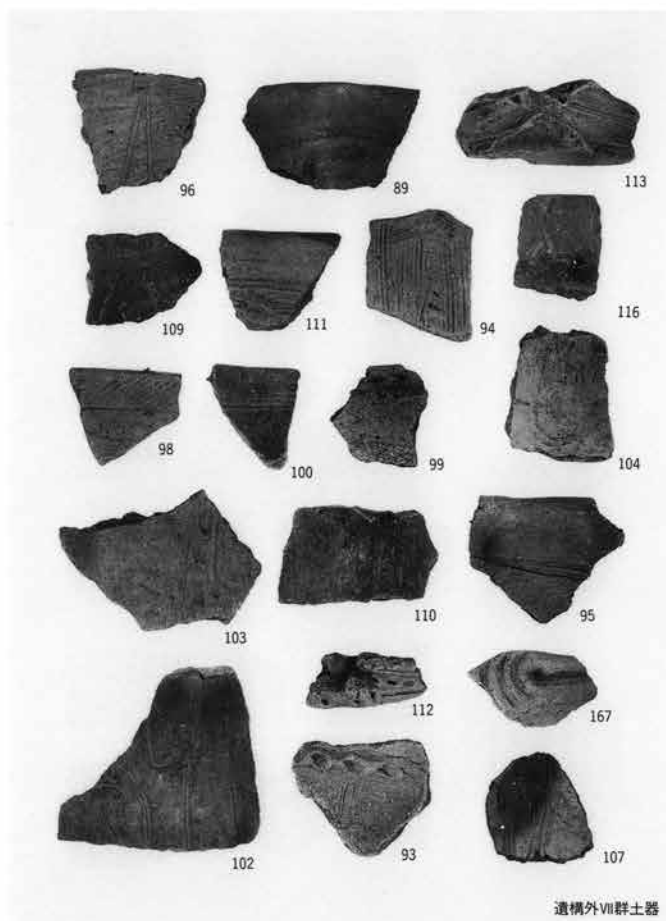
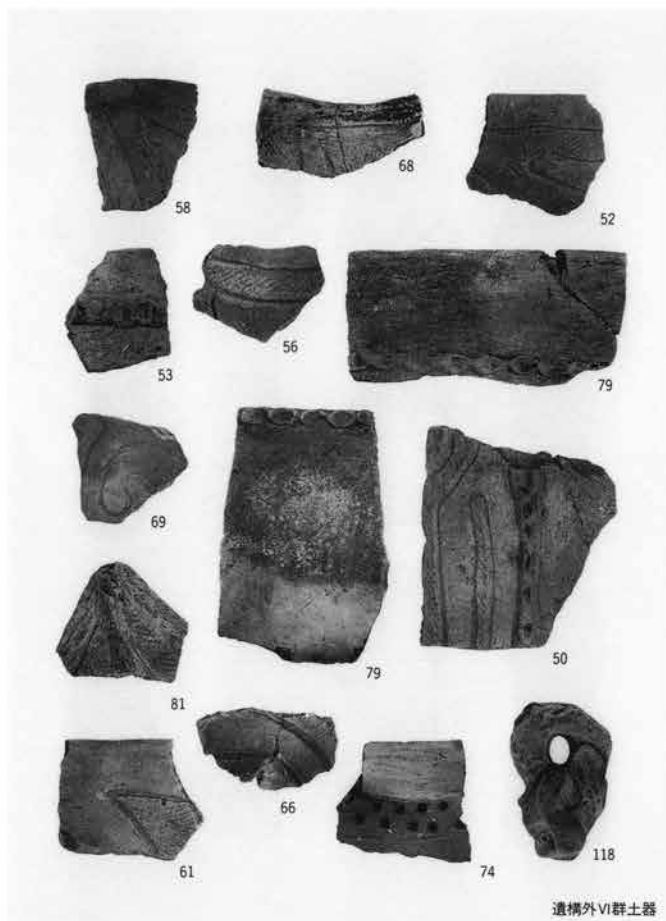
4谷津-打斧・スクレイパー・磨石・くぼみ石・多孔石

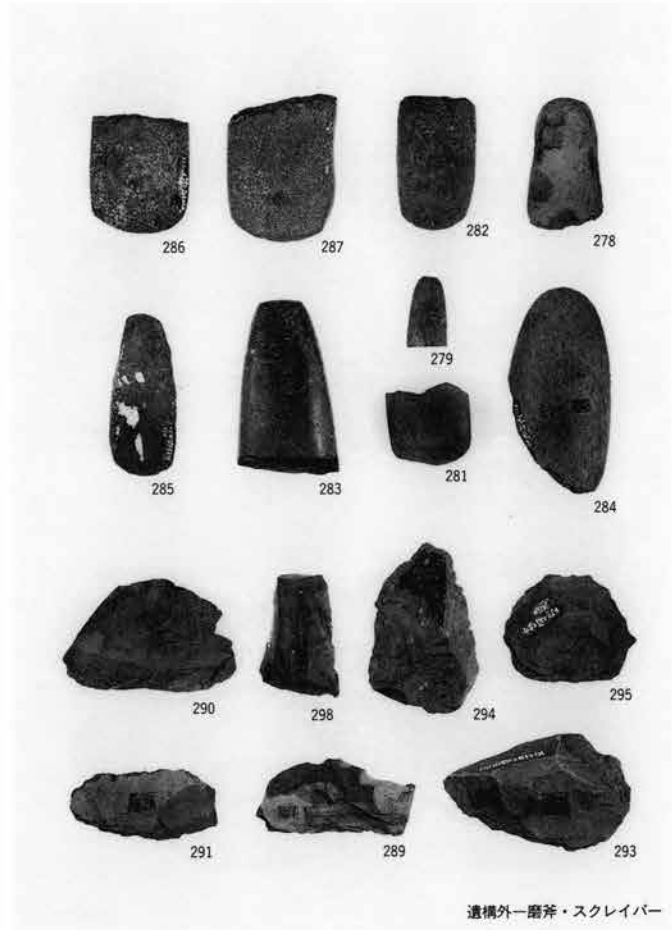
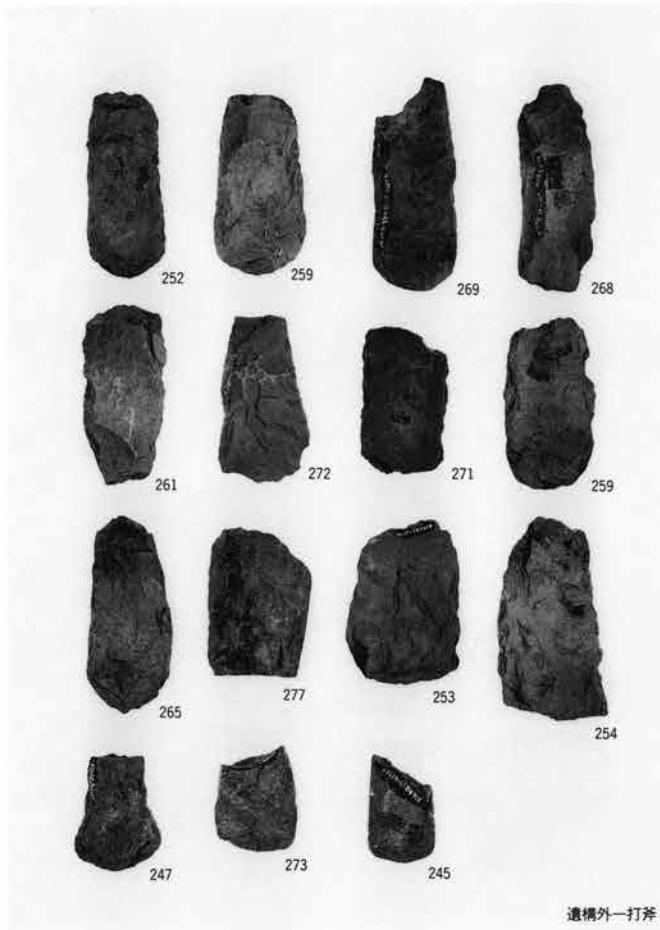
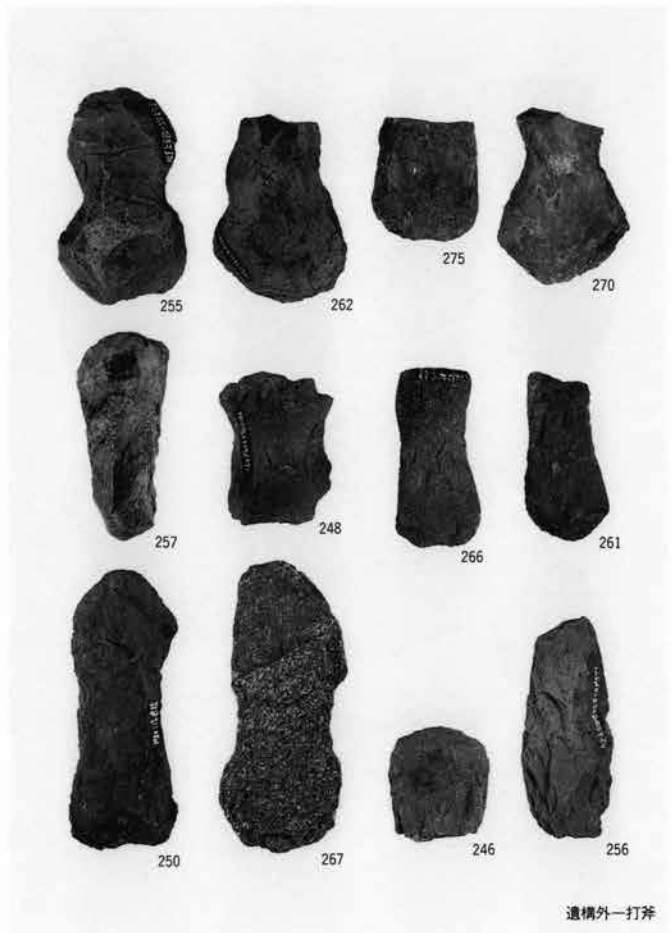
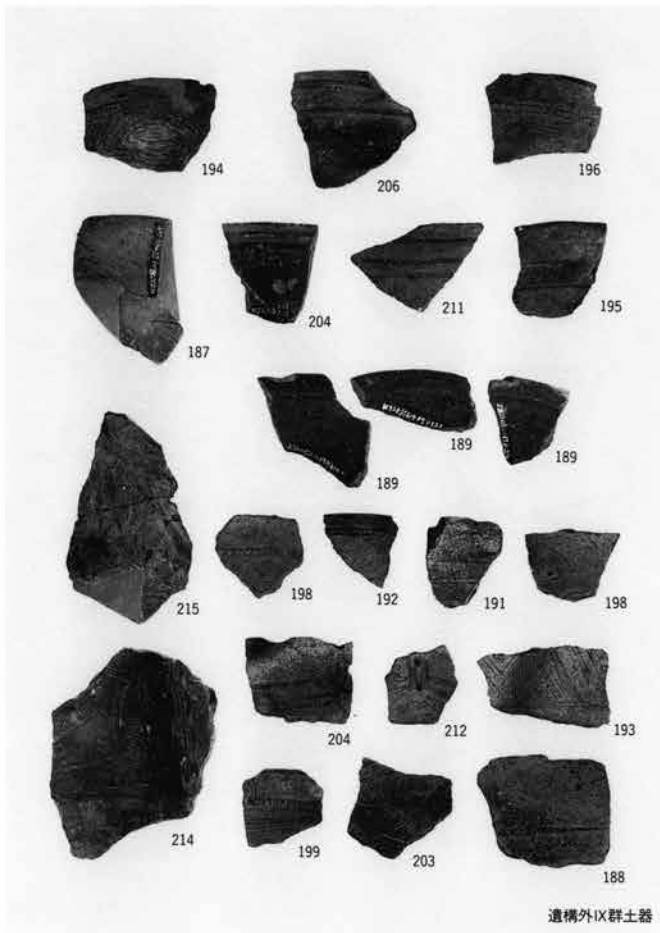
4谷津-14

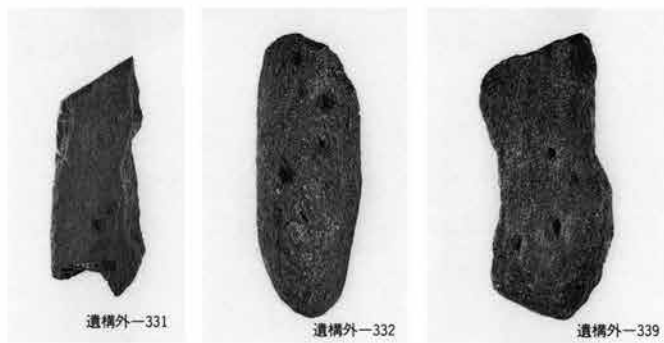
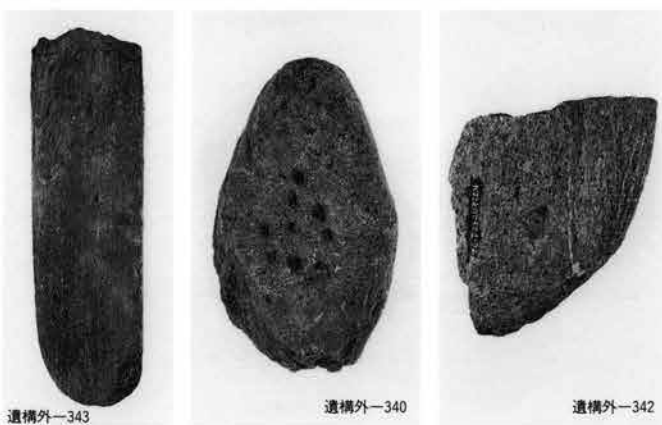
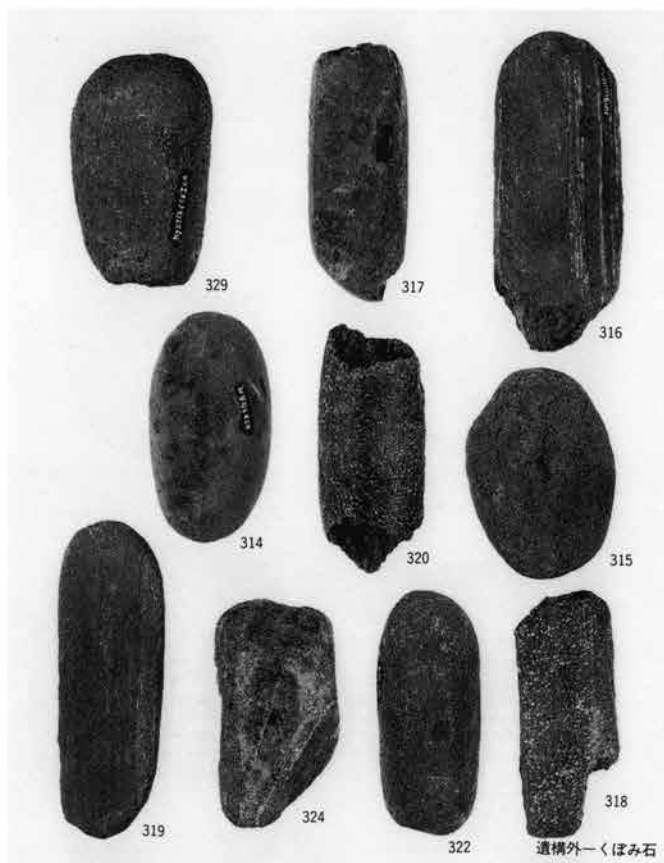
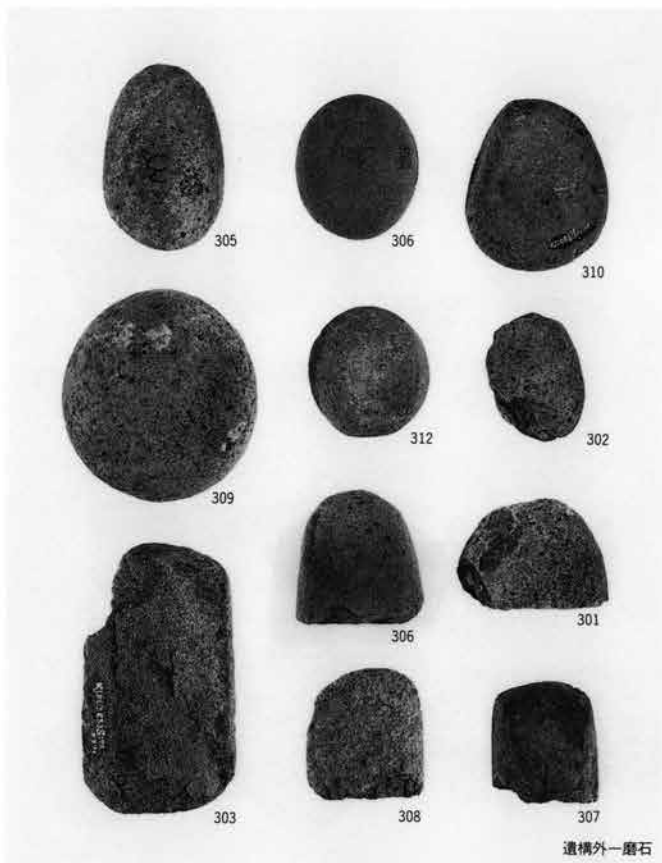
4谷津-79

4谷津-78











他遺構混入-330表



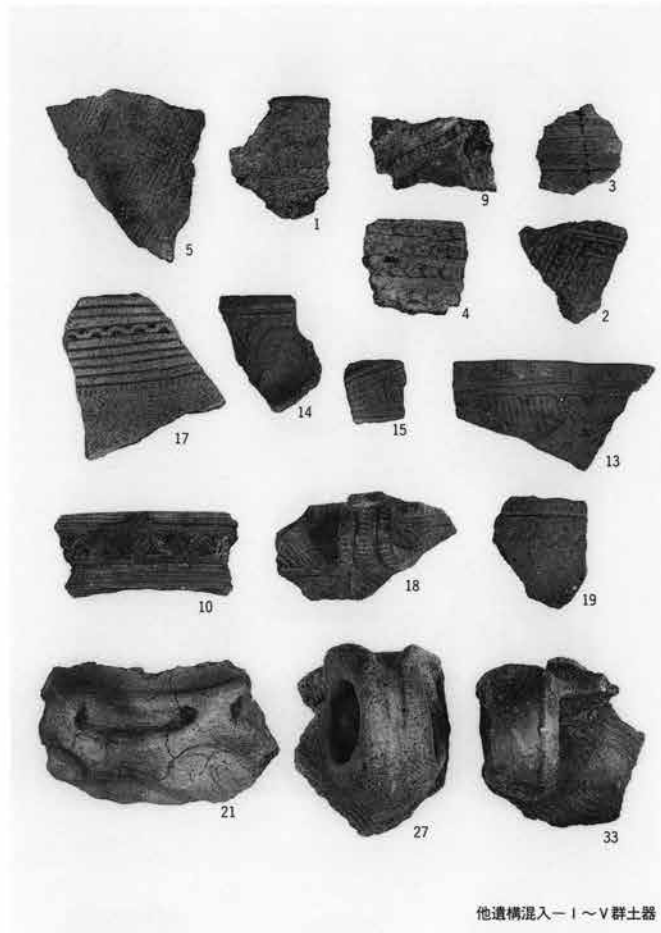
他遺構混入-330裏



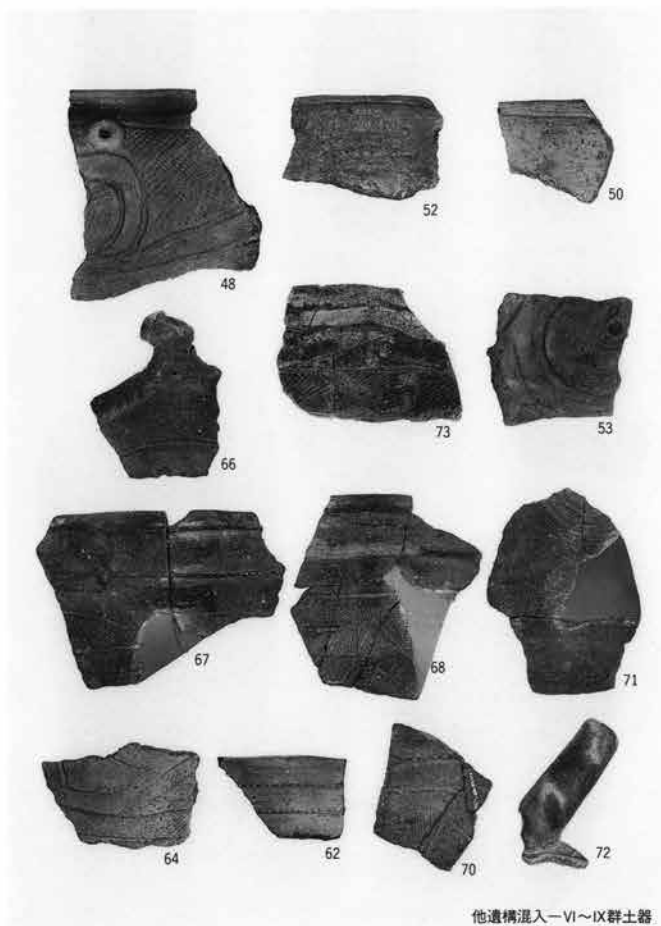
他遺構混入-335



他遺構混入-337



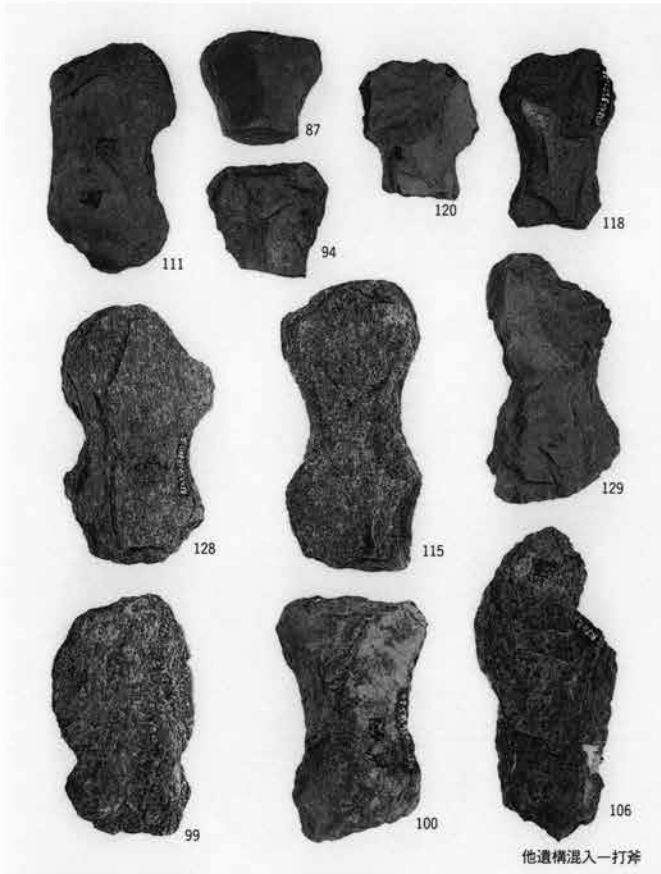
他遺構混入-I~V群土器



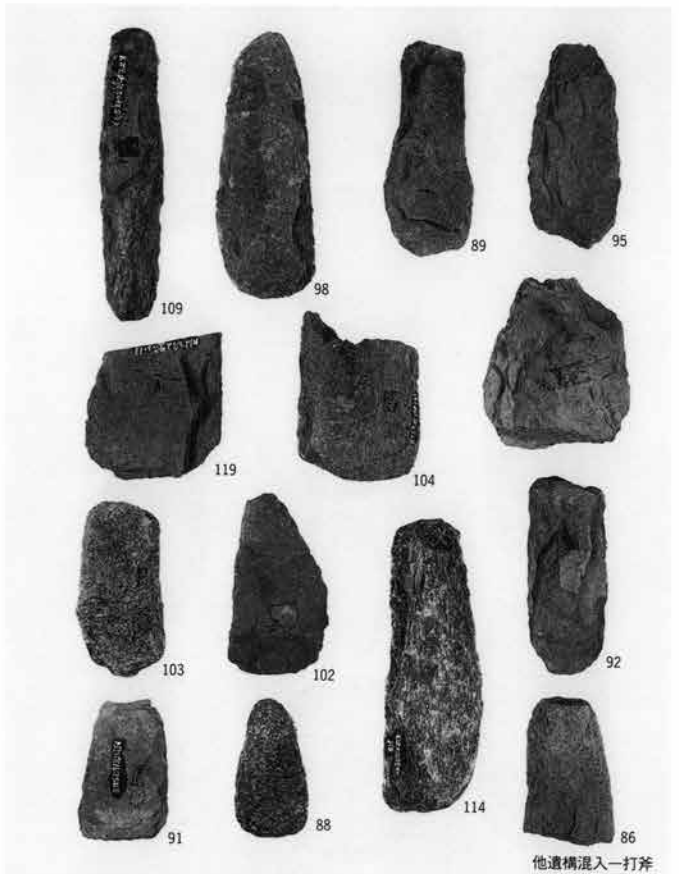
他遺構混入-VI~IX群土器



他遺構混入



他遺構混入—打斧



他遺構混入—打斧



他遺構混入—138

他遺構混入—134

他遺構混入—142

他遺構混入

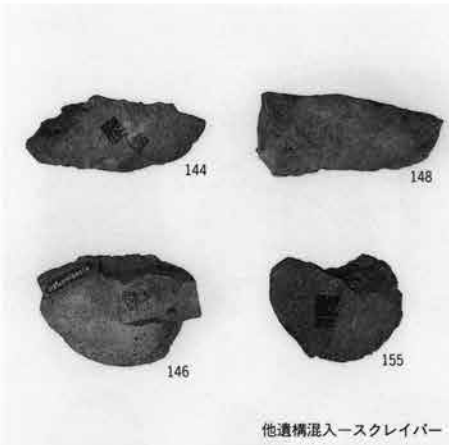
143

他遺構混入—139



他遺構混入—135表

他遺構混入—135裏



他遺構混入—スクレイパー



他遺構混入—153

他遺構混入—152



他遺構混入

他遺構混入—85



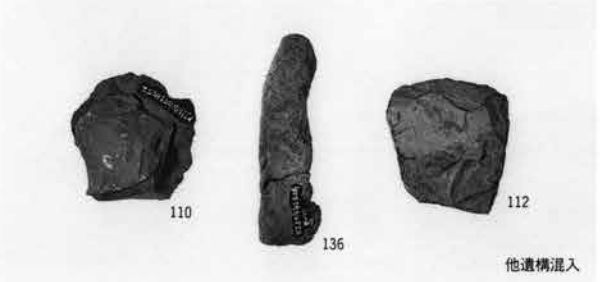
他遺構混入—80

他遺構混入—82

他遺構混入—83

他遺構混入—84

他遺構混入—81



他遺構混入



他遺構混入—154

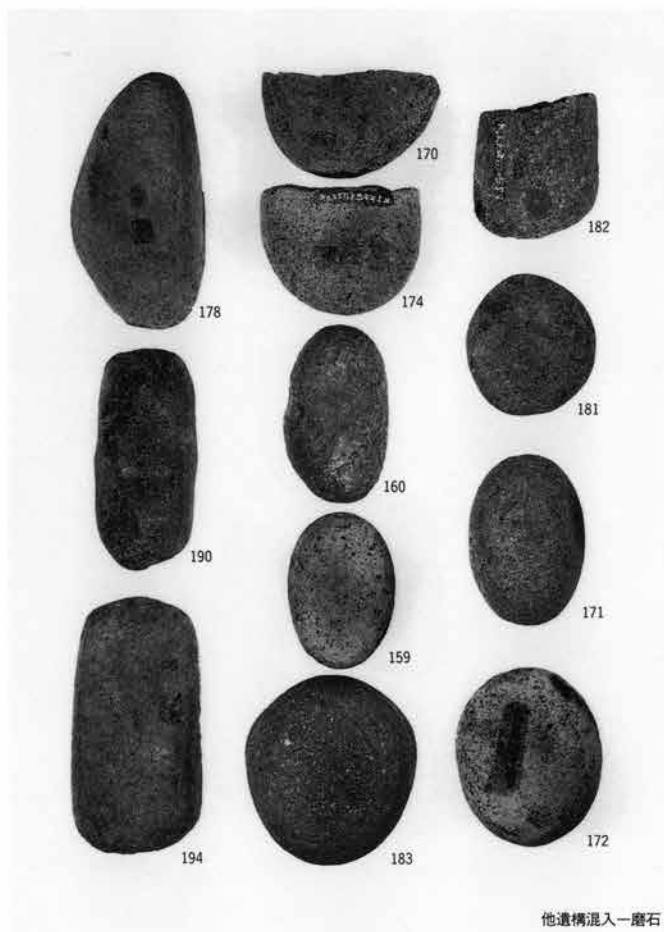
他遺構混入—252

他遺構混入

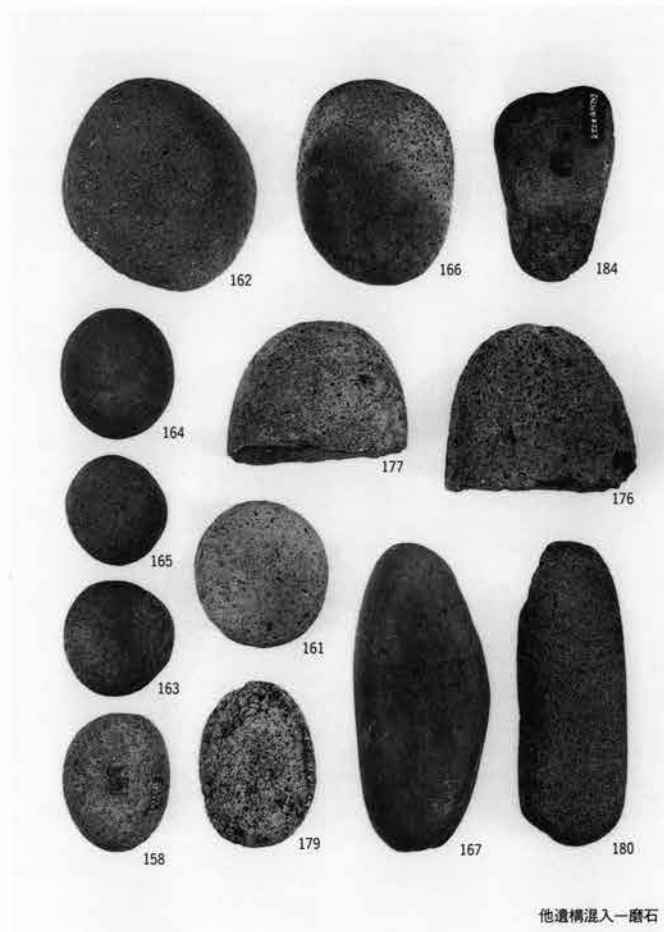


他遺構混入

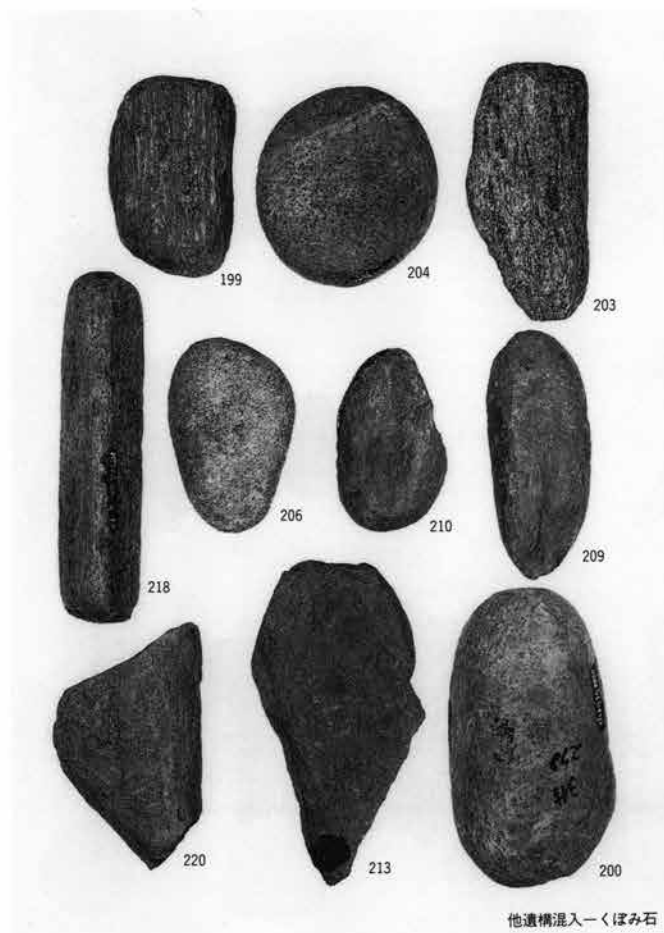
他遺構混入



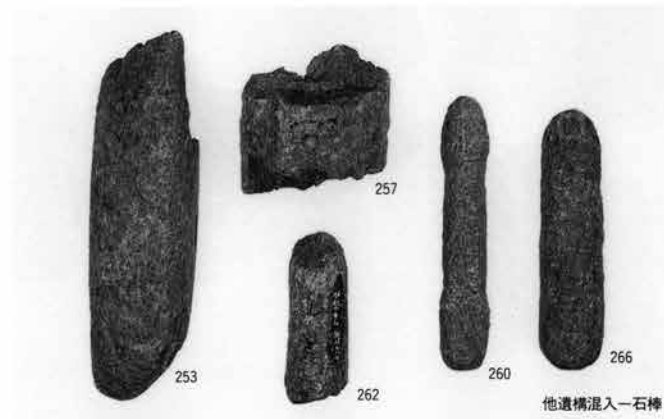
他遺構混入-磨石



他遺構混入-磨石



他遺構混入-くぼみ石



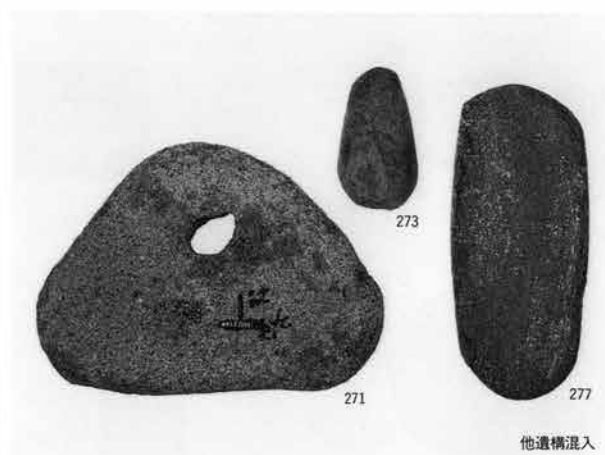
他遺構混入-石棒



他遺構混入-226



他遺構混入-223



271

273

277

他遺構混入



他遺構混入-246



他遺構混入-227



他遺構混入-189



他遺構混入-235



他遺構混入-230



他遺構混入-239



他遺構混入-207



他遺構混入-236



他遺構混入-231



他遺構混入-234



他遺構混入-275



他遺構混入-226表



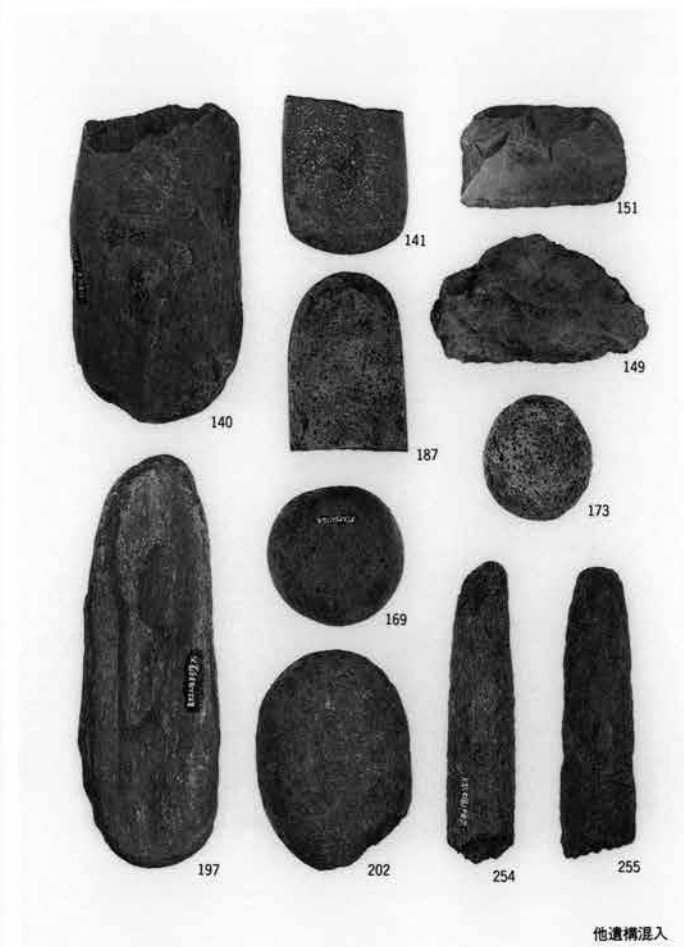
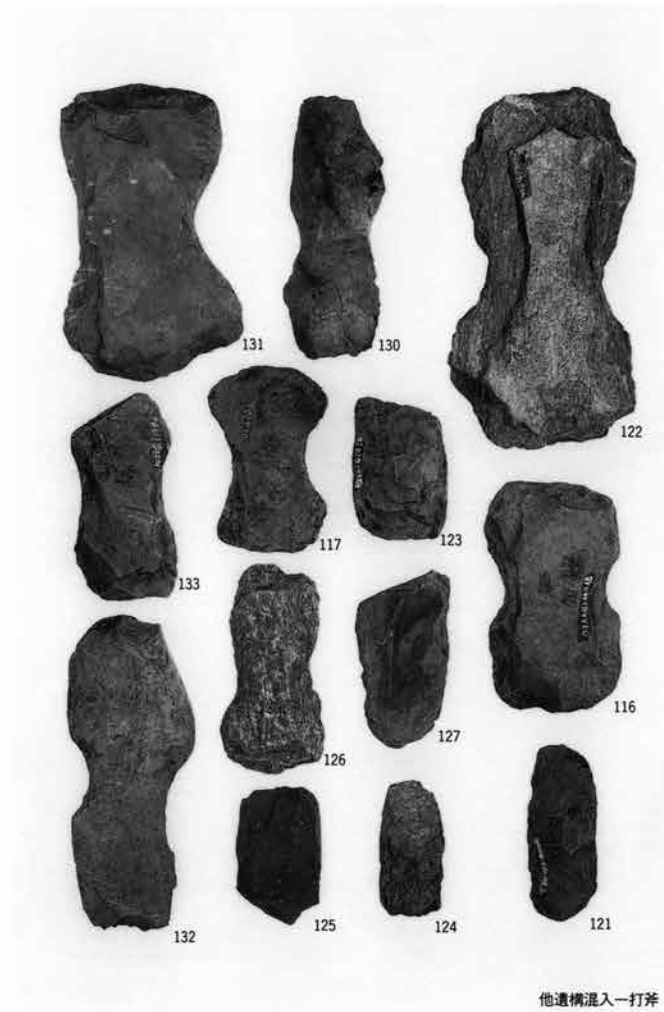
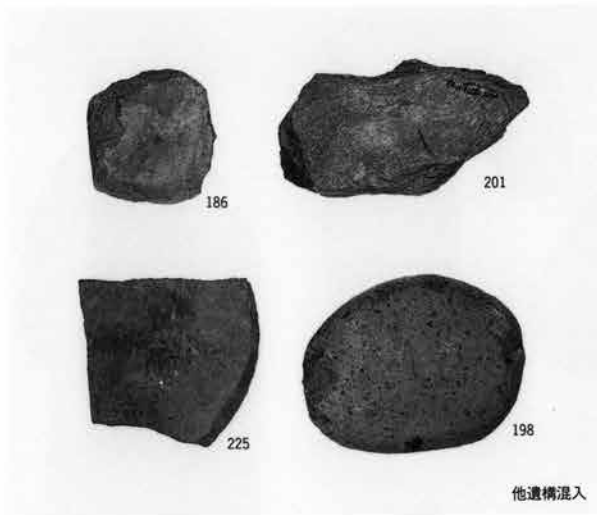
他遺構混入-226裏

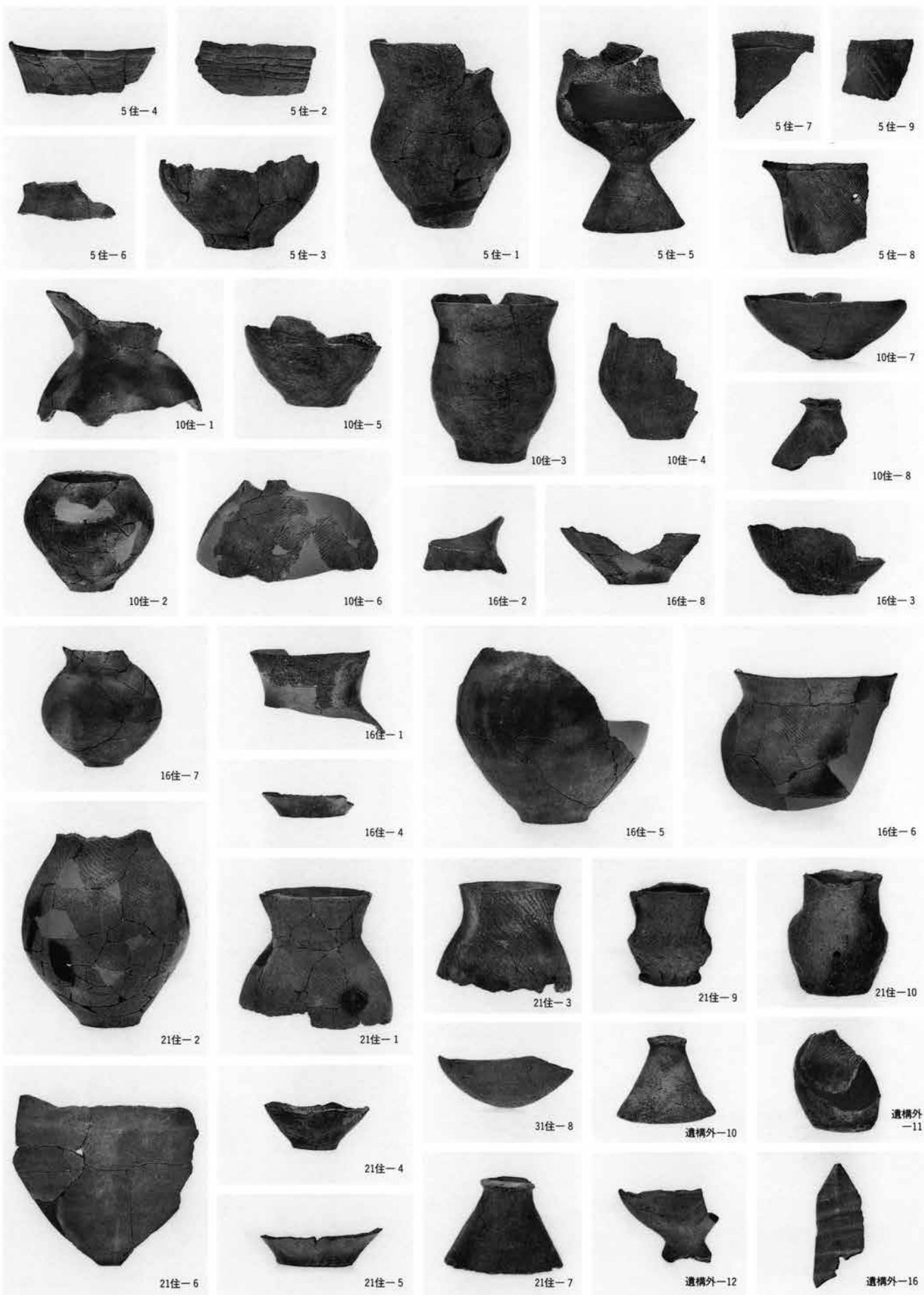


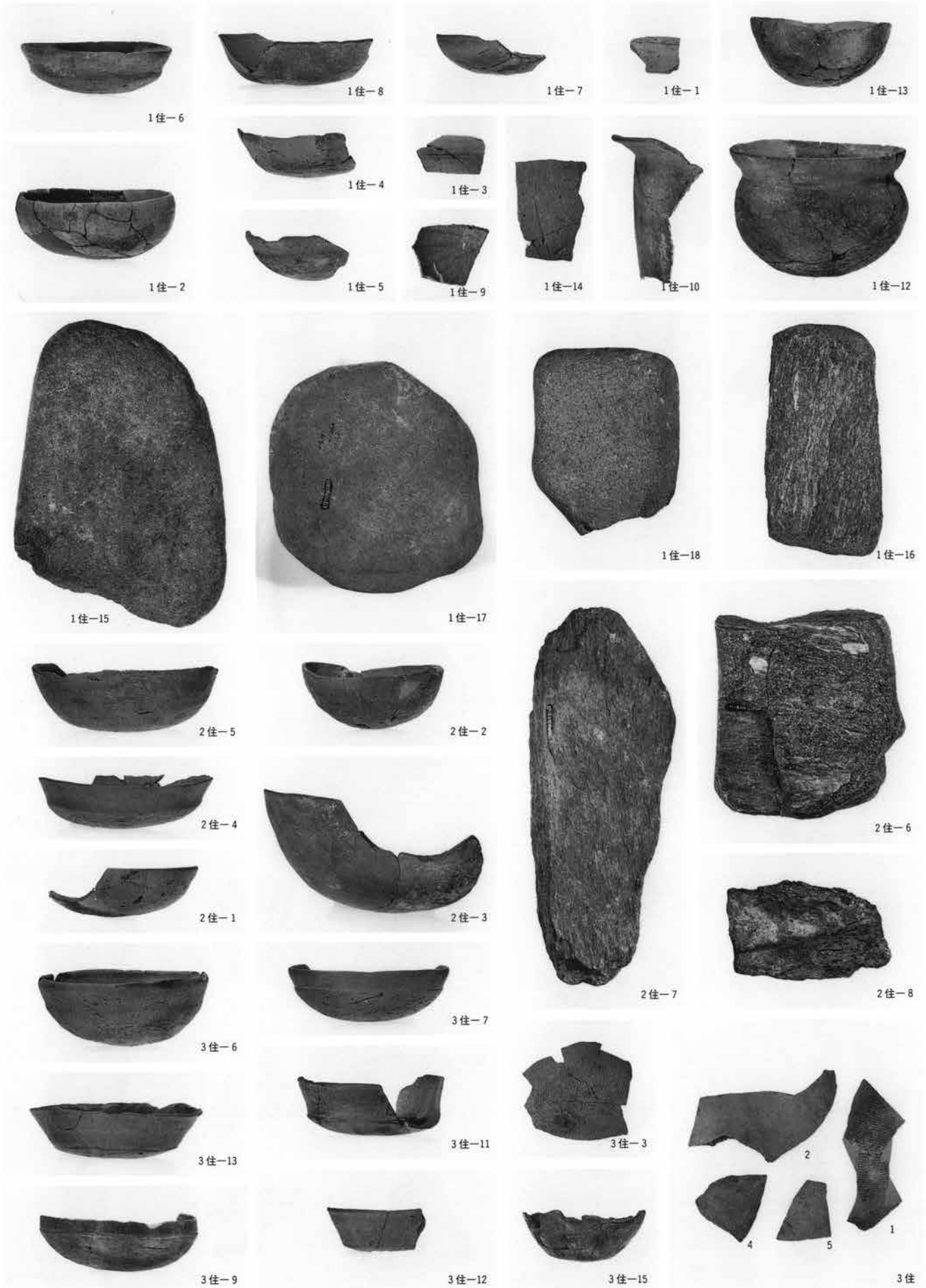
他遺構混入-244



他遺構混入-237









3住-14



3住-17



3住-18



3住-16



4住-1



4住-2



4住-3



4住-4



4住-5



4住-6



3住-こも編石



4住-7



4住-9



3住-こも編石



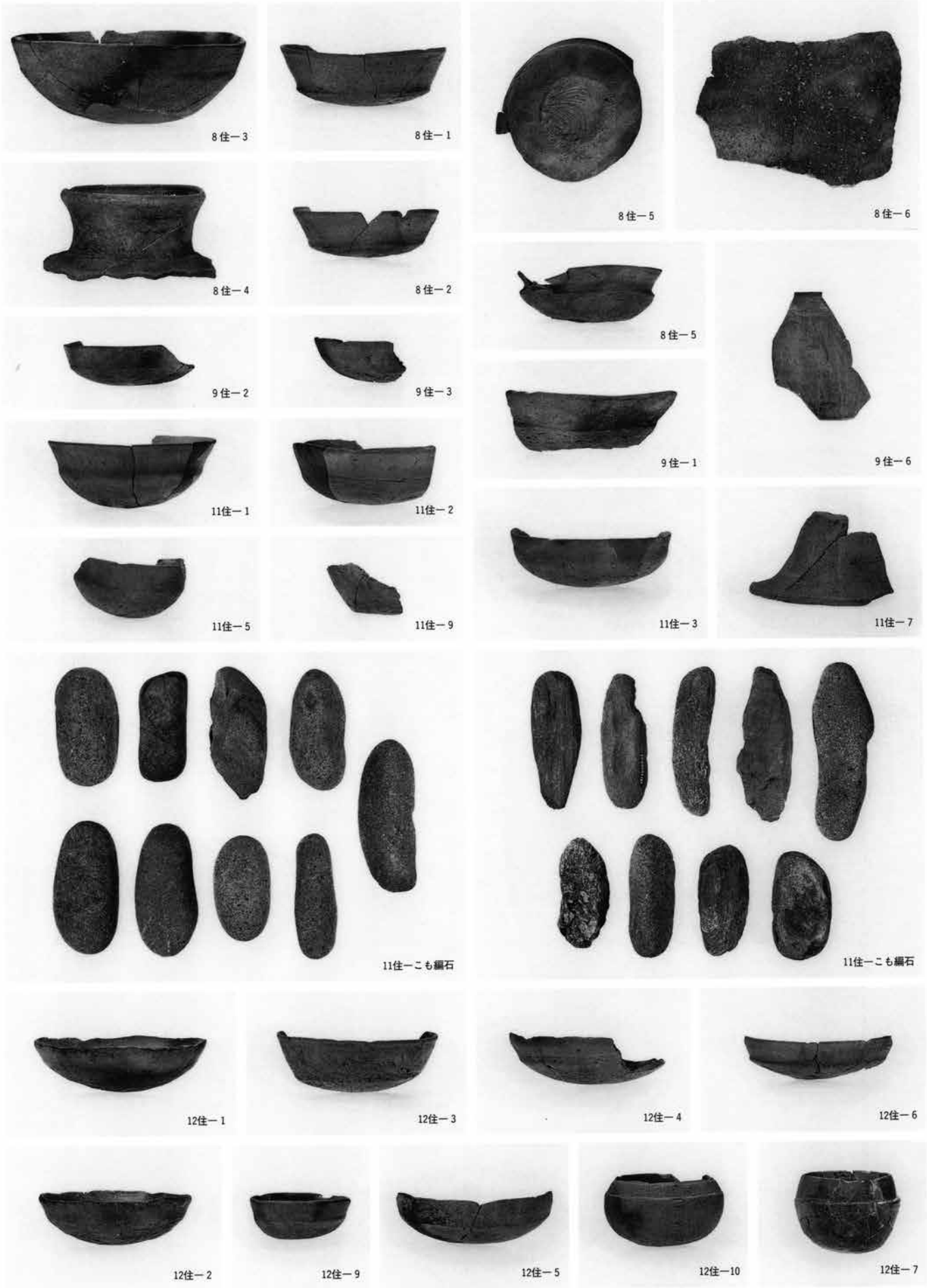
4住-10

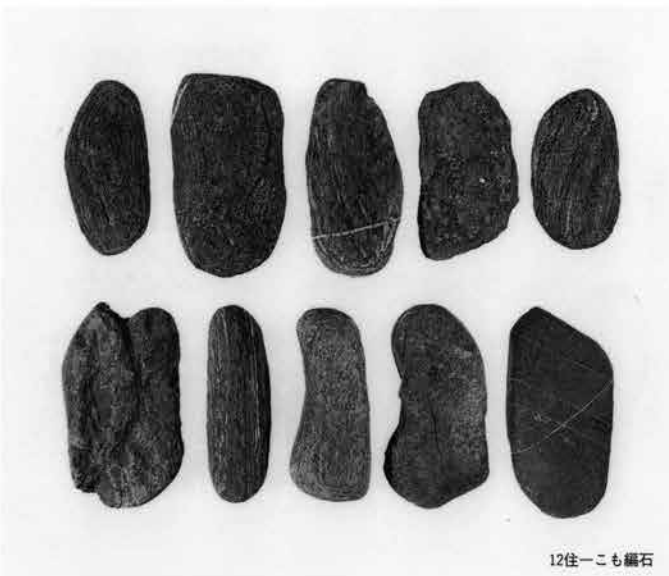
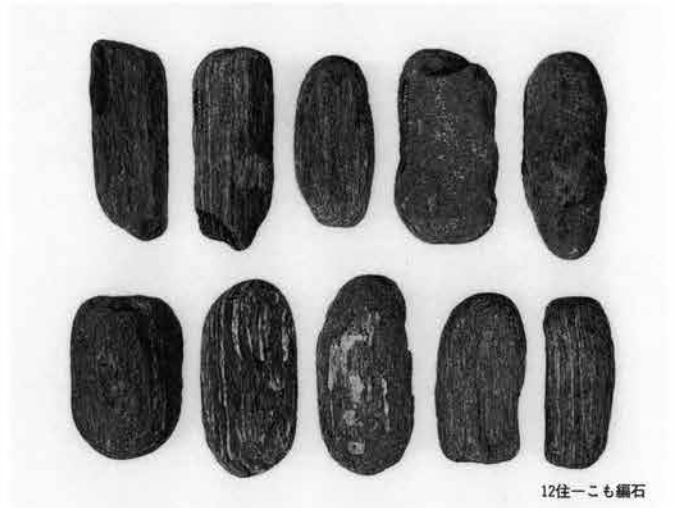
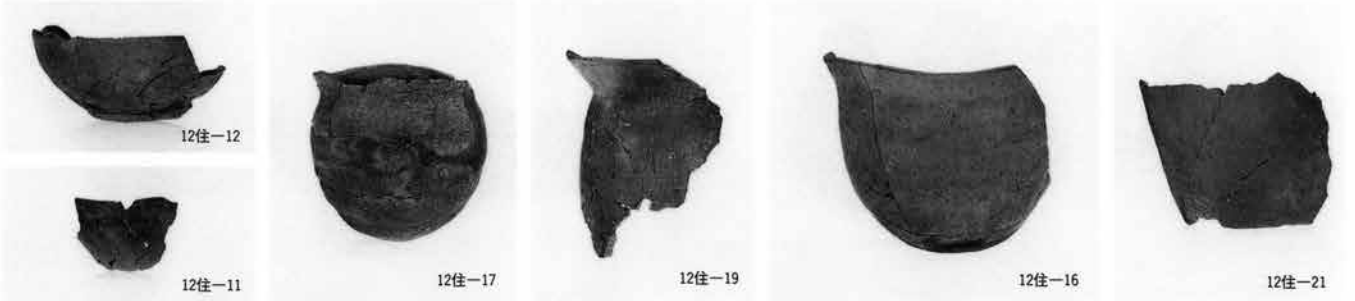
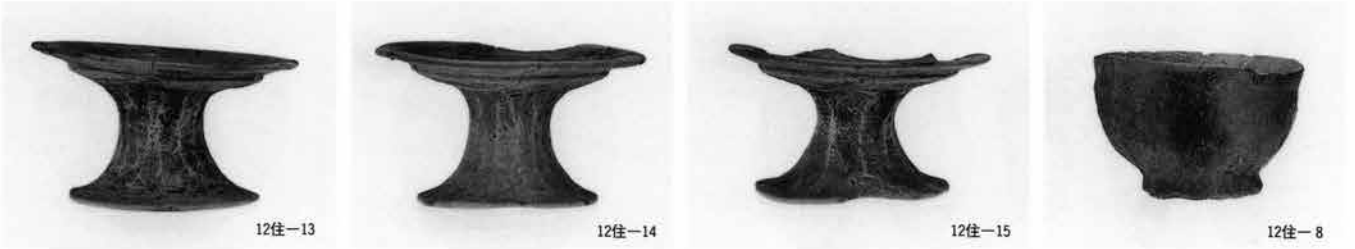


4住-8



4住-12







13住-こも編石



14住-1



14住-2



14住-1



14住-2



14住-6



14住-3



14住-10



14住-7



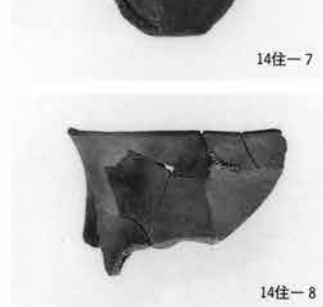
14住-11



14住-13



14住-9



14住-8



14住-12



14住-13



14住-こも編石



14住-こも編石



17住-10



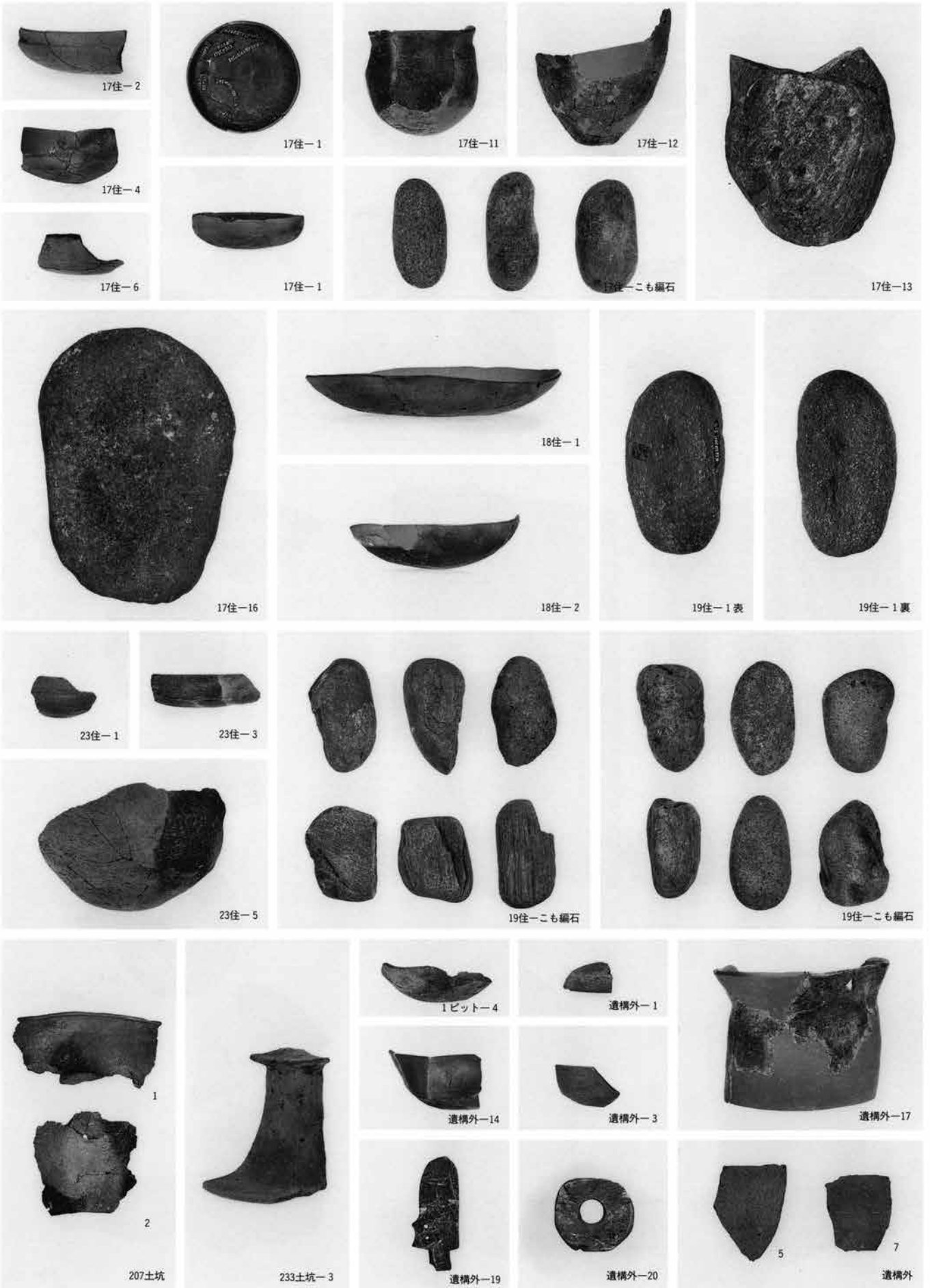
17住-5

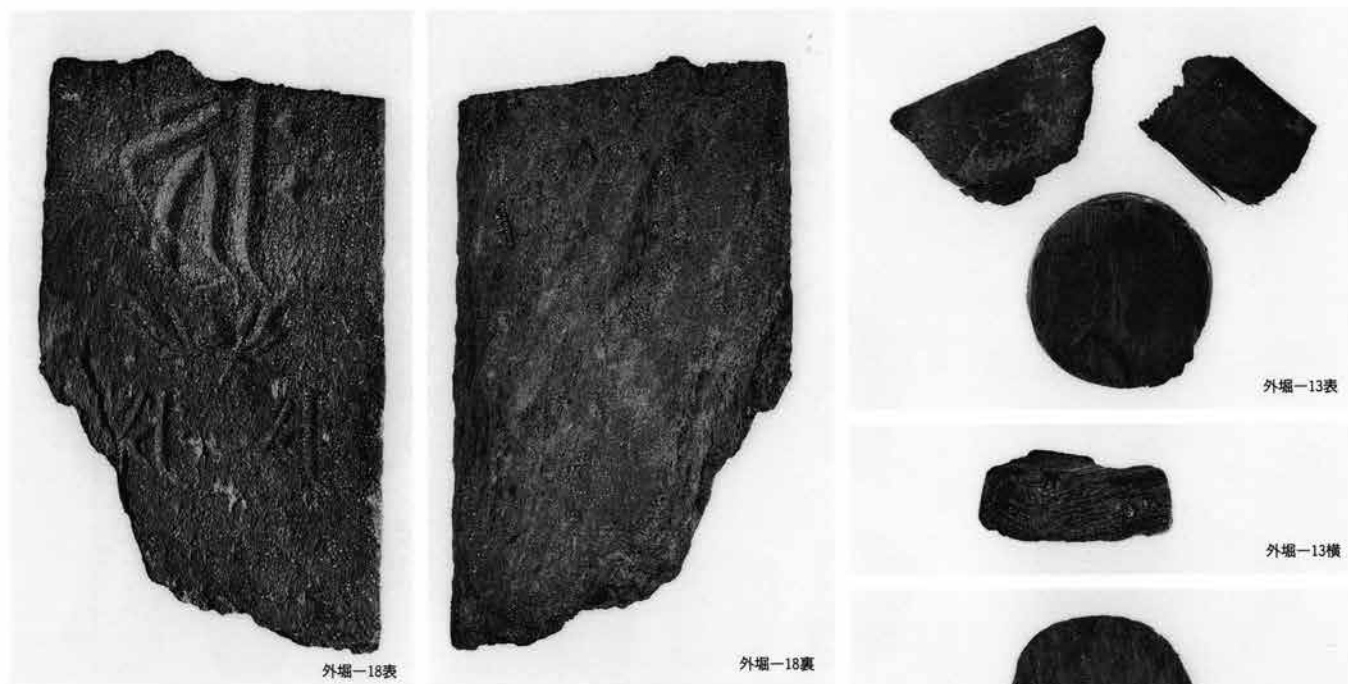
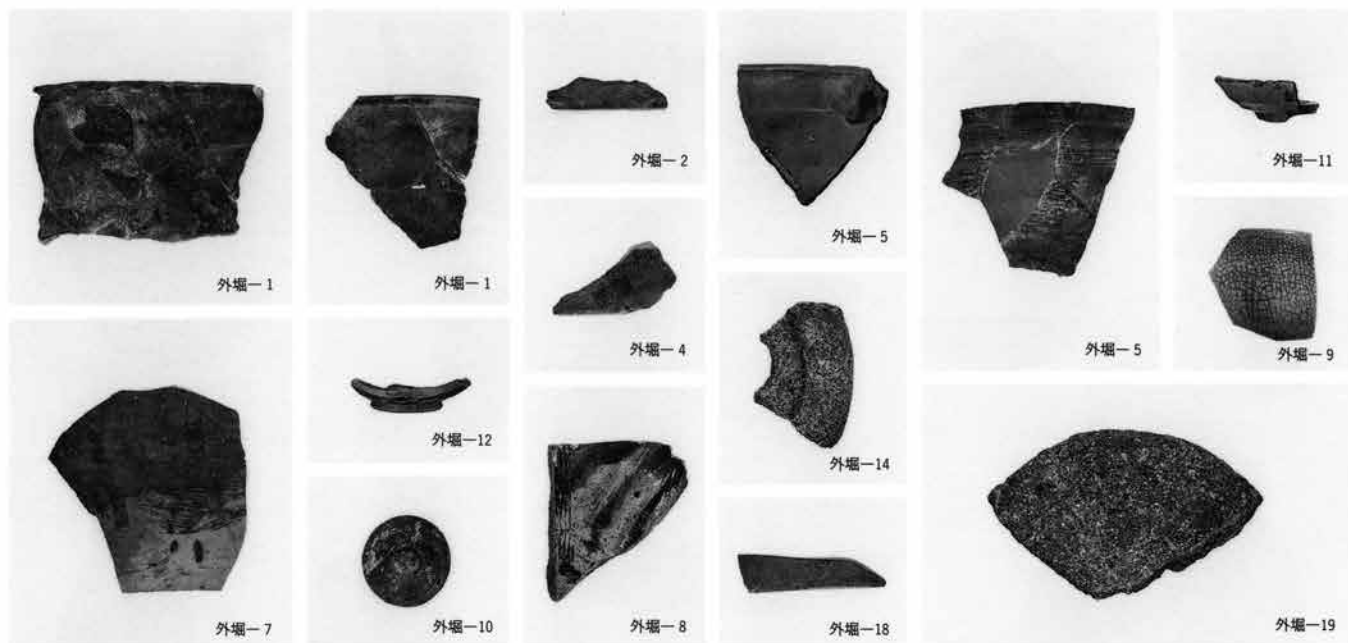


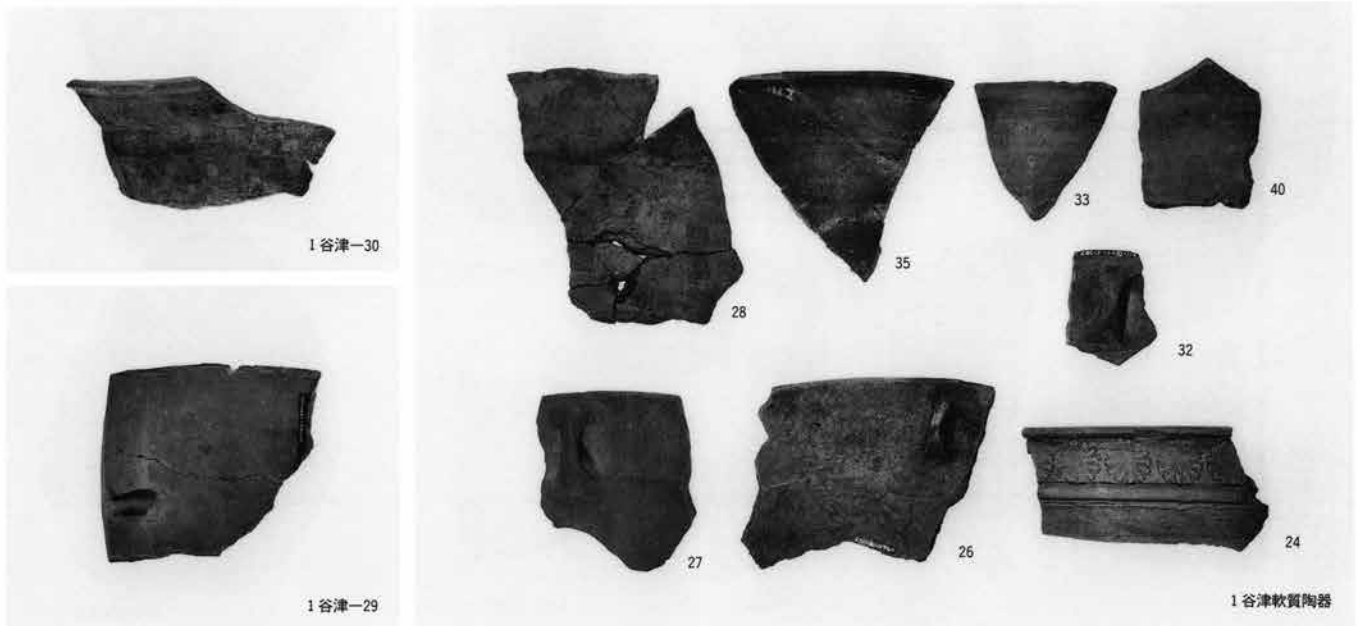
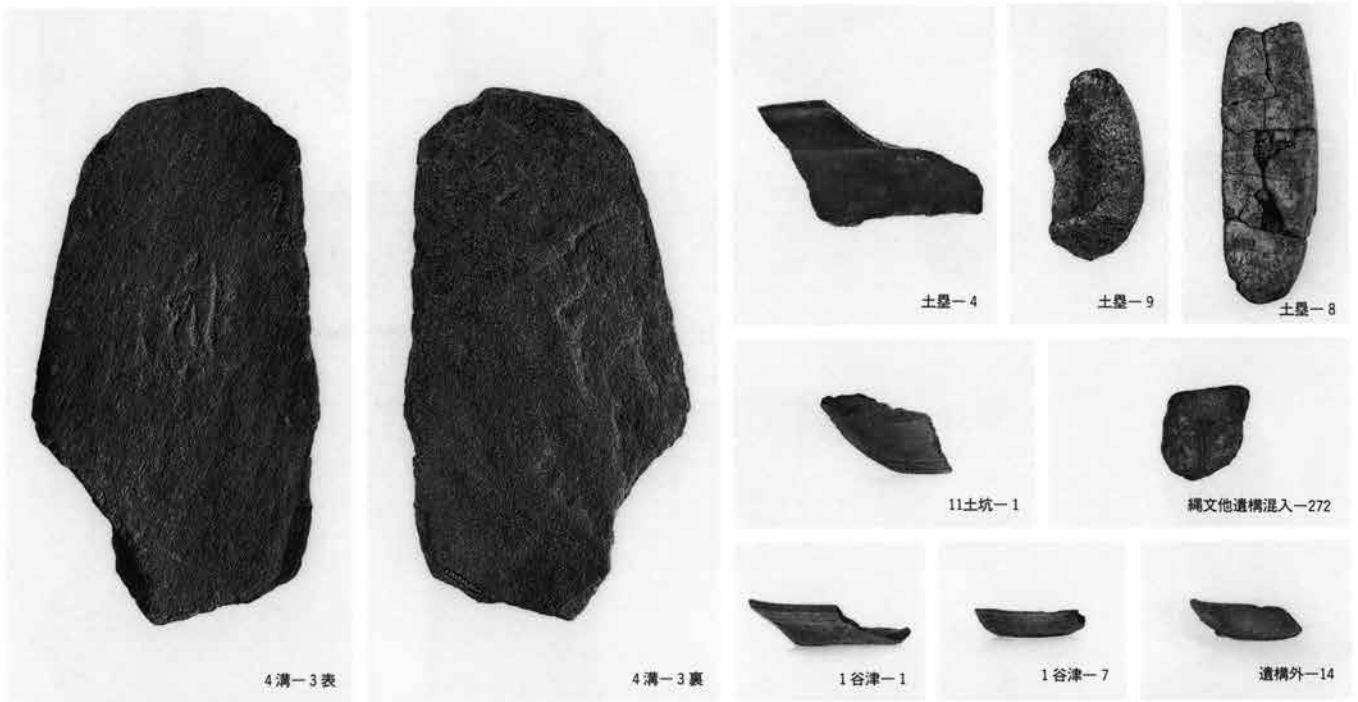
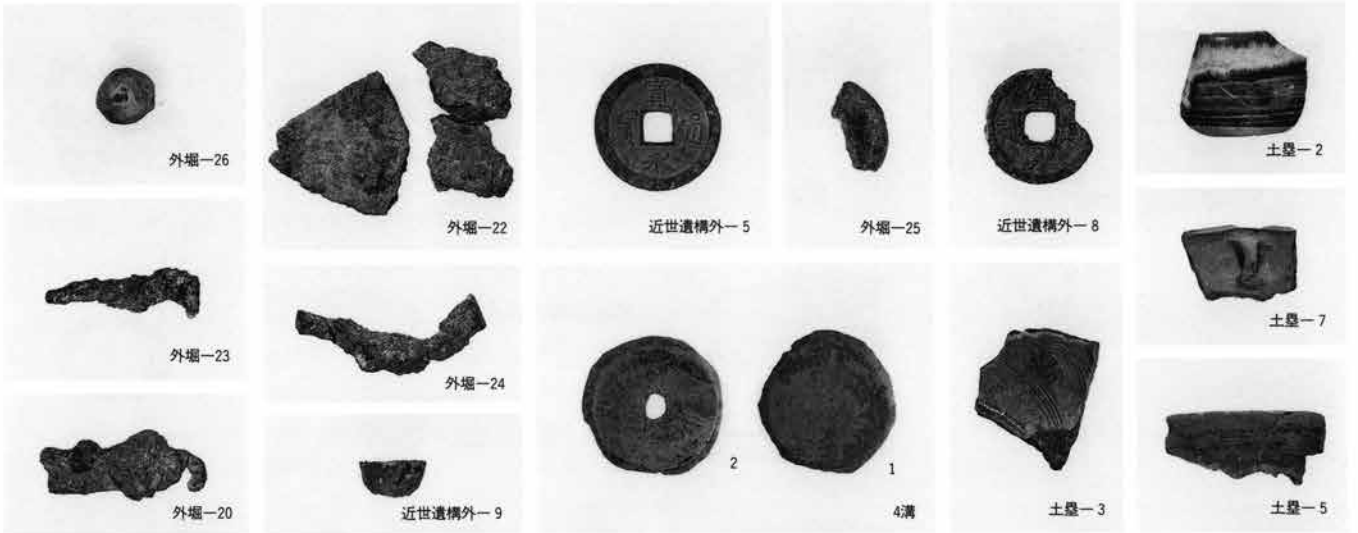
17住-3

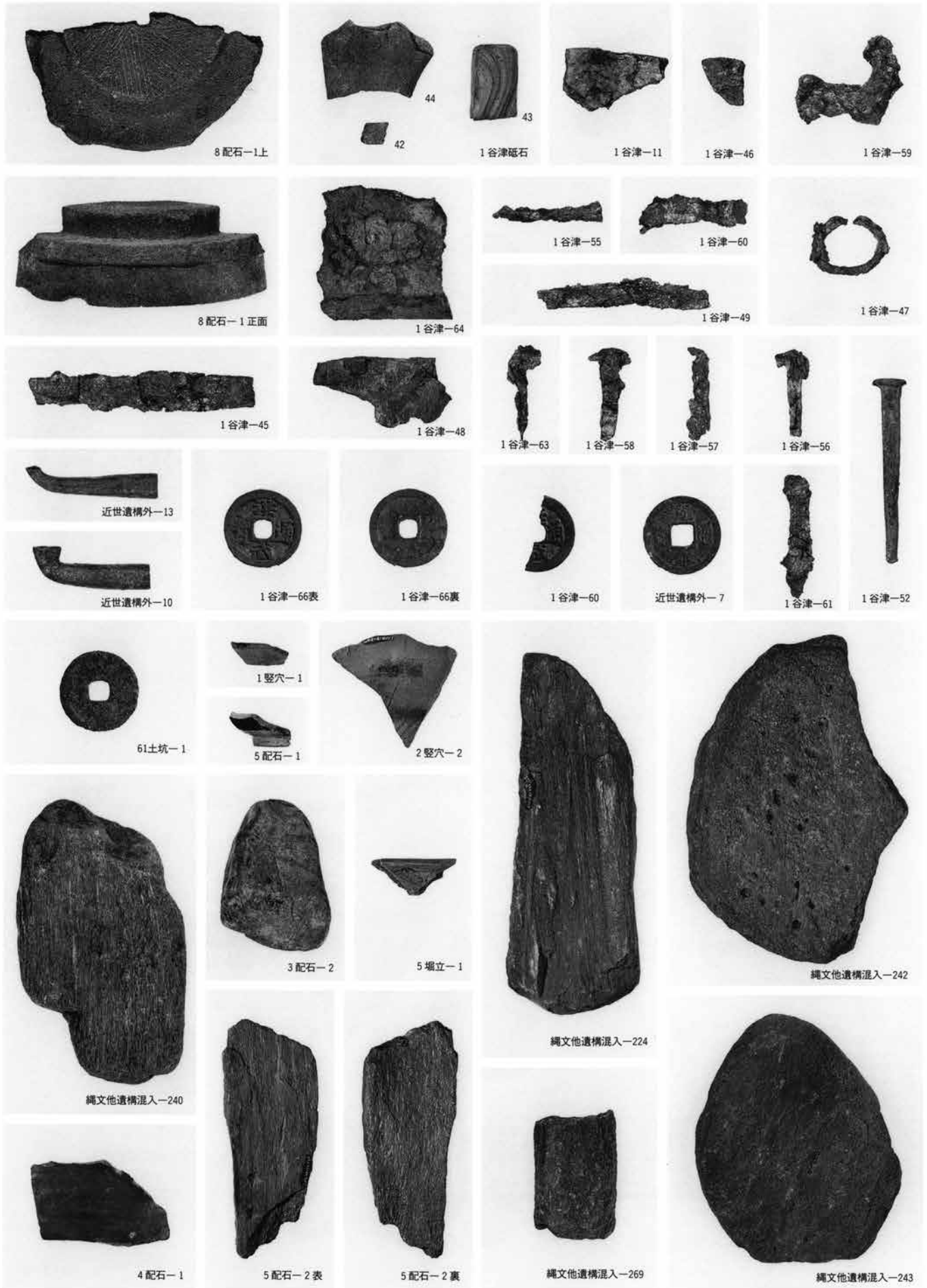


17住-7











縄文他遺構混入-228



縄文他遺構混入-245



6配石-2



6配石-1



縄文他遺構混入-238



11配石-3上



11配石-3正面



11配石-1



11配石-4



縄文他遺構混入-222



1井戸-4



1井戸-2上



1井戸-5表



1井戸-5裏



1井戸-2正面



1井戸-1



2井戸-1



2井戸-3



3井戸-1



3井戸-7



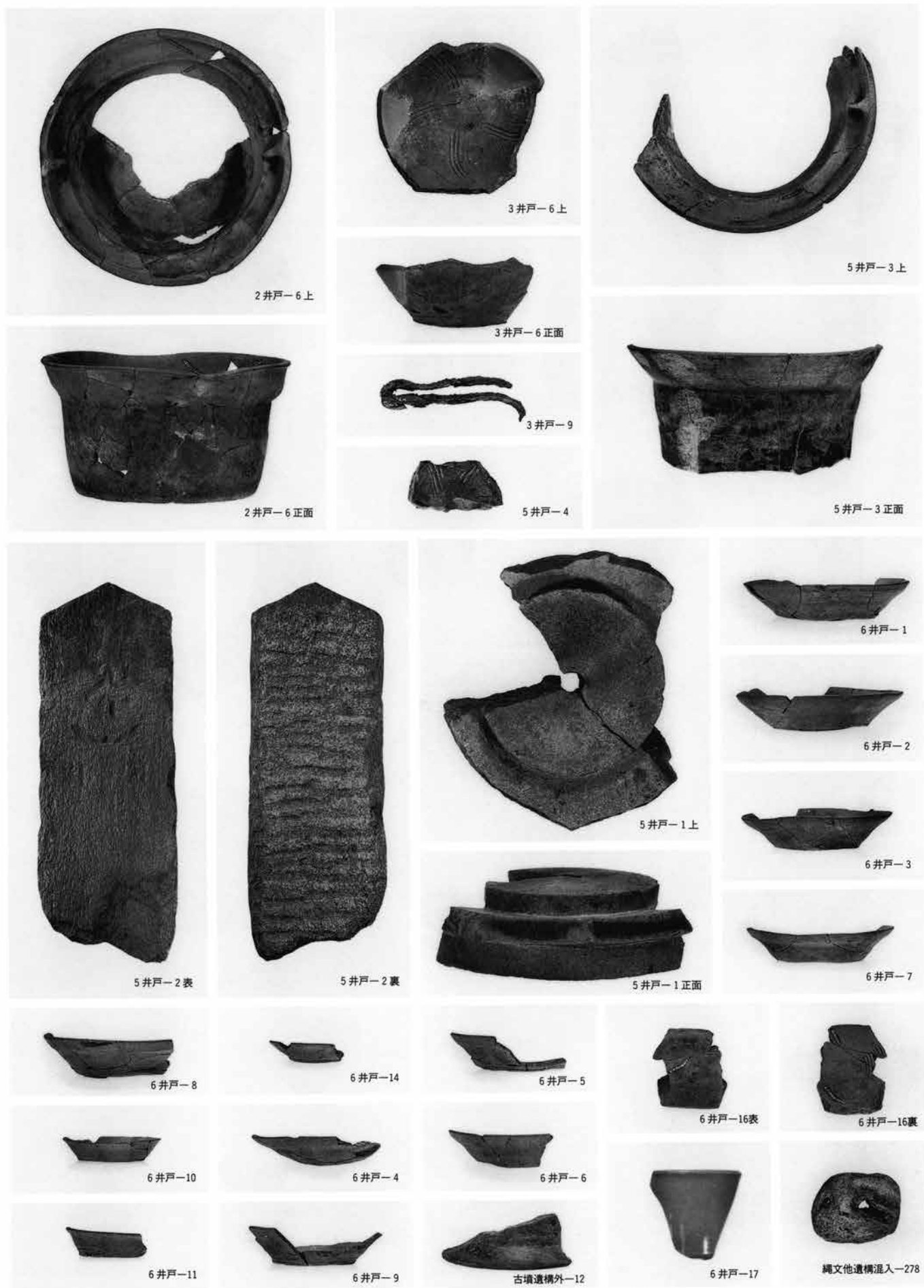
3井戸-5

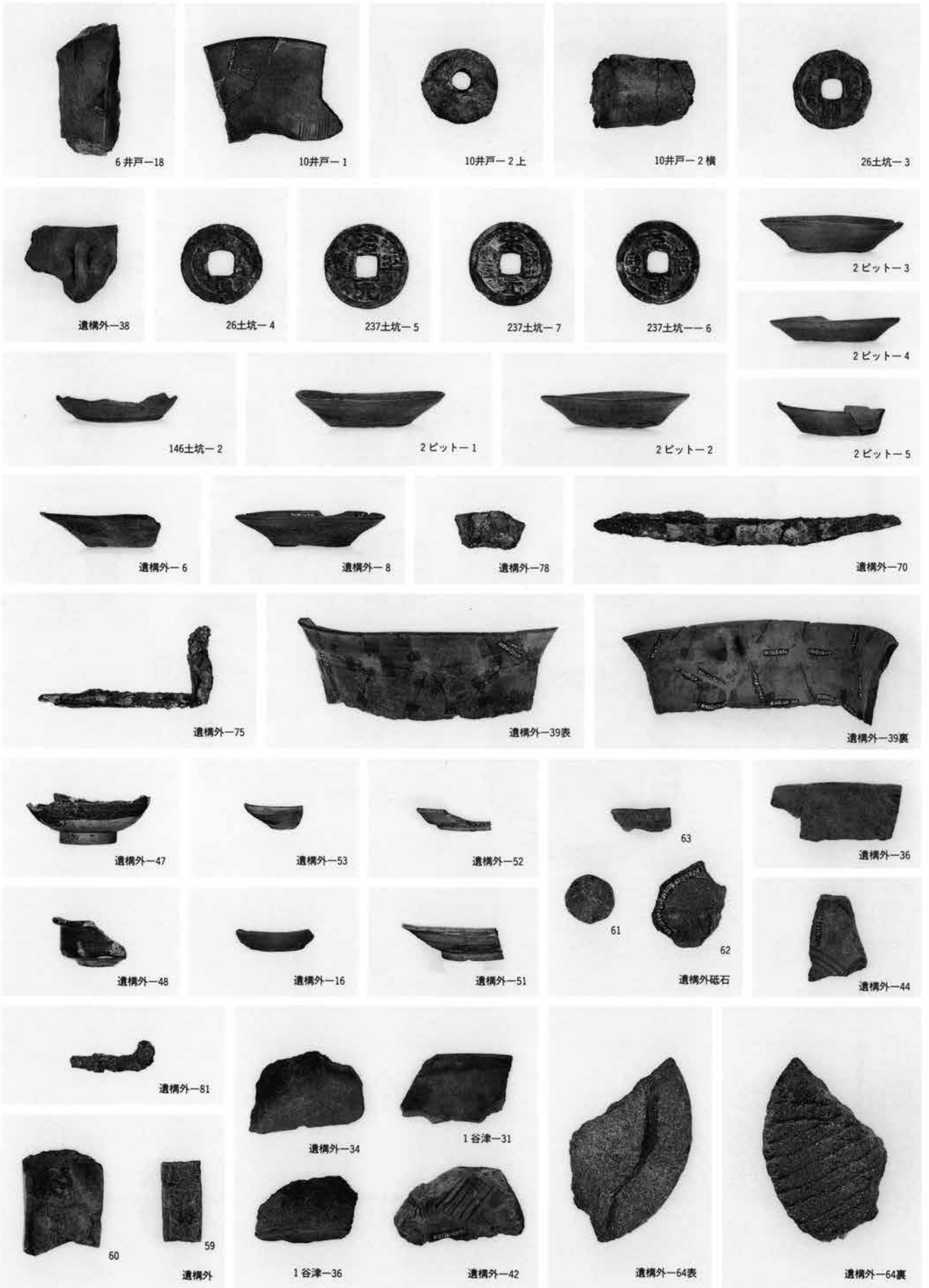


3井戸-8

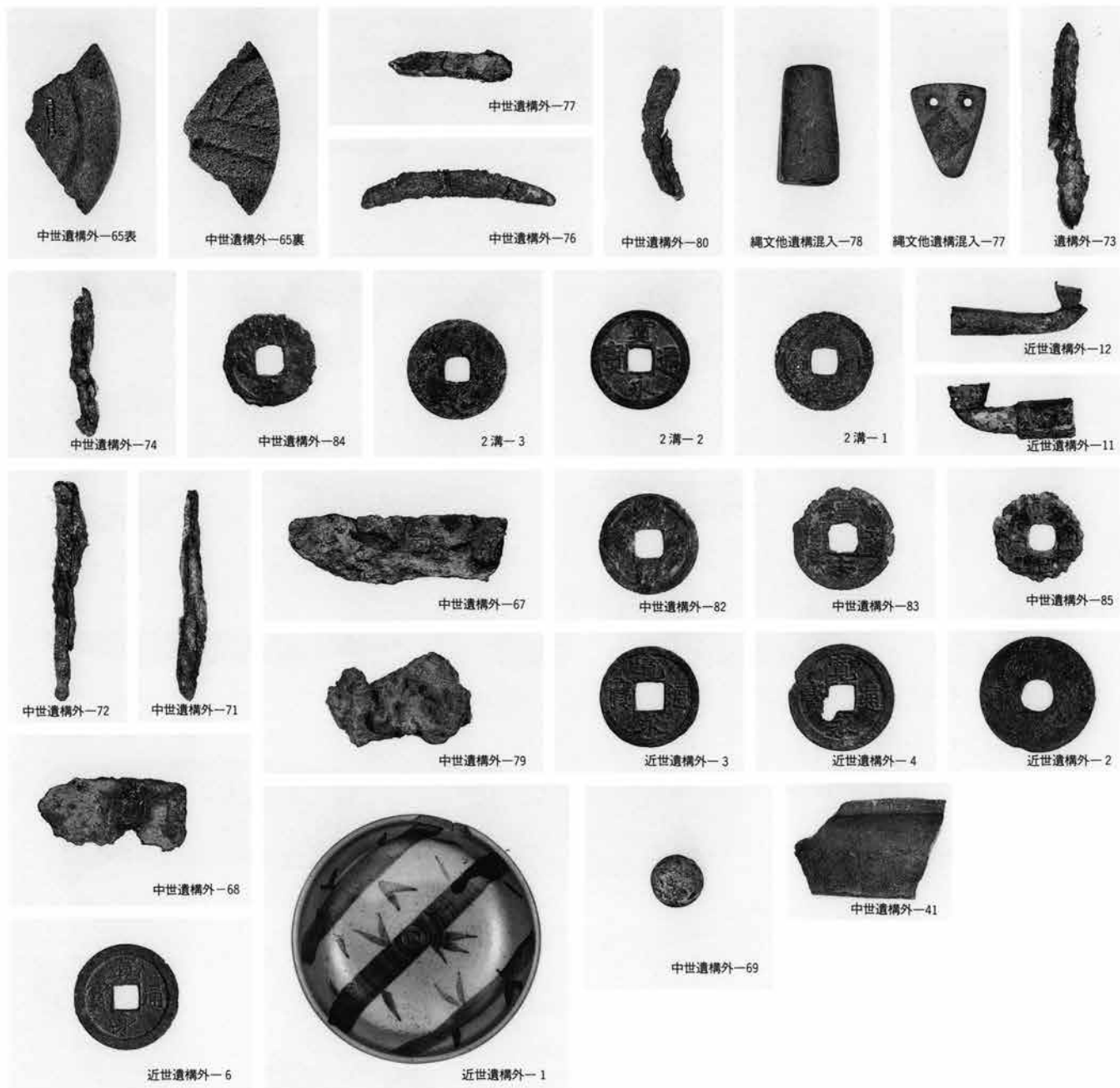


3井戸-4





図版110 中世、近世以降



群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第143集

内匠上之宿遺跡

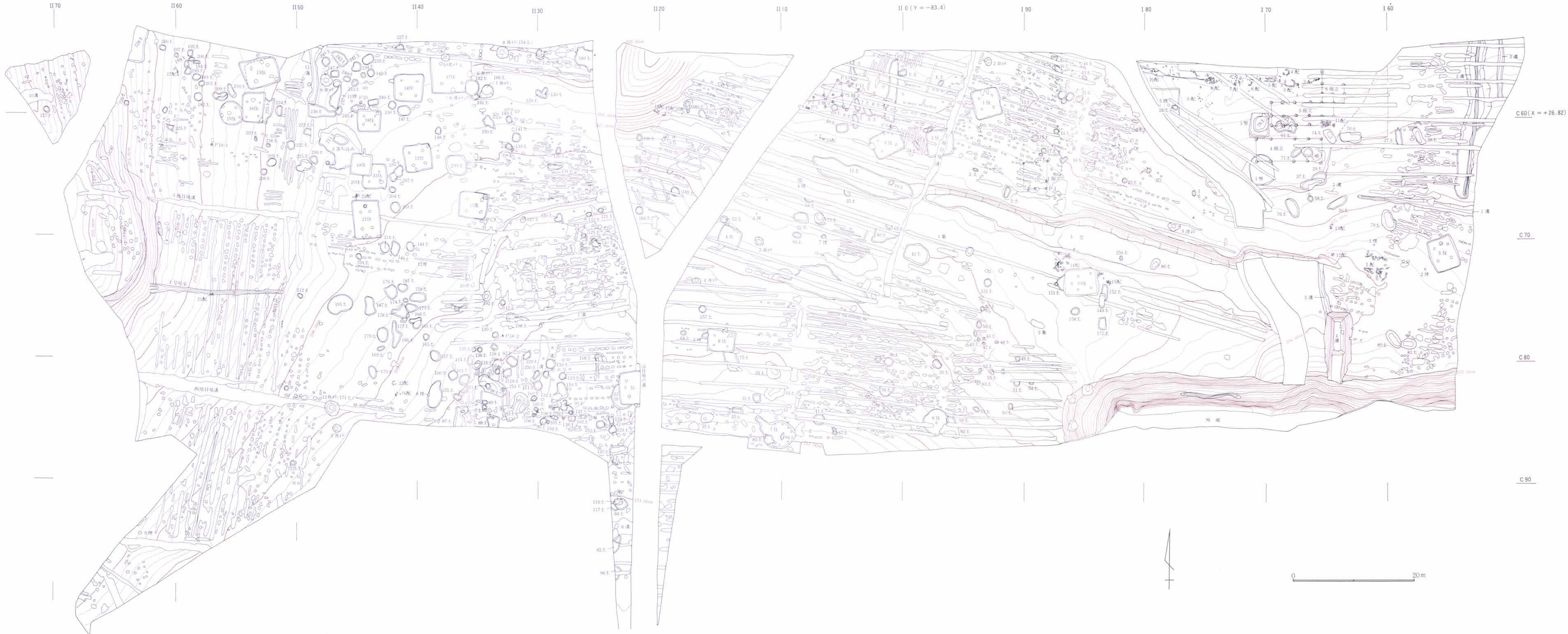
関越自動車道(上越線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第15集

平成5年3月19日 印刷
平成5年3月26日 発行

編集/群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橘村大字下箱田784-2
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行/群馬県考古資料普及会
勢多郡北橘村大字下箱田784-2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷/朝日印刷工業株式会社



1170

1160

1150

1140

1130

1120

1110

110 (Y = -83.4)

190

180

170

160

C 60 (X = +26.82)

C 70

C 80

C 90

0 20m

